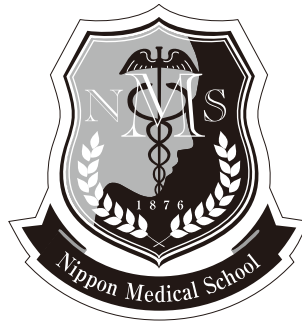


日本医科大学研究業績年報

第 57 卷

Nippon Medical School Research Annual

Vol. 57



平成 22 (2010) 年度

April 2010—March 2011

日本医科大学研究業績年報

第 57 卷

Nippon Medical School Research Annual

Vol. 57

平成 22 (2010) 年度

April 2010 — March 2011

まえがき

学長 田 尻 孝

今年も研究業績年報が出来上がりました。これは本学の研究者がどのような研究成果をあげ、さらにそれがどのような評価を受けているのかを発信するもので、大学としての activity を公表するものでもあります。昨年と比較してどうなのか、果して業績は増えたのか減ったのかと出来上がるのを楽しみにして待つておりました。2010年度の著書数は583編と2005年以降最多ではありましたが、論文数は1678編、学会発表4186題と残念ながらここ5年間で最も少ないという結果でありました。数の多寡だけでは研究機関の質を評価できませんが、少なくとも activity が上がっているとはいえません。次年度の頑張りを期待いたします。

3月11日の大震災とその後の原発問題はわれわれ日本人の心に多大なる影響をおよぼしました。震災後は将来に対する漠然とした不安や自己喪失感に悩まされている人たちもいると聞きます。ともすれば自らの方向性を見失ってしまいそうな中でわれわれ研究者はどうすればいいのか…これに対する解答は自らが為すべきことを、ぶれずに愚直に進めていく、ということだと思います。研究にはスピードが重要で、悩んで立ち止まっていたらどんどん取り残されてしまいます。時は刻々と過ぎていきます。研究機関に身を置く者としては、一時たりとも無駄にせず質の高いオリジナリティーのある研究を行い論文として世界に発信する、それこそがわれわれが求められている社会貢献の形であります。

今回の震災は第二次世界大戦以来の国難と言っても過言ではなく、社会情勢からみて国内の研究機関を取り巻く環境が今より良くなるとは到底考えられません。しかし本学の研究者はその厳しい中でも各分野のトップランナーとして結果を出していくことと確信しております。

最後にこの業績年報の編集にご尽力下さいました鈴木秀典研究委員会委員長ならびに関係各位に心より感謝申し上げます。

目 次

〔1〕基礎科学

1. 人文科学・社会科学	1
[心理学]	1
[文化人類学]	2
2. 自然科学	3
[数 学]	3
[物理学]	3
[化 学]	6
[生物学]	6
3. 外国語	10
[英語・ドイツ語]	10
4. スポーツ科学	12
[スポーツ科学]	12

〔2〕基礎医学

1. 解剖学講座（分子解剖学）	17
2. 解剖学講座（生体構造学）	22
3. 生理学講座（システム生理学）	25
4. 生理学講座（生体統御学）	29
5. 生化学・分子生物学講座（代謝・栄養学）	31
6. 生化学・分子生物学講座（分子遺伝学）	34
7. 薬理学講座	39
8. 病理学講座（解析人体病理学）	43
9. 病理学講座（統御機構・腫瘍学）	53
10. 微生物学・免疫学講座	61
11. 衛生学・公衆衛生学講座	66
12. 法医学講座	72
13. 医療管理学講座	76
14. 基礎医学共同研究利用施設	79
[実験動物管理室]	79
[形態解析共同研究施設]	79
[情報科学センター]	81

〔3〕臨床医学

1. 内科学講座（循環器・肝臓・老年・総合病態部門）	85
[付属病院一般内科，循環器内科，肝臓内科，再生医療科]	85
[付属病院老年内科]	103
[武蔵小杉病院内科（内科，循環器科，神経内科）]	106
[多摩永山病院内科，循環器内科]	110
[千葉北総病院循環器内科]	118

2.	内科学講座（神経・腎臓・膠原病リウマチ部門）	127
	[付属病院神経内科，腎臓内科]	127
	[付属病院リウマチ科]	141
	[千葉北総病院腎臓内科]	142
	[千葉北総病院神経内科]	143
3.	内科学講座（血液・消化器・内分泌代謝部門）	144
	[付属病院血液内科，消化器内科，内分泌代謝内科]	144
	[千葉北総病院血液内科]	158
	[千葉北総病院消化器内科]	159
	[千葉北総病院内分泌内科]	160
4.	内科学講座（呼吸器・感染・腫瘍部門）	162
	[付属病院呼吸器内科]	162
	[千葉北総病院呼吸器内科]	170
5.	精神医学講座	172
	[付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科]	172
6.	小児科学講座	182
	[付属病院小児科・武蔵小杉病院周産期・小児医療センター（小児科，小児外科，新生児科）・ 多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科]	182
7.	放射線医学講座	195
	[付属病院放射線科，放射線治療科]	195
	[武蔵小杉病院放射線科]	203
	[武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター]	204
	[多摩永山病院放射線科]	207
	[多摩永山病院放射線治療科]	208
	[千葉北総病院放射線科]	209
8.	皮膚科学講座	211
	[付属病院皮膚科]	211
	[武蔵小杉病院皮膚科]	222
	[多摩永山病院皮膚科]	223
	[千葉北総病院皮膚科]	224
9.	外科学講座（消化器・一般・乳腺・移植部門）	226
	[付属病院消化器外科，乳腺科，一般外科，移植外科]	226
	[多摩永山病院消化器外科・乳腺外科・一般外科]	259
	[千葉北総病院外科]	266
10.	外科学講座（内分泌・心臓血管・呼吸器部門）	270
	[付属病院内分泌外科，心臓血管外科，呼吸器外科・千葉北総病院胸部・ 心臓血管・呼吸器外科]	270
	[武蔵小杉病院心臓血管・呼吸器・乳腺内分泌外科]	280
	[多摩永山病院呼吸器外科]	282
11.	脳神経外科学講座	283
	[付属病院脳神経外科]	283

	[武蔵小杉病院脳神経外科]	293
	[多摩永山病院脳神経外科]	298
	[千葉北総病院脳神経外科]	299
12.	整形外科学講座	308
	[付属病院整形外科・武蔵小杉病院整形外科・多摩永山病院整形外科・ 千葉北総病院整形外科]	308
13.	産婦人科学講座	316
	[付属病院女性診療科・産科]	316
	[武蔵小杉病院女性診療科・産科]	325
	[多摩永山病院女性診療科・産科]	328
	[千葉北総病院女性診療科・産科]	334
14.	耳鼻咽喉科学講座	339
	[付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・ 多摩永山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科]	339
15.	泌尿器科学講座	352
	[付属病院泌尿器科]	352
	[武蔵小杉病院泌尿器科]	356
	[多摩永山病院泌尿器科]	357
	[千葉北総病院泌尿器科]	358
16.	眼科学講座	360
	[付属病院眼科・武蔵小杉病院眼科・多摩永山病院眼科]	360
	[千葉北総病院眼科]	364
17.	麻酔科学講座	365
	[付属病院麻酔科]	365
	[武蔵小杉病院麻酔科]	370
	[多摩永山病院麻酔科]	371
	[千葉北総病院麻酔科]	372
18.	救急医学講座	375
	[付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・ 多摩永山病院救命救急センター]	375
	[武蔵小杉病院救命救急センター]	390
	[多摩永山病院救命救急センター]	391
	[千葉北総病院救命救急センター]	394
19.	形成外科学講座	406
	[付属病院形成外科・美容外科]	406
	[武蔵小杉病院形成外科]	422
	[千葉北総病院形成外科]	426
20.	付属病院付置施設等	428
	[付属病院遺伝診療科]	428
	[付属病院集中治療室]	430
	[付属病院病理部]	434

	[付属病院中央検査部].....	438
	[付属病院薬剤部].....	440
	[付属病院生理機能センター].....	444
	[付属病院看護部].....	446
	[付属病院放射線科技師室].....	448
	[付属病院 ME 部].....	450
	[ワクチン療法研究施設].....	451
	[付属病院東洋医学科].....	452
	[ゲノム先端医療部].....	456
21.	武蔵小杉病院付置施設等.....	458
	[武蔵小杉病院消化器病センター].....	458
	[武蔵小杉病院中央検査室].....	465
	[武蔵小杉病院薬剤部].....	466
	[武蔵小杉病院看護部].....	467
22.	多摩永山病院付置施設等.....	469
	[多摩永山病院病理部].....	469
	[多摩永山病院中央検査室].....	473
	[多摩永山病院薬剤部].....	474
	[多摩永山病院看護部].....	475
	[多摩永山病院消化器科].....	477
23.	千葉北総病院付置施設等.....	484
	[千葉北総病院集中治療室].....	484
	[千葉北総病院リハビリテーション科].....	486
	[千葉北総病院病理部].....	488
	[千葉北総病院中央検査室].....	488
	[千葉北総病院薬剤部].....	490
	[千葉北総病院放射線センター].....	492
	[千葉北総病院歯科].....	493
	[千葉北総病院看護部].....	493
〔4〕 付置研究施設		
1.	老人病研究所.....	499
	[病理部門].....	499
	[生化学部門].....	501
	[免疫部門].....	503
	[疫学部門].....	504
	[生体応答学部門].....	506
2.	呼吸ケアクリニック.....	508
3.	健診医療センター.....	511
4.	成田国際空港クリニック.....	514

〔5〕 その他

1. 教育推進室	517
2. 図書館	520
付表：1. 各種研究費補助金・研究助成金交付状況	523
1) 平成22年度科学研究費補助金交付決定一覧	523
2) 平成22年度科学研究費補助金交付決定一覧（追加分）	530
3) 平成22年度科学研究費補助金研究分担の採択・交付状況	531
4) 平成22年度各種補助金の交付状況一覧〔内訳〕	532
5) 平成22年度補助・委託一覧	533
6) 平成22年度学術賞受賞一覧	553
7) 平成22年度知的財産一覧（特許権）	557
2. 動物実験実施状況	558
1) 平成22年度動物実験実施予定者数，講習会受講者数，実験計画書（課題）数および 使用動物数（平成22年4月～平成23年3月）	558
2) 平成22年度千駄木地区実験動物飼育施設動物種別飼育室別稼働率 （ケージ数を基に算出（％））	559
3) 平成22年度千駄木地区実験動物飼育施設動物種別飼育室別搬入数	560
4) 平成22年度千駄木地区実験動物飼育施設動物種別飼育室別搬出数	561
5) 平成22年度千駄木地区実験動物飼育施設動物種別飼育室別延べ飼育数	562

〔1〕 基 礎 科 学

1. 人文科学・社会科学

[心理学]

研究概要

1. 医療心理学および社会精神学が主たる研究領域である。
2. 社会精神学、特に司法精神医学に関わる活動として、矯正施設における精神医療に関する調査研究・養護施設における相談活動と研究調査・労働災害や措置入院に関する判定業務などを行っている。
3. 医療心理学に関しては、東京大学・お茶の水女子大学などの臨床心理学コースと共同研究を行っている。医療における多職種連携の在り方などを主たるテーマとして研究会を開催し、成果をまとめていく予定である。
4. 大学生のメンタルヘルスに関する調査研究を付属病院精神科および都内の精神科診療所をフィールドとして進めている。
5. 老人病研究所認知症相談センターの業務に協力し、社会連携に関する調査研究を行っている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 奥村雄介¹⁾，佐久間祐子²⁾，野村俊明，吉永千恵子³⁾，布施木誠⁴⁾，千葉泰彦⁵⁾，元永拓郎⁶⁾，工藤 剛⁷⁾ (1) 府中刑務所，2) 日本橋学館大学，3) 東京少年鑑別所，4) さいたま少年鑑別所，5) 横浜少年鑑別所，6) 帝京大学，7) 秩父中央病院)：「ひきこもり」と反社会的行動の関連について。日本社会精神医学会雑誌 2010；19 (23)：210-222.
- 2) 松本聡子¹⁾，野村俊明，奥村雄介²⁾ (1) 東京大学，2) 府中刑務所医務部)：精神障害を有する受刑者の社会復帰。死生学研究 2010；(14)：111-123.

(2) 総説：

- 1) 野村俊明：若者による医薬品の乱用。現代のエスプリ 2010；(514)：68-75.

(3) 研究報告書：

- 1) Nomura T：Psychiatry and Psychological Assessment. Community Support Network for Citizens with Mild Cognitive impairment and Dementia. 2010；(1)：102-106.
- 2) Nomura T：A dialogue between Clinical Psychology and Psychiatry. Community Support Network for Citizens with Mild Cognitive Impairment and Demnetia. 2010；(1)：107-108.
- 3) Nomura T：Psychiatrists Who Support and Maintain Occupatinal Mental Health. Community Support Network for Citizens with Mild Cognitive Impairment and Dementia. 2010；109-111.
- 4) 奥村雄介¹⁾，野村俊明，吉永千恵子²⁾，布施木誠³⁾，千葉康彦⁴⁾，元永拓郎⁵⁾，工藤 剛⁶⁾，月野木竜也⁷⁾，佐久間祐子⁸⁾，高橋恵一⁹⁾，鈴木 圭⁵⁾，鈴木彩之 (1) 府中刑務所，2) 東京少年鑑別所，3) さいたま少年鑑別所，4) 横浜少年鑑別所，5) 帝京大学，6) 秩父中央病院，7) 千葉県警察本部少年課，8) 日本橋学園大学，9) 豊昭学園)：思春期ひきこもりと反社会的行動との関連について。厚生労働科学研究費補助金こころの健康科学研究事業「思春期のひきこもりをもたらす精神科疾患の実態把握と精神医学的治療・援助システムの構築に関する研究 2010；119-132.

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 相澤林太郎¹⁾，中村浩之²⁾，小柳紘介³⁾，藤岡淳子⁴⁾，増沢 高⁵⁾，野村俊明 (¹⁾ 東京都立誠明学園，²⁾ カリタスの園，³⁾ 国立武蔵野学院，⁴⁾ 大阪大学，⁵⁾ こどもの虹情報研修センター)：性暴力を行った思春期男児に施設でできることを考える。日本心理臨床学会 (第 29 回) (仙台)，2010. 9.
- 2) 野村俊明，下山晴彦¹⁾，小野公一²⁾，菊池和則³⁾，中嶋義文⁴⁾，上別府圭子⁵⁾ (¹⁾ 東京大学，²⁾ 亜細亜大学，³⁾ 東京都健康長寿医療センター，⁴⁾ 三井記念病院，⁵⁾ 東京大学)：総合病院精神医学—多職種との連携。日本総合病院精神医学会総会 (第 23 回) (東京)，2010. 11.

(2) 一般講演：

- 1) 若松直樹¹⁾，北村 伸²⁾，石井知香¹⁾，根本留美¹⁾，野村俊明³⁾，川並汪一 (¹⁾ 日本医科大学老人病研究所街ぐるみ認知症相談センター，²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院，³⁾ 北海メディカルネットワーク)：認知症相談において認知機能低下を鑑別する評価指標。日本老年精神医学会 (第 25 回) (熊本)，2010. 6.
- 2) 武藤奈奈¹⁾，竹下 遥¹⁾，野村俊明，西松能子²⁾ (¹⁾ あいクリニック神田，²⁾ 立正大学)：大学生，大学院生の精神科受診動向に関する調査研究。日本心理臨床学会 (第 29 回) (仙台)，2010. 9.
- 3) 大田雪子¹⁾，野村俊明 (¹⁾ 金子医院)：乳幼児と保護者の平日昼食調査。日本小児保健学会 (第 57 回) (新潟)，2010. 9.
- 4) 石井知香¹⁾，松本聡子²⁾，根本留美¹⁾，若松直樹¹⁾，北村 伸³⁾，野村俊明，宗像一雄³⁾，川並汪一⁴⁾ (¹⁾ 日本医科大学老人病研究所街ぐるみ認知症相談センター，²⁾ NTT 東日本病院精神神経科，³⁾ 武蔵小杉病院内科，⁴⁾ 北海メディカルネットワーク)：「街ぐるみ認知症相談センター」の活動が認知症ケアの理解促進に与える影響。日本認知症ケア学会大会 (第 11 回) (神戸)，2010. 10.
- 5) 荒田智史¹⁾，奥村雄介¹⁾，柴田応介¹⁾，浅野千晶¹⁾，野村俊明 (¹⁾ 府中刑務所)：府中刑務所における 26 条通報のこれまでの状況。日本矯正医学会総会 (第 57 回) (東京)，2010. 10.
- 6) 荒田智史¹⁾，奥村雄介¹⁾，柴田応介¹⁾，浅野千晶¹⁾，野村俊明 (¹⁾ 府中刑務所)：府中刑務所における 26 条通報の現在の取り組み。日本矯正医学会総会 (第 57 回) (東京)，2010. 10.
- 7) 伊藤滋朗¹⁾，館野 周²⁾，川島義高²⁾，野村俊明，大久保善朗²⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院，²⁾ 日本医科大学精神医学教室)：医学生を対象とする精神障害に関するチュートリアル教育の試み。日本社会精神医学会 (第 30 回)，2011. 3.

[文化人類学]

研究概要

日本文化の本質，日本の近代化における日本文化の変質等について究明している。今年度は道徳について考察し，「日本における道徳の衰退と復活」としてまとめた (未発表)。道徳は個人的なものとして表層的に受け止められやすいが，実際には国家の指針や国家の浮沈あるいは文明の存亡を決する極めて重要な文化要素であり，文化の中核をなすものである。

2. 自然科学

[数学]

研究概要

素粒子に関する古典論的保存則が量子効果によって破れる現象を Ginsparg-Wilson fermion に対して考察し、数学的に厳密にアノマリーを導出する試みを続けている。また数学教育の今後の動向に関するシンポジウムにおける講演などをもとに、数理科学の現状と将来に関する試論を総説としてまとめた。(渡辺) 作用素不等式と majorisation という概念の間にもっと関係が付けられるのではないかを考えている。また、ピタゴラスの定理の拡張の形を作り、それを使って三角不等式の逆不等式を構成した。(儀我)

研究業績

論文

(1) 総説：

- 1) 渡辺 浩：数学，自然，コンピューター．日本医科大学基礎科学紀要 2010；40：55-81.

学会発表

(1) ワークショップ：

- 1) Giga M：Reverse Inequalities. The Fifth Asia Regional Conference on Mathematics Education(5回)(Tokyo), 2010. 8.

(2) 一般講演：

- 1) Giga M：Reverse Inequalities. The Fifth Asia Regional Conference on Mathematics Education(5回)(Tokyo), 2010. 8.
- 2) 渡辺 浩：医師としての人格を育む教養教育の試み．日本医学教育学会(7回)(東京)，2010. 7.
- 3) 渡辺 浩：医科大学における数学教育．数学教育の実現可能な真の理想の実現に向けての諸課題の検討(東京)，2011. 2.

[物理学]

研究概要

物理学教室は現在、教授、准教授、講師の3名で構成されており、連携しながら生物物理の理論的な側面に関して研究を行っている。今年度の研究内容は以下の通りである。

1. ミオシンのATP加水分解に伴う構造変化、リン脂質リポソームの相転移、その他の生体分子について、半経験的な分子軌道法を用いて研究を行っている。特にATP加水分解に関しては、菊地准教授、藤崎講師らとともに反応経路計算も行っている。(香川)

2. 昨年度に引き続き、キサントニン酸化還元酵素の分子動力学による研究を行っており、現在論文を執筆中である。また、香川教授とともにミオシンの加水分解反応の研究も行っている。藤崎講師とは科研費基盤Cの助成を受けて、量子ダイナミクスの計算を共同で行っている。(菊地)

3. 生体分子の量子ダイナミクスに関する理論研究で代表者として科研費基盤Cの助成を受けており、その研究を推進している。また、パスサンプリングに関する新しい方法論(Onsager-Machlup法とストリング法、それぞれの発展形)を考案し、そのテスト計算やタンパク質への応用計算を行っている。(藤崎)

研究業績

論文

〔追加分〕

追加分研究報告書：

- 1) 永井喜則¹⁾, 香川 浩²⁾ (1) 国士舘大学, 2) 日本医科大学) : 分子軌道の大域的性質と局所的性質の関係. 国士舘大学情報科学センター紀要 2010 ; (31) : 80-84.

(1) 原著：

- 1) Fujisaki H^{1, 2)}, Shiga M³⁾, Kidera A^{2, 4)} (1) Department of Physics, Nippon Medical School, 2) Molecular Scale Team, Integrated Simulation of Living Matter Group, Computational Science Research Program, RIKEN, 3) Center for Computational Science and E-Systems, Japan Atomic Energy Agency (JAEA), 4) Department of Supramolecular Biology, Graduate School of Nanobioscience, Yokohama City University) : Onsager-Machlup action-based path sampling and its combination with replica exchange for diffusive and multiple pathways. J Chem Phys 2010 ; 132 (13) : 134101-1-134101-8.

(2) 総説：

- 1) 藤崎弘士¹⁾ (1) 日本医科大学) : 生体分子におけるパスサーチおよびパスサンプリングについて. 日本医科大学基礎科学紀要 2011 ; (40) : 83-98.

(3) 研究報告書：

- 1) Nagai Y¹⁾, Kito M¹⁾, Kagawa H²⁾, Maddess T³⁾ (1) Center for Information Science, Kokushikan University, 2) Department of Physics, Nippon Medical School, 3) School of Biological Sciences, Australian National University, Center for Visual Sciences, Eccles Institute of Neuroscience, ARC COE Vision Science) : A Quantum Chemical Study on the Retinal of Squid Rhodopsin. 国士舘大学情報科学センター紀要 2011 ; (32) : 20-31.
- 2) Nagai Y¹⁾, Kagawa H²⁾, Wako H³⁾ (1) Center for Information Science, Kokushikan University, 2) Department of Physics, Nippon Medical School, 3) School of Social Sciences, Waseda University) : How Can We Speculate Chemical Reaction Mechanisms of Macromolecules Using Molecular Orbitals?. 国士舘大学情報科学センター紀要 2011 ; (32) : 78-82.
- 3) 藤崎弘士¹⁾ (1) 日本医科大学) : 生体分子における振動状態の量子ダイナミクスについて. 国士舘大学情報科学センター紀要 2011 ; (32) : 62-67.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 香川 浩¹⁾, 永井喜則²⁾, 輪湖 浩³⁾ (1) Department of Physics, Nippon Medical School, 2) Center for Information Science, Kokushikan University, 3) School of Social Sciences, Waseda University) : Structure Deviation Analysis of Proteins Complexed with Various ATP Analogs. International Conference on Bioinformatics (InCoB2010) (Tokyo, Japan), 2010. 9.
- 2) 藤崎弘士¹⁾, 志賀基之²⁾, 木寺詔紀³⁾ (1) Department of Physics, Nippon Medical School, 2) 原研・システム計算科学センター・マテリアルシミュレーション, 3) 横浜市大・生命ナノ・生体) : A multi-scale approach for path sampling. アメリカ生物物理学会 (第55回) (Baltimore), 2011. 3.
- 3) 香川 浩¹⁾, 菊地浩人¹⁾, 藤崎弘士¹⁾, 永井喜則²⁾, 輪湖 浩³⁾ (1) Department of Physics, Nippon Medical School, 2) Center for Information Science, Kokushikan University, 3) School of Social Sciences, Waseda University) : Molecular Orbital Analysis to Investigate the Reaction Mechanism of ATP Hydrolysis in Myosin

- Motor Domain. 日本生物物理学会 (第 48 回) (仙台), 2010. 9.
- 4) 藤崎弘士¹⁾, 志賀基之²⁾, 木寺詔紀³⁾ (1) Department of Physics, Nippon Medical School, 2) 原研・システム計算科学センター・マテリアルシミュレーション, 3) 横浜市大・生命ナノ・生体): Path sampling for a model polymer using the Onsager-Machlup action. 日本生物物理学会 (第 48 回) (仙台), 2010. 9.
 - 5) 菊地浩人¹⁾, 藤崎弘士¹⁾, 古田忠臣²⁾, 岡本 研¹⁾, Leimkuler S³⁾, 西野武士⁴⁾ (1) 日本医科大学, 2) 理研・次世代計算科学研究開発プログラム・分子スケール研究開発チーム, 3) ポツダム大・生化学, 4) カリフォルニア大 (リバーサイド)・生化学): Molecular dynamics study of the interaction between xanthine oxidoreductase and the inhibitor. 日本生物物理学会 (第 48 回) (仙台), 2010. 9.
 - 6) 松永康佑¹⁾, 藤崎弘士²⁾, 木寺詔紀³⁾ (1) 理研・次世代計算科学研究開発プログラム・分子スケール研究開発チーム, 2) Department of Physics, Nippon Medical School, 3) 横浜市大・生命ナノ・生体): Capturing large-scale conformational transitions of adenylate kinase using the string method. 日本生物物理学会 (第 48 回) (仙台), 2010. 9.
 - 7) 志賀基之¹⁾, 藤崎弘士²⁾ (1) 原研・システム計算科学センター・マテリアルシミュレーション, 2) Department of Physics, Nippon Medical School): 水素・重水素移動反応の量子統計力学的第一原理計算. 理論化学討論会 (札幌), 2010. 5.
 - 8) 藤崎弘士¹⁾, 菊地浩人¹⁾, 戸田幹人²⁾, Straub EJ³⁾ (1) Department of Physics, Nippon Medical School, 2) 奈良女子大学・理学部・物理学科, 3) Department of Chemistry, Boston University): Quantum dynamics study of energy transfer phenomena in porphyrin and its classical analysis. 日本物理学会秋季大会 (大阪), 2010. 9.
 - 9) 志賀基之¹⁾, 藤崎弘士²⁾ (1) 原研・システム計算科学センター・マテリアルシミュレーション, 2) Department of Physics, Nippon Medical School): 水素・重水素移動反応の量子統計力学的第一原理計算. 分子科学討論会 (大阪), 2010. 9.
 - 10) 藤崎弘士¹⁾, 志賀基之²⁾, 木寺詔紀³⁾ (1) Department of Physics, Nippon Medical School, 2) 原研・システム計算科学センター・マテリアルシミュレーション, 3) 横浜市大・生命ナノ・生体): A multi-scale approach for path sampling. バイオスーパーコンピューティングシンポジウム (第 3 回) (神戸), 2011. 2.
 - 11) 松永康佑¹⁾, 藤崎弘士²⁾, 寺田 透¹⁾, 古田忠臣¹⁾, 木寺詔紀³⁾ (1) 理研・次世代計算科学研究開発プログラム・分子スケール研究開発チーム, 2) Department of Physics, Nippon Medical School, 3) 横浜市大・生命ナノ・生体): ストリング法によるタンパク質構造変化サンプリング. バイオスーパーコンピューティングシンポジウム (第 3 回) (神戸), 2011. 2.
 - 12) 志賀基之¹⁾, 藤崎弘士²⁾ (1) 原研・システム計算科学センター・マテリアルシミュレーション, 2) Department of Physics, Nippon Medical School): 水素・重水素移動反応の量子統計力学的第一原理計算. 次世代ナノ統合シミュレーションソフトウェアの研究開発公開シンポジウム (第 5 回) (神戸), 2011. 2.
 - 13) 香川 浩¹⁾, 藤崎弘士¹⁾, 菊地浩人¹⁾, 志賀基之²⁾ (1) 日本医科大学, 2) 原子力開発機構): ミオシン ATPase の分子軌道法による研究: ストリング法による加水分解反応経路の計算. 日本物理学会 (第 66 回) (新潟), 2011. 3.
 - 14) 藤崎弘士¹⁾, 菊地浩人¹⁾, 戸田幹人²⁾ (1) 日本医科大学, 2) 奈良女子大学): 生体分子の量子エネルギー移動ダイナミクス. 日本物理学会 (第 66 回) (新潟), 2011. 3.
 - 15) 菊地浩人¹⁾, 藤崎弘士¹⁾, 古田忠臣²⁾, 岡本 研¹⁾, Leimkuhler S³⁾, 西野武士⁴⁾ (1) 日本医科大学, 2) 理化学研究所, 3) Institute of Biochemistry and Molecular Biology, University of Potsdam, 4) Department of Biochemistry, University of California, Riverside): キサンチン酸化還元酵素における阻害剤の作用の研究: 「鍵と鍵穴」のドグマを超えて. 日本物理学会 (第 66 回) (新潟), 2011. 3.
 - 16) 高見利也¹⁾, 藤崎弘士²⁾ (1) 九州大学, 2) 日本医科大学): 多準位量子状態の最適制御と半古典極限. 日本物理学会 (第 66 回) (新潟), 2011. 3.

[化学]

研究概要

菅原：アルカリ金属-ナフタレン錯体を用いたテルペン系化合物の合成及び、不飽和酸とジクロロカルベンとの反応によるジクロロシクロプロパンカルボン酸の合成。(1) 生理活性を有するラクトン類の合成。(2) カンファーなどの天然物ケトンを用いた不斉合成配位子の合成。

田中：質量分析計を用いた金属錯体の溶液内反応の研究。(1) 金属錯体で観測された選択的溶媒和に伴うプロトン、電子移動反応中性子放射化分析等による生体内微量元素等の研究。(2) 生体内微量元素等と疾患、環境等との関連。

永井：2, 2'-ビピリジンまたは1, 10-フェナントロリンを持つルテニウム(II)混合配位子錯体の溶液化学。(1) 錯体の合成。(2) 高速液体クロマトグラフィーによる錯体異性体の分離およびその機構。(3) 錯体イオンの溶媒和に関する研究。(4) 錯体イオンの溶液内反応および平衡に関する研究。

武田：弱酸性陽イオン交換体を用いる無機イオンのクロマトグラフィーに関する研究。(1) 塩類水溶液系におけるアルカリ土類金属元素および希土類元素の吸着挙動と分離。(2) イットリウムの特異的分離とその機構の解明。(3) ジルコニウム(IV)、ハフニウム(IV)、および他の金属の三成分分離貴金属元素の分離および定量に関する研究。(4) 種々の陰イオン交換樹脂に対する貴金属元素の吸着および脱着挙動とその機構。(5) 陰イオン交換樹脂を用いる貴金属元素の分離および定量。

[生物学]

研究概要

本教室では、遺伝子操作が容易なアフリカツメガエルの消化管を実験モデルとして、器官形成および再生メカニズムの分子レベルでの解明を目指している。その他、微生物生理学と植物生態学の分野でも継続して研究を行っている。今年度の研究内容は以下の通りである。

1) ツメガエルの小腸では、甲状腺ホルモン(TH)の作用により、幼生型分化上皮が成体型上皮の幹細胞へと脱分化する。恒常活性型TH受容体を発現するトランスジェニックカエルを用いた培養実験により、幹細胞の発生には結合組織との相互作用が不可欠であることを明らかにした(Stem Cells, 2011)。さらに、哺乳類小腸吸収上皮の幹細胞のマーカーとして知られているLGR5の相同遺伝子をツメガエルより単離し、両生類小腸でも幹細胞特異的に発現することを見出した(PLoS One, 2010; NIHとの共同研究)。そこで、哺乳類共通の小腸幹細胞ニッチの形成機構に焦点を当て、現在解析を進めている。この他に、カルシニューリンの抑制因子であるRCAN1が初期発生における血管の分岐を制御することを明らかにした(J Vasc Res, 2011; 老人病研との共同研究)。(長谷部, 岡)

2) 生物の系統関係とカロテノイドの分布を研究している。初めて単離・培養ができたパルマ藻は珪藻に近縁で色素も類似であった。藻類や植物の α -カロテン類の異性体の分布を分析した結果、片方の異性体のみ存在し、生合成酵素よりも結合する色素タンパク複合体により制約されたようである。シアノバクテリアや古細菌のカロテノイド生合成遺伝子のアノテーションや酵素の性質を研究している。他にも国内外の数グループと共同研究を進めている。(高市)

3) 冬緑性草本であるヒガンバナを用いて生理生態学的な研究を行っている(国内共同研究)。本種は、休眠期とみなされがちな葉の無い季節にも栄養塩を吸収すること、また、この時期の栄養塩吸収が、展葉期のそれよりも、初期成長に対してプラスの効果をもつことが明らかになった。(西谷)

研究業績

論文

(1) 原著 :

- 1) Fujisawa T¹⁾, Narikawa R²⁾, Okamoto S³⁾, Ehira S⁴⁾, Yoshimura H²⁾, Suzuki I⁵⁾, Masuda T²⁾, Mochimaru M⁶⁾, Takaichi S, Awai K⁷⁾, Sekine M¹⁾, Horikawa H¹⁾, Yashio I¹⁾, Omata S¹⁾, Takarada H¹⁾, et al. ¹⁾ Natl Inst Technol Evaluation (NITE), ²⁾ Dept Life Sci (Biology), Univ Tokyo, ³⁾ Research Org Information Systems, ⁴⁾ Fac Sci Engineer, Chuo Univ, ⁵⁾ Graduate School Life Environ Sci, Univ Tsukuba, ⁶⁾ Dept Natl Sci, Komazawa Univ, ⁷⁾ Div Global Res Leaders, Shizuoka Univ) : Genomic structure of an economically important cyanobacterium, *Arthrospira (Spirulina) platensis* NIES-39. DNA Res 2010 ; 17 (2) : 85-103.
- 2) Sucharita K¹⁾, Shiva Kumar E¹⁾, Sasikala C¹⁾, Panda B²⁾, Takaichi S, Ramana C³⁾ ¹⁾ Inst Sci Technol, JNT Univ, ²⁾ Dept Botany, Bharampur Univ, ³⁾ School Life Sci, Univ Hyderabad) : *Marichromatium fluminis* sp. nov., a slightly alkaliphilic, phototrophic gammaproteobacterium isolated from river sediment. Int J Syst Evol Microbiol 2010 ; 60 (5) : 1103-1107.
- 3) Venkata Ramana V¹⁾, Sasikala C²⁾, Takaichi S, Ramana C¹⁾ ¹⁾ School Life Sci, Univ Hyderabad, ²⁾ Inst Sci Technol, JNT Univ) : *Roseomonas aestuarii* sp. nov., a bacteriochlorophyll-*a* containing alphaproteobacterium isolated from an estuarine habitat of India. Syst Appl Microbiol 2010 ; 33 (3) : 198-203.
- 4) Girija K¹⁾, Sasikala C¹⁾, Ramana C²⁾, Sproer C³⁾, Takaichi S, Thiel V⁴⁾, Imhoff J⁴⁾ ¹⁾ Inst Sci Technol, JNT Univ, ²⁾ School Life Sci, Univ Hyderabad, ³⁾ DSMZ, ⁴⁾ Marine Mikrobiologie) : *Rhodobacter johrii* sp. nov., an endospore-producing cryptic species isolated from semi-arid tropical soils. Int J Syst Evol Microbiol 2010 ; 60 (9) : 2099-2107.
- 5) Sun G¹⁾, Hasebe T, Fujimoto K¹⁾, Lu R¹⁾, Fu L¹⁾, Matsuda H¹⁾, Kajita M²⁾, Ishizuya-Oka A, Shi Y¹⁾ ¹⁾ LGRD/NICHD/NIH, ²⁾ Dept Molecular Biology, Inst Develop Aging Sci, Nippon Medical School) : Spatio-temporal expression profile of stem cell-associated gene LGR5 in the intestine during thyroid hormone-dependent metamorphosis in *Xenopus laevis*. PLoS One 2010 ; 5 (10) : e13605.
- 6) Hasebe T, Buchholz D¹⁾, Shi Y²⁾, Ishizuya-Oka A ¹⁾ Dept Biological Sci, Univ Cincinnati, ²⁾ LGRD/NICHD/NIH) : Epithelial-connective tissue interactions induced by thyroid hormone receptor are essential for adult stem cell development in the *Xenopus laevis* intestine. Stem Cells 2011 ; 29 (1) : 154-161.
- 7) Ichinomiya M¹⁾, Yoshikawa S²⁾, Kamiya M²⁾, Ohki K²⁾, Takaichi S, Kuwata A ¹⁾ Tohoku Natl Fisheries Res Inst, ²⁾ Fukui Pref Univ) : Isolation and characterization of Parmales (Heterokonta/ Heterokontophyta/ Stramenopiles) from the Oyashio region, Western North Pacific. J Phycol 2011 ; 47 (2) : 144-151.
- 8) Fujiwara M¹⁾, Hasebe T, Kajita M²⁾, Ishizuya-Oka A, Ghazizadeh M¹⁾, Kawanami O¹⁾ ¹⁾ Dept Molecular Pathology, Inst Develop Aging Sci, Nippon Medical School, ²⁾ Dept Molecular Biology, Inst Develop Aging Sci, Nippon Medical School) : RCAN1 regulates vascular branching during *Xenopus laevis* angiogenesis. J Vasc Res 2011 ; 48 (2) : 104-118.

(2) 総説 :

- 1) Ishizuya-Oka A : Amphibian organ remodeling during metamorphosis : Insight into thyroid hormone-induced apoptosis. Dev Growth Differ 2011 ; 53 (2) : 202-212.

(3) 研究紹介 :

- 1) 成川 礼¹⁾, 藤澤貴智²⁾, 岡本 忍³⁾, 得平茂樹⁴⁾, 吉村英尚¹⁾, 鈴木石根⁵⁾, 増田 建¹⁾, 持丸真里⁶⁾, 高市真一, 栗井光一郎⁷⁾, 関根光雄²⁾, 矢代 勲²⁾, 小俣せいはい²⁾, 宝田裕美²⁾, 片野葉子²⁾, その他7名 ¹⁾ 東京大, ²⁾ 製品評価技術基盤機構 (NITE), ³⁾ ライフサイエンス統合データベースセンター, ⁴⁾ 中央大, ⁵⁾ 筑波大, ⁶⁾ 駒澤大,

7) 静岡大) : 産業的に重要なシアノバクテリア *Arthrospira platensis* NIES-39 (通称スピルリナ) のゲノムの多様な特徴 : 基礎から応用まで, 個々の遺伝子から比較ゲノムまで. 光合成研究 2010 : 30 (3) : 150-160.

学会発表

(1) 教育講演 :

- 1) 高市真一 : カロテノイド研究の過去, 現在, 将来. 2010年カロテノイド若手の会 (第7回), 2010. 12.

(2) 一般講演 :

- 1) Takaichi S, Murakami A¹⁾, Mochimaru M²⁾ (1) Kobe Univ, Res Cent Inland Seas, 2) Dept Natl Sci, Komazawa Univ) : All of *a*-carotene and its derivatives have a sole stereochemistry?. International Congress of Photosynthesis (PS2010) (15th) (Beijing), 2010. 8.
- 2) Ichinomiya T¹⁾, Yoshikawa S²⁾, Kamiya M²⁾, Ohki K²⁾, Takaichi S, Kuwata A¹⁾ (1) Tohoku National Fisheries Res Inst, 2) Fukui Prefectural Univ) : Isolation and characterization of Parmales from the Oyashio region, western North Pacific. International Nannoplankton Association Meeting (INA13) (13th) (Yamagata), 2010. 9.
- 3) Yoshii H¹⁾, Yoshii Y²⁾, Hobo K³⁾, Fujii A³⁾, Fujii Y³⁾, Furukawa T⁴⁾, Kiyono Y²⁾, Asai T³⁾, Takaichi S, Fujibayashi Y^{2,4)} (1) Fac Medical Sci, Univ Fukui, 2) Biomedical Imaging Res Cent, Univ Fukui, 3) Fac Engineering, Univ Fukui, 4) Natl Inst Radiological Sci) : Singlet oxygen production via photo-excitation of carotenoids and application possibility of this process. The 2010 International Chemical Congress of Basin Societies (Pacifichem) (Honolulu), 2010. 12.
- 4) Katabami A¹⁾, Takaichi S, Nakatani Y¹⁾, Furubayashi M¹⁾, Saito K¹⁾, Umeno D¹⁾ (1) Dept Appl Chem Biotech, Chiba Univ) : Molecular breeding of squalene synthases for the production of unnatural squalenes and carotenes. The 2010 International Chemical Congress of Basin Societies (Pacifichem) (Honolulu), 2010. 12.
- 5) 長谷部孝, 岡 敦子 : ドミナントポジティブ型甲状腺ホルモン受容体の発現により誘起されるアフリカツメガエル成体型腸上皮の発生. 日本発生生物学学会年会 (第43回), 2010. 6.
- 6) 高市真一, 得平茂樹¹⁾, 持丸真里²⁾ (1) 中央大・理工, 2) 駒澤大・自然) : シアノバクテリア *Arthrospira platensis* NIES-39 のカロテノイド組成と生合成遺伝子・経路. 日本光合成学会大会 (第1回), 2010. 6.
- 7) 成川 礼¹⁾, 藤澤貴智²⁾, 岡本 忍³⁾, 得平茂樹⁴⁾, 吉村英尚¹⁾, 鈴木石根⁵⁾, 増田 建¹⁾, 持丸真里⁶⁾, 高市真一, 粟井光一郎⁷⁾, 関根光雄²⁾, 矢代 勲²⁾, 小俣せいはい²⁾, 宝田裕美²⁾, 片野葉子²⁾, その他7名 (1) 東大・院・総合文化, 2) 製品評価技術基盤機構 (NITE), 3) ライフサイエンス統合データベースセンター, 4) 中央大・理工, 5) 筑波大・生命環境, 6) 駒澤大・自然, 7) 静岡大・GRL) : 有用シアノバクテリア *Arthrospira (Spirulina) platensis* NIES-39 のゲノム解析. 日本光合成学会大会 (第1回), 2010. 6.
- 8) 吉井 裕¹⁾, 吉井幸恵²⁾, 保浦一輝³⁾, 藤井 歩³⁾, 藤井裕也³⁾, 古川高子⁴⁾, 清野 泰²⁾, 浅井竜哉³⁾, 高市真一, 藤林靖久^{2,4)} (1) 福井大医・生命物質科学, 2) 福井大高エネルギー医学研究センター, 3) 福井大・工・原子力・エネルギー安全工学, 4) 放射線医学総合研) : カロテノイドの光増感作用とその応用. 日本光線力学学会 (第20回), 2010. 6.
- 9) 高市真一, 村上明男¹⁾, 持丸真里²⁾ (1) 神戸大・内海域セ, 2) 駒澤大・自然) : 真核光合成生物の *a*-カロテンとその誘導體 (ルテインやシフォナキサンチンなど) は全て同一の立体異性か?. 光合成の色素系と反応中心に関するセミナー (第18回), 2010. 7.
- 10) 長谷部孝, 梶田満子¹⁾, 岡 敦子 (1) 日本医大・老研) : アフリカツメガエル変態期の消化管における Smoothened の発現解析. 日本動物学会 (第81回), 2010. 9.
- 11) 高市真一, 村上明男¹⁾, 持丸真里²⁾ (1) 神戸大・内海域セ, 2) 駒澤大・自然) : *a*-カロテンとその誘導體 (ルテ

- インやシフォナキサランチンなど)の分布と立体異性. 日本植物学会大会(第74回), 2010. 9.
- 12) 高市真一, 村上明男¹⁾, 持丸真里²⁾ (1) 神戸大・内海域セ, 2) 駒澤大・自然): α -カロテンとその誘導体(ルテインやシフォナキサランチンなど)の分布と(6'R)タイプのみの存在. カロテノイド研究談話会(第24回), 2010. 9.
 - 13) 高市真一, 得平茂樹¹⁾, 持丸真里²⁾, 眞岡孝至³⁾ (1) 中央大・理工, 2) 駒澤大・自然, 3) 生産開発科研): シアノバクテリア *Arthrospira platensis* NIES-39 のカロテノイド組成と生合成遺伝子・経路. カロテノイド研究談話会(第24回), 2010. 9.
 - 14) 八波利恵¹⁾, 安藤 藍¹⁾, 高市真一, 福居俊昭¹⁾, 仲宗根薫²⁾, 藤田信之³⁾, 関根光雄³⁾, 高品智典⁴⁾, 中村 聡¹⁾ (1) 東工大院生命理工, 2) 近畿大工, 3) 製品評価技術基盤機構(NITE), 4) 東洋大生命科): 高度好塩性古細菌 *Haloarcula japonica* の *brp* および *crtI* 遺伝子ホモログの解析. 極限環境生物学会2010年度年会(第11回), 2010. 11.
 - 15) 藤原正和¹⁾, 長谷部孝, 岡 敦子, ガジザデモハマド¹⁾ (1) 日本医大・老研): Vascular endothelial growth factor によって発現制御される遺伝子とその役割. 日本血管生物医学会(第18回), 2010. 12.
 - 16) 西谷里美, 中村敏枝¹⁾, 可知直毅¹⁾ (1) 首都大・生命科学): 冬緑性草本ヒガンバナの, 初期成長と葉の生理特性に対する施肥時期の効果. 日本生態学会(第58回), 2011. 3.
 - 17) 高市真一: 紅色光合成細菌のカロテノイドの一般性と多様性. 日本植物生理学会(第52回), 2011. 3.
 - 18) 一宮睦雄¹⁾, 吉川伸哉²⁾, 神谷充伸²⁾, 大城 香²⁾, 高市真一, 桑田 晃¹⁾ (1) 水産総合研セ東北区水産研, 2) 福井県立大): パルマ藻は珪藻の祖先か?. 2011年度日本海洋学会春季大会, 2011. 3.
 - 19) 一宮睦雄¹⁾, 吉川伸哉²⁾, 神谷充伸²⁾, 大城 香²⁾, 高市真一, 桑田 晃¹⁾ (1) 水産総合研セ東北区水産研, 2) 福井県立大): 親潮域における微小植物プランクトン・パルマ藻の単離培養とその性状解析. 日本藻類学会大会(第35回), 2011. 3.

3. 外国語

[英語・ドイツ語]

研究概要

外国語教室（英語・ドイツ語）では、4名の専任教員が言語・言語教育、ならびに文化・文学に関わる研究活動を展開している。平成22年度の研究状況は次のとおりである。

＜言語・言語教育＞ 日本人による医学英語学習や論文執筆に関わる問題を検証・考察する研究を継続した。その成果として、『話せる医学英語』（荒木勤・田尻孝・矢沢圭二郎監修）が上梓された。また、本学および慶應義塾大学医学部において、論文執筆に関する講演を行った。大学英語教育一般については、文学作品を活用した英語教育のあり方を継続して研究テーマとし、談話分析を活用したアプローチについて講演する機会を得た。学内の英語教育関連では、継続的に行っている TOEFL ITP の成績結果をふまえ、自律的学習活動促進につながるリスニング教育のあり方を探り、成果の一部を教育ノートとして公にした。

第二外国語を教える中で、文法教育と講読をとおして、いかに「聞く」「話す」「読む」「書く」という学習活動を総合的に扱うかを中心に、初級ドイツ語教育における諸問題を検討・考察した。また、ドイツ語側から日本語を見るという逆の作業も試みているところである。

＜文化・文学＞ アイルランド文学に関する研究を継続した。科学研究費基盤研究の最終年にあたり、国内外の学会や学会誌において成果を発表した。スコットランド文学研究者や歴史研究者とのシンポジウムをとおして、個人研究をさらに発展させることができた。日独文化交流関連の研究も継続している。

なお、日本医学英語教育学会の日本医学英語検定試験制度・問題作成小委員会の委員、日本英文学会関東支部学会誌の編集委員としての活動も行った。高円宮杯全日本中学校英語弁論大会、社会人英語ディベート大会、東京大学 ESS 弁論大会で審査員も務めた。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Nakamura T : Interrelated Travel Discourses on Connemara and Joyce Country in the 1830s. *Journal of Irish Studies* 2010 ; 25 : 18-27.
- 2) Minton T : Deficiencies in Japanese University Students' Knowledge of Polite English Request Patterns. *日本医科大学基礎科学紀要* 2011 ; (40) : 1-14.
- 3) 西川純恵 : TOEFL ITP リスニングのための教材活用：聞き取り能力および語彙力向上のために. *日本医科大学基礎科学紀要* 2011 ; (40) : 99-105.
- 4) 中村哲子 : コネマラ地方の発見：西アイルランド辺境をめぐる旅行記に関する一考察. *日本医科大学基礎科学紀要* 2011 ; (40) : 15-34.

(2) その他：

- 1) 久守和子¹⁾, 木下未果子²⁾, 坂田薫子³⁾, 惣谷美智子⁴⁾, 高橋みどり⁵⁾, 武井博美⁶⁾, 土井良子⁷⁾, 中村哲子 (1) フェリス女学院大学, 2) 東京慈恵会医科大学, 3) 日本女子大学, 4) 神戸海星女子学院大学, 5) 東京福祉大学, 6) 都留文科大学, 7) 白百合女子大学) : オースティン時代のケータイ画像：質疑応答：ミニ・フォーラム. *ジェイン・オースティン研究* 2010 ; (4) : 58-65.

著 書

- 1) Minton T : [編集] 話せる医学英語 (荒木勤, 田尻孝, 矢沢珪二郎 (監修)), 2010 : pp1-153, 金原出版.

学会発表

(1) 招待講演 :

- 1) Nakamura T : The Pedagogical Advantages of Drama and Theatre Texts in Improving the English Communication Skills of Japanese University Students. LIBERLIT Conference (2nd) (Tokyo), 2011. 2.

(2) シンポジウム :

- 1) Nakamura T : Searching for New "Irish" Characters : The Banim Brothers, William Carleton and Charles Lever. IASIL Japan (27th) (Tokyo), 2010. 10.
- 2) 中村哲子 : アングロ・アイリッシュとは. 日本アイルランド協会 アイルランド研究年次大会 (東京), 2010. 11.

(3) 一般講演 :

- 1) Nakamura T : The Literary and Cultural Reception of the "Princess of Connemara". International Association for the Studies of Irish Literatures (34th) (Maynooth, Ireland), 2010. 7.

4. スポーツ科学

[スポーツ科学]

研究概要

三上：以下の項目についての研究を行った。1) 回転ケージを用いた自由運動がストレス由来の記憶学習能力の低下に対して抑制効果を持つことを明らかにし、その成果を論文として発表した（日本体育大学との共同研究）。2) 熱帯植物のノニの抽出エキスが精神的ストレスによる記憶学習能力に対して抑制効果を持つことを明らかにし、その成果を論文として発表した（日本体育大学、タヒチアン・ノニ社との共同研究）。3) 一過性の高強度運動による海馬歯状回での神経新生の増加が運動後2日間持続することを明らかにした（日本医大老人病研究所生化学部門との共同研究）。4) ストレス由来のうつ様行動の発症を身体運動（高強度および中強度運動）が抑制する効果には脳内セロトニンの変化が関与しないことを明らかにした（日本体育大学との共同研究）。

武藤：1) カンボジア・シムリアップにおいて体格・体力、生活習慣、生活環境等の調査研究を継続的に行っている。シムリアップ独自の体格と体力の評価が必要と考え、蓄積したデータを基に年齢群別の5段階評価表を作成公表し、現地での活用を促進した。2) 日本における健康づくりに貢献しているラジオ体操を定期的実施することが、高齢者の身体機能へどのような影響を及ぼすかを調査し報告した（日本運動・スポーツ科学学会学会賞（ポスター賞）受賞）。毎日ラジオ体操を実施している高齢者は、歩行能力と筋力に優れ、身体の筋機能の維持・増進に貢献できると示唆された。さらに健康関連QOLでは、70歳代から国民標準値を大きく上回り、80歳代でもその状態が保たれており、ラジオ体操の効果は高齢になるほど顕著であることが明らかになった。3) 「健康運動教室」に参加する高齢者を対象に、体格・生活活動力等を縦断的に調査している。運動習慣は生活活動力の維持または低下の遅延に役立つことが示唆された。

研究業績

論文

[追加分]

追加分原著：

- 1) Nakajima S¹⁾, Ohsawa I¹⁾, Ohta S¹⁾, Ohno M²⁾, Mikami T (¹⁾ Institute of Development and Aging Sciences, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, ²⁾ Graduate School of Health and Sport Science, Nippon Sport Science University) : Regular voluntary exercise cures stress-induced impairment of cognitive function and cell proliferation accompanied by increases in cerebral IGF-1 and GST activity in mice. *Behav. Brain Res* 2010 ; 211 (2) : 178-184.

(1) 原著：

- 1) Muto J¹⁾, Hosung L¹⁾, Uwaya A²⁾, Isami F²⁾, Ohno M¹⁾, Mikami T (¹⁾ Graduate School of Health and Sport Science, Nippon Sport Science University, ²⁾ Tahitian Noni Inc.) : Morinda citrifolia fruit reduces stress-induced impairment of cognitive function accompanied by vasculature improvement in mice. *Physiol. & Behav* 2010 ; 101 (2) : 211-217.

(2) 研究報告書：

- 1) 武藤三千代, 渡部隼二¹⁾ (¹⁾ 神奈川県立保健福祉大学) : 高齢者における形態計測・生活活動力測定結果について。平成22年度高齢者における健康維持増進のための総合的追跡研究報告書 2010 ; 3-7.
- 2) 渡部隼二¹⁾, 武藤三千代 (¹⁾ 神奈川県立保健福祉大学) : 健康体操教室における生活活動力の経年変化について。

平成 22 年度高齢者における健康維持増進のための総合的追跡研究報告書 2010；8-11.

- 3) 若山葉子¹⁾, 武藤三千代, 勝又聖夫¹⁾, 伊藤博子¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学衛生学公衆衛生学) : 高齢者の肥満・血液生化学値の検討: 運動継続群と一般住民参加者との比較. 平成 22 年度高齢者における健康維持増進のための総合的追跡研究報告書 2010；20-22.

(3) 事例研究:

- 1) 川守田千秋¹⁾, 渡部鎌二¹⁾, 武藤三千代 (¹⁾ 神奈川県立保健福祉大学) : 地域で生活している高齢者の活動状況: 生活活動頻度と主観的健康統制感からの分析. 運動とスポーツの科学 2010；16 (1) : 79-84.

著 書

- 1) 三上俊夫: [分担] Section8 運動と内蔵 3. 肝臓. 運動生理学のニューエビデンス (宮村実晴編集), 2010 ; pp224-229, 新興交易 (株) 医書出版部.

学会発表

(1) 一般講演:

- 1) Muto M, Watanabe R¹⁾ (¹⁾ Kanagawa University of Human Services) : Standard Value of Physique and Physical Performance in the Youth of Siem reap Province in Cambodia. 日本運動・スポーツ科学学会国際健康・スポーツ分科会日本・カンボジア健康・スポーツシンポジウム (Siem reap), 2010. 8.
- 2) 渡部月子¹⁾, 渡部鎌二¹⁾, 川守田千秋¹⁾, 武藤三千代 (¹⁾ 神奈川県立保健福祉大学) : シェムリアップ州健康教育モデル校における児童・生徒の発育曲線. 日本運動・スポーツ科学学会国際健康・スポーツ分科会 日本・カンボジア健康・スポーツシンポジウム (Siem reap), 2010. 8.
- 3) 渡部鎌二¹⁾, 渡部月子¹⁾, 川守田千秋¹⁾, 武藤三千代 (¹⁾ 神奈川県立保健福祉大学) : カンボジア・シェムリアップにおける健康調査について. 日本運動・スポーツ科学学会国際健康・スポーツ分科会 日本・カンボジア健康・スポーツシンポジウム (Siem reap), 2010. 8.
- 4) 武藤三千代, 渡部鎌二¹⁾, 若山葉子²⁾, 川守田千秋¹⁾, 渡部月子¹⁾ (¹⁾ 神奈川県立保健福祉大学, ²⁾ 日本医科大学衛生学公衆衛生学) : 高齢者におけるラジオ体操の効果: 体格・生活活動力について. 日本運動・スポーツ科学学会第 17 回大会 (東京), 2010. 6.
- 5) 川守田千秋¹⁾, 渡部鎌二¹⁾, 武藤三千代 (¹⁾ 神奈川県立保健福祉大学) : 高齢者におけるラジオ体操の効果: SF36 を指標として. 日本運動・スポーツ科学学会第 17 回大会 (東京), 2010. 6.
- 6) 渡部月子¹⁾, 渡部鎌二¹⁾, 川守田千秋¹⁾, 武藤三千代 (¹⁾ 神奈川県立保健福祉大学) : カンボジア・シェムリアップの児童・生徒の発育曲線. 日本運動・スポーツ科学学会第 17 回大会 (東京), 2010. 6.
- 7) 若山葉子¹⁾, 川田智之¹⁾, 武藤三千代, 松井知子²⁾, 渡部鎌二³⁾ (¹⁾ 日本医科大学衛生学・公衆衛生学, ²⁾ 杏林大学, ³⁾ 神奈川県立保健福祉大学) : ラジオ体操が身体機能等と与える影響についての調査研究. 第 75 回日本民族衛生学会総会 (札幌), 2010. 9.
- 8) 武藤三千代, 渡部鎌二¹⁾ (¹⁾ 神奈川県立保健福祉大学) : 高齢者におけるラジオ体操の継続敵実施が身体に及ぼす効果について. 日本体育学会第 61 回大会 (豊田), 2010. 9.
- 9) 李ホーソン¹⁾, 大野 誠²⁾, 三上俊夫 (¹⁾ 日本医科大学老人病研究所生化学部門, ²⁾ 日本体育大学大学院体育研究科) : 運動由来の抗うつ効果には脳内 5-HT 量は関与しない. 第 76 回日本体力医学会総会 (千葉), 2010. 9.
- 10) 中島早苗¹⁾, 李ホーソン¹⁾, 三上俊夫 (¹⁾ 日本医科大学老人病研究所生化学部門) : 一過性の高強度の運動による神経新生の増加は運動 2 日後まで持続する. 第 76 回日本体力医学会総会 (千葉), 2010. 9.
- 11) 武藤三千代, 渡部鎌二¹⁾, 若山葉子²⁾, 松井知子³⁾, 渡部月子¹⁾, 川守田千秋¹⁾ (¹⁾ 神奈川県立保健福祉大学, ²⁾ 日本医科大学衛生学公衆衛生学教室, ³⁾ 杏林大学保健学部健康教育学教室) : カンボジア・シェムリアップにおける青少年の体格・体力の標準値について. 第 69 回日本公衆衛生学会総会 (東京), 2010. 10.

- 12) 川守田千秋¹⁾, 渡部鎌二¹⁾, 武藤三千代 (¹⁾ 神奈川県立保健福祉大学): 地域で生活している 60-85 歳の活動状況. 第 69 回日本公衆衛生学会総会 (東京), 2010. 10.
- 13) 若山葉子¹⁾, 伊藤博子¹⁾, 勝又聖夫¹⁾, 川田智之¹⁾, 武藤三千代, 渡部鎌二²⁾, 渡部月子²⁾ (¹⁾ 日本医科大学衛生学・公衆衛生学, ²⁾ 神奈川県立保健福祉大学): 中高年を対象とした「運動教室」参加者の健康調査成績: 一般地域住民との比較検討. 第 69 回日本公衆衛生学会総会 (東京), 2010. 10.
- 14) 松井知子¹⁾, 渡部鎌二²⁾, 川守田千秋²⁾, 渡部月子²⁾, 武藤三千代, 若山葉子³⁾ (¹⁾ 杏林大学保健学部健康教育学, ²⁾ 神奈川県立保健福祉大学, ³⁾ 日本医科大学衛生学・公衆衛生学): 定期的なラジオ体操励行者の「こころの健康」. 第 69 回日本公衆衛生学会総会 (東京), 2010. 10.
- 15) 川守田千秋¹⁾, 渡部鎌二¹⁾, 武藤三千代 (¹⁾ 神奈川県立保健福祉大学): カンボジア・シェムリアップ市の小中学校に通う 12~14 歳の発育と栄養との関係: 都市部・郊外・農村部の比較. 日本体育測定評価学会第 10 回記念大会 (金沢), 2011. 2.

〔2〕基 礎 医 学

1. 解剖学講座（分子解剖学）

研究概要

(1) MicroRNA の分子解剖学的研究：a) 生殖腺，胎盤，消化器系臓器・疾患における microRNA プロファイリングと機能解析（石橋講師，菊池助教，石川助教，瀧澤敬美助教，アリ助教，院生・軸園，院生・重原，院生・間瀬，院生・倉品，院生・竹内，院生・篠塚，技術員・小管），b) P-body, exosome についての分子解剖学的解析（石橋，菊地，アリ），c) 卵巣における microRNA の機能解析（石橋，間瀬，瀧澤敬）を行った。（当大学外科学講座，産婦人科学講座，東京大学・程久美子准教授との共同研究）

(2) 胎盤の分子解剖学：a) ヒト胎盤胎児血管内皮細胞内の IIB 型 Fc 受容体-小胞の解析，b) 栄養膜細胞層の解析を進めた。形態学的解析（技術員・日野原，後藤准教授）と共に，分子生物学的解析（石川，石橋）を行った。（当大学産婦人科学講座，生化学・分子生物学講座，米国オハイオ州立大学・John M. Robinson 教授，自治医科大学・松原茂樹教授，屋代隆教授，宮崎・片岡寛章教授との共同研究）

(3) バイオイメージング・組織細胞化学法の開発と応用：GFP 融合分子発現ベクター作製と培養細胞での解析を行った（石橋，アリ）。Stimulated emission depletion 顕微鏡を用いた小胞のバイオイメージング解析を行った（瀧澤敬）。

(4) 生殖細胞特異的分子 TEX101 の解析：石川，瀧澤敬，小管がエレクトロポレーションによる GFP 融合 shRNA ベクターのマウス精巣導入実験および組織化学的解析を行った。（順天堂大学・荒木慶彦准教授，長崎大学・小路武彦教授との共同研究）

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Kanda T^{1, 2)}, Ishibashi O²⁾, Kawahigashi Y^{1, 2)}, Mishima T²⁾, Kosuge T²⁾, Mizuguchi Y^{1, 2)}, Shimizu T¹⁾, Arima Y¹⁾, Yokomuro S¹⁾, Yoshida H¹⁾, Tajiri T¹⁾, Uchida E¹⁾, Takizawa T²⁾ (1) Department of Surgery for Organ Function and Biological Regulation, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, (2) Department of Molecular Anatomy and Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Identification of obstructive jaundice-related microRNAs in mouse liver. *Hepato-Gastroenterology* 2010 ; 57 (102-103) : 1013-1023.
- 2) Mizuguchi Y^{1, 2)}, Mishima T²⁾, Yokomuro S¹⁾, Arima Y¹⁾, Kawahigashi Y^{1, 2)}, Shigehara K^{1, 2)}, Kanda T^{1, 2)}, Yoshida H¹⁾, Uchida E¹⁾, Tajiri T¹⁾, Takizawa T²⁾ (1) Department of Surgery for Organ Function and Biological Regulation, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, (2) Department of Molecular Anatomy and Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Sequencing and Bioinformatics-Based Analyses of the microRNA Transcriptome in Hepatitis B-Related Hepatocellular Carcinoma. *PLoS ONE* 2011 ; 6 (1) : e15304.
- 3) Akagi I¹⁾, Miyashita M¹⁾, Ishibashi O²⁾, Mishima T²⁾, Kikuchi K²⁾, Makino H¹⁾, Nomura T¹⁾, Hagiwara N¹⁾, Uchida E¹⁾, Takizawa T²⁾ (1) Department of Surgery for Organ Function and Biological Regulation, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, (2) Department of Molecular Medicine and Anatomy, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Relationship between altered expression levels of MIR21, MIR143, MIR145, and MIR205 and clinicopathologic features of esophageal squamous cell carcinoma. *Diseases of the Esophagus* 2011 ; published online 2011.3.31.

(2) 総説：

- 1) Takizawa T¹⁾, Gemma A²⁾, Ui-Tei K³⁾, Aizawa Y⁴⁾, Yoel S⁵⁾, John M⁶⁾, Seike M²⁾, Miyake K⁷⁾ (1) Divi-

sion of Molecular Medicine and Anatomy, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, ²⁾ Division of Pulmonary Medicine, Infection Diseases and Oncology, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, ³⁾ Division of Biophysics and Biochemistry, Graduate School of Science, University of Tokyo, Tokyo, Japan, ⁴⁾ Center for Biological Resources and Informatics, Tokyo Institute of Technology, Tokyo, Japan, ⁵⁾ Magee-Womens Research Institute, University of Pittsburgh, USA, ⁶⁾ Department of Physiology and Cell Biology, Ohio State University, USA, ⁷⁾ Division of Biochemistry and Molecular Biology, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Basic and Clinical Studies on Functional RNA Molecules for Advanced Medical Technologies. J Nippon Med Sch 2010 ; 77 (2) : 71-79.

- 2) 瀧澤俊広¹⁾, 石橋 幸¹⁾, 羅 善順²⁾, 松原茂樹³⁾, 竹下俊行⁴⁾ (1) 日本医科大学 解剖学講座 (分子解剖学), ²⁾ ハルピン医科大学付属第一病院 循環器内科学, ³⁾ 自治医科大学 産婦人科学講座, ⁴⁾ 日本医科大学 産婦人科学講座) : 胎盤特異的 microRNA. 周産期医学 2010 ; 40 (7) : 1071-1077.
 - 3) 石橋 幸¹⁾, 羅 善順²⁾, 石川 源³⁾, 竹下俊行³⁾, 大口昭英⁴⁾, 泉 章夫⁴⁾, 松原茂樹⁴⁾, 瀧澤俊広¹⁾ (1) 日本医科大学 解剖学講座 (分子解剖学), ²⁾ ハルピン医科大学付属第一病院 循環器病研究所, ³⁾ 日本医科大学 産婦人科学講座, ⁴⁾ 自治医科大学 産婦人科学講座) : マイクロ RNA 解析からみた妊娠高血圧症候群. 産婦人科の実際 2010 ; 59 (7) : 1063-1071.
 - 4) 石橋 幸¹⁾, 石川 源²⁾, 松原茂樹³⁾, 竹下俊行²⁾, 瀧澤俊広¹⁾ (1) 日本医科大学 解剖学講座 (分子解剖学), ²⁾ 日本医科大学 産婦人科学講座, ³⁾ 自治医科大学 産婦人科学講座) : マイクロ RNA1. 産婦人科医としての基礎知識. 産婦人科の実際 2010 ; 59 (9) : 1389-1395.
 - 5) 石橋 幸¹⁾, 間瀬有里²⁾, 瀧澤敬美¹⁾, 米山剛一²⁾, 朝倉啓文²⁾, 松原茂樹³⁾, 竹下俊行²⁾, 瀧澤俊広¹⁾ (1) 日本医科大学 解剖学講座 (分子解剖学), ²⁾ 日本医科大学 産婦人科学講座, ³⁾ 自治医科大学 産婦人科学講座) : マイクロ RNA2. 女性生殖器 (子宮・卵巣) におけるマイクロ RNA. 産婦人科の実際 2010 ; 59 (10) : 1551-1555.
 - 6) 石橋 幸¹⁾, 羅 善順²⁾, 石川朋子¹⁾, 小管拓治¹⁾, 倉品隆平³⁾, 石川 源³⁾, 朝倉啓文³⁾, 泉 章夫⁴⁾, 大口昭英⁴⁾, 松原茂樹⁴⁾, 竹下俊行³⁾, 瀧澤俊広¹⁾ (1) 日本医科大学 解剖学講座 (分子解剖学), ²⁾ ハルピン医科大学付属第一病院 循環器内科学, ³⁾ 日本医科大学 産婦人科学講座, ⁴⁾ 自治医科大学 産婦人科学講座) : マイクロ RNA3. 女性生殖器 (胎盤) におけるマイクロ RNA. 産婦人科の実際 2010 ; 59 (12) : 2077-2083.
 - 7) 赤城一郎¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 内田英二¹⁾, 瀧澤俊広²⁾ (1) 日本医科大学 日本医科大学 外科学講座 (消化器・一般・乳腺・移植部門), ²⁾ 日本医科大学 解剖学講座 (分子解剖学)) : 基礎研究から学ぶ 2. 組織細胞化学シリーズ (若手研究者へのヒント) 病理標本と臨床因子解析の基礎 (7). 日本医科大学医学会雑誌 2011 ; 7 (1) : 24-26.
 - 8) 瀧澤俊広¹⁾, 石橋 幸¹⁾, 松原茂樹²⁾, 右田 真³⁾, 竹下俊行⁴⁾ (1) 日本医科大学 解剖学講座 (分子解剖学), ²⁾ 自治医科大学 産婦人科学講座, ³⁾ 日本医科大学 小児科学講座, ⁴⁾ 日本医科大学 産婦人科学講座) : 胎盤から母体循環に分泌されるエクソソーム胎盤特異的 microRNA の意義と臨床への展開. 実験医学 2011 ; 29 (3) : 392-398.
- (3) 研究報告書 :
- 1) 阿曾亮子^{1,2)}, 吉村明修^{1,2)}, 志村俊郎^{1,2)}, 瀧澤俊広^{2,3)}, 明樂重夫^{2,4)}, 儀我真理子^{2,5)}, 八木正敏¹⁾, 滋野恭子⁶⁾, 伊藤高司⁶⁾ (1) 日本医科大学 教育推進室, ²⁾ 日本医科大学 授業評価委員会, ³⁾ 日本医科大学 解剖学講座 (分子解剖学), ⁴⁾ 日本医科大学 産婦人科学講座, ⁵⁾ 日本医科大学 数学, ⁶⁾ 日本医科大学 情報科学センター) : 日本医科大学における学生による授業評価の実施状況と意義の検討. 日医大医学会誌 2010 ; 6 (4) : 169-173.

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) 川東 豊¹⁾ (1) 日本医科大学 解剖学講座 (分子解剖学)) : MicroRNA Profiling of Human Intrahepatic Cholan-

giocarcinoma Cell Lines Reveals Biliary Epithelial Cell-specific MicroRNAs. 第78回日本医科大学医学会総会 平成21年度優秀論文賞記念講演(東京 橘桜ホール), 2010. 9.

- 2) 石橋 幸¹⁾ (1) 日本医科大学 解剖学講座(分子解剖学): 母体血液中の胎盤由来エクソソームを介したT細胞機能の制御. 第78回日本医科大学医学会 平成21年度丸山記念研究助成金受賞記念講演(東京 橘桜ホール), 2010. 9.

(2) 招待講演:

- 1) Ishibashi O¹⁾, Ohkuchi A²⁾, Izumi A²⁾, Matsubara S²⁾, Takeshita T³⁾, Takizawa T¹⁾ (1) Department of Molecular Medicine and Anatomy, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, 2) Department of Obstetrics and Gynecology, Jichi Medical University, Tochigi, Japan, 3) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Placenta-specific microRNAs (miRNAs) derived from the Chromosome 19 miRNA Cluster in Normal Pregnancy and Preeclampsia (PL-16 : Oct 22). International Federation of Placental Associations (IFPA) Meeting 2010 (Santiago, Chile), 2010. 10.
- 2) Takizawa T¹⁾, Ali M¹⁾, Ishibashi O¹⁾, Kikuchi K¹⁾, Kosuge T¹⁾, Matsubara S²⁾, Takeshita T³⁾ (1) Department of Molecular Medicine and Anatomy, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, 2) Department of Obstetrics and Gynecology, Jichi Medical University, Tochigi, Japan, 3) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Placenta specific c-microRNAs in normal pregnancy and preeclampsia (Nov 13). 8th European Congress on Reproductive Immunology (第8回欧州生殖免疫学会) (Munich, Bavaria Germany), 2010. 11.

(3) 教育講演:

- 1) 瀧澤俊広¹⁾ (1) 日本医科大学 解剖学講座(分子解剖学): ヒト胎盤におけるIgGトランスサイトーシス: 母体IgGの胎児への輸送(2月12日). 第5回妊娠と薬情報センター業務研修会(東京 国立成育医療研究センター), 2011. 2.

(4) 一般講演:

- 1) Ishikawa T¹⁾, Ishibashi O¹⁾, Katayama A²⁾, Takizawa T¹⁾ (1) Department of Molecular Medicine and Anatomy, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, 2) Department of Biochemistry and Molecular Biology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : The ability of Fc gamma receptor IIb-containing vesicles to internalize IgG in placental endothelial cells and identification of their associated proteins (P-28 ; 8月29日). 第25回日本生殖免疫学会学術集会・国際生殖免疫学シンポジウム (International Symposium for Immunology of Reproduction)・合同集会(大阪 大阪大学銀杏会館), 2010. 8.
- 2) Ishibashi O¹⁾, Luo S²⁾, Ohba T³⁾, Katabuchi H³⁾, Takeshita T⁴⁾, Takizawa T¹⁾ (1) Department of Molecular Medicine and Anatomy, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, 2) Department of Cardiology, First Clinical College of Harbin Medical University, Harbin, China, 3) Department of Gynecology, Faculty of Medical and Pharmaceutical Sciences, Kumamoto University, Kumamoto, Japan, 4) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : RNA duplexes elicit interferon-independent apoptosis of ovarian granulosa cells via RIG-I in cell type- and length-dependent manner (P-09 ; 8月28日). 第25回日本生殖免疫学会学術集会・国際生殖免疫学シンポジウム (International Symposium for Immunology of Reproduction)・合同集会(大阪 大阪大学銀杏会館), 2010. 8.
- 3) Mase Y^{1, 2)}, Ishibashi O²⁾, Ishikawa G¹⁾, Kiguchi K³⁾, Katabuchi H⁴⁾, Ohba T⁴⁾, Takeshita T¹⁾, Takizawa T²⁾ (1) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, 2) Department of Molecular Anatomy, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, 3) Department of Obstetrics and Gynecology, St. Marianna University School of medicine, Kanagawa, Japan, 4) Department of Obstetrics and Gynecology, Kumamoto University school of medicine, Kumamoto, Japan) : Identification of functional microRNAs in hu-

- man ovarian granulosa cells (P-10 ; 8月29日). 第25回日本生殖免疫学会学術集会・国際生殖免疫学シンポジウム (International Symposium for Immunology of Reproduction)・合同集会 (大阪 大阪大学銀杏会館), 2010. 8.
- 4) Ishibashi O¹⁾, Kurashina R^{1, 3)}, Ohkuchi A²⁾, Matsubara S²⁾, Takeshita T³⁾, Takizawa T¹⁾ (1) Department of Molecular Medicine and Anatomy, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, 2) Department of Obstetrics and Gynecology, Jichi Medical University, Tochigi, Japan, 3) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Placenta-specific miRNAs derived from the miRNA cluster in the chromosome 19 were upregulated in pre-eclampsia placentas (P3-47 ; Oct 21). International Federation of Placental Associations (IFPA) Meeting 2010 (Santiago, Chile), 2010. 10.
 - 5) Ali M¹⁾, Ishibashi O¹⁾, Ishikawa T¹⁾, Kikuchi K¹⁾, Takizawa T¹⁾, Goto T¹⁾, Takizawa T¹⁾ (1) Department of Molecular Medicine and Anatomy, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : BeWo exosome-associated microRNAs (miRNAs) are transferable and capable of modulating gene expression in Jurkat cells : miRNA-communication between placenta and T cells via exosomes. (P2-223 ; 3月30日). 第116回日本解剖学会 (誌上), 2011. 3.
 - 6) 倉品隆平^{1, 2)}, 石橋 宰²⁾, 間瀬有里^{1, 2)}, 石川 源¹⁾, 竹下俊行¹⁾, 瀧澤俊広²⁾ (1) 日本医科大学 産婦人科学講座, 2) 日本医科大学 解剖学講座 (分子解剖学)) : Laser Micro Dissection 法を用いたヒト胎盤特異的 miRNA の定量的局在解析 (P2-87 ; 4月23-25日). 第62回日本産科婦人科学会学術講演会 (東京 東京国際フォーラム), 2010. 4.
 - 7) 間瀬有里^{1, 2)}, 石橋 宰²⁾, 石川 源¹⁾, 木口一成³⁾, 片渕秀隆⁴⁾, 大場 隆⁴⁾, 竹下俊行¹⁾, 瀧澤俊広²⁾ (1) 日本医科大学 産婦人科学講座, 2) 日本医科大学 解剖学講座 (分子解剖学), 3) 聖マリアンナ医科大学 産婦人科, 4) 熊本大学 医学部 産科婦人科) : ヒト卵巣顆粒膜細胞株に発現する microRNA の特徴 : 次世代シーケンサーを用いた大規模プロファイリング解析 (P3-295 ; 4月23-25日). 第62回日本産科婦人科学会学術講演会 (東京 東京国際フォーラム), 2010. 4.
 - 8) 瀧澤俊広¹⁾, 石橋 宰¹⁾, 大口昭英³⁾, 泉 章夫³⁾, 石川 源²⁾, 間瀬有里^{1, 2)}, 米山剛一²⁾, 朝倉啓文²⁾, 松原茂樹³⁾, 竹下俊行²⁾ (1) 日本医科大学 解剖学講座 (分子解剖学), 2) 日本医科大学 産婦人科学講座, 3) 自治医科大学 産婦人科学講座) : 妊娠高血圧症候群 (PIH) 胎盤の MicroRNA Array による網羅的解析 : PIH 胎盤では第19番染色体上の microRNA クラスターの発見が上昇している (P2-86 ; 4月23-25日). 第62回日本産科婦人科学会学術講演会 (東京 東京国際フォーラム), 2010. 4.
 - 9) 後藤 忠¹⁾ (1) 日本医科大学 解剖学講座 (分子解剖学)) : 解剖学教育に与えるミニ臨床講義の効果 : テキストマイニングによる自由意見の分析 (P8-1 ; 7月31日). 第42回日本医学教育学会総会 (東京 都市センターホテル (永田町)), 2010. 7.
 - 10) 菊池邦生¹⁾, 川東 豊²⁾, 石川朋子¹⁾, 三嶋拓也¹⁾, 水口義昭²⁾, 石橋 宰¹⁾, 吉田 寛²⁾, 内田英二²⁾, 田尻 孝²⁾, 瀧澤俊広 (1) 日本医科大学 解剖学講座 (分子解剖学), 2) 日本医科大学 外科学講座 (消化器・一般・乳腺・移植部門)) : 胆管上皮細胞で発現する miRNA のプロファイリングと機能解析の試み (P-12 ; 7月28日). 第12回日本 RNA 学会年会 (東京 一橋記念講堂 (神保町)), 2010. 7.
 - 11) 石橋 宰¹⁾, アリモハメド¹⁾, 石川 源²⁾, 大口昭英³⁾, 泉 章夫³⁾, 松原茂樹³⁾, 米山剛一²⁾, 朝倉啓文²⁾, 竹下俊行²⁾, 瀧澤俊広 (1) 日本医科大学 解剖学講座 (分子解剖学), 2) 日本医科大学 産婦人科学講座, 3) 自治医科大学 産婦人科学講座) : 妊娠高血圧症候群に関連するマイクロ RNA の同定とその標的遺伝子 (第5群-5 ; 9月30日). 第18回日本胎盤学会学術集会 (熊本 ホテル日航熊本 (熊本)), 2010. 9.
 - 12) 石橋 宰¹⁾, 石川 源²⁾, 倉品隆平^{1, 2)}, 大口昭英³⁾, 泉 章夫³⁾, 松原茂樹³⁾, 米山剛一²⁾, 朝倉啓文²⁾, 竹下俊行²⁾, 瀧澤俊広¹⁾ (1) 日本医科大学 解剖学講座 (分子解剖学), 2) 日本医科大学 産婦人科学講座, 3) 自治医科大学 産婦人科学講座) : 妊娠高血圧症候群に関連するマイクロ RNA の同定とその胎盤組織における局在解析

(O-4; 10月16日). 第31回日本妊娠高血圧学会学術集会(東京 日本大学会館(市ヶ谷)), 2010. 10.

- 13) 瀧澤俊広¹⁾, 倉品隆平^{1, 2)}, 石橋 宰¹⁾, 軸園智雄¹⁾, 石川 源²⁾, 竹下俊行²⁾ (¹⁾日本医科大学 解剖学講座(分子解剖学), ²⁾日本医科大学 産婦人科学講座): レーザーマイクロダイセクション法によるヒト胎盤絨毛組織における microRNA 発現解析 (Session2-6; 10月16日). 第98回日本解剖学会 関東支部学術集会(東京 日本獣医生命科学大学(武蔵境)), 2010. 10.
- 14) 菊池邦生¹⁾, 川東 豊²⁾, 石川朋子¹⁾, 三嶋拓也¹⁾, 水口義昭²⁾, 石橋 宰¹⁾, 吉田 寛²⁾, 内田英二²⁾, 瀧澤俊広¹⁾ (¹⁾日本医科大学 解剖学講座(分子解剖学), ²⁾日本医科大学 外科学講座(消化器・一般・乳腺・移植部門)): 肝内胆管癌で発現が抑制されている miRNA の同定と機能の解析 (3P-0754; 12月9日). 第33回日本分子生物学会年会(兵庫 神戸ポートアイランド), 2010. 12.
- 15) 石橋 宰¹⁾, 瀧澤俊広¹⁾ (¹⁾日本医科大学 解剖学講座(分子解剖学)): 短鎖2本鎖 RNA は PKR, RIG-I および p38 を介し塩基数依存的にヒト卵巣顆粒膜細胞のアポトーシスを誘導する (P2-392; 3月30日). 第116回日本解剖学会(誌上), 2011. 3.
- 16) 石川朋子¹⁾, 石橋 宰¹⁾, 片山 映²⁾, 後藤 忠¹⁾, 瀧澤俊広¹⁾ (¹⁾日本医科大学 解剖学講座(分子解剖学), ²⁾日本医科大学 生化学・分子生物学講座(構造生物学・代謝学)): IIb 型 Fc 受容体 (FcRIIb): 小胞はヒト胎盤関門における母体由来の IgG 輸送に必須である (P3-086; 3月30日). 第116回日本解剖学会(誌上), 2011. 3.
- 17) 菊池邦生¹⁾, 川東 豊²⁾, 石川朋子¹⁾, 三嶋拓也¹⁾, 水口義昭²⁾, 石橋 宰¹⁾, 吉田 寛²⁾, 内田英二²⁾, 瀧澤俊広¹⁾ (¹⁾日本医科大学 解剖学講座(分子解剖学), ²⁾日本医科大学 外科学講座(消化器・一般・乳腺・移植部門)): 肝内胆管癌で発現が抑制されている miRNA の機能解析の試み (P3-041; 3月30日). 第116回日本解剖学会(誌上), 2011. 3.

2. 解剖学講座（生体構造学）

研究概要

思春期「puberty」は子供から大人へのゲートであり、これを通り抜けることによって、身体的にも、精神的にも成熟し、大人としての社会活動、行動に適応する身体の仕組みが構築されると定義される。この思春期が誘発される詳細な神経機能メカニズムであるが、視床下部-下垂体-性腺系への強い抑制はネガティブフィードバック機構だけでは説明がつかず、中枢性の強い抑制性制御が関わっていると考えられていた。近年、オーファン受容体 GPR54 のリガンドとして、新規生理活性物質 kisspeptin が同定され、kisspeptin による GnRH ニューロンの活性誘導に注目が集まりつつある。「脳内の神経ネットワーク」による思春期発動機序の解明については、未だ多くの課題を残している。我々はこれまでに「脳とホルモン」、「脳における神経回路形成とホルモン」といった課題を中心に、ステロイドホルモンとその受容体によって調節される神経細胞の機能と形態の変動を多角的に調べてきた。特に性ステロイドホルモンは、脳における性機能調節系の制御に深く関わっており、性機能発動の大きなターニングポイントである思春期が生じるメカニズムにはステロイドホルモンの役割が大きな意味を持つ。我々はこれまでの研究アプローチをより具体的な生理作用解明に適用させ、思春期発動と関わる「性」、「摂食」、「ストレス」といった神経制御機構の3次元神経ネットワークを明らかにし、ネットワークの相互作用、ネットワークの乱れと思春期前後の精神的、身体的な不安定の発生の関連を探求することを目指す研究を行っている。また GFP などの蛍光遺伝子の発現を利用して無麻酔下の living animal の神経活動を可視化する試みを進めており、行動と神経活動を一本化して観察するシステムの構築に関する研究を進行している。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Sawai N, Ueta Y, Nakazato M, Ozawa H : Developmental and aging change of orexin-A and -B immunoreactive neurons in the male rat hypothalamus. *Neurosci Letter* 2010 ; 468 (1) : 51-55.
- 2) Tobari Y, Iijima N, Tsunekawa K, Osugi T, Okanoya K, Tsutsui K, Ozawa H : Identification of gonadotropin-inhibitory hormone in the zebra finch (*Taeniopygia guttata*) : Peptide isolation, cDNA cloning and brain distribution. *Peptides* 2010 ; 31 (5) : 816-826.
- 3) Akimoto T, Terada M, Shimizu A, Sawai N, Ozawa H : The influence of dietary restriction on the development of diabetes and pancreatitis in female WBN/Kob-fatty rats. *Experimental Animals* 2010 ; 59 (5) : 623-630.
- 4) Yoshimoto M, Yamamoto N : Ascending general visceral sensory pathway from the brainstem to the forebrain in a cichlid fish, *oreochromis(tilapia)niloticus*. *The Journal of Comparative Neurology* 2010 ; 518(17) : 3570-3603.
- 5) Ohe Y, Iijima N, Kadota K, Sakamoto A, Ozawa H : The general anesthetic sevoflurane affects the expression of clock gene *mPer2* accompanying the change of NAD⁺ level in the suprachiasmatic nucleus of mice. *Neuroscience Letters* 2011 ; 490 (1) : 231-236.
- 6) Takumi K, Iijima N, Ozawa H : Developmental changes in the expression of kisspeptin mRNA in rat hypothalamus. *Journal of Molecular Neurosciences* 2011 ; 43 (2) : 138-145.
- 7) Iijima N, Takumi K, Sawai N, Ozawa H : An immunohistochemical study on the expressional dynamics of kisspeptin neurons relevant to GnRH neurons using newly developed anti-kisspeptin antibody. *Journal of*

著書

- 1) 小澤一史：〔分担〕生殖器系の項. トートラ 人体の構造と機能 第3版 (桑木共之, 黒澤美枝子, 高橋研一, 細谷保彦), 2010 ; pp1119-1172, 丸善出版.
- 2) 小澤一史：〔分担〕内分泌系, 生殖器系, 自律神経系の項. トートラ 解剖学 第11版 (千田隆夫, 高田邦昭, 依藤宏), 2010 ; pp687764884-707787931, 丸善出版.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 小澤一史：日本顕微鏡学会における生物系の現状と今後の展開. 日本顕微鏡学会シンポジウム(第54回)(金沢), 2010. 11.

(2) シンポジウム：

- 1) 飯島典生, 澤井信彦, 託見 健, 岩田衣世, 国村有弓, 中根 亮, 松本恵介, 小澤一史：kisspeptin ニューロンと GnRH あるいは Dopamine ニューロンとの相互作用に関する機能形態学的研究. 日本生理学会大会 (第88回) 日本解剖学会総会・全国学術集会 (第116回) 合同大会 (横浜), 2011. 3.
- 2) 小澤一史, 岩田衣世, 中根 亮, 託見 健, 飯島典生：エネルギー代謝神経調節系と kisspeptin-GnRH 神経系の相関について. 日本生理学会大会 (第88回) 日本解剖学会総会・全国学術集会 (第116回) 合同大会 (横浜), 2011. 3.

(3) ワークショップ：

- 1) 小澤一史, 託見 健, 澤井信彦, 飯島典生：新規生理活性ペプチド Kisspeptin の発現とその調節機構について. 日本臨床分子形態学会 (第42回) (三島), 2010. 9.

(4) 一般講演：

- 1) Sawai N, Iijima N, Matsumoto K, Ozawa H : A novel input of kisspeptin fibers to dopaminergic neurons in the arcuate nucleus of female rat. International Congress of Neuroendocrinology (The 7th) (Rouen, France), 2010. 7.
- 2) Iijima N, Sawai N, Takumi K, Matsumoto K, Tobari Y, Ozawa H : Reexamination of the expression and the distribution of kisspeptin neurons in the rat using a newly developed antibody. International Congress of Neuroendocrinology (The 7th) (Rouen, France), 2010. 7.
- 3) Ohe Y, Iijima Y, Kadota K, Sakamoto A, Ozawa H : The general anesthetic sevoflurane repress the expression of clock gene mPer2 accompanying NAD⁺ increase in the suprachiasmatic nucleus of mice. International Congress of Neuroendocrinology (The 7th) (Rouen, France), 2010. 7.
- 4) Ozawa H, Sawai N, Takumi K, Iwata K, Nakane R, Matsumoto K, Iijima N : Immunohistochemical study on the kisspeptin neurons in the rat brain using a newly developed anti-kisspeptin antibody. International Meeting Steroids and Nervous System (6th) (Torino, Italy), 2011. 2.
- 5) Takumi K, Iijima N, Ozawa H : The effects of gonadal steroids manipulation on the expression of kisspeptin in arcuate nucleus of neonatal and prepubertal rats. International Meeting Steroids and Nervous System (6th) (Torino, Italy), 2011. 2.
- 6) 飯島典生, 澤井信彦, 岩田衣世, 松本恵介, 小澤一史：弓状核ドーパミンニューロンを介した神経ペプチド kisspeptin の新たな生理作用. 日本神経科学大会 (第33回) (神戸), 2010. 9.
- 7) 澤井信彦, 飯島典生, 松本恵介, 小澤一史：雌ラットにおける隆起漏斗ドーパミンニューロンのキスベプチン線維投射の形態学的解析. 日本神経科学大会 (第33回) (神戸), 2010. 9.

- 8) 松崎利行, 稲島有規, 小林牧人, 小澤一史: ラット下垂体における水チャンネルの分布局在. 日本組織細胞化学会 (第 51 回) (秋葉原), 2010. 9.
- 9) 託見 健, 飯島典生, 小澤一史: ラット視床下部における Kisspeptin mRNA 発現ニューロンの生後発達変化. 日本組織細胞化学会 (第 51 回) (秋葉原), 2010. 9.
- 10) 門田佳奈, 飯島典生, 大江裕美子, 坂本篤裕, 小澤一史: 全身麻酔薬 sevoflurane による時計遺伝子 *mper2* の発現抑制および行動リズム *phase-delay* に関する投与時刻依存性. 日本神経内分泌学会学術集会 (第 37 回) (京都), 2010. 10.
- 11) 託見 健, 飯島典生, 小澤一史: ラット Kisspeptin ニューロンの生後発達と性ステロイドによる発現制御. 日本神経内分泌学会学術集会 (第 37 回) (京都), 2010. 10.
- 12) 飯島典生, 澤井信彦, 岩田衣世, 中根 亮, 松本恵介, 小澤一史: 神経ペプチド kisspeptin の視床下部背側弓状核における新規神経回路. 日本神経内分泌学会学術集会 (第 37 回) (京都), 2010. 10.
- 13) 澤井信彦, 飯島典生, 松本恵介, 小澤一史: 雌ラット視床下部弓状核ドーパミン産生ニューロンへの kisspeptin 神経線維入力. 日本神経内分泌学会学術集会 (第 37 回) (京都), 2010. 10.
- 14) 小澤一史, 飯島典生, 澤井信彦, 楊 春英, 中根 亮, 岩田衣世, 託見 健: 新規生理活性神経ペプチド kisspeptin による性調節神経系の制御機構. 日本解剖学会関東支部学術集会 (第 98 回) (東京), 2010. 10.
- 15) 門田佳奈, 飯島典生, 大江裕美子, 坂本篤裕, 小澤一史: 全身麻酔薬 sevoflurane の投与時刻の違いによる時計遺伝子 *mper2* の発現抑制および行動リズム *phase-delay* の変化. 日本解剖学会関東支部学術集会 (第 98 回) (東京), 2010. 10.
- 16) 小澤一史, 稲島有規, 松崎利行: ラット下垂体における水チャンネル, アクアポリン 4 (AQP-4), アクアポリン 5 (AQP-5) の発現と局在について. パゾプレシン研究会 (第 21 回) (東京), 2011. 1.
- 17) 國村有弓, 岩田衣世, 飯島典生, 小林牧人, 小澤一史: 生殖制御神経系におけるプロラクチン受容体の発現様式に関する組織化学的解析. 日本生理学会大会 (第 88 回) 第 116 回日本解剖学会総会・全国学術集会 (第 116 回) 合同大会 (横浜), 2011. 3.
- 18) 澤井信彦, 飯島典生, 小澤一史: 雌ラット視床下部における TH 陽性細胞へのキスペプチン線維投射の分布と超微形態学的解析. 日本生理学会大会 (第 88 回) 日本解剖学会総会・全国学術集会 (第 116 回) 合同大会 (横浜), 2011. 3.
- 19) 託見 健, 飯島典生, 小澤一史: 性ステロイドがラット新生仔の弓状核における kisspeptin 発現に及ぼす効果. 日本生理学会大会 (第 88 回) 第 116 回日本解剖学会総会・全国学術集会 (第 116 回) 合同大会 (横浜), 2011. 3.
- 20) 楊 春英, 託見 健, 小澤一史: 性成熟過程におけるラット視床下部の弓状核及び正中隆起のグリア細胞の可塑性について. 日本生理学会大会 (第 88 回) 日本解剖学会総会・全国学術集会 (第 116 回) 合同大会 (横浜), 2011. 3.
- 21) 門田佳奈, 飯島典生, 大江裕美子, 坂本篤裕, 小澤一史: 異なる時間帯での全身麻酔薬 sevoflurane による時計遺伝子 *mPer2* および行動リズムへの影響. 日本生理学会大会 (第 88 回) 日本解剖学会総会・全国学術集会 (第 116 回) 合同大会 (横浜), 2011. 3.

3. 生理学講座（システム生理学）

研究概要

平成 21 年度末の第 14 回国際内分泌学会（京都）に引き続き、22 年度も多くの行事があった。7 月にルーアンで開かれた第 7 回国際神経内分泌学会には教室員、国内外留学生、基礎配属学生を含め 10 名が大挙して参加、7 演題を発表した。基礎配属学生の成果は学内外で高く評価され、桜賞の授与に至った。ルーアンでの演題はエストロゲン受容体分子の変異と発現制御、GnRH ニューロンの興奮調節、母性行動・性指向性に関わる脳回路、マウス脳で新規に発見した性差など、これまで継続して行っている研究の成果である。英文原著としては計 7 篇を発表、うち 2 篇は学位請求論文であった。米国内分泌学会誌に発表した論文では蛍光タンパク標識エストロゲン受容体陽性ニューロンが移動により性的二型核を形成することを明らかにした。日本生理学会英文誌 J Physiol Sci に発表した論文が 3 年連続して学会の入澤賞を授与された。文部科学省・学術振興会の科学研究費補助金は合計 10 件を申請したところ、継続 1 件に加え新規 6 件が採択され、計 1280 万円の助成を得た（他に間接経費 384 万円）。3 年目を迎えた戦略的研究基盤整備事業は良好に進んでいるとの中間評価を得て今後の継続が確定した。生理学教育では、試験時期の年度末への変更に伴い、新たに病態を強調した講義を開設し好評を得た。かねてから力を傾注している生理学実習でも学生の意識の変化に対応できるよう工夫を加えた。国内外との交流も盛んで、国内外の大学院留学生を迎え大きな成果が上がっている。平成 18 年度から編集委員長を務めている J Physiol Sci はインパクトファクターも上昇し、順調に刊行が進んでいる。近藤講師が准教授として転出した。大学院生 2 名が課程を修了し学位を得た。1 名は農研機構に採用、1 名は母国ネパールに新設された医学校で准教授として教育に当たることになった。学外活動として、日米科学技術協力事業「脳分野」研究計画委員会委員、自然科学研究機構生理学研究所運営委員会副議長を務めている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Orikasa C, Kondo Y, Usui S, Sakuma Y : Similar numbers of neurons are generated in the male and female rat preoptic area in utero. *Neuroscience Research* 2010 ; 68 (1) : 9-14.
- 2) Orikasa C, Sakuma Y : Estrogen configures the sexual dimorphism in the preoptic area of C57/BL6J and ddN strains of mice. *Journal of Comparative Neurology* 2010 ; 518 (17) : 3618-3629.
- 3) Dhungel S, Urakawa S, Kondo Y, Sakuma Y : Olfactory preference in the male rat depends on multiple chemosensory inputs converging on the preoptic area. *Hormones and Behavior* 2011 ; 59 (1) : 193-199.
- 4) Kobayashi M, Ishii H, Sakuma Y : Identification of novel splicing events and post-transcriptional regulation of human estrogen receptor α isoforms. *Molecular and Cellular Endocrinology* 2011 ; 333 (1) : 55-61.
- 5) Ishii H, Yomogida K, Hamada T, Sakuma Y : Identification of C-terminally and N-terminally truncated estrogen receptor α variants in the mouse. *Journal of Steroid Biochemistry and Molecular Biology* 2011 ; 124 (1/2) : 38-46.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 佐久間康夫：蛍光タンパクにより標識した視床下部ニューロンを用いた生殖内分泌学研究。内分泌代謝学サマーセミナー（第 28 回）（長崎県長崎市），2010. 7.
- 2) 佐久間康夫：脳の性分化とステロイドホルモン。日本アンドロロジー学会（第 29 回）（東京都武蔵野市），

2010. 7.

(2) 招待講演：

- 1) 佐久間康夫：視床下部－下垂体－性腺軸による性行動調節の研究. 日本下垂体研究会第 25 回学術集会（愛知県田原市），2010. 8.
- 2) Kondo Y：Neural regulation of male sexual behavior in the rat. IBRO School of Neuroscience (Malasia), 2010. 10.
- 3) Sakuma Y：The preoptic area and female rat sexual behavior. IBRO School of Neuroscience (Malasia), 2010. 10.
- 4) 佐久間康夫：エストロゲン受容体遺伝子と脳の性分化. 第 1 回テストステロン研究会（東京），2010. 11.

(3) シンポジウム：

- 1) 佐久間康夫：哺乳類の脳の性転換/性分化. 第 81 回日本動物学会（東京），2010. 9.
- 2) Tanaka N, Ishii H, Yin C, Koyama M, Sakuma Y：T-type calcium channels in rat gonadotropin-releasing hormones. 第 88 回日本生理学会・第 116 回日本解剖学会総会・全国学術集会・合同大会（横浜），2011. 3.
- 3) Koyama M, Yin C, Ishii H, Sakuma Y, Kato M：Distribution of GnRH and somatostatin neuronal fibers in the organum vasculosum of the lamina terminalis and their physiological meaning. 第 88 回日本生理学会・第 116 回日本解剖学会総会・全国学術集会・合同大会（横浜），2011. 3.
- 4) Parhar I¹⁾ (¹⁾ Brain Research Institute, Monash University Malasia)：Kisspeptin-GnRH as regulators of reproduction. 第 88 回日本生理学会・第 116 回日本解剖学会総会・全国学術集会・合同大会（横浜），2011. 3.
- 5) Ishii H, Kobayashi M, Sakuma Y：Alternative promoter usage and alternative splicing of the estrogen receptor α genes generate numerous mRNA variants. 日本生理学会大会（第 87 回）（岩手県盛岡市），2010. 5.
- 6) Yin C, Ishii H, Tanaka N, Kato M, Sakuma Y：Neurosteroids augment A-type γ -aminobutyric acid receptor currents in rat gonadotropin-releasing hormone neurons. 日本生理学会大会（第 87 回）（岩手県盛岡市），2010. 5.
- 7) 近藤保彦：ゲッ歯目における雄性機能の視床下部オレキシン調節. 日本アンドロロジー学会（第 29 回）（東京都武蔵野市），2010. 7.
- 8) 佐久間康夫：ラットの性行動を調節する脳内回路. 基礎生物学研究所重点共同利用シンポジウム（愛知県岡崎市），2011. 3.

(4) 一般講演：

- 1) Munetomo A, Kondo Y, Miyamoto T¹⁾, Sakuma Y (¹⁾ Department of Chemical and Biological Sciences, Japan Women's University, Tokyo, Japan)：Differential responses of oxytocin and vasopressin neurons to pup odors in virgin and multiparous rats. The 7th International Congress of Neuroendocrinology (Rouen, France), 2010. 7.
- 2) Orikasa C, Sakuma Y：Sexual Dimorphism in the Preoptic Area of C57Bl/6J and ddN Strains of Mice. The 7th International Congress of Neuroendocrinology (Rouen, France), 2010. 7.
- 3) Yin C, Ishii H, Kato M, Sakuma Y：GABA_A receptors in rat GnRH neurons are composed of $\alpha 2$, $\beta 3$, $\gamma 1-2$, and ϵ subunits. The 7th International Congress of Neuroendocrinology (Rouen, France), 2010. 7.
- 4) Dhungel S, Kondo Y, Sakuma Y：Convergence of olfactory signals regulating sexual preference on the preoptic area of male rats. The 7th International Congress Neuroendocrinology (Rouen, France), 2010. 7.
- 5) Shoda Y, Ishii H, Kobayashi M, Yomogida K, Hamada T, Sakuma Y：Alternative promoter usage and alternative splicing of the mouse estrogen receptor α gene generate numerous mRNA variants. The 7th International Congress Neuroendocrinology (Rouen, France), 2010. 7.
- 6) Hamada T, Ishii H, Orikasa C, Sakuma Y：Cell-specific usage of an estrogen receptor α gene promoter in

- the dimorphic nucleus of the rat preoptic area. The Society for Behavioral Neuroendocrinology 14th Annual Meeting (Toronto, Canada), 2010. 7.
- 7) Koyama M, Sakuma Y, Kato M : Contacts of somatostatin neuronal fibers with GnRH neurons in the organum vasculosum of the lamina terminalis. The 7th International Congress of Neuroendocrinology (Rouen, France), 2010. 7.
 - 8) 濱田知宏, 佐久間康夫 : 視索前野性的二型核形成過程の可視化. 日本下垂体研究会第 25 回学術集会 (愛知県田原市), 2010. 8.
 - 9) 石井寛高, 庄田有里, 濱田知宏, 佐久間康夫 : マウスエストロゲン受容体 α の新規 N 末端・C 末端欠損型変異体の同定. 日本下垂体研究会第 25 回学術集会 (愛知県田原市), 2010. 8.
 - 10) Dhungel S, Kondo Y, Sakuma Y : Interaction of Main olfactory system and vomeronasal system inputs during conspecific olfactory preferences of male rats. 第 13 回日本行動神経内分泌研究会 (茨城), 2010. 9.
 - 11) 棟朝重理紗¹⁾, 近藤保彦, 宮本武典¹⁾, 佐久間康夫 (¹⁾ 日本女子大学大学院理学研究科行動神経科学) : 出産経験は仔ラットの匂いに対する室傍核オキシトシンニューロンの反応性を変化させる. 第 13 回日本行動神経内分泌研究会 (茨城), 2010. 9.
 - 12) Rai D, Kato Y¹⁾, Kondo Y, Sakuma Y (¹⁾ Tokyo Medical Care and Welfare Vocational School) : Destruction of orexin-innervating neurons in the preoptic area impairs copulatory behavior but not sexual preference in the male rat. 第 13 回日本行動神経内分泌研究会 (茨城), 2010. 9.
 - 13) 石井寛高, 庄田有里, 濱田知宏, 佐久間康夫 : イントロン領域で同定された新規エクソンにより, N 末端・C 末端欠損型エストロゲン受容体 α 変異体が形成される. 第 37 回日本神経内分泌学会学術集会 (京都), 2010. 10.
 - 14) 尹 成珠, 石井寛高, 加藤昌克, 佐久間康夫 : ラット GnRH ニューロンに発現する A 型 GABA 受容体 (GABA_AR) のサブユニット構成. 第 37 回日本神経内分泌学会学術集会 (京都), 2010. 10.
 - 15) Suzuki C, Hamada T, Kiyama R¹⁾, Sakuma Y, Kiyama-Wada Y (¹⁾ National Institute of Advanced Industrial Science and Technology, Ibaraki, Japan) : Estradiol-induced signaling involved in the sexual differentiation of the rat preoptic area. 第 33 回日本分子生物学会 (神戸), 2010. 12.
 - 16) Dhungel S, Rai D, Nishimori K¹⁾, Kondo Y, Sakuma Y (¹⁾ Graduate school of Agricultural Science, Tohoku University) : Oxytocin regulates olfaction-related behavior during mating interaction in both male and female mice. 第 88 回日本生理学会・第 116 回日本解剖学会総会・全国学術集会・合同大会 (横浜), 2011. 3.
 - 17) Orikasa C, Kondo Y, Usui S, Sakuma Y : Similar numbers of neurons are generated in the male and female rat preoptic area. 第 88 回日本生理学会・第 116 回日本解剖学会総会・全国学術集会・合同大会 (横浜), 2011. 3.
 - 18) Ishii H, Hamada T, Sakuma Y : Identification of N-terminally- and C-terminally-truncated estrogen receptor α variants in the human and rat. 第 88 回日本生理学会・第 116 回日本解剖学会総会・全国学術集会・合同大会 (横浜), 2011. 3.
 - 19) Kiyama-Wada Y, Suzuki C, Hamada T, Kiyama R¹⁾, Sakuma Y (¹⁾ National Institute of Advanced Industrial Science and Technology, Ibaraki, Japan) : Estrogen signaling as a cue to induce the sexually dimorphic nucleus of the rat preoptic area. 第 88 回日本生理学会・第 116 回日本解剖学会総会・全国学術集会・合同大会 (横浜), 2011. 3.
 - 20) Kiyama-Wada Y, Suzuki C, Hamada T, Kiyama R¹⁾, Sakuma Y (¹⁾ National Institute of Advanced Industrial Science and Technology, Ibaraki, Japan) : Estrogen-responsive genes in the preoptic area of the female rat during the critical period for sexual differentiation of the brain. 日本生理学会大会 (第 87 回) (岩手県盛岡市), 2010. 5.

- 21) Hamada T, Sakuma Y : Neuronal migration is important for the sexual differentiation of the sexually dimorphic nucleus of the preoptic area. 日本生理学会大会 (第 87 回) (岩手県盛岡市), 2010. 5.
- 22) Dhungel S, Kondo Y, Sakuma Y : Cross-talking between olfactory epithelial and vomeronasal inputs in the rat nervous system. 日本生理学会大会 (第 87 回) (岩手県盛岡市), 2010. 5.
- 23) Rai D, Kato Y¹⁾, Kondo Y, Sakuma Y (¹⁾ Tokyo Medical Treatment Welfare Vocational School, Japan) : Destruction of orexin-innervating neurons in the preoptic area impairs copulatory behavior but not sexual preference in the male rat. 日本生理学会大会 (第 87 回) (岩手県盛岡市), 2010. 5.
- 24) Kato Y¹⁾, Uehara N¹⁾, Rai D, Kondo Y, Sakuma Y (¹⁾ Tokyo Medical Treatment Welfare Vocational School, Japan) : Orexinergic innervation to the bed nucleus of the stria terminalis regulates ejaculatory response of male rats. 日本生理学会大会 (第 87 回) (岩手県盛岡市), 2010. 5.
- 25) Futagami H¹⁾, Okada S¹⁾, Kondo Y, Sakuma Y (¹⁾ Tokyo Med. Care Welf. Vocat. School, Japan) : The involvement of hypothalamic oxytocin in copulation induced analgesia of male rats. 日本生理学会大会 (第 87 回) (岩手県盛岡市), 2010. 5.

4. 生理学講座（生体統御学）

研究概要

生理学講座（生体統御学）では、摂食、エネルギー代謝調節機構、ストレス反応機構、神経情報伝達機構の解析、中枢性摂食異常症、てんかん、神経変性疾患の発症機序の解明を中心に研究を進めている。今年度の研究成果は以下のごとくであり、それらの幾つかは論文として発表されている。ストレスに関する研究では、下垂体から分泌されるウロコルチン2（Ucn 2）が視床下部 CRF- 下垂体 Ucn 2-LH 軸を介してストレスによる性腺機能低下に関与している可能性、正中隆起外層に投射している Ucn 2 がストレス時に下垂体前葉ホルモンの分泌調節に関与している可能性、さらにストレスによる摂食抑制には外側中隔と境界条床核の CRF2 型受容体が関与していること等を明らかにした。てんかん発症機構の研究では、新規抗てんかん薬のレベチラセタムがカイニン酸てんかんモデルの発作脳波と海馬神経細胞の遊走異常を有意に抑制することを明らかにした。神経情報伝達機構では、外液二価イオン除去時における幼年脊髄ニューロンの同期した周期性興奮発現にアデノシン受容体が関与することを明らかにした。ストレスによる神経変性発症機序の研究では、同機序に関与するミクログリアの活性化メカニズムを動物モデルおよびミクログリア培養細胞を用いて解析している。

研究業績

論文

〔追加分〕

追加分研究報告書：

- 1) 芝崎 保：加齢に伴う体脂肪蓄積機序におけるグレリンの役割の解析。厚生労働科学研究費補助金長寿科学総合研究事業 高齢者医療と QOL 改善に対するグレリンの臨床応用とその基盤的研究 平成 19 年度 総括・分担研究報告書 2008；22-24.
- 2) 芝崎 保：加齢に伴う体脂肪蓄積機序におけるグレリンの役割の解析。厚生労働科学研究費補助金長寿科学総合研究事業 高齢者医療と QOL 改善に対するグレリンの臨床応用とその基盤的研究 平成 20 年度 総括・分担研究報告書 2009；22-24.
- 3) 芝崎 保：加齢に伴う体脂肪蓄積機序におけるグレリンの役割の解析。厚生労働科学研究費補助金長寿科学総合研究事業 高齢者医療と QOL 改善に対するグレリンの臨床応用とその基盤的研究 平成 21 年度 総括・分担研究報告書 2010；22-24.
- 4) 芝崎 保, 根本崇宏：ストレスによる性腺刺激ホルモン分泌低下への下垂体 Urocortin 2 の関与：神経性食欲不振症における性腺機能低下機序の解明。厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業 中枢性摂食異常症に関する調査研究 平成 21 年度総括分担研究報告書 2010；10-13.

(1) 原著：

- 1) Nemoto T, Iwasaki-Sekino A, Yamauchi N, Shibasaki T : Role of urocortin 2 secreted by the pituitary in the stress-induced suppression of luteinizing hormone secretion in rats. *Am J Physiol Endocrinol Metab* 2010 ; 299 (Oct.) : E567-E575.
- 2) Sugaya Y¹⁾, Maru E, Kudo K²⁾, Shibasaki T, Kato N^{3, 4)} (1) Department of Psychiatry, The University of Tokyo, Tokyo 113-0033, Japan, 2) Department of Psychiatry, Yokohama Aihara Hospital, Kanagawa 246-0026, Japan, 3) Department of Psychiatry, Showa University School of Medicine, Tokyo 157-8577, Japan, 4) JST, CREST, Showa University School of Medicine, Tokyo 157-8577, Japan) : Levetiracetam suppresses de-

velopment of spontaneous EEG seizures and aberrant neurogenesis following kainate-induced status epilepticus. *Brain Research* 2010 ; 1352 : 187-199.

- 3) Fujita M¹⁾, Sugama S, Sekiyama K¹⁾, Sekigawa A¹⁾, Tsukui T¹⁾, Nakai M¹⁾, Waragai M¹⁾, Takenouchi T²⁾, Takamatsu Y¹⁾, Wei J¹⁾, Rochenstein E³⁾, Laspada A⁴⁾, Masliah E³⁾, Inoue S⁵⁾, Hashimoto M¹⁾ (1) Laboratory for Chemistry and Metabolism, Tokyo Metropolitan Institute for Neuroscience, (2) Transgenic Animal Research Center, National Institute of Agrobiological Sciences, (3) Department of Neurosciences, University of California-San Diego, (4) Division of Genetics, Department of Pediatrics, University of California-San Diego, (5) Department of Anti-Aging Medicine, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo) : A β -synuclein mutation linked to dementia produces neurodegeneration when expressed in mouse brain. *Nat Commun* 2010 ; 1 : 110.
- 4) 根本崇宏, 芝崎 保 : 妊娠中に摂餌制限した母ラットからの出生仔における HPA 軸の解析. *ACTH related peptides* 2010 ; 21 : 14-16.
- 5) 芝崎 保 : ストレス. *内分泌糖尿病代謝内科* 2011 ; 32 (3) : 234-240.

(2) 総説 :

- 1) Takenouchi T¹⁾, Sekiyama K²⁾, Sekigawa A²⁾, Fujita M²⁾, Waragai M²⁾, Sugama S, Iwamaru Y¹⁾, Kitani H¹⁾, Hashimoto M²⁾ (1) Transgenic Animal Research Center, National Institute of Agrobiological Sciences, (2) Laboratory for Chemistry and Metabolism, Tokyo Metropolitan Institute for Neuroscience) : P2X7 receptor signaling pathway as a therapeutic target for neurodegenerative diseases. *Arch Immunol Ther Exp* 2010 ; 58 (2) : 91-96.
- 2) 芝崎 保 : ウロコルチン. *日本臨床* 2010 ; 68 (増刊号 7) : 637-639.
- 3) 芝崎 保 : 視床下部下垂体. *日本臨床* 2011 ; 69 (増刊号 2) : 77-80.

(3) 解説 :

- 1) 丸 栄一 : キンドリング現象の発見をめぐって. *Epilepsy* 2010 ; 4 (2) : 68-69.

学会発表

(1) シンポジウム :

- 1) 根本崇宏, 芝崎 保 : ストレスと下垂体ホルモン分泌 (ストレスと臓器相関). *日本生理学会大会 (第 88 回) 日本解剖学会総会・全国学術集会 (第 116 回) 合同大会 (横浜)*, 2011. 3.

(2) 一般講演 :

- 1) Nemoto T, Shibasaki T : Analysis of GHRH-GH-IGF-1 Axis in Intrauterine Growth Retardation Rats. *Annual Meeting & Expo of the endocrine society (ENDO2010) (San Diego, CA, USA)*, 2010. 6.
- 2) 洲鎌秀永 : ストレス応答性におけるアストロサイトとミクログリア相違性の検討. *日本生理学会大会 (第 87 回) (岩手県盛岡市)*, 2010. 5.
- 3) 洲鎌秀永 : 冷却ストレスの脳内免疫に及ぼす影響の検討. *日本生理学会 (第 88 回) 日本解剖学会総会・全国学術集会 (116 回) 合同大会 (横浜)*, 2011. 3.
- 4) 原田嘉夫 : テオフィリンによる幼弱脊髄神経細胞の同期した周期性興奮に対する抑制. *日本生理学会大会 (第 87 回) (岩手県盛岡市)*, 2010. 5.
- 5) 根本崇宏, 芝崎 保 : 妊娠中のカロリー制限によって生じる低出生体重仔でみられた成長ホルモン受容体発現低下の遺伝性の検討. *日本神経内分泌学会学術集会 (第 37 回) (京都)*, 2010. 10.
- 6) 眞野あすか, 岩崎あずさ, 根本崇宏, 芝崎 保 : 加齢に伴う体脂肪蓄積機序におけるグレリンの役割について. *日本神経内分泌学会学術集会 (第 37 回) (京都)*, 2010. 10.
- 7) 根本崇宏, 芝崎 保 : 成長ホルモン受容体発現調節へのマイクロ RNA の関与の解明. *日本分子生物学会年会 (第 33 回) 日本生化学会大会 (第 83 回) 合同大会 (神戸)*, 2010. 12.

5. 生化学・分子生物学講座（代謝・栄養学）

研究概要

今年度の主な展開は以下のとおりである。

1. 石灰化に関する研究 組織非特異型アルカリフォスファターゼ (TNAP) の役割を検討している。とくに、厚生労働省科学研究費（難治性疾患克服研究事業）「低フォスファターゼ症の個別最適治療に向けた基礎的・臨床的検討」において低フォスファターゼ症 (HPP) の解析を行っている。1) HPP の特定の変異 TNAP を培養細胞にて発現させ、石灰化能を解析している。2) 日本人患者に高頻度に見出される変異のアレル頻度を検討した。3) モデルマウスを用いた HPP の治療実験により、正常発育を確認した。

2. スーパーオキシドの産生と分解に関する酵素の研究。1) キサンチン脱水素酵素の反応中間体の結晶構造を決定することで、国際的論争があったモリブデン水酸化酵素の基質活性化機構、反応機構を明らかにした。抗痛風薬として臨床試験中の化合物 FYX-051 の阻害機構の詳細を明らかにした。2) 生体内で恒常的に活性酸素を産生するキサンチン酸化酵素/脱水素酵素変異体ノックインマウスを作製し、活性酸素の影響の評価に有効であった。3) 極微弱近赤外光検出装置を用いてペルオキシダーゼ反応により産生される 1 重項酸素（励起状態の酸素分子）の検出・定量を進めた。4) 共同研究により、モデルマウスを用いて筋萎縮性側索硬化症に対する新規治療薬の評価を進めた。

3. 好熱菌等の鉄硫黄酵素の研究 構造機能進化に関する研究を進めた。国際共同研究事業「日米化学研究協力事業 (ICC プログラム)」に採択されたため、イリノイ大学等の国内外研究機関と連携し、好熱菌モデル酵素の金属クラスター電子構造に強く影響する周辺骨格領域の定量的解析・理解を目指している。

4. プロテオーム、メタボローム解析 女性診療科などとの共同研究により、培養細胞・腫瘍組織・真菌分泌蛋白質の発現蛋白質の比較解析を行っている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Okamoto K, Kawaguchi Y, Eger TB²⁾, Pai FE²⁾, Nishino T ^{(1) University of Toronto} : Crystal Structures of Urate Bound Form of Xanthine Oxidoreductase : Substrate Orientation and Structure of the Key Reaction Intermediate. J Am Chem Soc 2010.
- 2) Hiraoka M¹⁾, Takahashi H¹⁾, Orimo H, Hiraoka M²⁾, Ogata T³⁾, Azuma N⁴⁾ ^{(1) Department of Ophthalmology, 2) Koganei Eye Clinic, 3) Endocrinology and Metabolism, National Research Institute for Child Health and Development, 4) Department of Ophthalmology, National Center for Child Health and Development} : Genetic screening of Wnt signaling factors in advanced retinopathy of prematurity. Mol Vis 2010 ; 16 : 2572-2577.
- 3) Kounosu A, Hasegawa K¹⁾, Iwasaki T, Kumasaka T¹⁾ ^{(1) SPring-8/JASRI} : Crystallization and preliminary X-ray diffraction studies of hyperthermophilic archaeal Rieske-type ferredoxin (ARF) from *Sulfolobus solfataricus* P1. Acta Crystallogr Sect F 2010 ; 66 : 842-845.
- 4) Yamamoto S^{1,2)}, Orimo H, Matsumoto T¹⁾, Iijima O¹⁾, Narisawa S³⁾, Maeda T²⁾, Millan J³⁾, Shimada T¹⁾ ^{(1) Department of Biochemistry & Molecular Biology, 2) Department of Pediatric Dentistry, Nihon University Graduate School of Dentistry at Matsudo, 3) Sanford-Burnham Medical Research Institute} : Prolonged survival and phenotypic correction of *Akp2*^{-/-} hypophosphatasia mice by lentiviral gene therapy. J Bone Miner Res 2011 ; 26 (1) : 135-142.

- 5) Matsumoto K¹⁾, Okamoto K, Ashizawa N¹⁾, Nishino T (1) Fuji Yakuhin Co., Ltd.) : FYX-051 : a novel and potent hybrid-type inhibitor of xanthine oxidoreductase. J Pharmacol Exp Ther 2011 ; 336 (1) : 95-103.
- 6) Watanabe A^{1, 2)}, Karasugi T³⁾, Sawai H⁴⁾, Banyar T²⁾, Ikegawa S³⁾, Orimo H, Shimada T^{1, 2)} (1) Division of Clinical Genetics, 2) Department of Biochemistry and Molecular Biology, 3) Laboratory for Bone and Joint Diseases, Center for Genomic Medicine, RIKEN, 4) Department of Obstetrics and Gynecology, Hyogo College of Medicine) : Prevalence of c.1559delT in *ALPL*, a common mutation resulting in the perinatal (lethal) form of hypophosphatasia in Japanese and effects of the mutation on heterozygous carriers. J Human Genet 2011 ; 56 (2) : 166-168.
- 7) 石黒真希¹⁾, 堀 千明¹⁾, 片山 映, 五十嵐圭日子¹⁾, 高畠幸司²⁾, 金子 哲³⁾, 鮫島正浩¹⁾ (1) 東京大学大学院農学生命科学研究科, 2) 富山県農林水産総合技術センター森林研究所, 3) 農業・食品産業技術総合研究機構食品総合研究所食品バイオテクノロジー研究領域) : エノキタケのトランスクリプトーム配列情報を用いた全分泌タンパク質解析. 木材学会誌 2010 ; 56 (6) : 388-396.

(2) 総説 :

- 1) Iwasaki T : Iron-sulfur world in aerobic and hyperthermoacidophilic archaea *Sulfolobus*. Archaea 2010 ; 2010 (pii : 842639) : 14 pages.
- 2) 折茂英生 : 「話題」 エピジェネティクスと栄養. 日医大医学会誌 2010 ; 6 (4) : 193-193.
- 3) 岡本 研 : 新世代の尿酸生成抑制剤フェブキソスタット : XO 阻害機構をアロプリノールと対比する. 薬理と治療 2010 ; 38 (11) : 955-962.

著 書

- 1) 岡本 研 : [翻訳] 第3章～第5章. イラストレイテッド ハーパー生化学 28版 (上代淑人, 清水孝雄 監訳), 2011 ; pp17-49, 丸善株式会社.

学会発表

(1) 招待講演 :

- 1) Okamoto K, Kawaguchi Y, Kusano T, Matsumura T, Nishino T : Reaction mechanism and substrate binding mode of xanthine oxidoreductase. 14th International Symposium on Purine and Pyrimidine Metabolism in Man (Tokyo), 2011. 2.

(2) セミナー :

- 1) 岩崎俊雄 : 補欠分子族と生命初期進化 : 有機物と無機物のインターフェース. 構造生物学セミナー (第9回) (津田沼 (千葉工業大学)), 2010. 10.

(3) ワークショップ :

- 1) 岩崎俊雄 : 補欠分子族と生命初期進化 : 有機物と無機物のインターフェース (セッション 2W21-8). 第83回日本生化学会大会・第33回日本分子生物学会年会合同大会 (神戸), 2010. 12.

(4) 一般講演 :

- 1) Kuwabara Y¹⁾, Katayama A, Kaneko R¹⁾, Tomiyama R¹⁾, Ichikawa T¹⁾, Abe T¹⁾, Mine K¹⁾, Nishi Y¹⁾, Akira S¹⁾, Takeshita T¹⁾ (1) 女性診療科) : Analyses of CCL11 (Eotaxin-1)/CCR3 axis in the mouse ovary during theperiovulatory stages. American Society for Reproductive Immunology (30th) (米国), 2010. 5.
- 2) Ishikawa T¹⁾, Ishibashi O¹⁾, Katayama A, Takizawa T¹⁾ (1) Department of Molecular Medicine and Anatomy) : The ability of Fc gamma receptor IIb-containing vesicles to internalize IgG in placental endothelial cells and identification of their associated proteins. Annual Meeting of Japan Society for Immunology of ReproductionInternational Symposium for Immunology of Reproduction joint meeting (25th), 2010. 8.

- 3) 菊池浩人¹⁾, 藤崎弘士¹⁾, 古田忠臣²⁾, 岡本 研, Leimkuhler S³⁾, 西野武士 (¹⁾ 日本医科大学 物理学, ²⁾ 理研, ³⁾ Univ. of Potsdam) : キサンチン酸化還元酵素における阻害剤の作用の研究 : 「鍵と鍵穴」のドグマを越えて. 日本物理学会第 66 回年次大会 (仙台), 2010. 11.
- 4) Kusano T, Okamoto K, Nishino T¹⁾, Kato M²⁾, Kato S³⁾ (¹⁾ Department of Biochemistry, University of California, Riverside, ²⁾ Division of Molecular Pathology, Department of Microbiology and Pathology, Faculty of Medicine, Tottori University, ³⁾ Division of Neuropathology, Department of Neurological Sciences, Faculty of Medicine, Tottori University) : Effect of xanthine oxidoreductase inhibitors on the ALS transgenic mouse model. International Symposium on Purine and Pyrimidine Metabolism in Man (14th) (東京), 2011. 2.
- 5) Hiraoka M¹⁾, Okamoto K, Orimo H, Abe A²⁾ (¹⁾ Department of Ophthalmology, ²⁾ Department of Nephrology, Medical Center, Michigan University) : N-linked glycosylation of human lysosomal phospholipase A2 is essential for the formation of catalytically active enzyme. 日本生化学会 (第 83 回)・日本分子生物学会 (第 33 回) 合同年会 (神戸), 2010. 12.
- 6) Kawaguchi Y, Nishino T, Matsumura T, Okamoto K, Nishino T : The role of Asp428 on the reactivity of FAD in rat xanthine dehydrogenase. 14th International Symposium on Purine and Pyrimidine Metabolism inMan (Tokyo), 2011. 2.
- 7) 鴻巣麻子, 長谷川和也¹⁾, 熊坂 崇¹⁾, 大森大二郎²⁾, 漆山秋雄³⁾, 岩崎俊雄 (¹⁾ SPring-8/JASRI, ²⁾ 順天大・医, ³⁾ 立教大・化学) : 長い His タグ伸長鎖をつけて結晶化した超好熱菌古細菌 Rieske フェレドキシンの構造・変異酵素解析 (4P-0323). 第 83 回日本生化学会大会・第 33 回日本分子生物学会年会合同大会 (神戸), 2010. 12.
- 8) 篠塚晃一郎¹⁾, 大森大二郎²⁾, 岩崎俊雄, 田村浩二¹⁾ (¹⁾ 理科大・基礎工, ²⁾ 順天大・医) : *Nanoarchaeum equitans* 由来フェレドキシンの構造と進化 (1P-1167). 第 83 回日本生化学会大会・第 33 回日本分子生物学会年会合同大会 (神戸), 2010. 12.
- 9) 川口裕子, 西野朋子, 松村智裕, 岡本 研, 西野武士 : ラットキサンチン脱水素酵素における機能的 CH●●●O 水素結合の役割. 日本生化学会大会 (83) (神戸), 2010. 12.
- 10) 草野輝男, 松村智裕, 西野朋子, 西野武士¹⁾ (¹⁾ Department of Biochemistry, University of California, Riverside) : スーパーオキシド超産生型キサンチンオキシダーゼ変異体ノックインマウスの作製. 日本生化学会大会 (第 83 回) (神戸), 2010. 12.
- 11) 岡本 研, 川口裕子, 草野輝男, 松村智裕, 松本浩二, 西野武士 : Structure of xanthine oxidoreductase in action : Reaction intermediate structure of milk xanthine oxidoreductase and natural substrate xanthine. ウシキサンチン酸化還元酵素と天然基質キサンチンとの反応中間体結晶構造. 日本生化学会 (神戸), 2010. 12.
- 12) 石川朋子¹⁾, 石橋 宰¹⁾, 片山 映, 後藤 忠¹⁾, 瀧澤俊広¹⁾ (¹⁾ 解剖学講座 (分子解剖学)) : IIb 型 Fc 受容体 (FcRIIb) : 小胞はヒト胎盤関門における母体由来の IgG 輸送に必須である. 日本解剖学会 (第 116 回), 2011. 3.

6. 生化学・分子生物学講座（分子遺伝学）

研究概要

分子遺伝学部門では遺伝子治療の基盤技術の開発を中心に、遺伝子解析、細胞治療、遺伝子診療も含めた、ゲノム医学に包括的に取り組んでいる。遺伝子治療グループでは治療法のない重篤な遺伝病である、異染性白質ジストロフィー（MLD）と低フォスファターゼ症（HPP）の治療実験を進めている。今年度はHPPのモデルであるTNALP（組織非特異型アルカリフォスファターゼ）ノックアウトマウス（HPPマウス）に対する遺伝子治療実験で大きな進歩があった。未治療のHPPマウスは、成長障害、骨化遅延、痙攣を繰り返し約2週間で死亡するが、骨親和性TNALPを発現するレンチウイルスベクターを出生直後に投与することで、血中のALP活性は高値を維持し、痙攣の完全な抑制と著明な寿命の延長が確認された。これは重篤な遺伝病であるHPPの遺伝子治療に初めて成功したもので、今後の臨床応用への展開が期待される。ハイテクリサーチプロジェクトで設置されたゲノム解析室が中心になって、新しい遺伝子解析技術の開発や、幅広い医学分野の遺伝子解析を行っている。遺伝病に関しては遺伝診療科と協力して、日本全国から収集されたライソゾーム病、血管型エーラスダンロス症候群、低ファスファターゼ症などの遺伝子検査を行い、国内での変異頻度や表現型との相関について多くの新しい知見を公表した。さらに、ゲノム先端医療部、臨床各科と協力してオーダーメイド薬剤治療のための遺伝子検査を開始している。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Igarashi T¹⁾, Miyake K, Masuda I²⁾, Takahashi H, Shimada T¹⁾ (1) Department of Ophthalmology, (2) Department of Ophthalmology, Okayama University, Okayama, Japan) : Adeno-associated vector (type 8) -mediated expression of soluble Flt-1 efficiently inhibits neovascularization in a murine choroidal neovascularization model. *Hum Gene Ther* 2010 ; 21 (5) : 631-637.
- 2) Kinoshita H, Watanabe A, Hisayasu S, Suzuki S, Shimada T : Targeted gene delivery to selected liver segments via isolated hepatic perfusion. *J Surg Res* 2010 ; 160 (1) : 47-51.
- 3) Miyake N, Miyake K, Karlsson S¹⁾, Shimada T (1) Molecular Medicine and Gene Therapy, Lund University, Lund, Sweden) : Successful treatment of metachromatic leukodystrophy using bone marrow transplantation of HoxB4 overexpressing cells. *Mol Ther* 2010 ; 18 (7) : 1373-1378.
- 4) Fujita A¹⁾, Migita M¹⁾, Ueda T¹⁾, Ogawa R²⁾, Fukunaga Y¹⁾, Shimada T (1) 小児科学, (2) 形成外科学) : Hematopoiesis in regenerated bone marrow within hydroxyapatite scaffold. *Pediatr Res* 2010 ; 68 (1) : 35-40.
- 5) Yasuniwa Y^{1, 2)}, Izumi H¹⁾, Wang K³⁾, Shimajiri S³⁾, Sasaguri Y³⁾, Kawai K⁴⁾, Kasai H⁴⁾, Shimada T, Miyake K, Kashiwagi E¹⁾, Hirano G¹⁾, Kidani A¹⁾, Akiyama M¹⁾, Han B^{1, 5)}, Wu Y^{1, 6)}, et al. (1) Department of Molecular Biology, School of Medicine, University of Occupational and Environmental Health, Kitakyushu, Japan, (2) Department of Clinical Pharmacokinetics, Graduate School of Pharmaceutical Sciences, Kyushu University, Fukuoka, Japan, (3) Department of Pathology and Cell Biology, School of Medicine, University of Occupational and Environmental Health, Kitakyushu, Japan, (4) Department of Environmental Oncology, Institute of Industrial Ecological Science, University of Occupational and Environmental Health, Kitakyushu, JPN, (5) Department of Urology, Shengjing Hospital, China Medical University, Shenyang, China, (6) Department of Oncology, First Affiliated Hospital, China Medical University, Shenyang, China) : Circadian

- disruption accelerates tumor growth and angio/stromagenesis through a Wnt signaling pathway. *PLoS One* 2010 ; 5 (12) : e15330.
- 6) Yamamoto S, Orimo H, Matsumoto T, Iijima O, Narisawa S¹, Maeda T², Millan LJ¹, Shimada T (¹ Sanford-Burnham Medical Research Institute, ² Department of Pediatric Dentistry, Nihon University Graduate School of Dentistry at Matsudo) : Prolonged survival and phenotypic correction of Akp2 (-/-) hypophosphatasia mice by lentiviral gene therapy. *J Bone Miner Res* 2011 ; 26 (1) : 135-142.
 - 7) Kubodera T¹, Yamada H¹, Anzai M², Ohira S¹, Yokota S¹, Hirai Y³, Mochizuki H⁴, Shimada T³, Mitani T², Mizusawa H¹, Yokota T¹ (¹ Department of Neurology and Neurological Science, Tokyo Medical and Dental University, ² Institute of Advanced Technology, Kinki University, ³ Department of Biochemistry and Molecular Biology, Nippon Medical School, ⁴ Department of Neurology, School of Medicine, Kitasato University) : In Vivo Application of an RNAi Strategy for the Selective Suppression of a Mutant Allele. *HUMAN GENE THERAPY* 2011 ; 22 (01) : 27-34.
 - 8) Mayra A¹, Tomimitsu H¹, Kobayashi M¹, Piao W¹, Sunaga F¹, Hirai Y², Shimada T², Mizusawa H¹, Yokota T¹ (¹ Department of Neurology and Neurological Science, Graduate School, Tokyo Medical and Dental University, ² Department of Biochemistry and Molecular Biology, Nippon Medical School) : Intraperitoneal AAV9-shRNA inhibits target expression in neonatal skeletal and cardiac muscles. *Biochemical and Biophysical Research Communications* 2011 ; 405 (2) : 204-209.
 - 9) Watanabe A, Karasugi T², Sawai H³, Naing B, Ikegawa S², Orimo H⁴, Shimada T (¹ 理化学研究所ゲノム医科学研究センター骨関節疾患研究チーム, ² 兵庫医科大学産婦人科教室, ³ 生化学・分子生物学 (構造学・栄養学)) : Prevalence of c.1559delT in ALPL, a common mutation resulting in the perinatal (lethal) form of hypophosphatasia in Japanese and effects of the mutation on heterozygous carriers. *J Hum Genet* 2011 ; 56 (2) : 166-168.
 - 10) Naing B, Watanabe A, Shimada T : A novel mutation screening system for Ehlers-Danlos Syndrome, vascular type by high-resolution melting curve analysis in combination with small amplicon genotyping using genomic DNA. *Biochem Biophys Res Commun* 2011 ; 405 (3) : 368-372.
 - 11) Kato S¹, Kobayashi K², Inoue K³, Kuramochi M⁴, Okada T⁵, Yaginuma H⁶, Morimoto K⁷, Shimada T, Takada M⁸, Kobayashi K⁹ (¹ Department of Molecular Genetics, Institute of Biomedical Sciences, Fukushima Medical University School of Medicine, Fukushima, Japan, ² Department of Molecular Genetics, Institute of Biomedical Sciences, Fukushima Medical University School of Medicine, Fukushima, Japan, ³ Systems Neuroscience Section, Primate Research Institute, Kyoto University, Inuyama 484-8506 Japan, ⁴ Department of Molecular Genetics, Institute of Biomedical Sciences, Fukushima Medical University School of Medicine, Fukushima, Japan, ⁵ Department of Anatomy, Fukushima Medical University School of Medicine, Fukushima 960-1295, Japan, ⁶ Department of Anatomy, Fukushima Medical University School of Medicine, Fukushima 960-1295, Japan, ⁷ Neurovirology Laboratory, Department of Virology I, National Institute of Infectious Diseases, Tokyo 162-8640, Japan, ⁸ Core Research for Evolutional Science and Technology, Japan Science and Technology Cooperation, Kawaguchi 332-0012, Japan, ⁹ Department of Molecular Genetics, Institute of Biomedical Sciences, Fukushima Medical University School of Medicine, Fukushima, Japan) : A lentiviral strategy for highly efficient retrograde gene transfer by pseudotyping with fusion envelope glycoprotein. *Hum Gene Ther* 2011 ; 22 (2) : 197-206.
 - 12) 古庄知己¹, 渡邊 淳, 森崎裕子², 福嶋義光¹, 簀持 淳³ (¹ 信州大学附属病院遺伝子診療部, ² 国立循環器病研究センター研究所分子生物学部, ³ 獨協医科大学皮膚科学) : 難治性疾患克服事業による血管型エーラスダンロス症候群の実態調査. *日本遺伝カウンセリング学会誌* 2010 ; 31 (3) : 157-161.

(2) 総説：

- 1) Takizawa T¹, Gemma A², Ui-Tei K³, Aizawa Y⁴, Sadovsky Y⁵, Robinson J⁶, Seike M², Miyake K (1) Division of Molecular Medicine and Anatomy, (2) Division of Pulmonary Medicine, Infection Diseases and Oncology, (3) Department of Biophysics and Biochemistry, Graduate School of Science, University of Tokyo, (4) Center for Biological Resources and Informatics, Tokyo Institute of Technology, (5) Magee-Womens Research Institute, University of Pittsburgh, (6) Department of Physiology and Cell Biology, Ohio State University) : Basic and clinical studies on functional RNA molecules for advanced medical technologies. J Nippon Med Sch 2010 ; 77 (2) : 71-79.
- 2) 渡邊 淳, 島田 隆 : 遺伝医学教育の現状と課題 遺伝子診療学 : 遺伝子診断の進歩とゲノム治療の展望. 日本臨床 2010 ; 68 (Suppl8) : 335-339.

(3) 症例報告：

- 1) Kimura K¹, Sakai-Kimura M¹, Takahashi R¹, Watanabe A, Mukai M¹, Noma S¹, Fukuda K¹ (1) Department of Regenerative Medicine and Advanced Cardiac Therapeutics, Keio University School of Medicine, Tokyo) : Too friable to treat?. Lancet 2010 ; 375 (9725) : 1578-1578.

学会発表

(1) 教育講演：

- 1) 渡邊 淳 : PGx 検査への遺伝子医療部門の関わり : 全国遺伝子医療部門調査結果をふまえて. 第8回 (2010年) 全国遺伝子医療部門連絡会議 (さいたま市), 2010. 10.

(2) パネルディスカッション：

- 1) 三宅弘一 : Application of AAV vectors for translational research. 日本遺伝子治療学会 (第16回) (宇都宮), 2010. 7.

(3) ワークショップ：

- 1) 渡邊 淳 : 遺伝医学実習 : 検査や研究の基本操作である PCR を経験しよう. 第55回日本人類遺伝学会学術集会 (さいたま市), 2010. 10.

(4) 一般講演：

- 1) Wang N, Bai F, Miyake K, Miyake N, Shimada T : Muscle directed systemic cancer gene therapy for lymphoma using type 8 AAV vector expressing mda-7/IL24. Annual Meeting of the American Society of Gene & Cell Therapy (13th) (Washington, DC), 2010. 5.
- 2) Miyake N, Miyake K, Asakawa N, Yamamoto M, Shimada T : Long term correction of biochemical and neurological abnormalities of MLD model mice by systemic neonatal injection of serotype 9. Annual Meeting of the American Society of Gene & Cell Therapy (13th) (Washington, DC), 2010. 5.
- 3) Matsumoto T, Yamamoto S, Orimo H, Miyake K, Miyake N, Narisawa S¹, Millán LJ¹, Fukunaga Y², Shimada T (1) Sanford Children's Health Research Center, Burnham Institute for Medical Research, (2) Department of Pediatrics, Nippon Medical School) : AAV Vector Mediated Enzyme Replacement Therapy of Hypophosphatasia (HPP) Model Mice. Annual Meeting of the American Society of Gene & Cell Therapy (13th) (Washington, DC), 2010. 5.
- 4) Miyake N, Miyake K, Asakawa N, Okabe M, Yamamoto M, Shimada T : Global gene transfer in the CNS and phenotypic correction of MLD model mice by systemic neonatal injection of serotype 9 AAV vector. European Human Genetics Conference 2010 (Gothenburg, Sweden), 2010. 6.
- 5) Sugano H, Miyake N, Endo A, Miyake K, Shimada T : Systemic injection of AAV type 9 in utero facilitates global gene expression in the CNS. European Society of Gene and Cell Therapy Annual Congress(18th)

- (Milano, Italy), 2010. 10.
- 6) Naing B, Watanabe A, Hatamochi A¹, Morisaki H², Shimada T (¹ 獨協医科大学皮膚科学, ² 国立循環器研究センター研究所): Nonsense mutations of COL3A1 gene causing nonsense-mediated mRNA decay in two Japanese patients with Vascular type of Ehlers-Danlos Syndrome. 60th Annual meeting of American Society of Human Genetics (ワシントン DC (USA)), 2010. 11.
 - 7) Sugano H, Miyake N, Endo A, Miyake K, Shimada T : Systemic injection of AAV type 9 in utero facilitates global gene expression in the CNS. International workshop of lysosomal storage disease (Prague, Czech), 2010. 12.
 - 8) Wang N, Bai F, Miyake K, Miyake N, Shimada T : A Single Intramuscular Injection of AAV-8 Vector Expressing MDA7/IL-24 Efficiently Suppresses Tumor Growth Mediated by Multiple Anti-Cancer Mechanisms In Lymphoma Model Mice. American Society of Hematology Annual Meeting (52th) (Orlando), 2010. 12.
 - 9) Tamai H, Miyake K, Takatori M¹, Miyake N, Yamaguchi H², Dan K², Shimada T, Inokuchi K² (¹ Research Center for Life Science, ² Department of Hematology): The Activated K-RAS Protein Accelerates Human Derived-MLL/AF4 Induced Leukemo-Lymphomogenicity In Transgenic Mice Model. American Society of Hematology Annual Meeting (52th) (Orlando), 2010. 12.
 - 10) Tamai H, Miyake K, Yamaguchi H¹, Okabe M¹, Dan K¹, Inokuchi K¹, Shimada T (¹ Department of Hematology): MLL/AF4 Positive Acute Lymphoblastic Leukemia Has Resistance to Tumor Necrosis Factor-Alpha Caused by up-Regulation of S100A6. American Society of Hematology Annual Meeting (52th) (Orlando), 2010. 12.
 - 11) Watanabe A, Naing B, Shimada T : A Novel Mutation Screening System for Vascular Type Ehlers-Danlos Syndrome (Veds, Eds Type IV) Using High Resolution Melting Curve Analysis (Hrmca). 9th Asia Pacific Conference on Human Genetics (Hong Kong), 2010. 12.
 - 12) Watanabe A, Hatakeyama M, Tsutsumi M¹, Muto K², Minami S³, Fukushima Y⁴, Shimada T (¹ SRL, ² 東京大学医科学研究所, ³ 老人病研究所, ⁴ 信州大学): Study report on Personalized Medicine (Tailor-made Medicine/Order-made Medicine) implementation status in Japan. 2011 ACMG Annual Clinical Genetics Meeting (バンクーバー (カナダ)), 2011. 3.
 - 13) 山崎吉之, 井上謙一¹, 遠藤あゆみ, 仁平友子², 安田 徹², 三宅弘一, 島田 隆, 水野義邦³, 望月秀樹², 高田昌彦¹ (¹ 京都大学霊長類研究所統合脳システム分野, ² 北里大学医学部神経内科, ³ 順天堂大学老人性疾患病態・治療研究センター): Parkin Protects Against Parkinsonian Insults Induced By Alpha-synuclein Overexpression in a Primate Model. 日本遺伝子治療学会 (第16回) (宇都宮), 2010. 7.
 - 14) 三宅紀子, 三宅弘一, 浅川なぎさ, 岡部真奈美, 山本基子, 島田 隆 : Widespread Transduction in the Cns and Phenotypic Correction of Mld Model Mice by Systemic Neonatal Injection of Serotype 9 Aav Vector. 日本遺伝子治療学会 (第16回) (宇都宮), 2010. 7.
 - 15) Wang N, Bai F, 三宅紀子, 三宅弘一, 島田 隆 : Single Injection of AAV-8 Vector Expressing MDA-7/IL24 into Muscle Efficiently Suppress Tumor Growth in Lymphoma Model Mice. 日本遺伝子治療学会 (第16回) (宇都宮), 2010. 7.
 - 16) 玉井勇人¹, 三宅弘一, 鷹取美雪², 三宅紀子, 山口弘樹¹, 檀 和夫¹, 島田 隆, 猪口孝一¹ (¹ 血液内科学, ² 生命科学センター): Establishment of Aggressive MLL/AF4 Induced Lymphoma Model Mice Through UP-Regulation of HOXA9 and S100A6 Expression. 日本遺伝子治療学会 (第16回) (宇都宮), 2010. 7.
 - 17) 玉井勇人, 三宅弘一, 山口博樹¹, 岡部雅弘¹, 檀 和夫¹, 猪口孝一¹, 島田 隆 (¹ 血液内科学): Gene Therapy of Acute Lymphoblastic Leukemia with MLL/AF4 Using AAV8-IL24. 日本血液学会総会 (第72回)

(横浜), 2010. 9.

- 18) 玉井勇人, 三宅弘一, 鷹取美雪¹⁾, 三宅紀子, 山口博樹²⁾, 檀 和夫²⁾, 島田 隆, 猪口孝一²⁾ (¹⁾ 生命科学センター, ²⁾ 血液内科学): Establishment and Characterization of A New Lymphoid Malignancy Mouse Model Induced by the combination of MLL/AF4 and K-RAS. 日本血液学会総会 (第72回) (横浜), 2010. 9.
- 19) 三宅弘一, Wang N, 三宅紀子, 猪口孝一¹⁾, 島田 隆 (¹⁾ 血液内科学): Development of adeno-associated viral (AAV) vector mediated muscle directed systemic anti-angiogenic cancer gene therapy. 日本癌学会学術総会 (第69回) (大阪), 2010. 9.
- 20) 安庭義浩¹⁾, 和泉弘人¹⁾, 笹栗靖之²⁾, 河井一明³⁾, 葛西 宏³⁾, 島田 隆, 三宅弘一, 柏木英志¹⁾, 秋山正樹¹⁾, 韓 斌¹⁾, ウ イン¹⁾, 河野公俊¹⁾ (¹⁾ 産業医科大学 分子生物学, ²⁾ 産業医科大学 第二病理学, ³⁾ 産業医科大学 職業性腫瘍学): Wnt10A is a novel tumor angio/stromagenic factor in relation with circadian rhythm. 日本癌学会学術総会 (第69回) (大阪), 2010. 9.
- 21) 渡邊 淳, 三澤未来¹⁾, 渡部麻衣子²⁾, 武藤香織²⁾, 南 史朗³⁾, 島田 隆 (¹⁾ お茶の水女子大学, ²⁾ 東京大学 医科学研究所, ³⁾ 老人病研究所): ファーマコゲノミクス支援に向けた情報提供・教育媒体の開発. 第42回日本医学教育学会大会 (東京), 2010. 7.
- 22) ナイン バ, 渡邊 淳, 島田 隆: 高解像度融解曲線分析法を用いた血管型 Ehlers-Danlos 症候群 (vEDS, EDS type IV) の新規遺伝子変異スクリーニングシステムの開発. 第42回日本結合組織学会学術大会 (秋田), 2010. 8.
- 23) Naing B, 渡邊 淳, 森崎裕子¹⁾, 菅野美紀²⁾, 船越美由紀²⁾, 籠持 淳²⁾, 島田 隆 (¹⁾ 国立循環器研究センター 研究所, ²⁾ 獨協医科大学皮膚科): COL3A1 遺伝子にナンセンス変異を同定した血管型 Ehlers-Danlos 症候群 2 症例. 日本人類遺伝学会 第54回大会 (さいたま市), 2010. 10.

7. 薬理学講座

研究概要

22年度は以下の成果を得た。

1) 活性化ミクログリアにおいて、痛覚調節に関わるヘモキニン-1の mRNA 発現が p38MAPK 及び NF- κ B を介して上昇することを見出した。神経障害性疼痛モデルラットにおいて、ノルアドレナリン作動性の下行性神経を含む青斑核へのサブスタンス P の投与が、脊髄後角における $\alpha 2$ 受容体を介して疼痛を緩和することを見出した。

2) 小脳皮質 GABA シナプスに発現するセクレチン受容体活性化に伴い GABA 放出確率を上昇させ、抑制性シナプス伝達増強が起こることが明らかとなった。

3) 選択的セロトニン再取り込み阻害薬 (SSRI) の慢性投与によって、成体マウスの活動が不安定化し、不安様行動が亢進することを明らかにした。これらの行動変化は海馬歯状回神経細胞の幼若化と関連した。統合失調症関連遺伝子 dysbindin-1 を欠損したマウスでは、ドパミン、セロトニンによる海馬シナプス伝達の修飾が亢進していることを明らかにした。

4) 妊娠期のデキサメタゾン投与によって、生まれた仔は発達期にセロトニン 5-HT_{1A} 受容体 mRNA と脳由来神経栄養因子の減少が先行し、不安様行動が成長後に出現することを見出した。この仔を生後 3 週間 SSRI で処置すると、これら分子変化および行動異常が回復した。

5) p21 の細胞質局在に関わる Brap2 のノックアウトマウスを作製したところ、胎生致死であった。ヘテロマウスは表現型は正常にみえたが、生化学的にはある情報伝達系の活性化がみられることを見出した。

6) ヒトを対象にした脳機能画像研究において、NK₁ 拮抗薬アプレピタントは、報酬予測に関わる腹側線条体の脳活動および方向性注意に関わる頭頂葉の脳活動を低下させ、一方、興奮薬マジンドールは、方向性注意に関わる頭頂葉の脳活動上昇および葛藤注意に関わる前部帯状回の脳活動低下を引き起こすことを見いだした。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Ikeda Y, Yahata N¹⁾, Takahashi H²⁾, Koeda M³⁾, Asai K⁴⁾, Okubo Y³⁾, Suzuki H (1) University of Tokyo, 2) National Institute of Radiological Sciences, 3) Department of Neuropsychiatry, Nippon Medical School, 4) Asai Hospital) : Cerebral activation associated with speech sound discrimination during the dicto listening task : An fMRI study. *Neurosci Res* 2010 ; 67 (1) : 65-71.
- 2) Kobayashi K, Ikeda Y, Sakai A, Yamasaki N^{1, 2)}, Haneda E, Miyakawa T^{1, 3)}, Suzuki H (1) Japan Science and Technology Agency, CREST, 2) Kyoto University Graduate School of Medicine, 3) Fujita Health University) : Reversal of hippocampal neuronal maturation by serotonergic antidepressants. *Proc Natl Acad Sci USA* 2010 ; 107 (18) : 8434-8439.
- 3) Shimoda T¹⁾, Liang Z¹⁾, Suzuki H, Kawana S¹⁾ (1) Department of Dermatology, Nippon Medical School) : Inhibitory effects of antipsychotic and anxiolytic agents on stress-induced degranulation of mouse dermal mast cells. *Clin Exp Dermatol* 2010 ; 35 : 531-536.
- 4) Murano M, Saitow F, Suzuki H : Modulatory effects of serotonin on glutamatergic synaptic transmission and long-term depression in the deep cerebellar nuclei. *Neuroscience* 2011 ; 172 : 118-128.
- 5) Toda S¹⁾, Sakai A, Ikeda Y, Sakamoto A¹⁾, Suzuki H (1) Department of Anesthesiology, Nippon Medical School) : A local anesthetic, ropivacaine, suppresses activated microglia via a nerve growth factor-dependent

mechanism and astrocytes via a nerve growth factor-independent mechanism in neuropathic pain. *Mol Pain* 2011 ; 7 : 2.

- 6) Kobayashi K, Ikeda Y, Suzuki H : Behavioral destabilization induced by the selective serotonin reuptake inhibitor fluoxetine. *Mol Brain* 2011 ; 4 : 12.
- 7) Kobayashi K, Umeda-Yano S¹⁾, Yamamori H¹⁾, Takeda M¹⁾, Suzuki H, Hashimoto R¹⁾ (¹⁾ Osaka University Graduate School of Medicine) : Correlated Alterations in Serotonergic and Dopaminergic Modulations at the Hippocampal Mossy Fiber Synapse in Mice Lacking Dysbindin. *PLoS ONE* 2011 ; 6 (3) : e18113.

(2) 総説 :

- 1) Kobayashi K : Hippocampal mossy fiber synaptic transmission and its modulation. *Vitamins and Hormones* 2010 ; 82 : 65-85.
- 2) 鈴木秀典, 小林克典 : 薬物治療研究と遺伝子改変動物. *アニテックス* 2010 ; 22 (5) : 5-9.

著 書

- 1) Kobayashi K : [分担] Presynaptic modulation at the mossy fiber synapse. *Hippocampus : Anatomy, Functions and Neurobiology* (Columbus, F), 2010 ; pp57-82, Nova Science Publishers.

学会発表

(1) 招待講演 :

- 1) 小林克典 : 海馬シナプスから精神疾患へ. 第19回海馬と高次脳機能学会 (石川県金沢市), 2010. 11.

(2) シンポジウム :

- 1) Suzuki H : The Prohibited List ; Japanese perspective. *Asia Anti-Doping Science Seminar (2011 Prohibited List)* (Tokyo), 2011. 1.
- 2) Suzuki H : MEXT research project. *Asia Anti-Doping Science Seminar (2011 Prohibited List)* (Tokyo), 2011. 1.
- 3) 鈴木秀典 : アスリートと禁止物質. 第21回日本臨床スポーツ医学会学術集会 (茨城県つくば市), 2010. 11.
- 4) 鈴木秀典 : 抗うつ薬の新しい作用機構. 第4回日本医大-早稲田大合同シンポジウム「イメージングによる脳機能解明と臨床応用」(東京), 2011. 1.
- 5) 鈴木秀典 : ドーピング防止活動の進歩 : 2011年禁止表のとらえ方. 第2回スポーツメディスンフォーラム (横浜), 2011. 2.

(3) ワークショップ :

- 1) Ohtsuki T¹⁾, Kishikawa Y¹⁾, Ueki M¹⁾, Suzuki H (¹⁾ Japan Chemical Analysis Center) : Rapid and robust identification of EPO and biosimilars by glycoproteomic approach. Manfred Donike Workshop, 29th Cologne Workshop on Dope Analysis (Köln (Germany)), 2011. 2.

(4) 一般講演 :

- 1) Nagano M, Liu M, Ozawa H¹⁾, Suzuki H (¹⁾ Department of Anatomy and Neurobiology) : Effects of early intervention with fluoxetine on anxiety-related behaviors induced in prenatally glucocorticoid exposed rats. 16th World Congress of Basic and Clinical Pharmacology (WorldPharma 2010) (Copenhagen, Denmark), 2010. 7.
- 2) Kobayashi K : Serotonergic antidepressants reverse neuronal maturation in adult hippocampus. BIT's 8th Annual Congress of International Drug Discovery Sciences and Technology (Beijing, China), 2010. 10.
- 3) 齋藤文仁, 村野光和, 鈴木秀典 : 小脳核苔状線維シナプスのセロトニンを介したシナプス可塑性調節機構. 第87回日本生理学会大会 (岩手県盛岡市), 2010. 5.

- 4) 小林克典, 池田裕美子, 坂井 敦, 鈴木秀典: SSRI による神経脱成熟における 5-HT₄ 受容体の役割. 第 87 回日本生理学会大会 (岩手県盛岡市), 2010. 5.
- 5) 廣野守俊¹⁾, 齋藤文仁, 鈴木秀典, 柳川右千夫²⁾, 山田真久¹⁾, 小西史朗³⁾, 小幡邦彦¹⁾ (¹⁾ 理化学研究所, ²⁾ 群馬大学大学院, ³⁾ 徳島文理大学): 小脳プルキンエ細胞から強い抑制を受ける顆粒層小型抑制性介在ニューロンの解明. 第 87 回日本生理学会大会 (岩手県盛岡市), 2010. 5.
- 6) 戸田 繁¹⁾, 坂井 敦, 池田裕美子, 佐藤千代¹⁾, 鈴木秀典, 坂本篤裕¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学麻醉科学): ロピバカインは NGF の発現上昇を介して神経因性疼痛を緩和する. 日本麻醉科学会第 57 回学術集会 (福岡), 2010. 6.
- 7) 間瀬大司¹⁾, 坂井 敦, 鈴木秀典, 坂本篤裕¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学麻醉科学): Rostral ventromedial medulla へのカイニン酸投与は神経障害性疼痛における熱性疼痛過敏を減弱させる. 日本麻醉科学会第 57 回学術集会 (福岡), 2010. 6.
- 8) 植木真琴¹⁾, 大槻孝之¹⁾, 鈴木秀典, 青木公子²⁾ (¹⁾ 日本分析センター, ²⁾ 日本薬科大学): 飛行時間型 MS によるエリスロポエチン (EPO) の網羅的解析. 日本法中毒学会第 29 年会 (東京), 2010. 7.
- 9) 小林克典, 高村明孝¹⁾, 武田雅俊¹⁾, 鈴木秀典, 橋本亮太¹⁾ (¹⁾ 大阪大学大学院): 統合失調症脆弱性遺伝子 dysbindin 欠損マウスにおけるセロトニン, ドパミンによるシナプス修飾の変化. Neuro2010 第 33 回日本神経科学大会 第 53 回日本神経化学学会大会 第 20 回日本神経回路学会大会合同大会 (兵庫県神戸市), 2010. 9.
- 10) 坂井 敦, 戸田 繁¹⁾, 池田裕美子, 坂本篤裕¹⁾, 鈴木秀典 (¹⁾ 日本医科大学麻醉科学): 局所麻醉薬ロピバカインは神経障害性疼痛における活性化脊髄グリア細胞を抑制する. Neuro2010 第 33 回日本神経科学大会 第 53 回日本神経化学学会大会 第 20 回日本神経回路学会大会合同大会 (兵庫県神戸市), 2010. 9.
- 11) 羽田栄輔, 小林克典, 樋口真人¹⁾, 須原哲也¹⁾, 鈴木秀典 (¹⁾ 放射線医学総合研究所): セロトニン作動性抗うつ薬はマウス海馬におけるセロトニンおよびドーパミン受容体の発現量を変化させる. Neuro2010 第 33 回日本神経科学大会 第 53 回日本神経化学学会大会 第 20 回日本神経回路学会大会合同大会 (兵庫県神戸市), 2010. 9.
- 12) 長濱健一郎¹⁾, 三ヶ原靖規, 小林克典, 鈴木秀典 (¹⁾ 日本医科大学 4 年生): セロトニン 5-HT₄ 受容体欠損マウスの行動解析. 第 78 回日本医科大学医学会総会 (東京), 2010. 9.
- 13) 尾之内高慶¹⁾, 酒井一由¹⁾, 小林克典, 千田隆夫¹⁾ (¹⁾ 藤田保健衛生大学): 空間記憶障害が認められる APC1638T マウスの海馬 CA1 錐体細胞の構造と機能. 日本解剖学会第 70 回中部支部学術集会 (岐阜), 2010. 10.
- 14) 高須久望子, 坂井 敦, 埴 秀樹¹⁾, 島田 隆¹⁾, 鈴木秀典 (¹⁾ 日本医科大学生化学分子生物学): 非損傷 DRG における GDNF の過剰発現は神経障害性疼痛を緩和する. 第 123 回日本薬理学会関東部会 (栃木県下野市), 2010. 10.
- 15) 丸谷俊之^{1, 2)}, 八幡憲明³⁾, 池田裕美子, 伊藤岳人¹⁾, 山本愛実¹⁾, 松浦雅人²⁾, 大久保善朗⁴⁾, 松島英介²⁾, 鈴木秀典, 松田哲也¹⁾ (¹⁾ 玉川大学, ²⁾ 東京医科歯科大学, ³⁾ 東京大学大学院, ⁴⁾ 日本医科大学精神医学): パロキセチン単回投与の動機づけ関連脳活動への効果: fMRI 研究. 第 32 回日本生物学的精神医学会 (福岡県北九州市), 2010. 10.
- 16) 金 禹瑣¹⁾, 池田裕美子, 肥田道彦¹⁾, 高橋英彦²⁾, 館野 周¹⁾, 鈴木秀典, 大久保善朗¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学精神医学, ²⁾ 京都大学): Stroop 課題関連の脳活動に対する caffeine の効果: fMRI によるドーピング効果の検出. 第 32 回日本生物学的精神医学会 (福岡県北九州市), 2010. 10.
- 17) 肥田道彦¹⁾, 館野 周¹⁾, 小川耕平¹⁾, 新貝慈利¹⁾, 八幡憲明²⁾, 濱 智子³⁾, 高橋英彦⁴⁾, 松浦雅人³⁾, 鈴木秀典, 大久保善朗¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学精神医学, ²⁾ 東京大学, ³⁾ 東京医科歯科大学, ⁴⁾ 京都大学): 感情を含む音声認知時の脳活動に対するプラセボ・ロラゼパムの効果: fMRI 研究. 第 32 回日本生物学的精神医学会 (福岡県北九州市), 2010. 10.
- 18) 熊谷聖代¹⁾, 永野昌俊, 鈴木秀典, 川名誠司¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学皮膚科学): 孤立飼育が及ぼす皮膚神経: マスト細胞回路への影響. 第 60 回アレルギー学会秋季学術大会 (東京), 2010. 11.

- 19) 齋藤文仁：小脳核におけるセロトニン作動性シナプス修飾作用の役割. 生理学研究所研究会「シナプス伝達
の概念志向型研究」(愛知県岡崎市), 2010. 12.
- 20) 熊谷聖代¹⁾, 永野昌俊, 鈴木秀典, 川名誠司¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学皮膚科学)：ストレス記憶が及ぼす皮膚神経：
マスト細胞回路への影響. 第1回日本皮膚科心身医学会 (大阪), 2011. 1.
- 21) 永野昌俊, 劉 明妍, 永野玲子¹⁾, 鈴木秀典 (¹⁾ 都立墨東病院)：生後のフルオキセチン投与は妊娠期デキサメ
サゾン暴露により仔ラットに誘導される行動異常を改善する. 第84回日本薬理学会年会 (誌上開催), 2011. 3.
- 22) 坂井 敦, 四方友美¹⁾, 坂本篤裕¹⁾, 鈴木秀典 (¹⁾ 日本医科大学麻酔科学)：サブスタンス P の青斑核への投与
は神経障害性疼痛を抑制する. 第84回日本薬理学会年会 (誌上開催), 2011. 3.
- 23) 高須久望子, 坂井 敦, 池田玲奈¹⁾, 澤田 誠²⁾, 鈴木秀典 (¹⁾ 文京学院大学, ²⁾ 名古屋大学)：活性化マイク
ログリアにおけるタキキニン遺伝子 TAC4 の発現上昇. 第84回日本薬理学会年会 (誌上開催), 2011. 3.

8. 病理学講座（解析人体病理学）

研究概要

基礎的な研究としては肺、腎、移植、心、眼の病理を中心に行なわれた。肺では、小葉中心性肺気腫における肺胞構造改築、肺リンパ脈管筋腫症とプロラクチン、肺放射線障害の水素治療、エーラスダンロス症候群、抗 amonoacyl-tRNA synthetase 抗体陽性間質性肺炎、IV 型コラーゲン α 鎖と筋線維芽細胞など、腎では、スタチンおよびアンギオテンシンレセプター阻害剤による腎障害の抑制、腎糸球体硬化の血管病変、腎疾患のリンパ管新生、腎虚血後再灌流傷害の TIMP およびエリスポエチンによる抑制など、移植では、肝移植におけるリンパ管新生、移植と液性免疫、移植と微量一酸化炭素、異種皮膚移植の病理、腸移植におけるトレランスなど、心では肥満心筋症の電顕所見、眼では角膜アルカリ熱傷と脈管新生などが報告された。

診断病理学に関しては、特発性間質性肺炎の蜂巣肺、特発性間質性肺炎の鑑別診断、特発性肺線維症と慢性過敏性肺炎の鑑別、腎生検診断における免疫組織化学と電顕の有用性、半月体形成糸球体腎炎・巣状糸球体腎炎・IgA 腎症・膠原病腎病変・移植腎・急性腎傷害・ネフローゼ症候群の病理などが報告された。学会主導のガイドライン、手引、マニュアルとして出版された「ALI/ARDS」、「特発性間質性肺炎」、「薬剤性肺障害」の作成に参画した。学内外の臨床各科との共同研究による臨床病理学的研究、症例報告も行われた。気管支グロームス腫瘍、Birt-Hogg-Dube 症候群、幹細胞移植後 VGHD の腎病変、骨髓異形成症候群に伴う難治性肺炎、膠原病に伴う肺高血圧症、大腸癌に対する薬剤による肺障害、エルロチニブによる薬剤性肺障害、尋常性天疱瘡、慢性活動性 EB ウイルス感染症、びまん性肺胞傷害、サイクロスポリン腎症、膜性腎症などの報告が行われた。また、臨床各科との臨床病理検討会が行われ、報告としてまとめられた。

研究業績

論文

〔追加分〕

追加分症例報告：

- 1) 福岡長知¹⁾、兵働英也²⁾、功刀しのぶ、田村浩一³⁾、猪口孝一²⁾、安武正弘¹⁾、斉藤好信⁴⁾、上野 亮¹⁾、福田 悠、坂本静樹⁵⁾、清野靖彦¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院循環器内科、2) 日本医科大学付属病院血液内科、3) 日本医科大学付属病院病理部、東京通信病院病理科、4) 日本医科大学付属病院呼吸器内科、5) 日本医科大学付属病院神経内科)：Conference room 難治性肺炎を合併し死亡した骨髓異形成症候群の 1 例。内科 2010；105 (1)：127-138。
- 2) 中村恭子¹⁾、塩井由美子¹⁾、駒場祐一²⁾、内藤善哉³⁾、服部久弥子⁴⁾、壇 和夫¹⁾、川本雅司⁵⁾、功刀しのぶ、上田雅之²⁾、福岡長知⁶⁾、白杵二郎⁴⁾ (1) 日本医科大学付属病院血液内科、2) 日本医科大学付属病院神経内科、3) 日本医科大学統御機構病理、4) 日本医科大学付属病院呼吸器内科、5) 日本医科大学付属病院病理部、6) 日本医科大学付属病院循環器内科)：Conference room 急性骨髄性白血病、扁平上皮癌、脳梗塞を併発した慢性活動性 EB ウイルス感染症。内科 2010；106 (4)：713-724。

(1) 原著：

- 1) Koreeda Y¹⁾、Higashimoto I¹⁾、Yamamoto M¹⁾、Takahashi M、Kaji K²⁾、Fujimoto M²⁾、Kuwana M³⁾、Fukuda Y (1) Division of Respiratory Medicine, Respiratory and Stress Care Center, Kagoshima University Hospital, 2) Department of Dermatology, Graduate School of Medicine, Kanazawa University, 3) Division of Rheumatology, Department of Internal Medicine, Keio University School of Medicine)：Clinical and patho-

- logical findings of interstitial lung disease patients with anti-aminoacyl-tRNA synthetase autoantibodies. *Intern Med* 2010 ; 49 (5) : 361-369.
- 2) Aki K¹⁾, Shimizu A, Masuda Y, Kuwahara N, Arai T, Ishikawa A, Fujita E, Mii A, Natori Y²⁾, Fukunaga Y¹⁾, Fukuda Y (¹⁾ Department of Pediatrics, ²⁾ Department of Health Chemistry, School of Pharmacy, Iwate Medical University) : ANG II receptor blockade enhances anti-inflammatory macrophages in anti-glomerular basement membrane glomerulonephritis. *Am J Physiol Renal Physiol* 2010 ; 298 (4) : 870-82.
 - 3) Sekijima M¹⁾, Shimizu A, Ishii Y¹⁾, Kudo S¹⁾, Horita S¹⁾, Nakajima I¹⁾, Fuchinoue S¹⁾, Teraoka S¹⁾ (¹⁾ Department of Surgery, Kidney Center, Tokyo Women's Medical University) : Early humoral-mediated graft injuries in ABO-incompatible kidney transplantation in human beings. *Transplant Proc* 2010 ; 42 (3) : 789-790.
 - 4) Weiner J¹⁾, Yamada K¹⁾, Ishikawa Y¹⁾, Moran S¹⁾, Etter J¹⁾, Shimizu A, Smith R¹⁾, Sachs D¹⁾ (¹⁾ The Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital, Harvard Medical School, Boston, MA, USA) : Prolonged survival of GalT-KO swine skin on baboons. *Xenotransplantation* 2010 ; 17 (2) : 147-152.
 - 5) Ishikawa Y¹⁾, Hirakata A¹⁾, Griesemer A¹⁾, Etter J¹⁾, Moran S¹⁾, Weiner J¹⁾, Shimizu A, Yamada K^{1,2)} (¹⁾ Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital, Boston, MA, ²⁾ Organ Transplantation Tolerance and Xenotransplantation Lab, Transplantation Biology Res Center, Massachusetts General Hosp/Harvard Med Sch, Boston) : Tolerance and long-lasting peripheral chimerism after allogeneic intestinal transplantation in MGH miniature swine. *Transplantation* 2010 ; 89 (4) : 417-426.
 - 6) Yamamoto M, Kunugi S, Ishikawa A, Fukuda F : Consideration on the mechanisms of alveolar remodeling in centriacinar emphysema. *Virchows Arch* 2010 ; 456 (5) : 571-9.
 - 7) Kawabata Y¹⁾, Watanabe A²⁾, Yamaguchi S³⁾, Aoshima M⁴⁾, Shiraki A⁵⁾, Hatamochi A⁶⁾, Kawamura T⁷⁾, Uchiyama T⁸⁾, Watanabe A⁹⁾, Fukuda Y (¹⁾ Division of Pathology, Saitama Cardiovascular and Respiratory Centre, Saitama, ²⁾ Division of Control and Treatment of Infectious Diseases, Chiba University Hospital, Chiba, ³⁾ Department of Pulmonary Medicine, Saitama Cardiovascular and Respiratory Centre, ⁴⁾ Department of Pulmonary Medicine, Sekisinkai Sayama Hospital, Saitama, ⁵⁾ Department of Respiratory Medicine, Nagoya University Graduate School of Medicine, Nagoya, ⁶⁾ Department of Dermatology, Dokkyo Medical University, Tochigi, ⁷⁾ Department of Pulmonary Medicine, National Hospital Organization Himeji Medical Centre, Himeji, ⁸⁾ Department of Pulmonary Medicine, Double Red Cross Hospital, ⁹⁾ Division of Clinical Genetics, Nippon Medical School Hospital) : Pleuropulmonary pathology of vascular Ehlers–Danlos syndrome : spontaneous laceration, haematoma and fibrous nodules. *Histopathology* 2010 ; 56 (7) : 944-950.
 - 8) Akimoto T¹⁾, Terada M¹⁾, Shimizu A, Sawai N²⁾, Ozawa H²⁾ (¹⁾ Division of Laboratory Animal Science, ²⁾ Department of Anatomy and Neurobiology) : The influence of dietary restriction on the development of diabetes and pancreatitis in female WBN/Kob-fatty rats. *Exp Anim* 2010 ; 59 (5) : 623-630.
 - 9) Sahara H¹⁾, Shimizu A, Setoyama K¹⁾, Okumi M¹⁾, Oku M¹⁾, Samelson-Jones E¹⁾, Yamada K¹⁾ (¹⁾ Xenotransplantation Surgery Section, Frontier Science Research Center, Kagoshima University) : Carbon monoxide reduces pulmonary ischemia–reperfusion injury in miniature swine. *J Thorac Cardiovasc Surg* 2010 ; 89 (6) : 417-426.
 - 10) Terasaki Y, Yahiro K¹⁾, Pacheco-Rodrigue G²⁾, Steagall W²⁾, Stylianou M²⁾, Evans J³⁾, Walker A⁴⁾, Moss J²⁾ (¹⁾ Department of Molecular Infectiology, Graduate School of Medicine, Chiba University, ²⁾ Cardiovascular and Pulmonary Branch, National Heart, Lung, and Blood Institute, National Institutes of Health,

- ³⁾ Amira Pharmaceuticals, ⁴⁾ Division of Biomedical Sciences, University of California) : Effects of prolactin on TSC2-null Eker rat cells and in pulmonary lymphangioliomyomatosis. *Am J Respir Crit Care Med* 2010 ; 182 (4) : 531-9.
- 11) Saito T, Saito T¹⁾, Sugiyama S¹⁾, Asai K²⁾, Yasutake M²⁾ (¹⁾ ゲッドスリープクリニック, ²⁾ 付属病院内科) : Effects of long-term treatment for obstructive sleep apnea on pulse wave velocity. *Hypertens Res* 2010 ; 33 (8) : 844-849.
- 12) Fujita E¹⁾, Shimizu A, Masuda Y, Kuwahara N, Arai T, Nagasaka S, Aki K²⁾, Mii A¹⁾, Natori Y³⁾, Iino Y¹⁾, Katayama Y¹⁾, Fukuda Y (¹⁾ Division of Neurology, Nephrology and Rheumatology, Department of Internal Medicine, ²⁾ Department of Pediatrics, ³⁾ Department of Health Chemistry, School of Pharmacy, Iwate Medical University) : Statin attenuates experimental anti-glomerular basement membrane glomerulonephritis together with the augmentation of alternatively activated macrophages. *Am J Pathol* 2010 ; 177 (3) : 1143-54.
- 13) Masuda Y, Shimizu A, Kataoka M, Arai T, Ishikawa A, Du X, Sabine-Saito K¹⁾, Aki K²⁾, Nagasaka S, Mii A¹⁾, Fujita E¹⁾, Fukuda Y (¹⁾ Division of Neurology, Nephrology and Rheumatology, Department of Internal Medicine, ²⁾ Department of Pediatrics) : Inhibition of capillary repair in proliferative glomerulonephritis results in persistent glomerular inflammation with glomerular sclerosis. *Lab Invest* 2010 ; 90 (10) : 1468-81.
- 14) Kunugi S, Shimizu A, Kuwahara N, Du X, Takahashi M, Terasaki Y, Fujita E, Mii A, Nagasaka S, Akimoto T¹⁾, Masuda Y, Fukuda Y (¹⁾ 1) Division of Laboratory Animal Science) : Inhibition of matrix metalloproteinases reduces ischemia-reperfusion acute kidney injury. *Lab Invest* 2010 ; 91 (2) : 170-180.
- 15) Hirakata H¹⁾, Okumi M¹⁾, Griesemer A¹⁾, Shimizu A, Nobori S¹⁾, Tena A¹⁾, Moran S¹⁾, Arn S¹⁾, Boyd R²⁾, Sachs D¹⁾, Yamada K¹⁾ (¹⁾ Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital/Harvard Medical School, Boston, USA, ²⁾ Department of Immunology, Monash University, Central and Eastern Clinical School, Alfred Hospital, Melbourne, Australia) : Reversal of age-related thymic involution by an LHRH agonist in miniature swine. *Transpl Immunol* 2010 ; 24 (1) : 76-81.
- 16) Ishii Y¹⁾, Sawada T¹⁾, Murakami T¹⁾, Sakuraoka Y¹⁾, Shiraki T¹⁾, Shimizu A, Kubota K¹⁾, Fuchinoue S¹⁾, Teraoka S¹⁾ (¹⁾ Department of Surgery, Kidney Center, Tokyo Women's Medical University) : Renoprotective effect of erythropoietin against ischaemia-reperfusion injury in a non-human primate model. *Nephrol Dial Transplant* 2010 ; 26 (4) : 1157-1162.
- 17) Saito T, Miura D¹⁾, Taguchi M²⁾, Takeshita A²⁾, Miyakawa M²⁾, Takeuchi Y²⁾ (¹⁾ 虎の門病院内分泌外科, ²⁾ 虎の門病院内分泌代謝科) : Coincidence multiple endocrine neoplasm IIA with acromegaly. *Am J Med Sci* 2010 ; 340 (4) : 329-331.
- 18) Ishii E, Shimizu A, Kuwahara N, Arai T, Kataoka M, Wakamatsu K, Ishikawa A, Nagasaka S, Fukuda Y : Lymphangiogenesis associated with acute cellular rejection in rat liver transplantation. *Transplant Proc* 2010 ; 42 (10) : 4282-4285.
- 19) Sahara H¹⁾, Shimizu A, Setoyama K¹⁾, Okumi M¹⁾, Nishimura H¹⁾, Orihara W¹⁾, Tasaki M¹⁾, Scalea J¹⁾, Wada H²⁾, Bando T²⁾, Date H²⁾, Yamada K¹⁾ (¹⁾ Xenotransplantation Surgery Section, Frontier Science Research Center, Kagoshima University, ²⁾ Department of Thoracic Surgery, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Kyoto, ³⁾ Organ Replacement and Xenotransplant Surgery Section, Frontier Science Research Center, Kagoshima University) : Beneficial effects of perioperative low-dose inhaled carbon monoxide on pulmonary allograft survival in MHC-inbred CLAWN miniature swine. *Transplantation* 2010 ; 90 (12) : 1336-43.

- 20) Furukawa T¹⁾, Yahiro K¹⁾, Tsuji A³⁾, Terasaki Y, Morinaga N¹⁾, Miyazaki M²⁾, Fukuda Y, Saga T³⁾, Moss J⁴⁾, Noda M¹⁾ (1) Department of Molecular Infectiology, Graduate School of Medicine, Chiba University, 2) Department of General Surgery, Graduate School of Medicine, Chiba University, 3) Diagnostic Imaging Group, Molecular Imaging Center, National Institute of Radiological Sciences, 4) Cardiovascular and Pulmonary Branch, National Heart, Lung, and Blood Institute, National Institutes of Health) : Fatal hemorrhage induced by subtilase cytotoxin from Shiga-toxigenic Escherichia coli. *Microb Pathog* 2011 ; 50 (3-4) : 159-67.

(2) 総説 :

- 1) Shimizu A, Yamada K¹⁾ (1) Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital/Harvard Medical School, Boston, MA, USA) : Histopathology of xenografts in pig to non-human primate discordant xenotransplantation. *Clin Transplant* 2010 ; 24 (Suppl 22) : 11-15.
- 2) Shimizu A : The importance of kidney transplant pathology to evaluate graft condition and select optimal therapy has been widely acknowledged. Introduction. *Clin Transplant* 2010 ; 24 (Suppl 22) : 1-1.
- 3) Bashuda H¹⁾, Shimizu A, Uchiyama M¹⁾, Okumura K¹⁾ (1) Department of Immunology, Juntendo University) : Prolongation of renal allograft survival by anergic cells : advantages and limitations. *Clin Transplant* 2010 ; 24 (Suppl 22) : 6-10.
- 4) 三井亜希子¹⁾, 清水 章 (1) 付属病院腎臓内科) : AKIの病理組織. *Modern Physician* 2010 ; 31 (1) : 17-24.
- 5) 福田 悠 : 蜂巢肺. 臨時増刊号 病理形態学キーワード. 病理と臨床 (臨時増刊号) 深山正久, 梅村しのぶ, 大橋健一, 鐘鑄弥栄, 白石泰三, 中谷行雄編, 文光堂 2010 ; 28 : 24-25.
- 6) 清水 章, 藤田恵美子 : 半月体. 臨時増刊号 病理形態学キーワード. 病理と臨床 (臨時増刊号) 深山正久, 梅村しのぶ, 大橋健一, 鐘鑄弥栄, 白石泰三, 中谷行雄編, 文光堂 2010 ; 28 : 196-197.
- 7) 清水 章, 田口 尚¹⁾ (1) 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 病態病理学分野) : 巣状分節性糸球体硬化症 (FSGS) の Columbia 分類の再評価 : 腎病理標準化としての FSGS 分類を目指して. *医学のあゆみ* 2010 ; 233 (11) : 1062-1067.
- 8) 清水 章, 若松恭子, 益田幸成, 福田 悠 : 基礎研究から学ぶ「組織細胞科学シリーズ (若手研究者へのヒント)」病理標本における免疫組織化学の基礎. *日医大医会誌* 2010 ; 6 (3) : 140-146.
- 9) 新井孝司, 片岡光枝, 桑原尚美, 益田幸成, 清水 章 : Essential Pathology 連載第 14 回 腎生検の光顕観察 : 光学顕微鏡標本の特殊染色. *Nephrology Frontier* 2010 ; 9 (2) : 57-65.
- 10) 藤田恵美子¹⁾, 清水 章 (1) 付属病院腎臓内科) : 膠原病による腎障害 (ISN/RPS2003 年ループス腎炎新分類の解説を含む). *Nephrology Frontier* 2010 ; 9 (3) : 243-250.
- 11) 益田幸成, 若松恭子, 石川吾利美, 清水 章 : Essential Pathology 連載第 15 回 腎生検の蛍光抗体法 : 蛍光抗体法の有用性とその方法. *Nephrology Frontier* 2010 ; 9 (3) : 307-316.
- 12) 益田幸成, 石川吾利美, 若松恭子, 清水 章 : Essential Pathology 連載第 16 回 腎生検における電子顕微鏡の有用性 : 糸球体構成細胞障害と electron dense deposit. *Nephrology Frontier* 2010 ; 9 (4) : 389-397.
- 13) 永坂真也, 清水 章 : 特集) 免疫疾患と腎障害 : 腎病変の免疫学的発生機序. *腎と透析* 2011 ; 70 (1) : 24-32.

(3) 研究報告書 :

- 1) 漆山博和, 寺崎泰弘, 康 徳東, 雨森俊介, 寺崎美佳, 高橋美紀子, 功刀しのぶ, 福田 悠 : 間質性肺炎における IV 型コラーゲン α 鎖 (1-6) の局在と産生. 厚生労働科学研究補助金 難治性疾患克服研究事業. びまん性肺疾患に関する調査研究班 平成 22 年度研究報告書 2011 ; 311-134.

(4) 症例報告 :

- 1) Nakajima Y¹⁾, Koizumi K¹⁾, Haraguchi S¹⁾, Kawamoto M¹⁾, Kubokura H¹⁾, Okuda D¹⁾, Yoshino N¹⁾,

- Kinoshita H¹, Takeuchi S¹, Fukuda Y, Shimizu K¹ (1) Division of Thoracic Surgery, Department of Surgery) : Locally infiltrative glomus tumor of the bronchus : a case report. *Ann Thorac Cardiovasc Surg* 2010 ; 16 (2) : 113-7.
- 2) Hayashi M¹, Takayanagi N¹, Ishiguro T¹, Sugita Y¹, Kawabata Y², Fukuda Y (1) Department of Respiratory Medicine, Saitama Cardiovascular and Respiratory Center, Kumagaya, 2) Division of Pathology, Saitama Cardiovascular and Respiratory Center, Kumagaya) : Birt-Hogg-Dube syndrome with multiple cysts and recurrent pneumothorax : Pathological findings. *Inter Med* 2010 ; 49 (19) : 2137-2142.
- 3) Mii A¹, Shimizu A, Masuda Y, Fujino T¹, Kaneko T¹, Utsumi K¹, Arai T, Ishikawa A, Wakamatsu K, Tajika K², Iino Y¹, Katayama Y¹, Fukuda Y (1) Internal Medicine, Division of Neurology, Nephrology and Rheumatology, 2) Division of Hematology) : Renal thrombotic microangiopathy associated with chronic humoral graft versus host disease after hematopoietic stem cell transplantation. *Pathol Int* 2011 ; 61 (1) : 34-41.
- 4) 白木二郎¹, 高橋明子¹, 岩川賀世², 内藤善哉³, 福田 悠, 藤田和恵¹, 小原俊彦⁴, 中島敦夫², 水野杏一⁴, 岩崎雄樹⁵, 川本雅司⁶, 山本滋樹, 中野博司⁷, 佐藤直樹⁵ (1) 日本医科大学付属病院呼吸器内科, 2) 日本医科大学付属病院リウマチ内科, 3) 日本医科大学統御機構病理, 4) 日本医科大学付属病院循環器内科, 5) 日本医科大学付属病院集中治療室, 6) 日本医科大学付属病院病理部, 7) 日本医科大学付属病院老年内科) : Conference room 治療に難渋した膠原病に伴う肺高血圧症の1例. *内科* 2010 ; 105 (4) : 677-690.
- 5) 齋藤亜希子¹, 池園哲郎¹, 中溝宗永¹, 酒主敦子¹, 八木聡明¹, 堺 則康², 川名誠司², 功刀しのぶ, 土屋眞一³ (1) 日本医科大学付属病院耳鼻咽喉科, 2) 日本医科大学付属病院皮膚科, 3) 日本医科大学付属病院病理部) : 目でみる耳鼻咽喉科 下咽頭に腫瘍性病変をきたした尋常性天疱瘡の1例. *耳鼻咽喉科・頭頸部外科* 2010 ; 82 (6) : 354-356.
- 6) 高橋美紀子, 功刀しのぶ, 寺崎泰弘, 蛸井浩行¹, 河野あゆみ¹, 清家正博¹, 弦間昭彦¹, 福田 悠 (1) 付属病院呼吸器内科) : エルロチニブによる薬剤性肺障害が疑われた1剖検例. *診断病理* 2010 ; 27 (4) : 343-346.
- 7) 浜田泰子¹, 阿部信二¹, 林 宏紀¹, 田中 徹¹, 蛸井浩行¹, 白杵二郎¹, 吾妻安良太¹, 弦間昭彦¹, 高橋美紀子, 福田 悠 (1) 付属病院呼吸器内科) : 大腸癌肺転移に対する化学療法中に発症した薬剤性肺障害の1例. *The Lung Prospective* 2010 ; 18 (3) : 210-216.

著 書

- 1) 三井亜希子¹, 清水 章 (1) 付属病院腎臓内科) : [分担] 半月体性糸球体腎炎. In 腎生検病理アトラス, 腎生検病理診断標準化への指針. 病理改訂版, 日本腎臓学会 (腎病理診断標準化委員会, 日本腎病理協会編), 2010 ; pp122-128, 東京医学社.
- 2) 久保恵嗣¹, 石坂彰敏², 金沢 實³, 河野修興⁴, 酒井文和⁵, 榊原博樹⁶, 谷口正実⁷, 巽浩一郎⁸, 土橋邦生⁹, 貫和敏博¹⁰, 橋本 修, 福田 悠, 本田孝行 (1) 信州大学内科学第一講座, 2) 慶応義塾大学医学部呼吸器内科, 3) 埼玉医科大学呼吸器内科, 4) 広島大学内科埼玉医科大学国際医療センター画像診断学, 5) 埼玉医科大学国際医療センター画像診断学, 6) 藤田保健衛生大学呼吸器内科, 7) 国立病院機構相模原病院アレルギー科, 8) 千葉大学付属病院呼吸器内科, 9) 群馬大学医学部保健学, 10) 東北大学加齢医学研究所腫瘍制御研究部門呼吸器腫瘍研究分野) : [共著] 肺胞出血 (肺出血, びまん性肺胞出血). 重篤副作用疾患別対応マニュアル第4集 (社団法人日本呼吸器学会薬剤性肺障害マニュアル作成委員会), 2010 ; pp103-119, (財) 日本医薬情報センター (JAPIC) 発行.
- 3) 久保恵嗣¹, 石坂彰敏², 金沢 實³, 河野修興⁴, 酒井文和⁵, 榊原博樹⁶, 谷口正実⁷, 巽浩一郎⁸, 土橋邦生⁹, 貫和敏博¹⁰, 橋本 修, 福田 悠, 本田孝行 (1) 信州大学内科学第一講座, 2) 慶応義塾大学医学部呼吸器内科, 3) 埼玉医科大学呼吸器内科, 4) 広島大学内科埼玉医科大学国際医療センター画像診断学, 5) 埼玉医科大学国際

- 医療センター画像診断学, ⁶⁾ 藤田保健衛生大学呼吸器内科, ⁷⁾ 国立病院機構相模原病院アレルギー科, ⁸⁾ 千葉大学付属病院呼吸器内科, ⁹⁾ 群馬大学医学部保健学, ¹⁰⁾ 東北大学加齢医学研究所腫瘍制御研究部門呼吸器腫瘍研究分野) : [共著] 急性好酸球性肺炎. 重篤副作用疾患別対応マニュアル第4集 (社団法人日本呼吸器学会薬剤性肺障害マニュアル作成委員会), 2010; pp89-101, (財) 日本医薬情報センター (JAPIC) 発行.
- 4) 石井芳樹¹⁾, 石坂彰敏²⁾, 一門和哉³⁾, 今中秀光⁴⁾, 岡嶋研二⁵⁾, 河合 信⁶⁾, 久保恵嗣⁷⁾, 久保裕司⁸⁾, 小泉知展⁹⁾, 酒井文和¹⁰⁾, 志馬伸朗, 相馬一玄, 田坂定智, 橋本 悟, 福田 悠, その他2名 (¹⁾ 獨協大学呼吸器アレルギー内科, ²⁾ 慶応義塾大学医学部呼吸器内科, ³⁾ 済生会熊本病院呼吸器内科, ⁴⁾ 徳島大学病院 ER 災害医療診療部, ⁵⁾ 名古屋市立大学大学院医学研究科展開医科学分野, ⁶⁾ 杏林大学医学部総合医療学, ⁷⁾ 信州大学内科第一講座, ⁸⁾ 東北大学大学院医学系研究科先進感染症予防学, ⁹⁾ 信州大学医学部付属病院がん総合医療センター, ¹⁰⁾ 埼玉医科大学国際医療センター画像診断科) : [共著] 第2版 ALI/ARDS 診療のためのガイドライン. (日本呼吸器学会 ALI/ARDS 診療のためのガイドライン作成委員会編), 2010; 秀潤社.
- 5) 福田 悠 : [分担] 最新 ARDS のすべて. ARDS の病理. 別冊. 医学のあゆみ (石井芳樹編), 2010; pp21-26. 医歯薬出版株式会社.
- 6) 高橋弘毅¹⁾, 海老名雅仁²⁾, 坂東政司³⁾, 鈴木栄一⁴⁾, 稲瀬直彦⁵⁾, 吾妻安良太⁶⁾, 福田 悠, 萩原弘一⁷⁾, 酒井文和⁸⁾, 小倉高志⁹⁾, 本間 栄¹⁰⁾, 山口哲生, 千田金吾, 谷口博之, 長谷川好規, その他8名 (¹⁾ 札幌医科大学内科, ²⁾ 東北大学加齢研, ³⁾ 自治医大内科, ⁴⁾ 新潟大学内科, ⁵⁾ 医科歯科大学内科, ⁶⁾ 付属病院呼吸器内科, ⁷⁾ 埼玉医大内科, ⁸⁾ 埼玉医大放射線科, ⁹⁾ 神奈川循環器呼吸器病センター, ¹⁰⁾ 東邦医大内科) : [共著] 特発性間質性肺炎の診断と治療の手引き 改訂第2版. 日本呼吸器学会びまん性肺疾患診断 (治療ガイドライン作成委員会編集), 2010; 南江堂.
- 7) 寺崎泰弘, 福田 悠 : [分担] 肺病理組織の見方 特発性間質性肺炎の鑑別診断ポイント. 間質性肺疾患 診療マニュアル II-C (久保恵嗣, 藤田次郎編), 2010; pp78-83. 南光堂.

学会発表

[追加分]

追加分一般講演 :

- 1) Saito T, Asai K¹⁾, Takahashi H¹⁾, Komiyama H¹⁾, Kato K¹⁾, Yamamoto E¹⁾, Takano H¹⁾, Ohara T¹⁾, Sato S²⁾, Fukuda Y, Mizuno K¹⁾ (¹⁾ 付属病院循環器内科, ²⁾ 形態解析共同研究施設) : Obesity cardiomyopathy : a new concept of secondary cardiomyopathy with unique ultrastructural features. The 59th Annual Scientific Session Exposition, American College of Cardiology (Atlanta), 2010. 3.
- 2) 斎藤恒徳, 浅井邦也¹⁾, 大野忠明¹⁾, 加藤浩司¹⁾, 高木 元¹⁾, 稲見茂信¹⁾, 高橋 啓¹⁾, 山本英世¹⁾, 高野仁司¹⁾, 新田 隆¹⁾, 水野杏一¹⁾ (¹⁾ 付属病院循環器内科) : 心房ペーシングリードが惹起した重度三尖弁逆流の1例. 日本内科学会関東地方会 (第569回), 2010. 2.

(1) 特別講演 :

- 1) 三井亜希子¹⁾, 清水 章 (¹⁾ 内科 (神経, 腎臓, 膠原病リウマチ部門) : AKI (Acute Kidney Injury) の病理組織. 日本腎臓学会学術総会 (第53回), 2010. 6.
- 2) 大田敏之¹⁾, 清水 章 (¹⁾ 県立広島病院小児腎臓科) : 著明な高血圧を呈していたものの施行した治療が奏功した巣状糸球体腎硬化症 Collapsing variant の小児例. 日本腎臓学会学術総会 (第53回), 2010. 6.
- 3) 清水 章 : 糸球体腎炎における糸球体毛細血管. 東京腎炎セミナー (第3回), 2010. 9.
- 4) 清水 章 : ラット肝患移植実験の病理学的解析からみた移植免疫. 肝疾患研究会 (第1回), 2011. 3.

(2) 教育講演 :

- 1) 清水 章 : 腎移植にみられる巣状分節性糸球体硬化症 (FSGS). 日本移植腎病理研究会 (第14回), 2010. 7.

- 2) 清水 章：微小変化群と巣状糸球体硬化症の亜系と診断. 夏の学校 in 旭川 2010 (第5回), 2010. 8.
 - 3) 清水 章：2次性 FSGS の病理学的特徴. 日本腎病理協会研究会 (第9回), 2011. 1.
 - 4) 清水 章：厚労省 IgA 腎症分科会病理班の活動状況, IgA 腎症の日本分類と国際分類への対応. 日本腎病理協会研究会 (第9回), 2011. 1.
- (3) ワークショップ：
- 1) 清水 章：難治性ネフローゼ症候群の病理 (2次性疾患). 日本腎臓学会西部学術大会 (第40回), 2010. 10.
 - 2) 福田 悠：特発性肺線維症と慢性過敏性肺炎の病理学的特徴と鑑別. 特発性肺線維症と慢性過敏性肺炎の類似点・相違点. 日本アレルギー学会秋季学術大会 (第60回), 2010. 11.
- (4) 一般講演：
- 1) Terasaki Y, Kang D, Kuwahara N, Ishikawa A, Takahashi M, Kunugi S, Ohsawa I¹⁾, Fukuda Y (1) Environmental Gerontology, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology) : Hydrogen therapy attenuates radiation-induced pulmonary injury in C57/Bl6 mice through reducing oxidative stress. ATS (American Thoracic Society) International Conference2010 (New Orleans, USA), 2010. 5.
 - 2) Takahashi M, Kunugi S, Terasaki Y, Watanabe A¹⁾, Yamaguchi T²⁾, Kawabata Y³⁾, Fukuda Y (1) Division of Control and Treatment of Infectious Diseases, Chiba University Hospital, 2) Dept of Respiratory Medicine, JR Tokyo General Hospital, 3) Division of Pathology, Saitama Cardiovascular and Respiratory Centre) : The characteristics of the collagen fibers and the pathological diagnostic significance in the pulmonary disease of vascular type Ehlers-Danlos syndrome. ATS (American Thoracic Society) International Conference2010 (New Orleans, USA), 2010. 5.
 - 3) Shimizu A, Ishii E, Kuwahara N, Arai T, Kataoka M, Fukuda Y : The pathological characteristics of acute antibody-mediated rejection in DA to Lewis rat orthotopic liver transplantation. XXIII International Congress of The Transplantation Society (Vancouver), 2010. 8.
 - 4) Ishii E, Shimizu A, Arai T, Kataoka M, Ishikawa A, Wakamatsu K, Nagasaka S, Fukuda Y : Chronic antibody-mediated rejection in rat orthotopic liver transplantation. XXIII International Congress of The Transplantation Society (Vancouver), 2010. 8.
 - 5) Ishii E, Shimizu A, Kuwahara N, Arai T, Kataoka M, Wakamatsu K, Ishikawa A, Nagasaka S, Fukuda Y : Lymphangiogenesis associated with acute cellular rejection in rat liver transplantation. XXIII International Congress of The Transplantation Society (Vancouver), 2010. 8.
 - 6) Okura T¹⁾, Yamashita K¹⁾, Suzuki T¹⁾, Fukumori D¹⁾, Watanabe M¹⁾, Hirokata G¹⁾, Wakayama K¹⁾, Miura T²⁾, Okimura K²⁾, Maeta K²⁾, Haga H³⁾, Kubota K³⁾, Shimizu A, Taniguchi A¹⁾, Todo S¹⁾, et al. (1) 1st Department of Surgery, Hokkaido University School of Medicine, Sapporo, 2) Kyowa Hakko Kirin Co., Ltd, Takasaki, 3) Department of Surgical Pathology, Hokkaido University School of Medicine, Sapporo) : Long-term hepatic allograft acceptance mediated by a novel human anti-C D40 monoclonal antibody, ASKP1240 (4D11), in a non-human primate. XXIII International Congress of The Transplantation Society (Vancouver), 2010. 8.
 - 7) Saito T, Asai K¹⁾, Takahashi H¹⁾, Yamamoto E¹⁾, Takano H¹⁾, Sato S²⁾, Fukuda Y, Mizuno K¹⁾ (1) 付属病院循環器内科, 2) 形態解析共同研究施設) : Ultrastructural evaluation of cardiac myocyte alterations with obesity cardiomyopathy. European Society of Cardiology Congress 2010 (Stockholm), 2010. 8.
 - 8) Ishikawa Y, Hara K, Fujii S, Seki N, Tani N, Yoshida H, Shimizu A, Uchida E (1) 1st Department of Surgery) : Short-Team Perioperative Oral Nutrition Support with Branched Chain Amino Acids Improves survival Rate in a Rat Hepatectomy Model. 第18回欧州消化器病週間 (UEGW) (Barcelona), 2010. 10.
 - 9) Shimizu A, Ishii E, Ishikawa A, Arai T, Kuwahara N, Masuda Y, Nagasaka S, Fukuda Y : Acute kid-

- ney injury during hepatic failure in rats. 2010 Renal Week in Denver (Colorado), 2010. 11.
- 10) Tanabe M¹⁾, Shimizu A, Masuda Y, Nagasaka S, Kataoka M, Wakamatsu K, Arai T, Fukuda Y (1) Nippon Medical School) : Lymphangiogenesis during the Development of Chronic Kidney Disease in Rat Anti-GBM Glomerulonephritis. 2010 Renal Week in Denver (Colorado), 2010. 11.
 - 11) Doh X¹⁾, Shimizu A, Kuwahara N, Masuda Y, Nagasaka S, Kataoka M, Arai T, Fujita E¹⁾, Mii A¹⁾, Tanabe M²⁾, Iino Y¹⁾, Fukuda Y (1) Department of Internal Medicine Division of Neurology, Nephrology and Rheumatology, 2) Nippon Medical School) : Matrix Metalloproteinases-2 Enhanced Renal Interstitial Fibrosis through Tubular Epithelial-to-mesenchymal transition. 2010 Renal Week in Denver (Colorado), 2010. 11.
 - 12) Fujita E¹⁾, Shimizu A, Masuda Y, Nagasaka S, Mii A¹⁾, Iino Y¹⁾, Katayama Y¹⁾, Fukuda Y (1) Department of Internal Medicine Division of Neurology, Nephrology and Rheumatology) : Statin attenuates experimental anti-glomerular basement membrane glomerulonephritis together with the augmentation of alternatively activated macrophages. 2010 Renal Week in Denver (Colorado), 2010. 11.
 - 13) Fukui M¹⁾, Mii A¹⁾, Shimizu A, Fujita E¹⁾, Masuda Y, Iino Y¹⁾, Katayama Y¹⁾, Fukuda Y (1) Internal Medicine Division of Neurology, Nephrology and Rheumatology) : Glomerular endothelial injuries contributing to the formation of segmental glomerular sclerosis in idiopathic membranous nephropathy. 2010 Renal Week in Denver (Colorado), 2010. 11.
 - 14) Mii A¹⁾, Shimizu A, Masuda Y, Fujino T¹⁾, Kaneko T¹⁾, Utsumi K¹⁾, Arai T, Ishikawa A, Wakamatsu K, Tajika K²⁾, Iino Y¹⁾, Katayama Y¹⁾, Fukuda Y (1) Internal Medicine Division of Neurology, Nephrology and Rheumatology, 2) Internal Medicine Division of Hematology) : Renal thrombotic microangiopathy associated with graft versus host disease after hematopoietic stem cell transplantation. 2010 Renal Week in Denver (Colorado), 2010. 11.
 - 15) 山鳥真理¹⁾, 田路佳範²⁾, 木崎智彦³⁾, 清水 章 (1) 神戸大学医学部腎臓内科, 2) 神戸市立医療センター中央市民病院腎臓内科, 3) 三田市民病院 臨床病理科) : 進行性の腎機能低下を認めたシェーグレン症候群の1例. Himeji Nephrology Forum (第18回), 2010. 11.
 - 16) 田中寿絵¹⁾, 内古閑修²⁾, 原 重雄³⁾, 清水 章 (1) 東海大学医学部腎・内分泌・代謝内科, 2) 神戸大学医学部腎臓内科, 3) 神戸大学医学部附属病院 病理部) : 15年来のコントロール不良の糖尿病歴のある69歳男性が, 約2週間の経過で全身浮腫をきたした1例. Himeji Nephrology Forum (第18回), 2010. 11.
 - 17) 寺崎泰弘, 八尋錦之助¹⁾, 福田 悠, Moss J²⁾ (1) 千葉大病原分子制御, 2) National Institutes of Health (米国国立衛生研究所)) : Effects of Prolactin on LAM cells. 日本病理学会総会 (第99回), 2010. 4.
 - 18) 清水 章, 益田幸成, 石川吾利美, 桑原尚美, 若松恭子, 新井孝司, 藤田恵美子, 福田 悠 : サイクロスポリン腎症の進展における腎微小血管障害の関与. 日本病理学会総会 (第99回), 2010. 4.
 - 19) 城 謙輔¹⁾, 久野 敏²⁾, 清水 章, 橋口明典³⁾ (1) 仙台社会保険病院病理部, 2) 福岡大学医学部病理, 3) 慶応義塾大学医学部病理) : 級内相係数によるIgA腎症組織学的重症度分類の再現性に関する検討. 日本病理学会総会 (第99回), 2010. 4.
 - 20) 杜 玄一, 清水 章, 益田幸成, 康 徳東, 桑原尚美, 片岡光枝, 功刀しのぶ, 藤田恵美子, 福田 悠 : 腎間質線維化の進展過程におけるMMP-2の関与. 日本病理学会総会 (第99回), 2010. 4.
 - 21) 康 徳東, 寺崎泰弘, 富樫真由子, 若松恭子, 益田幸成, 高橋美紀子, 功刀しのぶ, 福田 悠, 佐藤義一¹⁾ (1) 未記入) : びまん性肺胞障害 (DAD) における筋線維芽細胞 (MF) の出現とIV型コラーゲン α 鎖の検討. 日本病理学会総会 (第99回), 2010. 4.
 - 22) 斎藤恒徳 : 肥満心筋症 : 2次性心筋症の新概念と心筋の超微形態に関する臨床病理学的検討. NNSJ Cardiovascular Seminar (第6回), 2010. 5.

- 23) 城 謙輔¹⁾, 橋口明典²⁾, 中里 毅¹⁾, 小此木英男³⁾, 宇都宮保典³⁾, 清水 章, 片渕律子⁴⁾, 久野 敏⁵⁾, 宮崎陽一³⁾, 川村哲也³⁾ (1) 千葉東病院臨床研究センター腎病理研究部, 2) 慶応義塾大学医学部病理学教室, 3) 東京慈恵会医科大学腎臓, 高血圧内科, 4) 福岡東医療センター腎臓内科, 5) 福岡大学医学部病理学): IgA 腎症国際組織分類 (Oxford 分類) に対する我が国の追試研究. 日本腎臓学会学術総会 (第 53 回), 2010. 6.
- 24) 城 謙輔¹⁾, 中里 毅²⁾, 片渕律子³⁾, 清水 章, 久野 敏⁴⁾, 橋口明典⁵⁾ (1) 千葉東病院臨床研究センター腎病理研究部, 2) 国立病院機構千葉医療センター循環器科, 3) 福岡東医療センター腎臓内科, 4) 福岡大学医学部病理学, 5) 慶応義塾大学医学部病理学教室): 級内相関係数による IgA 腎症組織学的重症度分類の再現性に関する前向き多施設共同研究 90 症例の検討. 日本腎臓学会学術総会 (第 53 回), 2010. 6.
- 25) 藤田恵美子, 清水 章, 益田幸成, 永坂真也, 三井亜希子¹⁾, 飯野靖彦¹⁾, 片山泰朗¹⁾, 福田 悠 (1) 内科 (神経, 腎臓, 膠原病リウマチ部門)): ラット anti-GBM 腎炎に対するスタチンのマクロファージを介した抗炎症作用. 日本腎臓学会学術総会 (第 53 回), 2010. 6.
- 26) 福田久美子¹⁾, 上田佳恵¹⁾, 金子朋広¹⁾, 安田文彦¹⁾, 三井亜希子¹⁾, 藤野鉄平¹⁾, 内海甲一¹⁾, 山口博樹²⁾, 田村秀人²⁾, 清水 章, 飯野靖彦¹⁾, 片山泰朗¹⁾ (1) 内科 (神経, 腎臓, 膠原病リウマチ部門), 2) 内科 (血液)): ネフローゼ症候群を契機に診断された全身性アミロイドーシスの 5 例. 日本腎臓学会学術総会 (第 53 回), 2010. 6.
- 27) 益田幸成, 清水 章, 永坂真也, 藤田恵美子, 福田 悠: Thyl 腎炎における VEGF 中和抗体による血管新生抑制の影響. 日本腎臓学会学術総会 (第 53 回), 2010. 6.
- 28) 福井めぐみ¹⁾, 三井亜希子¹⁾, 清水 章, 金子朋博¹⁾, 藤田恵美子¹⁾, 益田幸成, 飯野靖彦¹⁾, 片山泰朗¹⁾, 福田 悠 (1) 内科 (神経, 腎臓, 膠原病リウマチ部門)): 糸球体に segmental sclerosis を伴う特発性膜性腎症の臨床病理学的検討. 日本腎臓学会学術総会 (第 53 回), 2010. 6.
- 29) 斎藤恒徳, 山本英世¹⁾, 高野仁司¹⁾ (1) 付属病院循環器内科): CABG 術後の冠動脈閉塞病変に対する PCI. 千駄木血管研究会 (第 4 回), 2010. 6.
- 30) 斎藤恒徳, 山本英世¹⁾, 高野仁司¹⁾ (1) 付属病院循環器内科): PCI complex lesion: CABG 術後の冠動脈閉塞病変に対する PCI. 冠動脈疾患研究会 (第 1 回), 2010. 6.
- 31) 寺崎泰弘: Effects of Prolactin on TSC2-null Eker Rat Cells and in Pulmonary Lymphangioliomyomatosis (LAM). 日本医科大学医学会総会 (第 78 回), 2010. 9.
- 32) 漆山博和, 寺崎泰弘, 康 徳東, 雨森俊介, 金子真由子, 寺崎美佳, 高橋美紀子, 功刀しのぶ, 永坂真也, 益田幸成, 清水 章, 福田 悠: びまん性肺胞障害における IV 型コラーゲン α 鎖 (1~6) の局在と産生についての検討. 日本医科大学医学会総会 (第 78 回), 2010. 9.
- 33) 永坂真也, 清水 章, 藤田恵美子, 寺崎美佳, 高橋美紀子, 功刀しのぶ, 寺崎泰弘, 益田幸成, 福田 悠: 腎糸球体障害やその後の回復過程における MMP-2 の関与. 日本医科大学医学会総会 (第 78 回), 2010. 9.
- 34) 高田大輔¹⁾, 小原功裕²⁾, 三井亜希子³⁾, 清水 章, 鎌田有子²⁾ (1) 北朝霞駅前クリニック, 2) さくら記念病院内科, 3) 内科 (神経, 腎臓, 膠原病リウマチ部門)): イコデキストリン単独腹膜透析療法が奏功した膜性腎症による難治性ネフローゼ症候群の 1 例. 日本腎臓学会東部学術大会 (第 40 回), 2010. 9.
- 35) 鈴木訓之¹⁾, 五十嵐奈央子³⁾, 斎藤博紀¹⁾, 中島敦夫²⁾, 高木正雄¹⁾, 横山宗伯⁴⁾, 清水 章 (1) 東京警察病院腎代謝科, 2) 東京警察病院リウマチ科, 3) 社会保険中央病院, 4) 東京警察病院病理診断科): 壊死・半月体形成及び血管炎を伴うび慢性管内増殖性糸球体腎炎を呈した 1 例. 日本腎臓学会東部学術大会 (第 40 回), 2010. 9.
- 36) 有馬留志¹⁾, 金子朋広¹⁾, 梶木雄介¹⁾, 平間章郎¹⁾, 三井亜希子¹⁾, 藤田恵美子¹⁾, 内海甲一¹⁾, 清水 章, 飯野靖彦¹⁾, 片山泰朗¹⁾ (1) 内科 (神経, 腎臓, 膠原病リウマチ部門)): アルコール性肝硬変に合併した半月体形成性糸球体腎炎の 1 例. 日本腎臓学会東部学術大会 (第 40 回), 2010. 9.
- 37) 藤野鉄平¹⁾, 石原 力¹⁾, 金子朋広²⁾, 飯野靖彦²⁾, 片山泰朗²⁾, 藤田恵美子, 清水 章 (1) 千葉北総病院腎臓内科, 2) 内科 (神経, 腎臓, 膠原病リウマチ部門)): サルコイドーシスに endocapillary proliferative glomeru-

- lonephritis を呈したネフローゼ症候群. 日本腎臓学会東部学術大会 (第 40 回), 2010. 9.
- 38) 増田貴博¹⁾, 本間寿美子¹⁾, 岩津好隆²⁾, 佐々木信博¹⁾, 清水 章, 浅野 奏¹⁾ (1) 古河赤十字病院, 2) 自治医大腎臓内科): 末期腎不全に至った collagenofibrotic glomerulopathy の 1 例. 日本腎臓学会東部学術大会 (第 40 回), 2010. 9.
- 39) 斎藤恒徳, 山本英世¹⁾, 高野仁司¹⁾, 三軒豪仁¹⁾, 田中貴久¹⁾, 松下誠人¹⁾, 久保田芳明¹⁾, 中村俊一¹⁾, 吉田明日香¹⁾, 太良修平¹⁾, 田近研一郎¹⁾, 加藤浩司¹⁾, 稲見茂信¹⁾, 高木 元¹⁾, 水野杏一¹⁾, その他 2 名 (1) 付属病院循環器内科): 冠動脈バイパス術後の慢性閉塞性病変に対する冠動脈インターベンション. 日本心血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会 (第 37 回), 2010. 10.
- 40) 斎藤恒徳, 斎藤恒博¹⁾, 杉山重幸¹⁾, 浅井邦也¹⁾, 安武正弘¹⁾, 水野杏一¹⁾ (1) 付属病院循環器内科): 閉塞性睡眠時無呼吸症候群に対する持続的陽圧換気療法の脈波伝播速度における長期的影響. 日本心臓病学会総会 (第 49 回), 2010. 10.
- 41) 永坂真也, 清水 章, 藤田恵美子, 寺崎美佳, 高橋美紀子, 功刀しのぶ, 寺崎泰弘, 益田幸成, 福田 悠: スタチン (Atorvastatin) によるマクロファージを介した抗炎症機構の解析. 日本分子生物学会年会 (第 33 回), 2010. 12.
- 42) 漆山博和, 寺崎泰弘, 康 徳東, 雨森俊介, 寺崎美佳, 高橋美紀子, 功刀しのぶ, 福田 悠: 間質性肺炎における IV 型コラーゲン α 鎖 (1-6) の局在と産生. 平成 22 年度びまん性肺疾患に関する調査研究班 班会議総会 (第 2 回), 2010. 12.
- 43) 坂井智行¹⁾, 山田剛史¹⁾, 池宮城雅子¹⁾, 松本真輔¹⁾, 稲葉 彩¹⁾, 濱田 睦¹⁾, 濱崎祐子¹⁾, 石倉健司¹⁾, 幡谷浩史¹⁾, 本田雅敬¹⁾, 緒方健太郎²⁾, 福澤龍二²⁾, 清水 章 (1) 東京都立小児総合医療センター 腎臓内科, 2) 東京都立小児総合医療センター 病理科): IgA 腎症の治療経過中に FSGS 様病変が合併した 1 男児例. 関東小児腎臓研究会 (第 77 回), 2011. 1.
- 44) 斎藤恒徳, 斎藤恒博¹⁾, 杉山重幸¹⁾, 浅井邦也¹⁾, 安武正弘¹⁾, 水野杏一¹⁾ (1) 付属病院循環器内科): 閉塞性睡眠時無呼吸症候群に対する持続的陽圧換気療法の脈波伝播速度における長期的影響. 循環器睡眠医療研究会 (第 4 回), 2011. 1.
- 45) 内山昌明, 益田幸成, 清水 章, 永坂真也, 福田 悠, 高橋浩一¹⁾ (1) 付属病院眼科): ラット角膜アルカリ熱傷の創傷治癒過程における脈管新生と再生上皮. 角膜カンファランス 2011 日本角膜学会総会 (第 35 回) 日本角膜移植学会 (第 27 回), 2011. 2.

9. 病理学講座（統御機構・腫瘍学）

研究概要

病理学講座（統御機構・腫瘍学）では消化器癌を中心とした腫瘍性疾患につき、近年明らかとなった腫瘍幹細胞に着目し、有効な診断法と新たな分子標的治療法の開発を目指し研究を行なっている。1) 消化器腫瘍の増殖、転移機序の研究と治療への応用：膵臓癌と大腸癌について培養癌細胞、実験動物モデル、ヒト病理組織標本などを用いて総合的な癌研究を行なっている。膵外分泌系細胞の前駆細胞マーカーである中間径フィラメントの nestin が膵臓癌でも高発現しており、癌の遊走、浸潤に関与していることを明らかにした。培養膵臓癌細胞の nestin を short hairpin RNA (shRNA) で抑制することで、肝転移が著明に抑制されることを発見し、報告した。Nestin が癌幹細胞に豊富に局在していることから、nestin の癌幹細胞への関与について現在、研究を進めている。また、細胞増殖因子受容体の FGFR2 のアイソフォームの FGFR2 IIIb (KGF) と IIIc 受容体の消化器癌での発現とその役割について検討を行ない、IIIc アイソフォームの発現が癌の増殖、浸潤に促進的に働いていることを確認した。さらに、これらのアイソフォームの発現パターンを調節している ESRP1 についても研究を進め、癌治療への応用の可能性について検討している。2) 婦人科腫瘍の増殖機序の研究と治療への応用：子宮頸部の異形成組織の進展に伴って、FGFR2 IIIc の発現が増加し、子宮頸癌組織で高度に FGFR2 IIIc の発現がみられた。FGFR2 IIIc 発現増加により培養頸癌細胞の増殖能が亢進したことから、ヒトパピローマウイルスとの関連や、中和抗体投与による FGFR2 IIIc の発現制御による子宮頸癌治療の可能性について検討している。3) 腫瘍、炎症性疾患、変性疾患における増殖機序や病態進展の検討：腫瘍の増殖、転移や肉芽組織の形成における血管、リンパ管の増殖、分化や動脈硬化症の進展には細胞外基質や細胞増殖因子が関与しており、その制御について研究を行っている。特に nestin は膵臓癌、大腸癌の腫瘍新生血管で豊富に発現し、現在報告されている血管新生マーカーよりも鋭敏な新生血管マーカーと成り得ることを明らかにした。また、脳腫瘍や脳変性疾患についても nestin の発現や病態の伸展に関する役割について研究を行なっている。今後も腫瘍性疾患の有効な診断、分子標的治療法の開発をめざして、一層の努力を続けて行きたい。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Taniyama K¹⁾, Jhala D²⁾, Katayama H³⁾, Kuraok K⁴⁾, Naito Z³⁾, Rangdaeng S⁵⁾, Gong G⁶⁾, Lai C⁷⁾, Chang A⁸⁾, Jhala N²⁾ (1) Institute for Clinical Research, National Hospital Organization, Kure Medical Center and Chugoku Cancer Center, Kure, Japan, (2) Department of Cytopathology, University of Alabama at Birmingham, Alabama, USA, (3) Departments of Pathology and Integrative Oncological Pathology, NMS, Japan, (4) Department of Diagnostic Pathology, National Hospital Organization, Kure Medical Center and Chugoku Cancer Center, Kure, Japan, (5) Department of Pathology, Faculty of Medicine Chiang Mai University, Chiang Mai, Thailand, (6) Department of Pathology, University of Ulsan College of Medicine, Asan Medical Center, Seoul, Korea, (7) Department of Pathology, Taipei Veterans General Hospital, Taipei, Taiwan, (8) Department of Pathology, Yong Loo School of Medicine, National University of Singapore, Singapore) : Multinational comparison of diagnostic clues for uterine cervical lesions among cytotechnologists in Asian countries. *Diagn Cytopathol*. [Epub ahead of print] 2010 ; 20.
- 2) Matsuda Y, Fujii T, Suzuki T, Yamahatsu K, Kawahara K, Teduka K, Kawamoto Y, Yamamoto T, Ishiwata T, Naito Z : Comparison of fixation methods for preservation of morphology, RNAs and proteins from paraffin-embedded human cancer cell-implanted mouse models. *J Histochem Cytochem*. 2010 ; 59 (1) :

68-75.

- 3) Omi T^{1,2)}, Kawana S¹⁾, Sato S¹⁾, Naito Z³⁾ (1) Department of Dermatology, NMS, 2) Queen's Square Medical Center, Yokohama, 3) Integrative Oncological Pathology) : Histological evidence for skin rejuvenation using a combination of pneumatic energy, broadband light, and growth factor therapy. *J Cosmet Laser Ther.* 2010 ; 12 (5) : 222-6.
 - 4) Matsuda Y, Ishiwata T, Kawamoto Y, Kawahara K, Peng W, Yamamoto T, Naito Z : Morphological and cytoskeletal changes of pancreatic cancer cells in three-dimensional spheroidal culture. *Med Mol Morphol.* 2010 ; 43 (4) : 211-217.
 - 5) Motoda N¹⁾, Matsuda Y¹⁾, Onda M¹⁾, Ishiwata T¹⁾, Uchida E²⁾, Naito Z¹⁾ (1) Integrative Oncological Pathology, 2) Surgery for Organ Function and Biological Regulation) : Overexpression of fibroblast growth factor receptor 4 in high-grade pancreatic intraepithelial neoplasia and pancreatic ductal adenocarcinoma. *Int J Oncol.* 2011 ; 38 (1) : 133-143.
 - 6) Matsuda Y¹⁾, Naito Z¹⁾, Kawahara K¹⁾, Korc M²⁾, Ishiwata T¹⁾ (1) Integrative Oncological Pathology, 2) Department of Medicine, Dartmouth Medical School and Dartmouth Hitchcock Medical Center, USA) : Nestin is a novel target for suppressing pancreatic cancer cell migration, invasion and metastasis. *Cancer Biology & Therapy* 2011 ; 11 (5) : 512-523.
 - 7) 中村祐司¹⁾, 川本雅司²⁾, 松原美幸²⁾, 大塚俊司¹⁾, 柳本邦雄¹⁾, 原田 大²⁾, 石井英昭¹⁾, 内藤善哉³⁾, 米山剛一⁴⁾, 土屋眞一²⁾ (1) 武蔵小杉病院病理部, 2) 付属病院病理部, 3) 病理学講座 (統御機構・腫瘍学), 4) 千葉北総病院 女性診療科) : ポリープ状異型筋筋腫の子宮内膜細胞像の検討. *日本臨床細胞学会雑誌* 2010 ; 49 (3) : 171-176.
 - 8) 川本聖郎^{1,2)}, 石渡俊行¹⁾, 松田陽子¹⁾, 相本隆幸²⁾, 内藤善哉¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 統御機構病理学, 2) 臓器病態制御外科学) : 腺癌における Nestin の発現と浸潤能との関連. *胆と腺* 2010 ; 31 (6) : 611-614.
 - 9) 河本陽子, 石渡俊行, 川原清子, 藤井雄文, 手塚 潔, 鈴木妙子, 松田陽子, 恩田宗彦, 内藤善哉 : 酵素抗体法に有用な未染標本保存法の検討. *病理と臨床* 2010 ; 28 (6) : 673-677.
 - 10) 中村恭子¹⁾, 塩井由美子¹⁾, 駒場祐一²⁾, 内藤善哉³⁾, 服部久弥子⁴⁾, 檀 和夫¹⁾, 川本雅司⁵⁾, 功刀しのぶ⁶⁾, 上田雅之²⁾, 福岡長知⁷⁾, 白杵二郎⁴⁾ (1) 血液内科, 2) 神経内科, 3) 病理学講座 (統御機構・腫瘍学), 4) 呼吸器内科, 5) 付属病院病理部, 6) 病理学講座 (解析人体病理学), 7) 循環器内科) : 急性骨髄性白血病, 扁平上皮癌, 脳梗塞を併発した慢性活動性 EB ウイルス感染症. *内科* 2010 ; 106 (4) : 713-724.
- (2) 総説 :
- 1) Ishiwata T, Matsuda Y, Naito Z : Nestin in gastro-intestinal and other cancers : Effects on cells and tumor angiogenesis. *World J Gastroenterol.* 2011 ; 17 (4) : 409-418.
- (3) 解説 :
- 1) 前田昭太郎¹⁾, 片山博徳¹⁾, 細根 勝¹⁾, 北川泰之²⁾, 内藤善哉³⁾ (1) 多摩永山病院病理部, 2) 多摩永山病院 整形外科, 3) 病理学講座 (統御機構・腫瘍学)) : 軟部腫瘍の病理診断における新展開 軟部腫瘍の細胞診. *臨床病理* 2010 ; 58 (4) : 358-370.
 - 2) 内藤善哉 : 肝細胞癌. *検査と技術* 2010 ; 38 (5) : 349-349.
 - 3) 石渡俊行, 松田陽子, 内藤善哉 : 膵臓癌における FGF シグナルの発現とその役割. *肝胆腺* 2010 ; 61 (1) : 73-79.
 - 4) 内藤善哉, 許田典男, 山初和也 : 肝内胆管癌. *検査と技術* 2010 ; 38 (9) : 703-703.
 - 5) 内藤善哉, 彭 為霞, 上田純志 : 肝血管肉腫. *検査と技術* 2010 ; 38 (13) : 1227-1227.
 - 6) 内藤善哉 : 膵臓の疾患と病理. *都臨技会誌* 2011 ; 39 (1) : 22-24.

(4) 症例報告：

- 1) 白杵二郎¹⁾, 高橋明子¹⁾, 岩川賀世²⁾, 内藤善哉³⁾, 福田 悠⁴⁾, 藤田和恵¹⁾, 小原俊彦⁵⁾, 中島敦夫²⁾, 水野杏一⁵⁾, 岩崎雄樹⁵⁾, 川本雅司⁶⁾, 山元滋樹⁴⁾, 中野博司⁷⁾, 佐藤直樹⁵⁾ (1) 呼吸器内科, 2) リウマチ科, 3) 病理学講座 (統御機構・腫瘍学), 4) 病理学講座 (解析人体病理学), 5) 循環器内科, 6) 付属病院病理部, 7) 老年内科) : 治療に難渋した膠原病に伴う肺高血圧症の1例. 内科 2010; 105 (4) : 677-690.
- 2) 上田純志^{1, 2)}, 相本隆幸¹⁾, 中村慶春¹⁾, 廣井 信¹⁾, 山初和也^{1, 2)}, 早川朋宏¹⁾, 内藤善哉²⁾, 内田英二¹⁾ (1) 外科学講座 (消化器・一般・乳腺・移植部門), 2) 病理学講座 (統御機構・腫瘍学)) : 十二指腸癌を合併し診断に難渋した原発不明神経内分泌細胞癌リンパ節転移と考えられた1例. 日本消化器病学会雑誌 2010; 107(12) : 1941-1946.

著 書

- 1) 内藤善哉 : [解説] 未病のがん 病理からみた「未病」と「がん」. 未病と抗老化 19巻1号 (財団法人博慈会老人病研究所紀要), 2010; pp14-18, 財団法人博慈会.
- 2) 石渡俊行, 松田陽子, 内藤善哉 : [分担] 腫瘍マーカー 尿中塩基性線維芽細胞増殖因子 (bFGF/FGF-2). 日本臨床 68巻増刊号 広範囲血液・尿化学検査免疫学的検査 [第7版] その数値をどう読むか, 2010; pp807-809, 日本臨床社.
- 3) 松田陽子, 恩田宗彦, 内藤善哉 : [分担] 【肝・胆道系症候群 (第2版) その他の肝・胆道系疾患を含めて 肝臓編 (上)】 幼少期の肝疾患 Reye 症候群. 日本臨床 別冊 肝・胆道系症候群 I, 2010; pp588-591, 日本臨床社.

学会発表

[追加分]

追加分一般講演：

- 1) 加藤俊二¹⁾, 松倉則夫¹⁾, 小野寺浩之¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 菅野仁士¹⁾, 山下直行¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 木山輝郎¹⁾, 吉行俊郎¹⁾, 内藤善哉²⁾, 内田英二¹⁾ (1) 外科学講座 (消化器・一般・乳腺・移植部門), 2) 病理学講座 (統御機構・腫瘍学)) : 胃癌術後内視鏡観察ガイドラインのための胃粘膜内視鏡的個別評価と再発リスク. 日本胃癌学会総会 (第82回) (新潟市), 2010. 3.

(1) 招待講演：

- 1) Ishiwata T : FGFR 2IIIc isoforms as a novel therapeutic target of cancer cell growth. Seminar in Dr. Joel Moss'Lab in NIH (Maryland,USA), 2010. 4.
- 2) Yamamoto T : Roles of lumican in pancreatic cancer : Aiming at developing new anti-cancer drugs. Seminar in Dr. Joel Moss'Lab in NIH (Maryland,USA), 2010. 4.
- 3) Matsuda Y : Correlation of the stem cell marker Nestin with migration and invasion of pancreatic cancer. Seminar in Dr. Joel Moss'Lab in NIH (Maryland,USA), 2010. 4.

(2) ワークショップ：

- 1) 片山博徳¹⁾, 前田昭太郎¹⁾, 内藤善哉²⁾ (1) 多摩永山病院病理部, 2) 病理学講座 (統御機構・腫瘍学)) : 国際交流活動の現状と課題 タイとの国際交流. 日本臨床細胞学会総会 (第51回) (横浜), 2010. 5.

(3) 一般講演：

- 1) Ishiwata T¹⁾, Matsuda Y¹⁾, Kawahara K¹⁾, Yamamoto T¹⁾, Teduka K¹⁾, Uchida E²⁾, Korc M³⁾, Naito Z¹⁾ (1) Integrative Oncological Pathology, 2) Surgery for Organ Function and Biological Regulation, 3) Dartmouth Medical School and Dartmouth Hitchcock Medical Center, USA) : Fibroblast growth factor receptor (FGFR) 2 IIIc, is a novel molecular target for suppressing pancreatic cancer cell growth and migration. American

- association for cancer research (101th annual meeting 2010) (Washington, DC, USA), 2010. 4.
- 2) Matsuda Y¹, Ishiwata T¹, Kawamoto M¹, Yamamoto T¹, Kawahara K¹, Teduka K¹, Peng W¹, Yamahatsu K¹, Korc M², Naito Z¹ (1) Integrative Oncological Pathology, (2) Dartmouth Medical School and Dartmouth Hitchcock Medical Center, USA) : Stem cell marker Nestin regulated the migration and invasion of pancreatic cancer cells. American association for cancer research (101th annual meeting 2010) (Washington, DC, USA), 2010. 4.
 - 3) Yamamoto T¹, Ishiwata T¹, Matsuda Y¹, Onda M¹, Yamahatsu K¹, Kawahara K¹, Kawamoto Y¹, Uchida E², Naito Z¹ (1) Integrative Oncological Pathology, (2) Surgery for Organ Function and Biological Regulation) : Lumican as a new target to develop molecularly-targeted drugs for pancreatic cancer. American association for cancer research (101th annual meeting 2010) (Washington, DC, USA), 2010. 4.
 - 4) Kawase R¹, Ishiwata T¹, Matsuda Y¹, Onda M¹, Teduka K¹, Kawahara K¹, Takeshita T², Naito Z¹ (1) Integrative Oncological Pathology, (2) Department of Obstetrics and Gynecology) : Expression and role of fibroblast growth factor receptor2 IIIc in human uterine cervical intraepithelial neoplasia (CIN) and invasive cervical cancer. American association for cancer research (101th annual meeting 2010) (Washington, DC, USA), 2010. 4.
 - 5) Naito Z¹, Matsuda Y¹, Kawamoto Y¹, Fujii T¹, Suzuki T¹, Onda M¹, Yamamoto T¹, Seya T², Ohaki Y³, Ishiwata T¹ (1) Integrative Oncological Pathology, (2) Department of of Surgery, Chiba-Hokuso Hosp., (3) Department of Pathology, Chiba-Hokuso Hosp.) : Fibroblast growth factor receptor 2IIIc enhances the growth of colorectal adenocarcinoma cells. American association for cancer research (101th annual meeting 2010) (Washington, DC, USA), 2010. 4.
 - 6) Naito Z¹, Katayama H², Kawamoto Y¹, Onda M¹, Tsuchiya S³, Maeda S² (1) Integrative Oncological Pathology, (2) Department of Pathology, Tama-Nagayama Hospital, (3) Department of Pathology, NMS Hospital) : Differential Cytodiagnosis of Cholangiocarcinoma with Intraductal Papillary Mucinous Neoplasm of the Pancreas. International Congress of Cytology (the 17th) (Edinburgh, Scotland), 2010. 5.
 - 7) Katayama H¹, Maeda S¹, Hosone M¹, Naito Z² (1) Department of Pathology, Tama-Nagayama Hospital, (2) Integrative Oncological Pathology) : Distinguishing mesothelioma from reactive Mesothelial cells using a matrix metalloproteinase 9 (MMP-9) antibody. International Congress of Cytology (the 17th) (Edinburgh, Scotland), 2010. 5.
 - 8) Matsuda Y¹, Ishiwata T¹, Yamahatsu K¹, Kawamoto Y¹, Yamamoto T¹, Kawahara K¹, Onda M¹, Nakazawa N¹, Korc M², Naito Z¹ (1) Integrative Oncological Pathology, (2) Dartmouth Medical School and Dartmouth Hitchcock Medical Center, USA) : Nestin modulates the migration and invasion of pancreatic cancer cells by regulating actin and E-cadherin expression. Joint Meeting of the International of Pancreatology and the Japan Pancreas Society 2010 (福岡), 2010. 7.
 - 9) Yamamoto T¹, Ishiwata T¹, Matsuda Y¹, Onda M¹, Kawamoto T¹, Kawahara K¹, Suzuki T¹, Uchida E², Naito Z¹ (1) Integrative Oncological Pathology, (2) Surgery for Organ Function and Biological Regulation) : The role of lumican in the extracellular space of pancreatic cancer. Joint Meeting of the International of Pancreatology and the Japan Pancreas Society 2010 (福岡), 2010. 7.
 - 10) Fujii T¹, Matsuda Y¹, Yamahatsu K^{1,2}, Akiyama M¹, Teduka K¹, Yamamoto T¹, Ishiwata T¹, Uchida E², Naito Z¹ (1) Integrative Oncological Pathology, (2) Surgery for Organ Function and Biological Regulation) : A metastatic model of pancreatic cancer using NOD/Shi-scid, IL-2R γ null (NOG) mice. American Pancreatic Association Meeting 2010 (Chicago, USA), 2010. 11.
 - 11) Yamahatsu K^{1,2}, Matsuda Y¹, Ishiwata T¹, Yamamoto T¹, Fujii T¹, Aimoto T², Nakamura Y², Hi-

- roi M², Uchida E², Naito Z¹ (1) Integrative Oncological Pathology, 2) Surgery for Organ Function and Biological Regulation) : Characterization of Nestin-positive blood vessels in human pancreatic cancer. American Pancreatic Association Meeting 2010 (Chicago, USA), 2010. 11.
- 12) Kawamoto Y, Matsuda Y, Ishiwata T, Yamamoto T, Suzuki T, Kawahara K, Naito Z : Expression patterns of cytoskeletal proteins in human pancreatic cancer cells in a novel three-dimensional spheroidal culture. American Pancreatic Association Meeting 2010 (Chicago, USA), 2010. 11.
- 13) Katayama H¹, Tanno M¹, Maeda S¹, Hosone M¹, Naito Z² (1) Department of Pathology, Tama-Nagayama Hospital, 2) Integrative Oncological Pathology) : Basic study about Expression and Localization of matrix metalloproteinase 9 (MMP-9) in mesothelioma cells and reactive mesothelial cells. Thai-Japanese Diagnostic cytology workshop (18th) (Phang-nga, Thailand), 2011. 1.
- 14) Kaizu K¹, Kobayashi F², Narazaki H¹, Asano T¹, Maeda M³, Adachi A⁴, Sato S⁴, Sasaki Y⁴, Naito Z^{4, 5}, Fukunaga Y³ (1) 千葉北総病院小児科, 2) 武蔵小杉病院小児科, 3) 付属病院小児科, 4) 形態解析共同施設, 5) 病理学講座 (統御機構・腫瘍学)) : Activated peripheral neutrophils with childhood precursor B-ALL by electron microscopic studies. 日本血液学会総会 (第72回) (横浜), 2010. 9.
- 15) Ishiwata T¹, Matsuda Y¹, Kawahara K¹, Yamamoto T¹, Teduka K¹, Uchida E², Korc M³, Naito Z¹ (1) Integrative Oncological Pathology, 2) Surgery for Organ Function and Biological Regulation, 3) Dartmouth Medical School and Dartmouth Hitchcock Medical Center, USA) : Fibroblast growth factor receptor 2 as a novel therapeutic target for pancreatic cancer. 日本病理学会秋期特別総会 (第56回) (北九州市), 2010. 11.
- 16) Yamamoto T¹, Ishiwata T¹, Matsuda Y¹, Kawahara K¹, Suzuki T¹, Kawamoto Y¹, Uchida E², Naito Z¹ (1) Integrative Oncological Pathology, 2) Surgery for Organ Function and Biological Regulation) : Role of the lumican to develop new anti-cancer drugs for pancreatic cancer. 日本病理学会秋期特別総会 (第56回) (北九州市), 2010. 11.
- 17) Matsuda Y¹, Ishiwata T¹, Yamahatsu K¹, Yamamoto T¹, Suzuki T¹, Fujii T¹, Kawahara K¹, Korc M², Naito Z¹ (1) Integrative Oncological Pathology, 2) Dartmouth Medical School and Dartmouth Hitchcock Medical Center, USA) : Nestin's inhibition of the migration, invasion and metastasis of pancreatic cancer cells. 日本病理学会秋期特別総会 (第56回) (北九州市), 2010. 11.
- 18) 秋山 輝¹, 松田陽子², 藤井雄文², 川原清子², 河本陽子², 手塚 潔², 鈴木妙子², 山本哲志², 石渡俊行², 内藤善哉² (1) 医学部4学年, 2) 病理学講座 (統御機構・腫瘍学)) : NOG マウスを用いたヒト膀胱培養細胞の転移モデル. 日本病理学会総会 (第99回) (東京都), 2010. 4.
- 19) 手塚 潔¹, 石渡俊行¹, 吉田常恭², 川原清子¹, 鈴木妙子¹, 藤井雄文¹, 河本陽子¹, 山本哲志¹, 松田陽子¹, 内藤善哉¹ (1) 病理学講座 (統御機構・腫瘍学), 2) 医学部4学年) : 神経膠芽腫における Nestin の発現と、その役割の検討 (会議録) Author : 手塚潔 (日本医科大学 病理学講座 (統御機構・腫瘍学)), 石渡俊行, 吉田常恭, 川原清子, 鈴木妙子, 藤井雄文, 河本陽子, 山本哲志, 松田陽子, 内藤善哉. 日本病理学会総会 (第99回) (東京都), 2010. 4.
- 20) 小野ゆり¹, 岡田真也¹, 鈴木訓之, 木村斉弘, 斉藤博紀, 高木正雄, 渡邊一郎, 長谷川俊二, 高澤和永, 内藤善哉, 横山宗伯¹ (1) 東京警察病院病理診断科, 2) 病理学講座 (統御機構・腫瘍学)) : 低血糖症を呈し臍切除によって改善した成人男性 Nesidioblastosis の病理組織像. 日本病理学会総会 (第99回) (東京都), 2010. 4.
- 21) 許田典男, 石渡俊行, 松田陽子, 恩田宗彦, 山初和也, 川原清子, 鈴木妙子, 河本陽子, 内藤善哉 : ヒト膀胱における FGFR4 の発現とその役割の検討. 日本病理学会総会 (第99回) (東京都), 2010. 4.
- 22) 恩田宗彦¹, 許田典男¹, 松田陽子¹, 劉 愛民², 河本陽子¹, 彭 為霞¹, 鈴木妙子¹, 内藤善哉^{1, 2} (1) 病理学講座 (統御機構・腫瘍学), 2) 形態解析共同研究施設) : 中小血管病変が直接死因に関与したと推定される

- Fabry 病の 2 剖検例. 日本病理学会総会 (第 99 回) (東京都), 2010. 4.
- 23) 河本陽子, 石渡俊行, 川原清子, 鈴木妙子, 松田陽子, 山本哲志, 藤井雄文, 手塚 潔, 恩田宗彦, 内藤善哉: 薄切標本における RNA 保持に有用な保存法の検討. 日本病理学会総会 (第 99 回) (東京都), 2010. 4.
 - 24) 藤井雄文, 石渡俊行, 松田陽子, 山本哲志, 山初和也, 河本陽子, 手塚 潔, 鈴木妙子, 川原清子, 内藤善哉: ヒト培養癌細胞移植スードマウス組織における各種固定法の抗原性保持能の検討. 日本病理学会総会 (第 99 回) (東京都), 2010. 4.
 - 25) 鈴木妙子, 石渡俊行, 松田陽子, 山本哲志, 藤井雄文, 山初和也, 河本陽子, 手塚 潔, 川原清子, 内藤善哉: マウス癌細胞移植モデルのパラフィン包埋組織中の RNA 保持に適した固定法の検討. 日本病理学会総会 (第 99 回) (東京都), 2010. 4.
 - 26) 工藤光洋, 手塚 潔, 藤井雄文, 川原清子, 河本陽子, 鈴木妙子, 石渡俊行, 内藤善哉: インスリン産生細胞におけるクラスター形成がインスリン分泌能に与える効果. 日本病理学会総会 (第 99 回) (東京都), 2010. 4.
 - 27) 山初和也^{1, 2)}, 松田陽子¹⁾, 石渡俊行¹⁾, 山本哲志¹⁾, 河本陽子¹⁾, 手塚 潔¹⁾, 相本隆幸²⁾, 中村慶春²⁾, 内田英二²⁾, 内藤善哉¹⁾ (1) 病理学講座 (統御機構・腫瘍学), 2) 外科学講座 (消化器・一般・乳腺・移植部門)): 肺癌における各腫瘍血管マーカーと臨床病理学的因子との関連: Nestin と CD34 陽性血管の比較. 日本病理学会総会 (第 99 回) (東京都), 2010. 4.
 - 28) 石渡俊行¹⁾, 松田陽子¹⁾, 山本哲志¹⁾, 河本陽子¹⁾, 川原清子¹⁾, 恩田宗彦¹⁾, 内田英二²⁾, 内藤善哉¹⁾ (1) 病理学講座 (統御機構・腫瘍学), 2) 外科学講座 (消化器・一般・乳腺・移植部門)): 線維芽細胞増殖因子受容体 (FGFR2 IIIc) を標的とした肺癌治療法の研究. 日本病理学会総会 (第 99 回) (東京都), 2010. 4.
 - 29) 松田陽子¹⁾, 石渡俊行¹⁾, 山本哲志¹⁾, 川原清子¹⁾, 藤井雄文¹⁾, 河本陽子¹⁾, 手塚 潔¹⁾, 鈴木妙子¹⁾, 内田英二²⁾, 内藤善哉¹⁾ (1) 病理学講座 (統御機構・腫瘍学), 2) 臓器病態制御外科学): Nestin 発現制御による肺癌の浸潤, 転移抑制機序の検討. 日本病理学会総会 (第 99 回) (東京都), 2010. 4.
 - 30) 亦野文宏¹⁾, 足立好司¹⁾, 村井保夫¹⁾, 岩本直高¹⁾, 寺本 明¹⁾, 内藤善哉²⁾ (1) 脳神経外科, 2) 病理学講座 (統御機構・腫瘍学)): 短期間に出血を繰り返した anaplastic ependymoma の 1 例. 日本脳腫瘍病理学会 (第 28 回) (大阪), 2010. 5.
 - 31) 足立好司¹⁾, 村井保夫¹⁾, 前田昭太郎¹⁾, 内藤善哉²⁾, 高橋 浩³⁾, 寺本 明¹⁾ (1) 脳神経外科, 2) 多摩永山病院病理部, 3) 病理学講座 (統御機構・腫瘍学)): 急速に増大を示した眼窩内悪性孤立性線維性腫瘍疑いの 1 手術例. 日本脳腫瘍病理学会 (第 28 回) (大阪), 2010. 5.
 - 32) 恩田宗彦¹⁾, 松原美幸²⁾, 許田典男¹⁾, 彭 為霞¹⁾, 河本陽子¹⁾, 土屋眞一²⁾, 内藤善哉¹⁾ (1) 病理学講座 (統御機構・腫瘍学), 2) 付属病院病理部): 内膜細胞診で明細胞腺癌を疑われ生検組織で診断に至った子宮内膜癌の 1 症例. 日本臨床細胞学会総会 (第 51 回) (横浜), 2010. 5.
 - 33) 河本陽子¹⁾, 松原美幸²⁾, 恩田宗彦¹⁾, 彭 為霞¹⁾, 許田典男¹⁾, 土屋眞一²⁾, 内藤善哉¹⁾ (1) 病理学講座 (統御機構・腫瘍学), 2) 付属病院病理部): 細胞診が診断に有用であった胆管癌と膵管内乳頭粘液性腫瘍の重複症例. 日本臨床細胞学会総会 (第 51 回) (横浜), 2010. 5.
 - 34) 許田典男¹⁾, 佐藤春明²⁾, 恩田宗彦¹⁾, 小野ゆり³⁾, 彭 為霞¹⁾, 中溝宗永⁴⁾, 土屋眞一²⁾, 内藤善哉¹⁾ (1) 病理学講座 (統御機構・腫瘍学), 2) 付属病院病理部, 3) 東京警察病院病理診断科, 4) 耳鼻咽喉科・頭頸部外科): 耳下腺 crystalloid granuloma の 1 例. 日本臨床細胞学会総会 (第 51 回) (横浜), 2010. 5.
 - 35) Katayama H¹⁾, Maeda S¹⁾, Hosone M¹⁾, Naito Z²⁾ (1) Department of Pathology, Tama-Nagayama Hospital, 2) Integrative Oncological Pathology): Evaluation of chromogenic in situ hybridization for detecting HER-2 gene status on Fine-needle cytology Specimens in Breast Carcinoma. 日本医学検査学会 (第 59 回) (神戸), 2010. 5.
 - 36) 横田裕行¹⁾, 吉村明修²⁾, 志村俊郎²⁾, 内藤善哉³⁾ (1) 救急医学教室, 2) 教育推進室, 3) 病理学講座 (統御機構・腫瘍学)): シミュレーション医学教育の現状と展望 日本医科大学における臨床実習とシミュレーション. 日本

医学教育学会大会（第42回）（東京都），2010. 7.

- 37) 手塚 潔¹⁾，石渡俊行¹⁾，山本哲志¹⁾，河本陽子¹⁾，川原清子¹⁾，松田陽子¹⁾，内藤善哉¹⁾：神経膠芽腫細胞における Nestin の発現とその役割. 日本癌学会学術総会（第69回）（大阪），2010. 9.
- 38) 山本哲志¹⁾，石渡俊行¹⁾，松田陽子¹⁾，恩田宗彦¹⁾，川原清子¹⁾，内田英二²⁾，内藤善哉¹⁾（¹⁾ 病理学講座（統御機構・腫瘍学），²⁾ 外科学講座（消化器・一般・乳腺・移植部門）：分泌型ルミカンによる膵臓癌細胞増殖への関与. 日本癌学会学術総会（第69回）（大阪），2010. 9.
- 39) 山初和也^{1,2)}，石渡俊行¹⁾，松田陽子¹⁾，山本哲志¹⁾，河本陽子¹⁾，手塚 潔¹⁾，相本隆幸²⁾，中村慶春²⁾，廣井 信²⁾，内田英二²⁾，内藤善哉¹⁾（¹⁾ 病理学講座（統御機構・腫瘍学），²⁾ 外科学講座（消化器・一般・乳腺・移植部門）：各種腫瘍血管マーカーを用いた膵癌腫瘍新生血管と臨床病理学的因子との関連. 日本癌学会学術総会（第69回）（大阪），2010. 9.
- 40) 松田陽子，石渡俊行，山本哲志，河本陽子，藤井雄文，川原清子，内藤善哉：ヒト膵癌培養細胞の3次元培養による細胞形態，細胞骨格タンパクの解析. 日本癌学会学術総会（第69回）（大阪），2010. 9.
- 41) 東 敬子¹⁾，丹野正隆¹⁾，細根 勝¹⁾，片山博徳¹⁾，磯部宏昭¹⁾，柳田裕美¹⁾，川野記代子¹⁾，岩瀬裕美¹⁾，日吾美栄子¹⁾，鈴木美紀¹⁾，前田昭太郎¹⁾，川端伊久乃²⁾，中井章人²⁾，劉 愛民³⁾，内藤善哉³⁾（¹⁾ 多摩永山病院病理部，²⁾ 多摩永山病院女性診療科・産科，³⁾ 病理学講座（統御機構・腫瘍学）：子宮後面に発生した Leiomyomatosis peritonealis disseminata の1例. 日本医科大学医学会総会（第78回）（東京都），2010. 9.
- 42) 片山博徳¹⁾，丹野正隆¹⁾，細根 勝¹⁾，東 敬子¹⁾，磯部宏昭¹⁾，柳田裕美¹⁾，川野記代子¹⁾，岩瀬裕美¹⁾，日吾美栄子¹⁾，鈴木美紀¹⁾，平田知己²⁾，川島徹生²⁾，劉 愛民¹⁾，内藤善哉³⁾（¹⁾ 多摩永山病院病理部，²⁾ 多摩永山病院呼吸器外科，³⁾ 病理学講座（統御機構・腫瘍学）：中皮腫細胞におけるマトリックスメタロプロテアーゼ-9 (MMP-9) の発現と局在. 日本医科大学医学会総会（第78回）（東京都），2010. 9.
- 43) 星本相理¹⁾，羽多野雅貴¹⁾，塩田遼太郎¹⁾，前田基博¹⁾，劉 愛民²⁾，内藤善哉^{2,3)}（¹⁾ 医学部3学年，²⁾ 形態解析共同研究施設，³⁾ 病理学講座（統御機構・腫瘍学）：骨腫瘍における電顕的検索. 日本医科大学医学会総会（第78回）（東京都），2010. 9.
- 44) 前田基博¹⁾，塩田遼太郎¹⁾，羽多野雅貴¹⁾，星本相理¹⁾，劉 愛民²⁾，内藤善哉^{2,3)}（¹⁾ 医学部3学年，²⁾ 形態解析共同研究施設，³⁾ 病理学講座（統御機構・腫瘍学）：軟部腫瘍における電顕的検索. 日本医科大学医学会総会（第78回）（東京都），2010. 9.
- 45) 吉田常恭¹⁾，手塚 潔²⁾，川原清子²⁾，藤井雄文²⁾，河本陽子²⁾，鈴木妙子²⁾，山本哲志²⁾，松田陽子²⁾，石渡俊行²⁾，内藤善哉²⁾（¹⁾ 医学部4学年，²⁾ 病理学講座（統御機構・腫瘍学）：神経膠芽腫細胞における CD44 の発現と，抗 CD44 モノクローナル抗体投与の効果. 日本医科大学医学会総会（第78回）（東京都），2010. 9.
- 46) 三枝英人¹⁾，山口 智¹⁾，門園 修¹⁾，中村 毅¹⁾，小町太郎¹⁾，大久保公裕¹⁾，彭 為震²⁾，内藤善哉²⁾（¹⁾ 耳鼻咽喉科学，²⁾ 病理学講座（統御機構・腫瘍学）：両側同時に感音難聴を発症した髄膜癌腫症の1例. 日本音声言語医学会総会・学術講演会（第55回）（東京都），2010. 10.
- 47) 亀山孝二¹⁾，町田 稔²⁾，清水昭夫³⁾，内藤善哉¹⁾（¹⁾ 病理学講座（統御機構・腫瘍学），²⁾ 国立がんセンターがん予防・検診研究センター，³⁾ 創価大学工学部）：血管障害組織における細胞接着分子 CD44 と関連する IV 型コラーゲンの triple-helix (1263-1277) 領域，機能発現挙動の病理学的検討. 日本脈管学会総会（第51回）（旭川市），2010. 10.
- 48) 町田 稔¹⁾，亀山孝二²⁾，清水昭夫³⁾，内藤善哉²⁾（¹⁾ 国立がんセンターがん予防・検診研究センター，²⁾ 病理学講座（統御機構・腫瘍学），³⁾ 創価大学工学部）：組織構築性病変の間質制御のための hematoporphyrin と IV 型コラーゲンの CD44 細胞接着分子関連機能性ドメインとの光応答性の解析. 日本脈管学会総会（第51回）（旭川市），2010. 10.
- 49) 岩瀬裕美¹⁾，丹野正隆¹⁾，細根 勝¹⁾，片山博徳¹⁾，磯部宏昭¹⁾，柳田裕美¹⁾，日吾美栄子¹⁾，鈴木美紀¹⁾，前田昭太郎¹⁾，内藤善哉²⁾（¹⁾ 多摩永山病院病理部，²⁾ 病理学講座（統御機構・腫瘍学）：術中迅速細胞診の現状

術中迅速診断時における免疫細胞化学の実際と有用性. 日本臨床細胞学会秋期大会 (第 49 回) (神戸), 2010. 11.

- 50) 清水秀樹¹⁾, 前田昭太郎²⁾, 森 修¹⁾, 大秋美治¹⁾, 内藤善哉³⁾ (1) 千葉北総病院病理部, 2) 多摩永山病院病理部, 3) 病理学講座 (統御機構・腫瘍学)): 脳・神経系腫瘍の細胞診断 脳腫瘍希少症例の見方と鑑別診断. 日本臨床細胞学会秋期大会 (第 49 回) (神戸), 2010. 11.
- 51) 片山博徳¹⁾, 丹野正隆¹⁾, 細根 勝¹⁾, 岩瀬裕美¹⁾, 磯部宏昭¹⁾, 柳田裕美¹⁾, 日吾美恵子¹⁾, 鈴木美樹¹⁾, 前田昭太郎¹⁾, 内藤善哉²⁾ (1) 多摩永山病院病理部, 2) 病理学講座 (統御機構・腫瘍学)): 日本肺癌学会細胞診断判定基準改訂委員会報告「胸水細胞診における中皮腫細胞判定基準」中皮腫細胞診の精度を高める標本作製法, 細胞転写法, セルブロック法. 日本臨床細胞学会秋期大会 (第 49 回) (神戸), 2010. 11.
- 52) 菊池友太¹⁾, 松本智司¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 佐々木順平¹⁾, 谷 杏彌¹⁾, 馬越通信¹⁾, 山初和也^{1, 2)}, 内藤善哉²⁾, 内田英二¹⁾ (1) 外科学講座 (消化器・一般・乳腺・移植部門), 2) 病理学講座 (統御機構・腫瘍学)): 直腸癌術後, PET/CT にて側方リンパ節転移再発と診断された良性軟部腫瘍の 1 例. 日本臨床外科学会総会 (第 72 回) (横浜), 2010. 11.

10. 微生物学・免疫学講座

研究概要

当微生物学免疫学講座では「生体防御システムの解明ならびにその制御」を主目的とし、感染症学および感染免疫学腫瘍免疫学あるいはアレルギー・膠原病学などに関連した研究を、特に近年その実態が明らかになって来た「自然免疫」システム、特にその中枢担う樹状細胞との関わりに着目し研究を展開している。

感染症学および感染免疫学：[A] HIV 感染伝播機構の解明とその制御法の開発：(1) HIV 母児感染の鍵を握る母乳中マクロファージ (BrMMφ) 上の TLR3 をそのリガンドである poly (I : C) によって刺激すると、HIV の捕捉因子である DC-SIGN の発現が抑制され、その結果 HIV の感染伝播が阻害されることを見だし報告した。(2) この BrMMφ は自然免疫の中枢を担う樹状細胞の一種であり、この樹状細胞が2種類の抗原提示分子群、すなわち個特異的な MHC 分子を介して T リンパ球を主体とした獲得免疫を、また種特異的な CD1 分子を介して NKT 細胞や $\gamma\delta$ 型 T 細胞群を制御する可能性を見いだした。(3) 腸管などの粘膜組織内に棲息する CD4 陽性 NKT 細胞が HIV の Reservoir となり、ウイルス拡散の鍵を握ることを見いだした。(4) ビロリ菌の菌体表面ウレアーゼによる B-1 細胞を介した自己抗体産生の機序をみいだした。

腫瘍免疫学等：[B] 粘膜免疫を介した抗腫瘍免疫の誘導：(1) 腫瘍細胞上の共刺激因子が腫瘍免疫抑制に作用することを見いだした。(2) 膀胱内 BCG を注入療法が粘膜樹状細胞の選択的活性化によることを解明した。(3) 抗 33D1 抗体による選択的な 33D1 陽性樹状細胞の体内除去により、残存した DEC-205 陽性樹状細胞の選択的活性化が可能であり、このことが腫瘍排除あるいは妊娠個体の胎児の排除に関与することを見いだした。(4) 獲得免疫の中心に位置するキラー T 細胞活性を測定するための新たな手法を開発した。

研究業績

論文

[追加分]

追加分総説：

- 1) 大藪英一：月1回のバリデーショで何がわかるのか。九州 HDF 検討会雑誌 2010；14 (1)：81-86.

追加分原著：

- 1) Takeuchi H, Takahashi M, Norose Y, Takeshita T¹⁾, Fukunaga Y²⁾, Takahashi H (1) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School, 2) Department of Pediatrics, Nippon Medical School) : Transformation of breast milk macrophages by HTLV-I : implications for HTLV-I transmission via breast-feeding. Biomedical Research 2010 ; 31 (1) : 53-61.
- 2) Wakabayashi A, Nakagawa Y, Shimizu M, Takahashi H : Development of anti-tumor immunity by oral vaccination with tumor antigen and cholera toxin. J Nippon Med Sch 2010 ; 77 (1) : 50-52.
- 3) Inaba K¹⁾, Fukazawa Y¹⁾, Matsuda K¹⁾, Himeno A¹⁾, Matsuyama M¹⁾, Ibuki K¹⁾, Miura Y¹⁾, Koyanagi Y¹⁾, Nakajima A¹⁾, Blumberg R¹⁾, Takahashi H, Hayami M¹⁾, Igarashi T¹⁾, Miura T¹⁾ (1) Laboratory of Primate Model, Experimental Research Center for Infectious Diseases, Institute for Virus Research, Kyoto University) : Small intestine CD4+ cell reduction and enteropathy in SHIV-KS661-infected rhesus macaques in presence of low viral load. J Gen Virol 2010 ; 91 (3) : 773-781.

追加分翻訳：

- 1) 新谷英滋：Fibrotic Diseases : Cellular and Molecular Mechanisms and Novel Therapies. Annals of Internal Medicine 2010 ; 152 (3) : 159-166.

- 2) 新谷英滋 : The Ethics of Offering Payment to Living People Who Donate a Kidney. *Annals of Internal Medicine* 2010 ; 152 (6) : 1-46.

(1) 原著 :

- 1) Miyazaki Y, Kamiya S¹⁾, Hanawa T, Fukuda M, Kawakami H, Takahashi H, Yokota H (¹⁾ Department of Infectious Diseases, Kyorin University School of Medicine) : Effect of probiotic bacterial strains of Lactobacillus, Bifidobacterium and Enterococcus on enteroaggregative Echerichia coli. *J Infect Chemother* 2010 ; 16 (2) : 10-18.
- 2) Takaku S, Terabe M¹⁾, Ambrosino E¹⁾, Peng J¹⁾, Lonning S¹⁾, Mcpherson J¹⁾, Berzofsky J¹⁾ (¹⁾ Vaccine Branch, Center for Cancer Research, National Cancer Institute) : Blockade of TGF-beta enhances tumor vaccine efficacy mediated by CD8 (+) T cells. *Int J Cancer* 2010 ; 126 (7) : 1666-1674.
- 3) Takahashi H : Species-specific CD1-restricted innate immunity for the development of HIV vaccine. *Vaccine* 2010 ; 28 (supplement) : B3-B7.
- 4) Moriya K, Wakabayashi A, Shimizu M, Tamura H¹⁾, Dan K¹⁾, Takahashi H (¹⁾ Division of Hematology, Department of Medicine, Nippon Medical School) : Induction of tumor-specific acquired immunity against already established tumors by selective stimulation of innate DEC-205 (+) dendritic cells. *Cancer Immunol. Immunother* 2010 ; 59 (7) : 1083-1095.
- 5) Yagi Y, Watanabe E, Watari E, Shinya E, Satomi M¹⁾, Takeshita T¹⁾, Takahashi H (¹⁾ Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School) : Inhibition of DC-SIGN-mediated transmission of HIV-1 by TLR3 signaling in breast milk macrophages. *Immunology* 2010 ; 130 (4) : 597-607.
- 6) Kondo A¹⁾, Yamashita T¹⁾, Tamura H¹⁾, Zhao W¹⁾, Tsuji T¹⁾, Shimizu M, Shinya E, Takahashi H, Tamada K¹⁾, Chen L¹⁾, Dan K¹⁾, Ogata K¹⁾ (¹⁾ Division of Hematology, Department of Medicine, Nippon Medical School) : Interferon- gamma and tumor necrosis factor-alpha induce an immunoinhibitory molecule, B7-H1, via nuclear factor-kappaB activation in blasts in myelodysplastic syndromes. *Blood* 2010 ; 116 (7) : 1124-1131.
- 7) 高橋秀実 : 免疫力による未病のガンの制御. 未病と抗老化 2010 ; 19 (1) : 24-28.
- 8) 本田和美¹⁾, 井上有紀¹⁾, 大藪英一, 野呂瀬嘉彦, 高橋秀実, 葉山修陽¹⁾ (¹⁾ 越谷大袋クリニック, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院腎臓内科) : 手の衛生手技は透析液の清浄化に不可欠である. *日本透析医学会誌* 2010 ; 43(4) : 361-366.
- 9) 高橋秀実 : 宿主免疫応答と各種病態. *臨床と微生物* 2011 ; 38 (1) : 9-14.

(2) 総説 :

- 1) 大藪英一 : 長期透析症候群 : 新しい治療戦略 細菌感染症. 腎と透析 2010 ; 69 (5) : 609-613.

(3) 翻訳 :

- 1) 新谷英滋 : Osteoporosis Treatment Based on a Woman's Probability of Fracture. *Annals of Internal Medicine* 2010 ; 153 (9) : 1-62.

著書

- 1) 大藪英一, 葉山修陽¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院腎臓内科) : [分担] 細菌検出法の実際 透析室にて可能なメンブレンフィルタ法. 透析液清浄化に向けて (秋澤忠男), 2010 ; pp185-193, 医薬ジャーナル社.
- 2) 高橋秀実 : [分担] 細胞性免疫 (CTL) の誘導と樹状細胞. 臨床粘膜免疫学 (清野宏), 2010 ; pp195-223, シナジー.

学会発表

〔追加分〕

追加分シンポジウム：

- 1) Takahashi H : Selective activation of species-restricted innate immunity for the development of individually restricted acquired immunity. World Immune Regulation Meeting-IV (Davos, Switzerland), 2010. 3.

追加分一般講演：

- 1) Negishi Y, Kumagai Y, Takeshita T¹⁾, Takahashi H : Profiling of decidual and splenic dendritic cells in pregnant mice. World Immune Regulation Meeting-IV (Davos, Switzerland), 2010. 3.
- 2) Yagi Y, Watanabe E, Takahashi M, Watari E, Satomi M¹⁾, Takeshita T¹⁾, Takahashi H : Suppression of DC-SIGN-mediated transmission of HIV-1 by TLR3 signaling in breast milk macrophages. World Immune Regulation Meeting-IV (Davos, Switzerland), 2010. 3.
- 3) Mayumi N, Watanabe E, Yagi Y, Watari E, Takahashi H : Langerin expression on breast milk macrophages under the influence of keratinocytes. World Immune Regulation Meeting-IV (Davos, Switzerland), 2010. 3.
- 4) Omi K, Saito S¹⁾, Shinya E, Shimizu M, Owaki A, Watanabe E, Takahashi M, Takaku C, Ibuki K¹⁾, Miura T¹⁾, Hayami M¹⁾, Takahashi H : Invariant T-cell receptor α -mediated functional cross-reactivity of natural killer T cells among primates and rodents. World Immune Regulation Meeting-IV (Davos, Switzerland), 2010. 3.
- 5) Matsuhashi T, Higuchi T, Shimizu M, Owaki A, Takahashi M, Shinya E, Nishimura T¹⁾, Takahashi H : Possible mechanisms for the inhibition of bladder tumor by intravesical BCG therapy. World Immune Regulation Meeting-IV (Davos, Switzerland), 2010. 3.
- 6) Harimoto H, Shimizu M, Nakatsuka K¹⁾, Dan K¹⁾, Takahashi H : Down-modulation of co-stimulatory molecules on tumor-infiltrating dendritic cells by un-controllable murine hepatoma cells. World Immune Regulation Meeting-IV (Davos, Switzerland), 2010. 3.
- 7) Date T, Moriya K, Wakabayashi A, Takahashi H : Induction of tumor-specific acquired immunity against already established tumors by selective activation of innate DEC-205+ dendritic cells. World Immune Regulation Meeting-IV (Davos, Switzerland), 2010. 3.
- 8) Inagaki S, Takeuchi H, Takahashi M, Norose Y, Takahashi H : Characterization and functional analysis of HTLV-I-transformed breast milk macrophages (HTLV-BrMM ϕ). World Immune Regulation Meeting-IV (Davos, Switzerland), 2010. 3.

追加分特別講演：

- 1) 大藪英一：バリデーション：何の妥当性を検証するのか。第4回大阪清浄化セミナー（大阪），2010. 1.
- 2) 大藪英一：透析室の感染対策をもう一度見直してみませんか。第6回京都透析フォーラム（京都），2010. 2.
- 3) 高橋秀実：Helicobacter pylori 感染と生体応答。第14回小児 Helicobacter pylori 研究会（東京），2010. 3.

(1) 特別講演：

- 1) 高橋秀実：自然免疫を介した生体応答と様々な症候：漢方薬の新たな作用点。平成22年度日本東洋医学会東京京都部会（東京），2010. 10.
- 2) 大藪英一：無菌性保障に向けた細菌培養とその精度管理。第17回九州 HDF 検討会（延岡），2010. 4.
- 3) 大藪英一，葉山修陽¹⁾（¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院腎臓内科）：壁在バイオフィルムを構成する菌と透析液中の菌の関係。第17回九州 HDF 検討会（延岡），2010. 4.
- 4) 大藪英一：保健医療行動としての手洗い講習。第25回日本保健医療行動科学会（前橋），2010. 6.

- 5) 高橋秀実：樹状細胞に関する新たな知見：生体応答と各種の症候，新たな腫瘍制御へのアプローチ，平成 22 年度北区医師会夏の免疫・アレルギーセミナー（東京），2010. 8.
 - 6) 高橋秀実：HIV の現状と対応，平成 22 年度第一回院内感染対策講演会（東京），2010. 9.
 - 7) 高橋秀実：感染症に対する生体応答と各種の症候，第 23 回日本外科感染症学会総会学術集会（東京），2010. 11.
 - 8) 大藪英一：透析液の注射用水レベルに近い管理方法，第 5 回大阪清浄化セミナー（大阪），2010. 12.
 - 9) 高橋秀実：ピロリ菌感染と自己免疫，第 21 回千駄木感染免疫アレルギー研究会（東京），2011. 3.
 - 10) 根岸靖幸：妊娠と樹状細胞，第 21 回千駄木感染免疫アレルギー研究会（東京），2011. 3.
- (2) 教育講演：
- 1) 若林あや子：アレルギーの食品・栄養学・初級編，第 5 期アレルギー大学（千葉），2010. 10.
- (3) シンポジウム：
- 1) 高橋秀実：エイズの現状と対策，第 20 回日本医科大学医学会公開シンポジウム（東京），2010. 6.
 - 2) 高橋秀実：日本医科大学における東洋医学教育の現状と展望，Kampo Medical Symposium 2011，2011. 2.
- (4) セミナー：
- 1) 高橋秀実：日本医科大学における東洋医学に関する教育の現状と展望，第 42 回日本医学教育学会大会，2010. 7.
 - 2) 高橋秀実：日常診療に役立つ漢方医療，東京医科歯科大学（イブニングセミナー）（東京），2010. 10.
- (5) 一般講演：
- 1) Takaku S, Nakagawa Y, Takahashi M, Owaki A, Shimizu M, Takaku C, Takahashi H : Protection of CD8+ CTL apoptosis induced by brief exposure to an antigenic peptide. 14th International Congress of Immunology (Kobe, Japan), 2010. 8.
 - 2) Negishi Y, Kumagai Y, Takeshita T¹⁾, Takahashi H : Internal balance of two distinct subsets of murine dendritic cells during pregnancy. 14th International Congress of Immunology (Kobe, Japan), 2010. 8.
 - 3) Harimoto H, Shimizu M, Nakatsuka K¹⁾, Dan K¹⁾, Takahashi H : Down-modulation of co-stimulatory molecules on tumor-infiltrating dendritic cells by un-controllable murine hepatoma cells. 14th International Congress of Immunology (Kobe, Japan), 2010. 8.
 - 4) Yagi Y, Watanabe E, Watari E, Shinya E, Satomi M¹⁾, Takeshita T¹⁾, Takahashi H : Inhibition of DC-SIGN-mediated transmission of HIV-1 via breast milk macrophages by TLR3 signaling. 14th International Congress of Immunology (Kobe, Japan), 2010. 8.
 - 5) Terabe M¹⁾, Ambrosino E¹⁾, Takaku S, O'konek J¹⁾, Venzon D¹⁾, Lonning S¹⁾, Mcpherson J¹⁾, Berzofsky J¹⁾ (1) Vaccine Branch, Center for Cancer Research, National Cancer Institute) : TGF-beta blockade synergistically enhances tumor vaccine efficacy. The 14 th International Congress of Immunology (Kobe, Japan), 2010. 8.
 - 6) 高橋めぐみ，稲垣真一郎，渡理英二，高橋秀実：HIV-1 感染細胞を傷害する NK レセプター陽性 T 細胞，第 58 回日本ウイルス学会学術集会（徳島），2010. 11.
 - 7) 中川洋子，渡理英二，高橋秀実：Single-color flow cytometry を用いた HIV 外被糖蛋白 gp160 特異的細胞傷害性 T 細胞活性測定法の検討，第 58 回日本ウイルス学会学術集会（徳島），2010. 11.
 - 8) 新谷英滋，清水真澄，大脇敦子，渡邊恵理，高久千鶴乃，松村次郎，Gennaro D¹⁾，高橋秀実 (1) Experimental Immunology, University Hospital, Basel, Switzerland) : Interaction between HIV-1 Nef and the lipid antigen presentation molecules, CD1a and CD1d, in dendritic cells. 第 24 回日本エイズ学会学術集会（東京），2010. 11.
 - 9) 高久千鶴乃，渡邊恵理，大脇敦子，清水真澄，松村次郎，近江恭子，渡理英二，新谷英滋，高橋秀実：Th2 型

環境における CD4 陽性 NKT 細胞の X4 type HIV-1 に対する感受性ならびに感染伝播性の増強. 第 24 回日本エイズ学会学術集会 (東京), 2010. 11.

- 10) 松村次郎, 大脇敦子, 清水真澄, 秋山純一¹⁾, 新谷英滋, 岡 慎一¹⁾, 高橋秀実⁽¹⁾ (国立国際医療センター・エイズ治療研究開発センター): HIV 患者の腸管粘膜感染細胞内に存在するウイルス核酸の実態. 第 24 回日本エイズ学会学術集会 (東京), 2010. 11.
- 11) 高橋秀実, 八木幸恵, 渡邊恵理, 渡理英二, 新谷英滋, 里見操緒¹⁾, 竹下俊行¹⁾: TLR3 シグナルによる母乳中マクロファージの DC-SIGN 分子を介したエイズウイルス感染伝播抑制. 第 24 回日本エイズ学会学術集会 (東京), 2010. 11.

11. 衛生学・公衆衛生学講座

研究概要

各教室員は、衛生学・公衆衛生学の諸領域から、社会医学に関連するテーマを選択して実験および調査研究を行っている。それらの研究は、最終的には「人」を対象とした予防医学研究につながるものである。

共通研究テーマとして、環境アメニティー関連の「森林浴」を取り上げ、本年度は成人男性を対象に、日帰りの森林浴と血圧、耐糖能、脂質値との関連性をフィールドで検討した。

外部研究資金の獲得については、本年度は所属教員およびテクニカルスタッフ計7名が研究代表者として以下の文科省科研費補助金を獲得した。

- ・ 交替制勤務者の睡眠習慣
- ・ インスリン抵抗性とメタボリック症候群に関する研究（基盤（C））（川田智之）
- ・ ヒト血漿中グランザイム3は炎症反応のマーカーとなるか（基盤（C））（稲垣弘文）
- ・ カーバメイト系農薬による免疫毒性及びその機序（基盤（C））（李卿）
- ・ 受動喫煙のストレス評価を唾液中カテコールアミン代謝物等で行う研究（基盤（C））（勝又聖夫）
- ・ ディーゼル排気粒子による酸化ストレスのマウス肺線維症病態への寄与に関する研究（基盤（C））（李英姫）
- ・ 職業性ストレスによる心血管疾患発症機序の解明：マルチバイオマーカーを用いた検討（若手（B））（大塚俊昭）
- ・ 女性、特に妊産婦に対するPOCTを用いたインパクトのある禁煙支援法の構築（基盤（C））（平田紀美子）加えて、講座経費によるプロジェクト型研究として、以下の2件を経費支援した。
- ・ ウイルス肝炎地域流行の追跡調査研究（若山葉子ほか）
- ・ 免疫能測定系としてのグランザイム3活性測定法の確立（平田幸代ほか）

研究業績

論文

〔追加分〕

追加分研究報告書：

- 1) 若山葉子, 武藤三千代¹⁾, 渡部鎌二²⁾ (¹⁾ 日本医科大学スポーツ科学教室, ²⁾ 神奈川県立保健福祉大学) : ラジオ体操継続実施者における腹囲径測定成績の検討. ラジオ体操が身体機能に与える影響についての調査研究平成21年度調査研究報告書 2010.

(1) 原著：

- 1) Kawada T, Inagaki H, Wakayama Y, Li Q, Katsumata M : Serum insulin is significantly related to components of the metabolic syndrome in Japanese working men. J Clin Hypertens 2010 ; 12 (4) : 309-314.
- 2) Li Q, Kobayashi M, Inagaki H, Hirata Y, Li Y, Hirata K, Shimizu T, Suzuki H, Katsumata M, Wakayama Y, Kawada T, Ohira T¹⁾, Matsui N¹⁾, Kagawa T¹⁾ (¹⁾ Forestry and Forest Products Research Institute) : A day trip to a forest park increases human natural killer activity and the expression of anti-cancer proteins in male subjects. J Biol Regul Homeost Agents 2010 ; 24 (2) : 157-167.
- 3) Otsuka T, Kawada T, Ibuki C¹⁾, Seino Y¹⁾ (¹⁾ Cardiovascular Center, Nippon Medical School Chiba-Hokusoh Hospital) : Association between high-sensitivity cardiac troponin T levels and the predicted cardiovascular risk in middle-aged men without overt cardiovascular disease. Am Heart J 2010 ; 159 (6) : 972-978.

- 4) Kawada T : Homeostasis model assessment of insulin resistance, an indicator of insulin resistance, is strongly related to serum insulin : practical data presentation and the mathematical basis. *Metabolism* 2010 ; 59(7) : 1044-1046.
- 5) Kawada T, Otsuka T, Inagaki H, Wakayama Y, Li Q, Li Y, Katsumata M : Association of smoking status, insulin resistance, body mass index, and metabolic syndrome in workers : a one-year follow-up study. *Obes Res & Clin Practice* 2010 ; 4 (3) : e163-e169.
- 6) Kawada T, Otsuka T, Inagaki H, Wakayama Y, Katsumata M, Li Q, Li Y : Association of hematological parameters and uric acid with clustered components of metabolic syndrome among Japanese male workers. *Diabetes Metab Syndr* 2010 ; 4 (3) : 165-167.
- 7) Otsuka T, Kawada T, Ibuki C¹⁾, Kusama Y²⁾ (1) Cardiovascular Center, Nippon Medical School Chiba-Hokusoh Hospital, 2) Department of Internal Medicine and Cardiology, Nippon Medical School Tama-Nagayama Hospital) : Radial arterial wave reflection is associated with the MEGA risk prediction score, an indicator of coronary heart disease risk, in middle-aged men with mild to moderate hypercholesterolemia. *J Atheroscler Thromb* 2010 ; 17 (7) : 688-694.
- 8) Kawada T, Otsuka T, Inagaki H, Wakayama Y, Katsumata M, Li Q, Li Y : A cross-sectional study on the shift work and metabolic syndrome in Japanese male workers. *The Aging Male* 2010 ; 13 (3) : 174-178.
- 9) Kawada T, Otsuka T, Inagaki H, Wakayama Y, Li Q, Li Y, Katsumata M : Increasing in the prevalence of metabolic syndrome among workers according to age. *The aging Male* 2010 ; 13 (3) : 184-187.
- 10) Kawada T, Otsuka T, Inagaki H, Wakayama Y, Li Q, Li Y, Katsumata M : A cross-sectional study on lifestyles and the metabolic syndrome (MetS) components mainly targeting glucose metabolism in Japanese working men. *Diabetes Metab Syndr* 2010 ; 4 (4) : 230-233.
- 11) Otsuka T, Kawada T, Seino Y¹⁾, Ibuki C¹⁾, Katsumata M, Kodani E²⁾ (1) Cardiovascular Center, Nippon Medical School Chiba-Hokusoh Hospital, 2) Department of Internal Medicine and Cardiology, Nippon Medical School Tama-Nagayama Hospital) : Relation of smoking status to serum levels of N-terminal pro-brain natriuretic peptide in middle-aged men without overt cardiovascular disease. *Am J Cardiol* 2010 ; 106(10) : 1456-1460.
- 12) Li Y, Takizawa H¹⁾, Azuma A²⁾, Kohyama T⁴⁾, Yamauchi Y⁴⁾, Takahashi S⁵⁾, Yamamoto M⁶⁾, Kawada T, Kudoh S²⁾, Sugawara I³⁾ (1) Fourth Department of Internal Medicine, Teikyo University, School of Medicine, 2) Department of Pulmonary Medicine/Infection and Oncology, Nippon Medical School, 3) The Research Institute of Tuberculosis, 4) Department of Respiratory Medicine, University of Tokyo, School of Medicine, 5) Institute of Basic Medical Sciences, University of Tsukuba, 6) Department of Biochemistry, Tohoku University Graduate School of Medicine) : Nrf2 is closely related to allergic airway inflammatory responses induced by low-dose diesel exhaust particles in mice. *Clin Immunol* 2010 ; 137 (2) : 234-241.
- 13) Kawada T, Ueda H, Hayashi M, Sakamoto A, Uchida K, Shirato T, Etoh R : Relationship among workload, health complaints, and depressive state of workers as revealed using a questionnaire survey. *Work* 2010 ; 37 (4) : 333-339.
- 14) Kawada T, Suzuki S : Marital Status and Self-Rated Health in Rural Inhabitants in Japan : A Cross-Sectional Study. *Journal of Divorce & Remarriage* 2011 ; 52 (1) : 48-54.
- 15) Kusama Y^{1, 2)}, Kodani E^{1, 2)}, Nakagomi A^{1, 2)}, Otsuka T, Atarashi H^{1, 2)}, Kishida H¹⁾, Mizuno K¹⁾ (1) Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine, Department of Internal Medicine, Graduate School of Medicine, Nippon Medical, 2) Department of Internal Medicine and Cardiology, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital) : Variant Angina and Coronary Artery Spasm : The Clinical

Spectrum, Pathophysiology, and Management. *J Nippon Med Sch* 2011; 78 (1) : 4-12.

- 16) Li Y, Wang X¹⁾, Sato T¹⁾, Kanaji N¹⁾, Nakanishi M¹⁾, Kim M³⁾, Michalski J¹⁾, Nelson A¹⁾, Sun J¹⁾, Farid M¹⁾, Basma H¹⁾, Patil A¹⁾, Toews M²⁾, Liu X¹⁾, Rennard S¹⁾ (1) Department of Pulmonary, Critical Care, and Sleep Medicine, University of Nebraska Medical Center, Omaha, Nebraska, 2) Department of Pharmacology, University of Nebraska Medical Center, Omaha, Nebraska, 3) Department of Internal Medicine, Jeju Medical College, Jeju-Si, Republic of Korea) : Prostaglandin E2 Inhibits Human Lung Fibroblast Chemotaxis through Disparate Actions on Different E-Prostanoid Receptors. *Am J Respir Cell Mol Biol* 2011; 44 (1) : 99-107.
- 17) Kawada T, Inagaki H, Wakayama Y, Katsumata M, Li Q, Li Y, Otsuka T : Depressive state and subsequent weight gain in workers : A 4-year follow-up study. *Work* 2011; 38 (2) : 123-127.
- 18) Kawada T, Shimizu T, Kuratomi Y, Suto S, Kanai T, Nishime A, Nakano N : Monitoring of the sleep patterns of shift workers in the automotive industry. *Work* 2011; 38 (2) : 163-167.
- 19) Nishiyama Y^{1, 2)}, Ueda M¹⁾, Otsuka T, Katsura K¹⁾, Abe A^{1, 2)}, Nagayama H¹⁾, Katayaka Y¹⁾ (1) Division of Neurology, Nephrology and Rheumatology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, 2) Stroke Center, Shioda Hospital) : Statin treatment decreased serum asymmetric dimethylarginine (ADMA) levels in ischemic stroke patients. *J Atheroscler Thromb* 2011; 18 (2) : 131-137.

(2) 総説 :

- 1) Li Y, Takizawa H¹⁾, Kawada T¹⁾ (1) Fourth Department of Internal Medicine, Teikyo University, School of Medicine) : Role of oxidative stresses induced by diesel exhaust particles in airway inflammation, allergy and asthma : their potential as a target of chemoprevention. *Inflamm Allergy Drug Targets* 2010; 300 (4) : 305-309.

(3) 研究報告書 :

- 1) 若山葉子, 武藤三千代¹⁾, 勝又聖夫, 伊藤博子, 川田智之 (1) 日本医科大学スポーツ科学教室) : 高齢者の肥満・血液生化学値の検討 : 運動継続群と一般住民参加者との比較. 高齢者における健康維持増進のための総合的追跡研究 平成 22 年度報告書 2010; 20-22.

(4) コレスポонденス :

- 1) Kawada T : Seasonal change of total sleep time and open air temperature. *Int J Biometeorol* 2010; 54 (5) : 489-489.
- 2) Otsuka T, Kawada T, Ibuki C¹⁾, Seino Y¹⁾ (1) Cardiovascular Center, Nippon Medical School Chiba-Hokusoh Hospital) : Elevation of high-sensitivity cardiac troponin T and composite end points in randomized trials : Author reply. *Am Heart J* 2010; 160 (6) : e49-e49.

(5) レター :

- 1) Kawada T, Otsuka T : Framingham Hypertension Risk Score : the prevalence estimation of hypertension after one year in the population. *J Clin Hypertension* 2010; 12 (10) : 814-815.
- 2) Kawada T : Waist-height ratio, indicator of central obesity, is strongly related to waist circumference but there is poor additional information regarding waist circumference. *Circ J* 2010; 74 (11) : 2501-2501.

著 書

- 1) Li Q : [分担] Apoptosis (Section-III, Chapter 13). *Anticholinesterase Pesticides : Metabolism, Neurotoxicity and Epidemiology* (Satoh T and Gupta R (eds)), 2010; pp165-174, John Wiley & Sons.
- 2) 李 卿, 川田智之 : [分担] 脳の働き. 森林セラピー検定副読本 (村田 泰夫・春日三歩子・河野透編), 2010; pp2-3, 森林セラピーソサエティ.
- 3) 李 卿, 川田智之 : [分担] 自律神経系. 森林セラピー検定副読本 (村田 泰夫・春日三歩子・河野透編),

2010；pp4-5, 森林セラピーソサエティ.

- 4) 李 卿, 川田智之, 佐久間康夫：〔分担〕内分泌系. 森林セラピー検定副読本 (村田 泰夫・春日三歩子・河野透編), 2010；pp6-7, 森林セラピーソサエティ.
- 5) 李 卿, 川田智之：〔分担〕免疫系. 森林セラピー検定副読本 (村田 泰夫・春日三歩子・河野透編), 2010；pp8-9, 森林セラピーソサエティ.
- 6) 李 卿, 川田智之：〔分担〕精神心理・神経系—内分泌系—免疫系」ネットワークへの影響. 森林セラピー検定副読本 (村田 泰夫・春日三歩子・河野透編), 2010；pp10-11, 森林セラピーソサエティ.
- 7) 李 卿, 川田智之：〔分担〕自律神経系及び内分泌系への影響：森林セラピーのリラックス効果. 森林セラピー検定副読本 (村田 泰夫・春日三歩子・河野透編), 2010；pp12-13, 森林セラピーソサエティ.
- 8) 李 卿, 川田智之：〔分担〕免疫機能への効果. 森林セラピー検定副読本 (村田 泰夫・春日三歩子・河野透編), 2010；pp14-15, 森林セラピーソサエティ.
- 9) 若山葉子, 川田智之：〔分担〕1960年代に南関東の一地域に発生した大規模なウイルス肝炎地域流行の長期追跡成績. HCV感染の natural course を探る：わが国におけるコホート研究 (河田純男, 佐田通夫, 新澤陽英, 斎藤貴史), 2010；pp9-13, 山形大学出版会.
- 10) 川田智之：〔分担〕産業保健. シンプル衛生公衆衛生学 2011 (鈴木庄亮・久道茂), 2011；pp273-283, 南江堂.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 李 卿：環境因子が生体の免疫機構に及ぼす影響：プラス影響とマイナス影響の視点から. 第41回日本職業環境アレルギー学会・第57回日本産業衛生学会アレルギー免疫毒性研究会 (高崎), 2010. 7.

(2) シンポジウム：

- 1) Li Q, Kawada T, Kagawa T¹⁾ (1) Forestry and Forest Products Research Institute) : A day trip to a forest park enhances human immune function. XXIII World Congress of the International Union of Forest Research Organizations (IUFRO) (Seoul), 2010. 8.
- 2) 李 英姫, Rennard S¹⁾, 滝澤 始²⁾, 吾妻安良太³⁾, 川田智之, 工藤翔二⁴⁾ (1) Pulmonary and Critical Care Medicine, University of Nebraska Medical Center, 2) 帝京大学 第四内科, 3) 日本医科大学 呼吸器感染腫瘍内科, 4) 結核予防会 複十字病院) : Epithelial-to-Mesenchymal Transition (EMT) におけるヒト気道上皮細胞遊走に対する Prostaglandin (PG) E2 の作用 (サイトカインとメディエータ). 気道分泌研究会 (第30回) (東京), 2010. 4.
- 3) 若山葉子：1960年代に南関東の一地域に発生した大規模なウイルス肝炎地域流行の長期追跡成績 (HCVの Natural course を探る：わが国におけるコホート研究). 日本肝臓学会総会 (第46回) (山形), 2010. 5.
- 4) 李 卿, 川田智之：森林セラピーによる「精神心理・神経系-内分泌系-免疫系」ネットワークへの影響 (シンポジウム名：予防医学の視点から森林セラピーの健康増進・疾病予防効果を検証する). 日本衛生学会学術総会 (第81回) (東京), 2011. 3.

(3) 一般講演：

- 1) Li Q, Kobayashi M, Inagaki H, Hirata Y, Sato S, Ishizaki M, Okamura A¹⁾, Wang D¹⁾, Nakajima T¹⁾, Kamijima M²⁾, Kawada T (1) Nagoya University Graduate School of Medicine, 2) Nagoya City University Graduate School of Medical Sciences) : Effect of oral exposure to fenitrothion and 3-methyl-4-nitrophenol on splenic cell populations and histopathological alterations in spleen in Wistar rats. International Symposium on Occupational and Environmental Allergy and Immune Diseases (ISOEAID'10) (KYOTO, JAPAN), 2010. 4.
- 2) Li Q, Kawada T : Green healthy forest parks make healthy people by healthy participation : Forest environments enhance human immune function. International Healthy Parks Healthy People Congress (Mel-

- bourne, Australia), 2010. 4.
- 3) Li Q, Kobayashi M, Kawada T : Mechanism of carbamate pesticide-induced inhibition of human NK activity. XII International Congress of Toxicology (IUTOX2010) (Barcelona, Spain), 2010. 7.
 - 4) Hirata Y, Inagaki H, Shimizu T, Kobayashi M, Kawada T : Establishment of a new sandwich ELISA system for human granzyme 3. 14th International Congress of Immunology (Kobe), 2010. 8.
 - 5) Inagaki H, Hirata Y, Shimizu T, Kobayashi M, Li Q, Kawada T : Expression of granzyme 3 protein in human peripheral blood lymphocytes analyzed by flow cytometry. 14th International Congress of Immunology (Kobe), 2010. 8.
 - 6) Li Y, Shimizu T, Hirata Y, Inagaki H, Shinkai Y¹⁾, Takeda K¹⁾, Kawada T, Azuma A²⁾, Takizawa H³⁾, Kudoh S⁴⁾ (¹⁾ Hygiene Chemistry, Faculty of Pharmaceutical Sciences, Tokyo University of Sciences, ²⁾ Pulmonary Medicine/Infection and Oncology, Nippon Medical School, ³⁾ Fourth Department of Internal Medicine, Teikyo University, ⁴⁾ Fukujuji Hospital, Anti-Tuberculosis Association) : Diesel exhaust particle exposure influences bleomycin-induced lung fibrosis in mice. 58th American Society of Cytopathology (ASC) (Boston), 2010. 11.
 - 7) Li Q, Kobayashi M, Kawada T : Ziram induces apoptosis in human immune cells. 50th annual meeting of SOT (Society of Toxicology) of USA (Washington DC, USA), 2011. 3.
 - 8) 李 卿, 小林麻衣子, 稲垣弘文, 平田幸代, 李 英姫, 平田紀美子, 清水孝子, 鈴木博子, 勝又聖夫, 若山葉子, 川田智之, 大平辰朗¹⁾, 松井直之¹⁾, 香川隆英¹⁾ (¹⁾ 森林総合研究所) : 日帰り森林浴による生体免疫機能への効果. 日本衛生学会総会 (第80回) (仙台), 2010. 5.
 - 9) 小林麻衣子, 李 卿, 若山葉子, 勝又聖夫, 稲垣弘文, 平田幸代, 李 英姫, 平田紀美子, 五月女孝子, 鈴木博子, 川田智之, 香川隆英¹⁾ (¹⁾ 森林総合研究所) : 日帰り森林浴によるリラックス効果. 日本衛生学会総会 (第80回) (仙台), 2010. 5.
 - 10) 李 卿, 稲垣弘文, 平田幸代, 川田智之, 須田 恵¹⁾, 王 瑞生¹⁾ (¹⁾ (独) 労働安全衛生総合研究所) : 13 週間 ETBE 慢性吸入曝露によるマウス脾臓細胞への影響. 日本産業衛生学会 (第83回) (福井), 2010. 5.
 - 11) 大塚俊昭, 川田智之, 菅 裕彦¹⁾, 北川裕子¹⁾, 矢内美雪¹⁾ (¹⁾ キヤノン株式会社 矢向事業所 健康支援室) : 職域におけるメタボリック・シンドロームの発症率およびメタボリック・シンドローム発症高リスク者の特徴: 縦断的健康診断データを用いた検討. 日本産業衛生学会 (第83回) (福井), 2010. 5.
 - 12) 若山葉子, 伊藤博子, 川田智之, 武藤三千代¹⁾, 渡部隼二²⁾, 渡部月子²⁾ (¹⁾ 日本医科大学スポーツ科学教室, ²⁾ 神奈川県立保健福祉大学) : 中高年を対象とした「運動教室」参加者の健康調査: 一般住民との比較検討. 日本衛生学会総会 (第80回) (仙台), 2010. 5.
 - 13) 李 英姫, 滝澤 始¹⁾, 吾妻安良太²⁾, 菅原 勇³⁾, 川田智之, 工藤翔二⁴⁾ (¹⁾ 帝京大学 第四内科, ²⁾ 日本医科大学 呼吸器感染腫瘍内科, ³⁾ 結核研究所 レファレンスセンター, ⁴⁾ 結核予防会複十字病院) : Nrf2 ノックアウトマウス喘息モデルにおける低濃度ディーゼル排気粒子曝露の気道炎症反応への影響. 日本衛生学会学術総会 (第80回), 2010. 5.
 - 14) 武藤三千代¹⁾, 渡部隼二²⁾, 若山葉子, 川守田千秋²⁾, 渡部月子²⁾ (¹⁾ 日本医科大学スポーツ科学教室, ²⁾ 神奈川県立保健福祉大学) : 高齢者におけるラジオ体操の効果: 体格・生活活動力について. 日本運動・スポーツ科学学会大会 (第17回) (東京), 2010. 6.
 - 15) Li Q, Kobayashi M, Kawada T : Ziram induces apoptosis and necrosis in human immune cells. 日本免疫毒性学会 (第17回) (筑波), 2010. 9.
 - 16) 若山葉子, 川田智之, 武藤三千代¹⁾, 松井知子²⁾, 渡部隼二³⁾ (¹⁾ 日本医科大学スポーツ科学教室, ²⁾ 杏林大学保健学部・健康教育学, ³⁾ 神奈川県立保健福祉大学) : ラジオ体操が身体機能に与える影響についての調査研究. 日本民族衛生学会総会 (第75回) (札幌), 2010. 9.
 - 17) 勝又聖夫, 平田紀美子, 川田智之: 喫煙習慣と唾液中コチニン濃度. 日本公衆衛生学会総会 (第69回) (東京),

2010. 10.

- 18) 平田紀美子, 勝又聖夫, 川田智之: 受動喫煙のストレス評価に用いるための唾液中カテコールアミン代謝物のHPLC分析法. 日本公衆衛生学会総会 (第69回) (東京), 2010. 10.
- 19) 伊藤博子, 勝又聖夫, 川田智之: AUDIT (アルコール症スクリーニングテスト) を用いた作業者の飲酒状況の把握. 日本公衆衛生学会総会 (第69回) (東京), 2010. 10.
- 20) 大塚俊昭, 雪吹周生¹⁾, 清野精彦¹⁾, 小谷英太郎²⁾, 草間芳樹²⁾ (¹⁾ 日本医科大学 千葉北総病院 循環器センター, ²⁾ 日本医科大学 多摩永山病院 内科・循環器科): 「塩辛い食品」摂取状況に関する主観的評価は, 将来の血圧上昇を予測するか?. 日本高血圧学会総会 (第33回) (福岡), 2010. 10.
- 21) 若山葉子, 伊藤博子, 勝又聖夫, 川田智之, 武藤三千代¹⁾, 渡部鎌二²⁾, 渡部月子²⁾ (¹⁾ 日本医科大学スポーツ科学教室, ²⁾ 神奈川県立保健福祉大学): 中高年を対象とした「運動教室」参加者の健康調査: 一般住民の比較検討. 日本公衆衛生学会総会 (第69回) (東京), 2010. 10.
- 22) 武藤三千代¹⁾, 渡部鎌二²⁾, 若山葉子, 松井知子³⁾, 渡部月子²⁾, 川守田千秋²⁾ (¹⁾ 日本医科大学スポーツ科学教室, ²⁾ 神奈川県立保健福祉大学, ³⁾ 杏林大学保健学部・健康教育学): カンボジア・シェムリアップにおける青少年の体格・体力の標準値について. 日本公衆衛生学会総会 (第69回) (東京), 2010. 10.
- 23) 松井知子¹⁾, 渡部鎌二²⁾, 川守田千秋²⁾, 渡部月子²⁾, 武藤三千代³⁾, 若山葉子 (¹⁾ 杏林大学保健学部健康教育学, ²⁾ 神奈川県立保健福祉大学, ³⁾ 日本医科大学スポーツ科学教室): 定期的なラジオ体操励行者の「こころの健康」. 日本公衆衛生学会総会 (第69回) (東京), 2010. 10.
- 24) 勝又聖夫, 平田紀美子, 小林麻衣子, 平田幸代, 稲垣弘文, 川田智之: 唾液中コチニン濃度測定用試験紙の有有用性の検討. 日本禁煙科学学会学術総会 (第5回) (徳島), 2010. 11.
- 25) 勝又聖夫, 平田紀美子, 小林麻衣子, 平田幸代, 稲垣弘文, 川田智之: 禁煙支援などの場で用いる唾液中コチニン濃度測定用試験紙の基礎的検討. 日本産業衛生学会 関東地方会例会 (第251回) (東京), 2010. 12.
- 26) 李 英姫, 清水孝子, 平田幸代, 稲垣弘文, 吾妻安良太¹⁾, 滝澤 始²⁾, 高橋 智³⁾, 山本雅之⁴⁾, 川田智之, 工藤翔二⁵⁾ (¹⁾ 日本医科大学 呼吸器感染腫瘍内科, ²⁾ 帝京大学 第四内科, ³⁾ 筑波大学大学院 解剖学・発生学研究室, ⁴⁾ 東北大学大学院 医化学分野, ⁵⁾ 結核予防会複十字病院): Nrf2欠損マウスにおけるプレオマイシン肺線維症病態. アレルギー・気道上皮細胞研究会学術大会 (第14回) (東京), 2010. 12.
- 27) 大塚俊昭, 李 卿, 香川隆英¹⁾, 小林麻衣子, 若山葉子, 稲垣弘文, 勝又聖夫, 平田幸代, 李 英姫, 平田紀美子, 清水孝子, 鈴木博子, 川田智之 (¹⁾ 森林総合研究所): 健常男性におけるウォーキングがNT-proBNP値におよぼす影響の検討. 日本成人病 (生活習慣病) 学会 (第45回) (東京), 2011. 1.
- 28) 李 卿, 大塚俊昭, 小林麻衣子, 若山葉子, 稲垣弘文, 勝又聖夫, 平田幸代, 李 英姫, 平田紀美子, 清水孝子, 鈴木博子, 川田智之, 香川隆英¹⁾ (¹⁾ 森林総合研究所): 日帰り森林浴による血圧への影響. 日本衛生学会学術総会 (第81回) (東京), 2011. 3.
- 29) 小林麻衣子, 李 卿, 若山葉子, 稲垣弘文, 勝又聖夫, 平田幸代, 李 英姫, 平田紀美子, 五月女孝子, 伊藤博子, 川田智之, 香川隆英¹⁾ (¹⁾ 森林総合研究所): 日帰り森林浴と都市部観光によるリラックス効果の比較. 日本衛生学会学術総会 (第81回) (東京), 2011. 3.
- 30) 平田紀美子, 勝又聖夫, 稲垣弘文, 川田智之: カラムスイッチングシステムを用いたHPLCによる唾液中カテコールアミン代謝物の同時分析法. 日本薬学会 (第131年会) (静岡), 2011. 3.
- 31) 平田幸代, 稲垣弘文, 清水孝子, 川田智之: ヒトGranzyme 3の基質アミノ酸配列の検索. 日本薬学会 (第131年会) (静岡), 2011. 3.
- 32) 李 英姫, 清水孝子, 平田幸代, 稲垣弘文, 新海雄介¹⁾, 武田 健¹⁾, 吾妻安良太²⁾, 滝澤 始³⁾, 川田智之, 工藤翔二⁴⁾ (¹⁾ 東京理科大学 薬学部 衛生化学, ²⁾ 日本医科大学 呼吸器感染腫瘍内科, ³⁾ 帝京大学 第四内科, ⁴⁾ 結核予防会複十字病院): ディーゼル排気粒子のマウスプレオマイシン肺線維症病態への影響. 日本衛生学会学術総会 (第81回) (東京), 2011. 3.

12. 法医学講座

研究概要

1. 臨床法医中毒学

急性薬毒物中毒の疑われる救急患者や法医鑑定の剖検資料に対して、GC/MS, LC/MS, LC/MS/MS等を用いた高精度の薬毒物分析システムの開発に取り組んでいる。また毛髪からの覚醒剤・パラコート等の分析、LC/MSを用いた Tetrodotoxin 等の微量毒物検出法を開発した。

2. トリカブト毒に関する研究

トリカブト毒について、急性中毒・長期投与における生体内での代謝、心機能への影響等について実験的研究を行っている。またLC/MS, GC/MSによる毒物および代謝物の微量定量法の開発、フグ毒との複合作用の解明に取り組んでいる。

3. アルコール代謝

Alc 脱水素酵素 (ADH1・ADH3) の寄与とその調節機構を分子生物学・生化学・薬物動態学的に検討し、Alc 感受性の性差・個体差、Alc 関連障害の機序を培養細胞、ノックアウトマウス、人における飲酒実験で検討している。また培養心筋細胞を用いて、Alc の心臓への影響を、蛍光色素を利用して細胞内小器官および分子レベルで解析している。

4. NMR および MRI を用いた研究

共同利用の NMR 装置を用いて死体の筋肉や脳の代謝物プロファイルと死後硬直などの死体現象の発現との関連を検索し、死後経過時間推定への応用をめざしている。小動物用 MRI 装置を用いて、死亡時および死後画像診断への活用や MRI を用いた死体の温度マッピングに関する基礎的研究を行っている。美容医療後遺症と美容医療材料との関連について形成外科学と、また我々が開発中の臨床応用可能な NMR メタボロミクス的手法を用いて救急医学・小児医学と共同研究を進めている。

5. 法医実務的研究

2003年6月より千葉県警の司法解剖を受託している（日本大学医学部法医解剖室を借用）ので、剖検例にかかわる具体的問題を病理組織学的検討を含めて研究している。またそれ以外の刑事・民事事件についても依頼があれば積極的に対応している。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Kawaguchi H¹⁾, Hirakawa K, Miyauchi K²⁾, Koike K³⁾, Ohno Y, Sakamoto A²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院麻酔科, 2) 日本医科大学付属病院麻酔科, 3) 京都大学初期診療救急医学) : Pattern Recognition Analysis of Proton Nuclear Magnetic Resonance Spectra of Brain Tissue Extracts from Rats Anesthetized with Propofol or Isoflurane. PLoS ONE 2010 ; 5 (6) : e11172.
- 2) Tie J¹⁾, Uchigasaki S¹⁾, Haseba T, Ohno Y, Isahai I¹⁾, Oshida S¹⁾ (1) Division of Legal Medicine, Department of Social Medicine, Nihon University School of Medicine) : Direct and rapid PCR amplification using digested tissues for the diagnosis of drowning. Electrophoresis 2010 ; 31 (14) : 2411-2415.
- 3) Mashimo K^{1,2)}, Sato S³⁾, Adachi A³⁾, Arthur GP¹⁾ (1) Biochemistry and Molecular Biology, Faculty of Life and Physical Sciences, The University of Western Australia, 2) Department of Legal Medicine, Nippon Medical School, 3) Central Institute for Electron Microscopic Researches, Nippon Medical School) : Ethanol De-

creases Cellular Protein Content and Mitochondrial Membrane Potential of Cultured Neonatal Rat Cardiomyocytes : Microassays with Fluorometric and Spectrometric Plate Readers. 日本アルコール・薬物医学会雑誌 (Jpn J Alcohol & Drug Dependence) 2010 ; 45 (6) : 543-556.

- 4) Yamaguchi K, Hayashida M, Hayakawa H¹, Nihira M, Ohno Y (¹ Tsukuba Medical Examiner's Office) : Urinary morphine and codeine concentrations after ingestion of bean-jam buns decorated with poppy seeds. Forensic Toxicology 2011 ; 29 : 69-71.
- 5) 阿部裕子¹, 大嶋俊二¹, 神田智正¹, 長谷場健, 大野曜吉 (¹ アサヒビール (株) 食の基盤技術研究所) : 飲酒条件が細胞内酸化還元度およびアルコール代謝速度に及ぼす影響. アルコールと医学生物学 2010 ; 29 : 1-5.

(2) 総説 :

- 1) Haseba T, Ohno Y : A New View of Alcohol Metabolism and Alcoholism - Role of the High-Km Class III Alcohol Dehydrogenase (ADH3). International Journal of Environmental Research and Public Health (Int. J. Environ. Res. Public Health) 2010 ; 7 : 1076-1092.
- 2) 林田真喜子, 大野曜吉 : 法医学中毒学における質量分析研究の新展開. 日医大医会誌 2011 ; 7 (1) : 8-15.

(3) 論説 :

- 1) 大野曜吉 : 臨床医のための法医学の知識. 宮城県医師会報 2010 ; 779 : 912-914.

著 書

- 1) 長谷場健 : [分担] 第6章 児童福祉・家族福祉と生活指導・対人援助 6-10 アルコール依存症者とその家族への支援「アルコール感受性と依存」. 生活指導事典 : 生活指導・対人援助に関わる人のために (日本生活指導学会), 2010 ; pp240-240, 株式会社エイデル研究所.

学会発表

(1) 一般講演 :

- 1) Kuribayashi H¹, Cui F, Hirakawa K, Kanawaku Y, Ohno Y (¹ Varian Technologies Japan Ltd.) : The Use of MR Thermometry in Legal Medicine : A Feasibility Study utilizing Rat Rectal Temperature. Ismrm-Esmrm Joint Annual Meeting 2010 (Stockholm), 2010. 5.
- 2) Nakata K¹, Sato N¹, Asakura T¹, Hirakawa K, Zhu R¹, Masuno T¹, Ohno Y, Koike K², Yokota H¹ (¹ Nippon Medical School Department of emergency and critical care medicine, ² Kyoto University Department of Primary care and Emergency Medicine) : Pattern recognition using 1H-NMR of the intestinal epithelial cell (IEC-6) under oxidative stress. Shock Society (33rd) (Maryland, USA), 2010. 6.
- 3) Haseba T, Ohkusa M, Tanabe T, Yagi Y, Nakao S, Ye Y, Duester G, Ohno Y : Roles of ADH3 in ethanol metabolism in major organs and in ethanol body distribution : A comparison with ADH1. Isbra World Congress (2010) (パリ), 2010. 9.
- 4) Yamamoto I¹, Haseba T, Ono T, Cui F, Ohno Y, Nakagawa K¹, Ohira H¹, Yamada Y¹ (¹ Department of Dental Sociology, Division of Forensic Medicine, Kanagawa Dental College) : Evaluation of drunkenness by measuring psychomotor vigilance tasks (PVT). ISBRA WORLD CONGRESS (2010) (パリ), 2010. 9.
- 5) 平川慶子 : NMR メタボロミクスを用いた疾患解明システム : 臨床応用をめざして. バイオテクノロジー国際会議 (第9回), 2010. 6.
- 6) Ye Y^{1,2}, Haseba T¹, Ping Hou Y², Ohno Y¹ (¹ Department of Legal Medicine, Nippon Medical School, ² Department of Forensic Biology, West China School of Basic Science and Forensic Medicine, Sichuan University) : Easy and simultaneous detection of ADH1B and ALDH2 polymorphisms. 日本法中毒学会 (第29

年会), 2010. 7.

- 7) Asano T¹⁾, Hirakawa K, Koike K²⁾, Fujita A³⁾, Inagaki S³⁾, Yamanishi M³⁾, Gocho Y³⁾, Kaizu K¹⁾, Kobayashi F³⁾, Hayakawa J³⁾, Narazaki H³⁾, Ueda T³⁾, Maeda M³⁾, Ohno Y, Fukunaga Y³⁾ (1) 日本医科大学付属北総病院小児科, 2) 京都大学初期診療救急医学, 3) 日本医科大学付属病院小児科): Metabolic phenotype of doxorubicin-resistant leukemia cells by the use of NMR Spectroscopy. 日本血液学会総会 (第72回), 2010. 9.
- 8) 野本俊一¹⁾, 小野真平¹⁾, 土肥輝之¹⁾, 奥田貴久¹⁾, 平川慶子, 百束比古¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科): いまだに来診する乳房への古い異物注入症例の検討. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第53回), 2010. 4.
- 9) 野本俊一¹⁾, 小野真平¹⁾, 土肥輝之¹⁾, 奥田貴久¹⁾, 平川慶子, 百束比古¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科): 顔面異物注入後後遺症の検討. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第53回), 2010. 4.
- 10) 八木勇磨, 長谷場健, 田邊智英, 大草幹大, 崔 范来, 小野滝幸, 叶 懿, 大野曜吉, 山本伊佐夫¹⁾, 内ヶ崎西作²⁾ (1) 神奈川歯大, 2) 日大): 呼気中アルコール濃度複数点測定による血中アルコール濃度推定の有用性. 日本法医学会学術全国集会 (第94次), 2010. 6.
- 11) 山本伊佐夫¹⁾, 長谷場健, 小野滝幸, 崔 范来, 大野曜吉, 中川貴美子¹⁾, 大平 寛¹⁾, 山田良広¹⁾ (1) 神奈川歯大): Psychomotor Vigilance Tasks (PVT) を用いた酩酊度の評価法の試み. 日本法医学会学術全国集会 (第94次), 2010. 6.
- 12) 金涌佳雅¹⁾, 平川慶子, 松岡雄一郎²⁾, 黒田 輝^{3,4)}, 大野曜吉, 金武 潤¹⁾ (1) 防衛医大, 2) 神戸大消化器内科学, 3) 東海大情報理工学, 4) 先端医療振興財団神戸医療機器開発センター): MRI を用いた死体内温度分布の実験的連続撮像. 日本法医学会学術全国集会 (第94次), 2010. 6.
- 13) 山口晃志^{1,2)}, 林田真喜子¹⁾, 植草協子¹⁾, 大野曜吉¹⁾, 齋藤一之³⁾ (1) 日医大, 2) 埼玉県警科捜研, 3) 埼玉医大): LC/MS/MS を用いて剖検血液よりムシモール, シルデナフィル, エチゾラム等を検出した1例. 日本法医学会学術全国集会 (第94次), 2010. 6.
- 14) 寺田 賢¹⁾, 林田真喜子, 篠塚達雄²⁾, 田中榮之介³⁾, 佐々木千寿子⁴⁾, 長谷川智華¹⁾, 玉野孔子¹⁾, 栗原克由⁴⁾, 大野曜吉, 黒崎久仁彦¹⁾ (1) 東邦大, 2) 横浜薬大, 3) 昭和大二薬, 4) 北里大): 超高速 LC/MS によるベンゾジアゼピン系薬物及びそれら代謝物の迅速一斉分析. 日本法医学会学術全国集会 (第94次), 2010. 6.
- 15) 新津ひさえ¹⁾, 林田真喜子, 坂 幹樹²⁾, 栗崎恵美子³⁾, 工藤恵子⁴⁾, 出羽厚二¹⁾ (1) 岩手医大, 2) 東大, 3) 福島医大, 4) 九大): 中枢神経作用薬を中心とした220種類医薬品の LC/MS スペクトル情報. 日本法医学会学術全国集会 (第94次), 2010. 6.
- 16) 大嶋俊二¹⁾, 阿部裕子¹⁾, 佐見 学¹⁾, 神田智正¹⁾, 長谷場健, 大野曜吉 (1) アサヒビール (株)・基盤研): 飲酒後のアルコール代謝動態ならびに血液生化学値の変動. 日本法中毒学会 (第29年会), 2010. 7.
- 17) 坂 幹樹¹⁾, 栗崎恵美子²⁾, 工藤恵子³⁾, 寺田 賢⁴⁾, 新津ひさえ⁵⁾, 林田真喜子, 吉田謙一¹⁾ (1) 東大院・法医, 2) 福島医大・法医, 3) 九大院・法医, 4) 東邦大・法医, 5) 岩手医大・法医): 中枢神経作用薬を中心とした216種類医薬品の GC/MS データベース. 日本法中毒学会 (第29年会), 2010. 7.
- 18) 植草協子, 山口晃志, 仁平 信, 林田真喜子, 大野曜吉: ホルマリン臓器中の薬物濃度に関する一考案. 日本法中毒学会 (第29年会), 2010. 7.
- 19) 片山優希¹⁾, 平良尚子¹⁾, 富田ゆかり, 崔 范来, 大野曜吉 (1) 医学部第3学年): 頸部圧迫から脳死に至った司法解剖例. 日本医科大学医学会総会 (第78回), 2010. 9.
- 20) 平川慶子: 核磁気共鳴技術を用いた新しい医学検査と診断技法の開発. イノベーションジャパン2010, 2010. 10.
- 21) 宮内健佑¹⁾, 川口宏志²⁾, 平川慶子, 坂本篤裕¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院麻酔科, 2) 日本医科大学付属北総病院麻酔科): NMR メタボロミクスを用いた麻酔薬のラット脳における作用. 日本静脈麻酔学会 (第17回), 2010. 10.

- 22) 大嶋俊二¹⁾, 増田千晶¹⁾, 阿部裕子¹⁾, 佐見 学¹⁾, 神田智正¹⁾, 長谷場健, 大野曜吉 (¹⁾ アサヒビール (株)・基盤研): 各種飲酒条件におけるアルコール代謝動態 (食事の有無ならびに遺伝子多型での比較). 日本アルコール・薬物医学会総会 (第 45 回), 2010. 10.
- 23) 崔 范来, 舒 永康, 叶 懿, 大野曜吉: 改革中の中国司法鑑定制度の紹介. 日本法医学会学術関東地方集会 (第 79 回), 2010. 10.
- 24) 大野曜吉, 崔 范来, 舒 永康, 山口晃志, 富田ゆかり, 叶 懿, 小野滝幸, 長谷場健, 平川慶子: 病院ベッドでの窒息死の 1 例. 日本法医学会学術関東地方集会 (第 79 回), 2010. 10.
- 25) 大嶋俊二¹⁾, 増田千晶¹⁾, 垣見絵麻¹⁾, 佐見 学¹⁾, 神田智正¹⁾, 長谷場健, 大野曜吉 (¹⁾ アサヒビール (株)・基盤研): 飲酒時の食事摂取がもたらす血中アルコール濃度および AUC の低下は胃内滞留による First Pass Metabolism 亢進が関係する. アルコール医学生物学研究会学術集会 (第 30 回), 2010. 11.
- 26) 浅野 健¹⁾, 平川慶子, 小池 薫²⁾, 藤井博文³⁾, 大野曜吉, 藤田敦士³⁾, 山西未穂³⁾, 牛腸義宏³⁾, 植田高弘³⁾, 前田美穂³⁾, 福永慶隆³⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属北総病院小児科, ²⁾ 京都大学初期診療救急医学, ³⁾ 日本医科大学付属病院小児科): 核磁気共鳴法を用いた薬剤耐性白血病細胞の (代謝) 解析・第 2 報. 日本小児血液・癌学会 (第 50 回), 2010. 12.

13. 医療管理学講座

研究概要

医療管理学は今日ではむしろ医療経営学「医療マネジメント」と捉える方が現状に適している。マネジメントとは、「目的理念に向けて限られた資源の活用をすること」を意味する。そして医療マネジメント学はそれを医療界へ応用することを研究する学問体系である。「臨床レベル」即ち医療者と患者の関係、「病棟レベル」即ち職種間の関係、「病院レベル」即ち病院部門間のレベル、「地域レベル」即ち診療所病院等の施設のレベル、そして「国のレベル」では政策研究となる。教室では各レベルでの研究を進めてきた。「政策研究」は集大成『超高齢社会の医療システムの設計』の研究を更に発展させ、超高齢社会と背後環境との関係の転換即ち『生存転換』の研究を進めている。更にその背景にある人類の歴史「進化生態医学」の大系化を計っている。一方、「病院や病棟」マネジメント研究の集大成は『質効率向上と職種間連携病棟マネジメント』がまとまり、研究成果として、近年の医療崩壊の原因が日本の永い医療の文化に根ざしていることが判明した。「匠と女将の世界」により支えられてきた日本の医療システムが政策や患者の意識の変容により突然崩壊し、その再構築には「信頼のコミュニケーション」による「価値共創組織化」が必要であると判明した。その鍵となる「医療安全」のあり方論に関する研究も同時に行なっている。更に『医療施設内外の連携』の研究も発展させつつある。「医療システム」としてその資源『医師需給』の研究は高齢社会で必要とされる医療システム、医師像や医師の役割を踏まえ、キャリア形成の中で捉える手法を開発しつつある。又、「疾病」マネジメント研究として、「癌」「喘息」「精神」「腎不全」等を対象に研究を進めつつある。その他、近年「医学教育のあり方」に関する研究にも力点をおき、教育手法として『感染症パンデミックのシュミレーション』の研究や『医学教育の歴史』を進めている。

研究業績

論文

(1) 総説：

- 1) 長谷川敏彦：英国における看護師不足解消事例からみる日本のこれから・前編 James Buchan 氏に聞く。看護管理 2010；20（7）：598-601.
- 2) 長谷川敏彦：英国における看護師不足解消事例からみる日本のこれから・後編 James Buchan 氏に聞く。看護管理 2010；20（8）：822-825.
- 3) 秋山健一、藤田昌久¹⁾、加藤貴雄²⁾、長谷川敏彦¹⁾ 日本医科大学付属病院医療安全管理部感染制御室、²⁾ 日本医科大学内科学：日本医科大学における医学生を対象にしたパンデミックドリル。日医大医会誌 2010；6(2)：89-89.
- 4) 長谷川敏彦、長谷川友¹⁾、小林美亜²⁾、本田麻由美³⁾、坂本すが⁴⁾ ¹⁾ 東宝大学医学部、²⁾ 国際医療福祉大学保健医療学部、³⁾ 読売新聞社会保障部、⁴⁾ 東京医療保健大学看護学科：「医療大乱を考える」医療マネジメントの可能性からの模索。医療マネジメント学会雑誌 2010；(11)：121-121.
- 5) 城川美佳¹⁾、藤田 茂¹⁾、瀬戸加奈子¹⁾、松本邦愛¹⁾、平尾智広²⁾、長谷川敏彦、長谷川友紀¹⁾ ¹⁾ 東邦大学医学部、²⁾ 香川大学医学部：米国 AHRQ による医療安全文化評価指標の開発状況と日本への適用可能性について。日本医療マネジメント学会雑誌 2010；11（1）：2-14.
- 6) 藤田 茂¹⁾、平尾、智²⁾、池田俊也³⁾、兼見敏浩⁴⁾、長谷川敏彦、長谷川友紀¹⁾ ¹⁾ 東邦大学医学部、²⁾ 香川大学医学部、³⁾ 国際医療福祉大学薬学部、⁴⁾ 三重大学医学部付属病院：診療記録のレビューにより有害事象を的確かつ効率的に把握するための研究。日本医療マネジメント学会雑誌 2010；10（4）：563-569.
- 7) 松本邦愛¹⁾、北澤健文¹⁾、伊藤慎也¹⁾、瀬戸加奈子¹⁾、長谷川敏彦、長谷川友紀¹⁾ ¹⁾ 東邦大学医学部：日本の

医師不足問題に関する研究. 日本医療マネジメント学会雑誌 2010; 10 (4): 575-582.

- 8) 北澤健文¹⁾, 松本邦愛¹⁾, 伊藤慎也¹⁾, 瀬戸加奈子¹⁾, 長谷川敏彦, 長谷川友紀¹⁾: 都道府県医療費適正化計画の実施状況及び評価に関する研究. 日本医療マネジメント学会雑誌 2010; 10 (4): 583-588.

著書

- 1) Hasegawa T: [共著] Part2 Basic Concept, Change Management Toward Outcome-Oriented and Patient-Centered Care under Limited Resources by Participatory Management through Stepwise Approach. 5S-KAIZEN-TQM, 2010: Japan International Cooperation Agency.
- 2) 長谷川敏彦: [共著] 3. 成長・発達, 加齢/ライフサイクル B. ライフサイクル, ライフコースの概念. 応用栄養学 改訂第3版 (戸谷誠之, 伊藤節子, 渡邊令子編集), 2010: pp72-77, 南江堂.
- 3) 長谷川敏彦: [共著] 第1章 超高齢社会と医療システムの未来の姿. NIRA 報告書「まちなか集積医療」の提言 - 医療は地域が解決する -, (総合開発研究機構編), 2010: 総合開発研究機構.

学会発表

(1) 特別講演:

- 1) 長谷川敏彦: 超高齢社会のビジネスチャンスを探る: 超高齢社会のグランドデザインの研究から. 第18回 Wellbeing 研究会 (財団法人仙台市産業振興事業団主催), 2010. 7.
- 2) 長谷川敏彦: 在宅療養を支える医療・介護サービス整備に向けた課題. (社) 日本経済団体連合会経済政策本部 内部勉強会, 2010. 7.
- 3) 長谷川敏彦: 医療福祉人口連携の未来. 日本医療マネジメント学会 2010年医療福祉連携講習会, 2010. 10.

(2) 招待講演:

- 1) Hasegawa T: Subcommittee "Report on the agendas and participants for the Asian Aging Summit2011", Health and Care Section. Asian Aging Forum2010 (Nagoya), 2010. 10.
- 2) Hasegawa T: Historical Role of East Asian Countries & Japanese Reform toward Super-Aged Society., Creating New Society & Health (Taiwan), 2010. 10.
- 3) Hasegawa, T: JICA Presentation. WHO Proposition for a meeting on the role of hospitals in today's health systems (Geneve), 2010. 10.

(3) 基調講演:

- 1) 長谷川敏彦: 5S-KAIZEN-TQMによる保健医療サービスの質向上. 平成22年度能力強化研修 (社団法人国際交流サービス協会), 2010. 8.
- 2) 長谷川敏彦: 地域医療連携の現状と将来展望. 医療マネジメント学会 2010年度第1回医療連携分科会, 2010. 11.

(4) シンポジウム:

- 1) 長谷川敏彦, 長谷川友紀¹⁾, 小林美亜²⁾, 本田麻由美³⁾, 坂本すか⁴⁾ (1) 東邦大学医学部, 2) 国際医療福祉大学保健医療学部, 3) 読売新聞社会保障部, 4) 東京医療保健大学看護学科): 「医療大乱を考える」医療マネジメントの可能性からの模索. 第12回日本医療マネジメント学会学術総会, 2010. 6.
- 2) 藤谷克己: リスク認識の新たな視点. 第10回危機管理システム研究学会, 2010. 6.
- 3) 長谷川敏彦: 病院の戦略的経営とそこにおける看護職の役割. 平成22年度看護職確保定着推進事業シンポジウム「病院経営と看護職確保, その取り組みについて」, 2010. 9.
- 4) 長谷川敏彦: 医療危機の早期兆候と対応のありかた: 救急問題, 医療崩壊の危険とその兆候, 早期対策の可能性. 第69回日本公衆衛生学会総会, 2010. 10.
- 5) 長谷川敏彦: 健康まちづくりに関するワークショップ企画. 都市住宅学会大会第18回学術講演会, 2010. 11.

- 6) 長谷川敏彦：超高齢社会と四国の公衆衛生－衰退か希望か．第56回四国公衆衛生学会総会，2011．2．
- 7) 長谷川敏彦：医師需給に関するシンポジウム．医師需給研究会，2011．3．
- (5) 一般講演：
- 1) 長谷川敏彦，齊藤壽一¹⁾，山崎純一²⁾，赤池 学¹⁾ (社会保険中央総合病院，²⁾ 東邦大学医学部)：医師の業務量の変化と改善の必要性及び代替可能性の検討．第80回日本衛生学会学術総会，2010．5．
 - 2) 長谷川敏彦，赤池 学，清水佐知子¹⁾ (¹⁾ 大阪大学大学院医学系研究科)：日本の退院患者の将来推計．第80回日本衛生学会学術総会，2010．5．
 - 3) 長谷川敏彦，池田奈由¹⁾，近藤正英²⁾，大久保一郎²⁾ (¹⁾ 東邦大学医学部，²⁾ 筑波大学人間総合科学研究科)：高血圧受療患者推計のメタ分析．第80回日本衛生学会学術総会，2010．5．
 - 4) 赤池 学，鈴木修一，長谷川敏彦：健康と医師数の相関に関する研究．第80回日本衛生学会学術総会，2010．5．
 - 5) 松本邦愛¹⁾，北澤健文¹⁾，長谷川敏彦，長谷川友紀¹⁾ (¹⁾ 東邦大学医学部)：外科医師の需給と地域偏在に関する研究．第12回日本医療マネジメント学会学術総会，2010．6．
 - 6) 平尾智広¹⁾，池田俊也²⁾，小林美亜³⁾，兼兎敏浩⁴⁾，藤田 茂⁵⁾，長谷川友紀⁵⁾，長谷川敏彦 (¹⁾ 香川大学医学部，²⁾ 慶應義塾大学医学部，³⁾ 国際医療福祉大学保健医療学部，⁴⁾ 3重大学医学部附属病院医療安全・感染管理部，⁵⁾ 東邦大学医学部)：GTT (Global Trigger Tool) 日本版の開発について，2010.06.11-12, 北海道・札幌コンベンションセンター．第12回日本医療マネジメント学会学術総会，2010．6．
 - 7) 秋山健一，谷口孝一，藤田昌久¹⁾，藤谷克己，中村房子，鈴木修一，長谷川，敏 (¹⁾ 日本医科大学付属病院医療安全管理部感染制御室)：感染症危機管理シミュレーション訓練の研究．第12回日本医療マネジメント学会学術総会，2010．6．
 - 8) 藤谷克己，赤池 学，長谷川敏彦：インフォームドコンセントと医師業務の負担について．第12回日本医療マネジメント学会学術総会，2010．6．
 - 9) 中村房子，穴見 翠¹⁾，小林美亜²⁾，瀬戸僚馬³⁾，駒崎俊剛³⁾，長谷川，敏 (¹⁾ 国立国際医療センター国際医療協力局，²⁾ 国際医療福祉大学保健医療学部，³⁾ 東京医療保健大学医療保健学部)：安全力の確認のための医療安全ラウンドについての考察．第12回日本医療マネジメント学会学術総会，2010．6．
 - 10) 秋山健一：医学生を対象にしたパンデミックドリル．第4回臨床医学看護教育スキルラボ研究会，2010．6．
 - 11) 秋山健一，長谷川敏彦，谷口孝一，藤谷克己，藤田昌久¹⁾，布施明²⁾，横田裕行²⁾，志村俊郎³⁾ (¹⁾ 日本医科大学医療安全管理部感染制御室，²⁾ 日本医科大学付属病院高度救命救急センター，³⁾ 日本医科大学教育推進室)：日本医科大学における医学生を対象にしたシミュレーション型パンデミックドリル．第42回日本医学教育学会大会，2010．7．
 - 12) 長谷川敏彦，森山葉子¹⁾，平尾智広²⁾ (¹⁾ 東京大学医学部，²⁾ 香川大学医学部)：がん治療評価のための新指標の提案．第69回日本癌学会学術総会，2010．9．
 - 13) 藤谷克己：介護現場における労働安全衛生リスクのマネジメントに関する提言．第69回日本公衆衛生学会，2010．10．
 - 14) 秋山健一，藤田，昌¹⁾，加藤貴雄²⁾，長谷川敏彦 (¹⁾ 日本医科大学付属病院医療安全管理部感染制御室，²⁾ 日本医科大学内科学)：日本医科大学における医学生を対象にしたパンデミックドリル．第12回日本医療マネジメント学会学術総会，2010．11．

14. 基礎医学共同研究利用施設

[実験動物管理室]

研究概要

遺伝性疾患モデル動物の開発、病態解析および原因遺伝子の同定によって疾患の解明・医学研究への貢献を目指して研究を進めている。非肥満2型糖尿病モデル動物である WBN/Kob ラットに Zucker fatty ラット由来の肥満遺伝子を導入した WBN/Kob-fatty コンジェニックラットを確立し、新たな肥満2型糖尿病モデル動物を作成した。膵臓における炎症関連の遺伝子発現、および長期飼育により糖尿病性合併症モデルとしてヒトの病態の理解に資すると考え研究を行っている。さらに WBN/IIa ラットに貧毛遺伝子 Ht を導入した WBN/IIa-Ht ラットはアトピー性皮膚炎のモデルで、TRPV3 遺伝子に変異がある。皮膚炎発症および被毛の病態の起因遺伝子の解明を進めている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Miyamoto A¹), Katsuta Y¹), Zhang X¹), Li H¹), Ohsuga M¹), Komeichi H¹), Shimizu S¹), Akimoto T²), Mizuno K¹) (¹ Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics and Integrated Medicine, Department of Internal Medicine, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, ² Division of Laboratory Animal Science) : Effect of chronic methylene blue administration on hypoxemia in rats with common bile duct ligation. *Hepatol Res* 2010 ; 40 (6) : 622-632.
- 2) Akimoto T¹), Terada M¹), Shimizu A²), Sawai N³), Ozawa H³) (¹ Division of Laboratory Animal Science, ² Department of Analytic Human Pathology, ³ Department of Anatomy and Neurobiology) : The influence of dietary restriction on the development of diabetes and pancreatitis in female WBN/Kob-Fatty rats. *Exp Anim* 2010 ; 59 (5) : 623-630.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 秋元敏雄, 寺田 節 : WBN/Kob-*Lepr^{fa}* コンジェニック系ラットの血液中尿素窒素およびクレアチニン濃度の4ヶ月齢から16ヶ月齢の推移について. 第150回日本獣医学会学術集会(帯広畜産大学), 2010. 9.

[形態解析共同研究施設]

研究概要

本研究施設は平成21年4月より形態解析共同研究施設となり、従来の電顕診断業務、共同研究、研究支援、ならびに電顕試料技術開発に加え新たに形態解析に関する種々の機器(共焦点レーザー顕微鏡、ルミノイメージアナライザー、蛍光イメージアナライザー等)の管理運営も業務の一つとなった。

1. 電子顕微鏡診断：平成22年度は付属4病院から203症例の検体を依頼されており、その対象は腎臓121症例、心臓37症例、脳9症例、腫瘍27症例、その他9症例であった。主に内科、小児科、脳神経外科、整形外科、耳鼻咽喉科、外部関連病院からである。これらの検体は電顕写真となり、これに電顕所見を付けて病理医の診断を得てから依頼各科に返却されている。

2. 独自の研究：臨床に役立つ電顕診断の発展を目指し、生検材料を用いて診断の為の新しい電顕指標を見出す研

究を継続して行っている。腎生検から潜血と密接に関係する thin basement membrane disease や、糖尿病性腎疾患の指標として基底膜の厚さを形態計測して標準化を試みている。

3. 共同研究ならびに技術支援：平成 22 年度は 81 症例 (90 検体) を依頼された。これらの検体は電顕写真とし、電顕所見を付けて各研究者に返却している。これらのうち皮膚科、解析人体病理学などと共同論文として報告している。

4. 教育 (基礎配属)：平成 22 年度の基礎配属では 4 名の学生を受け入れ、それぞれが日本医科大学医学会総会や国外の学術ミーティングに参加し研究成果を発表、報告している。

5. 共同機器管理と運営：平成 21 年度より発足された形態解析共同研究施設管理運営委員会により本研究施設は管理と運営に係わる全般がなされるシステムをとっている。定例の運営委員会で定義された議案は規約にそって教授会に報告され、議事録として保管される。前年度より引き続き共同機器の講習会や使用説明会が必要に応じて開催されており、学内から多くの機器使用希望者の参加を募る機会を設けている。今年度は懸案中であった共同施設に係わる管理規定も確立され、より安定した体制を整えつつある。各機器の利用頻度も高く、今年度は新たに急速凍結装置付き超薄切片作製ミクロトームが導入されたこともあり、形態系の共同利用研究施設として更なる機器管理に努める姿勢を心掛けている。

研究業績

論文

[追加分]

追加分原著：

- 1) Sato S, Yanagihara T¹⁾, Ghazizadeh M²⁾, Ishizaki M³⁾, Adachi A, Sasaki Y, Igarashi T¹⁾, Fukunaga T¹⁾ (1) Department of Pediatrics, Nippon Medical School, 2) Department of Pathology, Nippon Medical School, 3) Department of Molecular Pathology, Institute of Development and Aging Science, Nippon Medical School) : Correlation of autophagy type in podocytes with histopathological diagnosis of IgA nephropathy. *Pathology* 2009 ; 76 (5) : 221-226.

(1) 原著：

- 1) Sato S, Sasaki Y, Adachi A, Ghazizadeh M¹⁾ (1) Department of Molecular Pathology, Institute of Development and Aging Sciences, Graduate School of Medicine) : Validation of glomerular basement membrane thickness changes with aging in minimal change disease. *Pathology* 2010 ; 77 (6) : 315-319.
- 2) Suzuki S¹⁾, Maeda S²⁾, Sasajima K¹⁾, Yoshida H¹⁾, Yokoyama T¹⁾, Maruyama H¹⁾, Matsutani T¹⁾, Liu A, Hosone M²⁾, Tanno M²⁾, Uchida E³⁾ (1) Department of Surgery, Tama-Nagayama Hp., 2) Department of Pathology, Tama-Nagayama Hp., 3) Department of Surgery) : Malignant granular cell tumor in the gluteal region with unusual pathologic features. *International Surgery* 2010 ; 95 (4) : 360-365.
- 3) Omi T¹⁾, Sato S, Naito Z (1) Department of Dermatology, Queen's Square Medical Center) : Histological evidence for skin rejuvenation using a combination of pneumatic energy, broadband light, and growth factor therapy. *J Cosmet Laser Ther* 2010 ; 12 (5) : 222-226.
- 4) Li L¹⁾, Saigusa H¹⁾, Nakazawa Y¹⁾, Nakamura T¹⁾, Komachi T¹⁾, Yamaguchi S¹⁾, Liu A, Sugisaki Y, Shinya E²⁾, Shen H³⁾ (1) Department of Otolaryngology, 2) Department of Microbiology and Immunology, 3) Department of Electronic Diagnosis, Yanbian University, Yanji, China) : A pathological study of bamboo nodule of the vocal fold. *Journal of Voice* 2010 ; 24 (6) : 738-741.
- 5) 松村豪¹⁾, 秋谷昭治¹⁾, 佐々木美香²⁾, 千田勝一²⁾, 佐藤 茂, 高橋常男³⁾, 武井恒知⁴⁾ (1) 埼玉秋谷病院, 2) 岩手医科大学, 3) 神奈川歯科大学, 4) 徳島大学) : 人工的夏眠状態のアフリカ産肺魚呼吸器の形態学的研究. *日本肺サーファクタント・界面医学会雑誌* 2010 ; 41 : 19-23.

学会発表

(1) 招待講演：

- 1) 佐藤 茂：正常ラットの超微形態観察における試料採取の問題点. 電子顕微鏡技術研究会 (122回), 2010. 12.

(2) 一般講演：

- 1) Liu A, Maeda S, Hosone M, Katayama H, Azuma K, Tanno M, Hatano M, Maeda M, Shioda R, Hoshimoto S, Naito Z⁽¹⁾ Department of Pathology) : A definitive diagnosis of malignant mesothelioma based on effusion cytology combining immunocytochemistry and electron microscopy. Korea-Japan Joint Meeting for Diagnostic Cytopathology (The 9th) (Korea), 2010. 11.
- 2) Katayama H⁽¹⁾, Tanno M⁽¹⁾, Liu A, Hosone M⁽¹⁾, Iwase H⁽¹⁾, Maeda S⁽¹⁾, Naito Z⁽²⁾ ⁽¹⁾ Department of Pathology, Tama-Nagayama Hp., ⁽²⁾ Department of Pathology) : Improved cell transfer method for immunocytochemistry and *in situ* hybridization of cytologic samples. Korea-Japan Joint Meeting for Diagnostic Cytopathology (The 9th) (Korea), 2010. 11.
- 3) 前田基博⁽¹⁾, 塩田遼太郎⁽¹⁾, 波多野雅貫⁽¹⁾, 星本相理⁽¹⁾, 劉 愛民, 内藤善哉⁽¹⁾ (日本医科大学医学部第3学年) : 軟部腫瘍における電顕的検索. 日本医科大学医学会総会 (第78回), 2010. 9.
- 4) 星本相理⁽¹⁾, 波多野雅貫⁽¹⁾, 塩田遼太郎⁽¹⁾, 前田基博⁽¹⁾, 劉 愛民, 内藤善哉⁽¹⁾ (日本医科大学医学部第3学年) : 骨腫瘍における電顕的検索. 日本医科大学医学会総会 (第78回), 2010. 9.
- 5) 片山博徳⁽¹⁾, 丹野正隆⁽¹⁾, 細根 勝⁽¹⁾, 東 敬子⁽¹⁾, 磯部宏昭⁽¹⁾, 益田裕美⁽¹⁾, 川野記代子⁽¹⁾, 岩瀬裕美⁽¹⁾, 日吾美栄子⁽¹⁾, 鈴木美紀⁽¹⁾, 川島徹生⁽²⁾, 平田知己⁽²⁾, 劉 愛民, 内藤善哉⁽³⁾ ⁽¹⁾ 多摩永山病院病理部, ⁽²⁾ 多摩永山病院呼吸器外科, ⁽³⁾ 病理学 (統御機構・腫瘍学)) : 中皮腫細胞におけるマトリックスメタロプロテアーゼ-9 (MMP-9) の発現と局在. 日本医科大学医学会総会 (第78回), 2010. 9.
- 6) 東 敬子⁽¹⁾, 丹野正隆⁽¹⁾, 細根 勝⁽¹⁾, 片山博徳⁽¹⁾, 磯部宏昭⁽¹⁾, 柳田裕美⁽¹⁾, 川野記代子⁽¹⁾, 岩瀬裕美⁽¹⁾, 日吾美栄子⁽¹⁾, 鈴木美紀⁽¹⁾, 前田昭太郎⁽¹⁾, 川端伊久乃⁽²⁾, 中井章人⁽²⁾, 内藤善哉⁽³⁾, 劉 愛民 ⁽¹⁾ 多摩永山病院病理部, ⁽²⁾ 多摩永山病院女性診療科・産科, ⁽³⁾ 病理学 (統御機構・腫瘍学)) : 子宮後面に発生した Leiomyomatosis peritonealis disseminate の1例. 日本医科大学医学会総会 (第78回), 2010. 9.
- 7) 松村豪一⁽¹⁾, 秋谷昭治⁽¹⁾, 佐々木美香⁽²⁾, 千田勝一⁽²⁾, 武井恒知⁽²⁾, 高橋常男⁽³⁾, 佐藤 茂 ⁽¹⁾ 秋谷病院, ⁽²⁾ 岩手医科大学, ⁽³⁾ 神奈川歯科大学) : アフリカ産肺魚成体呼吸器の免疫組織化学的研究. 日本肺サーファクタント・界面医学会 学術研究会 (第46回), 2010. 10.
- 8) 松村豪一⁽¹⁾, 秋谷昭治⁽¹⁾, 佐々木美香⁽²⁾, 千田勝一⁽²⁾, 武井恒知⁽²⁾, 高橋常男⁽³⁾, 佐藤 茂 ⁽¹⁾ 秋谷病院, ⁽²⁾ 岩手医科大学, ⁽³⁾ 神奈川歯科大学) : アフリカ産肺魚 (プロトブレリス・エチオピクス) 成体の呼吸器および肺洗浄液の形態学的研究. 日本肺サーファクタント・界面医学会 学術研究会 (第46回), 2010. 10.
- 9) 佐藤 茂, 安達彰子, 佐佐木喜広 : 正常ラットの気管・気管支の超微形態. 日本肺サーファクタント・界面医学会 学術研究会 (第46回), 2010. 10.

[情報科学センター]

研究概要

○ITの教育への活用研究としては、学習マネジメントシステム (LMS) である Jenzabar の利用を進めている他、本学における学生情報環境の充実の為、管理が容易なシンクライアントシステムの先進導入を計り、CBT への利用実績を医療情報学会、情報処理教育研究集会へ報告する事が出来た。

○また一昨年より、最近普及してきたクラウド環境を Google Mail により実現している。アカデミックサービスの利用であったので m セキュリティ上の危惧もあったが、現在の時点では特に問題は生じていない。2011年3月大震災により、クラウド環境の強さが見直されている。

○国際的な大学間ローミングシステム (EDUROAM) 参加を実現し、学内公衆無線 LAN アクセスポイントの建設及び無料利用への道を開いた。2011 年度に本格利用を開始すべく準備中である。

○本年は、目立たぬが拠点間の WAN 回線を 100Mbps に増強している。併せて SINET 接続も 1Gbps での回線を確保できた。また USB メモリー等によるウイルス感染など情報事件は多様性を帯びてきており、今後の携帯、スマートフォン時代の始まりに対しても大きな警戒心を持たねばならない。

○研究活動としては、東海大との人間工学に関する共同研究と、IT の教育への活用の研究がある。東海大とは人間工学的な立場から人の情報処理過程が主な研究を行っている。脳波解析を主要な道具としており、本年は運動残存知覚中及び動的錯視知覚を対象に脳波解析を行い発表する機会が得られた。東海大学との基礎的な研究として、従来はあまり使われていない RAT の脳に電極を埋め込む手技を完成させ、現在 ABR 計測を行っている。RAT への電極埋め込み手技が確立したので、24 時間行動解析を行うビデオシステムと脳波解析システム相互を連携させるシステムの構築を検証中である。

研究業績

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 早坂明哲, 奥重秀彦, 滋野恭子, 伊藤高司：電子メールシステムの変更における情報教育環境の変化。医学教育学会大会 (第 42 回) (東京都 都市センターホテル), 2010. 7.
- 2) 早坂明哲, 奥重秀彦, 滋野恭子, 伊藤高司：クラウドメールシステムへの変更によるコスト削減と運用実施報告。平成 22 年情報教育研究集会 (京都府民総合交流プラザ), 2010. 12.
- 3) 宮本泰介¹⁾, 鈴木大輔¹⁾, 高田峻佑¹⁾, 矢崎幸児¹⁾, 山崎清之¹⁾, 岡本克郎¹⁾, 木村達洋²⁾, 伊藤高司, 早坂明哲, 田所裕之¹⁾ (1) 東海大学開発工学部医用生体工学科, 2) 東海大学開発工学部情報通信工学科)：ラット脳波の 24 時間計測システムの構築。平成 22 年度日本生体医工学会東海支部大会 (愛知県名古屋市 スズケン本社ビル), 2010. 10.
- 4) 鈴木大輔¹⁾, 宮本泰介¹⁾, 高田峻佑¹⁾, 矢崎幸児¹⁾, 山崎清之¹⁾, 岡本克郎¹⁾, 木村達洋²⁾, 伊藤高司, 早坂明哲, 田所裕之¹⁾ (1) 東海大学開発工学部医用生体工学科, 2) 東海大学開発工学部情報通信工学科)：イソフルランの気化濃度変化によるラットの ABR 波形の変化。平成 22 年度日本生体医工学会東海支部大会 (愛知県名古屋市 スズケン本社ビル), 2010. 10.
- 5) 高田峻佑¹⁾, 宮本泰介¹⁾, 鈴木大輔¹⁾, 矢崎幸児¹⁾, 山崎清之¹⁾, 岡本克郎¹⁾, 木村達洋²⁾, 伊藤高司, 早坂明哲, 田所裕之¹⁾ (1) 東海大学開発工学部医用生体工学科, 2) 東海大学開発工学部情報通信工学科)：イソフルランの気化濃度変化によるラットの ABR 波形の変化。平成 22 年度日本生体医工学会東海支部大会 (愛知県名古屋市 スズケン本社ビル), 2010. 10.
- 6) 宮本泰介¹⁾, 木村達洋²⁾, 鈴木大輔¹⁾, 高田峻佑¹⁾, 矢崎幸児¹⁾, 早坂明哲, 伊藤高司, 金井直明¹⁾, 山崎清之¹⁾, 岡本克郎¹⁾, 田所裕之¹⁾ (1) 東海大学開発工学部医用生体工学科, 2) 東海大学開発工学部情報通信工学科)：ラット脳波・行動観察の 24 時間計測システムの構築。'10 SAS Intelligent Symposium (東海大学湘南校舎), 2010. 11.
- 7) 高田峻佑¹⁾, 木村達洋²⁾, 宮本泰介¹⁾, 鈴木大輔¹⁾, 矢崎幸児¹⁾, 早坂明哲, 伊藤高司, 山崎清之¹⁾, 岡本克郎¹⁾, 田所裕之¹⁾ (1) 東海大学開発工学部医用生体工学科, 2) 東海大学開発工学部情報通信工学科)：ラットの脳波と活動状態の関連性についての検討。'10 SAS Intelligent Symposium (東海大学湘南校舎), 2010. 11.
- 8) 矢崎幸児¹⁾, 木村達洋²⁾, 鈴木大輔¹⁾, 高田峻佑¹⁾, 宮本泰介¹⁾, 早坂明哲, 伊藤高司, 山崎清之¹⁾, 岡本克郎¹⁾, 田所裕之¹⁾ (1) 東海大学開発工学部医用生体工学科, 2) 東海大学開発工学部情報通信工学科)：イソフルランの気化濃度変化が及ぼすラットの聴覚脳幹誘発電位への影響。'10 SAS Intelligent Symposium (東海大学湘南校舎), 2010. 11.
- 9) 鈴木大輔¹⁾, 宮本泰介¹⁾, 高田峻佑¹⁾, 矢崎幸児¹⁾, 森本友哉¹⁾, 木村達洋²⁾, 早坂明哲, 伊藤高司, 山崎清之¹⁾, 岡本克郎¹⁾, 田所裕之¹⁾ (1) 東海大学開発工学部医用生体工学科, 2) 東海大学開発工学部情報通信工学科)：麻酔機序の違いによるラット ABR 波形の変化。'10 SAS Intelligent Symposium (東海大学湘南校舎), 2010. 11.

〔3〕臨 床 医 学

1. 内科学講座（循環器・肝臓・老年・総合病態部門）

〔付属病院一般内科，循環器内科，肝臓内科，再生医療科〕

研究概要

内科学第一教室では循環器病学，肝臓病学，再生医学，糖尿病学を中心に以下に示すような臨床的，基礎的研究を行った。

循環器病学では，不整脈に関する研究として，(1) 心拍変動周波数解析などの数理学的手法，薬理学的手法を用いた自律神経系と不整脈，突然死発生との関連の検討，(2) 抗不整脈薬の電気生理学的作用，臨床効果の検討，(3) 各種不整脈に対するカテーテルアブレーション治療，(4) 失神患者における自律神経機能の評価，(5) 加算平均心電図法を用いた不整脈発生機序の検討。

虚血性心疾患，心筋疾患に関する研究として，(1) 薬剤負荷心エコー図法による viable myocardium，心筋虚血の検出，(2) 虚血性心疾患における圧受容体反射，(3) 虚血性心疾患における血管反応性と自律神経機能との関連，(4) 虚血心筋保護法の検討，(5) 虚血性心疾患，心筋疾患における成長因子，細胞増殖因子の検討，(6) 睡眠時無呼吸症候群と循環器疾患，(7) 血管内視鏡や OCT による冠動脈内画像診断，(8) 肥満心筋症の電子顕微鏡的検討。

肝臓病学では，(1) 門脈圧亢進症の病態，薬物療法に関する検討，(2) 門脈圧亢進症における血管作動物質の動態，(3) SSM (丸山ワクチン) によるサイトカイン産生，(4) 慢性肝疾患における肺循環異常，(5) 2 次性胆汁性肝硬変動物モデルで動脈血酸素化と NO の関係。

糖尿病学では，(1) 冠動脈疾患とインスリン抵抗性，(2) 糖尿病患者における自律神経機能，(3) 無症候性心筋虚血の病態，を検討している。

再生医学は骨髓細胞移植を用いた末梢性血管疾患および重症心不全，虚血性心筋症の心臓へ骨髓細胞を移植する心筋再生療法を行っている。2008 年日本医科大学は医療特区に認められ，再生医療の分野において基礎研究の成果がこれまで以上のスピードで臨床研究されることが期待される。さらに日本獣医生命科学大学との共同研究で免疫抑制剤不要のバイオ人工臓の開発も研究中である。

研究業績

論文

〔追加分〕

追加分総説：

- 1) Takano M¹⁾, Mizunom K (1) Chiba-Hokusoh Hospital) : Evaluation of Atherosclerotic Lesion and Implanted Stent by Coronary Angioscopy. 日本冠疾患学会雑誌 2010 ; 16 (1) : 80-86.
- 2) 石川正也¹⁾, 佐藤直樹²⁾ (1) 石川クリニック, 2) 集中治療室) : 救急外来での病態把握 超急性期の血圧の意義について (クリニカルシナリオを含む). 救急・集中治療 2010 ; 22 (1.2) : 20-25.

追加分原著：

- 1) Mizuno M¹⁾, Takano M²⁾, Mizuno K (1) Radiology Center, Chiba-Hokusoh Hospital, 2) Chiba-Hokusoh Hospital) : The effects of drug-eluting stent polymer on measurement of strut thickness by optical coherence tomography : in-vitro comparison with bare-metal stent. Int J of Cardiol 2010 ; 145 (1) : 48-49.
- 2) Takano M¹⁾, Yamamoto M¹⁾, Murakami D¹⁾, Takano H, Asai K, Yasutake M, Seino Y¹⁾, Mizuno K (1) Chiba-Hokusoh Hospital) : Optical Coherence tomography after new scoring balloon angioplasty for in-stentrestenosis and de novo coronary lesion. Int J of Cardiol 2010 ; 141 (3) : 51-53.
- 3) Ogano M, Iwasai Y, Morita N, Tanabe J, Shiiba K, Miyauchi Y, Kobayashi Y, Tanaka K, Katoh T,

Mizuno K : Proarrhythmic ECG deterioration caused by myocardial ischemia of the conus branch artery in patients with a Brugada ECG pattern. *Pacing Clin Electrophysiol (E-Pub)* 2010 ; 34 (3) : e26-e29.

- 4) 川本智章, 山内 篤¹⁾, 金子恵子, 宮城直也²⁾, 可児和仁²⁾, 青山 徹²⁾, 石田周幸²⁾, 知念克哉²⁾, 平井紗弥可²⁾, 林健次郎²⁾, 天野芙美²⁾, 小坂橋絵里²⁾, 原田舞子²⁾, 大野志乃²⁾, 櫻田智也²⁾, その他1名 (¹⁾ さいたま寄居病院 内科, ²⁾ 埼玉医科大学総合医療センター 消化器肝臓内科) : ラジオ波焼灼療法およびエタノール注入療法における点状高エコー領域の違い. *J Microwave Surg* 2010 ; 28 (4) : 39-42.

(1) 原著 :

- 1) Kawamoto C, Yamauchi A¹⁾, Baba Y²⁾, Kaneko K, Yakabi K²⁾ (¹⁾ さいたま寄居病院 内科, ²⁾ 埼玉医科大学総合医療センター 消化器肝臓内科) : Measurement of intrahepatic pressure during radiofrequency ablation in porcine liver. *J Gastroenterol* 2010 ; 45 (4) : 435-442.
- 2) Yamashita T, Seino Y¹⁾, Ogawa A, Ogata K, Fukushima M, Tanaka K²⁾, Mizuno K (¹⁾ Chiba-Hokusoh Hospital, ²⁾ CCU) : N-terminal pro-BNP is a novel biomarker for integrated cardio-renal burden and early risk stratification in patients admitted for cardiac emergency. *J of Cardiol* 2010 ; 55 (3) : 377-383.
- 3) Fujimoto H, Honma H, Ohno T, Mizuno K, Kumita S¹⁾ (¹⁾ Department of Radiology) : Longitudinal Doppler strain measurement for assessment of damaged and/or hibernating myocardium by dobutamine stress echocardiography in patients with old myocardial infarction. *J Cardiol* 2010 ; 55 (3) : 309-316.
- 4) Sato N¹⁾, Kajimoto K¹⁾, Asai K, Mizuno M²⁾, Minami Y²⁾, Nagashima M²⁾, Murai K¹⁾, Munakata T¹⁾, Yumino D²⁾, Meguro T³⁾, Kawana M⁴⁾, Nejima J⁵⁾, Satoh T⁶⁾, Mizuno K, Tanaka K¹⁾, et al. (¹⁾ Intensive and Cardiac Care Unit, ²⁾ Sensoji Hospital, ³⁾ Tokyo Women's Medical University, ⁴⁾ Tokyo Denryoku Hospital, ⁵⁾ Tokyo Women's Medical University, Aoyama Hospital, ⁶⁾ Tsurumi University School of Dental Medicine) : Acute decompensated heart failure syndromes (ATTEND) registry. A prospective observational multicenter cohort study : rationale, design, and preliminary data. *Am Heart J* 2010 ; 159 (6) : 950-955.
- 5) Honma H, Ohno T, Fujimoto H, Matsuzaki T¹⁾, Murata H, Mizuno K (¹⁾ Laboratory of Ultrasonography) : Evaluation of the elastic properties of the thoracic descending aorta with strain-rate measurement with transesophageal echocardiography : its correlation with the left ventricular diastolic function assessed with transthoracic echocardiography. *J Nippon Med Sch* 2010 ; 77 (3) : 145-154.
- 6) Saito T, Saito T¹⁾, Sugiyama S¹⁾, Asai K, Yasutake M, Mizuno K (¹⁾ グッドスリープクリニック) : Effects of long-term treatment for obstructive sleep apnea on pulse wave velocity. *Hypertens Res* 2010 ; 33 (8) : 844-849.
- 7) Nakagomi A¹⁾, Seino Y²⁾, Endoh Y¹⁾, Kusama Y¹⁾, Atarashi H¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Tama-Nagayama Hospital, ²⁾ Chiba-Hokusoh Hospital) : Upregulation of monocyte proinflammatory cytokine production by C-reactive protein is significantly related to ongoing myocardial damage and future cardiac events in patients with chronic heart failure. *J Card Fail* 2010 ; 16 (7) : 562-571.
- 8) Shibui T¹⁾, Nakagomi A¹⁾, Kusama Y¹⁾, Atarashi H¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Tama Nagayama Hospital) : Impact of statin therapy on renal function and long term prognosis in acute coronary syndrome patients with chronic kidney disease. *Int Heart J* 2010 ; 51 (5) : 312-318.
- 9) Hosokawa Y¹⁾, Kodani E¹⁾, Kusama Y¹⁾, Kamiya M¹⁾, Yoshikawa M¹⁾, Hirasawa Y¹⁾, Nakagomi A¹⁾, Atarashi H¹⁾, Maeda S²⁾, Mizunom K (¹⁾ Tama Nagayama Hospital, ²⁾ Department of Pathology, Tama Nagayama Hospital) : Cardiac angiosarcoma diagnosed by transvenous endomyocardial biopsy with the aid of transesophageal echocardiography and intra-procedural consultation. *Int Heart J* 2010 ; 51 (5) : 367-

- 10) Osaka M, Watanabe E, Murata H, Fuwamoto Y, Nanba S, Sakai K, Katoh T : V-shaped trough in autonomic activity is a possible precursor of life-threatening cardiac events. *Circ J* 2010 ; 74 (9) : 1906-1915.
- 11) Saito T, Miura D¹⁾, Taguchi M²⁾, Takeshita A²⁾, Myakawa M²⁾, Takeuchi Y²⁾ (1) 虎の門病院内分泌外科, 2) 虎の門病院内分泌代謝科) : Coincidence multiple endocrine neoplasm IIA with acromegaly. *Am J Med Sci* 2010 ; 340 (4) : 329-331.
- 12) Takano M¹⁾, Yamamoto M¹⁾, Mizuno M²⁾, Murakami D¹⁾, Inami T¹⁾, Kimata N¹⁾, Murai K¹⁾, Kobayashi N³⁾, Okamatsu K¹⁾, Ohba T¹⁾, Seino Y¹⁾, Mizuno K (1) Chiba-Hokusoh Hospital, 2) Radiology Center, Chiba-Hokusoh Hospital, 3) Div of Intensive Care Unit, Chiba-Hokusoh Hospital) : Late vascular responses from 2 to 4 years after implantation of sirolimus-eluting stents : Serial observations by intracoronary optical coherence tomography. *Circ Cardiovasc Intervent* 2010 ; 3 (5) : 476-489.
- 13) Shirakabe A¹⁾, Hata N¹⁾, Yokoyama S¹⁾, Shinada T¹⁾, Kobayashi N¹⁾, Asai K, Mizuno K (1) Division of Intensive Care Unit, Chiba-Hokusoh Hospital) : Efficacy and safety of nicorandil therapy in patients with acute heart failure. *J of Cardiol* 2010 ; 56 (3) : 339-347.
- 14) Takano M¹⁾, Yamamoto M¹⁾, Seino Y¹⁾, Mizuno K (1) Chiba-Hokusoh Hospital) : Neovascular microchannels in sirolimus-eluting stent occlusion at late phase. *JACC* 2010 ; 3 (11) : 1202-1203.
- 15) Wang Z, Inami S, Kiinoki S, Yamamoto E, Takagi G, Aoki S, Kato K, Takano H, Asai K, Yasutake M, Takano M¹⁾, Yamamoto M¹⁾, Ohba T¹⁾, Mizuno K (1) Chiba-Hokusoh Hospital) : Angioscopic study of silent plaque disruption in nonischemic related coronary artery in patients with stable ischemic heart disease. *Int Hear J* 2010 ; 51 (6) : 383-387.
- 16) Shirakabe A¹⁾, Asai K, Hata N¹⁾, Yokoyama S¹⁾, Shinada T¹⁾, Kobayashi N¹⁾, Mizuno K (1) Intensive Care Unit, Chiba-Hokusoh Hospital) : Clinical significance of matrix metalloproteinase (MMP) -2 in patients with acute heart failure. *Int Hear J* 2010 ; 51 (6) : 383-387.
- 17) Ibuki C¹⁾, Kawamata H²⁾, Seino Y¹⁾, Mizuno K (1) Chiba-Hokusoh Hospital, 2) Department of radiology, Chiba-Hokusoh Hospital) : Successful blood pressure control with additive administration of eplerenone an aldosterone receptor blocker in a patient with bilateral renovascular hypertension treated with angioplasty. *Intern Med* 2010 ; 49 (22) : 2455-2459.
- 18) Yamamoto M¹⁾, Takano M¹⁾, Murakami D¹⁾, Okamatsu K¹⁾, Seino Y¹⁾, Mizuno K (1) Chiba-Hokusoh Hospital) : Comparative angioscopic evaluation of neointimal coverage and thrombus between TAXUS-Epress and TAXUS-Liverte stents : is the stent platform type associated with the vascular response?. *Int J of Cardiol* 2010 ; 145 (3) : 587-589.
- 19) Takano M¹⁾, Yamamoto M¹⁾, Seino Y¹⁾, Mizuno K (1) Chiba-Hokusoh Hospital) : Thrombus in sirolimus-eluting stent identified by optical coherence tomography. *Clinical Cardiology* 2010 ; 33 (12) : 60-60.
- 20) Kobayashi N¹⁾, Takano M²⁾, Hata N¹⁾, Yamamoto M²⁾, Shinada T¹⁾, Takahashi T¹⁾, Tomita K¹⁾, Kitamura M¹⁾, Kurihara O¹⁾, Mizuno K (1) Intensive Care Unit, Chiba-Hokusoh Hospital, 2) Chiba-Hokusoh Hospital) : Recurrent very late thrombosis of drug-eluting stent : optical coherence tomography findings. *J of Cardiol Cases* 2010 ; 2 (3) : 166-169.
- 21) Yamashita T, Inoue I, Okumura K, Kodama I, Aizawa Y, Atarashi H, Ohe T, Ohtsu H, Katoh T, Kamakura S, Kumagai K, Kurachi Y, Koretsune Y, Saikawa T, Sakurai M, et al. : Randomized trial of angiotensin II-receptor blocker vs. dihydropyridine calcium channel blocker in the treatment of paroxysmal atrial fibrillation with hypertension (J-RHYTHM II Study). *Europace (E-Pub)* 2010 ; 4 : 437-479.
- 22) Shiga T, Tanaka K, Kato R, Amino M, Matudo Y, Honda T, Sagara K, Takahashi A, Katoh T,

- Urashima M, Ogano S, Takano T, Kasanuki H : Nifekalant versus lidocaine for in-hospital shock-resistant ventricular fibrillation or tachycardia. *Resuscitation* 2010 ; 81 (1) : 47-52.
- 23) Otsuka T, Miyachi H, Ibuki C, Toba M¹⁾, Tokuyama K, Ishii K, Kodani E, Kusama Y, Atarashi H, Kishida H, Mizuno K (¹⁾ Department of Radiology, Tama Nagayama Hospital) : A typical exercise stress myocardial perfusion SPECT imaging in a patient with effort angina pectoris. *Circ J* 2011 ; 75 (1) : 218-220.
- 24) Shirakabe A¹⁾, Hata N¹⁾, Yokoyama S¹⁾, Shinada T¹⁾, Konbayashi N¹⁾, Tomita K¹⁾, Kitamura M¹⁾, Nozaki A¹⁾, Tokuyama H¹⁾, Asai K, Mizuno K (¹⁾ Intensive care unit, Chiba-Hokusoh Hospital) : Predicting the success of noninvasive positive pressure ventilation in emergency room for patients with acute heart failure. *J of Cardiol* 2011 ; 57 (1) : 107-114.
- 25) Tara S, Miyamoto M, Takagi G, Fukushima Y, Kirinoki S, Takano H, Takagi I, Mizuno H, Yasutake M, Kumita S, Mizuno K : Prediction of Limb Salvage after Therapeutic Angiogenesis by Autologous Bone Marrow Cell Implantation in Patients with Critical Limb Ischemia. *The Annals of Vascular Diseases* 2011 ; 4 (1) : 24-31.
- 26) Yamamoto M¹⁾, Takano M¹⁾, Murakami D¹⁾, Inami T¹⁾, Kimata N¹⁾, Inami S, Okamatsu K¹⁾, Ohba T¹⁾, Seino Y¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Chiba-Hokusoh Hospital) : Optical coherence tomography analysis for restenosis of drug-eluting stents. *Int J of Cardiol* 2011 ; 146 (1) : 100-103.
- 27) Katoh T, Ueno A, Tanaka K, Suto J, Wei D : Clinical significance of synthesized posterior/right-sided chest lead electrocardiograms in patients with acute chest pain. *J Nippon Med Sch* 2011 ; 78 (1) : 22-29.
- 28) Aoki S, Nakagomi A¹⁾, Asai K, Takano H, Yasutake M, Seino Y²⁾, Mizuno K (¹⁾ Tama Nagayama Hospital, ²⁾ Chiba-Hokusoh Hospital) : Elevated peripheral blood mononuclear cell count is an independent predictor of left ventricular remodeling in patients with acute myocardial infarction. *J Cardiol* 2011 ; 57 (2) : 202-207.
- 29) Yamamoto M¹⁾, Takano M¹⁾, Murakami D¹⁾, Inami T¹⁾, Kobayashi N²⁾, Shirakabe A²⁾, Inami S, Okamatsu K¹⁾, Ohba T¹⁾, Aoki S, Seino Y¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Chiba-Hokusoh Hospital, ²⁾ Intensive Care Unit, Chiba-Hokusoh Hospital) : Impact of small thrombus formation in restenotic bare-metal stent lesions associated with acute coronary syndrome : Identification by optical coherence tomography. *Int J of Cardiol* 2011 ; 149 (2) : 169-173.
- 30) 宮城直也¹⁾, 川本智章, 山内 篤²⁾, 小坂橋絵里¹⁾, 原田舞子¹⁾, 林健次郎¹⁾, 天野美美¹⁾, 青山 徹¹⁾, 可児和仁¹⁾, 平井紗弥可¹⁾, 知念克哉¹⁾, 石田周幸¹⁾, 櫻田智也¹⁾, 山本龍一¹⁾, 大野志乃¹⁾, その他4名 (¹⁾ 埼玉医科大学総合医療センター 消化器肝臓内科, ²⁾ さいたま寄居病院 内科) : 肝細胞癌に対するマイクロ波凝固治療後11年間長期生存の1例. *J Microwave Surg* 2010 ; 28 (4) : 87-90.
- 31) 相澤義房, 井上 博, 小川 聡, 奥村 謙, 加藤貴雄, 鎌倉史郎, 住友直方, 新田 隆, 堀江 稔, 松崎益徳, 三崎拓郎, 三田村秀雄, 村川裕二, 吉永正夫 : 心臓突然死の予知と予防法のガイドライン (2010年改訂版). *Circ J* 2010 ; 74 ((suppl II)) : 1-49.
- 32) 児玉逸雄, 相澤義房, 新 博次, 井上 博, 小川 聡, 奥村 謙, 加藤貴雄, 神谷香一郎, 犀川哲典, 杉 薫, 住友直方, 中谷晴昭, 三田村秀雄, 山下武志 : 不整脈薬物治療に関するガイドライン (2009年改訂版). 日本循環器学会ホームページ 循環器病の診断と治療に関するガイドライン 2010 : 1-82.
- 33) 影山憲貴¹⁾, 中島敦夫²⁾, 鳴海武長¹⁾, 柴田泰史¹⁾, 三橋 太¹⁾, 高木 豊¹⁾, 日ノ澤進一郎¹⁾, 飯野幸長¹⁾, 本間 博 (¹⁾ 中央検査部, ²⁾ 東京警察病院リウマチ科) : ラテックス免疫比濁法によるMMP-3偽低値. *臨床病理* 2011 ; 59 (1) : 17-23.
- 34) 北山浩気¹⁾, 小谷英太郎²⁾, 木内 要, 本間 博, 新 博次²⁾ (¹⁾ きたやま内科循環器, ²⁾ 多摩永山病院) : コ

レステロール吸収亢進例の見極めとエゼチミブの臨床的有用性. Prog Med 2011; 31 (2): 597-600.

(2) 総説:

- 1) Kusama Y¹⁾, Kodani E¹⁾, Nakagomi A¹⁾, Otsuka T²⁾, Atarashi H¹⁾, Kishida H, Mizuno K (1) Tama Nagayama Hospital, 2) Department of Environmental Medicine): Variant angina and coronary artery spasm: The clinical spectrum pathophysiology and management. J Nippon Med Sch 2011; 78 (1): 4-12.
- 2) 児玉逸雄, 加藤貴雄, 神谷香一郎, 清水 歩, 香坂 俊, 志賀 剛: 心室頻拍・心室細動に対するアミオダロンの使い方: 静注薬を中心に (座談会). 心電図 2010; 30 (4): 337-371.
- 3) 高木 元, 宮本正章, 水野杏一: 下肢血管再生治療. ICUとCCU 2010; 34 (5): 405-409.
- 4) 宮内靖史, 加藤貴雄: 不整脈. 医学と薬学 2010; 64 (6): 823-828.
- 5) 石川正也, 佐藤直樹¹⁾ (1) 集中治療室): 酸素投与と人工呼吸. 呼吸器ケア 2010; 8 (10): 100-103.
- 6) 高野仁司: 重症下肢虚血肢に対する骨髄再生療法の医療経済学的評価. 循環器専門医 2010; 18 (2): 245-250.
- 7) 稲見 徹¹⁾, 山本真功¹⁾, 木股伸恒¹⁾, 村上大介¹⁾, 阿部純子¹⁾, 淀川顕司¹⁾, 林 明聡¹⁾, 高野雅充¹⁾, 大野則彦¹⁾, 雪吹周生¹⁾, 清野精彦¹⁾, 水野杏一 (1) 千葉北総病院): 妊娠後に高安動脈炎と診断し, ステロイド投与にて無事出産し得た1症例. 心臓 2010; 42 (10): 1323-1329.
- 8) 宮本正章, 高木 元, 太良修平, 桐木園子, 久保田芳明, 水野杏一: 日本におけるフットケア・下肢救済医療血管治療医の役割: 血管再生医療. PEPARS 2010; 48: 87-94.
- 9) 水野杏一: 血管内視鏡・血管内超音波 (IVUS). Medical Technology 2010; 38 (13): 1466-1472.
- 10) 加藤貴雄: 後期臨床試験における心臓安全性の評価: ルーチンバイオマーカーの有用性. 臨床医薬 2010; 26 (12): 853-866.
- 11) 水野杏一, 中村治雄¹⁾ (1) 三越厚生事業団): II. 日本の臨床介入試験 1.MEGA Study. The Lipid 2011; 22 (1): 52-57.
- 12) 斎藤恒憲, 斎藤恒博¹⁾, 水野杏一 (1) グッドスリープ・クリニック): 睡眠時無呼吸症候群に対するCPAPA療法のPWVにおける長期的影響. 血圧 2011; 18 (1): 4-5.

(3) 症例報告:

- 1) Kobayashi N¹⁾, Takano M²⁾, Hata N¹⁾, Yamamoto M²⁾, Shinada T¹⁾, Takahashi Y¹⁾, Tomita K¹⁾, Kitamura M¹⁾, Mizuno K (1) Intensice Care Unit, Chiba-Hokusoh Hospital, 2) Chiba-Hokusoh Hospital): Optical coherence tomography findings in a case of acute coronary syndrome caused by coronary vasospasm. Int Heart J 2010; 51 (4): 291-292.

(4) ガイドライン:

- 1) Mizuno K: Guidelines for diagnosis and treatment of patients with vasospastic angina (coronary spastic angina) (JCS 2008). Circ J 2010; 74 (8): 1745-1762.

著 書

〔追加分〕

追加分:

- 1) 加藤貴雄: [分担] ウェーブレット変換解析. 不整脈ノンイベイシブ検査 (田邊 晃久), 2010; pp207-220, 医学書院.
- 2) 加藤貴雄: [分担] Holter 心電図. 循環器研修ノート (永井 良三), 2010; pp100-103, 診断と治療社.
- 3) 高野雅充¹⁾, 水野杏一 (1) 千葉北総病院): [追加] 画像診断・OCT. 脈管専門医のための臨床脈管学, 2010; pp117-119, メディカルトリビューン.
- 1) 岡崎大武, 小宮山英徳, 佐藤亮太, 原千鶴子, 柳田隆行, 秋谷麻衣, 青木亜佐子, 中村俊一, 太良修平, 山本

- 英世, 稲見茂信, 高木 元, 高野仁司, 浅井邦也, 安武正弘, その他5名:〔分担〕パクリタキセル溶出性ステントとシロリムス溶出性ステントの留置後6ヶ月後の冠動脈内視鏡による比較. 第一世代DES (Drug Eluting Stent) の総括 (六甲カルディアックセミナー, 相澤忠範, 神原啓文), 2010; pp50-57, 科学評論社.
- 2) 宮内靖史, 加藤貴雄, 水野杏一:〔分担〕I. 心室頻拍から心室細動への移行型 17. 心筋梗塞. 2010ホルター心電図記録中の突然死例 (田邊 晃久), 2010; pp67-69, 車両競技公益資金記念財団助成研究報告書.
 - 3) 高野仁司:〔分担〕肥大型心筋症. 医学スーパーラーニングシリーズ・循環器内科学 (水野杏一・安武正弘・平山悦之), 2010; pp304-310, シュプリンガー・ジャパン.
 - 4) 高木 元:〔分担〕末梢動脈疾患. 医学スーパーラーニングシリーズ・循環器内科学 (水野杏一・安武正弘・平山悦之), 2010; pp339-341, シュプリンガー・ジャパン.
 - 5) 高木 元:〔分担〕大動脈炎症候群 (高動脈炎). 医学スーパーラーニングシリーズ・循環器内科学 (水野杏一・安武正弘・平山悦之), 2010; pp337-338, シュプリンガー・ジャパン.
 - 6) 本間 博:〔分担〕I. 基礎編 第4章 3. 心エコー検査. 医学スーパーラーニングシリーズ・循環器内科学 (水野杏一・安武正弘・平山悦之), 2010; pp97-104, シュプリンガー・ジャパン.
 - 7) 時田祐吉:〔分担〕第2章 症候 2.呼吸困難. 医学スーパーラーニングシリーズ・循環器内科学 (水野 杏一・安武 正弘・平山 悦之), 2010; pp36-38, シュプリンガー・ジャパン.
 - 8) 稲見茂信:〔分担〕心拍出機能. 医学スーパーラーニングシリーズ・循環器内科学 (水野杏一・安武正弘・平山悦之), 2010; pp22-24, シュプリンガー・ジャパン.
 - 9) 福間長知:〔分担〕血圧. 医学スーパーラーニングシリーズ・循環器内科学 (水野杏一・安武正弘・平山悦之), 2010; pp25-28, シュプリンガー・ジャパン.
 - 10) 宮本正章:〔分担〕間欠性跛行. 医学スーパーラーニングシリーズ・循環器内科学 (水野杏一・安武正弘・平山悦之), 2010; pp46-47, シュプリンガー・ジャパン.
 - 11) 小野卓哉:〔分担〕失神. 医学スーパーラーニングシリーズ・循環器内科学 (水野杏一・安武正弘・平山悦之), 2010; pp48-50, シュプリンガー・ジャパン.
 - 12) 太良修平:〔分担〕血圧. 医学スーパーラーニングシリーズ・循環器内科学 (水野杏一・安武正弘・平山悦之), 2010; pp67-68, シュプリンガー・ジャパン.
 - 13) 水野杏一:〔分担〕全身の診察. 医学スーパーラーニングシリーズ・循環器内科学 (水野杏一・安武正弘・平山悦之), 2010; pp70-72, シュプリンガー・ジャパン.
 - 14) 八島正明:〔分担〕Holter 心電図. 医学スーパーラーニングシリーズ・循環器内科学 (水野杏一・安武正弘・平山悦之), 2010; pp84-88, シュプリンガー・ジャパン.
 - 15) 牛島明子:〔分担〕運動負荷心電図. 医学スーパーラーニングシリーズ・循環器内科学 (水野杏一・安武正弘・平山悦之), 2010; pp89-91, シュプリンガー・ジャパン.
 - 16) 平山悦之:〔分担〕期外収縮. 医学スーパーラーニングシリーズ・循環器内科学 (水野杏一・安武正弘・平山悦之), 2010; pp151-155, シュプリンガー・ジャパン.
 - 17) 林 明聡:〔分担〕心室頻拍. 医学スーパーラーニングシリーズ・循環器内科学 (水野杏一・安武正弘・平山悦之), 2010; pp163-166, シュプリンガー・ジャパン.
 - 18) 小原俊彦:〔分担〕洞不全症候群. 医学スーパーラーニングシリーズ・循環器内科学 (水野杏一・安武正弘・平山悦之), 2010; pp170-171, シュプリンガー・ジャパン.
 - 19) 堀江 格:〔分担〕房室ブロック. 医学スーパーラーニングシリーズ・循環器内科学 (水野杏一・安武正弘・平山悦之), 2010; pp173-176, シュプリンガー・ジャパン.
 - 20) 福間祐美子:〔分担〕2次性高血圧. 医学スーパーラーニングシリーズ・循環器内科学 (水野杏一・安武正弘・平山悦之), 2010; pp198-201, シュプリンガー・ジャパン.
 - 21) 塚田弥生:〔分担〕狭心症. 医学スーパーラーニングシリーズ・循環器内科学 (水野杏一・安武正弘・平山悦之),

- 2010；pp208-212, シュプリングー・ジャパン.
- 22) 加藤祐子：〔分担〕 検査, 診断. 医学スーパーラーニングシリーズ・循環器内科学（水野杏一・安武正弘・平山悦之）, 2010；pp213-218, シュプリングー・ジャパン.
- 23) 藤本啓志：〔分担〕 僧帽弁閉鎖不全症. 医学スーパーラーニングシリーズ・循環器内科学（水野杏一・安武正弘・平山悦之）, 2010；pp245-248, シュプリングー・ジャパン.
- 24) 山本英世：〔分担〕 大動脈弁狭窄症. 医学スーパーラーニングシリーズ・循環器内科学（水野杏一・安武正弘・平山悦之）, 2010；pp252-255, シュプリングー・ジャパン.
- 25) 安武正弘：〔分担〕 大動脈閉鎖不全症. 医学スーパーラーニングシリーズ・循環器内科学（水野杏一・安武正弘・平山悦之）, 2010；pp255-259, シュプリングー・ジャパン.
- 26) 大野忠明：〔分担〕 その他の弁膜症, 感染性心内膜炎. 医学スーパーラーニングシリーズ・循環器内科学（水野杏一・安武正弘・平山悦之）, 2010；pp259-263, シュプリングー・ジャパン.
- 27) 青木 聡：〔分担〕 急性心膜炎. 医学スーパーラーニングシリーズ・循環器内科学（水野杏一・安武正弘・平山悦之）, 2010；pp316-318, シュプリングー・ジャパン.
- 28) 村田広茂：〔分担〕 収縮性心膜炎. 医学スーパーラーニングシリーズ・循環器内科学（水野杏一・安武正弘・平山悦之）, 2010；pp319-321, シュプリングー・ジャパン.
- 29) 加藤浩司：〔分担〕 心臓腫瘍. 医学スーパーラーニングシリーズ・循環器内科学（水野杏一・安武正弘・平山悦之）, 2010；pp326-327, シュプリングー・ジャパン.
- 30) 浅井邦也：〔分担〕 心不全. 医学スーパーラーニングシリーズ・循環器内科学（水野杏一・安武正弘・平山悦之）, 2010；pp134-139, シュプリングー・ジャパン.
- 31) 宮内靖史：〔分担〕 心房細動. 医学スーパーラーニングシリーズ・循環器内科学（水野杏一・安武正弘・平山悦之）, 2010；pp155-158, シュプリングー・ジャパン.
- 32) 高橋 啓：〔分担〕 治療. 医学スーパーラーニングシリーズ・循環器内科学（水野杏一・安武正弘・平山悦之）, 2010；pp218-222, シュプリングー・ジャパン.
- 33) 加藤貴雄：〔分担〕 薬物治療 心室期外収縮について. ガイドラインガイダンス不整脈（奥村 謙）, 2011；pp61-67, 日本医事新報社.
- 34) 加藤貴雄：〔分担〕 心電図. 医学スーパーラーニングシリーズ・循環器内科学（水野杏一・安武正弘・平山悦之）, 2011；pp74-83, シュプリングー・ジャパン.
- 35) 加藤貴雄：〔分担〕 心房細動の緊急治療指針. 救急・集中治療ガイドライン2010-11（岡元 和文）, 2011；pp214-217, 総合医学社.
- 36) 高野雅充¹⁾, 水野杏一⁽¹⁾ 千葉北総病院）：〔分担〕 PCI・第4章検査. 医学スーパーラーニングシリーズ・循環器内科学（水野杏一・安武正弘・平山悦之）, 2011；pp122-128, シュプリングー・ジャパン.

学会発表

〔追加分〕

追加分：

- 1) Takano M, Yamamoto M¹⁾, Mizuno K⁽¹⁾ Chiba-Hokusoh Hospital) : Role of angioscope in complex ACS intervention. Tokyo Percutaneous Cardiovascular Intervention Conference, 2009. 7.

追加分シンポジウム：

- 1) Takano M¹⁾, Mizuno K⁽¹⁾ Chiba-Hokusoh Hospital) : Detection and treatment of vulnerable plaque detected by coronary angiography. 17th Asian Pacific Congress of Cardiology 2009 (Kyoto, Tokyo), 2009. 5.

追加分ポスター：

- 1) Saito T, Asai K, Takahashi H, Komiyama H, Kato K, Yamamoto E, Takano H, Ohara T, Sato S, Fu-

kuda Y, Mizuno K : Obesity cardiomyopathy : a new concept of secondary cardiomyopathy with unique ultrastructural features. Annual Scientific Session Exposition, American College of Cardiology (The 59th) (Atlanta, USA), 2010. 3.

追加分一般講演 :

- 1) 斎藤恒徳, 浅井邦也, 大野忠明, 加藤浩司, 高木 元, 稲見茂信, 高橋 啓, 山本英世, 高野仁司, 新田 隆, 水野杏一 : 心房ペーシングリードが惹起した重度三尖弁逆流の1例. 日本内科学会関東地方会 (第569回), 2010. 2.
- 2) 稲見 徹¹⁾, 山本真功¹⁾, 木股伸恒¹⁾, 村井綱児¹⁾, 村上大介¹⁾, 淀川顕司¹⁾, 阿部純子¹⁾, 高野雅充¹⁾, 大野則彦¹⁾, 大場崇芳¹⁾, 雪吹周生¹⁾, 清野精彦¹⁾, 水野杏一 (¹⁾ 千葉北総病院) : 深部静脈血栓症で発症し, 心筋生検により診断された尿管癌の1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第215回), 2010. 2.
- 3) 坪井一平, 宮内靖史, 植竹俊介, 松本綾乃, 村田広茂, 山本哲平, 岡崎怜子, 岩崎雄樹, 加藤貴雄, 水野杏一 : カテーテルアブレーションにて根治し得た高齢者心房細動の1例. 日本老年医学会 関東甲信越地方会 (第51回), 2010. 3.
- 4) 高野雅充¹⁾, 水野杏一 (¹⁾ 千葉北総病院) : 血管内視鏡による Vulnerable plaque の検出. Beyond Angiography Japan XV, 2010. 3.

(1) その他 :

- 1) 坪井一平, 高野仁司, 斎藤恒徳, 中野博之, 山本英世, 水野杏一, 坪 宏一¹⁾, 田中啓治¹⁾, 渋谷絢子²⁾, 中澤 賢²⁾, 田島廣之²⁾, 栗田二郎³⁾, 落 雅美³⁾ (¹⁾ 集中治療室, ²⁾ 放射線科, ³⁾ 心臓血管外科) : 偽腔開存型慢性大動脈解離に下肢急性動脈閉塞を合併した1例. 日本集中治療医学会関東甲信越地方会 (第19回), 2010. 8.
- 2) 本間 博 : トランスジューサをてにとつて学ぶ : 心エコー ハンズオンセミナー, 左室容積, 左室重量, 左室容積の計測. 日本心臓病学会学術集会 (第58回), 2010. 9.
- 3) 板倉潮人¹⁾, 小野卓哉, 宗像一雄¹⁾, 新 博次²⁾, 加藤貴雄 (¹⁾ 武蔵小杉病院, ²⁾ 多摩永山病院) : ホルター心電図による μV レベル T 波形のばらつきに関する考察. 日本心電学会学術集会 (第27回), 2010. 10.

(2) 会長講演 :

- 1) 宮本正章, 高木 元, 太良修平, 桐木園子, 久保田芳明, 高瀬仁志, 大坪春美, 高木郁代, 高野仁司, 安武正弘, 水野杏一 : 我が国におけるマゴットセラピーの有効性と問題点. 第1回マゴットセラピー研究会, 2010. 7.

(3) 特別講演 :

- 1) Takano M¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Chiba-Hokusoh Hospital) : Features inside the bare-metal stents and drug-eluting stents : follow-up observation byOCT. China Interventional Therapeutics (Shanbhai, China), 2010. 4.
- 2) Seino Y¹⁾, Inami T¹⁾, Yamamoto M¹⁾, Takano M¹⁾, Mizno K (¹⁾ Chiba-Hokusoh Hospital) : Novel Coronary Imaging and Multi-Biomarker Strategy for Coronary Artery Disease. International Academy of Cardiology 15th World Congress on HEART DISEASE Annual Scientific Sessions 2010 (Vancouver,CA), 2010. 7.
- 3) 加藤貴雄 : Use of routine cardiovascular safty biomarkers in late stage development. 1st DIA Cardiac Safty Workshop in Japan, 2010. 5.
- 4) Takano M¹⁾, Seino Y¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Chiba-Hokusoh Hospital) : Follow-up observations by OCT and angiography. TOPIC 2010, 2010. 7.
- 5) Takano M¹⁾, Seino Y¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Chiba-Hokusoh Hospital) : Angioscopic findings of vulnerable plaque. TOPIC 2010, 2010. 7.
- 6) 加藤貴雄 : 医薬品開発における催不整脈リスク評価の意義と問題点. 医薬品開発におけるQT評価セミナー 2010 (第3回), 2010. 12.

- 7) 加藤貴雄：心臓突然死の実態と予知. 日本医科大学・トヨタ・デンソー共同研究成果発表会, 2010. 5.
 - 8) 加藤貴雄：J-RYHTHM II. 循環器 Expert Meeting, 2010. 7.
 - 9) 川本智章：肝硬変, 肝細胞癌にいかに対処するか：IFN, および安全なラジオ派焼灼療法. 日本医科大学医学会総会 (第78回), 2010. 9.
 - 10) 赤沼雅彦¹⁾ (成田国際空港クリニック)：NBC 災害医療：自衛隊中央病院での試み：成田国際空港での訓練. 日本医科大学医学会総会 (第78回), 2010. 9.
 - 11) 高野雅充¹⁾, 水野杏一 (成田北総病院)：侵襲的イメージングによる冠動脈画像診断. 日本医学放射線学会秋季臨床大会 (第46回), 2010. 9.
 - 12) 山本真功¹⁾, 高野雅充¹⁾, 水野杏一 (成田北総病院)：血液遮断による手技. 日本心臓血管内視鏡学会 (第24回), 2010. 10.
 - 13) 山本真功¹⁾, 高野雅充¹⁾, 水野杏一 (成田北総病院)：OCT と血管内視鏡との比較. 日本心臓血管内視鏡学会 (第24回), 2010. 10.
 - 14) 加藤貴雄：心不全を伴う心房細動の薬物治療. アミオダロンの位置付け. 城東アミオダロン講演会, 2010. 11.
 - 15) 宮本正章, 高木 元, 太良修平, 桐木園子, 高木郁代, 松田範子, 水野博司, 百束比古, 田畑泰彦, 水野杏一：治療抵抗性末梢動脈疾患 (PAD) による難治性潰瘍・壊疽に対する再生医療を応用した先進併用療法. 日本創傷治療学会学術集会 (第40回), 2010. 12.
 - 16) 加藤貴雄：心房細動の薬剤選択－Web 版心房細動治療 (薬物) ガイドライン. 不整脈薬物治療フォーラム, 2010. 12.
- (4) 教育講演：
- 1) 高山守正¹⁾, 高見澤格¹⁾, 井上完起¹⁾, 井口信雄¹⁾, 住吉徹哉¹⁾, 北村光信, 山本英世, 平山悦之, 水野杏一 (神原記念病院)：閉塞性肥大型心筋症への最近の治療動向. 日本心臓病学会 (第58回), 2010. 9.
- (5) シンポジウム：
- 1) Takano M¹⁾, Seino Y¹⁾, Mizuno K (成田北総病院)：Using OCT to make clinical decisions：identification of vulnerable plaque and stent by OCT. TOPIC 2010, 2010. 7.
 - 2) Shirakabe A¹⁾, Hata N¹⁾, Yokoyama S¹⁾, Shinada T¹⁾, Kobayashi N¹⁾, Tomita K¹⁾, Kitamura M¹⁾, Nozaki A¹⁾, Tokuyama H¹⁾, Mizuno K (成田北総病院)：The role of clinical scenarios in the management of acute heart failure. 日本心不全学会 (第14回), 2010. 10.
 - 3) 林 明総：Left Posterior Purkinje Reentry in the Structurally Diseased Heart. 日本不整脈学会 カテーテル・アブレーション関連秋季大会, 2010. 10.
 - 4) 淀川顕司, 小原俊彦, 村田広茂, 高山英男, 加藤貴雄, 水野杏一：微小電位研究の新たな展開. 陳旧性心筋梗塞における重症心室性不整脈のリスク評価. ウェーブレット解析を用いた検討. 体表心臓微小電位研究会 (第20回), 2010. 2.
 - 5) 淀川顕司, 小原俊彦, 村田広茂, 高山英男, 加藤貴雄, 水野杏一：微小電位研究の新たな展開. 陳旧性心筋梗塞における重症心室性不整脈のリスク評価. ウェーブレット解析を用いた検討. 体表心臓微小電位研究会 (第20回), 2010. 2.
 - 6) 宮本正章, 高木 元, 太良修平, 水野博司, 百束比古, 田畑泰彦, 水野杏一：治療抵抗性末梢動脈疾患 (PAD) に対する血管再生療法 (骨髄幹細胞& DDS 徐放化蛋白). 日本外科系連合学会 (第35回), 2010. 5.
 - 7) 高野仁司：冠動脈疾患治療におけるマルチモダリティ・イメージングの臨床応用. 日本心臓核医学会総会・学術大会 (第20回), 2010. 6.
 - 8) 浅井邦也, 水野杏一, 田中啓治¹⁾ (集中治療室)：急性心不全の薬物治療の実際：ATTEND registry から. 日本集中治療学医学会関東甲信越地方会, 2010. 8.
 - 9) 淀川顕司, 小原俊彦, 村田広茂, 高山英男, 加藤貴雄, 水野杏一：陳旧性心筋梗塞における重症心室性不整脈

のリスク評価. ウェーブレット解析を用いた検討. 日本ホルター・ノンインバイシブ心電学研究会 (第 30 回), 2010. 9.

- 10) 小原俊彦, 加藤貴雄: 携帯型心電図の将来を考える - 心電図に含まれる様々な周波数成分に注目して. 比較心電図研究会 (第 37 回), 2010. 9.
- 11) 山本真功¹⁾, 岡松健太郎¹⁾, 高野雅充¹⁾, 栗原 理¹⁾, 志村徹郎¹⁾, 根岸経太¹⁾, 稲見 徹¹⁾, 村上大介¹⁾, 大場崇芳¹⁾, 清野精彦¹⁾, 水野杏一 (¹⁾ 千葉北総病院): 薬剤溶出性ステント留置後の新生内膜被覆に影響を与える病変背景に関する血管内視鏡を用いた検討. 日本心臓血管内視鏡学会 (第 24 回), 2010. 10.
- 12) 林 明総: 超高齢者の頻脈性不整脈に対するアブレーション治療. 日本心電学会学術集会 (第 27 回), 2010. 10.
- 13) 高野雅充¹⁾, 村上大介¹⁾, 山本真功¹⁾, 清野精彦¹⁾, 水野杏一 (¹⁾ 千葉北総病院): 血管内視鏡ならびに OCT による vulnerable plaque の評価. 日本心臓血管内視鏡学会 (第 24 回), 2010. 10.
- 14) 水野杏一: 循環器医療・研究の魅力について語ろう: 若い人たちへのメッセージ. 日本冠疾患学会 (第 24 回), 2010. 12.

(6) パネルディスカッション:

- 1) 坂純純, 大森裕也, 山内仁紫, 高木郁代: 下肢静脈瘤に対する 1470nm Diode Laser を用いた Endovenous Laser Treatment (EVLT) の短期成績. 日本静脈学会総会 (第 30 回), 2010. 6.
- 2) 浅井邦也, 中込明裕¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 新 博次¹⁾, 水野杏一 (¹⁾ 多摩永山病院): 慢性腎臓病を合併した急性冠症候群患者の治療戦略. 日本心臓病学会 (第 58 回), 2010. 9.
- 3) 渋谷俊之¹⁾, 中込明裕¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 新 博次¹⁾, 水野杏一 (¹⁾ 多摩永山病院): 慢性腎臓病を合併した急性冠症候群患者の治療戦略 (CKD を合併する心血管病患者をどう診断・治療するか?). 日本心臓病学会学術集会 (第 58 回), 2010. 9.
- 4) 高野雅充¹⁾, 村上大介¹⁾, 山本真功¹⁾, 清野精彦¹⁾, 水野杏一 (¹⁾ 千葉北総病院): 冠動脈ステント内部の性状ならびに経時的変化: 光干渉断層法による観察. 日本冠疾患学会 (第 24 回), 2010. 12.
- 5) 本間 博, 大野忠明, 藤本啓志, 時田祐吉, 水野杏一, 山本 剛¹⁾, 田中啓治¹⁾ (¹⁾ 集中治療室): Intensive care における経胸壁心エコーとその教育の重要性. 日本集中治療医学会 (第 38 回), 2011. 2.

(7) ワークショップ:

- 1) 村澤恒男¹⁾, 酒井行直¹⁾, 宗像一雄¹⁾, 小野卓哉 (¹⁾ 武蔵小杉病院): 透析患者の合併症に対する薬剤の使用維持透析患者の血液透析に伴う心室性不整脈と RA 系との関連性: 選択的アルドステロン阻害薬 eplerenone の使用の検討. 日本透析医学会学術集会 (第 55 回), 2010. 6.

(8) ポスター:

- 1) Takano H, Kusama Y, Yamamoto E, Yasutake M, Mizuno K: Possible Role of Reactive Oxygen Species in the Development of Ischemic Preconditioning in Human. International Society for Heart Research 2010, 2010. 5.
- 2) Saito T, Asai K, Takahashi H, Yamamoto E, Takano H, Sato S, Fukuda Y, Mizuno K: Ultrastructural evaluation of cardiac myocyte alterations with obesity cardiomyopathy. European Society of Cardiology Congress (Stockholm, Sweden), 2010. 8.
- 3) Tokita Y, Satoh N, Otuka T, Hosokawa Y, Munakata R, Ueno A, Akutsu K, Yamamoto T, Tanaka K, Mizuno K: Additional measurement of N-terminal pro-BNP improves the diagnostic ability for acute ischemic heart failure. European Society of Cardiology Congress 2010 (Stockholm), 2010. 8.
- 4) Tokita Y, Satoh N, Hosokawa Y, Munakata R, Ueno A, Akutsu K, Yamamoto T, Tanaka K, Fukushima Y¹⁾, Kumita S¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Radiology): Intravenous bolus administration of nicorandil improves myocardial perfusion in patients with acute ischemic heart failure. European Society of Cardiology Congress

2010 (Stockholm), 2010. 8.

- 5) Takano H, Takagi G, Tara S, Yamamoto E, Kato K, Takahashi Y, Yasutake M, Miyamoto M, Mizuno K : Progressive Deterioration of Limb Ischemia is Associated with Impaired Coronary Microcirculation in Patients with Thromboangitis Obliterans. International Society of Hypertension 2010 (Vancouver, Canada), 2010. 9.
- 6) Tsuboi I, Miyauchi Y, Hayashi M, Yoshinaga A, Uetake S, Hayashi H, Yamamoto T, Murata H, Kitamura M, Horie T, Kato T, Mizuno K, Takayama M¹⁾ (¹⁾ Department of Internalmedicine, Division of Cardiology, Sakakibara Memorial Hospital, Japan) : Bradycardia Dependent Infra-hisian Block in Patients with Hypertrophic Obstructive Cardiomyopathy Post Alcohol Septal Myocardial Ablation. The 3rd Asia-Pacific Heart Rhythm Society Scientific Program (Jeju Island, Jeju, Korea), 2010. 10.
- 7) Kurita J, Miyamoto M, Ishii Y, Takagi G, Tara S, Mizuno K, Fukushima M, Kumita S, Naito Z, Tabata T, Ochi M, Shimizu K : Enhanced Vascularization by Controlled Release of Platelet-Rich Plasma impregnated in gelatin hydrogels for Critical Limb Ischemia in Rats. American Heart Association (Chicago, USA), 2010. 11.
- 8) Yodogawa K¹⁾, Seino Y¹⁾, Ohara T, Takayama H, Katoh T, Mizuno K (¹⁾ Chiba-Hokusoh Hospital) : Effect of Corticosteroid Therapy on Ventricular Arrhythmias in Patients with Cardiac Sarcoidosis. American Heart Association (Chicago, USA), 2010. 11.
- 9) Yamamoto M¹⁾, Takano M¹⁾, Murakami D¹⁾, Kimata N¹⁾, Inami T¹⁾, Okamatsu K¹⁾, Ohba T¹⁾, Ibuki C¹⁾, Seino Y¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Chiba-Hokusoh Hospital) : Continual Delayed Arterial Healing 5 Years after Implantation of Sirolimus Eluting Stents : Serial Observations by Coronary Angioscopy. American Heart Association (Chicago, USA), 2010. 11.
- 10) Takagi G, Miyamoto M, Takagi I, Tara S, Kirinoki S, Tabata Y, Mizuno K : The Mechanism of Local Therapeutic Angiogenesis to the Systemic Vascular Function for Limb Ischemia. 3rd International Conference on Drug Discovery & Therapy (Dubai, UAE), 2011. 2.
- 11) 鶴見昌史, 中田 淳, 松崎つや子, 仁田 藍, 仁田 学, 高木郁代, 手塚晶人, 川本雅司, 高山守正, 水野杏一 : 高度 3,000m における高山病発症時の心循環メカニズム. 日本登山医学会学術集会 (第 30 回), 2010. 5.
- 12) 中田 淳, 高山守正, 鶴見昌史, 松崎つや子, 仁田 藍, 仁田 学, 高木郁代, 手塚晶人, 川本雅司, 水野杏一 : 高地における低酸素環境が健常者心機能に与える影響 : 富士山山頂での心臓超音波検査及び脳性 Na 利尿ペプチド (BNP) 値を用いた検討. 日本登山医学会学術集会 (第 30 回), 2010. 5.
- 13) 大野忠明, 本間 博, 松崎つや子¹⁾, 小宮山英徳, 村田広茂, 横島友子, 水野杏一 (¹⁾ 生理機能センター) : 感染性心内膜炎に対するガイドラインに従った内科的治療の検討. 日本心臓病学会 (第 58 回), 2010. 9.
- 14) 村井綱児¹⁾, 清野精彦¹⁾, 木股伸恒¹⁾, 山本真功¹⁾, 稲見 徹¹⁾, 村上大介¹⁾, 阿部純子¹⁾, 淀川顕司¹⁾, 高野雅充¹⁾, 大場崇芳¹⁾, 大野則彦¹⁾, 雪吹周生¹⁾, 水野杏一, 下村直樹²⁾, 福田恵子³⁾ (¹⁾ 千葉北総病院, ²⁾ 東邦大学, ³⁾ 千葉北総病院 薬剤部) : 慢性心不全における経口強心薬療法の有用性と問題点 : real world analysis. 日本心臓病学会 (第 58 回), 2010. 9.
- 15) 小谷英太郎¹⁾, 中込明裕¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 新 博次¹⁾, 水野杏一 (¹⁾ 多摩永山病院) : 脂質管理目標値達成率の現状と低用量ロスバスタチンの目標値に対する効果. 日本心臓病学会 (第 58 回), 2010. 9.
- 16) 宮武佳子, 福本裕子, 水野杏一 : 禁煙外来における禁煙治療成績と循環器患者の特徴. 日本心臓病学会 (第 58 回), 2010. 9.
- 17) 木股伸恒¹⁾, 清野精彦¹⁾, 山本真功¹⁾, 稲見 徹¹⁾, 村井綱児¹⁾, 村上大介¹⁾, 高野雅充¹⁾, 大場崇芳¹⁾, 雪吹周生¹⁾, 川俣博志²⁾, 水野杏一 (¹⁾ 千葉北総病院, ²⁾ 千葉北総病院 放射線科) : 慢性腎機能障害を有する末梢動脈疾患患者に対する炭酸ガス造影 DSA 併用カテーテルインターベンションの有用性. 日本心臓病学会 (第 58 回),

2010. 9.

- 18) 斎藤恒徳, 斎藤恒博¹⁾, 杉山重幸¹⁾, 浅井邦也, 安武正弘, 水野杏一⁽¹⁾ グッドスリープ・クリニック): 閉塞性睡眠時無呼吸症候群に対する持続陽圧換気療法の脈波伝播速度における長期的影響. 日本心臓病学会 (第 58 回), 2010. 9.
- 19) 柴田泰史¹⁾, 高木 豊¹⁾, 飯野幸永¹⁾, 本間 博, 久志本成樹²⁾, 横田裕行²⁾ (1) 中央検査部, 2) 高度救命救急センター): 敗血症における迅速重症度評価法としてのイムノクロマトグラフィ法によるプロカルシトニン測定に意義. 日本医科大学医学会総会 (第 78 回), 2010. 9.
- 20) 亀山澄子¹⁾, 寺田 紀¹⁾, 小早川恵子¹⁾, 植田貴子¹⁾, 福田貴久¹⁾, 橋本政子²⁾, 飯野幸永²⁾, 本間 博, 緒方清行²⁾ (1) 中央検査部・輸血部, 2) 中央検査部): 輸血後肝炎が疑われた事例について. 日本医科大学医学会総会 (第 78 回), 2010. 9.
- 21) 山下純一¹⁾, 鳴海武長¹⁾, 高木 豊¹⁾, 飯野幸永¹⁾, 本間 博, 神尾孝一郎²⁾, 吾妻安良太²⁾ (1) 中央検査部, 2) 内科学 (呼吸器・感染・腫瘍部門)): KL-6 における検査方法の違いによるデータ比較. 日本医科大学医学会総会 (第 78 回), 2010. 9.
- 22) 鳴海武長¹⁾, 山下純一¹⁾, 高木 豊¹⁾, 飯野幸永¹⁾, 本間 博, 神尾孝一郎²⁾, 吾妻安良太²⁾ (1) 中央検査部, 2) 内科学 (呼吸器・感染・腫瘍部門)): 汎用自動分析機によるシアル化糖鎖抗原 KL-6 の測定と院内導入への検討から見えた有用性. 日本医科大学医学会総会 (第 78 回), 2010. 9.
- 23) 日ノ澤進一郎¹⁾, 小林紘士¹⁾, 三橋 太¹⁾, 飯野幸永¹⁾, 本間 博 (1) 中央検査部): 小児におけるシスタチン C を利用した GFR 計算式の有用性. 日本医科大学医学会総会 (第 78 回), 2010. 9.
- 24) 菌部一成¹⁾, 鷺尾洋平¹⁾, 大川咲奈¹⁾, 渡部明子¹⁾, 篠山明宏¹⁾, 小坂田直美¹⁾, 中村祐三¹⁾, 飯野幸永¹⁾, 本間博 (1) 中央検査部): 血液培養陽性のグラム染色での推定同定と培養同定の一緻率. 日本医科大学医学会総会 (第 78 回), 2010. 9.
- 25) 高木 豊¹⁾, 鳴海武長¹⁾, 山下純一¹⁾, 柴田泰史¹⁾, 飯野幸永¹⁾, 本間 博 (1) 中央検査部): 検査結果測定域予測による迅速報告の試み. 日本医科大学医学会総会 (第 78 回), 2010. 9.
- 26) 渡部明子¹⁾, 大川咲奈¹⁾, 篠山明宏¹⁾, 菌部一成¹⁾, 三浦義彦²⁾, 中村祐三²⁾, 飯野幸永¹⁾, 本間 博 (1) 中央検査部, 2) 薬剤部): 当院で過去 10 年間に血液培養より検出された酵母様真菌の分離状況と今後の対策について. 日本医科大学医学会総会 (第 78 回), 2010. 9.
- 27) 志村徹郎¹⁾, 山本真功¹⁾, 高野雅充¹⁾, 栗原 理¹⁾, 根岸経太¹⁾, 村上大介¹⁾, 雪吹周生¹⁾, 清野精彦¹⁾, 水野杏一⁽¹⁾ 千葉北総病院): 血管内視鏡で定量的色調評価された黄色プラークと VH—IVUS で定義された TCFA の関係. 日本心臓血管内視鏡学会 (第 24 回), 2010. 10.
- 28) 栗原 理¹⁾, 山本真功¹⁾, 高野雅充¹⁾, 志村徹郎¹⁾, 根岸経太¹⁾, 稲見 徹¹⁾, 村上大介¹⁾, 清野精彦¹⁾, 水野杏一⁽¹⁾ 千葉北総病院): 異なるステントデザインを持つ TAXUS—Liberte と TAXUSA—Express 留置 6 ヶ月後の血管内視鏡所見に関する検討. 日本心臓血管内視鏡学会 (第 24 回), 2010. 10.
- 29) 根岸経太¹⁾, 山本真功¹⁾, 高野雅充¹⁾, 岡松健太郎¹⁾, 栗原 理¹⁾, 志村徹郎¹⁾, 稲見 徹¹⁾, 村上大介¹⁾, 大場崇芳¹⁾, 清野精彦¹⁾, 水野杏一⁽¹⁾ 千葉北総病院): シロリムス溶出性ステント留置 5 年後の血管内視鏡所見に関する検討. 日本心臓血管内視鏡学会 (第 24 回), 2010. 10.
- 30) 田近研一郎, 稲見茂信, 岡松健太郎, 高野雅充, 小谷一夫¹⁾, 水野杏一⁽¹⁾ 第一化学薬品): プラークの色調の定量評価と MDA-LDL の関係. 日本心臓血管内視鏡学会 (第 24 回), 2010. 10.
- 31) 藤田 彩¹⁾, 時田祐吉, 青景聡之, 坪 宏一, 山本 剛, 佐藤直樹, 新田 隆²⁾, 落 雅美²⁾, 水野杏一, 田中啓治⁽¹⁾ 集中治療室, 2) 心臓血管外科): CRT 中断に伴い急激に肺水腫およびショックに陥った拡張型心筋症の 1 例. 日本集中治療医学会学術集会 (第 38 回), 2011. 2.

(9) 一般講演:

- 1) Kawamoto C, Manaka K¹⁾, Yamauchi A²⁾, Kaneko K, Yakabi K³⁾ (1) 獨協医科大学国際教育施設研究支援

- センター, ²⁾ さいたま寄居病院 内科, ³⁾ 埼玉医科大学総合医療センター 消化器肝臓内科) : Observation of microbubbles and detection of hepatocytes in hepatic vein during radiofrequency ablation. European Association for The Study of The Liver. The International Liver Congress (Vienna, Austria), 2010. 4.
- 2) Kawamoto C, Yamauchi A¹⁾, Kaneko K, Miyagi N²⁾, Yakabi K²⁾ (¹⁾ さいたま寄居病院 内科, ²⁾ 埼玉医科大学総合医療センター 消化器肝臓内科) : Measurement of intrahepatic pressure during radiofrequency ablation. Annual Meeting of American Roentgen Ray Society (San Diego, USA), 2010. 5.
- 3) Kawamoto C, Manaka K¹⁾, Yamauchi A²⁾, Kaneko K (¹⁾ 獨協医科大学国際教育施設研究支援センター, ²⁾ さいたま寄居病院 内科) : Observation of microbubbles and detection of hepatocytes in hepatic vein during radiofrequency ablation. European Association for The Study of The Liver. Special Ciference. Hepatocellular Carcinoma : from Genomics to Treatment (Dubrovnik, Croatia), 2010. 6.
- 4) Nakamura S, Takano H, Yamamoto E, Kato K, Inami S, Takagi G, Aoki S, Asai K, Yasutake M, Mizuno K : Complexity of the coronary artery disease affects the long-term clinical outcome after percutaneous coronary intervention. European Society of Cardiology Congress (Stockholm, Sweden), 2010. 8.
- 5) Kawamoto C, Manaka K¹⁾ (¹⁾ 獨協医科大学国際教育施設研究支援センター) : Measurement of intrahepatic pressure, observation of microbubbles and detection of hepatocyte in hepatic vein during radiofrequency ablation. Lecture in Samsung Medical Center (Seoul, Korea), 2010. 11.
- 6) Kurita J, Miyamoto M, Ishii Y, Takagi G, Mizuno K, Kumita S, Naito Z, Tabata Y, Ochi M, Shimizu K : Enhanced Vascularization by Controlled Release of Platelet-Rich Plasma Impregnated in Biodegradable Gelatin Hydrogel. Society of Thoracic Surgeons Annual Meeting (47th) (San Diego, USA), 2011. 1.
- 7) Mizuno K, Odawara M¹⁾, Morishita R²⁾, Yoshida M³⁾, Ichihara A⁴⁾, Kusunoki T⁵⁾, Itakura H⁶⁾, Nakaya N⁷⁾ (¹⁾ Tokyo Medical Univ., ²⁾ Osaka Univ., ³⁾ Tokyo Medical and Dental Univ., ⁴⁾ Keio Univ., ⁵⁾ Ibaraki Christian Univ., ⁶⁾ Nagoya Clinic) : Obesity level and risk factors for cardiac and /or cerebral events in hypercholesterolemic patients receiving long term treatment with fluvastatin (sub analysis of LEM study). 日本動脈硬化学会 (第42回), 2010. 7.
- 8) Kurihara O¹⁾, Yamamoto M¹⁾, Takano M¹⁾, Inami T¹⁾, Murakami D¹⁾, Kimata N¹⁾, Ohba T¹⁾, Ibuki C¹⁾, Seino Y¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Chiba Hokusoh Hospital) : Impact of small thrombus formation in restenotic bare metal stent lesions associated with acute coronary syndrome : Identification by optical coherence tomography. 日本心血管インターベンション治療学会 (第19回), 2010. 8.
- 9) Murakami D¹⁾, Yamamoto M¹⁾, Kimata N¹⁾, Inami T¹⁾, Takano M¹⁾, Ohba T¹⁾, Ibuki C¹⁾, Seino Y¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Chiba Hokusoh Hospital) : ACE-I or ARB improve endothelial dysfunction 6 months after SES implantation. 日本心血管インターベンション治療学会 (第19回), 2010. 8.
- 10) Takahashi Y¹⁾, Akiya M¹⁾, Kamiya M¹⁾, Tajika K, Mizuno K (¹⁾ The Fraternity Memorial Hospital) : Successful treatment of chronic total occlusion of the popliteal artery using a transvenous IVUS guided technique. 日本心血管インターベンション治療学会 (第19回), 2010. 8.
- 11) Miyachi H¹⁾, Yamamoto A²⁾, Sato T¹⁾, Morisawa T¹⁾, Kosugi M¹⁾, Sasaki A¹⁾, Kato K¹⁾, Shibui T¹⁾, Yoshikawa M¹⁾, Kodani E¹⁾, Nakagomi A¹⁾, Kusama Y¹⁾, Atarashi H¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Tama Nagayama Hospital, ²⁾ Department of Radiology, Tama Nagayama Hospital) : Comparison between myocardial SPECT with cardioGRAF and fractional flow reserve for guiding PCI in patients with exertional chest pain. 日本心血管インターベンション治療学会 (第19回), 2010. 8.
- 12) Tokita Y¹⁾, Hosokawa Y¹⁾, Munakata R¹⁾, Yamamoto E¹⁾, Yamamoto T¹⁾, Takano H¹⁾, Sato N¹⁾, Yasutake M, Tanaka K¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Intensive and Cardiac Care Unit) : Successful PCI for CTO lesion using reverse CART technique and contrast saving method in a patient with AMI complicating renal insuffi-

- ciency. 日本心血管インターベンション治療学会 (第19回), 2010. 8.
- 13) Inami T¹⁾, Yamamoto M¹⁾, Kimata N¹⁾, Murai K¹⁾, Murakami D¹⁾, Takano M¹⁾, Ohba T¹⁾, Ibuki C¹⁾, Seino Y¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Chiba-Hokusoh Hospital) : Two cases of coronary stent thrombosis very late after bare metal stenting : identification by coronary angiography. 日本心血管インターベンション治療学会 (第19回), 2010. 8.
 - 14) Kobayashi N¹⁾, Takano M²⁾, Hata N¹⁾, Shinada T¹⁾, Tomita K¹⁾, Kitamura M¹⁾, Shirakabe A¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Division of Intensive Care Unit, Chiba-Hokusoh Hospital, ²⁾ Chiba-Hokusoh Hospital) : Optical coherence tomography findings in a case of acute coronary syndrome caused by coronary vasospasm. 日本心血管インターベンション治療学会 (第19回), 2010. 8.
 - 15) Kimata N¹⁾, Kamawamata H²⁾, Yamamoto M¹⁾, Inami T¹⁾, Murai K¹⁾, Murakami D¹⁾, Takano M¹⁾, Ohba T¹⁾, Ibuki C¹⁾, Seino Y, Mizuno K (¹⁾ Chiba-Hokusoh Hospital, ²⁾ Department of Radiology, Chiba-Hokusoh Hospital) : Percutaneous peripheral intervention with intra arterial thrombolytic therapy for thrombus rich chronic iliac artery occlusion. 日本心血管インターベンション治療学会 (第19回), 2010. 8.
 - 16) Kimata N¹⁾, Seino Y¹⁾, Kurihara S¹⁾, Yamamoto M¹⁾, Inami T¹⁾, Murai K¹⁾, Murakami D¹⁾, Takano M¹⁾, Ohba T¹⁾, Ibuki C¹⁾, Kawamata H²⁾, Mizuno K (¹⁾ Chiba-Hokusoh Hospital, ²⁾ Department of Radiology, Chiba-Hokusoh Hospital) : Benefit of CO2 enhanced digital subtraction angiography supported percutaneous peripheral intervention for peripheral artery disease in patients with chronic kidney disease. 日本心血管インターベンション治療学会 (第19回), 2010. 8.
 - 17) 前田美紀, 横山大佑, 鈴木健一, 野口裕幸, 山本英世, 稲見茂信, 高木 元, 高野仁司, 水野杏一, 坂本篤裕 : 血管内視鏡と OCT の同時使用に対する有用性について. 日本心血管インターベンション治療学会 (第19回), 2010. 8.
 - 18) 水野正之¹⁾, 仲田佳広¹⁾, 高野雅充²⁾, 渡邊英樹¹⁾, 原田耕次¹⁾, 前田悠人³⁾, 河原崎昇¹⁾, 清野精彦²⁾, 水野杏一 (¹⁾ 千葉北総病院 放射線センター, ²⁾ 千葉北総病院 循環器内科, ³⁾ 千葉北総病院 ME 部) : 光干渉断層撮影法における穿刺部位の違いによる計測誤差. 日本心血管インターベンション治療学会 (第19回), 2010. 8.
 - 19) Kamiya M¹⁾, Sato N²⁾, Akiya M¹⁾, Takahashi Y¹⁾, Mizuno K (¹⁾ The Fraternity Memorial Hospital, ²⁾ Intensive and Cardiac Care Unit) : A case of marked diuresis by the combination carperitide and dopamine without renal damages in acute heart failure. 日本心不全学会 (第14回), 2010. 10.
 - 20) Murai K¹⁾, Seino Y¹⁾, Kimata N¹⁾, Inami T¹⁾, Yamamoto M¹⁾, Murakami D¹⁾, Abe J¹⁾, Yodogawa K¹⁾, Ibuki C¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Chiba-Hokusoh Hospital) : Efficacy and limitation of oral inotropic agents for the treatment of chronic heart failure : real world retrospective analyses. 日本心不全学会 (第14回), 2010. 10.
 - 21) 中村俊一 : Complexity of the coronary artery disease affects the long-term clinical outcome after percutaneous coronary intervention. NNSJ CV Seminar (第7回), 2010. 10.
 - 22) 川本智章, 間中研一¹⁾, 山内 篤²⁾, 金子恵子, 宮城直也³⁾, 石田周幸³⁾, 平井紗弥可³⁾, 青山 徹³⁾, 知念克哉³⁾, 天野美美³⁾, 林健次郎³⁾, 川島淳一³⁾, 屋嘉比康治³⁾ (¹⁾ 獨協医科大学国際教育施設研究支援センター, ²⁾ さいたま寄居病院 内科, ³⁾ 埼玉医科大学総合医療センター 消化器肝臓内科) : ラジオ波焼灼療法施行中における剥離肝細胞の血管内捕捉. 日本消化器病学会 (第96回), 2010. 4.
 - 23) 斎藤恒徳 : 肥満心筋症 : 2 次性心筋症の新概念と心筋の超微形態に関する臨床病理学的検討. NNSJ Cardiovascular Seminar (第6回), 2010. 5.
 - 24) 林 明聡, 宮内靖史, 羽田朋人, 大野忠明, 坪井一平, 植竹俊介, 林 洋史, 山本哲平, 村田広茂, 山本英世, 上野 亮, 堀江 格, 小原俊彦, 加藤貴雄, 水野杏一, その他 2 名 : 左室後壁の Purkinje 線維を起源とする心室頻拍が出現した Churg-Strauss 症候群の 1 例. 臨床心臓電気生理研究会 (第40回), 2010. 5.

- 25) 栗田二郎¹⁾, 落 雅美¹⁾, 石井庸介¹⁾, 清水一雄¹⁾, 宮本正章, 高木 元, 太良修平, 水野杏一, 福嶋善光¹⁾, 汲田伸一郎, 田畑泰彦⁽¹⁾ 心臓血管外科): 徐放化 Platelet Rich Plasma (PRP) の血管新生効果の検討. 日本血管外科系学術総会 (第 38 回), 2010. 5.
- 26) 藤本啓志, 本間 博, 水野杏一, 細川雄亮¹⁾, 鈴木浩臣¹⁾, 田中啓治¹⁾, 高山守正²⁾ (1) 集中治療室, 2) 榊原記念病院): 閉塞性肥大型心筋症に僧帽弁前尖裂隙を合併し, 経胸壁心臓超音波で収縮期異常前方運動と判別困難であった 1 例. 日本内科学会関東地方会 (第 571 回), 2010. 5.
- 27) 板倉弘重¹⁾, 中谷矩章²⁾, 水野杏一, 吉田雅幸³⁾, 森下竜一⁴⁾ (1) 茨城キリスト教大学, 2) 中谷内科クリニック, 3) 東京医科歯科大学, 4) 大阪大学): 日本人高齢者コレステロール患者の年代クラス別におけるフルバスタチンの有用性—Lochol Event Monitoring (LEM) スタディの解析結果から. 日本老年医学会 (第 52 回), 2010. 6.
- 28) 斎藤恒徳, 山本英世, 高野仁司: CABG 術後の冠動脈閉塞病変に対する PCI. 千駄木血管研究会 (第 4 回), 2010. 6.
- 29) 木股仲恒¹⁾, 山本真功¹⁾, 稲見 徹¹⁾, 村上大介¹⁾, 大場崇芳¹⁾, 雪吹周生¹⁾, 清野精彦¹⁾, 川俣 博²⁾, 岡田 進²⁾, 水野杏一 (1) 千葉北総病院, 2) 千葉北総病院放射線科): 腎機能障害を有する閉塞性動脈硬化症患者の EVT に際し炭酸ガス造影の併用が有用であった 1 例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第 216 回), 2010. 6.
- 30) 桐木園子, 菊池有史, 太良修平, 高木 元, 安武正弘, 高野仁司, 宮本正章, 水野杏一: マゴットセラピーによる下腿潰瘍治療中に VZV 感染に伴う劇症肝炎を発症した 1 例. 第 1 回マゴットセラピー研究会, 2010. 7.
- 31) 高瀬仁志¹⁾, 板倉朋美¹⁾, 海平和男¹⁾, 宮本正章, 高木 元, 太良修平, 桐木園子, 久保田芳明, 大坪春美, 高木郁代, 高野仁司, 安武正弘, 水野杏一 (1) (株) バイオセラピーメディカル): マゴットセラピー治療手技の選択 そのメリットとデメリット. 第 1 回マゴットセラピー研究会, 2010. 7.
- 32) 菅谷寿理¹⁾, 福岡長知, 会田智弘¹⁾, 吉田由紀子¹⁾, 竹田裕子¹⁾, 牛島明子, 加藤和代, 愛須紀子, 本間 博, 水野杏一 (1) 生理機能センター): 心筋梗塞後の抑うつと不安感の経時変化. 日本心臓リハビリテーション学会 (第 16 回), 2010. 7.
- 33) 会田智弘¹⁾, 菅谷寿理¹⁾, 福岡長知, 平野美子¹⁾, 林 寛子, 牛島明子, 加藤祐子, 高橋 啓, 本間 博, 水野杏一 (1) 生理機能センター): 心疾患患者に合併した閉塞性および中枢性睡眠時無呼吸が動脈血炭酸ガス分圧に与える影響. 日本心臓リハビリテーション学会 (第 16 回), 2010. 7.
- 34) 斎藤恒徳, 山本英世, 高野仁司: PCI complex lesion: CABG 術後の冠動脈閉塞病変に対する PCI. 冠動脈疾患研究会 (第 1 回), 2010. 7.
- 35) 川本智章, 間中研一¹⁾, 山内 篤²⁾, 金子恵子, 宮城直也³⁾, 石田周幸³⁾, 知念克哉³⁾, 天野美美³⁾, 林健次郎³⁾, 小坂橋絵里³⁾, 原田舞子³⁾, 川島淳一³⁾, 屋嘉比康治³⁾ (1) 獨協医科大学国際教育施設研究支援センター, 2) さいたま寄居病院 内科, 3) 埼玉医科大学総合医療センター 消化器肝臓内科): ラジオ波焼灼療法施行中における剥離肝細胞の血管内捕捉. 日本肝癌研究会 (第 46 回), 2010. 7.
- 36) 福岡長知, 加藤祐子, 水野杏一: 心筋梗塞後運動リハビリ症例において検討されるべき新たな冠危険因子について. 日本心臓病学会 (第 58 回), 2010. 9.
- 37) 小林宣明¹⁾, 畑 典武¹⁾, 久米典昭²⁾, 品田卓郎¹⁾, 富田和憲¹⁾, 北村光信¹⁾, 白壁章宏¹⁾, 野崎文華¹⁾, 徳山榮男¹⁾, 稲見 徹³⁾, 清野精彦³⁾, 水野杏一 (1) 千葉北総病院 集中治療室, 2) 京都大学, 3) 千葉北総病院): 急性冠症候群と冠攣縮性狭心症の鑑別における sLOX-1 の有用性. 日本心臓病学会 (第 58 回), 2010. 9.
- 38) 中込明裕¹⁾, 洪井俊之¹⁾, 小杉宗範¹⁾, 吉川雅智¹⁾, 小谷英太郎¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 清野精彦²⁾, 新 博次¹⁾, 水野杏一 (1) 多摩永山病院, 2) 千葉北総病院): 慢性心不全患者における単球の産生するサイトカインと血清脂質値, 長期予後との関係. 日本心臓病学会 (第 58 回), 2010. 9.
- 39) 雪吹周生¹⁾, 清野精彦¹⁾, 大塚俊昭²⁾, 水野杏一 (1) 千葉北総病院, 2) 衛生学公衆衛生学教室): Losartan/HCTZ 配合剤は高 BMI 高血圧患者において顕著な夜間降圧効果を示す: 地域連携研究 (INBA) study. 日本

心臓病学会（第58回），2010. 9.

- 40) 小杉宗範¹⁾，中込明裕¹⁾，加藤活人¹⁾，佐々木朝子¹⁾，宮地秀樹¹⁾，渋井俊之¹⁾，吉川雅智¹⁾，小谷英太郎¹⁾，草間芳樹¹⁾，新 博次¹⁾，水野杏一¹⁾（¹⁾ 多摩永山病院）：冠攣縮狭心症患者においてインスリン抵抗性は心事故を増加させる。日本心臓病学会（第58回），2010. 9.
- 41) 鈴木浩臣¹⁾，坪 宏一¹⁾，佐藤直樹¹⁾，細川雄亮¹⁾，宗像 亮¹⁾，時田祐吉¹⁾，上野 亮¹⁾，青景聡之¹⁾，山本 剛¹⁾，水野杏一¹⁾，田中啓治¹⁾（¹⁾ 集中治療室）：急性大動脈解離における常染色体優性遺伝多発嚢胞腎の関与とその特徴。日本心臓病学会（第58回），2010. 9.
- 42) 吉田雅幸¹⁾，小田原雅人²⁾，森下竜一³⁾，市原淳弘⁴⁾，水野杏一¹⁾，楠 正⁵⁾，板倉弘重⁶⁾，中谷矩章⁷⁾（¹⁾ 東京医科歯科大学，²⁾ 東京医科大学，³⁾ 大阪大学，⁴⁾ 慶應義塾大学，⁵⁾ 日本薬剤疫学会，⁶⁾ 茨城キリスト教大学，⁷⁾ 中谷内科クリニック）：フルバスタチン長期投与の高コレステロール血症患者における高血圧と心及び脳イベントの危険因子（LEM 試験サブ解析）。日本心臓病学会（第58回），2010. 9.
- 43) 林 寛子，福間長知，加藤祐子，牛島明子，高橋 啓，水野杏一：心筋梗塞後の睡眠時無呼吸に影響を及ぼす因子の検討。日本心臓病学会（第58回），2010. 9.
- 44) 松崎つや子¹⁾，関野玲子¹⁾，見友優子¹⁾，田尾清一¹⁾，塚田亜希¹⁾，水瀬 学¹⁾，斉藤公一¹⁾，本間 博¹⁾，藤本啓志，大野忠明，水野杏一（¹⁾ 生理機能センター）：大動脈弁石灰化の程度と augmentation index (AI) 上行大動脈近位部壁の伸展性との関連性について。日本医科大学医学会総会（第78回），2010. 9.
- 45) 中込明裕¹⁾，渋井俊之¹⁾，小杉宗範¹⁾，吉川雅智¹⁾，小谷英太郎¹⁾，草間芳樹¹⁾，清野精彦²⁾，新 博次¹⁾，水野杏一（¹⁾ 多摩永山病院，²⁾ 千葉北総病院）：慢性腎臓病を合併した急性冠症候群患者の治療戦略（CKDを合併する心血管病患者をどう診断・治療するか？）。日本心臓病学会（第58回），2010. 9.
- 46) 松田範子¹⁾，黄川田信充¹⁾，野口裕幸¹⁾，木山輝郎¹⁾，内田英二¹⁾，桐木園子，太良修平，高木 元，宮本正章，坂本篤裕¹⁾，徳永 昭¹⁾（¹⁾ ME部）：末梢動脈疾患による難治性潰瘍・壊死治療の進歩 骨髄血管新生療法と高気圧酸素療法の併用治療効果について。日本高気圧環境・潜水医学会学術総会（第45回），2010. 9.
- 47) 川本智章，金子恵子，古明地弘和，宮元亮子，清水秀治，水野杏一，山内 篤¹⁾，間中研一²⁾（¹⁾ さいたま寄居病院 内科，²⁾ 獨協医科大学国際教育施設研究支援センター）：ラジオ波焼灼療法施行中における剥離肝細胞の血管内捕捉。Microwave Surgery 研究会（第29回），2010. 9.
- 48) 川本智章：IFN，および安全なラジオ波焼灼療法。日本医科大学医学会総会（第78回），2010. 9.
- 49) 小坂橋絵里¹⁾，宮城直也¹⁾，原田舞子¹⁾，林健次郎¹⁾，天野美美¹⁾，知念克哉¹⁾，平井紗弥可¹⁾，青山 徹¹⁾，可児和仁¹⁾，石田周幸¹⁾，山本龍一¹⁾，櫻田智也¹⁾，大野志乃¹⁾，川島淳一¹⁾，佐藤恵子¹⁾，その他5名（¹⁾ 埼玉医科大学総合医療センター 消化器肝臓内科）：腹痛を契機に発症した特発性大網出血の1例。日本消化器病学会関東支部例会（第306回），2010. 9.
- 50) 坪 宏一¹⁾，川本雅司²⁾，鈴木浩臣¹⁾，佐藤直樹¹⁾，青景聡之¹⁾，細川雄亮¹⁾，上野 亮¹⁾，宗像 亮¹⁾，時田祐吉¹⁾，落 雅美³⁾，水野杏一⁴⁾，田中啓治¹⁾（¹⁾ 集中治療室，²⁾ 病理部，³⁾ 心臓血管外科）：病理所見で嚢状中膜壊死が認められたA型急性大動脈解離合併の常染色体優性遺伝多発嚢胞腎の1例。日本脈管学会（第51回），2010. 10.
- 51) 稲見茂信，前田美樹¹⁾，中村俊一，太良修平，山本英世，田近研一郎，加藤浩司，高野雅充²⁾，高木 元，高野仁司，浅井邦也，安武正弘，水野杏一（¹⁾ ME部，²⁾ 千葉北総病院）：血管内視鏡と光学的干渉断層検査（OCT）の同時施行に関する検討。日本心臓血管内視鏡学会（第24回），2010. 10.
- 52) 斉藤恒徳，山本英世，高野仁司，三軒豪仁，田中貴久，松下誠人，久保田芳明，中村俊一，吉田明日香，太良修平，田近研一郎，加藤浩司，稲見茂信，高木 元，青木 聡，その他3名：冠動脈バイパス術後の慢性閉塞性病変に対する冠動脈インターベンション。日本心血管インターベンション治療学会，2010. 10.
- 53) 斎藤恒徳，山本英世，高野仁司，三軒豪仁，田中貴久，松下誠人，久保田芳明，中村俊一，吉田明日香，太良修平，田近研一郎，加藤浩司，稲見茂信，高木 元，青木 聡，その他3名：冠動脈バイパス術後の慢性閉塞

- 性病変に対する冠動脈インターベンション. 日本心血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会 (第 37 回), 2010. 10.
- 54) 佐藤丞子, 本間 博, 藤本啓志, 横島友子, 伊藤恵子, 大野忠明, 水野杏一, 水瀬 学¹⁾, 松崎つや子¹⁾, 田島博之²⁾ (¹⁾ 生理機能センター, ²⁾ 臨床放射線医学): 特発性左内頸静脈血栓の 2 例. 日本超音波医学会関東甲信越地方会 (第 22 回), 2010. 10.
- 55) 鳴海武長¹⁾, 山下純一郎¹⁾, 柴田泰史¹⁾, 飯野幸永¹⁾, 本間 博 (¹⁾ 中央検査部): 「ナノピア KL-6 エーザイ」における機種別性能評価. 日本臨床自動化学会 (第 42 回), 2010. 10.
- 56) 柴田泰史¹⁾, 高木 豊¹⁾, 鳴海武長¹⁾, 影山憲貴¹⁾, 飯野幸永¹⁾, 本間 博, 久志本成樹²⁾, 横田裕行²⁾ (¹⁾ 中央検査部, ²⁾ 高度救命救急センター): イムノクロマトリーダー「ラビッドピア」を用いた BNP 迅速測定検査の有用性. 日本臨床検査自動化学会 (第 42 回), 2010. 10.
- 57) 小林紘士¹⁾, 影山憲貴¹⁾, 三橋 太¹⁾, 日ノ澤進一郎¹⁾, 飯野幸永¹⁾, 本間 博 (¹⁾ 中央検査部): 多項目自動血球分析装置 XE-5000 と ADVIA2120i を用いた脳脊髄液および体腔液測定機能の評価. 日本臨床検査自動化学会 (第 42 回), 2010. 10.
- 58) 三橋 太¹⁾, 小林紘士¹⁾, 影山憲貴¹⁾, 石野三智男¹⁾, 日ノ澤進一郎¹⁾, 飯野幸永¹⁾, 本間 博 (¹⁾ 中央検査部): 試験紙法における尿蛋白/クレアチニン比の有用性. 日本臨床検査自動化学会 (第 42 回), 2010. 10.
- 59) 川本智章, 間中研一¹⁾, 山内 篤²⁾, 金子恵子, 宮城直也³⁾, 知念克哉³⁾, 小坂橋絵里³⁾, 原田舞子³⁾, 石田周幸³⁾, 屋嘉比康治³⁾ (¹⁾ 獨協医科大学国際教育施設研究支援センター, ²⁾ さいたま寄居病院 内科, ³⁾ 埼玉医科大学総合医療センター 消化器肝臓内科): ラジオ波焼灼療法施行中における剥離肝細胞の血管内捕捉. 日本肝臓学会大会 (第 14 回), 2010. 10.
- 60) 保坂純郎, 大森裕也, 山内仁紫, 高木郁代: 1 次性下肢静脈瘤における大小伏在静脈閉塞を目的とした血管内レーザー照射法 (EVLA) の有用性. 日本静脈学会総会 (第 51 回), 2010. 10.
- 61) 福岡長知, 菅谷寿理¹⁾, 加藤祐子, 林 寛子, 加藤和代, 高橋 啓, 水野杏一 (¹⁾ 生理機能センター): 心筋梗塞後の抑うつと関連因子の検討. 日本循環器心身医学会 (第 67 回), 2010. 11.
- 62) 佐藤美里¹⁾, 鳴海武長¹⁾, 山下純一¹⁾, 高木 豊¹⁾, 飯野幸永¹⁾, 本間 博 (¹⁾ 中央検査部): 新規 CK-MB 活性測定試薬「アキュラスオート CK-MB MtO」の基礎的検討と現行法 Dimension RXL による CK-MB Mass 法との比較. 関東甲信地区医学検査学会 (第 47 回), 2010. 11.
- 63) 山下純一¹⁾, 佐藤美里¹⁾, 鳴海武長¹⁾, 玉手ひさ子¹⁾, 高木 豊¹⁾, 飯野幸永¹⁾, 本間 博 (¹⁾ 中央検査部): カートリッジ型血液ガス分析装置 ABL90FLEX 基礎的検討. 関東甲信地区医学検査学会 (第 47 回), 2010. 11.
- 64) 下津留美¹⁾, 西田尚子¹⁾, 金子幸江¹⁾, 鳴海武長¹⁾, 高木 豊¹⁾, 飯野幸永¹⁾, 本間 博 (¹⁾ 中央検査部): 汎用自動分析装置 BM6070 における CH50 3 試薬の比較検討. 関東甲信地区医学検査学会 (第 47 回), 2010. 11.
- 65) 高木 豊¹⁾, 鳴海武長¹⁾, 山下純一¹⁾, 佐藤美里¹⁾, 柴田泰史¹⁾, 飯野幸永¹⁾, 本間 博 (¹⁾ 中央検査部): 異常高値検体の結果測定域予測による迅速測定手法. 関東甲信地区医学検査学会 (第 47 回), 2010. 11.
- 66) 村山智美¹⁾, 本間 博 (¹⁾ 中央検査部): 尿沈渣において悪性リンパ腫細胞が認められた 1 症例. 関東甲信地区医学検査学会 (第 47 回), 2010. 11.
- 67) 高木 元, 宮本正章, 太良修平, 高木郁代, 桐木園子, 高野仁司, 田畑泰彦, 水野杏一: 再生誘導医療基礎研究の実践的臨床応用. 日本創傷治療学会学術集会 (第 40 回), 2010. 12.
- 68) 川本智章, 間中研一¹⁾, 山内 篤²⁾, 金子恵子, 古明地弘和, 宮元亮子, 清水秀治, 水野杏一 (¹⁾ 獨協医科大学国際教育施設研究支援センター, ²⁾ さいたま寄居病院 内科): ラジオ波焼灼療法施行中における剥離肝細胞の血管内捕捉. 日本肝臓学会東部会 (第 38 回), 2010. 12.
- 69) 斎藤恒徳, 斎藤恒博, 杉山重幸, 浅井邦也, 水野杏一: 閉塞性睡眠時無呼吸症候群に対する持続的陽圧換気療法の影響. 循環器睡眠医療研究会 (第 4 回), 2011. 1.
- 70) 宮元亮子, 泉 佑樹, 松下誠人, 藤本啓志, 桐木園子, 清水秀治, 金子恵子, 川本智章, 水野杏一: 進行肝細

胞癌に対する Sorafenib の使用経験. 日本肝がん分子標的治療研究会 (第 3 回), 2011. 1.

- 71) 佐藤直樹¹⁾, 宗像 亮¹⁾, 青景聡之¹⁾, 村田広茂¹⁾, 鈴木浩臣¹⁾, 宮地秀樹¹⁾, 鈴木 学¹⁾, 細川雄亮¹⁾, 坪 宏一¹⁾, 山本 剛¹⁾, 水野杏一, 田中啓治¹⁾ (1) 集中治療室): 急性心不全における入院時乳酸値測定意義. 日本集中治療医学会 (第 38 回), 2011. 2.
 - 72) 白壁章宏¹⁾, 畑 典武¹⁾, 横山真也¹⁾, 品田卓郎¹⁾, 小林宣明¹⁾, 富田和憲¹⁾, 北村光信¹⁾, 野崎文華¹⁾, 徳山榮男¹⁾, 水野杏一 (1) 千葉北総病院集中治療室): 急性心不全における非侵襲的陽圧換気成功のための指標. 日本集中治療医学会 (第 38 回), 2011. 2.
 - 73) 坪 宏一¹⁾, 青景聡之¹⁾, 鈴木浩臣¹⁾, 細川雄亮¹⁾, 宗像 亮¹⁾, 時田祐吉¹⁾, 山本 剛¹⁾, 佐藤直樹¹⁾, 水野杏一, 田中啓治¹⁾ (1) 集中治療室): 背部痛は急性心筋梗塞の除外診断にどの程度有用か?: 急性大動脈解離との鑑別における有用性の検討. 日本集中治療医学会 (第 38 回), 2011. 2.
 - 74) 藤田 彩¹⁾, 時田祐吉¹⁾, 青景聡之¹⁾, 坪 宏一¹⁾, 山本 剛¹⁾, 佐藤直樹¹⁾, 新田 隆²⁾, 落 雅美²⁾, 水野杏一, 田中啓治¹⁾ (1) 集中治療室, 2) 心臓血管外科): CRT 中断に伴い急激に肺水腫およびショックに陥った拡張型心筋症の 1 例. 日本集中治療医学会 (第 38 回), 2011. 2.
 - 75) 村井綱児¹⁾, 清野精彦¹⁾, 木股伸恒¹⁾, 稲見 徹¹⁾, 山本真功¹⁾, 村上大介¹⁾, 阿部純子¹⁾, 淀川顕司¹⁾, 雪吹周生¹⁾, 水野杏一 (1) 千葉北総病院): 静注強心薬離脱困難な重症心不全患者における経口強心薬治療と展望. 日本集中治療医学会 (第 38 回), 2011. 2.
 - 76) 藤田 彩¹⁾, 時田祐吉, 安井美沙, 青景聡之, 鈴木浩臣, 村田広茂, 細川雄亮, 宗像 亮, 坪 宏一, 山本 剛, 佐藤直樹, 田中啓治, 落 雅美¹⁾, 水野杏一 (1) 心臓血管外科): 急性大動脈解離の加療中に右房内浮遊血栓, 肺血栓塞栓症を合併した 1 例. 日本集中治療医学会学術集会 (第 38 回), 2011. 2.
- (10) セッション:
- 1) 岡崎怜子¹⁾, 小谷英太郎¹⁾, 小杉宗範¹⁾, 吉川雅智¹⁾, 松本 真¹⁾, 佐野純子¹⁾, 中込明裕¹⁾, 遠藤康実¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 新 博次¹⁾, 水野杏一 (1) 多摩永山病院): 心室細動で発症し心臓電気生理検査で不整脈原性基質の存在が疑われた冠攣縮性狭心症の 1 例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第 217 回), 2010. 9.
 - 2) 山口朋禎¹⁾, 内田高浩¹⁾, 川口直美¹⁾, 網谷賢一¹⁾, 石川昌弘¹⁾, 板倉潮人¹⁾, 春原沙織¹⁾, 宗像一雄¹⁾, 水野杏一 (1) 武蔵小杉病院): ASV (adaptive servo-ventilation オートセット CS) が奏功した繰り返すうっ血性心不全の 1 例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第 217 回), 2010. 9.
 - 3) 藪野雄大¹⁾, 細川雄亮¹⁾, 原 敬介¹⁾, 青景聡之¹⁾, 鈴木浩臣¹⁾, 上野 亮¹⁾, 宗像 亮¹⁾, 時田祐吉¹⁾, 坪 宏一¹⁾, 山本 剛¹⁾, 佐藤直樹¹⁾, 田中啓治¹⁾, 加藤活人²⁾, 草間芳樹²⁾, 新 博次²⁾, その他 1 名 (1) 集中治療室, 2) 多摩永山病院): 川崎病後遺症の超巨大冠動脈瘤により大伏在静脈グラフトが狭窄をきたした 1 例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第 217 回), 2010. 9.
 - 4) 吉川雅智¹⁾, 小谷英太郎¹⁾, 佐藤太亮¹⁾, 森澤太一郎¹⁾, 小杉宗範¹⁾, 佐々木朝子¹⁾, 浜井俊之¹⁾, 加藤活人¹⁾, 宮地秀樹¹⁾, 中込明裕¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 新 博次¹⁾, 水野杏一 (1) 多摩永山病院): PCI 後の止血デバイス使用に合併した血腫により 1 ヶ月後に発症した深部静脈血栓症の 1 例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第 217 回), 2010. 9.
 - 5) 田中貴久, 高橋 啓, 宮元亮子, 斉藤恒徳, 浅井邦也, 水野杏一: LDH 高値にて早期診断に至った無症候性回結腸動閉塞症の 1 例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第 217 回), 2010. 9.
 - 6) 秋谷麻衣¹⁾, 高橋保裕¹⁾, 洲河美貴¹⁾, 浅田佳代¹⁾, 神谷仁孝¹⁾, 田近研一郎¹⁾, 水野杏一 (1) 同愛記念病院): 急性心筋梗塞発症を契機に発見された肺動脈奇形の 1 例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第 217 回), 2010. 9.
 - 7) 稲見 徹¹⁾, 根岸経太¹⁾, 栗原 理¹⁾, 木股伸恒¹⁾, 山本真功¹⁾, 村井綱児¹⁾, 村上大介¹⁾, 阿部純子¹⁾, 淀川顕司¹⁾, 高野雅充¹⁾, 大野則彦¹⁾, 大場崇芳¹⁾, 雪吹周生¹⁾, 清野精彦¹⁾, 水野杏一 (1) 千葉北総病院): 重度の睡眠時無呼吸症候群を合併した急性大動脈解離の 1 症例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第 217 回), 2010. 9.

- 8) 藤田 彩¹⁾, 時田祐吉¹⁾, 青景聡¹⁾, 鈴木浩臣¹⁾, 村田広茂¹⁾, 細川雄亮¹⁾, 宗像 亮¹⁾, 坪 宏一¹⁾, 山本 剛¹⁾, 佐藤直樹¹⁾, 田中啓治¹⁾, 落 雅美²⁾, 水野杏一 (¹⁾ 集中治療室, ²⁾ 心臓血管外科): 急性大動脈解離の加療中に右房内浮遊血栓, 肺血栓塞栓症を合併した1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第218回), 2010. 12.
- (11) フォーカスセッション:
- 1) 山本英正: 腎動脈ステントにおける腎機能改善効果. 日本心血管インターベンション治療学会 (第19回), 2010. 8.
- (12) ポスターセッション:
- 1) 森下竜一¹⁾, 小田原雅人²⁾, 水野杏一, 吉田雅幸³⁾, 市原淳弘⁴⁾, 楠 正⁵⁾, 板倉弘重⁶⁾, 中谷矩章⁷⁾, Lem 研究グループ⁸⁾, 水野杏一 (¹⁾ 大阪大学, ²⁾ 東京医科大学, ³⁾ 東京医科歯科大学, ⁴⁾ 慶應大学, ⁵⁾ 日本薬剤学会, ⁶⁾ 茨城キリスト教大学, ⁷⁾ 中谷内科クリニック, ⁸⁾ LEM 研究グループ): スタチン管理下における高脂血症患者のイベント発症は糖尿病, 高血圧及び喫煙で上昇する (LEM 研究: 心・脳血管障害サブ解析 1). 日本血管生物医学会 (第18回), 2010. 12.
- 2) 森下竜一¹⁾, 小田原雅人²⁾, 水野杏一, 吉田雅幸³⁾, 市原淳弘⁴⁾, 楠 正⁵⁾, 板倉弘重⁶⁾, 中谷矩章⁷⁾, Lem 研究グループ⁸⁾, 水野杏一 (¹⁾ 大阪大学, ²⁾ 東京医科大学, ³⁾ 東京医科歯科大学, ⁴⁾ 慶應大学, ⁵⁾ 日本薬剤学会, ⁶⁾ 茨城キリスト教大学, ⁷⁾ 中谷内科クリニック, ⁸⁾ LEM 研究グループ): スタチン管理下における高脂血症患者のイベント予防は TG 及び HDL-C 管理が重要である (LEM 研究: 心・脳血管障害サブ解析 2). 日本血管生物医学会 (第18回), 2010. 12.
- (13) ミニシンポジウム:
- 1) 野崎文華¹⁾, 白壁章宏¹⁾, 畑 典武¹⁾, 横山真也¹⁾, 品田卓郎¹⁾, 小林宣明¹⁾, 富田和憲¹⁾, 北村光信¹⁾, 徳山榮男¹⁾, 水野杏一 (¹⁾ 千葉北総病院): 当院での循環器疾患に対する経皮的心臓補助 (PCPS) の検討. 日本集中治療医学会 (第38回), 2011. 2.
- (14) ラウンドテーブルディスカッション:
- 1) 山本英正: 造影剤腎症発症機序の解明及び造影剤腎症予防における長期効果について. 日本心血管インターベンション治療学会 (第19回), 2010. 8.
- 2) 稲見茂信, 本間英恵, 高木 元, 高野仁司, 水野杏一: クロピドグレルの血小板凝集抑制作用に対するプロトンポンプ阻害薬の影響. 日本血管内治療学会 (第16回), 2010. 7.

[付属病院老年内科]

研究概要

高齢者の糖尿病, 動脈硬化, 高血圧症, 腎機能および認知症に関する臨床的研究を行った。

糖尿病に関して, 1) 大血管症の進展と危険因子との関連を頸動脈超音波所見より検討した. 2) 高齢者における尿中アルブミンおよび eGFR の臨床的意義を頸動脈超音波所見より検討した. 3) 高齢者における血中 1, 5-anhydroglucitol 値の耐糖能異常スクリーニングの指標としての有用性に関する検討を行った. 4) 耐糖能異常の進展の指標としての負荷後血糖値と生化学的検査指標の有用性を地域住人の追跡調査から明らかにした. 5) 2型糖尿病と酸化ストレスの関連を Reactive Oxygen Metabolites (ROMs) および BAP 測定を行い検討した。

動脈硬化に関して, 1) FMD の経時的变化の臨床的意義を検討した. 2) FMD の加齢の影響を断面調査により検討した. 3) 血管内皮機能障害の危険因子について FMD を指標として検討した。

高血圧症に関して, 1) 高血圧患者における年齢階層と動脈硬化度, 高血圧合併症との関連臨床コホート研究 (J-CHEARS) を行った. 2) 高血圧合併 2型糖尿病におけるテルミサルタンの血糖および内臓脂肪への影響を検討した. 3) 無症候性白血球尿と血圧日内変動の関連性を明らかにした。

腎機能に関して, 1) 尿中 NAG の加齢変化を尿細管上皮細胞との関連より検討した. 2) 無症候性白血球尿の臨床

的意義をFMDの面より検討した。認知症に関して、発症前の性格が重度認知症患者の入院前および入院後死亡までの虚血性心疾患および悪性腫瘍の発症に及ぼす影響を検討した。

研究業績

論文

(1) 原著：

1) Watanabe K, Oba K, Suzui T, Okuyama U, Ouchi M, Suzuki K, Ohnishi T, Hashimoto M, Igari Y, Nakano H : Glucose levels during oral glucose tolerance tests (OGTT) and gamma-glutamyl transpeptidase (GGT) are predictors of change from normal to impaired glucose tolerance in healthy middle-aged Japanese men. *Acta Diabetologica* 2010 ; 47 (3) : 225-230.

2) 大庭建三：高齢者の投薬コントロールについて：糖尿病事例を通して。老健 2011；21（11）：68-71.

(2) 総説：

1) 大庭建三, 関水憲一, 中野博司：疾患を有する高齢者が海外旅行を計画するときのアドバイス：生活習慣病（高血圧症, 糖尿病など）を有する高齢者。Geriatr Med 2010；48（4）：451-454.

2) 篠塚 規¹⁾, 大庭建三, 木田厚瑞²⁾, 岩本俊彦³⁾ (1) 三愛病院, 2) 呼吸ケアクリニック, 3) 東京医科大学老年病)：高齢者の旅行医学：安全・快適な旅行のために。Geriatr Med 2010；48（4）：525-536.

3) 大庭建三, 二見章子, 中野博司：高齢者診療に活かすガイドラインのポイント：高齢者肥満症。Geriatr Med 2010；48（5）：683-689.

4) 中野博司：高齢者の安全な薬物療法：インスリン治療中に慢性低血糖を併発した2型糖尿病。Geriatr Med 2010；48（5）：679-682.

5) 鈴木達也, 野呂瀬準, 須田章子, 鈴木一成, 関水憲一, 大内基司, 猪狩吉雅, 渡邊健太郎, 中野博司, 大庭建三：臨床医のために：認知症の周辺症状（BPSD）への対応。日医大医会誌 2010；6（3）：135-139.

6) 大庭建三, 渡邊健太郎, 中野博司：糖尿病。成人病と生活習慣病 2010；40（9）：1032-1035.

7) 中野博司：高齢2型糖尿病へのインスリン療法。日老医誌 2010；47（5）：379-384.

8) 大庭建三, 中野博司, 猪狩吉雅：いま、ここが知りたい：高齢者糖尿病の治療基準を考える。日老医誌 2010；47（6）：517-521.

(3) 研究報告書：

1) 小島太郎¹⁾, 大内尉義¹⁾, 大橋靖雄²⁾, J-Chears Study グループ (1) 東京大学加齢医学講座, 2) 東京大学疫学予防保健学)：J-CHEARS 研究。公益信託日本動脈硬化予防研究基金平成 21 年度研究報告集 2011；71-72.

(4) 症例報告：

1) 白杵二郎¹⁾, 高橋明子¹⁾, 岩川賀世²⁾, 内藤善哉³⁾, 福田 悠³⁾, 藤田和恵¹⁾, 小原敏彦⁴⁾, 中島敦夫²⁾, 水野杏一⁴⁾, 岩崎雄樹⁵⁾, 川本雅司³⁾, 山元滋樹³⁾, 中野博司, 佐藤直樹⁵⁾ (1) 呼吸器内科, 2) リウマチ科, 3) 病理, 4) 循環器内科, 5) 集中治療室)：治療に難渋した膠原病を伴う肺高血圧症の1例。内科 2010；105（4）：677-690.

著書

1) 大庭建三：〔分担〕内分泌機能の加齢変化。図説臨床看護医学デジタル版：老年医学（秦葭哉, 大荷満生），2010；pp1-3, エディターシップ.

2) 大庭建三：〔分担〕糖尿病。図説臨床看護医学デジタル版：老年医学（秦葭哉, 大荷満生），2010；pp1-3, エディターシップ.

3) 中野博司：〔分担〕抑うつ。図説臨床看護医学デジタル版：老年医学（秦葭哉, 大荷満生），2010；pp1-2, エディターシップ.

4) 中野博司：〔分担〕めまい。図説臨床看護医学デジタル版：老年医学（秦葭哉, 大荷満生），2010；pp1-3, エディ

ターシップ.

- 5) 中野博司, 大庭建三:〔分担〕糖尿病: DPP - 4 阻害薬. 老年医学 update 2010-2011 (日本老年医学会雑誌編集委員会), 2010; pp10-14, メジカルビュー社.
- 6) 下門顕太郎¹⁾, 中野博司ほか (1) 東京医科歯科大学老年内科):〔編集〕老年医学 update 2010-2011 (日本老年医学会雑誌編集委員会), 2010; メジカルビュー社.

学会発表

(1) 教育講演:

- 1) 中野博司: 高齢者に対する厳格な血糖管理の是非. 第 53 回日本糖尿病学会, 2010. 5.
- 2) 大庭建三: いま, ここが知りたい: 高齢者糖尿病の治療基準を考える. 第 52 回日本老年医学会学術総会, 2010. 10.

(2) シンポジウム:

- 1) 小原 信, 野呂瀬準, 関水憲一, 鈴木一成, 渡邊健太郎, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 2 型糖尿病と酸化ストレス: d-ROMs および BAP を用いた検討 (明日につながる臨床研究). 第 13 回 Geriatric Frontier Forum, 2010. 10.

(3) セミナー:

- 1) 渡邊健太郎: 血管内皮機能検査を診療に活かす: 糖尿病と血管内皮機能の臨床応用. 第 53 回日本糖尿病学会, 2010. 5.

(4) 一般講演:

- 1) 鈴木達也, 岡崎 優, 角田美佐子, 二見章子, 鈴木一成, 猪狩吉雅, 渡邊健太郎, 木川好章¹⁾, 中野博司, 大庭建三 (1) 飯能老年病センター): 高血圧合併 2 型糖尿病患者における血糖コントロールおよび内臓脂肪に対するテルミサルタンの用量別の検討 - 12 週間経過観察. 第 53 回日本糖尿病学会, 2010. 5.
- 2) 本山正幸, 渡邊健太郎, 大内基司, 関水憲一, 小原 信, 矢野宏行, 山本直史, 澤井啓介, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 糖尿病性大血管症の進展と危険因子との関連: 頸動脈超音波所見よりの検討. 第 53 回日本糖尿病学会, 2010. 5.
- 3) 関水憲一, 中野博司, 小野寺直子, 鈴木達也, 大庭建三: 2 型糖尿病の尿アルブミンの臨床的意義は後期高齢者では異なる. 第 53 回日本糖尿病学会, 2010. 5.
- 4) 大内基司, 野呂瀬準, 林真理子, 松村典昭, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 尿中 N-acetyl- β -D-glucosaminidase (NAG) と加齢変化: 尿細管上皮細胞との関連よりの検討. 第 52 回日本老年医学会学術総会, 2010. 6.
- 5) 二見章子, 野呂瀬準, 橋本雅夫, 渡邊健太郎, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 無症候性白血球尿の臨床的意義に関する検討: 上腕動脈血流依存性血管拡張反応 (FMD) の面より. 第 52 回日本老年医学会学術総会, 2010. 6.
- 6) 大西哲郎, 吉松寛臣, 山下英俊, 本山正幸, 渡邊健太郎, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 微量アルブミン尿非合併 2 型糖尿病患者における大血管症と eGFR および尿中アルブミンの関連性: 頸動脈超音波指標を用いた検討. 第 52 回日本老年医学会学術総会, 2010. 6.
- 7) 山本直史, 関水憲一, 角田美佐子, 澤井啓介, 渡邊健太郎, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 血管内皮機能障害の危険因子の検討: 上腕動脈血流依存性血管拡張反応を用いた検討. 第 52 回日本老年医学会学術総会, 2010. 6.
- 8) 矢野宏行, 鈴木一成, 小原 信, 岡崎 優, 渡邊健太郎, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 上腕動脈血流依存性血管拡張反応の加齢性変化の検討. 第 52 回日本老年医学会学術総会, 2010. 6.
- 9) 山下英俊, 大内基司, 小野寺直子, 猪狩吉雅, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 高齢者における血中 1.5-anhydroglucitol 値の耐糖能異常スクリーニングの有用性に関する検討. 第 52 回日本老年医学会学術総会,

2010. 6.

- 10) 角田美佐子, 鈴木達也, 澤井啓介, 二見章子, 村田雄一¹⁾, 水野重芳¹⁾, 木川暁子¹⁾, 木川好章¹⁾, 中野博司, 大庭建三 (¹⁾ 飯能老年病センター): 重度認知症患者の入院前および入院後死亡までの虚血性心疾患および悪性腫瘍の合併頻度についての検討: 性格別の検討. 第 52 回日本老年医学会学術総会, 2010. 6.
- 11) 石井一史, 渡邊健太郎, 角田美佐子, 二見章子, 関水憲一, 鈴木一成, 大内基司, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 女性高血圧症患者の尿中白血球数と血圧日内変動の関連性. 第 78 回日本医科大学医学会総会, 2010. 9.
- 12) 山本直史, 山下英俊, 関水憲一, 鈴木一成, 猪狩吉雅, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 急性脊髄炎を合併した高齢者 2 型糖尿病の 1 例. 第 52 回日本老年医学会関東甲信越地方会, 2010. 9.
- 13) 澤井啓介, 大西哲郎, 小原 信, 鈴木一成, 大内基司, 松村典昭, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 絞扼性イレウスを合併した高齢劇症型 1 型糖尿病の 1 例. 第 52 回日本老年医学会関東甲信越地方会, 2010. 9.
- 14) 石井一史, 角田美佐子, 二見章子, 鈴木一成, 松村典昭, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 両側腸骨筋炎を合併した高齢 2 型糖尿病の 1 例. 第 52 回日本老年医学会関東甲信越地方会, 2010. 9.
- 15) 渡邊健太郎, 大内基司, 鈴木一成, 二見章子, 関水憲一, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 上腕動脈血流依存性血管拡張反応の持続性は血管拡張性とは異なる因子が関係する. 第 45 回日本成人病 (生活習慣病) 学会, 2011. 1.
- 16) 石井一史, 渡邊健太郎, 角田美佐子, 二見章子, 関水憲一, 鈴木一成, 大内基司, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 女性高血圧症患者の尿中白血球数と血圧日内変動の関連性. 第 45 回日本成人病 (生活習慣病) 学会, 2011. 1.
- 17) 小原 信, 岡崎 優, 石井一史, 二見章子, 大内基司, 小野寺直子, 猪狩吉雅, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 頻回インスリン療法が困難な緩徐進行 1 型糖尿病に DPP-4 阻害薬による BOT が有用であった 1 例. 第 48 回日本糖尿病学会関東甲信越地方会, 2011. 1.
- 18) 澤井啓介, 矢野宏行, 関水憲一, 鈴木一成, 松村典昭, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 腸管虚血による絞扼性イレウスを同時発症した劇症 1 型糖尿病の 1 例. 第 48 回日本糖尿病学会関東甲信越地方会, 2011. 1.
- 19) 石井一史, 岡崎 優, 鈴木一成, 松村典昭: 四肢浮腫と関節痛で受診した 2 型糖尿病の 76 歳男性. 第 17 回末病, エニグマ症例検討会, 2011. 3.

[武蔵小杉病院内科 (内科, 循環器科, 神経内科)]

研究概要

循環器: PRIMITIVE STUDY, REAL-CAD および PROSPECTIVE の多施設研究に参加している. RI の研究においては心電図周期 SPECT を使い虚血性心疾患の診断, 治療効果ならびにリスク層別化に関する臨床研究を行っている. また最新の解析ソフトを駆使し左室非同期に関する研究も進行中である.

呼吸器内科: 胃瘻や経管栄養を施行している患者において, 半固形化栄養剤短時間注入により誤嚥性肺炎の予防効果があることを研究し学会で発表した. 酸素投与方法, 食事形態の違いによる慢性呼吸不全患者における食事時の呼吸困難感に関して発表を行った. 高齢者の肺癌における全身化学療法の有効性と安全性につき症例報告を行った. 慢性呼吸不全による肺高血圧につき, 右心カテーテルを積極的に行い, その病態解明と治療法につき研究している.

神経内科: 高齢者の common disease である認知症について, 社会連携構築と実践を行っている (老人病研究所と共同研究). 認知症になっても安心して暮らせる街を作るために行政 (川崎市中原区) 地域包括支援センター, 社気福祉協議会, 介護スタッフ, 町の老人会, ボランティアグループ, 医師会, 企業等とのネットワークを構築し, これが認知症を支える人々にとって有意義なものになるかを研究している. 脳機能研究所と共同で Dimension による脳電位解析が認知症早期発見に有用な指標となるか研究している.

腎臓: 当部門では従来のテーマを継続して研究・発表した. 日本透析医学会のワークショップ・透析患者の合併症

に対する薬剤の使用では血液透析に伴う心室性不整脈とRA系との関連性について討論した。また、CAPD患者の高P血症におけるLa製剤の有用性の検討も継続して発表した。その他症例報告を当院救命救急センターや血管内・低侵襲治療センターなどと共同でも発表した。血液浄化療法関係では新規の透析用コーティングカテーテルの有用性の検討を当院ME部と共同で紙上で発表した。また形状変更に伴う新規の透析器の性能評価についても発表した。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Kaneko R¹⁾, Sato Y¹⁾, An Y¹⁾, Nakagawa M¹⁾, Kusayanagi S¹⁾, Kamisago S¹⁾, Umeda T¹⁾, Ogawa M¹⁾, Munakata K, Mizuno K²⁾ (1) Department of Internal Medicine, Kanto Rosai Hospital, (2) Department of Cardiology, Nippon Medical School) : Clinico-Epidemiologic Study of the Metabolic Syndrome and Lifestyle Factors Associated with the Risk of Colon Adenoma and Adenocarcinoma. Asian Pacific Journal of Cancer Prevention 2010 ; 11 : 975-983.
- 2) Mishina M¹⁾, Ishiwata K²⁾, Naganawa M²⁾, Kimura Y²⁾, Kitamura S, Suzuki M²⁾, Hashimoto M²⁾, Ishibashi K²⁾, Oda K²⁾, Sakata M²⁾, Hamamoto M¹⁾, Kobayashi S¹⁾, Katayama Y³⁾, Ishii K²⁾ (1) Department of Neurology, Nippon Medical School Chiba Hokusou Hospital, (2) Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, (3) 2 The Second Department Department of Internal Medicine, Nippon Medical School) : A denosine A_{2A} Receptors Measured with [¹¹C] TMSX PET in the Striata of Parkinson's Disease Patients. PLoS ONE 2011 ; 6 (2) : e17338.
- 3) 石渡明子¹⁾, 水村 直²⁾, 北村 伸, 片山泰朗¹⁾ (1) 付属病院内科 (神経・腎臓・膠原病リウマチ科部門, 2) 付属病院 放射線科) : 変性性認知症の脳機能画像の臨床応用. 老年期認知症研究会誌 2010 ; 17 (8) : 8-11.

(2) 総説：

- 1) 北村 伸 : 代表的な認知症 (2) : 血管性認知症. 診断と治療 2011 ; 99 (3) : 453-458.
- 2) 磯野友昭¹⁾, 赤沼可菜子¹⁾, 窪田麻美¹⁾, 高木 基¹⁾, 伊東健介¹⁾, 加藤和久¹⁾, 尾崎 傑¹⁾, 門松 豊¹⁾, 酒井紗織¹⁾, 大塚智之, 大野 大, 酒井行直, 村澤恒男, 宗像一雄 (1) 武蔵小杉病院血液浄化療法室) : 新規 SMA コーティングカテーテルの有用性の検討. 腎と透析 アクセス 2010 2010 ; 69 : 102-104.
- 3) 北村 伸 : 脳血管性認知症. 臨床放射線 2010 ; 55 (11) : 1445-1453.
- 4) 北村 伸 : メマンチン. 老年精神医学雑誌 2010 ; 21 (12) : 1322-1329.
- 5) 野村浩一¹⁾, 北村 伸 (1) 付属病院第二内科) : CT-スキューニング (除外診断を中心に). Innervision 2011 ; 26 (1) : 11-16.
- 6) 北村 伸 : 認知症とは. おはよう 21 2011 ; 4 (12-23) : 11-16.

(3) 症例報告：

- 1) 木下賀央里, 山口朋禎, 伊藤俊輔, 春原沙織, 板倉潮人, 本郷公英, 原田英博, 宗像一雄 : 入院後 HIV 感染が判明し, 治療に難渋したニューモシスチス肺炎の1例. 川崎市医師会医学会誌 2010 ; 27 : 14-18.
- 2) 阿部純子, 中摩健二, 小川ゆかり, 石川昌弘, 網谷賢一, 高橋直人, 川口直美, 内田高浩, 一色彩子¹⁾, 市川太郎¹⁾, 宗像一雄 (1) 武蔵小杉病院放射線科) : ガドニウム遅延造影 MRI が心病態経過の把握に有用であった心サルコイドーシスの1例. 心臓 2010 ; 42 (11) : 1483-1489.

著書

- 1) 本郷公英, 宗像一雄 : [分担] 循環器疾患と痴呆症. 老年精神医学雑誌, 2010 ; pp303-307, ワールドプランニング.
- 2) 酒井行直, 大野 大, 大塚智之, 村澤恒男, 黒川 顕¹⁾ (1) 武蔵小杉病院救命救急部) : [分担] 周術期, 外傷 (脳

疾患患者を含む)に対する血液浄化. 急性血液浄化法徹底ガイド(篠崎正博 秋澤忠男), 2010; pp176-180, 総合医学社.

- 3) 石渡明子¹⁾, 北村 伸⁽¹⁾ 付属病院内科 神経・腎臓・膠原病リウマチ部門): [分担] 認知機能障害. 総合診療マニュアル(上原譽志夫 大林完二 隅谷護人 益子邦洋 松岡博昭), 2010; pp320-324, 金芳堂.
- 4) 石川昌弘, 宗像一雄: [分担] 拡張型心筋症. 循環器内科学(水野杏一 安武正弘 平山悦之), 2010; pp300-303, シュプリンガー・ジャパン.
- 5) 本郷公英, 宗像一雄: [分担] α 遮断薬/ β 遮断薬. 救急医学, 2010; pp1625-1630, へるす出版.
- 6) 北村 伸: [分担] MRIやSPECTでわかることは? 必要とする場合は?. 日常診療で観る・見守る認知症(高橋智), 2010; pp79-82, 日本医事新報社.
- 7) 板倉潮人, 宗像一雄: [分担] 高血圧の急性増悪. 救急医学, 2011; pp21-26, へるす出版.

学会発表

(1) 特別講演:

- 1) 酒井行直: CHDにおける降圧薬の併用療法について. 別府医師会・別府内科医会・別府薬剤師会学術講演会, 2010. 6.
- 2) 北村 伸: 問診と神経学的診察. 第52回日本老年医学会学術集会, 2010. 6.

(2) 教育講演:

- 1) 北村 伸: 神経所見のとり方と病的所見の画像を用いた解説. 第25回日本老年精神医学会, 2010. 6.

(3) セミナー:

- 1) 北村 伸: 目からウロコ 内科医への認知症アドバイス. 第107回日本内科学会, 2010. 4.

(4) ワークショップ:

- 1) 村澤恒男, 酒井行直, 小野卓也¹⁾, 宗像一雄⁽¹⁾ 付属病院第一内科): 維持透析患者の血液透析に伴う心室性不整脈とRA系との関連性~選択的アルドステロン阻害薬 eplerenone の使用の検討. 第55(社)日本透析医学会学術集会・総会, 2010. 6.

(5) 一般講演:

- 1) 山口朋禎, 原田英博, 本郷公英, 板倉潮人, 木下賀央里, 春原沙織, 小川ゆかり, 伊藤俊輔, 中摩健二, 宗像一雄: 半固形栄養剤短時間注入法による誤嚥性肺炎の予防効果の検討. 第50回日本呼吸器学会学術講演会, 2010. 4.
- 2) 石川昌弘, 原田英博, 本郷公英, 板倉潮人, 木下賀央里, 春原沙織, 伊藤俊輔, 石川敏和¹⁾, 山口朋禎, 宗像一雄⁽¹⁾ 武蔵小杉病院整形外科言語療法室): 嚥下造影検査のスコア化による誤嚥性肺炎との検討. 第50回日本呼吸器学会学術講演会, 2010. 4.
- 3) 石渡明子¹⁾, 水村 直²⁾, 山崎峰雄¹⁾, 羽生春夫³⁾, 北村 伸¹⁾, 片山泰朗⁽¹⁾ 付属病院内科(神経・腎臓・膠原病リウマチ部門), ²⁾ 東邦大学医療センター大森病院 放射線科, ³⁾ 東京医科大学 老年病科): 塩酸ドネペジルの海馬萎縮に対する保護効果の評価. 第51回日本神経学会総会, 2010. 5.
- 4) 藤原佳美¹⁾, 若城由美子²⁾, 赤羽日出男³⁾, 岸 泰宏⁴⁾, 山口朋禎⁽¹⁾ 武蔵小杉病院看護部, ²⁾ 武蔵小杉病院薬剤部, ³⁾ 武蔵小杉病院麻酔科, ⁴⁾ 武蔵小杉病院精神科): 緩和ケア啓発活動の試み: 「知って下さい緩和ケアを」を開催して. 第15回緩和医療学会学術大会, 2010. 6.
- 5) 大塚智之, 酒井紗織, 大野 大, 酒井行直, 村澤恒男, 宗像一雄: CAPD患者の高P血圧における炭酸ランタンの有用性についての検討. 第55回(社)日本透析医学会学術集会・総会, 2010. 6.
- 6) 大野 大, 酒井紗織, 中村有希, 大塚智之, 酒井行直, 村澤恒男, 宗像一雄: 妊娠を契機に発症し血漿交換等により救命し得た血栓性微小血管症(TMA)の1例. 第55回(社)日本透析医学会学術集会・総会, 2010. 6.
- 7) 伊東健介¹⁾, 赤沼可菜子¹⁾, 窪田麻美¹⁾, 高木 基¹⁾, 加藤和久¹⁾, 尾崎 傑¹⁾, 磯野友昭¹⁾, 門松 豊¹⁾, 大塚

- 智之, 大野 大, 酒井行直, 村澤恒男, 宗像一雄¹⁾ 武蔵小杉病院 ME 部): ハウジング変更に伴う PS-1.9UW の性能評価. 第 55 回 (社) 日本透析医学会学術集会・総会, 2010. 6.
- 8) 前田幸生¹⁾, 松川由佳¹⁾, 酒井紗織, 大塚智之, 大野 大, 酒井行直, 村澤恒男, 宗像一雄¹⁾ 武蔵小杉病院血液浄化療法室): 腹膜透析患者におけるエリスロポエチン製剤皮下投与時の疼痛比較. 第 55 回 (社) 日本透析医学会学術集会・総会, 2010. 6.
- 9) 石川昌弘, 北村 伸, 宗像一雄: 嚥下造影検査のスコア化による誤嚥性肺炎発症の他因子との比較. 第 52 回日本老年医学会学術集会, 2010. 6.
- 10) 若松直樹¹⁾, 川並汪一¹⁾, 根本留美¹⁾, 石井知香¹⁾, 北村 伸, 野村俊明²⁾ (1) 老人病研究所病理部門 街ぐるみ認知症相談センター, 2) 日本医科大学基礎科学・心理学): 認知症相談において認知機能低下を鑑別する評価指標 地域在住健康高齢者を対象としたサンプル調査からの検討. 第 25 回日本老年精神医学会, 2010. 6.
- 11) 木下賀央里, 山口朋禎, 伊藤俊輔, 春原沙織, 板倉潮人, 本郷公英, 宗像一雄, 岡本淳一¹⁾, 窪倉浩俊²⁾, 日置正文²⁾ (1) 付属病院第二外科, 2) 武蔵小杉病院心臓血管外科・呼吸器・乳腺内分泌外科): 検診にて胸部異常陰影を指摘され, 気管支嚢胞に非結核性抗酸菌症が合併したと考えられた 15 歳女性. 第 573 回内科学会関東地方会, 2010. 7.
- 12) 板倉潮人, 山口朋禎, 伊藤俊輔, 春原沙織, 木下賀央里, 本郷公英, 宗像一雄: 肺炎に気管支瘻, 横隔膜下膿瘍が合併し治療に難渋した 1 例. 第 190 回日本呼吸器学会関東地方会, 2010. 7.
- 13) 山口朋禎, 内田高浩, 川口直美, 網谷賢一, 石川昌弘, 板倉潮人, 春原沙織, 宗像一雄, 水野杏一¹⁾ (1) 付属病院一般内科・循環器内科・肝臓内科): ASV (adaptive servo-ventilation オートセット CS) が奏功した繰り返すうっ血性心不全の 1 例. 第 217 回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2010. 9.
- 14) 橋和聡文¹⁾, 一色彩子¹⁾, 山口香織¹⁾, 清水康弘¹⁾, 安藤 順¹⁾, 鶴田晴子¹⁾, 高間都支¹⁾, 市川太郎¹⁾, 金城忠志²⁾, 田島廣之²⁾, 春原沙織, 村澤恒男, 畝本恭子³⁾ (1) 武蔵小杉病院放射線科, 2) 武蔵小杉病院血管内低侵襲治療センター, 3) 武蔵小杉病院救命救急センター): 腎血管筋脂肪腫の腎動脈瘤破裂に対する緊急動脈塞栓術. 神奈川県放射線医会総会及び第 51 回例会, 2010. 9.
- 15) 板倉潮人, 山口朋禎, 宗像一雄, 高木 聡¹⁾, 阿部夕貴¹⁾ (1) 武蔵小杉病院看護部): 慢性呼吸不全患者における食事中呼吸困難感についての分析. 第 20 回呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会, 2010. 10.
- 16) 高木 聡¹⁾, 板倉潮人 (1) 武蔵小杉病院看護部): 食事内容を変更したことで, 食事中の息切れが改善した 1 事例についての分析. 第 20 回呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会, 2010. 10.
- 17) 板倉潮人, 小野卓也¹⁾, 宗像一雄, 新 博次²⁾, 加藤貴雄¹⁾ (1) 付属病院第一内科, 2) 多摩永山病院循環器内科): ホルター心電図による μV レベル T 波形のばらつきに関する考察. 第 27 回日本心電学会学術集会, 2010. 10.
- 18) 石井知香¹⁾, 松本聡子²⁾, 根本留美¹⁾, 若松直樹¹⁾, 北村 伸, 野村俊明³⁾, 宗像一雄, 川並汪一¹⁾ (1) 老人病研究所病理部門 街ぐるみ認知症相談センター, 2) NTT 東日本関東病院精神神経科, 3) 日本医科大学基礎科学・心理学): 「街ぐるみ認知症相談センター」の活動が認知症ケアの理解促進に与える影響: 医療・福祉・住民 (民政委員) への悉皆調査による検討<初回調査評価>. 第 11 回日本認知症ケア学会大会, 2010. 10.
- 19) 酒井行直, 中村有希, 酒井紗織, 大塚智之, 大野 大, 村澤恒男, 宗像一雄, 前田幸生¹⁾, 松川由佳¹⁾ (1) 武蔵小杉病院血液浄化療法室): CAPD 患者の高 P 血症における炭酸ランタンの有用性についての検討. 第 16 回日本腹膜透析医学会学術集会・総会, 2010. 11.
- 20) 山口朋禎, 伊藤俊輔, 中摩健二, 小川ゆかり, 春原沙織, 木下賀央里, 板倉潮人, 本郷公英, 宗像一雄: Pemetrexed が脳転移に奏功した 1 例. 第 192 回日本呼吸器学会関東地方会, 2010. 11.
- 21) 板倉潮人, 伊藤俊輔, 木下賀央里, 春原沙織, 本郷公英, 山口朋禎, 宗像一雄, 窪倉浩俊¹⁾ (1) 武蔵小杉病院外科): 切除不可能と考えられた進行性肺癌に対し, ネオアジュバンドとして CDDP+TS-1 を施行し, 完全切除が可能となった 2 例. 第 159 回日本肺癌学会関東支部会, 2010. 12.
- 22) 小川ゆかり, 八木 孝, 石井 聡¹⁾, 石川昌弘, 内田高浩, 南 史朗¹⁾, 宗像一雄 (1) 老人病研究所生体機能制

- 御学)：副腎静脈サンプリング (AVS) で診断が困難であった1症例。第20回臨床内分泌代謝 Update, 2011. 1.
- 23) 八木 孝, 小川ゆかり, 石井 聡¹⁾, 春原沙織, 網谷賢一, 岡本芳久¹⁾, 南 史朗¹⁾, 宗像一雄 (1) 老人病研究所生体機能制御学)：妊娠中に発症し自然寛解したリンパ球性漏斗下垂体後葉炎の1例。第20回臨床内分泌代謝 Update, 2011. 1.
- 24) 星川直哉, 竹之内葉菜, 八木 孝, 小川ゆかり, 石井 聡¹⁾, 南 史朗¹⁾, 宗像一雄 (1) 老人病研究所生体機能制御学)：低カリウム性四肢麻痺を来たした原発性アルドステロン症の1例。第20回臨床内分泌代謝 Update, 2011. 1.
- 25) 森末 遼, 伊藤俊輔, 山口朋禎, 宗像一雄, 福田 悠¹⁾ (1) 病理学 解析人体病理学)：気管支鏡検査で確定診断に至ったTS-1による薬剤性肺障害の1例。第578回日本内科学会関東地方会, 2011. 2.
- 26) 伊藤俊輔, 大山莉奈, 小川ゆかり, 山口朋禎, 榎本 豊¹⁾, 窪倉浩俊¹⁾, 宗像一雄 (1) 武蔵小杉病院心臓血管・呼吸器・乳腺内分泌外科)：血性胸水の寛解と再発および肝臓・腸管の脱出を認めた右遅発性外傷性横隔膜ヘルニアの1例。第193回日本呼吸器学会関東地方会, 2011. 2.
- 27) 曾根教子, 大野 大, 大塚智之, 酒井行直, 村澤恒男, 宗像一雄：急性胃腸炎を契機に発症した腎性低尿酸血症による急性腎不全の1例。第28回川崎市医師会医学会, 2011. 2.
- 28) 木下賀央里, 伊藤俊輔, 春原沙織, 板倉潮人, 本郷公英, 山口朋禎, 宗像一雄：集学的治療により比較的長期生存を得られた sarcomatoid carcinoma の1例。第579回日本内科学会関東地方会, 2011. 3.

[多摩永山病院内科, 循環器内科]

研究概要

当科は循環器専攻の内科医により構成され、虚血性心疾患、不整脈などの循環器疾患を中心に診療を行っているが、多摩地区の中核病院としての機能を維持するため内科全般を診療対象とし、専門領域の他、高血圧、糖尿病、脂質異常症、メタボリックシンドローム、慢性腎臓病 (CKD) などを対象に実地臨床に即した研究を行っている。

- 1) スタチンを用いた冠動脈形成術中の心筋障害抑制に関する研究 (PRIMITIVE)。
- 2) 急性冠症候群の予後規定因子に関する研究。
- 3) 冠攣縮性狭心症の病態と予後既定因子に関する研究。
- 4) 冠攣縮性狭心症例の心室細動に対する植込み型除細動器の適応に関する研究。
- 5) 慢性心不全患者におけるサイトカインと予後に関する研究。
- 6) 日本心電学会主催の心房細動例の登録研究 (J-RHYTHM Registry)。
- 7) 不整脈診断のための臨床電気生理とカテーテル治療。
- 8) 心筋 SPECT による心室同期不全の評価に関する研究。
- 9) 高血圧症例における微小心筋障害に関する共同研究。
- 10) 食塩感受性高血圧に対する薬物治療、食塩摂取量に関する研究。
- 11) インクレチン製剤の血糖非依存効果に関する研究。
- 12) 日本循環器学会認定の多施設共同研究への参加。
- 13) 多摩地区、南多摩地区における多施設共同研究への参加。
- 14) 高齢者医療に関する共同研究。

以上を中心に研究を行い、日本循環器学会、日本心臓病学会、日本心電学会、日本生活習慣病学会、日本糖尿病学会、日本高血圧学会、日本老年医学会、及び関連学会へ研究成果を報告するとともに、内科総合診療部門として稀少例の症例報告も積極的に行っている。

研究業績

論文

[追加分]

追加分原著：

- 1) Aizawa Y¹⁾, Kohsaka S¹⁾, Suzuki S²⁾, Atarashi H, Kamakura S³⁾, Sakurai M⁴⁾, Nakaya H⁵⁾, Fukatani M⁶⁾, Mitamura H⁷⁾, Yamazaki T²⁾, Yamashita T⁸⁾, Ogawa S¹⁾ (¹⁾ Keio University School of Medicine, ²⁾ University of Tokyo, ³⁾ National Cardiovascular Center, ⁴⁾ Hokko Memorial Hospital, ⁵⁾ Chiba University, ⁶⁾ Chikamori Hospital, ⁷⁾ Saiseikai Central Hospital, ⁸⁾ Cardiovascular Institute) : Comparison of antiarrhythmics used in patients with paroxysmal atrial fibrillation : subanalysis of J-RHYTHM Study. *Circ J* 2010 ; 74 (1) : 71-76.
- 2) 岡田 薫, 草間芳樹, 新 博次, 栗田 明¹⁾, 堀口祐司¹⁾, 高瀬凡平²⁾ (¹⁾ 医療法人社団愛有会三愛病院, ²⁾ 防衛医科大学校研究センター) : 脳血管障害を合併する後期高齢者に対する音楽療法. *Therapeutic Research* 2007 ; 28 (1) : 88-90.

(1) 原著：

- 1) Endo A¹⁾, Kohsaka S¹⁾, Suzuki S²⁾, Atarashi H, Kamakura S³⁾, Sakurai M⁴⁾, Nakaya H⁵⁾, Fukatani M⁶⁾, Mitamura H⁷⁾, Yamazaki T²⁾, Yamashita T⁸⁾, Ogawa S¹⁾ (¹⁾ Keio University School of Medicine, ²⁾ University of Tokyo, ³⁾ National Cardiovascular Center, ⁴⁾ Hokko Memorial Hospital, ⁵⁾ Chiba University, ⁶⁾ Chikamori Hospital, ⁷⁾ Saiseikai Central Hospital, ⁸⁾ Cardiovascular Institute) : Impact of drug alteration to maintain rhythm control in paroxysmal atrial fibrillation : subanalysis from J-RHYTHM Study. *Circ J* 2010 ; 74 (5) : 870-875.
- 2) Nakagomi A, Seino Y¹⁾, Endoh Y, Kusama Y, Atarashi H, Mizuno K²⁾ (¹⁾ Division of Cardiology, Department of Internal Medicine, Chiba-Hokusoh Hospital, ²⁾ Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine, Department of Internal Medicine) : Upregulation of monocyte proinflammatory cytokine production by C-reactive protein is significantly related to ongoing myocardial damage and future cardiac events in patients with chronic heart failure. *J Card Fail* 2010 ; 16 (7) : 562-571.
- 3) Otsuka T¹⁾, Kawada T¹⁾, Ibuki C²⁾, Kusama Y (¹⁾ Department of Hygiene and Public Health, ²⁾ Cardiovascular Center, Chiba-Hokusoh Hospital) : Radial arterial wave reflection is associated with the MEGA risk prediction score, an indicator of coronary heart disease risk, in middle-aged men with mild to moderate hypercholesterolemia. *J Atheroscler Thromb* 2010 ; 17 (7) : 688-694.
- 4) Shibui T, Nakagomi A, Kusama Y, Atarashi H, Mizuno K¹⁾ (¹⁾ Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine, Department of Internal Medicine) : Impact of statin therapy on renal function and long-term prognosis in acute coronary syndrome patients with chronic kidney disease. *Int Heart J* 2010 ; 51 (5) : 312-318.
- 5) Jcs Joint Working Group : Guidelines for pharmacotherapy of atrial fibrillation (JCS 2008) : Digest Version. *Circ J* 2010 ; 74 (11) : 2479-2500.
- 6) Nishizaki M¹⁾, Sugi K¹⁾, Izumida N¹⁾, Kamakura S¹⁾, Aihara N¹⁾, Aonuma K¹⁾, Atarashi H¹⁾, Takagi M¹⁾, Nakazawa K¹⁾, Yokoyama Y¹⁾, Kaneko M¹⁾, Suto J¹⁾, Saikawa T¹⁾, Okamoto N¹⁾, Ogawa S¹⁾, et al. (¹⁾ Investigators of the Japan Idiopathic Ventricular Fibrillation Study and the Subgroup of the Japanese Society of Electrocardiology) : Classification and assessment of computerized diagnostic criteria for Brugada-type electrocardiograms. *Heart Rhythm* 2010 ; 7 (11) : 1660-1666.
- 7) Otsuka T¹⁾, Kawada T¹⁾, Seino Y²⁾, Ibuki C²⁾, Katsumata M¹⁾, Kodani E (¹⁾ Department of Hygiene and

- Public Health, ²⁾ Cardiovascular Center, Chiba-Hokusoh Hospital) : Relation of smoking status to serum levels of N-terminal pro-brain natriuretic Peptide in middle-aged men without overt cardiovascular disease. *Am J Cardiol* 2010 ; 106 (10) : 1459-1460.
- 8) Atarashi H⁵⁾, Inoue H^{1, 5)}, Okumura K^{2, 5)}, Yamashita T^{3, 5)}, Origasa H^{4, 5)} (¹⁾ The Second Department of Internal Medicine, University of Toyama, Graduate School of Medicine, ²⁾ Cardiology, Respiratory Medicine and Nephrology, Hirosaki University Graduate School of Medicine, ³⁾ The Cardiovascular Institute, ⁴⁾ Division of Biostatistics and Clinical Epidemiology, University of Toyama, Graduate School of Medicine, ⁵⁾ The J-RHYTHM Registry Investigators) : Investigation of optimal anticoagulation strategy for stroke prevention in Japanese patients with atrial fibrillation -The J-RHYTHM Registry study design. *J Cardiol* 2011 ; 57(1) : 95-99.
- 9) Otsuka T, Miyachi H, Ibuki C, Toba M¹⁾, Tokuyama K, Ishii K, Kodani E, Kusama Y, Atarashi H, Kishida H²⁾, Mizuno K²⁾ (¹⁾ Department of Radiology, Tama-Nagayama Hospital, ²⁾ Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine, Department of Internal Medicine) : Atypical exercise stress myocardial perfusion SPECT imaging in a patient with effort angina pectoris. *Circ J* 2011 ; 75 (1) : 218-220.
- 10) Aoki S¹⁾, Nakagomi A, Asai K¹⁾, Takano H¹⁾, Yasutake M¹⁾, Seino Y²⁾, Mizuno K¹⁾ (¹⁾ Department of Internal Medicine, Division of Cardiology, ²⁾ Department of Internal Medicine, Chiba-Hokusoh Hospital) : Elevated peripheral blood mononuclear cell count is an independent predictor of left ventricular remodeling in patients with acute myocardial infarction. *J Cardiol* 2011 ; 57 (2) : 202-207.
- 11) 濱本 紘¹⁾, 住吉徹哉¹⁾, 高田めぐみ²⁾, 新 博次 (¹⁾ 榊原記念クリニック循環器内科, ²⁾ 榊原記念クリニック薬剤科) : ベプリジル, アプリンジン併用による発作性心房細動予防効果の検討. *心臓* 2010 ; 42 (Suppl 4) : 103-107.
- 12) 北山浩気¹⁾, 小谷英太郎, 木内 要²⁾, 本間 博²⁾, 新 博次 (¹⁾ きたやま内科循環器科, ²⁾ 日本医科大学内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)) : コレステロール吸収亢進例の見極めとエゼチミブの臨床的有用性. *Prog Med* 2011 ; 31 (2) : 597-600.
- (2) 総説 :
- 1) Kusama Y, Kodani E, Nakagomi A, Otsuka T¹⁾, Atarashi H, Kishida H²⁾, Mizuno K²⁾ (¹⁾ Department of Environmental Medicine, ²⁾ Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine, Department of Internal Medicine) : Variant angina and coronary artery spasm : the clinical spectrum, pathophysiology, and management. *J Nippon Med Sch* 2011 ; 78 (1) : 4-12.
- 2) 新 博次 : 不整脈薬物治療を考える. *呼と循* 2010 ; 58 (4) : 349.
- 3) 小谷英太郎, 新 博次 : 心サルコイドーシス. *Heart Nursing* 2010 ; 311 (秋季増刊) : 143-146.
- 4) 小谷英太郎, 新 博次 : 心アミロイドーシス. *Heart Nursing* 2010 ; 311 (秋季増刊) : 147-150.
- 5) 小谷英太郎, 新 博次 : 不整脈原 (源) 性右室心筋症. *Heart Nursing* 2010 ; 311 (秋季増刊) : 151-155.
- 6) 井川 修 : 心臓構造からみた心外起源性室頻拍の可能性. *心電図* 2010 ; 30 (5) : 466-471.
- 7) 新 博次 : わが国における抗凝固療法の現状 : J-RHYTHM Registry から. *心臓* 2011 ; 43 (2) : 237-240.
- (3) 症例報告 :
- 1) Hosokawa Y, Kodani E, Kusama Y, Kamiya M, Yoshikawa M, Hirasawa Y, Nakagomi A, Atarashi H, Maeda S¹⁾, Mizuno K²⁾ (¹⁾ Department of Pathology, Tama-Nagayama Hospital, ²⁾ Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine, Department of Internal Medicine) : Cardiac angiosarcoma diagnosed by transvenous endomyocardial biopsy with the aid of transesophageal echocardiography and intra-procedural consultation. *Int Heart J* 2010 ; 51 (5) : 367-369.

- 2) 岡崎怜子, 小谷英太郎, 松本 真, 遠藤康実, 佐野純子, 中込明裕, 草間芳樹, 新 博次: 非医療従事者による AED 使用解禁後に当院へ搬送された心肺蘇生例の検討. 心臓 2010; 42 (Suppl 2): 68-73.

著 書

- 1) 新 博次: [自著] P 派が判れば心電図は読める, 2010; 総合医学社.
- 2) 小谷英太郎: [分担] 第 2 章 症候 1. 胸痛. 医学スーパーラーニングシリーズ 循環器内科学 (水野杏一, 安武正弘, 平山悦之・編), 2010; pp30-36, シュプリンガー・ジャパン.
- 3) 草間芳樹: [分担] 第 4 章 検査 6.1. 心臓カテーテル検査. 医学スーパーラーニングシリーズ 循環器内科学 (水野杏一, 安武正弘, 平山悦之・編), 2010; pp115-122, シュプリンガー・ジャパン.
- 4) 岡崎怜子: [分担] 第 4 章 検査 6.3. 電気生理学的検査, カテーテルアブレーション. 医学スーパーラーニングシリーズ 循環器内科学 (水野杏一, 安武正弘, 平山悦之・編), 2010; pp128-130, シュプリンガー・ジャパン.
- 5) 新 博次: [分担] 第 6 章 不整脈 1. 不整脈概論. 医学スーパーラーニングシリーズ 循環器内科学 (水野杏一, 安武正弘, 平山悦之・編), 2010; pp148-151, シュプリンガー・ジャパン.
- 6) 遠藤康実: [分担] 第 6 章 不整脈 4. 発作性上室性頻拍. 医学スーパーラーニングシリーズ 循環器内科学 (水野杏一, 安武正弘, 平山悦之・編), 2010; pp158-160, シュプリンガー・ジャパン.
- 7) 新 博次: [分担] 第 6 章 不整脈 12. 脚ブロック. 医学スーパーラーニングシリーズ 循環器内科学 (水野杏一, 安武正弘, 平山悦之・編), 2010; pp177-178, シュプリンガー・ジャパン.
- 8) 佐野純子: [分担] 第 7 章 血圧異常 3. 低血圧. 医学スーパーラーニングシリーズ 循環器内科学 (水野杏一, 安武正弘, 平山悦之・編), 2010; pp204-205, シュプリンガー・ジャパン.
- 9) 吉川雅智: [分担] 第 9 章 弁膜症 3. 僧帽弁逸脱症. 医学スーパーラーニングシリーズ 循環器内科学 (水野杏一, 安武正弘, 平山悦之・編), 2010; pp248-251, シュプリンガー・ジャパン.
- 10) 井川 修: [自著] 臨床心臓構造学, 不整脈診療に役立つ心臓解剖, 2011; 医学書院.
- 11) 新 博次: [分担] 15 薬物治療 各論 (7) 多形性心室頻拍・心室細動・無脈性心室頻拍について. ガイドライン/ガイドランス 不整脈 こう診る・こう考える (奥村 謙・編), 2011; pp74-79, 日本医事新報社.
- 12) 井川 修: [分担] 植込みに必要な解剖学的知識. 心臓デバイス植込み手技 (石川利之, 中島 博・監), 2011; pp22-37, 南江堂.

学会発表

[追加分]

追加分一般講演:

- 1) 岡田 薫, 草間芳樹, 新 博次, 栗田 明¹⁾, 堀口祐司¹⁾, 高瀬凡平²⁾ (1) 特別医療法人社団愛有会三愛病院, (2) 防衛医科大学校研究センター): 脳血管障害を合併する後期高齢者に対する音楽療法. 埼玉不整脈ペーシング研究会 (第 27 回), 2005. 11.

(1) 教育講演:

- 1) Igawa O: Anatomical background of Atrial Tachycardia. Asian Pacific Heart Rhythm Society Session (3rd) (Jeju, Korea), 2010. 10.
- 2) Igawa O: Useful anatomical information for catheter ablation. 日本胸部外科学会定期学術集会 (第 63 回), 2010. 10.
- 3) 新 博次: 失神の鑑別診断. 日本心臓病学会学術集会 (第 58 回), 2010. 9.
- 4) 井川 修: 心室リード留置に必要な心臓解剖: 心室 (間) 中隔の特殊性. ペーシング治療研究会 (第 44 回), 2010. 12.

- 5) 井川 修：解剖学的にみたデバイス治療手技のピットフォール. 近畿不整脈デバイス臨床懇話会（第1回），2010. 12.
 - 6) 井川 修：心房細動における心房構造の変化. 頻拍症カンファレンス（第19回），2011. 1.
- (2) シンポジウム：
- 1) Igawa O：Update of Atrial Anatomy for Atrial Tachycardia. Asian Pacific Heart Rhythm Society Session (3rd) (Jeju, Korea), 2010. 10.
 - 2) Nakagomi A, Kosugi M, Shibui T, Kusama Y, Atarashi H, Mizuno K¹⁾ (1) Department of Cardiology)：Prognostic value of exercise stress myocardial perfusion imaging in patients with vasospastic angina. 日本循環器学会学術集会（第75回），2011. 3.
- (3) パネルディスカッション：
- 1) 洪井俊之, 中込明裕, 草間芳樹, 新 博次, 水野杏一¹⁾ (1) 内科学講座（循環器・肝臓・老年・総合病態部門）：慢性腎臓病を合併した急性冠症候群患者の治療戦略（CKDを合併する心血管病患者をどう診断・治療するか？）. 日本心臓病学会学術集会（第58回），2010. 9.
- (4) 一般講演：
- 1) Takano H¹⁾, Kusama Y¹⁾, Yamamoto E¹⁾, Yasutake M¹⁾, Mizuno K¹⁾ (1) Nippon Medical School)：Possible role of reactive oxygen species in the development of ischemic preconditioning in human. World Congress of the International Society for Heart Research (XXth) (Kyoto), 2010. 5.
 - 2) Kohashi K, Nakagomi A, Kosugi M, Shibui T, Sasaki A, Katoh K, Yoshikawa M, Kodani E, Kusama Y, Atarashi H, Mizuno K¹⁾ (1) Department of Cardiology)：Impact of chronic kidney disease on the risk of heart failure in patients with acute myocardial infarction. 日本循環器学会学術集会（第75回），2011. 3.
 - 3) Kosugi M, Nakagomi A, Sasaki A, Katoh K, Shibui T, Yoshikawa M, Kodani E, Kusama Y, Atarashi H, Mizuno K¹⁾ (1) Department of Cardiology)：Impact of insulin resistance and low-grade inflammation on long-term prognosis in patients with vasospastic angina. 日本循環器学会学術集会（第75回），2011. 3.
 - 4) Katoh K, Nakagomi A, Kosugi M, Shibui T, Kusama Y, Seino Y²⁾, Atarashi H, Mizuno K¹⁾ (1) Department of Cardiology, 2) Department of Cardiology, Chiba-Hokuso Hospital)：Relation of serum cholesterol and monocyte tumor necrosis factor production to long-term prognosis in patients with chronic heart failure. 日本循環器学会学術集会（第75回），2011. 3.
 - 5) Murata H¹⁾, Miyuchi Y¹⁾, Kobayashi Y²⁾, Uetake S¹⁾, Hayashi H¹⁾, Tsuboi I¹⁾, Yamamoto T¹⁾, Horie T¹⁾, Hayashi M¹⁾, Ohara T¹⁾, Takayama M³⁾, Nitta T⁴⁾, Atarashi H, Katoh T¹⁾, Mizuno K¹⁾ (1) Division of Cardiology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, 2) Division of Cardiology, Hachioji Hospital, Tokai University, 3) Division of Cardiology, Department of Internal Medicine, Sakakibara Memorial Hospital, 4) Division of Cardiovascular Surgery, Department of Surgery, Nippon Medical School)：Characteristics of ventricular tachycardia associated with hypertrophic cardiomyopathy. 日本循環器学会学術集会（第75回），2011. 3.
 - 6) Inoue H¹⁾, Atarashi H, Okumura K²⁾, Yamashita T³⁾, Origasa H⁴⁾ (1) Second Department of Internal Medicine, Toyama University Hospital, 2) Hirosaki University, 3) The Cardiovascular Institute, 4) University of Toyama)：Deviation of anticoagulation levels from recommendation of guidelines of JCS for patients with atrial fibrillation：sub-analysis of J-Rhythm Registry. 日本循環器学会学術集会（第75回），2011. 3.
 - 7) Igawa O, Adachi M¹⁾, Kusama Y, Hisatome I²⁾, Atarashi H (1) Cardiovascular Medicine, Tottori University Hospital, 2) Division of Regenerative Medicine and Therapeutics, Department of Genetic Medicine and Regenerative Therapeutics, Tottori University)：New anatomical finding, right atrial appendage pocket：anatomical investigation in 100 autopsied hearts. 日本循環器学会学術集会（第75回），2011. 3.

- 8) Igawa O, Adachi M¹⁾, Kusama Y, Hisatome I²⁾, Atarashi H (¹⁾ Cardiovascular Medicine, Tottori University Hospital, ²⁾ Division of Regenerative Medicine and Therapeutics, Department of Genetic Medicine and Regenerative Therapeutics, Tottori University) : Possible mechanism of functional conduction block in the posterior wall of the right atrium. 日本循環器学会学術集会 (第75回), 2011. 3.
- 9) Igawa O, Adachi M¹⁾, Kusama Y, Hisatome I²⁾, Atarashi H (¹⁾ Cardiovascular Medicine, Tottori University Hospital, ²⁾ Division of Regenerative Medicine and Therapeutics, Department of Genetic Medicine and Regenerative Therapeutics, Tottori University) : The effect of catheter ablation on the muscle connection between left atrium and coronary sinus using open-tip irrigated catheter. 日本循環器学会学術集会(第75回), 2011. 3.
- 10) 栗田 明¹⁾, 品川直介²⁾, 小谷英太郎, 高瀬凡平³⁾, 草間芳樹, 新 博次 (¹⁾ 社会福祉法人福音会医務室, ²⁾ 品川医院, ³⁾ 防衛医科大学校救急部) : 特別養護老人ホームにおける看取り介護の経験: 殊に急性期病院での入院加療症例との比較について. 日本内科学会講演会 (第107回), 2010. 4.
- 11) 小谷英太郎, 宮地秀樹, 草間芳樹, 新 博次: 臨床用量におけるテルミサルタンのインスリン抵抗性改善およびアディポネクチン増加作用の検討. 日本糖尿病学会年次学術集会 (第53回), 2010. 5.
- 12) 林 明聡¹⁾, 宮内靖史¹⁾, 羽田朋人¹⁾, 大野忠明¹⁾, 坪井一平¹⁾, 植竹俊介¹⁾, 林 洋史¹⁾, 山本哲平¹⁾, 村田広茂¹⁾, 山本英世¹⁾, 上野 亮¹⁾, 堀江 格¹⁾, 小原俊彦¹⁾, 加藤貴雄¹⁾, 水野杏一¹⁾, その他2名 (¹⁾ 内科学講座循環器部門, ²⁾ 東海大学付属八王子病院循環器内科) : 左室後壁のPurkinje 線維を起源とする心室頻拍が出現したChurg-Strauss 症候群の1例. 臨床心臓電気生理研究会 (第40回), 2010. 5.
- 13) 森澤太一郎, 小谷英太郎, 神谷仁孝, 宮地秀樹, 洪井俊之, 吉川雅智, 中込明裕, 草間芳樹, 新 博次: 潰瘍性大腸炎に合併した静脈血栓症に対し, 積極的な抗凝固療法, 血栓溶解療法が有効であった2例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第216回), 2010. 6.
- 14) 小谷英太郎, 緒方憲一, 草間芳樹, 新 博次: うっ血性心不全による入院患者における後期高齢者の特徴. 日本老年医学会学術集会 (第52回), 2010. 6.
- 15) 福島正人, 小谷英太郎, 中込明裕, 草間芳樹, 新 博次: 脚ブロックを有する高齢者における心電図波形, 背景心疾患, 心臓超音波所見の特徴. 日本老年医学会学術集会 (第52回), 2010. 6.
- 16) 栗田 明¹⁾, 品川直介²⁾, 小谷英太郎, 岩原信一郎³⁾, 高瀬凡平⁴⁾, 草間芳樹, 新 博次 (¹⁾ 社会福祉法人福音会医務室, ²⁾ 品川クリニック, ³⁾ 南町田病院, ⁴⁾ 防衛医科大学校) : 特別養護老人ホームにおける看取り介護ケア. 日本老年医学会学術集会 (第52回), 2010. 6.
- 17) Miyachi H, Yamamoto A¹⁾, Sato T, Morisawa T, Kosugi M, Sasaki A, Kato K, Shibui T, Yoshikawa M, Kodani E, Nakagomi A, Kusama Y, Atarashi H, Mizuno K²⁾ (¹⁾ Department of Pathology, Tama-Nagayama Hospital, ²⁾ Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine, Department of Internal Medicine) : Comparison between myocardial SPECT with “cardioGRAF” and fractional flow reserve for guiding PCI in patients with exertional chest pain. 日本心血管インターベンション治療学会学術集会 (第19回), 2010. 8.
- 18) 宮地秀樹, 岡崎怜子, 吉川雅智, 松本 真, 小谷英太郎, 遠藤康実, 中込明裕, 草間芳樹, 新 博次: 血管病変が明らかでない早期高動脈炎をFDP - PET/CTにて診断し得た不明熱の1例. 日本内科学会関東地方会(第574回), 2010. 9.
- 19) 岡崎怜子, 小谷英太郎, 小杉宗範, 吉川雅智, 松本 真, 佐野純子, 中込明裕, 遠藤康実, 草間芳樹, 新 博次, 水野杏一¹⁾ (¹⁾ 内科学講座(循環器・肝臓・老年・総合病態部門)) : 心室細動で発症し, 心臓電気生理検査で不整脈源性基質の存在が疑われた冠攣縮性狭心症の1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第217回), 2010. 9.
- 20) 吉川雅智, 小谷英太郎, 佐藤太亮, 森澤太一郎, 小杉宗範, 佐々木朝子, 洪井俊之, 加藤活人, 宮地秀樹, 中

- 込明裕, 草間芳樹, 新 博次, 水野杏一¹⁾ (1) 内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門): PCI 後の止血デバイス使用に合併した血腫により 1 ヶ月後に発症した深部静脈血栓症の 1 例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第 217 回), 2010. 9.
- 21) 神谷仁孝, 遠藤康実, 吉川雅智, 草間芳樹, 新 博次, 細川雄亮¹⁾ (1) 付属病院集中治療室): Mechanical support が著効し, β 遮断薬と PDE 阻害薬の併用療法により心機能が改善した重症拡張型心筋症の 1 例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第 217 回), 2010. 9.
- 22) 藪野雄大¹⁾, 細川雄亮¹⁾, 原 敬介¹⁾, 青景聡之¹⁾, 鈴木浩臣¹⁾, 上野 亮¹⁾, 宗像 亮¹⁾, 時田祐吉¹⁾, 坪 宏一¹⁾, 山本 剛¹⁾, 佐藤直樹¹⁾, 田中啓治¹⁾, 加藤活人, 草間芳樹, 新 博次, その他 1 名 (1) 付属病院集中治療室, 2) 内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門): 川崎病後遺症の超巨大冠動脈瘤により大伏在静脈グラフトが狭窄をきたした 1 例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第 217 回), 2010. 9.
- 23) 中込明裕, 渋井俊之, 小杉宗範, 吉川雅智, 小谷英太郎, 草間芳樹, 清野精彦¹⁾, 新 博次, 水野杏一²⁾ (1) 千葉北総病院内科, 2) 内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門): 慢性心不全患者における単球の産生するサイトカインと血清脂質値, 長期予後との関係. 日本心臓病学会学術集会 (第 58 回), 2010. 9.
- 24) 小杉宗範, 中込明裕, 加藤活人, 佐々木朝子, 宮地秀樹, 渋井俊之, 吉川雅智, 小谷英太郎, 草間芳樹, 新博次, 水野杏一¹⁾ (1) 内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門): 冠攣縮性狭心症患者においてインスリン抵抗性は心事故を増加させる. 日本心臓病学会学術集会 (第 58 回), 2010. 9.
- 25) 小谷英太郎, 中込明裕, 草間芳樹, 新 博次, 水野杏一¹⁾ (1) 内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門): 脂質管理目標値達成率の現状と低用量ロスバスタチンの目標値に対する効果. 日本心臓病学会学術集会 (第 58 回), 2010. 9.
- 26) 栗田 明¹⁾, 高瀬凡平²⁾, 小谷英太郎, 草間芳樹, 新 博次 (1) 福音会医療統括部, 2) 防衛医科大学校集中治療部): 精神的説法は認知症を有する後期高齢者の免疫能や心臓の自律神経能に有効か?. 日本心臓病学会学術集会 (第 58 回), 2010. 9.
- 27) 福島正人, 小谷英太郎, 遠藤康実, 中込明裕, 草間芳樹, 新 博次: 非常定型脚ブロックにおける背景疾患, 心機能障害に関する検討. 日本心電学会学術集会 (第 27 回), 2010. 10.
- 28) 小谷英太郎, 奥村 謙¹⁾, 井上 博¹⁾, 山下武志¹⁾, 新 博次¹⁾ (1) J-RHYTHM Registry Investigators): プロトロンビン時間国際標準比 (PT-INR) 測定における国際感度指数 (ISI) 値の意義について: J-RHYTHM Registry からの検討. 日本心電学会学術集会 (第 27 回), 2010. 10.
- 29) 板倉潮人¹⁾, 小野卓哉²⁾, 宗像一雄¹⁾, 新 博次, 加藤貴雄²⁾ (1) 武蔵小杉病院内科, 2) 内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門): ホルター心電図による μ V レベル T 波形のばらつきに関する考察. 日本心電学会学術集会 (第 27 回), 2010. 10.
- 30) 小谷英太郎, 大塚俊昭¹⁾, 草間芳樹 (1) 衛生学・公衆衛生学): シルニジピンの早朝高血圧に対する有効性: 家庭血圧と ABPM による検討. 日本高血圧学会総会 (第 33 回), 2010. 10.
- 31) 大塚俊昭¹⁾, 雪吹周生²⁾, 清野精彦²⁾, 小谷英太郎, 草間芳樹 (1) 衛生学・公衆衛生学, 2) 千葉北総病院循環器センター): 「塩辛い食品」摂取状況に関する主観的評価は, 将来の血圧上昇を予測するか?. 日本高血圧学会総会 (第 33 回), 2010. 10.
- 32) 入江忠信¹⁾, 金古善明¹⁾, 中島 忠¹⁾, 太田昌樹¹⁾, 加藤寿光¹⁾, 飯島貴史¹⁾, 田村未央¹⁾, 小林洋明¹⁾, 齋藤章宏¹⁾, 伊藤敏夫¹⁾, 間仁田守¹⁾, 倉林正彦¹⁾, 井川 修, 足立正光²⁾ (1) 群馬大学医学部循環器内科, 2) 鳥取大学医学部附属病院循環器内科): Mitral isthmus VT の診断にてアブレーションを行い剖検心病理解析した 1 例. カテテル・アブレーション委員会公開研究会 (第 22 回), 2010. 10.
- 33) 加藤活人, 小谷英太郎, 吉川雅智, 小橋啓一, 菊池有史, 小杉宗範, 佐々木朝子, 渋井俊之, 中込明裕, 草間芳樹, 新 博次: PCI 中に右内腸骨動脈分枝末梢からの出血によりショックに至った 1 例. 多摩地区虚血性心疾患研究会 (第 33 回), 2010. 11.

- 34) 久保田将之¹⁾, 香川正幸²⁾, 吉田悠鳥¹⁾, 鈴木 哲¹⁾, 小谷英太郎, 草間芳樹, 新 博次, 高瀬凡平³⁾, 松井岳巳¹⁾, 栗田 明^{3,4)} (¹⁾ 首都大学東京システムデザイン学部, ²⁾ 富士通株式会社, ³⁾ 防衛医科大学校病院, ⁴⁾ 福音会): 高齢者見守りシステム マイクロ波レーダーによる呼吸, 心拍の非接触測定. 埼玉不整脈ペーシング研究会 (第 37 回), 2010. 12.
- 35) 本間英恵, 小谷英太郎, 菊池有史, 小杉宗範, 加藤活人, 佐々木朝子, 洪井俊之, 岡崎怜子, 吉川雅智, 遠藤育子, 松本 真, 川口直美, 遠藤康実, 中込明裕, 草間芳樹, その他 1 名: 冠攣縮性狭心症を有するが, その他の不整脈原性基質が否定できない心室細動蘇生例に対する植込み型徐細動器 (ICD) の適応に関する検討. 心臓性急死研究会 (第 23 回), 2010. 12.
- 36) 小谷英太郎, 栗屋 透¹⁾, 草間芳樹, 新 博次, 長澤紘一 (¹⁾ たま循環器科・内科): 食塩感受性高血圧に対するテルミサルタン/HCTZ 配合剤の有効性: TAMA SALT study. 日本成人病 (生活習慣病) 学会学術集会 (第 45 回), 2011. 1.
- 37) 宮崎 聡¹⁾, 井川 修 (¹⁾ 医療法人十字会野島病院内科): ペースメーカー電池交換時, ジェネレーターからのリード取り外しに難渋した 1 例. 植込み型デバイス関連冬季大会 (第 3 回), 2011. 2.
- 38) Igawa O, Adachi M¹⁾, Kusama Y, Hisatome I²⁾, Atarashi H (¹⁾ Cardiovascular Medicine, Tottori University Hospital, ²⁾ Division of Regenerative Medicine and Therapeutics, Department of Genetic Medicine and Regenerative Therapeutics, Tottori University): Appropriate distance between two ablation points to obtain continuous and transmural lesion: from the histological investigation. 日本循環器学会学術集会 (第 75 回), 2011. 3.
- 39) Igawa O, Adachi M¹⁾, Kusama Y, Hisatome I²⁾, Atarashi H (¹⁾ Cardiovascular Medicine, Tottori University Hospital, ²⁾ Division of Regenerative Medicine and Therapeutics, Department of Genetic Medicine and Regenerative Therapeutics, Tottori University): Pitfall of the radiofrequency catheter ablation using open-tip irrigated catheter. 日本循環器学会学術集会 (第 75 回), 2011. 3.
- 40) Otsuka T¹⁾, Seino Y²⁾, Ibuki C²⁾, Kodani E (¹⁾ Department of Hygiene and Public Health, ²⁾ Cardiovascular Center, Chiba-Hokuso Hospital): Detection of minute myocardial damage in middle-aged men with untreated hypertension: an assessment with high-sensitivity cardiac troponin T assay. 日本循環器学会学術集会 (第 75 回), 2011. 3.
- 41) Kurita A¹⁾, Matsui T²⁾, Yoshida Y²⁾, Kagawa M²⁾, Takase B³⁾, Kodani E, Kusama Y, Atarashi H (¹⁾ Fukuinkai Clinic, ²⁾ Tokyo Metropolitan University, ³⁾ National Defense Medical College): A new non-contact vital sign monitoring system by microwave radars. 日本循環器学会学術集会 (第 75 回), 2011. 3.
- (5) 会長特別企画:
- 1) Atarashi H⁴⁾, Inoue H^{1,4)}, Okumura K^{2,4)}, Yamashita T^{3,4)} (¹⁾ The Second Department of Internal Medicine, University of Toyama, Graduate School of Medicine, ²⁾ Cardiology, Respiratory Medicine and Nephrology, Hirosaki University Graduate School of Medicine, ³⁾ The Cardiovascular Institute, ⁴⁾ J-RHYTHM Registry Investigators): Present status of anticoagulation treatment in Japanese patients with atrial fibrillation - a report from the J-RHYTHM Registry. 日本循環器学会学術集会 (第 75 回), 2011. 3.
- (6) 平成 21 年度同窓会医学研究助成金受賞記念講演:
- 1) 遠藤康実: 心房細動における S100A8 蛋白の心筋組織への発現および臨床像との関連. 日本医科大学医学会総会 (第 78 回), 2010. 9.

[千葉北総病院循環器内科]

研究概要

日本医科大学千葉北総病院循環器内科部長 循環器センター長 内科学教授 清野 精彦 (せい の よしひこ) [循環器内科] 循環器内科は、(1) 冠動脈疾患の最先端診療 ((1) 外来対応の冠動脈マルチスライス CT 検査, (2) 2 泊 3 日冠動脈造影検査, 冠動脈カテーテル治療パス, (3) 血管内超音波, 血管内視鏡, 光干渉断層法などの冠動脈先端画像診断, (4) 血液生化学バイオマーカーの臨床開発) や、(2) 不整脈の最先端治療 (カテーテル焼灼術, 重症心不全心室再同期 (CRT) 治療, 植え込み型除細動器治療), (3) 心不全の先駆的研究と診療などを主軸に臨床, 研究, 教育を展開しております。診療実績は年々増加しており 2010 年度冠動脈カテーテル治療は年間 419 例を不整脈カテーテル治療は年間 100 例を超えております。さらに (4) 循環器疾患と睡眠時無呼吸, (4) 高血圧・動脈硬化症の診断と治療などについても、地域医療との連携の中で効果的な診療の提供と臨床研究に努めております。平成 20 年度からは、全国に先駆けて「回復期心筋梗塞地域連携パス」「地域連携型高血圧治療研究 (INBA Study)」などを展開しております。また、大学医学部教育 (文部科学省特色 GP 選定)、研修医教育、循環器専門医教育、学位研究指導に精力的に取り組んでおり、特色ある研究成果を AHA, ESC などの国際学会や、日本循環器学会などで発表しており、国際的なトップジャーナルに多くの論文を発表しております。公務として部長は日本循環器学会各種ガイドライン (急性心不全 GL, 性差医療 GL, 睡眠時無呼吸 GL など) 作成委員を務め、関連学会の教育講演を担当しております。

研究業績

論文

[追加分]

追加分総説：

- 1) 清野精彦：冠先端画像およびバイオマーカーで迫る。循環器科 2009；65 (6)：581-584.

追加分原著：

- 1) Ito A¹⁾, Ishii-Nozawa R²⁾, Ibuki C, Atarashi H³⁾, Kataoka H¹⁾, Takeuchi K²⁾ (1) Dep of Pharmacy Nippon Medical School Musashi-Kosugi Hospital, 2) Dep of clinical Pharmacology Meiji Pharmaceutical University, 3) Dep of Cardiovascular Medicine Nippon Medical School Tama-Nagayama Hospital) : "Examination of Questionnaire Items regarding Diabetic Peripheral Neuropathy in Epalrestat-treated Patients and Their Usefulness in the Treatment of This Disorder : Influence on Treatment Course". Yakugaku Zasshi 2009 ; 129(10) : 1239-1247.
- 2) Takano M, Yamamoto M, Murakami D, Takano H¹⁾, Asai K¹⁾, Yasutake M¹⁾, Seino Y, Mizuno K¹⁾ (1) Dep. of Internal Medicine, Division of Cardiology, Nippon Medical School) : "Optical Coherence tomography after new scoring balloon angioplasty for in-stentrestenosis and de novo coronary lesion". Internationall Journal of Cardiology 2010 ; 141 (3) : e51-e53.
- 3) Nakagomi A¹⁾, Seino Y, Endoh Y¹⁾, Kusama Y¹⁾, Atarashi H¹⁾, Mizuno K²⁾ (1) Dep. of Cardiology, Tama-Nagayama Hospital Nippon Medical School, 2) Dep. of Internal Medicine, Division of Cardiology, Nippon Medical School) : "Upregulation of Monocyte Proinflammatory Cytokine Production by C-Reactive Protein is Significantly Related to Ongoing Myocardial Damage and Future Cardiac Events in Patients With Chronic Heart Failure". Journal of Cardiac Failure 2010 ; 16 (7) : 562-571.

追加分症例報告：

- 1) Takano M, Yamamoto M, Mizuno K¹⁾ (1) Dep.of Internal Medicine, Division of Cardiology, Nippon Medical School) : Two cases of coronary stent thrombosis very late after bare-metal stenting. Journal of the American College of Cardiology Cardiovascular Interventions 2009 ; 2 (12) : 1286-1287.

(1) 原著 :

- 1) Yamashita T¹⁾, Seino Y, Ogawa A¹⁾, Ogata K¹⁾, Fukushima M¹⁾, Tanaka K¹⁾, Mizuno K¹⁾ (¹⁾ Dep. of Internal Medicine, Division of Cardiology, Nippon Medical School) : “N-terminal pro-BNP is a novel biomarker for integrated cardio-renal burden and early risk stratification in patients admitted for cardiac emergency”. *Journal of Cardiology* 2010 ; 55 (3) : 377-377.
- 2) Otsuka T¹⁾, Kawada T¹⁾, Ibuki C, Seino Y (¹⁾ Dep of Hygiene and Public Health Nippon Medical School) : “Association between high-sensitivity cardiac troponin T levels and the predicted cardiovascular risk in middle-aged men without overt cardiovascular disease”. *American Heart Journal* 2010 ; 59 (6) : 972-978.
- 3) Nishiwaki T¹⁾, Kishi D¹⁾, Yoshie F¹⁾, Fukuda K¹⁾, Ibuki C, Seino Y, Satoh M²⁾ (¹⁾ Pharmaceutical Services Section, Nippon Medical School, ²⁾ Dep. of Toxicology and Pharmacology, Faculty of Pharmaceutical Science Toho University) : “Relationship Between LDL-C Reduction After Coronary Revascularization and Prevention of Recurrent Cardiovascular Events”. *Journal of Pharmacy & Pharmaceutical Sciences* 2010 ; 13 (2) : 254-262.
- 4) Otsuka T¹⁾, Kawada T¹⁾, Ibuki C, Seino Y, Kusama Y²⁾ (¹⁾ Dep. of Hygiene and Public Health, Nippon Medical School, ²⁾ Dep. of Internal Medicine and Cardiovascular Center, Nippon Medical School Tama-Nagayama Hospital) : “Radial Arterial Wave Reflection is Associated with the MEGA Risk Prediction Score, an Indicator of Coronary Heart Disease Risk, in Middle-Aged Men With Mild of Moderate Hypercholesterolemia”. *Journal of Atherosclerosis and Thrombosis* 2010 ; 17 (7) : 688-694.
- 5) Takano M, Yamamoto M, Mizuno M¹⁾, Murakami D, Inami T, Kimata N, Murai K, Kobayashi N¹⁾, Okamatsu K, Ohba T, Seino Y, Mizuno K³⁾ (¹⁾ Radiology, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, ²⁾ Division of Intensive Care Unit, Nippon Medical School, Chiba Hokusoh Hospital, ³⁾ Dep. of Internal Medicine, Division of Cardiology, Nippon Medical School) : “Late vascular responses from 2 to 4 years after implantation of sirolimus-eluting stents : Serial observations by intracoronary optical coherence tomography”. *Circulation Cardiovascular Interventions* 2010 ; 3 (5) : 476-489.
- 6) Ibuki C, Kawamata H¹⁾, Seino Y, Mizuno K²⁾ (¹⁾ Dep. of Radiology, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, ²⁾ Dep. of Internal Medicine, Division of Cardiology, Nippon Medical School) : “Successful Blood Pressure Control with Additive Administration of Eplerenone, and Aldosterone Receptor Blocker, in a Patient with Bilateral Renovascular Hypertension Treated with Angioplasty”. *Internal Medicine* 2010 ; 49 (22) : 2455-2459.
- 7) Takano M, Yamamoto M, Seino Y, Mizuno K¹⁾ (¹⁾ Dep. of Internal Medicine, Division of Cardiology, Nippon Medical School) : “Neovascular microchannels in sirolimus-eluting stent occlusion at last phase”. *JACC : Cardiovascular Interventions* 2010 ; 3 (11) : 1202-1203.
- 8) Wang Z¹⁾, Inami S¹⁾, Kirinoki S¹⁾, Yamamoto E¹⁾, Takagi G¹⁾, Aoki S¹⁾, Katoh K¹⁾, Takano H¹⁾, Asai K, Yasutake M, Takano M, Yamamoto M, Ohba T, Mizuno K¹⁾ (¹⁾ Dep. of Internal Medicine, Division of Cardiology, Nippon Medical School) : “Angioscopic study of silent plaque disruption in nonischemic related coronary artery in patients with stable ischemic heart disease”. *International Heart Journal* 2010 ; 51 (6) : 383-387.
- 9) Mizuno M¹⁾, Takano M, Mizuno K²⁾ (¹⁾ Radiology Center, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, ²⁾ Dep. Internal Medicine, Division of Cardiology, Nippon Medical School) : “The effects of drug-eluting stent polymer on measurement of strut thickness by optical coherence tomography : in-vitro comparison with bare-metal stent”. *International Journal of Cardiology* 2010 ; 145 (1) : 48-49.

- 10) Otsuka T¹⁾, Kawada T¹⁾, Seino Y, Ibuki C, Katsumata M²⁾, Kodani E³⁾ (1) Dep. of Hygiene and Public Health, Nippon Medical School, 2) Dep. of Internal Medicine, Division of Cardiology, Nippon Medical School Tama-Nagayama Hospital) : "Relation of Smoking Status to Serum Level of N-Terminal Pro-Brain Natriuretic Peptide in Middle-Aged Men Without Overt Cardiovascular Disease". American Journal of Cardiology 2010 ; 106 (10) : 1456-1460.
 - 11) Kobayashi N¹⁾, Takano M, Hata N¹⁾, Yamamoto M, Shinada T¹⁾, Takahashi Y¹⁾, Tomita K¹⁾, Kitamura M¹⁾, Mizuno K²⁾ (1) Division of Intensive Care Unit, 2) Dep. of Internal Medicine, Division of Cardiology, Nippon Medical School) : "Recurrent very late thrombosis of drug-eluting stent : optical coherence tomography findings". Journal of Cardiology Cases 2010 ; 2 (3) : e166-e169.
 - 12) Takano M, Yamamoto M, Seino Y, Mizuno K¹⁾ (1) Dep. of Internal Medicine, Division of Cardiology, Nippon Medical School) : "Thrombus in sirolimus-eluting stent identified by optical coherence tomography". Clinical Cardiology 2010 ; 33 (12) : E60-E60.
 - 13) Yamamoto M, Takano M, Murakami D, Okamatsu K, Seino Y, Mizuno K¹⁾ (1) Dep. of Internal Medicine, Division of Cardiology, Nippon Medical School) : "Comparative angioscopic evaluation of neointimal coverage and thrombus between TAXUS-Epress and TAXUS-Liverte stents : is the stent platform type associated with the vascular response?". International Journal of Cardiology 2010 ; 145 (3) : 587-589.
 - 14) Yamamoto M, Takano M, Murakami D, Inami T, Kimata N, Inami S¹⁾, Okamatsu K, Ohba T, Seino Y, Mizuno K¹⁾ (1) Dep. of Internal Medicine, Division of Cardiology, Nippon Medical School) : "Optical coherence tomography analysis for restenosis of drug-eluting stents". International Journal of Cardiology 2011 ; 146 (1) : 100-103.
 - 15) Takano M, Yamamoto M, Murakami D, Inami T, Kobayashi N¹⁾, Shirakabe A¹⁾, Inami S²⁾, Okamatsu K, Ohba T, Aoki S²⁾, Seino Y, Mizuno K²⁾ (1) Dep. of Intensive Care Unit, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School, 2) Dep. of Internal Medicine, Division of Cardiology, Nippon Medical School) : "Impact of small thrombus formation in restenotic bare-metal stent lesions associated with acute coronary syndrome : Identification by optical coherence tomography". International Journal of Cardiology 149 (2) : 169-173.
- (2) 総説 :
- 1) Takano M, Mizuno K¹⁾ (1) Dep. of Internal Medicine, Division of Cardiology, Nippon Medical School) : "Evaluation of Atherosclerotic Lesion and Implanted Stent by Coronary Angioscopy". 日本冠疾患学会雑誌 2010 ; 16 (1) : 80-86.
 - 2) Ibuki C, Jcs Joint Working Group¹⁾ (1) JCS Joint Working Group) : "Guidelines for Diagnosis and Treatment of Patients With Vasospastic Angina (Coronary Spastic Angina) (JCS 2008)". Circulation Journal 2010 ; 74 (8) : 1745-1762.
 - 3) 清野精彦, Jcs 合同研究班¹⁾ (1) JCS 合同研究班) : 循環器領域における睡眠時呼吸障害の診断・治療に関するガイドライン. Circulation Journal 2010 ; 74 (SupplementII) : 963-1084.
 - 4) 石井庸介¹⁾, 清野精彦 (1) 日本医科大学千葉北総病院胸部外科) : 心臓手術後の胸水. 呼吸器内科 2010 ; 17 (4) : 393-397.
 - 5) 大場崇芳, 栗原 理, 清野精彦 : 虚血性心疾患の診断 : 急性冠症候群の血液マーカー. medicina 2010 ; 47 (9) : 1542-1545.
 - 6) 山本真功, 稲見 徹, 清野精彦 : マルチバイオマーカーアプローチ : 冠動脈先端画像との融合. 循環器専門医 2010 ; 18 (2) : 279-283.
 - 7) 清野精彦 : 肺高血圧症とシルデナフィル. 日集中医雑誌 2010 ; 17 (4) : 462-464.

- 8) 清野精彦, Jsc 合同研究班¹⁾ (1) JCS 合同研究班) : 循環器領域における性差医療に関するガイドライン. *Circulation Journal* 2010 ; 74 (SupplementII) : 1085-1178.
- 9) 清野精彦, 根岸経太, 栗原 理 : 急性冠症候群. *medicina* 2010 ; 47 (11) : 51-53.
- 10) 清野精彦 : 急性冠症候群のバイオマーカー. *カレントセラピー* 2011 ; 29 (1) : 82-83.
- 11) 清野精彦 : 心血管バイオマーカー. *CIRCULATION Up-to-Date* 2011 ; 6 (1) : 44-49.

(3) 症例報告 :

- 1) Kobayashi N¹⁾, Takano M, Hata N¹⁾, Yamamoto M, Shinada T¹⁾, Tomita K¹⁾, Kitamura M¹⁾, Mizuno K²⁾ (1) Division of Intensive Care Unit, 2) Dep. of Internal Medicine, Division of Cardiology, Nippon Medical School) : “Optical coherence tomography findings in a case of acute myocardial infarction caused by coronary vasospasm”. *International Heart Journal* 2010 ; 51 (4) : 291-292.
- 2) 稲見 徹, 山本真功, 木股伸恒, 村上大介, 阿部純子, 高野雅充, 大野則彦, 大場崇芳, 雪吹周生, 清野精彦, 水野杏一¹⁾ (1) 日本医科大学内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門) : 妊娠後に高安動脈炎と診断し, ステロイド投与にて無事出産し得た 1 症例. *心臓* 2010 ; 42 (10) : 1323-1329.

著 書

〔追加分〕

追加分 :

- 1) 高野雅充, 水野杏一¹⁾ (1) 日本医科大学内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門) : [分担] 画像診断・OCT. 脈管専門医のための臨床脈管学, 2010 ; pp117-119, メディカルトリビューン.
- 1) 雪吹周生 : [分担] 不安定狭心症/急性心筋梗塞・VI 循環器疾患の緊急治療. ER / ICU での薬の使い方 Q & A : プロの実践と秘訣に学ぶ (岡本和文), 2010 ; pp189-196, 総合医学社.
- 2) 清野精彦 : [分担] 胸痛 (Chest pain). 話せる医学英語 (荒木勤・田尻孝・矢沢圭二郎), 2010 ; pp33-48, 金原出版株式会社.
- 3) 清野精彦 : [分担] 急性心不全の分類と診断. カラー版循環器病学 : 基礎と臨床 (川名正敏・北風政史・小室一成・室原豊明・山崎力・山下武志), 2010 ; pp321-327, 西村書店.
- 4) 雪吹周生 : [分担] 上室性不整脈の緊急治療指針・VII 心血管系の診断・治療・ケア. 救急・集中治療ガイドライン 2010-2011 (岡本和文), 2010 ; pp226-229, 総合医学社.
- 5) 雪吹周生 : [分担] 高血圧・第七章血圧異常. 循環器内科学 (水野杏一・安武正弘・平山悦之), 2010 ; pp184-200, シュプリンガー・ジャパン株式会社.
- 6) 清野精彦 : [分担] 心血管系の診察・第 3 章身体所見. 循環器内科学 (水野杏一・安武正弘・平山悦之), 2010 ; pp52-65, シュプリンガー・ジャパン株式会社.
- 7) 大場崇芳 : [分担] 高血圧緊急症・第 7 章血圧異常. 循環器内科学 (水野杏一・安武正弘・平山悦之), 2010 ; pp201-203, シュプリンガー・ジャパン株式会社.
- 8) 阿部純子 : [分担] 洞房ブロック・第 6 章不整脈. 循環器内科学 (水野杏一・安武正弘・平山悦之), 2010 ; pp172-173, シュプリンガー・ジャパン株式会社.
- 9) 淀川顕司 : [分担] 早期興奮症候群・第 6 章不整脈. 循環器内科学 (水野杏一・安武正弘・平山悦之), 2010 ; pp168-171, シュプリンガー・ジャパン株式会社.
- 10) 村井綱児 : [分担] 急性心不全・第 5 章心不全. 循環器内科学 (水野杏一・安武正弘・平山悦之), 2010 ; pp139-145, シュプリンガー・ジャパン株式会社.
- 11) 高野雅充, 水野杏一¹⁾ (1) 日本医科大学内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門) : [分担] PCI・第 4 章検査. 循環器内科学 (水野杏一・安武正弘・平山悦之), 2010 ; pp122-128, シュプリンガー・ジャパン株式会社.

- 12) 雪吹周生, 清野精彦: [分担] 血管拡張薬 (末梢循環拡張薬)・循環器系, 治療薬ハンドブック 薬剤選択と処方のポイント 2011 (高久史磨・堀正二・菅野健太郎・門脇孝・乾賢一・林昌洋), 2010; pp378-383, 株式会社じほう社.
- 13) 清野精彦, 山本真功, 高野雅充: [分担] 虚血性心疾患におけるマルチバイオマーカーアプローチ: 冠先端画像との対比・III. 診断と治療-最新の進歩 A 虚血性心疾患. Annual Review 循環器 (山口徹・高本真一・小室一成・佐地勉), 2011; pp112-119, 中外医学社.
- 14) 清野精彦: [分担] トロポニン. 新・心臓病診療プラクティス: 動脈硬化の内科治療に迫る: 薬物治療とインターベンション 16 ト 2011 (伊藤浩), 2011; pp84-85, 文光堂.

学会発表

[追加分]

追加分シンポジウム:

- 1) 高野雅充, 村上大介, 山本真功, 清野精彦, 水野杏一¹⁾ (1) 日本医科大学内科学 (肝臓・老年・総合病態部門): 血管内視鏡ならびに OCT による vulnerable plaque の評価. 第 24 回日本心臓血管内視鏡学会 (東京), 2010. 10.

追加分一般講演:

- 1) Takano M, Yamamoto M, Mizuno K¹⁾ (1) Dep. of Internal Medicine, Division of Cardiology, Nippon Medical School): "Role of angioscope in complex ACS intervention". Tokyo Percutaneous Cardiovascular Interevention Conference 2009 (東京), 2009. 7.
- 2) 高野雅充: 血管内視鏡による評価: BMS 留置後. 第 23 回日本心臓血管内視鏡学会 (奈良), 2009. 10.
- 3) 稲見 徹, 山本真功, 木股伸恒, 村井綱見, 村上大介, 淀川顕司, 阿部純子, 高野雅充, 大野則彦, 大場崇芳, 雪吹周生, 清野精彦, 水野杏一¹⁾ (1) 日本医科大学内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門): 深部静脈血栓症で発症し, 心筋生検により診断された尿管癌の 1 例. 第 215 回日本循環器学会関東甲信越地方会 (東京), 2010. 2.
- 4) 高野雅充, 水野杏一¹⁾ (1) 日本医科大学内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門): 血管内視鏡による Vulnerable plaque の検出. Beyond Angiography Japan XV (神戸), 2010. 3.

追加分特別講演:

- 1) 志村徹郎, 山本真功, 高野雅充, 栗原 理, 根岸経太, 村上大介, 雪吹周生, 清野精彦, 水野杏一¹⁾ (1) 日本医科大学内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門): 血管内視鏡で定量的色調評価された黄色プラークと VH-IVUS で定義された TCFA の関係. 第 24 回日本心臓血管内視鏡学会 (東京), 2010. 10.

(1) 特別講演:

- 1) Seino Y, Inami T, Yamamoto M, Mizuno K¹⁾ (1) Division of Cardiology, Dep. of Internal Medicine, Nippon Medical School): "Novel Coronary Imaging and Multi-Biomarker Strategy for Coronary Artery Disease". "International Academy of Cardioligy 15th World Congress on HEART DISEASE Annual Scientific Sessions 2010" (Vancouver, Canada), 2010. 7.
- 2) Takano M, Mizuno K¹⁾ (1) Dep. of Internal Medicine, Division of Cardiology, Nippon Medical School): "Follow-up observations by OCT and angioscopy". TOPIC 2010 (東京), 2010. 7.
- 3) 山本真功, 高野雅充, 水野杏一¹⁾ (1) 日本医科大学内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門): OCT と血管内視鏡との比較. 第 24 回日本心臓血管内視鏡学会 (東京), 2010. 10.

(2) 教育講演:

- 1) Takano M, Mizuno K¹⁾ (1) Division of Cardiology, Dep. of Internal Medicine, Nippon Medical School): "Fea-

- tures inside the bare-metal stents and drug-eluting stents : follow-up observation by OCT”. China Interventional Therapeutics 2010 (上海), 2010. 4.
- 2) Takano M, Seino Y, Mizuno K¹⁾ (1) Division of Cardiology, Dep. of Internal Medicine, Nippon Medical School) : “Angioscopic findings of vulnerable plaque”. Topic 2010 (東京), 2010. 7.
 - 3) 清野精彦 : 心筋傷害の進展 : 心血管バイオマーカーで迫る. 第 216 回日本循環器学会関東甲信越地方会 (東京), 2010. 6.
 - 4) 高野雅充, 水野杏一¹⁾ (1) 日本医科大学内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門) : 侵襲的イメージングによる冠動脈画像診断. 第 46 回日本医学放射線学会秋季臨床大会 (横浜), 2010. 9.
 - 5) 山本真功, 高野雅充, 水野杏一¹⁾ (1) 日本医科大学内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門) : 血液遮断による手技. 第 24 回日本心臓血管内視鏡学会 (東京), 2010. 10.
 - 6) 清野精彦 : 微小心筋障害の進展と対策 : 心血管バイオマーカーで探る. 第 109 回日本循環器学会九州地方会 (長崎), 2010. 12.
 - 7) 清野精彦 : Acute care における心疾患マーカーの有用性. 第 38 回日本集中治療医学会 (横浜), 2011. 2.
- (3) シンポジウム :
- 1) Takano M, Mizuno K¹⁾ (1) Division of Cardiology, Dep. of Internal Medicine, Nippon Medical School) : “Detection and treatment of vulnerable plaque detected by coronary angiography”. 17th Asian Pacific Congress of Cardiology 2009 (京都), 2009. 5.
 - 2) Takano M, Seino Y, Mizuno K¹⁾ (1) Division of Cardiology, Dep. of Internal Medicine, Nippon Medical School) : “Using OCT to make clinical decisions : identification of vulnerable plaque and stent by OCT”. Topic 2010 (Tokyo), 2010. 7.
 - 3) Seino Y : “Biomarkers Strategy”. 第 14 回日本心不全学会 (東京), 2010. 10.
 - 4) 山本真功, 岡松健太郎, 高野雅充, 栗原 理, 志村徹郎, 根岸経太, 稲見 徹, 村上大介, 大場崇芳, 清野精彦, 水野杏一¹⁾ (1) 日本医科大学内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門) : 薬剤溶出性ステント留置後の新生内膜被覆を与える病変背景に関する血管内視鏡を用いた検討. 第 24 回日本心臓血管内視鏡学会 (東京), 2010. 10.
- (4) パネルディスカッション :
- 1) 高野雅充, 村上大介, 山本真功, 清野精彦, 水野杏一¹⁾ (1) 日本医科大学内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門) : 冠動脈ステント内部の性状ならびに経時的変化 : 光干渉断層法による観察. 第 24 回日本冠疾患学会 (東京), 2010. 12.
- (5) ポスター :
- 1) Kojima S¹⁾, Matsui K²⁾, Seino Y, Ogawa H¹⁾, Yonemoto N³⁾, Nonogi H⁴⁾ (1) JCS-ReSS Group, Kumamoto, 2) JCS-ReSS Group, Yamaguchi, 3) JCS-ReSS Group, Tokyo, 4) JCS-ReSS Group, Osaka) : “A Physician Onboard the Advanced Life Support Unit Has a Clinical Impact on Outcome of Witnessed Patients with Out-of-Hospital Cardiac Arrest”. American Heart Association Scientific Sessions 2010 (Chicago), 2010. 11.
 - 2) Iwami T¹⁾, Kitamura T²⁾, Mitamura H¹⁾, Nagano K¹⁾, Takayama M¹⁾, Seino Y, Tanaka H¹⁾, Nonogi H¹⁾, Yonemoto N³⁾, Kimura T³⁾, Kawamura T²⁾ (1) JCS ReSS Kyoto, 2) Kyoto University Health Service, 3) JCS ReSS Tokyo) : “Chest Compression Only and Conventional Cardiopulmonary Resuscitation by Bystanders for Out-of-Hospital Cardiac Arrest with Public Access Dfibrillation : A Prospective, Nationwide, Population-Based Cohort Study”. American Heart Association Scientific Sessions 2010 (Chicago), 2010. 11.
 - 3) Matsui K¹⁾, Kojima S²⁾, Seino Y, Ogawa H²⁾, Yonemoto N³⁾, Nonogi H⁴⁾, Kimura T⁵⁾, Nagao K³⁾ (1) JCS ReSS Group Ube, Yamaguchi, 2) JCS ReSS Group Kumamoto, 3) JCS ReSS Group Tokyo, 4) JCS ReSS

- Group Osaka, ⁵⁾ JCS Res Group Kyoto) : “Gender Difference and Outcome of Patients with Witnessed Out-of-Hospital Cardiac Arrest : Impact of ALS Procedures Administered Before Hospital Arrival”. American Heart Association Scientific Sessions 2010 (Chicago), 2010. 11.
- 4) Yamamoto M, Takano M, Murakami D, Kimata N, Inami T, Okamatsu K, Ohba T, Ibuki C, Seino Y, Mizuno K¹⁾ (¹⁾ Dep. of Internal Medicine, Division of Cardiology, Nippon Medical School) : “Continual Delayed Arterial Healing 5 Years after Implantation of Sirolimus Eluting Stents : Serial Observations by Coronary Angioscopy”. American Heart Association Scientific Session 2010 (Chicago), 2010. 11.
- 5) Yodogawa K, Seino Y, Ohara T¹⁾, Takayama H¹⁾, Katoh T¹⁾, Mizuno K¹⁾ (¹⁾ Dep. of Internal Medicine, Division of Cardiology, Nippon Medical School) : “Effect of Corticosteroid Therapy on Ventricular Arrhythmias in Patients with Cardiac Sarcoidosis”. American Heart Association Scientific Sessions 2010 (Chicago), 2010. 11.
- 6) Kimata N, Kawamata H¹⁾, Yamamoto M, Inami T, Murai K, Murakami D, Takano M, Ohba T, Ibuki C, Seino Y, Mizuno K²⁾ (¹⁾ Dep. of Radiology, Chiba Hokusoh Hospital Nippon Medical School, ²⁾ Dep. of Internal Medicine, Division of Cardiology, Nippon Medical School) : “Percutaneous Peripheral Intervention with Intra-arterial Thrombolytic Therapy for Thrombus Rich Chronic Iliac Artery Occlusion”. CVIT 2010 日本心血管インターベンション治療学会 (仙台), 2010. 8.
- 7) Murai K, Seino Y, Kimata N, Inami T, Yamamoto M, Murakami D, Abe J, Yodogawa K, Ibuki C, Mizuno K¹⁾ (¹⁾ Dep. of Internal Medicine, Division of Cardiology, Nippon Medical School) : “Efficacy and Limitation of Oral Inotropic agents for the Treatment of Chronic Heart Failure : Real-World Retrospective Analyses”. 第14回日本心不全学会 (東京), 2010. 10.
- 8) Maruyama M, Shien-R F¹⁾, Peng-C S¹⁾ (¹⁾ Institute of Cardiology, Dep. of Medicine, India University School of Medicine) : “Mechanisms of Phase-2 and Phase-3 Early Afterdepolarizations in Acquired LongQT Syndrome : Role of Intracellular Calcium and Electrotonic Interaction”. 第75回日本循環器学会 (横浜), 2011. 3.
- 9) 雪吹周生, 清野精彦, 大塚俊昭¹⁾, 水野杏一²⁾ (¹⁾ 日本医科大学衛生学公衆衛生学教室, ²⁾ 日本医科大学内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)) : 高血圧患者に対する Losartan/HCTZ 配合剤投与は昼間・夜間血圧いづれに対しても 48 週間安定した降圧効果を示す : 地域連携研究” INBA Study” より. 第33回日本高血圧学会 (福岡), 2010. 10.
- 10) 大塚俊昭¹⁾, 雪吹周生, 清野精彦, 小谷英太郎²⁾, 草間芳樹²⁾ (¹⁾ 日本医科大学衛生学公衆衛生学教室, ²⁾ 日本医科大学内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)) : 「塩辛い食品」摂取状況に関する主婦の評価は将来の血圧上昇を予測するか?. 第33回日本高血圧学会 (福岡), 2010. 10.
- 11) 根岸経太, 山本真功, 高野雅充, 岡松健太郎, 栗原 理, 志村徹郎, 稲見 徹, 村上大介, 大場崇芳, 清野精彦, 水野杏一¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)) : シロリムス溶出性ステント留置 5 年後の血管内視鏡所見に関する検討. 第24回日本心臓血管内視鏡学会 (東京), 2010. 10.
- 12) 村井綱兄, 清野精彦, 木股伸恒, 稲見 徹, 山本真功, 村上大介, 阿部純子, 淀川顕司, 雪吹周生, 水野杏一¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)) : 静注強心薬解離困難な重症心不全患者における経口強心薬治療と展望. 第38回日本集中治療医学会 (横浜), 2011. 2.
- (6) 一般講演 :
- 1) Inami T, Seino Y, Mizuno K¹⁾ (¹⁾ Dep. of Internal Medicine, Division of Cardiology, Nippon Medical School) : “Links between Sleep Apnea Syndrome and Aortic Dissection : Differences in Patent False Lumen type versus Thrombosed Type”. 第75回日本循環器学会 (横浜), 2011. 3.
- 2) 小林宣明¹⁾, 畑 典武¹⁾, 久米典昭²⁾, 品田卓郎¹⁾, 富田和憲¹⁾, 北村光信¹⁾, 白壁彰宏¹⁾, 野崎文華¹⁾, 徳山榮男¹⁾, 稲見 徹, 清野精彦, 水野杏一³⁾ (¹⁾ 京都大学循環器内科, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院集中治療室, ³⁾ 日本

- 医科大学内科学講座（循環器・肝臓・老年・総合病態部門）：急性冠症候群と冠縮性狭心症の鑑別における sLOX-1 の有用性. 第 58 回日本心臓病学会（東京），2010. 9.
- 3) Inami T, Yamamoto M, Takano M, Kimata N, Murai K, Murakami D, Ohba T, Ibuki C, Seino Y, Mizuno K¹⁾ (1) Division of Cardiology, Dep. of Internal Medicine, Nippon Medical School) : “Two Cases of Coronary Stent Thrombosis Very Late After Bare-Metal Stenting : Identification by Coronary Angioscopy”. CVIT 2010 日本心血管インターベンション治療学会（仙台），2010. 8.
 - 4) Kurihara O, Yamamoto M, Takano M, Inami T, Murakami D, Kimata N, Ohba T, Ibuki C, Seino Y, Mizuno K¹⁾ (1) Division of Cardiology, Dep. of Internal Medicine, Nippon Medical School) : “Impact of Small Thrombus Formation in Restenotic Bare-Metal Stent Lesions Associated with Acute Coronary Syndrome : Identification by Optical Coherence Tomography”. CVIT 2010 日本心血管インターベンション治療学会（仙台），2010. 8.
 - 5) Murakami D, Yamamoto M, Katayama N¹⁾, Inami T, Takano M, Ohba T, Ibuki C, Seino Y, Mizuno K¹⁾ (1) Dep. of Internal Medicine, Division of Cardiology, Nippon Medical School) : “ACE-I or ARB improve endothelial dysfunction 6 months after SES implantation”. CVIT 2010 日本心血管インターベンション治療学会（仙台），2010. 8.
 - 6) Kimata N, Seino Y, Kurihara S, Yamamoto M, Inami T, Murai K, Murakami D, Takano M, Ohba T, Ibuki C, Kawamoto H¹⁾, Mizuno K¹⁾ (1) Dep. of Internal Medicine, Division of Cardiology, Nippon Medical School) : “Benefit of CO₂-enhanced digital subtraction angiography supported percutaneous peripheral intervention for peripheral artery disease in patients with chronic kidney disease”. CVIT 2010 日本心血管インターベンション治療学会（仙台），2010. 8.
 - 7) Murakami D, Seino Y, Mizuno K¹⁾ (1) Dep. of Internal Medicine, Division of Cardiology, Nippon Medical School) : “ACE-I or ARB Have a Potential Effect to improve endothelial Dysfunction 6 months after SES Implantation”. 第 75 回日本循環器学会（横浜），2011. 3.
 - 8) Kurihara O, Seino Y, Mizuno K¹⁾ (1) Dep. of Internal Medicine, Division of Cardiology, Nippon Medical School) : “Continual Delayed Arterial Healing 5 Years after the Implantation of Sirolimus-eluting stents : Serial Observations by Coronary Angioscopy”. 第 75 回日本循環器学会（横浜），2011. 3.
 - 9) Ibuki C, Seino Y, Mizuno K (1) Dep. of Internal Medicine, Division of Cardiology, Nippon Medical School) : “Obesity is an Independent Determinant of Nocturnal Blood Pressure Lowering with Addition of Hydrochlorothiazide as the Fixed-dose Combination with Losartan”. 第 75 回日本循環器学会（横浜），2011. 3.
 - 10) 木股仲恒, 山本真功, 稲見 徹, 村上大介, 大場崇芳, 雪吹周生, 清野精彦, 川俣 博, 岡田 進, 水野杏一 (1) 日本医科大学内科学講座（循環器・肝臓・老年・総合病態部門）：腎機能障害を有する閉塞性動脈硬化症患者の EVT に際し炭酸ガス造影の併用が有用であった 1 例. 第 216 回日本循環器学会関東甲信越地方会（東京），2010. 6.
 - 11) 水野正之¹⁾, 仲田佳広¹⁾, 高野雅充, 渡邊英樹¹⁾, 原田耕次¹⁾, 前田悠人²⁾, 河原崎昇¹⁾, 清野精彦, 水野杏一³⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院放射線センター, 2) 日本医科大学千葉北総病院 ME 部, 3) 日本医科大学内科学講座（循環器・肝臓・老年・総合病態部門）：光干渉断層法における穿刺部位の違いによる計測誤差. CVIT2010 日本史血管インターベンション学会（仙台），2010. 8.
 - 12) 中込明裕¹⁾, 浅井俊之¹⁾, 小杉宗範¹⁾, 吉川雅智¹⁾, 小谷英太郎¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 清野精彦, 新 博次¹⁾, 水野杏一²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院 循環器内科, 2) 日本医科大学内科学講座（循環器・肝臓・老年・総合病態部門）：慢性心不全患者における単球の産生するサイトカインと血清脂質値, 長期予後との関係. 第 58 回日本心臓病学会（東京），2010. 9.
 - 13) 雪吹周生, 清野精彦, 大塚俊昭¹⁾, 水野杏一²⁾ (1) 日本医科大学衛生学・公衆衛生学教室, 2) 日本医科大学内科

学講座（循環器・肝臓・老年・総合病態部門）：Losartan/HCTZ 配合剤は高BMI 高血圧患者において顕著な夜間高血圧効果を示す：地域連携研究（INBA）Study. 第58回日本心臓病学会（東京），2010. 9.

- 14) 木股伸恒, 清野精彦, 山本真功, 稲見 徹, 村井鋼児, 村上大介, 高野雅充, 大場崇芳, 雪吹周生, 川俣博志¹⁾, 水野杏一²⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院放射線科, ²⁾ 日本医科大学内科学（循環器・肝臓・老年・総合病態部門）：慢性腎機能障害を有する末梢動脈疾患患者に対する炭酸ガス造影 DSA 併用カテーテルインターベンションの有用性. 第58回日本心臓病学会（東京），2010. 9.
- 15) 村井鋼児, 清野精彦, 山本真功, 稲見 徹, 村上大介, 阿部純子, 淀川顕司, 高野雅充, 大野則彦, 雪吹周生, 水野杏一¹⁾, 下村直樹²⁾, 福田恵子²⁾ (¹⁾ 日本医科大学内科学講座（循環器・肝臓・老年・総合病態部門）, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院薬剤部）：慢性心不全における経口狭心薬療法の有用性と問題点：Real World analysis. 第58回日本心臓病学会（東京），2010. 9.
- 16) 根岸経太, 栗原 理, 木股伸恒, 山本真功, 村井鋼児, 村上大介, 阿部純子, 淀川顕司, 高野雅充, 大野則彦, 大場崇芳, 雪吹周生, 清野精彦, 水野杏一¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学内科学講座（循環器・肝臓・老年・総合病態部門）：重度の睡眠時無呼吸症候群を合併した急性大動脈解離の1症例. 第217回日本循環器学会関東甲信越地方会（東京），2010. 9.
- 17) 稲見 徹, 栗原 理, 白壁彰宏¹⁾, 小林宣明¹⁾, 品田卓郎¹⁾, 坪 宏一¹⁾, 横山真也¹⁾, 雪吹周生, 畑 典武¹⁾, 清野精彦 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院集中治療室）：急性期に於ける大動脈解離と睡眠時無呼吸症候群の関連性. 第38回日本集中治療医学会（横浜），2011. 2.

(7) 症例報告：

- 1) Yamamoto M, Koyama Y¹⁾, Katayama N¹⁾ (¹⁾ Cardiovascular Center, Kitaibaraki Municipal General Hospital)：“Successful angioplasty with reverse CART technique for anterior tibial artery occlusion via pedal-plantar loop”. CVIT 2010 日本心血管インターベンション治療学会（仙台），2010. 8.

(8) Featured Research：

- 1) Yodogawa K, Seino Y, Ohara T¹⁾, Takayama H¹⁾, Katoh T¹⁾, Mizuno K¹⁾ (¹⁾ Dep. of Internal Medicine, Division of Cardiology, Nippon Medical School)：“Effect of Corticosteroid Therapy on Ventricular Arrhythmias in Patients with Cardiac Sarcoidosis”. 第75回日本循環器学会（横浜），2011. 3.

(9) 市民公開講座：

- 1) 清野精彦：見つけて治そう！ 隠れ心不全：早期に発見！ 心不全. 第14回日本心不全学会（東京），2010. 10.

2. 内科学講座（神経・腎臓・膠原病リウマチ部門）

〔付属病院神経内科，腎臓内科〕

研究概要

当内科学講座は，神経内科学および腎臓内科学を主たる診療科目としている。神経内科では脳卒中，特に脳梗塞の病態解明および治療を主要課題として取り組んでいる。基礎研究では，脳梗塞に対する骨髄幹細胞移植による脳保護・神経再生を主な研究テーマの一つとして行っているが，骨髄単核球細胞や骨髄間葉系細胞を脳梗塞モデルに投与して脳梗塞の体積や神経徴候に及ぼす影響およびそのメカニズムについて検討を行っている。骨髄幹細胞移植はヒトにおいて既に試みられており，当教室においても臨床実施を目指して研究を行っている。また，種々の新規脳保護薬を始め，免疫抑制薬，抗酸化薬，スタチン等の脳保護効果について検討を行っている。さらに，近年，脂質異常症治療薬であるスタチンの脳卒中予防作用に注目が集まっているが，我々の教室では脳卒中易発症高血圧自然発症ラット（SHRSP）を用いてその予防効果やメカニズムについて検討を行っている。臨床研究では，SCU（Stroke Care Unit）が設立され，脳卒中急性期の超早期診断・治療が活発に行われているが，それらの診断・治療成績の向上に関する研究や脳卒中における頭痛の解析がなされている。その他，脳血管性認知症やアルツハイマー型認知症等の認知症やパーキンソン病に対し，PET・MRI・SPECT等の画像診断機器を利用した研究を活発に行っている。腎臓内科では，従来から行われてきた透析を中心とした研究に加え，糸球体腎炎に対するサイトカインの役割やARBおよびスタチンの投与の影響についても研究を進めている。また，腎クリニック，千葉北総病院の内科や脳神経センターおよび武蔵小杉病院内科に教室員の派遣を行い，各施設での診療・研究に貢献している。以上，当教室では神経および腎臓内科学領域において，国内外の関係学会で幅広く活発な活動を行い，多くの優れた論文を発表している。

研究業績

論文

〔追加分〕

追加分原著：

- 1) Nagayama H, Ueda M, Kumagai T, Tsukamoto K, Nishiyama Y, Nishimura S, Hamamoto M, Katayama Y : Influence of aging on the pharmacokinetics of levodopa in elderly patients with Parkinson's disease. *Parkinsonism Relat Disord* 2010 ; 17 (3) : 150-152.

(1) 原著：

- 1) Utsumi K, Itoh K¹⁾, Hiramata A, Ueda K, Sakamaki M, Kaneko T, Yamazaki M, Komaba Y, Katsura K, Iino Y, Katayama Y ^{(1) Department of Medical Biotechnology, Institute for Medical Resources, Graduate School of Pharmaceutical Sciences, the University of Tokushima} : Selective inhibition of alfa-galactosidase A with antisense oligodeoxynucleotide in mesangial cells : A renal cellular model for Fabry disease. *Int J Nephrol Urol* 2010 ; 3 (2) : 397-400.
- 2) Kim K^{1,2)}, Isu T²⁾, Sugawara A^{2,3)}, Morimoto D^{1,2)}, Matsumoto R²⁾, Isobe M²⁾, Mishina M¹⁾, Kobayashi S¹⁾, Teramoto A⁴⁾ ^{(1) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, 2) Department of Neurosurgery, Kushiro Rosai Hospital, 3) Department of Neurosurgery, Iwate Medical University, 4) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School} : Radiological study of the sandwich method in cervical anterior fusion using autologous vertebral bone grafts. *J Clin Neurosci* 2010 ; 17 (4) : 450-454.

- 3) Aki K¹⁾, Shimizu A¹⁾, Masuda Y¹⁾, Kuwahara N¹⁾, Arai T¹⁾, Ishikawa A¹⁾, Fujita E, Mii A, Natori Y²⁾, Fukunaga Y¹⁾, Fukuda Y¹⁾ (¹⁾ Department of Analytic Human Pathology, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Health Chemistry, School of Pharmacy, Iwate Medical University) : ANG II receptor blockade enhances anti-inflammatory macrophages in anti-glomerular basement membrane glomerulonephritis. *Am J Physiol Renal Physiol* 2010 ; 298 (4) : F870-F882.
- 4) Kim K¹⁾, Katsuno M²⁾, Isu T³⁾, Mishina M¹⁾, Yoshida D²⁾, Kobayashi S¹⁾, Teramoto A²⁾ (¹⁾ Department of Neurosurgery, Neurological Institute, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, ²⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School, ³⁾ Department of Neurosurgery, Kushiro Rosai Hospital) : Concomitant Cranial and Lumbar Subdural Hematomas : Case Report. *Neurol Med Chir* 2010 ; 50 (5) : 402-404.
- 5) Nishiyama Y, Komaba Y, Ueda M, Nagayama H, Amemiya S, Katayama Y : Early depressive symptoms after ischemic stroke are associated with a left lenticulocapsular area lesion. *J Stroke Cerebrovasc Dis* 2010 ; 19 (5) : 184-189.
- 6) Nishiyama Y, Ueda M, Katsura K, Otsuka T, Abe A, Nagayama H, Katayama Y : Asymmetric dimethylarginine (ADMA) as a possible risk factor for ischemic stroke. *J Neurol Sci* 2010 ; 290 (1-2) : 12-15.
- 7) Saito-Sabine K, Kashiwagi T, Miyahara H¹⁾, Iino Y, Katayama Y (¹⁾ Research and Development, JMS Co.,Ltd.) : A comparative study of sterility levels in continuous ambulatory peritoneal dialysis system. *J Nippon Med Sch* 2010 ; 77 (6) : 306-311.
- 8) Nagayama H, Ueda M, Yamazaki M, Nishiyama Y, Hamamoto M, Katayama Y : Abnormal cardiac^[123I]-Meta-Iodobenzylguanidine Uptake in Multiple System Atrophy. *Mov Disord* 2010 ; 25 (11) : 1744-1752.
- 9) Katsumata T, Otori T, Nishiyama Y, Okubo S, Nishiyama Y, Nagayama H, Ueda M, Utsumi K, Yamazaki M, Komaba Y, Katsura K, Katayama Y : Correlation between insulin resistance and white matter lesions among non-diabetic patients with ischemic stroke. *Neurol Res* 2010 ; 32 (7) : 743-747.
- 10) Fujita E, Shimizu A¹⁾, Masuda Y¹⁾, Kuwahara N¹⁾, Arai T¹⁾, Nagasaka S¹⁾, Aki K¹⁾, Mii A, Natori Y²⁾, Iino Y, Katayama Y, Fukuda Y¹⁾ (¹⁾ Department of Analytic Human Pathology, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Health Chemistry, School of Pharmacy, Iwate Medical University) : Statin attenuates experimental anti-glomerular basement membrane glomerulonephritis together with the augmentation of alternatively activated macrophages. *Am J Pathol* 2010 ; 177 (3) : 1143-1154.
- 11) Masuda Y¹⁾, Shimizu A¹⁾, Kataoka A¹⁾, Arai T¹⁾, Ishikawa A¹⁾, Du X¹⁾, Saito S¹⁾, Aki K¹⁾, Nagasaka S¹⁾, Mii A, Fujita E, Fukuda Y¹⁾ (¹⁾ Department of Analytic Human Pathology, Nippon Medical School) : Inhibition of capillary repair in proliferative glomerulonephritis results in persistent glomerular inflammation with glomerular sclerosis. *Lab Invest* 2010 ; 90 (10) : 1468-1481.
- 12) Shinohara Y, Katayama Y, Uchiyama S, Yamaguchi T, Handa S, Matsuoka K, Ohashi Y, Tanahashi N, Yamamoto H, Genka C, Tsushima M, Koretsune Y, Sawada T, Hamada C, The Csps2 Group : Cilostazol for prevention of secondary stroke (CSPS2) : an aspirin-controlled, double-blind, randomised non-inferiority trial. *The Lancet Neurology* 2010 ; 9 (10) : 959-968.
- 13) Abe A, Ueda T, Ueda M, Nogoshi S, Nishiyama Y, Katayama Y : Recovery of Cerebrovascular Reserves after Stenting for Symptomatic Carotid Artery Stenosis. *Interventional Neuroradiology* 2010 ; 16(4) : 420-428.
- 14) Utsumi K, Mitsuhashi F¹⁾, Katsura K, Iino Y, Katayama Y (¹⁾ The Clinical Laboratory Department, Nippon Medical School) : “ Maltese crosses ” in fabry disease. *J Nippon Med Sch* 2010 ; 77 (6) : 284-284.
- 15) Fukuda K, Kaneko T, Utsumi K, Tamura H, Shimizu A, Iino Y, Katayama Y : Clinical feature of AL amyloidosis diagnosed via renal biopsy, and response to treatment. *J Nippon Med Sch* 2010 ; 77 (6) : 348-351.

- 16) Mii A, Shimizu A¹⁾, Masuda Y¹⁾, Fujino T¹⁾, Kaneko T, Utsumi K, Arai T¹⁾, Ishikawa A¹⁾, Wakamatsu K¹⁾, Tajika K¹⁾, Iino Y, Katayama Y, Fukuda Y¹⁾ (1) Department of Analytic Human Pathology, Nippon Medical School) : Renal thrombotic microangiopathy associated with chronic humoral graft versus host disease after hematopoietic stem cell transplantation. *Pathol Int* 2011 ; 61 (1) : 34-41.
- 17) Mishina M^{1,2)}, Ishiwata K¹⁾, Naganawa M^{1,3)}, Kimura Y^{1,4)}, Kitamura S⁵⁾, Suzuki M^{1,6)}, Hashimoto M^{1,6)}, Ishibashi K^{1,7)}, Oda K¹⁾, Sakata M¹⁾, Hamamoto M²⁾, Kobayashi S⁸⁾, Katayama Y, Ishii K¹⁾ (1) Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, 2) Department of Neurology, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, 3) Department of Diagnostic Radiology, PET Center, Yale University, 4) Biophysics Group, Molecular Imaging Center, National Institute of Radiological Sciences, 5) Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital, 6) Department of Neurology, The Jikei University School of Medicine, 7) Department of Neurology and Neurological Science Graduate School, Tokyo Medical and Dental University, 8) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital) : Adenosine A_{2A} Receptors Measured with [¹¹C]TMSX PET in the Striata of Parkinson's Disease Patients. *PLoS One* 2011 ; 6 (e17338) : 1-8.
- 18) Kaneko T, Hiram A, Ueda K, Fujino T, Utsumi K, Iino Y, Katayama Y : Methylprednisolone pulse therapy combined with mizoribine following tonsillectomy for immunoglobulin A nephropathy : clinical remission rate, steroid sparing effect, and maintenance of renal function. *Clin Exp Nephrol* 2011 ; 15 (1) : 73-78.
- 19) Kunugi S¹⁾, Shimizu A¹⁾, Kuwahara N¹⁾, Du X¹⁾, Takahashi M¹⁾, Terasaki Y¹⁾, Fujita E, Mii A, Nagasaka S¹⁾, Akimoto T¹⁾, Masuda Y¹⁾, Fukuda Y¹⁾ (1) Department of Analytic Human Pathology, Nippon Medical School) : Inhibition of matrix metalloproteinases reduces ischemia-reperfusion acute kidney injury. *Lab Invest* 2011 ; 91 (2) : 170-180.
- 20) Kim K¹⁾, Isu T²⁾, Sugawara A³⁾, Matsumoto R²⁾, Isobe M²⁾, Morimoto D¹⁾, Mishina M¹⁾, Kobayashi S¹⁾, Yoshida D⁴⁾, Teramoto A⁴⁾ (1) Department of Neurosurgery, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School, 2) Department of Neurosurgery, Kushiro Rosai Hospital, 3) Department of Neurosurgery, Iwate Medical University, 4) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School) : Selective Posterior Decompression of the Cervical Spine. *Neurol Med Chir* 2011 ; 51 (2) : 108-112.
- 21) Nishiyama Y, Ueda M, Otsuka T, Katsura K, Abe A, Nagayama H, Katayama Y : Statin Treatment Decreased Serum Asymmetric Dimethylarginine (ADMA) Levels in Ischemic Stroke Patients. *J Atheroscler Thromb* 2011 ; 18 (2) : 131-137.
- 22) Nito C, Katayama Y : Neuroprotective Effect of an Antioxidant in Ischemic Stroke : Involvement of Neuronal Death Signaling and Blood-brain Barrier Disruption. *J Nippon Med Sch* 2011 ; 78 (1) : 60-62.
- 23) 金子朋広 : 活動性 IgA 腎症に対する扁桃摘出後メチルプレドニゾロンパルスとミゾリビン併用療法 : 臨床的寛解率と腎機能の検討. *臨床と免疫* 2010 ; 18 (4) : 107-113.
- (2) 総説 :
- 1) Ishiwata K¹⁾, Kimura Y^{1,2)}, Oda K¹⁾, Ishii K¹⁾, Sakata M¹⁾, Kawasaki K¹⁾, Nariai T^{1,3)}, Suzuki Y^{1,4)}, Ishibashi K^{1,5)}, Mishina M^{1,6)}, Hashimoto M^{1,7)}, Ishikawa M^{1,8)}, Jun T¹⁾ (1) Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, 2) Biophysics Group, Molecular Imaging Center, National Institute of Radiological Sciences, 3) Department of Neurosurgery, Tokyo Medical and Dental University, 4) Department of Ophthalmology, Tokyo Medical and Dental University, 5) Department of Neurology, Tokyo Medical and Dental University, 6) Department of Neurology, Neurological Institute, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, 7) Department of Neurology, The Jikei University School of Medicine, 8) Depart-

- ment of Psychiatry, Chiba University) : Development of PET radiopharmaceuticals and their clinical applications at the Positron Medical Center. *Geriatr Gerontol Int* 2010 ; 10 (suppl 1) : S180-S196.
- 2) Ueda M, Katayama Y : Brain protection and regeneration therapy for delayed neuronal injury in neurological disorder. *J Nippon Med Sch* 2010 ; 77 (7) : 56-58.
 - 3) 山崎峰雄, 片山泰朗 : 神経変性疾患による認知症とトビックス : Lewy 小体型認知症, TDP-43 proteinopathy. *分子脳血管病* 2010 ; 9 (2) : 198-203.
 - 4) 野元正弘¹⁾, 武田 篤²⁾, 永山 寛, 澤田秀幸⁴⁾ (¹⁾ 愛媛大学大学院医学研究科病態治療内科学, ²⁾ 東北大学大学院医学研究科神経内科, ³⁾ 独立行政法人国立病院機構 宇多野病院臨床研究部神経内科) : パーキンソン病における L-dopa 治療. *Progress in Medicine* 2010 ; 30 (4) : 1137-1144.
 - 5) 永山 寛, 片山泰朗 : 末梢神経伝導検査. *腎と透析* 2010 ; 68 (増大号) : 817-822.
 - 6) 村田美穂¹⁾, 菊地誠志²⁾, 永井将弘³⁾, 永山 寛, 前田哲也⁴⁾ (¹⁾ 国立精神・神経医療研究センター病院 神経内科, ²⁾ 独立行政法人国立病院機構 札幌南病院神経内科, ³⁾ 愛媛大学医学部臨床薬理学創薬治療内科, ⁴⁾ 地方独立行政法人秋田県立病院機構脳血管研究センター 神経内科研究部) : L-dopa の理想的な用量設定とは?. *Therapeutic Research* 2010 ; 31 (5) : 629-636.
 - 7) 三品雅洋¹⁾, 金 景成¹⁾, 小林士郎¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター) : 脳卒中地域連携パス. *日本医科大学医学会雑誌* 2010 ; 6 (3) : 152-152.
 - 8) 山崎峰雄 : 非シヌクレイノパチーにみられるシヌクレイン封入体. *Brain Medical* 2010 ; 22 (2) : 153-158.
 - 9) 三品雅洋¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター) : 特集 2 脳疾患の分子イメージング, パーキンソン病の分子イメージング. *PET Journal* 2010 ; 10 (summer) : 34-35.
 - 10) 原 行弘¹⁾, 三品雅洋²⁾, 小林士郎²⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院リハビリテーション科, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター) : t-PA 治療時代における地域連携パスとリハビリテーション. *Mebio* 2010 ; 27(7) : 128-135.
 - 11) 小柳清光¹⁾, 橋本智代²⁾, 山崎峰雄 (¹⁾ 信州大学医学部 神経難病講座, ²⁾ 東京都神経科学総合研究所神経病理) : グラム島の筋萎縮性側索硬化症 (ALS) -TOP43 と神経原線維変化から見るパーキンソン認知症, 古典型 ALS, 前頭側頭葉変性症との異同 -. *最新医学* 2010 ; 65 (7) : 1632-1641.
 - 12) 片山泰朗, 棚橋紀夫, 田中耕太郎 : 脳卒中治療の最新の動向 : 脳卒中治療ガイドライン 2009 の発刊を受けて. *最新医学 別冊 新しい診断と治療の ABC 10 (脳卒中診療 Update 脳血管障害 改訂第 2 版)* 2010 ; (10) : 283-291.
 - 13) 内海甲一, 桂研一郎, 片山泰朗 : ここがポイント ! ちょっと変わった脳卒中 脳梗塞を頻回にくり返した若年の Fabry 病患者の 1 例. *分子脳血管病 連載第 10 回* 2010 ; 2 (9) : 104-107.
 - 14) 山崎峰雄 : 嗜銀顆粒性認知症. *臨床放射線 (10 月臨時増刊号) 知っておきたい認知症の臨床と画像* 2010 ; 55 (11) : 1486-1491.
 - 15) 山崎峰雄 : アルツハイマー病の診断と治療の現状. *医学のあゆみ 認知症 : 研究. 臨床の最前線* 2010 ; 235 (6) : 697-702.
 - 16) 片山泰朗 : 脳卒中治療ガイドライン 2009 の改訂をめぐって. *神経治療学* 2010 ; 27 (6) : 835-839.
 - 17) 片山泰朗, 寺山靖夫¹⁾, 高木 誠²⁾, 上田雅之 (¹⁾ 岩手医科大学 内科学講座 神経内科・老年科分野, ²⁾ 東京都済生会中央病院) : 座談会 脳卒中治療ガイドライン 2009 を読む. *新薬と臨床* 2010 ; (7) : 1-7.
 - 18) 石渡明子, 水村 直¹⁾, 北村 伸²⁾, 片山泰朗 (¹⁾ 日本医科大学 放射線科, ²⁾ 日本医科大学付武蔵小杉病院 神経内科) : 変性性認知症の脳機能画像の臨床応用. *老年期認知症研究会誌* 2010 ; 17 : 8-11.
 - 19) 大久保誠二, 片山泰朗 : 脳梗塞超急性期の診断と治療. *総合臨床* 2011 ; 60 (1) : 123-125.
 - 20) 仁藤智香子, 片山泰朗 : Therapeutic Window を広げる時間を止める : t-PA と脳保護薬の併用の可能性. *分子脳血管病* 2011 ; 10 (1) : 31-36.

- 21) 塩川芳昭¹⁾, 阿部康二²⁾, 片山泰朗, 松本昌泰³⁾, 鈴木倫保⁴⁾, 内山真一郎⁵⁾ (1) 杏林大学医学部脳神経外科, 2) 岡山大学大学院歯薬学総合研究科脳神経内科学, 3) 広島大学大学院病態探医学部脳神経内科, 4) 山口大学大学院医学系研究科システム統御医学系学域脳神経外科学分野, 5) 東京女子医科大学医学部神経内科学) : 座談会 脳卒中治療への新たなチャレンジ. 分子脳血管病 2011 ; 10 (1) : 1-10.
- 22) 篠原幸人¹⁾, 片山泰朗, 田中耕太郎²⁾ (1) 国家公務員共済組合連合会立川病院, 2) 富山大学 神経内科) : 座談会 脳卒中治療ガイドライン 2009 とその後の新知見. 成人病と生活習慣病 2011 ; 41 (2) : 131-143.
- 23) 上田雅之 : エビデンスに基づく脳梗塞再発予防. Credentials 2011 ; 30 (3) : 5-13.
- (3) 症例報告 :
- 1) 金子朋広, 有馬留志, 荒川裕輔, 青木路子, 福田久美子, 福井めぐみ, 平間章郎, 藤田恵美子, 三井亜希子, 内海甲一, 清水 章¹⁾, 飯野靖彦 (1) 日本医科大学 解析人体病理学) : アルコール性肝硬変に合併した急速進行性腎炎症候群の2例. 日本腎臓学会誌 2011 ; 53 (1) : 60-67.
- (4) 翻訳 :
- 1) 上田雅之, 片山泰朗 : 連載「海外論文紹介, Top Journal Up To Date」虚血プレコンディショニングは, マウス大脳皮質においてマイクロRNA と予測される標的のMeCP2 の発現を調節する (Lusardi TA et al : Ischemic preconditioning regulates expression of microRNAs and a predicted target, MeCP2, in mouse cortex.). J Cereb Blood Flow Metab 2010 ; (9) : 344-346.

著 書

- 1) 須田 智, 片山泰朗 : [共著] 第3章 脳卒中臨床に必須な症候と診断 主な症候のとらえかた. 別冊 新しい診断と治療のABC 10 (改)/神経1 脳卒中診療 Update (田中耕太郎), 2010 ; pp70-80, 最新医学社.
- 2) 清水 章¹⁾, 藤田恵美子 (1) 日本医科大学 解析人体病理学) : [共著] 【病理形態学キーワード】 腎 半月体. 病理と臨床 28巻臨時増刊号 (「病理と臨床」常任編集委員会), 2010 ; pp196-197, 文光堂.
- 3) 石渡明子, 北村 伸¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 内科) : [分担] 認知機能障害. 総合診療マニュアル (上原譽志夫, 大林完二, 隅谷護人, 益子邦洋, 松岡博昭), 2010 ; pp320-324, 金芳堂.
- 4) 片山泰朗 : [分担] 脳血管障害の危険因子とその対策. メディコピア 51 動脈硬化をめぐって 予防と治療の新しい展開 (亀田治男他), 2010 ; pp98-115, 富士レビオ株式会社.
- 5) 藤田恵美子, 清水 章¹⁾ (1) 日本医科大学 解析人体病理学) : [共著] 特集 膠原病と腎障害 膠原病による腎障害 (ISN/RPS2003年ループス腎炎新分類の解説を含む). Nephrology Frontier, 2010 ; pp243-250, メディカルレビュー社.
- 6) 三品雅洋¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター) : [分担] パーキンソン病. 臨床医とコメディカルのための最新クリニカルPET (米倉義晴, 伊藤正敏, 窪田和雄, 佐治英郎, 玉木長良, 中川恵一, 畑澤 順, 間賀田泰寛, 渡辺恭良, 寺田弘司), 2010 ; pp184-187, 先端医療技術研究所.
- 7) 金子朋広, 飯野靖彦 : [分担] 10. CKD において使われる薬剤 15) 高カリウム血症治療薬. AKI と CKD のすべて (「腎と透析」編集委員会), 2010 ; pp271-274, 東京医学社.
- 8) 内海甲一 : [分担] 第III部 治療における最近の新薬の位置付け (薬効別) : 新薬の広場 : 輸液・栄養剤・透析溶剤. 医薬ジャーナル 新薬展望 2011 (Vol.47 S-1) (政田幹夫, 佐藤 博, 佐々木 均), 2011 ; pp270-276, 株式会社 医薬ジャーナル社.

学会発表

[追加分]

追加分一般講演 :

- 1) 金丸拓也¹⁾, 中嶋信人¹⁾, 野本達也¹⁾, 水越元気¹⁾ (1) 北村山公立病院 神経内科) : 左同名半盲で発症し多発性

脳脊髄炎を来たした75歳男性. 日本神経学会東北地方会(第86回), 2010. 3.

2) 白田和弘: 頭痛と精神症状. 千駄木頭痛カンファレンス(第5回), 2010. 3.

追加分座談会:

1) 片山泰朗, 上田雅之: 脳卒中治療ガイドライン2009を読む. 新薬と臨床, 2009. 4.

(1) 座談会:

1) 片山泰朗: 脳卒中治療の最新動向: 脳卒中治療ガイドライン2009の発刊を受けて. 最新医学「脳卒中診療 Update」座談会, 2010. 5.

2) 片山泰朗: 脳梗塞慢性期における誤嚥性肺炎への対策. 日経メディカルオンライン座談会, 2010. 5.

(2) 会長講演:

1) 片山泰朗: 当科SCUにおける虚血性脳血管障害患者の頭痛の検討. 日本頭痛学会総会(第38回), 2010. 11.

(3) 特別講演:

1) 片山泰朗: 脳卒中再発予防戦略: 脳卒中治療ガイドライン2009を踏まえて. 新しい脳卒中の治療戦略, 2010. 4.

2) 片山泰朗: 脳卒中再発予防戦略: 脳卒中治療GL2009を踏まえて. Fighting Vascular Events in Matsumoto 2010, 2010. 4.

3) 片山泰朗: 脳卒中再発予防戦略: 脳卒中治療GL2009を踏まえて. 脳血管障害懇話会(第9回), 2010. 4.

4) 片山泰朗: 脳卒中の危険因子とその対策. 脳卒中市民公開講座(第9回), 2010. 5.

5) 上田雅之: 脳卒中予防に向けた脂質管理. Expert Meeting, 2010. 5.

6) 片山泰朗: 脳梗塞再発予防: JELIS・EPA基礎研究を含めて. 桐生市医師会学術講演会, 2010. 6.

7) 三井亜希子, 清水 章¹⁾ (1) 日本医科大学 解析人体病理学: AKI (Acute Kidney Injury) の病理組織. 日本腎臓学会総会(第53回), 2010. 6.

8) 片山泰朗: 脳梗塞再発予防: JELIS・EPA基礎研究を含めて. 北勢地区脳卒中治療ガイドライン講演会, 2010. 6.

9) 三品雅洋¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター: 血栓溶解療法における千葉県の実情. 虚血性脳血管障害を考える会(第2回), 2010. 6.

10) 三品雅洋¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター: 血栓溶解療法と脳卒中医療連携. 東総地区超急性期脳梗塞治療研究会(第2回), 2010. 6.

11) 片山泰朗: 脳梗塞再発予防: JELIS・EPA基礎研究を含めて. 小田原医師会学術講演会(第462回), 2010. 7.

12) 上田雅之: EPAの脳梗塞に対する効果: ガイドラインにおける位置と基礎研究からみた効果. エパデール発売20周年記念講演会: EPAノ新たなる可能性を探る, 2010. 7.

13) 三品雅洋¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター: 「印旛脳卒中地域連携パス」について. 平成22年度第3回地域ケア会議, 2010. 8.

14) 片山泰朗: ガイドライン2009からみた脳梗塞再発予防: スタチン研究を含めて. みやぎブレインアタック研究会(第12回), 2010. 9.

15) 三品雅洋¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター: 千葉県における脳卒中地域連携パスの現状. 神奈川県西部脳卒中地域連携懇話会(第5回), 2010. 9.

16) 永山 寛: Parkinson病の気分障害. Presentation & Discussion: パーキンソン病の非運動症状を考える, 2010. 10.

17) 三品雅洋¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター: 抗血小板剤の選択: なぜ脳卒中診療に医療連携が必要なのか. 脳卒中懇話会, 2010. 11.

18) 上田雅之: 脂質異常症. 関東脳卒中研究会(第22回), 2010. 11.

19) 石渡明子: 新潟認知症の画像診断: 統計画像のピットフォール. 脳血流SPECT統計画像解析(3D-SSP)学術

- 講演会, 2010. 11.
- 20) 永山 寛: early therapy and motor complications. Conference of PD therapy in target on the 20 years duration, 2010. 11.
 - 21) 上田雅之: 脳卒中の危険因子と最近のトピックス: 脂質代謝異常症. 関東脳卒中研究会 (第 22 回), 2010. 11.
 - 22) 片山泰朗: 虚血性脳血管障害の頭痛の検討. 新潟頭痛研究会: 新潟県医師会生涯教育講座: 大学院特別講義: (第 7 回), 2010. 12.
 - 23) 片山泰朗: ガイドラインを踏まえた脳梗塞再発予防. 東信脳卒中懇話会, 2010. 12.
 - 24) 片山泰朗: ガイドラインを踏まえた Post-Stroke のマネジメント. Fighting Vascular Events in Nishinomiya : 抗血小板剤の新たなエビデンス, 2011. 1.
 - 25) 永山 寛: 長期にわたった L-dopa 治療の問題点とその対策: Non-motor を中心に. GSK CDS シンポジウム (第 1 回), 2011. 1.
 - 26) 三品雅洋: 脳卒中地域連携パスの活用と問題点. 東邦大学医療センター佐倉病院病診連携フォーラム (第 2 回), 2011. 2.
 - 27) 三品雅洋: 脳卒中医療連携におけるかかりつけ医の役割. 流山医師会学術勉強会, 2011. 2.
 - 28) 三品雅洋: 脳卒中医療連携におけるかかりつけ医の役割. 江戸川区医師会 総合臨床研究会 (第 8 回), 2011. 2.
 - 29) 永山 寛: L-dopa の適正使用などについて. Drs Meeting (第 2 回), 2011. 2.
 - 30) 上田雅之: 虚血性脳血管障害に関する新たな知見: 多価不飽和脂肪酸 EPA の脳虚血に対する効果. Expert Insight of Neurology (第 2 回), 2011. 2.
 - 31) 永山 寛: MIBG 心筋シンチと Parkinson 病およびその類縁疾患. 秋田県立病院機構脳血管研究センター院内講演会, 2011. 3.
 - 32) 永山 寛: ジスキネジアへの対応. PD 治療ガイドライン講演会, 2011. 3.
 - 33) 山崎峰雄: アルツハイマー型認知症の新しい治療戦略: どう診断し, 治療するか. 秩父郡医師会講演会 (埼玉県秩父市), 2011. 3.
- (4) 招待講演:
- 1) Katsura K: FNK-modified Bcl-xL protects ischemic brain damage. World Forum on CBFM in Kyoto (Kyoto, Japan), 2010. 10.
- (5) 教育講演:
- 1) 山崎峰雄: 前頭側頭葉変性症の新しい分類: 新しい PNA 結合蛋白 FUS/TLS の登場. Expert Insights of Neurology (第 1 回) (東京), 2010. 7.
 - 2) 齊藤智成¹⁾ (1) 東京都保健医療公社荏原病院 神経内科): TIA に対する内科的治療について. 大田区医師会 TIA 講演会, 2010. 9.
 - 3) 山崎峰雄: アルツハイマー型認知症の薬物治療. 日本医科大学医療連携推進会 (第 14 回) (東京), 2011. 2.
- (6) シンポジウム:
- 1) 片山泰朗: 脳卒中治療ガイドライン 2009 の改訂をめぐって. 日本神経治療学会総会 (第 28 回), 2010. 7.
 - 2) 大久保誠二: 脳血管疾患による頭痛. 日本頭痛学会総会 (第 38 回), 2010. 11.
 - 3) 白田和弘: 頭痛のプライマリーケア: 診断と治療 (1) 感染症による頭痛. 日本頭痛学会総会 (第 38 回), 2010. 11.
 - 4) 大久保誠二, 片山泰朗: 脳血管疾患による頭痛. 日本頭痛学会総会 (第 38 回), 2010. 11.
- (7) セミナー:
- 1) 桂研一郎: 三叉神経痛の診断と内科的治療. 日本頭痛学会総会 (第 38 回), 2010. 11.
 - 2) 山崎峰雄: もの忘れ外来診療のピットフォール: 非アルツハイマー型認知症の診断. 日本脳循環代謝学会総会 (第 22 回) (大阪), 2010. 11.

- 3) 山崎峰雄：アルツハイマー病治療薬の今後の動向・最新の治療法：臨床研究の観点から。臨床機構セミナー（東京），2010。11。
- 4) 山崎峰雄：認知症診断のこつ：アルツハイマー型，脳血管型，レビー小体型の3大認知症の診断。デメンシアコンgres：かかりつけ医のための認知症診療に役立つ実践講座（金沢市），2011。2。
- (8) ランチョンセミナー：
- 1) 石渡明子：認知症の鑑別における SPECT の意義・役割。日本老年精神医学会総会（第25回），2010。6。
- (9) 一般講演：
- 1) Mii A, Shimizu A¹⁾, Masuda Y¹⁾, Fujita E, Kawachi H²⁾, Kuwahara N¹⁾, Arai T¹⁾, Kataoka M¹⁾, Iino Y, Katayama Y, Fukuda Y¹⁾ (¹⁾ Department of Analytic Human Pathology Nippon Medical School, ²⁾ Cell Biology Institute of Nephrology, Niigata University Graduate School) : Angiotensin II receptor blockade inhibits acute glomerular injuries with the alteration of receptor expression. Nexus Kyoto 2010 (Kyoto, Japan), 2010。5。
- 2) Mishina M^{1, 2)}, Kimura Y^{1, 3)}, Ishii K²⁾, Sakata M²⁾, Oda K²⁾, Kobayashi S¹⁾, Katayama Y, Ishiwata K²⁾ (¹⁾ Neurological Institute, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, ²⁾ Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, ³⁾ Biophysics Group, Molecular Imaging Center, National Institute of Radiological Sciences) : Aging effect on adenosine A₁ receptors in human putamen : A MPDX PET study. 16th Annual Meeting of the Organization for Human Brain Mapping (Barcelona), 2010。6。
- 3) Oyanagi K¹⁾, Hashimoto T²⁾, Yamazaki M, Hasegawa M³⁾, Arai T³⁾, Akiyama H³⁾, Tsuchiya K³⁾, Morita T⁴⁾, Misutani T⁵⁾, Kaikita A⁶⁾, Takahashi H⁶⁾ : ALS of Guam : neuropathological reevaluation in comparison with the parkinsonism-dementia complex, frontotemporal lobar degeneration and classic ALS. International Congress of Neuropathology (XVIIth) (Salzburg, Austria), 2010。9。
- 4) Oyanagi K¹⁾, Hashimoto T²⁾, Yamazaki M, Hasegawa M³⁾, Arai T³⁾, Akiyama H³⁾, Tsuchiya K³⁾, Morita T⁴⁾, Misutani T⁵⁾, Kaikita A⁶⁾, Takahashi H⁶⁾ (¹⁾ Department of Brain Disease Research, Shinshu University School of Medical, ²⁾ Tokyo Gas, Ltd., ³⁾ Nippon Medical University, ⁴⁾ Tokyo Metropolitan Organization for Medical Research, ⁵⁾ Tokyo Metropolitan Matsuzawa Hospital, ⁶⁾ Shinrakuen Hospital, ⁷⁾ Tokyo Neurological Hospital, ⁸⁾ Brain Research, Institute, Niigata University, Japan) : ALS of Guam : neuropathological reevaluation in comparison with the parkinsonism-dementia complex, frontotemporal lobar degeneration and classic ALS. International Congress of Neuropathology (XVIIth) (Salzburg, Austria), 2010。9。
- 5) Nomura K, Katsumata T, Tanaka N, M G, Fujikawa M, Egawa S, Shimizu H, Kawanami O, Katayama Y : Translational research on stroke and dement with ARB, statins, anti-platelet, and diabetes. The 1st world Forum on Cerebral Blood Flow Metabolism & Function (Kyoto, Japan), 2010。10。
- 6) Nito-Nagata C, Ueda M, Inaba T, Nomura K, Katayama Y : A free radical scavenger and mild hypothermia for brain damage after focal ischemia-Effects on MMP activation and blood-brain barrier disruption. The 1st Forum on Cerebral Blood Flow, Metabolism and Function Kyoto 2010 (Kyoto, Japan), 2010。10。
- 7) Kamiya N, Ueda M, Igarashi H¹⁾, Inaba T, Nishiyama Y, Suda S, Katayama Y (¹⁾ Brain Research Institute, University of Niigata) : Monitoring of administered autologous bone marrow mononuclear cells via carotid artery in rat transient focal ischemia model using MRI. The 1st World Forum on Cerebral Blood Flow Metabolism and Function (Kyoto, Japan), 2010。10。
- 8) Mishina M^{1, 2)}, Ishii K²⁾, Suzuki M^{2, 3)}, Kitamura S⁴⁾, Ishibashi K^{1, 5)}, Sakata M²⁾, Oda K²⁾, Hamamoto M⁶⁾, Kominami S¹⁾, Kobayashi S¹⁾, Katayama Y, Ishiwata K²⁾ (¹⁾ Neurological Institute, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, ²⁾ Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, ³⁾ Department of Neurology, The Jikei University School of Medicine, ⁴⁾ Department of Internal Medicine,

- Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital, ⁵⁾ Department of Neurology, Tokyo Medical and Dental University, ⁶⁾ Department of Neurology, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital) : Striatal distribution of dopamine transporters and dopamine D2 receptors at different stages of Parkinson's disease : A CFT and RAC PET study. XIX Symposium Neuroradiologicum (Bologna, Italia), 2010. 10.
- 9) Sakurazawa M, Katsura K, Saito M, Asoh S¹⁾, Ohta S¹⁾, Katayama Y (¹⁾ Department of Biochemistry and Cell Biology, Institute of Development and Aging Sciences, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : The Neuroprotective effect of PTD-FNK protein and hypothermia combination therapy on rat focal brain ischemia model. 2010 World Forum on Cerebral Blood Flow Metabolism & Function (Kyoto, Japan), 2010. 10.
 - 10) Ueda M, Inaba Y, Okubo S, Nagata C, Suda S, Kamiya N, Kamiya F, Nishiyama Y, Nagayama H, Katayama Y : Pretreatment with ethyl eicosapentaenoic acid reduces oxidative stress and ameliorates brain damage following focal ischemia in rats. The 1st World Forum on Cerebral Blood Flow Metabolism and Function (Kyoto, Japan), 2010. 10.
 - 11) Suda S, Shimazaki K, Ueda M, Inaba T, Kamiya N, Katsura K, Katayama Y : FK506 enhances therapeutic potency of bone marrow stromal cells after experimental stroke in rats. The 1st World Forum on Cerebral Blood Flow Metabolism and Function (Kyoto, Japan), 2010. 10.
 - 12) Fujita E, Shimizu A¹⁾, Masuda Y¹⁾, Nagasaka S¹⁾, Fukui M, Mii A, Doh X¹⁾, Tanabe M¹⁾, Iino Y, Katayama Y, Fukuda Y¹⁾ (¹⁾ Department of Pathology, Nippon Medical School) : Statin attenuates experimental anti-glomerular basement membrane glomerulonephritis together with the augmentation of alternatively activated macrophages. 43rd Annual Meeting & Scientific Exposition of The American Society of Nephrology (Denver, USA), 2010. 11.
 - 13) Mii A, Shimizu A¹⁾, Masuda Y¹⁾, Fujino T, Kaneko T, Utsumi K, Arai T¹⁾, Ishikawa A¹⁾, Wakamatsu K¹⁾, Tajika K²⁾, Iino Y, Katayama Y, Fukuda Y¹⁾ (¹⁾ Department of Pathology, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Medicine (Hematology, Gastroenterology, and Endocrinology and Metabolism) Nippon Medical School) : Renal thrombotic microangiopathy associated with graft versus host disease after hematopoietic stem cell transplantation. 43rd Annual Meeting & Scientific Exposition of The American Society of Nephrology (Denver, USA), 2010. 11.
 - 14) Nito C, Ueda M, Inaba T, Nomura K, Katayama Y : A free radical scavenger combined with mild hypothermia ameliorates ischemic brain damage by suppressing matrix metalloproteinase 9. 40th Annual Meeting of Neuroscience (Chicago, USA), 2010. 11.
 - 15) Nomura K, Ueda M, Katayama Y : Effects of long-term administration of HMG-CoA inhibitor, Atorvastatin, on microvessels in the brain of stroke-prone spontaneously hypertension rats. 40th Annual Meeting of Neuroscience (Chicago, U.S.A.), 2010. 11.
 - 16) Ishiwata A : Efficacy of the prevention of Hippocampal Atrophy by Treatment with Donepezil in Alzheimer's Disease. The 10th International Conference on AD/PD (Barcelona, Spain), 2011. 3.
 - 17) 三品雅洋¹⁾, 宇藤 薫²⁾, 中尾安秀²⁾, 川越康博²⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター, ²⁾ 新松戸中央総合病院内科) : 急激な低ナトリウム血症を呈した急性辺縁系脳炎. 「神経内科を語る会」(第31回), 2010. 6.
 - 18) Katsura K : Neuroprotective treatments in cerebral ischemia. SCU Meeting (Sendagi Conference of Update Neuroscience), 2010. 4.
 - 19) 仁藤智香子, 上田雅之, 稲葉俊東, 片山泰朗 : 軽微低体温療法はフリーラジカスカベンジャーとの併用により脳保護効果を増強する. 日本脳卒中学会総会 (第35回), 2010. 4.
 - 20) 阿部 新, 西山康裕, 萩原 浩, 片山泰朗 : 新規発症脳梗塞患者のシロスタゾールによるサブスタンスPおよ

- び嚙下潜時に対する影響. 日本脳卒中学会総会 (第 35 回), 2010. 4.
- 21) 内海甲一, 平間章郎, 三井亜希子, 金子朋広, 飯野靖彦, 片山泰朗: 糖尿病性腎症患者におけるオルメサルタンおよびイミダプリルを併用による酸化 LDL, AMDA への影響. 日本内科学会総会・講演会 (第 107 回), 2010. 4.
- 22) 永山 寛, 上田雅之, 熊谷智昭, 塚本和久, 濱本 真, 片山泰朗: レボドーパ動態度における腎機能の影響. 日本内科学会総会・講演会 (第 107 回), 2010. 4.
- 23) 高山洋平, 西山康裕, 大久保誠二, 角南英子, 阿部 新, 鈴木健太郎, 原田未那, 戸田諭補, 上田雅之, 片山泰朗: 急性期心原性脳塞栓症患者における CHADS2 スコアと凝固線溶系および血小板分子マーカーとの関連について. 日本脳卒中学会総会 (第 35 回), 2010. 4.
- 24) 山崎峰雄, 橋本智代¹⁾, 貫名信行²⁾, 片山泰朗, 小柳清光³⁾ (1) 東京都神経科学総合研究所神経病理, 2) 理化学研究所脳科学総合研究センター, 3) 信州大学医学部神経難病講座): グアム島パーキンソン認知症における FUS 陽性構造物. 日本神経病理学会総会学術研究会 (第 51 回), 2010. 4.
- 25) 西山 穰, 勝又俊弥, 大鳥達雄, 片山泰朗: 脳梗塞患者の血中高分子アデイポネクチン濃度に対する valsartan 投与の影響. 日本脳卒中学会総会 (第 35 回), 2010. 4.
- 26) 三品雅洋¹⁾, 小林士郎¹⁾, 水成隆之¹⁾, 金 景成¹⁾, 梅岡克哉¹⁾, 鈴木雅規¹⁾, 大村朋子¹⁾, 國保倫子¹⁾, 白銀一貴¹⁾, 片山泰朗 (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター): 印旛脳卒中地域連携パス (InCliPS) 運用による急性期病院入院日数の影響. 日本脳卒中学会総会 (第 35 回), 2010. 4.
- 27) 古口徳雄¹⁾, 近藤国嗣²⁾, 小沢義典³⁾, 三品雅洋⁴⁾, 烏谷博英⁵⁾, 片山正輝⁶⁾, 内藤博道⁷⁾, 松永高志⁸⁾ (1) 千葉県救急医療センター医療局診療部神経系治療科, 2) 東京湾岸リハビリテーション病院, 3) 千葉労災病院脳神経外科, 4) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター, 5) 松戸市立病院脳神経外科, 6) 東京歯科大学市川総合病院脳神経外科, 7) 船橋市立医療センター脳神経外科, 8) 旭中央病院神経内科): 千葉県における脳卒中地域連携: 全県共用パス 2 年目の取り組み. 日本脳卒中学会総会 (第 35 回), 2010. 4.
- 28) 須田 智¹⁾, 福地孝明¹⁾, 金子信幸²⁾, 上田雅之, 西山康裕, 桂研一郎, 片山泰朗 (1) 府中恵仁会病院 脳神経内科, 2) 府中恵仁会病院 脳神経外科): ゴニサミドが著効したくも膜下出血後の Holmes'tremor の 1 例. 日本脳卒中学会総会 (第 35 回), 2010. 4.
- 29) 金丸拓也¹⁾, 中嶋信人¹⁾, 塚本和久¹⁾, 水越元気¹⁾ (1) 北村山公立病院 神経内科): 心原性脳塞栓患者の脳梗塞体積に対するワルファリンが及ぼす影響. 日本脳卒中学会総会 (第 35 回), 2010. 4.
- 30) 鈴木健太郎, 大久保誠二, 上田雅之, 荒川裕輔, 高山洋平, 戸田諭補, 角南英子, 阿部 新, 西山康裕, 大鳥達雄, 片山泰朗: 奇異性脳空気塞栓症の 1 例. 東京 Stroke フロンティア (第 9 回), 2010. 4.
- 31) 山崎峰雄, 橋本智代¹⁾, 貫名信行²⁾, 片山泰朗, 小柳清光³⁾ (1) 東京都神経科学総合研究所神経病理, 2) 理化学研究所脳科学総合研究センター, 3) 信州大学医学部神経難病講座): グアム島パーキンソン認知症における FUS 陽性構造物. 日本神経学会総会 (第 51 回), 2010. 5.
- 32) 永山 寛, 田原重志¹⁾, 熊谷智昭, 塚本和久, 西山康裕, 濱本 真, 寺本 明¹⁾, 片山泰朗 (1) 日本医科大学脳神経外科): 下垂体線腫患者でのカベルゴリン使用と心臓弁逆流の検討. 日本神経学会総会 (第 51 回), 2010. 5.
- 33) 上田雅之, 大久保誠二, 西山康裕, 永田智香子, 須田 智, 神谷信雄, 永山 寛, 片山泰朗: ラット局所脳虚血モデルにおける EPA-E 前投与の CBF・ADC に対する影響. 日本神経学会総会 (第 51 回), 2010. 5.
- 34) 石渡明子, 水村 直¹⁾, 山崎峰雄, 羽生春夫²⁾, 北村 伸³⁾, 片山泰朗 (1) 東邦大学医療センター大森病院 放射線科, 2) 東京医科大学 老年病科, 3) 日本医科大学武蔵小杉病院 内科): 塩酸ドネペジルの海馬萎縮に対する保護効果の評価. 日本神経学会総会 (第 51 回), 2010. 5.
- 35) 三品雅洋^{1, 2)}, 小林士郎¹⁾, 片山泰朗, 石井賢二²⁾, 織田圭一²⁾, 坂田宗之²⁾, 石渡喜一²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター, 2) 東京都健康長寿医療センター研究所神経画像研究チーム): MacBook Pro と Par-

- allels Desktop を用いて Dr.View/Linux を起動する. 千葉核医学研究会 (第 49 回), 2010. 5.
- 36) 三品雅洋^{1, 2)}, 石井賢二²⁾, 木村裕一²⁾, 坂田宗之²⁾, 織田圭一²⁾, 小林士郎¹⁾, 片山泰朗, 石渡喜一²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター, 2) 東京都健康長寿医療センター研究所神経画像研究チーム): 被殻アミノシン A1 受容体分布の加齢変化—¹¹C]MPDX PET を用いた検討—. 日本神経学会総会 (第 51 回), 2010. 5.
 - 37) 櫻澤 誠²⁾, 桂研一郎, 齊藤萌子, 麻生定光¹⁾, 太田成男¹⁾, 片山泰朗 (1) 日本医科大学 老人病研究所 生化学部門, 2) 田尻ヶ丘病院 内科): ラット 120 分中大脳動脈閉塞モデルへの PTD-FNK 蛋白・低体温療法の併用効果. 日本神経学会総会 (第 51 回), 2010. 5.
 - 38) 白田和弘, 石渡明子, 片山泰朗: 頭痛患者における, 気分障害の検討. 日本神経学会総会 (第 51 回), 2010. 5.
 - 39) 原田未那, 西山康裕, 阿部 新, 大久保誠二, 角南英子, 村賀香名子, 鈴木健太郎, 高山洋平, 戸田論補, 上田雅之, 大鳥達雄, 片山泰朗: コントラストエコー法を用いた急性期脳梗塞の塞栓源検索について. 日本神経学会総会 (第 51 回), 2010. 5.
 - 40) 戸田論補, 大久保誠二, 齊藤智成, 角南英子, 鈴木健太郎, 高山洋平, 原田未那, 金丸拓也, 村賀香名子, 阿部 新, 西山康裕, 西山 稔, 上田雅之, 大鳥達雄, 片山泰朗: SCU における活動性癌を合併した脳梗塞症例の検討. 日本神経学会総会 (第 51 回), 2010. 5.
 - 41) 阿部 新, 西山康裕, 上田雅之, 大久保誠二, 永山 寛, 桂研一郎, 片山泰朗: 中高年女性における血清 ADMA 値と予測脳梗塞発症リスクとの関連性. 日本脳ドック学会総会 (第 19 回), 2010. 6.
 - 42) 福田久美子, 上田佳恵, 金子朋広, 安田文彦, 三井亜希子, 藤野鉄平, 内海甲一, 山口博樹¹⁾, 田村秀人¹⁾, 清水 章²⁾, 飯野靖彦, 片山泰朗 (1) 日本医科大学付属病院 血液内科, 2) 日本医科大学解析人体病理学): ネフローゼ症候群を契機に診断された全身性アミロイドーシスの 5 例. 日本腎臓学会総会 (第 53 回), 2010. 6.
 - 43) 青木路子, 平間章郎, 荒川裕輔, 三井亜希子, 金子朋広, 内海甲一, 飯野靖彦, 片山泰朗: CAPD による腹膜炎治療中に急性膵炎を合併した 1 例. 日本透析医学会学術集会・総会 (第 55 回), 2010. 6.
 - 44) 渡辺容子, 安田文彦, 栗原 怜¹⁾, 櫻井祐成²⁾, 飯野靖彦, 片山泰朗 (1) さいたまつきの森クリニック 腎臓内科, 2) 春日部内科クリニック 腎臓内科): 透析患者の橈骨骨密度と骨折発症危険因子との関連. 日本透析医学会学術集会・総会 (第 55 回), 2010. 6.
 - 45) 荒川裕輔, 青木路子, 福井めぐみ, 三井亜希子, 平間章郎, 有馬留志, 金子朋広, 内海甲一, 飯野靖彦, 片山泰朗: LDL アフェレシスが奏功した (LDLA) にて蛋白尿の減少を認めた膜性ループス腎炎の 1 例. 日本透析医学会学術集会・総会 (第 55 回), 2010. 6.
 - 46) 安田文彦, 渡辺容子, 湯浅譲治¹⁾, 栗原 怜¹⁾, 櫻井祐成²⁾, 飯野靖彦, 片山泰朗 (1) さいたまつきの森クリニック 腎臓内科, 2) 春日部内科クリニック 腎臓内科): 維持透析患者に対する腹部超音波検査及び腹部 CT 検査の有用性. 日本透析医学会学術集会・総会 (第 55 回), 2010. 6.
 - 47) 内海甲一, 石原貴起¹⁾, 平間章郎, 三井亜希子, 金子朋広, 飯野靖彦, 丸山弘樹¹⁾, 片山泰朗 (1) 新潟大学腎臓学医療センター): Fabry 病患者発見のための尿沈渣卵円形脂肪体 (maltose cross) の有用性. 日本腎臓学会総会 (第 53 回), 2010. 6.
 - 48) 神谷信雄¹⁾, 齊藤智成¹⁾, 鈴木健太郎¹⁾, 濱本 真¹⁾, 片山泰朗 (1) 日本医大千葉北総病院 神経内科): MRI にて認められた白質病変が治療により消失した神経梅毒の 41 歳男性例. 日本神経学会関東・甲信越地方会 (第 193 回), 2010. 6.
 - 49) 高山洋平, 野上 茜, 永山 寛, 上田雅之, 片山泰朗: 間質性肺炎・糸球体腎炎が先行した脊髄炎の 60 歳男性例. 日本神経学会関東・甲信越地方会 (第 193 回), 2010. 6.
 - 50) 小宮山容子¹⁾, 桑原千恵¹⁾, 長岡やよい¹⁾, 塩野加奈子¹⁾, 杉山和子¹⁾, 木村和義¹⁾, 金子朋広 (1) 町立八丈病院): 八丈島に住む腎不全患者の治療選択の現状と PD 患者を支える看護体制を振り返って. 日本透析医学会 学術集会・総会 (第 55 回) (神戸), 2010. 6.
 - 51) 藤田恵美子, 清水 章¹⁾, 益田幸成¹⁾, 永坂真也¹⁾, 三井亜希子, 飯野靖彦, 片山泰朗, 福田 悠¹⁾ (1) 日本医

- 科大学 解析人体病理学)：ラット anti-GBM 腎炎に対するスタチンのマクロファージを介した抗炎症作用. 日本腎臓学会学術総会 (第 53 回), 2010. 6.
- 52) 原田未那, 阿部 新, 大久保誠二, 西山康裕, 鈴木健太郎, 高山洋平, 戸田諭補, 上田雅之, 片山泰朗: コントラストエコー法を用いた急性期脳梗塞の塞栓源検索について. 日本脳ドック学会総会 (第 19 回), 2010. 6.
- 53) 阿部 新, 西山康裕, 上田雅之, 須田 智, 角南英子, 大久保誠二, 桂研一郎, 片山泰朗: 中高年女性における血清 ADMA 値と予測脳梗塞発症リスクとの関連性. 日本脳ドック学会総会 (第 19 回), 2010. 6.
- 54) 櫻澤 誠²⁾, 桂研一郎, 齋藤萌子, 麻生定光¹⁾, 太田成男¹⁾, 片山泰朗 (¹⁾ 日本医科大学 老人病研究所 生化学部門, ²⁾ 田尻ヶ丘病院 内科): PTD-FNK 蛋白・低体温療法の 120 分中大脳動脈閉塞モデルに対する効果. 日本神経治療学会総会 (第 28 回), 2010. 7.
- 55) 阿部 新, 西山康裕, 萩原 浩, 大久保誠二, 上田雅之, 桂研一郎, 片山泰朗: 新規発症脳梗塞患者のシロスタゾールによるサブスタンス P および嚙下潜時に対する影響. 日本神経治療学会総会 (第 28 回), 2010. 7.
- 56) 白田和弘, 石渡明子, 片山泰朗: 頭痛患者における気分障害の検討. 日本神経治療学会総会 (第 28 回), 2010. 7.
- 57) 上田雅之, 大久保誠二, 永田智香子, 須田 智, 角南英子, 阿部 新, 西山康裕, 神谷信雄, 永山 寛, 片山泰朗: ラット局所脳虚血モデルにおける EPA-E 前投与の脳保護効果: 投与期間および投与中断後の影響の検討. 日本神経治療学会総会 (第 28 回), 2010. 7.
- 58) 永山 寛, 上田雅之, 塚本和久, 熊谷智昭, 山崎峰雄, 濱本 真, 片山泰朗: Levodopa 動態における腎機能の影響. 日本神経治療学会総会 (第 28 回), 2010. 7.
- 59) 神谷信雄¹⁾, 齊藤智成¹⁾, 濱本 真¹⁾, 片山泰朗 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 神経内科): ピリドスチグミンの投与にて起立性低血圧症状の著明な改善を認めた Pure Autonomic Failure の 80 歳男性例. 日本神経治療学会総会 (第 28 回), 2010. 7.
- 60) 三品雅洋¹⁾, 小林士郎¹⁾, 片山泰朗 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター): 印旛脳卒中地域連携パス (InCliPS) 導入の影響. 日本神経治療学会総会 (第 28 回), 2010. 7.
- 61) 齊藤智成, 神谷信雄, 濱本 真, 片山泰朗: 中枢性睡眠時無呼吸に paroxetine が著効した多系統萎縮症の 1 例. 日本神経治療学会総会 (第 28 回), 2010. 7.
- 62) 齊藤智成¹⁾, 村賀香名子¹⁾, 長尾毅彦¹⁾, 平林久吾¹⁾, 田久保秀樹¹⁾ (¹⁾ 東京都保健医療公社荏原病院 神経内科): 進行性の血管狭窄を認めた primary angiitis of the central nervous system (PACNS) に内科的治療が奏功した 1 例. Tokyo Stroke Intervention Seminar (第 8 回), 2010. 7.
- 63) 阿部 新, 金丸拓也, 大久保誠二, 高山洋平, 村賀香名子, 須田 智, 上田雅之, 桂研一郎, 片山泰朗: 当施設における虚血発症の椎骨動脈解離疑い症例の検討. The 29th Mt. Fuji workshop on CVD, 2010. 8.
- 64) 鈴木健太郎, 大久保誠二, 高山洋平, 阿部 新, 須田 智, 上田雅之, 片山泰朗: 出血発症との鑑別を要した虚血発症の前大脳動脈解離の 1 例. The 29th Mt. Fuji workshop on CVD, 2010. 8.
- 65) 高山洋平, 大久保誠二, 阿部 新, 原田未那, 村賀香名子, 須田 智, 上田雅之, 片山泰朗: 内頸動脈解離による脳梗塞の一部. The 29th Mt. Fuji workshop on CVD, 2010. 8.
- 66) 福田久美子, 渡辺容子, 上田佳恵, 三井亜希子, 金子朋広, 内海甲一, 飯野靖彦, 片山泰朗: 腎生検にて診断された AL アミロイドーシスの臨床的特徴と治療経過. 日本医科大学医学会総会 (第 78 回), 2010. 9.
- 67) 高山洋平, 西山康裕, 大久保誠二, 角南英子, 阿部 新, 鈴木健太郎, 原田未那, 戸田諭補, 上田雅之, 片山泰朗: 急性期心原性脳塞栓症患者における CHADS2 スコアと凝固線溶系および血小板分子マーカーとの関連について. 日本医科大学医学会総会 (第 78 回), 2010. 9.
- 68) 梶本雄介, 永山 寛, 酒巻雅典, 熊谷智昭, 野上 茜, 滝沢まどか, 上田雅之, 片山泰朗: アキレス腱肥厚に種々の神経症候を伴った 1 例. 日本医科大学医学会総会 (第 78 回), 2010. 9.
- 69) 荒川裕輔, 飯野靖彦, 片山泰朗: 膜性ループス腎炎に対して LDL アフェレーシスが著効した 1 例. 日本医科大学

学医学会総会（第 78 回），2010. 9.

- 70) 梶本雄介, 永山 寛, 酒巻雅典, 上田雅之, 片山泰朗: 特異な歩行障害を呈した脳髄黄色腫症の 45 歳女性例. 日本神経学会関東・甲信越地方会（第 194 回）, 2010. 9.
- 71) 鈴木健太郎, 神谷信雄, 齊藤智成, 濱本 真, 片山泰朗: 体幹失調で発症し MRI にて非特異的炎症所見を認めたサルコイドーシスの 28 歳男性例. 日本神経学会関東・甲信越地方会（第 194 回）, 2010. 9.
- 72) 齊藤智成¹⁾, 村賀香名子¹⁾, 長尾毅彦¹⁾, 平林久吾¹⁾, 田久保秀樹¹⁾ (¹⁾ 東京都保健医療公社荏原病院 神経内科): 進行性の血管狭窄を認めた PACNS に対し内科的治療が奏功した 39 歳女性例. 日本神経学会関東甲信越地方会（第 194 回）, 2010. 9.
- 73) 有馬留志, 金子朋広, 梶本雄介, 平間章郎, 三井亜希子, 藤田恵美子, 内海甲一, 清水 章¹⁾, 飯野靖彦, 片山泰朗 (¹⁾ 日本医科大学 解析人体病理学): アルコール性肝硬変に合併した半月体形成性糸球体腎炎の 1 例. 日本腎臓学会東部学術大会（第 40 回）, 2010. 9.
- 74) 三品雅洋¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター): 脳卒中予防と医療連携 千葉県の試み. ストップ! 脳卒中プロジェクト 脳卒中撲滅を目指して, 2010. 10.
- 75) 永田智香子: 脳梗塞急性期における酸化ストレスと MMPs (Matrix Metalloproteinases): Neurovascular Unit Protection の観点から. STROKE Prevention Therapy Now!, 2010. 10.
- 76) 野村浩一: SHR-SP に対するスタチン長期投与による脳保護効果の検討. Brain Protection Forum (第 7 回), 2010. 10.
- 77) 金丸拓也, 阿部 新, 大久保誠二, 高山洋平, 原田未那, 村賀香名子, 須田智成, 上田雅之, 桂研一郎, 片山泰朗: 当院 SCU における椎骨脳底動脈解離の危険な症状: 頭痛・後頸部痛. 日本頭痛学会総会（第 38 回）, 2010. 11.
- 78) 阿部 新, 西山康裕, 大久保誠二, 高山洋平, 原田未那, 村賀香名子, 須田 智, 上田雅之, 桂研一郎, 片山泰朗: 頭痛と drop attack にて発症した高齢発症大動脈炎症症候群の 1 例. 日本頭痛学会総会（第 38 回）, 2010. 11.
- 79) 西山 穰, 角南英子, 西山康裕, 片山泰朗: 頭部不快感を主訴とした女性患者と抑うつ状態, 頭部 MRI 所見との関連の検討. 日本頭痛学会総会（第 38 回）, 2010. 11.
- 80) 白田和弘, 石渡明子, 片山泰朗: 頭痛患者におけるうつ病性障害の検討. 日本頭痛学会総会（第 38 回）, 2010. 11.
- 81) 國保倫子^{1, 2)}, 三品雅洋¹⁾, 金 景成^{1, 2)}, 小南修史^{1, 2)}, 小林士郎^{1, 2)}, 寺本 明²⁾, 片山泰朗 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター, ²⁾ 日本医科大学脳神経外科): くも膜下出血で発症した頸椎硬膜動静脈瘻. 日本頭痛学会総会（第 38 回）, 2010. 11.
- 82) 大村朋子^{1, 2)}, 三品雅洋¹⁾, 小林士郎^{1, 2)}, 寺本 明²⁾, 片山泰朗 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター, ²⁾ 日本医科大学脳神経外科): 頭痛発症の脳深部静脈洞血栓症の 1 例. 日本頭痛学会総会（第 38 回）, 2010. 11.
- 83) 須田 智, 阿部 新, 村賀香名子, 金丸拓也, 高山洋平, 大久保誠二, 上田雅之, 桂研一郎, 片山泰朗: 睡眠中の後頸部痛で発症した頭蓋頸椎移行部硬膜動静脈瘻の 1 例. 日本頭痛学会総会（第 38 回）, 2010. 11.
- 84) 神谷信雄, 濱本 真, 片山泰朗 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 神経内科): 抗血小板薬の中止により頭痛を伴わない典型的前兆を呈した 1 例. 日本頭痛学会総会（第 38 回）, 2010. 11.
- 85) 目々澤肇: 片頭痛予防薬は何かよく処方されたか. 日本頭痛学会総会（第 38 回）, 2010. 11.
- 86) 酒巻雅典, 水越元気¹⁾, 福地孝明¹⁾, 白田和弘, 片山泰朗 (¹⁾ 府中恵仁会病院): 頭痛以外の症候が目立たず, MRI にて診断された中大脳動脈領域脳梗塞の 2 症例. 日本頭痛学会総会（第 38 回）, 2010. 11.
- 87) 高山洋平, 大久保誠二, 阿部 新, 原田未那, 村賀香名子, 金丸拓也, 須田 智, 上田雅之, 桂研一郎, 片山泰朗: 内頸動脈解離により発症した脳梗塞の 1 例. 日本頭痛学会総会（第 38 回）, 2010. 11.
- 88) 鈴木健太郎, 大久保誠二, 高山洋平, 阿部 新, 須田 智, 上田雅之, 片山泰朗: 頭痛を主訴に来院し, 出血

- 発症との鑑別を要した虚血発症の前大脳動脈解離の1例. 日本頭痛学会総会 (第38回), 2010. 11.
- 89) 原田未那, 阿部 新, 大久保誠二, 桂研一郎, 片山泰朗: 甲状腺機能亢進症に脳静脈洞血症を合併した1例. 日本頭痛学会総会 (第38回), 2010. 11.
- 90) 太田智大¹⁾, 長尾毅彦^{1,2)}, 大竹敏之²⁾, 田久保秀樹²⁾ (1) 日本医科大学内科 神経・腎臓・膠原病リウマチ部門, 2) 財団法人東京都保健医療公社 荏原病院 神経内科): 頭痛で発症し, ほぼ全脳神経麻痺を呈した髄膜癌腫症の59歳男性例. 日本頭痛学会総会 (第38回), 2010. 11.
- 91) 塚本和久, 永山 寛, 山崎峰雄, 片山泰朗: Neuropsychiatric syndrome of SLE (NPSLE) による無菌性髄膜炎を呈した1例. 日本頭痛学会総会 (第38回), 2010. 11.
- 92) 萩原万里子: 常に異動する痛みと治療効果を認める23年経過の片頭痛女性の1例. 日本頭痛学会総会 (第38回), 2010. 11.
- 93) 齊藤智成¹⁾, 野原千洋子²⁾, 長尾毅彦^{1,2)}, 田久保秀樹²⁾, 片山泰朗¹⁾ (1) 日本医科大学内科 神経・腎臓・膠原病リウマチ部門, 2) 財団法人東京都保健医療公社 荏原病院 神経内科): 画像検査が診断に有用であった側頭動脈炎の1例. 日本頭痛学会総会 (第38回), 2010. 11.
- 94) 中田悠皓^{1,2)}, 白田和弘¹⁾, 柏木哲也¹⁾, 片山泰朗¹⁾ (1) 日本医科大学内科 神経・腎臓・膠原病リウマチ部門, 2) 北千住東口腎クリニック 内科): 治療困難な透析に関連する頭痛の1例. 日本頭痛学会総会 (第38回), 2010. 11.
- 95) 齊藤智大: 多発脳梗塞の病巣を呈したGVHD脳症の1例. 文京ニューロサイエンスフォーラム (第6回), 2010. 11.
- 96) 平間章郎, 金子朋広, 上田佳恵, 三井亜希子, 内海甲一, 飯野靖彦, 片山泰朗: 大腸がん手術後の腹壁癒痕ヘルニアを持つ症例にAPDを導入した1例. 腹膜透析医学会学術総会 (第16回), 2010. 11.
- 97) 熊谷智昭, 永山 寛, 野上 茜, 金丸拓也, 上田雅之, 片山泰朗: 若年性 parkinsonism の1例. 東京 Parkinsonism 臨床研究会 (第7回), 2010. 11.
- 98) 梶本雄介, 永山 寛, 酒巻雅典, 上田雅之, 片山泰朗: 消化管切除前後で Levodopa 動態を評価出来た72歳男性例. 日本神経学会関東地方会 (第195回), 2010. 11.
- 99) 近藤国嗣¹⁾, 古口徳雄²⁾, 小沢義典³⁾, 三品雅洋⁴⁾, 篠遠 仁⁵⁾ (1) 東京湾岸リハビリテーション病院, 2) 千葉県救急医療センター医療局診療部神経系治療科, 3) 千葉労災病院脳神経外科, 4) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター, 5) 旭神経内科リハビリテーション病院): 千葉県共用脳卒中地域連携パス (CAMP-S) の成り立ちと特徴: 回復期リハビリの立場から. 日本クリニカルパス学会学術集会 (第11回), 2010. 12.
- 100) 須田 智, 大久保誠二, 上田雅之, 桂研一郎, 片山泰朗: 睡眠中の後頭部痛を呈した頭蓋頸椎移行部硬膜動脈瘻の76歳男性例. 日本神経学会関東地方会 (第196回), 2011. 3.
- 101) 大久保誠二: 日本医科大学 SCU の現状. 東京脳卒中診断治療研究会 (第7回), 2011. 3.
- (10) 市民公開講座:
- 1) 白田和弘: 片頭痛とは. 日本頭痛学会総会 市民公開講座 (第38回), 2010. 11.
 - 2) 酒巻雅典: 肩こりのある頭痛とは. 日本頭痛学会総会 市民公開講座 (第38回), 2010. 11.
 - 3) 大久保誠二: 脳卒中が原因となる頭痛・脳梗塞. 日本頭痛学会総会 市民公開講座 (第38回), 2010. 11.
- (11) 平成21年度同窓会医学研究助成金受賞記念講演:
- 1) 永田智香子: 脳虚血後の神経細胞死・血液脳関門障害における細胞内シグナル伝達の解明とその治療. 日本医科大学医学会総会 (第78回), 2010. 9.

[付属病院リウマチ科]

研究概要

リウマチ科では、リウマチ性疾患に関する臨床研究、基礎的研究を行っている。主要研究課題は 1) 関節リウマチ、2) 変形性関節症、3) 運動器の抗老化、ならびに 4) サプリメントである。関節リウマチについては、当科における薬物治療データベースを作成し、治療効果の調査を行い、その中で生物学的製剤とタクロリムスについてはその使用成績を発表した。変形性関節症については、MRI を用いた画像診断と病態解明、新たな治療法について研究をすすめているところである。また、軟骨のみならず骨部の病変にも注目し、骨細胞の変化をプロテオミクスの手法を用いて、研究中である。抗老化については、酸化ストレスをマーカーとして、関節炎の病態や治療との関連を調査している。主に関節疾患に対するサプリメントの研究を継続している。特にグルコサミンについては、細胞内ストレスとの関連を研究中である。

研究業績

論文

(1) 総説：

- 1) Nakamura H : Application of glucosamine on human disease - Osteoarthritis. Carbohydrate polymers 2011 ; 84 (2) : 835-839.
- 2) 中村 洋 : 変形性膝関節症の治療戦略 サプリメント. 関節外科 2010 ; 29 (9) : 1016-1020.
- 3) 中村 洋, 高橋謙治, 竹之内研二 : 「MTX 以外の非生物学的抗リウマチ薬の位置づけ・使い方」 金製剤. リウマチ科 2010 ; 44 (6) : 633-636.
- 4) 中村 洋 : 整形外科疾患の保存療法 関節リウマチ. 整形外科看護 2011 ; 16 (3) : 92-97.

著書

- 1) 高橋謙治, 中村 洋 : [共著] 関節軟骨の老化と変形性関節症. 整形外科学 Update 運動器の疾患と外傷 (平澤泰介編), 2010 ; pp234-238, 金芳堂.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 中村 洋 : 生物学的製剤の使用実績ならびに院内連携の試み. 富山抗サイトカイン療法研究会 (第 15 回) (富山県), 2010. 12.

(2) 教育講演：

- 1) 中村 洋 : 関節リウマチの保存治療：生物学的製剤からリハビリテーション. 港区, 中央区整形外科医会学術集会 (東京), 2010. 10.
- 2) 中村 洋 : RA 薬物治療の変遷と最新情報について. 薬剤師向け関節リウマチセミナー (東京), 2010. 11.
- 3) 中村 洋 : 生物学的製剤の使用実績ならびに院内連携の試み. 抗サイトカイン研究会 (富山), 2010. 12.
- 4) 中村 洋 : サプリメントの功罪. 中央区医師会・日本橋医師会合同医療安全講習会 (東京), 2011. 3.
- 5) 中村 洋 : 変形性関節症の病態と保存治療：サプリメント療法. 豊島区医師会学術講演会 (東京), 2010. 9.
- 6) 高橋謙治 : ヒアルロン酸の作用機序から考える変形性関節症の治療戦略. 日本軟骨代謝学会 (第 24 回) (福岡県), 2011. 3.

(3) シンポジウム：

- 1) 中村 洋, 高橋謙治, 竹之内研二, 鎌田利一¹⁾, 加藤智啓²⁾, 遊道和雄³⁾, 橋本三四郎⁴⁾ (1) 原整形外科病院, 2) 聖マリアンナ医科大学大学生化学, 3) 聖マリアンナ医科大学難病治療研究センター, 4) ハシモトクリニック) : COX-2 選択的阻害剤の DMOAD 効果の可能性. 日本関節症研究会 (第 15 回) (京都), 2010. 11.

- 2) 中村 洋, 高橋謙治, 竹之内研二, 橋本三四郎¹⁾ (1) ハシモトクリニック) : グルコサミンと不老長寿. グルコサミン研究会 (第7回) (東京), 2011. 1.
 - 3) 中村 洋, 高橋謙治, 竹之内研二, 鎌田利一¹⁾ (1) 原整形外科病院) : Effects of glucosamine on joint disease and rheumatoid arthritis. キッチンキットサンシンポジウム (第24回) (東京), 2010. 7.
- (4) 一般講演 :
- 1) Takahashi K, Nakamura H, Takenouchi K, Nakamura S, Ueshima K, Yamazoe S, Kubo T (1) Department of Orthopaedics, Graduate School of Medical Science, Kyoto Prefectural University of Medicine) : Evaluation of articular cartilage in dysplastic hip by T2 relaxation time. World Congress of the Osteoarthritis Research Society International (13th) (Brussels, Belgium), 2010. 9.
 - 2) 中村 洋 : 変形性関節症の保存療法 : サプリメントから疾患修飾性薬剤まで. 荒川整形外科フォーラム 21 (第20回) (東京), 2010. 11.
 - 3) 橋本三四郎¹⁾, 中村 洋 (1) ハシモトクリニック) : 変形性膝関節症滑液中における酸化ストレス, 抗酸化力の検討. 日本関節病学会 (第38回) (京都), 2010. 11.
 - 4) 竹之内研二, 吉岡太郎, 中村 洋 : 当科における RA に対する Tacrolims の臨床成績. 日本リウマチ学会 (第54回) (神戸), 2010. 4.
 - 5) 竹之内研二, 高橋謙治, 中村 洋 : 関節リウマチに合併した治療に難渋した膝関節骨髄炎の1症例. 東京リウマチ膠原病研究会 (第13回) (東京), 2010. 10.
 - 6) 高橋謙治, 竹之内研二, 鎌田利一¹⁾, 小岩政仁²⁾, 中村 洋¹⁾ (1) 原整形外科病院 整形外科, 2) 秀和総合病院 整形外科) : 関節リウマチに対するトシリズマブの治療成績. 日本リウマチ学会関東支部学術集会 (第21回) (大宮), 2010. 12.
 - 7) 小岩政仁, 後藤 晋¹⁾, 中村 洋, 高橋謙治, 竹之内研二, 鎌田利一²⁾ (1) 秀和総合病院 整形外科, 2) 原整形外科病院 整形外科) : アダリムマブ (ADA) 療法中に KL-6 値上昇を認めた RA3 症例. 日本リウマチ学会関東支部学術集会 (第21回) (大宮), 2010. 12.

[千葉北総病院腎臓内科]

研究概要

(腎臓内科) 腎臓内科は持続性蛋白尿, 血尿に対し腎生検を施行し積極的に診断, 治療を行い外来での長期観察を行っている. 腎生検症例は千駄木腎カンファランス, 東葛腎カンファランスに提示し治療方針や識別診断, 予後推測に役立っている. CKD, 慢性腎不全の保存期は外来にて経過観察し時期を判断し計画性を持って血液浄化への導入を施行している. 慢性腎不全の合併症にも各科の協力を得て急性発症の合併症は救急センター, ICU, SCU にて積極的に対処している. 成田, 印旛地区の慢性腎不全の合併症セミナーを年に2回行い各施設間の意見交換, 患者さんのQOLの向上に努めています. 対外循環治療 (血漿交換・IDL アフェレーシス) も各科よりの依頼があれば積極的に対応している.

研究業績

学会発表

- (1) 一般講演 :
- 1) Fukui M, Mii A¹⁾, Shimizu A¹⁾, Fujita E¹⁾ (1) Analytic Human Pathology, Nippon Medical School) : Glomerular Endothelial Injuries Contributing to the Formation of Segmental Glomerular Sclerosis in Idiopathic Membranous Nephropathy. American Society of Nephrology (デンバー), 2010. 9.
 - 2) 藤野哲平, 石原 力, 金子朋広¹⁾, 飯野靖彦¹⁾, 片山泰朗¹⁾, 藤田恵美子²⁾, 清水 章²⁾ (1) 日本医科大学内科学神経・腎臓・膠原病リウマチ部門, 2) 日本医科大学解析人体病理学) : サルコイドーシスに endocapillary proliferative glomerulonephritis を呈したネフローゼ症候群. 第40回日本腎臓学会東部学術大会 (栃木県), 2010. 9.

[千葉北総病院神経内科]

研究概要

北総病院神経内科においては、倫理委員会、IRBの承認の基、以下の臨床研究を行っている。(1) 認知機能障害における脳画像統計解析の多施設共同研究 2006-(2) 脳血管疾患の再発に対する高脂血症治療薬 HMG-CoA 還元酵素阻害薬の予防効果に関する研究 (J-STARS) 2006-(3) 高脂血症治療薬 HMG-CoA 還元酵素阻害薬の高感度 CRP 濃度へ及ぼす効果に関する研究 (高感度 CRP サブスタディ) 2006-(4) ピリドスチグミンによる起立性低血圧の治療 2008- また、東京都健康長寿医療センター研究所 (旧東京都老人総合研究所)、放射線医学総合研究所、東京慈恵会医科大学と共同で、PET を用いて脳内アデノシン A1 および A2A 受容体を指標とした加齢変化およびパーキンソン病の病態解明の研究を行っている。

研究業績

論文

(1) 総説：

- 1) 斎藤義朗¹⁾、日々澤肇²⁾、日々澤肇 (1) 国立精神・神経医療研究センター病院小児神経科、²⁾ 日々澤医院)：一過性全健忘を伴った片頭痛の 1 男子例。脳と発達 2010；42：303-304.

著書

- 1) 濱本 真：〔分担〕脳の機能障害. 総合診療マニュアル (上原誉志夫 大林完二 隅谷護人 益子邦洋 松岡博昭), 2010；pp666-670, 株式会社 金芳堂.
- 2) 濱本 真：〔分担〕定期的経過観察がまずは必要. 内科, 2010；pp926-929, 南江堂.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) Kamiya N, Ueda M¹⁾, Igarashi H²⁾, Inaba T¹⁾, Nishiyama Y¹⁾, Suda S¹⁾, Katayama Y¹⁾ (1) Divisions of Neurology, Nephrology and Rheumatology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, ²⁾ Center for integrated Human Brain Science, Brain Research Institute, University of Niigata)：Monitoring of administered autologous bone marrow mononuclear cells via carotid artery in rat transient focal ischemia model using MRI. World Forum on Cerebral Blood Flow Metabolism & Function (第 1 回) (京都), 2010. 10.
- 2) 鈴木健太郎, 大久保誠二¹⁾, 高山洋平¹⁾, 戸田諭補²⁾, 原田未那¹⁾, 角南英子³⁾, 阿部 新¹⁾, 上田雅之¹⁾, 大鳥達雄¹⁾, 片山泰朗¹⁾ (1) 日本医科大学内科学 (神経・腎臓・膠原病リウマチ部門), ²⁾ 田尻ヶ丘病院, ³⁾ 塩田病院)：脳塞栓症における出血性梗塞や予後不良の危険因子の検討. 日本脳卒中学会総会 (第 35 回) (岩手県), 2010. 4.
- 3) 神谷信雄, 斎藤智成, 鈴木健太郎, 濱本 真, 片山泰朗¹⁾ (1) 日本医科大学内科学 (神経・腎臓・膠原病リウマチ部門))：MRI にて認められた白質病変が治療により焼失した神経梅毒の 41 歳男性例. 日本神経学会神経学会関東甲信越地方会 (第 193 回) (東京), 2010. 6.
- 4) 神谷信雄：Pyridostigmine の投与にて起立性低血圧症状の著大な改善を認めた, Pure Autonomic Failure の 80 歳男性例. 日本神経治療学会総会 (第 28 回) (横浜), 2010. 7.
- 5) 神谷信雄, 濱本 真, 片山泰朗¹⁾ (1) 日本医科大学内科学 (神経・腎臓・膠原病リウマチ部門))：抗血小板薬の中止により頭痛を伴わない典型的な前兆を呈した I 例. 日本頭痛学会総会 (第 38 回) (東京), 2010. 11.
- 6) 高山洋平, 大久保誠二¹⁾, 阿部 新¹⁾, 原田未那¹⁾, 村賀香名子¹⁾, 金丸拓也¹⁾, 須田 智¹⁾, 上田雅之¹⁾, 桂研一郎¹⁾, 片山泰朗¹⁾ (1) 日本医科大学内科学 (神経・腎臓・膠原病リウマチ部門))：内頸動脈解離により発症した脳梗塞の I 例. 日本頭痛学会総会 (第 38 回) (東京), 2010. 11.

3. 内科学講座（血液・消化器・内分泌代謝部門）

〔付属病院血液内科，消化器内科，内分泌代謝内科〕

研究概要

＜血液内科＞血液病学の基礎的研究では，昨年度に引き続き急性白血病，慢性骨髄性白血病，骨髄異形成症候群，多発性骨髄腫など重要な造血器腫瘍性疾患の発症機序，病態解析などに関して分子生物学，細胞生物学，腫瘍免疫学などの方法論を駆使して検討を行い，さらに，骨髄不全症候群の原因遺伝子の解明を行った．また真性多血症，本態性血小板血症などの骨髄増殖性疾患の発癌機構，病態についても解析をすすめた．臨床的研究では，急性白血病の臨床病態解析，悪性リンパ腫の病態に関する解析などを行い，造血幹細胞移植では臍帯血移植，骨髄非破壊的移植の治療成績改善に関する治療研究を行った．

＜消化器内科＞昨年に続いて非ステロイド性消炎鎮痛薬＜NSAID＞に関する臨床研究で成果が得られ，本邦のデータをまとめた総説やNSAIDによる小腸粘膜傷害予防試験データが国際誌に掲載された．さらに，非びらん性胃食道逆流症に関する臨床研究データや難治性腹水治療に対する経頸静脈的肝内門脈大循環短絡術の有用性に関する論文も国際誌に掲載されている．厚生労働省研究班における好酸球性食道炎に関する協同研究も進捗を認めた．

＜内分泌代謝内科＞基礎研究では，1) 成長ホルモンの代謝調節作用，2) 過酸化リン脂質とマクロファージ接着能，3) 選抜交配による高脂肪食負荷後の耐糖能異常マウスの系統樹立を行った．

また臨床研究では，1) 下垂体，副腎機能検査に対するGHRP試験の有用性，2) 原発性アルドステロン症の診断，病態に関する検討，3) 血清PCOOHと冠動脈硬化，4) 急性冠症候群と家族性高コレステロール血症，5) 肥満糖尿病と α グルコシダーゼ阻害剤，6) 糖尿病合併症と糖化蛋白を行った．

研究業績

論文

〔追加分〕

追加分総説：

- 1) Miyazawa T¹), Shibata A¹), Sookwong P¹), Kawakami Y¹), Eitsuka T¹), Asai A²), Oikawa S²), Nakagawa K¹) (1) 東北大学大学院農学研究科機能分子解析学分野, (2) 日本医科大学内分泌代謝内科) : Antiangiogenic and anticancer potential of unsaturated vitamin E (tocotrienol). *J Nutr Biochem* 2009 ; 20 (2) : 79-86.
- 2) Tamura H¹) (1) Division of Hematology, Department of Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Expression and function of B7 family molecules in hematologic malignancies. *J Nippon Med Sch* 2010 ; 77 (1) : 45-47.
- 3) 藤森俊二, 坂本長逸 : 大腸用カプセル内視鏡検査. *大腸癌 FRONTIER* 2009 ; 2 (4) : 322-323.

追加分原著：

- 1) Asai A¹), Okajima F¹), Nakagawa K¹), Ibusuki D¹), Tanimura K¹), Nakajima Y¹), Nagao M¹), Sudo M¹), Harada T¹), Miyazawa T²), Oikawa S¹) (1) 日本医科大学内分泌代謝内科, (2) 東北大学農学部) : Phosphatidylcholine hydroperoxide-induced THP-1 cell adhesion to intracellular adhesion molecule-1. *J Lipid Res* 2009 ; 50 (3) : 957-965.
- 2) Sone H¹), Tanaka S²), Iimuro S³), Oida K⁴), Yamasaki Y⁵), Ishibashi S⁶), Oikawa S⁷), Katayama S⁸), Ito H⁹), Ohashi Y³), Akanuma Y¹⁰), Yamada N (1) Department of Lifestyle Medicine and Applied Nutrition, Ochanomizu University, Tokyo, Japan, (2) Laboratory of Biostatistics, Faculty of Engineering, Tokyo University of Science, (3) Department of Biostatistics, University of Tokyo School of Public Health, (4) Fukui

Chuo Clinic, ⁵⁾ Department of Internal Medicine and Therapeutics, Osaka University, ⁶⁾ Department of Endocrinology and Metabolism, Jichi Medical College, ⁷⁾ The Third Department of Medicine, Nippon Medical School, ⁸⁾ The Fourth Department of Medicine, Saitama Medical School, ⁹⁾ Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital, ¹⁰⁾ The Institute for Adult Diseases Asahi Life Foundation) : Waist Circumference as a Cardiovascular and Metabolic Risk in Japanese Patients With Type 2 Diabetes. *Obesity* 2009 ; 17 (3) : 585-592.

- 3) Hotta K, Nakamura T, Takasaki J, Takahashi H, Takahashi A, Nakata Y, Kamohara S, Kotani K, Komatsu R., Itoh N., Mineo I, Wada J, Masuzaki H, Yoneda M, Nakajima A, et al. : Screening of 336 single-nucleotide polymorphisms in 85 obesity-related genes revealed McKusick-Kaufman syndrome gene variants are associated with metabolic syndrome. *J Hum Genet* 2009 ; 54 (4) : 230-235.
- 4) Matsuzaki M, Yokoyama M, Saito Y, Origasa H, Ishikawa Y, Oikawa S, Sasaki J, Hishida H, Itakura H, Kita T, Kitabatake A, Nakaya N, Sakata T, Shimada K, Shirato K, et al. : Incremental effects of eicosapentaenoic acid on cardiovascular events in statin-treated patients with coronary artery disease. Secondary prevention analysis from JELIS. *Circ J* 2009 ; 73 (7) : 1283-1290.

(1) 原著 :

- 1) Iwakiri K, Hoshihara Y, Kawami N, Sano H, Tanaka Y, Umezawa M, Kotoyori M, Nomura T, Miyashita M, Sakamoto C : The appearance of rosette-like esophageal folds (“esophageal rosette”) in the lower esophagus after a deep inspiration is a characteristic endoscopic finding of primary achalasia. *J Gastroenterol* 2010 ; 45 (4) : 422-425.
- 2) Kano T, Sugihara H, Sudo M, Nagao M, Harada T, Ishizaki A, Nakajima Y, Tanimura K, Okajima F, Tamura H, Ishi S, Shibasaki T¹⁾, Oikawa S (¹⁾ Department of Physiology, Nippon Medical School) : Comparison of pituitary-adrenal responsiveness between insulin tolerance test and growth hormone-releasing peptide-2 test : a pilot study. *Peptides* 2010 ; 31 (4) : 657-661.
- 3) Tajika K, Yamaguchi H, Mizuki T, Nakamura H, Nakayama K, Dan K : Stem cell transplantation using non-myeloablative conditioning regimen with fludarabine for hematological malignancies. *J Nippon Med Sch* 2010 ; 77 (5) : 254-259.
- 4) Fujimori S, Gudis K, Takahashi Y, Seo T, Yamada Y, Ehara A, Kobayashi T, Mitsui K, Yonezawa M, Tanaka S, Tatsuguchi A, Sakamoto C : Distribution of small intestinal mucosal injuries as a result of NSAID administration. *Eur J Clin Invest* 2010 ; 40 (6) : 504-510.
- 5) Iwakiri K, Sano H, Kawami N, Umezawa M, Futagami S, Hoshihara Y, Nomura T, Miyashita M, Sakamoto C : Characteristics of symptomatic reflux episodes in patients with non-erosive reflux disease who have a positive symptom index on proton pump inhibitor therapy. *Digestion* 2010 ; 82 (3) : 156-161.
- 6) Yamaguchi H, Inokuchi K, Takeuchi J, Tamai H, Mitamura Y, Kosaka F, Ly IH, Dan K (¹⁾ Department of Pathology and Laboratory Medicine, Emory University School of Medicine, Atlanta, GA, USA) : Identification of TINF2 gene mutations in adult Japanese patients with acquired bone marrow failure syndromes. *Br J Haematol* 2010 ; 150 (6) : 725-727.
- 7) Moriya K^{1, 2)}, Wakabayashi A¹⁾, Shimizu M¹⁾, Tamura H²⁾, Dan K²⁾, Takahashi H¹⁾ (¹⁾ Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, ²⁾ Third Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Induction of tumor-specific acquired immunity against already established tumors by selective stimulation of innate DEC-205+ dendritic cells. *Cancer Immunology Immunotherapy* 2010 ; 59 (7) : 1083-1095.
- 8) Futagami S, Shindo T, Kawagoe T, Horie A, Shimpuku M, Gudis K, Iwakiri K, Itoh T, Sakamoto C :

Migration of eosinophils and CCR2-/CD68-double positive cells into duodenal mucosa of patients with postinfectious functional dyspepsia. *Am J Gastroenterol* 2010 ; 105 (8) : 1835-1842.

- 9) Kondo A¹⁾, Yamashita T^{1, 2)}, Tamura H¹⁾, Zhao W¹⁾, Tsuji T²⁾, Shimizu M³⁾, Shinya E³⁾, Takahashi H³⁾, Tamada K⁴⁾, Chen L⁵⁾, Dan K¹⁾, Ogata K¹⁾ (¹⁾ Division of Hematology, Department of Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, ²⁾ Department of Biological Science and Technology, Tokyo University of Science, Chiba, Japan, ³⁾ Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, ⁴⁾ Department of Otorhinolaryngology-Head and Neck Surgery, Marlene and Stewart Greenebaum Cancer Center, University of Maryland, Baltimore, MD, ⁵⁾ Department of Oncology, Johns Hopkins University School of Medicine, Baltimore, MD) : Interferon- γ and tumor necrosis factor- α induce an immunoinhibitory molecule, B7-H1, via nuclear factor κ B activation in blasts in myelodysplastic syndromes. *Blood* 2010 ; 116 (7) : 1124-1131.
- 10) Tamura H¹⁾, Dan K¹⁾, Yokose N²⁾, Iwakiri R³⁾, Ohta M³⁾, Sakamaki H⁴⁾, Tohyama K⁵⁾, Kondo A¹⁾, Hyodo H¹⁾, Nakamura K¹⁾, Yamashita T^{1, 6)}, Elisseeva AO⁷⁾, Oka Y⁸⁾, Oji Y⁹⁾, Sugiyama H⁷⁾, et al. (¹⁾ Division of Hematology, Department of Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, ²⁾ Department of Hematology, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School, Chiba, ³⁾ Department of Hematology, Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital, Tokyo, ⁴⁾ Department of Hematology, Tokyo Metropolitan Komagome Hospital, Tokyo, ⁵⁾ Department of Laboratory Medicine, Kawasaki Medical School, Okayama, ⁶⁾ Department of Biological Science and Technology, Tokyo University of Science, Chiba, ⁷⁾ Department of Functional Diagnostic Science, Osaka University Graduate School of Medicine, Osaka, ⁸⁾ Department of Respiratory Medicine, Allergy and Rheumatic Diseases, Osaka University Graduate School of Medicine, Osaka, ⁹⁾ Department of Biomedical Informatics, Osaka University Graduate School of Medicine, Osaka) : Prognostic significance of WT1 mRNA and anti-WT1 antibody levels in peripheral blood in patients with myelodysplastic syndromes. *Leuk Res* 2010 ; 34 (8) : 986-990.
- 11) Hirakawa T, Yamaguchi H, Yokose N, Gomi S, Inokuchi K, Dan K : Importance of maintaining the relative dose intensity of CHOP-like regimens combined with rituximab in patients with diffuse large B-cell lymphoma. *Ann Hematol* 2010 ; 89 (9) : 897-904.
- 12) Sakamoto C, Soen S : Efficacy and safety of the selective cyclooxygenase-2 inhibitor celecoxib in the treatment of rheumatoid arthritis and osteoarthritis in Japan. *Digestion* 2010 ; 83 (1-2) : 108-123.
- 13) Kimura S¹⁾, Hasegawa S¹⁾, Kobayashi A¹⁾, Yamaguchi H, Yohda M²⁾, Kubota T³⁾ (¹⁾ Sekino Clinical Pharmacology Clinic, Tokyo, Japan, ²⁾ Department of Biotechnology and Life Science, Graduate School of Technology, Tokyo University of Agriculture and Technology, ³⁾ Pharmaceutical Department of Scientific Research, Graduate School of Pharmaceutical Sciences, Chiba Institute of Science) : Novel CYP2C19 629c>a mutant gene detection in Japanese subjects and estimation of its effect on conformation. *Drug Discoveries & Therapeutics*. 2010 ; 4 (6) : 412-417.
- 14) Narahara Y, Kanazawa H, Fukuda T, Matsushita Y, Harimoto H, Kidokoro H, Katakura T, Atsukawa M, Taki Y, Kimura Y, Nakatsuka K, Sakamoto C : Tranjugular intrahepatic portosystemic shunt versus paracentesis plus albumin in patients with refractory ascites who have good hepatic and renal function : a prospective randomised trial. *J Gastroenterol* 2011 ; 46 (1) : 78-85.
- 15) Hirakawa T, Yamaguchi H H, Mitamura Y, Kosaka F, Dan K, Inokuchi K : No racial difference in allele frequencies of FCGR3A gene F158V polymorphisms in diffuse large B-cell lymphoma. *Eur J Haematol* 2011 ; 86 (2) : 180-181.
- 16) 三宅一昌, 楠 正典, 進藤智隆, 植木信江, 河越哲郎, 二神生爾, 津久井拓, 坂本長逸 : 長期低用量アスピリ

ン服用患者における内視鏡的消化性潰瘍と出血関連症状の関連. 日本高齢消化器病学会誌 2010; 12 (2) : 33-37.

- 17) 村島直哉¹⁾, 渡辺勲史¹⁾, 太田正之¹⁾, 小原勝敏¹⁾, 於保和彦¹⁾, 國分茂博¹⁾, 中村健治¹⁾, 中村真一¹⁾, 榎原義之, 中野 茂¹⁾, 松本章夫¹⁾, 武藤孝司¹⁾, 西連地利己¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (¹⁾ 日本門脈圧亢進症学会学術委員会) : 全国コホート調査に基づく出血性胃噴門穹窿部・胃穹窿部静脈瘤に対する各種治療法の治療効果. 日本門脈圧亢進症学会雑誌 2010; 16 (3) : 88-103.
- 18) 金沢秀典, 榎原義之, 福田 健, 近藤千紗, 張本滉智, 松下洋子, 城所秀子, 片倉玲樹, 厚川正則, 中塚雄久, 坂本長逸 : インターフェロン β が代償期 C 型肝硬変の門脈圧, 肝線維化マーカーへ及ぼす影響 : 初期成績. 肝臓 2011; 52 (1) : 7-17.
- 19) Fujimori S, Takahashi Y, Gudis K, Seo T, Ehara A, Kobayashi T, Mitsui K, Yonezawa M, Tanaka S, Tatsuguchi A, Sakamoto C : Rebamipide has the potential to reduce the intensity of NSAID-induced small intestinal injury : a double-blind, randomized, controlled trial evaluated by capsule endoscopy. J Gastroenterol 2011; 46 (1) : 57-64.

(2) 総説 :

- 1) Fujimori S, Takahashi Y, Seo T, Gudis K, Ehara A, Kobayashi T, Mitsui K, Yonezawa M, Tanaka S, Tatsuguchi A, Sakamoto C : Prevention of traditional NSAID-induced small intestinal injury : recent preliminary studies using capsule endoscopy. Digestion 2010; 82 (3) : 167-172.
- 2) Tamai H, Inokuchi K : 11q23/MLL Acute Leukemia : Update of Clinical Aspects. J Clin Exp Hematopathol 2010; 50 (2) : 91-98.
- 3) Sano H, Iwakiri K, Kawami N, Tanaka Y, Umezawa M, Iizumi T, Kotoyori M, Hoshihara Y¹⁾, Takubo K²⁾, Sakamoto C (¹⁾ Clinic of the Ministry of Economy, Trade and Industry, ²⁾ Research Term for Geriatric Pathology, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology) : Eosinophilic esophagitis : A case report with a review of the literature. Clinical Journal of Gastroenterology 2010; 3 (6) : 279-284.
- 4) Fujimori S, Gudis K, Sakamoto C : A review of anti-inflammatory drug-induced gastrointestinal injury : Focus on prevention of small intestinal injury. Pharmaceuticals 2010; 3 (4) : 1187-1201.
- 5) 田中 周, 江原彰仁, 小林 剛, 三井啓吾, 坂本長逸 : 内視鏡治療時の基本 : バルーン内視鏡による小腸の治療的アプローチ. 消化器内視鏡 2010; 22 (4) : 592-597.
- 6) 藤森俊二, 高橋陽子, 馬來康太郎, 春日裕介, 山田祐希江, 江原彰仁, 小林 剛, 瀬尾継彦, 三井啓吾, 米澤真興, 田中 周, 辰口篤志, 坂本長逸 : プロスタグランディン製剤 NSAIDs・アスピリンによる粘膜傷害のマネージメント [小腸] 予防・治療研究の現状と展望. 消化器の臨床 2010; 13 (2) : 174-178.
- 7) 藤森俊二, 坂本長逸 : 大腸カプセル内視鏡. 胃と腸 2010; 45 (5) : 767-770.
- 8) 猪口孝一 : AML における予後因子と治療指針. 血液・腫瘍科 2010; 60 (4) : 409-414.
- 9) 田中 周, 山田祐希江, 小林 剛, 三井啓吾, 藤森俊二, 坂本長逸 : Schönlein-Henoch 紫斑病の消化管病変. 臨床消化器内科 2010; 25 (5) : 571-577.
- 10) 坂本長逸 : 低用量アスピリンと消化管傷害. 最新医学 2010; 65 (5) : 115-119.
- 11) 岩切勝彦, 佐野弘仁 : High Resolution Manometry による食道運動の評価 アカラシア以外の食道運動障害. 日本医科大学医学会雑誌 2010; 6 (5) : 98-100.
- 12) 緒方清行¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 血液内科) : フローサイトメトリーを用いた骨髓異形成症候群の診断と予後予測. 血液フロンティア 2010; 20 (7) : 61-67.
- 13) 檀 和夫, 山口博樹 : 本邦における真性赤血球増加症および本態性血小板血症の臨床像および遺伝子変異. 臨床血液 2010; 51 (7) : 508-514.
- 14) 二神生爾, 岩切勝彦, 進藤智隆, 河越哲郎, 新福摩弓, 田中由理子, 川見典之, 坂本長逸 : モサプリドクエン

- 酸塩の追加投与がPPI（オメプラゾール）抵抗性NERD患者の臨床症状および胃排出に及ぼす影響. *Pharma Medica* 2010；28（8）：133-139.
- 15) 江原彰仁, 田中 周, 春日裕介, 玉木祐希江, 高橋陽子, 小林 剛, 瀬尾継彦, 三井啓吾, 米澤真興, 辰口篤志, 藤森俊二, 坂本長逸：ダブルバルーン内視鏡. *癌と化学療法* 2010；37（8）：1446-1449.
 - 16) 山口博樹：白血病診断のためのアプローチ. 臨床症状および検査所見. *内科* 2010；106（2）：199-203.
 - 17) 山口博樹, 檀 和夫：テロメア関連遺伝子異常による骨髄不全症. *臨床血液* 2010；52（8）：646-653.
 - 18) 川見典之, 岩切勝彦, 佐野弘仁, 田中由理子, 梅澤まり子, 琴寄 誠, 星原芳雄¹⁾, 坂本長逸（¹⁾ 経済産業省診療所）：食道運動機能検査によるGERDの病態解明. *消化器の臨床* 2010；13（4）：408-412.
 - 19) 藤森俊二, 高橋陽子, 瀬尾継彦, 坂本長逸：カプセル内視鏡手技の注意点. *Gastroenterological Endoscopy* 2010；52（9）：2738-2744.
 - 20) 三宅一昌, 坂本長逸：抗血小板薬による粘膜傷害の病態. *血栓と循環* 2010；18（3）：16-21.
 - 21) 岩切勝彦：機能性消化管疾患の基礎と臨床 非びらん性胃食道逆流症（NERD）の病態. *日本内科学会雑誌* 2010；99（9）：2134-2138.
 - 22) 岩切勝彦, 川見典之, 佐野弘仁, 田中由理子, 梅澤まり子, 星原芳雄¹⁾, 坂本長逸（¹⁾ 経済産業省診療所）：胸やけ・悪心（胃食道逆流症を中心に）PPI抵抗性非びらん性胃食道逆流症の病態に関する最近の知見. *診断と治療* 2010；98（9）：1417-1422.
 - 23) 植原義之, 金沢秀典, 中塚雄久, 坂本長逸：TIPS. *肝胆膵* 2010；61（4）：543-552.
 - 24) 玉井勇人, 山口博樹：成人T細胞性急性リンパ性白血病の臨床的特徴と予後因子（ATLを除く）. *血液腫瘍科* 2010；61（4）：415-420.
 - 25) 岩切勝彦, 梅澤まり子：High Resolution Manometryによる食道運動の評価 胃酸逆流のメカニズム. *日本医科大学医学会雑誌* 2010；6（4）：164-166.
 - 26) 三宅一昌, 楠 正典, 坂本長逸：低用量アスピリン潰瘍の内視鏡像. *日本臨牀* 2010；68（11）：2031-2035.
 - 27) 植木信江, 三宅一昌, 坂本長逸：低用量アスピリンによる高齢者胃潰瘍の予防と治療. *日本臨牀* 2010；68（11）：2083-2088.
 - 28) 三宅一昌, 坂本長逸：低用量アスピリン潰瘍の予防と治療. *臨牀消化器内科* 2010；25（13）：1715-1719.
 - 29) Valent P¹⁾, Orazi A²⁾, BÜSche G³⁾, Schmitt-GrÄff A⁴⁾, George IT⁵⁾, Sotlar K⁶⁾, Streubel B⁷⁾, Beham-Schmid C⁸⁾, Cerny-Reiterer S⁹⁾, Krieger O¹⁰⁾, Van De Loosdrecht A, Kern W, Ogata K, Wimazal F, Csomor J, et al.（¹⁾ Ludwig Boltzmann Cluster Oncology, Vienna, Austria, ²⁾ New York Presbyterian Hospital, Weill Cornell Medical Center, New York, NY, USA, ³⁾ Institute of Pathology, Hannover Medical School, Hannover, Germany, ⁴⁾ Department of Pathology, University of Freiburg, Germany, ⁵⁾ Department of Pathology, Stanford University School of Medicine, Stanford, CA, USA, ⁶⁾ Institute of Pathology, University of Munich, ⁷⁾ Institute of Pathology, Medical University of Vienna, ⁸⁾ Institute of Pathology, Medical University of Graz, Austria, ⁹⁾ Department of Internal Medicine I, Division of Hematology and Hemostaseology, Medical University of Vienna, Austria, ¹⁰⁾ First Department of Internal Medicine, Elisabethinen Hospital Linz, Austria）：Standards and Impact of Hematopathology in Myelodysplastic Syndromes (MDS). *Oncotarget* 2010；1（7）：483-496.
 - 30) 岩切勝彦：器質的疾患を認めないつかえ感, 胸やけ患者に対する食道機能検査の有用性. *日本医事新報* 2010；(4517)：51-56.
 - 31) 佐野弘仁, 岩切勝彦, 川見典之, 田中由理子, 梅澤まり子, 星原芳雄¹⁾, 坂本長逸（¹⁾ 経済産業省診療所）：食道pH・多チャンネルインピーダンス検査の実際. *臨床消化器内科* 2010；25（13）：1769-1774.
 - 32) 藤森俊二, 坂本長逸：潰瘍性病変薬剤起因性病変：非アスピリンNSAIDs. *G.I.Research* 2010；18（6）：25-32.

- 33) 緒方清行¹⁾ (1) 日本医科大学 血液内科)：造血管腫瘍における過度の懸念や見逃しを避けるために. *Medicina* 2010 ; 47 (13) : 2060-2061.
 - 34) 田村秀人¹⁾ (1) 日本医科大学 血液内科)：血球異常総論. *Medicina* 2010 ; 47 (13) : 2068-2071.
 - 35) 田村秀人¹⁾ (1) 日本医科大学 血液内科)：貧血と赤血球増多をみたら. *Medicina* 2010 ; 47 (13) : 2082-2087.
 - 36) 山口博樹：これ血液悪性疾患？自分の守備範囲？非専門医のための見分け方」4. 白血球異常をみたら. *medicina* 2010 ; 47 (13) : 2072-2076.
 - 37) 山口博樹：これ血液悪性疾患？自分の守備範囲？非専門医のための見分け方」5. 血小板異常をみたら. *medicina* 2010 ; 47 (13) : 2078-2081.
 - 38) 中村恭子：リンパ節腫脹をどう診るか. *Mdeicina* 2010 ; 47 (13) : 2062-2067.
 - 39) 中村恭子：その他の検査異常, HTLV-1 抗体陽性, sIL-2R 高値など. *Mdeicina* 2010 ; 47 (13) : 2088-2093.
 - 40) 藤森俊二, 高橋陽子, 江原彰仁, 小林 剛, 瀬尾継彦, 三井啓吾, 米澤真興, 田中 周, 辰口篤志, 坂本長逸：原因不明消化管出血. *日本内科学会雑誌* 2011 ; 100 (1) : 50-57.
 - 41) 三宅一昌, 坂本長逸：PPI と抗血小板薬・PPI の副作用. *Medical Practice* 2011 ; 28 (2) : 309-310.
 - 42) 星原芳雄¹⁾, 飯泉 匡, 岩切勝彦 (1) 経済産業省診療所)：実地診療で活用すべき知識 新しい内視鏡検査 食道癌・胃癌と narrow band imaging (NBI). *Medical Practice* 2011 ; 28 (2) : 277-280.
 - 43) 藤森俊二, 遠坂由紀子, 馬來康太郎, 豊田将大, 春日祐介, 山田祐希江, 高橋陽子, 江原彰仁, 小林 剛, 瀬尾継彦, 三井啓吾, 米澤真興, 田中 周, 辰口篤志, 坂本長逸：NSAID 起因性小腸病変. *胃と腸* 2011 ; 46 (2) : 128-136.
 - 44) 田中由理子, 岩切勝彦, 梅澤まり子, 佐野弘仁, 川見典之, 琴寄 誠, 坂本長逸：食道アカラシア. *Modern Physician* 2011 ; 32 (3) : 326-328.
- (3) 症例報告：
- 1) Takahashi Y, Fujimori S, Toyoda M, Yamada Y, Seo T, Ehara A, Kobayashi T, Mitsui K, Yonezawa M, Tanaka S, Tatsuguchi A, Gudis K, Sakamoto C : The blind spot of an EGD : capsule endoscopy pinpointed the source of obscure GI bleeding on the dark side of the pylorus. *Gastrointest Endosc* 2010 ; 73 (3) : 607-607.
 - 2) 田近賢二, 玉井勇人, 水木太郎, 中山一隆, 山口博樹, 檀 和夫：Angioimmunoblastic T-cell lymphoma に対する臍帯血移植後早期に皮膚に発症した Epstein-Barr virus 関連 B 細胞リンパ腫. *臨床血液* 2010 ; 51 (2) : 138-142.
 - 3) 恩田直美, 田村秀人, 中村恭子, 山田 隆, 檀 和夫, 糸川典夫, 中塚雄久：PET, Ga シンチともに集積を認めず, 診断に苦慮した hepatosplenic T cell lymphoma の 1 例. *老年者造血管疾患研究会会誌* 2010 ; 19 : 11-15.
 - 4) 浜田泰子, 中村恭子, 田近賢二, 檀 和夫：臍帯血移植後に生着不全となったが Ph 染色体の消失を認めた Ph 染色体陽性急性骨髄性白血病. *臨床血液* 2011 ; 52 (2) : 58-62.

著 書

[追加分]

追加分：

- 1) 岩切勝彦：[分担] 第3章：2. 胸やけ. 診断と治療社 (監修：永井良三 編集：白鳥敬子, 菅野健太郎, 坪内博仁, 日比紀文), 2009 ; pp42-44, 診断と治療社.
- 2) 岩切勝彦：[分担] 第3章：4. 嚥下障害. 消化器研修ノート (監修：永井良三, 編集：白鳥敬子, 菅野健太郎, 坪内博仁, 日比紀文), 2009 ; pp47-49, 診断と治療社.
- 3) 川見典之, 岩切勝彦：[分担] 咽頭食道憩室 (Zenger 憩室)・食道憩室. 今日の消化器疾患治療指針 (編集：幕

内雅敏, 菅野健太郎, 工藤正俊), 2010; pp299-300, 医学書院.

- 1) 田野崎栄¹⁾, 檀 和夫 (1) 同愛記念病院 血液内科): [分担] 広範囲血液・尿化学検査免疫学的検査 [第7版] その数値をどう読むか】免疫学的検査 感染症関連検査 (抗原および抗体を含む) 非ウイルス性感染症 寒冷凝集素反応, 日本臨床, 2010; pp138-141, 日本臨床社.
- 2) 檀 和夫: [分担] 貧血. 病態生理ビジュアルマップ 3, 2011; pp77-83, 医学書院.
- 3) 猪口孝一: [共著] リンパ節腫脹・貧血. 話せる医学英語 (荒木 勤, 田尻 孝, 矢沢珪二郎), 2010; pp101-109, 金原出版株式会社.
- 4) 猪口孝一: [分担] Medical Practice テーラーメイド治療のための治療薬の選択と使用法ガイドライン. 血液疾患: 骨髄腫, 2010; pp302-306, 文光堂.
- 5) 楠 正典, 三宅一昌, 坂本長逸: [分担] 心窩部・上腹部の痛み. 総合診療マニュアル (上原誉志夫, 大林完二, 隅谷護人, 益子邦洋, 松岡博昭), 2010; pp24-24, 株式会社金芳堂.
- 6) 中村恭子, 檀 和夫: [分担] 溶血性貧血. 血液疾患最新の治療 2011-2013, 2010; pp111-116, 南江堂.
- 7) 岩切勝彦: [分担] 7. 食道アカラシア. 今日の治療指針 2011 (編集: 山口徹, 北原光男, 福井次矢), 2011; pp428-429, 医学書院.
- 8) 山口博樹, 檀 和夫: [分担] 骨髄不全症に対する蛋白同化ステロイドホルモンのテロメレース活性化作用. Annual Review 血液 2011 (高久史磨, 小澤敬也, 坂田洋一, 金倉 譲, 小島勢二), 2011; pp77-83, 中外医学社.
- 9) 檀 和夫: [分担] 再生不良性貧血. 今日の治療指針 2011, 2011; pp579-581, 医学書院.

学会発表

(1) 特別講演:

- 1) 岩切勝彦: GERD の病態と治療. 香取郡市医師会学術講演会, 2010. 4.
- 2) 岩切勝彦: NERD の病態と治療. 前橋市消化器病研究会 (第9回), 2010. 6.
- 3) 岩切勝彦: GERD の病態と治療. 奥州市医師会医学講演会 (第622回), 2010. 6.
- 4) 岩切勝彦: GERD の病態と治療. 鶴岡地区医療学術懇話会, 2010. 7.
- 5) 岩切勝彦: NERD の病態と食道運動異常症の診断. 世田谷区臨床医のための消化器学術講演会, 2010. 9.
- 6) 岩切勝彦: GERD の病態と治療. 水戸消化器病研究会, 2010. 9.
- 7) 岩切勝彦: GERD の病態と治療. 佐野市医師会学術講演会, 2010. 10.
- 8) 岩切勝彦: GERD の病態と治療. 藤岡多野医師会学術講演会, 2010. 10.
- 9) 坂本長逸: 魅力ある消化器病学を求めて. 日本消化器病学会女性医師・研究者の会 (JDDW), 2010. 10.
- 10) 岩切勝彦: GERD の病態と治療. 茅ヶ崎医師会内科医会学術講演会, 2010. 11.
- 11) 岩切勝彦: 日常臨床における胸やけの病態と治療. 松本市医師会生涯教育講座 (第746回), 2010. 11.
- 12) 岩切勝彦: 重症 GERD の病態と治療. 西多摩消化器疾患カンファレンス (第17回), 2011. 1.

(2) 招待講演:

- 1) Ogata K: New horizon in MDS: flow cytometric diagnosis and a role of immunomodulatory molecules in disease progression-Japanese experience. 2010 Asia Pacific Flow Cytometry Forum on Myelodysplastic Syndromes (MDS) & Minimal Residual Disease (MRD) Diagnosis (Taipei & Kaohsiung (Taiwan)), 2010. 10.
- 2) 植原義之: 難治性腹水の病態と TIPS による治療成績. 福島県肝臓懇話会 (第11回), 2010. 9.

(3) シンポジウム:

- 1) 河越哲郎, 名児耶浩幸, 坂本長逸: 高齢切除不能胃癌における S-1 ベース化学療法の有効性 (胃癌化学療法最近の知見). 日本消化器病学会総会 (第96回), 2010. 4.

- 2) 岩切勝彦：NERD（非びらん性胃食道逆流症）（機能的消化管疾患の基礎と臨床）．日本内科学会講演会（第107回），2010．4．
 - 3) 藤森俊二，高橋陽子，坂本長逸：原因不明消化管出血患者の同定出血源：アスピリン服用者と非服用者間の比較検討（カプセル内視鏡の診断：update）．日本消化器内視鏡学会総会（第79回），2010．5．
 - 4) 田中 周，小林 剛，坂本長逸：ダブルバルーン内視鏡及びカプセル内視鏡を使用したPeutz-Jeghers 症候群の有効な検査，安全な治療法に関する検討（小腸疾患の診断と治療の新しい展開）．日本消化器内視鏡学会総会（第79回），2010．5．
 - 5) 新福摩弓，二神生爾，河越哲郎，坂本長逸：*H.pylori* 感染胃癌モデルおよびヒト胃癌組織におけるCD133 陽性細胞発現の検討（*H.pylori* 染と胃癌発癌機序）．日本ヘリコバクター学会学術集会（第16回），2010．6．
 - 6) 河越哲郎，名見耶浩幸，遠坂由紀子，梅澤まり子，川見典之，植木信江，小林玲樹，小林 剛，辰口篤志，新福摩弓，進藤智隆，楠 正典，二神生爾：高齢切除不能胃癌に対する化学療法の有効性．日本高齢消化器病学会（第13回），2010．7．
 - 7) 名見耶浩幸，二神生爾，堀江 茜，河越哲郎，梅澤まり子，川見典之，岩切勝彦，星原芳雄，牧野浩司¹⁾，宮下正夫¹⁾，土屋眞一²⁾，坂本長逸（¹⁾日本医科大学付属病院 消化器外科，²⁾日本医科大学付属病院 病理部）：胃癌・食道癌組織におけるAPE-1 発現の解析．胃病態機能研究会（第42回），2010．8．
 - 8) 緒方清行：New horizons in MDS：flow cytometric diagnosis and a role of immunomodulatory molecules in disease progression．日本血液学会学術集会（第72回）（横浜），2010．9．
 - 9) 藤森俊二，豊田将大，遠坂由紀子，馬來康太郎，春日裕介，山田祐希江，高橋陽子，江原彰仁，小林 剛，瀬尾継彦，三井啓吾，米澤真興，田中 周，辰口篤志，坂本長逸：当院におけるアスピリン起因性小腸潰瘍症の治療経過（NSAIDs（アスピリン含む）起因性小腸病変の予防と対策）．小腸研究会（第48回），2010．11．
 - 10) 岩切勝彦，川見典之，佐野弘仁，田中由理子，梅澤まり子，琴寄 誠，星原芳雄，坂本長逸：Symptom index 陽性のPPI 抵抗性NERD 患者における逆流症状出現のメカニズムとNERD 患者の食道運動機能（機能的消化管疾患：病態にせまる：運動からみて）．日本消化管学会総会学術集会（第7回），2011．2．
- (4) パネルディスカッション：
- 1) 田中 周，小林 剛，坂本長逸：診断困難な小腸血管病変に対するアプローチ（小腸疾患の診断と治療法の進歩）．日本消化器病学会総会（第96回），2010．4．
 - 2) 小杉友紀，田中 周，馬來康太郎，山田祐希江，江原彰仁，小林 剛，三井啓吾，米澤真興，辰口篤志，藤森俊二，坂本長逸：小腸血管性病変に対する内視鏡的止血法の現状と問題点：より確実な内視鏡的止血法の確立に向けて（消化管出血（静脈瘤を含む）はコントロールできたのか？）．日本消化器内視鏡学会関東地方会（第90回），2010．6．
 - 3) 藤森俊二，高橋陽子，坂本長逸：非ステロイド性抗炎症剤/アスピリン起因性小腸出血性潰瘍性病変の有病率の検討（小腸消化管傷害の現況と治療戦略）．日本消化器病学会大会（第52回），2010．10．
 - 4) 新福摩弓，二神生爾，坂本長逸：FD 患者におけるGN- β および5-HT1A,5-HT2A の遺伝子多型と胃排出能との相関関係の解析（機能的消化器疾患の基礎と臨床）．日本消化器病学会大会（第52回），2010．10．
 - 5) 藤森俊二，高橋陽子，坂本長逸：非ステロイド性抗炎症剤/アスピリン起因性小腸出血性潰瘍性病変の有病率の検討（小腸消化管傷害の現況と治療戦略）．日本消化器内視鏡学会総会（第80回），2010．10．
 - 6) 江原彰仁，豊田将大，馬來康太郎，遠坂由紀子，春日裕介，玉木祐希江，高橋陽子，小林 剛，三井啓吾，米澤真興，田中 周，辰口篤志，藤森俊二，坂本長逸：小腸疾患の検査動機別におけるDBE の有用性と効率的な検査方法の検討（小腸疾患の診断と治療：カプセル・バルーン内視鏡の有用性）．日本消化器内視鏡学会関東地方会（第91回），2010．12．
- (5) セミナー：
- 1) 岩切勝彦：GERD の病態と治療．日本消化器内視鏡学会総会（第80回），2010．10．

- 2) 岩切勝彦：胃食道逆流の観点から（PPI 抵抗性 GERD の原因を探る）. 日本消化器内視鏡学会総会（第 80 回），2010. 10.
 - 3) 二神生爾：FD の病態生理とその治療法（難渋する FGID 症状に対する福音）. 日本消化器内視鏡学会総会（第 80 回），2010. 10.
 - 4) 榎原義之：C 型肝炎治療：フェロンの門脈圧に及ぼす効果. 日本肝臓学会東部会（第 38 回），2010. 12.
- (6) ワークショップ：
- 1) Ogata K：Aberrancy in blasts：a key component in MDS study. Standards and Standardization in Hematopathology：The Myelodysplastic Syndromes (Vienna)，2010. 6.
 - 2) Ogata K：Progenitors in MDS FCM. Third international ELN Workshop on Standardization of Flow Cytometry in MDS,(London)，2010. 11.
 - 3) Ogata K, Porta MD¹⁾ (¹⁾ Pavia University)：Japanese/Italian/Dutch/UK/ USA/Sweden：international multicenter analysis. Third international ELN Workshop on Standardization of Flow Cytometry in MDS,(London)，2010. 11.
 - 4) 榎原義之，金沢秀典，坂本長逸，丸山紀史¹⁾，横須賀取²⁾，持田 智³⁾，國分茂博⁴⁾，住野泰清⁵⁾，植村正人⁶⁾，福井 博⁶⁾，松崎 靖⁷⁾，正木尚彦⁸⁾，沖田 極⁹⁾ (¹⁾ Virginia Commonwealth University, Division of Gastroenterology and Hepatology, ²⁾ 千葉大学大学院医学研究院腫瘍内科, ³⁾ 埼玉医科大学消化器内科・肝臓内科, ⁴⁾ 順天堂大学医学部附属練馬病院消化器内科, ⁵⁾ 東邦大学医療センター大森病院消化器内科, ⁶⁾ 奈良県立医科大学消化器・内分泌代謝内科, ⁷⁾ 東京医科大学茨城医療センター消化器内科, ⁸⁾ 国立国際医療センター戸山病院第二消化器科, ⁹⁾ 社会保険下関厚生病院)：1 型肝腎症候群に対する terlipressin 治療の第 II 相多施設臨床試験成績（全身疾患としての肝硬変症：合併症の新しい治療）. 日本肝臓学会総会（第 46 回），2010. 5.
 - 5) 三宅一昌，辰口篤志，坂本長逸：生理的十二指腸胃逆流が分化型胃癌の発症に与える影響について（胆汁酸と生体機能調節，疾患との関わり）. 日本消化器病学会大会（第 52 回），2010. 10.
 - 6) 藤森俊二，高橋陽子，坂本長逸：小腸絨毛欠損の発生には NSAIDs の直接作用と COX-1 阻害が関与する（薬剤起因性小腸病変を巡って一現状と対策）. 日本消化器病学会大会（第 52 回），2010. 10.
 - 7) 藤森俊二，高橋陽子，坂本長逸：小腸絨毛欠損の発生には NSAIDs の直接作用と COX-1 阻害が関与する（薬剤起因性小腸病変を巡って - 現状と対策）. 日本消化器内視鏡学会総会（第 80 回），2010. 10.
 - 8) 三宅一昌，楠 正典，進藤智隆，植木信江，新福摩弓，名児耶浩幸，河越哲郎，二神生爾，津久井拓，坂本長逸：長期 NSAID 服用 RA 患者における抗血小板併用が与える内視鏡的消化性潰瘍と潜在性出血との関連. 日本消化管学会総会学術集会（第 7 回），2011. 2.
 - 9) 馬來康太郎，藤森俊二，遠坂由紀子，高橋陽子，豊田将大，春日裕介，山田祐希江，江原彰仁，小林 剛，瀬尾継彦，三井啓吾，米澤真興，田中 周，辰口篤志，坂本長逸：カプセル内視鏡を 10 時間行くと盲腸到達率が 90% 近くに達する（カプセル内視鏡検査の続・新展開）. 日本消化管学会総会学術集会（第 7 回），2011. 2.
 - 10) 新福摩弓，二神生爾，進藤智隆，河越哲郎，堀江 茜，名児耶浩幸，小高康裕，植木信江，楠 正典，三宅一昌，岩切勝彦，坂本長逸：感染後 FD 患者における十二指腸粘膜局所の炎症細胞浸潤と胃排出能の解析（機能性消化管疾患の病態：知覚異常の関与）. 日本消化管学会総会学術集会（第 7 回），2011. 2.
 - 11) 三井啓吾，田中 周，藤森俊二，遠坂由紀子，豊田将大，馬來康太郎，春日裕介，玉木祐希江，高橋陽子，江原彰仁，小林 剛，米澤真興，辰口篤志，坂本長逸：原因不明の消化管出血における，カプセル内視鏡後，一週間に内にししたダブルバルーン内視鏡による診断上乗せ効果（小腸病変評価の標準化に向けて）. 日本消化管学会総会学術集会（第 7 回），2011. 2.
- (7) 一般講演：
- 1) Takeuchi J, Yamaguchi H, Inokuchi K, Tamai H, Mitamura Y, Kosaka F, Ly H¹⁾, Dan K (¹⁾ Department of Pathology and Laboratory Medicine, Emory University School of Medicine, Atlanta, GA, USA)：

- Evaluation of TINF2 and SBDS gene mutations and screening telomere length in adult Japanese patients with acquired bone marrow failure syndromes. 15th. European Hematology Association.(Barcelona), 2010. 6.
- 2) Wakita S, Yamaguchi H, Mitamura Y, Kosaka F, Inokuchi K, Dan K : C-kit mutation is a significant prognostic factor of t (8 ; 21) AML : Importance of highly sensitive Q-probe method. 15th. European Hematology Association.(Barcelona), 2010. 6.
 - 3) Iwakiri K, Hoshihara Y, Kawami H, Sano Y, Tanaka Y, Umezawa M, Sakamoto C : The appearance of rosette-like esophageal folds at the lower esophagus, after a deep inspiration, (“esophageal rosette”) is a characteristic endoscopic finding of primary achalasia. World Congress of the International Society for Disease of the Esophagus (12th) (Kagoshima, Japan), 2010. 9.
 - 4) Iwakiri K, Kawami N, Sano H, Tanaka Y, Umezawa M, Hoshihara Y, Sakamoto C : Characteristics of symptomatic reflux episodes in patients with non-erosive reflux disease who have a positive symptom index. World Congress of the International Society for Disease of the Esophagus (12th) (Kagoshima, Japan), 2010. 9.
 - 5) Futagami S, Shindo T, Kawagoe T, Horie A, Shimpuku M, Kusunoki M, Miyake K, Gudis K, Tsukui T, Iwakiri K, Crowe S, Sakamoto C : Migration of eosinophils and CCR-/CD68-double positive cells into the duodenal mucosa of patients with post-infectious functional dyspepsia. United European Gastroenterology Week (18th) (Barcelona, Spain), 2010. 10.
 - 6) Shimpuku M, Futagami S, Nagoya H, Shindo T, Kawagoe T, Horie A, Ueki N, Kusunoki M, Miyake K, Iwakiri K, Crowe S, Sakamoto C : G-protein $\beta 3$ subunit 825CC genotype is associated with the feeling of hunger and postprandial distress syndrome with impaired gastric emptying in Japanese. United European Gastroenterology Week (18th) (Barcelona, Spain), 2010. 10.
 - 7) Tamai H, Miyake K¹⁾, Takatori M, Miyake N¹⁾, Yamaguchi H, Dan K, Shimada T¹⁾ (¹⁾ Department of Biochemistry and Molecular Biology, Division of Gene Therapy Research Center for Advanced Medical Technology, Nippon Medical School) : The Activated K-RAS Protein Accelerates Human Derived-MLL/AF4 Induced Leukemo-Lymphomogenicity In Transgenic Mice Model. 52nd American Society of Hematology (Orlando), 2010. 12.
 - 8) Tamai H, Miyake K¹⁾, Yamaguchi H, Okabe M, Dan K, Inokuchi K, Shimada T¹⁾ (¹⁾ Department of Biochemistry and Molecular Biology, Division of Gene Therapy Research Center for Advanced Medical Technology, Nippon Medical School) : MLL/AF4 Positive Acute Lymphoblastic Leukemia Has Resistance to Tumor Necrosis Factor-Alpha Caused by up-Regration of S100A6. 52nd American Society of Hematology (Orlando), 2010. 12.
 - 9) Kondo A, Tamura H, Yamashita T, Wanhong Z, Tsuji T¹⁾, Shinya E²⁾, Takahashi H²⁾, Dan K, Ogata K (¹⁾ Department of Biological Science and Technology, Tokyo University of Science, Chiba, ²⁾ Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, Tokyo) : B7-H1 expressed on blasts might be associated with the pathophysiology in myelodysplastic syndromes. 日本血液学会学術集会 (第 72 回) (横浜), 2010. 9.
 - 10) Yokose N, Ohaki Y¹⁾, Hosone M²⁾, Wakita S, Dan K, Inokuchi K (¹⁾ Dept.Pathology,Chiba-Hokusoh Hosp,Nippon Medical School, ²⁾ Dept.Pathology,Tama-Nagayama Hosp, Nippon Medical School) : CD33+blastic plasmacytoid dendritic cell neoplasm : Ultrastructural study and gemtuzumab therapy. 日本血液学会学術集会 (第 72 回) (横浜), 2010. 9.
 - 11) Yamaguchi H, Inokuchi K, Mitamura Y, Kosaka F, Gomi S¹⁾, Dan K (¹⁾ 横浜南共済病院 血液内科) :

- Mutation of TET2 and c-CBL genes in Japanese Polycythemia vera and essential thrombocythemia. 第72回日本血液学会総会 (横浜), 2010. 9.
- 12) Tamai H, Miyake K¹⁾, Takatori M, Miyake N¹⁾, Yamaguchi H, Inokuchi K, Dan K (1) Department of Biochemistry and Molecular Biology, Division of Gene Therapy Research Center for Advanced Medical Technology, Nippon Medical School) : Tumor suppression by injection of type 8 AAV vector expressing IL24 in ALL with MLL/AF4 model mice. 第72回日本血液学会総会 (横浜), 2010. 9.
 - 13) Tamai H, Miyake K¹⁾, Miyake N¹⁾, Takatori M, Yamaguchi H, Dan K, Shimada T¹⁾ (1) Department of Biochemistry and Molecular Biology, Division of Gene Therapy Research Center for Advanced Medical Technology, Nippon Medical School) : The combination of K-Ras mutation and MLL/AF4 fusion accelerate the lymphomagenicity in mice model. 第72回日本血液学会総会 (横浜), 2010. 9.
 - 14) Hirakawa T, Yamaguchi H, Iida S, Ibaraki T, Kurosawa S, Manabe E, Terada K, Ueda T, Mitamura Y, Kosaka F, Wakita S, Inokuchi K, Dan K : Mutation of Flt3, P53, TET2 gene in overt leukemia from MDS. 第72回日本血液学会総会 (横浜), 2010. 9.
 - 15) Ryotokuji T, Yamaguchi H, Mizuki T, Mitamura Y, Kosaka F, Inokuchi K, Dan K : Screening of JAK2 and FLT3 mutation in adult lymphoblastic leukemia. 第72回日本血液学会総会 (横浜), 2010. 9.
 - 16) Mizuki T, Nakayama K, Yamaguchi H, Tajika K, Inokuchi K, Dan K : Campylobacter infection presenting with muscle pain which mimic CIPS after stem cell transplantation. 第72回日本血液学会総会 (横浜), 2010. 9.
 - 17) Takeuchi J, Yamaguchi H, Tamai H, Mitamura Y, Kosaka F, Inokuchi K, Dan K : Screening of telomere length among acquired aplastic anemia patients. 第72回日本血液学会総会 (横浜), 2010. 9.
 - 18) Iida S, Ibaraki T, Yamaguchi H, Kurosawa S, Manabe E, Mitamura Y, Kosaka F, Hirakawa T, Wakita S, Inokuchi K, Dan K : Clinical feature of de novo acute myeloid leukemia patients with p53 gene abnormalities. 第72回日本血液学会総会 (横浜), 2010. 9.
 - 19) Nakamura K, Kondou A, Yamaguchi H, Tamura H, Tajika K, Yamada T, Ogata K, Dan K : Clinical features and prognosis of NHL with gastrointestinal lesion. 第72回日本血液学会総会 (横浜), 2010. 9.
 - 20) Okamoto M, Yamaguchi H, Tamai H, Nakayama K, Yamada T, Tajika K, Gomi S¹⁾, Dan K (1) 横浜南共済病院 血液内科) : Five CML patients with BCR-ABL mutations under imatinib therapy. 第72回日本血液学会総会 (横浜), 2010. 9.
 - 21) Okabe M, Yamaguchi H, Tamai H, Inami M, Nakayama K, Yamada T, Tajika K, Dan K, Inokuchi K : Erythrocythemia associated with JAK2V617F mutation controlled with dasatinib in patients with CML. 第72回日本血液学会総会 (横浜), 2010. 9.
 - 22) 岩切勝彦, 星原芳雄, 佐野弘仁, 川見典之, 飯泉 匡, 梅澤まり子, 春日裕介, 栢 卓史, 新福摩弓, 楠 正典, 関 奈紀¹⁾, 田久保海誉²⁾, 本郷道夫³⁾, 坂本長逸 (1) 日本医科大学 外科, 2) 東京都老人総合研究所老年病理学研究チーム, 3) 東北大学附属病院総合診療部) : 下部食道縦走柵状血管下端とLES下端の位置的関連. 日本消化器病学会総会 (第96回), 2010. 4.
 - 23) 高橋陽子, 藤森俊二, 山田祐希江, 小杉友紀, 馬來康太郎, 瀬尾継彦, 江原彰仁, 小林 剛, 三井啓吾, 米澤真興, 柴田喜明, 田中 周, 辰口篤志, 坂本長逸 : カプセル内視鏡を用いたNSAIDとPPIによる脂肪吸収機能変化. 日本消化器病学会総会 (第96回), 2010. 4.
 - 24) 遠坂由紀子, 三宅一昌, 楠 正典, 進藤智隆, 植木信江, 河越哲郎, 二神生爾, 津久井拓, 坂本長逸 : 低用量アスピリン長期使用患者の潜在性貧血と内視鏡的消化性潰瘍との関連. 日本消化器病学会総会 (第96回), 2010. 4.
 - 25) 高橋陽子, 藤森俊二, 山田祐希江, 江原彰仁, 小林 剛, 瀬尾継彦, 三井啓吾, 米澤真興, 田中 周, 辰口篤志,

- 坂本長逸：再度のカプセル内視鏡で指摘できた小腸動静脈の奇形（AVM）の1例。日本カプセル内視鏡研究会総会・学術集会（第3回），2010. 4.
- 26) 田近賢二，兵働英也，水木太郎，中山一隆，山口博樹，中村恭子，田村秀人，山田 隆，緒方清行，檀 和夫：当科における Ibritumomab tiuxetan の使用経験。第107回日本内科学会総会（東京），2010. 4.
- 27) 佐野弘仁，岩切勝彦，川見典之，梅澤まり子，田中由理子，飯泉 匡，星原芳雄，坂本長逸：食道 pH・インピーダンス測定により symptom index (SI) が陽性であった PPI 抵抗性 NERD 患者の液体逆流と症状出現の関連。日本消化器病学会総会（第96回），2010. 4.
- 28) 小杉友紀，岩切勝彦，川見典之，佐野弘仁，梅澤まり子，田中由理子，飯泉 匡，琴寄 誠，星原芳雄，坂本長逸：拡張術施行例の検討から，やはり Esophageal Rosette はアカラシア患者の特徴的な下部食道内視鏡所見である。日本消化器病学会総会（第96回），2010. 4.
- 29) 松下洋子，榎原義之，金沢秀典，近藤千紗，福田 健，城所秀子，片倉玲樹，厚川正則，中塚雄久，坂本長逸：当科における1型肝腎症候群に対する terlipressin の治療成績。日本肝臓学会総会（第46回），2010. 5.
- 30) 近藤千紗，厚川正則，中塚雄久，小林玲樹，張本滉智，糸川典夫，松下洋子，福田 健，城所秀子，榎原義之，金澤秀典，高橋秀実¹⁾，坂本長逸⁽¹⁾ 日本医科大学 微生物学免疫学教室：C型慢性肝炎に対する Fluvastatin 併用 PEG-IFN+RBV 治療の有益性。日本肝臓学会総会（第46回），2010. 5.
- 31) 福永景子，竹内純子，奥山奈美子，中村恭子，檀 和夫：8年の寛解維持の後に発症した Neurolymphomatosis の1例。第164回日本血液学会例会（東京），2010. 5.
- 32) 馬來康太郎，藤森俊二，高橋陽子，山田祐希江，江原彰仁，小林 剛，瀬尾継彦，三井啓吾，米澤真興，柴田喜明，田中 周，辰口篤志，坂本長逸：新型カプセル内視鏡（PillCam SB2）の従来型に対する Vater 乳頭検出率・盲腸観察率の検討。日本消化器内視鏡学会総会（第79回），2010. 5.
- 33) 遠坂由紀子，藤森俊二，高橋陽子，馬來康太郎，春日祐介，山田祐希江，江原彰仁，小林 剛，瀬尾継彦，三井啓吾，米澤真興，田中 周，辰口篤志，坂本長逸，狩野律子¹⁾，その他1名⁽¹⁾ 日本医科大学 皮膚科：カプセル内視鏡で治療経過を観察し得た Henoch-Schönlein 紫斑病の1例。日本消化器内視鏡学会関東地方会（第90回），2010. 6.
- 34) 稲葉基之¹⁾，小坂祥子¹⁾，二神綾子¹⁾，田村秀人，安齋眞一¹⁾，川名誠司¹⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学皮膚科：比較的進行の早い Mycosis fungoides の1例。第26回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会（東京），2010. 6.
- 35) 福田久美子¹⁾，上田佳恵¹⁾，金子朋広¹⁾，安田文彦¹⁾，三井亜希子¹⁾，藤野鉄平¹⁾，内海甲一¹⁾，山口博樹，田村秀人，清水 章²⁾，飯野 靖¹⁾，片山泰朗 ⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院 内科 神経・腎臓・膠原病リウマチ部門，²⁾ 日本医科大学付属病院 解析人体病理学：ネフローゼ症候群を契機に診断された全身性アミロイドーシスの5例。第53回日本腎臓学会学術総会（神戸），2010. 6.
- 36) 佐藤友紀，田村秀樹，高谷磨紀代，武市奈緒美，竹光秀司，長尾元嗣，首藤真理子，加納稔子，石崎 晃，原田太郎，中島 泰，岡島史宜，杉原 仁，田原重志¹⁾，寺本 明¹⁾，その他3名⁽¹⁾ 日本医科大学脳神経外科，²⁾ 日本医科大学病理部：下垂体生検後にステロイド治療をおこなったリンパ球性漏斗下垂体後葉炎の1例。日本内分泌学会関東甲信越支部学術集会（第10回）（埼玉），2010. 7.
- 37) 加納稔子，高屋磨紀代，武市奈緒美，竹光秀司，佐藤友紀，長尾元嗣，首藤真理子，石崎 晃，原田太郎，中島 泰，谷村恭子，岡島岡島史宜，田村秀樹，杉原 仁，及川眞一：副腎静脈サンプリングで両側副腎コルチゾール産生を確認した1例。日本内分泌学会関東甲信越支部学術集会（第10回）（埼玉），2010. 7.
- 38) 岩切勝彦，川見典之，佐野弘仁，梅澤まり子，田中由理子，琴寄 誠，星原芳雄，坂本長逸：逆流症状を有する胃食道逆流の特徴。日本食道学会学術集会（第64回），2010. 8.
- 39) 榎原義之，金沢秀典，近藤千紗，福田 健，松下洋子，城所秀子，片倉玲樹，厚川正則，中塚雄久，坂本長逸：1型肝腎症候群に対する terlipressin 治療と通常治療法との比較検討。日本門脈圧亢進症学会総会（第17回），2010. 9.

- 40) 近藤千紗, 榎原義之, 金沢秀典, 福田 健, 松下洋子, 城所秀子, 小林玲樹, 厚川正則, 中塚雄久, 坂本長逸: TIPS が有効であった Veno-occlusive disease の 1 例. 日本門脈圧亢進症学会総会 (第 17 回), 2010. 9.
- 41) 福田 健, 金沢秀典, 榎原義之, 近藤千紗, 松下洋子, 城所秀子, 小林玲樹, 厚川正則, 中塚雄久, 坂本長逸: 難治性腹水に対する TIPS 実施における新適応基準の提唱. 日本門脈圧亢進症学会総会 (第 17 回), 2010. 9.
- 42) 松下洋子, 金沢秀典, 榎原義之, 福田 健, 近藤千紗, 城所秀子, 片倉玲樹, 厚川正則, 中塚雄久, 坂本長逸: C 型肝硬変の線維化改善を目的とした β IFN 治療 投与終了後の変化を含めて. 日本門脈圧亢進症学会総会 (第 17 回), 2010. 9.
- 43) 田村秀人, 山下泰史, 星野伸太郎, 石橋真理子, 近藤麻加, 守屋慶一, 田野崎栄, 辻 孝, 檀 和夫, 緒方清行 (1) 同愛記念病院 血液内科, (2) 東京理科大学基礎工学部生物工学科): 骨髓腫細胞の B7-H1 分子発現と臨床的意義. 日本血液学会学術集会 (第 72 回) (横浜), 2010. 9.
- 44) 小林有紀, Juan CE, 奥山奈美子, 川本雅司¹⁾, 田村秀人, 檀 和夫, 緒方清行 (1) 日本医科大学付属病院病理部): 副腎原発非ホジキンリンパ腫の 1 症例とレビュー: 北東アジアに比較的多い稀なリンパ腫. 日本血液学会学術集会 (第 72 回) (横浜), 2010. 9.
- 45) 奥山奈美子, 田村秀人, 近藤麻加, 平川経晃, 山口博樹, 福田久美子¹⁾, 金子朋広¹⁾, 緒方清行, 檀 和夫 (1) 日本医科大学腎臓内科): 当科で経験した原発性アミロイドーシスの臨床的・細胞学的特徴についての検討. 日本血液学会学術集会 (第 72 回) (横浜), 2010. 9.
- 46) 兵働英也, 田村秀人, 近藤麻加, 中村恭子, 檀 和夫, 緒方清行: 骨髓異形成症候群におけるフローサイトメトリー解析による予後予測についての検討. 日本血液学会学術集会 (第 72 回) (横浜), 2010. 9.
- 47) 三宅弘一¹⁾, Nanya W¹⁾, 三宅紀子¹⁾, 猪口孝一, 島田 隆¹⁾ (1) 付属病院 生物学・分子生物学講座): アデノ随伴ウイルスベクターの筋注による全身癌遺伝子治療の開発. 日本癌学会学術総会 (第 69 回) (大阪), 2010. 9.
- 48) Wakaita S, Yamaguchi H, Mitamura Y, Kosaka F, Inokuchi K, Dan K: Analysis of FLT3 mutations in AML using paired samples at diagnosis and relapse. 第 72 回日本血液学会総会 (横浜), 2010. 9.
- 49) Nakayama K, Yamaguchi H, Okabe M, Tamura H, Nakamura K, Tajika K, Inokuchi K, Dan K: Efficacy of galactomannan assay as a predictive tool for invasive aspergillosis. 第 72 回日本血液学会総会 (横浜), 2010. 9.
- 50) 奥山奈美子, 近藤麻加, 兵働英也, 中村恭子, 檀 和夫: 多発骨病変を主病変として発症した 慢性関節リウマチ合併悪性リンパ腫の 1 例. 第 44 回老年者造血器疾患研究会 (東京), 2010. 9.
- 51) 榎原義之, 金沢秀典, 近藤千紗, 福田 健, 松下洋子, 城所秀子, 小林玲樹, 厚川正則, 中塚雄久, 坂本長逸: 1 型肝腎症候群の臨床像と terlipressin による治療成績. 日本肝臓学会大会 (第 14 回), 2010. 10.
- 52) 馬來康太郎, 藤森俊二, 遠坂由紀子, 高橋陽子, 豊田将大, 春日裕介, 山田祐希江, 江原彰仁, 小林 剛, 瀬尾継彦, 三井啓吾, 米澤真興, 田中 周, 辰口篤志, 坂本長逸: カプセル内視鏡の適切な検査時間を設定する試み. 日本消化器内視鏡学会総会 (第 80 回), 2010. 10.
- 53) 遠坂由紀子, 江原彰仁, 馬來康太郎, 豊田将大, 春日裕介, 玉木祐希江, 高橋陽子, 小林 剛, 瀬尾継彦, 三井啓吾, 米澤真興, 田中 周, 辰口篤志, 藤森俊二, 坂本長逸: 小腸内視鏡検査が診断と治療に有用であった AVM の 2 例. 日本消化器内視鏡学会総会 (第 80 回), 2010. 10.
- 54) 奥山奈美子, 田村秀人, 近藤麻加, 檀 和夫, 緒方清行: 当院で経験した原発性アミロイドーシス 9 例についての検討. 第 35 回日本骨髓腫研究会総会 (富山), 2010. 11.
- 55) 春日裕介, 辰口篤志, 藤森俊二, 松田崇史, 馬來康太郎, 遠坂由紀子, 玉木祐希江, 高橋陽子, 江原彰仁, 小林 剛, 三井啓吾, 瀬尾継彦, 米澤真興, 田中 周, 坂本長逸: 後天性免疫不全症候群に合併した大腸カポジ肉腫の 1 例. 日本消化器内視鏡学会関東地方会 (第 91 回), 2010. 12.
- 56) 近藤千紗, 厚川正則, 糸川典夫, 松下洋子, 福田 健, 城所秀子, 小林玲樹, 榎原義之, 中塚雄久, 金澤秀典,

- 坂本長逸：C型慢性肝炎に対する Fluvastatin 併用 PEG-IFN, RBV 療法の有益性についての検討。日本肝臓学会東部会（第38回），2010. 12.
- 57) 福田 健, 榎原義之, 金澤秀典, 糸川典夫, 近藤千紗, 松下洋子, 城所秀子, 小林玲樹, 小林 剛, 厚川正則, 田中 周, 中塚雄久, 藤森俊二, 坂本長逸, 五十嵐裕章¹⁾, その他1名⁽¹⁾ 河北総合病院内科)：Portal hypertensive enteropathy からの出血に対して TIPS が有効であった1例。日本肝臓学会東部会（第38回），2010. 12.
- 58) 糸川典夫, 厚川正則, 近藤千紗, 松下洋子, 福田 健, 城所秀子, 小林玲樹, 榎原義之, 中塚雄久, 金澤秀典, 坂本長逸：C型慢性肝炎に対する IFN β , Ribavirin 併用療法先行 PEG-IFN, Ribavirin 併用療法の有用性についての検討。日本肝臓学会東部会（第38回），2010. 12.
- 59) 橋本知美, 榎原義之, 金沢秀典, 福田 健, 松下洋子, 小林玲樹, 中塚雄久, 坂本長逸, 松本智司¹⁾, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 消化器外科)：TIPS による大量腹水消失後に外科的切除が可能となった大腸癌合併肝硬変の1例。日本内科学会関東地方会（第577回），2010. 12.
- 60) 長尾元嗣, 杉原 仁, 田村秀樹, 武市奈緒美, 竹光秀司, 佐藤友紀, 加納稔子, 原田太郎, 石崎 晃, 中島 泰, 谷村恭子, 岡島史宜, 田原重志¹⁾, 寺本 明¹⁾, 及川眞一⁽¹⁾ 日本医科大学脳神経外科)：GHRP-2 に過大反応を示した異所性 ACTH 症候群の1例。臨床内分泌代謝 Update (第20回) (札幌), 2011. 1.
- 61) 高圓雅博, 石崎 晃, 武市奈緒美, 加納稔子, 田村秀樹, 杉原 仁, 石井雄道¹⁾, 田原重志¹⁾, 寺本 明¹⁾, 及川眞一⁽¹⁾ 日本医科大学脳神経外科)：パセドウ病と TSH 産生下垂体腺腫の合併例。臨床内分泌代謝 Update (第20回) (札幌), 2011. 1.
- 62) 継松大河¹⁾, 加納稔子, 武市奈緒美, 竹光秀司, 佐藤友紀, 長尾元嗣, 石崎 晃, 原田太郎, 岡島史宜, 田村秀樹²⁾, 杉原 仁, 赤須東樹³⁾, 五十嵐健人³⁾, 清水一雄³⁾, 及川眞一⁽¹⁾ 日本医科大学医学部5年, ²⁾ 田村医院, ³⁾ 日本医科大学内分泌外科)：AVS で両側副腎コルチゾール産生過剰を確認した Cushing 症候群。臨床内分泌代謝 Update (第20回) (札幌), 2011. 1.
- 63) 河越哲郎, 名兎耶浩幸, 新福摩弓, 進藤智隆, 植木信江, 楠 正典, 二神生爾, 三宅一昌, 坂本長逸：症状による胃がん早期発見法の検討。日本消化管学会総会学術集会（第7回），2011. 2.
- 64) 豊田将大, 馬來康太郎, 遠坂由紀子, 春日裕介, 玉木祐希江, 高橋陽子, 江原彰仁, 小林 剛, 瀬尾継彦, 三井啓吾, 米澤真興, 田中 周, 辰口篤志, 藤森俊二, 坂本長逸：小腸に多発性有茎性ポリープを生じた消化管アミロイドーシスの1例。日本消化管学会総会学術集会（第7回），2011. 2.
- 65) 遠坂由紀子, 藤森俊二, 豊田将大, 馬來康太郎, 春日裕介, 高橋陽子, 玉木祐希江, 江原彰仁, 小林 剛, 瀬尾継彦, 三井啓吾, 米澤真興, 田中 周, 辰口篤志, 坂本長逸：サラゾピリン服用者における血中葉酸濃度の検討。日本消化管学会総会学術集会（第7回），2011. 2.
- 66) 辰口篤志, 三井啓吾, 進士誠一, 米澤真興, 瀬尾継彦, 高橋陽子, 江原彰仁, 小林 剛, 田中 周, 藤森俊二, 坂本長逸：大腸癌における Heregulin の発現と臨床病理学的意義。日本消化管学会総会学術集会（第7回），2011. 2.
- 67) 川見典之, 岩切勝彦, 佐野弘仁, 田中由理子, 梅澤まり子, 琴寄 誠, 星原芳雄, 坂本長逸：Symptom index 陽性の PPI 抵抗性 NERD 患者における逆流症状出現に及ぼす空気逆流の影響。日本消化管学会総会学術集会（第7回），2011. 2.
- 68) 橋本知美, 榎原義之, 金沢秀典, 糸川典夫, 近藤千紗, 福田 健, 松下洋子, 城所秀子, 小林玲樹, 厚川正則, 中塚雄久, 坂本長逸, 原 敬介¹⁾, 松本智司¹⁾, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 消化器外科)：TIPS による大量腹水消失後に外科的切除が可能となった大腸癌合併肝硬変の1例。日本消化器病学会関東支部例会(第313回), 2011. 2.
- 69) 福永景子, 水木太郎, 中山一隆, 山口博樹, 田村秀人, 中村恭子, 檀 和夫：濾胞性リンパ腫治療中に発症した pure erythroid leukemia の1例。第165回日本血液学会例会（東京），2011. 2.

- 70) 平川経晃, 山口博樹, 中山一隆, 水木太郎, 脇田知志, 岡部雅弘, 了徳寺剛, 田近賢二, 檀 和夫: 自施設における急性骨髄性白血病に対する造血幹細胞移植の治療成績. 第33回日本造血細胞移植学会総会(松山), 2011. 3.
- 71) 武市奈緒美, 加納稔子, 佐藤友紀, 竹光秀司, 首藤真理子, 長尾元嗣, 原田太郎, 中島 泰, 岡島史宜, 田村秀樹, 杉原 仁, 青景聡之¹⁾, 鈴木浩臣¹⁾, 坪 宏一¹⁾, 熊谷智昭²⁾, その他2名 (¹⁾ 日本医科大学附属病院集中治療室, ²⁾ 日本医科大学付属病院神経内科): 甲状腺クリーゼの治療中に, 甲状腺中毒性ミオパチーと思われる筋力低下が顕在化した1例. 日本内分泌学会関東甲信越支部学術集会(第11回)(横浜), 2011. 3.

[千葉北総病院血液内科]

研究概要

血液内科白血病, 悪性リンパ腫, 再生不良性貧血, 多発性骨髄腫など血液疾患全般の診療に当たっています. 個々の患者さんにとってのベストの治療法を, 御本人・御家族とともに考え, 治癒のみならず, 患者満足度の高い医療を目指しています. 本年度に3例の自家末梢血幹細胞移植を施行しました. 今後症例数の蓄積を予定しています.

慢性骨髄性白血病(CML)の分子標的薬の多施設共同研究と悪性リンパ腫 R-CHOP 治療に関する多施設共同研究, 多剤耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)に関する多施設共同研究に参加しています. 骨髄増殖性疾患のJAK2遺伝子変異解析やM2AMLにおけるc-kit遺伝子変異解析を行ってLeukemiaに発表しました. MLL/AF4遺伝子導入マウスの作成に成功し, リンパ腫が発生することを確認し, この病態生理の解析を行い, これもLeukemiaに発表しました. RCSD1-ABL1融合遺伝子を新規に発見しそのクローニングを行いました. RCSD1-ABL1融合遺伝子のin vitroでの白血病化能を研究中です.

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Hirakawa T¹⁾, Yamaguchi H¹⁾, Yokose N, Gomi S²⁾, Inokuchi K, Dan K¹⁾ (¹⁾ Hematology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Hematology, Yokohama Minami Kyousai Hospital): Importance of maintaining the relative dose intensity of CHOP-like regimens combined With rituximab in patients with diffuse large B-cell lymphoma. *Ann Hematol* 2010; 89: 897-904.
- 2) Tamura H¹⁾, Dan K¹⁾, Yokose N, Iwakiri R²⁾, Ohta M²⁾, Sakamaki H³⁾, Tohyama K⁸⁾, Konda A¹⁾, Hyodo H¹⁾, Nakamura K¹⁾, Yamashita T^{1, 4)}, Elisseeva-A O⁵⁾, Oka Y⁶⁾, Sugiyama H⁵⁾, Oji Y⁷⁾, et al. (¹⁾ Division of Hematology, Department of Medicine, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Hematology, Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital, ³⁾ Department of Hematology, Tokyo Metropolitan Komagome Hospital, ⁴⁾ Department of Biological Science and Technology, Tokyo University of Science, ⁵⁾ Department of Functional Diagnostic Science, Osaka University Graduate School of Medicine, ⁶⁾ Department of Respiratory Medicine, Allergy and Rheumatic Diseases, Osaka University Graduate School of Medicine, ⁷⁾ Department of Biomedical Informatics, Osaka University Graduate School of Medicine, ⁸⁾ Department of Laboratory Medicine, Kawasaki Medical School, Okayama): Prognostic significance of WT1 mRNA and anti-WT1 antibody levels in peripheral blood in patients with myelodysplastic syndromes. *Leuk Res* 2010; 34 (8): 986-990.
- 3) Yamaguchi H¹⁾, Inokuchi K, Takeuchi J¹⁾, Tamai H¹⁾, Mitamura Y¹⁾, Kosaka F¹⁾, Ly H²⁾, Dan K¹⁾ (¹⁾ Division of Haematology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, ²⁾ Department of pathology and Laboratory Medicine, Emory University School of Medicine): Identification of TINF2 gene muta-

tions in adult Japanese Patients with acquired bone marrow failure syndromes. *British Journal of Haematology* 2010 ; 150 (6) : 725-726.

(2) 総説 :

- 1) Tamai H¹⁾, Inokuchi K (¹⁾ Department of Hematology, Nippon Medical School) : 11q23/MLL Acute Leukemia : Update of Clinical Aspects. *J Clin Exp Hematopathol* 2010 ; 50 (2) : 91-98.
- 2) 猪口孝一 : AMLにおける予後因子と治療指針. *血液・腫瘍科* 2010 ; 60 (4) : 409-414.

著 書

- 1) 猪口孝一 : [共著] リンパ節腫脹・貧血. *話せる医学英語* (荒木 勤, 田尻 孝, 矢沢珪二郎), 2010 ; pp101-109, 金原出版株式会社.
- 2) 猪口孝一 : [分担] 血液疾患 : 骨髄腫. *Medical Practice テーラーメイド治療のための治療薬の選択と使用方法ガイドライン*, 2010 ; pp302-306, 文光堂.
- 3) 猪口孝一, 西脇嘉一¹⁾, 増田道彦²⁾, 山倉昌之³⁾, 吉永健太郎⁴⁾ (¹⁾ 東京慈恵会医科大学附属柏病院腫瘍・血液内科, ²⁾ 東京医科大学八千代医療センター腫瘍・血液内科, ³⁾ 亀田総合病院血液・腫瘍内科, ⁴⁾ 東京女子医科大学血液内科学) : CML 治療の現状と展望. *Pharma Medica*, 2011 ; pp207-212, 株式会社メデイカルレビュー社.

学会発表

(1) 一般講演 :

- 1) Wakita S, Yamaguchi H¹⁾, Mitamura Y^{1, 2)}, Kosaka F¹⁾, Inokuchi K, Dan K¹⁾ (¹⁾ Hematology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, ²⁾ Sekino Clinical Pharmacology Clinic) : C-KIT Mutation is a Significant Prognostic Factor of T (8 ; 21) aml : Importance of Highly Sensitive Q-Probe Method. 15th Congress of the European Hematology Association (Barcelona), 2010. 6.
- 2) Wakita S, Yamaguchi H¹⁾, Mitamura Y^{1, 2)}, Kosaka F¹⁾, Inokuchi K, Dan K¹⁾ (¹⁾ Hematology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, ²⁾ Sekino Clinical Pharmacology Clinic) : Analysis of FLT3 mutations in AML using paired samples at diagnosis and relapse. 日本血液学会学術集会 (第72回) (横浜市), 2010. 9.
- 3) Yokose N, Ohaki Y¹⁾, Hosone M²⁾, Wakita S, Dan K³⁾, Inokuchi K (¹⁾ Dept. Pathology, Chiba-Hokusoh Hosp, Nippon Medical School, ²⁾ Dept. Pathology, Tama-Nagayama Hosp, Nippon Medical School, ³⁾ Hematology, Nippon Medical School) : CD33+blastic plasmacytoid dendritic cell neoplasm : Ultrastructural study and gemtuzumab therapy. 日本血液学会学術集会 (第72回) (横浜市), 2010. 9.
- 4) 三宅弘一¹⁾, Nanya W¹⁾, 三宅紀子¹⁾, 猪口孝一, 島田 隆¹⁾ (¹⁾ 生物学・分子生物学講座) : アデノ随伴ウイルスベクターの筋注による全身癌遺伝子治療の開発. 日本癌学会学術総会 (第69回) : がん征服へ向けての知の統合 (大阪), 2010. 9.
- 5) 平川経晃 : 自施設における急性骨髄性白血病に対する造血幹細胞移植の治療成績. 日本造血細胞移植学会総会 (第33回) (松山市), 2011. 3.

[千葉北総病院消化器内科]

研究概要

(消化器内科) 上部消化管領域では, 食道癌・胃癌の化学療法, 早期胃癌・胃腺腫の内視鏡的治療を行っている. 下部消化管領域では, 早期大腸癌・大腸腺腫の内視鏡的治療を行っており, 原因不明の消化管出血患者に対するカプ

セル内視鏡検査も施行している。肝・胆・膵領域では、肝臓癌に対するラジオ波焼灼療法、C型慢性肝炎に対するインターフェロン療法、総胆管結石に対する内視鏡的治療などを積極的に行っている。

研究業績

学会発表

(1) ポスター：

- 1) 糸川典夫¹, 厚川正則², 西野隆義², 近藤千紗², 福田 健², 三井啓吾², 琴寄 誠², 大秋美治¹, 中野雅行³, 坂本長逸⁴ (1) 日本医科大学千葉北総病院病理部, (2) 東京女子医科大学八千代医療センター消化器内科, (3) 東京女子医科大学八千代医療センター病理診療科, (4) 日本医科大学付属病院内科学(血液・消化器・内分泌代謝部門): 直腸癌を併存したIgG4関連硬化性疾患の1例. 日本消化器病学会総会(第96回)(新潟市), 2010. 4.

(2) 一般講演：

- 1) 小高康裕¹, 二神生爾², 新福摩弓², 堀江 茜², 河越哲郎², 進藤智隆², 名見耶浩幸², 植木信江², 楠正典², 三宅一昌², 坂本長逸² (1) 千葉北総病院消化器内科, (2) 付属病院内科学(血液・消化器・内分泌代謝部門): *H.Pylori* 胃炎患者を対象にしたCOX-2の遺伝子多型によるハイリスク群の絞り込みの検討. 日本消化器病学会大会(第52回)(横浜市), 2010. 10.
- 2) 糸川典夫¹, 厚川正則¹, 近藤千紗¹, 松下洋子², 福田 健¹, 城所秀子², 小林玲樹², 榎原義之², 中塚雄久², 金澤秀典², 坂本長逸² (1) 千葉北総病院消化器内科, (2) 付属病院内科学(血液・消化器・内分泌代謝部門): C型慢性肝炎に対するIFN β , Ribavirin 併用療法先行PEG-IFN, Ribavirin 併用療法の有用性についての検討. 日本肝臓学会東部会(第38回)(東京都), 2010. 12.
- 3) 近藤千紗¹, 厚川正則¹, 糸川典夫¹, 松下洋子², 福田 健¹, 城所秀子², 小林玲樹², 榎原義之², 中塚雄久², 金澤秀典², 坂本長逸² (1) 日本医科大学千葉北総病院消化器内科, (2) 日本医科大学付属病院消化器内科): C型慢性肝炎に対するFluvastatin 併用PEG-IFN, RBV療法の有益性についての検討. 日本肝臓学会東部会(第38回)(東京都), 2010. 12.
- 4) 遠坂由紀子¹, 藤森俊二¹, 豊田将大¹, 馬來康太郎¹, 春日祐介¹, 高橋陽子², 玉木祐希江¹, 江原彰仁¹, 小林 剛¹, 瀬尾継彦¹, 三井啓吾¹, 米澤真興¹, 田中 周¹, 辰口篤志¹, 坂本長逸¹ (1) 付属病院内科学(血液・消化器・内分泌代謝部門), (2) 多摩永山病院消化器科): サラゾピン服用者における血中葉酸濃度の検討. 日本消化器管学会総会(第7回)(京都市), 2011. 2.

[千葉北総病院内分泌内科]

研究概要

(内分泌内科) 糖尿病に関しては第53回日本糖尿病学会年次学術集会(岡山)において千葉県共用地域医療連携パスワーキンググループ糖尿病部会としてシンポジウム「新しい糖尿病治療戦略を見据えた地域医療の在り方を目指して」にて千葉県における全県共用地域医療連携パスの取り組みを発表し、議論を行った。また日本医大千葉北総病院としては2003年から取り組んで来た糖尿病医療連携のエビデンスを発表した。当院は循環型2人主治医制ではなく、すごろく上がり型一方向連携であり、連携により連携医療機関に転医した後は転医先医療機関の主治医にすべてまかせる方式であった。平均3.9年の転医後のHbA1cは転医前と有意差なく、また転医先が専門医でも非専門医でもHbA1cに限っては差を認めなかった。ただし、眼科受診率が専門医の方が高く、きめの細かい合併症管理は専門医のほうが優れていると考えられた。この発表は今後の我が国の糖尿病医療提供システムにおいて重要な示唆を示しており、当学会において優秀演題とされた。

研究業績

著書

- 1) 江本直也：〔分担〕代謝関連. 総合診療マニュアル（上原馨志夫・大林完二・隅谷護人・益子邦洋・松岡博昭），2010；pp670-674, 金芳堂.

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 江本直也¹⁾，栗林伸一¹⁾，篠宮正樹¹⁾，小谷野肇¹⁾，関谷貞三郎¹⁾，平井愛山¹⁾，青柳和美¹⁾，藤田伸輔¹⁾，松田一郎¹⁾，野村隆司¹⁾，長谷川正克¹⁾，杉戸一寿¹⁾（¹⁾千葉県共用地区医療連携パスワードキンググループ糖尿病部会）：千葉県における全県共用地域医療連携バスの取り組み，日本糖尿病学会（第53回）（岡山市），2010. 5.

(2) 一般講演：

- 1) 鈴木千賀子¹⁾，岩橋美奈子¹⁾，亀谷修平¹⁾，岡崎智子¹⁾，林あづさ¹⁾，荒井友里江¹⁾，小川和泉¹⁾，花澤迪子¹⁾，江本直也¹⁾（¹⁾千葉北総病院糖尿病診療対策小委員会）：地域における限られた医療資源を有効利用するための病診連携を前提とした基幹病院の糖尿病外来システムの構築，日本糖尿病学会（第53回）（岡山市），2010. 5.
- 2) 鈴木千賀子¹⁾，岩橋美奈子¹⁾，亀谷修平¹⁾，岡崎智子¹⁾，林あづさ¹⁾，荒井友里江¹⁾，小川和泉¹⁾，花澤迪子¹⁾，江本直也（¹⁾千葉北総病院糖尿病診療対策小委員会）：6年間の追跡調査による基幹病院から診療所への一方向型連携の有用性エビデンス，日本糖尿病学会（第53回）（岡山市），2010. 5.
- 3) 中島 泰，佐藤友紀¹⁾，竹光秀司¹⁾，首藤真理子¹⁾，長尾元嗣¹⁾，加納稔子¹⁾，石崎 晃¹⁾，原田太郎¹⁾，谷村恭子¹⁾，岡島史宜¹⁾，田村秀樹¹⁾，杉原 仁¹⁾，及川眞一¹⁾（¹⁾附属病院内分泌代謝内科）：脂肪蓄積が糖尿病患者のエネルギー消費量に及ぼす影響について，日本糖尿病学会（第53回）（岡山市），2010. 5.
- 4) 青木悠人，江本直也，加納稔子，石崎 晃，小野 靖¹⁾，石井雄道²⁾（¹⁾千葉北総病院 呼吸器内科，²⁾附属病院 脳神経外科）：低Na血症からCPMに進展し回復した肺癌合併鞍上部腫瘍の1例，臨床内分泌代謝学会（第20回）（札幌市），2011. 1.
- 5) 石井雄道¹⁾，江本直也，田原重志¹⁾，寺本 明¹⁾（¹⁾附属病院 脳神経外科）：神経線維腫症I型に合併したクッシング病の1例，臨床内分泌代謝学会（第20回）（札幌市），2011. 1.

4. 内科学講座（呼吸器・感染・腫瘍部門）

[付属病院呼吸器内科]

研究概要

癌：肺癌の個別化治療に向けて、抗癌剤感受性と遺伝子発現データに基づくレジメン開発、遺伝子多型解析によるCPT-11の副作用予測、新薬開発を含む臨床試験等を行っている。 gefitinib 感受性に関する遺伝子変異結果に基づいた多施設臨床試験は評価され、国際的な標準治療に影響を与えた。 間質性肺炎合併肺癌や薬剤性肺障害の臨床研究においては中心的施設として役割を果たしている。 基礎的研究として感受性、副作用予測研究を展開している。 肺癌の発癌、増殖に関わる研究を遺伝子や蛋白レベルで行ない、発癌の母地として特発性間質性肺炎に注目し、特殊な発癌機構の理解と予防法の開発を目指している。

炎症：呼吸器炎症性疾患、感染症を中心に研究を展開している。 特に厚労省研究班を軸にIIPsについて、本邦で市場導入したビルフェニドンの市販後評価、NAC、CyA、治験薬評価（BIBF1120、PC-SOD）、疾患活動性、予後評価の研究、びまん性肺疾患全般、サルコイドーシスの臨床、難治性気道病変の病因、病態、治療研究を展開。 急性肺障害や薬剤性肺障害の国際比較、PMX 吸着療法に関する研究を推進している。 基礎研究では、肺障害、線維化病態を中心に、サーファクタント、メカニカルストレス、組織再生に関する研究、マクロライド療法の作用機序と新規化合物EM900の評価を行っている。 大気環境関連健康障害に関し、ディーゼル排気粒子の影響についても検討している。

呼吸ケア：COPDに関する基礎研究を大阪大学、理化学研究所、谷口直之教授らとの研究として、独立行政法人医薬基盤研究所からの助成を受け創薬の開発を進めている。 フコースを付加する酵素 Fut8 の欠損マウスでは肺気腫が発症する。 今年度はヒトの血清中の Fut8 活性が COPD の病態に与える影響と遺伝子との関係について研究を進めた。 本研究班は2014年まで継続予定である。

研究業績

論文

[追加分]

追加分原著：

- 1) Taniuchi N, Ghazizadeh M, Enomoto T, Matsuda K, Sato M, Takizawa Y, Jin E, Egawa S, Azuma A, Gemma A, Kuddoh S, Kawanami O : Evaluation of Fractional Analysis of Bronchoalveolar Lavage Combined with Cellular Morphological Features. *Int J Med Sci* 2009 ; 6 (1) : 1-8.
- 2) Minegishi Y, Takenaka K, Mizutani H, Sudoh J, Noro R, Okano T, Azuma A, Yoshimura A, Ando M, Tsuboi E, Kudoh S, Gemma A : Exacerbation of idiopathic interstitial pneumonias associated with lung cancer therapy. *Intern Med* 2009 ; 48 (9) : 665-672.
- 3) Azuma A, Kudoh S, Nakashima M¹⁾, Nagatake T²⁾ ¹⁾ Hamamatsu University School of Medicine, ²⁾ Department of Internal Medicine, Institute of Tropical Medicine, Nagasaki University) : A double-blind study of Zaltoprofen for the treatment of upper respiratory tract infection. *Pharmacology* 2010 ; 85 (1) : 41-47.

追加分解説：

- 1) 吾妻安良太：薬剤性肺障害の人種差。呼吸器内科 2010；17（2）：184-189.
- 2) 吾妻安良太：治療の進歩 特発性肺線維症 ビルフェニドン。Annual Review 呼吸器 2010；2010：186-192.

追加分解説/特集：

- 1) 林 宏紀, 吾妻安良太：【呼吸器病学 TOPICS 2009】臨床諸問題 呼吸器疾患治療に関する最新の臨床試験レポート 間質性肺炎。分子呼吸器病 2010；14（1）：76-77.

追加解説/特集：

- 1) 林 宏紀, 吾妻安良太：【マクロライドの COPD・炎症性呼吸器疾患治療への展開】呼吸器疾患治療への展開 DPB・喘息・間質性肺炎. 化学療法の領域 2010；26 (3)：422-426.

追加分座談会：

- 1) 千田金吾, 吾妻安良太, 海老名雅仁, 横山彰仁：特発性間質性肺炎, 分類の意義とその後の展開. 呼吸 2010；29 (1)：9-21.

(1) 原著：

- 1) Abe S, Seo Y, Hayashi H, Matsuda K, Azuma A, Kudoh S, Gemma A : Neutrophil Adsorption by Polymyxin B-Immobilized Fiber Column for Acute Exacerbation in Patients with Interstitial Pneumonia : A Pilot Study. *Blood Purification* 2010 ; 29 (4) : 1-6.
- 2) Taniguchi H, Ebina M, Knodoh Y, Ogura T, Azuma A, Suga M, Taguchi Y, Takahashi H, Nakata K, Sato A, Takeuchi M, Raguh G, Kudoh S, Nukiwa T : Pirfenidone in Idiopathic Pulmonary Fibrosis : A phase III clinical trial in Japan. *Eur Respir J* 2010 ; 35 (4) : 821-829.
- 3) Abe S, Seo Y, Hayashi H, Matsuda K, Usuki J, Azuma A, Kudoh S, Gemma A : Neutrophil Adsorption by Polymyxin B-Immobilized Fiber Column for Acute Exacerbation in Patients with Interstitial Pneumonia : A Pilot Study. *Blood Purification* 2010 ; 29 (4) : 1-6.
- 4) Ono H¹⁾, Fujimoto H, Kobayashi Y, Kuboh S, Gemma A : Sleep apnea syndrome : central sleep apnea and pulmonary hypertension worsened during treatment with auto-CPAP, but improved by adaptive servo-ventilation. *Intern Med* 2010 ; 49 (5) : 415-421.
- 5) Tanaka K¹⁾, Tanaka Y¹⁾, Namba T¹⁾, Azuma A²⁾, Mizushima T¹⁾ (¹⁾ Kumamoto University, ²⁾ Nippon Medical School) : Heat shock protein 70 protects against bleomycin-induced pulmonary fibrosis in mice. *Biochem Pharmacol* 2010 ; 80 (6) : 920-931.
- 6) Maemondo M¹⁾, Inoue A, Kobayashi K, Sugawara S, Oizumi S, Isobe H, Gemma A, Harada M, Yoshizawa H, Kinoshita I, Fujita Y, Okinaga S, Hirako H, Yoshimori K, Harada T, et al. : Gefitinib or chemotherapy for non-small-cell lung cancer with mutated EGFR. *The New England Journal of Medicine* 2010 ; 362 (25) : 2380-2388.
- 7) Yamamoto N¹⁾, Yamanaka T²⁾, Ichinose Y²⁾, Kubota K³⁾, Sakai H⁴⁾, Gemma A, Saijo N⁵⁾, Fukuoka M⁵⁾, Niitanani H (¹⁾ Division of Thoracic Oncology, Shizuoka Cancer Center, ²⁾ National Kyushu Cancer Center, ³⁾ Thoracic Oncology Division, National Cancer Center Hospital East, ⁴⁾ Department of Pulmonary Medicine, Saitama Cancer Center, ⁵⁾ Department of Medical Oncology, Kinki University School of Medicine, ⁶⁾ Department of Medical Oncology, Kinki University School of Medicine) : Pooled analysis of S-1 trials in non-small cell lung cancer according to histological type. *Anticancer Res* 2010 ; 30 (7) : 2985-2990.
- 8) Tanaka K, Ishihara T, Azuma A, Kudoh S, Ebina M, Nukiwa T, Sugiyama Y, Tasaka Y, Namba T, Sato K, Mizushima Y, Mizushima T : Therapeutic effect of lecithinized superoxide dismutase (PC-SOD) on bleomycin-induced pulmonary fibrosis. *Am J Physiol-Lung Cellular and Molecular Physiology* 2010 ; 298 (3) : 348-360.
- 9) Li Y⁴⁾, Takizawa H¹⁾, Azuma A, Kohyama T²⁾, Yamauchi Y²⁾, Takahashi S³⁾, Yamamoto M³⁾, Kawada T⁴⁾, Kudoh S, Sugawara I⁵⁾ (¹⁾ 帝京大学溝口病院 呼吸器内科, ²⁾ 東京大学医学部 呼吸器内科, ³⁾ 筑波大学基礎医学系, ⁴⁾ 日本医科大学 衛生学公衆衛生学教室, ⁵⁾ 結核研究所) : Nrf2 is closely related to allergic airway inflammatory responses induced by low-dose diesel exhaust particles in mice. *Clinical Immunol* 2010 ; 137 (2) : 234-241.

- 10) Fujimoto K¹⁾, Ikeda S¹⁾, Arai T²⁾, Tanaka N³⁾, Kumasaka T⁴⁾, Ishii T, Kida K, Muramatsu M¹⁾, Sawabe M²⁾ (1) Department of Molecular Epidemiology, Medical Research Institute, Tokyo Medical and Dental University, (2) Department of Pathology, Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital, (3) Department of Biostatistics, Harvard School of Public Health, Boston, (4) Department of Pathology, Juntendo University School of Medicine) : Polymorphism of SERPINE2 gene is associated with pulmonary emphysema in consecutive autopsy cases. *BMC Med Genet* 2010 ; 11 : 159.
- 11) Namba, T, Tanaka K, Ito Y, Hoshino T, Matoyama M, Yamakawa N, Isohama Y, Azuma A, Mizushima T : Induction of EMT-like phenotypes by an active metabolite of leflunomide and its contribution to pulmonary fibrosis. *Cell Death and Differ* 2010 ; 17 (12) : 1882-1895.
- 12) Mizutani H, Okano T, Minegishi Y, Matsuda K, Sudoh J, Kitamura K, Noro R, Soeno C, Yoshimura A, Seike M, Gemma A : HSP27 modulates epithelial to mesenchymal transition of lung Cancer cells in a smad-independent manner. *Oncology Letters* 2010 ; 1 (6) : 1011-1016.
- 13) Minegishi Y, Sudoh J, Mizutani H, Seike M, Azuma A, Yoshimura A, Kudoh S, Gemma A : The safety and efficacy of weekly paclitaxel in combination with carboplatin for advanced non-small cell lung cancer with idiopathic interstitial pneumonias. *Lung Cancer* 2011 ; 71 (1) : 70-74.
- 14) Ishii T, Wakabayashi R, Kurosaki H, Gemma A, Kida K : Association of serotonin transporter gene variation with smoking, chronic obstructive pulmonary disease, and its depressive symptoms. *J Hum Genet* 2011 ; 56 (1) : 41-46.
- 15) Hijikata M¹⁾, Matsushita I¹⁾, Tanaka G¹⁾, Tsuchiya T¹⁾, Ito I²⁾, Tokunaga K³⁾, Ohashi J⁴⁾, Homma S⁵⁾, Kobashi Y⁶⁾, Taguchi Y⁷⁾, Azuma A, Kudoh S⁸⁾, Keicho N¹⁾ (1) 独立行政法人国立国際医療研究センター呼吸器疾患研究部, (2) 独立行政法人国立国際医療研究センター 呼吸器外科, (3) 東京大学大学院医学系研究科人類遺伝学分野, (4) 筑波大学大学院人間総合科学研究科生命システム医学専攻社会健康医学分野, (5) 東邦大学呼吸器内科, (6) 天理よろず相談所病院 病理部, (7) 天理よろず相談所病院 呼吸器内科, (8) 複十字病院 呼吸器内科) : Molecular cloning of two novel mucin-like genes in the disease-susceptibility locus for diffuse pan-bronchiolitis. *Human Genetics* 2011 ; 129 (2) : 117-128.
- 16) Azuma A, Kudoh S, Nakashima M¹⁾, Nagatake T²⁾ (1) 浜松医科大学, (2) 長崎大学 熱帯医学研究所) : Antipyretic and analgesic effects of zaltoprofen for the treatment of acute upper respiratory tract infection : verification of a non-inferiority hypothesis using loxoprofen sodium. *Pharmacology* 2011 ; 87 (3-4) : 204-213.
- 17) 山本 純¹⁾, 服部有俊¹⁾, 島内正起¹⁾, 橋詰寿律¹⁾, 梅津泰洋²⁾, 谷田貝洋平³⁾, 林 士元³⁾, 関根朗雅³⁾, 沼田岳士⁴⁾, 塩澤利博⁵⁾, 國保成暁, 林原賢治³⁾, 斎藤武文³⁾, 水渡哲史¹⁾ (1) 国立病院機構 茨城東病院内科診療部呼吸器外科, (2) 国立病院機構 茨城東病院内科診療部臨床研究部, (3) 国立病院機構 茨城東病院内科診療部呼吸器内科, (4) 筑波大学附属病院呼吸器内科, (5) 国立がん研究センター東病院呼吸器内科) : Cisplatin+Pemetrexed 併用療法 +Cisplatin 胸腔内投与により長期間著効を維持した悪性胸膜中皮腫の1例. *気管支学* 2010 ; 32 (6) : 528-533.
- 18) 久世真之, 林 宏紀, 阿部信二, 蛸井浩行, 森本泰介, 神尾孝一郎, 白杵二郎, 吾妻安良太, 弦間昭彦 : 重積発作後に皮質盲を合併した気管支喘息の1例. *日本胸部臨床* 2010 ; 69 (9) : 856-861.

(2) 総説 :

- 1) Azuma A : Invited Review : Pirfenidone : Antifibrotic Agent for Idiopathic Pulmonary Fibrosis. *Expert Review of Respiratory Medicine* 2010 ; 4 (3) : 301-310.
- 2) 石井健男 : サイエンスを重視した advanced COPD の集学的治療の現状と課題. *呼吸* 2010 ; 29 (4) : 431-434.

- 3) 白杵二郎：【間質性肺炎治療法の新展開】ピルフェニドン. 呼吸と循環 2010；58 (4)：367-373.
 - 4) 宮永晃彦, 弦間昭彦：肺癌の外來化学療法. 呼吸器内科 2010；18 (2)：157-162.
 - 5) 齋藤好信, 弦間昭彦：mTOR 阻害薬による肺障害. 腫瘍内科 2010；6 (4)：400-05.
 - 6) 弦間昭彦¹⁾, 宮永晃彦¹⁾：肺癌の合併症／転移および副作用に対する治療の進歩 2. 癌性胸膜炎／心膜炎の治療. 「呼吸器内科」第18巻 第3号 (平成22年9月) 2010；18 (4)：289-293.
 - 7) 武内 進, 弦間昭彦：【呼吸器疾患の病態と診断・治療】胸膜腫瘍. 医学と薬学 2010；64 (4)：493-499.
 - 8) 宮永晃彦, 弦間昭彦：【肺癌の合併症／転移および副作用に対する治療の進歩】癌性胸膜炎／心膜炎の治療. 呼吸器内科 2010；18 (4)：289-293.
 - 9) 弦間昭彦¹⁾：特集「固形腫瘍領域と血液腫瘍領域のクロストークー新薬開発と合併症管理」. 血液・腫瘍科 2010；61 (5)：570-575.
 - 10) 清水久美, 弦間昭彦：【咳の新しい捉え方】肺癌 (中枢発生肺癌). 成人病と生活習慣病 2010；40 (11)：1275-1279.
 - 11) 齋藤好信, 弦間昭彦：医学と医療の最前線：薬剤性肺障害の最前線. 日本内科学会雑誌 2011；100 (1)：199-207.
- (3) 解説：
- 1) 北村和広, 弦間昭彦：EGFR 遺伝子変異の検出方法 標準化を目指して. がん分子標的治療 2010；8 (3)：218-222.
- (4) 症例報告：
- 1) Takeda S, Munakata R, Abe S, Mii S, Suzuki M, Kashiwada T, Azuma A, Yamamoto T, Gemma A：Hypercytokinemia with 2009 pandemic H1N1 (pH1N1) influenza successfully treated with polymyxin B-immobilized fiber column hemoperfusion. Intensive Care Med 2010；36 (5)：906-907.
 - 2) 白杵二郎, 高橋明子, 岩川賀世, 内藤善哉, 福田 悠, 藤田和恵, 小原俊彦, 中島敦夫, 水野杏一, 岩崎雄樹, 川本雅司, 山本滋樹, 中野博司, 佐藤直樹：治療に難渋した膠原病に伴う肺高血圧症の1例. 内科 2010；105 (4)：677-690.
 - 3) 浜田泰子, 阿部信二, 林 宏紀, 田中 徹, 蛸井浩行, 白杵二郎, 吾妻安良太, 弦間昭彦, 高橋美紀子, 福田 悠：CPC 日常臨床から学ぶ この症例の新しい意義は？ 大腸癌肺転移に対する化学療法中に発症した薬剤性肺障害の1例. THE LUNG-perspectives 2010；18 (3)：210-216.
 - 4) 白杵二郎, 中村恭子¹⁾, 塩井由美子, 駒場祐一, 内藤善哉, 服部久弥子, 檀 和夫, 川本雅司, 功刀しのぶ, 上田雅之, 福岡長知⁽¹⁾ 日本医科大学血液内科)：急性骨髄性白血病, 扁平上皮癌, 脳梗塞を併発した慢性活動性EBウイルス感染症. 内科 2010；106 (4)：713-724.
- (5) Q&A/特集：
- 1) 林 宏紀, 吾妻安良太：【ケアにいかせる!Q&A で学ぶ間質性肺炎】間質性肺炎の治療と患者サポート. 呼吸器ケア 2010；8 (9)：910-914.
- (6) 解説：
- 1) 鈴木 学, 吾妻安良太：新しい治療 特発性肺線維症急性増悪への新対応. 治療学 2010；44 (5)：594-598.
 - 2) 吾妻安良太：特発性肺線維症の治療と評価の進歩. 日本医事新報 2010；(4493)：45-49.
 - 3) 吾妻安良太：肺線維症治療薬の開発. HUMAN SCIENCE 2010；21 (3)：28-32.
 - 4) 野呂林太郎, 吾妻安良太：薬剤性肺障害 発症, 背景因子とその治療法の進歩. 呼吸 2010；29 (8)：773-779.
- (7) 解説/特集：
- 1) 三浦由記子, 斎藤武文, 森下由紀雄, 吾妻安良太：【びまん性肺疾患診療の進歩】特発性肺線維症. 成人病と生活習慣病 2010；40 (6)：656-661.

- 2) 吾妻安良太：【呼吸器領域の新しい薬物療法 作用機序と使用の実際】抗肺線維化薬 ピルフェニドン（ピレスパ）。日本内科学会雑誌 2010；99（7）：1542-1549.
 - 3) 村上桂子，林 宏紀，吾妻安良太：呼吸器疾患の病態と診断・治療】びまん性汎細気管支炎（DPB）。医学と薬学 2010；64（2）：171-175.
 - 4) 藤田和恵，吾妻安良太：【ウイルス感染の Up-To-Date】ウイルス感染によるびまん性肺胞障害（DAD）とその治療。THE LUNG-perspectives 2010；18（4）：371-378.
- (8) 座談会/特集：
- 1) 貫和敏博，杉山幸比古，井上義一，吾妻安良太：【間質性肺炎と肺線維症 パラダイムシフト後の臨床】新しい時代に入った肺線維症治療。治療学 2010；44（5）：599-605.

著 書

〔追加分〕

追加分：

- 1) 峯岸裕司¹⁾，弦間昭彦¹⁾（¹⁾ 日本医科大学 内科学講座 呼吸器感染腫瘍部門）：〔分担〕呼吸器系の生物学 遺伝子変異と抗がん剤。Annual review 呼吸器（永井厚志 他），2010；pp44-51，中外医学社。
- 2) 林 宏紀，吾妻安良太：〔自著〕臨床諸問題 呼吸器疾患治療に関する最新の臨床試験レポート 間質性肺炎。分子呼吸器病，2010；pp76-77，（株）先端医学社。
- 3) 弦間昭彦，水谷英明：〔共著〕第 III 章 分子標的薬の各論。抗がん薬の臨床薬理（相羽恵介），2010；南山堂。
- 4) 林 宏紀，吾妻安良太：〔自著〕【マクロライドの COPD・炎症性呼吸器疾患治療への展開】呼吸器疾患治療への展開 DPB・喘息・間質性肺炎。化学療法の領域，2010；pp422-426，（株）医薬ジャーナル社。
- 1) Motegi T, Ishii T, Kida K：〔共著〕Comprehensive Pulmonary Rehabilitation for Chronic Obstructive Pulmonary Disease. International Encyclopedia of Rehabilitation, 2010；JH Stone, M Blouin, editors.
- 2) 木田厚瑞，茂木 孝：〔共著〕第 5 章 合併症・併存症の予防と治療 49 うつ病，不眠も忘れずに。かかりつけ医の患者ケアガイド COPD（慢性閉塞性肺疾患）編，2010；pp145-149，真興交易（株）医書出版部。
- 3) 武内 進，水谷英明，弦間昭彦：〔共著〕VII 治療各論：薬物療法 10. 非扁平上皮癌（EGFR 遺伝子変異不明の腫瘍）のセカンドライン薬物療法における薬剤選択はどのようにしていますか 24. 腎機能障害のある症例における化学療法の注意点を教えてください。肺癌診療：こんなときどうする Q & A，2010；中外医学社。
- 4) 白杵二郎，吾妻安良太：〔分担〕ピルフェニドンの治療。特発性肺線維症（IPF）（杉山幸比古），2010；医薬ジャーナル社。
- 5) 村上桂子，林 宏紀，吾妻安良太：〔共著〕【呼吸器疾患の病態と診断・治療】びまん性汎細気管支炎（DPB）。医学と薬学，2010；pp171-175，（株）自然科学社。
- 6) 林 宏紀，吾妻安良太：〔自著〕【ケアにいかせる！ Q&A で学ぶ間質性肺炎】間質性肺炎の治療と患者サポート。呼吸器ケア，2010；pp910-914，（株）メディカ出版。
- 7) 石井健男，木田厚瑞：〔共著〕(1) お年寄りの病気 高齢者によくみられる訴えと症状 胸部の症状 咳・痰が多い/痰に血が混じる (2) お年寄りの病気 高齢者によくみられる病気 呼吸器疾患 呼吸不全。六訂版 家庭医学大全科，2010；（株）法研。
- 8) 白杵二郎，吾妻安良太：〔分担〕Pirfenidone の使い方と副作用対策。間質性肺炎診療マニュアル（久保恵嗣，藤田次郎），2010；南江堂。
- 9) 弦間昭彦，齋藤好信：〔自著〕第 II 章分子標的治療薬と副作用対策の実際 B. 分子標的治療薬の副作用別対策 2. 肺障害。分子標的治療薬の副作用マネジメント（編集：弦間昭彦），2010；pp152-165，南江堂。
- 10) 石井健男：〔共著〕呼吸器疾患におけるゲノム解析，呼吸器病学 TOPICS 2010-11 1. 細胞生物学。分子呼吸器病，2011；pp8-11，先端医学社。

学会発表

〔追加分〕

追加分教育講演：

- 1) 弦間昭彦¹⁾ (1) 日本医科大学 呼吸器・感染・腫瘍部門)：薬剤性間質性肺炎の管理. 第8回 日本臨床腫瘍学会 (東京), 2010. 3.

(1) 招待講演：

- 1) Azuma A： “Ethnic Difference of Acute Deterioration and Treatment Hopes of IPF”. Keck School of Medicine (University of Southern California (USC).), 2010. 5.

(2) シンポジウム：

- 1) Homma S, Azuma, A, Taniguchi H, et al. : A Randomized, Double-blind, Multicentre, Controlled Trial of Inhaled N-Acetylcysteine in Patients with The Early Stage of Idiopathic Pulmonary Fibrosis in Japan. Session : C14 -Emerging Therapies in Interstitial Lung Disease. ATS Meeting (New Orleans), 2010. 5.
- 2) Mizuhshima, T, Tanaka K, Azuma. A : Therapeutic effect of lecithinized superoxide dismutase (PC-SOD) on idiopathic pulmonary fibrosis in humans and bleomycin-induced pulmonary fibrosis in mice . Session : A19 - Preclinical Testing in Mouse Models of Pulmonary Fibrosis. ATS Meeting (New Orleans), 2010. 5.
- 3) Azuma A, Taguchi Y, Ogura T, et al. : Exploratory analysis of phase III trial of pirfenidone : Most effective population in patients with idiopathic pulmonary fibrosis (IPF). ERS Meeting (Barcelona), 2010. 9.
- 4) Taguchi Y, Ebina M, Hashimoto S, Ogura T, Azuma, A, et al. : Extended analysis of phase III trial of pirfenidone : More pronounced effect in mild impairment of patients with IPF ERS Meeting at Barcelona. ERS Meeting (Barcelona), 2010. 9.
- 5) Azuma A : Current topics of treatment for idiopathic pulmonary fibrosis. Session 214 : What phenotype IPF getting benefit of Pirfenidone in Japan. ERS Meeting (Barcelona), 2010. 9.
- 6) Taniguchi H, Kondoh, Y, Ebina M, Azuma A, et al. : The clinical significance of >5% change in VC in patients with idiopathic pulmonary fibrosis -extended analysis of the pirfenidone trial in Japan. ERS Meeting (Barcelona), 2010. 9.
- 7) 本間 栄, 吾妻安良太, 工藤翔二 : びまん性肺疾患 早期特発性肺線維症に対する N-アセチルシステイン吸入療法に関する前向き多施設共同治療研究. 日本呼吸器学会 (第50回) (東京), 2010. 4.
- 8) 本間 栄¹⁾, 吾妻安良太, 工藤翔二, 杉山幸比古²⁾ (1) 東邦大学医療センター大森病院呼吸器内科, 2) 自治医科大学呼吸器内科) : 特発性肺線維症に関する最新の治療研究について N-アセチルシステイン. 日本呼吸器学会 (第50回) (東京), 2010. 4.
- 9) 吾妻安良太, 阿部信二 : 特発性肺線維症に関する最新の治療研究について特発性肺線維症の新しい治療展望. 日本呼吸器学会 (第50回) (東京), 2010. 4.
- 10) 吾妻安良太 : 特発性間質性肺炎診療の新展開診断基準第4次改訂の経緯. 日本呼吸器学会 (第50回) (東京), 2010. 4.

(3) パネルディスカッション：

- 1) Namba, T, Azuma A, Mizushima : Induction of epithelial-mesenchymal transition-like phenotypes by an active metabolite of leflunomide and its contribution to pulmonary fibrosis. Session : A28 - Regulation of Epithelial-Mesenchymal Transition. ATS Meeting (New Orleans), 2010. 5.

(4) セミナー：

- 1) 清家正博 : 気管支鏡と分子生物学. 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医大会 (第18回) (東京), 2011. 2.

(5) 一般講演：

- 1) Ishii T, Wakabayashi R, Morii K, Kurosaki H, Motohashi N, Hattori K, Motegi T, Yamada K, Kamio K, Gemma A, Kida K : Association of serotonin transporter gene variation with smoking, COPD, and its depressive symptoms. American Thoracic Society 2010 International Conference (New Orleans), 2010. 5.
- 2) Kamio K, Ishii T, Gao C¹⁾, Ota F¹⁾, Motegi T, Abe S, Usuki J, Azuma A, Taniguchi N¹⁾, Gemma A, Kida K (¹⁾ Department of Disease Glycomics, Scientific and Industrial Research Institute, Osaka University) : Assessment of usefulness of FUT8 activity as a novel bio-marker for COPD. American Thoracic Society 2010 International Conference (New Orleans), 2010. 5.
- 3) Minegishi Y¹⁾, Maemondo M²⁾, Okinaga S³⁾, Morikawa N⁴⁾, Inoue A⁵⁾, Kobayashi K⁶⁾, Harada M⁷⁾, Hagiwara K⁶⁾, Nukiwa T⁵⁾, Gemma A¹⁾ (¹⁾ Nippon Medical School, ²⁾ Miyagi Cancer Center, ³⁾ Kesennuma City Hospital, ⁴⁾ Saka General Hospital, ⁵⁾ Tohoku University Graduate School of Medicine, ⁶⁾ Saitama Medical University, ⁷⁾ Hokkaido Cancer Center) : First-line gefitinib therapy for elder advanced non-small cell lung cancer patients with epidermal growth factor receptor mutations ; Multicenter phase II trial (NEJ 003 study). The 2010 ASCO (American Society of Clinical Oncology) Annual Meeting (?) (Chicago, Illinois), 2010. 6.
- 4) Minegishi Y¹⁾, Miyake K²⁾, Gemma A¹⁾, Shimada T²⁾ (¹⁾ Department of Internal Medicine, Division of Pulmonary medicine, Infectious disease, and Oncology, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Biochemistry and Molecular Biology, Division of Gene Therapy Research, Nippon Medical School) : Inhibition Tumor Growth of Malignant Pleural Mesothelioma by Adeno-associate viral (AAV) type-8 vector Expressing Mda-7/IL-24. The 10th International Conference of the International Mesothelioma Interest Group (Kyoto, Japan), 2010. 8.
- 5) 山下純一, 鳴海武長, 高木 豊, 飯野幸永, 本間 博, 神尾孝一郎, 吾妻安良太 : KL-6 における検査方法の違いによるデータ比較. 日本医科大学医学会 (第 455 回) (東京), 2011. 2.
- 6) 林 宏紀, 阿部信二, 久世眞之, 田中 徹, 森本泰介, 神尾孝一郎, 白杵二郎, 吾妻安良太, 弦間昭彦, 勝田悌実 : 当院における肝肺症候群の検討. 第 50 回日本呼吸器学会総会 (京都), 2010. 4.
- 7) 峯岸裕司¹⁾, 須藤淳子¹⁾, 河野あゆみ¹⁾, 武内 進¹⁾, 栗林英彦¹⁾, 北村和広¹⁾, 岡野哲也¹⁾, 清家正博¹⁾, 吉村明修¹⁾, 弦間昭彦¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 内科学講座 呼吸器・感染・腫瘍部門) : 特発性間質性肺炎合併進行所細胞肺癌に対するカルボプラチン + エトポシド療法のパイロット研究. 日本内科学会総会 (第 108 回) (東京), 2010. 4.
- 8) 石井健男, 若林律子, 森井恵子, 黒崎央子, 本橋典久, 服部久弥子, 茂木 孝, 山田浩一, 神尾孝一郎, 弦間昭彦, 木田厚瑞 : Serotonin transporter 遺伝子とうつ合併の気道病変型 COPD との関連. 日本呼吸器学会学術講演会 (第 50 回), 2010. 4.
- 9) 榎本達治¹⁾ (¹⁾ 都立広尾病院) : 当院における局所麻酔下胸腔鏡検査の現状. 日本呼吸器学会学術講演会 (第 50 回) (京都), 2010. 4.
- 10) 神宮亜希子¹⁾ (¹⁾ 都立広尾病院) : 処方薬からみた COPD の全身性依存症の検討. 日本呼吸器学会学術講演会 (第 50 回) (京都), 2010. 4.
- 11) 杉崎 緑¹⁾ (¹⁾ 都立広尾病院) : 都市部総合病院における医療機関関連肺炎 (HCAP) の臨床的検討. 日本呼吸器学会学術講演会 (第 50 回) (京都), 2010. 4.
- 12) 北村和広, 岡野哲也, 河野あゆみ, 武内 進, 栗林英彦, 水谷英明, 小齊平聖治, 峯岸裕司, 清家正博, 吉村明修, 西尾和人¹⁾, 萩原弘一²⁾, 弦間昭彦 (¹⁾ 近畿大学医学部ゲノム生物学講座, ²⁾ 埼玉医科大学医学部呼吸器内科) : PNA-LNA PCR clamp 法および PCR-invader 法による EGFR 遺伝子変異解析の validation 試験. 日本呼吸器学会総会 (第 50 回) (国立京都国際会館), 2010. 4.

- 13) 坂井浩佑, 鈴木 学, 山本 剛¹⁾, 佐藤直樹¹⁾, 吾妻安良太, 弦間昭彦, 福田 悠²⁾, 田中啓治¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院 集中治療室, ²⁾ 日本医科大学 解析人体病理学): アミオダロンに伴う薬剤性肺障害が疑われ, 感染を契機に再増悪し, 剖検にて DAD 及び肺胞壁の線維化を呈した 1 例. 日本呼吸器学会 (第 50 回) (東京), 2010. 4.
- 14) 小林研一, 阿部信二, 林 宏紀, 森本泰介, 神尾孝一郎, 齋藤好信, 白杵二郎, 吾妻安良太, 弦間昭彦: 特発性肺線維症におけるピルフェニドンの有害事象と有用性の検討. 日本呼吸器学会 (第 50 回) (東京), 2010. 4.
- 15) 柏田 建, 阿部信二, 久世眞之, 小林研一, 小野 竜, 蛸井浩行, 田中 徹, 林 宏紀, 森本泰介, 神尾孝一郎, 白杵二郎, 吾妻安良太, 弦間昭彦: 気胸を合併した間質性肺炎症例の臨床病理学的検討. 日本呼吸器学会 (第 50 回) (東京), 2010. 4.
- 16) 小野 竜, 阿部信二, 田中 徹, 河野あゆみ, 林 宏紀, 栗林英彦, 水谷英明, 峯岸裕司, 森本泰介, 神尾孝一郎, 清家正博, 白杵二郎, 吉村明修, 吾妻安良太, 工藤翔二: gefitinib による薬剤性肺障害における PMX 療法の有用性の検討. 日本呼吸器学会 (第 50 回) (東京), 2010. 4.
- 17) 神尾孝一郎, 石井健男, 高 叢笑¹⁾, 茂木 孝, 阿部信二, 白杵二郎, 吾妻安良太, 谷口直之¹⁾, 弦間昭彦, 木田厚瑞 (¹⁾ 大阪大学 産業科学研究所): 閉塞性肺疾患 ヒト肺の気腫化進展における糖転移酵素 FUT8 活性に関する研究. 日本呼吸器学会 (東京), 2010. 4.
- 18) 萩原弘一, 宮澤仁志, 田中知明, 鈴木朋子, 上田哲也, 森 秀法, 小暮啓人, 片岡健介, 今野 哲, 井上 彰, 永川博康, 林 龍二, 原田敏之, 沖永壮治, 吾妻安良太: 特発性肺線維症急性増悪, 薬剤性肺障害の遺伝学的検討. 日本呼吸器学会 (第 50 回) (東京), 2010. 4.
- 19) 森本泰介, 林 宏紀, 神尾孝一郎, 阿部信二, 白杵二郎, 吾妻安良太, 弦間昭彦: びまん性肺疾患 サルコイドーシス臨床調査個人票による全国疫学調査のサブ解析. 日本呼吸器学会 (第 50 回) (東京), 2010. 4.
- 20) 田中 徹, 阿部信二, 小野 竜, 林 宏紀, 森本泰介, 神尾孝一郎, 白杵二郎, 吾妻安良太, 岡田大輔¹⁾, 原口秀司¹⁾, 小泉 潔¹⁾, 弦間昭彦 (¹⁾ 日本医科大学付属病院呼吸器外科): 術後に急性増悪を発症した間質性肺炎合併肺癌における危険因子の検討. 日本呼吸器学会 (第 50 回) (東京), 2010. 4.
- 21) 久世眞之, 阿部信二, 小林研一, 田中 徹, 小野 竜, 柏田 建, 林 宏紀, 森本泰介, 神尾孝一郎, 白杵二郎, 吾妻安良太, 弦間昭彦, 工藤翔二: 特発性肺線維症の急性増悪に対するマクロライド薬の予防効果についての検証. 日本呼吸器学会 (第 50 回) (東京), 2010. 4.
- 22) 鈴木 学, 林 宏紀, 阿部信二, 山本 剛¹⁾, 佐藤直樹¹⁾, 吾妻安良太, 弦間昭彦, 田中啓治¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院集中治療室): 当院で経験したびまん性肺胞出血 5 症例の臨床的検討. 日本呼吸器学会 (第 50 回) (東京), 2010. 4.
- 23) 李 英姫¹⁾, 滝澤 始²⁾, 吾妻安良太, 菅原 勇³⁾, 川田智之¹⁾, 工藤翔二 (¹⁾ 日本医科大学衛生学公衆衛生学教室, ²⁾ 帝京大学医学部付属溝口病院 呼吸器内科, ³⁾ 結核予防会結核研究所): Nrf2KO マウス喘息モデルにおけるディーゼル排気粒子曝露の気道炎症反応への影響. 日本衛生学会 (第 80 回) (仙台), 2010. 5.
- 24) 恩田直美, 北村和広, 武内 進, 小林研一, 久世眞之, 宮永晃彦, 小齊平聖治, 峯岸裕司, 清家正博, 吉村明修, 原口秀司¹⁾, 川本雅司²⁾, 小泉 潔¹⁾, 土屋眞一²⁾, 弦間昭彦, その他 1 名 (¹⁾ 日本医科大学呼吸器外科, ²⁾ 日本医科大学付属病院病理部): 中縦隔原発脂肪肉腫の 1 例. 日本肺癌学会関東支部会 (第 158 回) (京王プラザホテル), 2010. 6.
- 25) 鈴木 学, 林 宏紀, 村井綱兄¹⁾, 上野 亮¹⁾, 宗像 亮¹⁾, 阿部信二, 山本 剛¹⁾, 佐藤直樹¹⁾, 吾妻安良太, 弦間昭彦, 田中啓治¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院集中治療室): 当院集中治療室にて BALF により診断し得たびまん性肺胞出血 4 症例の臨床的検討. 日本呼吸器内視鏡学会 (第 33 回) (横浜), 2010. 6.
- 26) 阿曾亮子¹⁾, 井上千鹿子¹⁾, 吉村明修¹⁾, 八木正敏¹⁾, 日高廣人¹⁾, 高柳和江¹⁾, 吾妻安良太, 志村俊郎¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学教育推進室): 共用試験 OSCE のトレーニングにおける SP の演技の標準化方法の実施とその評価. 日本医学教育学会 (第 42 回) (東京), 2010. 7.

- 27) 高橋明子¹⁾, 安藤真弘¹⁾, 三輪晃士¹⁾, 佐藤悦子¹⁾, 坪井永保¹⁾, 岩波 洋¹⁾, 弦間昭彦¹⁾ 慈山会医学研究所付属坪井病院) : 血液透析中に合併した肺腺癌に対し Gefitinib が奏効した 1 例. 日本呼吸器学会東北地方会 (第 91 回) 日本結核学会東北支部学会 (第 121 回) (山形), 2010. 9.
- 28) 高橋明子¹⁾, 安藤真弘¹⁾, 三輪晃士¹⁾, 佐藤悦子¹⁾, 坪井永保¹⁾, 岩波 洋¹⁾, 弦間昭彦¹⁾ 慈山会医学研究所付属坪井病院) : 当院における IV 期非小細胞肺癌の長期生存についての検討. 日本呼吸器学会東北地方会 (第 91 回) 日本結核学会東北支部学会 (第 121 回) (山形), 2010. 9.
- 29) 齊藤 均¹⁾ (慈山会医学研究所) : 胸腺腫を合併した細胞性細気管支炎, 器質性肺炎の 1 例. 日本呼吸器学会関東地方会 (第 191 回), 2010. 9.
- 30) 清家正博, 岡野哲也, 添野千絵, 峯岸裕司, 野呂林太郎, 吉村明修, 弦間昭彦 : 肺がん細胞の薬剤感受性に関与するマイクロ RNA 発現プロファイル. 日本癌学会学術総会 (第 69 回) (大阪), 2010. 9.
- 31) 北村和広, 岡野哲也, 河野あゆみ, 武内 進, 宮永晃彦, 小齊平聖治, 峯岸裕司, 清家正博, 吉村明修, 西尾和人¹⁾, 萩原弘一²⁾, 弦間昭彦¹⁾ 近畿大学医学部 ゲノム生物学講座, ²⁾ 埼玉医科大学医学部呼吸器内科) : PNA-LNA PCR clamp 法および PCR-invader 法による EGFR 遺伝子変異解析の validation 試験. 日本癌治療学会総会 (第 48 回) (国立京都国際会館), 2010. 9.
- 32) 野村浩一郎¹⁾ (慈山会医学研究所) : 2 週間の呼吸リハビリ教育入院における栄養指導の効果と問題点 その対策と検討. 呼吸ケア・リハビリテーション学会学術講演会 (第 20 回), 2010. 10.
- 33) 三輪晃士¹⁾, 高橋明子¹⁾, 佐藤悦子¹⁾, 安藤真弘¹⁾, 坪井永保¹⁾, 岩波 洋¹⁾, 弦間昭彦¹⁾ 慈山会医学研究所付属坪井病院) : 当院における IV 期非小細胞肺癌の長期生存についての検討. 日本肺癌学会総会 (第 52 回) (大阪), 2010. 11.
- 34) 峯岸裕司¹⁾, 渡邊 淳²⁾, 宮永晃彦¹⁾, 北村和広¹⁾, 小齊平聖治¹⁾, 岡野哲也¹⁾, 清家正博¹⁾, 吉村明修¹⁾, 島田 隆²⁾, 弦間昭彦¹⁾ (慈山会医学研究所) : 日本医科大学 内科学講座 呼吸器・感染・腫瘍部門, ²⁾ 日本医科大学 遺伝診療科) : 原発性肺癌における UGT1A1*28/*6 遺伝子多型とイリノテカン副作用および治療効果との相関に関する検討. 日本肺癌学会総会 (第 51 回) (広島), 2010. 11.
- 35) 坂本 徹, 阿部信二, 國保成暁, 林 宏紀, 森本泰介, 神尾孝一郎, 齊藤好信, 吾妻安良太, 弦間昭彦 : Anastrozole による薬剤性肺障害が疑われた 2 例. 日本呼吸器学会関東地方会 (東京), 2010. 11.
- 36) 鈴木 学, 蛸井浩佑, 阿部信二, 山本 剛¹⁾, 佐藤直樹¹⁾, 吾妻安良太, 弦間昭彦, 田中啓治¹⁾ (慈山会医学研究所) : 当院における膠原病合併肺出血症例の臨床的検討. 日本アレルギー学会 (第 60 回) (東京), 2010. 11.
- 37) 清水久実, 宮永晃彦, 川本雅司¹⁾, 豊川 優, 北村和広, 小齊平聖治, 野呂林太郎, 峯岸裕司, 清家正博, 吉村明修, 萩原弘一²⁾, 曾田 学³⁾, 竹内賢吾³⁾, 間野博行³⁾, 弦間昭彦, その他 1 名 (慈山会医学研究所) : 日本医科大学病理部, ²⁾ 埼玉医科大学呼吸器内科, ³⁾ 自治医科大学ゲノム機能研究部) : EGFR 遺伝子変異と EML4 融合遺伝子が併存した肺腺癌の 1 例. 日本肺癌学会関東支部会 (第 159 回) (東京), 2010. 12.
- 38) 鳴海武長, 山下純一, 高木 豊, 飯野幸永, 本間 博, 神尾孝一郎, 吾妻安良太 : 汎用自動分析機によるシアル化糖鎖抗原 KL-6 の測定と院内導入への検討から見えた有用性. 日本医科大学医学会 (第 455 回) (東京), 2011. 2.

[千葉北総病院呼吸器内科]

研究概要

[千葉北総病院呼吸器内科] 研究概要内科学 (呼吸器, 感染, 腫瘍部門) を担当し大学付属病院として教育, 臨床研究を担う以外に地域の中核病院として, 以上の三分野について多くの臨床研究実績を持つ. (1) 呼吸器病学 : 特発性間質性肺炎の治療法の開発, 慢性閉塞性肺疾患にともなう肺高血圧, 睡眠時無呼吸症候群の肺循環の超音波評価,

胸腔鏡下肺生検による間質性肺疾患の診断，気管支拡張症に対する血清診断分類の開発，慢性閉塞性肺疾患患者の筋疲労からのリハビリの適応決定，気管支喘息重責発作時の非侵襲的陽圧換気法の評価，呼吸困難感の評価，呼吸器疾患に対する大うつ，閾値下うつ病の潜在診断，咳喘息の治療評価 (2) 感染症学：市井肺炎の診断と経口抗生剤治療，肺炎入院治療パスの開発，病院感染対策，各種院内感染サーベイランス，院内肺炎の予防，特殊感染症診断制御，結核による院内感染制御，肺非定型抗酸菌症の治療，医療関係者および看護学生に対する麻疹，インフルエンザ，風疹の抗体価測定と予防接種，病院内耐性菌サーベイランス，マクロライドによる各種慢性肺疾患の急性増悪の制御，マクロライド抗菌薬の新作用開発。(3) 臨床腫瘍学：肺癌抗癌剤化学療法と副作用対策，肺癌の分子生物学的治療標的に対する至適治療法の確立，肺癌の気管支鏡診断，抗癌剤による副作用としての薬剤性肺臓炎の診断と治療以上につき臨床研究を継続中である。

研究業績

著書

- 1) 田中庸介，日野光紀，小野 靖，弦間昭彦¹⁾ (1) 日本医科大学呼吸器感染腫瘍部門)：[共著] 肺高血圧症が急速に発症増悪し，ボセンタンが短期間で著効した NSIP の 1 症例。Modern Physician モダンフィジシャン 臨増，2010；pp108-111，新興医学出版社。

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 田中庸介，蛸井浩行，小野 靖，日野光紀：当院における Obstructive Sleep Disordered Breathing (OSDB) の評価及び右心機能評価の検討。第 50 回日本呼吸器学会学術講演会 (京都)，2010. 4.
- 2) 蛸井浩行，田中庸介，日野光紀，栗林英彦，小野 靖，弦間昭彦¹⁾ (1) 日本医科大学呼吸器アレルギー感染症部門)：急速進行性の重傷肺高血圧症に対してボセンタンが著効し，速やかに病態の改善を得た NSIP の 1 例。日本内科学会第 574 回関東地方会 (東京都)，2010. 9.
- 3) 日野光紀¹⁾，実川東洋¹⁾，渡辺郷美¹⁾，川上陽子¹⁾，岡本直人¹⁾，柳下照子¹⁾ (1) 日本医科大学 千葉北総病院 病院感染対策委員会)：総合病院清掃における落下注射針の管理について。日本環境感染学会 (第 26 回) (横浜)，2011. 2.
- 4) 日野光紀¹⁾，実川東洋¹⁾，渡辺郷美¹⁾，川上陽子¹⁾，岡本直人¹⁾，柳下照子¹⁾ (1) 日本医科大学 千葉北総病院 病院感染対策委員会)：院内肺炎に対するタゾバクタム/ピペシリンナトリウム TAZ/PIPC 投与治療の現実：至適投与量に関する考察。日本環境感染学会 (第 26 回) (横浜)，2011. 2.
- 5) 日野光紀¹⁾，実川東洋¹⁾，渡辺郷美¹⁾，川上陽子¹⁾，岡本直人¹⁾，柳下照子¹⁾，石川 栄²⁾ (1) 日本医科大学 千葉北総病院 病院感染対策委員，²⁾ (株)竹村製作所)：陰圧室に対する光触媒除菌装置の応用。日本環境感染学会 (第 26 回) (横浜)，2011. 2.

5. 精神医学講座

[付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科]

研究概要

当講座では、精神疾患の病態を解明し、より科学的で適切な治療法を開発することを目的に、実際の診療場面で遭遇する症例を対象とする臨床研究を行ってきた。その際に、標準化された精神科診断学、症状評価法とともに各種の画像解析法を駆使し、精神障害の症状や病態を可能な限り科学的に捉えることに心がけた。今年度は以下の研究を行った。

1. 分子イメージングを用いた機能性精神疾患の病態研究：ポジトロン CT (PET) による神経伝達機能イメージングの技術を用いて、統合失調症および気分障害など機能性精神疾患の神経伝達機能異常を調べた。アルツハイマー病のイメージングバイオマーカーによる早期診断法の確立を目指して、アミロイドイメージングの開発研究を行った。
2. 分子イメージングを用いた精神科治療評価に関する研究：PET を用いて、抗精神病薬・抗うつ薬の作用・副作用と脳内特異的作用点の変化の関連を調べ、治療効果の客観的評価法の開発を目指した。また電気けいれん療法の抗うつ作用の神経基盤を検討した。
3. fMRI を用いた高次脳機能障害の研究：健常人を対象に聴覚、視覚刺激による情動反応の神経基盤を明らかにする研究や、向精神薬をはじめさまざまな薬物が高次脳機能に及ぼす作用について調べた。
4. 血管性うつ病の研究：血管性うつ病に対し脳画像、治療など様々な検討を行った。
5. 老年期精神障害および認知症に関する臨床研究を行った。
6. 高度救命救急センターに搬送された自殺未遂例に対する研究を行った。
7. 児童思春期の精神障害に関する研究：高度救命救急を受診する児童思春期の自殺に関する研究を中心にしながら、各種脳画像検査を用いて思春期青年期の精神障害の病態を調べる生物学的研究を開始した。
8. コンサルテーション・リエゾンや緩和ケアに関する研究や調査を行った。

研究業績

論文

[追加分]

追加分総説：

- 1) 須原哲也, 大久保善朗, 安野史彦, 高野晶寛, 高橋英彦, 荒川亮介, 一宮哲哉, 伊藤 浩, 加藤元一郎, 樋口真人: 精神疾患の病態解明と客観的治療評価に向けた PET イメージング研究. 最新医学 2010; 65 (1): 122-153.
- 2) 館野 周, 大久保善朗: 【臨床開発の最近の動向】機能画像研究の臨床開発応用. 臨床精神薬理 2010; 13 (2): 297-304.
- 3) 須原哲也, 大久保善朗, 安野史彦, 高野晶寛, 高橋英彦, 荒川亮介, 一宮哲哉, 伊藤 浩, 加藤元一郎, 樋口真人: 精神疾患の病態解明と客観的治療評価に向けた PET イメージング研究. 日本医師会雑誌 2010; 138(12): 2569-2574.

追加分原著：

- 1) Saijo T, Takano A, Arakawa R, Okumura M, Ichimiya T, Okubo Y: Effect of electroconvulsive therapy on 5-HT1A receptor binding in patients with depression: a PET study with [11C]WAY 100635. Int J Neuropsychopharmacol 2010; 13 (6): 785-791.

- 2) Ikeda Y, Yahata N, Takahashi H, Koeda M, Asai K, Okubo Y, Suhara T : Cerebral activation associated with speech sound discrimination during the diotic listening task : an fMRI study. *Neurosci Res* 2010 ; 67 (1) : 65-71.
- 3) Takahashi H, Takano H, Kodaka F, Arakawa R, Yamada M, Otsuka T, Hirano Y, Kikyo H, Okubo Y, Kato M, Obata T, Ito H, Suhara T : Contribution of dopamine D1 and D2 receptors to amygdala activity in human. *J Neurosci* 2010 ; 30 (8) : 3043-3047.
- 4) Adachi N, Akanuma N, Ito M, Kato M, Hara T, Matsuura M, Okubo Y, Onuma T : Epileptic, organic and genetic vulnerabilities for timing of the development of interictal psychosis. *Br J Psychiatry* 2010 ; 196 : 212-216.
- 5) Arakawa R, Ito H, Okumura M, Takahashi H, Takano H, Okubo Y, Suhara T : Dopamine D2 receptor occupancy by perospirone : a positron emission tomography study in patients with schizophrenia and healthy subjects. *Psychopharmacology (Berl)* 2010 ; 209 (4) : 285-290.
- 6) Sekine M, Arakawa R, Ito H, Okumura M, Sasaki T, Takahashi H, Takano H, Okubo Y, Halldin C, Suhara T : Norepinephrine transporter occupancy by antidepressant in human brain using positron emission tomography with (S,S)-[¹⁸F]FMeNER-D (2). *Psychopharmacology (Berl)* 2010 ; 210 (3) : 331-336.
- 7) Watari M, Hamazaki K, Hirata T, Hamazaki T, Okubo Y : Hostility of drug-free patients with schizophrenia and n-3 polyunsaturated fatty acid levels in red blood cells. *Psychiatry Res* 2010 ; 177 (1-2) : 22-26.

(1) 原著 :

- 1) Arakawa R, Okumura M, Ito H, Takano A, Takahashi H, Takano H, Maeda J, Okubo Y, Suhara T : Positron emission tomography measurement of dopamine D (2) receptor occupancy in the pituitary and cerebral cortex : relation to antipsychotic-induced hyperprolactinemia. *J Clin Psychiatry* 2010.
- 2) Kosaka J, Takahashi H, Ito H, Takano A, Fujimura Y, Matsumoto R, Nozaki S, Yasuno F, Okubo Y, Kishimoto T, Suhara T : Decreased binding of [11C]NNC112 and [11C]SCH23390 in patients with chronic schizophrenia. *Life Sci* 2010 ; 86 (21-22) : 814-818.
- 3) Ueda S¹⁾, Koyama K^{2, 3)}, Okubo Y¹⁾ (¹⁾ Department of Neuropsychiatry, Nippon Medical School, ²⁾ Tokyo Medical and Dental University Health Service Center, ³⁾ Department of Psychiatry, Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital) : Marked improvement of psychotic symptoms after electroconvulsive therapy in Parkinson disease. *The Journal of ECT* 2010 ; 26 (2) : 111-115.
- 4) Takano A¹⁾, Arakawa R¹⁾, Ito H¹⁾, Tateno A, Takahashi H¹⁾, Matsumoto R¹⁾, Okubo Y, Suhara T¹⁾ (¹⁾ Molecular Neuroimaging group, Molecular Imaging Center, National Institute of Radiological Sciences) : Peripheral benzodiazepine receptors in patients with chronic schizophrenia : a PET study with [11C]DAA1106. *The international journal of neuropsychopharmacology* 2010 ; 13 (7) : 943-950.
- 5) Kato K¹⁾, Kishi Y¹⁾, Okuyama T¹⁾, Trzepacz TP²⁾, Hosaka T¹⁾ (¹⁾ Department of Psychiatry, Tokai University Hospital, ²⁾ Neurosciences, Lilly Research Laboratories) : Japanese version of the Delirium Rating Scale, Revised-98 (DRS-R98-J) : reliability and validity. *Psychosomatics* 2010 ; 51 (5) : 425-431.
- 6) Koeda M, Tateno A, Ishizaka K, Saijo T, Okubo Y : Working memory processing for human voice perception in a patient with mild cognitive impairment : an FMRI study. *J Nippon Med Sch* 2010 ; 77 (4) : 188-189.
- 7) Karibe H¹⁾, Arakawa R, Tateno A, Mizumura S²⁾, Okada T³⁾, Ishii T³⁾, Oshima K³⁾, Ohtsu M³⁾, Hasegawa I³⁾, Okubo Y (¹⁾ Department of Pediatric Dentistry, School of Life Dentistry, Nippon Dental Uni-

- versity, ²⁾ Department of Radiology, Toho University Omori Medical Center, ³⁾ Clinical Center of Psychosomatic Dentistry, Nippon Dental University Hospital) : Regional cerebral blood flow in patients with orally localized somatoform pain disorder : a single photon emission computed tomography study. *Psychiatry and clinical neurosciences* 2010 ; 64 (5) : 476-482.
- 8) Matsumoto R, Ito H, Takahashi H, Ando T, Fujimura Y, Nakayama K, Okubo Y, Obata T, Fukui K, Suhara T : Reduced gray matter volume of dorsal cingulate cortex in patients with obsessive-compulsive disorder : a voxel-based morphometric study. *Psychiatry Clin Neurosci* 2010 ; 64 (5) : 541-547.
 - 9) Kishi Y¹⁾, Matsuki M¹⁾, Mizushima H¹⁾, Matsuki H¹⁾, Ohmura Y¹⁾, Horikawa N¹⁾ (¹⁾ Department of Psychiatry, Saitama Medical University) : The INTERMED Japanese version : inter-rater reliability and internal consistency. *J Psychosom Res* 2010 ; 69 (6) : 583-586.
 - 10) Arakawa R, Ito H, Okumura M, Takano A, Takahashi H, Takano H, Okubo Y, Suhara T : Extrastriatal dopamine D (2) receptor occupancy in olanzapine-treated patients with schizophrenia. *Eur Arch Psychiatry Clin Neurosci* 2010 ; 260 (4) : 345-350.
 - 11) Saijo T, Takano A, Suhara T, Arakawa R, Okumura M, Ichimiya T, Ito H, Okubo Y : Electroconvulsive therapy decreases dopamine D2 receptor binding in the anterior cingulate in patients with depression : a controlled study using positron emission tomography with radioligand [11C]FLB 457. *J Clin Psychiatry* 2010 ; 71 (6) : 793-799.
 - 12) Takahashi H, Kato M, Shibuya, Tomohisa T, Koeda M, Yahata, Noriaki N, Matsuura, Masato M, Asai, Kunihiko K, Suhara T, Okubo Y : Functional deficits in the extrastriate body area during observation of sports-related actions in schizophrenia. *Schizophr Bull* 2010 ; 36 (3) : 642-647.
 - 13) 上田 諭¹⁾, 石坂公介¹⁾, 坂寄 健¹⁾, 下田健吾¹⁾, 大久保善朗¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学精神医学教室) : ECTにおける有効な発作誘発の augmentation. *総合病院精神医学* 2010 ; 22 (2) : 153-161.
 - 14) 奥村正紀, 鮫島達夫, 栗田周一, 鹿島晴雄, 本橋伸高, 澤 温, 和田 健, 分島 徹, 川崎弘詔, 中村 満, 山口成良, 一瀬邦弘, 大久保善朗 : 【ECTにおける地域連携】電気けいれん療法 (ECT) のわが国での現況全国実態調査の結果から総合病院精神科に求められること. *総合病院精神医学* 2010 ; 22 (2) : 105-118.
 - 15) 肥田道彦¹⁾, 野原将英²⁾, 浅井邦彦²⁾, 大久保善朗¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学精神医学教室, ²⁾ 医療法人静和会 浅井病院) : 特集・患者と家族に伝えるべきこと心理教育 - update - 認知症患者とその家族に対する心理教育. *臨床精神医学* 2010 ; 39 (6) : 759-763.
 - 16) 小林孝文¹⁾, 早川達郎¹⁾, 佐藤茂樹¹⁾, 青木 勉¹⁾, 荒井 稔¹⁾, 恵紙英昭¹⁾, 桂川修一¹⁾, 岸 泰宏¹⁾, 黒木宣夫¹⁾, 黒澤 尚¹⁾, 小石川比良来¹⁾, 高岡 健¹⁾, 高田知二¹⁾, 高橋武久¹⁾, 築島 健¹⁾, その他 11 名 (¹⁾ 日本総合病院精神医学医療問題委員会) : 2008 年総合病院精神科基礎調査からみた総合病院精神科の現状. *総合病院精神医学* 2010 ; 22 (1) : 55-64.
 - 17) 宇佐美政英¹⁾, 齊藤万比古¹⁾, 傳田健三²⁾, 齊藤卓弥, 岡田 俊³⁾, 松本英夫⁴⁾, 山田佐登留⁵⁾ (¹⁾ 国立国際医療センター, ²⁾ 北海道大学医学部, ³⁾ 京都大学医学部, ⁴⁾ 東海大学医学部, ⁵⁾ 東京都小児医療センター) : 児童・青年期における SSRI/SNRI の使用実態と安全性に関する全国調査. *児童青年精神医学とその近接領域* 2011 ; 52 (1) : 21-35.
 - 18) 上田 諭¹⁾, 小山恵子^{2,3)}, 古茶大樹⁴⁾, 大久保善朗¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学精神医学教室, ²⁾ 東京医科歯科大学保健管理センター, ³⁾ 東京都老人医療センター精神科, ⁴⁾ 慶應義塾大学医学部精神神経科学教室) : 遅発緊張病の症状群を伴うレビー小体型認知症 : いかん症例を理解し治療するか. *精神神経学雑誌* 2011 ; 113 (2) : 144-156.
 - 19) 寺西美佳^{1,2)}, 栗田征武^{2,3)}, 西野 敏^{2,3)}, 武吉健児^{1,2)}, 沼田由紀夫²⁾, 佐藤忠宏²⁾, 中畑則道³⁾, 館野 周¹⁾, 大久保善朗¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学大学院精神行動医学分野, ²⁾ 社会医療法人公德会 佐藤病院, ³⁾ 東北大学大学

院薬学研究科細胞情報薬学分野)：認知症患者の中核症状，周辺症状および日常生活動作能力の関係について，
老年精神医学雑誌 2011；22 (2)：185-193.

(2) 総説：

- 1) 齊藤卓弥：児童青年期双極性障害に対する抗うつ薬の使用とその影響，臨床精神薬理 2010；13 (5)：907-912.
- 2) 木村真人：脳血管障害とうつ病：特集・加齢とうつ病，アンチ・エイジング医学 2010；6 (6)：832-837.
- 3) 上田 諭¹⁾，大久保善朗¹⁾ (1) 日本医科大学精神医学教室)：リエゾン精神医学 (含・緩和医療) の「落とし穴」，精神科 2010；16 (4)：320-325.
- 4) 岸 泰宏，黒澤 尚：救急医療におけるコンサルテーション・リエゾン精神医学，日本救急医学雑誌 2010；21 (4)：147-158.
- 5) 鮫島達夫，一瀬邦弘¹⁾，奥村正紀²⁾，中村 満，木村真人，大久保善朗 (1) 多摩中央病院，2) 東京都保健医療公社豊島病院)：【ECTにおける地域連携】ECTと地域連携 首都圏でのネットワークの立ち上げと現況，総合病院精神医学 2010；22 (2)：119-124.
- 6) 大久保善朗：カトニア (緊張病) 症候群の診断と治療，精神神経学雑誌 2010；112 (4)：396-401.
- 7) 齊藤卓弥：成人期の発達障害と心身医療 気分障害と発達障害，および米国における成人発達障害の取り組み，心身医学 2010；50 (4)：303-311.
- 8) 木村真人：脳卒中後うつ病の診断と治療：身体疾患とうつ病：特集うつを診る，総合臨牀 2010；59 (5)：832-837.
- 9) 齊藤卓弥：児童期の大うつ病性障害の非定型性，精神医学 2010；52 (5)：433-438.
- 10) 大久保善朗：脳機能画像からみたうつ病の病態と薬物療法，分子精神医学 2010；10 (3)：246-249.
- 11) 齊藤卓弥：ADHDの薬物療法の効果と限界，精神科治療学 2010；25 (7)：875-888.
- 12) 木村真人：リハビリテーションを「やる気がない」状態は要注意：脳卒中後うつ病の早期発見とケアのポイント，ナース専科 2010；30 (10)：20-25.
- 13) 木村真人：知っておこう脳卒中患者さんにおける「うつ病」発症の実態：「当然の反応」と見逃していませんか，ナース専科 2010；30 (10)：14-19.
- 14) 川島義高，伊藤敬雄，成重竜一郎，大高靖史，齊藤卓弥，大久保善朗：思春期の自殺：救命救急センターでの取り組み，臨床精神医学 39 (11) 2010；39 (11)：1397-1404.
- 15) 大久保善朗，荒川亮介：【新たな抗精神病薬 paliperidone 徐放錠への期待】Paliperidone 徐放錠の脳内動態特性，臨床精神薬理 2010；13 (11)：2045-2052.
- 16) 岸 泰宏：【一般医療と連携する精神科医療 (総合病院精神科) の新しい動向】コンサルテーション・リエゾン活動に特化した無床総合病院精神科の現状と今後，精神神経学雑誌 2010；112 (12)：1203-1209.
- 17) 館野 周：PET を用いた新規抗精神病薬 blonanserin の評価，臨床精神薬理 2011；14 (2)：334-341.
- 18) 岸 泰宏：【向精神薬-リスク&ベネフィット】せん妄を発症した重症患者へのquetiapine投与の効果と安全性：プラセボ対照多施設無作為2重盲検前向き試験，精神科治療学 2011；26 (1)：120-121.
- 19) 岸 泰宏：【向精神薬-リスク&ベネフィット】アルコール離脱症候群に対するpregabalin, tiaprideならびにlorazepamの多施設無作為単盲検比較試験，精神科治療学 2011；26 (2)：251-253.
- 20) 木村真人：アルツハイマー病の薬物治療：重要疾患・薬物療法トピックス：向精神薬：最近の動向，医学のあゆみ 2011；236 (10)：980-985.

(3) 研究報告書：

- 1) 関根瑞保，荒川亮介，奥村正紀，一宮哲哉，館野 周，齋藤卓弥，伊藤 浩，須原哲也：抗うつ薬による脳内ノルエピネフリントランスポーター占有率に関するPET研究，精神薬療研究年報 2010；42：25-26.

(4) 症例報告：

- 1) 上田 諭¹⁾ (1) 日本医科大学精神医学教室)：レビー小体病の精神症状としての体感幻覚. 臨床精神病理 2010；31 (1)：46.
- 2) 上田 諭, 小山恵子, 大久保善朗善朗：精神病性うつ病の下位亜型 老年期の3症例をもとに. 精神神経学雑誌 2010；2010 特別：S-198.
- 3) 上田 諭, 肥田道彦, 館野 周, 大久保善朗：H2 ブロッカー lafutidine による術後せん妄. 老年精神医学雑誌 2010；21 (増刊)：158.
- 4) 塩屋桐子, 内田淳子, 三上智子, 尾立源昭, 井川真理子, 平澤秀人, 大久保善朗, 内田 直：Late seizure (遅発性けいれん) 後, 短期間脳波上 PLEDs (周期性一側性てんかん型放電) がみられた多発性海綿状血管腫の1例. 精神神経学雑誌 2010；112 (9)：946.
- 1) 藤澤洋輔, 野守美千子, 神山貴弘, 館野周周, 八幡憲明, 大久保善朗：脳機能画像によるこころの科学. 日医大医会誌 2010；6 (1)：50-51.
- 2) 上田 諭¹⁾ (1) 日本医科大学精神医学教室)：認知症のないレビー小体型認知症はあり得るか？：レビー小体病の診断への懸念と提案. 精神医学 2010；52 (5)：515-517.
- 3) 本橋伸高, 一瀬邦弘, 鮫島達夫, 粟田主一, 奥村正紀, 大久保善朗, 澤 温, 和田 健, 山口成良：修正型電気けいれん療法 (mECT) 地域連携・麻酔科との連携をどのように行うか ECT 実態調査の報告. 精神神経学雑誌 2010；2010 特別：S-286.
- 4) 大森 中, 川島義高, 館野 周, 井出野尚史, 高橋英彦, 竹村和久, 大久保善朗：医学生・研修医における精神疾患への態度 教育・BSL・研修前後の変化についての検討. 精神神経学雑誌 2010；2010 特別：S-208.
- 5) 大久保善朗：【統合失調症】抗精神病薬の至適用量がPETで検討されていると聞いていますが、どのようなことでしょうか？. こころのりんしょう a・la・carte 2010；29 (2)：179.
- 6) 大久保善朗：【統合失調症】統合失調症は最近増えていますか？ また時代によって症状にも変化がありますか？. こころのりんしょう a・la・carte 2010；29 (2)：162.
- 7) 大久保善朗：【統合失調症】統合失調症は脳の病気でしょうか？ 脳にはどのような変化が生じているのでしょうか？. こころのりんしょう a・la・carte 2010；29 (2)：161.
- 8) 肥田道彦, 野原将英, 浅井邦彦, 大久保善朗：【患者と家族に伝えるべきこと 心理教育 update】認知症患者とその家族に対する心理教育. 【患者と家族に伝えるべきこと 心理教育 update】認知症患者とその家族に対する心理教育 2010；39 (6)：759-763.
- 9) 伊藤滋朗, 館野 周, 野村俊明, 大久保善朗：医学生を対象とする精神障害に関するチュートリアル教育の試み 精神障害に関する知識と偏見. 日本社会精神医学会雑誌 2010；19 (1)：97-98.
- 10) 小泉公平, 西條朋行, 館野 周, 野村俊明, 大久保善朗：大学生のメンタルヘルスの特徴 大学病院精神科外来統計から. 日本社会精神医学会雑誌 2010；19 (1)：116.
- 11) 奈古利恵, 西堀瑛美, 森山まどか, 安藤玲奈, 大森 中, 川島義高, 館野 周, 大久保善朗, 井出野尚, 高橋英彦, 竹村和久：IATを用いた精神疾患に対する差別的態度の評価 医学生を対象として. 医学教育 2010；41 (Suppl.)：193.
- 12) 木村真人：巻頭言：血管性うつ病の心身医学的側面. 心身医学 2010；50 (10)：903.
- 13) 渡部友香理, 肥田道彦, 金 禹叙, 池田裕美子, 鈴木秀典, 大久保善朗, 田中 博：聴覚情動処理時の脳活動に対するカフェインの効果 機能的MRI研究. 臨床神経生理学 2010；38 (5)：354.
- 14) 奈古利恵, 西堀瑛美, 森山まどか, 安藤玲奈, 大森 中, 川島義高, 館野 周, 大久保善朗, 井出野尚, 高橋英彦, 竹村和久：IATを用いた精神疾患に対する差別的態度の評価 医学生を対象として. 日医大医会誌 2010；6 (4)：233.
- 15) 肥田道彦, 渡部友香理, 金 禹叙, 池田裕美子, 鈴木秀典, 田中 博, 大久保善朗：聴覚情動処理時の脳活動

に対するカフェインの効果 機能的 MRI 研究. 臨床神経生理学 2010 ; 38 (5) : 354.

著 書

- 1) 大久保善朗, 一宮哲哉 : [分担] 小脳と精神疾患. 専門医のための精神科臨床リュミエール 16. 脳科学エッセンシャル : 精神疾患の生物学的理解のために (神庭重信/加藤忠史), 2010 ; pp82-83, 中山書店.
- 2) 木村真人 : [分担] 脳血管障害 : V 章うつ・不安と physical comorbidity. 脳とこころのプライマリーケア第 1 巻うつと不安 (下田和孝), 2010 ; pp284-294, 株式会社シナジー.
- 3) 上田 諭¹⁾, 鈴木一正²⁾, 松木秀幸³⁾, 松木麻妃⁴⁾ (¹⁾ 日本医科大学精神医学教室, ²⁾ 仙台市立病院精神科・認知症疾患医療センター, ³⁾ 埼玉医科大学総合医療センターメンタルクリニック, ⁴⁾ Department of Psychiatry and Behavioral Science, State University of New York at Stony Brook School of Medicine) : [翻訳] M.Fink 著 電気けいれん療法 : 医師の患者のためのガイド, 2010 ; 新興医学出版社.

学会発表

[追加分]

追加分セミナー :

- 1) 大久保善朗 : 統合失調症の病態と治療 : 脳機能画像研究からわかったこと. 心理教育・家族教室ネットワーク研究集会 (第 13 回) (福岡), 2010. 2.

追加分一般講演 :

- 1) 伊藤敬雄, 大久保善朗 : 自殺未遂者ケアのための医学生教育の検討. 日本総合病院精神医学会 (第 23 回) (東京), 2010. 3.

追加分特別講演 :

- 1) 大久保善朗 : 難治性うつ病の治療 : 電気けいれん療法 (ECT) の動向. 城北臨床精神医学会 (第 6 回) (東京), 2010. 1.

(1) 特別講演 :

- 1) Okubo Y : Implications of Brain Imaging for the Management of Schizophrenia. The 50th Anniversary International Conference, Department of Psychiatry, the Catholic University of Korea (Seou, Korea), 2010. 2.
- 2) Kishi Y : Psychiatric Consultation : Current and Future. World Psychiatric Association, International Congress (Beijing, China), 2010. 9.
- 3) Kishi Y : Consultation Liaison Psychiatry : Integration of Medical and Psychiatric Care. Korean Neuropsychiatric Association Annual Meeting (Busan, Korea), 2010. 10.
- 4) 木村真人 : 脳卒中後うつ病の早期発見と治療. 第 47 回日本リハビリテーション医学学術集会 (鹿児島), 2010. 5.
- 5) 大久保善朗 : 精神疾患における画像診断. 北区医師会学術講演会 (東京), 2010. 6.
- 6) 木村真人 : 脳卒中後のうつとアパシー. 第 34 回日本神経心理学会 (京都), 2010. 9.
- 7) 大久保善朗 : ドパミン系の分子イメージング : 精神症状の理解. 東京パーキンソンニズム臨床研究会 (第 10 回) (東京), 2010. 10.

(2) 招待講演 :

- 1) Okubo Y : Molecular imaging of psychotropic drug action using positron emission tomography. The World Psychiatric Association International Congress (Beijing, China), 2010. 9.

(3) 教育講演 :

- 1) 大久保善朗 : 統合失調症の病態と治療 : 脳画像検査でわかったこと. 平成 22 年度精神研都民講座 (第 4 回) (東

- 京), 2010. 10.
- 2) 伊藤敬雄¹⁾ (1) 日本医科大学精神医学教室): 睡眠リズムと生活習慣病 (新しい睡眠治療の幕開け). 順天堂浦安医師会 (浦安), 2011. 1.
 - 3) 伊藤敬雄¹⁾ (1) 日本医科大学精神医学教室): 高齢者の睡眠リズム障害とその治療. 目黒区医師会学術講演会 (目黒), 2011. 1.
 - 4) 伊藤敬雄¹⁾ (1) 日本医科大学精神医学教室): 不睡眠と生活習慣病. 文京区医師会学術講演 (文京), 2011. 2.
 - 5) 伊藤敬雄¹⁾ (1) 日本医科大学精神医学教室): 睡眠リズムと生活習慣病 (新しい睡眠治療の幕開け). 春日部医師会学術講演会 (春日部), 2011. 2.
 - 6) 伊藤敬雄¹⁾ (1) 日本医科大学精神医学教室): 睡眠について. 足立区区民教育講座 (北千住), 2011. 2.
 - 7) 伊藤敬雄¹⁾ (1) 日本医科大学精神医学教室): 睡眠について. 文京区区民教育講座 (文京), 2011. 3.
- (4) シンポジウム:
- 1) 三宅康史¹⁾, 有賀 徹¹⁾, 大塚耕太郎²⁾, 大橋寛子³⁾, 岸 泰宏, 坂本由美子⁴⁾, 守村 洋⁵⁾, 山田朋樹⁶⁾, 柳澤八恵子⁷⁾, 河西千秋⁶⁾, 伊藤弘人⁸⁾ (1) 昭和大学医学部救急部, 2) 岩手医科大学神経精神科学講座, 3) 日赤医療センター救命救急センター, 4) 関東労災病院救急・集中治療部, 5) 札幌市立大学看護学部, 6) 横浜市立大学精神医学教室, 7) 聖路加病院救命救急センター, 8) 国立精神・神経センター): 日本臨床救急医学会 自殺企図者のケアに関する検討委員会の取り組み (自殺防止: 救急医療におけるチーム医療). 日本総合病院精神医学会 (第23回) (東京), 2010. 11.
 - 2) 岸 泰宏: 精神科からみた臨床課題 (せん妄). 日本神経精神医学会 (第15回) (東京), 2010. 12.
 - 3) 岸 泰宏: コンサルテーション・リエゾン活動に特化した無床総合病院精神科の現状と今後 (一般医療と連携する精神科医療 (総合病院精神科) の新しい動向. 日本精神神経学会総会 (第106回) (広島), 2010. 5.
 - 4) 伊藤敬雄¹⁾ (1) 日本医科大学精神医学教室): ベテランにきく精神科リエゾンワークのコツ 米国におけるリエゾンワークの実際と経験. 日本精神神経学会学術総会 (第106回) (広島), 2010. 5.
 - 5) 齊藤卓弥: 児童青年精神科と精神科の接点: さまざまな疾患を中心に 気分障害について. 第106回日本精神神経学会 (広島), 2010. 5.
 - 6) 成重竜一郎: 自殺対策に関わる機関とその窓口 (自殺未遂者への対応: 救急医療スタッフのためのリソース). 日本臨床救急医学会総会・学術集会 (第13回) (幕張), 2010. 6.
 - 7) 齊藤卓弥: 子どもの精神疾患の薬物療法の将来. 第51回日本児童青年精神医学会総会 (群馬), 2010. 10.
 - 8) 齊藤卓弥: 精神科外来における発達障害併存例への治療的なかかわり. 第10回日本外来精神医療学会総会 (東京), 2010. 10.
 - 9) 木村真人: 脳卒中に伴う精神障害: うつとアパシーを中心に. 身体疾患に伴う精神障害 update. 第23回日本総合病院精神医学会 (東京), 2010. 11.
 - 10) 伊藤敬雄¹⁾, 大久保善朗¹⁾, 川井 真²⁾, 横田裕行²⁾ (1) 日本医科大学付属病院精神神経科, 2) 日本医科大学付属病院救命救急センター): 救命救急センター搬送患者にみる物質依存症の問題. 日本総合病院精神医学会 (第23回) (東京), 2010. 11.
 - 11) 齊藤卓弥: 小児のせん妄の診断と診断アルゴリズム. 第23回日本総合病院精神医学会 (東京), 2010. 11.
 - 12) 齊藤卓弥: 子どものうつ病とその背景. 第8回関東子ども精神保健学会 (東京), 2011. 3.
- (5) 一般講演:
- 1) 齊藤卓弥: Models of training in child and adolescent psychiatry in Japan. The 19th World Congress of IACAPAP (北京), 2010. 5.
 - 2) Tateno A, Arakawa R, Okumura M, Fukuta H, Ishihara K¹⁾, Kumita S¹⁾, Okubo Y (1) Department of Radiology, Nippon Medical School): Dose-finding study of blonanserin based on striatal and extrastriatal dopamine D2 receptor occupancy in patients with schizophrenia. XXVII Collegium Internationale Neuro-Psy-

chopharmacologicum congress (Hong Kong, China), 2010. 6.

- 3) Koeda M¹, Tateno A¹, Ogawa K¹, Shingai Y¹, Yahata N², Hama T³, Matsuura M³, Takahashi H⁴, Okubo Y¹ (¹ Department of Neuropsychiatry, Nippon Medical School, ² Department of Neuropsychiatry, University of Tokyo, ³ Department of Biofunctional Informatics, Tokyo Medical and Dental University, ⁴ Department of Neuropsychiatry, Kyoto University) : Effect of Lorazepam and Placebo on Cerebral Response to Fearful Vocal Sounds : An fMRI Study. The 16th Annual Meeting of the Organization for Human Brain Mapping (Barcelona, Spain), 2010. 6.
- 4) Ueda S, Koeda M, Okubo Y : Delirium induced by lafutidine, histamine H₂-receptor antagonist in postoperative cancer patients. American Psychosocial Oncology Society Annual Conference (8th) (Anaheim CA, USA), 2011. 2.
- 5) Koeda M¹, Tateno A¹, Ogawa K¹, Shingai Y¹, Yahata N², Hama T³, Matsuura M³, Takahashi H⁴, Okubo Y¹ (¹ Department of Neuropsychiatry, Nippon Medical School, ² Department of Neuropsychiatry, University of Tokyo, ³ Department of Biofunctional Informatics, Tokyo Medical and Dental University, ⁴ Department of Neuropsychiatry, Kyoto University) : Effects of Placebo and Lorazepam on Emotional Voice Processing : An fMRI Study. British Neuropsychiatric Association, the 24th Annual General Meeting (The Institute of Child Health, Guilford Street, London), 2011. 2.
- 6) 伊藤滋朗¹, 館野 周², 川島義高², 野村俊明³, 大久保善朗² (¹ 武蔵小杉病院精神科, ² 精神医学, ³ 心理学) : 医学生を対象とする精神障害に関するチュートリアル教育の試み : 精神障害に関する知識と偏見 : 第2報. 日本社会精神医学会 (第30回) (奈良県民会館), 2011. 3.
- 7) 坂寄 健, 竹澤健司¹, 坂本博子¹, 木村真人 (¹ すずき病院) : 認知症のせん妄にミルタザピンが奏効した症例. 第15回千葉総合病院精神科研究会 (千葉), 2010. 4.
- 8) 大森 中, 川島義高, 館野 周, 井出野尚¹, 高橋英彦², 竹村和久¹, 大久保善朗 (¹ 早稲田大学文学学術院心理学教室, ² 京都大学精神神経科) : 医学生・研修医における精神疾患への態度 : 教育・BSL・研修前後の変化についての検討. 日本精神神経学会総会 (第106回) (広島), 2010. 5.
- 9) 石井辰弥, 小須田茂美, 金禹瑣, 朝山健太郎, 一宮哲哉, 館野 周, 大久保善朗 : 高齢初発の躁病エピソードを呈した双曲I型障害の臨床的特徴. 日本精神神経学会 (第106回) (広島), 2010. 5.
- 10) 上田 論¹, 小山恵子^{2,3}, 大久保善朗¹ (¹ 日本医科大学精神医学教室, ² 東京医科歯科大学保健管理センター, ³ 東京都健康長寿医療センター精神科) : 精神病性うつ病の下位亜型 : 老年期の3症例をもとに. 日本精神神経学会学術総会 (第106回) (広島市), 2010. 5.
- 11) 藤澤洋輔¹, 八幡憲明², 野守美千子¹, 神山貴弘¹, 森田健太郎¹, 増岡孝浩¹, 館野 周, 川島義高, 大久保善朗 (¹ 日本医科大学医学部, ² 東京大学大学院医学系研究科精神医学分野) : 自尊心の神経基盤の探索 : 機能的MRIによる検討. 日本うつ病学会 (第7回) (富山), 2010. 6.
- 12) 上田 論, 肥田道彦, 館野 周, 大久保善朗 : H₂ ブロッカー lafutidine による術後せん妄. 日本老年精神医学会 (第25回) (熊本市), 2010. 6.
- 13) 藤原佳美¹, 若城由美子¹, 赤羽日出男¹, 岸 泰宏¹, 山口朋禎¹ (¹ 日本医科大学武蔵小杉病院 緩和ケアチーム) : 緩和ケア啓発活動の試み 「知って下さい緩和ケアを」を開催して. 日本緩和医療学会学術大会プログラム (第15回) (東京), 2010. 6.
- 14) 横田雅実, 中山菜央, 池森紀夫, 中尾泰崇, 木村真人 : うつ病と男性更年期障害との関連 : 遊離テストステロン値のからの検討. 第51回日本心身医学会総会 (仙台), 2010. 6.
- 15) 秋山友美, 岡崎安沙美, 池森紀夫, 中尾泰崇, 木村真人 : 就労に関する非合理的信念と抑うつ傾向の関連. 第51回日本心身医学会総会 (仙台), 2010. 6.
- 16) 木村真人 : うつ病治療におけるベンゾジアゼピン系薬剤の減量・中止に対するミルタザピンの有用性. 第51回

日本心身医学会総会（仙台），2010. 6.

- 17) 小野紘子，横田雅実，池森紀夫，中山菜央，内堀麻衣子，水成隆之¹⁾，木村真人⁽¹⁾ 千葉北総病院脳神経外科)：脳血管障害後のうつ症状とアパシーについての検討. 第51回日本心身医学会総会（仙台），2010. 6.
- 18) 奈古利恵¹⁾，西堀瑛美¹⁾，森山まどか¹⁾，安藤玲奈¹⁾，大森 中，川島義高，井出野尚²⁾，高橋英彦³⁾，館野 周，竹村和久²⁾，大久保善朗⁽¹⁾ 日本医科大学医学部，²⁾ 早稲田大学心理学部，³⁾ 京都大学精神科)：IATを用いた精神疾患に対する差別的態度の評価：医学生を対象として. 日本医学教育学会（第42回）（東京），2010. 7.
- 19) 齊藤卓弥，山田佐登留¹⁾，市川宏伸¹⁾，牛島定信²⁾（¹⁾ 都立梅ヶ丘病院，²⁾ 慈恵会医科大学）：児童思春期精神科における専門医療従事者の養成のための実施研修プログラム開発. 第42回医学教育学会（東京），2010. 7.
- 20) 奈古利恵¹⁾，西堀瑛美¹⁾，森山まどか¹⁾，安藤玲奈¹⁾，大森 中，川島義高，井出野尚²⁾，高橋英彦³⁾，館野 周，竹村和久²⁾，大久保善朗⁽¹⁾ 日本医科大学医学部，²⁾ 早稲田大学心理学部，³⁾ 京都大学精神科)：IATを用いた精神疾患に対する差別的態度の評価：医学生を対象として. 日本医科大学医学会総会（第78回）（東京），2010. 9.
- 21) 金 禹瑱，池田裕美子¹⁾，肥田道彦，館野 周，高橋英彦²⁾，鈴木秀典¹⁾，大久保善朗⁽¹⁾ 日本医科大学薬理学教室，²⁾ 京都大学精神神経科)：Stroop課題関連の脳活動に対するcaffeineの効果：fMRIによるドーピング効果の検出. 日本生物学的精神医学会（第32回）（北九州/リーガロイヤルホテル小倉），2010. 10.
- 22) 上田 諭¹⁾，古茶大樹²⁾（¹⁾ 日本医科大学精神医学教室，²⁾ 慶應義塾大学医学部精神神経科学教室）：精神症状として遅発緊張病を呈すレビー小体型認知症. 日本精神病理・精神療法学会（第33回）（東京都），2010. 10.
- 23) 鎌田悠里，菅野朋子，柳町公美，中山菜央，横田雅実，木村真人：新患者におけるLSASJからみたSADの合併について. 第27回北総精神科医会（千葉），2010. 10.
- 24) 朝山健太郎，山岡宣行，能登雅明，池森紀夫，中尾泰崇，鮫島達夫，木村真人：SSRI誘発性アパシーを呈した症例. 第27回北総精神科医会（千葉），2010. 10.
- 25) 山岡宣行，朝山健太郎，能登雅明，池森紀夫，中尾泰崇，鮫島達夫，木村真人：セロトニン症候群が疑われた症例. 第27回北総精神科医会（千葉），2010. 10.
- 26) 鎌田悠里，菅野朋子，柳町公美，中山菜央，横田雅実，木村真人：うつ状態患者におけるLSAS-JからみたSADの併存と他の心理学的特徴. 第27回北総精神科医会（千葉），2010. 10.
- 27) 鎌田悠里，菅野朋子，柳町公美，中山菜央，横田雅実，木村真人：うつ状態患者におけるLSAS-JからみたSADの併存と他の心理学的特徴. 第117回日本心身医学会関東地方会（東京），2010. 10.
- 28) 能登雅明，朝山健太郎，鮫島達夫，中尾泰崇，池森紀夫，木村真人：セロトニン症候群による落ち着きのなさとうつ病の焦燥感が鑑別困難であった症例. 第23回日本総合病院精神医学会（東京），2010. 10.
- 29) 肥田道彦¹⁾，館野 周¹⁾，小川耕平¹⁾，新貝慈利¹⁾，八幡憲明²⁾，濱 智子³⁾，高橋英彦⁴⁾，松浦雅人³⁾，鈴木秀典⁵⁾，大久保善朗¹⁾（¹⁾ 日本医科大学 精神医学教室，²⁾ 東京大学 精神神経科，³⁾ 東京医科歯科大学 生命情報解析学，⁴⁾ 京都大学 精神神経科，⁵⁾ 日本医科大学 薬理学教室）：感情を含む音声認知時の脳活動に対するプラセボ・ロラゼパムの効果. 第32回日本生物学的精神医学会（リーガロイヤル小倉，北九州市），2010. 10.
- 30) 川島義高，伊藤敬雄，大高靖史，成重竜一郎，齊藤卓弥，大久保善朗：思春期の自殺未遂症例の特性：思春期症例と成人症例との比較. 第23回日本総合病院精神医学会総会（東京），2010. 11.
- 31) 手塚晶人，山岡宣行，坂寄 健，館野 周，成重竜一郎，山本正浩，大久保善朗：大学病院における精神科初診時診断の推移. 日本精神科診断学会（第30回）（福岡），2010. 11.
- 32) 富澤大佑¹⁾，嶋田昌彦¹⁾，館野 周，大久保善朗⁽¹⁾ 東京医科歯科大学大学院疼痛制御学分野)：歯科領域における精神科コンサルテーション・リエゾン診療を行った5症例の報告. 日本総合病院精神医学会総会（第23回）（東京），2010. 11.
- 33) 廣山祐仁¹⁾，久野裕美子¹⁾，高橋千佳¹⁾，山下 礼¹⁾，川島義高，富澤大祐²⁾，館野 周，大久保善朗⁽¹⁾ 東京海上日動メディカルサービス株式会社，²⁾ 東京医科歯科大学大学院疼痛制御学分野)：EAPにおける心の健康

- スクリーニングツールの妥当性の検討. 日本総合病院精神医学会 (第23回) (東京), 2010. 11.
- 34) 山岡宣行, 手塚晶人, 坂寄 健, 館野 周, 成重竜一郎, 山本正浩, 大久保善朗: 大学病院における精神科初診時診断の20年間の推移. 日本総合病院精神医学会総会 (第23回) (東京), 2010. 11.
- 35) 上田 諭¹⁾, 坂寄 健¹⁾, 石坂公介¹⁾, 西條朋行¹⁾, 山本正浩¹⁾, 大久保善朗¹⁾: NIDSを重畳しうつ病相が遷延した精神病性双極性障害: ECTによる回復. 日本総合病院精神医学会総会 (第23回) (東京都), 2010. 11.
- 36) 秋山友美, 池森紀夫, 中尾泰崇, 中山菜央, 横田雅実, 木村真人: うつ病患者の性格傾向と就労に関する非合理的信念の検討. 第23回日本総合病院精神医学会 (東京), 2010. 11.
- 37) 山田千尋, 大角真由子, 谷恵梨子, 横田雅実, 中山菜央, 池森紀夫, 中尾泰崇, 木村真人: 大うつ病患者におけるNEO-FFIとTEG2による検討. 第23回日本総合病院精神医学会 (東京), 2010. 11.
- 38) 小野紘子, 横田雅実, 中山菜央, 池森紀夫, 水成隆之¹⁾, 木村真人¹⁾ 千葉北総病院脳神経外科: 脳血管障害後のうつ症状とアパシー及び破局反応について. 第23回日本総合病院精神医学会 (東京), 2010. 11.
- 39) 能登雅明, 朝山健太郎, 鯨島達夫, 中尾泰崇, 池森紀夫, 木村真人: 反復性うつ病の治療経過中にSSRI induced apathy syndromeを呈した1例. 第23回日本総合病院精神医学会 (東京), 2010. 11.
- 40) 中山菜央, 池森紀夫, 木村真人: 当院における緩和ケアチーム以来がん患者の心理的な関わり的重要性について. 第23回日本総合病院精神医学会 (東京), 2010. 11.
- 41) 寺西美佳^{1,2)}, 栗田征武^{2,3)}, 西野 敏^{2,3)}, 武吉健児^{1,2)}, 沼田由紀夫²⁾, 佐藤忠宏²⁾, 中畑則道³⁾, 館野 周¹⁾, 大久保善朗¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学大学院 精神行動医学分野, ²⁾ 社会医療法人公徳会 佐藤病院, ³⁾ 東北大学大学院薬学研究科細胞情報薬学分野): 認知症患者の中核症状, 周辺症状及び日常生活動作能力の関係について. 日本総合病院精神医学会総会 (第23回) (東京), 2010. 11.
- 42) 松本早栄子, 成重竜一郎, 桑原健太郎¹⁾, 齊藤卓弥, 大久保善朗 (¹⁾ 日本医科大学小児科学教室): 大学病院における児童精神科と小児科との院内連携の実践. 日本総合病院精神医学会総会 (第23回) (東京), 2010. 11.
- 43) 肥田道彦¹⁾, 渡部友香理²⁾, キムウーチャン¹⁾, 池田裕美子³⁾, 鈴木秀典³⁾, 田中 博²⁾, 大久保善朗¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 精神医学教室, ²⁾ 東京医科歯科大学 生命情報教育部 システム生命情報学, ³⁾ 日本医科大学 薬理学教室): 聴覚作動性記憶時の脳活動に対するカフェインの効果: 機能的MRI研究. 第40回日本臨床神経生理学会学術大会 (神戸国際会議場, 神戸), 2010. 11.
- 44) 横田雅実, 秋山友美, 小野紘子, 中山菜央, 池森紀夫, 木村真人: 高齢うつ病患者におけるVSRADと長谷川式簡易知能評価スケールの関連性について. 第118回日本心身医学会関東地方会 (東京), 2011. 2.
- 45) 梅原沙衣加, 小林明日実, 馬場仁美, 横田雅実, 中山菜央, 池森紀夫, 中尾泰崇, 木村真人: うつ病患者におけるNEO-FFIによる検討. 第118回日本心身医学会関東地方会 (東京), 2011. 2.
- 46) 菅野朋子, 柳町公美, 鎌田悠里, 中山菜央, 中尾泰崇, 池森紀夫, 木村真人: うつ状態患者におけるPFスタディの傾向と他の心理的特徴. 第118回日本心身医学会関東地方会 (東京), 2011. 2.
- 47) 石田 悠¹⁾, 金 禹瓊²⁾, 齋藤卓哉²⁾, 宮島 祐¹⁾, 森地振一郎¹⁾, 鈴木一徳¹⁾, 小穴信吾¹⁾, 山中 岳¹⁾, 高見 剛¹⁾, 星加明德 (¹⁾ 東京医科大学小児科学教室, ²⁾ 日本医科大学精神神経科学教室): ADHD児に生じた諸問題. ADHD学会総会 (第2回) (慈恵医科大学), 2011. 3.

6. 小児科学講座

[付属病院小児科・武蔵小杉病院周産期・小児医療センター（小児科，小児外科，新生児科）・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科]

研究概要

小児科学教室は，付属4病院小児科の協力のもとに，臨床的研究そして基礎的研究を行っており，研究業績は一括して報告する．主たる研究内容は，(1) 再生医療への造血幹細胞を用いた細胞・遺伝子治療の基礎的研究，(2) 白血病治療後の晩期障害の検討ならびに抗癌剤耐性の機序の解明，(3) 川崎病の冠動脈瘤および血管リモデリングに対する分子生物学的研究，(4) 小児糖尿病児および肥満児の代謝動態の研究，(5) 小児期の腎・尿路疾患の臨床および病理学的検討，(6) 小児呼吸器疾患の臨床的特徴および肺胞音スペクトル解析とKL-6の臨床応用，(7) 新生児・乳児早期の腸内細菌叢とアレルギー疾患発症との検討，(8) 小児慢性疲労症候群の病態の解析，(9) 小児の痙攣およびてんかんの臨床と電気生理学所見・画像所見の検討などである．

研究業績

論文

[追加分]

追加分総説：

- 1) 伊藤保彦：子どもの薬：私なら今これをこう使う．抗リウマチ剤．小児科臨床 2007；60（12）：2481-2486.
- 2) 伊藤保彦：痛みと疲労：小児の線維筋痛症と慢性疲労症候群．治療 2008；90（3）：531-536.
- 3) 伊藤保彦：膠原病診療のブレークスルー：早期診断・早期治療のポイント-14．小児の薬物療法では何を留意すべきか．内科 2008；101（4）：678-682.
- 4) 伊藤保彦，五十嵐徹，福永慶隆：特集「小児の痛み」II．疾患・病態における鎮痛コントロール 9．線維筋痛症．小児科 2008；49（11）：1630-1634.
- 5) 伊藤保彦：特集「自己免疫疾患：病態と治療」I．発症機序 3．自己抗体．小児内科 2008；40（12）：1876-1880.
- 6) 山西慎吾，伊藤保彦：抗リン脂質抗体症候群．小児内科 2008；40（12）：1455-1459.
- 7) 伊藤保彦：新生児ループス．リウマチ科 2009；42（6）：611-615.
- 8) 伊藤保彦：自己免疫疾患と自己炎症疾患．日医大医学会誌 2010；6（1）：40-41.
- 9) 小川俊一⁽¹⁾ 小児科学：学校心臓検診で育った日本の子どもたち「先天性心疾患」．心臓 2010；42：163-169.
- 10) 川上康彦，桑原健太郎，藤野 修：けいれんと間違えやすい生理的運動・異常運動．小児内科 2010；43（3）：367-371.

追加分原著：

- 1) Narazaki H^{1,2)}，Watari E¹⁾，Shimizu M¹⁾，Owaki A¹⁾，Das H³⁾，Fukunaga Y²⁾，Takahashi H¹⁾，Sugita M¹⁾ ⁽¹⁾ Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, Japan, ⁽²⁾ Department of Pediatrics, Nippon Medical School, Japan, ⁽³⁾ Lymphocyte Biology Section, Division of Rheumatology, Immunology, and Allergy, Brigham and Women's Hospital and Harvard Medical School, Boston, MA 021) : Perforin-dependent killing of tumor cells by Vgamma1Vdelta1-bearing T-cells. Immunology Letters 2003；86（1）：113-119.
- 2) Kawashima T¹⁾，Norose Y¹⁾，Watanabe Y¹⁾，Enomoto Y¹⁾，Narazaki H¹⁾，Watari E¹⁾，Tanaka S¹⁾，Takahashi H¹⁾，Yano I²⁾，Brenner M³⁾，Sugita M¹⁾ ⁽¹⁾ Department of Microbiology and Immunology and

Second Department of Surgery, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, ²⁾ Japan BCG Laboratory, Kiyose, Tokyo, Japan, ³⁾ Lymphocyte Biology Section, Division of Rheumatology, Immunology, and Allergy, Brigham and Women's Hospital, Harvard Medical School, Boston, MA 02115) : Cutting Edge : Major CD8 T Cell Response to Live Bacillus Calmette-Guérin Is Mediated by CD1 Molecules. *Journal of Immunology* 2003 ; 170 (11) : 5345-5248.

- 3) Yokota S¹⁾, Mori M¹⁾, Imagawa T¹⁾, Takei S²⁾, Murata T³⁾, Tomiita M⁴⁾, Itoh Y, Fujikaw S⁵⁾ (¹⁾ Department of Pediatrics, Yokohama City University School of Medicine, ²⁾ School of Health Sciences, Faculty of Medicine, Kagoshima University, ³⁾ Department of Pediatrics, Osaka Medical College, ⁴⁾ Department of Pediatrics, Graduate School of Medicine, Chiba University, ⁵⁾ Institute of Rheumatology, Tokyo Women's Medical University) : Proposal for Juvenile idiopathic arthritis guidance on diagnosis and treatment for primary care pediatricians and nonpediatric rheumatologists. *Modern Rheumatology* 2007 ; 17 (5) : 353-363.
- 4) Kuwabara N, Itoh Y, Igarashi T, Fukunaga Y : Autoantibodies to lens epithelium-derived growth factor/transcription co-activator P75 (LEDGF/P75) in children with chronic nonspecific complaints and with positive antinuclear antibodies. *Autoimmunity* 2009 ; 42 (6) : 492-496.
- 5) Hayakawa J, Migita M, Ueda T, Fukunaga R, Adachi K, Ooue Y, Hyakawa M, Shimada T, Fukunaga Y : Dextran sulfate and stromal cell derived factor-1 promote CXCR4 expression and improve bone marrow homing efficiency of infused hematopoietic stem cells. *J Nippon Med Sch* 2009 ; 76 (4) : 198-208.
- 6) Narazaki H, Zhu Y, Luo L, Zhu G, Chen L (¹⁾ Department of Oncology and the Sidney Kimmel Comprehensive Cancer Center, Johns Hopkins University School of Medicine, Baltimore, MD) : CD137 agonist antibody prevents cancer recurrence : contribution of CD137 on both hematopoietic and nonhematopoietic cells. *Blood* 2010 ; 115 (10) : 1941-1948.
- 7) 横田俊平¹⁾, 森 雅亮¹⁾, 今川智之¹⁾, 武井修治²⁾, 村田卓司³⁾, 富板美奈子⁴⁾, 伊藤保彦, 藤川 敏⁵⁾ (¹⁾ 横浜市立大学医学部小児科, ²⁾ 鹿児島大学医学部小児科, ³⁾ 大阪医科大学小児科, ⁴⁾ 千葉大学大学院医学研究院小児病態学, ⁵⁾ 東京女子医科大学リウマチ痛風センター) : 若年性特発性関節炎 初期診療の手引き. *日誌* 2007 ; 111 (8) : 1103-1112.
- 8) 横田俊平¹⁾, 今川智之¹⁾, 武井修治²⁾, 村田卓司³⁾, 富板美奈子⁴⁾, 伊藤保彦, 藤川 敏⁵⁾, 森 雅亮¹⁾ (¹⁾ 横浜市立大学医学部小児科, ²⁾ 鹿児島大学医学部小児科, ³⁾ 大阪医科大学小児科, ⁴⁾ 千葉大学大学院医学研究院小児病態学, ⁵⁾ 東京女子医科大学リウマチ痛風センター) : 若年性特発性関節炎に対する生物学的製剤治療の手引き I. トシリズマブ. *日誌* 2008 ; 112 (5) : 911-923.

(1) 原著 :

- 1) Omiya R^{1, 2)}, Tsushima F²⁾, Narazaki H²⁾, Sakoda Y^{1, 2)}, Kuramasu A¹⁾, Kim Y¹⁾, Xu H²⁾, Tamura H³⁾, Zhu G²⁾, Chen L²⁾, Tamada K^{1, 2)} (¹⁾ Marlene and Stewart Greenebaum Cancer Center, University of Maryland, Baltimore, MD, ²⁾ Department of Dermatology, Johns Hopkins University School of Medicine, Baltimore, MD, USA, ³⁾ Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Leucocyte-associated immunoglobulin-like receptor-1 is an inhibitory regulator of contact hypersensitivity. *Immunology* 2009 ; 128 (4) : 543-555.
- 2) Asano T, Ichiki K, Koizumi S, Kaizu K, Hatori T, Fujino O, Mashiko K, Sakamoto Y, Miyasho T, Fukunaga Y : Increased cytokines and chemokines in cerebrospinal fluids in mumps meningitis in children. *Pediatr Int* 2010 ; 53 (2) : 143-146.
- 3) Asano T, Ichiki K, Koizumi S, Kaizu K, Hatori T, Fujino O, Mashiko K, Sakamoto Y, Miyasho T, Fukunaga Y : IL-8 in cerebrospinal fluids in acute encephalopathy was increased compared in febrile seizure

in children. *Scand J Immunol* 2010 ; 71 (6) : 447-451.

- 4) Fujita A, Migita M, Ueda T, Ogawa R, Fukunaga Y, Shimada T : Hematopoiesis in Regenerated Bone Marrow Within Hydroxyapatite Scaffold. *PEDIATRIC RESEARCH* 2010 ; 68 (1) : 35-40.
- 5) Fujita A, Migita M, Ueda T, Ogawa R, Fukunaga Y, Shimada T : Hematopoiesis in regenerated bone marrow within hydroxyapatite scaffold. *Pediatr Res* 2010 ; 68 (1) : 35-49.
- 6) Park J¹⁾, Omiya R¹⁾, Matsumura Y¹⁾, Sakoda Y¹⁾, Kuramasu A¹⁾, Augustine M²⁾, Yao S²⁾, Tsushima F²⁾, Narazaki H²⁾, Anand S²⁾, Liu Y¹⁾, Strome S^{1, 3)}, Chen L²⁾, Tamada K^{1, 3)} (1) Marlene and Stewart Greenebaum Cancer Center, University of Maryland, Baltimore, 2) Department of Oncology and Institute for Cell Engineering, Johns Hopkins University School of Medicine, Baltimore, MD, 3) Department of Otorhinolaryngology-Head and Neck Surgery, University of Maryland School of Medicine, Baltimore) : B7-H1/CD80 interaction is required for the induction and maintenance of peripheral T-cell tolerance. *Blood* 2010 ; 116 (8) : 1291-1298.
- 7) Sugano H¹⁾, Ueda T¹⁾, Migita M¹⁾, Mimura S¹⁾, Maeda M¹⁾, Sugita T²⁾, Fukunaga Y¹⁾ (1) Department of Pediatrics, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, 2) Department of Microbiology, Meiji Pharmaceutical University, Tokyo, Japan) : *Pichia anomala* pneumonia in a patient with acute lymphoblastic leukemia on maintenance therapy. *Leukemia&Lymphoma* 2010 ; 51 (8) : 1574-1576.
- 8) Sugano H, Ueda T, Migita M, Mimura S, Maeda M, Sugita T, Fukunaga Y : *Pichia anomala* pneumonia in a patient with acute lymphoblastic leukemia on maintenance therapy. *Leuk Lymphoma* 2010 ; 51 (8) : 1574-1576.
- 9) Ogawa S¹⁾, Akagi T²⁾, Baba K³⁾, Fujiwara H⁴⁾, Hamaoka K⁵⁾, Ishii M⁶⁾, Saji T⁷⁾, Karasawa K⁸⁾, Sonobe T⁹⁾, Suzuki A¹⁰⁾, Ayusawa M⁸⁾, Fukazawa R¹⁾, Okada T⁸⁾ (1) Department of Pediatrics, Nippon Medical School, 2) Cardiac Intensive Care Unit, Okayama University Hospital, 3) Department of Pediatrics, Osaka Developmental and Rehabilitation Center, 4) Hyogo Prefectural Amagasaki Hospital, 5) Department of Pediatric Cardiology and Nephrology, Kyoto Prefectural University of Medicine Graduate School of Medical Science, 6) Department of Pediatrics, Kitasato University, 7) First Department of Pediatrics, Toho University, 8) Department of Pediatrics, Nihon University School of Medicine, 9) Department of Pediatrics, Japanese Red Cross Medical Center, 10) Department of Pediatrics, Tokyo Teisin Hospital) : Guidelines for Diagnosis and Management of Cardiovascular Sequelae in Kawasaki Disease (JCS 2008). *Circ J* 2010 ; 74 : 1989-2020.
- 10) Shima Y, Ishikawa H, Matsumura Y, Yashiro K, Nakajima M, Migita M : Idiopathic severe constriction of the fetal ductus arteriosus : a possible underestimated pathophysiology. *Eur J Pediatr* 2010 ; 170 (2) : 237-240.
- 11) Fang S¹⁾, Emiko H¹⁾, Yasuhiro K²⁾, Rumiko M¹⁾, Toshio N¹⁾ (1) International Research and Educational Institute for Integrated Medical Sciences, Tokyo Women's Medical University, 2) Department of Pediatrics, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital) : The role of the large-conductance voltage-dependent and calcium-activated potassium (BK_{Ca}) channels in the regulation of rat ductus arteriosus tone. *Heart Vessels* 2010 ; 25 (6) : 556-564.
- 12) Hayakawa J, Elizabeth J, Jean G, Washington K, Phang O, Uchida N, Hsieh M, Tisdale J : 5% dimethyl sulfoxide (DMSO) and pentastarch improves cryopreservation of cord blood cells over 10% DMSO. *Transfusion* 2010 ; 50 (10) : 2158-2166.
- 13) Uchikoba Y, Fukazawa R, Ohkubo T, Maeda M, Ogawa S : Early detection of subclinical anthracycline cardiotoxicity on the basis of QT dispersion. *J Nippon Med Sch* 2010 ; 77 (5) : 234-2243.

- 14) Migita M, Gocho Y, Ueda T, Saigusa H, Fukunaga Y : An 8-year-old girl with a recurrence of obstructive sleep apnea syndrome caused by hypertrophy of tubal tonsils 4 years after adenotonsillectomy. *J Nippon Med Sch* 2010 ; 77 (5) : 265-268.
 - 15) Shima Y, Nishimaki S, Nakajima M, Kumasaka S, Migita M : Urinart β -2-microglobulin as an alternative marker for fetal inflammatory response and development of bronchopulmonary dysplasia in premature infants. *J Perinatol* 2010 ; 2.
 - 16) Asano T, Ichiki K, Koizumi S, Kaizu K, Hatori T, Fujino O, Mashiko K, Sakamoto Y, Miyasho T, Fukunaga Y : IL-17 is increased in cerebrospinal fluids in bacterial meningitis in children. *Cytokine* 2010 ; 51 : 101-106.
 - 17) Koizumi S, Saito K, Murashima Y, Kawakami Y : Theophylline-induced changes in mouse electroencephalograms. *Brain and Development* 2010 ; 32 (10) : 818-820.
 - 18) Hayakawa J, Hsieh M, Washington K, Uchida N, Phang O, Tisdale J : The assessment of human erythroid output in NOD/SCID mice reconstituted with human hematopoietic stem cells. *Cell Transplant* 2010 ; 19 (11) : 1465-1473.
 - 19) Fukazawa R, Tamai J, Imai T, Takeda S, Hayakawa J, Narazaki H, Shimizu K, Takase M : Multi-row Detector Computed Tomography Coronary Angiogram Image of an Anomalous Left Coronary Artery from the Pulmonary Artery. *J Nippon Med Sch* 2011 ; 78 (1) : 2-3.
 - 20) 浅野 健 : 急性・慢性感染症. *総合診療マニュアル* 2010 ; 878-883.
 - 21) 大園秀一, 石田也寸志, 栗山貴久子, 浅見恵子, 前田美穂, 有瀧健太郎, 堀 浩樹, 山口悦子, 力石 健, 徳山美香, 前田尚子, 堀部敬三 : 小児がん長期フォローアップにおける「治療のまとめ」の意義と活用法. *小児がん* 2010 ; 47 (3) : 471-476.
 - 22) 高瀬真人 : 急性細気管支炎における特徴的な肺音について. *薬理と臨床* 2010 ; 20 (5) : 229-302.
- (2) 総説 :
- 1) Fukazawa R : Long-term prognosis of Kawasaki disease : increased cardiovascular risk?. *Corrent Opinion in Pediatrics* 2010 ; 22 (5) : 587-592.
 - 2) 小川俊一 ⁽¹⁾ 小児科学教室) : 特集 : 成人期における川崎病冠状動脈瘤を考える「急性期一回復期一成人期の虚血性心疾患を考察する」. *Vascular Medicine* 2010 ; 6 : 15-21.
 - 3) 前田美穂 ⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院小児科) : 鉄欠乏性貧血小児治療指針. *小児科診療* 2010 ; 73 (増刊号) : 425-427.
 - 4) 小川俊一 ⁽¹⁾ 小児科学教室) : 川崎病後冠動脈狭窄のカテーテル治療. *小児科* 2010 ; 51 : 403-410.
 - 5) 高瀬真人 : 小児の呼吸器疾患評価法の進歩. *呼吸* 2010 ; 29 (5) : 469-478.
 - 6) 高瀬真人 : 小児の肺機能検査のスタンダード : 日本人小児スパイログラム基準値とカットオフ値. *日本小児呼吸器疾患学会雑誌* 2010 ; 21 (1) : 17-22.
 - 7) 高瀬真人 : 急性喉頭蓋炎の画像診断. *日本医事新報* 2010 ; (4498) : 79-80.
 - 8) 高瀬真人 : これだけは知っておきたい気道疾患の最新診断検査法. *小児科診療* 2010 ; 73 (10) : 1663-1668.
 - 9) 深澤隆治 : 小児の心不全の治療. *小児科* 2010 ; 51 (10) : 1279-1288.
 - 10) 重盛朋子, 伊藤保彦, 福永慶隆 : リウマチ熱. *小児内科* 2010 ; 42 (増刊号) : 741-744.
 - 11) 高瀬真人 : 小児の手術が必要な気管食道疾患. *日本気管食道科学会会報* 2010 ; 61 (5) : 415-420.
 - 12) 川上康彦 : 小児における適用拡大への方向性 : 医師の立場から・現状の問題点の分析と今後に向けての一私見. *アプライドセラピューティクス* 2010 ; 2 (1) : 14-26.
 - 13) 伊藤保彦, 福永慶隆 : 自己免疫疾患の発症機序. *小児科診療* 2010 ; 73 (12) : 2089-2094.

(3) 研究報告書：

- 1) 前田美穂¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 小児科)：貧血検査の実施成績. 東京都予防医学協会年報 2011年版 2011；(40)：55-59.

(4) 症例報告：

- 1) Asano T, Ichiki K, Koizumi S, Kaizu K, Hatori T, Fujino O：High prevalence of antibodies against Bartonella henselae with cervical lymphadenopathy in children. *Pediatr Int* 2010；52 (4)：533-535.
- 2) 桑原健太郎¹⁾, 板橋寿和¹⁾, 西脇レイ¹⁾, 山西未穂¹⁾, 福永慶隆¹⁾ (1) 日本医科大学大学院医学研究科小児医学)：非けいれん性てんかん重積状態により意識障害が遷延した突発性発疹の1例. *日医大医学会誌* 2010；6 (4)：185-189.

著書

〔追加分〕

追加分：

- 1) 伊藤保彦：〔分担〕自己抗原からみた自己免疫疾患の発症機序. ひらかれた小児リウマチ診療 (野間剛), 2009；pp25-28, セカンド.
- 1) 瀧澤俊広¹⁾, 石橋 宰, 松原茂樹, 右田 真 (1) 日本医科大学 分子解剖学)：〔共著〕胎盤から母体循環に分泌されるエクソソーム 胎盤特異的 microRNA の意義と臨床への展開. 「ヒトの誕生・老化・疾患を運ぶエクソソーム miRNA・タンパク質を輸送する細胞外小胞」；pp392-398, 実験医学.
- 2) 前田美穂：〔分担〕血液疾患 貧血. *小児科学レビュー* (五十嵐隆), 2010；pp99-104, 総合医学社.
- 3) 右田 真, 福永慶隆：〔自著〕小児の腹痛. *総合診療マニュアル*, 2010；pp41-43, 金芳堂.
- 4) 植田高弘, 右田 真：〔共著〕小児貧血. *総合診療マニュアル*, 2010；pp101-103, 金芳堂.
- 5) 右田 真, 福永慶隆：〔共著〕オーバービュー. *総合診療マニュアル*, 2010；pp875-878, 金芳堂.
- 6) 右田 真, 植田高弘：〔共著〕消化器疾患. *総合診療マニュアル*, 2010；pp889-888, 金芳堂.
- 7) 勝部康弘：〔分担〕第10章先天性心疾患 4. 動脈管開存症 5. 肺動脈狭窄症 6. Fallot 四徴症. *循環器内科学* (水野杏一・安武正弘・平山悦之), 2010；pp278-285, シュプリンガー・ジャパン.
- 8) 深澤隆治：〔共著〕第10章 先天性心疾患「肺動脈狭窄症」. *循環器内科学* (水野杏一, 安武正弘, 平山悦之), 2010；pp280-281, シュプリンガー・ジャパン.
- 9) 小川俊一：〔分担〕「心室中隔欠損症」. *循環器内科学* (水野杏一, 安武正弘, 平山悦之), 2010；pp271-274, シュプリンガー・ジャパン株式会社.
- 10) 小川俊一：〔分担〕「房室中隔欠損症」. *循環器内科学* (水野杏一, 安武正弘, 平山悦之), 2010；pp275-277, シュプリンガー・ジャパン株式会社.
- 11) 柳原 剛, 伊藤保彦：〔分担〕5. リウマチ・膠原病 血管炎症候群 (川崎病, Henoch-Schoenlein 紫斑病を除く). *小児科診療* 第73号 2010年増刊号, 2010；pp304-306, 診断と治療社.
- 12) 植田高弘, 前田美穂：〔自著〕貧血. 知っておくべき小児科の知識 (清水俊明), 2011；pp216-219, Modern Physician.

学会発表

〔追加分〕

追加分 Meet the Expert：

- 1) 小川俊一：Overview of the JCS 2008 Guidelines for Diagnosis and Management of Cardiovascular Sequelae in Kawasaki Disease (Prevention of Coronary Artery Aneurysms：Advances in Kawasaki Disease). 第74回日本循環器学会 (京都), 2010. 3.

追加分一般講演：

- 1) Itoh Y, Kaizu K, Igarashi T, Fukunaga Y : Subchemical hypothyroidism and autoimmune fatigue syndrome. Asia Pacific League of Associations for Rheumatology (11th) (Jeju, Korea), 2004. 9.
- 2) Itoh Y, Igarashi T, Fukunaga Y : Subchemical hypothyroidism and autoimmune fatigue syndrome. Annual Meeting of the American Association of Immunologists (2005) (San Diego, USA), 2005. 4.
- 3) Itoh Y, Igarashi T, Fukunaga Y : The predominance of anti-Ro52 and its relationship with clinical manifestations in children with Sjogren's syndrome. Annual Scientific Meeting of the American College of Rheumatology (69th) (San Diego, CA, USA), 2005. 11.
- 4) Itoh Y, Igarashi T, Imai T, Fujino O, Fukunaga Y : Autoantibodies generating fatigue in children. 1st. Congress of Asian Society for Pediatric Research (Tokyo, Japan), 2005. 11.
- 5) Itoh Y, Igarashi T, Fukunaga Y : Autoantibodies generating fatigue long before the onset of the diseases in children. Annual Meeting of the American Association of Immunologists (2006) (Boston, MA, USA), 2006. 5.
- 6) Itoh Y, Igarashi T, Fujino O, Fukunaga Y : The target antigen of anti-Sa and an ELISA system using recombinant antigen as a diagnostic tool for CFS. 2nd. Congress of Asian Society for Pediatric Research (Tokyo, Japan), 2006. 12.
- 7) Itoh Y, Igarashi T, Fukunaga Y : Autoantibodies generating fatigue long before the onset of the diseases in children. Asia Pacific League of Associations for Rheumatology (13th) (Yokohama, Japan), 2008. 9.
- 8) 伊藤保彦, 五十嵐徹, 福永慶隆 : リコンビナント抗原を用いた ELISA 法による抗 Sa 抗体の測定と小児 CFS 診断における有用性について. 平成 18 年度厚生労働科学研究費補助金「引きこもりに繋がる小児慢性疲労, 不登校の治療・予防に関する臨床的研究」班会議 (熊本), 2006. 11.
- 9) 伊藤保彦, 五十嵐徹, 福永慶隆 : 慢性疲労症候群発病から 9 年後に全身性硬化症を発症した 1 例. 千葉小児膠原病懇話会 (第 2 回) (千葉), 2007. 1.
- 10) 伊藤保彦, 五十嵐徹, 福永慶隆 : 慢性疲労症候群における成長ホルモンの関与について. 日本リウマチ学会総会 (第 51 回) (横浜), 2007. 4.
- 11) 伊藤保彦, 五十嵐徹, 桑原奈津子, 今井大洋, 藤野 修, 福永慶隆 : ELISA 法による抗 transcription coactivator p75 抗体の測定と慢性疲労症候群の診断. 日本小児科学会学術集会 (第 110 回) (京都), 2007. 4.
- 12) 伊藤保彦, 五十嵐徹, 福永慶隆 : 抗 Ro 抗体出現以前から観察し得た小児シェーグレン症候群患者の検討. 日本シェーグレン症候群学会 (第 16 回) (京都), 2007. 9.
- 13) 桑原健太郎¹⁾ (日本医科大学小児科) : 小児または若年成人の *H. pylori* 感染者の除菌について. 日本小児 *H. pylori* 研究会 (第 15 回) (東京), 2010. 3.
- 14) 深澤隆治, 阿部正徳, 上砂光裕, 勝部康弘, 小川俊一¹⁾ (小児科学教室) : Thrombocyte Gene Expression Profiling for Exploring Key Cytokines in Onset of Kawasaki Disease. 第 74 回日本循環器学会 (京都), 2010. 3.
- 15) 勝部康弘, 赤尾見春, 渡辺 誠, 阿部正徳, 渡辺美紀, 上砂光裕, 深澤隆治, 小川俊一¹⁾ (小児科学教室) : PTX-3, a New Biomarker for Vasculitis, Predicts Intravenous Immunoglobulin Unresponsiveness in Patients with Kawasaki Disease. 第 74 回日本循環器学会 (京都), 2010. 3.
- 16) 阿部正徳, 深澤隆治, 上砂光裕, 勝部康弘, 小川俊一¹⁾ (小児科学教室) : Evaluation of Coronary Artery Lesions after Kawasaki Disease by New Modality : Coronary CT Angiography/SPECT Fusion Image. 第 74 回日本循環器学会 (京都), 2010. 3.
- 17) 上砂光裕, 勝部康弘, 深澤隆治, 阿部正徳, 小川俊一¹⁾ (小児科学教室) : Interferon-Gamma Inducible CXC Chemokines (IP10 and MIG) Play an Important Role in the Part of Pathogenesis of Kawasaki Disease. 第

74 回日本循環器学会（京都），2010. 3.

- 18) 五十嵐徹，伊藤保彦，藤川 敏，松山 毅，福永慶隆：エタネルセプトを開始した TRAPS の 1 例．臨海リウマチ性疾患懇話会（第 14 回）（東京），2010. 3.

追加分特別講演：

- 1) Itoh Y：The target antigen of anti-Sa and an ELISA system using recombinant antigen as a diagnostic tool for CFS. International Conference of The International Association for Chronic Fatigue Syndrome(8th) (Fort Lauderdale, FL, USA), 2007. 1.
- 2) Itoh Y：Autoantibodies generating fatigue long before the onset of the diseases in children (Symposium：Childhood Chronic Fatigue Syndrome). International Conference on Fatigue Science 2008 (Okinawa, Japan), 2008. 9.
- 3) 伊藤保彦：若年性特発性関節炎（JIA）初期診療ガイドライン．日本小児科学会学術集会（第 111 回）（東京），2007. 4.
- 4) 伊藤保彦：小児のアレルギー疾患．平成 19 年度台東区アレルギー講演会（東京），2007. 7.
- 5) 伊藤保彦：自己抗原からみた自己免疫疾患の発症機序．日本小児リウマチ学会（第 17 回）（横浜），2007. 9.

(1) 特別講演：

- 1) 前田美穂：小児期・思春期の鉄欠乏性貧血．三鷹市医師会書にか医会講演会（三鷹），2010. 7.
- 2) 前田美穂：小児がん治療の 2 次がん．重粒子医科学センター放射線防護研究センター合同研究交流会（千葉），2010. 7.
- 3) 前田美穂：小児がん経験者の晩期合併症としての心毒性．Meet the Specialist 東海医学会（神奈川），2010. 11.

(2) シンポジウム：

- 1) 勝部康弘：血管バイオマーカーよりの免疫グロブリン不応例の予測．日本小児科学会学術集会（第 113 回）（盛岡），2010. 4.
- 2) 川上康彦：小児における適応活用への方向性：医師の立場から．日本アプライドセラピューティクス学会（第 1 回），2010. 4.
- 3) 前田美穂：小児がんが治った後の長期フォローアップ体制の整備．平成 22 年度がん研究開発事業「小児・若年成人等の多様な希少がん腫に対する効果的治療に関する研究」班シンポジウム（大津），2010. 7.
- 4) 勝部康弘，阿部正徳，上砂光裕，深澤隆治，小川俊一⁽¹⁾ 小児科学教室）：シンポジウム「難治性川崎病の治療戦略：1 IVIG 反応性の予測マーカー」バイオマーカーによる川崎病免疫グロブリン治療不応例の予測．第 30 回日本川崎病学会（京都），2010. 10.
- 5) 川上康彦：Phenobarbital 投与による癲癇モデルマウスの脳波への影響．知のシンポジウム，2010. 11.
- 6) 米川千晶¹⁾，東 良恵，川上康彦¹⁾，齊藤賢一¹⁾（¹⁾ 日本獣医生命科学大学食品健康環境学教室）：リン酸オセルタミビル（タミフル）および D2 拮抗剤投与（ハロペリドール）によるマウス聴覚誘発電位におよぼす影響．知のシンポジウム，2010. 11.

(3) 一般講演：

- 1) Shigemori T, Kuwabara K, Itoh Y, Fukunaga Y：Erythromelalgia managed with gabapentin. Congress of asia pacific league of associations for rheumatology (14th) (Hong kong), 2010. 7.
- 2) Fukazawa R：Exploring Gene Expression for Kawasaki Disease Onset through Thrombocyte Gene Expression Profiling. The 3rd Congress of Asia-Pacific Pediatric Cardiac Society (Urayasu, Chiba, Japan), 2010. 7.
- 3) Ogawa S, Fukazawa R, Kamisago M, Ohkubo T, Abe M, Watanabe M, Hajikano M, Suzuki N, Watanabe M, Katsube Y⁽¹⁾ Department of Pediatrics, Nippon Medical School)：Longitudinal and sequential fol-

- low-up results after percutaneous catheter intervention inpatients with Kawasaki disease. Abe M, Matanabe M, Hajikano M, Suzuki N, Martanabe M, Katsube Y.. European Society of Cardiology Congress 2010 (Stockholm), 2010. 8.
- 4) Ogawa S, Fukazawa R, Kamisago M, Ohkubo T, Abe M, Watanabe M, Hajikano M, Suzuki N, Watanabe M, Katsube T ⁽¹⁾ Department of Pediatrics, Nippon Medical School) : Longitudinal and sequential follow-up results after percutaneous catheter intervention inpatients with Kawasaki disease. European Society of Cardiology Congress 2010 (Stockholm), 2010. 8.
 - 5) Kuwabara K¹⁾, Kawakami Y¹⁾, Fujino O¹⁾, Fukunaga Y¹⁾ ⁽¹⁾ Department of Pediatrics, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Prevalence and disability assessment of migraine in school children in Tokyo, Japan. The 2nd Asian Regional Conference for Headache Combined with the Annual Meeting of the Korean Headache Society (第2回) (Seoul), 2010. 10.
 - 6) Asano T, Kogawa K, Morimoto A, Ishida Y, Suzuki N, Ohga S, Kudo K, Ohta S, Wakiguchi H, Tabuchi K, Kato S, Ishii E : the HLH/LCH and SCT committees in the Japanese Society of Pediatric Hematology. Hemophagocytic lymphohistiocytosis after hematopoietic stem cell transplantation in children : nationwide survey of Japan. 26th Annual meeting of Histiocyte Society (Boston, USA), 2010. 10.
 - 7) Takase M : Spectral analysis of breath sounds in non-wheezing asthmatic children. The 35th International Conference on Lung Sounds.(Toledo, Ohio, USA), 2010. 10.
 - 8) Hayakawa J^{1, 2)}, Ueda T^{1, 2)}, Migita M¹⁾, John-Tisdale F²⁾, Fukunaga Y¹⁾ ⁽¹⁾ Department of pediatrics, Nippon Medical School, ²⁾ Molecular and Clinical Hematology Branch (MCHB), National Heart, Lung, and Blood Institute (NHLBI), National Institutes of Health) : A practical method for the assessment of human erythroid output in humanized model mice. 日本血液学会総会 (第72回) (横浜),
 - 9) Kawakami Y, Tsukimoto M, Kuwabara K, Fujita T, Fujino O, Fukunaga Y : Neopterin Enhances TNF- α -induced Inflammatory Cell Death in the Cerebrospinal Fluid of Patients with Bacterial Meningitis. 日本ブテリジン研究会 (第24回), 2010. 7.
 - 10) Ueda T¹⁾, Fujita A¹⁾, Migita M¹⁾, Maeda M¹⁾, Shimada T²⁾, Fukunaga Y¹⁾ ⁽¹⁾ Pediatrics Dept. Nippon Medical School, Tokyo, Japan, ²⁾ Biochemistry and Molecular Biology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Hematopoiesis in regenerated BM by adipose-derived stromal cells on the hydroxyapatite scaffold. 第72回日本血液学会学術集会 (神奈川), 2010. 9.
 - 11) Asano T¹⁾, Hirakawa K²⁾, Koike K³⁾, Fujita A¹⁾, Inagaki S¹⁾, Yamanishi M¹⁾, Gocho Y¹⁾, Kaizu K¹⁾, Kobayashi F¹⁾, Hayakawa J¹⁾, Narasaki H¹⁾, Ueda T¹⁾, Maeda M¹⁾, Ohno Y²⁾, Fukunaga Y¹⁾ ⁽¹⁾ Department of Pediatrics, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Legal Medicine and NMR Laboratory, Nippon Medical School, ³⁾ Department of Primary Care & Emergency Medicine, Kyoto University) : Metabolic phenotype of doxorubicin-resistant leukemia cells by the use of NMR Spectroscopy. 第72回日本血液学会学術集会 (神奈川), 2010. 9.
 - 12) Hayakawa J^{1, 2)}, Ueda T^{1, 2)}, Migita M¹⁾, John T²⁾, Fukunaga Y¹⁾ ⁽¹⁾ Department of Pediatrics, Nippon Medical School, ²⁾ Molecular and Clinical Hematology Branch (MCHB), National Heart, Lung, and Blood Institute (NHLBI), National Institutes of Health, USA) : A practical method for the assessment of human erythroid output in humanized model mice. 第72回日本血液学会学術集会 (神奈川), 2010. 9.
 - 13) Kaizu K, Fujita A, Yamanishi M, Gocho Y, Kobayashi F, Hayakawa J, Narasaki H, Ueda T, Asano T, Maeda M, Adachi A, Sato S, Sasaki Y, Naitoh Z, Fukunaga Y : Activated peripheral neutrophils with childhood precursor B-ALL by electron microscopic studies. 日本血液学会総会 (第72回) (横浜), 2010. 9.
 - 14) Ueda T, Fujita A, Migita M, Maeda M, Shimada T, Fukunaga Y : Hematopoiesis in regenerated BM by

- adipose-derived stromal cells on the hydroxyapatite scaffold. Annual Meeting of the Japanese Society of Hematology (The 72nd) (横浜), 2010. 9.
- 15) Asano T, Hirakawa K, Koike K, Fujita A, Inagaki S, Yamanishi M, Gocho Y, Kaizu K, Kobayashi F, Hayakawa J, Narasaki H, Ueda T, Maeda M, Ohno Y, Fukunaga Y : Metabolic phenotype of doxorubicin-resistant leukemia cells by the use of NMR Spectroscopy. Annual Meeting of the Japanese Society of Hematology (The 72nd) (横浜), 2010. 9.
 - 16) Ogawa C, Ohara A, Manabe A, Makimoto A, Koh K, Isoyama K, Sugita K, Sugita K, Noguchi Y, Ohta S, Maeda M, Yabe H, Kaneko T, Kumagai M, Kajiwaru M, et al. : Adverse effects (AEs) of L-asparaginase (L-Asp) in the induction therapy in TCCSG ALL L07-1602 study. Annual Meeting of the Japanese Society of Hematology (The 72nd) (横浜), 2010. 9.
 - 17) Toki T, Kanezaki R, Ru-Wang N, Terui K, Hayashi Y, Miura M, Maeda M, Ito E : Internal deletions of transcription factor GATA1 observed in transient abnormal myelopoiesis. Annual Meeting of the Japanese Society of Hematology (The 72nd) (横浜), 2010. 9.
 - 18) 藤松真理子¹⁾, 藤田武久¹⁾, 勝部康弘¹⁾, 前田美穂²⁾, 畠中大輔³⁾, 今井耕輔³⁾, 子川和宏³⁾, 野々山恵章³⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院小児科, ²⁾ 日本医科大学付属病院小児科, ³⁾ 防衛医科大学校小児科) : X連鎖リンパ増殖性疾患の骨髄移植後, 進行性多巣性白質脳症をきたしたと考えられる1例. 日本小児科学会学術集会 (第113回) (盛岡), 2010. 4.
 - 19) 石川浩子, 安藝 薫, 多田奈緒, 渡辺美紀, 柳原 剛, 藤松真理子, 上砂光裕, 藤田武久, 勝部康弘 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院小児科) : 無呼吸発作のため挿管管理を必要としたRSウイルス感染症の1例. 川崎市小児科医会症例検討会 (第315回) (川崎), 2010. 4.
 - 20) 柳原 剛, 石川浩子, 安藝 薫, 多田奈緒, 渡辺美紀, 藤松真理子, 上砂光裕, 藤田武久, 勝部康弘 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院小児科) : 尿路感染症患児に対する超音波検査の意義. 川崎市小児科医会症例検討会 (第315回) (川崎), 2010. 4.
 - 21) 藤田武久, 石川浩子, 安藝 薫, 多田奈緒, 渡辺美紀, 柳原 剛, 藤松真理子, 上砂光裕, 勝部康弘 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院小児科) : 最近経験した結節性硬化症の2例. 川崎市小児科医会症例検討会 (第315回) (川崎), 2010. 4.
 - 22) 石川浩子^{1, 2)}, 松村好克²⁾, 矢代健太郎²⁾, 中島瑞恵²⁾, 島 義雄²⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院小児科, ²⁾ 葛飾赤十字産院小児科) : 出生前から経過を観察しえた胎児動脈管早期閉鎖の1例. 日本小児科学会東京都地方会講話会 (第574回) (東京), 2010. 4.
 - 23) 斎藤誉子, 海津聖彦, 榎崎秀彦, 板橋和寿, 小泉慎也, 羽鳥誉之, 浅野 健, 藤野 修 : 新型 (豚) インフルエンザ感染時に川崎病様の症状を呈した男児例. 日本小児科学会 (第113回), 2010. 4.
 - 24) 小泉慎也, 一木邦彦, 板橋寿和, 海津聖彦, 榎崎秀彦, 羽鳥誉之, 浅野 健, 藤野 修 : 当院で経験した新型インフルエンザ感染症の2例. 日本小児科学会学術総会 (第113回) (盛岡), 2010. 4.
 - 25) 前田美穂¹⁾, 石田也寸志, 藤本純一郎 (¹⁾ 日本医科大学付属病院小児科) : 小児がん経験者のフォローアップシステムの整備 : 拠点モデル病院. 日本小児科学会学術集会 (第113回) (盛岡), 2010. 4.
 - 26) 浅井牧子, 桑原健太郎, 前田美穂, 福永慶隆 (¹⁾ 日本医科大学付属病院小児科) : 新型インフルエンザ感染症を合併した単純ヘルペス脳炎の1例. 日本小児科学会学術集会 (第113回) (盛岡), 2010. 4.
 - 27) 五十嵐徹, 伊藤保彦, 福永慶隆 : 中学生, 高校生の骨密度検診における標準化SOS値の検討 (第1報). 日本小児科学会 (第113回) (盛岡), 2010. 4.
 - 28) 藤松真理子, 藤田武久 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院小児科) : IVIGにて2年間寛解を維持している多発性硬化症の5歳女児例. 日本小児神経学会総会 (第52回) (福岡), 2010. 5.
 - 29) 小泉慎也, 羽鳥誉之, 藤野 修, 川上康彦, 藤松真理子, 藤田武久, 高木篤史, 桑原健太郎, 高石康子 : 重症

- 心身障害児における呼吸障害の指標について. 日本小児神経学会総会 (第 52 回) (福岡), 2010. 5.
- 30) 川上康彦, 齊藤賢一, 小泉慎也, 桑原健太郎, 藤田武久, 藤野 修, 福永慶隆: リン酸オセルタミビルによる, てんかんモデル動物の聴性脳幹反応の変化 (第 2 報). 日本小児神経学会総会 (第 52 回) (福岡), 2010. 5.
- 31) 五十嵐徹, 伊藤保彦, 福永慶隆: 小児気管支喘息の調査票である JPAC と C-ACT の相関性の検討. 日本アレルギー学会春季臨床大会 (第 22 回) (京都), 2010. 5.
- 32) 五十嵐徹, 伊藤保彦, 福永慶隆: 医療連携により施設間移動が円滑に行えたトシリズマブ投与中の全身型 JIA の 1 例. 東日本 JIA 研究会 (東京), 2010. 5.
- 33) 浅野 健¹⁾ 細矢 慶,²⁾ 小町太郎,³⁾ 馬場俊吉: 当科で経験した LCH (Langerhans cell histiocytosis) の 1 症例. 日本小児耳鼻咽喉科学会, 2010. 6.
- 34) 藤井秀一, 高木篤史, 小泉慎也, 保田智彦, 海津聖彦, 榎崎秀彦, 浅野 健, 藤野 修, 伊藤保彦, 羽鳥誉之: トシリズマブ投与により著明な肝機能障害を呈し, 治療に難渋した若年性特発性関節炎 (JIA) の 1 例. 日本小児科学会千葉地方会 (第 186 回), 2010. 6.
- 35) 柳原 剛¹⁾, 多田奈緒¹⁾, 伊藤雄平²⁾, 高橋昌里²⁾, 服部元史²⁾, 松山 健²⁾, 大友義之²⁾, 土屋正巳²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院小児科, (2) 日本小児腎臓病学会 3 歳児検尿全国調査委員会: 3 歳時検尿アンケート調査: 小児腎臓病学会評議員を対象に. 日本小児腎臓病学会 (第 45 回) (大阪), 2010. 7.
- 36) 柳原 剛¹⁾, 多田奈緒¹⁾, 安藝 薫²⁾, 五十嵐徹²⁾, 伊藤保彦²⁾, 勝部康弘¹⁾, 土屋正巳³⁾, 福永慶隆²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院小児科, (2) 日本医科大学小児科, (3) 日本医科大学多摩永山病院小児科: 尿路感染症患児に対する超音波検査の意義. 日本小児腎臓病学会 (第 45 回) (大阪), 2010. 7.
- 37) 清水章代¹⁾, 川上康彦, 齊藤賢一¹⁾ (1) 日本獣医生命科学大学食品健康環境学教室: テオフィリン投与がマウス EEG におよぼす影響. 日本先天異常学会 (第 50 回), 2010. 7.
- 38) 阿部正徳, 深澤隆治, 上砂光裕, 勝部康弘, 小川俊一 (1) 小児科学教室: 川崎病冠動脈障害に対する冠動脈 CT/心筋 SPECT: Fusion 画像による評価. 阿部正徳, 上砂光裕, 深澤隆治, 勝部康弘, 小川俊一. (2010.07.10, 千葉). 第 46 回日本小児循環器学会 (千葉), 2010. 7.
- 39) 五十嵐徹, 安藝 薫, 多田奈緒, 柳原 剛, 伊藤保彦, 福永慶隆, 吉田順子: ミゾリピンとロサルタンを併用した IgA 腎症治療における尿酸値の推移. 小児腎臓病学会 (第 45 回) (大阪), 2010. 7.
- 40) 藤田武久¹⁾, 勝部康弘¹⁾, 木下節子²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院小児科, (2) 川崎市麻生保健所: 乳幼児経過観察健康調査の現況. 日本小児科学会神奈川県地方会 (第 306 回) (横浜), 2010. 9.
- 41) Asano T, Kogawa K, Morimoto A, Ishida Y, Suzuki N, Ohga S, Kudo K, Ohta S, Wakiguchi H, Tabuchi K, Kato S, Eiichi I: The HLH/LCH 2) and SCT 3) committees in the Japanese Society of Pediatric Hematology. Hemophagocytic lymphohistiocytosis after hematopoietic stem cell transplantation in children: nationwide survey of Japan. 日本血液学会総会 (第 72 回) (大阪), 2010. 9.
- 42) Kaizu K, Fujita A, Yamanishi M, Gocho Y, Kobayashi F, Hayakawa J, Narazaki H, Ueda T, Asano T, Maeda M, Adachi A, Sato S, Sasaki Y, Naitoh Z, Fukunaga Y: Activated peripheral neutrophils with childhood precursor B-ALL by electron microscopic studies. 日本血液学会総会 (第 72 回), 2010. 9.
- 43) 小泉慎也, 宮武千晴, 海津聖彦, 榎崎秀彦, 浅野 健, 藤野 修: 当科でフォロー中の発達障害児症例について. 日本小児科学会千葉地方会 (第 187 回) (千葉), 2010. 9.
- 44) 日ノ澤進一郎¹⁾, 小林紘士¹⁾, 三橋 太¹⁾, 飯野幸永¹⁾, 五十嵐徹²⁾, 本間 博¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院中央検査部, (2) 日本医科大学付属病院小児科: 小児におけるシスタチン C を利用した GFR 計算式の有用性. 日本医科大学医学会総会 (第 78 回), 2010. 9.
- 45) 五十嵐徹, 伊藤保彦, 福永慶隆: 中学生, 高校生の骨密度検診における標準化 SOS 値の検討 (第 2 報). 日本小児保健学会 (第 57 回) (新潟), 2010. 9.
- 46) 田辺雄次郎¹⁾, 藤松真理子¹⁾, 小林史子¹⁾, 安藝 薫¹⁾, 柳原 剛¹⁾, 大塚雅美¹⁾, 上砂光裕¹⁾, 藤田武久¹⁾, 勝

- 部康弘¹⁾, 北野良博²⁾, 黒田達夫²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院小児科, 2) 国立成育医療研究センター病院外科): 骨盤内神経芽腫の一乳児例. 川崎市小児科医会症例検討会 (第 317 回) (川崎), 2010. 10.
- 47) 藤田武久 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院小児科): 川崎市乳幼児特別相談の現況. 川崎市小児科医会症例検討会 (第 317 回) (川崎), 2010. 10.
- 48) 大塚雅美, 田辺雄次郎, 西脇レイ, 安藝 薫, 小林史子, 藤田敦士, 柳原 剛, 藤松真理子, 上砂光裕, 藤田武久, 勝部康弘 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院小児科): 裂頭条虫症の兄弟例. 川崎市小児科医会症例検討会 (第 317 回) (川崎), 2010. 10.
- 49) 小泉慎也, 羽鳥誉之, 桑原健太郎, 藤野 修: 異なる臨床経過をたどった West 症候群の姉妹例. 日本てんかん学会 (第 44 回) (岡山), 2010. 10.
- 50) 深澤隆治, 阿部正徳, 渡邊 誠, 菌部友良¹⁾, 濱岡建城²⁾, 濱本邦洋³⁾, 上砂光裕, 勝部康弘, 小川俊一 (1) 日本赤十字医療センター小児科, 2) 京都府立医科大学大学院医学研究科発達循環病態学, 3) 国際医療福祉大学リハビリテーション学部): Date Mining 法による川崎病の遺伝子多型解析. 日本川崎病学会 (第 30 回), 2010. 10.
- 51) 竹田幸代, 今井丈英, 高瀬真人: 肺ヘモジデロシスにおける血清 KL-6 値の長期的推移. 日本小児呼吸器疾患学会 (第 43 回), 2010. 10.
- 52) 西田理子, 深澤隆治, 今井丈英, 竹田幸代, 高瀬真人: 小児の新型インフルエンザ (H1N1pdm) 肺炎における血清 KL-6 と SP-D. 日本小児呼吸器疾患学会 (第 43 回), 2010. 10.
- 53) 原田真菜, 秋元かつみ, 大高正雄, 織田久之, 佐藤圭子, 大槻将弘, 高橋 健, 稀代雅彦, 清水俊明, 小川俊一 (1) 順天堂大学小児科, 2) 日本医科大学小児科): 動脈内血栓に対する血栓溶解療法の全国調査結果. 第 30 回日本川崎病学会 (京都), 2010. 10.
- 54) 大塚雅美, 勝部康弘, 藤田武久, 上砂光裕, 藤松真理子, 柳原 剛, 小林史子, 安藝 薫, 田辺雄次郎 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院小児科): 裂頭条虫症の兄弟例. 日本小児科学会神奈川県地方会 (第 307 回) (横浜), 2010. 11.
- 55) 松本早栄子¹⁾, 成重竜一朗¹⁾, 桑原健太郎²⁾, 斉藤卓弥¹⁾, 大久保喜朗¹⁾ (1) 日本医科大学精神医学教室, 2) 日本医科大学小児科学教室): 大学病院における児童精神科と小児科との院内連携の実践. 総合病院精神医学会総会 (第 23 回) (都市センターホテル), 2010. 11.
- 56) 宮武千晴, 小泉慎也, 海津聖彦, 檜崎秀彦, 浅野 健, 藤野 修: 生後 4 カ月で頭蓋内出血をきたした血友病 B の男児例. 千葉県小児神経懇話会 (第 22 回), 2010. 11.
- 57) 五十嵐徹, 伊藤保彦, 福永慶隆: アレルギー性鼻炎を合併する小児気管支喘息の QOL. 日本アレルギー学会 (東京), 2010. 11.
- 58) 大平賢太郎¹⁾, 石田萌乃²⁾, 尾崎 広²⁾, 久保田亮²⁾, 中山亜紀²⁾, 金森きよ子²⁾, 下村弘治²⁾, 五十嵐徹³⁾, 芝紀代子¹⁾ (1) 文京学院大学大学院保健医療科学研究科, 2) 文京学院大学保健医療技術学部, 3) 日本医科大学付属病院小児科): 学童検尿の早期尿と来院時尿における蛋白成分の解析 (1). 関東甲信地区医学検査学会 (第 47 回) (大宮), 2010. 11.
- 59) 尾崎 広¹⁾, 石田萌乃¹⁾, 大平賢太郎²⁾, 久保田亮¹⁾, 中山亜紀¹⁾, 金森きよ子¹⁾, 下村弘治¹⁾, 五十嵐徹³⁾, 芝紀代子²⁾ (1) 文京学院大学保健医療技術学部, 2) 文京学院大学大学院保健医療科学研究科, 3) 日本医科大学付属病院小児科): 学童検尿の早期尿と来院時尿における蛋白成分の解析 (2). 関東甲信地区医学検査学会 (第 47 回) (大宮), 2010. 11.
- 60) 長峯正琉¹⁾, 大平賢太郎²⁾, 久保田亮¹⁾, 中山亜紀¹⁾, 金森きよ子¹⁾, 下村弘治¹⁾, 五十嵐徹³⁾, 芝紀代子²⁾ (1) 文京学院大学保健医療技術学部, 2) 文京学院大学大学院保健医療科学研究科, 3) 日本医科大学付属病院小児科): 腎疾患患者尿における血中トランスフェリン多様性の解析 電気泳動法を用いて. 関東甲信地区医学検査学会 (第 47 回) (大宮), 2010. 11.
- 61) 重盛朋子¹⁾, 植田高弘¹⁾, 前田美穂¹⁾, 福永慶隆¹⁾, 藤田逸郎²⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学 小児科, 2) 日本

- 医科大学 消化器外科)：若年性進行胃癌の1例. 第52回日本小児血液学会総会第26回日本小児がん学会学術集会(大阪国際会議場), 2010. 12.
- 62) 高木篤史¹⁾, 山西未穂¹⁾, 桑原健太郎¹⁾, 植田高弘¹⁾, 右田 真¹⁾, 前田美穂¹⁾, 福永慶隆¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院小児科)：上肢の振戦にて発症した傍腫瘍性神経症候群を伴った神経芽腫の1例. 第52回日本小児血液学会総会第26回日本小児がん学会学術集会(大阪国際会議場), 2010. 12.
- 63) 浅野 健¹⁾, 藤井博文²⁾, 藤田敦士¹⁾, 小林史子¹⁾, 山西未穂¹⁾, 牛腸義宏¹⁾, 海津聖彦¹⁾, 早川 潤¹⁾, 植田高弘¹⁾, 前田美穂¹⁾, 福永慶隆¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学小児科, ²⁾ 自治医科大学臨床腫瘍科)：薬剤耐性白血病細胞における網羅的メチル化解析. 第52回日本小児血液学会総会第26回日本小児がん学会学術集会(大阪国際会議場), 2010. 12.
- 64) 浅野 健¹⁾, 平川慶子²⁾, 小池 薫³⁾, 藤井博文⁴⁾, 大野曜吉²⁾, 藤田敦士¹⁾, 山西未穂¹⁾, 牛腸義宏¹⁾, 植田高弘¹⁾, 前田美穂¹⁾, 福永慶隆¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学小児科, ²⁾ 日本医科大学法医学.NMR研究施設, ³⁾ 京都大学救急医学, ⁴⁾ 自治医科大学臨床腫瘍科)：核磁気共鳴法を用いた薬剤耐性白血病細胞の代謝解析. 第2報. 第52回日本小児血液学会総会第26回日本小児がん学会学術集会(大阪国際会議場), 2010. 12.
- 65) 浅野 健, 平川慶子, 小池 薫, 藤井博文, 大野曜吉, 藤田敦士, 山西未穂, 牛腸義宏, 植田高弘, 前田美穂, 福永慶隆：核磁気共鳴法を用いた薬剤耐性白血病細胞の(代謝)解析. 日本小児血液・癌学会(第50回)(横浜), 2010. 12.
- 66) 浅野 健, 藤井博文, 藤田敦士, 小林史子, 山西未穂, 牛腸義宏, 海津聖彦, 早川 潤, 植田高弘, 前田美穂, 福永慶隆：薬剤耐性白血病細胞における網羅的メチル化解析. 日本小児血液・癌学会(第50回), 2010. 12.
- 67) 海津聖彦, 榑崎秀彦, 浅野 健, 小泉慎也, 藤野 修, 前田美穂：L-asparaginase (L-Asp)による遅延型アレルギー反応を反復した急性リンパ球性白血病の1例. 日本小児血液・癌学会(第50回), 2010. 12.
- 68) 岡村 純, 石田也寸志, 前田美穂, 米本 司, 岩井艶子, 中館尚也：小児がん経験者のフォローアップが途絶える要因の解析：連絡が途絶えた経験者(の保護者)に対する調査. 日本小児がん学会学術集会(第26回)(大阪), 2010. 12.
- 69) 藤田武久¹⁾, 藤松真理子¹⁾, 勝部康弘¹⁾, 福山哲広²⁾, 高橋幸利²⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院小児科, ²⁾ 静岡てんかん・神経医療センター)：巨大な石灰化所見を示した結節性硬化症の1例. 神奈川小児神経懇話会(第47回)(横浜), 2011. 1.
- 70) 堺 浩之, 秋月哲史, 麻生健太郎, 大井宏夫, 勝部康弘, 上砂光裕, 神田東人, 岸 良示, 後藤建次郎, 関江里子, 豊田博史, 中沢 潔, 宮川政久, 村野浩太郎, 山岸 正, その他3名 (¹⁾ 川崎市医師会学校医部会心臓病判定委員会)：川崎市立学校心臓病検診結果：平成20年度から21年度の結果報告. 川崎市医師会医学会(第28回)(川崎), 2011. 2.
- 71) 勝部康弘¹⁾, 上砂光裕¹⁾, 阿部正徳²⁾, 大久保隆志²⁾, 深澤隆治²⁾, 小川俊一²⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院小児科, ²⁾ 日本医科大学付属病院小児科)：冠動脈バイパス術後10年以上経過した川崎病の2例. 神奈川県川崎病研究会(第6回)(新横浜), 2011. 2.
- 72) 藤井秀一, 保田智彦, 高木篤史, 小泉慎也, 海津聖彦, 榑崎秀彦, 浅野 健, 羽鳥誉之, 伊藤保彦, 藤野 修：トシリマブ投与中に著明な肝機能障害を呈し, 治療に難渋した若年性特発性関節炎(JIA)の1例. 小児リウマチ学会(第20回)(沖縄), 2011. 2.
- 73) 五十嵐徹, 伊藤保彦, 藤川 敏, 松山 毅, 福永慶隆：エタネルセプトを開始したtumor necrosis factor receptor-associated periodic syndromeの1例. 日本小児リウマチ学会(第20回)(沖縄), 2011. 2.
- 74) 安藝 薫^{1, 3)}, 五十嵐徹^{1, 2)}, 伊藤保彦¹⁾, 福永慶隆¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学小児科, ²⁾ 東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター, ³⁾ 南町田病院)：膜性腎症を合併した若年性特発性関節炎(多関節型)の1例. 日本小児リウマチ学会(第20回)(沖縄), 2011. 2.
- 75) 五十嵐徹, 伊藤保彦, 福永慶隆：インフリキシマブの投与持反応のためエタネルセプトに変更した多関節型若

年性持発性関節炎の1例. 埼玉小児腎膠原病研究会 (第6回), 2011. 11.

(4) イブニングセミナー:

- 1) 阿部正徳, 渡辺 誠, 大久保隆志, 上砂光裕, 深澤隆治, 勝部康弘, 小川俊一:「この症例をどうする?」川崎病巨大冠動脈瘤血栓閉塞の1例. 第30回日本川崎病学会 (京都), 2010. 10.

(5) ポスター発表:

- 1) Maeda M, Asami K, Maeda N, Horibe K, Iwai T, Nakadate H, Inada H, Honda M, Okamura J: Hepatitis C virus infection in childhood Cancer survivors. 42th SIOP (Boston), 2010. 10.
- 2) Kaizu K, Kobayashi F, Narazaki H, Asano T, Maeda M, Adachi A, Sato S, Sasaki Y, Naitoh Z, Fukunaga Y: Activated peripheral neutrophils with childhood precursor B-ALL by electron microscopic studies. 日本血液学会学術集会 (第72回) (横浜), 2010. 9.
- 3) 浅井牧子, 桑原健太郎, 前田美穂, 福永慶隆: 新型インフルエンザ感染症を合併した単純ヘルペス脳炎の1例. 日本小児科学会学術集会 (第113回) (盛岡), 2010. 4.
- 4) 森川浩子¹⁾, 前田美穂⁵⁾, 春木伸一²⁾, 清水紘昭³⁾, 若林正三郎⁴⁾ (1) 福井大学, 2) 福井県こども療育センター, 3) 清水小児科, 4) わかばやしこども内科クリニック, 5) 日本医科大学付属小児科): 福井県中学校における貧血スクリーニングの実態調査. 日本小児科学会学術集会 (第113回) (盛岡), 2010. 4.
- 5) 藤松真理子, 藤田武久, 勝部康弘, 前田美穂, 畠中大輔¹⁾, 今井耕輔¹⁾, 子川和宏¹⁾, 野々山恵章¹⁾ (1) 防衛医科大学): X連鎖リンパ増殖性疾患の骨髄移植後, 進行性多巣性白質脳症をきたしたと考えられる1例. 日本小児科学会学術集会 (第113回) (盛岡), 2010. 4.
- 6) 阿部正徳, 浅井牧子, 高木篤史, 山西未穂, 植田高弘, 前田美穂, 小川俊一, 福永慶隆: 当科に入院したインフルエンザ肺炎4例の臨床像. 日本小児科学会学術集会 (第113回) (盛岡), 2010. 4.
- 7) 森川浩子¹⁾, 春木伸一²⁾, 前田美穂 (1) 福井大学, 2) 福井県こども療育センター): 10代の子どもの対象にした視聴覚教材「思春期貧血をなおしてもっと元気に!」の開発. 日本小児保健協会学術集会 (第57回) (新潟), 2010. 9.
- 8) 重盛朋子, 植田高弘, 前田美穂, 福永慶隆, 藤田逸郎, 内田英二: 若年性進行胃癌の1例. 小児がん学会学術集会 (第26回) (大阪), 2010. 12.
- 9) 高木篤史, 山西未穂, 桑原健太郎, 植田高弘, 右田 真, 前田美穂, 福永慶隆: 上肢の振戦にて発症した傍腫瘍性神経症候群を伴った神経芽腫の1例. 小児がん学会学術集会 (第26回) (大阪), 2010. 12.
- 10) 浅野 健, 平川慶子, 小池 薫, 藤井博文, 大野曜吉, 藤田敦士, 山西未穂, 牛腸義宏, 植田高弘, 前田美穂, 福永慶隆: 核磁気共鳴法を用いた薬剤耐性細胞の代謝解析. 日本小児血液学会総会 (第52回) (大阪), 2010. 12.
- 11) 浅野 健, 藤井博文, 藤田敦士, 小林史子, 山西未穂, 牛腸義宏, 海津聖彦, 早川 潤, 植田高弘, 前田美穂, 福永慶隆: 薬剤耐性白血病細胞における網羅的メチル化解析. 日本小児血液学会総会 (第52回) (大阪), 2010. 12.
- 12) 海津聖彦, 檜崎秀彦, 浅野 健, 小泉慎也, 藤野 修, 前田美穂: L-Asparaginase (L-Asp) による遅発型アレルギー反応を反復した急性リンパ性白血病の1例. 日本小児血液学会総会 (第52回) (大阪), 2010. 12.

(6) 特別企画:

- 1) 小川俊一: 川崎病心血管後遺症の診断と治療に関するガイドライン (日本循環器学会) の概説. (「成人期川崎病既往者における冠イベントの実態と病態の解明に向けて: 循環器内科と小児循環器のコラボレーション」). 第19回日本心血管インターベンション治療学会 (仙台), 2010. 9.

7. 放射線医学講座

[付属病院放射線科，放射線治療科]

研究概要

(放射線診断)

CTでは非浸襲的三次元CTの分野で国内外の指導的立場にある。冠動脈CTによる血管狭窄・血管壁性状評価、三次元血管造影法、脳灌流画像、腫瘍病変の血行動態解析などの開発・研究を進めている。MRIでは3テスラMRI装置を用いた臨床研究が行われており、特に心疾患や血管病変に対する画像・機能解析、ナビゲーションシステムや高速撮像法に関する研究は高く評価されている。一般撮影ではデジタル撮影による乳房撮影の診断精度及びマンモトームの研究が行われている。造影剤に関する研究や遠隔システムを含めて画像ネットワークの研究も行われている。

(核医学)

三次元動態解析法を用いた虚血性心疾患の病態解析やモバイル型半導体検出器の研究など循環器核医学領域において高く評価されている。中枢神経領域では認知症の画像統計学的診断や脳虚血性疾患に関する解析プログラムの開発が進んでいる。新たにSPECT/CTを導入し、甲状腺、副腎、センチネルリンパ節等の小病変における臨床研究を行っている。最新のPET/CTを用いた腫瘍核医学と脳内リセプターの分子画像の研究、画像Fusionなどの画像処理、新しいPET製剤に関する研究も行われている。

(血管造影・IVR)

血管性病変や悪性腫瘍に対する治療及び救急疾患に対するIVR治療では国内外での評価は高く、肺動脈血栓塞栓症に対する血栓破砕吸引療法や動脈内ステント療法や腹部悪性腫瘍に対する閉鎖循環下超高濃度抗癌剤治療などの基礎的、臨床研究が行われている。CTガイド下生検や肺癌・肝癌に対するラジオ波治療の研究も行われている。

(放射線治療)

頭頸部腫瘍・肺癌における化学療法併用療法はその良好な治療成績が注目されている。頭頸部腫瘍における治療計画や治療効果判定についての超音波検査の研究は高く評価されている。さらに、皮膚良性疾患に対する放射線治療や前立腺癌小線源療法の研究も進んでいる。

研究業績

論文

[追加分]

追加分原著：

- 1) 徳田 梓，町田 幹：胸部単純X線写真における臓器境界線のMDCTによる解析と理解。日医大医学会誌 (1349-8975) 2010；6 (1)：49-49.

(1) 原著：

- 1) Ogawa R, Yoshitatsu S, Yoshida K, Miyashita T: Is radiation therapy for keloids acceptable? The risk of radiation-induced carcinogenesis. *Plast Reconstr Surg* 2009；124 (4)：1196-1201.
- 2) 町田 幹，徳田 梓，林 宏光，杉崎健一，汲田伸一郎：【胸部の最新画像情報2010】胸部X線写真の縦隔線の成因の理解に向けて 胸部CTを参照した新しい解析法の提案。臨床放射線 2010；55 (1)：41-51.
- 3) Miyashita T: Target Delineation of Gross Tumor Volume for Radiation Therapy Planning Using Fusion Images of 18F-fluorodeoxyglucose Positron Emission Tomography and Computed Tomography. *J Nippon Med Sch* 2010；77 (5)：232-233.

- 4) Amano Y, Takagi R, Suzuki Y, Sekine T, Kumita S, Cauteren M : Three-dimensional velocity mapping of thoracic aorta and supraaortic arteries in Takayasu arteritis. J Magn Reson Imaging 2010 ; 31 (6) : 1481-1485.
 - 5) Kaneko T¹⁾, Tomiyama T¹⁾, Kiyuna H¹⁾, Machida T, Hayashi H, Kumita S (¹⁾ Sixth-year Student, Medical Department, Nippon Medical School) : Identification of Ryu's Segmentation of the Liver Using MDCT Analysis. J Nippon Med Sch 2010 ; 77 : 244-249.
 - 6) Ono S¹⁾, Ogawa R¹⁾, Hayashi H, Takami Y¹⁾, Kumita S, Hyakusoku H¹⁾ (¹⁾ Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School) : Multidetector-Row Computed Tomography (MDCT) Analysis of the Supra-Fascial Perforator Directionality (SPD) of the Occipital Artery Perforator (OAP). J Plast Reconstr Aesthet Surg 2010 ; 63 : 1602-1607.
 - 7) Kimata R, Kondo Y, Nemoto K, Murata S, Kumazaki T : The negative-balance isolated pelvic perfusion method using ultrahigh-dose cisplatin for invasive bladder cancer with poor risk. Int J Clin Oncol 2010 ; 15 (5) : 433-439.
 - 8) Hayashi H, Machida M, Sekine T, Yamaguchi H, Kiriya T, Kumita S : Beam Hardening Artifacts on CT Images Caused by Lanthanum Carbonate Hydrate in a Patient on Dialysis. Jpn J Radiol 2010 ; 28 : 322-324.
 - 9) Iida S, Haga S, Yamashita K, Yanagihara K, Kurita T, Murakami R, Kumita S, Tsuchiya S, Furukawa K, Uchida E : Evaluation of sentinel lymph node biopsy in clinically node-negative breast cancer. J Nippon Med Sch 2011 ; 8 (2) : 96-100.
 - 10) 古川一博¹⁾, 町田 幹, 田島廣之, 汲田伸一郎 (¹⁾ 大洗海岸病院 放) : 市販機器によるレポートシステム カラーレーザープリンターを導入して. IVR : Interventional Radiology (1340-4520) 2010 ; 25 (1) : 110-110.
 - 11) 町田 幹, 林 宏光 : 【Multislice CT 2010 BOOK】 3次元CTと学生教育. 映像情報 Medical (1346-1354) 2010 ; 42 (7) : 72-77.
 - 12) 杉原史恵, 林 宏光, 上田達夫, 小野沢志郎, 内山史生, 渡 潤, 汲田伸一郎 : 炭酸ランタン水和物であるホスレノールチュアプル錠をボタン電池と誤認した一例. 臨床放射線 2010 ; 55 : 1263-1266.
 - 13) 上田達夫, 福永 毅, 田島廣之, 村田 智, 小野澤志郎, 吉原尚志, 嶺 貴彦, 汲田伸一郎, 久志本成樹, 横田裕行 : TAEが著効した胸部多発仮性動脈瘤の1例. Japanese Journal of Radiology 2010 ; 28 : 1867-1071.
 - 14) 吉原尚志 : 診断・治療症例 前立腺癌・骨転移. PET Journal 2010 ; 10 : 2186-022X.
- (2) 総説 :
- 1) 町田 幹, 林 宏光 : 【血管画像の最前線】 手術前シミュレーションとしてのMDCTによる脈管3次元構築. Vascular Lab (1349-4023) 2010 ; 7 (3) : 252-257.
 - 2) 内山沙央里¹⁾, 伊藤友希, 町田 幹, 林 宏光, 汲田伸一郎 (¹⁾ 日本医科大学 医学部) : 拡散 tensor を用いた脳神経走行の評価 中心前回を通る神経線維走行の解剖学書との対比. 日医大医会誌 (1349-8975) 2010 ; 6 (4) : 232-232.
 - 3) 村上隆介, 林 宏光, 上田達夫, 汲田伸一郎 : 【変貌を遂げる大動脈疾患の診断と治療】 診る 大動脈疾患の画像診断最前線 なにをどのように選ぶか. Heart View 2010 ; 14 : 964-971.
 - 4) 村上隆介, 汲田伸一郎, 岩野茉莉絵, 小林宏之, 松原美幸, 土屋眞一 : 生理ステップアップのための画像診断入門 乳腺画像診断 (マンモグラフィ). 検査と技術 2010 ; 38 : 595-602.
 - 5) 町田 幹, 杉崎健一, 村上隆介, 福嶋善光, 佐藤英尊, 吉原尚志, 日高史貴, 天野康雄, 林 宏光, 汲田伸一郎 : 病院実習前の医学部4年生に対する画像解剖学習の試み. 医学教育 2010 ; 41 : 0386-9644.
 - 6) 桐山智成 : SPECT/CT 融合画像による虚血性心疾患の画像診断. 心臓 2011 ; 43 (3) : 322-327.

- 7) 高木 亮：神経画像診断のピットフォール-頭部CTとCT angiography. 脳と神経 2010；62（5）：461-468.
 - 8) 汲田伸一郎, 桐山智成, 福嶋善光, 林 宏光：虚血性心疾患における形態・機能統合診断：MDCTと心筋SPECTの画像融合を含めて. 日独医報 2010；55：59-70.
 - 9) 汲田伸一郎, 石原圭一：心臓核医学の進歩. 日本循環器学会専門医誌 2010；18：323-326.
 - 10) 林 宏光：ヨード造影剤とビグアナイド系糖尿病薬との併用注意について. 日本医師会雑誌 2010；139-163.
 - 11) 林 宏光：ヨード造影剤とビグアナイド系糖尿病薬との併用注意について. 日本薬剤師会誌 2010；62：463-468.
 - 12) 林 宏光：大動脈疾患：診断と治療の進歩 3. CT, MRI. 日本内科学会誌 2010；99：47-50.
 - 13) 林 宏光：脈管疾患診断における非侵襲的画像診断：進歩と現状. 脈管学 2010；49：451-452.
 - 14) 宮下次廣：乳癌診断と治療の最前線：乳癌診療における放射線の寄与：最近の話題を中心に. 東京都医師会雑誌 2011；64（1）：25-35.
- (3) 報告書：
- 1) Tamura S, Sugimoto H, Tsushima Y, Hayashi H, Fukuda K, Korogi Y, Narumi Y, Hosoya T, Ohno I: Guidelines for Administering Gadolinium Based Contrast Agents to Patients with Renal Dysfunction Joint Committee for NSF and Use of Gadolinium Based Contrast Agents. Japan Radiological Society homepage <http://www.radiology.jp/modules/news/article.php?storyid=834>.
- (4) New technology：
- 1) 林 宏光：ここまで進化した画像診断 胸痛のトリアージ決定におけるMDCTの有用性. <http://www.omnipaque.info/shindan/newtech/03/index.html>.

著 書

- 1) 林 宏光：〔分担〕第17章：X. 循環器疾患のマルチスライスCT. 臨床検査法提要（改訂第33版）.（金井正光（監））, 2010；pp1585-1589, 金原出版.
- 2) 桐山智成：〔共著〕循環器内科学.（水野杏一・安武正弘・平山悦之（編））；シュプリンガー・ジャパン.
- 3) 天野康雄, 桐山智成：〔分担〕CT, MRI検査. 循環器内科学（水野杏一, 安武正弘, 平山悦之編）, 2010；pp105-110, シュプリンガー・ジャパン 東京.
- 4) 宮下次廣：〔分担〕各領域の治療：良性腫瘍「総論」. がん・放射線療法2010（（編）大西洋, 唐澤久美子, 唐澤克之）, 2010；pp1159-1162, 篠原出版新社. 東京.
- 5) 林 宏光：〔分担〕ヨード造影剤の添付文書について. 知っておきたい造影剤の副作用ハンドブック.（桑鶴良平（監））, 2010；pp126-134, PILAR PRESS.
- 6) 林 宏光：〔分担〕末梢動脈疾患の低侵襲的画像診断：CTAとMRAを中心に. 新・心臓病プラクティス 血管疾患を診る・治す.（小室一成（編））, 2010；pp208-211, 文光堂.
- 7) 林 宏光：〔分担〕“SCCT guideline for the interpretation and reporting of coronary computed tomographic angiography”の紹介と解説. 心CT 06（小室一成, 栗林幸夫（監））, 2010；pp130-136, 文光堂.
- 8) 林 宏光：〔分担〕“SCCT guideline for performance of coronary computed tomographic angiography：A report of Society of Cardiovascular Computed Tomography Guideline Committee”の紹介と解説. 心CT 05（小室一成, 栗林幸夫（監））, 2010；pp99-104, 文光堂.
- 9) 早川克己¹⁾, 鳴海善文²⁾, 桑鶴良平³⁾, 林 宏光 ¹⁾京都市立病院放射線科, ²⁾大阪医科大学放射線科, ³⁾順天堂大学医学部放射線科：〔分担〕造影剤の適正使用推進ガイドFAQp, 2010；pp8-20, Medical View.
- 10) 早川克己¹⁾, 鳴海善文²⁾, 桑鶴良平³⁾, 林 宏光 ¹⁾京都市立病院放射線科, ²⁾大阪医科大学放射線科, ³⁾順天堂大学医学部放射線科：〔分担〕造影剤の適正使用推進ガイドFAQp, 2010；pp60-65, Medical View.
- 11) 早川克己¹⁾, 鳴海善文²⁾, 桑鶴良平³⁾, 林 宏光 ¹⁾京都市立病院放射線科, ²⁾大阪医科大学放射線科, ³⁾順天

- 堂大学医学部放射線科)：〔分担〕造影剤の適正使用推進ガイドFAQp, 2010；pp78-83, Medical View.
- 12) 早川克己¹⁾, 鳴海善文²⁾, 桑嶋良平³⁾, 林 宏光 (1) 京都市立病院放射線科, 2) 大阪医科大学放射線科, 3) 順天堂大学医学部放射線科)：〔分担〕造影剤の適正使用推進ガイドFAQp, 2010；pp100-107, Medical View.
 - 13) 林 宏光：〔分担〕第17章：X. 循環器疾患のMRI. 臨床検査法提要(改訂第33版). (金井正光(監)), 2010；pp1589-1593, 金原出版.
 - 14) 小野真平¹⁾, 林 宏光, 中尾淳一¹⁾(1)日本医科大学形成外科学)：〔分担〕術前評価：Multidetector-row CT(MDCT)による皮膚穿通技術前評価法. 形成外科診療プラクティス. (一瀬正治, 保坂善昭, 百東比古(編)), 2010；pp149-151, 文光堂.
 - 15) 林 宏光, 栗林幸夫¹⁾(1)慶應義塾大学放射線診断科)：〔分担〕冠動脈(心臓)CT検査のためのSCCTガイドライン：心臓CT学会(SCCT)ガイドライン委員会報告. 心臓血管画像MOOK3(児玉和久(監)), 2010；pp124-127, 産業開発機構株式会社.
 - 16) 林 宏光, 栗林幸夫¹⁾(1)慶應義塾大学放射線診断科)：〔分担〕冠動脈(心臓)CTの読影および報告のためのSCCTガイドライン. 心臓血管画像MOOK3(児玉和久(監)), 2010；pp128-132, 産業開発機構株式会社.
 - 17) 林 宏光：〔分担〕大動脈解離. 心血管パーフェクトガイド：撮像から画像の解釈まで(川名正敏(編)), 2010；pp206-215, 中山書店.
 - 18) 栗林茂彦：〔分担〕7-83. ケロイド. がん・放射線療法2010(大西 洋, 唐澤久美子, 唐澤 克之(編著)), 2010；pp1163-1165, 篠原出版新社.
 - 19) 栗林茂彦：〔分担〕11-1. ケロイド. 代表的照射野とCT上のターゲット(大西 洋, 唐澤久美子, 唐澤 克之(編著)), 2010；pp1163-1165, 篠原出版新社.
 - 20) 高木 亮：〔共著〕救急・当直に役立つ画像診断マニュアル.(監訳 中島康雄, 松本純一 監訳協力 日本救急放射線研究会), 2011；pp 第66-67章-第70-72章, (株)メディカルサイエンスインターナショナル.
 - 21) 汲田伸一郎, 桐山智成：〔分担〕核医学検査. 新しい診断と治療のABC：急性心筋梗塞 改訂第2版(高野照夫 編), 2011；p133, 最新医学社.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 林 宏光：心臓CTの実践的活用：SCCTガイドラインの紹介を含めて. 新潟Radiology Update(新潟), 2011. 3.
- 2) 林 宏光：心臓CT現状のアンケート調査報告. 第9回循環器MDCT研究会(東京), 2010. 4.
- 3) 林 宏光：心臓CTの現状と造影剤腎症. 第21回しまなみカンファレンス(今治), 2010. 5.
- 4) 林 宏光：SCCT心臓CTガイドラインの紹介とその解説. 第4回SCCT研究会(東京), 2010. 9.
- 5) 林 宏光：心臓CTの現状と造影剤腎症. 第21回しまなみカンファレンス(今治), 2010. 9.
- 6) 林 宏光：心臓CTの実践的活用：SCCTガイドラインの紹介を含めて. 第21回愛知県放射線技師フォーラム(名古屋), 2010. 11.
- 7) 林 宏光：心臓CT現状のアンケート調査報告. 第10回循環器MDCT研究会(東京), 2010. 12.
- 8) 林 宏光：切らずに診る人体 2010：マルチスライスCTによる最新の画像診断. 東村山信友会新春講演会(東村山), 2011. 1.
- 9) 林 宏光：腎機能と造影検査. 第1回造影剤lecture meeting(東京), 2011. 1.

(2) 招待講演：

- 1) Murata S：Isolated perfusion therapy for liver and pelvic tumors. (Seoul (Korea).), 2010. 11.

(3) 教育講演：

- 1) 桐山智成：SPECT/CT融合画像を用いた責任血管の同定：解剖学的狭窄と心筋血流情報との乖離. 第46回日

医放秋季大会,

- 2) 林 宏光：心臓 CT—ここに気をつけよう「造影剤」. 第 69 回日本医学放射線学会総会（横浜），2010. 4.
- 3) 林 宏光：マルチスライス CT による血管外科領域の画像診断. 第 38 回日本血管外科学会（大宮），2010. 5.
- 4) 林 宏光：心臓 CT の実践的活用：症例から学ぶ. 南町田 C-S network 講演会（町田），2010. 6.
- 5) 林 宏光：脈管疾患の低侵襲的診断法の進歩とその現状：マルチスライス CT を用いた CT 血管造影法を中心に. 第 51 回日本脈管学会 脈管専門医教育セッション（旭川），2010. 10.
- 6) 林 宏光：マルチスライス CT による Macro and Microcirculation の画像診断：大動脈から冠動脈，皮膚穿通枝まで. 第 34 回関東・甲信越 MMC 研究会（東京），2010. 10.
- 7) 林 宏光：マルチスライス CT による大動脈疾患の低侵襲的診断. 第 24 回赤城循環器フォーラム（前橋），2011. 1.
- 8) 林 宏光：造影剤腎症：リスクファクターと予防. Tokyo MDCT Forum 2010（東京），2011. 2.

(4) シンポジウム：

- 1) 桐山智成：慢性冠動脈疾患の心筋虚血の診断. 第 21 回日本心血管画像動態学会 & 第 72 回心臓血管放射線研究会,
- 2) 桐山智成：SPECT/CT 融合画像の使用経験に基づく心筋血流イメージングの位置づけ. 第 50 回日本核医学会 学術総会, 2010. 11.
- 3) 林 宏光：ヨード造影剤添付文書：再考. 第 29 回日本画像医学会（東京），2011. 2.

(5) ランチョンセミナー：

- 1) 汲田伸一郎：心筋 SPECT・冠動脈 CT を用いた統合画像診断の有用性. 第 58 回 日本心臓病学会, 2010. 9.
- 2) 林 宏光：糖尿病性大血管症の画像診断とその留意点：ヨード造影剤とビグアナイド系糖尿病薬との併用注意を含め. 第 46 回日本医学放射線学会秋季臨床大会（横浜），2010. 9.
- 3) 汲田伸一郎：末梢動脈疾患（PAD）における画像診断の実際と今後の展望：心疾患合併例の統合評価も含めて. 第 9 回 日本フットケア学会, 2011. 2.
- 4) 林 宏光：腎機能と造影検査：Which Study When—JRS/JCR 合同造影剤安全性委員会からの最新情報も含めて. 第 29 回日本画像医学会（東京），2011. 2.

(6) ポスター：

- 1) Fukushima Y, Toba M, Kiriyama T, Hayashi H, Cho K, Kumita S : Clinical application of Cardiac SPECT/CT Fusion image with MIBI/BMIP dual isotope imaging in patients with severe myocardial ischemia. SNM 57th annual meeting (Salt Lake City), 2010. 6.
- 2) Sekine T, Amano Y, Hidaka F, Machida T, Fukushima Y, Takagi R, Kumita S : Systemic Sarcoidosis-investigated by Conventional and State-of-art MR Imaging. 96th annual meeting of RSNA (Chicago), 2010. 11.
- 3) 栗林茂彦, 宮下次廣, 汲田伸一郎, 林 達郎, 木村 剛, 藤原博通, 武田隼人, 近藤幸尋：中高リスク群前立腺癌に対する小線源永久刺入療法の短期治療成績. 日本放射線腫瘍学会第 23 回学術大会, 2010. 11.

(7) 一般講演：

- 1) Takagi R, Amano Y, Sekine T, Murai Y¹⁾, Teramoto A¹⁾, Kumita S⁽¹⁾ Department of Neurosurgery) : Visualization of hemodynamic in intracranial arteries after EC/IC bypass surgery using Time-Resolved Three-Dimensional PC MRI. Progress in Radiology 2010 (Denmark), 2010. 9.
- 2) Takagi R, Amano Y, Sekine T, Murai Y¹⁾, Teramoto A¹⁾, Kumita S⁽¹⁾ Department of neurosurgery) : Visualization of hemodynamic after EC/IC bypass surgery using 4D-flow MRI. 96th Scientific Assembly and annual meeting RSNA 2010 (Scientific paper), 2010. 11.
- 3) Tajima H, Kaneshiro T, Ichikawa T, Murata S, Nakazawa K, Mine T, Ueda T, Sugihara F, Takagi R, Onozawa S¹⁾, Tajima N²⁾ ⁽¹⁾ Vascular Centre, Skane University Hospital, Malmoe, Sweden, ²⁾ Iri Clinic,

- Saitama, Japan) : Hybrid catheter intervention for acute massive pulmonary thromboembolism Departments of Minimally Invasive Treatment and Radiology. 8th Symposium of the Scandinavian Japanese Radiological Society (Vejle, Denmark), 2010. 9.
- 4) Amano Y, Tachi M, Matsumura Y, Suzuki Y, Kumita S, Van Cauteren M : Free-breathing delayed-enhancement 3D MRI with and without phase-sensitive inversion-recovery. 18th annual meeting of ISMRM (Stockholm), 2010. 5.
 - 5) Amano Y, Takagi R, Suzuki Y, Sekine T, Matsumura Y, Takahama K, Kumita S, Van Cauteren M : Comprehensive non-contrast-enhanced MRI of the thoracic aortic dissection non-contrast-enhanced 3D MRA and time-resolved 3D flow tracking techniques. 18th annual meeting of ISMRM (Stockholm), 2010. 5.
 - 6) 天野康雄, 福嶋善光, 汲田伸一郎, 林 宏光, 高山守正¹⁾, 北村光信²⁾ (¹⁾ 榑原記念病院循, ²⁾ 日本医大北総CCU) : 心尖部肥大型心筋症の遅延造影 MRI : 有症状例におけるシネ MRI, SPECT および ECG との比較. 第 71 回心臓血管放射線研究会 (熊本), 2010. 7.
 - 7) 内山沙央里¹⁾, 阿曾亮子, 町田 幹, 吉村明修, 志村俊郎 (¹⁾ 日本医科大学 医学部) : 日本医科大学における模擬患者との医療面接実習に関する学生の意識調査. 日本医学教育学会 (東京), 2010. 7.
 - 8) Murata S, Onozawa S, Tajima H, Mine T, Ueda T, Sugihara F, Uchiyama F, Hayashi H, Kumita S : Retrograde-outflow percutaneous isolated hepatic perfusion without laparotomy. 8th Symposium of the Scandinavian Japanese Radiological Society (Vejle, Denmark), 2010. 9.
 - 9) Murata S, Onozawa S, Tajima H, Mine T, Ueda T, Uchiyama F, Sugihara F, Kumita S : Negative-balances isolated pelvic perfusion for pelvic malignancies. 8th Symposium of the Scandinavian Japanese Radiological Society (Vejle, Denmark), 2010. 9.
 - 10) Sugihara F, Murata S, Mine T, Ueda T, Uchiyama F, Watari J, Onozawa S, Tajima H, Kumazaki T, Kumita S : Transcatheter management for unresectable hepatocellular carcinoma with marked arterioportal shunts : TACE during portal vein occlusion. 8th Symposium of the Scandinavian Japanese Radiological Society (Vejle, Denmark), 2010. 9.
 - 11) Ueda T, Murata S, Mine T, Sugihara F, Onozawa S, Takagi R, Tajima H, Onda M¹⁾, Naito Z¹⁾, Kumazaki T, Kumita S (¹⁾ Department of Oncological Pathology, Nippon Medical School) : Transcatheter arterial chemoembolization in rabbit VX2 liver tumor : comparative study of epirubicin-iodized oil suspension and emulsion. 8th Symposium of the Scandinavian Japanese Radiological Society (Vejle, Denmark), 2010. 9.
 - 12) Mine T, Murata S, Ueda T, Onozawa S, Sugihara F, Takagi R, Tajima H, Kumazaki T, Kumita S : Transcatheter Arterial Chemoembolization of Rabbit VX2 Liver Tumor : Cisplatin-Iodized Oil Suspension VS Emulsion. 8th Symposium of the Scandinavian Japanese Radiological Society (Vejle, Denmark), 2010. 9.
 - 13) Uchiyama F, Murata S, Sugihara F, Watari J¹⁾, Kumita S (¹⁾ Department of Radiology, Ebina General Hospital) : Short and long-term results of balloon-occluded retrograde transvenous obliteration for esophageal and gastric varices : A 10-year experience. 8th Symposium of the Scandinavian Japanese Radiological Society (Vejle, Denmark), 2010. 9.
 - 14) Mine T, Murata S, Ueda T, Onozawa S, Onda M, Naito Z, Kumita S : Comparative study of cisplatin-iodized oil suspension and emulsion in rabbit VX2 liver tumor by transcatheter arterial chemoembolization. CIRSE 2010 (Valencia, Spain), 2010. 10.
 - 15) Ueda T, Murata S, Tajima H, Mine T, Onozawa S, Nakazawa K, Shibukawa A, Kumita S : Comparative study of epirubicin-iodized oil suspension and emulsion in rabbit VX2 liver tumor by transcatheter arte-

- rial chemoembolization. CIRSE 2010 (Valencia, Spain), 2010. 10.
- 16) Amano Y, Fukushima Y, Takayama M, Kitamura M, Kumita S : Delayed-enhancement cardiac MRI of symptomatic apical hypertrophic cardiomyopathy : assessment of the intramural distribution of myocardial delayed-enhancement and comparison with cine MRI, SPECT, and ventricular arrhythmias. 96th annual meeting of RSNA (Chicago), 2010. 11.
 - 17) Murata S, Onozawa S, Mine T, Ueda T, Kumita S, Kumazaki T : Retrograde-outflow isolated hepatic perfusion without laparotomy in a pig model. CIRSE 2010 October 2nd-6th (Valencia, Spain), 2010.
 - 18) 小林靖宏, 鳥羽正浩, 桐山智成, 林 宏光, 山口英宣, 汲田伸一郎 : 心拍変動により冠動脈CATの評価困難であった症例のリスク評価. 第69回日本医学放射線学会総会 (パシフィコ横浜), 2010. 4.
 - 19) 渋川絢子, 小野澤志郎, 田島廣之, 村田 智, 中澤 賢, 嶺 貴彦, 上田達夫, 汲田伸一郎 : 受傷機転の明らかでない動脈性出血に対する緊急動脈塞栓術. 第69回日本医科大学放射線学会総会, 2010. 4.
 - 20) 上田達夫, 田島廣之, 小野澤志郎, 中澤 賢, 村田 智, 嶺 貴彦, 渋川絢子, 田中啓治¹⁾, 落 雅美²⁾, 汲田伸一郎 (¹⁾ 日医大 集中治療室, ²⁾ 日医大 心臓血管外科) : 急性四肢動脈虚血に対するIVRの治療成績. 第69回日本医学放射線学会総会, 2010. 4.
 - 21) 村上隆介, 林 宏光, 杉崎健一, 吉原尚志, 桑子智之, 桐山智成, 吉田民子, 小林靖宏, 汲田伸一郎 : 推定糸球体濾過値を用いた造影剤腎症の検討. 第69回日本医学放射線学会総会, 2010. 4.
 - 22) 関根鉄朗, 高木 亮, 天野康雄, 松村善雄¹⁾, 日高史貴, 林 宏光, 鈴木由里子²⁾, 汲田伸一郎 (¹⁾ 日医大 放射線科 技師, ²⁾ フィリップス) : 3T-MRIを用いたPhase Contrast法による4D-Flow MRI : 脳血管バイパス術後の血流評価. 第69回日本医学放射線学会総会, 2010. 4.
 - 23) 桐山智成, 鳥羽正浩, 林 宏光, 福嶋善光, 桑子智之, 佐藤英尊, 吉原尚志, 汲田伸一郎 : 川崎病遠隔期の冠動脈病変の評価におけるCTAとMPIの比較 : 融合画像を用いた初期臨床検討. 第69回日本医学放射線学会総会, 2010. 4.
 - 24) 嶺 貴彦, 村田 智, 田島廣之, 中澤 賢, 小野澤志郎, 上田達夫, 渋川絢子, 汲田伸一郎 : 四肢骨盤部AVMに対するIVR治療戦略. 第69回日本医学放射線学会総会, 2010. 4.
 - 25) 村田 智, 小野澤志郎, 田島廣之, 嶺 貴彦, 上田達夫, 中澤 賢, 渋川絢子, 汲田伸一郎, 隈崎達夫 : 手術不能直腸癌に対するNegative-in-out flowによる骨盤内灌流療法の治療成績. 第69回日本医学放射線学会総会, 2010. 4.
 - 26) 小野澤志郎, 田島廣之, 村田 智, 中澤 賢, 嶺 貴彦, 上田達夫, 渋川絢子, 汲田伸一郎, 田村秀樹¹⁾, 杉原 仁¹⁾ (¹⁾ 日医大 内分泌代謝内科) : CT併用下右副腎静脈サンプリングの有用性. 第69回日本医学放射線学会総会, 2010. 4.
 - 27) 福嶋善光, 鳥羽正浩, 桐山智成, 林 宏光, 趙 圭一, 汲田伸一郎 : 重症虚血性心疾患に対する脂肪酸代謝シンチグラフィを用いたSPECT/CT Fusion imageの有用性. 第69回日本医学放射線学会総会, 2010. 4.
 - 28) 山口英宣, 鳥羽正浩, 三好永哲¹⁾, 新田浩一¹⁾, 桐山智成, 福嶋善光, 趙 圭一, 汲田伸一郎 (¹⁾ 日立メディコ核医学部門) : Tc-99m心筋血流SPECT画像による心筋壁厚推定(心筋ファントムを用いた基礎的検討). 第69回日本医学放射線学会総会, 2010. 4.
 - 29) 渋川絢子, 小野澤志郎, 田島廣之, 村田 智, 中澤 賢, 嶺 貴彦, 上田達夫, 汲田伸一郎 : 受傷機転の明らかでない動脈性出血に対する緊急動脈塞栓術. 第69回日本医学放射線学会総会, 2010. 4.
 - 30) 吉原尚志, 石原真木子¹⁾, 丸野廣大¹⁾, 岡崎 篤¹⁾, 佐藤英尊, 椎葉真人, 桑子智之, 桐山智成, 石原圭一, 汲田伸一郎 (¹⁾ 虎の門病院放射線科) : 食道癌微小リンパ節転移のPET-CT診断に対する後期像追加による診断能向上. 第69回日本医学放射線学会総会, 2010. 4.
 - 31) 渋川絢子, 村田 智, 中澤 賢, 嶺 貴彦, 上田達夫, 山口英宣, 林 宏光, 汲田伸一郎, 隈崎達夫, 田島廣之¹⁾, 小田竜也²⁾, 佐竹光男³⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院, ²⁾ 筑波大学外科学, ³⁾ がんセンター東病院放射線科) :

- Negative-in-out flow 骨盤内閉鎖循環下灌流療法と全身化学療法の比較試験：血漿内/組織内 CDDP 濃度. 第 39 回日本 IVR 学会総会, 2010. 5.
- 32) 栗林茂彦, 宮下次廣, 汲田伸一郎：高線量率小線源治療装置によるケロイドの術後照射. 第 12 回日本放射線腫瘍学会小線源治療部会, 2010. 5.
- 33) 鈴木えりか¹⁾, 柳原恵子, 野口智子, 飯田信也, 村上隆介, 原田 大, 土屋眞一, 古川清憲, 芳賀駿介, 内田英二 (1) 日本医科大学 第 1 外科)：Neuroendocrine DCIS の 3 例. 第 18 回日本乳癌学会総会, 2010. 6.
- 34) 村上隆介, 高濱克也, 汲田伸一郎, 柳原恵子, 飯田信也, 山下浩二, 土屋眞一, 原田 大, 清水忠夫, 道本 薫, 氏原英幸：マンモグラフィ検診におけるコンピュータ診断支援システム (CAD) の診断能の検討. 第 18 回日本乳癌学会総会, 2010. 6.
- 35) 柳原恵子, 飯田信也, 鈴木えりか, 野口智子, 古川清憲, 芳賀駿介, 内田英二, 村上隆介, 土屋眞一 (1) 日本医科大学第 1 外科)：浸潤性小葉癌 (ILC) の特徴. 2010. 6.
- 36) 渋谷絢子, 村田 智, 中澤 賢, 嶺 貴彦, 上田達夫, 山口英宣, 安井大祐, 林 宏光, 汲田伸一郎, 隈崎達夫, 田島廣之¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 放射線科)：flow control 下に TAE を施行し良好な塞栓効果を得られた腎 AVM の 1 例. 第 5 回日本 IVR 学会関東地方会, 2010. 7.
- 37) 町田 幹, 杉崎健一, 村上隆介, 福嶋善光, 佐藤英尊, 吉原尚志, 日高史貴, 天野康雄, 林 宏光, 汲田伸一郎：病院実習前の医学部 4 年生に対する画像解剖学習の試み. 日本医学教育学会 (東京), 2010. 7.
- 38) 関根鉄朗, 高木 亮, 天野康雄, 松村善雄, 日高史貴, 林 宏光, 鈴木由里子, 汲田伸一郎：3T-MRI を用いた Phase Contrast 法による脳血管バイパス患者の脳血流動態及び血流量の評価. 第 38 回日本磁気共鳴医学大会, 2010. 9.
- 39) 水村 直¹⁾, 桑子智之, 汲田伸一郎 (1) 東邦大学医療センター大森病院放射線科)：TLCL 脳腫瘍 SPECT における Voxel-Based 解析. 第 8 回脳核医学画像解析研究会, 2010. 9.
- 40) 天野康雄, 関根鉄朗, ジェラードクリエール^{1, 2)}, 鈴木由里子³⁾, 松村善雄, 高木 亮, 汲田伸一郎 (1) ジャイロトールズ, 2) チューリッヒ工科大学)：胸部大動脈解離の 4D flow MRI. 第 38 回日本磁気共鳴医学会 (つくば), 2010. 10.
- 41) 福嶋善光, 天野康雄, 趙 圭一, 鳥羽正浩, 桐山智成, 山口英宣, 小林靖宏, 汲田伸一郎：急性心不全の原因疾患鑑別における MIBI/BMIPP dual 心筋 SPECT の有用性. 第 50 回日本核医学会学術総会, 2010. 11.
- 42) 椎葉真人, 石原圭一, 吉原尚志, 桑子智之, 佐藤英尊, 汲田伸一郎：11C-Methionine および 18F-FDG PET/CT を用いた前立腺癌の評価. 第 50 回日本核医学会学術総会, 2010. 11.
- 43) 山口英宣, 鳥羽正浩, 三好永哲¹⁾, 新田浩一¹⁾, 桐山智成, 福嶋善光, 水村 直, 趙 圭一, 汲田伸一郎 (1) 日立メディコ)：Tc-99m 心筋血流 SPECT 画像を用いた心筋壁厚測定に関する検討. 第 50 回日本核医学会学術総会, 2010. 11.
- 44) 桑子智之, 水村 直¹⁾, 佐藤英尊, 桐山智成, 福嶋善光, 汲田伸一郎 (1) 東洋大学 放射線科)：TLCL 脳腫瘍 SPECT における Voxel-Based 解析プログラムの開発. 第 50 回日本核医学会学術総会, 2010. 11.
- 45) 岩野茉莉絵, 宮下次廣, 栗林茂彦, 小澤由季子, 汲田伸一郎, 小川 令¹⁾, 百束比古¹⁾ (1) 日本医大付属病院形成外科)：切除不能ケロイドに対する放射線単独治療の 2 例. 第 24 回日本放射線腫瘍学会学術大会 (千葉), 2010. 11.
- 46) 小澤由季子, 宮下次廣, 栗林茂彦, 岩野茉莉絵, 汲田伸一郎, 百束比古¹⁾, 小川 令¹⁾, 赤石論史¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 形成外科)：ケロイドに対する高線量率小線源治療装置による術後照射の急性毒性の評価. 日本放射線腫瘍学会第 25 回学術大会 (幕張), 2010. 11.
- 47) 椎葉真人, 石原圭一, 吉原尚志, 桑子智之, 佐藤英尊, 箱崎謙太, 汲田伸一郎：11C-Methionine, 18F-FDG PET/CT および MRI を用いた前立腺癌の評価. 日本医学放射線学会学術集会抄録集, 2011. 2.

(8) ラウンドディスカッション：

- 1) 桐山智成：心臓核医学検査に関連したマルチモダリティによる総合的な虚血性疾患の評価。第20回心臓核医学会。

(9) 指定発言：

- 1) 天野康雄：虚血性心疾患評価におけるMRIの有用性：心筋梗塞・虚血に伴う不整脈源の描出。第20回日本心臓核医学会，2010. 6.

[武蔵小杉病院放射線科]

研究概要

放射線診断学：1) 呼吸器疾患に対し，MDCTにより高精細画像を作成し，画像診断の向上に力を注いでいる。肺切除病理標本とCT画像の比較検討から，詳細な画像所見の分析を試みている。2) 川崎市からの依頼により地域住民の胃癌計画検診業務に参画し，より効率の良い，より精度の高い集検体系の確立をめざし研究中である。3) MRIによる乳腺疾患の質的診断におけるdynamic studyの応用，乳腺浸潤判定における高分解能MRIの撮像最適化に取り組んでいる。また，ステレオガイド下マンモトーム生検を行い，マンモグラフィー上，微小石灰化を伴う乳癌診断にも力を注いでいる。

Interventional Radiology：1) 悪性肝臓腫瘍の治療として経皮的肝動脈塞栓術，経皮的肝動脈動注療法を集学的治療に取り組んでいる。

放射線治療学：1) 肺癌に対して，放射線治療を集学的治療の一つとして積極的に取り組んでいる。2) 形成外科とともに，ケロイド治療に取り組んでいる。

核医学：1) 各種放射性医薬品を用いて虚血性心疾患の評価に取り組んでいる。2) 脳腫瘍SPECTを用いて腫瘍の局在などの検出率の評価に取り組んでいる。

研究業績

学会発表

(1) 招待講演：

- 1) 市川太郎：“普通の”肝・胆・膵診断。川崎画像診断読影講座（第15回），2010. 12.

(2) 教育講演：

- 1) 一色彩子：「その他の所見」で読む胸部画像。川崎横浜若手呼吸器勉強会（第3回），2011. 3.

(3) シンポジウム：

- 1) Tajima H¹⁾, Kaneshiro T¹⁾, Ichikawa T, Murata S²⁾, Nakazawa K²⁾, Mine T²⁾, Ueda T²⁾, Sugihara F³⁾, Takagi R²⁾, Onozawa S²⁾, Tajima N⁴⁾ (1) Department of minimally invasive treatment Musashikosugi Hospital, 2) Department of Radiology, 3) Ebina General Hospital, 4) Iri Clinic) : Hybrid catheter intervention for acute massive pulmonary thromboembolism. Joint meeting of the 8th Symposium of the Scandinavia Japan Radiological Society and 11th Nordic Japan PACS Symposium (Vejle), 2010. 9.

(4) ポスター：

- 1) 一色彩子，市川太郎，清水康弘，安藤 順，山口香織，橘和聡文，大塚智之¹⁾，汲田伸一郎²⁾ (1) 武蔵小杉病院内科，2) 付属病院放射線科)：蛋白尿を主訴に来院し特徴的なMRI画像を呈した下肢MPNSTの1例。日本医学放射線学会関東地方会（第437回），2010. 6.

(5) 一般講演：

- 1) 田島廣之¹⁾，市川太郎，織井恒安²⁾，日置正文²⁾，村田 智³⁾，市川和雄³⁾，中澤 賢³⁾，小野澤志郎³⁾，嶺 貴彦³⁾，上田達夫³⁾，落 雅美⁴⁾，川俣博志⁵⁾，別所竜蔵⁶⁾ (1) 武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター，2) 武蔵小杉

病院心臓血管外科, ³⁾ 付属病院放射線科, ⁴⁾ 付属病院心臓血管外科, ⁵⁾ 千葉北総病院放射線科, ⁶⁾ 千葉北総病院心臓血管外科) : 企業製デバイスを用いた腹部大動脈瘤に対するステントグラフト治療 : 中期成績. 日本 IVR 学会関東地方会 (第 5 回), 2010. 7.

- 2) 橘和聡文, 一色彩子, 山口香織, 清水康弘, 安藤 順, 鶴田晴子, 高間都支, 市川太郎, 金城忠志¹⁾, 田島廣之¹⁾, 春原沙織²⁾, 村澤恒男²⁾, 畝本恭子³⁾ (¹⁾ 武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター, ²⁾ 武蔵小杉病院内科, ³⁾ 武蔵小杉病院救命救急センター) : 腎血管筋脂肪腫の腎動脈瘤破裂に対する緊急動脈塞栓術. 神奈川県放射線医学会例会 (第 51 回), 2010. 9.

[武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター]

研究概要

臨床・基礎各科との協調・連携の下, 血管内・低侵襲治療に関する広範な領域の臨床研究を展開しており, 「急性疾患の血管内治療」と「全身血管性病変の血管内治療」をメインテーマとしている.

前者に関しては, 「静脈血栓塞栓症」と「外傷」を 2 本の研究の柱としている. 文部科学省の科学研究費を獲得し, 国際学会のシンポジウムに採択されるなど, 国内外で高い評価を得ている. 咯血・消化管出血・後腹膜出血などの「出血」に関する研究も進んでいる.

後者に関しては, 胸部・腹部大動脈瘤/解離のステントグラフト, 閉塞性動脈硬化症のステント, 膝下動脈狭窄・閉塞のバルン PTA, 腎動脈狭窄のステントなどの低侵襲血行再建や動静脈奇形の血管塞栓術などに関する研究を行っているが, その良好な治療成績が注目されはじめている.

一方, 非血管低侵襲治療については, 肺癌の CT ガイド下生検・ラジオ波焼灼治療, 術後トラブルに対する CT ガイド下ドレナージ, 乳癌のステレオタクティック・マンモトーム生検などを中心とした臨床研究を行っている.

血管内・低侵襲治療をより安全に効果的に施行する目的で, 先端画像診断に関する解析や新規デバイスの開発も行っており, 「医用デジタル動画像研究会」や「東京アンギオ IVR 会」の事務局を担当している.

なお, これらと平行して, 以前より肺癌・乳癌・胃癌などの癌検診や造影剤に関する研究も精力的に継続している.

研究業績

論文

(1) 総説 :

- 1) 田島廣之, 村田 智¹⁾, 中澤 賢¹⁾, 福永 毅¹⁾, 小野澤志郎¹⁾, 嶺 貴彦¹⁾, 上田達夫¹⁾, 城 正樹¹⁾, 渋川絢子¹⁾, 市川和雄¹⁾, 山本 剛²⁾, 田中啓治²⁾ (¹⁾ 付属病院放射線科, ²⁾ 付属病院集中治療室) : これから始める静脈系の IVR. 急性肺血栓塞栓症の IVR. IVR 学会誌 2010 ; 25 (2) : 156-162.
- 2) 中澤 賢¹⁾, 田島廣之 (¹⁾ 付属病院放射線科) : これから始める静脈系の IVR. IVC フィルター. IVR 学会誌 2010 ; 25 (2) : 150-155.
- 3) 田島廣之 : Cystic lesion : 画像診断の Key point. 序説. 臨床画像 2011 ; 27 (1) : 3-3.
- 4) 小林由子¹⁾, 田島廣之, 阿部和也¹⁾, 玉井 仁¹⁾, 山本 彰¹⁾, 中井章人²⁾, 汲田伸一郎³⁾ (¹⁾ 多摩永山病院放射線科, ²⁾ 多摩永山病院女性診療科, ³⁾ 付属病院放射線科) : Cystic lesion : 画像診断の Key point. 婦人科領域. 臨床画像 2011 ; 27 (1) : 70-79.
- 5) 嶺 貴彦¹⁾, 川俣博志²⁾, 田島廣之 (¹⁾ 付属病院放射線科, ²⁾ 千葉北総病院放射線科) : 救急領域のマルチスライス CT マニュアル : 心・大血管損傷. 救急医学 2011 ; 35 (2) : 233-235.

(2) その他 :

- 1) 田島廣之 : 第 8 回日本北欧放射線医学シンポジウム・第 11 回日本北欧 PACS シンポジウム報告. 映像情報メデイカル 2011 ; 43 (1) : 60-63.

著 書

- 1) 田島廣之：〔翻訳〕第63章：第72章. 救急・当直に役立つ画像診断マニュアル（中島康雄・松本純一），2011；pp386-440, メディカル・サイエンス・インターナショナル.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 田島廣之：広がる放射線医学の役割. 救急放射線. 迅速かつ的確な画像診断とIVRの重要性. 日本医学放射線学会（第69回），2010. 4.
- 2) 田島廣之：静脈血栓塞栓症に対するIVR. 岡山血管造影IVR症例検討会（第50回），2010. 7.
- 3) 田島廣之：静脈血栓塞栓症の診断と治療. 川崎区・幸区実地医家勉強会（第59回），2010. 10.
- 4) 田島廣之：末梢血管IVRの実際. メディコン講習会，2011. 2.
- 5) 田島廣之：救急疾患のIVR. 米子IVR研究会（第12回），2011. 3.
- 6) 田島廣之：静脈血栓塞栓症の診断と治療. 住吉支部病診連携勉強会（第24回），2011. 3.

(2) 教育講演：

- 1) 田島廣之：血管系IVRの基本. 認定IVR看護師講習会（第8回），2010. 12.

(3) シンポジウム：

- 1) Tajima H, Kaneshiro T, Ichikawa T¹⁾, Murata S²⁾, Nakazawa K²⁾, Mine T²⁾, Ueda T²⁾, Sugihara F³⁾, Takagi R²⁾, Onozawa S²⁾, Tajima N⁴⁾ (¹⁾ Department of Radiology, Musashikosugi Hospital, ²⁾ Department of Radiology, ³⁾ Ebina General Hospital, ⁴⁾ Iri Clinic) : Hybrid catheter intervention for acute massive pulmonary thromboembolism. Joint meeting of the 8th Symposium of the Scandinavia Japan Radiological Society and 11th Nordic Japan PACS Symposium.(Vejle), 2010. 9.
- 2) Murata S¹⁾, Onozawa S¹⁾, Tajima H, Mine T¹⁾, Ueda T¹⁾, Uchiyama F²⁾, Sugihara F²⁾, Kumita S¹⁾ (¹⁾ Department of Radiology, ²⁾ Ebina General Hospital) : Negative-balanced isolated pelvic perfusion for pelvic malignancies. Joint meeting of the 8th Symposium of the Scandinavia Japan Radiological Society and 11th Nordic Japan PACS Symposium.(Vejle.), 2010. 9.
- 3) Murata S¹⁾, Onozawa S¹⁾, Tajima H, Mine T¹⁾, Ueda T¹⁾, Uchiyama F²⁾, Sugihara F²⁾, Kumita S¹⁾ (¹⁾ Department of Radiology, ²⁾ Ebina General Hospital) : Retrograde-outflow percutaneous isolated hepatic perfusion without laparotomy. Joint meeting of the 8th Symposium of the Scandinavia Japan Radiological Society and 11th Nordic Japan PACS Symposium.(Vejle), 2010. 9.
- 4) Sugihara F²⁾, Murata S¹⁾, Mine T¹⁾, Ueda T¹⁾, Uchiyama F²⁾, Watari J²⁾, Onozawa S¹⁾, Tajima H, Kumazaki T¹⁾, Kumita S¹⁾ (¹⁾ Department of Radiology, ²⁾ Ebina General Hospital) : Transcatheter management for unresectable hepatocellular carcinoma with marked arteriportal shunts : TACE during portal vein occlusion. Joint meeting of the 8th Symposium of the Scandinavia Japan Radiological Society and 11th Nordic Japan PACS Symposium.(Vejle), 2010. 9.
- 5) Onozawa S¹⁾, Murata S¹⁾, Tajima H (¹⁾ Department of Radiology) : Transcatheter arterial ethanol embolization under closed renal circuit for large renal cell carcinoma. Joint meeting of the 8th Symposium of the Scandinavia Japan Radiological Society and 11th Nordic Japan PACS Symposium.(Vejle), 2010. 9.
- 6) Ueda T¹⁾, Murata S¹⁾, Mine T¹⁾, Sugihara F²⁾, Onozawa S¹⁾, Takagi R¹⁾, Tajima H, Onda M³⁾, Naito Z³⁾, Kumazaki T¹⁾, Kumita S¹⁾ (¹⁾ Department of Radiology, ²⁾ Ebina General Hospital, ³⁾ Pathology 2) : Transcatheter arterial chemoembolization in rabbit VX2 liver tumor : comparative study of epirubicin-iodized oil suspension and emulsion. Joint meeting of the 8th Symposium of the Scandinavia Japan Radiological Society and 11th Nordic Japan PACS Symposium.(Vejle), 2010. 9.

- 7) Mine T¹⁾, Murata S¹⁾, Ueda T¹⁾, Onozawa S¹⁾, Sugihara F²⁾, Takagi R¹⁾, Tajima H, Kumazaki T¹⁾, Kumita S¹⁾ (1) Department of Radiology, 2) Ebina General Hospital) : Transcatheter arterial chemoembolization of rabbit VX2 liver tumor : Cisplatin-iodized oil suspension vs emulsion. Joint meeting of the 8th Symposium of the Scandinavia Japan Radiological Society and 11th Nordic Japan PACS Symposium.(Vejle), 2010. 9.
- 8) 宗像 亮¹⁾, 山本 剛¹⁾, 坪 宏一¹⁾, 佐藤直樹¹⁾, 田中啓治¹⁾, 高野仁司²⁾, 水野杏一²⁾, 中澤 賢³⁾, 村田 智³⁾, 田島廣之 (1) 付属病院集中治療室, 2) 付属病院循環器内科, 3) 付属病院放射線科) : 循環虚脱を呈した肺塞栓症への治療 : PCPS とカテーテル治療により対処できる. 肺塞栓症研究会・学術集会 (第 17 回), 2010. 11.
- (4) 一般講演 :
- 1) Ueda T¹⁾, Murata S¹⁾, Tajima H, Mine T¹⁾, Onozawa S¹⁾, Nakazawa K¹⁾, Shibukawa A¹⁾, Kumita S¹⁾ (1) Department of Radiology) : Comparative study of epirubicin-iodized oil suspension and emulsion in rabbit VX2 liver tumor by transcatheter arterial chemoembolization. CIRSE2010 (Valencia), 2010. 10.
- 2) 渋谷 絢子¹⁾, 小野澤志郎¹⁾, 田島廣之, 村田 智¹⁾, 中澤 賢¹⁾, 嶺 貴彦¹⁾, 上田達夫¹⁾, 汲田伸一郎¹⁾ (1) 付属病院放射線科) : 受傷機転の明らかでない動脈性出血に対する緊急動脈塞栓術. 日本医学放射線学会 (第 69 回), 2010. 4.
- 3) 小野澤志郎¹⁾, 田島廣之, 村田 智¹⁾, 中澤 賢¹⁾, 嶺 貴彦¹⁾, 上田達夫¹⁾, 渋谷 絢子¹⁾, 汲田伸一郎¹⁾ (1) 付属病院放射線科) : CT 併用下右副腎静脈サンプリングの有用性. 日本医学放射線学会 (第 69 回), 2010. 4.
- 4) 村田 智¹⁾, 小野澤志郎¹⁾, 田島廣之, 嶺 貴彦¹⁾, 上田達夫¹⁾, 中澤 賢¹⁾, 渋谷 絢子¹⁾, 汲田伸一郎¹⁾, 隈崎達夫¹⁾ (1) 付属病院放射線科) : 手術不能直腸癌に対する negative-in-out flow による骨盤内灌流療法の治療成績. 日本医学放射線学会 (第 69 回), 2010. 4.
- 5) 嶺 貴彦¹⁾, 村田 智¹⁾, 田島廣之, 中澤 賢¹⁾, 小野澤志郎¹⁾, 上田達夫¹⁾, 渋谷 絢子¹⁾, 汲田伸一郎¹⁾ (1) 付属病院放射線科) : 四肢骨盤部 AVM に対する IVR 治療戦略. 日本医学放射線学会 (第 69 回), 2010. 4.
- 6) 上田達夫¹⁾, 田島廣之, 小野澤志郎¹⁾, 村田 智¹⁾, 中澤 賢¹⁾, 嶺 貴彦¹⁾, 渋谷 絢子¹⁾, 田中啓治²⁾, 落 雅美³⁾, 汲田伸一郎¹⁾ (1) 付属病院放射線科, 2) 付属病院集中治療室, 3) 付属病院心臓血管外科) : 急性四肢動脈虚血に対する IVR の治療成績. 日本医学放射線学会 (第 69 回), 2010. 4.
- 7) 渋谷 絢子¹⁾, 村田 智¹⁾, 中澤 賢¹⁾, 小野澤志郎¹⁾, 嶺 貴彦¹⁾, 上田達夫¹⁾, 田島廣之, 汲田伸一郎¹⁾, 隈崎達夫¹⁾, 小田竜也²⁾, 佐竹光夫³⁾ (1) 付属病院放射線科, 2) 筑波大学, 3) 国立がんセンター東病院) : プタモデルを用いた negative-in-out flow による骨盤内閉鎖循環下灌流療法と全身化学療法の比較試験. 日本 IVR 学会総会 (第 39 回), 2010. 5.
- 8) 村田 智¹⁾, 中澤 賢¹⁾, 小野澤志郎¹⁾, 嶺 貴彦¹⁾, 上田達夫¹⁾, 渋谷 絢子¹⁾, 田島廣之, 汲田伸一郎¹⁾, 隈崎達夫¹⁾, 小田竜也²⁾, 佐竹光夫³⁾ (1) 付属病院放射線科, 2) 筑波大学, 3) 国立がんセンター東病院) : Negative-in-out flow による骨盤内灌流療法の治療成績 (手術不能直腸癌). 日本 IVR 学会総会 (第 39 回), 2010. 5.
- 9) 嶺 貴彦¹⁾, 村田 智¹⁾, 小野澤志郎¹⁾, 中澤 賢¹⁾, 上田達夫¹⁾, 渋谷 絢子¹⁾, 田島廣之, 汲田伸一郎¹⁾, 隈崎達夫¹⁾, 佐竹光夫²⁾ (1) 付属病院放射線科, 2) 国立がんセンター東病院) : 傍大動脈周囲リンパ節転移に対する新灌流療法システムの開発. 日本 IVR 学会総会 (第 39 回), 2010. 5.
- 10) 上田達夫¹⁾, 田島廣之, 村田 智¹⁾, 中澤 賢¹⁾, 小野澤志郎¹⁾, 嶺 貴彦¹⁾, 渋谷 絢子¹⁾, 田中啓治²⁾, 落 雅美³⁾, 汲田伸一郎¹⁾ (1) 付属病院放射線科, 2) 付属病院集中治療室, 3) 付属病院心臓血管外科) : 急性四肢虚血に対する IVR. 日本 IVR 学会総会 (第 39 回), 2010. 5.
- 11) 嶺 貴彦¹⁾, 田島廣之, 村田 智¹⁾, 中澤 賢¹⁾, 小野澤志郎¹⁾, 汲田伸一郎¹⁾, 大泉 旭²⁾, 横田裕行²⁾, 原義明³⁾, 松本 尚³⁾, 益子邦洋³⁾ (1) 付属病院放射線科, 2) 付属病院救命救急センター, 3) 千葉北総病院救命救急センター) : 骨盤骨折に対する蘇生手段としての TAE の有用性. 日本外傷学会 (第 24 回), 2010. 5.
- 12) 嶺 貴彦¹⁾, 中澤 賢¹⁾, 田島廣之, 落 雅美²⁾ (1) 付属病院放射線科, 2) 付属病院心臓血管外科) : Aorto-

- SMA バイパス下にステントグラフト留置を行った胸腹部大動脈瘤の1例. EG Works (第6回), 2010. 6.
- 13) 山口英宣¹⁾, 小野澤志郎¹⁾, 田島廣之, 村田 智¹⁾, 中澤 賢¹⁾, 嶺 貴彦¹⁾, 上田達夫¹⁾, 渋川絢子¹⁾, 汲田伸一郎¹⁾ (1) 付属病院放射線科): 気管支動脈奇形に対して動脈塞栓術が有用であった1例. 日本血管内治療学会総会 (第16回), 2010. 7.
- 14) 田島廣之, 市川太郎¹⁾, 織井恒安²⁾, 日置正文²⁾, 村田 智³⁾, 市川和雄³⁾, 中澤 賢³⁾, 小野澤志郎³⁾, 嶺 貴彦³⁾, 上田達夫³⁾, 落 雅美⁴⁾, 川俣博志⁵⁾, 別所竜蔵⁶⁾ (1) 武蔵小杉病院放射線科, 2) 武蔵小杉病院心臓血管外科, 3) 付属病院放射線科, 4) 付属病院心臓血管外科, 5) 千葉北総病院放射線科, 6) 千葉北総病院心臓血管外科): 企業製デバイスを用いた腹部大動脈瘤に対するステントグラフト治療: 中期成績. 日本IVR学会関東地方会 (第5回), 2010. 7.
- 15) 渋川絢子¹⁾, 村田 智¹⁾, 中澤 賢¹⁾, 嶺 貴彦¹⁾, 上田達夫¹⁾, 山口英宣¹⁾, 田島廣之 (1) 付属病院放射線科): 血流コントロール下にTAEを施行し良好な塞栓効果が得られた腎AVMの1例. 日本IVR学会関東地方会 (第5回), 2010. 7.
- 16) 橋和聡文¹⁾, 一色彩子¹⁾, 山口香織¹⁾, 清水康弘¹⁾, 安藤 順¹⁾, 鶴田晴子¹⁾, 高間都支¹⁾, 市川太郎¹⁾, 金城忠志, 田島廣之, 春原沙織²⁾, 村澤恒男²⁾, 畝本恭子³⁾ (1) 武蔵小杉病院放射線科, 2) 武蔵小杉病院内科, 3) 武蔵小杉病院救命救急センター): 腎血管筋脂肪腫の腎動脈瘤破裂に対する緊急動脈塞栓術. 神奈川県放射線医会例会 (第51回), 2010. 9.
- 17) 上田達夫¹⁾, 村田 智¹⁾, 田島廣之, 中澤 賢¹⁾, 嶺 貴彦¹⁾, 山口英宣¹⁾, 渋川絢子¹⁾, 安井大祐¹⁾, 村上隆介¹⁾, 林 宏光¹⁾, 汲田伸一郎¹⁾ (1) 付属病院放射線科): 急性四肢動脈閉塞症に対する血管内治療. 日本脈管学会総会 (第51回), 2010. 10.
- 18) 朽方規喜¹⁾, 益子邦洋¹⁾, 松本 尚¹⁾, 横田裕行²⁾, 落 雅美³⁾, 嶺 貴彦⁴⁾, 川俣博志⁵⁾, 岡田 進⁵⁾, 田島廣之 (1) 千葉北総病院救命救急センター, 2) 付属病院救命救急センター, 3) 付属病院心臓血管外科, 4) 付属病院放射線科, 5) 千葉北総病院放射線科): 鈍的大動脈損傷に対する大動脈ステントグラフト内挿術の治療経験. 日本脈管学会総会 (第51回), 2010. 10.
- 19) 上田達夫¹⁾, 村田 智¹⁾, 中澤 賢¹⁾, 嶺 貴彦¹⁾, 田島廣之, 落 雅美²⁾ (1) 付属病院放射線科, 2) 付属病院心臓血管外科): 記憶に残る珠玉の1例. 急性四肢動脈閉塞症に対する血管内治療. 末梢血管画像・血管内治療研究会 (第13回), 2010. 10.
- 20) 森末 遼¹⁾, 牧 真彦¹⁾, 目原久美¹⁾, 遠藤広史¹⁾, 上笹 宙¹⁾, 望月 徹¹⁾, 畝本恭子¹⁾, 黒川 顕¹⁾, 田島廣之 (1) 武蔵小杉病院救命救急センター): 気管支動脈塞栓術が有効であった気管支動脈蔓状血管腫による大量喀血の1例. 日本救急医学会関東地方会 (第61回), 2011. 2.
- 21) 大山莉奈¹⁾, 黒川 顕¹⁾, 畝本恭子¹⁾, 望月 徹¹⁾, 上笹 宙¹⁾, 牧 真彦¹⁾, 目原久美¹⁾, 遠藤広史¹⁾, 田島廣之 (1) 武蔵小杉病院救命救急センター): 治療に難渋した出血性胃潰瘍の1例. 日本救急医学会関東地方会 (第61回), 2011. 2.

[多摩永山病院放射線科]

研究概要

CTでは、ワークステーションを活用した医用画像処理の研究・マルチスライスCTを用いた心疾患の診断・造影剤の腎機能に及ぼす影響について検討を続けている。また高濃度ヨード造影剤を用いた肝細胞癌の抽出能についての検討も行っている。MRIではEOBによる肝細胞の抽出能に関する検討を行っている。また、局所の心機能解析の検討を行っている。今後は核医学的検査との比較を予定している。核医学では、これまで外部企業と共同で心電図同期SPECTの解析プログラムを開発し、現在もこのプログラムの改良を継続している。また、これらを用いて種々の心疾患における心筋の血流・代謝と壁運動・同期性の関係や心筋虚血と壁運動の同期性の関係について検討を重ねてい

る。また、左室壁運動の同期性を用いた予後予測についてもデータを蓄積中である。その他、各種認知証における脳血流 SPECT について地域の医療機関と連携の上、検討を重ねている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Fukazawa R^{1,2)}, Tamai J, Imai T^{1,2)}, Takeda S^{1,2)}, Hayakawa J^{1,2)}, Narazaki H^{1,2)}, Shimizu K^{1,2)}, Takase M^{1,2)} (1) Department of Pediatrics, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, 2) Department of Pediatrics, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital) : Multi-row Detector Computed Tomography Coronary Angiogram Image of an anomalous Left Coronary Artery from the Pulmonary Artery. J Nippon Med Sch 2011 ; 78 (1) : 2-3.

(2) 総説：

- 1) 小林由子, 田島廣之¹⁾, 阿部和也, 玉井 仁, 山本 彰, 中井章人²⁾, 汲田伸一郎³⁾ (1) 武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター, 2) 多摩永山病院女性診療科, 3) 付属病院放射線科) : Cystic lesion : 画像診断の Key point. 婦人科領域. 臨床画像 2011 ; 27 (1) : 70-79.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 山本 彰, 宮地秀樹¹⁾, 阿部和也, 小林由子, 玉井 仁, 汲田伸一郎²⁾ (1) 多摩永山病院内科, 2) 付属病院放射線科) : 虚血性と他の心疾患における心筋虚血・リモデリング・収縮能・機械的および電気的同期性の関係. 日本医学放射線学会総会 (第 69 回), 2010. 4.
- 2) 山本 彰, 宮地秀樹¹⁾, 阿部和也, 小林由子, 玉井 仁, 能勢隆之²⁾, 汲田伸一郎³⁾ (1) 多摩永山病院内科, 2) 同放射線治療科, 3) 付属病院放射線科) : 心筋血流・脂肪酸代謝・左室容量・電気的同期不全が左室収縮能・機械的同期不全に与える影響. 日本医学放射線学会総会 (第 69 回), 2010. 4.

[多摩永山病院放射線治療科]

研究概要

3次元治療計画を全症例に適用している。研究、業績の両者に利用できるよう受付、看護師、医師、技師間のインターネットデータベースを構築中である。体幹部定位照射の実施に向け、医師と技師にて準備を完了した。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Otani Y¹⁾, Fukuda I¹⁾, Tsukamoto N¹⁾, Kumazaki Y¹⁾, Sekine H¹⁾, Imabayashi E¹⁾, Kawaguchi O¹⁾, Nose T, Teshima T¹⁾, Dokita T¹⁾ (1) Department of Medicine Physics and Engineering, Osaka University Graduate School of Medicine) : A comparison of the respiratory signals acquired by different respiratory monitoring used in respiratory gated radiotherapy. Med Phys 2010 ; 37 (12) : 6178-6186.
- 2) Yoshida K¹⁾, Yamazaki H¹⁾, Nose T, Shiomi H¹⁾, Yoshida H¹⁾, Mikami M¹⁾, Takenaka T¹⁾, Kotsuma T¹⁾, Tanaka E¹⁾, Kuriyama K¹⁾, Harada A¹⁾, Yasunaga Y¹⁾, Oka T¹⁾ (1) Department of Radiology , National Hospital Organization Osaka National Hospital) : Needle applicator displacement during high-dose-rate interstitial brachytherapy for prostate cancer. Brachytherapy 2010 ; 9 (1) : 36-41.

- 3) 土器屋卓志¹⁾, 能勢隆之¹⁾, 大谷侑輝⁽¹⁾ 埼玉医科大学国際医療センター放射線腫瘍科) : 乳がんの最新放射線治療 組織内照射による APBL インナービジョン 2011 ; 26 (3) : 58-61.

学会発表

(1) パネルディスカッション :

- 1) 能勢隆之 : 乳癌に対する組織内照射を使った乳房加速部分照射法について. アイソトープ・放射線研究発表会(第47回), 2010. 7.

(2) 一般講演 :

- 1) 能勢隆之 : HDR の原理. 日本放射線腫瘍学会小線源治療部会研究会 (第12回), 2010. 5.
2) 能勢隆之 : 乳腺. 日本放射線腫瘍学会小線源治療部会研究会 (第12回), 2010. 5.

[千葉北総病院放射線科]

研究概要

放射線診断関係では, 消化器系, 婦人科系, 救命救急領域などについて, 研究している.

婦人科系では, 女性診療科および病理部とのカンファランスを通じて, 画像と臨床所見や病理像との比較検討を行っており, 子宮や卵巣の腫瘍のステージングなどの検討し, 稀な腫瘍や炎症性疾患の診断について検討している.

救命救急分野において, 救命救急部とのカンファランスを毎週おこなっており, 臨床像と画像との対比検討を行っている. 横隔膜ヘルニアの症例に着き, 解剖とあわせた検討を行っている.

消化器疾患については, 外科, 内科および病理部と合同で, 術前症例および術後症例についてのカンファランスを行っている. 画像と癌の深達度, 転移および浸潤所見などについて, 手術所見および病理所見と画像所見との比較検討を行っている.

また, MRI 領域では, シークエンスについての基礎的検討などを行っている.

CT 領域では 64 列マルチスライス CT を用い, 冠動脈 CTA について症例を重ねて検討している. 情報処理および PACS 分野では, システムの改善の努力を続けている.

IVR 領域においては, 外傷症例, 悪性腫瘍, ASO, 深部静脈血栓症, 透析シャントトラブルなどの多くの症例に対して治療を行い, 良好な成績を得ている. 大動脈ステントについては, 症例数が増加しており, 検討を積み重ねている. 各分野につき, 今後はさらに学術的な部分での強化をはかる予定である.

研究業績

論文

(1) 原著 :

- 1) Seya T^{1, 2)}, Tanaka N^{1, 2)}, Yokoi K^{1, 2)}, Okada S, Oaki Y³⁾, Uchida E¹⁾ (1) Surgery for Organ Function and Biological Regulation, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, 2) Dept. of Surgery, 3) Dept. of Pathology) : Left Paraduodenal Hernia Incidentally Diagnosed during Operation for Transverse Colon Cancer. J Nippon Med Sch 2010 ; 77 (2) : 111-114.

学会発表

(1) 一般講演 :

- 1) 加藤丈司¹⁾, 阿部雅志¹⁾, 中條秀信, 木島鉄仁, 川俣博志, 岡田 進 (1) 放射線センター) : 椎骨脳底動脈における Dynamic Contrast 3D Fusion MRA. 日本放射線技術学会総会学術大会 (第66回) (東京), 2010. 4.
2) 川俣博志, 古川一博, 岡田 進, 鴨井青龍¹⁾ (1) 女性診療科・産科) : 妊娠に合併した急性下肢深部静脈血栓症

に対して血管内治療が奏功した2例. 末梢血管画像・血管内治療研究会(第12回)(東京), 2010. 5.

- 3) 加藤丈司¹⁾, 阿部雅志¹⁾, 永井淳司¹⁾, 池亀 敏¹⁾, 中島健志¹⁾, 河原崎昇¹⁾, 岡田 進, 小南修史²⁾, 小林士郎²⁾ (¹⁾放射線センター, ²⁾脳神経外科): 椎骨脳底動脈における血流および血管外観描出の検討. 日本脳ドック学会総会(第19回)(山形), 2010. 6.
 - 4) 古川一博: 大動脈炎症候群及び炎症性大動脈瘤の画像診断. 千葉県放射線画像診断研究会(第57回)(千葉), 2010. 9.
 - 5) 古川一博, 岡田 進, 川俣博志, 貝津俊英, 木島鉄仁, 中條秀信, 樫村剛司, 森田布季子, 勝田美和子¹⁾, 真々田裕広¹⁾, 横井公良¹⁾, 大秋美治²⁾, 汲田伸一郎³⁾ (¹⁾外科, ²⁾病理部, ³⁾日本医科大学放射線医学教室): 腹部鈍的外傷により破裂した巨大肝血管筋脂肪腫の1例. 救急放射線研究会(第20回)(横浜), 2010. 9.
 - 6) 加藤丈司¹⁾, 阿部雅志¹⁾, 池亀 敏¹⁾, 永井淳史¹⁾, 河井梨恵¹⁾, 宮坂純基¹⁾, 河原崎昇¹⁾, 岡田 進 (¹⁾放射線センター): 椎骨脳底動脈における Flow Analysis Cine Fusion MRA. 日本放射線技術学会秋期学術大会(第38回)(宮城), 2010. 10.
 - 7) 阿部雅志¹⁾, 池亀 敏¹⁾, 加藤丈司¹⁾, 河原崎昇¹⁾, 岡田 進, 古川一博, 小南修史²⁾, 小林士郎²⁾ (¹⁾放射線センター, ²⁾脳神経外科): 血栓化脳動脈瘤に対する fusion の有用性. 日本放射線技術学会秋期学術大会(第38回)(宮城), 2010. 10.
 - 8) 加藤丈司¹⁾, 阿部雅志¹⁾, 永井淳史¹⁾, 池亀 敏¹⁾, 河原崎昇¹⁾, 岡田 進, 小南修史²⁾, 小林士郎²⁾ (¹⁾放射線センター, ²⁾脳神経外科): 椎骨脳底動脈における Fusion MRA. 脳神経血管内治療学会(第26回)(福岡), 2010. 11.
 - 9) 南 和文¹⁾, 橋口 宏¹⁾, 中嶋隆夫¹⁾, 苗代和彦¹⁾, 佐竹美彦¹⁾, 岡田 進, 渡辺典男²⁾ (¹⁾整形外科, ²⁾放射線センター): C-C型全人工股関節におけるセラミックライナー摩耗のレントゲン評価の試み. 千葉股関節研究会(第11回)(千葉), 2010. 12.
- (2) ポスター展示:
- 1) 古川一博: 頭部MRIより診断に至った Osler-Weber-Rendu 病の1例. 日本医学放射線学会関東地方会(第437回)(東京), 2010. 6.
 - 2) 貝津俊英, 菅沼一男¹⁾, 高岡慎市¹⁾, 宮下次廣²⁾, 栗林茂彦²⁾, 能勢隆之³⁾, 岡田 進 (¹⁾放射線センター, ²⁾付属病院放射線治療科, ³⁾多摩永山病院放射線治療科): 植込み型細動器(ICD)装着患者への放射線治療経験. 日本放射線腫瘍学会学術大会(第23回)(東京), 2010. 11.

8. 皮膚科学講座

[付属病院皮膚科]

研究概要

1. 皮膚の神経内分泌免疫学
 - ・免疫担当細胞におよぼす CRH の作用メカニズム.
 - ・CRH がおよぼす毛周期への影響.
 - ・サブスタンス P, NGF, GDNF の皮膚における作用.
2. 自己免疫性水疱症の発症機序
 - ・免疫担当細胞の動態, 細胞外基質分解酵素 (matrix metalloproteinase) の表現解析.
3. 皮質抗原の認識機構の解析.
4. センチネルリンパ節生検法の応用と開発
5. 蕁麻疹, 接触性皮膚炎の原因抗原の解析
6. メラニン産生の制御機構
 - ・尋常性白斑の治療法の開発.
7. ウイルス性疣贅におけるテロメース活性の解析
8. 酸化ストレスが炎症病態成立に果たす役割の解析, 新たな治療法の開発
9. 美容皮膚科学
 - ・ケミカルピーリング, 活性型ビタミン C, レチノイン酸, レーザー療法, photodynamictherapy の基礎的研究.
10. レーザー光を応用した治療
 - ・診断の開発
 - ・skin optics, selective photothermolysis の理論に基づき, 生体に対する光の反応の臨床応用を目的とする.
11. アトピー性皮膚炎の病態のメカニズム解明と新たな治療法の開発
12. 難治性皮膚疾患 (脱毛症, 痒疹など) に対する治療戦略
 - ・脱毛症に対する免疫療法, 痒疹などに対する紫外線療法.
13. 皮膚疾患における遺伝子治療の基礎的研究
 - ・幹細胞研究・再生工学を駆使した皮膚再生治療, 表遺伝子治療の開発.
14. 心療皮膚科
 - ・患者医師関係において, 皮膚疾患患者に生じる転移 transference や投影同一視, および医師側に生じる逆転移 conufertransference などを利用して行う心身医学的治療戦略.

研究業績

論文

[追加分]

追加分総説:

- 1) 幸野 健, 秀 道弘¹⁾, 川島 眞²⁾ (1) 広島大皮膚科, (2) 東女医大皮膚科): 蕁麻疹をエビデンスに基づいて治療する. *Pharma Medica* 2010; 28 (3): 142-147.
- 2) 幸野 健: アトピー性皮膚炎: 外用治療の実際 (エビデンスを活かすアトピー性皮膚炎の外用治療). *Allergia Trends* 2010; 12 (1): 20-21.

追加分原著：

- 1) 福本大輔¹⁾, 安齋眞一, 久保宣明¹⁾, 広瀬憲志¹⁾, 松立吉弘²⁾, 浦野芳夫²⁾, 荒瀬誠治¹⁾ (¹⁾ 徳島大皮膚科, ²⁾ 徳島赤十字病院皮膚科) : 薬剤性過敏症候群 (Drug-induced hypersensitivity syndrome) の臨床病理学的検討. 日皮会誌 2010 ; 120 (1) : 23-29.

追加分症例報告：

- 1) Kawana S, Tachihara R, Kato Y, Omi T : Effect of smooth pulsed light at 400 to 700 and 870 to 1,200 nm for acne vulgaris in Asian skin. *Dermatol Surg* 2010 ; 36 (1) : 52-57.
- 2) Miura Y¹⁾, Ishige I²⁾, Soejima N³⁾, Suzuki Y³⁾, Uchida K³⁾, Kawana S, Eishi Y³⁾ (¹⁾ Kamakura-shi, ²⁾ Division of Stem Cell Therapy, Center for Stem Cell and Regenerative Medicine, The Institute of Medical Science, University of Tokyo, ³⁾ Department of Human Pathology, Graduate School of Medical Science, Tokyo Medical and dental University) : Quantitative PCR of Propionibacterium acnes DNA in samples aspirated from sebaceous follicles on the normal skin of subjects with or without acne. *J Med Dent Sci* 2010 ; 57 (1) : 65-74.
- 3) 安齋眞一 : CPC リウマトイド (リウマチ) 結節. *Visual Dermatology* 2010 ; 9 (2) : 192-197.
- 4) 井上奈津子¹⁾, 久保宣明¹⁾, 福本大輔¹⁾, 山本忠正¹⁾, 安齋眞一, 山崎雅英²⁾, 荒瀬誠治¹⁾ (¹⁾ 徳島大皮膚科, ²⁾ 金沢大医薬保健研究域) : 片側の指端壊死で発症した混合性結合組織病続発の抗リン脂質抗体症候群. *皮膚臨床* 2010 ; 52 (1) : 67-70.
- 5) 原田勝博¹⁾, 久保宣明¹⁾, 飛田泰斗史¹⁾, 内藤史子¹⁾, 安齋眞一, 荒瀬誠治¹⁾, 藤本篤夫²⁾, 大浦 一²⁾ (¹⁾ 徳島大皮膚科, ²⁾ 徳島市) : ペグインターフェロンの皮下注射部に生じた皮膚潰瘍. *皮膚臨床* 2010 ; 52 (1) : 111-114.
- 6) 大島三佳¹⁾, 飛田泰斗史¹⁾, 安齋眞一, 荒瀬誠治¹⁾ (¹⁾ 徳島大皮膚科) : 片側腋窩に生じた乳房外 Paget 病の 1 例. *皮膚臨床* 2010 ; 52 (2) : 264-265.
- 7) 原田勝博¹⁾, 飛田泰斗史¹⁾, 久保宣明¹⁾, 安齋眞一, 荒瀬誠治¹⁾, 郷司 彩²⁾, 東田好弘³⁾, 森 健治³⁾ (¹⁾ 徳島大皮膚科, ²⁾ 健康保険鳴門病院循環器科, ³⁾ 徳島大小児科) : 滑脳症を伴った Hypomelanosis of Ito の 1 例. *皮膚臨床* 2010 ; 52 (3) : 429-431.

(1) 原著：

- 1) Hoshino T¹⁾, Matsuda M¹⁾, Yamashita Y¹⁾, Takehara M¹⁾, Fukuya M¹⁾, Mineda K²⁾, Maji D²⁾, Ihn H¹⁾, Adachi H³⁾, Sobue G³⁾, Funasaka Y, Mizushima T¹⁾ (¹⁾ Graduate School of Medical Pharmaceutical Science, Kumamoto University, ²⁾ Saishunkan Pharmaceutical Co. Ltd., ³⁾ Nagoya University Graduate School of Medicine) : Suppression of melain production by expression of HSP70. *J Biol Chem* 2010 ; 285(17) : 13254-13263.
- 2) Sumikawa Y¹⁾, Ansai S, Kimura T²⁾, Nakamura J³⁾, Ishii S⁴⁾, Katayama I⁵⁾ (¹⁾ Department of Dermatology, Shimane University Faculty of Medicine, ²⁾ Sapporo Institute for Dermatology, ³⁾ Ebetsu, ⁴⁾ Department of Regenerative Dermatology, Osaka University School of Medicine, ⁵⁾ Department of Dermatology, Course of Integrated Medicine, Graduate School of Medicine, Osaka University) : Interstitial type granuloma annulare associated with Sjögren's syndrome. *J Dermatol* 2010 ; 37 (5) : 493-495.
- 3) Mitsuishi T, Ansai S, Ueno T, Kawana S : Pigmented poroid neoplasm mimicking nodular melanoma. *J Dermatol* 2010 ; 37 (6) : 542-544.
- 4) Abdel-Daim M¹⁾, Funasaka Y, Komoto M¹⁾, Nakagawa Y¹⁾, Yanagita E¹⁾, Nishigori C¹⁾ (¹⁾ obe University Graduate School of Medicine) : Pharmacogenomics of metabotropic glutamate receptor subtype 1 and in vivo malignant melanoma formation. *J Dermatol* 2010 ; 37 (7) : 635-646.

- 5) Kaji H¹⁾, Kuroki Y²⁾, Murakawa Y³⁾, Funakawa I⁴⁾, Funasaka Y, Kanda F¹⁾, Sigimoto T³⁾ (¹⁾ Kobe University Graduate School of Medicine, ²⁾ Kobe Century Memorial Hospital, ³⁾ Shimane University Faculty of Medicine, ⁴⁾ National Hyogo-Chuo Hospital) : Effect of alendronate on bone metabolic indices and bone mineral density in patients treated with high-dose glucocorticoid : a prospective study. *Osteoporos Int* 2010 ; 21 (9) : 1565-1571.
- 6) Mitsuishi T, Sasagawa T¹⁾, Kato T²⁾, Iida K²⁾, Ueno T, Ikeda M, Ninomiya R, Wakabayashi T, Kawasaki H, Motoki T, Kawana S (¹⁾ Department of Obstetrics & Gynecology, Kanazawa Medical University, ²⁾ Research Institute of Vaccine Therapy for Tumors and Infectious Diseases, Nippon Medical School) : Combination of CO₂ Laser Therapy and Artificial Dermis Application in Plantar Warts : Human Papillomavirus DNA Analysis after Treatment. *Dermatol Surg* 2010 ; 36 (9) : 1401-1405.
- 7) Abdel-Daim M¹⁾, Funasaka Y, Kamo T¹⁾, Ooe M²⁾, Matsunaka H²⁾, Yanagita E¹⁾, Itoh T¹⁾, Nishigori C¹⁾ (¹⁾ Kobe University Graduate School of Medicine, ²⁾ Tokiwa Pharmaceutical) : Effect of chemical peeling on photocarcinogenesis. *J Dermatol* 2010 ; 37 (10) : 864-872.
- 8) Abdel-Daim M¹⁾, Funasaka Y, Kamo T¹⁾, Ooe M²⁾, Matsunaka H²⁾, Yanagita E¹⁾, Itoh T¹⁾, Nishigori C¹⁾ (¹⁾ Kobe University Graduate School of Medicine, ²⁾ Tokiwa Pharmaceutical) : Preventive effect of chemical peeling on ultraviolet induced skin tumor formation. *J Dermatol Sci* 2010 ; 60 (1) : 21-28.
- 9) 新見やよい : 結核の検査. *皮膚病診療* 2010 ; 32 (増刊号) : 82-84.
- 10) 川名誠司 : 皮膚血管炎の診断. *日皮会誌* 2010 ; 120 (13) : 2625-2627.
- 11) Ansai S, Kimura T¹⁾, Kawana S (¹⁾ Sapporo Institute for Dermatology) : A clinicopathological study of folliculosebaceous cystic hamartoma. *Am J Dermatopathol* 2010 ; 32 (12) : 815-820.
- 12) Kawana S, Kato Y, Omi T : Efficacy of a 5-HT_{1a} receptor agonist in atopic dermatitis. *Clin Exp Dermatol* 2010 ; 35 (8) : 835-840.
- 13) Noro S, Nakanishi Y¹⁾, Yamamoto A²⁾, Sasajima Y³⁾, Kawana S (¹⁾ Pathology Division, St.Louis University Medical Center, ²⁾ Department of Dermatology, Saitama Medical University International Medical Center, ³⁾ Clinical Laboratory Division, National Cancer Center Hospital) : Clinicopathological significance of sentinel node biopsy in Japanese patients with cutaneous malignant melanoma. *J Dermatol* 2011 ; 38 (1) : 76-83.
- 14) Machida M¹⁾, Ansai S, Hida Y¹⁾, Kubo Y¹⁾, Arase S¹⁾, Kuramoto K (¹⁾ Department of Dermatology, The University of Tokushima) : Basal cell carcinoma arising on the palm. *J Dermatol* 2011 ; 38 (1) : 94-96.
- 15) 安齋真一 : 薬疹 (疑い例を含む) : デキる医師の紹介・逆紹介スキル 99 「紹介する⇔紹介される」のギャップを埋める教訓集. *治療* 2010 ; 92 (4) : 1170-1173.
- 16) 柳澤宏美¹⁾, 森田健治²⁾, 青木洋子³⁾, 幸野 健, 袋 秀平⁴⁾, 船井龍彦⁵⁾, 村木良一⁶⁾, 細谷律子⁷⁾, 江畑俊哉⁸⁾, 服部尚子⁸⁾, 種田明生⁹⁾ (¹⁾ 中野区, ²⁾ 豊岡市, ³⁾ 宮崎市, ⁴⁾ 横浜市, ⁵⁾ 大阪市, ⁶⁾ 土浦市, ⁷⁾ 狛江市, ⁸⁾ 世田谷区, ⁹⁾ 杉並区) : 皮膚科医の往診・在宅医療の実態, 意識調査 (平成 20 年度) 報告書 I アンケート内自由意見のまとめ. *日本臨床皮膚科医会雑誌* 2010 ; 27 (3) : 375-381.
- 17) 柳澤宏美¹⁾, 森田健治²⁾, 青木洋子³⁾, 幸野 健, 袋 秀平⁴⁾, 船井龍彦⁵⁾, 村木良一⁶⁾, 細谷律子⁷⁾, 江畑俊哉⁸⁾, 服部尚子⁸⁾, 種田明生⁹⁾ (¹⁾ 中野区, ²⁾ 豊岡市, ³⁾ 宮崎市, ⁴⁾ 横浜市, ⁵⁾ 大阪市, ⁶⁾ 土浦市, ⁷⁾ 狛江市, ⁸⁾ 世田谷区, ⁹⁾ 杉並区) : 皮膚科医の往診・在宅医療の実態, 意識調査 (平成 20 年度) 報告書 II アンケート内自由意見のまとめ. *日本臨床皮膚科医会雑誌* 2010 ; 27 (3) : 382-393.
- 18) 矢島 純, 矢島 道¹⁾, 本田光芳²⁾, 川名誠司 (¹⁾ 春日部市, ²⁾ 横浜市) : 心と皮膚病 (アトピー性皮膚炎) - 心理的ケアを中心として -. *JADS* 2010 ; 3 (1) : 19-24.
- 19) 川名誠司 : 頭ジラミ. *けんぽだより* 2010 ; 146 : 18-18.

- 20) 川島 眞¹⁾, 幸野 健 (¹⁾ 東女医大皮膚科): 抗ヒスタミン薬の予防的内服期間の違いが慢性蕁麻疹の予後に与える影響の検討. 臨床皮膚科 2010; 64 (7): 523-531.
 - 21) 安齋眞一: 黒い結節 基底細胞癌: やさしい皮膚病診療ガイド: 皮膚科医の手の内を伝授!. 治療 2010; 92(9): 2188-2190.
 - 22) 加藤篤衛, 下田貴子, 小坂祥子, 船坂陽子, 川名誠司: 1064nm Nd: YAG レーザーによる顔面および貸しの皮膚血管拡張症の治療効果. Aesthetic Dermatology 2010; 20 (4): 374-382.
 - 23) 小林 憲¹⁾, 田中 勝¹⁾, 尾立冬樹¹⁾, 布村真希¹⁾, 三浦圭子¹⁾, 安齋眞一 (¹⁾ 東女医大東医療センター皮膚科): 右肘部に生じた reticulated acanthoma with sebaceous differentiation. 日本皮膚病理組織学会会誌 2010; 26 (1): 21-24.
 - 24) 野呂佐知子, 山崎直也¹⁾ (¹⁾ 国立がん研究センター中央病院皮膚腫瘍科): 10) メルケル細胞がん: 稀少がんの臨床. 腫瘍内科 2010; 6 (6): 551-555.
 - 25) 又吉武光, 青木見佳子, 池田麻純, 片山美玲, 川名誠司: BCG 接種後副反応の9例: 53年間の本邦報告例の検討を含めて. 日皮会誌 2011; 121 (1): 39-45.
 - 26) 安齋眞一: やさしい皮膚軟部腫瘍. Skin Cancer 2011; 25 (3): 274-281.
- (2) 総説:
- 1) 幸野 健: 皮膚: 紹介 皮膚科勤務医の立場から: デキる医師の紹介・逆紹介 スキル 99「紹介する・紹介される」のギャップを埋める訓話集. 治療 2010; 92 (4月増刊号): 1180-1184.
 - 2) 幸野 健: 日常的にみられる小児の皮膚疾患—蕁麻疹・アナフィラキシー: 小児皮膚診療パーフェクトガイド. MB Derma 2010; 164: 42-49.
 - 3) 坪井良治¹⁾, 板見 智²⁾, 乾 重樹²⁾, 植木理恵³⁾, 勝岡憲生³⁾, 倉田莊太郎¹⁾, 幸野 健, 斉藤典充³⁾, 真鍋 求⁴⁾ (¹⁾ 東京医大皮膚科, ²⁾ 大阪大皮膚科, ³⁾ 北里大皮膚科, ⁴⁾ 秋田大皮膚科): 男性型脱毛症診療ガイドライン (2010年版). 日皮会誌 2010; 120 (5): 977-986.
 - 4) 安齋眞一, 木村鉄宣¹⁾ (¹⁾ 札幌皮膚病理研究所): ケラトアカントーマ: 最近の話題. 皮膚病診療 2010; 32 (6): 600-606.
 - 5) 荒瀬誠治¹⁾, 坪井良治²⁾, 板見 智³⁾, 乾 重樹³⁾, 勝岡憲生⁴⁾, 真鍋 求⁵⁾, 伊藤雅章⁶⁾, 成澤 寛⁷⁾, 秋山真志⁸⁾, 幸野 健 (¹⁾ 徳島大皮膚科, ²⁾ 東京医大皮膚科, ³⁾ 大阪大皮膚科, ⁴⁾ 北里大皮膚科, ⁵⁾ 秋田大皮膚科, ⁶⁾ 新潟大皮膚科, ⁷⁾ 佐賀大皮膚科, ⁸⁾ 北大皮膚科): 日本皮膚科学会円形脱毛症診療ガイドライン 2010. 日皮会誌 2010; 120 (9): 1841-1859.
 - 6) 幸野 健: 痒みを訴える疾患: アトピー性皮膚炎: やさしい皮膚病診療ガイド 皮膚科の手の内を伝授!. 治療 2010; 92 (9): 2092-2095.
 - 7) 幸野 健: EBM からみた抗ヒスタミン薬のインペアード・パフォーマンス—抗ヒスタミン薬 UPDATE. Topics in Atopy 2010; 9 (3): 10-13.
 - 8) 船坂陽子: 脂漏性角化症. 治療 2010; 92 (9): 2145-2147.
 - 9) 幸野 健: 私の治療 皮膚科: エビデンスに基づいたアトピー性皮膚炎の外用治療. アレルギーの臨床 2010; 30 (12): 1108-1111.
 - 10) 幸野 健: 抗ヒスタミン薬と生活そして社会: COA-BOAT 会議で語られたこと. 皮膚アレルギーフロンティア 2010; 8 (3): 210-213.
 - 11) 幸野 健: 抗ヒスタミン薬: アトピー性皮膚炎診療ガイドライン. アレルギーの臨床 2010; 30 (13): 1164-1167.
 - 12) 船坂陽子: 肝斑の治療法 海外での EBM からの検証. Aesthetic Dermatol 2010; 20 (4): 321-328.
 - 13) 船坂陽子: 色素細胞の生物学 美白剤の作用機序と解説. 日皮会誌 2010; 20 (13): 2828-2831.
 - 14) 船坂陽子: Drug Delivery System (DDS) を用いた美容治療. 皮膚科医のための美容講座 2011; 16 (1):

1-3.

15) 船坂陽子：各種ビタミンC。皮膚科医のための美容講座 2011；16（1）：4-4.

(3) 症例報告：

- 1) Kosaka S, Kawana S : A case of Bowen's disease successfully treated by photodynamic therapy. J Nippon Med Sch 2010 ; 77 (3) : 136-137.
- 2) 荻田あづさ, 東 直行, 細根 勝¹⁾, 川名誠司 (¹⁾ 多摩永山病院病理部) : Nodular type lichen myxedematosus. 皮膚病診療 2010 ; 32 (5) : 527-530.
- 3) 西脇 薫, 下田貴子, 伊藤保彦¹⁾, 川名誠司 (¹⁾ 同小児科) : 難治性の更新潰瘍を認めた小児 Behcet 病の 1 例. 皮膚臨床 2010 ; 52 (6) : 785-788.
- 4) Niimi Y, Ohyama B¹⁾, Di Zeno G²⁾, Calabresi V²⁾, Hashimoto T¹⁾, Kawana S (¹⁾ Department of Dermatology, Kurume University of Medicine, ²⁾ Molecular and Cell Biology Laboratory, IDI-IRCCS) : Paraneoplastic Pemphigus Presenting as Mild Cutaneous Features of Pemphigus Foliaceus and Lichenoid Stomatitis with Antidesmoglein 1 Antibodies. Dermatol Res Pract 2010 ; Epub 2010 Jul 12.
- 5) Ogita A, Takada K, Kawana S : Case of anaphylaxis due to tetracycline hydrochloride. J Dermatol (Epub ahead of print) 2010 ; 38 (6) : 597-599.
- 6) Kono K¹⁾, Masaki T¹⁾, Funasaka Y, Nishigori C¹⁾, Fukagawa M¹⁾ (¹⁾ Kobe University Graduate School of Medicine) : Glomeruloid hemangiomas associated with generalized edema in a patient with atypical POEMS syndrome. NDT plus 2010 ; 3 (5) : 494-495.
- 7) Ogita A, Higashi N, Hosone M¹⁾, Kawana S (¹⁾ Pathology, Nippon Medical school Tamanagayama Hospital) : Nodular-type Lichen Myxedematosus : A case Report. Case Reports in Dermatology 2010 ; 2 (3) : 195-200.
- 8) 西脇 薫, 東 直行, 狩野律子, 宮地秀樹¹⁾, 新 博次¹⁾, 川名誠司 (¹⁾ 同内科・循環器内科) : 急性心不全をきたしたカルバマゼピンによる薬剤性過敏症候群の 1 例. 皮膚臨床 2010 ; 52 (13) : 2013-2016.
- 9) Kosaka S, Yasumoto M, Akilov O¹⁾, Hasan T¹⁾, Kawana S (¹⁾ Wellman Center for Photomedicine, Massachusetts General Hospital, Department of Dermatology, Harvard Medical School) : Comparative split-face study of 5-aminolevulinic acid photodynamic therapy with intense pulsed light for photorejuvenation of Asian skin. J Dermatol 2010 ; 37 (12) : 1005-1010.
- 10) 山本三幸, 下田貴子, 福岡長知¹⁾, 田野崎栄²⁾, 川名誠司 (¹⁾ 同第一内科学教室, ²⁾ 同第三内科学教室) : 無疹部での皮膚生検によって診断した全身性アミロイドーシスの 1 例. 皮膚臨床 2010 ; 52 (4) : 499-502.
- 11) 伊藤路子, 青木見佳子¹⁾, 高本雅哉²⁾, 松岡裕之³⁾, 川名誠司 (¹⁾ 千代田区, ²⁾ 信州大学移植免疫感染症学講座 感染防御分野, ³⁾ 自治医科大学感染・免疫学講座医動物学部門) : お好み焼き粉に繁殖したコナヒョウヒダニによる即時型アレルギーの 1 例. 皮膚臨床 2010 ; 52 (4) : 561-564.
- 12) 小坂素子, 上野 孝, 安齋眞一, 川名誠司 : 表皮囊腫構造を呈した伝染性軟属腫の 1 例. 皮膚臨床 2010 ; 52 (4) : 620-621.
- 13) 二宮里紗, 加藤篤衛, 下田貴子, 川名誠司 : 点状疣贅の 1 例. 皮膚臨床 2010 ; 52 (5) : 723-725.
- 14) 荻田あづさ, 東 直行, 細根 勝¹⁾, 川名誠司 (¹⁾ 多摩永山病院病理部) : Nodular type lichen myxedematosus. 皮膚病診療 2010 ; 32 (5) : 527-530.
- 15) 武市幸子¹⁾, 安齋眞一, 久保宣明¹⁾, 荒瀬誠治¹⁾ (¹⁾ 徳島大皮膚科) : 60 年以上続くリンパ浮腫肢に生じた脈管肉腫の 1 例. 皮膚臨床 2010 ; 52 (6) : 885-888.
- 16) 山本三幸, 高田香織, 西脇 薫, 上野 孝, 川名誠司 : セレコキシブによる急性汎発性発疹性膿疱症の 1 例. 皮膚臨床 2010 ; 52 (6) : 839-842.
- 17) 田村奈渚, 二神綾子, 新見やよい, 川名誠司 : 塩酸ミノサイクリンが有効であった Superficial Granulomatous

Pyoderma の 1 例. 皮膚臨床 2010 ; 52 (7) : 1034-1035.

- 18) 町田未央¹⁾, 石上剛史¹⁾, 安齋眞一, 久保宣明¹⁾, 藤山幹子¹⁾, 荒瀬誠治¹⁾ (¹⁾ 徳島大皮膚科) : 硫酸クロピドグレルによる薬剤性過敏症候群の 1 例. 皮膚臨床 2010 ; 52 (8) : 1115-1119.
 - 19) 大野健太郎¹⁾, 船坂陽子, 千代丸康治¹⁾, 鬼気俊太郎¹⁾, 堀川達弥¹⁾, 錦織千佳子¹⁾ (¹⁾ 神戸大学大学院医学研究科皮膚科) : 骨化を伴った皮膚混合腫瘍の 1 例. 皮膚臨床 2010 ; 52 (8) : 1147-1150.
 - 20) 李 民, 上野 孝, 安齋眞一, 川名誠司 : 前胸部腫脹を伴った流行性耳下腺炎の 1 例. 皮膚臨床 2010 ; 52 (9) : 1332-1333.
 - 21) 青木見佳子, 川名誠司, 新井栄一¹⁾ (¹⁾ 埼玉医大病理学教室) : Russell 小体の出現を伴った皮膚原発 marginal zone B-cell lymphoma の 1 例. Skin Cancer 2010 ; 25 (2) : 168-172.
 - 22) 二宮里紗, 加藤篤衛, 下田貴子, 川名誠司 : 半月体形成腎炎を伴う Henoch-Schonlein 紫斑の 1 例. 皮膚臨床 2010 ; 52 (10) : 1413-1417.
 - 23) 小金井宏美, 東 直行, 荻田あづさ, 中田朋子, 細根 勝¹⁾, 川名誠司, 小澤雅邦²⁾ (¹⁾ 多摩永山病院病理部, ²⁾ 多摩市) : 皮膚症状を契機に前立腺癌が発見された 3 例. 皮膚臨床 2010 ; 52 (10) : 1467-1471.
 - 24) 高山良子, 堺 則康, 三石 剛, 川名誠司 : Lichen aureus zosteriformis の 1 例. 皮膚臨床 2010 ; 29 (2) : 1419-1422.
 - 25) 高山良子, 安齋眞一, 新見やよい, 上野 孝, 二神綾子, 川名誠司 : Porocarcinoma と病理学的に鑑別が問題となった皮膚原発上皮性悪性腫瘍の 5 症例. 西日皮膚 2010 ; 72 (5) : 467-472.
 - 26) 広瀬憲志¹⁾, 飛田泰斗史¹⁾, 安齋眞一, 久保宣明¹⁾, 荒瀬誠治¹⁾, 高橋 取²⁾ (¹⁾ 徳島大皮膚科, ²⁾ 横浜国立大教育人間科学部) : 電子線照射と Weekly ドセタキセル療法が奏功した頭部血管肉腫の 1 例. 皮膚臨床 2010 ; 52 (10) : 1477-1480.
 - 27) 伊澤有香, 加藤篤衛, 堺 則康, 川名誠司 : 皮膚腺病の 1 例. Visual Dermatology 2010 ; 9 : 1042-1043.
 - 28) 三石 剛 : 足底疣贅. 皮膚臨床 2010 ; 52 (11) : 1566-1568.
 - 29) 伊藤路子, 青木見佳子¹⁾, 池田麻純, 又吉武光, 片山美玲²⁾, 西澤善樹³⁾, 石河 晃⁴⁾, 川名誠司 (¹⁾ 千代田区, ²⁾ 北区, ³⁾ 武蔵小杉病院小児科, ⁴⁾ 東邦大医療センター大森病院皮膚科) : 出生時より重篤な皮膚症状を呈した水疱型先天性魚鱗癬様紅皮症の 1 例. 日本小児皮膚科学会雑誌 2010 ; 29 (2) : 31-35.
 - 30) 高山良子, 二神綾子, 新井栄一¹⁾, 川名誠司 (¹⁾ 埼玉医大病理学教室) : 小児に発症した Pseudolymphomatous folliculitis の 1 例. 日本小児皮膚科学会雑誌 2010 ; 29 (2) : 61-64.
 - 31) 田村奈渚, 小坂祥子, 池田麻純, 野呂佐知子, 川名誠司 : 糖尿病に合併した癰. 皮膚病診療 2010 ; 32 (12) : 1335-1336.
 - 32) 安齋眞一 : CPC clinicopathological conference (095). Visual Dermatology 2011 ; 10 (2) : 188-192.
 - 33) 秋山美知子, 上野 孝, 川名誠司 : フルニエ壊疽の 1 例. 皮膚臨床 2011 ; 53 (3) : 532-533.
 - 34) 山下裕子, 青木見佳子, 又吉武光, 高田香織, 上野 孝, 岩崎 隆¹⁾, 廣瀬始¹⁾, 川名誠司 (¹⁾ 川崎市) : 多発性皮膚潰瘍を伴った皮膚筋炎の 1 例. 皮膚臨床 2011 ; 53 (3) : 435-439.
- (4) クイズ :
- 1) 岡崎 静 : 診断に必要な検査は ? : MEDI QUIZ. Nikkei Medical 2010 ; 85-86.

著 書

[追加分]

追加分 :

- 1) 幸野 健 : [共著] 薬物療法の基礎知識 (抗ヒスタミン薬) : インペアード・パフォーマンスについて教えてください. 薬局で役立つ皮膚科治療薬 FAQ (大谷道輝・宮地良樹), 2010 ; pp200-201, メディカルレビュー社.
- 2) 新見やよい : [分担] 外陰部の尖圭コンジローマ. 皮膚科診療カラーアトラス大系 5 (鈴木啓之・神崎 保),

2010；pp19-20, 講談社.

- 3) 安齋眞一：〔分担〕 脂腺腺腫：第6巻腫瘍. 皮膚科診療アトラス大系（鈴木啓之・神崎 保），2010；pp105-105, 講談社.
- 1) 幸野 健：〔共著〕 患者から聞かれる保湿薬の迷信. What's new in 皮膚科学 2010-2011（宮地良樹），2010；pp46-47, メディカルレビュー社.
- 2) 船坂陽子：〔分担〕 美白剤はどこまで効くのか. WHAT'S NEW in 皮膚科学 2010-2011（宮地良樹），2010；pp182-183, メディカルレビュー社.
- 3) 船坂陽子：〔分担〕 美白剤の作用メカニズムとハイドロキノンなどの主要薬剤の効用について, 教えてください. Q&A で学ぶ美容皮膚科ハンドブック（古川福実），2010；pp64-65, メディカルレビュー社.
- 4) 船坂陽子：〔分担〕 ヒトメラノサイトの tyrosinase 活性抑制. 機能性化粧品素材開発のための実験法（正木 仁），2010；pp68-70, シーエムシー出版社.
- 5) 幸野 健：〔共著〕 基本的治療法以外の付加的治療法：3) 民間療法. インフォームドコンセントのための図説シリーズ：アトピー性皮膚炎 改訂版（宮地良樹），2010；pp86-89, 医薬ジャーナル社.
- 6) 川名誠司：〔分担〕 6 口腔粘膜が出血しやすい患者, 出血斑のある患者が来院したら？. 医師・歯科医師のための口腔診療必携（高戸 毅），2010；pp10-10, 金原出版.
- 7) 安齋眞一, 木村鉄宣¹⁾（¹⁾ 札幌皮膚病理研究所）：〔分担〕 棘細胞腫 Acanthomas：皮膚腫瘍 I 角化細胞腫瘍, 付属器系腫瘍と皮膚特有の間葉系腫. 腫瘍病理鑑別アトラス II（真鍋俊明・清水道生），2010；pp25-33, 文光堂.
- 8) 船坂陽子：〔分担〕 光老化の機序. からだと光の事典（太陽紫外線防御研究委員会），2010；pp133-137, 金原出版.
- 9) 幸野 健, 羽白 誠¹⁾（¹⁾ 大阪市）：〔共著〕 評価表・評価法（総論）アトピー性皮膚炎治療のシステマティック・レビュー作成に関して. Evidence-based Medicine：アトピー性皮膚炎—よりよい治療のための EBM データ集 第2版（古江増隆），2011；pp1-11, 中山書店.
- 10) 川名誠司：〔分担〕 8. 皮膚アレルギー性血管炎. 皮膚疾患最新の治療 2011-2012（瀧川雅浩・渡辺晋一），2011；pp81-81, 南江堂.
- 11) 川名誠司：〔分担〕 53 薬剤性血管炎の病態. 薬疹診療のフロントライン（古江増隆），2011；pp224-226, 三松堂.
- 12) 川名誠司：〔分担〕 アナフィラクトイド紫斑（IgA 腎症）. 皮膚で見つける全身疾患：頭のとっぺんからつま先まで（宮地良樹），2011；pp85-85, メディカルレビュー社.
- 13) 川名誠司：〔分担〕 リベド（抗リン脂質抗体症候群）. 皮膚で見つける全身疾患：頭のとっぺんからつま先まで（宮地良樹），2011；pp87-87, メディカルレビュー社.
- 14) 川名誠司：〔分担〕 F. 皮膚の脈管と神経：第2章 皮膚の構造と機能. 標準皮膚科学（瀧川雅浩），2011；pp18-21, 医学書院.
- 15) 川名誠司：〔分担〕 第12章 血管・リンパ管の疾患および紫斑. 標準皮膚科学（瀧川雅浩），2011；pp146-173, 医学書院.

学会発表

〔追加分〕

追加分一般講演：

- 1) 東 直行, 狩野律子, 松下 晃¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 津久井拓²⁾, 川名誠司（¹⁾ 多摩永山病院外科, ²⁾ 多摩永山病院消化器内科）：皮膚症状を契機に食道癌が発見された多形慢性痒疹の1例. 日皮会東京支部学術大会（第73回），2010. 2.

(1) 特別講演：

- 1) 幸野 健：Basic and clinical update of Ebastine in Japan. Sino japan Expert Panel Meeting (Hakata), 2010. 10.
- 2) 竹崎伸一郎：日本医大のいい症例. 会津皮膚科ケースカンファランス (第33回), 2010. 6.
- 3) 幸野 健：乾癬治療の真実. 乾癬治療研究会 (第1回), 2010. 9.
- 4) 船坂陽子：アトピー性皮膚炎, 乾癬などにおける治療最前線：光線療法の実践を踏まえて. 墨田区皮膚科医会, 2010. 12.
- 5) 幸野 健：EBM から考える難治性皮膚疾患治療：特に蕁麻疹と乾癬について. Dermatology Clinical Meeting (11th), 2011. 2.

(2) 招待講演：

- 1) 川名誠司：開業医のための血管炎 update. 世田谷区医師会学術講演会, 2010. 5.
- 2) 安齋真一：日常診療に役立つ皮膚病理の知識. 東葛北部・茨城県南皮膚疾患検討会, 2011. 2.
- 3) 船坂陽子：メラノーマの発症機序と生体応答. 千駄木感染免疫アレルギー研究会 (第21回), 2011. 3.

(3) 教育講演：

- 1) 川名誠司：皮膚血管炎の診断の進め方. 日皮会総会学術大会 (第109回), 2010. 4.
- 2) 幸野 健：外用療法のエビデンス (乾癬, アトピー性皮膚炎, ニキビ). 日皮会総会学術大会 (第109回), 2010. 4.
- 3) 船坂陽子：美白剤の作用機序と治療. 日皮会総会学術大会 (第109回), 2010. 4.
- 4) 安齋真一：やさしい皮膚軟部腫瘍. 日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会 (第26回), 2010. 6.
- 5) 船坂陽子：「しわ」に対する美容皮膚科的治療の現状. 日皮会東京支部学術大会 (第74回), 2011. 2.

(4) シンポジウム：

- 1) Kouno T：Update for Antihistamines Therapy (Sino-Japan Dermatology Symposium). Eastern Asia Dermatology Congress (1st) (Fukuoka), 2010. 9.
- 2) 船坂陽子：色素沈着：最近のトピックス. 光老化研究会 (第11回), 2010. 7.
- 3) 船坂陽子：シミの理論. 日皮会中部支部学術大会 (第61回), 2010. 9.
- 4) 船坂陽子：シミのレーザー治療. 日皮会東部支部学術大会 (第74回), 2010. 11.
- 5) 小林 憲¹⁾, 井上喬之¹⁾, 澤田美月¹⁾, 二宮淳也¹⁾, 藤林真理子²⁾, 町田治彦³⁾, 安齋真一, 田中 勝¹⁾ (1) 東女医大東医療センター皮膚科, 2) 東女医大東医療センター病院病理科, 3) 東女医大東医療センター放射線科)：Organoid nevus に合併した頭頂部の apocrine carcinoma：ダーマスコピーとMRIによる評価. 日皮会東部支部学術大会 (第74回), 2010. 11.

(5) パネルディスカッション：

- 1) Kouno T, Kawashima M¹⁾ (1) Department of Dermatology, Tokyo Women's Medical University)：Evaluation of the prognosis of chronic urticaria with antihistamine therapy (EPOCH). Congress of the European Academy of Dermatology and Venereology (19th) (Gothenburg (Sweden)), 2010. 10.
- 2) 森田 孝, 東 直行, 宮地秀樹¹⁾, 川名誠司 (1) 多摩永山病院内科・循環器内科)：Non-episodic angioedema with eosinophilia の1例. 日皮会総会学術大会 (第109回), 2010. 4.
- 3) 伊澤有香, 加藤篤衛, 堺 則康, 川名誠司：皮膚腺病の1例. 日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会 (第26回), 2010. 5.
- 4) 安齋真一：黒, 赤, あるいは黄色の腫瘍を診たら. 日本外科系連合学会学術集会 (第35回), 2010. 6.
- 5) 二宮里紗, 東 直行, 細根 勝¹⁾, 川名誠司, 小澤雅邦²⁾, 森 鉄也³⁾ (1) 多摩永山病院病理部, 2) 多摩市, 3) 国立成育病院血液腫瘍科)：原発性皮膚型未分化大細胞リンパ腫 (PCALCL) の1例. 日本小児皮膚科学会総会学術大会 (第34回), 2010. 7.

(6) セミナー：

- 1) 幸野 健：抗ヒ薬と生活そして社会：COA-BOAT 会議で語られたこと。第 83 回日本産業衛生学会，2010. 5.
- 2) 森田 孝，東 直行，川名誠司：医療用ステープルによるアレルギー性接触皮膚炎の 2 例。日本アレルギー・接触皮膚炎学会総会・学術大会（第 40 回），2010. 12.
- 3) 安齋眞一：皮膚病理診断のちょっとした知識。日皮会東北 6 県合同地方会学術大会（第 353 回例会），2011. 2.
- 4) 船坂陽子：色素細胞，メラノーマなどの基礎研究に関して。慈恵医科大学リサーチセミナー，2011. 2.
- 5) 船坂陽子：メラノーマの発症機序と生体応答。千駄木感染免疫アレルギー研究会（第 21 回），2011. 3.

(7) 一般講演：

- 1) Kosaka S：Photodynamic therapy for acne. IMCAS (Hongkong (China)), 2010. 7.
- 2) Mitsuishi T：combination of CO2 laser therapy and artificial dermis application in plantar warts：HPV DNA analysis after treatment. International Papillomavirus Conference and Workshops (16th) (Montreal (Canada)), 2010. 7.
- 3) Funasaka Y, Abdel-Daim M¹⁾, Harada T²⁾, Aiba A²⁾, Kawana S, Nishigori C¹⁾ (¹⁾ Kobe University Graduate School of Medicine, ²⁾ The University of Tokyo)：Signals involved in oncogenic activities of metabotropic glutamate receptor 1. Meeting of the European Society for Pigment Cell Research (16th) (Cambridge (UK)), 2010. 9.
- 4) Funasaka Y：Signals involved in oncogenic activities of metabotropic glutamate receptor 1. Meeting of the European Society for Pigment Cell Research (16TH) (London (UK)), 2010. 9.
- 5) Ansai S：A clinicopathological study of folliculosebaceous cystic hamartoma. Eastern Asia Dermatology Congress (1st) (Fukuoka), 2010. 9.
- 6) Ogita A：Infantile myofibroma with CD34-positive cells proliferation. Eastern Asia Dermatology Congress (1st) (Fukuoka), 2010. 9.
- 7) Funasaka Y, Kawana S, Nishigori C¹⁾ (¹⁾ Kobe University Graduate School of Medicine)：Expresion of metabotropic glutamate receptor 1 and phosphorylated extracellular signal-regulated kinase 1/2 in human melanocytic lesions. Annual Meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology (35th), 2010. 12.
- 8) 三石 剛，川名誠司：皮膚・粘膜型 HPV DNA を検出できる新規 PCR 法の有用性。日皮会総会学術大会（第 109 回），2010. 4.
- 9) 安齋眞一，木村鉄宣¹⁾，川名誠司 (¹⁾ 札幌皮膚病理研究所)：Folliculo-sebaceous cystic hamartoma の臨床病理学的検討。日皮会総会学術大会（第 109 回），2010. 4.
- 10) 高山良子，二神綾子，高田香織，義澤雄介，田村秀人¹⁾，福永景子¹⁾，中村恭子¹⁾，川名誠司 (¹⁾ 同血液内科)：Castleman 病に Hodgkin リンパ腫を合併した 1 例。日皮会総会学術大会（第 109 回），2010. 4.
- 11) 野呂佐知子，安齋眞一，菊地伊豆実，森本健介，藤本和久，川俣博志¹⁾，川名誠司 (¹⁾ 千葉北総病院放射線科)：悪性黒色腫の肝転移に対するシスプラチン冠動脈内投与及び肝動脈塞栓術を施工した 1 例。日皮会総会学術大会（第 109 回），2010. 4.
- 12) 下田貴子，新見やよい，川名誠司，石井文人¹⁾，橋本 隆¹⁾ (¹⁾ 久留米大皮膚科)：抗表皮細胞膜抗体陽性であった抗 BP230 抗体陽性の水疱性類天疱瘡。日皮会総会学術大会（第 109 回），2010. 4.
- 13) 畠山真弓¹⁾，長野 徹¹⁾，船坂陽子，錦織千佳子¹⁾ (¹⁾ 神戸大皮膚科)：3 通りのレジメンによる抗癌剤治療を行ったメルケル細胞癌の 1 例。日皮会総会学術大会（第 109 回），2010. 4.
- 14) 福本 瞳，小坂祥子，中田朋子，高田香織，二神綾子，塩見一雄¹⁾，川名誠司 (¹⁾ 東京海洋大科学部)：魚の成分であるパルプアルブミンによる接触蕁麻疹と口腔アレルギー症候群の 1 例。日本アレルギー学会春季臨床大会（第 22 回），2010. 5.

- 15) 渡邊宏美, 堺 則康, 川名誠司: カルボシステイン (ムコダイン®) による遅発型固定薬疹の1例. 日本アレルギー学会春季臨床大会 (第22回), 2010. 5.
- 16) 二神綾子, 矢島 純, 川名誠司, 新井栄一¹⁾ (1) 埼玉医大病理学教室): Malignant lymphoma との鑑別を要した顔面多発性の皮膚 pseudolymphoma. 日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会 (第26回), 2010. 6.
- 17) 本木智輝, 安齋眞一, 川名誠司: 踵部に生じた血管平滑筋腫の1例. 日皮会東京地方会 (第830回), 2010. 6.
- 18) 紺野亜希子, 荻田あづさ, 新見やよい, 加藤篤衛, 川名誠司: 吉草酸ベタメタゾンによるアレルギー性接触皮膚炎の1例. 日皮会東京地方会 (第830回), 2010. 6.
- 19) 秋山美知子, 加藤篤衛, 二神綾子, 藤本和久, 小山 良¹⁾, 増田勝彦²⁾, 川名誠司 (1) 順天大呼吸器内科, 2) 足立区): 抗結核薬による薬疹の1例. 日皮会東京地方会 (第830回), 2010. 6.
- 20) 小坂祥子, Akilov O¹⁾, 川名誠司 (1) Cutaneous Oncology department of Dermatology, University of Pittsburgh): ご瘡に対する ALA-PDT: 新しいプロトコルの有用性の検討. 日本光線力学学会学術講演会 (第20回), 2010. 6.
- 21) 二宮里紗, 東 直行, 細根 勝¹⁾, 川名誠司, 小澤雅邦²⁾, 森 鉄也³⁾ (1) 多摩永山病院病理部, 2) 多摩市, 3) 国立成育病院血液腫瘍科): 原発性皮膚型未分化大細胞リンパ腫 (PCALCL) の1例. 日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会 (第26回), 2010. 6.
- 22) 稲葉基之, 小坂祥子, 二神綾子, 田村秀人¹⁾, 安齋眞一, 川名誠司 (1) 同血液内科): 比較的進行の早い Mycosis fungoides の1例. 日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会 (第26回), 2010. 6.
- 23) 山下裕子, 上野 孝, 安齋眞一, 岩切加奈¹⁾, 川名誠司 (1) 横浜市): Poroid cell neoplasm の1例. 日皮会東京地方会・合同臨床地方会 (第831回), 2010. 7.
- 24) 亦野蓉子, 二神綾子, 川名誠司, 遠坂由紀子¹⁾, 二神生爾¹⁾, 藤森俊二¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 同消化器内科): カプセル内視鏡で小腸に多発性病変を認めた Henoch-Schonlein 紫斑の1例. 日皮会東京地方会・合同臨床地方会 (第831回), 2010. 7.
- 25) 畠山真弓¹⁾, 清水秀樹¹⁾, 船坂陽子, 錦織千佳子¹⁾, 辻 剛²⁾ (1) 神戸大皮膚科, 2) 神戸大免疫内科): Reiter 症候群の1例. 近畿皮膚科集談会 (第103回), 2010. 7.
- 26) 山本三幸, 安齋眞一, 亦野蓉子, 狩野律子, 上野 孝, 川名誠司: 小児の頭部に生じた澄明細胞汗管腫の1例. 日本小児皮膚科学会総会学術大会 (第34回), 2010. 7.
- 27) 小坂祥子: 層に対する ALA-PDT の低濃度・短時間処置法の有用性の検討. 日本美容皮膚科学会総会・学術大会 (第28回), 2010. 8.
- 28) 大塚洋平, 高山良子, 安齋眞一, 上野 孝, 二神綾子, 川名誠司: 左外顆に生じた porocarcinoma の1例. 日皮会東京地方会 (第832回), 2010. 9.
- 29) 田村奈渚, 小坂祥子, 野呂佐知子, 上野 孝, 安齋眞一, 川名誠司: 頬部の結節を契機に大腸癌と診断された転移性皮膚腫瘍の1例. 日皮会東京地方会 (第832回), 2010. 9.
- 30) 伊澤有香, 加藤篤衛, 川名誠司, 辰口篤志¹⁾ (1) 同消化器内科): 肛門病変から Crohn 病の診断に至った1例. 日皮会東京地方会 (第832回), 2010. 9.
- 31) 川原崎麻以, 上野 孝, 安齋眞一, 川名誠司, 青木見佳子¹⁾ (1) 千代田区): 後頸部に生じた spindle cell lipoma の1例. 日皮会東京地方会 (第832回), 2010. 9.
- 32) 安齋眞一, 武市浩美¹⁾, 荒瀬誠治¹⁾, 川名誠司, 木村鉄直²⁾ (1) 徳島大皮膚科, 2) 札幌皮膚病理研究所): 脂腺癌の免疫組織学的検討: 有棘細胞癌, 基底細胞癌, 脂腺癌との比較. 日皮会西部支部学術大会 (第62回), 2010. 10.
- 33) 小坂祥子, 川名誠司: 光線力学療法が有効だった糖尿病性リポイド類壊死症の1例. 日皮会西部支部学術大会 (第62回), 2010. 10.
- 34) 船坂陽子, アプデルタイムモハメド¹⁾, 川名誠司, 錦織千佳子¹⁾ (1) 神戸大皮膚科): Riluzole, Caffeine および

- Forscolin の代謝型グルタミン酸受容体 1 型のメラノーマ形性および増殖に及ぼす作用. 日本色素学会学術大会 (第 23 回), 2010. 11.
- 35) 渡邊宏美, 安齋眞一, 野呂佐知子, 上野 孝, 川名誠司: 眼瞼外脂腺癌の 3 例. 日皮会東部支部学術大会 (第 74 回), 2010. 11.
- 36) 伊藤路子, 菊地伊豆実, 安齋眞一, 川名誠司: Stasis mucinosis の 1 例. 日皮会東京地方会 (第 833 回), 2010. 11.
- 37) 河野美乃里, 中田朋子, 東 直行, 小澤雅邦¹⁾, 川名誠司 (¹⁾ 多摩市): 片側ヘリオトローブ疹で発症した皮膚筋炎の 1 例. 日皮会東京地方会 (第 833 回), 2010. 11.
- 38) 赤野蓉子, 船坂陽子, 川名誠司: HLA-A26 陽性であった Behcet 病の 1 例. 日皮会東京地方会 (第 834 回), 2010. 12.
- 39) 伊澤有香, 加藤篤衛, 川名誠司: 薬剤性慢性色素性紫斑の 2 例. 日皮会東京地方会 (第 834 回), 2010. 12.
- 40) 岡崎 静, 渡邊宏美, 安齋眞一, 川名誠司: 下腿に限局する紫斑を呈したヒトパルボウイルス B19 感染症の 1 例. 日皮会東京地方会 (第 834 回), 2010. 12.
- 41) 森田 孝, 東 直行, 川名誠司: 医療用ステープルによるアレルギー性接触皮膚炎の 2 例. 日本アレルギー・接触皮膚炎学会総会・学術大会 (第 40 回), 2010. 12.
- 42) 藤本和久, 川崎裕史, 稲葉基之, 森本健介, 畑 典武¹⁾, 菊地伊豆実, 川名誠司 (¹⁾ 千葉北総病院内科): トラニラストによる薬疹の 1 例. 日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会学術大会 (第 40 回), 2010. 12.
- 43) 安齋眞一, 川名誠司: ケラトアkantoma の取り扱いについての私見. 日皮会徳島地方会 (第 134 回), 2011. 1.
- 44) 松田英子¹⁾, 矢島 道²⁾, 矢島 純 (¹⁾ 江戸川大人間社会学科, ²⁾ 春日部市): アトピー性皮膚炎成人通院者の睡眠の不調に関する調査報告. 日本皮膚科心身医学会 (第 1 回), 2011. 1.
- 45) 矢島 純, 松田英子¹⁾, 矢島 道²⁾ (¹⁾ 江戸川大人間社会学科, ²⁾ 春日部市): アトピー性皮膚炎成人通院者の重症度と QOL に関する調査報告. 日本皮膚科心身医学会 (第 1 回), 2011. 1.
- 46) 熊谷聖代, 永野昌俊¹⁾, 鈴木秀則¹⁾, 川名誠司 (¹⁾ 同薬理学教室): ストレス記憶が及ぼす皮膚神経: マスト細胞回路への影響. 日本皮膚科心身医学会 (第 1 回), 2011. 1.
- 47) 渡邊宏美: 白血球除去療法が有効であった顕微鏡的多発血管炎の 1 例. 皮膚脈管膠原病研究会 (第 34 回), 2011. 1.
- 48) 紺野亜希子, 荻田あづさ, 二神綾子, 安齋眞一, 平川経晃¹⁾, 川名誠司 (¹⁾ 同血液内科): 鼠径部腫瘍より診断に至った成人 T 細胞性白血病リンパ腫 (ATLL) の 1 例. 日皮会東京地方会 (第 835 回), 2011. 1.
- 49) 李 民, 菊地伊豆実, 小坂祥子, 二神綾子, 安齋眞一, 川名誠司: L-カルボシチン (メチスタ[®]) による膿疱を伴う? 種状紅斑丘疹型薬疹の 1 例. 日皮会東京地方会 (第 835 回), 2011. 1.
- 50) 篠原理恵, 小坂祥子, 川名誠司: 黄色爪症候群の 2 例. 日皮会東京地方会 (第 835 回), 2011. 1.
- 51) 伊澤有香, 長田真一, 川名誠司: 心障害を伴った ANCA 陰性 Churg-Strauss 症候群の 2 例. 皮膚脈管膠原病研究会 (第 34 回), 2011. 1.
- 52) 本木智輝, 加藤篤衛, 渡邊宏美, 安齋眞一, 川名誠司: 腹膜炎術後に生じた壊疽性膿皮症の 1 例. 日皮会東京地方会 (第 835 回), 2011. 1.
- 53) 伊藤路子, 船坂陽子, 加藤篤衛, 川名誠司: Gravitational erythema の 1 例. 日皮会東京支部学術大会 (第 74 回), 2011. 2.
- 54) 吉田流音, 三石 剛, 川名誠司, 川瀬正昭¹⁾, 本田まりこ¹⁾ (¹⁾ 慈恵医大皮膚科): HPV5 型が検出された疣贅状表皮発育異常症の 1 例. 日皮会東京支部学術大会 (第 74 回), 2011. 2.
- 55) 川上佳夫¹⁾, 若槻妙子¹⁾, 山本俊幸¹⁾, 安齋眞一 (¹⁾ 福島医大皮膚科): Rippled-pattern sebaceoma の 1 例. 日皮会東京支部学術大会 (第 74 回), 2011. 2.

- 56) 川崎裕史¹⁾, 藤本和久¹⁾, 安齋眞一¹⁾, 川名誠司¹⁾ (福島医大皮膚科): 腰部脂肪肉腫の1例. 日皮会東京支部学術大会 (第74回), 2011. 2.
- 57) 船坂陽子: 原発性胆汁性肝硬変を合併し, UVB照射で皮疹が誘発された lupus erythematosus tumidus の1例. 紫外線研究会 (第40回), 2011. 3.
- 58) 船坂陽子: UVA および UVB による発癌. 太陽紫外線防御研究委員会シンポジウム (第21回), 2011. 3.
- 59) 船坂陽子, 田村奈渚, 川名誠司: 原発性胆汁性肝硬変を合併し, 光線テストが陽性であった lupus erythematosus tumidus の1例. 第40回 UVABCclub, 2011. 3.
- (8) 展示:
- 1) 松島智慧¹⁾, 大野健太郎¹⁾, 池田哲哉¹⁾, 船坂陽子, 錦織千佳子¹⁾, 上里 博²⁾ (1) 神戸大皮膚科, 2) 琉球大皮膚科): 陰部 Bowen carcinoma から HPV-51, HPV-58, 掌蹠疣贅から HPV-36 を検出した1例. 日皮会総会学術大会 (第109回), 2010. 4.
 - 2) 小猿恒志¹⁾, 藤原規広¹⁾, 船坂陽子, 錦織千佳子¹⁾ (1) 神戸大皮膚科): 悪性黒色腫の親子例. 日皮会総会学術大会 (第109回), 2010. 4.
 - 3) 山本三幸, 上野 孝, 小坂素子, 安齋眞一, 川名誠司: Fibroepithelioma (Pinkus) の1例. 日皮会東京地方会 (第834回), 2010. 12.

[武蔵小杉病院皮膚科]

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Mitsuishi T¹⁾, Sasagawa T¹⁾, Kato T¹⁾, Iida K¹⁾, Ueno T, Ikeda M, Ninomiya R¹⁾, Wakabayashi T¹⁾, Kawasaki H¹⁾, Kawana S¹⁾ (1) 付属病院 皮膚科): Combination of CO2 Laser Therapy and Artificial Dermis Application in Plantar Warts: Human Papillomavirus DNA Analysis after Treatment. *Dermatol Surg* 2010; 36 (9): 1401-1405.
- 2) 又吉武光¹⁾, 青木見佳子¹⁾, 池田麻純, 片山美玲¹⁾, 川名誠司¹⁾ (1) 付属病院 皮膚科): BCG 接種後副反応の9例: 53年間の本邦報告例の検討を含めて. *日本皮膚科学会雑誌* 2011; 121 (1): 39-45.

(2) 症例報告:

- 1) Mitsuishi T¹⁾, Ansai S¹⁾, Ueno T, Kawana S¹⁾ (1) 付属病院 皮膚科): Pigmented poroid neoplasm mimicking nodular melanoma. *J Dermatol* 2010; 37 (6): 542-544.
- 2) Akiyama M¹⁾, Ueno T, Noro S¹⁾, Kumita S²⁾, Kawana S¹⁾ (1) Departments of Dermatology, Nippon Medical School, 2) Departments of Radiology): Three-Dimensional Image Fusion of SPECT and CT Scans for Locating Sentinel Lymph Nodes in Malignant Melanomas. *Case Rep Dermatol* 2011; 3: 74-79.
- 3) 小坂素子, 上野 孝, 安齋眞一¹⁾, 川名誠司¹⁾ (1) 付属病院 皮膚科): 表皮囊腫構造を呈した伝染性軟属腫の1例. *皮膚科の臨床* 2010; 52 (4): 620-621.
- 4) 山本三幸, 高田香織, 西脇 薫, 上野 孝, 川名誠司: セレコキシブによる急性汎発性発疹性膿疱症の1例. *皮膚科の臨床* 2010; 52 (6): 839-842.
- 5) 李 民, 上野 孝, 安齋眞一¹⁾, 川名誠司¹⁾ (1) 付属病院 皮膚科): 前胸部腫脹を伴った流行性耳下腺炎の1例. *皮膚科の臨床* 2010; 52 (6): 1332-1333.
- 6) 高山良子¹⁾, 安齋眞一¹⁾, 新見やよい¹⁾, 上野 孝, 二神綾子¹⁾, 川名誠司¹⁾ (1) 付属病院 皮膚科): Porocarcinoma と病理学的に鑑別が問題となった皮膚原発上皮性悪性腫瘍の5症例. *西日本皮膚科* 2010; 72 (5): 467-

472.

- 7) 伊藤路子¹⁾, 青木見佳子¹⁾, 池田麻純, 又吉武光¹⁾, 片山美鈴¹⁾, 西澤善樹¹⁾, 石河 晃²⁾, 川名誠司¹⁾ (1) 付属病院 皮膚科, ²⁾ 慶応義塾大学 皮膚科): 出生時より重篤な皮膚症状を呈した水泡型先天性魚鱗癬様紅皮症の1例. 日本小児皮膚科学会雑誌 2010; 29 (2): 109-113.
- 8) 山下裕子, 青木見佳子¹⁾, 又吉武光¹⁾, 高田香織, 上野 孝¹⁾, 岩崎 隆²⁾, 廣瀬始之³⁾, 川名誠司¹⁾ (1) 付属病院 皮膚科, ²⁾ 岩崎皮膚科, ³⁾ 廣瀬皮膚科): 多発性皮膚潰瘍を伴った皮膚筋炎の1例. 皮膚科の臨床 2011; 53 (3): 435-439.

学会発表

(1) 一般講演:

- 1) 山下裕子, 上野 孝, 安斎真一¹⁾, 岩切加奈²⁾, 川名誠司¹⁾ (1) 付属病院 皮膚科, ²⁾ 横浜市): Poroid cell neoplasm の1例. 日本皮膚科学会東京地方会 (第831回), 2010. 7.
- 2) 山本三幸: 小児の頭部に生じた透明細胞汗腺腫の1例. 日本小児皮膚科学会 (第34回), 2010. 7.
- 3) 田村奈緒¹⁾, 小坂祥子¹⁾, 野呂佐知子¹⁾, 上野 孝, 安斎真一¹⁾, 川名誠司¹⁾ (1) 付属病院 皮膚科): 頬部の結節を契機に大腸癌と診断された転移性皮膚腫瘍の1例. 日本皮膚科学会東京地方会 (第832回), 2010. 9.
- 4) 川原崎麻以, 上野 孝, 安斎真一¹⁾, 川名誠司¹⁾, 青木見佳子²⁾ (1) 付属病院 皮膚科, ²⁾ 千代田区): 後頸部に生じた spindle cell lipoma の1例. 日本皮膚科学会東京地方会 (第832回), 2010. 9.
- 5) 大塚洋平¹⁾, 高山良子¹⁾, 安斎真一¹⁾, 上野 孝, 二神綾子¹⁾, 川名誠司¹⁾ (1) 付属病院 皮膚科): 左外顆に生じた porocarcinoma の1例. 日本皮膚科学会東京地方会 (第832回), 2010. 9.
- 6) 山本三幸, 上野 孝, 小坂素子, 安斎真一¹⁾, 川名誠司¹⁾ (1) 付属病院 皮膚科): Fibroepithelioma (Pinkus) の1例. 日本皮膚科学会東京地方会 (第834回), 2010. 12.

[多摩永山病院皮膚科]

研究概要

1. アトピー性皮膚炎の病態におけるケモカイン, サイトカインの発現解析と治療戦略 2. アトピー性皮膚炎の病態における抗核抗体, 抗DFS70抗体の発現解析 3. 乳児期湿疹の統計的観察 4. アナフィラクトイド紫斑, 掌蹠膿疱症, 自己免疫水疱症の病態におけるケモカイン, サイトカインの発現解析 5. 薬疹, 接触皮膚炎, 食物アレルギー, 全身性金属アレルギー. 皮膚テストによる原因物質の確認, 血清中抗原の解析, DLST 検査 6. 皮膚腫瘍, 皮膚悪性腫瘍の病理学的診断と研究

研究業績

論文

(1) 症例報告:

- 1) Ogita A¹⁾, Higashi N, Hosone M²⁾, Kawana S¹⁾ (1) 付属病院皮膚科, ²⁾ 多摩永山病院病理部): Nodular-type lichen myxedematosus; A case report. Case Rep Dermatol 2010; 2: 195-200.
- 2) 荻田あづさ¹⁾, 東 直行, 細根 勝²⁾, 川名誠司¹⁾ (1) 付属病院皮膚科, ²⁾ 多摩永山病院病理部): nodular type lichen myxedematosus. 皮膚病診療 2010; 32 (5): 527-530.
- 3) 二宮里紗, 加藤篤衛¹⁾, 下田貴子¹⁾, 川名誠司¹⁾ (1) 付属病院皮膚科): 点状疣贅の1例. 皮膚臨床 2010; 52 (5): 723-725.
- 4) 小金井宏美¹⁾, 東 直行, 荻田あづさ¹⁾, 中田朋子, 細根 勝²⁾, 川名誠司¹⁾, 小澤雅邦³⁾ (1) 付属病院皮膚科, ²⁾ 多摩永山病院病理部, ³⁾ 多摩市): 皮膚症状を契機に前立腺癌が発見された3例. 皮膚臨床 2010; 52 (10):

1467-1471.

- 5) 二宮里紗, 加藤篤衛¹⁾, 下田貴子¹⁾, 川名誠司¹⁾ (1) 付属病院皮膚科): 半月体形成性腎炎を伴う Henoch-Schönlein 紫斑の1例. 皮膚臨床 2010; 52 (10): 1413-1417.
- 6) 西脇 薫, 東 直行, 狩野律子, 宮地秀樹¹⁾, 新 博次¹⁾, 川名誠司²⁾ (1) 多摩永山病院内科・循環器内科, 2) 付属病院皮膚科): 急性腎不全をきたしたカルバマゼピンによる薬剤性過敏症候群の1例. 皮膚臨床 2010; 53 (13): 2013-2016.

学会発表

〔追加分〕

追加分一般講演:

- 1) 東 直行, 狩野律子, 松下 晃¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 津久井拓²⁾, 川名誠司³⁾ (1) 多摩永山病院外科, 2) 多摩永山病院消化器内科, 3) 付属病院皮膚科): 皮膚症状を契機に食道癌が発見された多形慢性痒疹の1例. 日本皮膚科学会東京支部学術大会 (第73回) (東京), 2010. 2.

(1) パネルディスカッション:

- 1) Higashi N, Sugiura K¹⁾, Muro Y¹⁾ (1) 名古屋大学皮膚科): Anti-DFS (dense fine speckled) 70 antibody in patients with atopic dermatitis. 6th Georg Rajka International Symposium on Atopic Dermatitis (Munich/Germany), 2010. 7.
- 2) Ogita A¹⁾, Higashi N, Ansai S¹⁾, Kawana S¹⁾ (1) 付属病院皮膚科): Infantile myofibroma with CD34-positive cells proliferation. The first eastern asia dermatology congress (Fukuoka/Japan), 2010. 9.
- 3) 森田 孝, 東 直行, 宮地秀樹¹⁾, 川名誠司²⁾ (1) 多摩永山病院内科・循環器内科, 2) 付属病院皮膚科): non-episodic angioedema with eosinophilia の1例. 日本皮膚科学会総会 (第109回) (大阪), 2010. 4.
- 4) 二宮里紗, 東 直行, 細根 勝¹⁾, 川名誠司²⁾, 小澤雅邦³⁾, 森 鉄也⁴⁾ (1) 多摩永山病院病理部, 2) 付属病院皮膚科, 3) 多摩市, 4) 国立成育病院血液腫瘍科): 原発性皮膚型未分化大細胞リンパ腫 (PCALCL) の1例. 日本小児皮膚学会学術大会 (第34回) (松山), 2010. 7.
- 5) 森田 孝, 東 直行, 川名誠司¹⁾ (1) 付属病院皮膚科): 医療用ステープルによるアレルギー性接触皮膚炎の2例. 日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会・学術大会 (第40回) (広島), 2010. 12.

(2) 一般講演:

- 1) 二宮里紗, 東 直行, 細根 勝¹⁾, 川名誠司²⁾, 小澤雅邦³⁾, 森 鉄也⁴⁾ (1) 多摩永山病院病理部, 2) 付属病院皮膚科, 3) 多摩市, 4) 国立成育病院血液腫瘍科): 原発性皮膚型未分化大細胞リンパ腫 (PCALCL) の1例. 日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会 (第26回) (東京), 2010. 6.
- 2) 河野美乃里, 中田朋子, 東 直行, 小澤雅邦¹⁾, 川名誠司²⁾ (1) 多摩市, 2) 付属病院皮膚科): 片側ヘリオトロープ疹で発症した皮膚筋炎の1例. 日本皮膚科学会東京地方会 (第833回) (東京), 2010. 11.
- 3) 森田 孝, 東 直行, 川名誠司¹⁾ (1) 付属病院皮膚科): 医療用ステープルによるアレルギー性接触皮膚炎の2例. 日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会・学術大会 (第40回) (広島), 2010. 12.

〔千葉北総病院皮膚科〕

研究概要

1) 薬疹, 接触性皮膚炎, 食物アレルギー: パッチテスト, プリックテスト, チャレンジテスト, 光パッチテストによる原因物質の確認と, 交叉感作, 抗原決定基の検索, アレルギーカードの発行. 2) 皮膚腫瘍の臨床診断, 形成外科学的治療・再建術および病理学的研究: 特に電顕, 酵素抗体法を用いた研究. 3) 動物性皮膚疾患: 疥癬,

Creeping disease 等に対する新しい内服治療・外用治療法の研究. 4) 褥瘡, 難治性潰瘍: 新しい素材, 薬剤を用いた保存的, 外科的治療, および糖尿病性壊疽の患者管理と治療法の研究. 5) 皮膚真菌症: 白癬菌の寄生形態に関する電顕学的研究, 白癬に対する効果的な外用・内服治療法の研究. 6) 水疱症: 尋常性天疱瘡, 水疱性類天疱瘡に対する, 血漿交換療法を含めた集学的治療法の研究. 7) 円形脱毛症: 難治性円形脱毛症の病態の解明, 免疫療法など新しい治療法の研究.

研究業績

論文

(1) 総説:

- 1) 藤本和久¹⁾ (1) 千葉北総病院皮膚科): 皮膚感染症にどう対応するか? (特集: 感染症 up to date: 日常遭遇する感染症への対処法). モダンフィジシャン 2010; 30 (5): 653-658.
- 2) 藤本和久¹⁾ (1) 千葉北総病院皮膚科): 私の処方: 糖尿病と水虫. モダンフィジシャン 2010; 30 (12): 1582-1582.
- 3) 藤本和久¹⁾ (1) 千葉北総病院皮膚科): 診療の秘訣: イベルメクチン療法の限界. モダンフィジシャン 2011; 31 (3): 353-353.

学会発表

(1) 一般講演:

- 1) 野呂佐知子¹⁾, 安齋眞一¹⁾, 菊地伊豆実²⁾, 森本健介²⁾, 藤本和久²⁾, 川俣博志³⁾, 川名誠司¹⁾ (1) 付属病院皮膚科, 2) 千葉北総病院皮膚科, 3) 千葉北総病院放射線科): 悪性黒色腫の肝転移に対するシスプラチン肝動脈内投与及び肝動脈塞栓術を施行した1例. 日本皮膚科学会総会 (第109回), 2010. 4.
- 2) 秋山美知子¹⁾, 加藤篤衛¹⁾, 二神綾子¹⁾, 藤本和久²⁾, 小山 良³⁾, 増田勝彦⁴⁾, 川名誠司¹⁾ (1) 付属病院皮膚科, 2) 千葉北総病院皮膚科, 3) 順天堂大呼吸器内科, 4) 足立区): 抗結核薬による薬疹の1例. 日本皮膚科学会東京地方会 (第830回), 2010. 6.
- 3) 藤本和久¹⁾, 川崎裕史¹⁾, 稲葉基之¹⁾, 森本健介¹⁾, 畑 典武²⁾, 菊地伊豆実³⁾, 川名誠司³⁾ (1) 千葉北総病院皮膚科, 2) 千葉北総病院内科, 3) 付属病院皮膚科): トラニラストによる薬疹の1例. 日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会 (第40回), 2010. 12.
- 4) 川崎裕史¹⁾, 藤本和久¹⁾, 安齋眞一²⁾, 川名誠司²⁾ (1) 千葉北総病院皮膚科, 2) 付属病院皮膚科): 腰部脂肪肉腫の1例. 日本皮膚科学会東京支部学術大会 (第74回), 2011. 2.

9. 外科学講座（消化器・一般・乳腺・移植部門）

〔付属病院消化器外科，乳腺科，一般外科，移植外科〕

研究概要

研究の特色：

教室では，消化器外科・乳腺外科・移植外科学を中心に以下のテーマに基づいて基礎的ならびに臨床的研究を進めている。

1. 外科腫瘍学を基本に，消化器全般（食道・胃・十二指腸・小腸・大腸・肝・胆・膵・脾），乳腺に関して，外科的治療を中心とした治療成績の向上のための臨床および基礎的研究を行っている．とくに癌治療に際し，集学的治療を目指し，化学療法と薬物感受性の問題，テーラーメイド治療の導入，治癒・再生過程における増殖因子等の役割，胃十二指腸疾患におけるヘリコバクター・ピロリ菌の役割や，消化器癌発生における遺伝的個性差（遺伝子多型性）の意義，肝癌発生の分子生物学的解明，膵癌転移機構の解明，乳癌の集学的治療と個別化治療など。

2. 腹膜炎，イレウスを中心とする急性腹症の病態や簡便な診断法の確立．また創傷治癒や再生，外科侵襲の基礎及び臨床研究さらには外科感染症対策（SSI）に関してエビデンスをもとにした治療法・予防法の実践。

3. 鏡視下手術（腹腔鏡・胸腔鏡・縦隔鏡・内視鏡）を用いた低侵襲性手術を導入し，基礎的技術習熟のためのトレーニングシステム（Wet Labo 含む）の構築およびその実践。

4. 門脈圧亢進症による食道，胃静脈瘤の病態生理の解明およびデンバーシャント術など臨床に役立つ治療法の工夫。

5. 高圧酸素療法の基礎的臨床的研究として，再生医療に応用すべく，分子標的治療薬との併用を再生医療および形成外科と共同研究中

6. 腹腔鏡・内視鏡手術をよりよい環境で行なうべく，医療材料，デバイスの開発とその特許取得へ向けての研究。

7. 乳癌，肝癌および膵癌の FNA 細胞診断の向上に努めるべく，現在，手術標本からの FNA 細胞診断とともに分子生物学的手法を用いた腫瘍マーカーの同定，定量から組織診断の鑑別への応用

卒前・卒後教育の指導方針

卒前教育の基本理念は，食道から肛門までの消化器全般の良・悪性疾患，乳腺疾患を対象に，疾病の診断からその病態生理学的メカニズムやその解剖の把握，さらに外科的治療も含めた総合医療を経験するとともに，卒後，最低限必要とされる外科的手技の基本を習得することである。

また卒後教育として，消化器疾患の Generalist や Specialist を目指す人に，広く臨床経験を積める研修システムを採用している．選択として，消化器外科を専門分野として高度な医学知識，技術，医の倫理に基づく患者の診療を習得するとともに，外科研修終了後，消化器関連学会の認定医，専門医，指導医の養成（Specialist）を目標として選択できる一方，8～10年間の臨床研修プログラムにより，消化器全般の Generalist となるべく研修する選択も可能である。

研究業績

論文

〔追加分〕

追加分総説：

1) 内田英二：日本医科大学付属病院における取組み，医学のあゆみ 2009；230（11）：8271-8276.

2) 吉田 寛¹⁾，真々田裕宏，谷合信彦，峯田 章，川野陽一，内田英二（¹⁾日本医科大学多摩永山病院 外科）：II. 脾臓 4. 部分脾動脈塞栓術か脾摘か，外科 2010；72（1）：80-83.

3) 丸山 弘，松谷 毅，宮下正夫，内田英二：【多剤耐性菌感染症】多剤耐性菌感染症発生時の感染防止対策 隔

離対応と個人防衛具使用の有用性を中心に、侵襲と免疫 2010 ; 19 (1) : 25-30.

- 4) 谷谷信彦, 吉田 寛, 川野陽一, 吉岡正人, 内田英二, 田尻 孝 : 生体肝移植における胆道再建の工夫
BLAKE Silicon Drain によるショートステント法による肝管空腸吻合. 手術 2010 ; 64 (2) : 231-235.

追加分原著 :

- 1) Nakamura Y, Uchida E, Aimoto T, Matsumoto S, Yoshida H, Tajiri T : Clinical outcome of laparoscopic distal pancreatectomy. J Hepatobiliary Pancreat Surg 2009 ; 16 (1) : 35-41.
- 2) Kawamoto M, Ishiwata T, Cho K, Uchida E, Korc M¹⁾, Naito Z²⁾, Tajiri T (¹⁾ Department of Medicine, Dartmouth Medical School and Dartmouth Hitchcock Medical Center, ²⁾ Department of Pathology, Integrative Oncological Pathology, Nippon Medical School) : Nestin expression correlates with nerve and retroperitoneal tissue invasion in pancreatic cancer. Human Pathology 2009 ; 40 (2) : 189-198.
- 3) Nakamura Y, Uchida E, Nomura T, Aimoto T, Matsumoto S, Tajiri T : Laparoscopic pancreatic resection : some benefits of evolving surgical techniques. J Hepatobiliary Pancreat Surg 2009 ; 16 (11) : 741-748.
- 4) Matsushita A¹⁾, Sasajima K¹⁾, Yokoyama T, Nakamura K, Aimoto T, Uchida E (¹⁾ Surgery of Organ Function and Biological Regulation, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Neuropeptide-1, as a New Therapeutic Target in Human Pancreatic Cancer. J Nippon Med Sch 2010 ; 77 (1) : 53-55.

追加分症例報告 :

- 1) Tajiri T, Yoshida H¹⁾, Obara K¹⁾, Onji M¹⁾, Kage M¹⁾, Kitano S¹⁾, Kokudo N¹⁾, Kokubu S¹⁾, Sakaida I¹⁾, Sata M¹⁾, Tajiri H¹⁾, Tsukada K¹⁾, Nonami T¹⁾, Hashizume M¹⁾, Hirota S¹⁾, et al. (¹⁾ The Japan Society for Portal Hypertension) : General Rules for Recording Endoscopic Findings of Esophagogastric Varices (2ND Edition). Digestive Endoscopy 2010 ; 22 (1) : 1-9.
- 2) 川野陽一, 鈴木英之, 松本智司, 菅 隼人, 鶴田宏之, 秋谷行宏, 佐々木順平, 堀田正啓, 内藤善哉¹⁾, 田尻 孝 (¹⁾ 日本医科大学 病理部) : 上行結腸癌に対する腹腔鏡補助下手術後に発症した腹腔内デスマイド腫瘍の1切除例. 日本消化器外科学会雑誌 2010 ; 43 (1) : 95-100.
- 3) 塩谷 猛¹⁾, 野村 聡¹⁾, 渡邊義正¹⁾, 南部弘太郎¹⁾, 青笹季文²⁾, 山田太郎¹⁾, 渋谷哲男¹⁾, 柳本邦雄¹⁾, 徳永 昭³⁾, 田尻 孝 (¹⁾ さいたま市民医療センター 外科 病理, ²⁾ 社会保険大宮総合病院 外科, ³⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター) : Kugel 法による鼠径ヘルニア術後に大腸穿通を来した盲腸憩室炎の1例. 日本消化器外科学会雑誌 2010 ; 43 (1) : 90-94.
- 4) 松谷 毅¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 丸川 弘¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 田尻 孝 (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科) : 重度慢性閉塞性肺疾患合併胃癌に対する術前術後の集学的管理が術後肺合併症の予防に有効であった1例. 外科 2010 ; 72 (3) : 305-308.

(1) 原著 :

- 1) Miyashita M : Controversy of corticosteroids in Septic Shock. J Nippon Med Sch 2010 ; 77 (2) : 67-70.
- 2) Seya T¹⁾, Tanaka N¹⁾, Yokoi K¹⁾, Okada S²⁾, Oaki Y³⁾, Uchida E (¹⁾ Department of Surgery, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, ²⁾ Department of Radiology, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, ³⁾ Department of Pathology, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital) : Left Paraduodenal Hernia Incidentally Diagnosed during Operation for Transverse Colon Cancer. J Nippon Med Sch 2010 ; 77 (2) : 111-114.
- 3) Nakamura Y, Matsumoto S, Uchida E, Tajiri T, Jo Y¹⁾, Inoue T¹⁾ (¹⁾ Hogy Medical Co.Ltd.) : Use of an Endoscopic Surgical Spacer during Laparoscopic Pancreatic Tumor Enucleation. J Nippon Med Sch 2010 ; 77 (2) : 106-110.

- 4) Iwakiri K¹⁾, Hoshihara Y¹⁾, Kawami N¹⁾, Sano H¹⁾, Tanaka Y¹⁾, Umezawa M¹⁾, Kotoyori M¹⁾, Nomura T, Miyashita M, Sakamoto C¹⁾ (¹⁾ Division of Gastroenterology, Department of Medicine, Nippon Medical School) : The appearance of rosette-like esophageal folds (“esophageal resette”) in the lower esophagus after a deep inspiration is a characteristic endoscopic finding of primary achalasia. *J Gastroenterol* 2010 ; 45 (4) : 422-455.
- 5) Ishikawa Y, Yoshida H, Mamada Y, Taniai N, Matsumoto S, Bando K, Mizuguchi Y, Kakinuma D, Kanda D, Tajiri T : Prospective randomized controlled study of short-term perioperative enteral nutrition with branched chain amino acids in patients undergoing liver surgery. *Hepato-Gastroenterology* 2010 ; 57 (99-100) : 583-590.
- 6) Ueda J, Nakamura K, Aimoto T, Hiroi M, Cho K, Yamahatsu K, Kawamoto M, Uchida E : Laparoscopic Distal Pancreatectomy Preserving Spleen and Splenic Vessels for Pancreatic Insulinoma. *J Nippon Med Sch* 2010 ; 77 (3) : 175-180.
- 7) Kanno H, Kiyama T, Fujita I, Kato S, Uchida E, Tajiri T : Vagotomy Suppresses Body Weight Gain in a Rat Model of Gastric Banding. *Digestive Surgery* 2010 ; 27 (4) : 302-306.
- 8) Ozaki T¹⁾, Tokunaga A¹⁾, Chihara N¹⁾, Yoshino M¹⁾, Bou H¹⁾, Okada M¹⁾, Watanabe M¹⁾, Suzuki H¹⁾, Uchida E (¹⁾ Institute of Gastroenterology, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital) : Total Colonoscopy Detects Early Colorectal Cancer More Frequently than Advanced Colorectal Cancer in Patients with Fecal Occult Blood. *J Nippon Med Sch* 2010 ; 77 (4) : 195-203.
- 9) Kanda T, Ishibashi O¹⁾, Kawahigashi Y, Mishima T¹⁾, Kosuge T¹⁾, Mizuguchi Y, Shimizu T, Arima Y, Yokomuro S, Yoshida H, Tajiri T, Uchida E, Takizawa T¹⁾ (¹⁾ Department of Molecular Medicine and Anatomy, Nippon Medical School) : Identification of Obstructive Jaundice-related MicroRNAs in Mouse Liver. *Hepato-Gastroenterology* 2010 ; 57 (102-103) : 1013-1023.
- 10) Yoshida H, Mamada Y, Taniai N, Mineta S, Kawano Y, Mizuguchi Y, Kanda T, Tajiri T : Shunting and nonshunting procedures for the treatment of esophageal varices in patients. *Hepato-Gastroenterology* 2010 ; 57 (102-103) : 1139-1144.
- 11) Tani A, Yoshida H¹⁾, Mamada Y, Taniai N, Kawano Y, Uchida E (¹⁾ Department of Surgery, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital) : Extrahepatic Portal Venous Obstruction due to a Giant Hepatic Hemangioma Associated with Kasabach-Merritt Syndrome. *J Nippon Med Sch* 2010 ; 77 (5) : 269-272.
- 12) Maejima K¹⁾, Tokunaga A¹⁾, Kiyama T, Kanno H, Bou H¹⁾, Watanabe M¹⁾, Suzuki H¹⁾, Uchida E (¹⁾ Institute of Gastroenterology, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital) : Chemosensitivity test for 5-Fluorouracil and 5-chloro-2,4-dihydropyridine predicts outcome of gastric cancer patients receiving S-1 postoperatively. *Gastric Cancer* 2010 ; 13 (4) : 231-237.
- 13) Mizuguchi Y, Mishima T, Yokomuro S, Arima Y, Kawahigashi Y, Shigehara K, Kanda T, Yoshida H, Uchida E, Tajiri T, Takizawa T : Sequencing and Bioinformatics-Based Analyses of the microRNA Transcriptome in Hepatitis B-Related Hepatocellular Carcinoma. *PLoS One* 2011 ; 6 (1) : e15304.
- 14) Chihara N, Amo T¹⁾, Tokunaga A, Yuzuriha R¹⁾, Wolf MA¹⁾, Asoh S¹⁾, Suzuki H, Uchida E, Ohta S¹⁾ (¹⁾ Department of Biochemistry and Cell Biology, Institute of Development and Aging Sciences, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Mitochondrial DNA Alterations in Colorectal Cancer Cell Lines. *J Nippon Med Sch* 2011 ; 78 (1) : 13-21.
- 15) Hagiwara N, Miyashita M, Akagi I, Nomura T, Makino H, Uchida E : Development of New Molecular Markers for Cancer : A Highly Sensitive Assay for Detecting Mutations of Phosphatidylinositol 3-kinase and p53. *J Nippon Med Sch* 2011 ; 78 (1) : 54-56.

- 16) 岩切勝彦¹⁾, 佐野弘仁¹⁾, 田中由理子¹⁾, 川見典之¹⁾, 梅澤まり子¹⁾, 飯泉 匡¹⁾, 二神生爾¹⁾, 星原芳雄^{1, 2)}, 野村 務, 宮下正夫, 坂本長逸¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 消化器内科, ²⁾ 経済産業省診療所): 食道 pH・多チャンネルインピーダンスモニタリングによる PPI 抵抗性 NERD 患者の解析. 日本消化器病学会雑誌 2010; 107 (4): 538-548.
 - 17) 松谷 毅¹⁾, 内田英二, 丸山 弘¹⁾, 松田明久¹⁾, 笹島耕二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科): 食道癌手術における吸収性ポリ乳酸製骨固定ピンを用いた肋骨内固定法. 外科 2010; 72 (6): 623-626.
 - 18) 中村慶春, 松本智司, 井上利樹¹⁾, 有馬保生, 内田英二 (¹⁾ 株式会社ホギメディカル): 汎用性鏡視下手術用スポンジスペーサーの単孔式腹腔鏡下胆能摘出術における有用性. 手術 2010; 64 (7): 1015-1019.
 - 19) 谷合信彦, 吉田 寛, 平方敦史, 川野陽一, 柿沼大輔, 神田知洋, 真々田裕宏, 秋丸琥甫, 田尻 孝: 【肝移植と門脈循環】 門亢症に対する生体肝移植における部分的脾動脈塞栓術 (PSE). 日本門脈圧亢進症学会雑誌 2010; 16 (1): 7-12.
 - 20) 山田岳史, 内田英二, 菅 隼人, 松本智司, 金沢義一, 小泉岐博, 佐々木順平, 横井公良¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 外科): 【Oncologic emergency の診断と治療】 終末期大腸癌における oncologic emergency に対する予後予測に基づいた初期治療計画. 日本腹部救急医学会雑誌 2010; 30 (6): 805-808.
 - 21) 谷合信彦, 吉田 寛, 真々田裕宏, 峯田 章, 川野陽一, 田尻 孝, 内田英二: 門脈圧亢進症合併肝細胞癌における部分脾動脈塞栓術 (PSE) の意義 (脾摘 vs. PSE). 日本門脈圧亢進症学会雑誌 2010; 16 (3): 127-133.
 - 22) 山田岳史¹⁾, 古川清憲¹⁾, 横井公良¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 金沢義一¹⁾, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 外科): 胃癌における 5-FU/Irinotecan 併用療法は相乗的か Combination Index を用いての検討. 癌と化学療法 2010; 37 (11): 2125-2129.
 - 23) 中村慶春, 相本隆幸, 松本智司, 廣井 信, 山初和也, 田尻 孝, 内田英二: 腹腔鏡下脾切除術を安全に行うための Device の工夫. 胆と膵 2011; 32 (1): 57-64.
 - 24) 赤城一郎, 宮下正夫, 内田英二, 瀧澤俊広¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学大学院 医学研究科分子解剖学): 病理標本と臨床因子解析の基礎 (7). 日医大医学会誌 2011; 7 (1): 24-26.
 - 25) 中村慶春, 田尻 孝, 相本隆幸, 松本智司, 廣井 信, 内田英二: 腹腔鏡下脾切除術: 腹腔鏡下脾頭十二指腸切除術と脾体尾部切除術の手法を取り入れた腹腔鏡下脾中央切除術. 手術 2011; 65 (3): 331-336.
- (2) 総説:
- 1) 小泉岐博, 内田英二: 精神不穏. 消化器外科 2010; 33 (5): 947-948.
 - 2) 中村慶春, 田尻 孝, 松本智司, 内田英二: 【マスターしておきたい縫合・吻合法の実際 より安全・確実にを行うために】 縫合・吻合法の実際 胸・腹腔鏡手術における縫合・吻合の実際 膵臓の腹腔鏡下手術. 外科治療 2010; 102 (増刊号): 686-692.
 - 3) 内田英二: 消化器外科と再生医療. 日本外科系連合学会誌 2010; 35 (2): 248-249.
 - 4) 中村慶春, 内田英二, 相本隆幸, 松本智司, 廣井 信, 山初和也: 脾頭十二指腸切除術. 手術 2010; 64 (5): 605-609.
 - 5) 牧野浩司, 内田英二, 宮下正夫, 野村 務, 萩原信敏, 高橋 健, 赤城一郎, 大川敬一, 堀場光二¹⁾, 田尻 孝 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 外科): 食道癌手術におけるケント・ブーメラン・リトラクターを用いた頸部リンパ節郭清の工夫. 癌の臨床 2010; 55 (11): 803-805.
 - 6) 菅 隼人, 内田英二: 消化器病領域における漢方療法 大建中湯に注目して. 日医大医学会誌 2010; 6 (3): 127-129.
 - 7) 川本聖郎, 石渡俊行¹⁾, 松田陽子¹⁾, 相本隆幸, 内藤善哉¹⁾, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学 病理部): 膵癌における Nestin の発現と浸潤能との関連. 胆と膵 2010; 31 (6): 611-614.
 - 8) 真々田裕宏¹⁾, 吉田 寛, 谷合信彦, 田尻 孝 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 外科): 門亢症と救急治療. 日本門脈圧亢進症学会雑誌 2010; 22 (1): 1-9.

- 9) 吉田 寛¹⁾, 平方敦史¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 真々田裕宏, 谷合信彦, 峯田 章, 川野陽一, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科) : 難治性腹水に対する腹腔 : 静脈シャント. 外科 2010 ; 72 (8) : 829-833.
- 10) 吉田 寛¹⁾, 平方敦史¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 真々田裕宏, 谷合信彦, 峯田 章, 川野陽一, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科) : 【門脈血行動態の異常 基礎および臨床からのアプローチ】 門脈圧亢進症の治療 脾摘か部分脾動脈塞栓術 (PSE) か. 肝・胆・膵 2010 ; 61 (2) : 243-247.
- 11) 小泉岐博, 鈴木成治, 菅 隼人, 鶴田宏之, 松本智司, 内田英二 : 腹腔鏡下低位前方切除術における大腸内視鏡を用いた直腸反転法. 日本内視鏡外科学会雑誌 2010 ; 15 (4) : 537-541.
- 12) 山田岳史, 古川清憲, 松田明久, 佐々木順平, 小泉岐博, 金沢義一, 松本智司, 菅 隼人, 鶴田宏之¹⁾, 鈴木英之²⁾, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 外科, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター) : 【最新のイレウスの診断と治療】 イレウスの原因, 分類, 疫学, 病態生理. 消化器外科 2010 ; 33 (10) : 1527-1533.
- 13) 鈴木英之¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 三浦克洋¹⁾, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター) : 内視鏡手術 安全にできる腹腔鏡下大腸手術のポイント. 外科治療 2010 ; 103 (4) : 403-410.
- 14) 谷合信彦, 田尻 孝, 吉田 寛¹⁾, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科) : 【エキスパートに学ぶ IVR のテクニック, 適応, 合併症】 門脈圧亢進症 部分脾動脈塞栓術. 肝・胆・膵 2010 ; 61 (4) : 579-584.
- 15) 吉田 寛¹⁾, 田尻 孝, 笹島耕二¹⁾, 真々田裕宏, 谷合信彦, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科) : 1. 消化管 4. 食道胃静脈瘤. 外科 2010 ; 72 (12) : 1273-1278.
- 16) 小泉岐博, 菅 隼人, 松本智司, 山田岳史, 佐々木順平, 谷 杏彌, 内田英二 : 8. 消化器疾患に対する単孔式腹腔鏡下手術 大腸 (I). 日医大医会誌 2011 ; 7 (1) : 4-5.

(3) 症例報告 :

- 1) Shirakawa T¹⁾, Yokoi K¹⁾, Seya T¹⁾, Yoshioka M¹⁾, Ohaki Y²⁾, Uchida E (¹⁾ Department of Surgery, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, ²⁾ Institute of Pathology, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital) : A Case of Extrahepatic Bile Duct Wall Recurrence of Gastric Carcinoma that Was Treated with Pancreaticoduodenectomy. J Nippon Med Sch 2010 ; 77 (3) : 170-174.
- 2) Ueda J, Yoshida H, Tani ai N, Mineta S, Kawano Y, Uchida E : A Case of Spontaneous Rupture of a Simple Hepatic Cyst. J Nippon Med Sch 2010 ; 77 (3) : 181-185.
- 3) Shirakawa T¹⁾, Yokoi K¹⁾, Seya T¹⁾, Yoshioka M¹⁾, Ohaki Y²⁾, Uchida E (¹⁾ Department of Surgery, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, ²⁾ Institute of Pathology, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital) : A Case of Extrahepatic Bile Duct Wall Recurrence of Gastric Carcinoma that Was Treated with Pancreaticoduodenectomy. J Nippon Med Sch 2010 ; 77 (3) : 170-174.
- 4) Suzuki S¹⁾, Maeda S²⁾, Sasajima K¹⁾, Yoshino H¹⁾, Yokoyama T¹⁾, Maruyama H¹⁾, Matsutani Y¹⁾, Liu A²⁾, Hosone M²⁾, Tanno M²⁾, Uchida E (¹⁾ Department of Surgery, Nippon Medical School Tama-Nagayama Hospital, ²⁾ Department of Pathology, Nippon Medical School Tama-Nagayama Hospital) : Malignant Granular Cell Tumor in the Gluteal Region With Unusual Pathologic Features. International Surgery 2010 ; 95 (4) : 360-365.
- 5) Kikuchi Y, Yoshida H, Mamada Y, Tani ai N, Mineta S, Yoshioka M, Hirakata A, Kawano Y, Ueda J, Uchida E : Huge Caudate Lobe of the Liver due to Budd-Chiari Syndrome. J Nippon Med Sch 2010 ; 77 (6) : 328-332.
- 6) Shinozuka E, Nomura T, Miyashita M, Makino H, Okawa K, Hagiwara N, Shigehara K, Akagi I, Shioda Y, Uchida E : Successful Treatment of a Spontaneous Esophageal Rupture in an Elderly Patient. J Nippon Med Sch 2010 ; 77 (6) : 338-341.

- 7) Mizutani S¹⁾, Yagi A¹⁾, Watanabe M¹⁾, Maejima K¹⁾, Komine O¹⁾, Yoshino M¹⁾, Hoshino A¹⁾, Ogata M¹⁾, Suzuki H¹⁾, Tokunaga A¹⁾, Uchida E (¹ Institute of Gastroenterology, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital) : T tube drainage for spontaneous perforation of the extrahepatic bile duct. Med Sci Monit 2011 ; 17 (1) : 8-11.
- 8) Ueda J, Yoshida H, Mamada Y, Taniai N, Mineta S, Yoshioka M, Hirakata A, Kawano Y, Kanda T, Uchida E : Resection of Hepatocellular Carcinoma Recurring in the Diaphragm after Right Hepatic Lobectomy. J Nippon Med Sch 2011 ; 78 (1) : 30-33.
- 9) Uetama T, Yoshida H, Hirakata A, Yokoyama T, Maruyama H, Suzuki S, Matsutani T, Matsushita A, Sasajima K, Uchida E : A Symptomatic Giant Hepatic Hemangioma Treated with Hepatectomy. J Nippon Med Sch 2011 ; 78 (1) : 34-39.
- 10) 菅野仁士¹⁾, 山下直行¹⁾, 柿沼大輔¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 小澤俊文²⁾, 内田英二 (¹ 坪井病院 外科, ² 坪井病院 内科) : 小腸鏡にて診断し, 腹腔鏡補助下に切除した回腸脂肪腫による成人腸重積症の1例. 日本臨床外科学会雑誌 2010 ; 71 (4) : 966-970.
- 11) 新井政男¹⁾, 古谷政一¹⁾, 清水康仁¹⁾, 沖野哲也¹⁾, 横室茂樹, 有馬保生, 田尻 孝 (¹ 筑西市民病院 外科) : 肝膿瘍ドレナージカテーテルが断裂し, 肝内遺残した1例. 胆道 2010 ; 24 (2) : 209-212.
- 12) 松谷 毅¹⁾, 内田英二, 吉田 寛¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 片山博徳²⁾, 細根 勝²⁾, 笹島耕二¹⁾ (¹ 日本医科大学多摩永山病院 外科, ² 日本医科大学多摩永山病院 病理部) : 肺腺癌同時胃転移の1例. 癌の臨床 2010 ; 56 (5) : 407-412.
- 13) 宮下正夫, 柏原 元, 内田英二 : 7. 外科の立場からみた Surviving Sepsis Campaign guidelines. 外科 2010 ; 72 (6) : 601-604.
- 14) 松谷 毅¹⁾, 内田英二, 丸山 弘¹⁾, 松田明久¹⁾, 笹島耕二¹⁾ (¹ 日本医科大学多摩永山病院 外科) : 食道癌術後乳び胸に対し胸腔鏡下胸管クリッピング術と octreotide 投与が有効であった1例. 外科 2010 ; 72 (7) : 763-766.
- 15) 山村 進¹⁾, 池田研吾¹⁾, 小林 匡¹⁾, 小林正昭¹⁾, 藤田逸郎, 横室茂樹, 内田英二 (¹ 小林病院 外科) : 悪性関節リウマチによる血管炎で生じたイレウスの1例. 日本消化器外科学会雑誌 2010 ; 43 (7) : 765-769.
- 16) 松谷 毅¹⁾, 内田英二, 丸山 弘¹⁾, 笹島耕二¹⁾ (¹ 日本医科大学多摩永山病院 外科) : 腹臥位胸腔鏡下食道切除術の導入と2手術例の経験. 日本内視鏡外科学会雑誌 2010 ; 15 (4) : 477-481.
- 17) 松谷 毅¹⁾, 内田英二, 吉田 寛¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 横山 正¹⁾, 松下 晃¹⁾, 川本聖郎¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 笹島耕二¹⁾ (¹ 日本医科大学多摩永山病院 外科) : 化学放射線療法後の再発および遺残食道癌に対しサルベージ療法としてアルゴンプラズマ凝固法を行った3例. 日本消化器病学会雑誌 2010 ; 107 (11) : 1786-1790.
- 18) 松谷 毅¹⁾, 内田英二, 丸山 弘¹⁾, 松下 晃¹⁾, 松田明久¹⁾, 笹島耕二¹⁾ (¹ 日本医科大学多摩永山病院 外科) : 同時性食道胃早期重複癌に対し minimally invasive surgery を行った1例. 臨床外科 2010 ; 65 (10) : 1445-1450.
- 19) 松谷 毅¹⁾, 内田英二, 丸山 弘¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 笹島耕二¹⁾ (¹ 日本医科大学多摩永山病院 外科) : 経皮内視鏡的胃瘻造設術が困難な高度進行食道癌に対し腹腔鏡下胃瘻造設術を施行した1例. 日本医科大学医学会雑誌 2010 ; 6 (4) : 190-192.
- 20) 松谷 毅¹⁾, 内田英二, 丸山 弘¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 横山 正¹⁾, 松下 晃¹⁾, 平方敦史¹⁾, 川本聖郎¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 馬越通信¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 笹島耕二¹⁾ (¹ 日本医科大学多摩永山病院 外科) : Docetaxel/Nedaplatin/5-Fluorouracil 併用化学放射線療法が奏効し切除し得た高度進行食道胃接合部癌の1例. 癌と化学療法 2010 ; 37 (10) : 1949-1952.
- 21) 松谷 毅¹⁾, 内田英二, 吉田 寛¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 横山 正¹⁾, 松下 晃¹⁾, 川本聖郎¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 笹島耕二¹⁾ (¹ 日本医科大学多摩永山病院 外科) : 化学放射線療法後の再発および遺残食道癌に対しサルベージ

治療としてアルゴンプラズマ凝固. 日本消化器病学会雑誌 2010 ; 107 (11) : 1786-1790.

- 22) 上田純志, 相本隆幸, 中村慶春, 廣井 信, 山初和也, 早川朋宏, 内藤善哉¹⁾, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学病理部) : 十二指腸癌を合併し診断に難渋した原発不明神経内分泌細胞癌リンパ節転移と考えられた1例. 日本消化器病学会雑誌 2010 ; 107 (12) : 1941-1946.

著 書

[追加分]

追加分 :

- 1) 吉田 寛 : [分担] 8. 腹部・消化器系の症候 : 門脈圧亢進症. 今日の診断指針 (第6版), 2010 ; pp348-349, 医学書院.
- 1) 内田英二 : [分担] I. 肝・膵疾患. 禁煙学 (日本禁煙学会), 2010 ; pp43-45, 南山堂.
- 2) 吉田 寛 : [分担] 11. 肝臓疾患 : 肝外門脈閉塞症. 今日の消化器疾患治療指針 (第3版), 2010 ; pp634-636, 医学書院.
- 3) 宮下正夫 : [共著] 7 腰痛・黄疸. 話せる医学英語 (荒木勤, 田尻孝, 矢沢珪二郎), 2010 ; pp61-70, 金原出版.
- 4) 吉田 寛¹⁾, 谷合信彦, 真々田裕宏, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科) : [分担] 肝・胆道系症候群 (第2版) II 肝臓編 (下) XII 肝動脈, 肝静脈, 門脈系異常 門脈海綿. 別冊日本臨牀 新領域別症候群シリーズ No.14, 2010 ; pp84-86, 日本臨床社.
- 5) 木山輝郎, 内田英二 : [共著] 6. 創傷治療と栄養. 新臨床医学 [増補版], 2011 ; pp143-148, 医学書院.

学会発表

[追加分]

追加分一般講演 :

- 1) Nakamura Y : Laparoscopic pancreatic resection. International College of Surgeons 2009 Beijing Conference (北京 (中国)), 2009. 11.
- 2) 二見良平¹⁾, 山本一仁¹⁾, 柏原 元¹⁾, 寺西宣央¹⁾, 塙 秀暁¹⁾, 福岡 猛¹⁾, 鈴木真彦¹⁾, 木内博之¹⁾, 内田英二 (¹⁾ 北村山公立病院 外科) : 術前血管造影検査が有用であったアスピリン起因性多発小腸潰瘍の1手術例. 潰瘍病態研究会 (第18回) (山形), 2009. 8.

(1) 特別講演 :

- 1) 吉田 寛 : 「がんの予防医学・治療について」 肝がん. 市民公開講座 (日本医科大学多摩永山病院), 2011. 2.

(2) シンポジウム :

- 1) Nakamura Y, Uchida E, Aimoto T, Hiroi M, Yamahatsu K, Tajiri T : Laparoscopic Distal Pancreatectomy in Our Institution. 国際膵臓学会・日本膵臓学会大会合同会議 (第14回・第41回) (福岡), 2010. 7.
- 2) Hiroi M, Nakamura Y, Uchida E, Aimoto T, Yamahatsu K, Tajiri T : Endoscopic Surgery for Islet Cell Tumor of the Pancreas. 国際膵臓学会・日本膵臓学会大会合同会議 (第14回・第41回) (福岡), 2010. 7.
- 3) 櫻澤信行, 加藤俊二, 内田英二 : 胃粘膜癌に対するループ付き細径スプリングと脱着式牽引力可変スプリングによるカウンタートラックション法. 日本消化器内視鏡学会総会 (第79回) (東京), 2010. 5.
- 4) 山下浩二, 飯田信也, 柳原恵子, 赤須東樹, 五十嵐健人, 岡村律子, 宮脇佳世, 汲田伸一郎¹⁾, 芳賀駿介, 清水一雄 (¹⁾ 日本医科大学 放射線科) : 3D-CT リンパ管造影とMRIに基づいた乳腺内視鏡手術とセンチネルリンパ節生検. 日本外科系連合学会学術集会 (第35回) (浦安), 2010. 6.
- 5) 山下直行¹⁾, 柿沼大輔¹⁾, 菅野仁士¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 宮下正夫, 加藤俊二, 藤田逸郎, 金沢義一, 櫻澤信行, 小野寺浩之, 萩原信敏, 牧野浩司 (¹⁾ 坪井病院 外科) : 切除, 郭清, 予後に応じた胃切除後の再建法. 日本外

科系連合学会学術集会（第35回）（浦安），2010. 6.

- 6) 小泉岐博, 菅 隼人, 鶴田宏之, 松本智司, 佐々木順平, 内田英二, 鈴木英之¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 腹腔鏡下低位前方切除術において直腸切離を安全・確実に行う工夫. 日本外科系連合学会学術集会（第35回）（浦安），2010. 6.
 - 7) 萩原信敏, 宮下正夫, 野村 務, 牧野浩司, 篠塚恵理子, 中溝宗永¹⁾, 横島一彦¹⁾, 三枝英人¹⁾, 稲井俊太¹⁾, 酒主敦子¹⁾, 内田英二 (1) 日本医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科): 食道癌に対する当院の多科共同手術の現状. 日本外科系連合学会学術集会（第35回）（浦安），2010. 6.
 - 8) 牧野浩司, 宮下正夫, 野村 務, 萩原信敏, 松本智司, 中村慶春, 内田英二: 安全を第一義とした当科の腹臥位胸腔鏡下食道切除術（VATS-E）における工夫. 日本外科系連合学会学術集会（第35回）（浦安），2010. 6.
 - 9) 稲井俊太¹⁾, 中溝宗永¹⁾, 横島一彦¹⁾, 粉川隆行¹⁾, 酒主敦子¹⁾, 宮下正夫, 野村 務, 牧野浩司, 梅澤裕己²⁾, 百束比古²⁾ (1) 日本医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科, 2) 日本医科大学 形成外科): 耳鼻咽喉科・頭頸部外科における下咽頭・頸部食道手術: 咽頭機能温存症例の検討. 日本外科系連合学会学術集会（第35回）（浦安），2010. 6.
 - 10) 松下 晃¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 横山 正¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 中村慶春, 相本隆幸, 内田英二 (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科): 膀胱における neuropilin-1 を治療標的とした浸潤, 転移の制御. 日本消化器外科学会総会（第65回）（下関），2010. 7.
 - 11) 山田岳史, 内田英二, 菅 隼人, 松本智司, 小泉岐博, 佐々木順平, 横井公良¹⁾, 鈴木英之²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): がん化学療法の副作用対策としての漢方治療 Oxaliplatin による末梢神経障害に対する桂枝加朮附湯とブシ末の効果. 日本癌治療学会学術集会（第48回）（京都），2010. 10.
 - 12) 加藤俊二, 松倉則夫, 内田英二: EMR・ESD と胃切除後の残胃に HP 除菌は必要か? 背景胃粘膜の病態を考える 背景胃粘膜の内視鏡的個別評価からみた胃癌再発リスクと除菌の効果. 日本消化器外科学会大会（第8回）（横浜），2010. 10.
 - 13) 中村慶春, 内田英二, 田尻 孝: 膀胱の鏡視下手術: 標準術式としての腹腔鏡下膀胱尾部切除術. 日本消化器外科学会大会（第8回）（横浜），2010. 10.
 - 14) 中村慶春, 内田英二, 田尻 孝: 肝胆膵悪性腫瘍に対する内視鏡手術の導入 手術手技の工夫, 評価と展望 胆道・膵臓の腫瘍性病変に対する腹腔鏡下膵切除術の展望. 日本臨床外科学会総会（第72回）（横浜），2010. 11.
 - 15) 菅野仁士¹⁾, 山下直行¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 小澤俊文²⁾, 内田英二 (1) 坪井病院 外科, 2) 坪井病院 消化器科): PEG におけるインフォームド・コンセントと偶発症対策: 主治医・看護師への教育そして連携. 日本消化器内視鏡学会東北支部例会（第146回）（仙台），2011. 2.
- (3) パネルディスカッション:
- 1) 中村慶春, 内田英二, 松本智司, 野村 務, 廣井 信, 神田知洋, 有馬保生, 田尻 孝: 先天性胆道拡張症における鏡視下手術. 日本外科系連合学会学術集会（第35回）（浦安），2010. 6.
 - 2) 中村慶春, 内田英二, 松本智司, 有馬保生, 野村 務, 牧野浩司, 田尻 孝: 経済性と安全性を考慮した単項式腹腔鏡下胆嚢摘出術. 日本内視鏡外科学会総会（第23回）（横浜），2010. 10.
 - 3) 牧野浩司, 宮下正夫, 内田英二: 経鼻内視鏡の診断・手技における課題と工夫 楽な検査と言われる経鼻内視鏡の手技における課題と工夫 オーバーチューブの試作. 日本消化器内視鏡学会（第80回）（横浜），2010. 10.
 - 4) 渡辺昌則¹⁾, 小峯 修¹⁾, 前島颯太郎¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 内田英二 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): SSI 危険因子からみた下部消化管手術における周術期感染対策. 日本外科感染症学会総会（第23回）（東京），2010. 11.
 - 5) 牧野浩司, 宮下正夫, 野村 務, 萩原信敏, 中溝宗永¹⁾, 横島一彦¹⁾, 三枝英人¹⁾, 高橋 健²⁾, 勝田美和子²⁾,

堀場光二²⁾, 横井公良²⁾, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学 頭頸部外科, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院 外科): 食道癌術後の縫合不全に続発した難治性縦隔瘻の治療. 気管食道科学会総会 (第 62 回) (大分), 2010. 11.

(4) セミナー:

- 1) 谷合信彦: PSE. 日本門脈圧亢進症学会総会 (第 17 回) (富山), 2010. 9.

(5) ランチョンセミナー:

- 1) 山田岳史: 外科医と患者にやさしい緩和医療. 日本外科学会定期学術集会 (第 110 回) (名古屋), 2010. 4.
- 2) 相本隆幸: 肝胆膵外科領域における術後合併症対策: 胆汁漏及び膵液漏対策を中心に. 日本消化器外科学会総会 (第 65 回) (下関), 2010. 7.

(6) ワークショップ:

- 1) 山初和也, 中村慶春, 田尻 孝, 内田英二: 肝胆膵腫瘍性病変に対する腹腔鏡下膵切除術. 日本外科学会定期学術集会 (第 110 回) (名古屋), 2010. 4.
- 2) 前島顕太郎¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 木山輝郎, 菅野仁士, 山田岳史²⁾, 千原直人¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 古川清憲²⁾, 鈴木英之¹⁾, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院 外科): 胃癌術後補助化学療法における抗癌剤感受性に関する臨床試験. 日本外科学会定期学術集会 (第 110 回) (名古屋), 2010. 4.
- 3) 谷合信彦, 吉田 寛, 真々田裕宏, 峯田 章, 川野陽一, 内田英二: 門脈圧亢進症に対する血行動態を考慮した IVR 治療. 日本肝臓学会総会 (第 46 回) (山形), 2010. 5.
- 4) 上田純志, 野村 務, 佐々木順平, 重原健吾, 山初和也, 谷 杏彌, 内田英二: 再発鼠径ヘルニアに対する修復術式の検討. 日本外科系連合学会学術集会 (第 35 回) (浦安), 2010. 6.
- 5) 野村 務, 内田英二, 宮下正夫, 牧野浩司, 萩原信敏, 佐野弘仁¹⁾, 川見典之¹⁾, 田中由理子¹⁾, 岩切勝彦¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 消化器内科): PPI 倍量治療抵抗性 NERD 症例に対する腹腔鏡下逆流防止手術の有用性. 日本食道学会学術集会 (第 64 回) (久留米), 2010. 8.
- 6) 柿沼大輔¹⁾, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 峯田 章, 吉岡正人, 川野陽一, 田尻 孝, 内田英二⁽¹⁾ 坪井病院 外科): 門脈圧亢進症に対する PSE, 脾摘の位置づけ. 日本門脈圧亢進症学会総会 (第 17 回) (富山), 2010. 9.
- 7) 谷合信彦, 吉田 寛¹⁾, 真々田裕宏, 峯田 章, 吉岡正人, 川野陽一, 上田純志, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科): 孤立性胃静脈瘤治療における B-RTO 時 PSE 併用の有効性. B-RTO 研究会 (第 13 回) (富山), 2010. 9.
- 8) 牧野浩司, 宮下正夫, 横井公良¹⁾, 高橋 健¹⁾, 松本智司, 中村慶春, 藤田逸郎, 萩原信敏, 野村 務, 加藤俊二, 金沢義一, 櫻澤信行, 小野寺浩之, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 外科): 腹臥位胸腔鏡下食道切除術における縦隔リンパ節郭清のコツ. 日本内視鏡外科学会総会 (第 23 回) (横浜), 2010. 10.
- 9) 野村 務, 牧野浩司, 萩原信敏, 松本智司, 藤田逸郎, 中村慶春, 有馬保生, 高橋 健¹⁾, 勝田美和子¹⁾, 松谷毅²⁾, 丸山 弘²⁾, 笹島耕二²⁾, 岩切勝彦³⁾, 宮下正夫, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 外科, ²⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科, ³⁾ 日本医科大学 消化器内科): 食道アカラシアに対する腹腔鏡下 Heller-Dor 法: 当施設における手技のポイント. 日本内視鏡外科学会総会 (第 23 回) (横浜), 2010. 10.
- 10) 丸山 弘¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 横山 正¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 松下 晃¹⁾, 平方敦史¹⁾, 馬越通信¹⁾, 早川朋宏¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 古川清憲, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科): 当院における耐性菌制御対策. 日本外科感染症学会総会 (第 23 回) (東京), 2010. 11.
- 11) 牧野浩司, 宮下正夫, 野村 務, 萩原信敏, 松本智司, 中村慶春, 加藤俊二, 藤田逸郎, 金沢義一, 櫻澤信行, 小野寺浩之, 勝田美和子¹⁾, 高橋 健¹⁾, 横井公良¹⁾, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 外科): 当施設の成績から見た, さまざまな食道癌鏡視下手術のメリットとデメリット. 日本臨床外科学会総会 (第 72 回) (横浜), 2010. 11.

- 12) 佐々木順平, 松本智司, 中村慶春, 菅 隼人, 山田岳史, 小泉岐博, 内田英二: 腹腔鏡下虫垂切除術 教育機関における鏡視下虫垂切除術の位置づけと術式の工夫. 日本臨床外科学会総会 (第 72 回) (横浜), 2010. 11.
- 13) 横山 正, 笹島耕二, 吉田 寛, 丸山 弘, 鈴木成治, 松谷 毅, 松下 晃, 平方敦史, 馬越通信, 早川朋宏, 若林秀幸, 金谷洋平, 内田英二: 臍頭十二指腸切除における術後合併症とその対策 臍頭十二指腸切除術後の縫合不全対策 リリアバックを用いた臍管外瘻チューブ持続吸引の有用性. 日本臨床外科学会総会 (第 72 回) (横浜), 2010. 11.
- 14) 山下浩二¹⁾, 赤須東樹¹⁾, 五十嵐健人¹⁾, 岡村律子¹⁾, ヘイムス規予美¹⁾, 軸菌智雄¹⁾, 柳原恵子, 飯田信也, 芳賀駿介, 清水一雄¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 呼吸器外科): 3D-CT リンパ管造影を利用した内視鏡的センチネルリンパ節生検の向上. 日本臨床外科学会総会 (第 72 回) (横浜), 2010. 11.
- 15) 牧野浩司, 野村 務, 宮下正夫, 萩原信敏, 高橋 健¹⁾, 横井公良¹⁾, 岩井勝彦²⁾, 河越哲郎²⁾, 植木信江²⁾, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 外科, ²⁾ 日本医科大学 消化器内科): これまでの食道癌鏡視下手術の問題点とそれに対する我々の方法と工夫. 日本消化管学会総会学術集会 (第 7 回) (京都), 2011. 2.
- (7) サージカルフォーラム:
- 1) 山田岳史¹⁾, 古川清憲¹⁾, 横井公良¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 金沢義一¹⁾, 白川 毅¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 清水哲也¹⁾, 高橋 健¹⁾, 赤城一郎¹⁾, 内田英二 (¹⁾ 千葉北総病院 外科): 大腸癌化学療法における抗癌剤感受性試験の役割—PK/PD 理論のテーラード治療を目指して. 日本外科学会定期学術集会 (第 110 回) (名古屋), 2010. 4.
- 2) 小泉岐博, 菅 隼人, 松本智司, 鶴田宏之, 佐々木順平, 内田英二, 古川清憲, 山田岳史, 笹島耕二, 鈴木成治, 丸山 弘, 徳永 昭, 鈴木英之, 吉野雅則 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 外科, ²⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科, ³⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 大腸癌化学療法への取り組み - マンパワーの強化と施設間データベースの構築 -. 日本外科学会定期学術集会 (第 110 回) (名古屋), 2010. 4.
- (8) 一般講演:
- 1) Makino H, Uchida E, Akai I, Miyashita M, Nomura T, Hagiwara N, Ishibashi O, Takizawa T: Relationship between altered expression levels of MIR21, MIR143, MIR145, and MIR205 and clinicopathologic features of esophageal squamous cell carcinoma (ESCC). AACR 101st ANNUAL MEETING 2010 (Washington, DC, USA), 2010. 4.
- 2) Hagiwara N: Utility of anti-p53 antibody in blood as a predictive marker for the detection of early recurrence in postoperative patients with esophageal carcinoma. AACR 101st ANNUAL MEETING 2010 (Washington, DC, USA), 2010. 4.
- 3) Hagiwara N, Takahashi K, Uchida E, Makino H, Nomura T, Okawa K, Akagi I, Fujita I, Sakurazawa N, Onodera H, Yamashita N, Miyashita M: Utility of anti-p53 antibody in blood as a predictive marker for the detection of early recurrence in postoperative patients with esophageal carcinoma. AACR 101st ANNUAL MEETING 2010 (Washington, DC, USA), 2010. 4.
- 4) Sakurazawa N, Kato S, Miyashita M, Fujita I, Kanazawa Y, Onodera H, Nomura T, Makino H, Hagiwara N, Uchida E: A Novel Device, the Variable-Traction Spring, is Easy and Safe to use in Patients Undergoing Endoscopic Submucosal Dissection for Gastric Tumors. 2010 Digestive Disease Week (New Orleans, USA), 2010. 5.
- 5) Mizutani S¹⁾, Hoshino A¹⁾, Maejima K¹⁾, Komine O¹⁾, Yoshino M¹⁾, Ogata M¹⁾, Watanabe M¹⁾, Aimoto T, Suzuki H¹⁾, Uchida H (¹⁾ Institute of Gastroenterology, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital): Mutations in the Mitochondrial Genome of Pancreatic Cancer Effect Resistance Against Anti Cancer Drugs. 42nd European Pancreatic Club (EPC) Meeting (Stockholm, Sweden), 2010. 6.
- 6) Aimoto T, Nakamura Y, Mizutani S¹⁾, Hoshino A¹⁾, Suzuki H¹⁾, Tabata Y²⁾, Miyamoto M³⁾, Uchida E (¹⁾ Institute of Gastroenterology, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital, ²⁾ Department of Biomaterials,

- Institute of Frontier Medical Science, Kyoto University, ³⁾ Department of Internal Medicine, Nippon Medical School) : Controlled Release of Basic Fibroblast Growth Factor Causes Rapid Healing of Pancreaticojejunostomy. 42nd European Pancreatic Club (EPC) Meeting (Stockholm, Sweden), 2010. 6.
- 7) Nakamura Y : Laparoscopic Pancreatic Surgery in Our Institution. The 35th Annual Scientific Meeting of The Royal College of Surgeons of Thailand (Cholburi,Thailand), 2010. 7.
 - 8) Miyashita M : Recent Advances of Esophageal Cancer Treatments. World Congress of the International Association of Surgeons, Gastroenterologists and Oncologists (20th) (Cairo,Egypt), 2010. 10.
 - 9) Koizumi R, Matsumoto S, Nomura T, Nakamura Y, Kan H, Yamada T, Koizumi M, Sasaki J, Uchida E : Single-incision Laparoscopic Appendectomy in Our Institution. ELSA 2010 VIERNAM (Hanoi, Vietnam), 2010. 11.
 - 10) Hoshino A, Nakamura Y, Mizutani S, Mishima K, Suzuki H, Uchida E : Giant Splenic Epithelial Cyst With Elevated Serum Marker CA 19-9 LEVEL. ELSA 2010 VIERNAM (Hanoi, Vietnam), 2010. 11.
 - 11) Hoshino A, Nakamura Y, Mizutani S, Suzuki H, Uchida E : Case Report Laparoscopic Distal Pancreatectomy and Pancreatoduodenectomy. ELSA 2010 VIERNAM (Hanoi, Vietnam), 2010. 11.
 - 12) Matsumoto S, Nakamura Y, Kan H, Tsuruta H, Yamada T, Koizumi M, Sasaki J, Uchida E : Laparoscopic Surgery for Advanced Colon Cancer at the Splenic Flexure. ELSA 2010 VIERNAM (Hanoi, Vietnam), 2010. 11.
 - 13) Nakamura Y, Uchida E, Matsumoto S, Nomura T, Makino H, Tajiri T : Laparoscopic Surgery for Congenital Biliary Dilatation. ELSA 2010 VIERNAM (Hanoi, Vietnam), 2010. 11.
 - 14) Shigehara K, Nakamura Y, Matsumoto S, Tajiri T, Uchida E : Our Novel Techniques of Single-incision Laparoscopic Cholecystectomy. ELSA 2010 VIERNAM (Hanoi, Vietnam), 2010. 11.
 - 15) Matsumoto S, Nakamura Y, Kan H, Tsuruta H, Yamada T, Koizumi M, Sasaki J, Uchida E : Surgical Techniques of Single-incision Laparoscopic Surgery for the Right Colonic Tumor. ELSA 2010 VIERNAM (Hanoi, Vietnam), 2010. 11.
 - 16) Sasaki J, Matsumoto S, Nakamura Y, Kan H, Tsuruta H, Yamada T, Koizumi M, Uchida E : Surgical Techniques of Single-incision Laparoscopic Surgery for the Right Colonic Tumor. ELSA 2010 VIERNAM (Hanoi, Vietnam), 2010. 11.
 - 17) Nomura T, Uchida E, Makino H, Hagiwara N, Matsumoto S, Nakamura Y, Sasaki J, Yamahatsu K, Akagi I, Miyashita M, Tajiri T : Laparoscopic Anti-reflux Surgery for Ppi-resistant Nerd. ELSA 2010 VIERNAM (Hanoi, Vietnam), 2010. 11.
 - 18) Hoshino A, Nakamura Y, Mizutani S, Minsmi S, Shimizu K, Suzuki H, Uchida E : Outcomes After Laparoscopic Adrenalectomy. ELSA 2010 VIERNAM (Hanoi, Vietnam), 2010. 11.
 - 19) Makino H, Nomura T, Miyashita M, Hagiwara N, Matsumoto S, Nakamura Y, Yokoi K, Uchida E : Our Methods and Devices in Our Hospital-video Assisted Thoracoscopic Surgery of Esophagus (VATS-E) in Prone Position. ELSA 2010 VIERNAM (Hanoi, Vietnam), 2010. 11.
 - 20) Yamahatsu K, Nakamura Y, Nomura T, Aimoto T, Makino H, Matsumoto S, Hiroi M, Uchida E, Tajiri T : Laparoscopic Surgery for Islet Cell Tumor of The Pancreas. ELSA 2010 VIERNAM (Hanoi, Vietnam), 2010. 11.
 - 21) Ueda J, Yoshida H, Tani N, Yoshioka M, Mineta S, Kawano Y, Uchida E : Resection of Hepatocellular Carcinoma Recurring in the Diaphragm after Right Hepatic Lobectomy. Conference of the Asian Pacific Association for the Study of the Liver (21st) (Bangkok,Thailand), 2011. 2.
 - 22) Shibata M, Tani N, Ueda J, Yoshida H, Mineta S, Yoshioka M, Kawano Y, Uchida E : A Case of

- Spontaneous Rupture of a Simple Hepatic Cyst. Conference of the Asian Pacific Association for the Study of the Liver (21st) (Bangkok,Thailand), 2011. 2.
- 23) Koh H, Yoshida H, Taniai N, Mineta S, Yoshioka M, Kawano Y, Ueda J : Extrahepatic Portal Venous Obstruction due to a Giant Hepatic Hemangioma Associated with Kasabach-Merritt Syndrome. Conference of the Asian Pacific Association for the Study of the Liver (21st) (Bangkok,Thailand), 2011. 2.
- 24) Kawano Y, Yoshida H, Taniai N, Mamada Y, Mineta S, Yoshioka M, Hirakata A, Ueda J, Hara K, Uchida E : Successful Management of a Symptomatic Splenic Artery Aneurysm with Transcatheter Embolization. Conference of the Asian Pacific Association for the Study of the Liver (21st) (Bangkok,Thailand), 2011. 2.
- 25) Kawano Y, Yoshida H, Taniai N, Mamada Y, Mineta S, Yoshioka M, Hirakata A, Ueda J, Uchida E : Infected Hepatic Cyst Treated with Percutaneous Transhepatic Drainage. Conference of the Asian Pacific Association for the Study of the Liver (21st) (Bangkok, Thailand), 2011. 2.
- 26) Kawano Y, Yoshida H, Taniai N, Mamada Y, Mineta S, Yoshioka M, Hirakata A, Ueda J, Uchida E : Placement of a Percutaneous Transhepatic Biliary Stent Using BLAKE Drain for the Treatment of a Stenotic Hepaticojejunostomy. Conference of the Asian Pacific Association for the Study of the Liver (21st) (Bangkok, Thailand), 2011. 2.
- 27) Kawano Y, Taniai N, Nakamura Y, Matsumoto S, Mineta S, Yoshioka M, Ueda J, Mamada Y, Yoshida H, Uchida E : Usefulness of Endoscopic Surgical Spacer (SECUREA) for Laparoscopic Liver Resection. Conference of the Asian Pacific Association for the Study of the Liver (21st) (Bangkok, Thailand), 2011. 2.
- 28) Kawano Y, Taniai N, Nakamura K, Matsumoto S, Mineta S, Yoshioka M, Ueda J, Mamada Y, Yoshida H, Uchida E : Usefulness of Glove Method with Pringle Maneuver for Laparoscopic Liver Resection. Conference of the Asian Pacific Association for the Study of the Liver (21st) (Bangkok, Thailand), 2011. 2.
- 29) Taniai N, Yoshida H, Kawano Y, Ueda J, Uchida E : Surgical Outcomes and Prognostic Factors of Elder Patients (75 Years of Age or Older) with Hepatocellular Carcinoma Undergoing Hepatectomy. Conference of the Asian Pacific Association for the Study of the Liver (21st) (Bangkok, Thailand), 2011. 2.
- 30) Harada J, Taniai N, Ueda J, Yoshida H, Mineta S, Yoshioka M, Kawano Y, Mizuse M, Uchida E : Malignant Hepatic Epithelioid Hemangioendothelioma with Abdominal Pain due to Rapid Progression. Conference of the Asian Pacific Association for the Study of the Liver (21st) (Bangkok, Thailand), 2011. 2.
- 31) Yamashita K, Shimizu K, Haga S, Kumita S¹⁾, Akasu H, Igarashi T, Okamura R, Jikuzono T, Miyawaki K, Iida S, Yanagihara K⁽¹⁾ Department of Radiology, Nippon Medical School, Japan) : SPECT-fused 3D-CT mammary lymphography shows the discrepancy between RI uptake and dye staining. The International College of Surgeons The 56th Annual Congress of the Japan Section (東京), 2010. 6.
- 32) Yamamoto T¹⁾, Ishikawa T¹⁾, Matsuda Y¹⁾, Onda M¹⁾, Kawahara K¹⁾, Yamahatsu K, Kawamoto Y¹⁾, Suzuki T¹⁾, Uchida E, Naito Z¹⁾ (1) Department of Pathology, Integrative Oncological Pathology, Nippon Medical School) : The Role of Lumican in the Extracellular Space of Pancreatic Cancer. 国際膵臓学会・日本膵臓学会大会合同会議 (第14回・第41回) (福岡), 2010. 7.
- 33) Matsuda Y¹⁾, Ishikawa T¹⁾, Yamahatsu K, Kawamoto M, Yamamoto T¹⁾, Kawahara K¹⁾, Onda M¹⁾, Nakazawa N¹⁾, Korc N²⁾, Naito Z¹⁾ (1) Department of Pathology, Integrative Oncological Pathology, Nippon Medical School, (2) Department of Medicine, Dartmouth Medical School and Dartmouth Hitchcock Medical Center) : Nestin Modulates the Migration and Invasion of Pancreatic Cancer Cells by Regulating Actin and E-cadherin Expression. 国際膵臓学会・日本膵臓学会大会合同会議 (第14回・第41回) (福岡), 2010. 7.
- 34) Aimoto T, Uchida E, Nakamura Y, Hiroi M, Yamahatsu K, Matsushita A, Cho K, Kawamoto M, Kat-

- suno A, Miyamoto M¹, Tabata Y² (¹ Department of Internal Medicine, Kyoto University, ² Department of Biomaterials, Insutitute for Frontier Medical Sciences) : Controlled Release of Basic Fibrosis Growth Factor Causes Rapid Healing of Pancreaticojejunostomy with Potent Angiogenesis and Apoptosis Induction in Granulation Tissue. 国際膵臓学会・日本膵臓学会大会合同会議 (第14回・第41回) (福岡), 2010. 7.
- 35) Makino H, Miyashita M, Nomura T, Hagiwara N, Sakata Y, Takahashi K, Katsuta M, Uchida E : Video assisted thoroscopic surgery of esophagus in prone position -our methods and devices in our hospital. World Congress of the Internaional Society for Diseases of the Esophagus (12th) (鹿児島), 2010. 9.
- 36) Makino H, Miyashita M, Nomura T, Hagiwara N, Sakata Y, Takahashi K, Katsuta M, Uchida E : Treatment strategies for Stage I esophageal squamous cell carcinoma. World Congress of the Internaional Society for Diseases of the Esophagus (12th) (鹿児島), 2010. 9.
- 37) Matsutani T¹, Uchida E, Yoshida H¹, Maruyama H¹, Yokoyama T¹, Suzuki S¹, Matsushita A¹, Hirakata M¹, Kawamoto M¹, Arai H¹, Umakoshi M¹, Wakabayashi H¹, Sasajima K¹ (¹ Department of Surgery, Nippon Medical Shool Tama Nagayama Hospital) : Trial of chemotherapy with docetaxel, nedaplatin and 5-fluorouracil in patients with locally advanced squamous cell carcinoma of the esophagus. World Congress of the International Society for Disease of the Esophagus (12th) (鹿児島), 2010. 9.
- 38) Arai H¹, Uchida E, Matsutani T¹, Maruyama H¹, Suzuki S¹, Yokoyama T¹, Matsushita A¹, Kawamoto M¹, Umakoshi M¹, Wakabayashi H¹, Yoshida H¹, Sasajima K¹ (¹ Department of Surgery, Nippon Medical Shool Tama Nagayama Hospital) : Endoscopic removal of a large inflammatory polyp in esophago-gastric anastomosis after esophagectomy. World Congress of the International Society for Disease of the Esophagus (12th) (鹿児島), 2010. 9.
- 39) Wakabayashi H¹, Uchida E, Matsutani T¹, Maruyama H¹, Matsuda A¹, Suzuki S¹, Yokoyama T¹, Matsushita A¹, Hirakata A¹, Kawamoto M¹, Arai H¹, Umakoshi M¹, Yoshida H¹, Sasajima K¹ (¹ Department of Surgery, Nippon Medical Shool Tama Nagayama Hospital) : A case of chylothorax following esophagectomy successfully treated by thoracoscopy assisted thoracic duct clipping and octeotide administration. World Congress of the International Society for Disease of the Esophagus (12th) (鹿児島), 2010. 9.
- 40) Matsutani T¹, Uchida E, Yoshida H¹, Maruyama H¹, Tsuchiya Y¹, Yokoyama T¹, Suzuki S¹, Matsushita A¹, Hirakata A¹, Arai H¹, Umakoshi M¹, Wakabayashi H¹, Sasajima K¹ (¹ Department of Surgery, Nippon Medical Shool Tama Nagayama Hospital) : A case of metastasis to reconstructed gastric tube from esophageal squamous cell carcinoma. World Congress of the International Society for Disease of the Esophagus (2th) (鹿児島), 2010. 9.
- 41) Matsutani T¹, Uchida E, Yoshida H¹, Maruyama H¹, Kawamoto M¹, Yokoyama T¹, Suzuki S¹, Matsushita A¹, Hirakata A¹, Matsuda A¹, Arai H¹, Umakoshi M¹, Wakabayashi H¹, Sasajima K¹ (¹ Department of Surgery, Nippon Medical Shool Tama Nagayama Hospital) : A case of brain metastasis from primary asymptomatic esophageal adenocarcinoma. World Congress of the International Society for Disease of the Esophagus (12th) (鹿児島), 2010. 9.
- 42) Nakamura Y, Uchida E, Matsumoto S, Nomura T, Makino H, Aimoto T, Hiroi M, Tajiri T : Laparoscopic Pancreatic Resections. ELSA 2010 VIERNAM (Hanoi, Vietnam), 2010. 11.
- 43) 堀場光二¹, 田中宣威¹, 横井公良¹, 瀬谷知子¹, 白川 毅¹, 宮下正夫, 野村 務, 牧野浩司, 内田英二, 大秋美治² (¹ 千葉北総病院 外科, ² 千葉北総病院 病理部) : 食道扁平上皮癌におけるEMMPRN/CD147,MMP-9の発現. 日本外科学会定期学術集会 (第110回) (名古屋), 2010. 4.
- 44) 山下直行¹, 萩原信敏, 勝野 暁¹, 柿沼大輔¹, 菅野仁士¹, 住吉宏樹¹, 宮下正夫, 内田英二 (¹ 坪井病院 外科) : 根治切除可能であった縦隔リンパ節転移陽性残胃食道浸潤癌の2例. 日本消化器病学会総会 (96回) (新

濁), 2010. 4.

- 45) 山田岳史¹⁾, 横井公良¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 金沢義一¹⁾, 白川 毅¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 清水哲也¹⁾, 高橋 健, 赤城一郎¹⁾, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 外科): 大腸癌における Irinotecan への 5FU の上乘せ効果は組織型により影響を受けるか?. 日本消化器病学会総会 (96 回) (新潟), 2010. 4.
- 46) 上田純志, 吉田 寛, 谷合信彦, 峯田 章, 川野陽一, 神田知洋, 内田英二: 肝細胞癌横隔膜転移の 1 切除例. 日本消化器病学会総会 (96 回) (新潟), 2010. 4.
- 47) 谷合信彦, 吉田 寛, 峯田 章, 川野陽一, 神田知洋, 上田純志, 内田英二: 残肝再発肝細胞癌に対する selective repeated TACE の有用性の検討. 日本消化器病学会総会 (96 回) (新潟), 2010. 4.
- 48) 菅 隼人, 古川清憲, 鶴田宏之, 松本智司, 秋谷行宏, 小泉岐博, 佐々木順平, 鈴木英之, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 当施設における術前化学放射線療法を行った進行直腸癌症例の検討. 日本外科学会定期学術集会 (第 110 回) (名古屋), 2010. 4.
- 49) 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 峯田 章, 川野陽一, 神田知洋, 上田純志, 内田英二: 有症状肝嚢胞に対する治療成績の検討. 日本外科学会定期学術集会 (第 110 回) (名古屋), 2010. 4.
- 50) 五十嵐健人¹⁾, 中村慶春, 赤須東樹¹⁾, 岡村律子¹⁾, 宮脇佳代¹⁾, 内田英二, 清水一雄¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 内分泌外科): 当科における内分泌区疾患に対する内視鏡手術の現状. 日本外科学会定期学術集会 (第 110 回) (名古屋), 2010. 4.
- 51) 山下浩二, 赤須東樹¹⁾, 五十嵐健人¹⁾, 岡村律子¹⁾, 宮脇佳代¹⁾, 軸菌智雄¹⁾, 柳原恵子, 飯田信也, 芳賀駿介, 清水一雄¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 内分泌外科): SPECT 合成 3D-CT リンパ管造影ガイド下の内視鏡的センチネルリンパ節生検. 日本外科学会定期学術集会 (第 110 回) (名古屋), 2010. 4.
- 52) 小峯 修¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 埴 秀暁¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 狭窄・瘻孔を伴う切除不能食道癌に対する経皮内視鏡的胃瘻造設術の有用性の検討. 日本外科学会定期学術集会 (第 110 回) (名古屋), 2010. 4.
- 53) 松谷 毅¹⁾, 内田英二, 松田明久¹⁾, 丸山 弘, 鈴木成治¹⁾, 横山 正¹⁾, 杉浦 篤¹⁾, 松下 晃¹⁾, 川本聖郎¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 笹島耕二²⁾ (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科): 術前 PPAR γ リカンド投与による抗炎症作用: マウス腹膜炎モデルにおける脂肪細胞機能に着目して. 日本外科学会定期学術集会 (第 110 回) (名古屋), 2010. 4.
- 54) 松本智司, 中村慶春, 菅 隼人, 鶴田宏之, 小泉岐博, 佐々木順平, 鈴木英之, 内田英二: 新規汎用性鏡視下デバイス, スポンジ・スパーサーの開発と使用経験. 日本外科学会定期学術集会 (第 110 回) (名古屋), 2010. 4.
- 55) 上田純志, 野村 務, 吉田 寛, 谷合信彦, 佐々木順平, 重原健吾, 山初和也, 谷 杏彌, 馬越通信, 内田英二: ヘルニア嵌頓手術 103 例の検討 腸切除症例に対するメッシュによる修復は妥当か. 日本外科学会定期学術集会 (第 110 回) (名古屋), 2010. 4.
- 56) 水谷 聡¹⁾, 太田成男²⁾, 千原直人¹⁾, 山岸征嗣¹⁾, 豊田哲鎬¹⁾, 野村 聡¹⁾, 埴 秀暁¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 小峯 修¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 星野有哉¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, ²⁾ 日本医科大学老人病研究所生化学): 膵臓癌におけるミトコンドリア DNA 変異は抗癌剤耐性を獲得する. 日本外科学会定期学術集会 (第 110 回) (名古屋), 2010. 4.
- 57) 菅野仁士¹⁾, 木山輝郎, 藤田逸郎, 櫻澤信行, 小野寺浩之, 加藤俊二, 吉行俊郎, 山下直行¹⁾, 内田英二 (¹⁾ 坪井病院 外科): 75 歳以上の高齢者における腹腔鏡補助下幽門側胃切除の検討. 日本外科学会定期学術集会 (第 110 回) (名古屋), 2010. 4.
- 58) 星野有哉¹⁾, 中村慶春, 塩谷 猛²⁾, 水谷 聡¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, ²⁾ さいたま市立病院外科): 腹腔鏡下膵切除術は低侵襲治療か? 当科における手術

- 症例の検討. 日本外科学会定期学術集会 (第 110 回) (名古屋), 2010. 4.
- 59) 相本隆幸, 内田英二, 中村慶春, 廣井 信, 勝野 暁, 宮本正章, 田端康彦¹⁾ (1) 京都大学再生医科学研究所): 臍腸吻合部の創傷治療に対する bFGF 含浸ゼラチンハイドロゲル投与の意義. 日本外科学会定期学術集会 (第 110 回) (名古屋), 2010. 4.
- 60) 谷合信彦, 吉田 寛, 峯田 章, 川野陽一, 神田知洋, 上田純志, 内田英二: 高齢者 (75 歳以上) 肝細胞癌切除例の検討. 日本外科学会定期学術集会 (第 110 回) (名古屋), 2010. 4.
- 61) 萩原信敏, 宮下正夫, 赤城一郎, 石橋 宰, 三嶋拓也, 小菅拓治, 牧野浩司, 野村 務, 大川敬一, 瀧澤俊広, 内田英二 (1) 日本医科大学分子解剖): 食道扁平上皮癌における MIR21, MIR143, MIR145, MIR205 の発言の意義. 日本外科学会定期学術集会 (第 110 回) (名古屋), 2010. 4.
- 62) 坊 英樹¹⁾, 小峯 修¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 内田英二 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 消化器癌手術における手術部位感染防止に対する腹壁縫合. 日本外科学会定期学術集会 (第 110 回) (名古屋), 2010. 4.
- 63) 牧野浩司, 内田英二, 宮下正夫, 野村 務, 大川敬一, 萩原信敏, 横井公良¹⁾, 堀場光二¹⁾, 高橋 健¹⁾, 赤城一郎¹⁾, 田尻 孝 (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科): 食道癌手術における最良の補助療法とは: 副作用が少なく効果的な NeoadjuvantCRT (NCRT). 日本外科学会定期学術集会 (第 110 回) (名古屋), 2010. 4.
- 64) 堀場光二¹⁾, 田中宣威¹⁾, 横井公良¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 白川 毅¹⁾, 宮下正夫, 野村 務, 牧野浩司, 内田英二, 大秋美治²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院): 食道扁平上皮癌における EMMPRIN/CD147, MMP-9 の出現. 日本外科学会定期学術集会 (第 110 回) (名古屋), 2010. 4.
- 65) 野村 務, 内田英二, 宮下正夫, 吉田 寛, 牧野浩司, 松本智司, 中村慶春, 大川敬一, 萩原信敏: 外科の魅力のアピールするための卒前・卒後教育: 当施設の試み. 日本外科学会定期学術集会 (第 110 回) (名古屋), 2010. 4.
- 66) 鈴木成治¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 横山 正¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 松下 晃¹⁾, 平方敦史¹⁾, 川本聖郎¹⁾, 西 佳史¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 津久井拓²⁾, 内田英二 (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院 消化器科): 分子標的療法時代の高度進行・再発大腸癌に対する全身化学療法の治療方針. 日本外科学会定期学術集会 (第 110 回) (名古屋), 2010. 4.
- 67) 山初和也, 松田陽子¹⁾, 石渡俊行¹⁾, 山本哲志¹⁾, 河本陽子¹⁾, 手塚 潔¹⁾, 相本隆幸, 中村慶春, 廣井 信, 内田英二, 内藤善哉 (1) 日本医科大学 病理学講座): 膵癌における各腫瘍血管マーカーと臨床病理学的因子との関連 -Nestin と CD34 陽性血管の比較. 日本病理学会総会 (第 99 回) (東京), 2010. 4.
- 68) 近藤亮太¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 清水哲也¹⁾, 横井公良¹⁾, 内田英二 (1) 千葉北総病院 外科): 膵粘液性嚢胞腫瘍の性質を有した粘液胆管嚢胞腺腫の 1 切除例. 日本肝胆膵外科学会 (第 22 回) (仙台), 2010. 5.
- 69) 三樹いずみ, 藤田逸郎, 金澤義一, 櫻澤信行, 小野寺浩之, 加藤俊二, 宮下正夫, 内田英二, 三宅一昌¹⁾, 楠正典¹⁾, 河越哲郎¹⁾, 二神生爾¹⁾, 進藤智隆¹⁾, 植木信江¹⁾, 坂本長逸¹⁾, その他 2 名 (1) 日本医科大学 消化器内科): 粘膜下腫瘍様の形態を呈し診断に難渋した胃噴門部進行胃癌の 1 例. 日本消化器病学会 関東支部例会 (第 309 回) (東京), 2010. 5.
- 70) 横山 正¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 松下 晃¹⁾, 平方敦史¹⁾, 川本聖郎¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 馬越通信¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 内田英二 (1) 日本医科大学多摩永山病院 消化器外科・乳腺外科・一般外科): 3 年にわたる全身化学療法後に RO 切除を施行し得た Stage IVb 膵頭部癌の 1 例. 日本肝胆膵外科学会 (第 22 回) (仙台), 2010. 5.
- 71) 吉岡正人, 真々田裕宏¹⁾, 平方敦史¹⁾, 清水哲也¹⁾, 近藤亮太¹⁾, 横井公良¹⁾, 谷合信彦, 吉田 寛²⁾, 内田英二 (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院 外科): 膵頭十二指腸切除後の難治性胆汁瘻に対し無水エタノール注入 (biliary ablation) が有効であった 1 例. 日本肝胆膵外科学会 (第 22 回) (仙台), 2010. 5.

- 72) 吉田 寛, 谷合信彦, 峯田 章, 川野陽一, 神田知洋, 上田純志, 内田英二: 胆管癌に対する肝葉切除における胆管十二指腸吻合術の経験. 日本肝胆膵外科学会 (第 22 回) (仙台), 2010. 5.
- 73) 近藤亮太¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 清水哲也¹⁾, 横井公良¹⁾, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 外科): 腺粘性性嚢胞腫瘍の性質を有した粘液胆管嚢胞腺腫の 1 切除例. 日本肝胆膵外科学会 (第 22 回) (仙台), 2010. 5.
- 74) 原田潤一郎, 川野陽一, 峯田 章, 神田知洋, 上田純志, 谷 杏彌, 松本智司, 谷合信彦, 吉田 寛, 水瀬 学¹⁾, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学 生理機能センター超音波診断室): 腹痛を伴う急速な増大傾向を認めた悪性肝血管内皮腫の 1 切除例. 日本肝胆膵外科学会 (第 22 回) (仙台), 2010. 5.
- 75) 三島圭介¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 星野有哉¹⁾, 黒田誠司¹⁾, 山岸征嗣¹⁾, 野村 聡¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 小峯 修¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 肝内結石により術後遅発性胆汁漏を来した肝切除の 1 例. 日本肝胆膵外科学会 (第 22 回) (仙台), 2010. 5.
- 76) 上田純志, 吉田 寛, 谷合信彦, 峯田 章, 川野陽一, 神田知洋: 胆嚢癌と慢性胆嚢炎の鑑別が困難であった肝切除例. 日本肝胆膵外科学会 (第 22 回) (仙台), 2010. 5.
- 77) 松下 晃¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 横山 正¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 平方敦史¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 馬越通信¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科): 憩室内翻縫縮術, 乳頭形成術, 胃空腸吻合術施行した Lemmel 症候群の 2 手術例. 日本肝胆膵外科学会 (第 22 回) (仙台), 2010. 5.
- 78) 山岸征嗣¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 相本隆幸, 星野有哉¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 鈴木秀幸¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 胆嚢十二指腸瘻形成後に発生した胆嚢癌の 1 例. 日本肝胆膵外科学会 (第 22 回) (仙台), 2010. 5.
- 79) 水谷 聡¹⁾, 八木亜記¹⁾, 和田由大¹⁾, 山岸征嗣¹⁾, 豊田哲鎬¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 小峯 修¹⁾, 星野有哉¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 総肝菅腹腔内穿孔の 1 例. 日本肝胆膵外科学会 (第 22 回) (仙台), 2010. 5.
- 80) 星野有哉¹⁾, 中村慶春, 水谷 聡¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 内田英二, 田尻 孝 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 十二指腸副乳頭および主乳頭に同時発生した乳頭部腫瘍に対し経十二指腸的切除術を施行した 1 例. 日本肝胆膵外科学会 (第 22 回) (仙台), 2010. 5.
- 81) 川本聖郎¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 横山 正¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 松下 晃¹⁾, 平方敦史¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 馬越通信¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科): PET 陽性を示し胆嚢癌との鑑別が困難であった黄色肉芽腫性胆嚢炎の 1 例. 日本肝胆膵外科学会 (第 22 回) (仙台), 2010. 5.
- 82) 相本隆幸, 内田英二, 中村慶春, 廣井 信, 山初和也, 松下 晃, 勝野 暁, 張 一光, 川本聖郎, 小林 匡¹⁾ (¹⁾ 小林病院): 術後成績からみた Invasive IPMC における外科治療の有用性. 日本肝胆膵外科学会 (第 22 回) (仙台), 2010. 5.
- 83) 谷 杏彌, 吉田 寛, 谷合信彦, 峯田 章, 川野陽一, 内田英二: 門脈血栓症の診断にて IVR 治療後, 病理組織診にて悪性所見を認めた門脈腫瘍栓合併肝細胞癌の 1 例. 日本肝胆膵外科学会 (第 22 回) (仙台), 2010. 5.
- 84) 中村慶春, 松本智司, 内田英二, 有馬保生, 徐 吉夫¹⁾, 井上利樹¹⁾, 田尻 孝 (¹⁾ 株式会社ホギメディカル): 鏡視下手術用スポンジスペーサーの腹腔鏡下胆嚢摘出術における有用性. 日本肝胆膵外科学会 (第 22 回) (仙台), 2010. 5.
- 85) 中村慶春, 内田英二, 相本隆幸, 松本智司, 廣井 信, 山初和也, 徐 吉夫¹⁾, 井上利樹¹⁾, 田尻 孝 (¹⁾ 株式会社ホギメディカル): 当科における腹腔鏡下尾側膵切除術の現況. 日本肝胆膵外科学会 (第 22 回) (仙台), 2010. 5.
- 86) 平方敦史¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 清水哲也¹⁾, 柿沼大輔¹⁾, 青木悠人¹⁾, 山田岳史¹⁾, 金澤義一¹⁾, 古川清憲¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 外科): 巨大多発肝嚢胞の 1 切除例. 日本肝胆膵外科学会 (第 22 回) (仙台), 2010. 5.

- 87) 馬越通信¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 横山 正¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 松下 晃¹⁾, 平方敦史¹⁾, 川本聖郎¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 汲田伸一郎²⁾, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学付属多摩永山病院 外科, ²⁾ 日本医科大学放射線科) : 脾動脈瘤に対して TAE 施行後, Frey 手術を行った慢性膵炎の 1 例. 日本肝胆膵外科学会 (第 22 回) (仙台), 2010. 5.
- 88) 松谷 毅¹⁾, 内田英二, 川本聖郎¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 横山 正¹⁾, 松下 晃¹⁾, 平方敦史¹⁾, 松田明久¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 野村 務, 笹島耕二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科) : 化学放射線療法後の遺残および再発食道癌に対しサルベージ療法としてアルゴンプラズマ凝固法を行った 3 例. 日本消化器内視鏡学会総会 (第 78 回) (東京), 2010. 5.
- 89) 菅野仁士¹⁾, 山下直行¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 柿沼大輔¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 小澤俊文²⁾, 内田英二 (¹⁾ 坪井病院 外科, ²⁾ 坪井病院 消化器科) : 小腸鏡にて病変部を確認し, 腹腔鏡補助下に切除した回張脂肪腫による成人腸重責症の 1 例. 日本消化器内視鏡学会総会 (第 79 回) (東京), 2010. 5.
- 90) 高 和英, 菅 隼人, 松本智司, 山田岳史, 小泉岐博, 佐々木順平, 古川清憲, 内田英二 : 2 回目の小腸憩室穿孔による腹膜炎をきたした 1 例. 外科集談会 (第 817 回) (東京), 2010. 6.
- 91) 野村 聡^{1, 2)}, 塩谷 猛²⁾, 南部弘太郎²⁾, 豊田哲篤^{1, 2)}, 渡邊義正²⁾, 山田太郎²⁾, 渋谷哲男²⁾, 鈴木英之¹⁾, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, ²⁾ さいたま市民医療センター 外科) : 胃癌傍大動脈リンパ節転移と褐色細胞腫の鑑別に難渋した 1 例. 外科集談会 (第 817 回) (東京), 2010. 6.
- 92) 山田岳史¹⁾, 横井公良¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 金沢義一, 平 利幸²⁾, 鈴木順一³⁾, 古川靖宏³⁾, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 外科, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院 医療情報室, ³⁾ 日本医科大学千葉北総病院 医療連携室) : がん地域連携パスの現状と展望 - 開始 2 年を経過して. 日本医療マネジメント学会学術総会 (第 12 回) (札幌), 2010. 6.
- 93) 横山 正¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 川本聖郎¹⁾, 新井洋紀^{1, 2)}, 前田昭太郎²⁾, 細根 勝²⁾, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 消化器外科・乳腺外科・一般外科, ²⁾ 日本医科大学多摩永山病院 病理部) : 術前化学療法により NO となった進行乳癌症例におけるセンチネルリンパ節生検の意義. 日本乳癌学会学術総会 (第 18 回) (札幌), 2010. 6.
- 94) 山下浩二, 清水一雄, 赤須東樹, 五十嵐健人, 岡村律子, 軸菌智雄, 柳原恵子, 飯田信也, 汲田伸一郎¹⁾, 芳賀駿介 (¹⁾ 日本医科大学 放射線科) : SPEC-fused 3D-CT リンパ管造影によるセンチネルリンパ節生検と鏡視下乳房温存術の治療成績. 日本乳癌学会学術総会 (第 18 回) (札幌), 2010. 6.
- 95) 山田理恵子¹⁾, 芳賀駿介, 加藤博之¹⁾, 坂本輝彦¹⁾, 大塚洋子¹⁾, 角田千尋¹⁾, 上野恵子²⁾, 宮崎正二郎³⁾, 杉木孝章³⁾, 飯田富雄⁴⁾, 土屋眞一⁵⁾ (¹⁾ 東京女子医科大学東医療センター 検査科, ²⁾ 東京女子医科大学東医療センター 放射線科, ³⁾ 谷津保健病院, ⁴⁾ 南千住病院, ⁵⁾ 日本医科大学 病理部) : 乳癌の拡がり診断からみた MDCT の有用性 - 癌体積を含めた検討 -. 日本乳癌学会学術総会 (第 18 回) (札幌), 2010. 6.
- 96) 川本聖郎¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 横山 正¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 前田昭太郎²⁾, 細根 勝²⁾, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 消化器外科・乳腺外科・一般外科, ²⁾ 日本医科大学多摩永山病院 病理部) : Trastuzumab+Capecitabine+Paclitaxel を用いた化学療法で臨床的完全奏功を示した HER-2 陽性炎症性乳癌の 1 例. 日本乳癌学会学術総会 (第 18 回) (札幌), 2010. 6.
- 97) 村上隆介¹⁾, 高濱克也¹⁾, 汲田伸一郎¹⁾, 柳原恵子, 飯田信也, 山下浩二, 土屋眞一²⁾, 原田 大²⁾, 清水忠夫³⁾, 道本 薫³⁾, 氏原英幸⁴⁾ (¹⁾ 日本医科大学 放射線科, ²⁾ 日本医科大学 病理部, ³⁾ 東京女子医大東医療センター, ⁴⁾ 荒川区がん予防センター) : マンモグラフィ検診におけるコンピュータ診断支援システム (CAD) の診断能の検討. 日本乳癌学会学術総会 (第 18 回) (札幌), 2010. 6.
- 98) 飯田信也, 芳賀駿介, 土屋眞一¹⁾, 山下浩二, 柳原恵子, 奥平かおり, 宮下正夫, 栗田智子, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学 病理部) : 乳癌における血清 p53 抗体値, 免疫染色状況の臨床的意義. 日本乳癌学会学術総会 (第 18 回) (札幌), 2010. 6.

- 99) 柳原恵子, 飯田信也, 鈴木えりか, 野口智子, 古川清憲, 芳賀駿介, 内田英二, 村上隆介¹⁾, 土屋眞一²⁾ (1) 日本医科大学 放射線科, (2) 日本医科大学 病理部): 浸潤性小葉癌 (ILC) の特徴. 日本乳癌学会学術総会 (第 18 回) (札幌), 2010. 6.
- 100) 鈴木えりか, 柳原恵子, 野口智子, 飯田信也, 村上隆介¹⁾, 原田 大²⁾, 土屋眞一²⁾, 古川清憲, 芳賀駿介, 内田英二 (1) 日本医科大学 放射線科, (2) 日本医科大学 病理部): Neuroendocrine DCIS の 3 例. 日本乳癌学会学術総会 (第 18 回) (札幌), 2010. 6.
- 101) 篠塚恵理子, 松本智司, 中村慶春, 菅 隼人, 小泉岐博, 佐々木順平, 内田英二: 腹腔鏡下手術における新規デバイス・鏡視下スポンジスパーサーの有用性. 日本消化器内視鏡学会関東地方会 (第 90 回) (東京), 2010. 6.
- 102) 牧野浩司, 宮下正夫, 野村 務, 萩原信敏, 加藤俊二, 藤田逸郎, 金澤義一, 桜澤信行, 小野寺浩之, 内田英二: 検診で発見されなかった食道表在癌に対して経鼻内視鏡検査の有用性. 日本消化器がん検診学会総会 (第 49 回) (沖縄), 2010. 6.
- 103) 高橋 健, 金沢義一, 横井公良, 真々田裕宏, 白川 毅, 山田岳史, 田中宣威, 牧野浩司, 古川清憲, 内田英二 (1) 千葉北総病院 外科): 当院における高齢者の胃癌手術. 日本消化器外科学会総会 (第 65 回) (下関), 2010. 7.
- 104) 吉野雅則¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 三浦克洋¹⁾, 和田由大¹⁾, 野村 聡¹⁾, 千原直人¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 内田英二 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 大腸癌イレウスに対する経肛門のイレウス管の有用性と問題点. 大腸癌研究会 (第 71 回) (奄美大島), 2010. 7.
- 105) 小泉岐博, 内田英二, 菅 隼人, 松本智司, 山田岳史, 佐々木順平, 鈴木英之¹⁾, 鶴田宏之²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, (2) 日本医科大学千葉北総病院 外科): 悪性疾患に対する分子標的治療薬使用中に生じた大腸穿孔例の検討. 大腸癌研究会 (第 73 回) (奄美大島), 2010. 7.
- 106) 松信哲朗¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 小原邦彦¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 三浦克洋¹⁾, 近藤恭司¹⁾, 野村 聡¹⁾, 八木亜記¹⁾, 和田由大¹⁾, 内田英二 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 高齢者における大腸癌 Oncologic Emergencies の検討. 大腸癌研究会 (第 73 回) (奄美大島), 2010. 7.
- 107) 塩谷 猛¹⁾, 野村 聡¹⁾, 渡邊義正¹⁾, 南部弘太郎¹⁾, 山田太郎¹⁾, 渋谷哲男¹⁾, 鈴木英之²⁾, 徳永 昭²⁾, 内田英二 (1) さいたま市民医療センター 外科, (2) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 腹部救急手術における真皮埋没縫合の検討. 日本消化器外科学会総会 (第 65 回) (下関), 2010. 7.
- 108) 横山 正¹⁾, 松下 晃¹⁾, 川本聖郎¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 松谷 猛¹⁾, 平方敦史¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 内田英二 (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科): 当施設における臍頭十二指腸切除術クリニカルパス作成への検討. 日本消化器外科学会総会 (第 65 回) (下関), 2010. 7.
- 109) 沖野哲也¹⁾, 吉安正行¹⁾, 吉村和泰¹⁾, 富樫晃祥¹⁾, 勝田美和子¹⁾, 高尾嘉宗¹⁾, 内田英二 (1) 博慈会記念総合病院): 大腸内分泌細胞癌, 多発性肝転移に FOLFOX+Bevacizumab 化学療法が奏功した 1 例. 日本消化器外科学会総会 (第 65 回) (下関), 2010. 7.
- 110) 丸山 弘¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 横山 正¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 松下 晃¹⁾, 平方敦史¹⁾, 川本聖郎¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 内田英二 (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科): 腹腔鏡補助下大腸切除術における SSI の検討. 日本消化器外科学会総会 (第 65 回) (下関), 2010. 7.
- 111) 金沢義一, 加藤俊二, 藤田逸郎, 櫻澤信行, 小野寺浩之, 木山輝郎, 牧野浩司, 山下直行¹⁾, 宮下正夫, 内田英二 (1) 慈心会坪井病院 外科): 胃切除後に継続可能な多剤併用化学療法の試み: S-1/Docetaxel 交替療法の成績. 日本消化器外科学会総会 (第 65 回) (下関), 2010. 7.
- 112) 高橋 健¹⁾, 金沢義一, 横井公良¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 白川 毅¹⁾, 山田岳史¹⁾, 田中宣威¹⁾, 牧野浩司, 古川清憲, 内田英二 (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科): 当院における高齢者の胃癌手術. 日本消化器外科学会総会 (第 65 回) (下関), 2010. 7.

- 113) 山下直行¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 柿沼大輔¹⁾, 菅野仁士¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 加藤俊二, 藤田逸郎, 宮下正夫, 牧野浩司, 内田英二 (¹ 慈山会坪井病院 外科): sNO 胃癌手術における迷走神経温存の有効性. 日本消化器外科学会総会 (第 65 回) (下関), 2010. 7.
- 114) 山初和也, 中村慶春, 松本智司, 徐 吉夫¹⁾, 井上利樹¹⁾, 内田英二 (¹ 株式会社ホギメディカル): 腹腔鏡下腫瘍核手術における鏡視下手術用スポンジスペーサーの使用経験. 日本消化器外科学会総会 (第 65 回) (下関), 2010. 7.
- 115) 山田岳史¹⁾, 横井公良¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 白川 毅¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 鈴木英之²⁾, 金沢義一, 古川清憲, 内田英二 (¹ 日本医科大学千葉北総病院 外科, ² 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 大腸癌化学療法における個別化: 薬剤投与方法の工夫による治療成績改善の可能性. 日本消化器外科学会総会 (第 65 回) (下関), 2010. 7.
- 116) 若林秀幸¹⁾ (¹ 日本医科大学多摩永山病院 外科): 胃原発扁平上皮癌の 1 例. 日本消化器外科学会総会 (第 65 回) (下関), 2010. 7.
- 117) 小泉岐博, 内田英二, 古川清憲, 菅 隼人, 鶴田宏之, 松本智司, 佐々木順平, 鈴木英之¹⁾ (¹ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 直腸癌に対する鏡視下側方郭清術. 日本消化器外科学会総会 (第 65 回) (下関), 2010. 7.
- 118) 小峯 修¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 内田英二 (¹ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 切除不能食道癌に対するステント留置術と胃瘻造設術の比較検討. 日本消化器外科学会総会 (第 65 回) (下関), 2010. 7.
- 119) 松谷 毅¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 横山 正¹⁾, 松下 晃¹⁾, 平方敦史¹⁾, 川本聖郎¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 内田英二, 笹島耕二¹⁾ (¹ 日本医科大学多摩永山病院 外科): 胸部食道癌術後再発に対する Docetaxel を用いた化学療法および化学放射線療法. 日本消化器外科学会総会 (第 65 回) (下関), 2010. 7.
- 120) 松本智司, 中村慶春, 鈴木英之¹⁾, 菅 隼人, 鶴田宏之, 小泉岐博, 佐々木順平, 内田英二, 井上利樹²⁾, 徐吉夫²⁾ (¹ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, ² 株式会社ホギメディカル): 右側結腸腫瘍に対する SILS 術式の工夫と新規鏡視下汎用性デバイスの開発. 日本消化器外科学会総会 (第 65 回) (下関), 2010. 7.
- 121) 上田純志, 野村 務, 佐々木順平, 重原健吾, 上初和也, 谷 杏彌, 内田英二: 初期研修医の鼠径ヘルニア執刀に関する検討. 日本消化器外科学会総会 (第 65 回) (下関), 2010. 7.
- 122) 水谷 聡¹⁾, 星野有哉¹⁾, 相本隆幸, 山岸征嗣¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 内田英二 (¹ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 睪頭十二指腸切除・Child 再建における閉鎖式吸引ドレーン管理について. 日本消化器外科学会総会 (第 65 回) (下関), 2010. 7.
- 123) 杉浦 篤¹⁾, 笹島耕二²⁾, 松谷 毅²⁾, 丸山 弘²⁾, 鈴木成治²⁾, 横山 正²⁾, 松下 晃²⁾, 平方敦史²⁾, 吉田 寛, 内田英二 (¹ 東京リバーサイド病院 外科, ² 日本医科大学多摩永山病院 外科): 腸閉塞で発症した盲腸腺扁平上皮癌の 1 例. 日本消化器外科学会総会 (第 65 回) (下関), 2010. 7.
- 124) 菅 隼人, 鈴木英之¹⁾, 鶴田宏之, 松本智司, 秋谷行宏, 小泉岐博, 佐々木順平, 古川清憲, 田尻 孝, 内田英二 (¹ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 術前化学放射線療法を行った進行直腸癌症例の検討. 日本消化器外科学会総会 (第 65 回) (下関), 2010. 7.
- 125) 川野陽一, 吉田 寛, 谷合信彦, 峯田 章, 神田知洋, 上田純志, 村田 智¹⁾, 汲田伸一郎¹⁾, 内田英二 (¹ 日本医科大学 放射線科): 当科における閉塞性黄疸肝に対する大量肝切除時の門脈塞栓術. 日本消化器外科学会総会 (第 65 回) (下関), 2010. 7.
- 126) 前島顕太郎¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 木山輝郎, 菅野仁士, 千原直人¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 古川清憲²⁾, 鈴木英之¹⁾, 内田英二 (¹ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, ² 日本医科大学千葉北総病院 外科): 胃癌術後補助化学療法における抗癌剤感受性試験の有用性. 日本消化器外科学会総会 (第 65 回) (下関), 2010. 7.
- 127) 相本隆幸, 内田英二, 中村慶春, 廣井 信, 山初和也, 宮本正章¹⁾, 田畑泰彦²⁾ (¹ 日本医科大学 内科, ² 京

- 都大学 再生医科研究生体材料学)：バイオマテリアルを用いた瘻空腸吻合部の創傷治癒促進の試み・術後腓液瘻克服をめざして。日本消化器外科学会総会(第65回)(下関), 2010. 7.
- 128) 谷 杏彌, 中村慶春, 松本智司, 有馬保生, 徐 吉夫¹⁾, 井上利樹¹⁾, 内田英二⁽¹⁾ 株式会社ホギメディカル): 腹腔鏡下胆嚢摘出術における鏡視下スパーサーの使用経験. 日本消化器外科学会総会(第65回)(下関), 2010. 7.
- 129) 谷合信彦, 吉田 寛, 峯田 章, 川野陽一, 神田知洋, 上田純志, 内田英二: 肝細胞癌術後残肝再発に対する治療戦略-selective repeated TACEの有用性-. 日本消化器外科学会総会(第65回)(下関), 2010. 7.
- 130) 中村慶春, 松本智司, 内田英二, 徐 吉夫¹⁾, 井上利樹¹⁾, 田尻 孝⁽¹⁾ 株式会社ホギメディカル): 腹腔鏡下膵尾側切除術における膵切離法. 日本消化器外科学会総会(第65回)(下関), 2010. 7.
- 131) 渡辺昌則¹⁾, 小峯 修¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): SSI危険因子からみた大腸手術の術後感染対策. 日本消化器外科学会総会(第65回)(下関), 2010. 7.
- 132) 藤田逸郎, 木山輝郎, 加藤俊二, 菅野仁士, 小野寺浩之, 櫻澤信行, 金澤義一, 宮下正夫, 内田英二: U領域早期胃痛に対する腹腔鏡補助下噴門側胃切除術: 食道残胃吻合後の残胃癌の検討. 日本消化器外科学会総会(第65回)(下関), 2010. 7.
- 133) 萩原信敏, 山下直行, 宮下正夫, 野村 務, 牧野浩司, 加藤俊二, 藤田逸郎, 櫻澤信行, 住吉宏樹, 内田英二: 消化器癌における血中抗 p53 抗体の有用性の検討. 日本消化器外科学会総会(第65回)(下関), 2010. 7.
- 134) 尾形昌男¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 近藤恭司¹⁾, 三浦克洋¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 小泉正樹¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 腹腔鏡下大腸癌手術においての高齢者患者の検討. 日本消化器外科学会総会(第65回)(下関), 2010. 7.
- 135) 平方敦史¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 横山 正¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 松下 晃¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 吉田 寛, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科): 腸管合併切除を伴った挙アヂ小腸間膜線維腫症の1例. 日本消化器外科学会総会(第65回)(下関), 2010. 7.
- 136) 牧野浩司, 内田英二, 宮下正夫, 野村 務, 萩原信敏, 加藤俊二, 藤田逸郎, 金澤義一, 松本智司, 中村慶春: スポンジスパーサーを用いた腹臥位 VATS-E と体位を使い分けた 106recL リンパ節郭清の工夫. 日本消化器外科学会総会(第65回)(下関), 2010. 7.
- 137) 野村 務, 内田英二, 宮下正夫, 牧野浩司, 松本智司, 中村慶春, 萩原信敏, 加藤俊二, 藤田逸郎, 井上利樹¹⁾ (株式会社ホギメディカル): 腹腔鏡下胃管作成における鏡視下手術用 スポンジスパーサーの有用性. 日本消化器外科学会総会(第65回)(下関), 2010. 7.
- 138) 鈴木英之¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 小泉正樹¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 菅 隼人, 松本智司, 小泉岐博, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 大腸癌に対する単孔式内視鏡手術手技の検討. 日本消化器外科学会総会(第65回)(下関), 2010. 7.
- 139) 鈴木成治¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 横山 正¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 松下 晃¹⁾, 平方敦史¹⁾, 川本聖郎¹⁾, 吉田 寛, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科): 当科の高度進行・再発大腸癌症例における Cetuximab の使用状況. 日本消化器外科学会総会(第65回)(下関), 2010. 7.
- 140) 廣井 信, 内田英二, 相本隆幸, 松本智司, 山初和也, 中村慶春, 田尻 孝: 当科における先天性胆道拡張症の腹腔鏡下手術. 日本消化器外科学会総会(第65回)(下関), 2010. 7.
- 141) 櫻澤信行, 加藤俊二, 藤田逸郎, 金澤義一, 小野寺浩之, 宮下正夫, 野村 務, 牧野浩司, 萩原信敏, 内田英二: 腹腔鏡胃癌手術で縫合器と吻合機使用の吻合部狭窄にバルーン拡張術で穿孔と穿通した2例. 日本消化器外科学会総会(第65回)(下関), 2010. 7.
- 142) 八木亜記¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 星野有哉¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 小峯 修¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 千原直人¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 三浦克洋¹⁾, 近藤恭司¹⁾, 野村 聡¹⁾ (日本医科大学武蔵小杉病院

- 消化器病センター):腸重積を契機に発見された虫垂粘液のう胞腺腫の1例. 日本消化器病学会関東支部例会(第310回)(東京), 2010. 7.
- 143) 平方敦史¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 横山 正¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 松下 晃¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 吉田 寛, 内田英二 (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科):腸管合併切除を伴った挙アヂ小腸間膜線維腫症の1例. 日本消化器外科学会総会(第65回)(下関), 2010. 7.
- 144) 野村 務, 牧野浩司, 萩原信敏, 加藤俊二, 藤田逸郎, 金沢義一, 櫻澤信行, 小野寺浩之, 岩切勝彦¹⁾, 宮下正夫, 内田英二 (1) 日本医科大学 消化器内科):食道切除後胃管再建症例における胃食道逆流症について. 潰瘍病態研究会(第19回)(東京), 2010. 8.
- 145) 松本智司:右側結腸腫瘍に対する TANKO 術式の工夫. 単孔式内視鏡手術研究会(第2回)(東京), 2010. 8.
- 146) 中村慶春, 内田英二, 松本智司, 野村 務, 牧野浩司, 有馬保生, 田尻 孝:安全で経済性に配慮した単孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術. 単孔式内視鏡手術研究会(第2回)(東京), 2010. 8.
- 147) 野村 務, 牧野浩司, 萩原信敏, 藤田逸郎, 松本智司, 中村慶春, 小泉岐博, 宮下正夫, 内田英二:食道アカラシアに対する単孔式腹腔鏡下 Heller-Dor 法の経験. 単孔式内視鏡手術研究会(第2回)(東京), 2010. 8.
- 148) 丸山 弘¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 松下 晃¹⁾, 平方敦史¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 内田英二 (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科):食道癌術後感染症における治療抗菌薬の選択. 日本食道学会学術集会(第64回)(久留米), 2010. 8.
- 149) 高橋 健¹⁾, 牧野浩司, 宮下正夫, 野村 務, 萩原信敏, 勝田美和子¹⁾, 赤城一郎¹⁾, 堀場光二¹⁾, 内田英二, 横井公良¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科):当院の胸腔鏡下食道切除術(VATS-E):左側臥位から腹臥位へ. 日本食道学会学術集会(第64回)(久留米), 2010. 8.
- 150) 黒田誠司¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 小峯 修¹⁾, 野村 聡¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 内田英二 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター):Boerhaave 症候群類似の医原性食道破裂の1例. 日本食道学会学術集会(第64回)(久留米), 2010. 8.
- 151) 若林秀幸¹⁾, 内田英二, 松谷 毅¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 松田明久¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 横山 正¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 笹島耕二¹⁾:食道癌術後乳び胸に対し胸腔鏡下胸管クリッピングとオクトレオチドが有効であった1例. 日本食道学会学術集会(第64回)(久留米), 2010. 8.
- 152) 小峯 修¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 野村 聡¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 吉野昌則¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 内田英二 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター):食道癌周術期における術後早期経腸栄養の有用性の検討. 日本食道学会学術集会(第64回)(久留米), 2010. 8.
- 153) 松谷 毅¹⁾, 内田英二, 丸山 弘¹⁾, 川本聖昭¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 横山 正¹⁾, 松下 晃¹⁾, 平方敦史¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 笹島耕二¹⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科):転移性脳腫瘍摘出後の原発巣検索で発見された食道腺癌の1例. 日本食道学会学術集会(第64回)(久留米), 2010. 8.
- 154) 松谷 毅¹⁾, 内田英二, 丸山 弘¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 横山 正¹⁾, 松下 晃¹⁾, 能勢隆之²⁾, 小林由子²⁾, 吉田 寛¹⁾, 笹島耕二¹⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院 放射線治療科):75歳以上の高齢者食道癌に対する Docetaxel/5-FU/Nedaplatin 併用化学放射線療法の検討. 日本食道学会学術集会(第64回)(久留米), 2010. 8.
- 155) 松谷 毅¹⁾, 内田英二, 丸山 弘¹⁾, 土屋喜一¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 横山 正¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 笹島耕二¹⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科):再建胃管に転移再発した食道扁平上皮癌の1例. 日本食道学会学術集会(第64回)(久留米), 2010. 8.
- 156) 坂田義則, 宮下正夫, 牧野浩司, 野村 務, 萩原信敏, 高橋 健¹⁾, 勝田美和子¹⁾, 赤城一郎¹⁾, 内田英二 (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科):両側反回神経周囲リンパ節に甲状腺癌の転移のみ認めた食道癌, 甲状腺癌合併症例. 日本食道学会学術集会(第64回)(久留米), 2010. 8.
- 157) 渡辺昌則¹⁾, 小峯 修¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 徳永 昭¹⁾,

- 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター)：食道癌術後在院死に関係する危険因子の検討。日本食道学会学術集会(第64回)(久留米), 2010. 8.
- 158) 萩原信敏, 牧野浩司, 宮下正夫, 野村 務, 松本智司, 高橋 健, 赤城一郎, 山下直行¹⁾, 篠塚恵理子, 内田英二⁽¹⁾ 坪井病院 外科)：臍部単項式腹腔鏡下手術による遊離空腸採取。日本食道学会学術集会(第64回)(久留米), 2010. 8.
- 159) 萩原信敏, 宮下正夫, 山下直行¹⁾, 和知栄子²⁾, 野村 務, 牧野浩司, 勝田美和子, 勝野 暁, 赤城一郎, 内田英二⁽¹⁾ 坪井病院 外科, ²⁾ 坪井病院 病理)：FDG-PET で腋窩リンパ節への集積亢進を認め、診断に至った原発性食道癌の1例。日本食道学会学術集会(第64回)(久留米), 2010. 8.
- 160) 牧野浩司, 宮下正夫, 野村 務, 萩原信敏, 赤城一郎, 勝田美和子¹⁾, 高橋 健¹⁾, 横井公良¹⁾, 岩切勝彦²⁾, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 外科, ²⁾ 日本医科大学 消化器内科)：当科の腹臥位食道切除術：我々の方法と工夫。日本食道学会学術集会(第64回)(久留米), 2010. 8.
- 161) 牧野浩司, 宮下正夫, 野村 務, 萩原信敏, 河越哲郎¹⁾, 二神生爾¹⁾, 植木信江¹⁾, 岩切勝彦²⁾, 高橋 健²⁾, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学 消化器内科, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院 外科)：T4.M0 に対して行う副作用が少なく効果的な NeoadjuvantCRT (NCRT)。日本食道学会学術集会(第64回)(久留米), 2010. 8.
- 162) 野村 聡¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 小峯 修¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター)：食餌性食道潰瘍の2例。日本食道学会学術集会(第64回)(久留米), 2010. 8.
- 163) 鈴木えりか, 宮下正夫, 萩原信敏, 大川敬一, 野村 務, 牧野浩司, 土屋喜一, 坂田義則, 篠塚恵理子, 内田英二：胸部大動脈ステント留置後に食道穿孔を認めた1例。日本食道学会学術集会(第64回)(久留米), 2010. 8.
- 164) 中村慶春, 内田英二, 相本隆幸, 松本智司, 廣井 信, 山初和也, 田尻 孝：腹腔鏡下膈切除術における手術手技の工夫について。日本膈切研究会(第37回)(三重), 2010. 8.
- 165) 新井洋紀¹⁾, 内田英二, 松谷 毅¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 横山 正¹⁾, 東 直行²⁾, 津久井拓³⁾, 吉田 寛¹⁾, 笹島耕二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科, ²⁾ 日本医科大学多摩永山病院 皮膚科, ³⁾ 日本医科大学多摩永山病院 消化器科)：慢性多型痒疹で発見された進行食道扁平上皮癌の1例。日本食道学会学術集会(第64回)(福岡), 2010. 8.
- 166) 峯田 章, 谷合信彦, 吉岡正人, 川野陽一, 上田純志, 真々田裕宏, 吉田 寛¹⁾, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科)：腹腔 - 静脈シャント術の適応・効果および今後の課題。日本門脈圧亢進症学会総会(第17回)(富山), 2010. 9.
- 167) 高 和英, 野村 務, 牧野浩司, 萩原信敏, 加藤俊二, 藤田逸郎, 金沢義一, 櫻澤信行, 小野寺浩之, 小泉里奈, 宮下正夫, 内田英二, 岩切勝彦¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 消化器内科)：腹腔鏡下手術を行った巨大食道裂孔ヘルニアの2例。日本消化器病学会関東支部例会(第311回)(東京), 2010. 9.
- 168) 三島圭介¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 黒田誠司¹⁾, 八木亜紀¹⁾, 和田由大¹⁾, 野村 聡¹⁾, 三浦克洋¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 千原直人¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 小峯 修¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 内田英二, その他4名 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター)：腹部CTにて特徴的な結腸石灰化像を呈した若年日本住血吸虫症の1例。日本消化器病学会関東支部例会(第311回)(東京), 2010. 9.
- 169) 青山純也, 金沢義一, 藤田逸郎, 櫻澤信行, 小野寺浩之, 加藤俊二, 内田英二：右胃大動脈使用 CABG 後の胃痛に対して胃切除を行った1例。外科集談会(第818回)(東京), 2010. 9.
- 170) 古木裕康, 松本智司, 中村慶春, 野村 務, 菅 隼人, 山田岳史, 小泉岐博, 佐々木順平, 金谷洋平, 内田英二：当科における単孔式腹腔鏡下虫垂切除術の工夫。外科集談会(第818回)(東京), 2010. 9.
- 171) 菅野仁士¹⁾, 山下直行¹⁾, 柿沼大輔¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 小澤俊文²⁾, 内田英二⁽¹⁾ 坪井病院 外科, ²⁾ 坪井病院 消化器科)：小腸鏡にて病変を確認し、腹腔鏡補助下に切除した回腸脂肪腫による成人腸重積症の1例。東北外

科集談会（第160回）（山形），2010. 9.

- 172) 山初和也, 松田陽子¹⁾, 石渡俊行¹⁾, 山本哲志¹⁾, 河本陽子¹⁾, 手塚 潔¹⁾, 相本隆幸, 中村慶春, 廣井 信, 内田英二, 内藤善哉¹⁾ (1) 日本医科大学 第2病理部): 各種腫瘍血管マーカーを用いた肺癌腫瘍新生血管と臨床病理学的因子との関連. 日本癌学会学術総会 (第69回) (大阪), 2010. 9.
- 173) 相本隆幸, 内田英二, 中村慶春, 松下 晃, 勝野 暁, 張 一光, 川本聖郎, 山初和也, 廣井 信, 小林 匡¹⁾ (1) 小林病院): 膵管内腫瘍由来の浸潤癌に対する外科治療の有用性. 日本癌学会学術総会 (第69回) (大阪), 2010. 9.
- 174) 牧野浩司, 宮下正夫, 野村 務, 萩原信敏, 赤城一郎, 高橋 健¹⁾, 植木信江²⁾, 河越哲郎²⁾, 二神正爾²⁾, 岩切勝彦²⁾, 石橋 幸³⁾, 瀧澤俊弘³⁾, 内田英二 (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科, 2) 日本医科大学 消化器内科, 3) 日本医科大学 分子解剖学): 食道扁平上皮癌における MIR21 の発現の意義. 日本癌学会学術総会 (第69回) (大阪), 2010. 9.
- 175) 菅野仁士¹⁾, 山下直行¹⁾, 柿沼大輔¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 小澤俊文²⁾, 内田英二 (1) 坪井病院 外科, 2) 坪井病院 消化器科): 大腸内視鏡検査食により発生し, 食道穿孔をきたした Mallory-Weiss 症候群の1例. 日本消化器内視鏡学会総会 (第80回) (横浜), 2010. 10.
- 176) 菅野仁士¹⁾, 木山輝郎, 藤田逸郎, 金沢義一, 櫻澤信行, 小野寺浩之, 吉行俊郎, 加藤俊二, 山下直行¹⁾, 内田英二 (1) 坪井病院 外科): 高齢者における腹腔鏡補助下幽門側胃切除の検討. 日本消化器外科学会大会 (第8回) (横浜), 2010. 10.
- 177) 小野寺浩之, 加藤俊二, 金沢義一, 櫻澤信行, 山下直行, 奥田武志, 藤田逸郎, 木山輝郎, 吉行俊郎, 萩原信敏, 牧野浩司, 野村 務, 内田英二: 胃癌術前化学療法試行中のイベント発生とその対応. 武蔵野消化器病談話会 (第41回) (東京), 2010. 10.
- 178) 丸山 弘¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 横山 正¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 松下 晃¹⁾, 平方敦史¹⁾, 馬越通信¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 早川朋宏¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 内田英二 (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科): 直腸脱に対する腹腔鏡下直腸固定術の検討. 日本内視鏡外科学会総会 (第23回) (横浜), 2010. 10.
- 179) 金谷洋平¹⁾, 内田英二, 吉田 寛¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 横山 正¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 松下 毅¹⁾, 平方敦史¹⁾, 馬越通信¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 早川朋宏¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 笹島耕二¹⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科): 肝内胆管拡張を伴った巨大肝嚢胞に対し腹腔鏡下肝嚢胞天蓋除去術を施行した1例. 日本内視鏡外科学会総会 (第23回) (横浜), 2010. 10.
- 180) 五十嵐健人¹⁾, 中村慶春, 赤須東樹¹⁾, 岡村律子¹⁾, ヘイムス規予美¹⁾, シャルーンアブドラスハイミ, 内田英二, 清水一雄¹⁾ (1) 日本医科大学 内分泌外科): 当科における腹腔鏡下副腎摘除術の新たな工夫. 日本内視鏡外科学会総会 (第23回) (横浜), 2010. 10.
- 181) 山下浩二¹⁾, 赤須東樹¹⁾, 五十嵐健人¹⁾, 岡村律子¹⁾, ヘイムス規予美¹⁾, 軸函智雄, 柳原恵子, 飯田信也, 芳賀駿介, 清水一雄¹⁾ (1) 日本医科大学 胸部外科): 乳腺内視鏡手術における腋窩単孔ポートの有用性の検討. 日本内視鏡外科学会総会 (第23回) (横浜), 2010. 10.
- 182) 山初和也, 中村慶春, 内田英二, 松本智司, 有馬保生, 田尻 孝: 腹腔鏡下胆嚢摘出術における汎用性鏡視下手術用スポンジスパーサーの有用性. 日本内視鏡外科学会総会 (第23回) (横浜), 2010. 10.
- 183) 松下 晃¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 横山 正¹⁾, 平方敦史¹⁾, 馬越通信¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 内田英二 (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科): 特発性大網血腫の1例. 日本内視鏡外科学会総会 (第23回) (横浜), 2010. 10.
- 184) 松谷 毅¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 横山 正¹⁾, 松下 晃¹⁾, 平方敦史¹⁾, 馬越通信¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 内田英二, 笹島耕二¹⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科): 食道癌手術における腹腔鏡下胃管作製術. 日本内視鏡外科学会総会 (第23回) (横浜), 2010. 10.
- 185) 松谷 毅¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 横山 正¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 松下 晃¹⁾, 平方敦史¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 馬越通信¹⁾,

- 若林秀幸¹⁾, 内田英二, 笹島耕二¹⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科): 腹臥位胸腔鏡下食道切除術における胸腔内操作の現状. 日本内視鏡外科学会総会 (第 23 回) (横浜), 2010. 10.
- 186) 菅野仁士¹⁾, 木山輝郎, 藤田逸郎, 金沢義一, 櫻澤信行, 小野寺浩之, 吉行俊郎, 加藤俊二, 山下直行¹⁾, 内田英二 (1) 坪井病院 外科): 高齢者に対する腹腔鏡補助下幽門側胃切除の検討. 日本内視鏡外科学会総会 (第 23 回) (横浜), 2010. 10.
- 187) 星野有哉¹⁾, 中村慶春, 水谷 聡¹⁾, 千原直人¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 野村 聡¹⁾, 黒田誠司¹⁾, 和田由大¹⁾, 近藤恭司¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 三浦克洋¹⁾, 小峯 修¹⁾, 三島圭介¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 内田英二 (1) 日本科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 腹腔鏡下脾臓摘出術を施行した CA19-9 高値を示した脾嚢胞の 1 例. 日本内視鏡外科学会総会 (第 23 回) (横浜), 2010. 10.
- 188) 千原直人¹⁾, 山川達郎²⁾, 渡辺昌則¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 星野有哉¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 内田英二 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, 2) 京浜総合病院): 当科における腹腔鏡下鼠径路ヘルニア修復術 (TAPP) の導入と現状. 日本内視鏡外科学会総会 (第 23 回) (横浜), 2010. 10.
- 189) 川本聖郎¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 松下 晃¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 横山 正¹⁾, 平方敦史¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 馬越通信¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 内田英二 (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科): 鼠径ヘルニアに対する TAPP 波における BARDPOLYSOFT の使用経験. 日本内視鏡外科学会総会 (第 23 回) (横浜), 2010. 10.
- 190) 川野陽一, 中村慶春, 谷合信彦, 松本智司, 峯田 章, 吉岡正人, 吉田 寛, 田尻 孝, 内田英二: 低侵襲肝臓手術の新展開: 当科での鏡視下肝切除術の役割. 日本内視鏡外科学会総会 (第 23 回) (横浜), 2010. 10.
- 191) 川野陽一, 中村慶春, 谷合信彦, 松本智司, 峯田 章, 吉岡正人, 上田純志, 吉田 寛, 内田英二: 鏡視下肝切除術における手技とデバイスの工夫 (スポンジスペーサーの有用性). 日本内視鏡外科学会総会 (第 23 回) (横浜), 2010. 10.
- 192) 前島顕太郎¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 小峯 修¹⁾, 千原直人¹⁾, 水谷 毅¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 内田英二 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 当科における腹腔鏡下胃切除術の現状. 日本内視鏡外科学会総会 (第 23 回) (横浜), 2010. 10.
- 193) 早川朋宏¹⁾, 内田英二, 松谷 毅¹⁾, 平方敦史¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 横山 正¹⁾, 松下 晃¹⁾, 馬越通信¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 金谷洋平¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 笹島耕二¹⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科): 腹腔鏡下切除を施行した胃神経鞘腫の 1 例. 日本内視鏡外科学会総会 (第 23 回) (横浜), 2010. 10.
- 194) 中村慶春, 内田英二, 野村 務, 牧野浩司, 松本智司, 相本隆幸, 廣井 信, 山初和也, 田尻 孝: 腹腔鏡下尾側膵切除術の展望. 日本内視鏡外科学会総会 (第 23 回) (横浜), 2010. 10.
- 195) 中村慶春, 内田英二, 松本智司, 山初和也, 田尻 孝: 胆道・膵疾患に対する鏡視下手術における再建術式の工夫. 日本内視鏡外科学会総会 (第 23 回) (横浜), 2010. 10.
- 196) 馬越通信¹⁾, 内田英二, 松谷 毅¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 横山 正¹⁾, 松下 晃¹⁾, 平方敦史¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 早川朋宏¹⁾, 金谷洋平¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 笹島耕二¹⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科): 85 歳高齢者の残胃癌に対し腹腔鏡下残胃全摘術を施行した 1 例. 日本内視鏡外科学会総会 (第 23 回) (横浜), 2010. 10.
- 197) 萩原信敏, 野村 務, 宮下正夫, 牧野浩司, 篠塚恵理子, 鈴木えりか, 加藤俊二, 藤田逸郎, 金沢義一, 櫻澤信行, 山下直行¹⁾, 小野寺浩之, 内田英二 (1) 坪井病院 外科): 腹腔鏡下手術にて治療を行った, 横隔膜ヘルニア (Morgani 孔ヘルニア) の 1 症例. 日本内視鏡外科学会総会 (第 23 回) (横浜), 2010. 10.
- 198) 牧野浩司, 宮下正夫, 野村 務, 萩原信敏, 松本智司, 中村慶春, 高橋 健¹⁾, 横井公良¹⁾, 加藤俊二, 藤田逸郎, 金沢義一, 櫻澤信行, 小野寺浩之, 内田英二 (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科): 当科における腹臥位胸腔鏡下食道切除術の優位性 (左側臥位胸腔鏡下食道切除術の成績と比較して). 日本内視鏡外科学会総会 (第 23 回) (横浜), 2010. 10.
- 199) 野村 務, 牧野浩司, 萩原信敏, 松本智司, 中村慶春, 加藤俊二, 藤田逸郎, 金沢義一, 櫻澤信行, 小野寺浩之, 小泉里奈, 岩切勝彦¹⁾, 宮下正夫, 内田英二 (1) 日本医科大学 消化器内科): 単孔式腹腔鏡下 Heller-Dor 法の

- 経験. 日本内視鏡外科学会総会 (第 23 回) (横浜), 2010. 10.
- 200) 鈴木英之¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 三浦克洋¹⁾, 渡邊昌則¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 小峯 修¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 単孔式腹腔鏡下大腸切除術におけるワーキングポートの検討. 日本内視鏡外科学会総会 (第 23 回) (横浜), 2010. 10.
- 201) 菅 隼人, 鶴田宏之, 松本智司, 秋谷行宏, 山田岳史, 小泉岐博, 佐々木順平, 古川清憲, 内田英二: 術前化学放射線療法後に肛門温存手術を行った進行直腸癌症例の検討. 日本癌治療学会学術集会 (第 48 回) (京都), 2010. 10.
- 202) 牧野浩司, 宮下正夫, 野村 務, 萩原信敏, 高橋 健¹⁾, 赤城一郎¹⁾, 堀場光二¹⁾, 横井公良¹⁾, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 外科): ハイリスク症例に対する当科の食道癌鏡視下手術. 日本癌治療学会学術集会 (第 48 回) (京都), 2010. 10.
- 203) 山下浩二¹⁾, 軸菌智雄¹⁾, ヘイムス規子美¹⁾, 岡村律子¹⁾, 五十嵐健人¹⁾, 赤須東樹¹⁾, 飯田信也, 柳原恵子, 芳賀駿介, 清水一雄¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 呼吸器外科): 3D-MRI と 3D-CT 乳腺リンパ管造影によるセンチネルリンパ節生検. 日本癌治療学会学術集会 (第 48 回) (京都), 2010. 10.
- 204) 松谷 毅¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 横山 正¹⁾, 松下 晃¹⁾, 平方敦史¹⁾, 能勢隆之²⁾, 小林由子²⁾, 内田英二, 笹島耕二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科, ²⁾ 日本医科大学多摩永山病院 放射線治療科): 高齢者食道癌に対する Docetaxel/5-FU/Nedaplatin 併用化学放射線療法の試み. 日本癌治療学会学術集会 (第 48 回) (京都), 2010. 10.
- 205) 前島顕太郎¹⁾, 小峯 修¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 水谷聡飼¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 星野有哉¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 外科): 幽門側胃切除術後残胃の癌の特徴. 日本癌治療学会学術集会 (第 48 回) (京都), 2010. 10.
- 206) 鈴木成治¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 松下 晃¹⁾, 平方敦史¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 馬越通信¹⁾, 若林英之¹⁾, 津久井拓²⁾, 松久威史²⁾, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科, ²⁾ 日本医科大学多摩永山病院 消化器科): 切除不能・再発胃癌に対する 2 次治療以降でのタキサン系抗癌剤使用の意義. 日本癌治療学会学術集会 (第 48 回) (京都), 2010. 10.
- 207) 松谷 毅¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 松下 晃¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 横山 正¹⁾, 平方敦史¹⁾, 馬越通信¹⁾, 早川朋宏¹⁾, 金谷洋平¹⁾, 内田英二, 笹島耕二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科): Choledochocoele に合併した胆管ポリープの 1 例. 日本臨床外科学会総会 (第 72 回) (横浜), 2010. 10.
- 208) 東蘭和哉¹⁾, 横井公良, 内田英二, 古川清憲, 金沢義一, 山田岳史 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 外科): 肝転移を伴う大腸癌に対する FOLFOX サンドイッチ療法 末梢神経障害により治療を完遂できなかった症例からの考察. 日本臨床外科学会総会 (第 72 回) (横浜), 2010. 10.
- 209) 川本聖郎¹⁾, 吉安正行¹⁾, 吉村和泰¹⁾, 沖野哲也¹⁾, 富樫晃祥¹⁾, 大川敬一²⁾, 内田英二 (¹⁾ 博慈会記念総合病院 外科, ²⁾ 元郷医院): 大腸癌多発性肝転移による閉塞性黄疸に対し胆管ステント挿入後 mFOLFOX 6+ アバスチン化学療法が著効した 1 例. 日本臨床外科学会総会 (第 72 回) (横浜), 2010. 10.
- 210) 山下直行¹⁾, 柿沼大輔¹⁾, 菅野仁士¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 加藤俊二, 藤田逸郎, 金澤義一, 桜澤信行, 小野寺浩之, 宮下正夫, 野村 務, 牧野浩司, 萩原信敏, 内田英二 (¹⁾ 坪井病院 外科): 非根治胃癌に対する First Line の選別と外科治療との融合. 日本癌治療学会学術集会 (第 48 回) (京都), 2010. 10.
- 211) 横山 正¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 松下 晃¹⁾, 平方敦史¹⁾, 川本聖郎¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 馬越通信¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科): 切除不能進行腺癌における Gemcitabine (GEM)/Capecitabine (CAP) 併用療法の検討. 日本消化器病学会 (第 52 回) (横浜), 2010. 10.
- 212) 上田純志, 相本隆幸, 中村慶春, 廣井 信, 山初和也, 早川朋宏, 内田英二: 十二指腸癌が合併し確定診断に難渋した原発不明神経内分泌細胞癌リンパ節転移の 1 例. 日本消化器病学会 (第 52 回) (横浜), 2010. 10.
- 213) 鈴木成治¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 横山 正¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 松下 晃¹⁾, 平方敦史¹⁾, 新井洋紀¹⁾,

- 馬越通信¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 松久威史²⁾, 津久井拓²⁾, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科, ²⁾ 日本医科大学多摩永山病院 消化器科): S1/CDDP 療法を施行した切除不能・高度進行胃癌症例における後治療の検討. 日本消化器病学会 (第 52 回) (横浜), 2010. 10.
- 214) 牧野浩司, 宮下正夫, 野村 務, 萩原信敏, 岩切勝彦¹⁾, 二神生爾¹⁾, 河越哲郎¹⁾, 高橋 健²⁾, 赤城一郎²⁾, 横井公良²⁾, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学 消化器内科, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院 外科): 当科の食道癌の治療戦略 (Stage I と Stage IVa を中心に). 日本消化器病学会 (第 52 回) (横浜), 2010. 10.
- 215) 松谷 毅¹⁾, 内田英二, 吉田 寛¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 横山 正¹⁾, 松下 晃¹⁾, 平方敦史¹⁾, 川本聖郎¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 馬越通信¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 笹島耕二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科): Docetaxel/Nedaplatin/5-FU 併用化学放射線療法を行った 80 歳以上の高齢者進行食道癌の 3 例. 日本消化器病学会 (第 52 回) (横浜), 2010. 10.
- 216) 野村 務, 内田英二, 宮下正夫, 牧野浩司, 萩原信敏, 松本智司, 中村慶春, 吉田 寛, 谷合信彦, 峯田 章, 川野陽一, 岩切勝彦¹⁾, 川見典之¹⁾, 田中由理子¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 消化器内科): 巨大肝嚢胞を伴った食道アカラシアの 1 例. 日本消化器内視鏡学会総会 (第 80 回) (横浜), 2010. 10.
- 217) 萩原信敏, 山下直行, 勝野 暁, 進士誠一, 宮下正夫, 野村 務, 牧野浩司, 加藤俊二, 藤田逸郎, 櫻澤信行, 小野寺浩之, 高橋 健, 赤城一郎, 内田英二: 内視鏡装着バルーンを応用して, 安全に経皮内視鏡的胃瘻 (PEG) 造設しえた 1 例. 日本消化器内視鏡学会総会 (第 80 回) (横浜), 2010. 10.
- 218) 櫻澤信行, 加藤俊二, 内田英二: ループ付き細径スプリングと脱着式牽引力可変スプリングによる胃粘膜癌に対するカウンタートラクション法. 日本消化器内視鏡学会総会 (第 80 回) (横浜), 2010. 10.
- 219) 松谷 毅¹⁾, 内田英二, 吉田 寛¹⁾, 川本聖郎¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 横山 正¹⁾, 松下 晃¹⁾, 平方敦史¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 馬越通信¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 笹島耕二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科): 胃癌術後再発による挙上空腸狭窄と Schnitzler 転移に対し self-expandable metallic stent をそれぞれに留置した 1 例. 日本消化器内視鏡学会総会 (第 80 回) (横浜), 2010. 10.
- 220) 中村慶春, 内田英二, 松本智司, 有馬保生, 野村 務, 牧野浩司, 相本隆幸, 山初和也, 井上利樹¹⁾, 田尻孝 (¹⁾ (株) ホギメディカル): 鏡視下手術におけるスポンジスパーサー (セクレア) の有用性. 日本消化器内視鏡学会総会 (第 80 回) (横浜), 2010. 10.
- 221) 谷合信彦, 吉田 寛¹⁾, 川野陽一, 神田知洋, 柿沼大輔, 石川義典, 清水哲雄, 真々田裕宏, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科): 劇症肝不全症例に対する肝移植を考慮した高速持続的血液濾過透析 (HF-CHDF) の適応と問題点. 日本肝臓学会大会 (第 14 回) (横浜), 2010. 10.
- 222) 上田純志, 吉田 寛¹⁾, 谷合信彦, 峯田 章, 神田知洋, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科): 単純性肝嚢胞自然破裂の 1 例. 日本肝臓学会大会 (第 14 回) (横浜), 2010. 10.
- 223) 野村 務, 内田英二, 宮下正夫, 牧野浩司, 萩原信敏, 松本智司, 中村慶春, 加藤俊二, 藤田逸郎, 松谷 毅¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 高橋 健¹⁾, 赤城一郎¹⁾, 岩切勝彦¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科): 食道カラシアに対する腹腔鏡下 Heller-Dor 法: 手技のポイントと当施設における工夫. 日本消化器外科学会大会 (第 8 回) (横浜), 2010. 10.
- 224) 萩原信敏, 宮下正夫, 野村 務, 牧野浩司, 松本智司, 中溝宗永, 横島一彦, 加藤俊二, 藤田逸郎, 山下直行, 金沢義一, 櫻澤信行, 高橋 健, 赤城一郎, 内田英二, その他 1 名 (¹⁾ 日本医科大学 外科): 腹腔鏡補助した手術による遊離空腸採取の試み. 日本消化器外科学会大会 (第 8 回) (横浜), 2010. 10.
- 225) 牧野浩司, 宮下正夫, 野村 務, 萩原信敏, 高橋 健, 赤城一郎, 横井公良, 加藤俊二, 藤田逸郎, 金沢義一, 櫻澤信行, 小野寺浩之, 内田英二: 安全を熟慮した食道癌鏡視下手術 当科の腹臥位胸腔鏡食道切除とその工夫. 日本消化器外科学会大会 (第 8 回) (横浜), 2010. 10.
- 226) 白川 毅¹⁾, 横井公良¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 堀場光二¹⁾, 山田岳史¹⁾, 工藤秀徳¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 清水哲也¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 高橋 健¹⁾, 赤城一郎¹⁾, 岩本美樹¹⁾, 田中宣威¹⁾, 内田英二, その他 1 名 (¹⁾ 日本医科大学

- 学千葉北総病院 外科)：S-1+CDDP 併用化学療法後，胃切除術を施行した高度進行胃癌症例の検討。日本消化器外科学会大会（第8回）（横浜），2010. 10.
- 227) 鈴木成治¹⁾，笹島耕二¹⁾，吉田 寛¹⁾，丸山 弘¹⁾，横山 正¹⁾，松谷 毅¹⁾，松下 晃¹⁾，平方敦史¹⁾，新井洋紀¹⁾，馬越通信¹⁾，若林秀幸¹⁾，津久井拓¹⁾，松久威史¹⁾，内田英二¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科)：切除不能・再発胃癌症例の治療におけるタキサン系抗癌剤使用の意義。日本消化器外科学会大会（第8回）（横浜），2010. 10.
- 228) 山下直行¹⁾，柿沼大輔¹⁾，菅野仁士¹⁾，住吉宏樹¹⁾，加藤俊二，藤田逸郎，宮下正夫，内田英二¹⁾ 坪井病院 外科)：First Line の選別による非根治胃癌に対する治療戦略。日本消化器外科学会大会（第8回）（横浜），2010. 10.
- 229) 小野寺浩之，加藤俊二，櫻澤信行，金沢義一，藤田逸郎，木山輝郎，吉行俊郎，内田英二：同時性胃癌肝転移例に対する治療法の選択：新規抗癌剤登場による再評価の可能性。日本消化器外科学会大会（第8回）（横浜），2010. 10.
- 230) 藤田逸郎，加藤俊二，櫻澤信行，小野寺浩之，菅野仁士，金沢義一，萩原信敏，牧野浩司，野村 聡，宮下正夫，内田英二：ESD 後根治的手術施行症例からみた ESD 適応拡大の可能性に関する検討。日本消化器外科学会大会（第8回）（横浜），2010. 10.
- 231) 松下 晃¹⁾，笹島耕二¹⁾，吉田 寛¹⁾，鈴木成治¹⁾，横山 正¹⁾，丸山 弘¹⁾，松谷 毅¹⁾，平方敦史¹⁾，川本聖郎¹⁾，新井洋紀¹⁾，馬越通信¹⁾，内田英二¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科)：十二指腸原発 GIST4 例の検討。日本消化器外科学会大会（第8回）（横浜），2010. 10.
- 232) 鈴木英之¹⁾，徳永 昭¹⁾，尾形昌男¹⁾，吉野雅則¹⁾，松信哲朗¹⁾，菅 隼人，鶴田宏之，松本智司，小泉岐博，佐々木順平，内田英二¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター)：教育機関における腹腔鏡下大腸手術の術者・助手の役割と手技の定型化。日本消化器外科学会大会（第8回）（横浜），2010. 10.
- 233) 菅 隼人，鶴田宏之，松本智司，小泉岐博，佐々木順平，古川清憲，内田英二：X 線不透過マーカーを用いた大腸癌根治術後の腸管運動に対する大建中湯 (DKT) の効果判定。日本消化器外科学会大会（第8回）（横浜），2010. 10.
- 234) 沖野哲也¹⁾，吉安正行¹⁾，吉村和泰¹⁾，富樫晃祥¹⁾，勝田美和子¹⁾，高尾嘉宗¹⁾，谷合信彦，内田英二¹⁾ 博慈会記念総合病院)：虫垂癌のバンド状癒着による絞扼性イレウスの1例。日本消化器外科学会大会(第8回)(横浜)，2010. 10.
- 235) 川野陽一，中村慶春，谷合信彦，吉田 寛，松本智司，峯田 章，神田知洋，上田純志，内田英二：当科における鏡視下肝切除術とスポンジスペーサー (セクレア TM) 使用の経験。日本消化器外科学会大会（第8回）（横浜），2010. 10.
- 236) 相本隆幸，内田英二，中村慶春，廣井 信，山初和也，松下 晃，張 一光，川本聖郎，小林 匡¹⁾ 小林病院)：IPMN 由来の浸潤癌症例の臨床病理学的検討。日本消化器外科学会大会（第8回）（横浜），2010. 10.
- 237) 鈴木成治¹⁾，笹島耕二¹⁾，吉田 寛¹⁾，横山 正¹⁾，丸山 弘¹⁾，松谷 毅¹⁾，松下 晃¹⁾，平方敦史¹⁾，松久威史²⁾，津久井拓²⁾，劉 愛民³⁾，細根 勝³⁾，丹野正隆³⁾，内田英二¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科，²⁾ 日本医科大学多摩永山病院 消化器科，³⁾ 日本医科大学多摩永山病院 病理部)：消化管間質腫瘍 (GIST) 肝転移巣におけるメシル酸イマチニブ投与後の病理組織学変。日本外科病理学会学術集会（第15回）（横浜），2010. 10.
- 238) 牧野浩司，宮下正夫，野村 務，萩原信敏，藤田逸郎，金沢義一，桜澤信行，小野寺浩之，加藤俊二，高橋 健，勝田美和子¹⁾，赤城一郎，堀場光二¹⁾，横井公良¹⁾，内田英二¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 外科)：当科の食道癌鏡視下手術の変遷とその成績。日本胸部外科学会定期学術集会（第63回）（大阪），2010. 10.
- 239) 松信哲郎¹⁾，鈴木英之¹⁾，尾形昌男¹⁾，渡辺昌則¹⁾，小原邦彦¹⁾，吉野雅則¹⁾，前島顕太郎¹⁾，三浦克洋¹⁾，近藤恭司¹⁾，野村 聡¹⁾，八木亜記¹⁾，和田和由¹⁾，内田英二¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター)：

- 高齢者大腸癌イレウスの検討. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 65 回) (静岡), 2010. 11.
- 240) 菅 隼人, 鶴田宏之, 松本智司, 秋谷行宏, 山田岳史, 小泉岐博, 佐々木順平, 鈴木英之, 古川清憲, 内田英二: 進行直腸癌に対する S-1 併用術前化学放射線療法を行った症例の検討. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 65 回) (静岡), 2010. 11.
- 241) 吉野雅則, 松信哲朗, 尾形昌男, 前島顕太郎, 野村 聡, 渡辺昌則, 鈴木英之⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 高齢者における大腸癌化学療法: 安全性と有効性. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 65 回) (静岡), 2010. 11.
- 242) 山田岳史, 内田英二, 古川清憲, 菅 隼人, 松本智司, 小泉岐博, 佐々木順平, 金沢義一, 横井公良¹⁾, 鈴木英之²⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 外科, ⁽²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 切除不能多発肝転移を伴う結腸癌に対する原発巣切除後 FOLFOX/Bevacizumab 療法の功罪. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 65 回) (静岡), 2010. 11.
- 243) 瀬谷知子¹⁾, 田中宣威¹⁾, 横井公良¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 堀場光二¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 白川 毅¹⁾, 高橋由至¹⁾, 工藤秀徳¹⁾, 進士誠一¹⁾, 勝田美和子¹⁾, 高橋 健¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 川東 豊¹⁾, 内田英二, その他 3 名 ⁽¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 外科): 外科医が行う進行再発切除不能大腸癌大腸癌に対する化学療法. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 65 回) (静岡), 2010. 11.
- 244) 川満健太郎¹⁾, 田中宣威¹⁾, 横井公良¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 堀場光二¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 白川 毅¹⁾, 高橋由至¹⁾, 工藤秀徳¹⁾, 進士誠一¹⁾, 勝田美和子¹⁾, 大秋美治²⁾, 古川一博³⁾, 内田英二, その他 5 名 ⁽¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 外科, ⁽²⁾ 日本医科大学千葉北総病院 病理, ⁽³⁾ 日本医科大学千葉北総病院 放射線科): S 状結腸癌術後肝転移と診断し切除するも多結節融合型肝細胞癌と診断された 1 例. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 65 回) (静岡), 2010. 11.
- 245) 妹尾麻代¹⁾, 田中宣威¹⁾, 横井公良¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 堀場光二¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 高橋由至¹⁾, 工藤秀徳¹⁾, 進士誠一¹⁾, 勝田美和子¹⁾, 大秋美治²⁾, 小黒辰夫³⁾, 岡田 進³⁾, 内田英二 ⁽¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 外科, ⁽²⁾ 日本医科大学千葉北総病院 病理, ⁽³⁾ 日本医科大学千葉北総病院 放射線科): 直腸 low-grade myofibroblastic sarcoma の 1 例. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 65 回) (静岡), 2010. 11.
- 246) 野村 聡¹⁾, 塩谷 猛²⁾, 渡邊善正²⁾, 南部弘太郎²⁾, 豊田哲鎬¹⁾, 渋谷哲男²⁾, 鈴木英之¹⁾, 内田英二 ⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, ⁽²⁾ さいたま市民医療センター 外科): 当科で経験した左傍十二指腸ヘルニアの 1 例. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 65 回) (静岡), 2010. 11.
- 247) 山田岳史: クリニカルパスを用いた標準的疼痛治療: 地域連携を推進するために. 日本死の臨床研究会 (第 34 回) (盛岡), 2010. 11.
- 248) 松信哲朗¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 小原邦彦¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 小峯 修¹⁾, 三浦克洋¹⁾, 野村 聡¹⁾, 和田由大¹⁾, 黒田誠司¹⁾, 三島啓介¹⁾, 八木重記¹⁾, 鶴田宏之²⁾, 内田英二 ⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, ⁽²⁾ 日本医科大学千葉北総病院 外科): 肛門周囲膿瘍より発生した内向型 Fournier 症候群の 1 例. 日本外科感染症学会総会 (第 23 回) (東京), 2010. 11.
- 249) 廣井 信, 古川清憲, 相本隆幸, 中村慶春, 山初和也, 武田幸樹, 手塚晶人, 内田英二: 腹壁膿瘍にて発症した Richter 型腹壁瘻痕ヘルニア嵌頓の 1 例: メッシュ抜去を施行せず 2 次治療をなし得た症例. 日本外科感染症学会総会 (第 23 回) (東京), 2010. 11.
- 250) 工藤秀徳¹⁾, 横井公良¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 堀場光二¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 白川 毅¹⁾, 勝田美和子¹⁾, 高橋 健¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 川東 豊¹⁾, 向後英樹¹⁾, 近藤亮太¹⁾, 田中宣威¹⁾, 古川清憲 ⁽¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 外科): 当院における結腸直腸手術と SSI. 日本外科感染症学会総会 (第 23 回) (東京), 2010. 11.
- 251) 古木裕康, 吉岡正人, 峯田 章, 川野陽一, 谷谷信彦, 内田英二: 非小細胞性肺癌術後の転移性肝癌に対し切除しえた 1 例. 日本臨床外科学会総会 (第 72 回) (横浜), 2010. 11.
- 252) 松下 晃¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 川本聖郎¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 横山 正¹⁾, 平方敦史¹⁾, 馬越通信¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 早川朋宏¹⁾,

- 鈴木成治¹⁾, 金谷洋平¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 内田英二 (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科) : Choledochocoele に合併した胆管ポリープの 1 例. 日本臨床外科学会総会 (第 72 回) (横浜), 2010. 11.
- 253) 岩井拓磨, 飯田信也, 柳原恵子, 栗田智子, 山下浩二¹⁾, 芳賀駿介, 土屋眞一²⁾, 内田英二 (1) 日本医科大学呼吸器外科, 2) 日本医科大学 病理部) : 男性嚢胞内乳癌の 1 例. 日本臨床外科学会総会 (第 72 回) (横浜), 2010. 11.
- 254) 若林秀幸¹⁾, 内田英二, 吉田 寛¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 横山 正¹⁾, 松下 晃¹⁾, 平方敦史¹⁾, 馬越通信¹⁾, 早川朋宏¹⁾, 金谷洋平¹⁾, 笹島耕二¹⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科) : 胃癌腹部大動脈周囲リンパ節転移と鑑別を要した神経鞘腫の 1 例. 日本臨床外科学会総会 (第 72 回) (横浜), 2010. 11.
- 255) 沖野哲也¹⁾, 吉村和泰¹⁾, 吉安正行¹⁾, 富樫晃祥¹⁾, 川本聖郎¹⁾, 内田英二 (1) 博慈会記念総合病院 外科) : 鼠径ヘルニア術後 8 年経過後にメッシュ感染をきたし, メッシュを除去した 1 例. 日本臨床外科学会総会 (第 72 回) (横浜), 2010. 11.
- 256) 馬越通信¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 横山 正¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 松下 晃¹⁾, 平方敦史¹⁾, 早川朋宏¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 内田英二 (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科) : Docetaxel+Cyclophosphamide+Capecitabine 療法にて奏功し, 一期的に治癒切除しえた巨大乳癌の 1 例. 日本臨床外科学会総会 (第 72 回) (横浜), 2010. 11.
- 257) 丸山 弘¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 横山 正¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 松下 晃¹⁾, 平方敦史¹⁾, 馬越通信¹⁾, 早川朋宏¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 内田英二 (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科) : 腸閉塞にて切除術を施行した静脈硬化性大腸炎の 1 例 (第 72 回). 日本臨床外科学会総会 (第 72 回) (横浜), 2010. 11.
- 258) 相本隆幸, 内田英二, 中村慶春, 廣井 信, 山初和也, 松下 晃, 勝野 暁, 張 一光, 川本聖郎, 小林 匡¹⁾ (1) 小林病院) : 臍頭十二指腸切除術に対する当科の教育プログラム. 日本臨床外科学会総会 (第 72 回) (横浜), 2010. 11.
- 259) 渡辺昌則¹⁾, 小峯 修¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 千原直人¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 内田英二 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター) : SSI 危険因子解析による大腸手術の感染対策. 日本臨床外科学会総会 (第 72 回) (横浜), 2010. 11.
- 260) 武田幸樹, 古川清憲, 廣井 信, 相本隆幸, 中村慶春, 山初和也, 手塚晶人, 内田英二 : 腹壁膿瘍にて発症した Richter 型腹壁癒痕ヘルニア嵌頓の 1 例. 日本臨床外科学会総会 (第 72 回) (横浜), 2010. 11.
- 261) 松谷 毅¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 横山 正¹⁾, 松下 晃¹⁾, 平方敦史¹⁾, 馬越通信¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 早川朋宏¹⁾, 金谷洋平¹⁾, 内田英二, 笹島耕二¹⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科) : 高齢者 (75 歳以上) 食道癌に対する Docetaxel/Netaplatin/5-FU 併用化学放射線療法の検討. 日本臨床外科学会総会 (第 72 回) (横浜), 2010. 11.
- 262) 馬越通信¹⁾, 内田英二, 吉田 寛¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 横山 正¹⁾, 松下 晃¹⁾, 平方敦史¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 早川朋宏¹⁾, 金谷洋平¹⁾, 笹島耕二¹⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科) : 胃癌術後リンパ節再発による吻合部狭窄に対し十二指腸ステント留置を施行した 1 例. 日本臨床外科学会総会 (第 72 回) (横浜), 2010. 11.
- 263) 星野有哉¹⁾, 中村慶春, 水谷 聡¹⁾, 田尻 孝, 内田英二, 鈴木英之¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター) : 腹腔鏡下臍頭十二指腸切除術後, 進行がんと診断され化学療法を施行した 1 症例. 日本臨床外科学会総会 (第 72 回) (横浜), 2010. 11.
- 264) 廣井 信, 中村慶春, 相本隆幸, 山初和也, 武田幸樹, 手塚晶人, 内田英二 : 臍癌術後補助化学療法導入時に残臍出血, 仮性動脈瘤破裂をきたした 1 例. 日本臨床外科学会総会 (第 72 回) (横浜), 2010. 11.
- 265) 山初和也, 中村慶春, 相本隆幸, 廣井 信, 古木裕康, 内田英二 : 胆管原発神経内分泌細胞癌の 1 例. 日本臨床外科学会総会 (第 72 回) (横浜), 2010. 11.

- 266) 新井洋紀¹⁾, 山下直行¹⁾, 柿沼大輔¹⁾, 菅野仁士¹⁾, 内田英二 (¹⁾ 坪井病院 外科) : 胃癌術後4年目の大腸転移に対し遺残なく切除をし得た1例. 日本臨床外科学会総会 (第72回) (横浜), 2010. 11.
- 267) 鈴木成治, 笹島耕二, 吉田 寛, 丸山 弘, 横山 正, 松谷 毅, 松下 晃, 平方敦史, 新井洋紀, 馬越通信, 若林秀幸, 早川朋宏, 津久井拓, 松久威史, 内田英二 : 切除不能・再発胃癌症例の2次治療におけるタキサン系抗癌剤の位置付け. 日本臨床外科学会総会 (第72回) (横浜), 2010. 11.
- 268) 萩原信敏, 宮下正夫, 野村 務, 牧野浩司, 中溝宗永¹⁾, 横島一彦¹⁾, 三枝英人¹⁾, 稲井俊太¹⁾, 酒主敦子¹⁾, 篠塚恵理子, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学耳鼻咽喉科 頭頸部外科) : 下咽頭・食道重複癌に対して下咽頭喉頭食道全摘出術, 胃管・遊離空腸再建を行い嚥下機能良好であった1症例. 日本臨床外科学会総会 (第72回) (横浜), 2010. 11.
- 269) 上田純志, 菅 隼人, 松本智司, 小泉岐博, 佐々木順平, 内田英二 : 顔面皮膚転移を契機に診断されたS状結腸癌の1例. 日本臨床外科学会総会 (第72回) (横浜), 2010. 11.
- 270) 川野陽一, 中村慶春, 谷合信彦, 松本智司, 峯田 章, 吉岡正人, 上田純志, 吉田 寛, 内田英二 : 当科における鏡視下肝切除術の手術成績と新しいデバイスを用いた手技の考案. 日本臨床外科学会総会 (第72回) (横浜), 2010. 11.
- 271) 野村 務, 牧野浩司, 萩原信敏, 藤田逸郎, 加藤俊二, 松本智司, 中村慶春, 金澤義一, 桜澤信行, 小野寺浩之, 小泉里奈, 宮下正夫, 内田英二 : 巨大食道裂孔ヘルニアに対する腹腔鏡下手術の経験. 日本臨床外科学会総会 (第72回) (横浜), 2010. 11.
- 272) 松谷 毅, 吉田 寛, 丸山 弘, 横山 正, 鈴木成治, 松下 晃, 平方敦史, 馬越通信, 若林秀幸, 早川朋宏, 金谷洋平, 内田英二, 笹島耕二 : 当科における腹腔位胸腔鏡下食道切除術の現状. 日本臨床外科学会総会 (第72回) (横浜), 2010. 11.
- 273) 菅 隼人, 古川清憲, 鶴田宏之¹⁾, 松本智司, 山田岳史, 小泉岐博, 佐々木順平, 田尻 孝, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 外科) : S状結腸癌術後の後腹膜再発に対しS-1併用放射線療法が奏功した1例. 日本臨床外科学会総会 (第72回) (横浜), 2010. 11.
- 274) 相本隆幸, 内田英二, 中村慶春, 廣井 信, 山初和也, 松下 晃, 勝野 暁, 張 一光, 川本聖郎, 小林 匡¹⁾ (¹⁾ 小林病院) : IPMN由来の浸潤癌における外科治療成績. 日本臨床外科学会総会 (第72回) (横浜), 2010. 11.
- 275) 山田岳史, 内田英二, 古川清憲, 菅 隼人, 松本智司, 小泉岐博, 佐々木順平, 横井公良¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 外科) : クリニカルパスを使用した初期緩和治療と, チーム医療による高度緩和治療. 日本臨床外科学会総会 (第72回) (横浜), 2010. 11.
- 276) 菅 隼人, 古川清憲, 鶴田宏之¹⁾, 松本智司, 山田岳史, 小泉岐博, 佐々木順平, 田尻 孝, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 外科) : 開腹および鏡視下大腸癌術後の腸管運動麻痺に対する大建中湯 (DKT) の影響. 日本臨床外科学会総会 (第72回) (横浜), 2010. 11.
- 277) 牧野浩司, 宮下正夫, 野村 務, 萩原信敏, 松本智司, 中村慶春, 加藤俊二, 藤田逸郎, 金澤義一, 桜澤信行, 小野寺浩之, 勝田美和子¹⁾, 高橋 健¹⁾, 横井公良¹⁾, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 外科) : 安全を第一に考える当科の腹腔位胸腔鏡補助下食道切除術. 日本臨床外科学会総会 (第72回) (横浜), 2010. 11.
- 278) 松本智司, 菅 隼人, 山田岳史, 小泉岐博, 佐々木順平, 内田英二 : 直腸がんに対する腹腔鏡下側方郭清術. 日本臨床外科学会総会 (第72回) (横浜), 2010. 11.
- 279) 松本智司, 中村慶春, 菅 隼人, 山田岳史, 小泉岐博, 佐々木順平, 内田英二 : 経済性, 操作性にこだわった単孔式腹腔鏡下虫垂切除術. 日本臨床外科学会総会 (第72回) (横浜), 2010. 11.
- 280) 中村慶春, 内田英二, 相本隆幸, 松本智司, 廣井 信, 山初和也, 田尻 孝 : 標準術式としての腹腔鏡下膀胱尾部切除術. 日本臨床外科学会総会 (第72回) (横浜), 2010. 11.
- 281) 中村慶春, 内田英二, 松本智司, 廣井 信, 田尻 孝 : 先天性胆道拡張症の腹腔鏡下分流手術. 日本臨床外科

- 学会総会（第72回）（横浜），2010. 11.
- 282) 川野陽一，中村慶春，谷合信彦，松本智司，峯田 章，吉岡正人，吉田 寛，内田英二：スポンジスパーサーを用いた鏡視下肝切除術における手技と工夫. 日本臨床外科学会総会（第72回）（横浜），2010. 11.
- 283) 谷合信彦，吉田 寛，吉岡正人，峯田 章，川野陽一，上田純志，内田英二：胆管癌に対する肝離断，胆道再建時におけるインジゴカルミン胆管注入の有効性. 日本臨床外科学会総会（第72回）（横浜），2010. 11.
- 284) 山下直行¹⁾，柿沼大輔，菅野仁士，新井洋紀，宮下正夫，萩原信敏，加藤俊二，藤田逸郎（¹⁾ 坪井病院 外科）：再発胃癌に対する治療戦略 晩期再発や緩徐進展例に対する局所療法の介入. 日本臨床外科学会（第72回）（横浜），2010. 11.
- 285) 松下 晃¹⁾，松谷 毅¹⁾，川本聖郎¹⁾，丸山 弘¹⁾，横山 正¹⁾，平方敦史¹⁾，馬越通信¹⁾，若林秀幸¹⁾，早川朋宏¹⁾，鈴木成治¹⁾，金谷洋平¹⁾，吉田 寛¹⁾，笹島耕二¹⁾，内田英二（¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科）：BARD POLYSOFTを使用した鼠径ヘルニアに対する TAPP 法. 日本臨床外科学会総会（第72回）（横浜），2010. 11.
- 286) 小泉岐博，内田英二，菅 隼人，松本智司，山田岳史，佐々木順平，谷 杏彌，鈴木英之¹⁾（¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター）：腹腔鏡下低位前方切除術における直腸剥離と切離の手技. 日本臨床外科学会総会（第72回）（横浜），2010. 11.
- 287) 萩原信敏，牧野浩司，宮下正夫，野村 務，大川敬一，赤城一郎，篠塚恵理子，山下直行¹⁾，加藤俊二，藤田逸郎，金沢義一，桜澤信行，小野寺浩之，内田英二（¹⁾ 坪井病院 外科）：他臓器浸潤（T4）食道癌に対しての総合的治療戦略として，副作用低減を目指した放射線化学療法の検討. 日本臨床外科学会総会（第72回）（横浜），2010. 11.
- 288) 山田岳史，内田英二，古川清憲，菅 隼人，松本智司，金沢義一，小泉岐博，佐々木順平，横井公良¹⁾（¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 外科）：パスを利用した外科医による標準的初期緩和治療の確立 標準化による質の向上と外科医の負担軽減を目指して. 日本臨床外科学会総会（第72回）（横浜），2010. 11.
- 289) 加藤俊二，小野寺浩之，桜澤信行，金沢義一，山下直行，牧野浩司，奥田武志，木山輝郎，吉行俊郎，藤田逸郎，内田英二：Oncologic Emergency から見た緩和医療の実際と消化器症状を併存する他診療科症例に消化器外科医がどこまで関与できるか. 日本臨床外科学会総会（第72回）（横浜），2010. 11.
- 290) 松谷 毅¹⁾，吉田 寛¹⁾，丸山 弘¹⁾，若林秀幸¹⁾，松下 晃¹⁾，鈴木成治¹⁾，横山 正¹⁾，平方敦史¹⁾，馬越通信¹⁾，早川朋宏¹⁾，金谷洋平¹⁾，内田英二，笹島耕二¹⁾（¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科）：経皮内視鏡的胃瘻造設術が困難な高度進行食道癌に対し腹腔鏡下胃瘻造設術を施行した1例. 日本臨床外科学会総会（第72回）（横浜），2010. 11.
- 291) 川野陽一，吉田 寛，真々田裕宏，谷合信彦，峯田 章，吉岡正人，柿沼大輔，上田純志，田尻 孝，内田英二：当科における門脈圧亢進症に対する PSE の位置づけ. PHF（第25回）（横浜），2010. 11.
- 292) 川野陽一，谷合信彦，中村慶春，松本智司，峯田 章，吉岡正人，上田純志，吉田 寛，内田英二：当科での鏡視下肝切除術における手技とデバイスの工夫（スポンジスパーサーの有用性）. 肝臓内視鏡外科研究会（第4回）（横浜），2010. 11.
- 293) 工藤秀徳¹⁾，横井公良¹⁾，真々田裕宏¹⁾，瀬谷知子¹⁾，堀場光二¹⁾，鶴田宏之¹⁾，白川 毅¹⁾，勝田美和子¹⁾，高橋 健¹⁾，勝野 暁¹⁾，川東 豊¹⁾，向後英樹¹⁾，近藤亮太¹⁾，田中宣威¹⁾，古川清憲（¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 外科）：当院における結腸直腸手術と SSI. 日本外科感染症学会総会（第23回）（東京），2010. 11.
- 294) 中村慶春，内田英二，松本智司，野村 務，牧野浩司，廣井 信，有馬保生，田尻 孝：より安全で確実な腹腔鏡下手術を目指して：汎用性鏡視下手術用スポンジスパーサーの腹腔鏡下胆嚢摘出術における有用性. 日本臨床外科学会総会（第72回）（横浜），2010. 11.
- 295) 相本隆幸，内田英二，宮本正章¹⁾，田端泰彦²⁾，徳永 昭³⁾（¹⁾ 日本医科大学 内科，²⁾ 京都大学再生医科研究所 生体材料学分野，³⁾ 日本大学武蔵小杉病院 消化器病センター）：臍液瘻なき臍消化管吻合術をめざして：

- bFGF 含浸ゼラチンハイドロゲル投与の意義. 日本創傷治癒学会 (第 40 回) (東京), 2010. 12.
- 296) 野村好美, 村上正洋, 土佐真美子, 徳永 昭¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 看護部,²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 形成外科,³⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 院内の創傷管理におけるゲートキーパーとしての看護婦の役割. 日本創傷治癒学会 (第 40 回) (東京), 2010. 12.
- 297) 山田岳史, 内田英二, 松本智司, 横井公良¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科): クリニカルパスによるフェンタニルパッチの投与. 日本クリニカルパス学会学術集会 (第 11 回) (松山), 2010. 12.
- 298) 武田幸樹, 相本隆幸, 吉岡正人, 石渡俊行, 内藤善哉, 宮下正夫, 内田英二: 上行結腸間膜由来の脱分化型脂肪肉腫の 1 例. 日本消化器病学会関東支部例会 (第 312 回) (東京), 2010. 12.
- 299) 原絵津子, 牧野浩司, 野村 務, 萩原信敏, 小泉里奈, 宮下正夫, 内田英二: 術中の経食道エコー挿入が原因と考えられる食道穿孔の 1 例. 外科集談会 (第 819 回) (東京), 2010. 12.
- 300) 和田由大¹⁾, 小峯 修¹⁾, 三島圭介¹⁾, 八木亜記¹⁾, 黒田誠司¹⁾, 野村 聡¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 千原直人¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 内田英二 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 腸回転異常症を合併した腹腔鏡下手術 2 例. 外科集談会 (第 819 回) (東京), 2010. 12.
- 301) 八木亜記¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 千原直人¹⁾, 野村 聡¹⁾, 三浦克洋¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 小峯 修¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 星野有哉¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 内田英二 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 睪頭十二指腸切除・Child 再建後の輸入脚狭窄に対する内視鏡的治療. 日本内視鏡学会関東地方会 (第 91 回) (東京), 2010. 12.
- 302) 松田範子¹⁾, 黄川田信允¹⁾, 野口裕幸¹⁾, 木山輝郎, 内田英二, 桐木園子²⁾, 太良良平²⁾, 高木 元²⁾, 宮本正章²⁾, 坂本篤裕^{1,3)}, 徳永 昭⁴⁾ (1) 日本医科大学 ME 部, 2) 日本医科大学 内科・再生医療科, 3) 日本医科大学 麻酔科, 4) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 末梢動脈疾患による難治性潰瘍・壊死治療の進歩: 骨髄血管新生療法と高気圧酸素良医法の併用治療効果について. 日本高気圧環境・潜水医学会学術総会 (第 45 回) (岡山), 2010. 12.
- 303) 菅 隼人, 内田英二, 松本智司, 山田岳史, 小泉岐博, 佐々木順平, 谷 杏彌, 古川清憲: 進行直腸癌に対する S-1 を併用した術前化学放射線療法 of の検討. 大腸癌研究会 (第 74 回) (福岡), 2011. 1.
- 304) 菅野仁士¹⁾, 山下直行¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 小澤俊文²⁾, 内田英二 (1) 坪井病院 外科, 2) 坪井病院 消化器科): 下部消化管内視鏡検査食を摂食後に発生し, 保存的に加療しえた特発性食道破裂の 1 例. 日本消化器内視鏡学会東北支部例会 (第 146 回) (仙台), 2011. 2.
- 305) 岩井拓磨¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 横山 正¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 松下 晃¹⁾, 平方敦史¹⁾, 高尾嘉宗¹⁾, 馬越通信¹⁾, 早川朋宏¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 内田英二 (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科): 右腎静脈内への迷入を認めた魚骨の 1 例. 日本消化器病学会関東支部例会 (第 313 回) (東京), 2011. 2.
- 306) 橋本知実¹⁾, 樽原義之¹⁾, 金沢秀典¹⁾, 糸川典夫¹⁾, 近藤千紗¹⁾, 福田 健¹⁾, 松下洋子¹⁾, 城所秀子¹⁾, 小林玲樹¹⁾, 厚川正則¹⁾, 中塚雄久¹⁾, 坂本長逸¹⁾, 原 敬介, 松本智司, 内田英二 (1) 日本医科大学 消化器内科): TIPS による大量脱水焼失後に外科的切除が可能となった大腸癌合併肝硬変の 1 例. 日本消化器病学会関東支部例会 (第 313 回) (東京), 2011. 2.
- 307) 片野雄大, 金沢義一, 藤田逸郎, 桜澤信行, 小野寺浩之, 山初和也, 加藤俊二, 内田英二: 早期胃がんを合併した多発性過誤層の 1 例. 日本消化器病学会関東支部例会 (第 313 回) (東京), 2011. 2.
- 308) 松本智司, 中村慶春, 菅 隼人, 山田岳史, 小泉岐博, 佐々木順平, 内田英二: 当科における単孔式腹腔鏡下結腸切除術. 単孔式内視鏡手術研究会 (第 3 回) (東京), 2011. 2.
- 309) 松本智司, 中村慶春, 野村 務, 牧野浩司, 菅 隼人, 山田岳史, 小泉岐博, 佐々木順平, 内田英二: 教育機関における単孔式鏡視下虫垂切除術. 単孔式内視鏡手術研究会 (第 3 回) (東京), 2011. 2.
- 310) 山田岳史, 内田英二, 松本智司, 菅 隼人: 胃癌, 大腸癌に対するクリニカルパスを用いた初期疼痛治療. 日本消化管学会総会学術集会 (第 7 回) (京都), 2011. 2.

- 311) 黒田誠司¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 三浦克洋¹⁾, 内田英二¹⁾ (日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 腹腔鏡下切除を施行した遺残虫垂炎の1例. 日本消化管学会総会学術集会(第7回)(京都), 2011. 2.
- 312) 松信哲朗¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 三浦克洋¹⁾, 黒田誠司¹⁾, 一色彩子²⁾, 石井英昭³⁾, 内田英二¹⁾ (日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 放射線科, ³⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 病理部): 診断に難渋した直腸異物肉芽種の1例. 日本消化管学会総会学術集会(第7回)(京都), 2011. 2.
- 313) 辰口篤志^{1,2)}, 三井啓吾¹⁾, 進士誠一, 米沢真理¹⁾, 瀬尾継彦¹⁾, 高橋陽子¹⁾, 江原彰仁¹⁾, 小林 剛¹⁾, 田中 周¹⁾, 藤森俊二¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (日本医科大学消化器内科, ²⁾ 日本医科大学解析人体病理): 大腸癌における Heregulin の発現と臨床病理的意義. 日本消化管学会総会学術集会 (第7回)(京都), 2011. 2.
- 314) 菅 隼人, 松本智司, 山田岳史, 小泉岐博, 佐々木順平, 古川清憲, 内田英二: S-1 を併用した術前化学放射線療法を行った進行直腸癌症例の検討. 日本消化管学会総会学術集会 (第7回)(京都), 2011. 2.
- 315) 保田智彦, 内田英二, 山田岳史, 横井公良¹⁾, 高橋 健¹⁾ (日本医科大学千葉北総病院 外科): S-1/Bevacizumab 療法が奏功した大腸癌の1例. 日本消化管学会総会学術集会 (第7回)(京都), 2011. 2.
- 316) 鈴木成治¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 横山 正¹⁾, 松下 晃¹⁾, 平方敦史¹⁾, 高尾嘉宗¹⁾, 馬越通信¹⁾, 早川朋宏¹⁾, 津久井拓²⁾, 松久威史²⁾, 内田英二¹⁾ (日本医科大学多摩永山病院 外科, ²⁾ 日本医科大学多摩永山病院 消化器科): パクリタキセルを全身化学療法に用いた切除不能・再発胃癌症例の検討. 日本胃癌学会総会 (第83回)(青森), 2011. 3.
- 317) 山田岳史, 内田英二, 金沢義一, 横井公良¹⁾ (日本医科大学千葉北総病院 外科): 術後再発胃癌に対するオキシコドンの効果: クリニカルパスを使用した悪心嘔吐の予防. 日本胃癌学会総会 (第83回)(青森), 2011. 3.
- 318) 藤田逸郎, 加藤俊二, 菅野仁士, 小野寺浩之, 櫻澤信行, 金澤義一, 木山輝郎, 吉行俊郎, 内田英二: 腹腔鏡補助下胃切除におけるデバイス関連合併症に関する検討. 日本胃癌学会総会 (第83回)(青森), 2011. 3.
- 319) 白川 毅¹⁾, 横井公良¹⁾, 横室茂樹¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 堀場光二¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 田中宣威¹⁾, 大秋美治²⁾, 内田英二¹⁾ (日本医科大学千葉北総病院 外科, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院 病理部): StageIV 胃癌症例に対する化学療法後胃切除術の臨床成績. 日本胃癌学会総会 (第83回)(青森), 2011. 3.
- 320) 坊 英樹¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 小峯 修¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 渡邊昌則¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 内田英二¹⁾ (日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 80歳以上高齢者胃癌手術症例の検討. 日本胃癌学会総会 (第83回)(青森), 2011. 3.
- 321) 藤田逸郎, 木山輝郎, 菅野仁士, 小野寺浩之, 櫻澤信行, 金澤義一, 萩原信敏, 牧野浩司, 野村 務, 加藤俊二, 吉行俊郎, 内田英二: 高齢化社会における胃がんの治療戦略. 日本胃癌学会総会 (第83回)(青森), 2011. 3.
- 322) 松谷 毅¹⁾, 内田英二, 鈴木成治¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 横山 正¹⁾, 松下 晃¹⁾, 平方敦史¹⁾, 高尾嘉宗¹⁾, 馬越通信¹⁾, 早川朋宏¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 笹島耕二¹⁾ (日本医科大学多摩永山病院 外科): 高齢者胃癌に対する腹腔鏡手術の短期成績. 日本胃癌学会総会 (第83回)(青森), 2011. 3.
- 323) 松谷 毅¹⁾, 内田英二, 鈴木成治¹⁾, 平方敦史¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 横山 正¹⁾, 松下 晃¹⁾, 馬越通信¹⁾, 高尾嘉宗¹⁾, 早川朋宏¹⁾, 菊池友太¹⁾, 笹島耕二¹⁾ (日本医科大学多摩永山病院 外科): 術前 S-1/Cisplatin 併用化学療法が奏功し切除し得た高度進行 CA19-9 産生性胃癌の1例. 日本胃癌学会総会 (第83回)(青森), 2011. 3.
- 324) 金澤義一, 加藤俊二, 藤田逸郎, 櫻澤信行, 小野寺浩之, 内田英二: StageIV 胃癌腹膜播種における S-1・Docetaxel 交替療法の成績. 日本胃癌学会総会 (第83回)(青森), 2011. 3.
- 325) 山下直行¹⁾, 柿沼大輔¹⁾, 菅野仁士¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 加藤俊二, 藤田逸郎, 金澤義一, 櫻澤信行, 小野寺浩之, 萩原信敏, 牧野浩司, 宮下正夫, 内田英二¹⁾ (坪井病院 外科): 腹腔動脈瘤を同時に切除した胃癌の1例. 日本胃癌学会総会 (第83回)(青森), 2011. 3.

- 326) 前島颯太郎¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 小峯 修¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 噴門胃切除術後のダブルトラクト再建法. 日本胃癌学会総会 (第 83 回) (青森), 2011. 3.
- 327) 小野寺浩之, 加藤俊二, 藤田逸郎, 金澤義一, 櫻澤信行, 菅野仁士, 木山輝郎, 吉行俊郎, 内田英二: 胃癌術前化学療法施行中の Oncologic Emergency とその対応. 日本胃癌学会総会 (第 83 回) (青森), 2011. 3.
- 328) 加藤俊二, 藤田逸郎, 小野寺浩之, 櫻澤信行, 萩原信敏, 金澤義一, 山下直行¹⁾, 木山輝郎, 牧野浩司, 野村 務, 吉行輝郎, 内田英二 (¹⁾ 坪井病院 外科): 基礎疾患別にみた初発胃癌発見までの経緯とその病气, 治療: 多診療科が抱える院内紹介例の問題点と対策. 日本胃癌学会総会 (第 83 回) (青森), 2011. 3.
- 329) 高橋 健^{1,2)}, 金澤義一, 山田岳史, 白川 毅¹⁾, 横井公良¹⁾, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 外科, ²⁾ 平成立石病院 外科): 80 歳以上高齢者の胃癌手術症例の検討. 日本胃癌学会総会 (第 83 回) (青森), 2011. 3.
- (9) ビデオセッション:
- 1) 鈴木英之¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 松信哲郎¹⁾, 三浦克洋¹⁾, 近藤恭司¹⁾, 和田和由¹⁾, 菅 隼人, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 合併症の減少と QOL, ストーマ管理を考慮したストーマ造設法の工夫. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 65 回) (静岡), 2010. 11.
- (10) ミニシンポジウム:
- 1) 川野陽一, 吉田 寛, 谷谷信彦, 峯田 章, 神田知洋, 上田純志, 村田 智¹⁾, 汲田伸一郎¹⁾, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学 放射線科): 当科における肝細胞癌に対する術後肝不全予防を目的とした術前門脈塞栓術. 日本肝胆膵外科学会 (第 22 回) (仙台), 2010. 5.
- 2) 相本隆幸, 内田英二, 中村慶春, 廣井 信, 山初和也, 松下 晃, 勝野 暁, 張 一光, 川本聖郎, 小林 匡¹⁾ (¹⁾ 小林病院): 炎症性膵頭腫大を伴う慢性膵炎症例に対する外科的治療. 日本肝胆膵外科学会 (第 22 回) (仙台), 2010. 5.
- 3) 谷谷信彦, 吉田 寛, 川野陽一, 神田知洋, 石川義典, 上田純志, 峯田 章, 内田英二: BLAKE Silicon Drain を用いたショートステント法による生体肝移植時胆道再建. 日本肝胆膵外科学会 (第 22 回) (仙台), 2010. 5.
- 4) 中村慶春, 内田英二, 相本隆幸, 松本智司, 廣井 信, 山初和也, 徐 吉夫¹⁾, 井上利樹¹⁾, 田尻 孝 (¹⁾ 株式会社ホギメディカル): 当科における腹腔鏡下膵切除術式の工夫について. 日本肝胆膵外科学会 (第 22 回) (仙台), 2010. 5.
- (11) 追加ワークショップ:
- 1) 山田岳史¹⁾, 古川清憲¹⁾, 横井公良¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 金沢義一¹⁾, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 外科): 抗体時代の大腸癌化学療法: 抗体療法による緊急症. 日本消化管学会総会学術集会 (第 6 回) (福岡), 2010. 2.
- (12) 特別ビデオセッション:
- 1) 中村慶春, 内田英二, 相本隆幸, 廣井 信, 山初和也, 松本智司, 田尻 孝: 腹腔鏡下垂体尾部切除術. 日本外科学会定期学術集会 (第 110 回) (名古屋), 2010. 4.

[多摩永山病院消化器外科・乳腺外科・一般外科]

研究概要

「研究体制とその現状」研究目的: 臨床上の疑問点をテーマとし臨床研究で得られた結果をフィードバックさせ, 治療成績の向上を目指す. 研究体制: 消化器系臓器別に上部消化管, 下部消化管, 肝・胆・膵の 3 領域における病態生理, 臨床病理的研究を行う体制をとっている. 研究課題は, 癌に関連するものが多い. 手術手技, 腹腔鏡下手術な

ど外科特有のものもある。研究者は、自分の診療における専門領域に関する研究課題を見出しテーマとしている。研究材料、方法：診療業務から得た臨床データ、血液、組織、臓器等を材料としている。病理組織学的方法を用いる場合には、当院病理部との共同研究となる。分子生物学的方法を用いる場合は、武蔵小杉病院・老人病研究所の協力、文部科学省、厚生労働省の科学研究補助金による研究、多施設共同研究、日本がん臨床試験推進機構主導の臨床試験にも参画している。

研究結果の公表：各医学会地方会、総会、多摩地域の研究会で発表する。あるいは、原著、症例報告、著書等に論文として公表する。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 松谷 毅, 内田英二¹⁾, 丸山 弘, 松田明久, 笹島耕二 (1) 臓器病態制御外科学)：食道癌手術における腹腔鏡下胃管作製と再建術. 日医大医会誌 2010；6 (2)：84-87.
- 2) 松谷 毅, 内田英二¹⁾, 丸山 弘, 松田明久, 笹島耕二 (1) 外科学第一)：食道癌手術における吸収性ポリ乳酸製骨固定ピンを用いた肋骨内固定法. 外科 2010；72 (6)：623-626.

(2) 総説：

- 1) 吉田 寛, 平方敦史, 笹島耕二, 真々田裕宏¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 峯田 章¹⁾, 川野陽一¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 外科学第一)：難治性腹水に対する腹腔-静脈シャント. 外科 2010；72 (8)：829-833.
- 2) 吉田 寛, 平方敦史, 笹島耕二, 真々田裕宏¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 峯田 章¹⁾, 川野陽一¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 外科学第一)：脾摘か部分脾動脈塞栓術 (PSE) か. 肝胆脾 2010；61 (2)：243-247.
- 3) 吉田 寛, 田尻 孝¹⁾, 笹島耕二, 真々田裕宏¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 外科学第一)：食道胃静脈瘤. 外科 2010；72 (12)：1273-1278.

(3) 症例報告：

- 1) Suzuki S, Maeda S¹⁾, Sasajima K, Yoshida H, Yokoyama T, Maruyama H, Matsutani T, Liu A¹⁾, Hosone M¹⁾, Tanno M¹⁾, Uchida E²⁾ (1) Dept. of Pathology, Tama-Nagayama Hospital, 2) First Dept. of Surgery)：Malignant Granular Cell Tumor in the Gluteal Region With Unusual Pathologic Features. International Surgery 2010；95 (4)：360-365.
- 2) Uetama T, Yoshida H, Hirakata A, Yokoyama T, Maruyama H, Suzuki S, Matsutani T, Matsushita A, Sasajima K, Uchida E¹⁾ (1) First Dept. of Surgery)：A Symptomatic Giant Hepatic Hemangioma Treated with Hepatectomy. J Nippon Med Sch 2011；78 (1)：34-39.
- 3) 松谷 毅, 内田英二¹⁾, 吉田 寛, 鈴木成治, 丸山 弘, 片山博徳²⁾, 細根 勝²⁾, 笹島耕二 (1) 外科学第一, 2) 多摩永山病院病理部)：肺腺癌同時性胃転移の1例. 癌の臨床 2010；56 (5)：407-412.
- 4) 松谷 毅, 内田英二¹⁾, 丸山 弘, 松田明久, 笹島耕二 (1) 外科学第一)：食道癌術後乳び胸に対し胸腔鏡下胸管クリッピング術と octreotide 投与が有効であった1例. 外科 2010；72 (7)：763-765.
- 5) 松谷 毅, 内田英二¹⁾, 丸山 弘, 笹島耕二 (1) 外科学第一)：腹臥位胸腔鏡下食道切除術の導入と2手術例の経験. 日本内視鏡外科学会雑誌 2010；15 (4)：477-481.
- 6) 松谷 毅, 内田英二¹⁾, 丸山 弘, 若林秀幸, 吉田 寛, 笹島耕二 (1) 外科学第一)：経皮内視鏡的胃瘻造設術が困難な高度進行食道癌に対し腹腔鏡下胃瘻造設術を施行した1例. 日医大医会誌 2010；6 (4)：190-192.
- 7) 松谷 毅, 内田英二¹⁾, 丸山 弘, 松下 晃, 松田明久, 笹島耕二 (1) 外科学第一)：同時性食道胃早期重複癌に対し minimally invasive surgery を行った1例. 臨床外科 2010；65 (10)：1445-1450.
- 8) 松谷 毅, 内田英二¹⁾, 丸山 弘, 鈴木成治, 横山 正, 松下 晃, 平方敦史, 川本聖郎, 新井洋紀, 馬越通信, 若林秀幸, 笹島耕二 (1) 外科学第一)：Docetaxel/Nedaplatin/5-Fluorouracil 併用化学放射線療法が奏効し切除

し得た高度進行食道胃接合部癌の1例. 癌と化学療法 2010; 37 (10) : 1949-1952.

- 9) 松谷 毅, 内田英二¹⁾, 吉田 寛, 丸山 弘, 鈴木成治, 横山 正, 松下 晃, 川本聖郎, 新井洋紀, 笹島耕二 (1) 外科学第一): 化学放射線療法後の再発および遺残食道癌に対しサルベージ療法としてアルゴンプラズマ凝固法を行った3例. 日本消化器病学会雑誌 2010; 107 (11) : 1786-1790.

著 書

〔追加分〕

追加分:

- 1) 吉田 寛:〔共著〕11. 肝臓疾患: 肝外門脈閉塞症. 今日の消化器疾患治療指針 (第3版), 2010; pp634-636, 医学書院.
- 2) 吉田 寛:〔共著〕8. 腹部・消化器系の症候: 門脈圧亢進症. 今日の診断指針 (第6版), 2010; pp348-349, 医学書院.

学会発表

追加分一般講演:

- 1) 馬越通信, 笹島耕二, 吉田 寛, 横山 正, 丸山 弘, 鈴木成治, 松谷 毅, 松下 晃, 平方敦史, 川本聖郎, 新井洋紀, 若林秀幸: 脾動脈瘤を合併した慢性脾炎に対し Frey 手術を行った1例. 城西外科研究会 (第80回) (調布), 2010. 3.

(1) 特別講演:

- 1) 吉田 寛: 外科医が治す肝臓の病気. 多摩市健康セミナー (第17回) (多摩), 2010. 9.
- 2) 吉田 寛: PSE の理論と実践. 東北食道・胃静脈硬化療法研究会 (第22回) (福島), 2010. 9.

(2) シンポジウム:

- 1) 松下 晃, 笹島耕二, 松谷 毅, 丸山 弘, 鈴木成治, 横山 正, 吉田 寛, 中村慶春¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 外科学第一): 脾臓における neuropilin-1 を治療標的とした浸潤, 転移の制御. 日本消化器外科学会総会 (第65回), 2010. 7.

(3) ワークショップ:

- 1) 横山 正, 笹島耕二, 吉田 寛, 丸山 弘, 鈴木成治, 松谷 毅, 松下 晃, 平方敦史, 馬越通信, 早川朋宏, 若林秀幸, 金谷洋平, 内田英二¹⁾ (1) 外科学第一): 脾頭十二指腸切除術後の縫合不全対策-リリアバックを用いた膵管外瘻チューブ持続吸引の有用性-. 日本臨床外科学会総会 (第72回), 2010. 11.
- 2) 丸山 弘, 笹島耕二, 松谷 毅, 横山 正, 鈴木成治, 松下 晃, 平方敦史, 馬越通信, 早川朋宏, 吉田 寛, 古川清憲¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 外科学第一): 当院における耐性菌制御対策. 日本外科感染症学会総会学術集会 (第23回), 2010. 11.

(4) 一般講演:

- 1) Matsutani T, Matsuda A, Yoshida H, Uchida E¹⁾, Miyashita M¹⁾, Tsujimura Y²⁾, Kutsukake M²⁾, Tamura K²⁾, Sasajima K (1) First Dept. of Surgery, 2) Dept. Endocrine Pharmacology, Tokyo Univ. Pharmacy and Life Sciences): A role of PPAR γ agonist in salutary effects on omental adipocyte functions following polymicrobial sepsis. Annual Conference on Shock (33th) (Portland, Oregon), 2010. 6.
- 2) Matsutani T, Uchida E¹⁾, Yoshida H, Maruyama H, Yokoyama T, Suzuki S, Matsushita A, Hirakata A, Kawamoto M, Arai H, Umakoshi M, Wakabayashi H, Sasajima K (1) First Dept. of Surgery): Trial of chemoradiotherapy with docetaxel, nedaplatin and 5-fluorouracil in patients with locally advanced squamous cell carcinoma of the esophagus. World Congress of the International Society for Diseases of the Esophagus

- (12th) (Kagoshima), 2010. 9.
- 3) Arai H, Uchida E¹⁾, Matsutani T, Maruyama H, Suzuki S, Yokoyama T, Matsushita A, Hirakata A, Kawamoto M, Umakoshi M, Wakabayashi H, Yoshida H, Sasajima K (¹⁾ First Dept. of Surgery) : Endoscopic removal of a large inflammatory polyp in esophagogastric anastomosis after esophagectomy. World Congress of the International Society for Diseases of the Esophagus (12th) (Kagoshima), 2010. 9.
 - 4) Wakabayashi H, Uchida E¹⁾, Matsutani T, Maruyama H, Matsuda A, Suzuki S, Yokoyama T, Matsushita A, Hirakata A, Kawamoto M, Arai H, Umakoshi M, Yoshida H, Sasajima K (¹⁾ First Dept. of Surgery) : A case of chylothorax following esophagectomy successfully treated by thoracoscopy assisted thoracic duct clipping and octeotide administration. World Congress of the International Society for Diseases of the Esophagus (12th) (Kagoshima), 2010. 9.
 - 5) Matsutani T, Uchida E¹⁾, Yoshida H, Maruyama H, Tsuchiya Y, Yokoyama T, Suzuki S, Matsushita A, Hirakata A, Arai H, Umakoshi M, Wakabayashi H, Sasajima K (¹⁾ First Dept. of Surgery) : A case of metastasis to reconstructed gastric tube from esophageal squamous cell carcinoma. World Congress of the International Society for Diseases of the Esophagus (12th) (Kagoshima), 2010. 9.
 - 6) Matsutani T, Uchida E¹⁾, Yoshida H, Maruyama H, Kawamoto M, Yokoyama T, Suzuki S, Matsushita A, Hirakata A, Matsuda A, Arai H, Umakoshi M, Wakabayashi H, Sasajima K (¹⁾ First Dept. of Surgery) : A case of brain metastasis from primary asymptomatic esophageal adenocarcinoma. World Congress of the International Society for Diseases of the Esophagus (12th) (Kagoshima), 2010. 9.
 - 7) Ishikawa Y, Fujii S, Seki N, Hara K, Tani ai N, Yoshida H, Uchida E : Clinical trial : Prospective randomized control study on new treatment of hypoperistalsis in patients who underwent transarterial chemoembolization. UEGW 2010 (Spain), 2010. 10.
 - 8) Ishikawa Y, Hara K, Fujii S, Seki N, Tani ai N, Yoshida H, Shimizu A, Uchida E : Short-term perioperative oral nutrition support with branched chain amino acids improve survival rate in a rat hepatectomy model. UEGW 2010 (Spain), 2010. 10.
 - 9) Ishikawa Y, Fujii S, Seki N, Nakamura Y, Tani ai N, Yoshida H, Uchida E : New treatment for acute colonic pseudo-obstruction with traditional Japanese medicine. UEGW 2010 (Spain), 2010. 10.
 - 10) 鈴木成治, 笹島耕二, 丸山 弘, 横山 正, 松谷 毅, 松下 晃, 平方敦史, 川本聖郎, 西 佳史, 新井洋紀, 若林秀幸, 津久井拓¹⁾, 内田英二²⁾ (¹⁾ 多摩永山病院消化器科, ²⁾ 外科学第一) : 分子標的療法時代の高度進行・再発大腸癌に対する全身化学療法の治療方針. 日本外科学会定期学術集会 (第110回), 2010. 4.
 - 11) 松谷 毅, 内田英二¹⁾, 松田明久, 丸山 弘, 鈴木成治, 横山 正, 杉浦 篤, 松下 晃, 川本聖郎, 新井洋紀, 若林秀幸, 笹島耕二 (¹⁾ 外科学第一) : 術前 PPAR γ リガンド投与による抗炎症作用 : マウス腹膜炎モデルにおける脂肪細胞機能に着目して. 日本外科学会定期学術集会 (第110回), 2010. 4.
 - 12) 川本聖郎, 松谷 毅, 松下 晃, 丸山 弘, 横山 正, 平方敦史, 新井洋紀, 馬越通信, 若林秀幸, 鈴木成治, 吉田 寛, 笹島耕二, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 外科学第一) : リコイルリング内蔵のライトウェイトメッシュ (バードポリソフト) を用いた TAPP 法. 日本ヘルニア学会学術集会 (第8回), 2010. 4.
 - 13) 松下 晃, 松谷 毅, 川本聖郎, 丸山 弘, 横山 正, 平方敦史, 新井洋紀, 馬越通信, 若林秀幸, 鈴木成治, 吉田 寛, 笹島耕二, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 外科学第一) : 併存する鼠径および大腿ヘルニア門の確認と Prolene Hernia System を用いた修復方法. 日本ヘルニア学会学術集会 (第8回), 2010. 4.
 - 14) 松谷 毅, 内田英二¹⁾, 川本聖郎, 新井洋紀, 丸山 弘, 鈴木成治, 横山 正, 松下 晃, 平方敦史, 松田明久, 若林秀幸, 野村 務¹⁾, 笹島耕二 (¹⁾ 外科学第一) : 化学放射線療法後の遺残および再発食道癌に対しサルベージ療法としてアルゴンプラズマ凝固法を行った3例. 日本消化器内視鏡学会総会 (第79回), 2010. 5.
 - 15) 横山 正, 笹島耕二, 吉田 寛, 丸山 弘, 鈴木成治, 松谷 毅, 松下 晃, 平方敦史, 川本聖郎, 新井洋紀,

- 馬越通信, 若林秀幸, 内田英二¹⁾ (1) 外科学第一): 3年にわたる全身化学療法後にR0切除を施行し得たStage IVb 膵頭部癌の1例. 日本肝胆膵外科学会・学術集会(第22回), 2010. 5.
- 16) 松下 晃, 笹島耕二, 吉田 寛, 横山 正, 鈴木成治, 丸山 弘, 松谷 毅, 平方敦史, 新井洋紀, 馬越通信, 若林秀幸, 内田英二¹⁾ (1) 外科学第一): 憩室内翻縫縮術, 乳頭形成術, 胃空腸吻合術を施行したLemmel症候群の2手術例. 日本肝胆膵外科学会・学術集会(第22回), 2010. 5.
- 17) 川本聖郎, 笹島耕二, 吉田 寛, 横山 正, 丸山 弘, 松谷 毅, 松下 晃, 平方敦史, 新井洋紀, 馬越通信, 若林秀幸, 内田英二¹⁾ (1) 外科学第一): PET陽性を示し胆嚢癌との鑑別が困難であった黄色肉芽腫性胆嚢炎の1例. 日本肝胆膵外科学会・学術集会(第22回), 2010. 5.
- 18) 馬越通信, 笹島耕二, 吉田 寛, 横山 正, 丸山 弘, 鈴木成治, 松谷 毅, 松下 晃, 平方敦史, 川本聖郎, 新井洋紀, 若林秀幸, 汲田伸一郎¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学放射線科, 2) 外科学第一): 脾動脈瘤に対してTAE施行後, Frey手術を行った慢性膵炎の1例. 日本肝胆膵外科学会・学術集会(第22回), 2010. 5.
- 19) 丸山 弘, 松谷 毅, 横山 正, 鈴木成治, 松下 晃, 平方敦史, 川本聖郎, 吉田 寛, 笹島耕二, 内田英二¹⁾ (1) 外科学第一): 腹腔鏡補助下大腸切除術におけるSSIの検討. 日本消化器外科学会総会(第65回), 2010. 7.
- 20) 横山 正, 松下 晃, 川本聖郎, 丸山 弘, 鈴木成治, 松谷 毅, 平方敦史, 新井洋紀, 笹島耕二, 内田英二¹⁾ (1) 外科学第一): 当施設における膵頭十二指腸切除術クリニカルパス作成への検討. 日本消化器外科学会総会(第65回), 2010. 7.
- 21) 松谷 毅, 丸山 弘, 鈴木成治, 横山 正, 松下 晃, 平方敦史, 川本聖郎, 吉田 寛, 内田英二¹⁾, 笹島耕二 (1) 外科学第一): 胸部食道癌術後再発に対するDocetaxelを用いた化学療法および化学放射線療法. 日本消化器外科学会総会(第65回), 2010. 7.
- 22) 平方敦史, 笹島耕二, 鈴木成治, 横山 正, 丸山 弘, 松谷 毅, 松下 晃, 若林秀幸, 吉田 寛, 内田英二¹⁾ (1) 外科学第一): 腸管合併切除を要した巨大小腸間膜線維腫症の1例. 日本消化器外科学会総会(第65回), 2010. 7.
- 23) 鈴木成治, 笹島耕二, 丸山 弘, 横山 正, 松谷 毅, 松下 晃, 平方敦史, 川本聖郎, 吉田 寛, 内田英二¹⁾ (1) 外科学第一): 当科の高度進行・再発大腸癌症例におけるCetuximabの使用状況. 日本消化器外科学会総会(第65回), 2010. 7.
- 24) 杉浦 篤, 笹島耕二, 松谷 毅, 丸山 弘, 鈴木成治, 横山 正, 松下 晃, 平方敦史, 吉田 寛, 内田英二¹⁾ (1) 外科学第一): 腸閉塞で発症した盲腸腺扁平上皮癌の1例. 日本消化器外科学会総会(第65回), 2010. 7.
- 25) 若林秀幸, 笹島耕二, 松谷 毅, 丸山 弘, 鈴木成治, 横山 正, 松下 晃, 平方敦史, 吉田 寛, 内田英二¹⁾ (1) 外科学第一): 胃原発扁平上皮癌の1例. 日本消化器外科学会総会(第65回), 2010. 7.
- 26) 松谷 毅, 内田英二¹⁾, 丸山 弘, 鈴木成治, 横山 正, 松下 晃, 能勢隆之²⁾, 小林由子²⁾, 吉田 寛, 笹島耕二 (1) 外科学第一, 2) 多摩永山病院放射線治療科): 75歳以上の高齢者食道癌に対するDocetaxel/5-FU/Nedaplatin併用化学放射線療法の検討. 日本食道学会学術集会(第64回), 2010. 8.
- 27) 新井洋紀, 内田英二¹⁾, 松谷 毅, 丸山 弘, 鈴木成治, 横山 正, 東 直行²⁾, 津久井拓³⁾, 吉田 寛, 笹島耕二 (1) 外科学第一, 2) 多摩永山病院皮膚科, 3) 多摩永山病院消化器科): 慢性多型痒疹で発見した進行食道扁平上皮癌の1例. 日本食道学会学術集会(第64回), 2010. 8.
- 28) 丸山 弘, 松谷 毅, 笹島耕二, 鈴木成治, 松下 晃, 平方敦史, 新井洋紀, 若林秀幸, 吉田 寛, 内田英二¹⁾ (1) 外科学第一): 食道癌術後感染症における治療抗菌薬の選択. 日本食道学会学術集会(第64回), 2010. 8.
- 29) 松谷 毅, 内田英二¹⁾, 丸山 弘, 土屋喜一¹⁾, 鈴木成治, 横山 正, 新井洋紀, 若林秀幸, 吉田 寛, 笹島耕二 (1) 外科学第一): 再建胃管に転移再発した食道扁平上皮癌の1例. 日本食道学会学術集会(第64回), 2010. 8.
- 30) 松谷 毅, 内田英二¹⁾, 丸山 弘, 川本聖郎, 鈴木成治, 横山 正, 松下 晃, 平方敦史, 吉田 寛, 笹島耕二 (1) 外科学第一): 転移性脳腫瘍摘出後の原発巣検索で発見された食道腺癌の1例. 日本食道学会学術集会(第

64回), 2010. 8.

- 31) 若林秀幸, 内田英二¹⁾, 松谷 毅, 丸山 弘, 松田明久, 鈴木成治, 横山 正, 新井洋紀, 吉田 寛, 笹島耕二 (1) 外科学第一): 食道癌術後乳び胸に対し胸腔鏡下胸管クリッピングとオクトレオチドが有効であった1例. 日本食道学会学術集会 (第64回), 2010. 8.
- 32) 早川朋宏, 吉田 寛, 丸山 弘, 横山 正, 鈴木成治, 松谷 毅, 松下 晃, 笹島耕二: 後腹膜線維症の1例. 城西外科研究会 (第81回), 2010. 9.
- 33) 鈴木成治, 笹島耕二, 吉田 寛, 横山 正, 丸山 弘, 松谷 毅, 松下 晃, 平方敦史, 松久威史¹⁾, 津久井拓¹⁾, 劉 愛民²⁾, 細根 勝²⁾, 丹野正隆²⁾, 内田英二³⁾ (1) 多摩永山病院消化器科, 2) 多摩永山病院病理部, 3) 外科学第一): 消化管間質腫瘍 (GIST) 肝転移巣におけるメシル酸イマチニブ投与後の病理組織学的変化. 日本外科病理学会学術集会 (第15回), 2010. 10.
- 34) 松谷 毅, 内田英二¹⁾, 吉田 寛, 川本聖郎, 鈴木成治, 丸山 弘, 横山 正, 松下 晃, 平方敦史, 新井洋紀, 馬越通信, 若林秀幸, 笹島耕二¹⁾ (1) 外科学第一): 胃癌術後再発による挙上空腸狭窄と Schnitzler 転移に対し self-expandable metallicstent をそれぞれに留置した1例. 日本消化器内視鏡学会総会 (第80回), 2010. 10.
- 35) 松谷 毅, 内田英二¹⁾, 吉田 寛, 丸山 弘, 鈴木成治, 横山 正, 松下 晃, 平方敦史, 川本聖郎, 新井洋紀, 馬越通信, 若林秀幸, 笹島耕二 (1) 外科学第一): Docetaxel/Nedaplatin/5-FU 併用化学放射線療法を行った80歳以上の高齢者進行食道癌の3例. 日本消化器病学会大会 (第52回), 2010. 10.
- 36) 鈴木成治, 笹島耕二, 吉田 寛, 丸山 弘, 横山 正, 松谷 毅, 松下 晃, 平方敦史, 新井洋紀, 馬越通信, 若林秀幸, 松久威史¹⁾, 津久井拓¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 多摩永山病院消化器科, 2) 外科学第一): S1/CDDP 療法を施行した切除不能・高度進行胃癌症例における後治療の検討. 日本消化器病学会大会 (第52回), 2010. 10.
- 37) 横山 正, 笹島耕二, 吉田 寛, 丸山 弘, 鈴木成治, 松谷 毅, 松下 晃, 平方敦史, 川本聖郎, 新井洋紀, 馬越通信, 若林秀幸, 内田英二¹⁾ (1) 外科学第一): 切除不能進行膀胱癌におけるゲムシタビン (GEM)/カペシタビン (CAP) 併用療法の検討. 日本消化器病学会大会 (第52回), 2010. 10.
- 38) 松下 晃, 笹島耕二, 吉田 寛, 松谷 毅, 鈴木成治, 丸山 弘, 横山 正, 平方敦史, 馬越通信, 若林秀幸, 内田英二¹⁾ (1) 外科学第一): 特発性大網血腫の1例. 日本内視鏡外科学会総会 (第23回), 2010. 10.
- 39) 松谷 毅, 丸山 弘, 吉田 寛, 横山 正, 鈴木成治, 松下 晃, 平方敦史, 新井洋紀, 馬越通信, 若林秀幸, 内田英二¹⁾, 笹島耕二 (1) 外科学第一): 腹臥位胸腔鏡下食道切除術における胸腔内操作の現状. 日本内視鏡外科学会総会 (第23回), 2010. 10.
- 40) 早川朋宏, 内田英二¹⁾, 松谷 毅, 平方敦史, 鈴木成治, 丸山 弘, 横山 正, 松下 晃, 馬越通信, 若林秀幸, 金谷洋平¹⁾, 吉田 寛, 笹島耕二 (1) 外科学第一): 腹腔鏡下切除を施行した胃神経鞘腫の1例. 日本内視鏡外科学会総会 (第23回), 2010. 10.
- 41) 松谷 毅, 丸山 弘, 吉田 寛, 横山 正, 松下 晃, 平方敦史, 馬越通信, 若林秀幸, 鈴木成治, 内田英二¹⁾, 笹島耕二 (1) 外科学第一): 食道癌手術における腹腔鏡下胃管作製術. 日本内視鏡外科学会総会 (第23回), 2010. 10.
- 42) 丸山 弘, 松谷 毅, 横山 正, 鈴木成治, 松下 晃, 平方敦史, 馬越通信, 若林秀幸, 早川朋宏, 吉田 寛, 笹島耕二, 内田英二¹⁾ (1) 外科学第一): 直腸脱に対する腹腔鏡下直腸固定術の検討. 日本内視鏡外科学会総会 (第23回), 2010. 10.
- 43) 馬越通信, 内田英二¹⁾, 松谷 毅, 丸山 弘, 鈴木成治, 横山 正, 松下 晃, 平方敦史, 若林秀幸, 早川朋宏, 金谷洋平¹⁾, 吉田 寛, 笹島耕二 (1) 外科学第一): 85歳高齢者の残胃癌に対し腹腔鏡下残胃全摘術を施行した1例. 日本内視鏡外科学会総会 (第23回), 2010. 10.
- 44) 松谷 毅, 丸山 弘, 吉田 寛, 横山 正, 鈴木成治, 松下 晃, 平方敦史, 内田英二¹⁾, 笹島耕二 (1) 外科学第一): 胸部食道癌手術における腹腔鏡下胃管作製と再建術. 日本胸部外科学会定期学術集会 (第63回), 2010. 10.

- 45) 鈴木成治, 笹島耕二, 吉田 寛, 松谷 毅, 丸山 弘, 松下 晃, 平方敦史, 新井洋紀, 馬越通信, 若林秀幸, 津久井拓¹⁾, 松久威史¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 多摩永山病院消化器科, ²⁾ 外科学第一) : 切除不能・再発胃癌に対する2次治療以降でのタキサン系抗癌剤使用の意義. 日本癌治療学会学術集会 (第48回), 2010. 10.
- 46) 松谷 毅, 吉田 寛, 鈴木成治, 丸山 弘, 横山 正, 松下 晃, 平方敦史, 能勢隆之¹⁾, 小林由子¹⁾, 内田英二²⁾, 笹島耕二 (1) 多摩永山病院放射線治療科, ²⁾ 外科学第一) : 高齢者食道癌に対する Docetaxel/5-FU/Nedaplatin 併用化学放射線療法を試み. 日本癌治療学会学術集会 (第48回), 2010. 10.
- 47) 川本聖郎, 松谷 毅, 松下 晃, 丸山 弘, 横山 正, 平方敦史, 新井洋紀, 馬越通信, 若林秀幸, 鈴木成治, 吉田 寛, 笹島耕二, 内田英二¹⁾ (1) 外科学第一) : 鼠径ヘルニアに対する TAPP 法における BARD POLY-SOFT の使用経験. 日本内視鏡外科学会総会 (第23回), 2010. 10.
- 48) 金谷洋平, 内田英二¹⁾, 吉田 寛, 松谷 毅, 横山 正, 丸山 弘, 松下 晃, 平方敦史, 馬越通信, 若林秀幸, 早川朋宏, 鈴木成治, 笹島耕二 (1) 外科学第一) : 肝内胆管拡張を伴った巨大肝嚢胞に対し腹腔鏡下肝嚢胞天蓋除去術を施行した1例. 日本内視鏡外科学会総会 (第23回), 2010. 10.
- 49) 松下 晃, 松谷 毅, 川本聖郎, 丸山 弘, 横山 正, 平方敦史, 馬越通信, 若林秀幸, 早川朋宏, 鈴木成治, 金谷洋平, 吉田 寛, 笹島耕二, 内田英二¹⁾ (1) 外科学第一) : BARD POLYSOFT を使用した鼠径ヘルニアに対する TAPP 法. 日本臨床外科学会総会 (第72回), 2010. 11.
- 50) 松谷 毅, 吉田 寛, 丸山 弘, 横山 正, 鈴木成治, 松下 晃, 平方敦史, 馬越通信, 若林秀幸, 早川朋宏, 金谷洋平, 内田英二¹⁾, 笹島耕二 (1) 外科学第一) : 当科における腹臥位胸腔鏡下食道切除術の現状. 日本臨床外科学会総会 (第72回), 2010. 11.
- 51) 鈴木成治, 笹島耕二, 吉田 寛, 丸山 弘, 横山 正, 松谷 毅, 松下 晃, 平方敦史, 新井洋紀, 馬越通信, 若林秀幸, 早川朋宏, 津久井拓¹⁾, 松久威史¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 多摩永山病院消化器科, ²⁾ 外科学第一) : 切除不能・再発胃癌症例の2次治療におけるタキサン系抗癌剤の位置付け. 日本臨床外科学会総会 (第72回), 2010. 11.
- 52) 松谷 毅, 吉田 寛, 丸山 弘, 鈴木成治, 横山 正, 松下 晃, 平方敦史, 馬越通信, 若林秀幸, 早川朋宏, 金谷洋平, 内田英二¹⁾, 笹島耕二 (1) 外科学第一) : 高齢者 (75歳以上) 食道癌に対する Docetaxel/Netaplatin/5-FU 併用化学放射線療法の検討. 日本臨床外科学会総会 (第72回), 2010. 11.
- 53) 丸山 弘, 笹島耕二, 松谷 毅, 横山 正, 鈴木成治, 松下 晃, 平方敦史, 馬越通信, 早川朋宏, 吉田 寛, 内田英二¹⁾ (1) 外科学第一) : 腸閉塞にて切除術を施行した静脈硬化性大腸炎の1例. 日本臨床外科学会総会 (第72回), 2010. 11.
- 54) 松谷 毅, 吉田 寛, 丸山 弘, 若林秀幸, 松下 晃, 鈴木成治, 横山 正, 平方敦史, 馬越通信, 早川朋宏, 金谷洋平, 内田英二¹⁾, 笹島耕二 (1) 外科学第一) : 経皮内視鏡的胃瘻造設術が困難な高度進行食道癌対し腹腔鏡下胃瘻造設術を施行した1例. 日本臨床外科学会総会 (第72回), 2010. 11.
- 55) 松下 晃, 笹島耕二, 吉田 寛, 横山 正, 鈴木成治, 丸山 弘, 松谷 毅, 馬越通信, 早川朋宏, 若林秀幸, 金谷洋平, 中村慶春¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 外科学第一) : Choledochocoele に合併した胆管ポリープの1例. 日本臨床外科学会総会 (第72回), 2010. 11.
- 56) 丸山 弘, 松谷 毅, 笹島耕二, 横山 正, 鈴木成治, 松下 晃, 平方敦史, 若林秀幸, 早川朋宏, 吉田 寛, 内田英二¹⁾ (1) 外科学第一) : 下行結腸に発症した神経鞘腫の1例. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第65回), 2010. 11.
- 57) 馬越通信, 内田英二¹⁾, 吉田 寛, 松谷 毅, 鈴木成治, 丸山 弘, 横山 正, 松下 晃, 平方敦史, 若林秀幸, 早川朋宏, 金谷洋平, 笹島耕二 (1) 外科学第一) : 胃癌術後リンパ節再発による吻合部狭窄に対し十二指腸ステント留置を施行した1例. 日本臨床外科学会総会 (第72回), 2010. 11.
- 58) 馬越通信, 笹島耕二, 吉田 寛, 横山 正, 丸山 弘, 鈴木成治, 松谷 毅, 松下 晃, 平方敦史, 早川朋宏, 若林秀幸, 内田英二¹⁾ (1) 外科学第一) : Docetaxel+Cyclophosphamide+Capecitabine 療法にて奏効し, 一般的

に治癒切除しえた巨大乳癌の1例. 日本臨床外科学会総会 (第72回), 2010. 11.

- 59) 若林秀幸, 内田英二¹⁾, 吉田 寛, 松谷 毅, 鈴木成治, 新井洋紀, 丸山 弘, 横山 正, 松下 晃, 平方敦史, 馬越通信, 早川朋宏, 金谷洋平, 笹島耕二 (1) 外科学第一): 胃癌腹部動脈周囲リンパ節転移と鑑別を要した神経鞘腫の1例. 日本臨床外科学会総会 (第72回), 2010. 11.
- 60) 馬越通信, 笹島耕二, 吉田 寛, 横山 正, 丸山 弘, 鈴木成治, 松谷 毅, 松下 晃, 平方敦史, 高尾嘉宗, 早川朋宏, 岩井拓磨: 診断が困難であった腓尾側腫瘍の1例. 多摩肝胆膵クラブ (第15回) (新宿), 2010. 11.
- 61) 丸山 弘, 城戸竜一¹⁾, 関根 愛¹⁾, 菅谷量俊¹⁾ (1) 多摩永山病院感染対策委員会): 積極的監視培養を用いた耐性菌制御対策. 日本環境感染学会総会 (第26回), 2011. 2.
- 62) 高尾嘉宗, 吉田 寛, 横山 正, 丸山 弘, 鈴木成治, 松谷 毅, 松下 晃, 平方敦史, 馬越通信, 早川朋宏, 笹島耕二: 止血に難渋した肝動脈胆管瘻の1例. 城西外科研究会 (第82回) (調布), 2011. 2.
- 63) 鈴木成治, 笹島耕二, 松谷 毅, 吉田 寛, 丸山 弘, 横山 正, 松下 晃, 平方敦史, 高尾嘉宗, 馬越通信, 早川朋宏, 津久井拓¹⁾, 松久威史¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 多摩永山病院消化器科, 2) 外科学第一): パクリタキセルを全身化学療法に用いた切除不能・再発胃癌症例の検討. 日本胃癌学会総会 (第83回), 2011. 3.
- 64) 松谷 毅, 内田英二¹⁾, 鈴木成治, 丸山 弘, 横山 正, 松下 晃, 平方敦史, 高尾嘉宗, 馬越通信, 早川朋宏, 吉田 寛, 笹島耕二 (1) 外科学第一): 高齢者胃癌に対する腹腔鏡手術の短期成績. 日本胃癌学会総会 (第83回), 2011. 3.
- 65) 松谷 毅, 内田英二¹⁾, 鈴木成治, 平方敦史, 丸山 弘, 横山 正, 松下 晃, 馬越通信, 高尾嘉宗, 早川朋宏, 菊池友太, 笹島耕二 (1) 外科学第一): 術前 S-1/Cisplatin 併用化学療法が奏効し切除し得た高度進行 CA19-9 産生性胃癌の1例. 日本胃癌学会総会 (第83回), 2011. 3.

(5) 招請講演:

- 1) Yoshida H : General Rules for Recording Endoscopic Findings of Esophagogastric Varices in Japan. Symposium on Gastrointestinal Endoscopy (Jakarta, Indonesia), 2010. 12.
- 2) Yoshida H : Management and Endoscopic Treatment for Bleeding Esophagogastric Varices in Japan. Symposium on Gastrointestinal Endoscopy (Jakarta, Indonesia), 2010. 12.

[千葉北総病院外科]

研究概要

消化器外科および一般外科領域における基礎的, 臨床的研究を行い, その成果を学会や学会誌等で報告しており, 食道癌, 胃癌, 大腸癌をはじめとする消化器癌に対して, 外科的治療とともに術前, 術後の化学療法, 放射線療法などを併用した集学的治療も行っている.

1. 消化器疾患に対する内視鏡治療, 特に早期胃癌に対する EMR, ESD 早期大腸癌に対する EMR, 胆道疾患に対する内視鏡治療, 閉塞性黄疸や癌再発に対する消化管狭窄に対する内視鏡的ステント挿入等, さらには食道静脈瘤に対する内視鏡的治療や内視鏡的胃瘻設術も行っている.

2. 腹腔鏡手術は胆嚢摘出術のみならず, 早期胃癌に対しても行っており, 大腸癌では早期から進行癌まで適応拡大しつつあります.

3. 開腹手術はエビデンスに基づき食道癌や肝胆膵の悪性腫瘍含めた消化器癌全般に対し積極的に行い, 若い外科医の経験, 育成に力を注いでいる. 各種学会の修練施設としての機能を十分に発揮すべく努力している.

4. EBM に基づいた医療を行うのみならず, 新たな EBM を作るべく, 癌化学療法を中心に臨床試験を積極的に行っている.

5. 基礎研究としては, (1) 大腸癌リンパ節微小転移の臨床的意義とメカニズム, (2) 大腸内分泌細胞癌の培養細

胞を作成し、その特性と治療方法、(3) 抗癌剤感受性試験の有用性、消化器癌化学療法を中心となる5-FUについて、臨床材料を用いた胃癌、大腸癌における5-FU代謝酵素の役割、(4) 多剤併用療法が行われる胃癌、大腸癌における等において研究を行っている。

研究業績

論文

〔追加分〕

追加分症例報告：

- 1) 工藤秀徳, 古川清憲, 横井公良, 真々田裕宏, 瀬谷知子, 堀場光二, 金沢義一, 山田岳史, 白川 毅, 田中宣威, 田尻 孝¹⁾ (1) 日本医科大学第一外科) : CTにて術前診断し得た閉鎖孔ヘルニア. 日本腹部救急医学会雑誌 2009 ; 29 (3) : 517-520.

(1) 原著：

- 1) 山田岳史¹⁾, 内田英二¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 松本智司¹⁾, 金沢義一¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 佐々木順平¹⁾, 横井公良 (1) 日本医科大学外科) : 終末期大腸癌における oncologic emergency に対する予後予測に基づいた所期治療計画. 日本腹部救急医学会雑誌 2010 ; 30 (6) : 805-808.

(2) 症例報告：

- 1) Shirakawa T, Yokoi K, Seya T, Yoshioka M, Ohaki Y²⁾, Uchida E¹⁾ (1) Surgery for Organ Function and Biological Regulation, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, 2) Institute of Pathology, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital) : A Case of Extrahepatic Bile Duct Wall Recurrence of Gastric Carcinoma that Was Treated with Pancreaticoduodenectomy. J Nippon Med Sch 2010 ; 77 (3) : 170-174.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) T Seya, N Tanaka, K Yokoi, Y Mamada, K Horiba, H Tsuruta, T Shirakawa, Y Takahashi, M Yoshioka, S Shinji, M Katsuta, Y Oaki¹⁾, E Uchida²⁾ (1) Dept. Pathology, Chiba Hokusoh HP, Inzai, 2) Dept. Surgery, Nippon Medical School, Tokyo Japan) : Expression of Emmprin, VEGF, VEGF2 and VEGF3 in Colorectal Cancer with Livermetastasis. United European Gastroenterology Week (18th) (Barcelona), 2010. 10.
- 2) K Horiba, N Tanaka, K Yokoi, T Seya, T Shirakawa, H Makino¹⁾, T Nomura¹⁾, M Miyashita¹⁾, E Uchida¹⁾, Y Ohaki²⁾ (1) Surgery, Nippon Medical School, Tokyo, 2) Pathology, Nippon Medical School, Chiba, Japan) : An Immunohistochemical Study of Emmprin and Monocarboxylate Transporter 1 in Esophageal Squamous Cell Carcinoma. United European Gastroenterology Week (18th) (Barcelona), 2010. 10.
- 3) 山田岳史, 古川清憲, 横井公良, 真々田裕宏, 金沢義一, 白川 毅, 吉岡正人, 清水哲也, 高橋 健, 赤城一郎, 内田英二¹⁾ (1) 付属病院 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門)) : 大腸癌化学療法における抗癌剤感受性試験の役割—PK/PD理論を応用したテラー. 日本外科学会定期学術集会 (第110回), 2010. 4.
- 4) 堀場光二, 田中宣威, 横井公良, 瀬谷知子, 白川 毅, 宮下正夫¹⁾, 野村 務¹⁾, 牧野浩司¹⁾, 内田英二¹⁾, 大秋美治²⁾ (1) 付属病院 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門), 2) 千葉北総病院 病理部) : 食道扁平上皮癌における EMMPRIN/CD147, MMP-9 の発現. 日本外科学会定期学術集会 (第110回), 2010. 4.
- 5) 吉岡正人¹⁾, 真々田裕宏, 平方敦史, 清水哲也, 近藤亮太, 横井公良, 谷合信彦¹⁾, 吉田 寛²⁾, 内田英二¹⁾ (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門), 2) 多摩永山病院 外科) : 臍頭十二指腸切除後の難治性胆汁瘻に対し無水エタノール注入 (biliary ablation) が有効であった1例臍頭十二指腸切除後の難治性胆汁瘻に対し無水

- エタノール注入 (biliary ablation) が有効であった1例. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第22回), 2010. 5.
- 6) 平方敦史, 吉岡正人, 清水哲也, 柿沼大輔, 青木悠人, 山田岳史, 金沢義一, 古川清憲, 真々田裕宏, 内田英二¹⁾ (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): 巨大多発肝嚢胞の1切除例臍頭十二指腸切除後の難治性胆汁瘻に対し無水エタノール注入 (biliary ablation) が有効であった1例. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第22回), 2010. 5.
- 7) 近藤亮太, 真々田裕宏, 吉岡正人, 清水哲也, 横井公良, 内田英二¹⁾ (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): 腺粘性嚢胞腫瘍の性質を有した粘液胆管嚢胞腺腫の1切除例臍頭十二指腸切除後の難治性胆汁瘻に対し無水エタノール注入 (biliary ablation) が有効であった1例. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第22回), 2010. 5.
- 8) 白川 毅: 高度進行胃癌症例に対する化学療法後胃切除手術の検討. 千葉胃癌研究会 (第32回), 2010. 6.
- 9) 山田岳史, 横井公良, 真々田裕宏, 白川 毅, 吉岡正人, 鈴木英之²⁾, 金沢義一¹⁾, 古川清憲¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 付属病院 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門), ²⁾ 武蔵小杉病院消化器病センター): 大腸癌化学療法における個別化: 薬剤投与法の工夫による治療成績改善の可能性. 日本消化器外科学会 (第65回), 2010. 7.
- 10) 前島顕太郎¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 木山輝郎²⁾, 菅野仁士²⁾, 千原直人¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 古川清憲, 鈴木英之¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 武蔵小杉病院消化器病センター, ²⁾ 付属病院 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): 胃癌術後補助化学療法における抗瘤剤感受性試験の有用性. 日本消化器外科学会 (第65回), 2010. 7.
- 11) 高橋 健, 金沢義一¹⁾, 横井公良, 真々田裕宏, 白川 毅, 山田岳史, 田中宣威, 牧野浩司¹⁾, 古川清憲¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 付属病院 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): 当院における高齢者の胃癌手術. 日本消化器外科学会 (第65回), 2010. 7.
- 12) 高橋 健, 牧野浩司¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 野村 務¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 勝田美和子, 赤城一郎, 堀場光二, 内田英二¹⁾, 横井公良 (1) 付属病院 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): 当院の胸腔鏡下食道切除術 (VSTS-E): 左側臥位から腹臥位へ. 日本食道学会学術集会 (第64回), 2010. 8.
- 13) 牧野浩司¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 野村 務¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 赤城一郎¹⁾, 勝田美和子, 高橋 健, 横井公良, 岩切勝彦²⁾, 内田英二¹⁾ (1) 付属病院 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門), ²⁾ 付属病院 消化器内科): 当科の腹臥位食道切除術: 我々の方法と工夫. 日本食道学会学術集会 (第64回) (福岡), 2010. 8.
- 14) 牧野浩司¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 野村 務¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 河越哲郎¹⁾, 二神生爾²⁾, 植木信江²⁾, 岩切勝彦²⁾, 高橋 健, 内田英二¹⁾ (1) 付属病院 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門), ²⁾ 付属病院 消化器内科): T4.MO に対して行う副作用が少なく効果的な Neoadjuvant CRT (NCRT). 日本食道学会学術集会 (第64回) (福岡), 2010. 8.
- 15) 白川 毅, 横井公良, 真々田裕宏, 瀬谷知子, 堀場光二, 山田岳史, 工藤秀徳, 吉岡正人, 清水哲也, 勝野 暁, 高橋 健, 赤城一郎, 岩本美樹, 関 奈紀, 近藤亮太, その他2名: S-1+CDDP 併用化学療法後, 胃切除術を施行した高度進行胃癌症例の検討. 日本消化器外科学会大会 (第8回) (第18回日本消化器関連学会集会 [JDDW]), 2010. 10.
- 16) 山田岳史¹⁾, 内田英二¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 松本智司¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 佐々木順平¹⁾, 横井公良, 鈴木英之²⁾ (1) 日本医科大学外科, ²⁾ 日本医科大学外科武蔵小杉病院消化器病センター): Oxaliplatin による末梢神経障害に対する桂枝朮附湯とブシ末の効果. 日本癌治療学会学術集会 (第48回), 2010. 10.
- 17) 宮内英聡¹⁾, 落合武徳¹⁾, 松原久裕¹⁾, 田中宣威, 横井公良, 安田秀喜²⁾, 幸田圭史²⁾, 小林 進³⁾, 田中信孝⁴⁾, 海保 隆⁵⁾ (1) 千葉大学院先端応用外科, ²⁾ 帝京大学ちば総合医療センター外科, ³⁾ 千葉県立佐原病院外科, ⁴⁾ 国保旭中央病院外科, ⁵⁾ 君津中央病院外科): Dukes C 大腸癌に対する術後補助化学療法の探索的検討 (BCOG-CC01). 日本癌治療学会学術集会 (第48回), 2010. 10.
- 18) 瀬谷知子, 田中宣威, 横井公良, 真々田裕宏, 堀場光二, 鶴田宏之, 白川 毅, 高橋由至, 工藤秀徳, 進士誠一, 勝田美和子, 高橋 健, 勝野 暁, 川東 豊, 向後英樹, その他3名: 外科医が行う進行再発切除不能大腸癌

に対する化学療法. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 65 回), 2010. 11.

- 19) 堀場光二, 田中宣威, 横井公良, 瀬谷知子, 鶴田宏之, 工藤秀徳, 勝田美和子, 高橋由至, 大秋美治¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院病理部): 大腸憩室内癌の 1 症例. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 65 回), 2010. 11.
- 20) 川満健太郎, 田中宣威, 横井公良, 真々田裕宏, 瀬谷知子, 堀場光二, 鶴田宏之, 白川 毅, 高橋由至, 工藤秀徳, 進士誠一, 勝田美和子, 清水哲也, 勝野 暁, 高橋 健, その他 5 名: S 状結腸癌術後肝転移と診断し切除するも多結節融合型肝細胞癌と診断された 1 例. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 65 回), 2010. 11.
- 21) 妹尾麻代, 田中宣威, 横井公良, 瀬谷知子, 堀場光二, 鶴田宏之, 高橋由至, 工藤秀徳, 進士誠一, 勝田美和子, 大秋美治¹⁾, 小黒辰夫¹⁾, 岡田 進²⁾, 内田英二³⁾ (1) 千葉北総病院病理, 2) 千葉北総病院放射線科, 3) 日本医科大学第一外科): 直腸 low-grade myofibroblastic sarcoma の 1 例. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 65 回), 2010. 11.
- 22) 小泉岐博¹⁾, 内田英二¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 松本智司¹⁾, 佐々木順平¹⁾, 山田岳史¹⁾, 鈴木英之²⁾, 鶴田宏之 (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 武蔵小杉病院消化器病センター): 腹腔鏡下低位前方切除術における直腸剥離と切離の手技. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 65 回), 2010. 11.
- 23) 山田岳史¹⁾, 内田英二¹⁾, 古川清憲¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 松本智司¹⁾, 金沢義一¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 佐々木順平¹⁾, 横井公良 (1) 日本医科大学外科): パスを利用した外科医による標準的初期緩和治療の確立: 標準化による質の向上と外科医の負担軽減を目指して. 日本臨床外科学会総会 (第 72 回), 2010. 11.
- 24) 山田岳史¹⁾, 内田英二¹⁾, 古川清憲¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 松本智司¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 佐々木順平¹⁾, 横井公良 (1) 日本医科大学外科): クリニカルパスを使用した初期緩和治療と, チーム医療による高度緩和治療. 日本臨床外科学会総会 (第 72 回), 2010. 11.
- 25) 工藤秀徳, 横井公良, 真々田裕宏, 瀬谷知子, 堀場光二, 鶴田宏之, 白川 毅, 勝田美和子, 高橋 健, 勝野 暁, 川東 豊, 向後英樹, 近藤亮太, 田中宣威, 古川清憲¹⁾ (1) 日本医科大学外科): 当院における結腸直腸手術と SSI. 日本外科感染症学会総会 (第 23 回), 2010. 11.
- 26) 東園和哉, 横井公良, 内田英二¹⁾, 古川清憲¹⁾, 金沢義一¹⁾, 山田岳史¹⁾ (1) 日本医科大学外科): 肝転移を伴う大腸癌に対する FOLFOX サンドイッチ療法: 末梢神経障害により治療を完遂できなかった症例からの報告. 日本臨床外科学会 (第 72 回), 2010. 11.
- 27) 牧野浩司¹⁾, 野村 務¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 高橋 健, 横井公良, 岩切勝彦²⁾, 河越哲郎²⁾, 植木信江²⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学外科, 2) 日本医科大学消化器内科): これまでの食道癌鏡視下手術の問題点とそれに対する我々の方法と工夫. 日本消化管学会総会 (第 7 回), 2011. 2.
- 28) 保田智彦¹⁾, 内田英二¹⁾, 山田岳史¹⁾, 横井公良, 高橋 健 (1) 日本医科大学外科): S-1/Bevacizumab 療法が奏効した大腸癌の 1 例. 日本消化管学会総会 (第 7 回), 2011. 2.
- 29) 工藤秀徳, 横井公良, 横室茂樹, 瀬谷知子, 堀場光二, 鶴田宏之, 白川 毅, 勝田美和子, 勝野 暁, 川東 豊, 向後英樹, 高田英志, 坂田義則, 近藤亮太, 田中宣威: 当院における閉鎖孔ヘルニアの検討. 千葉ヘルニア研究会 (第 6 回), 2011. 2.
- 30) 白川 毅, 横井公良, 横室茂樹, 瀬谷知子, 堀場光二, 鶴田宏之, 田中宣威, 大秋美治¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院病理部, 2) 日本医科大学外科): StageIV 胃癌症例に対する化学療法後胃切除術の臨床成績. 日本胃癌学会総会 (第 83 回), 2011. 3.
- 31) 高橋 健²⁾, 金沢義一¹⁾, 山田岳史¹⁾, 白川 毅, 横井公良, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学外科, 2) 平成立石病院外科): 80 歳以上高齢者の胃癌手術症例の検討. 日本胃癌学会総会 (第 83 回), 2011. 3.
- 32) 山田岳史¹⁾, 内田英二¹⁾, 金沢義一¹⁾, 横井公良 (1) 日本医科大学外科): 術後再発胃癌に対するオキシコドンの効果: クリニカルパスを使用した悪心嘔吐の予防. 日本胃癌学会総会 (第 83 回), 2011. 3.

10. 外科学講座（内分泌・心臓血管・呼吸器部門）

[付属病院内分泌外科，心臓血管外科，呼吸器外科・千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科]

研究概要

外科学当講座は付属病院外科，武蔵小杉病院心臓血管・呼吸器・乳腺内分泌外科，千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科，多摩永山病院呼吸器外科の各施設において教育，研究，診療を担っている。付属病院外科では，以下の項目を重点的に研究している。(1) 心臓血管外科部門では，冠動脈バイパス術・後天性弁膜疾患・先天性心疾患・胸部および腹部大動脈瘤・末梢血管疾患・不整脈等年間 600 例以上の手術を行っている。虚血性心疾患外科治療の長期予後，心房細動に対する外科治療を中心とした不整脈外科，心筋保護法，小児開心術術後の肺機能等に関する研究を主体としている。胸部大動脈瘤手術成績の向上，重症虚血肢に対する治療法として基礎的・臨床的研究にも積極的に取り組んでいる。(2) 呼吸器外科領域では，肺癌外科治療を中心に年間約 200 例の手術を施行している。肺癌では 1994 年より低侵襲性手術である胸腔鏡手術を他に先駆けて導入し，高齢者，低身体機能予備力低下症例に応用し良好な成果をあげ，国内外で評価を受けている。併せて分子生物学，遺伝子解析による肺癌に対するオーダーメイド治療などの研究に国内外で従事している。肺縦隔良性疾患は胸腔鏡下手術を標準とし短期入院での治療による早い社会復帰に貢献している。(3) 内分泌外科領域では，甲状腺，副甲状腺，副腎疾患を中心に年間 300 例以上の手術を行っている。1998 年から内視鏡下手術として，副腎はもとより甲状腺，副甲状腺腫瘍摘出術に新しい術式の Video-assisted neck surgery (VANS 法) を国内外で最も早く取り組み，現在まで 500 例を越えており，この症例数は国内で最も多い。また 1999 年から，本術式は高度先進医療として国から許可されている。全国各地からの紹介患者も多く，また，海外からの評価も高く，毎年留学生を受け入れている。国際学会での発表，ライブ手術も頻回に行っている。さらには，分子生物学的研究を中心に最新の基礎研究も積極的に行っている。毎年，「チェルノブイリ原発事故後の甲状腺癌に対する医療支援活動」が 1999 年からおこなわれている。診断・治療支援の一環として，当地での甲状腺内視鏡手術が 2009 年から実施されている。毎年，学生・研修医も複数参加し，卒前卒後教育に貢献している。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Ad N¹⁾, Cheng D²⁾, Martin J³⁾, Pharmed³⁾, Msc (Hta&M)³⁾, Berglin E⁴⁾, Nitta T, Wolf R⁵⁾, Puskas J⁶⁾
(¹⁾ Department of Cardiac Surgery, Inova Heart and Vascular, (²⁾ Department of Anesthesia and Perioperative The University of Western Ontario, London, ON, Canada, (³⁾ High Impact Technology Evaluation Centre, London Health Sciences Centre, London, ON, Canada, (⁴⁾ Department of Cardiothoracic Surgery, Sahlgrenska University Hospital, Goteborg, Sweden, (⁵⁾ Deaconess Hospital, Cincinnati, OH USA, (⁶⁾ Division of Cardiothoracic Surgery, Emory University Atlanta, GA USA) : Surgical ablation for atrial fibrillation in cardiac surgery : A consensus statement of the international society of minimally invasive cardiothoracic surgery (ISMICS) 2009. Innovations 2010 ; 5 : 74-83.
- 2) Yoshimura A^{1,3)}, Shimura T^{1,3)}, Kim C²⁾, Ishikawa G²⁾, Haraguchi S⁴⁾, Ohno T⁵⁾, Hayashi H⁵⁾, Nakano H⁶⁾, Nitta T^{3,6)}, Takaoka M^{6,7)} (¹⁾ Academic Quality and Development Office, Nippon Medical School, (²⁾ Working Committee of the Clinical Simulation Laboratory, Nippon Medical School, (³⁾ Board of Education, Nippon Medical School, (⁴⁾ Department of Surgery, Nippon Medical School, (⁵⁾ Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, (⁶⁾ Management Committee of Medical Interns of Nippon Medical School Hospi-

- tal, ⁷⁾ Nursing Department, Nippon Medical School Hospital) : A training session in a clinical simulation laboratory for the acquisition of clinical skills by newly recruited medical interns. *J Nippon Med Sch* 2010 ; 77 : 209-213.
- 3) Fujii M, Miyagi Y, Bessho R, Nitta T, Ochi M, Shimizu K : Effect of a neutrophil elastase inhibitor on acute lung injury after cardiopulmonary bypass. *Interactive Cardiovascular Thoracic Surgery* 2010 ; 10(6) : 859-862.
 - 4) Fujimatsu T, Nitta T, Osawa H, Shimizu K : Serial Changes in Epicardial Electrograms During and After a Coronary Artery Occlusion. *General Thoracic and Cardiovascular Surgery* 2010 ; 58 : 323-330.
 - 5) Murata H, Miyauchi Y, Nitta T, Mizuno K : Electroanatomical Mapping-Guided Endocardial and Epicardial Ablation of Sustained Ventricular Tachycardia Originating From Alcohol Septal Ablation-Induced Scar in a Patient With Hypertrophic Obstructive Cardiomyopathy. *J Cardiovasc Electrophysiol* 2010 ; 21 : 1296-1299.
 - 6) Murata H¹⁾, Miyauchi Y¹⁾, Nitta T²⁾, Mizuno K¹⁾ (¹⁾ Division of cardiology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, ²⁾ Division of Cardiovascular Surgery, Department of Surgery, Nippon Medical School) : Electroanatomical Mapping-Guided Endocardial and Epicardial Ablation of Sustained Ventricular Tachycardia Originating From Alcohol Septal Ablation-Induced Scar in a Patient With Hypertrophic Obstructive Cardiomyopathy. *J Cardiovasc Electrophysiol* 2010 ; 21 : 1296-1299.
 - 7) Mikami I, Zhang F, Okamoto J, Koizumi K, Shimizu K, Jablons D, He B (¹⁾ Thoracic Oncology Program, Department of Surgery, University of California, San Francisco) : Inhibition of activated phosphatidylinositol 3-kinase/AKT pathway in malignant pleural mesothelioma leads to G1 cell cycle arrest. *Oncol Rep.* 2010 ; 24 : 1677-1681.
 - 8) Haraguchi S, Kozumi K, Hirata T, Hirai K, Mikami I, Kubokura H, Nakajima Y, Shimizu K : Surgical treatment of metachronous non-small cell lung cancer. *Ann Thorac Cardiovasc Surg* 2010 ; 16 : 319-325.
 - 9) 藤井正大, 神戸 将, 矢島俊巳, 落 雅美, 清水一雄, 別所竜藏 : 冠動脈バイパス術後の胸骨正中創感染に対する予防策. *日本外科感染症学会雑誌* 2010 ; 7 (3) : 191-196.
 - 10) 落 雅美 : 左冠動脈主幹部病変および重症3枝病変に対する治療法の選択 : 冠動脈バイパス術の妥当性. *循環器専門医* 2010 ; 18 (2) : 209-215.
 - 11) 落 雅美 : 私の考えるPCIとCABGの境界 : Electrical stormを発症した左冠動脈主幹部病変を有する下壁梗塞例に対して行った4枝off-pump CABG. *J Cardiol Jpn Ed* 2010 ; 5 (3) : 201-206.
 - 12) 落 雅美 : 橈骨動脈グラフト採取のコツ. *胸部外科* 2010 ; 63 (13) : 1122-1122.
- (2) 総説 :
- 1) 石井庸介, 坂本俊一郎, 新田 隆 : マッピングに基づく心房細動手術. *日本心臓血管外科学会雑誌* 2010 ; 39(5) : vi-viii.
 - 2) 山下浩二 : 乳腺内視鏡手術と3D-CT乳腺リンパ管造影<その1>乳腺内視鏡手術の整容性と根治性 Video-Assisted Breast Surgery and 3-Dimensional Computed Tomographic Mammary Lymphography <1> Aesthetic Results and Curability of Video-assisted Breast Surgery. *日医大医会誌* 2010 ; 6 (3) : 104-110.
 - 3) 山下浩二 : 乳腺内視鏡手術と3D-CT乳腺リンパ管造影<その2>3D-CT乳腺リンパ管造影によるセンチネルリンパ節生検 Video-Assisted Breast Surgery and 3-Dimensional Computed Tomographic Mammary Lymphography <2> Sentinel Node Biopsy with 3D-CT Mammary Lymphography. *日医大医会誌* 2010 ; 6 (3) : 111-117.
 - 4) 三上 徹, 小泉 潔 : 胸腔鏡下肺葉切除術 手術適応・合併症・予後について. *日本胸部臨床* 2010 ; 69 : 86-88.

- 5) 落 雅美：CABGにおけるグラフト吻合法. 胸部外科 2010；63 (8)：657-665.
- 6) 落 雅美, 安武正弘¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 第1内科)：わが国における虚血性心疾患の現状：内科と外科の立場から. HEART nursing 2010；23 (10)：18-23.
- 7) 新田 隆：器質的心疾患に伴う心室頻拍に対する外科的アブレーション. Heart View 2010；14：123-127.
- 8) 石井庸介, 新田 隆：肺静脈隔離術は有効な術式か？特集 心房細動に対する外科治療. 胸部外科 2010；63(4)：279-283.
- 9) 石井庸介, 清野精彦：心臓手術後の胸水. 呼吸器内科 2010；17 (4)：393-397.
- 10) 清水一雄：副甲状腺切除術. 臨床雑誌 外科 2011；73 (1)：6-11.
- 11) 新田 隆：不整脈の外科治療. 東京都医師会雑誌 2011；64：17-24.
- 12) 清水一雄：内分泌腫瘍：基礎・臨床研究のアップデート. 日本臨牀 2011；69 (創刊号2)：368-375.

(3) 症例報告：

- 1) Hirai K, Takeuchi S, Bessho R, Ohaki Y, Koizumi K, Shimizu K：Venous hemangioma of the anterior mediastinum. J Nippon Med Sch 2010；77 (2)：115-118.
- 1) 石井庸介：心臓外科手術後の心房細動に対する amiodarone の予防的投与. 討論2. 胸部外科 2011；64 (3)：179-186.
- 2) 新田 隆：田原淳に学ぶこと. 田原通信 2010.

著 書

- 1) Imura H¹⁾, Ascione R²⁾, Angelini G²⁾ (1) Department of Surgery, Division of Cardiovascular Surgery, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, (2) Bristol Heart Institute, Bristol University, Bristol, UK)：〔分担〕 Low-Frequency Mechanical Ventilation During Cardiopulmonary Bypass. Principles of Pulmonary Protection in Heart Surgery (Edmo Atique Gabriel, Tomas Salerno), 2010；pp367-375, Springer.
- 2) Imura H¹⁾, Ascione R²⁾, Angelini G²⁾ (1) Department of Surgery, Division of Cardiovascular Surgery, Nippon Medical School, (2) Bristol Heart Institute, Bristol University)：〔分担〕 Low-Frequency Mechanical Ventilation During Cardiopulmonary Bypass. Principles of Pulmonary Protection in Heart Surgery (Edmo Atique Gabriel, Tomas Salerno), 2010；pp367-375, Springer.
- 3) 岡田大輔¹⁾, 小泉 潔¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院外科学講座呼吸器外科)：〔分担〕 VIII. 胸部外傷の Knack & Pitfalls 4 胸膜損傷. 呼吸器外科 Knack & Pitfalls 専門医のための呼吸器外科の要点と盲点 II (横井香平, 櫻井裕幸), 2010；pp208-209, 文光堂.
- 4) 原口秀司, 小泉 潔：〔共著〕 胸部外傷の Knack & Pitfalls 1. 原因と頻度. 呼吸器外科 Knack & Pitfalls 専門医のための呼吸器外科の要点と盲点【II】(土屋了介・横井香平・櫻井裕幸), 2010；pp196-197, 文光堂.
- 5) 平井恭二, 小泉 潔：〔共著〕 胸部外傷の診断 Knack & Pitfall. 専門医のための呼吸器外科の要点と盲点 II Knack & Pitfall, 2010；pp199-203, 文光堂.
- 6) 新田 隆, 石川利之¹⁾ (1) 横浜国立大学附属病院)：〔編集〕 2010-2011 Data Book ペースメーカ ICD CRT (須磨幸蔵 田中茂夫), 2010；CE コーポレーション.
- 7) 井村 肇¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 心臓血管外科)：〔分担〕 第10章 先天性心疾患 (1) 心房中隔欠損症. 循環器内科学 (水野杏一, 安武正弘, 平山悦之), 2010；pp266-270, シュプリンガー・ジャパン.
- 8) 井村 肇¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 心臓血管外科)：〔分担〕 第10章 先天性心疾患 (7) 大動脈縮窄症. 循環器内科学 (水野杏一, 安武正弘, 平山悦之), 2010；pp286-289, シュプリンガー・ジャパン.
- 9) 平井恭二：〔自著〕 大血管病変を有する患者の呼吸器外科治療. 臓器不全を有する手術・管理診断と治療のコツと落とし穴, 2010；pp57-59.
- 10) 清水一雄：〔分担〕 第1部 病態と経静脈治療 B. 臓器別疾患 VII 内分泌疾患 9. クッシング症候群. 経静

脈治療：オーダーマニュアル，2011；pp323-327，株式会社メディカルレビュー社。

学会発表

〔追加分〕

追加分シンポジウム：

- 1) Shimizu K¹⁾ (1) Nippon Medical School) : New technology for diagnosis of thyroid malignancy-Usefulness of real-time tissue elastography. 4th Annual General Surgery Symposium & Workshop (Kingdom of Saudi Arabia), 2009. 3.
- 2) Shimizu K¹⁾ (1) Nippon Medical School) : Video assisted endoscopic thyroid and parathyroid surgery - proper techniques for cosmetic advantages and prevention of complications obtained from more than 400 cases experience. 4th Annual General Surgery Symposium & Workshop (Kingdom of Saudi Arabia), 2009. 3.
- 3) Shimizu K¹⁾ (1) Nippon Medical School) : Suitable indication for endoscopic total thyroidectomy and prophylactic lymph node clearance : experience of two cases. 4th Annual General Surgery Symposium & Workshop (Kingdom of Saudi Arabia), 2009. 3.

追加分パネルディスカッション：

- 1) Shimizu K¹⁾, Akazu H¹⁾, Igarashi Y¹⁾, Okamura R¹⁾, Jikuzono T¹⁾, Hames K¹⁾, Akaishi J¹⁾, Takema Y¹⁾ (1) Nippon Medical School) : Gassless endoscopic thyroid and parathyroid surgery using lifting procedure : appropriate techniques for cosmetic improvement and prevention of complications based on 420 cases experience. International Surgical Week ISW 2009 (Adelaide, Australia), 2009. 9.

追加分特別講演：

- 1) 落 雅美：CTO に対する冠血行再建のエビデンスと外科の役割. Joint Conference on Coronary Management (第12回) (京都), 2010. 1.
- 2) 石井庸介, 新田 隆, 坂本俊一郎, 仁科 大, 川瀬康裕, 落 雅美, 別所竜蔵, 清水一雄：外科用アブレーションデバイスを使用した心房細動手術は有効か？. 第10回葉山ハートセミナー (葉山), 2010. 3.

(1) 特別講演：

- 1) Yamashita K : Video-assisted Breast Surgery and 3D-CT Mammary Lymphography. Symposium at Department of Surgery, Faculty of Medicine, Prince of Songkhla University (Hatyai Songkhla, Thailand), 2010. 4.
- 2) 小泉 潔：間質性肺炎合併肺癌に対する外科治療. 東京がん化学療法研究会月例会 (東京都), 2010. 9.
- 3) 小泉 潔：オープン手術 VS 内視鏡手術：胸腔鏡下肺癌手術. 日本臨床外科学会 (第72回) (東京都), 2010. 11.
- 4) 清水一雄：甲状腺外科の最近の話題：特に内視鏡手術について. 第28回北海道甲状腺談話会 (北海道札幌市), 2010. 7.
- 5) 小泉 潔：間質性肺炎合併肺癌に対する外科治療. 福島県肺癌研究会 (第2回) (福島県郡山市), 2010. 7.
- 6) 新田 隆：心房細動の外科治療. 信濃町 Cardiac Surgery 研究会 (第6回) (東京), 2010. 7.
- 7) 石井庸介：外科用アブレーションデバイスを用いた心房細動手術と術後不整脈. 第20回寒風山ハートクラブ研究会 (秋田), 2010. 7.
- 8) 新田 隆：心房細動の外科治療. 岐阜心臓血管外科セミナー (岐阜), 2010. 10.
- 9) 石井庸介：術後心房細動の機序とマネージメント. 心臓外科 cutting edge forum (名古屋), 2010. 10.
- 10) 新田 隆：心房細動の手術の最近の動向. 荻窪の会 アカデミックミーティング (東京), 2010. 11.
- 11) 新田 隆：Pitfalls and knacks in AF Surgery. Kyusyu Arrhythmia Symposium 2010 (九州), 2010. 11.
- 12) 新田 隆：心房細動の外科治療. 3重循環器内科外科フォーラム (3重), 2011. 1.

- 13) 新田 隆：不整脈の外科治療. 汎日本海ライブデモンストレーション (第10回) (新潟), 2011. 2.
 - 14) 新田 隆：心房細動手術の落とし穴：難治例・無効例・限界例について. 阪神不整脈外科セミナー (大阪), 2011. 3.
- (2) 宿題講演：
- 1) 赤須東樹, 齊川雅久¹⁾ (1) 国立がんセンター東病院頭頸科)：甲状腺腫瘍診療ガイドライン「疫学」. 日本内分泌外科学会 (第22回) (大阪府千里市), 2010. 6.
- (3) 招待講演：
- 1) Nitta T：Intraoperative Mapping and Surgery for Ventricular Tachycardia. APHRS (3rd) (Jeju,KORIA), 2010. 10.
 - 2) Nitta T：Hybrid Therapy for Chronic AF. APHRS (3rd) (Jeju,KORIA), 2010. 10.
 - 3) 石井庸介：房室弁輪部の処理法. 第25回不整脈外科研究会 (舞浜), 2010. 2.
 - 4) 小泉 潔：肺癌に対する胸腔鏡下肺切除：基本手技との関連. 手術手技研究会 (第64回) (大阪府大阪市), 2010. 4.
- (4) 教育講演：
- 1) 小泉 潔：胸腔鏡下肺葉切除での肺血管損傷を考える. 日本呼吸器外科学会総会 (第27回) (仙台市), 2010. 5.
 - 2) 新田 隆：ハンズオンセミナー：心房細動手術のコツと落とし穴. 関西胸部外科学会 (第53回) (大阪), 2010. 6.
 - 3) 新田 隆：イブニングセッション：心房細動手術の最近の知見. 関西胸部外科学会 (第53回) (大阪), 2010. 6.
 - 4) 新田 隆：心房細動の外科治療. 近森病院講演会, 2010. 7.
 - 5) 新田 隆：心房細動の外科治療. 日本循環器学会北陸地方会 (第120回), 2010. 7.
 - 6) 新田 隆：不整脈の外科治療. 日本集中治療医学会リフレッシャーセミナー (第6回), 2010. 8.
 - 7) 落 雅美：冠血行再建のエビデンス. 心臓血管外科サマーセミナー (第1回) (軽井沢プリンスホテル), 2010. 9.
 - 8) 新田 隆：心房細動の術中マッピング所見と外科治療. 日本心電学会 (第27回) (大分), 2010. 10.
 - 9) 新田 隆：不整脈の外科治療. 日本医師会生涯教育講座, 2010. 10.
 - 10) 石井庸介, 新田 隆, 坂本俊一郎, 仁科 大, 川瀬康裕, 田上素子, 落 雅美, 別所竜蔵, 清水一雄：An Appropriate Use of Radiofrequency Ablation Devices and Intraoperative Verification of Conduction Block in AF Surgery. 第63回日本胸部外科学会定期学術集会 Techno-college (大阪), 2010. 10.
 - 11) 石井庸介：房室弁輪部アブレーションと縫合閉鎖. 第63回日本胸部外科学会定期学術集会. 7th Advanced Technology in Cardiovascular Surgery.(大阪), 2010. 10.
 - 12) 新田 隆：オーバービュー：心臓突然死とICD治療に関する現状と今後の問題点. デバイス関連冬季大会 (第3回) (東京), 2011. 2.
 - 13) 新田 隆：不整脈の外科治療. 日本集中治療医学界リフレッシャーセミナー (第7回) (東京), 2011. 2.
- (5) シンポジウム：
- 1) Yamashita K：Video-assisted Breast Surgery and 3D-CT Mammary Lymphography. Breast Bowel and Minimal Invasive Surgery：Surgical Forum (Krabi, Thailand), 2010. 4.
 - 2) Nitta T：Global Approach & Sudden Cardiac Arrest Prevention. Approaches from Around the World：Japan. Heart Rhythm Society (31st) (Denver, CO USA), 2010. 5.
 - 3) Yamashita K：Video-assisted Breast Surgery is for the benefit of Asian Breast Cancer Patients. 9th International Conference of the Asian Clinical Oncology Society (第9回) (Gifu, Japan), 2010. 8.

- 4) 三上 巖, 小泉 潔, 原口秀司, 木下裕康, 岡本淳一, 中島由貴, 竹内千枝, 清水一雄: 安全な鏡視下手術を行うための我々の工夫 肺・縦隔. 第35回日本外科系連合学会学術集会(千葉), 2010. 6.
 - 5) 山下浩二, 飯田信也, 柳原恵子, 赤須東樹, 五十嵐健人, 岡村律子, 宮脇佳世, 汲田伸一郎¹⁾, 芳賀駿介, 清水一雄¹⁾ (日本医科大学放射線科): 3D-CT リンパ管造影とMRIに基づいた乳腺内視鏡手術とセンチネルリンパ節生検(シンポジウム5. 乳癌に対する外科的治療戦略). 第35回日本外科系連合学会学術集会(第35回)(東京), 2010. 6.
 - 6) 石井庸介, 川瀬康裕, 仁科 大, 別所竜蔵, 新田 隆, 坂本俊一郎, 落 雅美, 清水一雄: Full-Maze手術のすべての切開線は必要か?. 第25日本不整脈学会(名古屋), 2010. 6.
 - 7) 岡村律子¹⁾, ヘイムス規予美¹⁾, 軸園智雄¹⁾, 五十嵐健人¹⁾, 赤須東樹¹⁾, 山下浩二¹⁾, 清水一雄¹⁾ (日本医科大学外科学講座内内分泌外科部門): 初心者におけるVANS手術の技術習得. 小切開・鏡視外科学会プログラム(第2回)(東京都千代田区秋葉原コンベンションホール), 2010. 9.
 - 8) 山下浩二: 乳腺内視鏡手術における腋窩単孔ポートの有用性の検討(シンポジウム乳腺甲状腺領域). 第2回小切開・鏡視外科学会(第2回)(東京), 2010. 9.
 - 9) 平井恭二, 揖斐孝之, 別所竜蔵, 小泉 潔, 清水一雄: 呼吸器外科領域の鏡視下手術におけるスポンジスペーサーセクレアの有用性について. 第2回小切開・鏡視下外科学会(東京), 2010. 9.
 - 10) 落 雅美: 集中治療室こそが患者中心の集学的治療実践の場である. 日本集中治療医学会学術集会(第38回)(パシフィコ横浜), 2011. 2.
- (6) パネルディスカッション:
- 1) Nitta T: Sudden Death Prevention Worldwide: Straggling Against Cultural or Financial Constraints: in Japan. International Symposium on Progress in Clinical Pacing (14th) (Rome Italy), 2010. 12.
 - 2) Nitta T: Electrical Storm: Role of Surgery. International Symposium on Prigress in Clinical Pacing (14th) (Rome Italy), 2010. 12.
 - 3) Nitta T: EURO-JAPAN Arrhythmia Forum Session I ICD: Adherence to the International Guidelines: in Japan. International Symposium on Prigress in Clinical Pacing (14th) (Rome Italy), 2010. 12.
 - 4) 平井恭二, 竹内真吾, 別所竜蔵, 小泉 潔, 清水一雄: 浸潤性胸腺腫の外科的治療戦略. 第110回日本外科学会総会(名古屋), 2010. 4.
 - 5) 丸山雄二, 落 雅美, 廣本敦之, 栗田二郎, 白川 真, 坂本俊一郎, 大森裕也, 井村 肇, 新田 隆, 清水一雄: 80歳以上超高齢者に対するOPCABの意義(高齢者心臓手術の成績と問題点). 日本外科系連合学会学術集会(第35回)(東京), 2010. 6.
 - 6) 丸山雄二, 落 雅美, 吉尾敬秀, 大嶽康介, 廣本敦之, 栗田二郎, 白川 真, 坂本俊一郎, 大森裕也, 井村 肇, 新田 隆, 清水一雄: 再手術例に対するOPCABの戦略: 胸骨切開を回避する術式の工夫(CABG術後再心臓手術の問題点と工夫). 日本冠疾患学会学術集会(第24回)(東京), 2010. 12.
- (7) セミナー:
- 1) 落 雅美: 若い外科医に伝えたい冠動脈外科: バイパスグラフトの成否を握るのは何か?. 関西胸部外科学会学術集会(第53回)(名古屋国際会議場), 2010. 6.
 - 2) 落 雅美: 成人期川崎病既往者の冠動脈病変を見つめて: 集学的エビデンス. 日本川崎病学会・学術集会(第30回)(京都), 2010. 10.
 - 3) 平井恭二: 呼吸器外科領域におけるスポンジスペーサーセクレアの有用性について. 第63回日本胸部外科学会総会(大阪), 2010. 10.
- (8) ワークショップ:
- 1) 山下浩二, 赤須東樹, 五十嵐健人, 岡村律子, ヘイムス規予美, 軸園智雄, 柳原恵子, 飯田信也, 芳賀駿介, 清水一雄: 3D-CT 乳腺リンパ管造影を利用した内視鏡的センチネルリンパ節生検の向上(ワークショップ18:

乳癌 Sentinel lymph node Biopsy : 色素法でどこまで同定率を向上させられるか). 第 72 回日本臨床外科学会総会 (第 72 回) (横浜), 2010. 11.

(9) 一般講演 :

- 1) Yamashita K, Akasu H, Igarashi T, Okamura R, Miyawaki K, Jikuzono T, Hames-Yamada K, Iida S, Haga S, Shimizu K : Endoscopic Sentinel Node Biopsy is Less Invasive and Facilitated by Spect-fused 3D-CT LymphoGraphy. 11th Annual Meeting of American Society of Breast Surgeons (第 11 回) (Las Vegas, NV, USA), 2010. 4.
- 2) Fujii M, Bessho R, Nishina D, Maruyama Y, Kambe M, Ochi M : Sivelestat reduces myocardial injury in patients undergoing cardiac surgery with St Thomas cardioplegia. The XX world congress of the International Society for Heart Research (Kyoto), 2010. 5.
- 3) Yamashita K, Haga S, Shimizu K : SPECT fused with 3D-CT mammary lymphography for endoscopic sentinel node biopsy. 46th annual meeting of the American Society of Clinical Oncology (第 46 回) (Chicago, IL, USA), 2010. 6.
- 4) Yamashita K, Haga S, Shimizu K : SPECT-fused 3D-CT mammary lymphography shows the discrepancy between RI uptake and dye staining. 56th annual meeting of International College of Surgeons Japan Section (第 56 回) (Tokyo, Japan), 2010. 6.
- 5) Maruyama Y, Ochi M, Shimizu K : Long-term outcome of pediatric coronary artery bypass grafting for Kawasaki coronary disease. European Association for Cardio-thoracic Surgery Annual Meeting (24th) (Geneva, Switzerland), 2010. 9.
- 6) 丸山雄二, 落 雅美, 清水一雄 : Long-term outcome of pediatric coronary artery bypass grafting for Kawasaki coronary disease. European Association for Cardio-thoracic Surgery Annual Meeting (24th) (Geneva, Switzerland), 2010. 9.
- 7) Yamashita K, Shimizu K, Haga S, Kumita S¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学放射線科) : 3D-CT mammary lymphography fused with SPECT for endoscopic sentinel node biopsy. 15th Congress of the European Society of Surgical Oncology (第 15 回) (Bordeau, France), 2010. 9.
- 8) Yamashita K, Haga S, Shimizu K : 3D-CT mammary lymphography fused with SPECT shows the discordance between RI uptake and dye staining. ASCO Breast Cancer Symposium 2010 (第 3 回) (Washington, DC, USA), 2010. 10.
- 9) Kurita J¹⁾, Miyamoto M¹⁾, Ishii Y¹⁾, Takagi G¹⁾, Tara S¹⁾, Mizuno K¹⁾, Fukushima Y¹⁾, Kumita S¹⁾, Naito Z¹⁾, Tabata Y²⁾, Ochi M¹⁾, Shimizu K¹⁾ (¹⁾ Nippon Medical School, ²⁾ Kyoto University) : Enhanced Vascularization by Controlled Release of Platelet-Rich Plasma impregnated in gelatin hydrogels for Critical Limb Ischemia in Rats. American Heart Association Scientific Sessions 2010 (McCormick Place-Chicago, IL), 2010. 11.
- 10) Yamashita K, Shimizu K, Haga S, Kumita S¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学放射線科) : 3D-CT Lymphography of the Breast Fused with SPECT Shows the Discordance between RI-uptake and Dye-stain. 7th International Sentinel Node Society Meeting (第 7 回) (Yokohama, Japan), 2010. 11.
- 11) Yamashita K, Akasu H, Igarashi T, Okamura R, Hames-Yamada K, Jikuzono T, Yanagihara K, Iida S, Haga S, Shimizu K : Video-Assisted Breast Surgery Can Be Performed Only by Single Small Port in the Axilla for Breast Tumors in Any Part of the Breast. 3rd International Oncoplastic Breast Surgery Symposium (第 3 回) (Tokyo, Japan), 2010. 11.
- 12) Yamashita K, Shimizu K, Haga S : Trans-Axillary Retro-Mammary Approach of Video-Assisted Breast Surgery Uses Single Port in the Axilla and Treats Any Tumors Even in the Medial or Lower Side of the

- Breast. 33rd Annual CTRC-AACR San Antonio Breast Cancer Symposium (第33回) (San Antonio, TX, USA), 2010. 12.
- 13) Kurita J¹, Ishii Y¹, Miyamoto M¹, Takagi G¹, Mizuno K¹, Fukushima Y¹, Kumita S¹, Naito Z¹, Tabata Y², Ochi M¹, Shimizu K¹ (1) Nippon Medical School, (2) Kyoto University) : Enhanced Vascularization by Controlled Release of Platelet-Rich Plasma Impregnated in Gelatin Hydrogel. The Society of Thoracic Surgeons 47th Annual Meeting 2011 (San Diego, CA), 2011. 1.
 - 14) Nitta T, Yoshio T, Nakajima Y, Watanabe Y, Sakamoto S, Koizumi K, Ochi M, Shimizu K : Thoracoscopic and Map-Guided Surgery for Atrial Tachycardia. The Society of Thoracic Surgeons (47th) (San Diego, CA USA), 2011. 1.
 - 15) Akasu H, Hames K, Okamura R, Igarashi T, Yamashita K, Shimizu K : A case report of familial thyroid carcinoma. Asia pacific endocrine conference (22nd) (アメリカ, ハワイ), 2011. 2.
 - 16) Yamashita K, Haga S, Shimizu K : 3T-MRI CAN PREDICT THE METASTASIS OF SENTINEL NODE DETECTED BY 3D-CT MAMMARY LYMPHOGRAPHY. 12th International St. Gallen Breast Cancer Conference : Primary Therapy of Early Breast Cancer with Treatment Consensus Update (第12回) (St. Gallen, Switzerland), 2011. 3.
 - 17) 揖斐孝之¹, 平井恭二¹, 別所竜蔵¹, 大秋美治², 小泉 潔³, 清水一雄³ (1) 日本医科大学千葉北総病院 胸部・心臓血管・呼吸器外科, (2) 日本医科大学千葉北総病院 病理部, (3) 日本医科大学付属病院 外科学講座呼吸器外科部門) : High grade mucoepidermoid carcinoma との鑑別に苦慮した腺扁平上皮癌の1症例. 日本肺癌学会関東支部会 (第159回) (東京), 2010. 12.
 - 18) 栗田二郎¹, 吉尾敬秀¹, 大嶽康介¹, 廣本敦之¹, 白川 真¹, 神戸 将¹, 丸山雄二¹, 坂本俊一郎¹, 大森裕也¹, 藤井正大¹, 井村 肇¹, 新田 隆¹, 落 雅美¹, 清水一雄¹ (1) 日本医科大学大学院 機能制御再生外科学分野 心臓血管外科) : 選択的脳灌流を用いた弓部大動脈置換術施行時の循環停止における至適温度の検討. 日本心臓血管外科学会学術総会 (第41回) (東京ベイ舞浜ホテルクラブリゾート), 2011. 2.
 - 19) 山下浩二, 赤須東樹, 五十嵐健人, 岡本律子, 軸菌智雄, Hames 規, 柳原恵子, 飯田信也, 芳賀駿介, 清水一雄 : SPECT 合成 3D-CT リンパ管造影ガイド下の内視鏡的センチネルリンパ節生検 SPECT fused 3D-CT Lymphography Guides the Endoscopic Sentinel Node Biopsy. 第110回日本外科学会学術総会 (第110回) (名古屋), 2010. 4.
 - 20) 赤須東樹, 宮脇佳世, 岡村律子, 五十嵐健人, 山下浩二, 清水一雄 : 内分泌臓器内視鏡手術の修練におけるスコピスト経験の有用性 usefulness of experience of a scopist in training for endocrine endoscopic surgery. 日本外科学会総会 (第110回) (名古屋), 2010. 4.
 - 21) 赤須東樹, ヘイムス規予美, 岡村律子, 五十嵐健人, 中村慶春¹, 清水一雄 (1) 日本医科大学 消化器一般・移植外科) : 内分泌臓器内視鏡手術におけるスコピストの, 修練, 教育における重要性. 大江戸内分泌手術手技懇話会 (第3回) (東京), 2010. 4.
 - 22) 岡田大輔¹, 秋山博彦¹, 吉野直之¹, 揖斐孝之¹, 西村ゆう², 赤木 究³, 小泉 潔⁴, 清水一雄⁴ (1) 埼玉県立がんセンター胸部外科, (2) 埼玉県立がんセンター病理診断科, (3) 埼玉県立がんセンター腫瘍診断・予防科, (4) 日本医科大学付属病院外科学講座呼吸器外科) : パラフィン包埋外科切除標本から EGFR 変異を測定した肺癌症例の検討. 日本呼吸器外科学会総会 (第27回) (仙台), 2010. 5.
 - 23) 揖斐孝之¹, 秋山博彦¹, 岡田大輔¹, 吉野直之¹, 西村ゆう², 小泉 潔³, 清水一雄³ (1) 埼玉県立がんセンター胸部外科, (2) 埼玉県立がんセンター 病理診断科, (3) 日本医科大学付属病院 外科学講座呼吸器外科部門) : 胸膜孤立性線維性腫瘍の4例. 呼吸器外科学会総会 (第27回) (仙台), 2010. 5.
 - 24) 原口秀司, 平田知己, 平井恭二, 三上 巖, 窪倉浩俊, 川島徹生, 木下裕康, 榎本 豊, 岡本淳一, 中島由貴, 竹内真吾, 小泉 潔, 清水一雄 : 高齢者呼吸器外科手術の合併症防止対策. 第27回日本呼吸器外科学会総会 (仙

- 台), 2010. 5.
- 25) 吉野直之¹⁾, 揖斐孝之¹⁾, 岡田大輔¹⁾, 秋山博彦¹⁾, 小泉 潔²⁾, 清水一雄²⁾ (1) 埼玉県立がんセンター胸部外科, 2) 日本医科大学外科学講座呼吸器外科): 胸腺腫と胸腺癌が同時に存在した1例. 日本呼吸器外科学会 (第27回) (仙台), 2010. 5.
 - 26) 栗田二郎¹⁾, 落 雅美¹⁾, 清水一雄¹⁾, 宮本正章²⁾, 高木 元²⁾, 太良修平²⁾, 水野杏一²⁾, 福嶋善光³⁾, 汲田伸一郎³⁾, 田畑泰彦⁴⁾ (1) 日本医科大学大学院 機能制御再生外科学分野 心臓血管外科, 2) 同大学院 器官機能病態内科学, 3) 同大学院 臨床放射線医学, 4) 京都大学 再生医科学研究所 生体組織工学研究部門生体材料科学): 徐放化 Platelet Rich Plasma (PRP) の血管新生効果の検討. 日本血管外科学術総会 (第38回) (大宮ソニックシティ・パレスホテル大宮), 2010. 5.
 - 27) 三上 巖, 小泉 潔, 原口秀司, 山岸茂樹, 木下裕康, 岡本淳一, 中島由貴, 飯島慶仁, 竹内千枝, 清水一雄: 当科における胸腔鏡下肺葉切除術の実際. 第27回日本呼吸器外科学会総会 (仙台), 2010. 5.
 - 28) 平井恭二, 揖斐孝之, 別所竜蔵, 小泉 潔, 清水一雄: 巨大胸壁転移を呈した右肺癌に対して腹直筋皮弁による胸壁再建ならびに右肺上葉切除を施行した1手術例. 第27回日本呼吸器外科学会総会 (仙台), 2010. 5.
 - 29) 平井恭二, 揖斐孝之, 別所竜蔵, 小泉 潔, 清水一雄: 当科における重症筋無力症に対する外科的治療戦略. 第27回日本呼吸器外科学会総会 (仙台), 2010. 5.
 - 30) 岡村律子¹⁾, ヘイムス規予美¹⁾, 五十嵐健人¹⁾, 赤須東樹¹⁾, 功刀しのぶ²⁾, 土屋眞一²⁾, 清水一雄¹⁾ (1) 日本医科大学外科学講座内分分泌外科部門, 2) 日本医科大学付属病院病理部): 術中クイックPTH測定により摘出し得た甲状腺内埋没型副甲状腺腫瘍の原発性副甲状腺機能亢進症の1例. 日本内分分泌外科学会総会 (第22回) (大阪府枚方市), 2010. 6.
 - 31) 丸山雄二, 落 雅美, 吉尾敬秀, 大嶽康介, 廣本敦之, 白川 真, 栗田二郎, 渡邊嘉之, 坂本俊一郎, 大森裕也, 井村 肇, 新田 隆, 清水一雄: 弓部置換術後のMRSA縦隔炎に対して大網充填術+腹直筋皮弁を施行した1例. 火曜会 (第41回) (東京), 2010. 6.
 - 32) 丸山雄二, 落 雅美, 清水一雄: 肺血栓塞栓症を契機に診断された外腸骨静脈瘤, 膝窩静脈瘤に瘤縫縮術を施行した2例. 千駄木血管研究会 (第4回) (東京), 2010. 6.
 - 33) 山下浩二, 清水一雄, 赤須東樹, 五十嵐健人, 岡村律子, 軸菌智雄, 柳原恵子, 飯田信也, 汲田伸一郎¹⁾, 芳賀駿介 (1) 日本医科大学放射線科): SPECT合成3D-CTリンパ管造影によるセンチネルリンパ節生検と鏡視下乳房温存術の治療成績. 第18回日本乳癌学会学術総会 (第18回) (札幌), 2010. 6.
 - 34) 藤井正大, 神戸 将, 矢島俊巳: Open-stent 術後に生じた弓部大動脈瘤切迫破裂の1例. 第108回日本循環器学会九州地方会 (福岡), 2010. 6.
 - 35) 丸山雄二, 落 雅美, 廣本敦之, 栗田二郎, 白川 真, 坂本俊一郎, 大森裕也, 井村 肇, 新田 隆, 清水一雄: 80歳以上超高齢者に対するOPCAB: 両側ITAを使用した多枝血行再建. 日本冠動脈外科学会学術大会 (第15回) (大阪), 2010. 7.
 - 36) 藤井正大, 神戸 将, 矢島俊巳: 当施設における心房細動手術の成績からみた有用性. 第43回日本胸部外科学会九州地方会 (福岡), 2010. 7.
 - 37) 新田 隆: 不整脈外科治療およびデバイスの進歩. 筑波大学講演会 (茨城県), 2010. 9.
 - 38) ヘイムス規予美, Suhaimi-Niza S, 岡本律子, 五十嵐健人, 赤須東樹, 清水一雄: 術中迅速PTH測定 (IOPTH) が有効であった原発性副甲状腺機能亢進症の1手術症例. 大江戸内分泌手術手技懇話会 (第4回) (スパイラルビル8階「Lounge アンクルハット」), 2010. 10.
 - 39) 原口秀司, 平田知己, 平井恭二, 三上 巖, 窪倉浩俊, 川島徹生, 榎本 豊, 岡本淳一, 中島由貴, 揖斐孝之, 竹内千枝, 小泉 潔, 清水一雄: 肺癌胸腔補助手術の治療成績の総括. 第23回日本内視鏡外科学会総会 (横浜), 2010. 10.
 - 40) 丸山雄二, 落 雅美, 吉尾敬秀, 大嶽康介, 廣本敦之, 栗田二郎, 白川 真, 坂本俊一郎, 大森裕也, 井村 肇,

- 新田 隆, 清水一雄: 80歳以上超高齢者に対する OPCAB の遠隔成績: 両側 ITA を使用した多枝血行再建. 日本胸部外科学会定期学術集会 (第 63 回) (大阪), 2010. 10.
- 41) 山下浩二, 赤須東樹, 五十嵐健人, 岡村律子, ヘイムス規予美, 軸藺智雄, 柳原恵子, 飯田信也, 芳賀駿介, 清水一雄: 乳腺内視鏡手術における腋窩単孔ポートの有用性の検討 (要望演題「乳腺・内分泌における内視鏡外科」). 第 23 回日本内視鏡外科学会学術総会 (第 23 回) (横浜), 2010. 10.
- 42) 山下浩二, 赤須東樹, 五十嵐健人, 岡村律子, ヘイムス規予美, 軸藺智雄, 柳原恵子, 飯田信也, 芳賀駿介, 清水一雄: 3D-MRI と 3D-CT 乳腺リンパ管造影によるセンチネルリンパ節生検. 第 28 回日本癌治療学会学術総会 (第 28 回) (京都), 2010. 10.
- 43) 植竹俊介¹⁾, 宮内靖史¹⁾, 林 明聰¹⁾, 加藤貴雄¹⁾, 水野杏一¹⁾, 小林義典²⁾, 新 博次³⁾, 新田 隆⁴⁾, 坂本俊一郎⁴⁾, 辰本明子⁵⁾, 深水誠二⁵⁾, 手島 保⁵⁾, 櫻田春水⁵⁾ (1) 日本医科大学内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門), (2) 東海大学部付属八王子病院循環器内科, (3) 日本医科大学多摩永山病院内科, (4) 日本医科大学外科学講座 (心臓血管外科部門), (5) 東京都立広尾病院循環器科): Electrical storm に対して外科的凍結アブレーションとカテーテル・アブレーションの Hybrid Therapy が有用であった肥大型心筋症の 1 例. カテーテルアブレーション委員会公開研究会 (第 22 回) (東京), 2010. 10.
- 44) 田中泰章¹⁾, 蜂谷 仁¹⁾, 稲葉 理¹⁾, 柳下敦彦¹⁾, 樋口晃司¹⁾, 平尾見三¹⁾, 新田 隆²⁾ (1) 東京医科歯科大学医学部循環器内科, (2) 日本医科大学付属病院心臓血管外科): 開胸心外膜側アブレーションが奏功した左室心外膜起源心室頻拍の 1 例. カテーテルアブレーション委員会公開研究会 (第 22 回) (東京), 2010. 10.
- 45) 赤須東樹, ヘイムス規予美, 岡村律子, 五十嵐健人, 山下浩二, 清水一雄: バセドウ病術後, 逆たこつぼ型心筋症による急性心不全を来した症例. 日本甲状腺外科学会 (第 43 回) (倉敷市), 2010. 10.
- 46) 藤井正大, 神戸 将, 矢島俊巳: 交通事故による血管外傷の治療経験. 第 51 回日本脈管学会総会 (旭川), 2010. 10.
- 47) 平井恭二, 揖斐孝之, 別所竜蔵, 小泉 潔, 清水一雄: 縦隔腫瘍に対する外科的治療戦略について. 第 63 回日本胸部外科学会総会 (大阪), 2010. 10.
- 48) 揖斐孝之¹⁾, 平井恭二¹⁾, 別所竜蔵¹⁾, 大秋美治²⁾, 小泉 潔³⁾, 清水一雄³⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 胸部・心臓血管・呼吸器外科, (2) 日本医科大学千葉北総病院 病理部, (3) 日本医科大学付属病院 外科学講座呼吸器外科部門): 子宮に原発を確定し得なかった転移性肺絨毛癌の 1 手術例. 肺癌学会総会 (第 51 回) (広島), 2010. 11.
- 49) 原口秀司, 平田知己, 平井恭二, 三上 巖, 窪倉浩俊, 川島徹生, 榎本 豊, 岡本淳一, 中島由貴, 揖斐孝之, 竹内千枝, 小泉 潔, 清水一雄: 家族内発生肺癌の臨床背景の検討. 第 51 回日本肺癌学会総会 (広島), 2010. 11.
- 50) 吉野直之¹⁾, 岡田大輔¹⁾, 秋山博彦¹⁾, 酒井 洋²⁾, 小泉 潔³⁾, 清水一雄³⁾ (1) 埼玉県立がんセンター胸部外科, (2) 埼玉県立がんセンター呼吸器内科, (3) 日本医科大学外科学講座呼吸器外科): 同時性多発肺癌手術症例の検討. 日本肺癌学会総会 (第 51 回) (広島), 2010. 11.
- 51) 三上 巖, 小泉 潔, 原口秀司, 岡本淳一, 中島由貴, 竹内千枝, 藤井祥貴, 西田 達, 清水一雄 (1) 石切生喜病院 呼吸器外科): 肺癌術後間質性肺炎急性増悪における呼吸困難に対し NPPV を施行した 2 例. 第 51 回日本肺癌学会総会 (広島), 2010. 11.
- 52) 赤須東樹, ヘイムス規予美, 岡村律子, 五十嵐健人, 山下浩二, 清水一雄: 家族性に発生した甲状腺乳頭癌症例. 日本甲状腺学会 (第 53 回) (長崎市), 2010. 11.
- 53) 藤井正大, 神戸 将, 矢島俊巳: カテーテルによる弁膜症治療後, 外科手術を必要とした 2 例.. 第 72 回日本臨床外科学会総会 (横浜), 2010. 11.
- 54) 平井恭二, 揖斐孝之, 別所竜蔵, 小泉 潔, 清水一雄: pIA (T1b) ~I B 期の非小細胞肺癌手術症例に対する術後補助化学療法の検討. 第 51 回日本肺癌学会総会 (広島), 2010. 11.

- 55) 平井恭二, 揖斐孝之, 別所竜蔵, 小泉 潔, 清水一雄: 左胸郭形成術後の1秒量 0.8Lの84歳女性患者に発生した右肺癌の1手術例. 第7回臓器不全研究会(東京), 2010. 11.
- 56) 吉野直之¹⁾, 岡田大輔¹⁾, 秋山博彦¹⁾, 豊川 優²⁾, 山名一平²⁾, 水谷英明²⁾, 須藤淳子²⁾, 栗本太嗣²⁾, 酒井 洋²⁾, 西村ゆう³⁾ (1) 埼玉県立がんセンター胸部外科, 2) 埼玉県立がんセンター呼吸器内科, 3) 埼玉県立がんセンター病理科): 縦隔静脈血管腫の1例. 日本肺癌学会関東支部会(第159回)(東京), 2010. 12.
- 57) 三上 巖, 小泉 潔, 原口秀司, 岡本淳一, 中島由貴, 竹内千枝, 藤井祥貴, 西田 達, 清水一雄 (1) 石切生喜病院 呼吸器外科): 気管支切離時に気管内吸引チューブを同時に切離した1例. 第23回日本内視鏡外科学会総会(横浜), 2010. 12.
- 58) 藤井正大, 神戸 将, 檜山和弘¹⁾ (1) 熊本市市民病院 小児心臓外科): 高度肺動脈弁狭窄症および動脈管開存症を合併した先天性風疹症候群の成人例に対する手術経験. 第13回日本成人先天性心疾患学会(福岡), 2011. 1.
- 59) 丸山雄二, 吉尾敬秀, 大嶽康介, 廣本敦之, 栗田二郎, 白川 真, 坂本俊一郎, 大森裕也, 井村 肇, 新田 隆, 落 雅美, 清水一雄: Redo OPCABの戦略: 胸骨切開を回避する術式の工夫. 日本心臓血管外科学会(第41回)(舞浜), 2011. 2.
- 60) 石井庸介, 新田 隆, 坂本俊一郎, 仁科 大, 川瀬康裕, 田上素子, 落 雅美, 別所竜蔵, 清水一雄: Full-Maze手術と肺静脈隔離術はいかに選択するか?. 第41回日本心臓血管外科学会(舞浜), 2011. 2.
- 61) 岡田大輔¹⁾, 吉野直之¹⁾, 秋山博彦¹⁾, 西村ゆう²⁾ (1) 埼玉県立がんセンター胸部外科, 2) 埼玉県立がんセンター病理診断科): 両側肺カルチノイドの1切除例. 外科集談会(第820回)(東京), 2011. 3.
- (10) 特別ビデオセッション:
- 1) 清水一雄: 内視鏡補助下甲状腺・副甲状腺手術(VANS法)の技術認定取得を目指した標準的手技. 日本外科学会定期学術集会(第110回), 2010. 4.

[武蔵小杉病院心臓血管・呼吸器・乳腺内分泌外科]

研究概要

心臓血管外科領域, 呼吸器外科領域, 乳腺・甲状腺内分泌外科領域の臨床研究を中心としている。

1) 心臓血管外科領域: 開心術周術期における各種薬剤の薬理効果の評価, および心筋保護の確立に取り組んでいる。高齢者の心大血管症例の成績の向上を計るため術前・術後合併症の管理・治療法について検討し, 透析患者を含めた慢性腎臓病患者に対して周術期管理から遠隔期予後に関する研究も行っている。オフポンプ冠動脈バイパス手術では, β ブロッカーを使用した心筋保護効果および抗不整脈作用に関する臨床研究を行っている。大血管および末梢血管に対しては, 放射線科低侵襲血管内治療センター(IVRセンター)と密に連携をとり, 胸腹部大動脈瘤にたいするステントグラフト治療を含めた血管内治療と手術のハイブリットセラピーを行い, 診断・低侵襲治療について研究している。

2) 呼吸器外科領域: 原発性肺癌に関して, CD40を用いた術後補助免疫療法の有用性に対して基礎実験を行っている。また同じくCD40の特殊免疫染色法を確立し, これが肺癌における新たな転移マーカーとなりうるかをレトロスペクティブに検証している。画像上診断困難なGGOを含めた末梢小型肺腫瘍に対して, 胸腔鏡下超音波断層診断の有用性について新たに臨床研究として開始した。自然気胸においては, 胸腔鏡下ブラ切離術後の再発予防手段としてPGAシート被覆法の有用性について引き続き立証している段階である。

3) 乳腺・内分泌外科領域: 抗癌剤と染色体の関係を観察するために, 乳癌培養細胞を用いたFISH法と免疫蛍光染色を行い, 蛍光顕微鏡にて細胞個々の染色体を測定し, 細胞遺伝学的な基礎的実験を行っている。また間期細胞と凝集期細胞における染色体を観察し, 核分裂と染色体座の関係も研究する予定である。

研究業績

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 窪倉浩俊, 日置正文, 岡本淳一, 保科淑子, 遠藤直哉, 織井恒安, 天神敏博, 木下裕康¹⁾, 小泉 潔¹⁾, 清水一雄¹⁾ (1) 外科学講座 (内分泌・心臓血管・呼吸器部門)：両側血性胸水で発症した縦隔嚢胞性血管腫の1例. 日本呼吸器外科学会総会 (第27回) (仙台), 2010. 5.
- 2) 榎本 豊¹⁾, 谷村繁雄¹⁾, 川島徹生¹⁾, 齋藤祐二¹⁾, 小泉 潔²⁾, 清水一雄³⁾ (1) 日本医科大学付属多摩永山病院, 2) 日本医科大学付属病院 外科・呼吸器外科, 3) 日本医科大学付属病院 外科 (内分泌, 心臓血管, 呼吸器部門)：演題名：治療に難渋した胸壁膿瘍の1例. 日本呼吸器外科学会総会 (第27回) (仙台), 2010. 5.
- 3) 榎本 豊¹⁾, 谷村繁雄¹⁾, 川島徹生¹⁾, 岩瀬裕美²⁾, 片山博徳²⁾, 細根 勝²⁾, 小泉 潔³⁾, 清水一雄⁴⁾, 前田昭太郎²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院 呼吸器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院 病理部, 3) 日本医科大学病院 外科・呼吸器外科, 4) 日本医科大学病院 外科 (内分泌, 心臓血管, 呼吸器部門)：呼吸器外科領域における術中迅速穿刺吸引細胞診 (FNAC) の有用性について. 日本臨床細胞診学会 春期大会 (第51回) (東京), 2010. 5.
- 4) 保科淑子, 天神敏博, 富田剛志, 遠藤直哉, 宅島美奈, 岡本淳一, 窪倉浩俊, 織井恒安, 日置正文, 石井英昭¹⁾, 清水一雄²⁾ (1) 武蔵小杉病院病理部, 2) 外科学講座 (内分泌・心臓血管・呼吸器部門)：術後27年目に胸水貯留で発見された再発乳癌の1例. 日本乳癌学会学術総会 (第18回), 2010. 6.
- 5) 織井恒安, 富田剛志, 保科淑子, 遠藤直哉, 家所良夫, 日置正文, 清水一雄¹⁾ (1) 外科学講座 (内分泌・心臓血管・呼吸器部門)：蛋白尿の有無と腎機能 (eGFR) による冠動脈バイパス手術遠隔期予後の検討. 日本冠動脈外科学術大会 (第15回), 2010. 7.
- 6) 木下賀央里¹⁾, 山口朋禎¹⁾, 伊藤俊輔¹⁾, 春原沙織¹⁾, 板倉潮人¹⁾, 本郷公英¹⁾, 宗像一雄¹⁾, 岡本淳一²⁾, 窪倉浩俊, 日置正文 (1) 武蔵小杉病院内科, 2) 外科学講座 (内分泌・心臓血管・呼吸器部門)：検診にて胸部異常陰影を指摘され, 気管支嚢胞非結核性抗酸菌症が合併したと考えられた15歳女性. 内科学会関東地方会 (第573回), 2010. 7.
- 7) 織井恒安, 保科淑子, 富田剛志, 遠藤直哉, 榎本 豊, 窪倉浩俊, 天神敏博, 家所良夫, 日置正文, 清水一雄¹⁾ (1) 外科学講座 (内分泌・心臓血管・呼吸器部門)：冠動脈バイパス術後の慢性腎臓病患者における左室拡張障害の遠隔期予後に与える影響. 日本胸部外科学会定期学術集会 (第63回), 2010. 10.
- 8) 窪倉浩俊, 日置正文, 保科淑子, 榎本 豊, 織井恒安, 天神敏博, 小泉 潔¹⁾, 清水一雄¹⁾ (1) 外科学講座 (内分泌・心臓血管・呼吸器部門)：嗝声を機に診断のついた硬化性縦隔炎の1例. 日本臨床外科学会総会 (第72回) (横浜), 2010. 11.
- 9) 織井恒安, 保科淑子, 榎本 豊, 窪倉浩俊, 天神敏博, 家所良夫, 日置正文, 清水一雄¹⁾ (1) 外科学講座 (内分泌・心臓血管・呼吸器部門)：心大血管手術と腹部大動脈瘤手術を施行し術後対麻痺を来した症例の検討. 日本臨床外科学会総会 (第72回) (横浜), 2010. 11.
- 10) 窪倉浩俊, 日置正文, 榎本 豊, 保科淑子, 織井恒安, 天神敏博, 小泉 潔¹⁾, 清水一雄¹⁾ (1) 外科学講座 (内分泌・心臓血管・呼吸器部門)：食道癌術後胃管穿孔をおこした右上葉切除症例. 神奈川県呼吸器外科研究会 (第3回), 2010. 11.
- 11) 板倉潮人¹⁾, 伊藤俊輔¹⁾, 木下賀央里¹⁾, 春原沙織¹⁾, 本郷公英¹⁾, 山口朋禎¹⁾, 宗像一雄¹⁾, 窪倉浩俊 (1) 武蔵小杉病院内科)：切除不可能と考えられた進行性肺癌に対し, ネオアジュバンドとしてCDDP+TS-1を施行し, 完全切除が可能となった2例. 日本肺癌学会関東支部会 (第159回), 2010. 12.
- 12) 伊藤俊輔¹⁾, 大山莉奈¹⁾, 小川ゆかり¹⁾, 山口朋禎¹⁾, 榎本 豊, 窪倉浩俊, 宗像一雄¹⁾ (1) 武蔵小杉病院内科)：血性胸水の寛解と再発および肝臓・腸管の脱出を認めた右遅発性外傷性横隔膜ヘルニアの1例. 日本呼吸器学会関東地方会 (第193回), 2011. 3.

(2) 東京都生活習慣病検診従事者講習会：

- 1) 榎本 豊¹⁾ (1) 武蔵小杉病院心臓血管・呼吸器・乳腺内分泌外科)：呼吸器外科領域における術中迅速穿穿刺吸引細胞診 (FNAC) の有用性について。平成 22 年度東京都生活習慣病検診従事者講習会第 4 回細胞診従事者講習会 (東京), 2011. 3.

[多摩永山病院呼吸器外科]

研究概要

日本医科大学多摩永山病院呼吸器外科では以下のテーマについて臨床や研究に勤んでいます。

1. 胸部悪性腫瘍と homeo-box 遺伝子の発現, 特に抗がん剤耐性について
2. 肺癌の抗原と免疫療法の開発
3. 胸腔鏡下手術における新技術の研究と低侵襲性の追求
4. 悪性胸膜中皮腫の診断と治療の確立
5. 肺癌の新規術後補助療法の研究
6. 間質性肺炎合併肺癌の治療戦略

研究業績

著 書

- 1) 平田知己, 小泉 潔：〔分担〕17 章 気胸。総合診療マニュアル (上原譽志夫, 大林完二, 墨谷護人, 益子邦洋, 松岡博昭), 2010；pp467-469, 金芳堂。

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 川島徹生¹⁾, 谷村繁雄¹⁾, 平田知己¹⁾, 榎本 豊¹⁾, 斉藤祐二¹⁾, 中島由貴¹⁾, 竹内真吾¹⁾, 小泉 潔²⁾, 清水一雄²⁾
(¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 呼吸器外科, ²⁾ 日本医科大学付属病院 外科学講座)：80 歳以上の高齢者に対する肺癌手術症例の検討。日本呼吸器外科学会, 2010. 5.
- 2) 平田知己¹⁾, 川島徹生¹⁾, 小泉 潔²⁾ (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 呼吸器外科, ²⁾ 日本医科大学付属病院呼吸器外科)：リンパ行性特異的な進展を示す長期生存, 進行肺癌の 2 例。日本肺癌学会関東支部会 (第 159 回) (東京), 2010. 12.

11. 脳神経外科学講座

[付属病院脳神経外科]

研究概要

平成 22 年度付属病院脳神経外科における論文業績は英文 14 編，和文 10 編の計 24 編であった。これに分担著書として 21 編，編集 3 編が加わる。学会発表は 101 回あり内国際学会は 16 回であった。一方，研究補助金に関しては，文部科学省科学研究費を 1 件，厚生労働省科学研究費を 2 件取得している。また，2 年前から戦略的研究基盤形成支援事業の研究代表者の教室として活動している。当教室の基礎的な研究グループは，下垂体，悪性脳腫瘍，血管障害，脊椎脊髄の 4 つに分かれている。また，治療を主体とした横断的なグループとしては，血管内治療，神経内視鏡，バイパス手術のグループが活動している。下垂体腫瘍は教室最大のテーマであるため，研究者も多く基礎の教室や老人病研究所，さらには他の大学との関連が深く，従って業績も最も多い。経蝶形骨下垂体手術件数は 2,400 例を越え，さらに内視鏡単独手術も 900 例を越えた。この分野は引き続き，本邦をリードする基礎的および臨床的研究業績を重ねていきたい。他の脳腫瘍については，教室で永年取り組んできた悪性脳腫瘍の化学療法の基礎的，臨床的研究に加えて，症例報告がいくつかみられた。脳血管障害は血管内治療の領域も含め，最近活動が活発になってきているが，千駄木地区の再開発のため十分な診療機器が備わっていないことが難点である。

最近脊髄グループや医学教育への取り組みに関する活躍が目立っている。

脳神経外科という極めて多忙な診療活動をかかえながらも教室員には年 1 編以上の論文投稿（審査有のもの）と助教以上には科研費応募を義務としている。

現在，脳神経外科医療は地方から崩壊しつつあり，東京近郊にもその影響は現れ始めている。それでも，当教室は本邦では屈指の研究レベルを保持しているが，マンパワーが回復されない限り，大きな飛躍は期待できない状況である。

研究業績

論文

[追加分]

追加分原著：

- 1) Matsuno A¹⁾, Mizutani A¹⁾, Takekoshi S²⁾, Osamura Y²⁾, Sanno N³⁾, Teramoto A, Ide F¹⁾, Yamada S¹⁾, Sasaki M¹⁾, Nakaguchi H¹⁾, Yamada MS¹⁾, Hoya K¹⁾, Murakami M¹⁾, Okinaga H⁴⁾ (1) Department of Neurosurgery, Teikyo University Chiba Medical Center, 2) Department of Pathology, Tokai University School of Medicine, 3) Sanno clinic, 4) Department of Endocrinology, Teikyo University School of Medicine) : Molecular pathogenesis and functional analysis of pituitary adenoma. Current Trends in Neurology 2009 ; 3 : 69-73.

(1) 原著：

- 1) Kim K¹⁾, Isu T²⁾, Sugawara A³⁾, Morimoto D²⁾, Matsumoto R²⁾, Isobe M²⁾, Mishina M⁴⁾, Kobayashi S¹⁾, Teramoto A (1) Department of Neurosurgery, Chiba Hokuso Hospital, 2) Department of Neurosurgery, Kushiro Rosai Hospital, 3) Department of Neurosurgery, Iwate Medical Hospital, 4) Department of Internal Medicine) : Radiological study of the sandwich method in cervical anterior fusion using autologous vertebral bone grafts. J Clin Neurosci 2010 ; 17 (4) : 450-454.
- 2) Nakae R¹⁾, Onda H¹⁾, Yokobori S¹⁾, Araki T¹⁾, Fuse A¹⁾, Toda S, Kushimoto S¹⁾, Yokota H¹⁾, Teramo-

- to A (1) Department of Emergency and Critical Care Medicine) : Clinical analysis of spinal cord injury with or without cervical ossification of the posterior longitudinal ligament, spondylosis, and canal stenosis in elderly head injury patients. *Neurol Med Chir* 2010 ; 50 (6) : 461-465.
- 3) Murai Y, Adachi K¹⁾, Yoshida Y²⁾, Takei M³⁾, Teramoto A (1) Department of Neurosurgery, Musashikosugi Hospital, 2) Department of Neurosurgery, Ebara Hospital, 3) Hayashi Neurosurgery Clinic) : Retroperitoneal hematoma as a serious complication of endovascular aneurysmal coiling. *J Korean Neurosurg Soc* 2010 ; 48 (1) : 88-90.
 - 4) Yoshida D, Koketsu K, Nomura R, Teramoto A : The CXCR4 antagonist AMD3100 suppresses hypoxia-mediated growth hormone production in GH3 rat pituitary adenoma cells. *J Neurooncol* 2010 ; 100 (1) : 51-64.
 - 5) Fujita K^{1, 2)}, Yokoya S¹⁾, Fujieda K¹⁾, Shimatsu A¹⁾, Tachibana K¹⁾, Tanaka H¹⁾, Tanizawa T¹⁾, Teramoto A¹⁾, Nishi Y¹⁾, Hasegawa Y¹⁾, Hanew K¹⁾, Horikawa R¹⁾, Nagai T¹⁾, Tanaka T¹⁾ (1) GH Treatment Study Committee, Foundation for Growth Science, 2) Department of Pediatrics Children's Medical Center, Osaka City General Hospital) : Adult heights of 258 girls with turner syndrome on low dose of growth hormone therapy in Japan. *Clin Pediatr Endocrinol* 2010 ; 19 (3) : 63-68.
 - 6) Kim K¹⁾, Katsuno M²⁾, Isu T³⁾, Mishina M⁴⁾, Yoshida D, Kobayashi S¹⁾, Teramoto A (1) Department of Neurosurgery, Chiba Hokuso Hospital, 2) Abashiri Neurosurgical Rehabilitation Hospital, 3) Department of Neurosurgery, Kushiro Rosai Hospital, 4) Department of Internal Medicine) : Concomitant cranial and lumbar subdural hematomas. *Neurol Med Chir* 2010 ; 50 (5) : 402-404.
 - 7) Nakae R¹⁾, Onda H¹⁾, Yokobori S¹⁾, Araki T¹⁾, Fuse A¹⁾, Toda S, Kushimoto S¹⁾, Yokota H¹⁾, Teramoto A (1) Departments of Emergency and Critical Care Medicine) : Clinical analysis of spinal cord injury with or without cervical ossification of the posterior longitudinal ligament, spondylosis, and canal stenosis in elderly head injury patients. *Neurol Med Chir* 2010 ; 50 (6) : 461-465.
 - 8) Kim K¹⁾, Isu T²⁾, Sugawara A³⁾, Morimoto D²⁾, Shimoda Y²⁾, Matsumoto R²⁾, Isobe M²⁾, Mishina M⁴⁾, Kobayashi S¹⁾, Teramoto A (1) Department of Neurosurgery, Chiba Hokuso Hospital, 2) Department of Neurosurgery, Kushiro Rosai Hospital, 3) Department of Neurosurgery, Iwate Medical Hospital, 4) Department of Internal Medicine) : Combination of the Williams-Isu method and the transvertebral approach to treat cervical disease. *J Clin Neurosci* 2011 ; 18 (3) : 396-400.
 - 9) Kim K¹⁾, Isu T²⁾, Sugawara A³⁾, Morimoto D²⁾, Matsumoto R²⁾, Isobe M²⁾, Mishina M⁴⁾, Kobayashi S¹⁾, Yoshida D, Teramoto A (1) Department of Neurosurgery, Chiba Hokuso Hospital, 2) Department of Neurosurgery, Kushiro Rosai Hospital, 3) Department of Neurosurgery, Iwate Medical Hospital, 4) Department of Internal Medicine) : Detailed Study of Graft Sinking and Worsening of the Fused Segment Angle in Patients With Cervical Disease Treated With the Williams-Isu Method. *Neurol Med Chir* 2011 ; 51 (3) : 208-213.
 - 10) Kim K¹⁾, Isu T²⁾, Sugawara A³⁾, Morimoto D²⁾, Matsumoto R²⁾, Isobe M²⁾, Mishina M⁴⁾, Kobayashi S¹⁾, Yoshida D, Teramoto A (1) Department of Neurosurgery, Chiba Hokuso Hospital, 2) Department of Neurosurgery, Kushiro Rosai Hospital, 3) Department of Neurosurgery, Iwate Medical Hospital, 4) Department of Internal Medicine) : Selective posterior decompression of the cervical spine. *Neurol Med Chir* 2011 ; 51 (2) : 108-112.
 - 11) Mizunari T¹⁾, Murai Y, Kim K¹⁾, Kobayashi S¹⁾, Kamiyama H²⁾, Teramoto A (1) Department of Neurosurgery, Chiba hokusou Hospital, 2) Department of Neurosurgery, Asahikawa Cross Hospital) : Post-traumatic carotid-cavernous fistulae treated by internal carotid artery trapping and high-flow bypass using a

radial artery graft. *Neurol Med Chir* 2011; 51 (2) : 113-116.

- 12) 田中敏彰^{1,2)}, 伊藤純子^{1,3)}, 神崎 晋^{1,4)}, 島津 章^{1,5)}, 田中弘之^{1,6)}, 寺本 明¹⁾, 永井敏郎^{1,7)}, 長谷川奉延^{1,8)}, 羽二生邦彦^{1,9)}, 藤田敬之助^{1,10)}, 堀川玲子¹⁾, 向井徳男¹⁾, 和田尚弘¹⁾, 横谷 進¹⁾ (1) 成長科学協会成長ホルモン治療研究専門委員会, 2) たなか成長クリニック, 3) 虎の門病院小児科, 4) 鳥取大学小児科, 5) 国立病機構京都医療センター臨床研究センター, 6) 岡山済生会総合病院小児科, 7) 獨協医科大学越谷病院小児科, 8) 慶応義塾大学医学部小児科, 9) 羽二生クリニック, 10) 大阪市立総合医療センター小児内科) : 成長ホルモン分泌不全性低身長症における成長ホルモンによる前思春期の治療開始年齢別治療効果. *日本成長学会雑誌* 2010; 16 (1) : 23-29.
- 13) 水成隆之¹⁾, 小林士郎¹⁾, 梅岡克哉¹⁾, 玉置智規²⁾, 村井保夫, 立山幸次郎, 岩本直高¹⁾, 寺本 明 (1) 千葉北総病院脳神経外科, 2) 多摩永山病院脳神経外科) : 脳卒中外科の最前線 安全確実な脳動脈瘤手術を目指して. *日本外科系連合学会誌* 2010; 35 (3) : 344.
- 14) 志村俊郎¹⁾, 唐澤信安²⁾, 殿崎正明³⁾, 寺本 明 (1) 教育推進室, 2) 医史学教育研究会, 3) 中央図書館) : 医術開業後期試験問題と済生学舎の臨床技能教育. *日本医史学雑誌* 2010; 56 (2) : 255.
- 15) 喜多村孝幸, 戸田茂樹, 寺本 明 : 低髄液圧症候群. *日本頭痛学会誌* 2010; 37 (1) : 9-12.
- 16) 金 景成¹⁾, 井須豊彦²⁾, 國保倫子¹⁾, 森本大二郎²⁾, 菅原 淳³⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明 (1) 千葉北総病院脳神経センター, 2) 釧路労災病院脳神経外科, 3) 岩手医科大学脳神経外科) : 脊髄障害性神経因性疼痛に対するケタミンの使用経験. *脊髄外科* 2010; 24 (1) : 80-82.
- 17) 寺本 明 : 外科から見た下垂体腺腫に対する最近の治療方針. *日本内分泌学会雑誌* 2010; 86 (2) : 559-560.
- 18) 榎本弘幸¹⁾, 田原重志, 石井雄道, 吉田陽一²⁾, 喜多村孝幸, 寺本 明, 高木 亮³⁾, 南 史朗⁴⁾, 長村義之⁵⁾ (1) 医学部5年, 2) 荏原病院脳神経外科, 3) 放射線科, 4) 老人病研究所生体機能制御学, 5) 国際医療福祉大学三田病院病理部) : 海綿静脈洞直接サンプリングおよび高解像度MRIが診断に有用であったラトケ嚢胞合併微小ACTH産生下垂体腺腫の治験例. *日本医科大学医学会雑誌* 2010; 6 (4) : 232.
- 19) 山口文雄, 石井雄道, 大村朋子¹⁾, 瀧野健太, 展 広智, 寺本 明 (1) 千葉北総病院脳神経外科) : 脳神経外科領域におけるPDD・PDT脳腫瘍術中蛍光診断における蛍光陽性判定の問題点. *日本レーザー医学会誌* 2010; 31 (3) : 306.
- 20) 松野 彰¹⁾, 寺本 明, 長村義之²⁾ (1) 帝京大学ちば総合医療センター脳神経外科, 2) 国際医療福祉大学三田病院) : 神経疾患と分子マーカー: 下垂体腺腫. *Clinical Neuroscience* 2010; 28 (12) : 1426-1428.

(2) 総説 :

- 1) 大山健一¹⁾, 石井雄道, 田原重志, 寺本 明 (1) 武蔵小杉病院脳神経外科) : 脳下垂体腫瘍に対する治療戦略のアップデート. *耳鼻咽喉科展望* 2010; 53 (6) : 191-198.

(3) 症例報告 :

- 1) Katsuno M¹⁾, Teramoto A (1) Abashiri Neurosurgical Rehabilitation Hospital) : Secondary trigeminal neuropathy and neuralgia resulting from pontine infarction. *J Stroke Cerebrovasc Dis* 2010; 19 (3) : 251-252.
- 2) Kanazawa R¹⁾, Sato S¹⁾, Iwamoto N¹⁾, Teramoto A (1) Department of Neurosurgery, Nagareyama Central Hospital) : Allergic reaction following arachnoid plasty with a fibrin sealant. *Neurol Med Chir* 2010; 50(7) : 608-610.

著 書

- 1) 喜多村孝幸, 戸田茂樹, 寺本 明 : [分担] 低髄液圧症候群 (脳脊髄液減少症) の症状. *医学のあゆみ*, 2010; pp751-755, 医歯薬出版 (株).
- 2) 大畑建治¹⁾, 寺本 明, 新井 一²⁾, 塩川芳昭³⁾ (1) 大阪市立大学大学院医学研究科脳神経外科, 2) 順天堂大学医学部脳神経外科, 3) 杏林大学医学部脳神経外科) : [編集] NS NOW 10 後頭蓋窩手術, 2010; pp1-156,

Medical View.

- 3) 寺本 明：〔自著〕代謝をコントロール，意欲，食欲，性欲を支える大事な成長ホルモンが不足していませんか？その体の不調，治療できる可能性もあります。リビングむさしの，2010；サンケイリビング新聞社。
- 4) 寺本 明：〔自著〕第2章脳腫瘍 各論 (2)・脳実質外腫瘍 12-b 下垂体腺腫。EBMに基づく脳神経疾患の基本治療指針，2010；pp141-149，Medical View。
- 5) 山口文雄：〔分担〕VII 脳神経系 69 脳腫瘍。総合診療マニュアル，2010；pp678-681，金芳堂。
- 6) 寺本 明：〔分担〕特集2 アクロメガリーの特定疾患指定と臨床の現状 第3部 先端巨大症（アクロメガリー）の薬物療法の動向。難病と在宅ケア，2010；pp40-42，日本プランニングセンター。
- 7) 石井雄道，田原重志，寺本 明：〔分担〕徹底理解！（完全マスター）脳神経疾患の画像の見かた 疾患編 脳腫瘍 下垂体腺腫。Brain Nursing，2010；pp134-137，メディカ出版。
- 8) 新井 一¹⁾，寺本 明，大畑建治²⁾，塩川芳昭³⁾（¹⁾ 順天堂大学医学部脳神経外科，²⁾ 大阪市立大学大学院医学研究科脳神経外科，³⁾ 杏林大学医学部脳神経外科）：〔編集〕NS NOW 11 小児脳神経外科手術，2010；pp1-161，Medical View。
- 9) 山口文雄，寺本 明：〔分担〕視力・視野障害。ナースのための脳神経外科改訂3版，2010；メディカ出版。
- 10) 塩川芳昭¹⁾，寺本 明，大畑建治²⁾，新井 一³⁾（¹⁾ 杏林大学医学部脳神経外科，²⁾ 大阪市立大学大学院医学研究科脳神経外科，³⁾ 杏林大学医学部脳神経外科）：〔編集〕NS NOW 12 初歩から学ぶ脳血管内手術，2010；pp1-199，Medical View。
- 11) 國保倫子，金 景成¹⁾（¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター）：〔自著〕腰部脊柱管狭窄症とはどんな病気ですか？。しびれ，痛みの外来 Q&A：脊椎髄外来の疑問に答える，2010；pp14-15，中外医学社。
- 12) 國保倫子，金 景成¹⁾（¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター）：〔自著〕先生よって腰部脊柱管狭窄症，すべり症，側弯症と診断が違います。何が正しいのですか？。しびれ，痛みの外来 Q & A：脊椎髄外来の疑問に答える，2010；pp16-17，中外医学社。
- 13) 國保倫子，金 景成¹⁾（¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター）：〔自著〕安静は治療ですか？。しびれ，痛みの外来 Q&A - 脊椎髄外来の疑問に答える，2010；pp74-75，中外医学社。
- 14) 松野 彰，石井雄道，田原重志：〔自著〕II. 腫瘍 10. 機能性下垂体腺腫に対する手術適応とその有効性は？。EBM 脳神経外科疾患の治療，2010；pp166-171，中外医学社。
- 15) 山口文雄：〔分担〕症例 23 左片麻痺を呈した右島回病変。脳腫瘍実践ケーススタディ 第2巻，2010；pp91-94，(株) エサップ。
- 16) 山口文雄：〔分担〕症例 38 嘔吐症状にて発症した後頭蓋窩腫瘍。脳腫瘍実践ケーススタディ 第2巻，2010；pp150-153，(株) エサップ。
- 17) 寺本 明：〔分担〕推薦のことは。脳腫瘍実践ケーススタディ 第2巻，2010；p1，(株) エサップ。
- 18) 山王直子¹⁾，寺本 明（¹⁾ 山王クリニック）：〔自著〕第 III 部 治療における最近の新薬の位置づけ（新薬別） - 新薬の広場 - ホルモン剤（先端巨大症治療薬。新薬展望 2011，2011；pp255-260，医薬ジャーナル。
- 19) 寺本 明：〔自著〕特集 臨床医学の展望 2011 脳神経外科学 はじめに。日本医事新報，2011；pp62-63，(株) 日本医事新報社。
- 20) 山口文雄，寺本 明：〔自著〕特集 臨床医学の展望 2011 脳神経外科学 1. 脳腫瘍の術中モニタリング。日本医事新報，2011；pp63-64，(株) 日本医事新報社。
- 21) 田原重志，寺本 明：〔自著〕特集 臨床医学の展望 2011 脳神経外科学 2. 内視鏡下垂体手術の現況。日本医事新報，2011；pp64-65，(株) 日本医事新報社。
- 22) 村井保夫，寺本 明：〔自著〕特集 臨床医学の展望 2011 脳神経外科学 3. 脳血行再建術：その意義の再検討。日本医事新報，2011；pp65-66，(株) 日本医事新報社。
- 23) 小南修史¹⁾，寺本 明（¹⁾ 千葉北総病院脳神経外科）：〔自著〕特集 臨床医学の展望 2011 脳神経外科学 4. 脳血

管内治療の進歩. 日本医事新報, 2011; pp66-67, (株) 日本医事新報社.

- 24) 太組一朗¹⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科): [自著] 特集 臨床医学の展望 2011 脳神経外科学 5. 整容脳神経外科なる概念. 日本医事新報, 2011; pp67-68, (株) 日本医事新報社.

学会発表

(1) 特別講演:

- 1) 寺本 明: 我が国の脳神経外科医の姿. 第 18 回関東日赤脳神経外科カンファランス, 2010. 4.
- 2) 喜多村孝幸: Burden of Migraine: 頭痛治療の重要性. 第 11 回栃木県頭痛研究会, 2010. 6.
- 3) 喜多村孝幸: 診断治療に苦慮した脳腫瘍症例. 第 45 回群馬脳腫瘍研究会, 2010. 7.
- 4) 寺本 明: 小児科医のための脳神経外科基本知識. 第 10 回名古屋小児科医会総会, 2010. 10.
- 5) 喜多村孝幸: 低髄液圧症候群に関する内容. 三河脳神経外傷フォーラム, 2011. 2.

(2) 招待講演:

- 1) Teramoto A: Medical education and neurosurgery in Japan. Suzhou-Showa University Friendship Neurosurgical Conference (Suzhou, China), 2010. 4.
- 2) Teramoto A: Endoscopic transsphenoidal pituitary surgery. The International Minimally Invasive Neurosurgery Pragmatics Conference (Xian, China), 2010. 7.
- 3) Teramoto A: Recent progress of endoscopic transsphenoid pituitary surgery. 2010 Beijing International Neuroendoscopic Congress and Workshop-International Conference (Beijing, China), 2010. 10.

(3) 教育講演:

- 1) Yamaguchi F: Navigation assisted intraoperative subcortical mapping - New technique to find Motor Tract. 9th International Meeting Updates in Neuro-Oncology Brain Tumor (Cortona, Italy), 2010. 7.
- 2) 太組一朗¹⁾, 秋元正宇²⁾, 百東比古²⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科, ²⁾ 形成外科): 頭部外傷患者における頭蓋骨形成術. 第 30 回日本脳神経外科コンgres総会, 2010. 5.
- 3) 田原重志: 内視鏡下経鼻の下垂体腺腫摘出術の基本と工夫. 第 30 回日本脳神経外科コンgres総会, 2010. 5.
- 4) 寺本 明: 下垂体偶発腫の自然史と治療方針. 第 10 回日本内分泌学会九州地方会ランチョンセミナー, 2010. 8.
- 5) 田原重志: 内視鏡下経蝶形骨洞手術. (社) 日本脳神経外科学会第 69 回学術総会, 2010. 10.
- 6) 喜多村孝幸: Burden of Migraine and Cluster Headache: 患者 QOL の観点から治療を考える. (社) 日本脳神経外科学会第 69 回学術総会, 2010. 10.
- 7) 喜多村孝幸: 低髄液圧性頭痛の診断と治療. 第 38 回日本頭痛学会総会, 2010. 11.

(4) シンポジウム:

- 1) 大山健一¹⁾, 石井雄道, 田原重志, 高橋 弘²⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科, ²⁾ 春日居リハビリテーション病院): 腹側部頭蓋底病変に対する内視鏡下経蝶形骨洞手術の役割. 第 22 回日本頭蓋底外科学会, 2010. 7.
- 2) 中江竜太¹⁾, 松本 学¹⁾, 恩田秀賢¹⁾, 横掘将司¹⁾, 布施 明¹⁾, 久志本茂樹¹⁾, 横田裕行¹⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 高度救命救急センター): TCD による脳血管攣縮の診断: mBFV の左右比を用いた検討. 第 16 回日本脳神経モニタリング学会, 2010. 7.
- 3) 寺本 明: 外科から見た下垂体腺腫に対する最近の治療方針. 第 14 回日本内分泌病理学会学術総会, 2010. 10.
- 4) 水成隆之¹⁾, 玉置智規²⁾, 村井保夫, 梅岡克哉¹⁾, 立山幸次郎, 岩本直高¹⁾, 瀬藤健太, 白銀一貴¹⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 千葉北総病院脳神経外科, ²⁾ 多摩永山病院脳神経外科): 内頸動脈 blister like aneurysm に対する治療戦略. (社) 日本脳神経外科学会第 69 回学術総会, 2010. 10.

- 5) 村井保夫, 水成隆之¹⁾, 梅岡克哉¹⁾, 立山幸次郎, 小林士郎¹⁾, 寺本 明 (¹⁾ 千葉北総病院脳神経外科) : High flow bypass と proximal ligation による海綿静脈洞部内頸動脈瘤の治療内頸動脈の閉塞法と timing に関する考察. (社) 日本脳神経外科学会第 69 回学術総会, 2010. 10.
 - 6) 梅岡克哉¹⁾, 水成隆之¹⁾, 玉置智規²⁾, 村井保夫, 立山幸次郎, 岩本直高¹⁾, 白銀一貴¹⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明 (¹⁾ 千葉北総病院脳神経外科, ²⁾ 多摩永山病院脳神経外科) : PICA を含んだ破裂椎骨動脈解離性動脈瘤に対し Trapping と OA-PICA 吻合術を行った 10 例の検討. (社) 日本脳神経外科学会第 69 回学術総会, 2010. 10.
 - 7) 石井雄道, 田原重志, 喜多村孝幸, 寺本 明 : 下垂体腫瘍に対する内視鏡下経鼻経蝶形骨手術. 第 23 回日本内視鏡外科学会総会, 2010. 10.
 - 8) 石井雄道, 田原重志, 大山健一¹⁾, 喜多村孝幸, 寺本 明 (¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科) : プロラクチノーマの手術成績とさらなる低侵襲手術への試み. (社) 日本脳神経外科学会第 69 回学術総会, 2010. 10.
 - 9) 山口文雄, 石井雄道, 大村朋子¹⁾, 瀧藤健太, 展 広智, 寺本 明 : 脳神経外科領域における PDD・PDT2 - 脳腫瘍術中蛍光診断における蛍光陽性判定の問題点. 第 31 回日本レーザー医学会総会, 2010. 11.
 - 10) 小南修史¹⁾, 鈴木雅規¹⁾, 渡邊 玲²⁾, 吉田陽一³⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明 (¹⁾ 千葉北総病院脳神経外科, ²⁾ 東京共済病院脳神経外科, ³⁾ 荏原病院脳神経外科) : ガンマナイフの協調を前提とした脳動静脈奇形の塞栓術. 第 26 回日本脳神経血管内治療学会学術総会, 2010. 11.
 - 11) 大山健一¹⁾, 石井雄道, 田原重志, 足立好司¹⁾, 喜多村孝幸, 寺本 明 (¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科) : 腹側部頭蓋底病変に対する内視鏡単独拡大経蝶形骨洞手術の適応とセットアップ. 第 17 回日本神経内視鏡学会, 2010. 12.
- (5) セミナー :
- 1) 山口文雄 : 脳神経外科領域でのてんかんの予防と治療 : 特に脳腫瘍の症候性てんかんについて. グラクソ・スミスクライン株式会社社内研修会, 2010. 4.
 - 2) 山口文雄 : 機能温存を考慮した脳腫瘍摘出術の方法. 1st Neurosurgical Seminar for Residents, 2010. 5.
- (6) 一般講演 :
- 1) Oyama K¹⁾, Hukuhara N²⁾, Yamada S²⁾, Takahashi H¹⁾, Teramoto A (¹⁾ Department of Neurosurgery, Musashi Kosugi Hospital, ²⁾ Department of Neurosurgery, Toranomon Hospital) : Expanded endoscopic endonasal approach treating huge pituitary adenomas with complete cavernous sinus invasion. 4th World Congress for Endoscopic Surgery of the Brain, Skull Base and Spine (Pittsburgh, USA), 2010. 4.
 - 2) Yoshida D, Koketsu K, Nomura R¹⁾, Teramoto A (¹⁾ Japanese Red Cross Medical Center) : The CXCR4 antagonist AMD3100 suppresses hypoxia-mediated growth hormone production in GH3 rat pituitary adenoma cells. BIT's 1st Annual World Congress of NeuroTalk-2010, 2010. 6.
 - 3) Omura T¹⁾, Yamaguchi F, Kojima T²⁾, Takahashi H³⁾, Kobayashi S¹⁾, Teramoto A (¹⁾ Department of Neurosurgery, Chiba Hokuso Hospital, ²⁾ Yotsuya Medical Cube, ³⁾ Department of Neurosurgery, Musashi Kosugi Hospital) : Verification of accuracy of tractography in neuronavigation by direct 3D-positioning of motor tract by a subcortical electrode. 9th International Meeting Updates in Neuro-Oncology Brain Tumor Symposium (Cortona, Italy), 2010. 7.
 - 4) Takumi I¹⁾, Akimoto M²⁾, Hyakusoku H²⁾, Teramoto A (¹⁾ Department of Neurosurgery, Musashi Kosugi Hospital, ²⁾ Department of plastic surgery) : Aesthetic cranioplasty. 25th Japan Neurosurgery English Forum (Saitama, Japan), 2010. 7.
 - 5) Takahashi H¹⁾, Hirakawa K²⁾, Yamaguchi F, Adachi K³⁾, Ohno Y²⁾, Teramoto A, Yuta K⁴⁾ (¹⁾ Kasugai Rehabilitation Hospital, ²⁾ Department of forensic medicine, ³⁾ Department of Neurosurgery, Musashi Kosugi Hospital, ⁴⁾ Fujitsu Bio-IT Group) : Usefulness of NMR based metabolomics (metabolome) using the analysis of water and lipid-soluble metabolites as the predictive factors of malignant type meningiomas. 9th

Congress of the European Association for Neuro-Oncology (Maastricht, The Netherlands), 2010. 9.

- 6) Yamaguchi F, Kojima T¹⁾, Takahashi H²⁾, Teramoto A (¹⁾ Yotsuya Medical Cube, ²⁾ Kasugai Rehabilitation Hospital) : Preservation of pyramidal tract by navigation-assisted intraoperative mapping in glioma surgery. 9th Meeting of the European Association for Neurooncology (Maastricht, The Netherlands), 2010. 9.
- 7) Yamaguchi F, Kojima T¹⁾, Omura T²⁾, Takahashi H³⁾, Teramoto A (¹⁾ Yotsuya Medical Cube, ²⁾ Department of Neurosurgery, Chiba Hokuso Hospital, ³⁾ Kasugai Rehabilitation Hospital) : Pitfalls of Tractography in intraoperative neuronavigation : Verification by Direct 3D-positioning of pyramidal tract by a subcortical electrode "NY Tract Finder". 2010 Congress of Neurological Surgeons Annual Meeting (San Francisco, USA), 2010. 10.
- 8) Kominami S¹⁾, Suzuki M¹⁾, Kobayashi S¹⁾, Teramoto A (¹⁾ Department of Neurosurgery, Chiba Hokuso Hospital) : Embolization of spinal cord arteriovenous malformations through the anterior spinal artery. XIX Symposium Neuroradiologicum (Bologna, Italy), 2010. 10.
- 9) Takumi I¹⁾, Kominami S²⁾, Watanabe A³⁾, Kobayashi S²⁾, Teramoto A (¹⁾ Department of Neurosurgery, Musashi Kosugi Hospital, ²⁾ Department of Neurosurgery, Chiba Hokuso Hospital, ³⁾ Department of Neurosurgery, Tokyo Kyosai Hospital) : Epilepsy in dural arteriovenous fistulae (AVM). 64th Annual Meeting of the American Epilepsy Society, 2010. 12.
- 10) Ishii Y, Tahara S, Oyama K¹⁾, Kitamura T, Teramoto A (¹⁾ Department of Neurosurgery, Musashikosugi Hospital) : Unilateral one sphenoid ostium approach : much less invasive pituitary surgery. 22th Annual Meeting of Asia-Pacific Endocrine Conference (Honolulu, Hawaii), 2011. 2.
- 11) Oyama K¹⁾, Ishii Y, Tahara S, Adachi K¹⁾, Kitamura T, Teramoto A (¹⁾ Department of Neurosurgery, Musashikosugi Hospital) : Expanded endoscopic endonasal approach treating huge pituitary adenomas with complete cavernous sinus invasion. 22th Annual Meeting of Asia-Pacific Endocrine Conference (Honolulu, Hawaii), 2011. 2.
- 12) 吉田大蔵, 纈纈健太, 寺本 明 : ラット下垂体腺腫細胞 GH3 における miRNA による GH, PRL 産生の制御に関する研究. 第 51 回日本神経病理学会, 2010. 4.
- 13) 野手洋治¹⁾, 玉置智規¹⁾, 寺本 明 (¹⁾ 多摩永山病院脳神経外科) : 頭蓋内主幹動脈および頸部頸動脈の無症候性病変 : MRA における検討. 第 39 回日本脳卒中の外科学会, 2010. 4.
- 14) 玉置智規, 野手洋治, 齊藤寛浩, 梅岡克哉, 酒井直之, 立山幸次郎, 水成隆之 : 頸動脈内膜剝離術における嗚声と迷走神経刺激装置の使用経験. 第 39 回日本脳卒中の外科学会, 2010. 4.
- 15) 水成隆之¹⁾, 小林士郎¹⁾, 玉置智規²⁾, 村井保夫, 梅岡克哉¹⁾, 立山幸次郎 (¹⁾ 千葉北総病院脳神経外科, ²⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科) : 内頸動脈大型, 前壁 (Blister like) 動脈瘤に対する治療戦略. 第 39 回日本脳卒中の外科学会, 2010. 4.
- 16) 村井保夫, 水成隆之¹⁾, 梅岡克哉¹⁾, 立山幸次郎, 小林士郎¹⁾, 寺本 明 (¹⁾ 千葉北総病院脳神経外科) : 脳血管吻合術における虚血性合併症を防ぐ工夫. 第 39 回日本脳卒中の外科学会, 2010. 4.
- 17) 村井保夫, 足立好司¹⁾, 纈纈健太, 寺本 明 (¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科) : Carl Zeiss 社製 OPMI Pentero FLOW800 システムの使用経験. 第 39 回日本脳卒中の外科学会, 2010. 4.
- 18) 梅岡克哉¹⁾, 水成隆之¹⁾, 村井保夫, 小林士郎¹⁾, 寺本 明 (¹⁾ 千葉北総病院脳神経外科) : PICA を含んだ椎骨動脈解離性動脈瘤の治療方針. 第 39 回日本脳卒中の外科学会, 2010. 4.
- 19) 立山幸次郎, 廣中浩平, 村井保夫, 水成隆之¹⁾, 寺本 明 (¹⁾ 千葉北総病院脳神経外科) : ラクナ梗塞発症早期に右椎骨動脈解離によるくも膜下出血をきたした 1 例. 第 39 回日本脳卒中の外科学会, 2010. 4.
- 20) 亦野文宏, 戸田茂樹, 田原重志, 中久木卓也, 寺本 明 : 環椎椎弓内側に過形成をきたした 1 症例. 第 111 回 (社) 日本脳神経外科学会関東支部学術集会, 2010. 4.

- 21) 亦野文宏, 山口文雄, 石井雄道, 中江竜太, 立山幸次郎, 足立好司, 村井保夫, 寺本 明: 脳内出血で発症した絨毛嚢転移の1例. 第39回日本脳卒中の外科学会, 2010. 4.
- 22) 鈴木雅規¹⁾, 小南修史¹⁾, 白銀一貴¹⁾, 國保倫子¹⁾, 大村朋子¹⁾, 梅岡克哉¹⁾, 金 景成¹⁾, 水成隆之¹⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明 (1) 千葉北総病院脳神経外科): mass effectにより発症した脳底動脈本幹部動脈瘤に対して脳血管内治療を施行した1例. 第111回(社)日本脳神経外科学会関東支部学術集会, 2010. 4.
- 23) 鈴木雅規¹⁾, 小南修史¹⁾, 吉原智之²⁾, 石原秀章²⁾, 神山信也²⁾, 根 文孝²⁾, 石原正一郎²⁾, 寺本 明 (1) 千葉北総病院脳神経外科, 2) 埼玉医科大学国際医療センター脳卒中センター脳血管内治療科): 亜急性期に施行した症候性内頸動脈高度狭窄に対するCAS. 第9回日本頸部脳血管治療学会, 2010. 4.
- 24) 戸田茂樹, 横田裕行¹⁾, 寺本 明 (1) 高度救命救急センター): 中心性頸髄損傷の治療について. 第14回 Waterfront Neurosurgical Conference, 2010. 5.
- 25) 亦野文宏¹⁾, 足立好司¹⁾, 村井保夫, 岩本直高²⁾, 内藤善哉³⁾, 寺本 明 (1) 武蔵小杉病院脳神経外科, 2) 千葉北総病院脳神経外科, 3) 病理部): 短期間に出血を繰り返した anaplastic ependymoma の1例. 第28回日本脳腫瘍病理学会, 2010. 5.
- 26) 足立好司, 村井保夫, 前田昭太郎¹⁾, 内藤善哉¹⁾, 高橋弘²⁾, 寺本 明 (1) 病理学, 2) 武蔵小杉病院脳神経外科): 急速に増大を示した眼窩内悪性孤立性線維性腫瘍疑いの1手術例. 第28回日本脳腫瘍病理学会, 2010. 5.
- 27) 戸田茂樹, 亦野文宏, 山口文雄, 寺本 明: C1椎弓腹側に突出した化骨により頸髄圧迫をきたした1症例. 第25回日本脊髄外科学会, 2010. 6.
- 28) 水成隆之¹⁾, 小林士郎¹⁾, 梅岡克哉¹⁾, 玉置智規²⁾, 村井保夫, 立山幸次郎, 岩本直高¹⁾, 寺本 明 (1) 千葉北総病院脳神経外科, 2) 多摩永山病院脳神経外科): 脳卒中外科の最前線 安全確実な脳動脈瘤手術を目指して. 第35回日本外科系連合学会学術総会, 2010. 6.
- 29) 鈴木雅規¹⁾, 小南修史¹⁾, 白銀一貴¹⁾, 岩本直高¹⁾, 大村朋子¹⁾, 梅岡克哉¹⁾, 水成隆之¹⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明 (1) 千葉北総病院脳神経センター): 無水エタノール及びNBCAにて塞栓術を施行した高齢者髄膜腫の1例. 第7回日本脳神経血管内治療学会関東地方会, 2010. 6.
- 30) 國保倫子¹⁾, 金 景成¹⁾, 井須豊彦²⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明 (1) 千葉北総病院脳神経センター, 2) 釧路労災病院脳神経外科): 頭蓋内慢性硬膜下血腫に合併する腰椎硬膜下血腫及び腰椎疾患の検討. 第25回日本脊髄外科学会, 2010. 6.
- 31) 國保倫子¹⁾, 金 景成¹⁾, 井須豊彦²⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明 (1) 千葉北総病院脳神経センター, 2) 釧路労災病院脳神経外科): OALLにより嚙下障害をきたした1例. 第25回日本脊髄外科学会, 2010. 6.
- 32) 山口文雄, 小島豊之¹⁾, 大村朋子²⁾, 展 広智, 高橋 弘³⁾, 寺本 明 (1) 四谷メディカルキューブ, 2) 千葉北総病院脳神経センター, 3) 春日居リハビリテーション病院): 術後神経症状悪化を防ぐ髄内脳腫瘍摘出術における大脳機能モニタリング: Navigation-Assisted Subcortical Mapping. 第16回日本脳神経モニタリング学会, 2010. 7.
- 33) 宗方祐美子¹⁾, 青木 亘¹⁾, 吉田由紀子¹⁾, 佐藤淳子¹⁾, 宮本雅史²⁾, 今野俊介²⁾, 村井保夫, 山口文雄 (1) 生理機能センター, 2) 整形外科): 当院における術中運動誘発電位 (MEP) モニタリング. 第16回日本脳神経モニタリング学会, 2010. 7.
- 34) 梅岡克哉¹⁾, 白銀一貴¹⁾, 水成隆之¹⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明 (1) 千葉北総病院脳神経センター): 脳梗塞にて発症した前側頭動脈解離性動脈瘤の1例. 第29回 The Mt.Fuji Workshop on CVD, 2010. 8.
- 35) 杉山 誠¹⁾, 立澤孝幸¹⁾, 堀川弘史¹⁾, 苗村和明¹⁾, 福島雄大¹⁾, 茂野 卓¹⁾, 田原重志 (1) 関東労災病院脳神経外科): 原因不明の下垂体膿瘍の1例. 第112回(社)日本脳神経外科学会関東支部学術集会, 2010. 9.
- 36) 大山健一¹⁾, 亦野文宏¹⁾, 山田 明¹⁾, 田原重志, 太組一朗¹⁾, 足立好司¹⁾, 寺本 明 (1) 武蔵小杉病院脳神経外科): 蝶形骨洞内異所性髄膜腫の1例. 第112回(社)日本脳神経外科学会関東支部会, 2010. 9.
- 37) 岩本直高¹⁾, 白銀一貴¹⁾, 大村朋子¹⁾, 鈴木雅規¹⁾, 梅岡克哉¹⁾, 小南修史¹⁾, 水成隆之¹⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本

- 明⁽¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター)：クモ膜下出血を合併した顕微鏡的多発血管炎の1例. 第112回(社)日本脳神経外科学会関東支部会, 2010. 9.
- 38) 俵矢英輔¹⁾, 土屋雅人¹⁾, 玉置智規¹⁾, 木暮一成¹⁾, 野手洋治¹⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 多摩永山病院脳神経外科)：繊維筋性異形成(FMD)による脳梗塞の1例. 第112回(社)日本脳神経外科学会関東支部学術集会, 2010. 9.
- 39) 山口文雄, 大村朋子¹⁾, 小島豊之²⁾, 展 広智, 石井雄道, 高橋 弘³⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター, ²⁾ 四谷メディカルキューブ, ³⁾ 春日居リハビリテーション病院)：ナビゲーションに統合したトラクトグラフィック情報の信頼性の検証：NY Tract Finderを用いた術中皮質下マッピングによる錐体路位置測定. 第15回日本脳腫瘍の外科学会, 2010. 10.
- 40) 山口文雄, 小島豊之¹⁾, 大村朋子²⁾, 展 広智, 石井雄道, 高橋 弘³⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 四谷メディカルキューブ, ²⁾ 千葉北総病院脳神経センター, ³⁾ 春日居リハビリテーション病院)：トラクトグラフィック導入ナビゲーションのpitfall：NY Tract Finderを用いた術中皮質下マッピングによる錐体路位置情報の検証. (社)日本脳神経外科学会第69回学術総会, 2010. 10.
- 41) 戸田茂樹, 亦野文宏, 中江竜太, 横田裕行¹⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 高度救命救急センター)：骨傷のある頸椎外傷患者における固定術の検討. (社)日本脳神経外科学会第69回学術総会, 2010. 10.
- 42) 玉置智規¹⁾, 野手洋治¹⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 多摩永山病院脳神経外科)：橋, 延髄海綿状血管腫の5直達手術の経験. (社)日本脳神経外科学会第69回学術総会, 2010. 10.
- 43) 杉山 誠¹⁾, 立澤孝幸¹⁾, 熊井潤一郎¹⁾, 苗村和明¹⁾, 福島雄大¹⁾, 茂野 卓¹⁾, 石井雄道, 田原重志, 寺本 明⁽¹⁾ 関東労災病院脳神経外科)：未経験から始めた内視鏡下経鼻の下垂体腫瘍摘出術のポイント. (社)日本脳神経外科学会第69回学術総会, 2010. 10.
- 44) 太組一朗¹⁾, 饒波正博²⁾, 嘉手川淳³⁾, 小林士郎⁴⁾, 浦 裕之⁵⁾, 吉田大蔵, 寺本 明⁽¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科, ²⁾ 沖縄赤十字病院脳神経外科, ³⁾ 沖縄赤十字病院神経内科, ⁴⁾ 千葉北総病院脳神経センター, ⁵⁾ 東邦大学薬学部)：脳神経外科でてんかん診療におけるラモトリジンの使用経験. 第44回日本てんかん学会総会, 2010. 10.
- 45) 太組一朗¹⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科)：閉頭困難時に脳神経外科医が無理なく使える皮弁. (社)日本脳神経外科学会第69回学術総会, 2010. 10.
- 46) 村井保夫, 小南修史¹⁾, 足立好司²⁾, 梅岡克哉¹⁾, 立山幸次郎, 亦野文宏, 小林士郎, 寺本 明⁽¹⁾ 千葉北総病院脳神経外科, ²⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科)：小脳血管芽腫の治療戦略：術前塞栓術と術中ICG videoangiography. 第15回日本脳腫瘍の外科学会, 2010. 10.
- 47) 金 景成¹⁾, 井須豊彦²⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター, ²⁾ 釧路労災病院脳神経外科)：変性側弯症に対する除圧術単独手術後の治療成績に関する検討. (社)日本脳神経外科学会第69回学術総会, 2010. 10.
- 48) 大山健一¹⁾, 石井雄道, 田原重志, 足立好司¹⁾, 喜多村孝幸, 寺本 明⁽¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科)：腹部部頭蓋底病変に対する内視鏡下経蝶形骨洞手術の現状と展望. (社)日本脳神経外科学会第69回学術総会, 2010. 10.
- 49) 亦野文宏¹⁾, 村井保夫, 足立好司¹⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科)：もやもや血管と甲状腺機能亢進症 脳内出血例, 2次性甲状腺機能亢進症例を含む3症例の検討. (社)日本脳神経外科学会第69回学術総会, 2010. 10.
- 50) 石井雄道, 小林士郎¹⁾, 江本直也²⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター, ²⁾ 千葉北総病院内分泌内科)：クッシング病の2例. 第8回千葉下垂体疾患研究会, 2010. 10.
- 51) 小南修史¹⁾, 鈴木雅規¹⁾, 渡邊 玲²⁾, 吉田陽一³⁾, 布施 明⁴⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター, ²⁾ 東京共済病院脳神経外科, ³⁾ 荏原病院脳神経外科, ⁴⁾ 高度救命救急センター)：小脳の脳動脈奇形に対する血管内治療. (社)日本脳神経外科学会第69回学術総会, 2010. 10.

- 52) 鈴木雅規¹⁾, 小南修史¹⁾, 白銀一貴¹⁾, 岩本直高¹⁾, 大村朋子¹⁾, 梅岡克哉¹⁾, 金 景成¹⁾, 水成隆之¹⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明 (¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター) : CEA1st 施設での頸動脈狭窄に対する治療方針の検討 - 頸動脈ステント留置術の適応症例とは? . (社) 日本脳神経外科学会第 69 回学術総会, 2010. 10.
- 53) 大村朋子¹⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明 (¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター) : 円蓋部くも膜下出血を伴った両側頸部内頸動脈解離の 1 例. (社) 日本脳神経外科学会第 69 回学術総会, 2010. 10.
- 54) 岩本直高¹⁾, 白銀一貴¹⁾, 大村朋子¹⁾, 鈴木雅規¹⁾, 梅岡克哉¹⁾, 小南修史¹⁾, 水成隆之¹⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明 (¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター) : クモ膜下出血を合併した顕微鏡的多発血管炎の 1 例. (社) 日本脳神経外科学会第 69 回学術総会, 2010. 10.
- 55) 白銀一貴¹⁾, 梅岡克哉¹⁾, 岩本直高¹⁾, 大村朋子¹⁾, 鈴木雅規¹⁾, 金 景成¹⁾, 小南修史¹⁾, 水成隆之¹⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明 (¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター) : 脳梗塞で発症した前側頸動脈解離性脳動脈瘤の 1 例. (社) 日本脳神経外科学会第 69 回学術総会, 2010. 10.
- 56) 田原重志, 石井雄道, 大山健一¹⁾, 竹井麻生²⁾, 山王直子³⁾, 喜多村孝幸, 寺本 明 (¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科, ²⁾ 林脳神経外科内科クリニック, ³⁾ 山王クリニック) : 内視鏡単独経鼻の手術における下垂体腺腫再増大例の治療. 第 15 回日本脳腫瘍の外科学会, 2010. 10.
- 57) 松野 彰¹⁾, 山田 創¹⁾, 山田昌興¹⁾, 恩田泰光¹⁾, 中口 博¹⁾, 村上峰子¹⁾, 保谷克巳¹⁾, 石井雄道 (¹⁾ 帝京大学ちば総合医療センター脳神経外科) : 下垂体腺腫の放射線治療後に発生したトルコ鞍底部の骨肉腫. 第 8 回千葉下垂体疾患研究会, 2010. 10.
- 58) 喜多村孝幸 : 脳室内病変に対する神経内視鏡手術の現状と展望. (社) 日本脳神経外科学会第 69 回学術総会, 2010. 10.
- 59) 立山幸次郎 : くも膜下出血超急性期の Perfusion CT による血流評価と予後予測. (社) 日本脳神経外科学会第 69 回学術総会, 2010. 10.
- 60) 立山幸次郎 : 頸部内頸動脈内膜剝離術高位病変に対する工夫と下位脳神経麻痺予防. (社) 日本脳神経外科学会第 69 回学術総会, 2010. 10.
- 61) 國保倫子 : ラクナ梗塞発症早期に右椎骨動脈解離によるくも膜下出血をきたした 1 例. (社) 日本脳神経外科学会第 69 回学術総会, 2010. 10.
- 62) 額畑健太, 村井保夫, 立山幸次郎, 梅岡克哉¹⁾, 水成隆之¹⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明 (¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター) : 脳血管吻合術における虚血性合併症を防ぐ工夫 : 吻合操作以外に大切なこと. (社) 日本脳神経外科学会第 69 回学術総会, 2010. 10.
- 63) 鈴木雅規¹⁾, 小南修史¹⁾, 白銀一貴¹⁾, 岩本直高¹⁾, 大村朋子¹⁾, 梅岡克哉¹⁾, 金 景成¹⁾, 水成隆之¹⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明 (¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター) : 脳底動脈幹部動脈瘤に対する脳血管内治療. 第 26 回日本脳神経血管内治療学会学術総会, 2010. 11.
- 64) 大村朋子¹⁾, 三品雅洋¹⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明, 片山泰朗²⁾ (¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター, ²⁾ 第二内科) : 頭痛発症の脳深部静脈洞血栓症の 1 例. 第 38 回日本頭痛学会総会, 2010. 11.
- 65) 國保倫子, 三品雅洋¹⁾, 金 景成¹⁾, 小南修史¹⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明, 片山泰朗²⁾ (¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター, ²⁾ 第二内科) : くも膜下出血で発症した頸椎硬膜動静脈瘤. 第 38 回日本頭痛学会総会, 2010. 11.
- 66) 杉山 誠¹⁾, 立澤孝幸¹⁾, 熊井潤一郎¹⁾, 苗村和明¹⁾, 福島雄大¹⁾, 茂野 卓¹⁾, 石井雄道, 田原重志, 寺本 明 (¹⁾ 関東労災病院脳神経外科) : 内視鏡下経鼻の下垂体腫瘍摘出術の基本的な手技の検討. 第 17 回日本神経内視鏡学会, 2010. 12.
- 67) 石井雄道, 田原重志, 大山健一¹⁾, 喜多村孝幸, 寺本 明 (¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科) : 内視鏡下経鼻経蝶形骨手術の変遷. 第 17 回日本神経内視鏡学会, 2010. 12.
- 68) 廣中浩平¹⁾, 太組一朗¹⁾, 足立好司¹⁾, 岸 泰広²⁾, 寺本 明 (¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科, ²⁾ 武蔵小杉病院精神神経科) : 偽発作の 1 例. 第 67 回神奈川てんかん懇話会, 2011. 1.

- 69) 田原重志, 石井雄道, 大山健一¹⁾, 長村義之²⁾, 寺本 明 (¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科, ²⁾ 国際医療福祉大学三田病院病理部): 非浸潤性プロラクチン産生下垂体腺腫に対する内視鏡単独経鼻的手術による被膜外摘出の治療成績. 厚生労働省難治性疾患克服研究事業間脳下垂体機能障害調査研究班 平成 22 年度斑会議, 2011. 1.
- 70) 石井雄道, 江本直也¹⁾, 田原重志, 寺本 明 (¹⁾ 千葉北総病院内分泌内科): 神経線維腫症 1 型に合併したクッシング病の 1 例. 第 20 回臨床内分泌代謝 Update, 2011. 1.
- 71) 榎本弘幸¹⁾, 石井雄道, 喜多村孝幸, 長村義之²⁾, 田原重志, 寺本 明 (¹⁾ 日本医科大学 5 年, ²⁾ 国際医療福祉大学三田病院): 脊髄播種を認め下垂体癌が疑われた非機能性下垂体腺腫の 1 例. 第 20 回臨床内分泌代謝 Update, 2011. 1.
- 72) 中久木卓也¹⁾, 田原重志 (¹⁾ 京都医療センター脳神経外科): 下垂体. 第 15 回関西ニューロエンドスコープ研究会, 2011. 2.
- 73) 廣中浩平¹⁾, 大山健一¹⁾, 山田 明¹⁾, 足立好司¹⁾, 寺本 明 (¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科): ステロイド反応性脳幹グリオーマ様の画像を呈した 1 症例. 第 14 回文京脳腫瘍研究会, 2011. 2.
- 74) 戸田茂樹: 軸椎歯突起および椎弓より脊髄を圧迫した 2 症例の検討. 第 34 回日本脳神経 CI 学会総会, 2011. 2.
- 75) 喜多村孝幸: 片頭痛, 群発頭痛. 第 54 回兵庫県医師会学術セミナー, 2011. 2.
- 76) 額根健太: もやもや病の 1 例: いわゆる ivy sign について. 第 6 回文京ニューロサイエンスフォーラム, 2011. 2.
- 77) 村井保夫: Intermispheric approach による傍鞍部腫瘍摘出術. 7th Neurosurgical Video Conference, 2011. 2.
- (7) 記念講演:
- 1) 寺本 明: 本学大学院の歩み. 日本医科大学大学院設置 50 周年記念講演会, 2010. 6.
 - 2) 寺本 明: 我が国の脳神経外科の姿. 高知大学医学部脳神経外科清水恵司教授就任 10 周年記念講演会, 2010. 7.
- (8) 講演:
- 1) Murai Y, Teramoto A: Treatment of complicated vascular disease with radial artery graft bypass. The Asian Aneurysm Forum: International Conference for Cerebrovascular Surgery (Guilin, China), 2010. 7.
 - 2) 寺本 明: 脳のホルモンとその病気. 第 228 回二水会, 2010. 6.
 - 3) 戸田茂樹: 脳卒中とリハビリテーション. 市原介護センター講演会, 2010. 6.
- (9) 千葉県医師会奨励賞受賞講演:
- 1) 金 景成¹⁾, 井須豊彦²⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明 (¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター, ²⁾ 鉦路労災病院脳神経外科): 頸椎前方除圧固定術の低侵襲手術に関する研究. 千葉県医師会定期総会, 2010. 11.
- (10) 田原:
- 1) 田原重志, 石井雄道, 大山健一¹⁾, 竹井麻生²⁾, 山王直子³⁾, 喜多村孝幸, 寺本 明 (¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科, ²⁾ 林脳神経外科内科クリニック, ³⁾ 山王クリニック): 下垂体腺腫に対する内視鏡単独経鼻的手術の現状と展望. (社) 日本脳神経外科学会第 69 回学術総会, 2010. 10.

[武蔵小杉病院脳神経外科]

研究概要

武蔵小杉病院脳神経外科は、付属病院・多摩永山病院・千葉北総病院と密接な連携を保ちながら、脳腫瘍・脳血管障害・神経外傷・中枢神経系奇形・機能的脳疾患（顔面痙攣、三叉神経痛、パーキンソン病、てんかんなど）・整容的脳神経疾患とあらゆる脳神経系の外科的治療を行っている。特に脳腫瘍に関しては、従来摘出困難とされてきた脳幹部などの腫瘍に対しても積極的に手術を行って予後の改善を目指し、悪性脳腫瘍に対しては手術後の補助療法として QOL を重視した新しい化学療法を含む集学的治療を施行し、良好な結果を収めている。また、虚血性脳卒中の急

性期治療 (tPA 療法) を施行する神奈川県内の拠点病院となっていることから、脳卒中治療室 (SCU) を軸として血管障害を主体とした救急疾患の治療にも力を注いでいる。小児疾患に関しても、脳腫瘍の治療を主体に行っているが、水頭症や中枢神経系奇形に対しての治療にも積極的に取り組んでいる。基礎的領域では、分子生物学的手法を用いた脳腫瘍のサイトカインによる治療機構の解析、免疫療法の神経疾患に対する臨床応用研究、ビデオ脳波モニタリングを用いたてんかん発症様式の解析、などのテーマで研究を進めている。また、医学教育にも積極的に取り組み、学生の技能・知識の到達度評価、新しい教育手法の研究、実践を行っている。そして、毎年国内外に確実に発表を行っており、今年度は英文論文3編、和文論文6編、分担著書6編の発表がなされた。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Yoshida D, Koketsu K¹⁾, Nomura R, Teramoto A¹⁾ (1) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School) : The CXCR4 antagonist AMD3100 suppresses hypoxia-mediated growth hormone production in GH3 rat pituitary adenoma cells. J Neurooncol 2010 ; 100 (1) : 51-64.
- 2) Nozaki H²⁾, Hamaguchi T¹⁾, Sanjo N^{3,4)}, Noguchi-Shinohara M¹⁾, Sakai K¹⁾, Nakamura Y^{4,5)}, Sato T^{4,6)}, Kitamoto T⁴⁾, Mizusawa H, Moriwaka F, Shiga Y, Kuroiwa Y, Nishizawa M, Kuzuhara S, Shirabe S, et al. (1) Department of Neurology and Neurobiology of Aging, Kanazawa University Graduate School of Medical Science, 2) Department of Neurology, Noto General Hospital, 3) Department of Neurology and Neurological Science, Graduate School, Tokyo Medical and Dental University, 4) Creutzfeldt-Jakob Disease Surveillance Committee, 5) Department of Public Health, Jichi Medical University, 6) Department of Neurology, Higashi Yamato Hospital, 7) Department of Prion Protein Research, Division of CJD Science and Technology, Tohoku University Graduate School of Medicine, 8) Department of Communication Disorders, Health Sciences University of Hokkaido Graduate School of Psychological Science, 9) Department of Neurology, Aoba Neurosurgical Clinic, 10) Department of Neurology, Yokohama City University School of Medicine) : Prospective 10-year surveillance of human prion diseases in Japan. Brain 2010 ; 133 (10) : 3043-3057.
- 3) 浦 裕之¹⁾, 太組一朗, 藤野 修²⁾, 福田恵子³⁾, 小林士郎⁴⁾, 吉田大蔵, 高橋 弘, 寺本 明⁵⁾, 渡辺雅子⁶⁾, 定本清美¹⁾ (1) 東邦大学薬学部臨床病態学研究室, 2) 千葉北総病院小児科, 3) 千葉北総病院薬剤部, 4) 千葉北総病院脳神経外科, 5) 付属病院脳神経外科, 6) 国立精神・神経センター武蔵病院精神神経科) : 包括的てんかん診療における薬剤師業務の展開. 日医大医学会誌 2010 ; 6 (1) : 34-39.
- 4) 長谷川泰弘¹⁾, 茂野 卓²⁾, 岩井良成³⁾, 鈴木一成⁴⁾, 野崎博之⁵⁾, 中山比登志⁶⁾, 高橋 弘, 方波見剛⁷⁾, 植田敏浩⁸⁾, 佐々木直¹⁾, 小野 元¹⁾, 熊井潤一郎²⁾, 太組一朗, 林 裕二⁹⁾ (1) 聖マリアンナ医科大学, 2) 関東労災病院, 3) 川崎幸病院, 4) 太田総合病院, 5) 川崎市立川崎病院, 6) 帝京大学溝口病院, 7) 慶友会第一病院, 8) 聖マリアンナ医科大学東横病院, 9) 川崎市消防局) : 検証可能な tPA 静注療法の病院前連携 : 川崎脳卒中ネットワーク (KSN) のコンセプトと成果. 脳卒中 2010 ; 32 (6) : 641-646.

(2) 総説：

- 1) 高橋 弘 : Central Nervous System Tumor 脳腫瘍 ; グリオーマ. 癌と化学療法 2010 ; 37 (6) : 1015-1015.
- 2) 大山健一, 石井雄道¹⁾, 田原重志¹⁾, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科) : 脳下垂体腫瘍に対する治療戦略のアップデート. 耳鼻咽喉科展望 2010 ; 53 (6) : 191-198.
- 3) 高橋 弘 : 新時代の脳腫瘍学 : 診断・治療の最前線 : IV. 脳腫瘍の診断. 脳腫瘍の画像診断 SPECT. 日本臨床 (増刊号) 2010 ; 68 (10) : 259-264.

(3) 症例報告：

- 1) Kim K¹⁾, Katsuno M²⁾, Isu T³⁾, Mishina M⁴⁾, Yoshida D, Kobayashi S¹⁾, Teramoto A²⁾ (1) Department

of Neurosurgery, Chiba Hokuso Hospital, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School, ³⁾ Department of Neurosurgery, Kushiro Rosai Hospital, ⁴⁾ Neurological Institute, Nippon Medical School, Chiba Hokuso Hospital) : Concomitant cranial and lumbar subdural hematomas -case report-. *Neurol Med Chir* 2010 ; 50 (5) : 402-404.

(4) 雑文 :

- 1) 太組一朗 : 第2回 Epilepsy Colloquium に参加して 日本てんかん学会 Sponsored Award (UCB-Otsuka 賞) 報告. *てんかん研究* 2010 ; 27 (3) : 399-401.

著 書

- 1) 太組一朗 : [分担] 日頃の疑問が『5分』でわかる くすりQ&A. 月刊 波, 2010 ; pp164-165, 日本てんかん協会.
- 2) 児玉南海雄¹⁾, 斉藤延人²⁾, 秋野公造³⁾, 太組一朗 (¹⁾ 福島県立医科大学, ²⁾ 東京大学, ³⁾ 秋田大学) : [分担] 16 感染性 (獲得性) プリオン病 : 臨床病型の特徴と診断のポイント : (2) 医原性クロイツフェルト・ヤコブ病. プリオン病と遅発性ウイルス感染症, 2010 ; pp160-169, 金原出版.
- 3) 高橋 弘 : [分担] テント下腫瘍 (脳幹腫瘍を中心に). *NS Now Vol. 11*— 小児脳神経外科手術, 2010 ; pp152-161, メジカルビュー社.
- 4) 太組一朗, 寺本 明¹⁾ (¹⁾ 付属病院脳神経外科) : [分担] 5. 整容脳神経外科なる概念,(特集) 臨床医学の展望 2011 脳神経外科学. *日本医事新報 No4529*, 2011 ; pp67-68, 日本医事新報社.
- 5) 秋元正宇¹⁾, 太組一朗 (¹⁾ 千葉北総病院形成外科) : [分担] 局所皮弁のテクニック 寄らない創をなんとかして閉創する. *NS Now Vol13 整容脳神経外科 Update*, 2011 ; pp180-186, メジカルビュー社.
- 6) 太組一朗, 秋元正宇¹⁾ (¹⁾ 千葉北総病院形成外科) : [分担] 術後感染に対する治療 自家骨移植. *NS Now Vol13 整容脳神経外科 Update*, 2011 ; pp175-179, メジカルビュー社.

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) 太組一朗, 秋元正宇¹⁾, 百東比古²⁾, 寺本 明³⁾ (¹⁾ 千葉北総病院形成外科, ²⁾ 付属病院形成外科, ³⁾ 付属病院脳神経外科) : 頭部外傷患者における頭蓋骨形成術. 日本脳神経外科コンgres総会モーニングセミナー (第30回) (横浜市), 2010. 5.
- 2) 太組一朗 : 整容脳神経外科 : トラブルシューティングと最近の話題. 三重脳神経外科集談会 (第66回) (津市 (三重県)), 2010. 11.
- 3) 太組一朗 : てんかん : 診療における基本的戦略と最近の治療動向. GHP (General Hospital Psychiatry) 研究会 (第54回), 2011. 1.

(2) シンポジウム :

- 1) Sakai K, Nozaki I, Hamaguchi T, Noguchi-Shinohara M, Nakamura Y, Sato T, Kitamoto T, Mizusawa H, Sanjo N, Moriwaka F, Shiga Y, Kuroiwa Y, Nishizawa M, Inuzuka T, Takumi I, et al. : Human prion diseases in Japan : a prospective surveillance from 1999. *AOSPD (Asia-Oceania Symposium on Prion Disease) 2010 (Sapporo 823, Kyoto)*, 2010. 7.
- 2) 大山健一, 石井雄道¹⁾, 田原重志¹⁾, 高橋 弘, 寺本 明¹⁾ (¹⁾ 付属病院脳神経外科) : 腹側部頭蓋底病変に対する内視鏡下経蝶形骨洞手術の役割. 日本頭蓋底外科学会 (第22回), 2010. 7.
- 3) 大山健一, 石井雄道¹⁾, 田原重志¹⁾, 足立好司, 喜多村孝幸¹⁾, 寺本 明¹⁾ (¹⁾ 付属病院脳神経外科) : 腹側部頭蓋底病変に対する内視鏡単独拡大経蝶形骨洞手術の適応とセットアップ. 日本神経内視鏡学会 (第17回), 2010. 12.

- 4) 大山健一, 石井雄道¹⁾, 田原重志¹⁾, 足立好司, 喜多村孝幸¹⁾, 寺本 明¹⁾ (¹⁾ 付属病院脳神経外科) : 腹側部頭蓋底病変に対する内視鏡下経蝶形骨洞手術の現状と展望. 日本間脳下垂体腫瘍学会 (第21回), 2011. 3.
- (3) セミナー :
- 1) 太組一朗 : てんかん : 診療と治療. 日本医科大学武蔵小杉病院 平成22年度研修セミナー (第6回), 2010. 6.
- 2) 太組一朗 : てんかん発作について. 脳神経外科医のためのてんかんセミナー, 2010. 11.
- (4) 一般講演 :
- 1) Oyama K, Hukuhara N¹⁾, Yamada S¹⁾, Takahashi H, Teramoto A²⁾ (¹⁾ Department of Neurosurgery, Toranomon Hospital, ²⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School) : Expanded endoscopic endonasal approach treating huge pituitary adenomas with complete cavernous sinus invasion. World Congress for Endoscopic Surgery of the Brain, Skull Base and Spine (The 4th) (ピッツバーグ (アメリカ)), 2010. 4.
- 2) Yoshida D, Koketsu K¹⁾, Nomura R, Teramoto A¹⁾ : The CXCR4 antagonist AMD3100 suppresses hypoxia-mediated growth hormone production in GH3 rat pituitary adenoma cells. NeuroTalk-2010 (シンガポール), 2010. 6.
- 3) Takahashi H, Hirakawa K¹⁾, Yamaguchi F²⁾, Adachi K, Ohno Y¹⁾, Teramoto A²⁾, Yuta K³⁾ (¹⁾ 法医学教室 NMR 研究室, ²⁾ 付属病院脳神経外科, ³⁾ 富士通 Bio-IT グループ) : Usefulness of NMR based metabolomics (metabolome) using the analysis of water and lipid-soluble metabolites as the predictive factors of malignant type meningiomas. Congress of the European Association for Neuro-Oncology (9th) (マーストリヒト市 (オランダ)), 2010. 9.
- 4) Takumi I, Kominami S¹⁾, Watanabe A²⁾, Kobayashi S¹⁾, Teramoto A³⁾ (¹⁾ Department of Neurosurgery, Chiba Hokuso Hospital, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Neurosurgery, Jichi medical School, ³⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School) : Epilepsy in dural arteriovenous fistulae (AVM). Annual meeting of the American Epilepsy Society (64th) (サンアントニオ (アメリカ)), 2010. 12.
- 5) Oyama K, Ishii Y¹⁾, Tahara S¹⁾, Adachi K, Kitamura T¹⁾, Teramoto A¹⁾ (¹⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School) : Expanded endoscopic endonasal approach treating huge pituitary adenomas with complete cavernous sinus invasion. APEC (22th) (ホノルル, ハワイ), 2011. 2.
- 6) Takumi I, Akimoto M¹⁾, Hyakusoku H²⁾, Teramoto A³⁾ (¹⁾ Department of Plastic surgery, Chiba Hokuso Hospital, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Plastic surgery, Nippon Medical School, ³⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School) : Aesthetic Cranioplasty. 日本脳神経外科国際学会フォーラム (第25回) (さいたま市 (埼玉県)), 2010. 7.
- 7) 太組一朗 : 外科系てんかん専門医からみた抗てんかん薬の使い方 : 新規抗てんかん薬と妊娠指導. KNP Network (第1回) (川崎市 (神奈川県)), 2010. 4.
- 8) 亦野文宏, 戸田茂樹¹⁾, 田原重志¹⁾, 中久木卓也¹⁾, 寺本 明¹⁾ (¹⁾ 付属病院脳神経外科) : 環椎椎弓内側に過形成をきたした1症例. 日本脳神経外科学会関東支部会 (第111回), 2010. 4.
- 9) 亦野文宏, 山口文雄¹⁾, 石井道雄¹⁾, 中江竜太¹⁾, 足立好司¹⁾, 村井保夫¹⁾, 寺本 明¹⁾, 立山幸次郎²⁾ (¹⁾ 付属病院脳神経外科, ²⁾ 博慈会記念病院脳神経外科) : 脳内出血で発症した絨毛癌脳転移の1例. 日本脳卒中の外科学会 (第39回), 2010. 4.
- 10) 吉田大蔵, 瀬瀬健太¹⁾, 寺本 明¹⁾ : ラット下垂体腺腫細胞 GH3 における miRNA による GH, PRL 産生の制御に関する研究. 日本神経病理学会 (第51回), 2010. 4.
- 11) 坂井健二, 野崎一朗, 中村好一, 北本哲之, 佐藤 猛, 水澤英洋, 森若文雄, 志賀裕正, 三條伸夫, 黒岩義之, 西澤正豊, 武田雅俊, 犬塚 貴, 阿部康二, 太組一朗, その他7名 : CJD サーベイランスにおける高齢発症プリオン病の検討. 日本神経学会総会 (第51回), 2010. 5.
- 12) 亦野文宏, 足立好司¹⁾, 村井保夫¹⁾, 岩本直高¹⁾, 寺本 明¹⁾, 内藤善哉²⁾ (¹⁾ 付属病院脳神経外科, ²⁾ 付属病院

- 病理部)：短期間に出血を繰り返した anaplastic ependymoma の 1 例. 日本脳腫瘍病理学会 (第 28 回), 2010. 5.
- 13) 日高可奈子¹⁾, 太組一朗, 高橋 弘⁽¹⁾ 武蔵小杉病院言語療法室)：右側頭葉腫瘍患者の高次脳機能障害. 日本意識障害学会 (第 19 回), 2010. 7.
- 14) 足立好司, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科)：悪性脳腫瘍への取り組み. 永山神経外科学会 (第 4 回), 2010. 7.
- 15) 足立好司, 吉村明修¹⁾, 阿曾亮子¹⁾, 志村俊郎¹⁾, 寺本 明²⁾ (1) 教育推進室, 2) 付属病院脳神経外科)：腰椎穿刺シミュレータを用いた臨床技能評価. 日本医学教育学会 (第 42 回), 2010. 7.
- 16) 太組一朗：てんかん治療における現状：薬物治療の問題点 成人の立場から. てんかん学術講演会, 2010. 8.
- 17) 大山健一, 亦野文宏, 山田 明, 田原重志¹⁾, 太組一朗, 足立好司, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科)：蝶形骨洞内異所性髄膜腫の 1 例. 日本脳神経外科学会関東支部会 (第 112 回), 2010. 9.
- 18) 太組一朗, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科)：閉頭困難時に脳神経外科医が無理なく使える皮弁. 日本脳神経外科学会学術総会 (第 69 回), 2010. 10.
- 19) 太組一朗, 饒波正博¹⁾, 嘉手川淳¹⁾, 小林士郎²⁾, 浦 裕之³⁾, 吉田大蔵⁴⁾, 寺本 明⁴⁾ (1) 沖縄赤十字病院脳神経外科, 2) 千葉北総病院脳神経外科, 3) 東邦大学薬学部, 4) 付属病院脳神経外科)：脳神経外科てんかん診療におけるラモトリジンの使用経験. 日本てんかん学会総会 (第 44 回), 2010. 10.
- 20) 太組一朗：Parkinson 病症例における DBS 手術. 川崎脳神経外科懇話会 (第 24 回), 2010. 10.
- 21) 亦野文宏, 村井保夫¹⁾, 足立好司, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科)：もやもや血管と甲状腺機能亢進症 脳内出血例, 二次性甲状腺機能亢進症例を含む 3 症例の検討. 日本脳神経外科学会総会 (第 69 回), 2010. 10.
- 22) 高橋 弘, 日高可奈子¹⁾ (1) 武蔵小杉病院言語療法室)：右前頭葉・側頭葉腫瘍患者の高次脳機能障害一口ベクトミー術前後の比較検討. 日本脳神経外科学会総会 (第 69 回), 2010. 10.
- 23) 大山健一, 石井雄道¹⁾, 田原重志¹⁾, 足立好司, 喜多村孝幸¹⁾, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科)：腹部部頭蓋底病変に対する内視鏡下経蝶形骨洞手術の現状と展望. 日本脳神経外科学会学術総会 (第 69 回), 2010. 10.
- 24) 足立好司, 高橋 弘¹⁾, 寺本 明²⁾ (1) 春日居リハビリテーション病院, 2) 付属病院脳神経外科)：IL-12 関連サイトカインが誘導する抗グリオーマ活性の解析. 日本脳神経外科学会学術総会 (第 69 回), 2010. 10.
- 25) 太組一朗：成人てんかん診療における抗てんかん薬の位置づけ. イーケプラ発売記念講演会 in Yokohama, 2010. 11.
- 26) 足立好司, 高橋 弘¹⁾, 寺本 明²⁾ (1) 春日居リハビリテーション病院, 2) 付属病院脳神経外科)：グリオーマに対する IL-12 関連サイトカインによる抗腫瘍効果の解析. 日本脳腫瘍学学会 (第 28 回), 2010. 11.
- 27) 太組一朗, 饒波正博¹⁾, 嘉手川淳²⁾, 寺本 明³⁾ (1) 沖縄赤十字病院脳神経外科, 2) 沖縄赤十字病院神経内科, 3) 付属病院脳神経外科)：脳神経外科診療におけるラモトリジンの使用経験. 日本てんかん外科学会 (第 34 回), 2011. 1.
- 28) 廣中浩平, 太組一朗, 足立好司, 岸 泰宏¹⁾, 寺本 明²⁾ (1) 武蔵小杉病院精神科, 2) 付属病院脳神経外科)：偽発作の 1 例. 神奈川てんかん懇話会 (第 67 回), 2011. 1.
- 29) 太組一朗：レベチラセタムが著効した 血液透析中の局在関連てんかんの 1 例. Kawasaki Epilepsy Network 学術講演会 (第 1 回), 2011. 1.
- 30) 大山健一, 廣中浩平, 山田 明, 田原重志¹⁾, 太組一朗, 足立好司, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科)：蝶形骨洞内異所性髄膜腫の 1 例. 日本脳神経 CI 学会総会 (第 34 回), 2011. 2.
- 31) 大山健一, 石井雄道¹⁾, 田原重志¹⁾, 太組一朗¹⁾, 足立好司, 喜多村孝幸¹⁾, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科)：腹側部頭蓋底病変に対する内視鏡下経蝶形骨洞手術. 多摩川脳神経外科カンファレンス (第 8 回), 2011. 2.
- 32) 太組一朗, 足立好司, 饒波正博¹⁾, 寺本 明²⁾ (1) 沖縄赤十字病院脳神経外科, 2) 付属病院脳神経外科)：難治てんかん症例に対する VNS (迷走神経刺激) 療法. 川崎脳神経外科懇話会 (第 25 回), 2011. 2.

- 33) 廣中浩平, 大山健一, 山田 明, 足立好司, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科): ステロイド反応性脳幹部神経腫瘍と思われた1例. 文京脳腫瘍研究会 (第17回), 2011. 2.
- 34) 太組一朗, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科): 新規抗てんかん薬の使い方: 脳神経外科医療におけるレベチラセタムの位置付け. 永山神経外科研究会 (第5回), 2011. 3.
- 35) 足立好司, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科): シミュレータを用いた腰椎穿刺実習. Intercity Neuro-conference (第1回), 2011. 3.

[多摩永山病院脳神経外科]

研究概要

日本医科大学多摩永山病院脳神経外科は日本脳神経外科学会専門医訓練施設および日本脳卒中学会総会専門医訓練施設として、教育・研究・診療を付属病院脳神経外科学教室と共同で行っている。また、神経生理学・分子神経病理学などの幅広いニューロサイエンスの手法を用いて研究を行っている。

1. 脳腫瘍 (特に良性腫瘍) の手術, とりわけ脳深部の腫瘍 (頭蓋底手術) に対し, 最小限の侵襲 (minimally invasive surgery) にて, 合併症を最小限に止めるべく手術法の開発, モニタリングの改良を行なっている。
2. 虚血性脳血管障害に対し, 頸動脈内膜剥離術, 頭蓋内外バイパス術の更なる技術向上にて, 当該疾患に対する良好な成績を治めている。
3. 脊髄および脊髄疾患に対し, 低侵襲手術にて患者様の予後向上に努めている。
4. 脳血栓症に対する抗血小板剤の有効な使用方法 (薬剤モニタリング) について, 血小板活性化に関する基礎的研究を行なっている。
5. 悪性脳腫瘍に対して, 手術・放射線療法に加えて独自の化学療法・免疫療法・遺伝子治療等, 集学的治療を行っている。SPECT による核医学的研究および臨床神経病理学的研究を行っている。
6. 脳下垂体腫瘍に対して手術のみならず臨床内分泌学的研究を行っている。頭部外傷症例とくに高齢者頭部外傷において脳血流評価を上記各種手法にて行い, 高次機能障害・長期予後予測因子の解明を行っている。
7. 脳下垂体腫瘍の臨床内分泌学的研究を行っている。頭部外傷症例とくに高齢者頭部外傷において脳血流評価を上記各種手法にて行い, 高次機能障害・長期予後予測因子の解明を行っている。
8. 頭痛・三叉神経痛・顔面痙攣に対しても内服治療および手術治療にて, 良好な成績を収めている。

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Tamaki T, Node Y, Saito N: Distal cervical carotid artery dissection after carotid endarterectomy: a complication of indwelling shunt doi: 10.1155/2010/816937. Int J Vasc Med 2010; e816937.

学会発表

(1) 特別講演:

- 1) 野手洋治: 脳梗塞について. 日本医科大学多摩永山病院公開講座 (第32回) (東京), 2010. 9.
- 2) 玉置智規: 脳幹部海綿状血管腫の手術. 第5回永山脳神経外科研究会 (東京), 2011. 3.

(2) 一般講演:

- 1) 野手洋治, 玉置智規, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科): 頭蓋内主幹動脈および頸部頸動脈の無症候性病変: MRA における検討. 日本脳卒中の外科学会 (第39回) (岩手), 2010. 4.
- 2) 玉置智規, 野手洋治: 脳血栓症患者における頸部頸動脈狭窄と血流依存性血管拡張反応. 日本脳卒中学会総会 (第

- 35回) (岩手), 2010. 4.
- 3) 玉置智規, 野手洋治, 斎藤寛浩¹⁾, 梅岡克也¹⁾, 酒井直之¹⁾, 立山幸次郎¹⁾, 水成隆之¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科): 頸動脈内膜剥離術における唸声と迷走神経刺激装置の使用経験. 日本脳卒中の外科学会 (第39回) (岩手), 2010. 4.
 - 4) 野手洋治: 脳血栓症患者における血小板マイクロパーティクル値の検討. 日本脳ドック学会総会 (第19回) (山形), 2010. 6.
 - 5) 俵矢英輔, 土屋雅人, 玉置智規, 木暮一成, 野手洋治, 寺本 明: 繊維筋性異形成 (FMD) による脳梗塞の1例. 日本脳神経外科学会関東支部学術集会 (第112回) (東京), 2010. 9.
 - 6) 玉置智規: 橋, 延髄海綿状血管腫の5直達手術の経験. 日本脳神経外科学会学術総会 (第69回) (福岡), 2010. 10.
 - 7) 木暮一成: 頸椎外側椎間板病変に対する手術: 前方固定術の術式選択を中心に. 日本脳神経外科学会学術総会 (第69回) (福岡), 2010. 10.

[千葉北総病院脳神経外科]

研究概要

開設17年が経過した千葉北総病院脳神経外科は、付属病院脳神経外科と綿密な関係を保ちながら、脳血管障害、頭部外傷、脳腫瘍、脳代謝、脳血管内手術、脊髄脊椎外科、機能的脳神経外科を中心とした臨床のおよび基礎的研究を行った。SCUも順調に稼動しており、千葉県北部における基幹施設としての責務を果たした。昨年、当科が中心となって完成させた千葉県統一脳卒中地域連携パスを県下に広く浸透させ、脳卒中急性期のstroke bypassを確立する目的にて千葉県脳卒中急性期医療協議会を設立した。また、当医局に設置されている(社)日本脳卒中協会千葉県支部では、各地で脳卒中市民公開講座を開催した。1) 脳血管障害: 第68回 脳神経外科学会総会におけるビデオシンポジウムで、内頸動脈blister like aneurysmに対する治療戦略を発表した。また椎骨動脈解離性動脈瘤の外科的治療法を報告した。千葉県における脳卒中地域連携パスの現状を述べた。2) 神経外傷: ゴルフカートに関係する頭部外傷例の検討を行った。3) 脳腫瘍: 皮質電極刺激によるトラクトグラフィーの精度評価を行った。クッシング病に対する神経内視鏡的経蝶形骨洞アプローチの新しい手術法を開発した。4) 脳代謝: ヒト被殻におけるアデノシンA1リセプターの加齢変化を検討した。5) 脳血管内治療: 脊髄動静脈奇形に対する血管内治療の治療成績を報告した。脳動静脈奇形に対するガンマナイフ治療成績における塞栓術の与える影響を検討した。6) 脊髄脊椎外科: 腰椎変性疾患に対するスタンダード手術の概説を行った。また腰椎固定術後 failed back surgeryの治療法を検討した。また変性側弯症に対する除圧術単独手術後の治療成績を報告した。7) 機能的脳神経外科: 包括的てんかん診療における総説を行った。

研究業績

論文

[追加分]

追加分原著:

- 1) 浦 裕之¹⁾, 太組一朗²⁾, 藤野 修³⁾, 福田恵子⁴⁾, 小林士郎, 吉田大蔵²⁾, 高橋 弘²⁾, 寺本 明⁵⁾, 渡辺雅子⁶⁾, 定本清美¹⁾ (1) 東邦大学薬学部臨床病態学研究室, 2) 武蔵小杉病院脳神経外科, 3) 千葉北総病院小児科, 4) 千葉北総病院薬剤部, 5) 付属病院脳神経外科, 6) 国立精神・神経センター武蔵病院精神神経科): 包括的てんかん診療における薬剤師業務の展開. 日医大医会誌 2010; 6 (1): 34-39.

(1) 原著 :

- 1) Kim K, Isu T¹⁾, Sugawara A²⁾, Morimoto D³⁾, Matsumoto R¹⁾, Isobe M¹⁾, Mishina M, Kobayashi S, Teramoto A³⁾ (1) Department of Neurosurgery, Kushiro Rosai Hospital, Kushiro, Hokkaido, 2) Department of Neurosurgery, Iwate Medical University Hospital, 3) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School) : Radiological study of the sandwich method in cervical anterior fusion using autologous vertebral bone grafts. J Clin Neurosci 2010 ; 17 (4) : 450-454.
- 2) Kim K, Katsuno M¹⁾, Isu T²⁾, Mishina M, Yoshida D¹⁾, Kobayashi S, Teramoto A¹⁾ (1) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School, 2) Department of Neurosurgery, Kushiro Rosai Hospital, Kushiro, Hokkaido) : Concomitant Cranial and Lumbar Subdural Hematomas. Neuro Medico-Chirurgica 2010 ; 50(5) : 402-404.
- 3) Ishiwata K¹⁾, Kimura Y²⁾, Oda K³⁾, Ishii K³⁾, Sakata M³⁾, Kawasaki K³⁾, Nariai T⁴⁾, Suzuki Y⁵⁾, Ishibashi K⁶⁾, Mishina M, Hashimoto M⁷⁾, Ishikawa M⁸⁾, Toyohara J⁹⁾ (1) Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, 2) Biophysics Group, Molecular Imaging Center, National Institute of Radiological Sciences, 3) Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, 4) Department of Neurosurgery, Tokyo Medical and Dental University, 5) Department of Ophthalmology, Tokyo Medical and Dental University, Department of Neurology, 6) Tokyo Medical and Dental University, 7) Department of Neurology, The Jikei University School of Medicine, 8) Department of Psychiatry, Chiba University, 9) Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology) : Development of PET radiopharmaceuticals and their clinical applications at the Positron Medical Center. Geriatr Gerontol Int 2010 ; (Suppl 1) (10) : 180-196.
- 4) Sugawara A¹⁾, Isu T²⁾, Kim K, Matsumoto R²⁾, Isobe M¹⁾, Ogasawara K¹⁾ (1) Department of Neurosurgery, Iwate Medical University Hospital, 2) Department of Neurosurgery, Kushiro Rosai Hospital, Kushiro, Hokkaido) : Syringomyelia associated with Chiari I malformation treated with foramen magnum decompression and duraplasty using a polyglycolic acid patch and fibrin glue : a case report. J Nippon Med Sch 2010 ; 77 (4) : 221-225.
- 5) Mishina M, Ishiwata K¹⁾, Naganawa M^{1,3)}, Kimura Y^{1,4)}, Kitamura S⁵⁾, Suzuki M^{1,6)}, Hashimoto M^{1,6)}, Ishibashi K^{1,7)}, Oda K¹⁾, Sakata M¹⁾, Hamamoto M²⁾, Kobayashi S, Katayama Y⁸⁾, Ishii K¹⁾ (1) Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, 2) Department of Neurology, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, 3) Department of Diagnostic Radiology, PET Center, Yale University, 4) Biophysics Group, Molecular Imaging Center, National Institute of Radiological Sciences, 5) Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital, 6) Department of Neurology, The Jikei University School of Medicine, 7) Department of Neurology and Neurological Science Graduate School, Tokyo Medical and Dental University, 8) Department of Internal Medicine (Divisions of Neurology, Nephrology and Rheumatology)) : Adenosine A_{2A} Receptors Measured with [¹¹C]TMSX PET in the Striata of Parkinson's Disease Patients. PLoS One 6 2011 ; 6 (e17338) : 1-8.
- 6) 水成隆之 : 未破裂脳動脈瘤. 総合臨牀 2010 ; 59 (6) : 1462-1463.

(2) 総説 :

- 1) 三品雅洋 : 「脳卒中地域連携パス」の想定外の効果. 宇高同窓会報 2010 ; 57 (なし) : 27-29.
- 2) Mishina M, Matsumoto H¹⁾ (1) Shock and Trauma Center, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital) : Inba Clinical Pathway for Local Stroke Network with Helicopter Emergency Medical Service in Chiba, Japan. Japan Medical Association Journal 2011 ; 54 (1) : 16-21.
- 3) 金 景成, 井須豊彦¹⁾, 菅原 淳²⁾, 森本大二郎³⁾, 小林士郎 (1) 釧路労災病院脳神経外科, 2) 岩手医科大学脳

神経外科, ³⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科): Willims-Isu 法による頸椎前方固定術への Sandwich 砲兵用に関する検討. 日本脊髄障害医学会誌 2010; 23 (1): 62-63.

- 4) 森本大二郎¹⁾, 井須豊彦¹⁾, 金 景成, 菅原 淳²⁾, 濱内祝嗣¹⁾, 下田祐介¹⁾, 笹森笹森¹⁾, 松本亮司¹⁾, 磯部正則¹⁾ (¹⁾ 釧路労災病院脳神経外科, ²⁾ 岩手医科大学脳神経外科): 仙腸関節障害の治療経験. 脊髄外科 2010; 24 (1): 6-11.
- 5) 三品雅洋, 金 景成, 小林士郎: 脳卒中地域連携バス. 日医大医学会誌 2010; 6 (3): 152-なし.
- 6) 三品雅洋: 特集2 脳疾患の分子イメージング, パーキンソン病の分子イメージング. PET Journal 2010; 10 (summer): 34-35.
- 7) 原 行弘¹⁾, 三品雅洋, 小林士郎 (¹⁾ 千葉北総病院リハビリテーション科): t-PA 治療時代における地域連携バスとリハビリテーション. Mebio 2010; 27 (7): 128-135.
- 8) 原 行弘¹⁾, 本橋優子¹⁾, 小林士郎 (¹⁾ 千葉北総病院リハビリテーション科): ARB (アンジオテンシン II 受容体ブロッカー) 製剤による脳血管障害患者の認知機能改善効果. 脳卒中 2010; 32 (4): 334-339.
- 9) 濱内祝嗣¹⁾, 森本大二郎¹⁾, 井須豊彦¹⁾, 菅原 淳²⁾, 金 景成, 下田祐介¹⁾, 茂木洋晃¹⁾, 松本亮司¹⁾, 磯部正則¹⁾ (¹⁾ 釧路労災病院脳神経外科, ²⁾ 岩手医科大学脳神経外科): 急性腰痛にて発症した仙腸関節障害の3例. 脳神経外科 2010; 38 (7): 655-661.
- 10) 下田祐介¹⁾, 森本大二郎¹⁾, 井須豊彦¹⁾, 茂木洋晃¹⁾, 今井哲秋¹⁾, 松本亮司¹⁾, 磯部正則¹⁾, 金 景成, 菅原 淳²⁾ (¹⁾ 釧路労災病院脳神経外科, ²⁾ 岩手医科大学脳神経外科): 腰椎術後の鼠径部痛の原因であった仙腸関節障害の1例. 脳神経外科 2010; 38 (11): 1025-1030.
- 11) 濱内祝嗣¹⁾, 金 景成, 森本大二郎¹⁾, 井須豊彦¹⁾, 下田祐介¹⁾, 松本亮司¹⁾, 磯部正則¹⁾ (¹⁾ 釧路労災病院脳神経外科): 頸椎症性脊髄症による難治性疼痛に対するケタミンの使用経験: ケタミンの有効性と課題について. 脳神経外科 2010; 38 (12): 1121-1125.
- 12) 小林士郎: 慢性硬膜下血腫の見落とし. 日本医師会雑誌 2010; 139 (5): 1078-1079.
- 13) 三品雅洋: 脳卒中地域連携バスの活用. ちばケアマネ通信 2011; 12 (3): 14-19.
- 14) 小南修史: 脳血管内治療の進歩. 日本医事新報 2011; なし (4529): 66-67.

著 書

- 1) 小林士郎: [分担] 外傷後の意識障害. 総合医療マニュアル (上原誉志夫・大林完二・隅谷護人・益子那洋・松岡博昭), 2010; pp316-318, 金芳堂.
- 2) 水成隆之: [分担] 脳血管系疾患. 総合医療マニュアル (上原誉志夫・大林完二・隅谷護人・益子那洋・松岡博昭), 2010; pp655-663, 金芳堂.
- 3) 金 景成: [分担] しびれや痛みの場所はなぜ重要ですか? 神経外科の立場より. しびれ, 痛みの外来 Q&A. 脊椎脊髄外来の疑問に答える (井須豊彦), 2010; pp5-7, 中外医学社.
- 4) 金 景成, 國保倫子: [分担] 腰部脊柱管狭窄症とはどんな病気ですか?. しびれ, 痛みの外来 Q&A. 脊椎脊髄外来の疑問に答える (井須豊彦), 2010; pp14-15, 中外医学社.
- 5) 金 景成, 國保倫子: [分担] 先生よって腰部脊柱管狭窄症, すべり症, 側弯症と診断が違うのです. 何が正しいのですか?. しびれ, 痛みの外来 Q&A. 脊椎脊髄外来の疑問に答える (井須豊彦), 2010; pp16-17, 中外医学社.
- 6) 金 景成, 國保倫子: [分担] 安静は治療ですか?. しびれ, 痛みの外来 Q&A. 脊椎脊髄外来の疑問に答える (井須豊彦), 2010; pp74-75, 中外医学社.
- 7) 金 景成: [分担] 病気は治りますか?. しびれ, 痛みの外来 Q&A. 脊椎脊髄外来の疑問に答える (井須豊彦), 2010; pp26-27, 中外医学社.
- 8) 金 景成: [分担] 脊髄造影検査とはどんな検査ですか?. しびれ, 痛みの外来 Q&A. 脊椎脊髄外来の疑問に

答える (井須豊彦), 2010; pp54-55, 中外医学社.

- 9) 金 景成: [分担] 受診の目的をどうして聞くのですか?. しびれ, 痛みの外来 Q&A. 脊椎脊髄外来の疑問に答える (井須豊彦), 2010; pp60-61, 中外医学社.
- 10) 金 景成: [分担] 家族が同席しなければいけないタイミングを教えてください. しびれ, 痛みの外来 Q&A. 脊椎脊髄外来の疑問に答える (井須豊彦), 2010; pp70-71, 中外医学社.
- 11) 金 景成: [分担] 薬は効きますか?. しびれ, 痛みの外来 Q&A. 脊椎脊髄外来の疑問に答える (井須豊彦), 2010; pp76-77, 中外医学社.
- 12) 金 景成: [分担] どの段階で専門家へ紹介すべきですか?. しびれ, 痛みの外来 Q&A. 脊椎脊髄外来の疑問に答える (井須豊彦), 2010; pp92-93, 中外医学社.
- 13) 金 景成: [分担] 診察, 手術に関し, 整形外科と脳神経外科とどちらを受診すればよいですか?. しびれ, 痛みの外来 Q&A. 脊椎脊髄外来の疑問に答える (井須豊彦), 2010; pp104-105, 中外医学社.
- 14) 金 景成: [分担] 金属固定術は必要ですか?. しびれ, 痛みの外来 Q&A. 脊椎脊髄外来の疑問に答える (井須豊彦), 2010; pp112-113, 中外医学社.
- 15) 金 景成: [分担] 手術合併症にはどのようなものがありますか?. しびれ, 痛みの外来 Q&A. 脊椎脊髄外来の疑問に答える (井須豊彦), 2010; pp134-137, 中外医学社.
- 16) 金 景成: [分担] 手術は1回ですみますか?. しびれ, 痛みの外来 Q&A. 脊椎脊髄外来の疑問に答える (井須豊彦), 2010; pp138-139, 中外医学社.
- 17) 三品雅洋: [分担] パーキンソン病. 臨床医とコメディカルのための最新クリニカル PET (米倉義晴, 伊藤正敏, 窪田和雄, 佐治英郎, 玉木長良, 中川恵一, 畑澤 順, 間賀田泰寛, 渡辺恭良, 寺田弘司), 2011; pp184-187, 先端医療技術研究所.

学会発表

(1) 特別講演:

- 1) 小南修史: Segmental concept of the ICA. ニッチ脳神経脈管カンファレンス (NNAC) (第4回) (大阪), 2010. 5.
- 2) 小南修史: 脳動静脈奇形 (AVM) の治療戦略. 血管内治療 vs 放射線治療 vs 外科治療. 血管内治療の立場から. ブレインアタックフォーラム千葉 (第8回) (千葉), 2010. 5.
- 3) 小林士郎: 脳卒中にならないために!! 再発防止も含めて!. 我孫子脳卒中友の会5周年記念イベント (千葉), 2010. 5.
- 4) 小林士郎: 知っておきたい! 脳卒中は防げる治せる. 脳卒中きらめきプロジェクト 千葉地区脳卒中セミナー (千葉), 2010. 7.
- 5) 小林士郎: 知っておきたい! 脳卒中は防げる治せる. 脳卒中きらめきプロジェクト 船橋地区脳卒中セミナー (千葉), 2010. 7.
- 6) 三品雅洋: 脳卒中予防と医療連携 千葉県の試み. ストップ! NO 卒中プロジェクト 脳卒中撲滅を目指して (千葉), 2010. 10.
- 7) 小林士郎: 脳卒中にならないために. 四街道市民公開講座 (千葉), 2010. 11.
- 8) 小南修史: NBCA を用いた脳動静脈奇形の血管内治療. 新宿 Neurovascular セミナー (第4回) (東京), 2010. 12.
- 9) 三品雅洋: 脳卒中地域連携バスの活用. 特定非営利活動法人 千葉県介護支援専門員協議研修会 (第49回) (千葉), 2010. 12.
- 10) 三品雅洋¹⁾ 1) 千葉北総病院脳神経センター 神経内科: 脳卒中地域連携バスの活用と問題点. 東邦大学医療センター佐倉病院病診連携フォーラム (第2回) (千葉), 2011. 2.

- 11) 三品雅洋：脳卒中医療連携におけるかかりつけ医の役割. 江戸川区医師会第8回総合臨床研究会（東京），2011. 2.
 - 12) 三品雅洋：脳卒中医療連携におけるかかりつけ医の役割. 流山医師会学術勉強会（柏），2011. 2.
- (2) 教育講演：
- 1) 小南修史：フローガイドカテーテルの使い方のコツ. 房総脳血管内治療カンファレンス（第19回）（千葉），2010. 5.
- (3) シンポジウム：
- 1) 井須豊彦¹⁾，金 景成，森本大二郎¹⁾，菅原 淳²⁾，磯部正則¹⁾，松本亮司¹⁾（¹⁾ 釧路労災病院脳神経外科，²⁾ 岩手医科大学脳神経外科）：腰椎変性疾患に対する手術：これからのスタンダード. 脊髄外科学会（第25回）（愛知），2010. 6.
 - 2) 水成隆之，玉置智規¹⁾，村井保夫²⁾，梅岡克哉，立山幸次郎²⁾，岩本直高，額額健太²⁾，白銀一貴，小林士郎，寺本 明²⁾（¹⁾ 多摩永山病院脳神経外科，²⁾ 付属病院脳神経外科）：内頸動脈 blister like aneurysm に対する治療戦略. 日本脳神経外科学会学術総会（第69回）（福岡），2010. 10.
 - 3) 小南修史，鈴木雅規，渡辺 玲¹⁾，吉田陽一¹⁾，小林士郎，寺本 明¹⁾（¹⁾ 付属病院脳神経外科）：ガンマナイフの協調を前提とした脳動脈奇形の塞栓術. 日本脳神経血管内治療学会学術総会（第26回）（福岡），2010. 11.
 - 4) 梅岡克哉：椎骨動脈解離性動脈瘤の外科的治療における神経放射線学的考察. 千葉北総神経放射線研究会（第69回）（千葉），2010. 11.
- (4) 一般講演：
- 1) Mishina M, Kimura Y¹⁾, Ishii K²⁾, Sakata M²⁾, Oda K²⁾, Kobayashi S, Katayama Y³⁾, Ishiwata K⁴⁾（¹⁾ Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, ²⁾ Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, ³⁾ The Second Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, ⁴⁾ Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology）：Aging effect on adenosine A1 receptors in human putamen -A MPDX PET study-. 16th Annual Meeting of the Organization for Human Brain Mapping (Barcelona,Spain), 2010. 6.
 - 2) 布澤千春¹⁾，飯島美穂¹⁾，石田かずみ¹⁾，岡本美和¹⁾，小田嶋夕貴¹⁾，堀井和正¹⁾，佐々木優子¹⁾，水成隆之（¹⁾ 千葉北総病院看護部）：栄養剤注入直後に経鼻胃管を解放することで胃食道逆流を予防できるか？. 日本意識障害学会（第19回）（山口），2010. 7.
 - 3) 三品雅洋，小林士郎，片山泰朗¹⁾（¹⁾ 日本医科大学内科学講座 神経・腎臓・膠原病リウマチ部門）：印旛脳卒中地域連携パス（InCliPS）導入の影響. 日本神経治療学会総会（第28回）（横浜），2010. 7.
 - 4) Omura T, Yamaguchi F¹⁾, Kojima T²⁾, Takahashi T³⁾, Kobayashi S, Teramoto A¹⁾（¹⁾ Yotsuka Medical Cube, ²⁾ Nippon Medical School, ³⁾ Nippon Medical School MusashiKosugi）：Verification of accuracy of Tractography in neuronavigation by direct 3D-positioning of motor tract by a subcortical electrode. 9th International Meeting Updates in Neuro-Oncology Brain Tumor Symposium (Cortona,Italy), 2010. 7.
 - 5) Mishina M, Ishii K¹⁾, Suzuki M²⁾, Kitamura S³⁾, Ishibashi K⁴⁾, Sakata M⁵⁾, Oda K⁵⁾, Hamamoto M⁶⁾, Kominami S, Kobayashi S, Katayama Y⁶⁾, Ishiwata K⁷⁾（¹⁾ Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, ²⁾ Department of Neurology, The Jikei University School of Medicine, ³⁾ Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital, ⁴⁾ Department of Neurology, Tokyo Medical and Dental University, ⁵⁾ Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, ⁶⁾ The Second Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, ⁷⁾ Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology）：Striatal distribution of dopamine transporters and dopamine D2 receptors at different stages of Parkinson's disease : A CFT and RAC PET study. XIX Symposium Neuroradiologicum (Bologna,Italy), 2010. 10.

- 6) G. Rodesch¹⁾, S. Kominami, A. Krajina²⁾, R. Sellar³⁾, M. Soderman⁴⁾, R. Vandenberg⁵⁾, S. Condetta Auliac¹⁾ (1) Hopital Foch-Department of Neuroradiology ; Suresnes, 2) Faculty of Medicine in Hradec Kralove-Department of Radiology ; Prague, 3) University of Edinburgh-Department of Neuroradiology, 4) Karolinska Institute-Department of Neuroradiology, 5) University of Amsterdam-Department of Neuroradiology) : Spinal Cord Arteriovenous Shunts of the Ventral (Anterior) Sulcus : Anatomical, Clinical and Therapeutic Considerations. XIX Symposium Neuroradiologicum (Bologna.Italy), 2010. 10.
- 7) Kominami S, Suzuki M, Kobayashi S, Teramoto A¹⁾ (1) Neurosurgery,Nippon Medical School) : Embolization of Spinal Cord Arteriovenous Malformations through the Anterior Spinal Artery. XIX Symposium Neuroradiologicum (Bologna.Italy), 2010. 10.
- 8) 芹澤 徹¹⁾, 小南修史, 永野 修²⁾, 樋口佳則³⁾, 平井達夫¹⁾, 小林士郎, 小野純一²⁾, 佐伯直克³⁾ (1) 築地神経科クリニック 東京ガンマユニットセンター, 2) 千葉県循環器病センター ガンマナイフ治療部, 3) 千葉大学脳神経外科) : 脳動静脈奇形に対するガンマナイフ治療成績における塞栓術の与える影響. 日本脳卒中の外科学会 (第39回) (岩手), 2010. 4.
- 9) 村井保夫¹⁾, 水成隆之, 梅岡克哉, 立山幸次郎¹⁾, 小林士郎, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科) : 脳血管吻合術における虚血性合併症を防ぐ工夫 : 吻合操作以外に大切な事. 日本脳卒中の外科学会 (第39回) (岩手), 2010. 4.
- 10) 梅岡克哉, 水成隆之, 村井保夫¹⁾, 小林士郎, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科) : PICA を含んだ椎骨動脈解離性動脈瘤の治療方針. 日本脳卒中の外科学会 (第39回) (岩手), 2010. 4.
- 11) 立山幸次郎¹⁾, 廣中浩平¹⁾, 村井保夫²⁾, 水成隆之, 寺本 明²⁾ (1) 博慈会記念病院脳神経外科, 2) 付属病院脳神経外科) : ラクナ梗塞発症早期に右椎骨動脈解離によるくも膜下出血をきたした1例. 日本脳卒中の外科学会 (第39回) (岩手), 2010. 4.
- 12) 原 行弘¹⁾, 小林士郎 (1) 千葉北総病院リハビリテーション科) : ARB (アンジオテンシンⅡ受容体ブロッカー) 製剤による脳血管障害患者の認知機能改善効果. 日本脳卒中の外科学会 (第39回) (岩手), 2010. 4.
- 13) 鈴木雅規, 小南修史, 吉原智之¹⁾, 石原秀章¹⁾, 神山信也¹⁾, 根 文孝²⁾, 石原正一郎¹⁾, 寺本 明²⁾ (1) 埼玉医科大学国際医療センター 脳卒中センター 脳血管内治療科, 2) 付属病院脳神経外科) : 亜急性期に施行した症候性内頸動脈高度狭窄に対するCAS. 日本頸部脳血管治療学会 (第9回) (神奈川), 2010. 4.
- 14) 三品雅洋¹⁾, 小林士郎, 水成隆之, 金 景成, 梅岡克哉, 鈴木雅規, 大村朋子, 國保倫子, 白銀一貴, 片山泰朗²⁾ (1) 千葉北総病院脳神経センター 神経内科, 2) 日本医科大学内科学講座 神経・腎臓・膠原病リウマチ部門) : 印旛脳卒中地域連携パス (InCliPS) 運用による急性期病院入院日数の影響. 日本脳卒中学会総会 (第35回) (岩手), 2010. 4.
- 15) 鈴木雅規, 小南修史, 白銀一貴, 國保倫子, 大村朋子, 梅岡克哉, 金 景成, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科) : mass effect により発症した脳底動脈本幹部動脈瘤に対して脳血管内治療を施行した1例. 日本脳神経外科学会関東支部会 (第111回) (東京), 2010. 4.
- 16) 古口徳雄¹⁾, 近藤国嗣²⁾, 小沢義典³⁾, 三品雅洋, 烏谷博英⁴⁾, 片山正輝⁵⁾, 内藤博道⁶⁾, 松永高志⁷⁾ (1) 千葉県救急医療センター 医療局診療部 神経系治療科, 2) 東京湾岸リハビリテーション病院, 3) 千葉労災病院 脳神経外科, 4) 松戸市立病院 脳神経外科, 5) 東京歯科大学市川総合病院 脳神経外科, 6) 船橋市立医療センター 脳神経外科, 7) 国保旭中央病院 神経内科) : 千葉県における脳卒中地域連携 : 全県共用パス2年目の取り組み. 日本脳卒中学会総会 (第35回) (東京), 2010. 4.
- 17) 白銀一貴, 岩本直高, 大村朋子, 鈴木雅規, 梅岡克哉, 三品雅洋, 小南修史, 水成隆之, 小林士郎 : 痙攣で発症した脳出血60才症例. 千葉北総神経放射線研究会 (第67回) (千葉), 2010. 5.
- 18) 大村朋子, 白銀一貴, 岩本直高, 鈴木雅規, 梅岡克哉, 三品雅洋, 小南修史, 水成隆之, 小林士郎 : 左島回の皮質に高信号を認めた症例 : 腫瘍性病変か, 変性病変か. 千葉北総神経放射線研究会 (第67回) (千葉),

2010. 5.

- 19) 三品雅洋, 小林士郎, 片山泰朗¹⁾, 石井賢二²⁾, 織田圭一²⁾, 坂田宗之²⁾, 石渡喜一²⁾ (1) 日本医科大学内科学講座 神経・腎臓・膠原病リウマチ部門, 2) 東京都老人総合研究所 ポジトロン医学研究施設): MacBook Pro と Parallels Desktop を用いて Dr.View/Linux を起動する. 千葉核医学研究会 (第 49 回) (千葉), 2010. 5.
- 20) 三品雅洋, 石井賢二¹⁾, 木村裕一²⁾, 坂田宗之¹⁾, 織田圭一¹⁾, 小林士郎, 片山泰朗³⁾, 石渡喜一¹⁾ (1) 東京都健康長寿医療センター 研究所 神経画像研究チーム, 2) 放射線医学総合研究所 分子イメージング研究センター 先端生体計測研究グループ 画像解析研究チーム, 3) 日本医科大学内科学講座 神経・腎臓・膠原病リウマチ部門): 被殻アデノシン A1 受容体分布の加齢変化:[11C]MPDX PET を用いた検討. 日本神経学会総会 (第 51 回) (東京), 2010. 5.
- 21) 関 俊隆¹⁾, 井須豊彦²⁾, 金 景成, 谷川緑野²⁾, 橋本政明³⁾ (1) 道東脳神経外科病院, 2) 釧路労災病院脳神経外科, 3) 網走脳神経外科・リハビリテーション病院): 頰椎変性疾患に対する基本手術: これからのスタンダード. 脊髄外科学会 (第 25 回) (愛知), 2010. 6.
- 22) 菅原 淳¹⁾, 井須豊彦²⁾, 金 景成, 森本大二郎³⁾, 松本亮司²⁾, 磯部正則²⁾, 小笠原邦昭¹⁾, 小川 彰¹⁾ (1) 岩手医科大学医学部脳神経外科, 2) 釧路労災病院脳神経外科, 3) 武蔵小杉病院脳神経外科): 脊椎分離症・分離すべり症に対する後方減圧術の中期手術成績. 脊髄外科学会 (第 25 回) (愛知), 2010. 6.
- 23) 國保倫子, 金 景成, 井須豊彦¹⁾, 小林士郎, 寺本 明²⁾ (1) 釧路労災病院脳神経外科, 2) 付属病院脳神経外科): OALL により嚙下障害をきたした 1 例. 脊髄外科学会 (第 25 回) (愛知), 2010. 6.
- 24) 國保倫子, 金 景成, 井須豊彦¹⁾, 小林士郎, 寺本 明²⁾ (1) 釧路労災病院脳神経外科, 2) 付属病院脳神経外科): 頭蓋内慢性硬膜下血腫に合併する腰椎硬膜下血腫及び腰椎疾患の検討. 脊髄外科学会 (第 25 回) (愛知), 2010. 6.
- 25) 鈴木雅規, 小南修史, 白銀一貴, 岩本直高, 大村朋子, 梅岡克哉, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科): 無水エタノール及びNBCAにて塞栓術を施行した高齢者髄膜腫の 1 例. 日本脳神経血管内治療学会関東地方会 (第 7 回) (東京), 2010. 6.
- 26) 三品雅洋, 宇藤 薫¹⁾, 中尾安秀¹⁾, 川越康博¹⁾ (1) 新松戸中央総合病院内科): 急激な低ナトリウム血症を呈した急性辺縁系脳炎. 神経内科を語る会 (第 31 回) (千葉), 2010. 6.
- 27) 芹沢 徹¹⁾, 小南修史, 永野 修²⁾, 樋口佳則³⁾, 平井達夫¹⁾, 小林士郎, 小野純一²⁾, 佐伯直勝³⁾ (1) 築地神経科クリニック 東京ガンマユニットセンター, 2) 千葉県循環器病センター ガンマナイフ治療部, 3) 千葉大学脳神経外科): 脳動静脈奇形に対するガンマナイフ治療前後に施行する embolization は予後不良因子となりうるのか?. 手術 and/or 放射線外科セミナー (第 9 回) (東京), 2010. 7.
- 28) 梅岡克哉, 白銀一貴, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科): 脳梗塞にて発症した前側頭動脈解離性動脈瘤の 1 例. The Mt.Fuji Workshop on CVD (第 29 回) (福岡), 2010. 8.
- 29) 三品雅洋: 脳卒中地域連携パスについて. 印西市地域ケア会議 (千葉), 2010. 8.
- 30) 金 景成: 腰椎固定術後 failed back surgery の治療. スパインフロンティア症例検討会 (第 17 回) (長野), 2010. 8.
- 31) 岩本直高, 梅岡克哉, 小南修史, 三品雅洋, 金 景成, 鈴木雅規, 大村朋子, 白銀一貴, 水成隆之, 小林士郎: 脳底動脈本幹部動脈瘤の治療法について. 東葛脳神経外科手術手技研究会「千葉あすなろの会」(第 2 回) (千葉), 2010. 9.
- 32) 大村朋子, 白銀一貴, 岩本直高, 鈴木雅規, 梅岡克哉, 三品雅洋, 小南修史, 水成隆之, 小林士郎: 左島回の皮質に高信号を認めた症例: 腫瘍性病変か, 変性病変か:(その後). 千葉北総神経放射線研究会 (第 68 回) (千葉), 2010. 9.
- 33) 大村朋子, 白銀一貴, 岩本直高, 鈴木雅規, 梅岡克哉, 三品雅洋, 小南修史, 水成隆之, 小林士郎: MRI で両側白質に T2WI で高信号を呈した 1 例. 千葉北総神経放射線研究会 (第 68 回) (千葉), 2010. 9.

- 34) 大村朋子, 白銀一貴, 岩本直高, 鈴木雅規, 梅岡克哉, 三品雅洋, 小南修史, 水成隆之, 小林士郎: 診断に苦
 労した中大脳動脈瘤破裂の1例. 千葉北総神経放射線研究会 (第68回) (千葉), 2010. 9.
- 35) 大村朋子, 白銀一貴, 岩本直高, 鈴木雅規, 梅岡克哉, 三品雅洋, 小南修史, 水成隆之, 小林士郎: クモ膜下
 出血を合併した顕微鏡的多発血管炎の1例. 千葉北総神経放射線研究会 (第68回) (千葉), 2010. 9.
- 36) 三品雅洋: 千葉県における脳卒中地域連携パスの現状. 神奈川県西部脳卒中地域連携懇話会 (第5回) (神奈川),
 2010. 9.
- 37) 小南修史, 鈴木雅規, 渡辺 玲¹⁾, 吉田陽一²⁾, 布施 明³⁾, 小林士郎, 寺本 明⁴⁾ (1) 東京共済病院脳神経外科,
²⁾ 東京都保健医療公社 荏原病院脳神経外科, ³⁾ 付属病院高度救命救急センター, ⁴⁾ 付属病院脳神経外科): 小
 脳の脳動静脈奇形に対する血管内治療. 日本脳神経外科学会学術総会 (第68回) (福岡), 2010. 10.
- 38) 鈴木雅規, 小南修史, 白銀一貴, 岩本直高, 大村朋子, 梅岡克哉, 金 景成, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明¹⁾
 (1) 付属病院脳神経外科): CEA1st 施設での頸動脈狭窄に対する治療方針の検討 - 頸動脈ステント留置術の適
 応症例とは?. 日本脳神経外科学会学術総会 (第69回) (福岡), 2010. 10.
- 39) 梅岡克哉, 水成隆之, 玉置智親¹⁾, 村井保夫²⁾, 立山幸次郎²⁾, 岩本直高, 白銀一貴, 小林士郎, 寺本 明²⁾ (1)
 多摩永山病院脳神経外科, ²⁾ 付属病院脳神経外科): PICA を含んだ破裂椎骨動脈解離性動脈瘤に対し Trap-
 ping と OA-PICA 吻合術を行った10例の検討. 日本脳神経外科学会学術総会 (第69回) (福岡), 2010. 10.
- 40) 大村朋子, 小林士郎, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科): 円蓋部くも膜下出血を伴った両側頸部内頸動脈解
 離の1例. 日本脳神経外科学会学術総会 (第69回) (福岡), 2010. 10.
- 41) 岩本直高, 白銀一貴, 大村朋子, 鈴木雅規, 梅岡克哉, 小南修史, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明¹⁾ (1) 付属
 病院脳神経外科): クモ膜下出血を合併した顕微鏡的多発血管炎の1例. 日本脳神経外科学会学術総会 (第69回)
 (福岡), 2010. 10.
- 42) 白銀一貴, 梅岡克哉, 岩本直高, 大村朋子, 鈴木雅規, 金 景成, 小南修史, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明¹⁾
 (1) 付属病院脳神経外科): 脳梗塞で発症した前側頭動脈解離性脳動脈瘤の1例. 日本脳神経外科学会学術総会 (第
 69回) (福岡), 2010. 10.
- 43) 金 景成, 井須豊彦¹⁾, 菅原 淳²⁾, 森本大二郎¹⁾, 松本亮司¹⁾, 磯部正則, 小林士郎, 寺本 明³⁾ (1) 釧路労災
 病院脳神経外科, ²⁾ 岩手医科大学医学部脳神経外科, ³⁾ 付属病院脳神経外科): 変性側弯症に対する除圧術単
 独手術後の治療成績に関する検討. 日本脳神経外科学会学術総会 (第69回) (福岡), 2010. 10.
- 44) 石井雄道¹⁾, 小林士郎, 江本直也²⁾, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科, ²⁾ 千葉北総病院内内分泌内科): クッ
 シング病の2例. 千葉下垂体疾患研究会 (第8回) (千葉), 2010. 10.
- 45) 小南修史, 鈴木雅規, 渡辺 玲¹⁾, 吉田陽一²⁾, 布施 明³⁾, 小林士郎, 寺本 明⁴⁾ (1) 東京共済病院脳神経外科,
²⁾ 東京都保健医療公社 荏原病院脳神経外科, ³⁾ 付属病院高度救命救急センター, ⁴⁾ 付属病院脳神経外科): 小
 脳の脳動静脈奇形に対する血管内治療. 日本脳神経外科学会学術総会 (第68回) (福岡), 2010. 10.
- 46) 鈴木雅規, 小南修史, 白銀一貴, 岩本直高, 大村朋子, 梅岡克哉, 金 景成, 水成隆之, 小林士郎¹⁾, 寺本
 明 (1) 付属病院脳神経外科): 脳底動脈本幹部動脈瘤に対する脳血管内治療. 日本脳神経血管内治療学会学術
 総会 (第26回) (福岡), 2010. 11.
- 47) 阿部雅志¹⁾, 池亀 敏¹⁾, 三輪宗史¹⁾, 横山雪乃¹⁾, 原田耕次¹⁾, 河原崎昇¹⁾, 伊藤信吾²⁾, 小南修史, 小林士郎 (1)
 千葉北総病院放射線センター, ²⁾ 株式会社フィリップエレクトロニクスジャパン): Dynamic 3D Roadmap に
 おける精度評価. 日本脳神経血管内治療学会学術総会 (第26回) (福岡), 2010. 11.
- 48) 加藤丈司¹⁾, 阿部雅志¹⁾, 池亀 敏¹⁾, 永井淳史¹⁾, 河原崎昇¹⁾, 岡田 進¹⁾, 小南修史, 小林士郎 (1) 千葉北総
 病院放射線センター): 椎骨脳底動脈における Fusion MRA. 日本脳神経血管内治療学会学術総会 (第26回) (福
 岡), 2010. 11.
- 49) 岩本直高, 白銀一貴, 大村朋子, 鈴木雅規, 梅岡克哉, 小南修史, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明¹⁾ (1) 付属
 病院脳神経外科): クモ膜下出血を合併した顕微鏡的多発血管炎の1例. 日本脳神経外科学会関東支部学術総会

(第112回)(東京), 2010. 11.

- 50) 大村朋子, 三品雅洋, 小林士郎, 寺本 明¹⁾, 片山泰朗²⁾ (1) 付属病院脳神経外科, 2) 日本医科大学内科学講座 神経・腎臓・膠原病リウマチ部門): 頭痛発症の脳深部静脈洞血栓症の1例. 日本頭痛学会総会(第38回)(東京), 2010. 11.
- 51) 國保倫子, 三品雅洋, 金 景成, 小南修史, 小林士郎, 寺本 明¹⁾, 片山泰朗²⁾ (1) 付属病院脳神経外科, 2) 日本医科大学内科学講座 神経・腎臓・膠原病リウマチ部門): くも膜下出血で発症した頸椎硬膜動静脈瘤. 日本頭痛学会総会(第38回)(東京), 2010. 11.
- 52) 金 景成: スイスでの脊椎脊髄外科研修体験について. 釧路地区脳神経外科研究会(北海道), 2010. 11.
- 53) 小南修史, 鈴木雅規: 望みうる最高の結果が得られた脊髄 perimedullary AVF の1例. 西関東 Neuro IVR セミナー(第35回)(埼玉), 2010. 12.
- 54) 近藤国嗣¹⁾, 古口徳雄²⁾, 小沢義典³⁾, 三品雅洋, 篠遠 仁⁴⁾ (1) 東京湾岸リハビリテーション病院, 2) 千葉県救急医療センター 医療局診療部 神経系治療科, 3) 千葉労災病院脳神経外科, 4) 旭神経内科リハビリテーション病院): 千葉県共用脳卒中地域連携パス(CAMP-S)の成り立ちと特徴~回復期リハ病院の立場から~. 日本クリニカルバス学会学術集会(第11回)(愛媛), 2010. 12.
- 55) 鈴木雅規, 白銀一貴, 岩本直高, 大村朋子, 梅岡克哉, 金 景成, 小南修史, 水成隆之, 小林士郎: 未破裂中大脳動脈瘤術後に対側前頭葉に脳出血を呈した1例. 千葉北総神経放射線研究会(第70回)(千葉), 2011. 2.
- 56) 梅岡克哉, 白銀一貴, 岩本直高, 大村朋子, 鈴木雅規, 金 景成, 小南修史, 水成隆之, 小林士郎: 複視で発症した若年性脳梗塞の1例. 千葉北総神経放射線研究会(第70回)(千葉), 2011. 2.
- 57) 白銀一貴, 小南修史, 金 景成, 梅岡克哉, 鈴木雅規, 大村朋子, 岩本直高, 水成隆之, 小林士郎: Direct clippingにtryするも結局trap&bypassとなったIc large aneurysmの1例. 東葛脳神経外科手術手技研究会「千葉あすなろの会」(第3回)(千葉), 2011. 3.
- 58) 水成隆之: なぜ医療安全対策は必要なのか?. 東葉臨床医学セミナー(第111回)(千葉), 2011. 3.
- (5) 報告:
- 1) 三品雅洋: 急性期分科会報告. 千葉県脳卒中連携の会(第2回)(千葉), 2011. 2.

12. 整形外科科学講座

[付属病院整形外科・武蔵小杉病院整形外科・多摩永山病院整形外科・千葉北総病院整形外科]

研究概要

整形外科科学教室の平成 22 年度の研究は、臨床的研究において脊椎部、肩、肘、股、膝関節部、手の外科、足の外科、骨、軟部腫瘍などを対象とした疾患ならびに外傷に対する系統的臨床研究報告を行った。部位別にみると、脊椎では頸、腰椎部疾患の診断、治療、手術手技、手の外科では手関節周辺骨折、末梢神経、腱の障害に対する治療法および手術法、の開発、肩関節障害に対する手術的治療の新知見などを発表した。骨軟部腫瘍に対する診断、治療法における新知見を報告している。基礎的研究では、留学先との共同研究である手の指関節を支持する靭帯の 3 次元的な構造と機能の解明に対する研究成果を学会、誌上で報告した。またヒト骨髄 ES 細胞を 2 次培養後の細胞増殖に関する研究成果を報告した。学会発表は量、質ともに向上し、国際学会の発表頻度が増加して発表の場の広がりを見せ、シンポジウム、招待、研修、一般講演などが積極的に行われた。

研究業績

論文

[追加分]

追加分症例報告：

- 1) Kitagawa Y, Sawaizumi T, Ito H : Myositis ossificans of the supinator muscle causing posterior interosseous nerve palsy. *Hand Surg* 2010 ; 15 : 115-117.

(1) 原著：

- 1) Miyamoto M, Fukui M¹⁾, Kanamori M²⁾, Chiba K³⁾, Kawakami M⁴⁾, Nakai S⁵⁾, Shimamura T⁶⁾, Taguchi T⁷⁾, Takeshita K⁸⁾, Tanaka Y⁹⁾, Tani T¹⁰⁾, Taniguchi S¹⁰⁾, et al. ¹⁾ Laboratory of Statistics, Osaka City University Faculty of Medicine, Osaka, Japan, ²⁾ Department of Orthopaedic Surgery and Human Science, University of Toyama, Toyama, Japan, ³⁾ Department of Orthopaedic Surgery, Keio University, Tokyo, Japan, ⁴⁾ Department of Orthopaedic Surgery, Wakayama Medical University, Wakayama, Japan, ⁵⁾ Department of Orthopaedic Surgery, Fujita Health University, Aichi, Japan, ⁶⁾ Department of Orthopaedic Surgery, Iwate Medical University School of Medicine, Morioka, Japan, ⁷⁾ Department of Orthopaedic Surgery, Yamaguchi University School of Medicine, Yamaguchi, Japan, ⁸⁾ Department of Orthopaedic Surgery, The University of Tokyo, Tokyo, Japan, ⁹⁾ Tohoku Central Hospital of the Manual Aid Association of Public School Teachers, Yamagata, Japan, ¹⁰⁾ Department of Orthopaedic Surgery, Kochi Medical School, Kochi, Japan) : apanese Orthopaedic Asociation Back Pain Evaluation Questionnaire (JOABPEQ) : A Validity Study in Patients with Lumbar Disc Herniation and Lumbar Spinal Canal Stenosis. *J Spine Res* 2010 ; 1 : 1303-1308.
- 2) Miyamoto M, Tsunoda R, Gembun Y, Konno S, Sudo K, Ito H : Spontaneous Lumbar Epidural Hematoma associated with Spondylolysis. A Case report. *J Spine Res* 2010 ; 1 (7) : 1386-1386.
- 3) Nanno M, Sawaizumi T, Ito H : Simplified dorsal approach to fracture of the hamate hook with percutaneous fixation with a screw. *Scandinavian Journal of Plastic and Reconstructive Surgery and Hand Surgery* 2010 ; 44 (2) : 1-5.

- 4) Kitagawa Y, Sawaizumi T, Ito H : Myositis ossificans of the supinator muscle causing posterior interosseous nerve palsy : a case report. *Hand Surg* 2010 ; 15 : 115-117.
- 5) Imaeda T, Uchiyama S, Wada T, Okinaga S, Sawaizumi T, Omokawa S, Momose Y, Moritomo H, Gotani H, Nishida J, Kanaya H : Reliability, validity, and responsiveness of the Japanese version of the Patient-Rated Wrist Evaluation. *J of Orthopaedic Science* 2010 ; 16 : 509-517.
- 6) Ishikawa T¹⁾, Tamura H¹⁾, Ishiguro H¹⁾, Yamaguchi K¹⁾, Minami K (¹⁾ Division of Gastroenterology and Hepatology, Dept. of Int, Med, The Jikei University School of Medicine) : Effect of oral rehydration solution on fatigue during outdoor work in a hot environment : a randomized crossover study. *Journal of Occupational Health* 2010.
- 7) Miyamoto M, Fukui M¹⁾, Kanamori M²⁾, Chiba K³⁾, Kawakami M⁴⁾, Nakai S⁵⁾, Shimamura T⁶⁾, Taguchi T⁷⁾, Takeshita K⁸⁾, Tanaka Y⁹⁾, Tani T¹⁰⁾, Taniguchi S¹⁰⁾, et al. (¹⁾ Laboratory of Statistics, Osaka City University Faculty of Medicine, Osaka, Japan, ²⁾ Department of Orthopaedic Surgery and Human Science, University of Toyama, Toyama, Japan, ³⁾ Department of Orthopaedic Surgery, Keio University, Tokyo, Japan, ⁴⁾ Department of Orthopaedic Surgery, Wakayama Medical University, Wakayama, Japan, ⁵⁾ Department of Orthopaedic Surgery, Fujita Health University, Aichi, Japan, ⁶⁾ Department of Orthopaedic Surgery, Iwate Medical University School of Medicine, Morioka, Japan, ⁷⁾ Department of Orthopaedic Surgery, Yamaguchi University School of Medicine, Yamaguchi, Japan, ⁸⁾ Department of Orthopaedic Surgery, The University of Tokyo, Tokyo, Japan, ⁹⁾ Tohoku Central Hospital of the Manual Aid Association of Public School Teachers, Yamagata, Japan, ¹⁰⁾ Department of Orthopaedic Surgery, Kochi Medical School, Kochi, Japan) : Japanese Orthopaedic Association Back Pain Evaluation Questionnaire (JOABPEQ) : An Association Study in Patients with Lumbar Disc Herniation and Lumbar Spinal Canal Stenosis. *J Spine Res* 2011 ; 2 : 278-281.
- 8) Kanamori M¹⁾, Fukui M²⁾, Chiba K³⁾, Kawakami M⁴⁾, Miyamoto M, Nakai S⁵⁾, Shimamura T⁶⁾, Taguchi T⁷⁾, Takeshita K⁸⁾, Tanaka Y⁹⁾, Tani T¹⁰⁾, Taniguchi S¹⁰⁾, et al. (¹⁾ Department of Orthopaedic Surgery and Human Science, University of Toyama, Toyama, Japan, ²⁾ Laboratory of Statistics, Osaka City University Faculty of Medicine, Osaka, Japan, ³⁾ Department of Orthopaedic Surgery, Keio University, Tokyo, Japan, ⁴⁾ Department of Orthopaedic Surgery, Wakayama Medical University, Wakayama, Japan, ⁵⁾ Department of Orthopaedic Surgery, Fujita Health University, Aichi, Japan, ⁶⁾ Department of Orthopaedic Surgery, Iwate Medical University School of Medicine, Morioka, Japan, ⁷⁾ Department of Orthopaedic Surgery, Yamaguchi University School of Medicine, Yamaguchi, Japan, ⁸⁾ Department of Orthopaedic Surgery, The University of Tokyo, Tokyo, Japan, ⁹⁾ Tohoku Central Hospital of the Manual Aid Association of Public School Teachers, Yamagata, Japan, ¹⁰⁾ Department of Orthopaedic Surgery, Kochi Medical School, Kochi, Japan) : The Validity Study of Japanese Orthopaedic Association Back Pain Evaluation Questionnaire (JOABPEQ) for the Patients with Leg Symptom Associated with Lumbar Disc Herniation. *J Spine Res* 2011 ; 2 : 268-271.
- 9) 橋口 宏, 岩下 哲, 伊藤博元 : 腱板大断裂・広範囲断裂修復術後における再断裂予測因子の検討. *肩関節* 2009 ; 34 : 741-744.
- 10) 尾崎大也, 森 淳, 飯澤典茂, 伊藤博元 : 特発性大腿骨顆部骨壊死に対する保存療法例の検討. *日本関節病学会誌* 2010 ; 29 (1) : 71-77.
- 11) 玉井健介, 河路秀巳, 植松卓也, 伊藤博元 : 大腿骨頭 Cam-type deformity の発生頻度と臨床的意義. *Hip Joint* 2010 ; 2010 : 36 : 29-32.
- 12) 橋口 宏, 伊藤博元, 岩下 哲 : 腱板関節包面不全断裂に対する鏡視下経腱板修復術の治療成績. *JOSKAS*

2010 ; 35 : 208-209.

- 13) 南野光彦, 澤泉卓哉, 伊藤博元 : 第 2-5 手根中手関節脱臼骨折の治療成績と解剖学的検討. 日本手の外科学会誌 2010 ; 27 (3) : 195-198.
- 14) 南野光彦, 澤泉卓哉, 伊藤博元 : 中手骨頸部骨折に対する low-profile plate system の治療経験. 骨折 2010 ; 32 (2) : 224-227.
- 15) 南野光彦, 澤泉卓哉, 伊藤博元 : 尺側手根中手関節脱臼骨折の治療成績と解剖学的検討. 日本手の外科学会誌 2010 ; 26 (2) : 53-56.
- 16) 南野光彦, 澤泉卓哉, 伊藤博元 : 手指伸筋腱脱臼の治療経験. 雑誌 整形外科 2010 ; 61 (2) : 113-117.
- 17) 南野光彦, 澤泉卓哉, 伊藤博元 : 橈骨頸部骨折と肘内側副靭帯損傷を伴った上腕三頭筋皮下断裂の 1 例. 雑誌 整形外科 2010 ; 61 (3) : 231-234.
- 18) 青木孝文, 伊藤博元 : 関節造影によるリスフラン損傷の診断. 整形・災害外科 2010 ; 53 (6) : 697-703.
- 19) 南野光彦, 澤泉卓哉, 伊藤博元 : 尺側手根中手関節脱臼骨折の治療成績と解剖学的検討. 日手会誌 2010 ; 26 : 53-56.
- 20) 澤泉卓哉, 南野光彦, 齊藤 善, 堀口 元, 伊藤博元 : Ilizarov Minifixator を用いた手指の仮骨延長術. 日手会誌 2010 ; 25 : 18-21.
- 21) 南野光彦, 澤泉卓哉, 堀口 元, 伊藤博元 : 中手骨頸部骨折に対する low-profile plate system の治療経験. 骨折 2010 ; 32 : 224-227.
- 22) 南野光彦, 澤泉卓哉, 伊藤博元 : 手指伸筋腱脱臼の治療経験. 整形外科 2010 ; 61 : 113-117.
- 23) 元文芳和, 宮本雅史, 今野俊介, 須藤賢太郎, 福田慶一, 伊藤博元 : 化膿性脊椎炎. 日医大医学会誌 2011 ; 7 (1) : 27-30.

(2) 総説 :

- 1) 岩下 哲, 橋口 宏, 苗代和彦, 中嶋隆男, 南 和文, 伊藤博元 : ペットボトルを用いた腱板機能訓練の有用性. 東日本整形災害外科学会 2010 ; 22 (2) : 214-217.
- 2) 宮本雅史, 伊藤博元 : 物理療法. からだの科学 2010 ; 266 : 89 -92.
- 3) 伊藤博元 : 診療ガイドラインからみたアキレス腱断裂の診断・治療. 日整会誌 2010 ; 84 : 38-46.
- 4) 岩下 哲, 澤泉卓哉, 松井秀平, 福田慶一, 伊藤博元 : 尺骨茎状突起骨折が原因と考えられた尺側手根伸筋腱皮下断裂の 1 例. 関東整形災害外科学会 2010 ; 41 (4) : 153-156.
- 5) 岩下 哲, 元文芳和, 角田 隆, 伊藤博元 : 下腿に生じたグロムス腫瘍の 1 例. 関東整形災害外科学会 2010 ; 41 (2) : 153-156.
- 6) 伊藤博元 : 運動器不安定症とロコモティブシンドローム. 日整会誌 2011 ; 85 : 3-4.

(3) 症例報告 :

- 1) Kitagawa Y, Ishihara Y, Hyashi M, Kim Y, Fujii N, Ito H : Mazabraud syndrome associated with McCune-Albright syndrome. J Orthop Sci 2011 ; 16 : 129-132.

著 書

- 1) 玉井健介 : [分担] 骨折, 脱臼. 総合診療マニュアル (上原 馨志夫 ; 大林 完二 ; 隅谷 護人 ; 益子 邦洋 ; 松岡 博昭編), 2010 ; pp337-343, 金芳堂.
- 2) 島田 隆¹⁾, 角田 隆, 坪 宏²⁾, 中西一浩³⁾, 池園哲郎⁴⁾, 古庄知己⁵⁾ (1) 日本医科大学医学部生化学・分子生物学, 2) 日本医科大学付属病院 集中治療室, 3) 日本医科大学付属病院 緩和ケア科, 4) 日本医科大学付属病院 耳鼻科咽喉科, 5) 信州大学付属病院 遺伝子診療部) : [分担] 過剰運動 <hypermobility> 症候群類縁疾患における診断基準の確立ならびに病態解明研究班. 厚生労働省 難治性疾患克服研究事業.
- 3) 森 淳 : [分担] アキレス腱断裂 : 病因と病態. 第 1 版アキレス腱断裂ガイドライン解説 (帖佐悦男),

2010；財団法人日本医療機能評価機構。

- 4) 伊藤博元：〔分担〕運動器不安定症 概念と治療体系。運動器の痛みプライマリケア 頸部・肩の痛み，2010；pp33-36，南江堂。
- 5) 伊藤博元：〔分担〕五十肩。整形外科専門医テキスト，2010；pp628-631，南江堂。
- 6) 伊藤博元：〔分担〕上肢のリハビリテーション。運動器リハビリテーションシラバス。改訂第2版，2010；pp119-132，南江堂。
- 7) 伊藤博元：〔分担〕肩関節の機能解剖。今日の治療指針 2010年版。第6版，2010；pp372-373，医学書院。
- 8) 伊藤博元：〔分担〕変形性肩関節症。今日の治療指針 2010年版。第6版，2010；pp411-412，医学書院。
- 9) 伊藤博元：〔分担〕リウマチ肩。今日の治療指針 2010年版。第6版，2010；pp412-413，医学書院。
- 10) 南 和文：〔自著〕XXIII 外傷 180 高齢者の骨折。総合診療マニュアル（上原譽志夫他），2010；pp345-347，金芳堂。
- 11) 北川泰之：〔分担〕骨幹端部線維性骨皮質欠損。アトラス骨・関節画像診断 4.骨・軟部腫瘍（著者名：戸山芳昭 シリーズ監修/矢部 啓夫 編集），2010；pp90-91，中外医学社。
- 12) 飯澤典茂，伊藤博元：〔分担〕AO分類の特徴と運用法。上腕骨近位端骨折 適切な治療法の選択のために，2010；pp58-61，金原出版。
- 13) 宮本雅史：〔分担〕物理療法の実施法および適応と禁忌。運動器リハビリテーションシラバス第2版（日本運動器リハビリテーション学会編），2010；pp71-81，南光堂。
- 14) 宮本雅史：〔分担〕仙腸関節炎。今日の整形外科治療指針（国分正一ほか編）第6版，2010；pp693-694，医学書院。
- 15) 宮本雅史：〔分担〕脊髄関連疾患1（頸部脊柱管狭窄）。総合診療マニュアル（上原譽志夫ほか編），2010；pp681-685，金芳堂。
- 16) 宮本雅史：〔分担〕腰痛症。診療ガイドライン up to date。（門脇孝ほか監修），2010；メディカルレビュー社。
- 17) 橋口 宏：〔分担〕IV. 肩関節鏡下手術とそのスキル。肩鎖関節脱臼に対する鏡視下烏口鎖骨靭帯再建術の手術手技とコツ。肩関節鏡下手術（米田 稔），2010；pp312-313，文光堂。
- 18) 南野光彦，伊藤博元：〔分担〕高齢者橈骨遠位端骨折の治療。高齢者橈骨遠位端骨折に対する保存的治療。Monthly Book Orthopaedics 23 (1)，2010；pp1-6，全日本病院出版会。
- 19) 青木孝文，宮本雅史，伊藤博元：〔分担〕慢性腰痛に対する簡便な運動療法。運動器慢性疾患に対する運動療法，2010；pp107-108，金原出版。
- 20) 青木孝文：〔分担〕過剰骨障害。絵で見る最新足診療エッセンシャルガイド，2010；pp159-163，全日本病院出版会。
- 21) 飯澤典茂，伊藤博元：〔分担〕Weaver-Dunn 変法/Cadenat 変法。肩関節の手術，2011；pp182-190。

学会発表

〔追加分〕

追加分一般講演：

- 1) 伊藤博元：肩関節外傷の診療とリハビリテーションのポイント。第20回関東整形外科研究会（厚木），2009. 11.

(1) 教育講演：

- 1) 森 淳：運動と年齢；整形外科系。平成22年度東京都医師会健康スポーツ医学講習会（東京），2010. 5.
- 2) Sawaizumi T, Nanno M, Ito H：New vascularized bone grafting for refractory non-union of the scaphoid. The 11th congress of the international federation of societies for surgery of the hand (Seoul, Korea), 2010. 10.
- 3) 宮本雅史：脊椎リハビリテーション。平成22年夏季セラピスト研修会（日本運動器リハビリテーション学会）（幕

張), 2010. 6.

- 4) 森 淳: バスケットボール傷害の特性と治療 (膝関節を中心に). 宮城県臨床整形外科医会 (宮城), 2010. 6.
- 5) 澤泉卓哉: 手関節痛 - 診断と治療. 第17回墨田区整形外科医会 (東京), 2010. 6.
- 6) 澤泉卓哉: 手関節痛 - 最近の知見も含めて. 第12回北総整形外科カンファレンス整形外科病診連携会 (千葉), 2010. 6.
- 7) 南 和文: スポーツ医学からみると相撲はまだまだ面白い. 相模原整形外科医会学術講演会 (相模原), 2010. 10.

(2) シンポジウム:

- 1) Aoki T: Diagnosis of post-traumatic instability of the Lisfranc joint. The 19th Taiwan-Japan Orthopaedic Symposium (Taiwan), 2010. 4.
- 2) Sawaizumi T, Nanno M, Ito H: Vascularized second dorsal metacarpal base graft for scaphoid nonunion. The 11th congress of the international federation of societies for surgery of the hand (Seoul, Korea), 2010. 10.
- 3) Sawaizumi T, Nanno M, Ito H: Non-bridging type external fixation using Olive wire for distal radius fractures. The 11th congress of the international federation of societies for surgery of the hand (Seoul, Korea), 2010. 10.
- 4) 宮本雅史, 福井 充, 金森昌彦, 川上 守, 嶋村 正, 田口敏彦, 竹下克志, 田中靖久, 谷 俊一, 谷口慎一郎, 千葉一裕, 中井定明, 和田英路, 米延策雄: 手術治療成績の評価法としてのJOABPEQの有用性の検討. 第39回日本脊椎脊髄病学会 (高知), 2010. 4.
- 5) 宮本雅史, 田口敏彦, 谷 俊一, 金森昌彦, 嶋村正正, 竹下克志, 田中靖久, 谷口慎一郎, 千葉一裕, 中井定明, 和田英路, 川上 守, 米延策雄, 福井 充: 腰部脊柱管狭窄症に対するJOABPEQの妥当性の検討. 第39回日本脊椎脊髄病学会 (高知), 2010. 4.
- 6) 堀口 元, 澤泉卓哉, 南野光彦, 伊藤博元: 手指の関節近傍骨折に対する non-bridging 型創外固定法. 第52回日本手の外科学会学術集会 (東京), 2010. 4.
- 7) 澤泉卓哉, 南野光彦, 堀口 元, 伊藤博元: 遠位橈尺関節障害に対する Sauve-Kapandji 法: 尺骨近位断端部の対する制動群と非制動群の比較. 第52回日本手の外科学会学術集会 (東京), 2010. 4.
- 8) 橋口 宏, 岩下 哲, 伊藤博元: 腱板大断裂・広範囲断裂修復術後における再断裂の危険因子. 第83回日本整形外科学会学術総会 (東京), 2010. 5.
- 9) 澤泉卓哉, 南野光彦, 堀口 元, 望月祐輔, 伊藤博元: 粉碎型橈骨頭・頸部骨折に対するプレート固定術. 第81回日本整形外科学会学術総会 (札幌), 2010. 5.
- 10) 宮本雅史: 腰椎椎間板ヘルニア診療ガイドラインの改訂にあたって. 第59回東日本整形災害外科学会 (盛岡), 2010. 9.

(3) パネルディスカッション:

- 1) 飯澤典茂, 澤泉卓哉, 堀口 元, 伊藤博元: 肘関節鏡視像における滑膜ひだについて. 第59回東日本整形災害外科学会 (盛岡), 2010. 9.

(4) ポスター:

- 1) Kitagawa Y, Ishihara Y, Takaaki Y, Hyashi M, Kim Y, Fujii N, Ito H, Hosone M¹⁾, Maeda S¹⁾ (1) Dept of Pathology: Complementary relations between MRI & FNAC in diagnosis of soft tissue tumors. SICOT (ヨーテボリ (スウェーデン)), 2010. 8.

(5) 一般講演:

- 1) Konno S, Aoki T, Miyamoto M, Horigichi G, Yoshizawa T, Ito H: The effects on the reliability of reading parameters of F-waves by flattening the baselines of the waveforms using a mathematical approximation. 29th International Congress of Clinical Neurophysiology (Kobe, Japan),
- 2) Kitagawa Y, Ishihara Y, Takaaki Y, Hyashi M, Kim Y, Fujii N, Ito H, Hosone M¹⁾, Maeda S¹⁾ (1) De-

- partment of Pathology) : Complementary relations between MRI & FNAC in diagnosis of soft tissue tumors. SICOT (Gothenburg, Sweden), 2010. 8.
- 3) Egawa Y, Ito H, Minami K, Mori A, Iizawa N, Kim Y : 11-year follow-up of Miller-Galante (MG) II Prosthesis in Primary Total Knee Arthroplasty. 2010 SICOT (Göteborg, Sweden), 2010. 9.
 - 4) Hashiguchi H, Iwashita S, Ito H : Outcomes of arthroscopic double-row repair for large or massive rotator cuff tear. The 10th International Congress on Surgery of the Shoulder (Edinburgh), 2010. 9.
 - 5) Hashiguchi H, Iwashita S, Ito H : Outcomes with combined arthroscopic rotator cuff repair and capsular release for partial-thickness rotator cuff tears with shoulder stiffness. The 2nd Biennial Asia Arthroscopy Congress (Beijing, China), 2010. 9.
 - 6) Nakajima T, Miyamoto M, Minami K, Ito H : Histological analysis of clinical posterolateral spinal fusion-using superporous hydroxyapatites as a bone graft extender. Euro Spine 2010, Annual Meeting of the Spine Society of Europe (Vienna, Austria), 2010. 9.
 - 7) Hagiwara Y, Sawaizumi T, Ito H : Mesenchymal stem cells derived from bone marrow and adipose tissues for improving viability of random pattern skin flaps. The 11th congress of the international federation of societies for surgery of the hand (Seoul, Korea), 2010. 10.
 - 8) Nanno M, Sawaizumi T, Ito H : Surgical treatment for fracture-dislocations of the ulnar carpometacarpal joints. The 11th congress of the international federation of societies for surgery of the hand (Seoul, Korea), 2010. 10.
 - 9) Nanno M, Sawaizumi T, Ito H : Surgical treatment for fracture dislocation of the carpometacarpal joints. 11th Congress of the International Federation of Societies for Surgery of the Hand, XI. IFSSH World Hand Congress (Seoul, Korea), 2010. 11.
 - 10) Hagiwara Y, Hayashi O, Sawaizumi T, Ito H¹⁾, Tadokoro M¹⁾, Hattori K¹⁾, Ohgushi H¹⁾ (¹⁾ Health Research Institute, National Institute of Advanced Industrial Science and Technology, Japan) : Mesenchymal Stem Cells Derived from Bone Marrow and Adipose Tissues for Improving Viability of Random Pattern Skin Flaps. 11th Congress of the International Federation of Societies for Surgery of the Hand, XI. IFSSH World Hand Congress (Seoul, Korea), 2010. 11.
 - 11) Nakajima T, Miyamoto M, Minami K, Ito H : Our novel measure against perioperative venous thromboembolism in spinal surgery patients. 15th International ArgoSpine Symposium (Paris, France), 2011. 1.
 - 12) 元文芳和, 宮本雅史, 今野俊介, 須藤賢太郎, 佐竹美彦, 伊藤博元 : 80歳以上の高齢者脊椎手術例の手術成績. 第39回日本脊椎脊髓病学会 (高知), 2010. 4.
 - 13) 今野俊介, 宮本雅史, 元文芳和, 佐竹美彦, 青木孝文, 伊藤博元 : 腰部脊柱管狭窄症患者評価におけるF波最小潜時計測の意義. 第39回脊椎脊髓病学会 (高知), 2010. 4.
 - 14) 萩原祐介, 林 央介, 澤泉卓哉, 伊藤博元 : ラット骨髄, 脂肪由来間葉系幹細胞の皮弁生着改善効果に関する比較研究. 第53回日本手の外科学会学術集会 (新潟), 2010. 4.
 - 15) 中嶋隆夫, 家田俊也, 宮本雅史, 南 和文, 伊藤博元 : 超高気孔率ハイドロキシアパタイト (HA) 顆粒を併用した腰椎後側方固定術 (PLF) における骨移植部の組織学的検討. 第39回日本脊椎脊髓病学会 (高知), 2010. 4.
 - 16) 南野光彦, 澤泉卓哉, 伊藤博元 : 第2-5手根中手関節脱臼骨折の治療成績と解剖学的検討. 第52回日本手の外科学会学術集会 (東京), 2010. 4.
 - 17) 萩原祐介, 林 央介, 澤泉卓哉, 伊藤博元 : ラット骨髄, 脂肪由来間葉系幹細胞の皮弁生着改善効果に関する比較研究. 第52回日本手の外科学会学術集会, 2010. 4.
 - 18) 伊藤博元 : 上腕骨近位端骨折の診療と肩関節リハビリテーション. 第69回名古屋市大整形外科セミナー (名古屋),

2010. 5.

- 19) 尾崎大也：特発性大腿骨顆部骨壊死における骨代謝マーカーと骨密度の検討. お茶ノ水・膝スポーツ懇話会（第14回），2010. 6.
- 20) 望月祐輔，宮本雅史，元文芳和，今野俊介，角田 隆，須藤賢太郎，伊藤博元：腰椎黄色靭帯内血腫の1例. 関東整形災害外科学会月例会（第654回），2010. 6.
- 21) 伊藤博元：疾患別リハビリテーション-アスレチックリハビリ，下肢リハ，運動器リハビリテーションセラピスト研修会（幕張），2010. 6.
- 22) 青木孝文，須藤賢太郎，伊藤博元：変形性足関節症の発生要因に対する一考察. 第35回日本足の外科学会（奈良），2010. 6.
- 23) 青木孝文，須藤賢太郎，伊藤博元：外反母趾に対する前足部弾性包帯固定法のタイプ別効果. 第35回日本足の外科学会（奈良），2010. 6.
- 24) 尾崎大也，森 淳，飯澤典茂，苗代和彦，伊藤博元：特発性大腿骨顆部骨壊死における骨代謝マーカーと骨密度の検討. 日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会（JOSKAS）学術集会（第2回）（沖縄），2010. 7.
- 25) 北川泰之，石原陽子，林 幹彦，金 竜，藤井信人，伊藤博元：癌の既往のない患者の骨転移の診断. 第43回日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会（横浜），2010. 7.
- 26) 橋口 宏，岩下 哲，伊藤博元：一時修復不能腱板広範囲断裂に対する鏡視下大腿筋膜移植術の治療成績. 第2回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会（JOSKAS）（沖縄），2010. 7.
- 27) 南野光彦，青木孝文，澤泉卓哉，伊藤博元：高齢者上腕骨遠位端骨折に対する ONI transcondylar plate による治療経験. 第36回日本骨折治療学会（幕張），2010. 7.
- 28) 飯澤典茂，澤泉卓哉，尾崎大也，堀口 元，伊藤博元，大場俊二¹⁾（¹⁾大場整形外科）：肘関節鏡視像における滑膜ひだについて. 第59回東日本整形災害外科学会（盛岡），2010. 9.
- 29) 苗代和彦，中嶋隆夫，橋口 宏，佐竹美彦，南 和文，伊藤博元：脊椎術後 ARDS を生じた1例. 第59回東日本整形災害外科学会（盛岡），2010. 9.
- 30) 望月祐輔，宮本雅史，元文芳和，今野俊介，角田 隆，須藤賢太郎，伊藤博元：腰椎黄色靭帯内血腫の3例. 第59回東日本整形災害外科学会（盛岡），2010. 9.
- 31) 伊藤博元：外傷後・術後のリハビリテーション. 第5回日整会認定運動器リハビリ医研修会（東京），2010. 9.
- 32) 南 和文，伊藤博元，苗代和彦，北原聡太¹⁾，中川博文²⁾（¹⁾鹿島労災病院整形外科，²⁾豊橋創造大学保健医療学部）：学生相撲選手の足底圧分布の特徴. 日本整形外科スポーツ医学会（横浜），2010. 9.
- 33) 石田仁也¹⁾，石川智久¹⁾，鳥巢勇一¹⁾，石黒晴哉¹⁾，南 和文，苗代和彦，北原聡太²⁾（¹⁾東京慈恵会医科大学消化器・肝臓内科，²⁾鹿島労災病院整形外科）：暑熱環境下の相撲稽古における経口補水液使用での体内環境の変化. 第65回 日本体力医学会大会（千葉），2010. 9.
- 34) 大場良輔，河路秀巳，佐竹美彦，望月祐輔，堀口 元，伊藤博元：全人工股関節置換術後にいわゆる脊麻後紅斑を発症した1例. 第37回日本股関節学会学術集会（福岡），2010. 10.
- 35) 玉井健介，北川泰之，金 竜，林 幹彦，石原陽子，河路秀巳，伊藤博元：日本人の anterior femoral offset (OS)，OS 比， α 角について. 第37回日本股関節学会（福岡），2010. 10.
- 36) 林 幹彦，石原陽子，金 竜，北川泰之，玉井健介，河路秀巳，伊藤博元：大腿骨近位部骨折患者における周術期リスクの検討：心的リスクを中心に. 第37回日本股関節学会（福岡），2010. 10.
- 37) 橋口 宏，岩下 哲，伊藤博元：変形性肩関節症に対する人工肩関節置換術の治療成績. 第37回日本肩関節学会（仙台），2010. 10.
- 38) 山口明子¹⁾，小塚和豊¹⁾，荻野拓也¹⁾，正能千明¹⁾，塚田薫子¹⁾，石田 溪¹⁾，橋口 宏（¹⁾千葉北総病院リハビリテーション科）：腱板断裂における肩甲骨周囲筋活動量の検討. 第7回肩の運動機能研究会（仙台），2010. 10.
- 39) 河路秀巳，小林俊之，堀口 元，牧野 晃，植松卓哉，大場良輔，望月祐輔，伊藤博元：大腿骨近位部骨折の

- 短期生命予後に関する検討：2007年以降の症例について．第37回日本股関節学会（福岡），2010．10．
- 40) 萩原祐介，田所美香¹⁾，服部耕治¹⁾，伊藤博元，大串 始¹⁾（¹⁾産業技術総合研究所セルエンジニアリング研究部門）：ラット脂肪，骨髄由来間葉系幹細胞の皮弁生着改善効果に関する比較．第25回日本整形外科学会基礎学術集会（京都），2010．10．
 - 41) 青木孝文，堀口 元，南野光彦，澤泉卓哉，伊藤博元：手根管症候群に対する筋付着部他動的ストレッチについて．第16回神奈川上肢の外科研究会（横浜），2010．10．
 - 42) 橋口 宏，南 和文，岩下 哲，玉川智子¹⁾，正能千明¹⁾，伊藤博元（¹⁾千葉北総病院リハビリテーション科）：成長期野球肘症例における身体的特徴の検討．第21回日本臨床スポーツ医学会学術集会（東京），2010．11．
 - 43) 伊藤博元：疾患別リハビリテーション-アスレチックリハビリ，下肢リハ，運動器リハビリテーションセラピスト研修会（幕張），2010．11．
 - 44) 南 和文，伊藤博元，橋口 宏，石川智久¹⁾，石黒春哉¹⁾，北原聡太²⁾（¹⁾東京慈恵会医科大学消化器肝臓病内科，²⁾鹿島労災病院整形外科）：暑熱下の相撲稽古における熱中症予防への経口補水液の有効性．第21回日本臨床スポーツ医学会学術集会（つくば市），2010．11．
 - 45) 苗代和彦，中嶋隆夫，橋口 宏，佐竹美彦，南 和文，伊藤博元：歩行困難を主訴に来院したの Henoch-Schonlein purpura の1例．第657回整形外科集談会東京地方会（東京），2010．12．
 - 46) 南 和文，橋口 宏，中嶋隆夫，伊藤博元：股関節臼蓋形成術に使用する Hydroxyapatite 補填材の作成と臨床応用．第30回整形外科バイオマテリアル研究会（京都），2010．12．
 - 47) 南 和文，橋口 宏，中嶋隆夫，苗代和彦，佐竹美彦，岡田 進¹⁾，渡辺典男²⁾（¹⁾日本医科大学千葉北総病院放射線科，²⁾日本医科大学千葉北総病院放射線センター）：C-C型全人工股関節におけるセラミックカップ摩擦のレントゲン評価の試み．第11回千葉股関節研究会（千葉），2010．12．
 - 48) 西本 裕¹⁾，尾崎大也，室谷嘉一²⁾，田村玉美³⁾，小石多津子⁴⁾，陶山哲夫⁵⁾（¹⁾岐阜大学大学院医学系研究科成人看護学分野，²⁾東北大学大学院医学系研究科内部障害学分野，³⁾国立障害者リハビリテーションセンター，⁴⁾大分中村病院，⁵⁾日本パラリンピック委員会医学委員長）：広州2010アジアパラ競技大会医療活動の実際 Medical services in Team Japan on Guangzhou 2010 Asian Para Games．日本障害者スポーツ学会（第20回）（国立大学法人 佐賀大学医学部 鍋島キャンパス），2011．1．
 - 49) 中嶋隆夫，南 和文：脊椎手術におけるバリエーション．第6回お茶の水脊椎セミナー（東京），2011．1．
 - 50) 伊藤博元：肩関節外傷の診療とリハビリテーションのポイント．第150回くにびき整形外科セミナー（松江），2011．2．
 - 51) 南野光彦，澤泉卓哉，伊藤博元：手指末節骨内軟骨腫を伴った深指屈筋腱停止部裂離骨折の1例．第25回東日本手の外科研究会（東京），2011．2．
 - 52) 中嶋隆夫，南 和文：脊椎後方固定術におけるオフセットコネクタの応用．第16回ちば脊椎カンファレンス（幕張），2011．2．
 - 53) 青木孝文，南野光彦，山田祐子，花岡央泰，伊藤博元：小児脛骨下端骨端線損傷後の変形治療に対する治療上の工夫．第24回日本創外固定学会（札幌），2011．2．
 - 54) 南 和文，伊藤博元，橋口 宏，中嶋隆夫：人工股関節再置換時の臼蓋形成術に使用する Hydroxyapatite 補填材の作成と臨床応用．第30回日本人工関節学会（東京），2011．2．
 - 55) 南 和文，伊藤博元，橋口 宏，中嶋隆夫，苗代和彦，橋本雅美¹⁾（¹⁾（財）ファインセラミックスセンター）：Anca-Fit型全人工股関節置換術後に発生したセラミック骨頭の破損．第30回日本人工関節学会（東京），2011．2．

13. 産婦人科学講座

[付属病院女性診療科・産科]

研究概要

周産期医学, 婦人科腫瘍学, 生殖内分泌医学, 手術学の各部門でそれぞれ精力的に研究が行われた。

周産期医学領域では, 症例報告に加えて, 胎盤に特異的なマイクロ RNA の局在・機能につき分子解剖学講座との共同研究を継続した。

婦人科腫瘍学では, 神奈川県立がんセンターとの臨床データベースをもとにした共同研究を継続するとともに, 希少症例の臨床病理学的報告を行った。また, 子宮内膜癌細胞における性ステロイド作動性分子群を同定し, 子宮体癌に対する標的治療開発の礎とした。

生殖医学分野では, 子宮形態異常を原因とする不育症に対し手術療法を積極的に施行し, 手術アプローチによる生児獲得率の検討を, また免疫異常と不育症の関連について臨床研究を展開した。さらに微生物学免疫学教授との共同研究で免疫学的妊娠維持機構の解析を行った。高度生殖補助医療においては, 胚移植時の血清ホルモン値を再評価し, プロトコルの変更を加え妊娠率を向上しうるに至った。また, マウス過排卵モデルを用いた基礎研究による周排卵期特異的分子シグナリングの同定および解析を行った。

手術学では, 内視鏡手術や, 骨盤臓器脱に対するメッシュ手術などを専門に担当する低侵襲手術部門を立ち上げ, 深部子宮内膜症に対する独自の手術アプローチや, 子宮内膜症術後再発に対する検討を行った。また, 頸管妊娠例に対する子宮体部温存術式(部分頸部摘出術)を考案した。以上の成果について, 本邦および海外の学術集会および論文にて報告を行った。

研究業績

論文

[追加分]

追加分総説:

- 1) 竹下俊行: 不育症と母性 流産死産後の心理ケア. 神奈川母性衛生学会誌 2010; 13 (1): 8-11.

追加分原著:

- 1) 石川 源: 産科出血との戦い: 産科麻酔: 基本的考え方から最新診療まで. 麻酔 2010; 59 (3): 347-356.
- 2) 阿部 崇, 稲川智子, 富山僚子, 峯 克也, 西 弥生, 桑原慶充, 明楽重夫, 竹下俊行: 良好胚獲得における各排卵誘発法の比較. 日本受精着床学会雑誌 2010; 27 (1): 327-330.
- 3) 市川智子, 神戸沙織, 阿部 崇, 富山僚子, 峯 克也, 桑原慶充, 里見操緒, 澤倫太郎, 明楽重夫, 竹下俊行: アスピリン・ヘパリン療法不成功不育症例の臨床遺伝学的検討. 日本受精着床学会雑誌 2010; 27(1): 260-263.

追加分症例報告:

- 1) 峯 克也, 桑原慶充, 神戸沙織, 市川智子, 阿部 崇, 富山僚子, 西 弥生, 明楽重夫, 竹下俊行: アスピリン・ヘパリン療法中に絨毛膜下血腫を呈し, アスピリン中止後子宮内胎児死亡に至った胎児腹壁破裂症例. 日本受精着床学会雑誌 2010; 27 (1): 252-255.
- 2) 山本晃人, 米山剛一, 小野修一, 加藤雅彦, 中尾仁彦, 小西真理世, 明楽重夫, 竹下俊行: 病理組織検査にて2次性と診断した乳房外 Paget 病の1例. 日産婦東京会誌 2010; 59 (1): 78-82.

(1) 原著:

- 1) Murakami M, Akira S, Matsuzawa I, Ohki Y, Koike S, Takeshita T, Hyakusoku H: Microscope-assist-

- ed reduction clitoroplasty used to treat two patients with clitoromegaly. *J Nippon Med Sch* 2010 ; 77 (1) : 35-39.
- 2) Hayashi M, Oya A, Miyake H, Nakai A, Takeshita T : Trypsin Inhibitor on Preterm Labor with High Granulocyte Elastase Concentration in Cervical Secretions. *J Nippon Med Sch* 2010 ; 77 (2) : 80-85.
 - 3) Inde Y, Yamaguchi S, Kamoi S, Takeshita T : Transition of cytomegalovirus seropositivity in Japanese puerperal women. *The Journal of Obstetrics and Gynaecology Research* 2010 ; 36 (3) : 488-494.
 - 4) Kurashina R, Shimada H, Matsushima T, Doi D, Asakura H, Takeshita T : Spontaneous Uterine Perforation Due to Clostridial Gas Gangrene Associated with Endometrial Carcinoma. *J Nippon Med Sch* 2010 ; 77 (3) : 166-169.
 - 5) Abe T, Amano I, Sawa R, Akira S, Nakai A, Takeshita T : Recovery from Peripartum Cardiomyopathy in a Japanese Woman after Administration of Bromocriptine as a New Treatment Option. 2010 ; 77 (4) : 226-230.
 - 6) Yagi Y, Watanabe E, Watarai E, Shinya E, Satomi M, Takeshita T, Takahashi H : Inhibition of DC-SIGN-mediated transmission of human immunodeficiency virus type 1 by Toll-like receptor 3 signalling in breast milk macrophages. *Immunology* 2010 ; 130 (4) : 597-607.
 - 7) Nakai A, Suzuki S, Takeshita T : The Influence of Assisted Reproductive Technology on Women with Pregnancy-induced Hypertension : A Retrospective Study at a Japanese Regional Perinatal Center. *J Nippon Med Sch* 2010 ; 77 (6) : 312-317.
 - 8) Kawabata I, Nagase A, Oya A, Hayashi M, Miyake H, Nakai A, Takeshita T : Factors Influencing the Accuracy of Digital Examination for Determining Fetal Head Position during the First Stage of Labor. *J Nippon Med Sch* 2010 ; 77 (6) : 290-295.
 - 9) Nakagawa K, Inoue M, Nishi Y, Sugiyama R, Motyama K, Kuribayashi Y, Akira S, Sugiyama R : A new evaluation score that uses salpingoscopy to reflect fallopian tube function in infertile women. *Fertil Steril* 2010 ; 94 (7) : 2753-2757.
 - 10) Miyake H, Iwasaki N, Nakai A, Suzuki S, Takeshita T : The influence of assisted reproductive technology on women with pregnancy-induced hypertension : a retrospective study at a Japanese Regional Perinatal Center. *J Nippon Med Sch* 2010 ; 77 (6) : 312-317.
 - 11) Takeuchi H, Takahashi M, Norose Y, Takeshita T, Fukunaga Y, Takahashi H : Transformation of breast milk macrophages by HTLV-I : implications for HTLV-I transmission via breastfeeding. *Biomed Res* 2010 ; 31 (1) : 53-61.
 - 12) Kuwabara Y, Takeshita T : Proteomic Approach to Identify Specific Molecules Related to Ovarian Steroid Hormone-dependend Diseases. *J Nippon Med Sch* 2011 ; 78 (1) : 57-59.
 - 13) Ishibashi O, Ali M, Takeshita T, Takizawa T : Placental Exosome-Assoicated MicroRNAs in Normal Pregnancy and Preeclampsia. *J Nippon Med Sch* 2011 ; 78 (1) : 48-49.
 - 14) 市川智子, 神戸沙織, 阿部 崇, 富山僚子, 峯 克也, 桑原慶充, 里見操緒, 澤倫太郎, 明楽重夫, 竹下俊行 : 受精障害症例からみた ICSI 適応. *日本受精着床学会雑誌* 2010 ; 27 (1) : 156-160.
 - 15) 峯 克也, 明楽重夫, 近藤幸尋¹⁾, 竹下俊行 (¹⁾ 日本医科大学泌尿器科学教室) : 腹腔鏡下手術を施行した膀胱子宮内膜症—診断と治療のポイント. *日医大医学会誌* 2010 ; 6 (3) : 147-151.
 - 16) 大内 望, 明楽重夫, 阿部 崇, 五十嵐美和, 市川智子, 峯 克也, 市川雅男, 三浦 敦, 黒瀬圭輔, 竹下俊行 : 当科における子宮内膜症の術後再発率についての検討. *日本エンドメトリオーシス学会会誌* 2010 ; 31 (31) : 195-198.
 - 17) 峯 克也, 明楽重夫, 大内 望, 黒瀬圭輔, 近藤幸尋¹⁾, 竹下俊行 (¹⁾ 日本医大 泌尿器科学教室) : 特異部位の子宮内膜症 Update 膀胱子宮内膜症を中心とした下部尿路子宮内膜症に対する診断と治療のポイント. *日本*

エンドメトリオーシス学会誌 2010 ; 31 (31) : 128-131.

- 18) 明楽重夫, 市川雅男, 竹下俊行 : TVM 手術における合併症回避の試み : 腹腔鏡下骨盤筋膜腱弓剥出と膀胱・直腸側腔へのアプローチ法の工夫. 日本女性骨盤底医学会誌 2010 ; 7 (1) : 93-97.
- 19) 市川雅男, 明楽重夫, 竹下俊行 : 骨盤臓器脱に対する Double meshes を用いた全腹腔鏡下仙骨陰固定術. 日本女性骨盤底医学会誌 2010 ; 77 (1) : 89-92.
- 20) 米山剛一, 関口敦子, 松島 隆, 澤倫太郎, 中井章人, 朝倉啓文, 竹下俊行 : 母胎救命救急の限界 過去 25 年間に経験した妊産婦死亡例の臨床的検討. 日本周産期・新生児医学会雑誌 2010 ; 46 (4) : 1012-1014.
- 21) 高屋 茜, 三浦 敦, 新村裕樹, 米山剛一, 明楽重夫, 鴨井青龍, 竹下俊行, 彭 為霞¹⁾, 川本雅司¹⁾ (1) 日本医大附属病院 病理部 : 嚢胞状の外観を呈し卵巣原発悪性腫瘍との鑑別が困難であった子宮平滑筋肉腫の 1 例. 日産婦東京地方部会誌 2010 ; 59 (4) : 527-532.

(2) 総説 :

- 1) 竹下俊行 : 周産期診療指針 2010 29. 不育症. 周産期医学 2010 ; 40 (増刊号) : 98-102.
- 2) 竹下俊行 : 産科編 妊娠初期の異常 不育症. 周産期医学 2010 ; 40 (増刊) : 98-102.
- 3) 明楽重夫, 市川雅男, 三浦 敦, 竹下俊行 : 腹腔鏡手術を安全・確実に. 産婦人科治療 2010 ; 100 (3) : 308-316.
- 4) 市川雅男, 里見操緒, 竹下俊行 : 妊娠と B7-H1 : 妊娠免疫 Update : 子宮内膜局所免疫と妊娠. 医学のあゆみ 2010 ; 233 (2) : 151-155.
- 5) 三宅秀彦, 竹下俊行 : 一般検査 血液型・不規則抗体 : 産婦人科検査マニュアル. 産科と婦人科 2010 ; 77 (suppl) : 28-32.
- 6) 明楽重夫, 阿部 崇, 市川智子, 三浦 敦, 竹下俊行 : 卵管妊娠の治療方針と妊孕性. 産婦人科の実際 2010 ; 59 (5) : 751-759.
- 7) 瀧澤俊広¹⁾, 石橋 宰¹⁾, 羅 善順¹⁾, 松原茂樹¹⁾, 竹下俊行 (1) 日本医大分子解剖学 : 胎盤の物質輸送と通過性 胎盤特異的 microRNA. 周産期医学 2010 ; 40 (7) : 1071-1077.
- 8) 石川 源, Robinson-M. J, 竹下俊行, 瀧澤俊広 (1) 日本医大分子解剖学 : 胎盤の物質輸送と通過性 IgG. 周産期医学 2010 ; 40 (7) : 1051-1055.
- 9) 石橋 宰¹⁾, 羅 善順¹⁾, 石川 源, 竹下俊行, 大口昭英¹⁾, 泉 章夫¹⁾, 松原茂樹¹⁾, 瀧澤俊広¹⁾ (1) 日本医大分子解剖学 : マイクロ RNA 解析からみた妊娠高血圧症候群. 産婦人科の実際 2010 ; 59 (7) : 1063-1071.
- 10) 石橋 宰¹⁾, 石川 源, 松原茂樹¹⁾, 竹下俊行, 瀧澤俊広¹⁾ (1) 日本医大分子解剖学 : 産婦人科医としての基礎知識 : シリーズで学ぶ最新知識 マイクロ RNA. 産婦人科の実際 2010 ; 59 (9) : 1389-1395.
- 11) 澤倫太郎 : 医療経済における帝王切開 : 帝王切開 : 母体と新生児に与えるインパクト. 周産期医学 2010 ; 40 (10) : 1530-1538.
- 12) 明楽重夫 : 異所性妊娠 : 外来診療マニュアル. 産婦人科の実際 2010 ; 59 (11) : 1787-1792.
- 13) 石橋 宰¹⁾, 間瀬有里, 瀧澤敬美¹⁾, 米山剛一, 朝倉啓文, 松原茂樹¹⁾, 竹下俊行, 瀧澤俊広¹⁾ : 女性生殖器 (子宮・卵巣) におけるマイクロ RNA : シリーズで学ぶ最新知識 マイクロ RNA. 産婦人科の実際 2010 ; 59 (10) : 1551-1555.
- 14) 石橋 宰¹⁾, 羅 善順¹⁾, 石川明子¹⁾, 小管拓治¹⁾, 倉品隆平, 石川 源, 朝倉啓文, 泉 章夫¹⁾, 大口昭英¹⁾, 松原茂樹¹⁾, 竹下俊行, 瀧澤俊広¹⁾ (1) 日本医大分子解剖学 : マイクロ RNA 女性生殖器 (胎盤) におけるマイクロ RNA : シリーズで学ぶ最新知識. 産婦人科の実際 2010 ; 59 (12) : 2077-2083.
- 15) 峯 克也, 明楽重夫, 大内 望, 市川雅男, 黒瀬圭輔, 近藤幸尋¹⁾, 竹下俊行 (1) 日本医科大学泌尿器科 : 膀胱子宮内膜症を中心とした診断と治療のポイント. 産科と婦人科 2010 ; 77 (12) : 1425-1430.
- 16) 米山剛一, 関口敦子, 松島 隆, 澤倫太郎, 中井章人, 朝倉啓文, 竹下俊行 : 母体救命救急の限界 過去 25 年間に経験した妊産婦死亡例の臨床的検討. 日本周産期・新生児医学会雑誌 2010 ; 46 (4) : 1012-1014.

- 17) 峯 克也, 明楽重夫, 大内 望, 市川雅男, 黒瀬圭輔, 近藤幸尋¹⁾, 竹下俊行 (¹⁾ 日本医大 泌尿器科学教室): 膀胱子宮内膜症を中心とした診断と治療のポイント: まれな子宮内膜症への対応. 産科と婦人科 2010 ; 77(12) : 1425-1430.
- 18) 瀧澤俊広¹⁾, 石橋 宰¹⁾, 松原茂樹¹⁾, 右田 真²⁾, 竹下俊行 (¹⁾ 日本医科大学 分子解剖学, ²⁾ 日本医科大学 小児科学): 胎盤から母体循環に分泌されるエクソソーム 胎盤特異的 microRNA の意義と臨床への展開. 実験医学 2011 ; 29 (3) : 392-398.
- 19) 瀧澤俊広¹⁾, 石橋 宰¹⁾, 松原茂樹¹⁾, 右田 真²⁾, 竹下俊行 (¹⁾ 日本医大 分子解剖学, ²⁾ 日本医大 小児科学): 胎盤から母体循環に分泌されるエクソソーム胎盤特異的 microRNA の意義と臨床への展開. 実験医学 2011 ; 29 (3) : 392-398.
- (3) 研究報告書 :
 - 1) 竹下俊行, 杉浦真弓, 内田聡子, 奥田美加, 北澤正文, 桑江千鶴子, 小林陽一, 澤倫太郎, 清水幸子, 東館紀子, 間壁さよこ, 宮城悦子, 山田榮子, 吉田幸洋: 次世代を担う男女産婦人科医師キャリアリポート委員会調査結果報告書. 日本産科婦人科学会雑誌 2010 ; 62 (12) : 2515-2529.
- (4) 症例報告 :
 - 1) Abe T, Amano I, Sawa R, Akira S, Nakai A, Takeshita T : Recovery from peripartum cardiomyopathy in a Japanese woman after administration of bromocriptine as a new treatment option. J Nippon Med Sch 2010 ; 77 (4) : 226-230.
 - 2) Miyake H, Igarashi M, Inde Y, Nakai A, Suzuki S, Takeshita T : Is a red umbilical cord a sign of umbilical venous congestion?. J Nippon Med Sch 2011 ; 78 (1) : 42-45.
 - 3) Hiraizumi Y, Kamoi S, Inde Y, Kurose K, Ohkai Y¹⁾, Takeshita T : A case of tumor lysis syndrome following chemotherapy for a uterine epithelioid leiomyosarcoma with focal rhabdomyosarcomatous differentiation. Journal of Obstetrics and Gynaecology Research 2011 ; 16 (10).
 - 4) 峯 克也, 明楽重夫, 近藤幸尋¹⁾, 竹下俊行 (¹⁾ 日本医大泌尿器科学): 腹腔鏡下手術を施行した膀胱子宮内膜症 診断と治療のポイント. 日本医大雑誌 2010 ; 6 (3) : 147-151.
 - 5) 中尾仁彦, 市川智子, 中西一步, 大内 望, 阿部 崇, 五十嵐美和, 峯 克也, 磯崎太一, 澤倫太郎, 米山剛一, 明楽重夫, 竹下俊行: 原発性アルドステロン症合併妊娠の1例. 日産婦東京会誌 2010 ; 59 (3) : 362-364.

著 書

- 1) 明楽重夫: [分担] 流産. 講義録産科婦人科学 (石原 理, 柴原浩章, 三上幹男, 板倉敦夫編), 2010 ; pp320-323, メジカルビュー社.
- 2) 明楽重夫: [分担] 子宮外妊娠 (異所性妊娠). 講義録産科婦人科学 (石原 理, 柴原浩章, 三上幹男, 板倉敦夫編), 2010 ; pp324-327, メジカルビュー社.
- 3) 明楽重夫, 石川 源: [分担] 早期破水・妊娠分娩. 話せる医学英語 (荒木 勤, 田尻 孝, 矢沢珪二郎監修), 2010 ; pp132-150, 金原出版.
- 4) 竹下俊行: [分担] オーバービュー. 総合診療マニュアル (上原譽志夫, 大林完二, 隅谷護人, 益子邦洋, 松岡博明), 2010 ; pp861-865, 金芳堂.
- 5) 澤倫太郎: [分担] 腔周囲の疾患. 総合診療マニュアル (上原譽志夫, 大林完二, 隅谷護人, 益子邦洋, 松岡博明), 2010 ; pp868-870, 金芳堂.
- 6) 黒瀬圭輔, 竹下俊行: [分担] 仙痛 (産科・婦人科領域). 総合診療マニュアル (上原譽志夫, 大林完二, 隅谷護人, 益子邦洋, 松岡博明), 2010 ; pp30-31, 金芳堂.
- 7) 明楽重夫: [分担] 腹腔鏡下手術のセットアップと手術野作成の実際. 産婦人科内視鏡下手術スキルアップ改訂第2版 (日本産科婦人科内視鏡学会編), 2010 ; pp28-38, メジカルビュー社.

- 8) 市川雅男, 明楽重夫: [分担] 腹腔鏡下仙骨陰固定術 (LSC). 産婦人科内視鏡下手術スキルアップ改訂第2版 (日本産科婦人科内視鏡学会編), 2010; pp125-127, メジカルビュー社.
- 9) 明楽重夫: [分担] 卵管妊娠に対する腹腔鏡手術のガイドライン. 産婦人科内視鏡下手術スキルアップ改訂第2版 (日本産科婦人科内視鏡学会編), 2010; pp216-220, メジカルビュー社.

学会発表

(1) 教育講演:

- 1) 明楽重夫: 日本産科婦人科内視鏡学会技術認定制度. 日本内視鏡学会 (第23回), 2010.

(2) シンポジウム:

- 1) 市川雅男, 明楽重夫, 竹下俊行: 産婦人科領域における骨盤臓器脱の治療: 全腹腔鏡下仙骨陰固定術を中心に (骨盤臓器脱手術). 日本外科系連合学会 (第35回), 2010. 6.
- 2) 米山剛一, 関口敦子, 松島 隆, 澤倫太郎, 中井章人, 朝倉啓文, 竹下俊行: 過去25年間に経験した妊産婦死亡例の臨床的検討. 日本周産期・新生児学会 (第46回), 2010. 7.
- 3) 明楽重夫, 市川雅男, 竹下俊行: 骨盤臓器脱に対するダブルメッシュ全腹腔鏡下仙骨陰固定術. 小切開・鏡視外科学会 (第2回), 2010. 9.

(3) パネルディスカッション:

- 1) 明楽重夫: 腹壁吊り上げ法における視野展開のポイント. 日本内視鏡外科学会 (第23回), 2010. 10.

(4) ワークショップ:

- 1) 市川雅男, 中西一步, 大内 望, 岩崎奈央, 三浦 敦, 明楽重夫, 竹下俊行: ダブルメッシュ全腹腔鏡下仙骨陰固定術のポイント (女性骨盤底手術における内視鏡アプローチ). 日本女性骨盤底医学会 (第12回), 2010. 4.
- 2) 中西一步, 市川雅男, 明楽重夫, 竹下俊行: 当科における TVM (Tension-free vaginal mesh) 法の現場と合併症に関する検討 (TVMを中心としたより良い手術をめざして). 日本女性骨盤底医学会 (第12回), 2010. 5.
- 3) 大内 望, 明楽重夫, 洪井庸子, 阿部 崇, 峯 克也, 市川雅男, 富山僚子, 黒瀬圭輔, 竹下俊行: 当科における卵巣チョコレート嚢胞の術後プロトコール: 薬物の投与基準を含めて. 日本エンドメトリオーシス学会 (第32回), 2011. 1.
- 4) 峯 克也, 明楽重夫, 大内 望, 黒瀬圭輔, 近藤幸尋¹⁾, 竹下俊行 (¹⁾ 日本医科大学泌尿器科学教室): 膀胱子宮内膜症を中心とした下部尿路子宮内膜症に対する診断と治療のポイント. エンドメトリオーシス学会 (第31回), 2011. 1.

(5) 一般講演:

- 1) Mine K, Tomiyama R, Kanbe S, Abe T, Ichikawa T, Kuwabara Y, Nishi Y, Akira S, Nariai K¹⁾, Sato K²⁾, Takeshita T (¹⁾ Laboraroy Animal Facilites, jikei University School of Medicine, ²⁾ Bioresource Sciences, Nihon University): Investigation of the appropriate balance of the oxidative/antioxdatve enviroment in ovarian follicles. Congress of th Asia Pacific Initiative on Reproduction (3rd) (Bangkok, thailand), 2010. 4.
- 2) Mine K, Tomiyama R, Kanbe S, Abe T, Ichikawa T, Kuwabara Y, Nishi Y, Akira S, Nariai K¹⁾, Sato K²⁾, Takeshita T (¹⁾ Jikei University School of Medicine, Laboratory Animal Facilities, ²⁾ Nihon University College of Bioresource Sciences): Investigation of the appropriate balance of the oxidative/antioxidative environment in ovarian follicles. Congress of the Asia Pacific Initiative on Reproduction (the 3rd) (Thailand), 2010. 4.
- 3) Kuwabara Y, Katayama A¹⁾, Kaneko R¹⁾, Tomiyama R, Ichikawa T, Abe T, Mine K, Nishi Y, Akira S, Takeshita T (¹⁾ Dept. of Biochemistry and Molecular Biology, Nippon Medical School): Analyses of CCL11 (Eotaxin-1)/CCR3 axis in the mouse ovary during the periovulatory stages. American Society for Reprductive Immunology (30th) (アメリカ), 2010. 5.

- 4) Ichikawa-Inagawa T, Abe T, Mine K, Kuwabara Y, Akira S, Takeshita T : Heparin reduces serum frantylisin leves in women with recurrent miscarriage associated with antiphospholipid syndrome. American Society for Reproductive Immunology (30th) (America), 2010. 5.
- 5) Ichikawa-Inagawa T, Abe T, Mine K, Kuwabara Y, Akira S, Takeshita T : Heparin Reduces Serum Granulysin Levels in Women with Recurrent Miscarriage Associated with Antiphospholipid Syndrome. 30th Annual Meeting of ASRI (Pittsburg, USA), 2010. 5.
- 6) Ishibashi O¹⁾, Shan-Sshun L¹⁾, Ohba T¹⁾, Katabuchi H¹⁾, Takeshita T, Takizawa T¹⁾ : RNA duplexes elicit interferon-independent apoptosis of ovarian granulosa cells via RIG-I in cell type-and length-dependent manner. International Symposium for Immunology of Reproduction (Osaka, Japan), 2010. 8.
- 7) Mase Y, Ishibashi O, Ishikawa G, Kiguchi K, Katabuchi H, Ohba T, Takeshita T, Takizawa T : Identincation of functional mjcroRNAs in human ovarian granulosa cells. International Symposium for Immunology of Reproduction (Osaka, Japan), 2010. 8.
- 8) Negishi Y, Takahashi H, Takeshita T : Kinetics and internal balance of two distinct subsets of murine dendritic cells during pregnancy. International Symposium for Immunology of Reproduction, 2010. 8.
- 9) Iwasaki N, Kamoi S, Igarashi K, Asakura T, Watanabe M, Ohkai Y, Takeshita T : A new approach for fertility-preserving management of cervical ectopic pregnancy. World Congress of International Federation of Fertility Societies (20th), 2010. 9.
- 10) Ichikawa M, Akira S, Takeshita T : Singl-port total laperoscopic hysterectomy with novel and easy access system : initial report anda technique. Asia-Pacific Association for Gynecologic Endoscopy and Minimally Invasive Therapy (Singapore), 2010. 10.
- 11) 富山僚子, 峯 克也, 阿部 崇, 市川智子, 桑原慶充, 西 弥生, 明楽重夫, 竹下俊行 : 顕微授精は受精障害を克服できるか?. 日本産科婦人科学会 (第 62 回) (東京), 2010. 4.
- 12) 中川道子, 深見武彦, 立山尚子, 西田直子, 佐藤杏月, 土居大祐, 可世木久幸, 朝倉啓文, 竹下俊行 : 分娩予知のため, 陣痛までの子宮頸管腺領域像 (CGA) のエコーパターン変化の研究. 日本産科婦人科学会 (第 62 回) (東京), 2010. 4.
- 13) 高屋 茜, 鴨井青龍, 高橋恵理佳, 朝倉禎史, 山田 隆, 五十嵐健治, 石川温子, 石川 源, 渡辺美千明, 岡田 進¹⁾, 竹下俊行 (¹⁾ 日本医大千葉北総病院放射線科) : 鑑別診断を目的として卵巣性索間質性腫瘍の MRI による形態分類の試み. 日本産科婦人科学会 (第 62 回) (東京), 2010. 4.
- 14) 川瀬里衣子, 石渡俊行¹⁾, 内藤善哉¹⁾, 竹下俊行 (¹⁾ 日医大病理学) : FGFR2IIIc は子宮頸癌を増殖させる. 日本産科婦人科学会 (第 62 回) (東京), 2010. 4.
- 15) 市川雅男, 中西一步, 渡邊建一郎, 岩崎奈央, 三浦 敦, 黒瀬圭輔, 明楽重夫, 竹下俊行 : 骨盤臓器脱に対する全腹腔鏡下ダブルメッシュ仙骨陰固定術の実際 (当施設における 23 症例の成績を中心に). 日本産科婦人科学会 (第 62 回) (東京), 2010. 4.
- 16) 深見武彦, 立山尚子, 西田直子, 奥田直貴, 米澤美令, 島田博美, 野口 唯, 土居大祐, 可世木久幸, 朝倉啓文, 竹下俊行 : 早産減少のための重要ポイントは妊娠 24 週未満の切迫流早産対策である. 日本産科婦人科学会 (第 62 回), 2010. 4.
- 17) 瀧澤俊広¹⁾, 石橋 宰¹⁾, 大口昭英²⁾, 泉 章夫²⁾, 石川 源, 間瀬有里, 米山剛一, 朝倉啓文, 松原茂樹²⁾, 竹下俊行 (¹⁾ 日本医大分子解剖, ²⁾ 自治医大) : 妊娠高血圧症候群 (PIH) 胎盤の MicroRNA Array による網羅的解析 : PIH 胎盤では第 19 番染色体上の microRNA クラスターの発現が上昇している. 日本産科婦人科学会 (第 62 回), 2010. 4.
- 18) 倉品隆平, 石橋 宰¹⁾, 間瀬有里, 石川 源, 竹下俊行, 瀧澤俊広¹⁾ (¹⁾ 日本医大分子解剖) : Laser Micro Dissection 法を用いたヒト胎盤特異的 miRNA の定量的局在解析. 日本産科婦人科学会 (第 62 回), 2010. 4.

- 19) 川端伊久乃, 井上裕子¹⁾, 中井晶子, 林 昌子, 三宅秀彦, 大屋敦子, 中井章人, 竹下俊行 (¹⁾ 正裕会井上レディースクリニック): 妊婦スポーツが脈波伝導速度に与える影響. 日本産科婦人科学会 (第 62 回), 2010. 4.
- 20) 高橋恵理佳, 鴨井青龍, 高屋 茜, 朝倉禎史, 山田 隆, 五十嵐健治, 石川 源, 石川温子, 渡辺美千明, 大秋美治¹⁾, 竹下俊行 (¹⁾ 日本医大千葉北総病院): 悪性性索間質性腫瘍 13 例の検討. 日本産科婦人科学会 (第 62 回), 2010. 4.
- 21) 市川智子, 里見操緒, 阿部 崇, 峯 克也, 明楽重夫, 竹下俊行: 化学妊娠を反復する症例は不育症として扱うべきか?. 日本産科婦人科学会 (第 62 回), 2010. 4.
- 22) 澤倫太郎, 峯 克也, 阿部 崇, 大内 望, 市川智子, 三浦 敦, 竹下俊行: 胎児血管特性を応用したアデノシン誘導型 DES の開発. 日本産科婦人科学会 (第 62 回), 2010. 4.
- 23) 八木幸恵, 高橋秀実¹⁾, 竹下俊行 (¹⁾ 日本医大微生物学免疫学教室): 母乳における DC-SIGN を介した HAV-1 の母児感染は, TLR3 のシグナルにより抑制される. 日本産科婦人科学会 (第 62 回), 2010. 4.
- 24) 中井晶子, 三宅秀彦, 川端伊久乃, 桑原知仁, 山岸絵美, 渡邊建一郎, 岩崎奈央, 林 昌子, 大屋敦子, 中井章人, 竹下俊行: 後期切迫流産症例における流産・早期早産に関与する因子の検討. 日本産科婦人科学会 (第 62 回), 2010. 4.
- 25) 米山剛一, 川瀬里衣子, 大屋敦子, 松島 隆, 五十嵐健治, 西田直子, 澤倫太郎, 鴨井青龍, 中井章人, 朝倉啓文, 竹下俊行: 過去 25 年間に経験した妊産婦死亡例の臨床病理学的検討. 日本産科婦人科学会 (第 62 回), 2010. 4.
- 26) 根岸靖幸, 熊谷善博¹⁾, 高橋秀実¹⁾, 竹下俊行 (¹⁾ 日本医大学・微生物免疫学教室): マウス周産期における樹状細胞亜分画の変化. 日本産科婦人科学会 (第 62 回), 2010. 4.
- 27) 松島 隆, 可世木久幸, 平田昌二, 飯田晋也, 佐藤杏月, 坊 裕美, 立山尚子, 西田直子, 深見武彦, 土居大祐, 朝倉啓文, 竹下俊行: 腹腔鏡および腹腔内超音波監視下子宮鏡レーザー手術 (LHME-GLAIS): その有用性と合併症の検討. 日本産科婦人科学会 (第 62 回), 2010. 4.
- 28) 間瀬有里, 石橋 宰¹⁾, 石川 源, 木口一成²⁾, 片瀧秀隆³⁾, 大場 隆³⁾, 竹下俊行, 瀧澤俊広 (¹⁾ 日本医大分子解剖, ²⁾ 聖マリアンナ医大, ³⁾ 熊本大): ヒト卵巣顆粒膜細胞に発現する miRNA の特徴: 次世代シーケンサーを用いた大規模プロファイリング解析. 日本産科婦人科学会 (第 62 回), 2010. 4.
- 29) 印出佑介, 山口 堯¹⁾, 竹内久美, 横田明重¹⁾, 山口 稔, 竹下俊行 (¹⁾ 山口病院): B 群溶血性連鎖球菌に関する周産期スクリーニングの有用性. 日本産科婦人科学会 (第 62 回), 2010. 4.
- 30) 大屋敦子, 川端伊久乃, 林 昌子, 中井晶子, 岩崎奈央, 桑原知仁, 渡邊建一郎, 山岸絵美, 三宅秀彦, 中井章人, 竹下俊行: 胎児の性差は HELLP 症候群の重症度に影響する. 日本産科婦人科学会 (第 62 回), 2010. 4.
- 31) 米澤美令, 里見操緒, 白銀 恵, 山下恵理子, 平泉良枝, 鈴木俊治¹⁾ (¹⁾ 葛飾赤十字産院): 正常分娩のために救急車を要請した妊産婦の背景. 日産婦東京地方部会 (第 354 回), 2010. 5.
- 32) 中尾仁彦, 市川智子, 中西一步, 大内 望, 阿部 崇, 五十嵐美和, 峯 克也, 磯崎太一, 澤倫太郎, 米山剛一, 明楽重夫, 竹下俊行: 原発性アルドステロン症合併妊娠の 1 例. 日産婦東京地方部会 (第 354 回), 2010. 5.
- 33) 山本晃人, 米山剛一, 小野修一, 明楽重夫, 竹下俊行: low-dose FP 療法が著効した外陰 paget 病の 1 例. 日本婦人科腫瘍学会 (第 48 回), 2010. 7.
- 34) 中尾仁彦, 峯 克也, 林 耕三, 市川智子, 山本晃人, 山本陽一郎¹⁾, 三浦 敦, 黒瀬圭輔, 米山剛一, 竹下俊行 (¹⁾ 日本医大第 2 病理): 診断に苦慮しその間に急速に進行した絨毛癌の 1 例. 日本婦人科腫瘍学会 (第 48 回), 2010. 7.
- 35) 高橋恵理佳, 鴨井青龍, 高屋 茜, 朝倉禎史, 山田 隆, 五十嵐健治, 石川温子, 石川 源, 渡辺美千明, 大秋美治¹⁾, 竹下俊行 (¹⁾ 日本医大千葉北総病院病理部): 小児卵巣未熟奇形腫 2 症例の治療についての検討. 日本婦人科腫瘍学会 (第 48 回), 2010. 7.
- 36) 加藤雅彦, 三浦 敦, 小野修一, 高屋 茜, 山本晃人, 五十嵐美和, 市川雅男, 米山剛一, 竹下俊行: 頸部小

- 細胞癌の1例. 日本婦人科腫瘍学会 (第48回), 2010. 7.
- 37) 渡辺建一郎, 鴨井青龍, 高橋恵理佳, 朝倉禎史, 山田 隆, 石川温子, 五十嵐健治, 渡辺美千明, 貝津俊英¹⁾, 岡田 進¹⁾, 竹下俊行 (¹⁾ 日本医大千葉北総病院放射線科): 当科における初回治療に放射線療法, または放射線化学併用療法を行った子宮頸癌の治療経験. 日本婦人科腫瘍学会 (第48回), 2010. 7.
- 38) 米山剛一, 三浦 敦, 加藤雅彦, 山本晃人, 黒瀬圭輔, 原田 大¹⁾, 川本雅司¹⁾, 土屋眞一¹⁾, 竹下俊行 (¹⁾ 日本医大病理部): 卵管原発が疑われたリンパ上皮腫様癌. 日本婦人科腫瘍学会 (第48回), 2010. 7.
- 39) 中山裕樹¹⁾, 加藤久盛¹⁾, 小野瀬亮¹⁾, 川瀬里衣子, 長谷川哲哉¹⁾, 塚田ひとみ¹⁾, 近内勝幸¹⁾, 堀 祐子¹⁾ (¹⁾ 神奈川立がんセンター): 婦人科悪性腫瘍に対する化学療法での過敏性反応. 日本婦人科腫瘍学会 (第48回), 2010. 7.
- 40) 田村俊之, 市川智子, 神戸沙織, 阿部 崇, 峯 克也, 澤倫太郎, 竹下俊行: 産褥期に診断されたサイトメガトウイルス感染症の1例. 日本周産期・新生児医学会 (第46回), 2010. 7.
- 41) 川端伊久乃, 三宅秀彦, 林 昌子, 中井晶子, 奥田直貴, 印出佑介, 中井章人, 竹下俊行: 妊娠22週で発症した脳動脈瘤破裂妊婦の1例. 日本周産期・新生児医学会 (第46回), 2010. 7.
- 42) 阿部 崇, 小野修一, 渋井庸子, 市川智子, 富山僚子, 峯 克也, 西 弥生, 桑原慶充, 明楽重夫, 竹下俊行: 排卵誘発剤にみた採卵予定日の検討. 日本受精着床学会 (第28回), 2010. 7.
- 43) 三浦 敦, 峯 克也, 市川雅男, 黒瀬圭輔, 明楽重夫, 竹下俊行: 腹腔鏡手術で治療し得た卵巢妊娠の4症例. 日本産科婦人科内視鏡学会 (第50回), 2010. 7.
- 44) 大内 望, 明楽重夫, 峯 克也, 市川雅男, 黒瀬圭輔, 竹下俊行: 腹腔鏡下チョコレート嚢胞摘出術の術後薬物治療と再発についての検討. 日本産科婦人科内視鏡学会 (第50回), 2010. 7.
- 45) 峯 克也, 明楽重夫, 大内 望, 市川雅男, 黒瀬圭輔, 竹下俊行: 深部子宮内膜症に対する腹腔鏡下手術: ダグラス窩開放の工夫. 日本産科婦人科内視鏡学会 (第50回), 2010. 7.
- 46) 黒瀬圭輔, 大内 望, 市川智子, 峯 克也, 市川雅男, 明楽重夫, 竹下俊行: 当科における単孔式腹腔鏡下手術の導入と現況. 日本産科婦人科内視鏡学会 (第50回), 2010. 7.
- 47) 市川雅男, 大内 望, 峯 克也, 黒瀬圭輔, 明楽重夫, 竹下俊行: 単孔式 TLH. 日本産科婦人科内視鏡学会, 2010. 7.
- 48) 市川智子, 阿部 崇, 峯 克也, 市川雅男, 明楽重夫, 竹下俊行: 中隔子宮に対する鏡視下手術症例の検討. 日本産科婦人科内視鏡学会, 2010. 7.
- 49) 市川雅男, 大内 望, 峯 克也, 黒瀬圭輔, 明楽重夫, 竹下俊行: ダブルメッシュ全腹腔鏡下仙骨腔固定術. 日本産科婦人科内視鏡学会, 2010. 7.
- 50) 桑原慶充: 標的治療の開発を目指した, 卵巢ステロイド依存性疾患関連分子の固定および解析. 日本医科大学医学会 (第78回), 2010. 9.
- 51) 尾崎景子, 山本晃人, 峯 克也, 明楽重夫, 鴨井青龍, 竹下俊行, 川本雅司¹⁾ (¹⁾ 付属病院病理部): 後腹膜に発生した子宮内膜症性嚢胞の3症例. 日本医大医学会 (第78回), 2010. 9.
- 52) 市川智子, 阿部 崇, 大内 望, 峯 克也, 市川雅男, 明楽重夫, 竹下俊行: 低侵襲を目指した中隔子宮手術の検討. 小切開・鏡視外科学会 (第2回), 2010. 9.
- 53) 三浦 敦, 倉品隆平, 明楽重夫, 竹下俊行: 妊娠中の卵巢嚢腫における腹壁吊り上げ法腹腔鏡下手術の周術期・周産期予後の検討. 小切開・鏡視外科学会 (第2回), 2010. 9.
- 54) 高屋 茜, 三浦 敦, 新村裕樹, 米山剛一, 明楽重夫, 竹下俊行: 嚢胞状の外観を呈し卵巢原発悪性腫瘍との鑑別が困難であった子宮平滑筋肉種の1例. 日産婦東京地方部会 (第355回), 2010. 9.
- 55) 田中智子¹⁾, 若麻績佳樹¹⁾, 井上大地¹⁾, 亀山信彦¹⁾, 荒木 勤¹⁾, 黒瀬圭輔 (¹⁾ 東京リバーサイド病院): 当科における腹腔鏡手術の検討. 日産婦東京地方部会 (第355回), 2010. 9.
- 56) 小野修一, 田村俊之, 神戸沙織, 渋井庸子, 阿部 崇, 五十嵐美和, 磯崎太一, 米山剛一, 明楽重夫, 竹下俊行:

- 大量出血を来した既往帝切癒着胎盤の1例. 日本胎盤学会 (第18回), 2010. 9.
- 57) 石橋 宰¹⁾, アリモハメド¹⁾, 石川 源, 大口昭英²⁾, 泉 章夫²⁾, 松原茂樹²⁾, 米山剛一, 朝倉啓文, 竹下俊行, 瀧澤俊広¹⁾ (¹⁾ 日本医大 分子解剖学, ²⁾ 自治医科大学産婦人科): 妊娠高血圧症候群に関連するマイクロRNAの同定とその標的遺伝子. 日本胎盤学会 (第18回), 2010. 9.
- 58) 市川雅男, 大内 望, 峯 克也, 黒瀬圭輔, 明楽重夫, 竹下俊行: 骨盤臓器脱に対する腹腔鏡下手術-前腹腔鏡下仙骨腔固定術を中心に. 日本内視鏡外科学会 (第23回), 2010. 10.
- 59) 市川雅男, 大内 望, 峯 克也, 黒瀬圭輔, 明楽重夫, 竹下俊行: 当科における単孔式TLH手術の工夫. 日本内視鏡外科学会 (第23回), 2010. 10.
- 60) 峯 克也, 明楽重夫, 大内 望, 市川雅男, 黒瀬圭輔, 竹下俊行: 腹腔鏡手術における深部子宮内膜症ダグラス窩開放の工夫. 日本内視鏡外科学会 (第23回), 2010. 10.
- 61) 小野修一, 峯 克也, 阿部 崇, 富山僚子, 神戸沙織, 洪井庸子, 市川智子, 桑原慶充, 明楽重夫, 竹下俊行: ホルモン補充周期における移植当日プロゲステロン迅速評価の有用性. 日本生殖医学会 (第55回), 2010. 11.
- 62) 阿部 崇, 市川智子, 神戸沙織, 洪井庸子, 小野修一, 富山僚子, 峯 克也, 桑原慶充, 明楽重夫, 竹下俊行: 低侵襲を目指した子宮中隔手術の検討. 日本生殖医学会 (第55回), 2010. 11.
- 63) 桑原慶充, 富山僚子, 神戸沙織, 小野修一, 洪井庸子, 市川智子, 阿部 崇, 峯 克也, 西 弥生, 明楽重夫, 竹下俊行: 周排卵期のマウス卵巣における, CCL11 (Eotaxin I)/CCR3の発現調節及び機能解析. 日本生殖医学会 (第55回), 2010. 11.
- 64) 市川智子, 阿部 崇, 神戸沙織, 小野修一, 洪井庸子, 富山僚子, 峯 克也, 桑原慶充, 西 弥生, 明楽重夫, 竹下俊行: 不育症における血性グラニューライシン値と抗リン脂質抗体陽性率について. 日本生殖医学会 (第55回), 2010. 11.
- 65) 神戸沙織, 市川智子, 峯 克也, 小野修一, 洪井庸子, 阿部 崇, 富山僚子, 桑原慶充, 明楽重夫, 竹下俊行: 不育症外来における化学妊娠反復例の臨床的検討. 日本生殖医学会 (第55回), 2010. 11.
- 66) 峯 克也, 神戸沙織, 小野修一, 洪井庸子, 市川智子, 阿部 崇, 富山僚子, 桑原慶充, 西 弥生, 明楽重夫, 竹下俊行: 生殖年齢における子宮内膜増殖症・子宮体癌: 細胞診は有用か?. 日本生殖医学会 (第55回), 2010. 11.
- 67) 洪井庸子, 峯 克也, 阿部 崇, 五十嵐美和, 小野修一, 尾崎景子, 桑原慶充, 磯崎太一, 澤倫太郎, 竹下俊行: 妊娠中に診断された筋強直性ジストロフィー合併妊娠の1例. 日産婦東京地方部会 (第356回), 2010. 12.
- 68) 加藤雅彦, 関根仁樹¹⁾, 船倉 翠¹⁾, 永野玲子¹⁾, 星野裕子¹⁾, 武内 務¹⁾, 品川寿弥¹⁾, 深田幸仁¹⁾, 林 瑞成¹⁾ (¹⁾ 都立墨東病院周産期センター): 妊娠21週に常位胎盤早期剥離を発症した原発性アルドステロン症の1例. 日産婦東京地方部会 (第356回), 2010. 12.
- 69) 平泉良枝, 里見操緒, 菊池美美, 米澤美令, 中井晶子, 鈴木俊治¹⁾ (¹⁾ 葛飾赤十字産院): 当院で妊娠管理中に発症した双胎間輸血症候群の15例の検討. 日産婦東京地方部会 (第356回), 2010. 12.
- 70) 峯 克也, 明楽重夫, 大内 望, 市川雅男, 黒瀬圭輔, 竹下俊行: 深部子宮内膜症に対する腹腔鏡下アプローチの工夫. 日本エンドメトリオーシス学会 (第32回), 2011. 1.
- 71) 尾崎景子, 山本晃人, 峯 克也, 米山剛一, 明楽重夫, 竹下俊行, 川本雅司¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院病理部): 後腹膜腔原発子宮内膜症性嚢胞の1症例. 日本エンドメトリオーシス学会 (第32回), 2011. 1.
- 72) 尾崎景子, 五十嵐美和, 小野修一, 阿部 崇, 桑原慶充, 澤倫太郎, 明楽重夫, 竹下俊行: 妊娠17週で急性壊疽性虫垂炎を発症し流産に至った1例. 日産婦東京地方部会 (第357回), 2011. 2.
- 73) 中井晶子, 里見操緒, 菊池美美, 米澤美令, 平泉良枝, 鈴木俊治¹⁾ (¹⁾ 葛飾赤十字産院): 当院における合併症を認めない単一臍帯動脈 (Isolated SUA) 症例の検討. 日産婦東京地方部会 (第357回), 2011. 2.
- 74) 小野修一, 神戸沙織, 洪井庸子, 阿部 崇, 市川智子, 富山僚子, 峯 克也, 西 弥生, 桑原慶充, 黒瀬圭輔, 明楽重夫, 竹下俊行: 不育症外来における子宮形態検査としての3D超音波の有用性. 日本生殖医学会関東地

方部会（第143回），2011. 2.

- 75) 田中智子¹⁾，小松由佳¹⁾，亀山信彦¹⁾，若麻績佳樹¹⁾，荒木 勤¹⁾，明楽重夫，黒瀬圭輔¹⁾（東京リバーサイド病院産婦人科）：腹腔鏡手術の最適入院療養期間の検討. 日本生殖医学会関東地方部会（第143回），2011. 2.
- 76) 西 弥生，中川浩次¹⁾，杉山里英¹⁾，壽圓裕康¹⁾，金城 洋¹⁾，許山浩司²⁾，栗林 靖¹⁾，明楽重夫，杉山力一¹⁾，井上正人¹⁾（¹⁾ 杉山産婦人科生殖医療科，²⁾ 田園都市レディースクリニック）：当科における GIFT/ZIFT の現状とその成績. 日本生殖医学会関東連合（第143回），2011. 3.

[武蔵小杉病院女性診療科・産科]

研究概要

1. 超音波画像診断 1) 子宮頸管画像と早産に関する研究 2) 子宮頸管画像と生化学マーカーの関連及び妊娠後に
後に関する研究
2. 産婦人科内視鏡学 新しい内視鏡治療器具の開発や内視鏡手術による卵管通水と子宮内膜症と不妊症の関連研
究などが行われている
3. 婦人科腫瘍 1) 子宮頸癌健診における日母分類の改定や HPV との関連についての研究 2) 卵巣癌における
抗がん剤の効果および副作用の研究

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Ryuhei K, Hiromi S, Takashi M, Daisuke D, Hirobumi A, Toshiyuki T : Spontaneous Uterine Perforation Due to Clostridial Gas Gangrene Associated with Endometrial Carcinoma. J Nippon Med Sch 2010 ; 77 (3) : 166-169.
- 2) 野口 唯，島田博美，間瀬有里，深見武彦，松島 隆，土居大祐，可世木久幸，朝倉啓文，竹下俊行：常位胎盤早期剥離を伴った血栓性血小板減少性紫斑病（TTP）/溶血性尿毒症症候群（HUS）. 日本妊娠高血圧学会雑誌 2010 ; 18 : 164-165.
- 3) 米澤美令，深見武彦，野口 唯，島田博美，佐藤杏月，倉品隆平，坊 裕美，奥田直貴，立山尚子，松島 隆，土居大祐，可世木久幸，朝倉啓文：経陰超音波および MRI 画像により子宮角部妊娠と診断し MTX 療法が奏功した1例. 日本産科婦人科関東連合地方部会雑誌 2010 ; 47 : 469-473.
- 4) 杉浦 賢¹⁾，土居大祐¹⁾，林 康子¹⁾，中山裕樹¹⁾，その他15名（¹⁾ 神奈川県産科婦人科医会婦人科悪性腫瘍対策部）：平成21年度神奈川県産科婦人科医会婦人科悪性腫瘍登録集計報告. 日本産科婦人科学会神奈川地方部会誌 2011 ; 47 (2) : 67-70.
- 5) 松島 隆，菊谷真理子，朝倉啓文：乳腺炎. 産婦人科の実際 2011 ; 60 (3) : 337-342.

(2) 総説：

- 1) 米山剛一¹⁾，関口敦子³⁾，松島 隆⁴⁾，澤倫太郎²⁾，中井章人³⁾，朝倉啓文⁴⁾，竹下俊行²⁾（¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院女性診療科・産科，²⁾ 日本医科大学付属病院女性診療科・産科，³⁾ 日本医科大学多摩永山病院女性診療科・産科，⁴⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院女性診療科・産科）：過去25年間に経験した妊産婦死亡例の臨床的検討. 日本周産期・新生児医学会雑誌 2010 ; 46 (4) : 1012-1014.
- 2) 朝倉啓文：帝王切開の増加と対策. 日本医師会雑誌 2010 ; 139 (10) : 2105-2109.
- 3) 可世木久幸：神奈川産婦人科内視鏡研究会：この1年の歩み(2010年度). 日産婦神奈川地方会誌 2010 ; 47(1) : 35-35.
- 4) 石橋 宰¹⁾，間瀬有里²⁾，瀧澤敬美¹⁾，米山剛一²⁾，朝倉啓文²⁾，松原茂樹¹⁾，竹下俊行²⁾，瀧澤俊広¹⁾（¹⁾ 日本医

科大学分子解剖, ²⁾ 日本医科大学女性診療科・産科) : 女性生殖器 (子宮, 卵巣) におけるマイクロ RNA. 産婦実際 2010 ; 59 (10) : 1551-1555.

5) 深見武彦, 朝倉啓文 : 切迫流早産. 産婦実際 2010 ; 59 (11) : 1781-1786.

6) 石橋 宰¹⁾, 羅 全順¹⁾, 石川明子¹⁾, 小菅拓治¹⁾, 倉品隆平²⁾, 石川 源²⁾, 朝倉啓文²⁾, 泉 章夫¹⁾, 大口照英¹⁾, 松原茂樹¹⁾, 竹下俊行²⁾, 瀧澤俊広¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学分子解剖, ²⁾ 日本医科大学女性診療科・産科) : 女性生殖器 (胎盤) におけるマイクロ RNA. 産婦実際 2010 ; 59 (12) : 2077-2083.

(3) 症例報告 :

1) Nara S¹⁾, Murakami M¹⁾, Oki K¹⁾, Kaseki H²⁾, Matsusima T²⁾, Hyakusoku H¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学形成外科, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院女性診療科・産科) : Preoperative Administration of Planovar in Two Cases of Abdominal wall Endometriosis after Cesarean Section. J Nippon Med Sch 2010 ; 77 (5) : 260-264.

2) Nara S^{1, 2)}, Murakami M^{1, 2)}, Oki K^{1, 2)}, Kaseki H, Matsushima T, Hyakusoku H^{1, 2)} (¹⁾ Department of Plastic Reconstructive and Regenerative Surgery, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital) : Preoperative Administration of Planovar in two cases of Abdominal Wall Endometriosis after Cesarean Section. J Nippon Med Sch 2010 ; 77 (5) : 260-264.

著 書

1) 土居大祐 : [分担] 子宮関連の疾患. 総合診療マニュアル (上原興志夫, 大林完二, 隅谷護人, 益子邦洋, 松岡博昭), 2010 ; pp870-872, 金芳堂.

2) 朝倉啓文, 土居大祐 : [自著] 性器からの出血. 総合診療マニュアル (上原誉志夫, 大林完二, 隅谷護人, 益子邦洋, 松岡博昭), 2010 ; p129, 金芳堂.

3) 朝倉啓文 : [自著] 弛緩出血, 子宮復古不全. 今日の治療指針 (山口徹, 北原光夫, 福井次矢.), 2011 ; p1124, 医学書院.

学会発表

(1) 特別講演 :

1) 可世木久幸 : 睡眠導入剤アップデート : メラトニン関連情報. 座間・綾瀬・海老名産婦人科医会学術講演会 (厚木市), 2010. 7.

2) 朝倉啓文 : 早産リスクと子宮頸管超音波所見. 早産のリスク因子について : 子宮頸管の超音波所見を中心に. 海老名・綾瀬・座間産婦人科医会勉強会, 2010.

3) 朝倉啓文 : 早産リスクと子宮頸管の超音波所見. 第20回湘南研修会, 2010.

(2) 招待講演 :

1) Kaseki H : Is circulating DHEAS level as an aging marker?. Scientific Meeting of the Asia Pasific Menopause Federation (第4回) (Sidney), 2010. 9.

2) 土居大祐 : 子宮頸癌の知識と予防. 平成22年度県立学校保健会川崎地区支部総会及び講演会, 2010. 7.

(3) 教育講演 :

1) 松島 隆 : 前置胎盤 : 帝王切開時の出血量予測. 第74回神奈川県周産期救急連絡会, 2010. 6.

(4) シンポジウム :

1) 米山剛一, 大屋敦子, 松島 隆, 澤倫太郎, 中井章人, 朝倉啓文, 竹下俊行 : 過去25年間に経験した妊産婦死亡例臨床的検討. 第46回日本周産期・新生児医学会, 2010. 7.

(5) 一般講演 :

1) 間瀬有里¹⁾, 石橋 宰²⁾, 石川 源¹⁾, 木口一成³⁾, 片瀨秀隆⁴⁾, 大場 隆⁴⁾, 竹下俊行¹⁾, 瀧澤俊広²⁾ (¹⁾ 日本医

- 科大学女性診療科・産科,²⁾ 日本医科大学分子解剖,³⁾ 聖マリアンナ医科大学産婦人科,⁴⁾ 熊本大学産婦人科): ヒト卵巣顆粒膜細胞に発現する miRNA の特徴: 次世代シーケンサーを用いた大規模プロファイリング解析. 第 62 回日本産科婦人科学会学術講演会, 2010. 4.
- 2) Kurose K, Yamamoto A, Miura A, Doi D, Yoneyama K, Kamoi S, Takeshita T: Clinicopathological Analysis of Ovarian Cancer Arising from Endometriosis. 13th Biennial Meeting of the International Gynecologic Cancer Society-IGCS 2010 (Cesko), 2010. 10.
 - 3) Doi D, Tateyama N, Nishida N, Nakagawa M, Bou Y, Fukami T, Matsusima T, Asakura H, Takeshita T: Differentiation Between Benign and Malignant Ovarian Tumors During Pregnancy. 13th Biennial Meeting of the International Gynecologic Cancer Society-IGCS 2010 (Cesko), 2010. 10.
 - 4) Yoneyama K, Konishi H, Yahata T, Fujita K, Doi D, Honma S, Kodama S, Katoh H, Nakayama H, Kurose K, Aoki Y, Asakura H, Tanaka K, Takeshita T: Long Term Follow-up of Advanced Ovarian Cancer Patients Treated with Biweekly Paclitaxel/Carboplatin (TC) Combination Chemotherapy. 13th Biennial Meeting of the International Gynecologic Cancer Society-IGCS 2010 (Cesko), 2010. 10.
 - 5) 米山剛一, 川瀬里衣子, 大屋敦子, 松島 隆, 五十嵐健治, 西田直子, 澤倫太郎, 鴨居青龍, 中井章人, 朝倉啓文: 過去 25 年間に経験した妊婦死亡例の臨床病理学的検討. 第 62 回日本産科婦人科学会学術講演会, 2010. 4.
 - 6) 松島 隆, 可世木久幸, 平田昌二, 飯田晋也, 佐藤杏月, 坊 裕美, 立山尚子, 西田直子, 深見武彦, 土居大祐, 朝倉啓文, 竹下俊行: 腹腔鏡および腹腔内超音波監視下子宮鏡レーザー手術 (LHME-GLAIS): その有用性と合併症の検討. 第 62 回日本産科婦人科学会学術講演会, 2010. 4.
 - 7) 中川道子, 深見武彦, 立山尚子, 西田直子, 佐藤杏月, 土居大祐, 可世木久幸, 朝倉啓文, 竹下俊行: 分娩予知のため陣痛までの子宮頸管腺領域像 (CGA) のエコーパターン変化の研究. 第 62 回日本産科婦人科学会学術講演会, 2010. 4.
 - 8) 深見武彦, 立山尚子, 西田直子, 奥田直貴, 米澤美令, 島田博美, 野口 唯, 土居大祐, 可世木久幸, 朝倉啓文, 竹下俊行: 早産減少のための重要ポイントは妊娠 24 週未満の切迫早産対策である. 第 62 回日本産科婦人科学会学術講演会, 2010. 4.
 - 9) 大槻克文¹⁾, 川端伊久乃¹⁾, 深見武彦¹⁾, 中井章人¹⁾, その他 27 名 (¹⁾ 日本早産予防研究会): 子宮頸管長短縮症例の臨床所見及び治療の予後への関与に関する他私設共同研究. 第 62 回日本産科婦人科学会学術講演会, 2010. 4.
 - 10) 瀧澤俊広¹⁾, 石橋 宰¹⁾, 大口昭英³⁾, 泉 章夫³⁾, 石川 源²⁾, 間瀬有里²⁾, 米山剛一²⁾, 朝倉啓文²⁾, 松原茂樹³⁾, 竹下俊行²⁾ (¹⁾ 日本医大分子解剖, ²⁾ 日本医大, ³⁾ 自治医大): 妊娠高血圧症候群 (PIH) 胎盤の MicroRNA Array による網羅的解析: PIH 胎盤では第 19 番染色体対上の microRNA クラスターの発現が上昇している. 第 62 回日本産科婦人科学会学術講演会, 2010. 4.
 - 11) 倉品隆平¹⁾, 石橋 宰²⁾, 間瀬有里¹⁾, 石川 源¹⁾, 竹下俊行¹⁾, 瀧澤俊広²⁾ (¹⁾ 日本医科大学女性診療科・産科, ²⁾ 日本医科大学分子解剖): Laser Micro Dissection 法を用いたヒト胎盤特異的 miRNA の定量的局在解析. 第 62 回日本産科婦人科学会学術講演会, 2010. 4.
 - 12) 野口 唯, 松島 隆, 深見武彦, 島田博美, 米澤美令, 佐藤杏月, 中川道子, 立山尚子, 西田直子, 土居大祐, 可世木久幸, 朝倉啓文: 皮膚子宮内膜症の 3 例. 第 119 回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会・学術集会, 2010. 6.
 - 13) 島田博美, 間瀬有里, 佐藤杏月, 中川道子, 坊 裕美, 立山尚子, 西田直子, 深見武彦, 松島 隆, 土居大祐, 可世木久幸, 朝倉啓文: 常位胎盤早期剥離に血栓性血小板減少性紫斑病 (TTP)/溶血性尿毒症症候群 (HUS) を合併した 1 例. 第 119 回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会・学術集会, 2010. 6.
 - 14) 野口 唯, 松島 隆, 島田博美, 朝倉啓文: 常位胎盤早期剥離に TTP/HUS を合併した 1 例. 第 35 回分娩監

視研究会, 2010. 6.

- 15) 島田博美, 松島 隆, 野口 唯, 中川道子, 森 瑛子, 坊 裕美, 立山尚子, 西田直子, 深見武彦, 土居大祐, 可世木久幸, 朝倉啓文: 過多月経を主訴に緊急入院した atypical polypoid adenomyoma の 1 例. 第 390 回日本産科婦人科学会神奈川地方部会, 2010. 7.
- 16) 杉浦 賢, 雨宮 清, 小野瀬亮, 角田新平, 小林陽一, 小山秀樹, 木挽貢慈, 茂田博行, 土居大祐, 林 康子, 林 玲子, 平澤 猛, 宮城悦子, 横山和彦, 中山正樹, その他 2 名: 平成 21 年度神奈川県産科婦人科医会婦人科悪性腫瘍登録集計報告. 第 390 回日本産科婦人科学会神奈川地方部会, 2010. 7.
- 17) 野口 唯, 立山尚子, 森 瑛子, 小西真理世, 中川道子, 松村好克, 坊 裕美, 西田直子, 深見武彦, 松島 隆, 土居大祐, 可世木久幸, 朝倉啓文: 産褥期に発症した卵巣静脈血栓症の 1 例. 第 391 回日本産科婦人科学会神奈川地方部会平成 22 年度神奈川県母体保護法指定医師研修会, 2010. 9.
- 18) 中川道子, 佐藤杏月, 西田直子, 立山尚子, 坊 裕美, 深見武彦, 松島 隆, 土居大祐, 朝倉啓文, 竹下俊行: 急速な経過をたどり治療困難であった進行癌の 3 例. 第 48 回日本癌治療学会学術集会, 2010. 10.
- 19) 野口 唯, 島田博美, 間瀬有里, 深見武彦, 松島 隆, 土居大祐, 可世木久幸, 朝倉啓文, 竹下俊行: 常位胎盤早期剥離を伴った血栓性血小板減少性紫斑病(TTP)/血性尿毒症症候群(HUS). 第 31 回日本妊娠高血圧学会, 2010. 10.
- 20) 丸山智美, 佐藤杏月, 森 英子, 坊 裕美, 深見武彦, 松島 隆, 朝倉啓文, 可世木久幸⁽¹⁾ 金譲学院大学生生活環境学部食環境栄養学科): 血中 DHEAS レベルは加齢マーカーになり得るか?. 日本更年期医学会学術集会(第 25 回)(鹿児島), 2010. 10.
- 21) 丸山智美¹⁾, 細井延行²⁾, 可世木久幸⁽¹⁾ 金城学院大学生生活環境学部食環境栄養学科, ²⁾ 名鉄病院 産婦人科): 更年期世代女性におけるソーシャルキャピタルと食意識の関係. 日本更年期医学会学術集会(第 25 回)(鹿児島), 2010. 10.
- 22) 小西真理世, 土居大祐, 立山尚子, 中川道子, 森 瑛子, 野口 唯, 坊 裕美, 松村好克, 西田直子, 深見武彦, 松島 隆, 可世木久幸, 朝倉啓文: 子宮内膜細胞診にて発見できた微小卵管癌の 1 例. 第 392 回日本産科婦人科学会神奈川地方部会, 2010. 11.
- 23) 森 瑛子, 中川道子, 土居大祐, 野口 唯, 小西真理世, 松村好克, 坊 裕美, 立山尚子, 西田直子, 深見武彦, 松島 隆, 可世木久幸, 朝倉啓文: 臍部腫瘍にて発見された子宮体癌の 1 例. 第 120 回関東日本産科婦人科学会関東地方部会, 2010. 11.
- 24) 可世木久幸: 神奈川県産科婦人科医会・異常分娩先天異常対策部会及び不妊・周産期医療施設懇話小委員会の取り組み. 神奈川県母性衛生学会学術集会(第 24 回)(横浜), 2011. 2.

[多摩永山病院女性診療科・産科]

研究概要

本年度の当教室の研究内容は以下の如くである。

(1) 妊婦とスポーツ: 妊婦スポーツの安全性や効果について, 身体的及び精神的側面から幅広く研究を行っている。身体面では, 活性酸素や抗酸化物質の測定によるトレーニング効果の評価や超音波パルスドプラ, 脈波伝導速度を用いた運動中の母児の血行動態変化, 心機能評価をはじめ, スポーツが妊娠, 分娩に与える影響・予後を広範囲に調査している。産褥期の子宮復古, 母乳栄養確立, 母胎の睡眠障害や妊娠中のマイナートラブルに与える影響などについて, 興味深い成績をあげている。

(2) 周産期領域: 臨床面では, 妊娠高血圧症候群・子宮内胎児発育不全に対し, 超音波断層法・生化学検査などを用いその病態生理の解明を行っている。超音波断層法による母胎腎・肝臓の観察では新たな視点から, 妊娠高血圧症候群, 胎児心拍数図の解析に対し有益なデータが集積しつつある。切迫早産に腔内洗浄治療・黄体ホルモン投与など

の治療を行い早産の予防効果を上げている。また、胎児・新生児低酸素脳症に関する動物実験を行い、脳内のエネルギー代謝やミトコンドリア機能と虚血灌流傷害の関係を検討している。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Hayashi M, Oya A, Miyake H, Nakai A, Takeshita T: Effect of urinary trypsin inhibitor on preterm labor with high granulocyte elastase concentration in cervical secretions. J Nippon Med Sch 2010;77 (2):80-85.
- 2) Kawabata I, Nagase A, Oya A, Hayashi M, Miyake H, Nakai A, Takeshita T: Factors influencing the accuracy of digital examination for determining fetal head position during the first stage of labor. J Nippon Med Sch 2010;77 (6):290-295.
- 3) Miyake H^{1,2)}, Iwasaki N¹⁾, Nakai A¹⁾, Suzuki S²⁾, Takeshita T¹⁾ (1) Division of reproductive medicine perinatology and gynecologic oncology, graduate school of medicine, Nippon Medical School, 2) Department of obstetrics and gynecology, Japanese Red Cross Katsushika Maternity Hospital, Tokyo): The influence of assisted reproductive technology on women with pregnancy-induced hypertension: A retrospective study at a Japanese regional perinatal center. J Nippon Med Sch 2010;77 (6):312-317.
- 4) Nakai A: Characteristics of pregnant Japanese women who required hospitalization for treatment of pandemic (H1N1) 2009 - low mortality rate may be due to early antiviral use. J Infect 2011;62 (1):232-233.
- 5) Miyake H^{1,2)}, Igarashi M^{1,2)}, Inde Y¹⁾, Nakai A¹⁾, Suzuki S²⁾, Takeshita T¹⁾ (1) Division of Reproductive Medicine, Perinatology and Gynecologic Oncology, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, 2) Department of obstetrics and gynecology, Japanese Red Cross Katsushika Maternity Hospital, Tokyo): Is a red umbilical cord a sign of umbilical venous congestion?: A case report. J Nippon Med Sch 2011;78(1):42-45.
- 6) 中井章人：新たな妊婦健診体制の構築に向けて；母子健康手帳の改訂と妊婦健診体制の充実を図るために；第50回日本母性衛生学会学術集会シンポジウム（2）より；妊婦健康診査の問題；未受診妊婦の現状をふまえて。母性衛生 2010；51（1）：59-66.
- 7) 落合和彦¹⁾，中井章人：妊娠中のスポーツ活動。日本臨床スポーツ医学会誌 2010；18（2）：202-202.
- 8) 三宅秀彦，川端伊久乃，中井章人：妊婦スポーツの安全管理基準。日本臨床スポーツ医学会誌 2010；18（2）：216-218.
- 9) 岩崎奈央，三宅秀彦，山岸絵美，桑原知仁，中井晶子，林 昌子，奥田直貴，川端伊久乃，大屋敦子，中井章人：化学妊娠に合併した子宮仮性動脈瘤の1例。日産婦東京会誌 2010；59（2）：192-195.
- 10) 中井章人：特別企画：2010日本臨床スポーツ医学会学術委員会公開シンポジウム：中高年女性の健康スポーツ（1）；高脂血症（脂質異常症）とスポーツ。臨床スポーツ医学 2010；27（7）：766-772.
- 11) 川端伊久乃，桑原知仁，山岸絵美，中井晶子，林 昌子，奥田直貴，三宅秀彦，大屋敦子，中井章人：帝王切開術中にアナフィラキシーショックをきたした1例。日産婦東京会誌 2010；59（3）：321-324.
- 12) 印出佑介^{1,2)}，荒巻東香³⁾，柴田文香³⁾，濱田由美³⁾，廣畑早記子³⁾，山崎綾子³⁾，北川みほ³⁾，山下恵理子²⁾，平泉良枝²⁾，里見操緒²⁾，鈴木俊治²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院女性診療科・産科，2) 葛飾赤十字産院産婦人科，3) 葛飾赤十字産院看護部)：ローリスク妊産婦における分娩第二期の分娩体位と直接介助者の助産技術が短期周産期予後に与える影響。周産期医学 2010；40（11）：1670-1676.
- 13) 中井章人：ワークショップ3：「妊婦健診体制を再考する」；セミオープンシステムに期待するもの。日本周産期・新生児学会雑誌 2010；46（4）：1157-1159.
- 14) 桑原知仁，林 昌子，中西一步，山岸絵美，印出佑介，奥田直貴，川端伊久乃，三宅秀彦，大屋敦子，中井章人：

分娩中に突然の激痛をきたし常位胎盤早期剥離との鑑別を要した卵巣嚢腫茎捻転の1例. 日産婦東京会誌 2010; 59 (4) : 541-545.

- 15) 山岸絵美, 三宅秀彦, 中井晶子¹⁾, 桑原知仁, 林 昌子, 川端伊久乃, 大屋敦子, 中井章人, 竹下俊行 (¹⁾ 葛飾赤十字産院) : 分娩時高血圧を来した褐色細胞腫合併妊娠の1例. 妊高誌 2010; 18 : 197-198.
- 16) 米山剛一¹⁾, 関口敦子, 松島 隆³⁾, 澤倫太郎²⁾, 中井章人, 朝倉啓文³⁾, 竹下俊行²⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院女性診療科・産科, ²⁾ 日本医科大学付属病院女性診療科・産科, ³⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院女性診療科・産科) : シンポジウム4「母体救命救急の限界」; 過去25年間に経験した妊婦死亡例の臨床的検討. 日本周産期・新生児学会雑誌 2010; 46 (4) : 1012-1014.
- 17) 中井章人: 妊婦とスポーツ. 東京母性衛生学会誌 2011; 27 (Suppl.2) : 15-19.

(2) 総説:

- 1) 三宅秀彦, 竹下俊行: 産婦人科検査マニュアル; I. 一般検査; 4. 血液型・不規則抗体. 産科と婦人科 2010; 77 (増刊) : 28-32.
- 2) 三宅秀彦: 特集; 産婦人科救急のすべて; C. 産科救急の診療; 常位胎盤早期剥離. 産婦人科治療 2010; 100 (増刊) : 689-694.
- 3) 三宅秀彦, 中井章人: 特集; これを読めばすべてわかる最新の産婦人科超音波診断; 産科における超音波診断; 妊娠中・後期; IV. 子宮と母胎血管の超音波検査1; 子宮動脈の血流計測とその意義. 臨床婦人科産科 2010; 64 (増刊) : 722-727.
- 4) 山岸絵美, 印出祐介, 中井章人: 特集; 周産期救急疾患への対応; 妊産婦・新生児死亡を防ぐために; 妊産婦救急疾患; 周産期心筋症への対応. 周産期医学 2010; 40 (6) : 755-759.
- 5) 三宅秀彦: 特集; 切迫早産の診断と治療; 最近の知見; 切迫早産の診断. 産婦人科の実際 2010; 59 (6) : 869-874.
- 6) 中井章人: 特集; 本邦血栓止血分野における最新ガイドラインについて考える; 産科危機的出血へのガイドライン. 日本血栓学会誌 2010; 21 (4) : 378-384.
- 7) 中井章人: 特集; 分娩誘発; より安全に, より確実に; 判例からみた分娩誘発留意点. 周産期医学 2010; 40(9) : 1409-1414.
- 8) 中井章人: 特集; ハイリスク妊娠と病診連携. 臨床婦人科産科 2010; 64 (10) : 1430-1435.
- 9) 印出祐介, 中井章人: 特集; 帝王切開; 母体と新生児に与えるインパクト; わが国における帝王切開分娩の最近の動向. 周産期医学 2010; 40 (10) : 1441-1447.
- 10) 中井章人: 産科危機的出血への対応ガイドライン. 日本産婦人科医会報 2010; 62 (9) : 10-11.
- 11) 中井章人: 特集I; 一歩先を行く; 医療モデル×24; フロンティア's×24; 一歩先を行く医療モデル; 1. 情報共有と連携; オープン・セミオープンシステム; 産科医の負担軽減とリスク集約化を実現. 月刊保険診療 2010; 65 (11) : 16-17.
- 12) 中井章人: 周産期診療指針2010; 産科編; 妊娠中期・後期の異常; 37. 前回早産妊婦の診療. 周産期医学 2010; 40 (増刊) : 131-134.
- 13) 川端伊久乃: 周産期診療指針2010; 産科編; 妊娠中期・後期の異常; 44. HELLP 症候群. 周産期医学 2010; 40 (増刊) : 159-162.
- 14) 三宅秀彦: 周産期診療指針2010; 母子保健編; 5. 先天異常や奇形児娩出後の母性保健指導. 周産期医学 2010; 40 (増刊) : 930-932.
- 15) 中井章人: 周産期診療指針2010; 母子保健編; 妊婦とスポーツ. 周産期医学 2010; 40 (増刊) : 937-942.
- 16) 中井章人: 特集; 分娩時出血への対応; 産科危機的出血への対応ガイドラインの紹介. 助産雑誌 2011; 65 (1) : 6-11.
- 17) 三宅秀彦¹⁾, 竹下俊行¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学大学院医学研究科女性生殖発達病態学) : 特集; 知っておきたい周産

期感染症の知識；各種感染症の母胎感染とその対策. 産婦人科治療 2011；102（2）：116-122.

- 18) 印出佑介, 山口 暁¹⁾, 中井章人⁽¹⁾ 山口病院産婦人科)；特集；母体感染症 up to date；母児感染が問題になる感染症；B群レンサ球菌 (GBS). 周産期医学 2011；41（2）：235-244.

著 書

- 1) 川端伊久乃, 中井章人：〔分担〕妊娠中の子宮破裂（分娩時以外）の対応. Obstetric and Gynecologic Surgery (OGS) Now 4；産科手術，必須術式の完全マスター（櫻木範明，平松祐司，小西郁生，竹田省），2010；pp36-43，メジカルビュー社.
- 2) 中井章人：〔分担〕5.女性のライフサイクルと保健；5-3.妊産婦保健；5-3-16.オープン・セミオープンシステム. 母子保健マニュアル改訂7版（高野陽，柳川洋，中林正雄，加藤忠明），2010；pp64-65，南山堂.
- 3) 三宅秀彦：〔分担〕Question7.妊娠中毒症という病気を聞いたことがありますか，妊娠高血圧症候群とは異なる病気ですか？. よくわかる妊娠高血圧症候群 Q&A；新基準のガイドランス（日本妊娠高血圧学会），2011；pp26-27，金原出版.
- 4) 三宅秀彦：〔分担〕Question8a.浮腫はなぜ起こるのですか？. よくわかる妊娠高血圧症候群 Q&A；新基準ガイドランス（日本妊娠高血圧学会），2011；pp28-29，金原出版.
- 5) 三宅秀彦：〔分担〕Question8b.浮腫が妊娠高血圧症候群の診断基準から除外された理由は？. よくわかる妊娠高血圧症候群 Q&A；新基準ガイドランス（日本妊娠高血圧学会），2011；pp30-30，金原出版.
- 6) 三宅秀彦：〔分担〕Question9.蛋白尿（妊娠性蛋白尿）のみを妊娠高血圧症候群の診断から除外した理由は？. よくわかる妊娠高血圧症候群 Q&A；新基準ガイドランス（日本妊娠高血圧学会），2011；pp31-31，金原出版.
- 7) 三宅秀彦：〔分担〕Question20.母親も妊娠高血圧症候群でした.遺伝することはありますか？. よくわかる妊娠高血圧症候群 Q&A；新基準ガイドランス（日本妊娠高血圧学会），2011；pp64-65，金原出版.
- 8) 三宅秀彦：〔分担〕Question21.普段低血圧であれば妊娠高血圧症候群にはなりにくいのでしょうか？. よくわかる妊娠高血圧症候群 Q&A；新基準ガイドランス（日本妊娠高血圧学会），2011；pp66-67，金原出版.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 中井章人：わが国の10年後の周産期医療の展望について. 山形県総合周産期母子医療センター開設記念講演会，2010. 4.
- 2) 中井章人：産婦人科医師の就労状況と未来予想図. 日本産婦人科医会第32回記者懇談会，2010. 4.
- 3) 中井章人：「産婦人科領域における超音波診断」；OFFICE GYNECOLOGYにおける超音波徹底活用. 第5回産婦人科ME研究会，2010. 6.
- 4) 中井章人：全国の周産期医療供給体制とセミオープンシステムの効果. 葛飾区産婦人科医会集談会，2010. 7.
- 5) 中井章人：妊婦スポーツとその効果. 東京大学医学部附属病院2010年度看護研修会，2010. 7.
- 6) 中井章人：「婦人科領域における超音波診断」；OFFICE GYNECOLOGYにおける超音波徹底活用. 第19回北海道産婦人科ME研究会，2010. 7.
- 7) 中井章人：周産期医療ステージ（8）；産科危機的出血への対応ガイドライン. 第22回産科中小施設研究会，2010. 9.
- 8) 中井章人：助産外来・院内助産の開設・実施の人材育成研修；フェーズI；助産師の実践能力の強化；胎児・新生児の異常とその対応（胎児心拍陣痛図を含む）. 社団法人日本看護協会神戸研修会，2010. 9.
- 9) 中井章人：当院における母体死亡例からみた産科危機的出血の現状；ガイドラインをふまえて. 第37回多摩産婦人科病診連携懇話会，2010. 9.
- 10) 中井章人：テーマ；(2) 輸液・輸血・血液製剤の使い方；産科危機的出血への対応ガイドライン. 第391回日

本産科婦人科学会神奈川地方部会例会および平成 22 年第 1 回母体保護法指定医研修会, 2010. 9.

- 11) 中井章人：2009-2010 年の流行におけるわが国の妊産婦インフルエンザ H1N1 2009 感染状況とその対策に関する調査；日本産婦人科医会母子保健部，日本産科婦人科学会周産期委員会共同調査，日本産婦人科医会第 36 回記者懇談会，2010. 9.
 - 12) 中井章人：切迫早産・前置胎盤・双胎の管理．都立多摩総合医療センター周産期研修会，2010. 11.
 - 13) 中井章人：産婦人科領域における超音波診断；OFFICE GYNECOLOGY における超音波徹底活用．横浜市産婦人科医会研究会，2010. 12.
 - 14) 中井章人：基調報告：テーマ：産婦人科医療改革の展開；現状把握と地域間，診療分野間の格差是正への取り組み；産婦人科医療提供体制の現状について．平成 22 年度第 1 回「拡大医療改革委員会」兼「産婦人科医療改革公開フォーラム」，2011. 1.
 - 15) 川端伊久乃：がん予防医学・治療について；子宮頸がん．日本医科大学多摩永山病院市民公開講座，2011. 2.
 - 16) 中井章人：婦人科領域における超音波診断；OFFICE GYNECOLOGY における超音波徹底活用．第 7 回産婦人科 ME セミナー及び第 6 回愛知県産婦人科医会学術研修会，2011. 2.
 - 17) 中井章人：「切迫早産の管理」・「産科出血の管理」．平成 22 年度日本産婦人科医会新潟支部研修会，2011. 2.
 - 18) 中井章人：周産期に係わる医療者の実践力向上；新しい知識の導入とスキルアップ；妊婦とスポーツ．第 26 回東京母性衛生学会学術セミナー，2011. 2.
 - 19) 三宅秀彦：出生前診断；近年の動向．第 38 回多摩産婦人科病診連携懇話会，2011. 2.
 - 20) 中井章人：「周産期医療ステージ (8)；昔の常識，今の非常識？切迫早産の管理は変わる」．第 23 回産科中小施設研究会，2011. 3.
- (2) 教育講演：
- 1) 奥田直貴：女性の下腹部痛について．平成 22 年度第 11 回ミニレクチャー，2010. 10.
- (3) シンポジウム：
- 1) 中井章人：妊娠に関わる専門職の責任と連携；医師の立場から．第 10 回日本母子看護学会学術集会，2010. 6.
 - 2) 中井章人：「2011 年の建築家」を考える；日本の建築生産システムにおける建築家職能・第 3 回シンポジウム；医師・弁護士と建築家の役割を考える；医師の立場から．連続シンポジウム for UIA 2011 Tokyo, 2010. 7.
 - 3) 中井章人：妊婦健診体制を考える；今の健診体制に満足していますか？；セミオープン・オープンシステムをもっと活用しよう！．厚生労働省科学研究（成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業）「わが国における新しい妊婦健診体制構築のための研究」研究班・日本産科婦人科学会周産期委員会主催公開シンポジウム，2010. 10.
 - 4) 中井章人：「女性医師支援プログラムの未来像を求めて；最先端の取り組みを考える」；産婦人科女性医師支援；日本産婦人科医会の取り組み．第 60 回日本アレルギー学会秋期学術大会，2010. 11.
 - 5) 中井章人：地域のニーズに応じた院内助産システムの実施に向けて；課題を克服するために；母と子のネットワークを通じた地域との協働について．院内助産システム推進フォーラム，2011. 2.
- (4) セミナー：
- 1) 中井章人：早産は予防できる？．第 37 回日本産婦人科医会学術集会，2010. 10.
 - 2) 中井章人：早産関連 Key word 毎の勉強会；プロゲステロン．日本早産予防研究会セミナー，2010. 11.
 - 3) 中井章人：切迫早産管理；新たな展開．SS ニューイヤーセミナー，2011. 1.
- (5) ワークショップ：
- 1) 中井章人：妊婦健診体制を再考する；セミオープンシステムに期待するもの．第 46 回日本周産期・新生児医学会学術集会，2010. 7.
- (6) 一般講演：
- 1) Hayashi M, Oya A, Miyake H, Nakai A, Takeshita T : Reproducibility of the fetal heart pattern classification in Japan. The 13th World congress on controversies in obstetrics, gynecology & Infertility (COGI)

- Held jointly with the German society of obstetrics & gynecology.(Berlin, Germany), 2010. 11.
- 2) Miyake H, Nakai M, Inde Y, Hayashi M, Kawabata I, Oya A, Nakai A, Takeshita T : The risk factor for delivery at less than 28 weeks in the cases with threatened miscarriage who was diagnosed during 10th~19 weeks of gestation. The 13th World congress on controversies in obstetrics, gynecology & Infertility (COGI) Held jointly with the German society of obstetrics & gynecology.(Berlin, Germany), 2010. 11.
 - 3) 川端伊久乃, 中西一步, 山岸絵美, 桑原知仁, 阿部裕子, 印出祐介, 林 昌子, 奥田直貴, 三宅秀彦, 関口敦子, 中井章人 : 早産の予防治療 ; 切迫早産におけるプロゲステロン投与の有効性. 第 4 回日本早産予防研究会学術集会・第 10 回東京早産予防研究会, 2011. 3.
 - 4) Miyake H¹⁾, Igarashi M^{1, 2)}, Inde Y¹⁾, Suzuki S²⁾, Nakai A¹⁾, Takeshita T¹⁾ (¹⁾ Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, ²⁾ Department of Obstetrics and Gynecology, Japanese Red Cross Katsushika Maternity Hospital, Tokyo, Japan) : What was the sign for red umbilical cord?. 第 46 回日本産科婦人科学会学術集会, 2010. 7.
 - 5) 大槻克文¹⁾, 篠塚憲男¹⁾, 牧野康男¹⁾, 亀井良政¹⁾, 川端伊久乃¹⁾, 木戸浩一郎¹⁾, 宮坂尚幸¹⁾, 芥川 修¹⁾, 深見武彦¹⁾, 福島明宗¹⁾, 大口昭英¹⁾, 渡辺 博¹⁾, 石川浩史¹⁾, 澤田真紀¹⁾, 栗城亜具里¹⁾, その他 16 名 (¹⁾ 早産予防研究会) : 子宮頸管長短縮症例の臨床所見および治療の予後への関与に関する多施設共同研究. 第 62 回日本産科婦人科学会学術講演会, 2010. 4.
 - 6) 川端伊久乃, 井上裕子¹⁾, 中井晶子, 林 昌子, 三宅秀彦, 大屋敦子, 中井章人, 竹下俊行 (¹⁾ 正裕会井上レディースクリニック) : 妊婦スポーツが脈波伝導速度に与える影響. 第 62 回日本産科婦人科学会学術講演会, 2010. 4.
 - 7) 中井晶子, 三宅秀彦, 川端伊久乃, 桑原知仁, 山岸絵美, 渡辺建一郎, 岩崎奈央, 林 昌子, 大屋敦子, 中井章人, 竹下俊行 : 後期切迫流産症例における流産・早期早産に関与する因子の検討. 第 62 回日本産科婦人科学会学術講演会, 2010. 4.
 - 8) 米山剛一, 川瀬里衣子, 大屋敦子, 松島 隆, 五十嵐健治, 西田直子, 澤倫太郎, 鴨井青龍, 中井章人, 朝倉啓文, 竹下俊行 : 過去 25 年間に経験した妊産婦死亡例の臨床病理学的検討. 第 62 回日本産科婦人科学会学術講演会, 2010. 4.
 - 9) 大屋敦子, 川端伊久乃, 林 昌子, 中井晶子, 岩崎奈央, 桑原知仁, 渡邊建一郎, 山岸絵美, 三宅秀彦, 中井章人, 竹下俊行 : 胎児の性差は HELLP 症候群の重症度に影響する. 第 62 回日本産科婦人科学会学術講演会, 2010. 4.
 - 10) 市川雅男, 中西一步, 渡邊建一郎, 岩崎奈央, 三浦 敦, 黒瀬圭輔, 明楽重夫, 竹下俊行 : 骨盤臓器に対する全腹腔鏡下ダブルメッシュ仙骨腔固定術の実際 ; 当施設における 23 症例の成績を中心に. 第 62 回日本産科婦人科学会学術講演会, 2010. 4.
 - 11) 印出祐介, 山口 暁¹⁾, 竹内久美¹⁾, 横田明重¹⁾, 山口 稔¹⁾, 竹下俊行 (¹⁾ 山口病院) : B 群溶血性連鎖球菌に関する周産期スクリーニングの有用性. 第 62 回日本産科婦人科学会学術講演会, 2010. 4.
 - 12) 川端伊久乃, 岩崎奈央, 桑原知仁, 山岸絵美, 中井晶子, 印出祐介, 林 昌子, 奥田直貴, 三宅秀彦, 大屋敦子, 中井章人 : 帝王切開術中にアナフィラキシーショックをきたした 1 例. 第 354 回日本産科婦人科学会東京地方部会例会, 2010. 5.
 - 13) 印出祐介¹⁾, 清水絵美²⁾, 里見操緒³⁾, 三宅秀彦¹⁾, 中井章人¹⁾, 鈴木俊治³⁾, 竹下俊行 (¹⁾ 日本医科大学産婦人科学教室, ²⁾ 葛飾赤十字産院放射線科, ³⁾ 葛飾赤十字産院産婦人科) : 二絨毛膜二羊膜双胎における第 2 三半期の臍帯捻転指数と低体重児発生との関連. 日本超音波医学会第 83 回学術集会, 2010. 5.
 - 14) 川端伊久乃, 三宅秀彦, 奥田直貴, 林 昌子, 中井晶子, 印出祐介, 山岸絵美, 桑原知仁, 中西一步, 大屋敦子, 中井章人 : 妊娠 12 週で診断され温存療法が奏功した子宮頸管妊娠の 1 例. 第 119 回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会・学術集会, 2010. 6.
 - 15) 大内 望, 明楽重夫, 阿部 崇, 五十嵐健治, 市川智子, 峯 克也, 市川雅男, 三浦 敦, 黒瀬圭輔, 中井章人,

朝倉啓文, 竹下俊行: 子宮内膜症・子宮腺筋症をめぐる諸問題; 当院における子宮内膜症の術後再発率についての検討. 第 363 回四水会, 2010. 6.

- 16) 川端伊久乃, 三宅秀彦, 林 昌子, 中井晶子, 奥田直貴, 印出祐介, 中井章人, 竹下俊行: 妊娠 22 週で発症した脳動脈瘤破裂妊娠の 1 例. 第 46 回日本周産期・新生児医学会学術集会, 2010. 7.
- 17) 印出祐介, 山口 暁¹⁾, 都甲明子¹⁾, 横田明重¹⁾, 山口 稔¹⁾, 中井章人, 竹下俊行 (¹⁾ 山口病院産婦人科): B 群溶血性連鎖球菌陽性母体における分娩時の予防的抗菌剤の総投与量と新生児移行率との関連. 第 46 回日本周産期・新生児医学会学術集会, 2010. 7.
- 18) 大槻克文¹⁾, 牧野康男¹⁾, 亀井良政¹⁾, 川端伊久乃, 中井章人, 松田義雄¹⁾, 篠塚憲男¹⁾, 岩下光利¹⁾, 岡井 崇¹⁾ (¹⁾ 早産研究会): 多施設共同による子宮頸管長短縮症例の臨床所見および治療の予後への関与に関する検討探索の後方視的解析. 第 46 回日本周産期・新生児医学会学術集会, 2010. 7.
- 19) 高橋恵理佳¹⁾, 印出祐介¹⁾, 山口 暁²⁾, 山口 稔²⁾, 横田明重²⁾, 都甲明子²⁾, 石川温子¹⁾, 石川 源¹⁾, 竹下俊行¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学産婦人科, ²⁾ 山口病院): 妊婦における CMV 抗体スクリーニング検査の現状. 第 46 回日本周産期・新生児医学会学術集会, 2010. 7.
- 20) 東 敬子¹⁾, 丹野正隆¹⁾, 細根 勝¹⁾, 片山博徳¹⁾, 磯部宏昭¹⁾, 柳田裕美¹⁾, 川野記代子¹⁾, 岩瀬裕美¹⁾, 日吾美栄子¹⁾, 鈴木美紀¹⁾, 前田昭太郎¹⁾, 川端伊久乃, 中井章人, 内藤善也²⁾, 劉 愛民³⁾ (¹⁾ 多摩永山病院病理部, ²⁾ 病理学 (統御機構腫瘍学), ³⁾ 形態解析共同研究施設): 子宮後面に発生した Leiomyomatosis peritonealis disseminate の 1 例. 第 78 回日本医科大学医学会総会, 2010. 9.
- 21) 桑原知仁, 林 昌子, 中西一步, 山岸絵美, 印出祐介, 奥田直貴, 川端伊久乃, 三宅秀彦, 大屋敦子, 中井章人: 分娩中に突然激痛をきたし常位胎盤早期剥離との鑑別を要した卵巢囊腫莖捻転の 1 例. 第 355 回日本産科婦人科学会東京地方部会例会, 2010. 9.
- 22) 山岸絵美, 三宅秀彦, 桑原知仁, 中井晶子¹⁾, 林 昌子, 川端伊久乃, 大屋敦子, 中井章人 (¹⁾ 葛飾赤十字産院): 分娩時高血圧をきたした褐色細胞腫合併妊娠の 1 例. 第 31 回日本妊娠高血圧学会, 2010. 10.
- 23) 奥田直貴, 山岸絵美, 大屋敦子, 中西一步, 桑原知仁, 阿部裕子, 印出祐介, 林 昌子, 川端伊久乃, 三宅秀彦, 中井章人, 竹下俊行: 近年当科で経験した子宮内反症の 7 例. 第 120 回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会・学術集会, 2010. 11.
- 24) 中西一步, 川端伊久乃, 三宅秀彦, 奥田直貴, 林 昌子, 印出祐介, 山岸絵美, 桑原知仁, 阿部裕子, 大屋敦子, 中井章人: 妊娠 12 週で診断された温存療法が奏功した子宮頸管妊娠の 1 例. 平成 22 年度日本医科大学産婦人科学教室同窓会臨床研究会, 2010. 11.
- 25) 山岸絵美, 川端伊久乃, 印出祐介, 阿部裕子, 奥田直貴, 中西一步, 桑原知仁, 林 昌子, 三宅秀彦, 大屋敦子, 中井章人: 複数回の痙攣発作を起こし, 産褥子癇との鑑別を要した静脈洞血栓症の 1 例. 第 356 回日本産科婦人科学会東京地方部会例会, 2010. 12.
- 26) 中西一步, 奥田直貴, 桑原知仁, 山岸絵美, 印出祐介, 林 昌子, 川端伊久乃, 三宅秀彦, 関口敦子, 中井章人: 大網原発成熟奇形種の 1 例. 第 24 回東京産婦人科医会・日産婦東京地方部会合同研修会並びに第 357 回日産婦東京地方部会例会, 2011. 2.

[千葉北総病院女性診療科・産科]

研究概要

当教室では婦人科腫瘍学部門, 手術学部門, 周産期学部門のそれぞれにおいて基礎研究ならびに臨床研究を行っている. 婦人科腫瘍学部門では子宮頸癌, 子宮体癌, 卵巣癌の発がんに関する基礎研究を行っている. そのなかでも特に子宮体癌におけるマイクロ RNA の関与に関する研究を精力的に継続している. また, 卵巣癌化学療法に関する臨床研究としてこれまで多施設共同研究として遂行してきたパクリタキセル, カルボプラチンの隔週投与法の結果がま

とまり、公表準備中である。また、子宮体癌に関する臨床研究として病理組織学的因子のどれが実際の独立した予後因子かを検討するために多施設の大規模研究を展開中である。手術学部門では、婦人科内視鏡手術を中心として臨床研究を行っている。また、婦人科内視鏡手術の指導法、手術時に使用する電気メスの原理および指導法の研究を行っている。周産期学部門においては妊産婦死亡の減少を目的として、日本医科大学付属4病院の女性診療科産科において過去25年間に経験した妊産婦死亡例を詳細に臨床病理学的に検討した。その成果を第46回日本周産期新生児学会のシンポジウム4「母体救命救急の限界」において過去25年間に経験した妊産婦死亡例の臨床的検討として発表し、病理解剖の結果羊水塞栓症が24%を占め、最多であることを明らかとした。来年度に向け、さらに研究を進展すべく計画中である。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 中尾仁彦¹⁾、市川智子¹⁾、中西一步¹⁾、大内 望¹⁾、阿部 崇¹⁾、五十嵐美和¹⁾、峯 克也¹⁾、磯崎太一¹⁾、澤倫太郎¹⁾、米山剛一²⁾、明楽重夫¹⁾、竹下俊行¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院産婦人科、²⁾ 日本医科大学千葉北総病院産婦人科)：原発性アルドステロン症合併妊娠の1例。日本産科婦人科学会雑誌 2010；59 (3)：362-364.
- 2) 山本晃人¹⁾、米山剛一¹⁾、小野修一¹⁾、加藤雅彦¹⁾、中尾仁彦¹⁾、小西真理世¹⁾、明楽重夫¹⁾、竹下俊行¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院女性診療科・産科)：病理組織検査にて2次性と診断した乳房外Pajet病の1例。日本産科婦人科学会東京地方部会誌 2010；59 (1)：78-82.
- 3) 中村祐司¹⁾、川本雅司²⁾、松原美幸²⁾、大塚俊司¹⁾、柳本邦雄³⁾、原田 大²⁾、石井英昭¹⁾、内藤善弥⁴⁾、米山剛一⁵⁾、土屋真一²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院病理部、²⁾ 日本医科大学付属病院病理部、³⁾ 獨協医科大学越谷病院病理部、⁴⁾ 日本医科大学大学院統御機構・腫瘍病理学、⁵⁾ 日本医科大学千葉北総病院女性診療科・産科)：ポリープ状異型筋腫の子宮内膜細胞像の検討。日本臨床細胞学会雑誌 2010；49 (3)：171-176.
- 4) 白銀 恵¹⁾、米澤美令¹⁾、山下恵理子¹⁾、平泉良枝¹⁾、渡邊秀樹¹⁾、村田知昭¹⁾、木下和哉¹⁾、里見操緒¹⁾、鈴木俊治¹⁾ (1) 葛飾赤十字産院)：当院で発症した子癇13例の検討。日本産科婦人科学会関東連合地方部会誌 2010；47 (2)：215-215.
- 5) 鈴木俊治¹⁾、平泉良枝¹⁾、山下恵理子¹⁾、米澤美令¹⁾、里見操緒¹⁾ (1) 葛飾赤十字産院)：入院助産制度対象妊産婦の検討からみた周産期医療の問題点。日本周産期・新生児医学会雑誌 2010；46 (2)：502-502.
- 6) 平泉良枝¹⁾、白銀 恵¹⁾、米澤美令¹⁾、山下恵理子¹⁾、菊池美美¹⁾、三浦直美¹⁾、里見操緒¹⁾、鈴木俊治¹⁾ (1) 葛飾赤十字産院)：分娩体位と関連した会陰・膣壁裂傷の検討。日本産科婦人科学会関東連合地方部会誌 2010；47 (3)：343-343.
- 7) 米澤美令¹⁾、里見操緒¹⁾、白銀 恵¹⁾、山下恵理子¹⁾：正常分娩のために救急車を要請した妊産婦の背景。日本産科婦人科学会東京地方部会誌 2010；59 (3)：325-327.
- 8) 米澤美令¹⁾、深見武彦²⁾、野口 唯²⁾、島田博美²⁾、佐藤杏月²⁾、倉品隆平²⁾、坊 裕美²⁾、奥田直貴²⁾、立山尚子²⁾、西田直子²⁾、松島 隆²⁾、土居大祐²⁾、可世木久幸²⁾、朝倉啓文²⁾ (1) 葛飾赤十字産院、²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院女性診療科・産科)：経膣超音波およびMRI画像により子宮角部妊娠と診断し、MTX療法が奏功した1例。日本産科婦人科学会関東連合地方部会誌 2010；47 (4)：469-473.
- 9) 高屋 茜¹⁾、三浦 敦¹⁾、新村裕樹¹⁾、米山剛一¹⁾、明楽重夫¹⁾、鴨井青龍¹⁾、竹下俊行¹⁾、彭 為霞²⁾、川本雅司²⁾ (1) 日本医科大学付属病院 女性診療科・産科、²⁾ 日本医科大学付属病院 病理部)：嚢胞状の外観を呈し卵巣原発悪性腫瘍との鑑別が困難であった子宮平滑筋肉腫の1例。日本産科婦人科学会東京地方部会誌 2010；59 (4)：527-532.
- 10) 米山剛一¹⁾、関口敦子¹⁾、松島 隆²⁾、澤倫太郎³⁾、中井章人¹⁾、朝倉啓文²⁾、竹下俊行³⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院女性診療科・産科、²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院女性診療科・産科、³⁾ 日本医科大学付属病院女性診療科・

産科)：過去 25 年間に経験した妊産婦死亡例の臨床的検討. 日本周産期・新生児医学会雑誌 2010；46 (4)：1012-1014.

- 1) 鈴木俊治¹⁾, 平泉良枝¹⁾, 白銀 恵¹⁾, 米澤美令¹⁾, 山下恵理子¹⁾, 里見操緒¹⁾ (1) 葛飾赤十字産院)：単胎経産分娩後産科大量出血例の検討 DIC 型後産期出血例を中心に. 周産期医学 2010；40 (12)：1821-1825.

(2) 総説：

- 1) 石橋 宰¹⁾, 間瀬有里²⁾, 瀧澤敬実¹⁾, 米山剛一³⁾, 朝倉啓文⁴⁾, 松原茂樹⁵⁾, 竹下俊行²⁾, 瀧澤俊広¹⁾ (1) 日本医科大学解剖学講座分子解剖学, 2) 日本医科大学産婦人科, 3) 日本医科大学千葉北総病院産婦人科, 4) 日本医科大学武蔵小杉病院産婦人科, 5) 自治医科大学産婦人科)：シリーズで学ぶ最新知識 マイクロ RNA 女性生殖器 (子宮・卵巣) におけるマイクロ RNA. 産婦人科の実際 2010；59 (10)：1551-1555.

(3) 症例報告：

- 1) Hiraizumi Y¹⁾, Seiryu K²⁾, Yusuke I³⁾, Keisuke K¹⁾, Yoshiharu O⁴⁾, Toshiyuki T²⁾ (1) Japanese Red Cross Katsushika Maternity Hospital, 2) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School Hospital, 3) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital, 4) Department of Pathology, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital)：A case of tumor lysis syndrome following chemotherapy for a uterineepithelioid leiomyosarcoma with focal rhabdomyosarcomatousdifferentiation. Journal of Obstetrics and Gynaecology Researchpublished online 2011；16 (10)：1447-1454.
- 2) 野口 唯¹⁾, 松島 隆¹⁾, 深見武彦¹⁾, 島田博美¹⁾, 米澤美令¹⁾, 佐藤杏月¹⁾, 中川道子¹⁾, 立山尚子¹⁾, 西田直子¹⁾, 土居大祐¹⁾, 可世木久幸¹⁾, 朝倉啓文¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院女性診療科・産科)：皮膚子宮内膜症の 3 例. 日本産科婦人科学会関東連合地方部会誌 2010；47 (2)：234-234.
- 3) 米澤美麗¹⁾, 深見武彦¹⁾, 野口 唯¹⁾, 島田博美¹⁾, 佐藤杏月¹⁾, 坊 裕美¹⁾, 奥田直貴¹⁾, 立山尚子¹⁾, 西田直子¹⁾, 松島 隆¹⁾, 土居大祐¹⁾, 可世木久幸¹⁾, 朝倉啓文¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院女性診療科・産科)：経膈超音波及び MRI 画像より子宮角部妊娠を疑い MTX 療法が奏功した 1 例. 日本産科婦人科学会神奈川地方部会誌 2010；47 (1)：40-41.

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 米山剛一, 関口敦子¹⁾, 松島 隆²⁾, 澤倫太郎³⁾, 中井章人¹⁾, 朝倉啓文²⁾, 竹下俊行³⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院女性診療科・産科, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院女性診療科・産科, 3) 日本医科大学付属病院女性診療科・産科)：過去 25 年間に経験した妊産婦死亡例の臨床的検討 (シンポジウム 4-1 母体救命救急の限界). 日本周産期・新生児医学会学術集会 (第 46 回) (兵庫県), 2010. 7.

(2) 一般講演：

- 1) Nao I¹⁾, Seiryu K²⁾, Tadashi A³⁾, Michiaki W, Yoshiharu O⁴⁾, Toshiyuki T²⁾ (1) Japanese Red Cross Katsushika Maternity Hospital, 2) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School Hospital, 3) Nemoto Obstetrics and Gynecology Department, 4) Department of Pathology, Nippon Medical School, Chiba Hokusoh Hospital)：A new approach for fertility-preserving management of cervicectopic pregnancy. World Congress of International Federation of Fertility Societies (IFFS) (20th) (Munich, Germany), 2010. 9.
- 2) Yoneyama K, Konishi H¹⁾, Yahata T²⁾, Fujita K²⁾, Doi D¹⁾, Honma S³⁾, Kodama S³⁾, Katoh H⁴⁾, Nakayama H⁴⁾, Kurose K⁵⁾, Aoki Y⁶⁾, Asakura H¹⁾, Tanaka K²⁾, Takeshita T⁵⁾ (1) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital, 2) Department of Obstetrics and Gynecology, School of Medicine Niigata University, 3) Department of Gynecology, Niigata Cancer Center Hospital, 4) Department of Gynecology, Kanagawa Cancer Center Hospital, 5) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School, 6) Department of Obstetrics and Gynecology, Faculty of Medicine,

University of the Ryukyus) : Long term follow-up of advanced ovarian cancer patients treated with biweekly paclitaxel/carboplatin (TC) combination chemotherapy. Biennial Meeting of the International Gynecological Cancer Society (13th) (Prague, Czech Republic, European Union), 2010. 10.

- 3) Kurose K¹⁾, Yamamoto A¹⁾, Miura A¹⁾, Doi D²⁾, Yoneyama K³⁾, Kamoi S¹⁾, Takeshita T¹⁾ (1) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, (2) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital, Kawasaki, Japan, (3) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, Inzai, Japan) : Clinicopathological analysis of ovarian cancer arising from endometriosis. Biennial meeting of the international gynecologic cancer society (IGCS 2010) (13th) (Prague, Czech Republic, European Union), 2010. 10.
- 4) 高屋 茜²⁾, 鴨井青龍, 高橋恵理佳, 朝倉禎史, 山田 隆, 五十嵐健治, 石川温子, 石川 源²⁾, 渡辺美千明, 岡田 進¹⁾, 竹下俊行²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院放射線科, (2) 日本医科大学付属病院女性診療科・産科) : 鑑別診断を目的とした卵巣性索間質性腫瘍のMRIによる形態分類の試み. 日本産科婦人科学会 (第62回) (東京都), 2010. 4.
- 5) 市川雅男¹⁾, 中西一歩²⁾, 渡邊建一郎, 岩崎奈央³⁾, 三浦 敦¹⁾, 黒瀬圭輔¹⁾, 明楽重夫¹⁾, 竹下俊行¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院女性診療科・産科, (2) 日本医科大学多摩永山病院女性診療科・産科, (3) 川口市立医療センター) : 骨盤臓器脱に対する全腹腔鏡下ダブルメッシュ仙骨陰固定術の実際 (当施設における23症例の成績を中心に). 日本産科婦人科学会 (第62回) (東京都), 2010. 4.
- 6) 高橋恵理佳, 鴨井青龍, 高屋 茜¹⁾, 朝倉禎史, 山田 隆, 五十嵐健治, 石川 源¹⁾, 石川温子, 渡辺美千明, 大秋美治²⁾, 竹下俊行¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院女性診療科・産科, (2) 日本医科大学病理部) : 悪性性索間質性腫瘍13例の検討. 日本産科婦人科学会 (第62回) (東京), 2010. 4.
- 7) 中井晶子¹⁾, 三宅秀彦²⁾, 川端伊久乃²⁾, 桑原知仁²⁾, 山岸絵美²⁾, 渡邊建一郎, 岩崎奈央³⁾, 林 昌子²⁾, 大屋敦子²⁾, 中井章人²⁾, 竹下俊行⁴⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院女性診療科・産科, (2) 日本医科大学多摩永山病院女性診療科・産科, (3) 川口市立医療センター, (4) 日本医科大学付属病院女性診療科・産科) : 後期切迫流産症例における流産, 早期早産に関する因子の検討. 日本産科婦人科学会 (第62回) (東京), 2010. 4.
- 8) 米山剛一¹⁾, 川瀬里衣子¹⁾, 大屋敦子²⁾, 松島 隆³⁾, 五十嵐健治, 西田直子³⁾, 澤倫太郎¹⁾, 鴨井青龍, 中井章人²⁾, 朝倉啓文³⁾, 竹下俊行¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院女性診療科・産科, (2) 日本医科大学多摩永山病院女性診療科・産科, (3) 日本医科大学武蔵小杉病院女性診療科・産科) : 過去25年間に経験した妊産婦死亡例の臨床病理学的検討. 日本産科婦人科学会総会 (第62回) (東京), 2010. 4.
- 9) 大屋敦子¹⁾, 川端伊久乃¹⁾, 林 昌子¹⁾, 中井晶子²⁾, 岩崎奈央³⁾, 桑原智仁¹⁾, 渡邊建一郎, 山岸絵美¹⁾, 三宅秀彦¹⁾, 中井章人¹⁾, 竹下俊行⁴⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院女性診療科・産科, (2) 日本医科大学武蔵小杉病院女性診療科・産科, (3) 川口市立医療センター, (4) 日本医科大学付属病院女性診療科・産科) : 胎児の性差はHELLP症候群の重症度に影響する. 日本産科婦人科学会 (第62回) (東京), 2010. 4.
- 10) 中尾仁彦, 峰 克也¹⁾, 林 耕二¹⁾, 市川智子¹⁾, 山本晃人¹⁾, 山本陽一郎²⁾, 三浦 敦¹⁾, 黒瀬圭輔¹⁾, 米山剛一, 竹下俊行¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院女性診療科・産科, (2) 日本医科大学付属病院第2病理部) : 診断に苦慮しその間に急速に進行した絨毛癌の1例. 日本婦人科腫瘍学会 (第48回) (茨城県), 2010. 7.
- 11) 渡邊建一郎, 鴨井青龍, 高橋恵理佳, 朝倉禎史, 山田 隆, 石川温子, 五十嵐健治, 渡辺美千明, 貝津俊英²⁾, 岡田 進²⁾, 竹下俊行¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院女性診療科・産科, (2) 日本医科大学千葉北総病院放射線科) : 当科における初回治療に放射線療法, または放射線化学併用療法を行なった子宮頸癌の治療経験. 日本婦人科腫瘍学会 (第48回) (茨城県), 2010. 7.
- 12) 米山剛一, 三浦 敦¹⁾, 加藤雅彦¹⁾, 山本晃人¹⁾, 黒瀬圭輔¹⁾, 原田 大²⁾, 川本雅司²⁾, 土屋眞一²⁾, 竹下俊行¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院女性診療科・産科, (2) 日本医科大学付属病院病理部) : 卵管原発が疑われたリンパ上皮腫様癌の1例. 日本婦人科腫瘍学会総会 (第48回) (茨城県), 2010. 7.

- 13) 高橋恵理佳, 鴨井青龍¹⁾, 高屋 茜¹⁾, 朝倉禎史, 山田 隆, 五十嵐健治, 石川温子, 石川 源¹⁾, 渡辺美千明, 大秋美治²⁾, 竹下俊行¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院女性診療科・産科, (2) 日本医科大学千葉北総病院病理部): 小児卵巣未熟奇形腫 2 症例の治療についての検討. 日本婦人科腫瘍学会 (第 48 回) (茨城県), 2010. 7.
- 14) 高橋恵理佳, 印出佑介¹⁾, 山口 暁²⁾, 山口 稔²⁾, 横田明重¹⁾, 朝倉禎史, 五十嵐健治, 石川温子, 石川 源³⁾, 鴨井青龍³⁾, 中井章人¹⁾, 竹下俊行³⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院女性診療科・産科, (2) 医療法人成和会山口病院, (3) 日本医科大学付属病院女性診療科・産科): 妊婦における CMV 抗体スクリーニング検査の現状. 日本周産期・新生児医学会学術集会 (第 46 回) (兵庫県), 2010. 7.
- 15) 山本晃人¹⁾, 米山剛一¹⁾, 小野修一¹⁾, 明楽重夫¹⁾, 竹下俊行¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院女性診療科・産科): low-dose FP 療法が著効した外陰 Pajet 病の 1 例. 日本婦人科腫瘍学会 (第 48 回) (茨城), 2010. 7.
- 16) 加藤雅彦¹⁾, 三浦 敦¹⁾, 小野修一¹⁾, 高屋 茜¹⁾, 山本晃人¹⁾, 五十嵐美和¹⁾, 市川雅男¹⁾, 米山剛一¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院女性診療科・産科): 頸部小細胞癌の 1 例. 日本婦人科腫瘍学会 (第 48 回) (茨城), 2010. 7.
- 17) 米山剛一, 峰 克也¹⁾, 安井麻利江¹⁾, 神戸沙織¹⁾, 阿部 崇¹⁾, 小野修一¹⁾, 田村俊之¹⁾, 渋井庸子¹⁾, 池田真利子¹⁾, 新村裕樹¹⁾, 五十嵐美和¹⁾, 竹下俊行¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院女性診療科・産科): 子宮内膜組織診にて PSTT が疑われた 1 例. 日本絨毛性疾患研究会 (第 28 回) (熊本県), 2010. 9.
- 18) 米山剛一: 子宮内膜細胞診にて疑われた PSTT の 1 例. 日本医科大学・東邦大学・印旛市郡産婦人科臨床研究会 (第 9 回) (千葉県, 印西市), 2010. 10.
- 19) 柿栖睦実, 米山剛一, 神戸沙織, 中尾仁彦, 渡邊建一郎, 山田 隆, 五十嵐健治, 渡辺美千明, 鴨井青龍¹⁾, 新井 悟²⁾, 大秋美治²⁾, 岡田 進³⁾ (1) 日本医科大学付属病院女性診療科・産科, (2) 日本医科大学千葉北総病院病理部, (3) 日本医科大学千葉北総病院放射線科): 当科にて経験した原発性腹膜癌 6 症例の臨床病理学的検討. 日本医科大学・東邦大学・印旛市郡産婦人科臨床研究会 (第 9 回) (千葉県, 印西市), 2010. 10.
- 20) 神戸沙織, 市川智子¹⁾, 峰 克也¹⁾, 小野修一¹⁾, 渋井庸子¹⁾, 阿部 崇¹⁾, 富山僚子¹⁾, 桑原慶充¹⁾, 明楽重夫¹⁾, 竹下俊行¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院女性診療科・産科): 不育症外来における化学妊娠反復例の臨床的検討. 日本生殖医学会総会・学術講演会 (第 55 回) (徳島県), 2010. 11.
- 21) 柿栖睦実, 米山剛一, 神戸沙織, 中尾仁彦, 渡邊建一郎, 山田 隆, 五十嵐健治, 渡辺美千明, 新井 悟¹⁾, 大秋美治¹⁾, 岡田 進²⁾, 鴨井青龍³⁾ (1) 日本医科大学付属病院千葉北総病院病理部, (2) 日本医科大学付属病院千葉北総病院放射線科, (3) 日本医科大学付属病院女性診療科・産科): 当科で経験した原発性腹膜癌 6 症例の臨床病理学的検討. 日本産科婦人科学会 関東連合地方部総会・学術集会 (第 120 回) (茨城県), 2010. 11.
- 22) 中尾仁彦, 米山剛一, 神戸沙織, 渡邊建一郎, 高橋恵理佳¹⁾, 柿栖睦実, 山田 隆, 五十嵐健治, 渡辺美千明, 鴨井青龍²⁾ (1) 東京臨海病院産婦人科, (2) 日本医科大学付属病院女性診療科・産科): SIADH を併発した子宮頸部小細胞癌の 1 例. 日本産科婦人科学会 関東連合地方部総会・学術集会 (第 120 回) (茨城県), 2010. 11.
- 23) 渡邊建一郎, 山田 隆, 神戸沙織, 中尾仁彦, 高橋恵理佳¹⁾, 柿栖睦実, 五十嵐健治, 渡辺美千明, 鴨井青龍²⁾, 小泉はるか³⁾, 三浦剛史⁴⁾, 米山剛一 (1) 東京臨海病院婦人科, (2) 日本医科大学付属病院女性診療科・産科, (3) 日本医科大学千葉北総病院看護部, (4) 日本医科大学千葉北総病院泌尿器科): 経皮経食道胃管により在宅管理が可能になった癌性腹膜炎の 1 症例. 日本産科婦人科学会 関東連合地方部総会・学術集会 (第 120 回) (茨城県), 2010. 11.
- 24) 米山剛一, 山本晃人¹⁾, 黒瀬圭輔¹⁾, 山田 隆, 川本雅司²⁾, 土屋眞一²⁾, 竹下俊行¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院女性診療科・産科, (2) 日本医科大学付属病院病理部): 子宮内膜細胞診にて placental site trophoblastic tumor (PSTT) が疑われた 1 例. 日本臨床細胞学会秋期大会 (第 49 回) (兵庫県), 2010. 11.
- 25) 山田 隆, 神戸沙織, 中尾仁彦, 渡邊建一郎, 米澤美令, 柿栖睦実¹⁾, 高屋 茜, 五十嵐健治, 渡辺美千明, 米山剛一 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院女性診療科・産科): 卵巣癌を強く疑った富細胞性卵巣腺腫の 1 例. 日本産科婦人科学会千葉地方部会平成 22 年度冬期学術集会 (千葉県), 2011. 1.

14. 耳鼻咽喉科学講座

[付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩永山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科]

研究概要

新たな教室の主たる研究領域は、鼻科学、免疫・アレルギー学、耳科学、めまい平衡医学、頭頸部外科学、音声言語医学ならびに嚥下機能に関するものである。研究手法としては、生理学的、形態学的、免疫学的、分子生物的方法が駆使された優れた臨床研究を目指している。この入力された業績の英文・和文論文、学会発表で示されている通り、基礎的あるいは臨床的研究、症例検討等に関する業績の結果の提示が積極的に国内・国外に示されている。2010年度に発表された66編の原著のうち22件が英文の論文であり、3編が鼻科学、16編が免疫・アレルギー学、1編が耳科学であり、国内外で評価を受けている。これらの活動を援助するための、外部からの競争的研究補助金獲得も積極的に行われ、若手研究者の文部科学省研究費補助金やスタッフの厚生労働省科学研究費をはじめとした研究補助金を多く獲得している。主任みずから厚生労働省化学研究費補助金事業の主任研究員を行い、花粉症治療の新しい方向性を目指している。他の分野においても積極的に講座の全員で国際学会や国内学会への参加・発表も行い、成果を上げている。次年度も同じように講座全体で質の高い、患者のためになる臨床研究を行っていききたい。

研究業績

論文

[追加分]

追加分総説：

- 1) 太田伸男¹⁾、鈴木祐輔¹⁾、後藤崇成¹⁾、高橋裕一¹⁾、青柳 優¹⁾、大久保公裕 (1) 山形大耳鼻科)：アレルギー性鼻炎と睡眠障害。アレルギー・免疫 2010；18 (2)：222-229.
- 2) 後藤 稜：【ステロイドによる局所療法のアップデート】新規鼻噴霧用ステロイド薬（モメタゾンフランカルボン酸エステル）の通年性アレルギー性鼻炎に対する効果。アレルギー・免疫 2010；17 (4)：580-588.
- 3) 中溝宗永、横島一彦、稲井俊太、酒主敦子：食道・下咽頭浸潤甲状腺癌に対する皮弁を用いた再建術式の適応・術式。Endocrine Surgery 2010；27 (1)：13-18.

(1) 原著：

- 1) Nonaka M, Ogiwara N, Fukumoto A, Sakanushi A, Kusama K, Pawankar R, Yagi T : Nasal polyp fibroblasts produce MIP-3alpha in response to Toll-like Receptorligands and cytokine stimulation. Rhinology 2010；48 (1)：41-46.
- 2) Nonaka M, Ogiwara N, Fukumoto A, Sakanushi A, Kusama K, Pawankar R, Yagi T : Combined stimulation with Poly (I : C), TNF-alpha and Th2 cytokines induces TARCproduction by human fibroblasts from the nose, bronchioles and lungs. Int Arch Allergy Immunol 2010；152 (4)：327-341.
- 3) Makino Y¹⁾, Noguchi E¹⁾, Takahashi N¹⁾, Mastumoto Y¹⁾, Kubo S¹⁾, Yamada T¹⁾, Imoto Y¹⁾, Ito Y¹⁾, Osawa Y¹⁾, Shibasaki M¹⁾, Uchida K¹⁾, Meno K¹⁾, Suzuki H¹⁾, Okubo K, Fujieda S¹⁾ (1) Otolaryngology, Fukui Univ) : Apolipoprotein A-IV is a candidate target molecule for the treatment of seasonal allergic rhinitis. J Allergy Clin Immunol 2010；126 (6)：1163-1169.
- 4) Okubo K, Okuda M, Magara H¹⁾, Kaneko K¹⁾ (1) Kyowa Hakko Parmaceutical Co) : Olopatadine hydrochloride in children : efficacy and safety for perennial allergic rhinitis. Curr Med Res Opin 2010；26 (7)：

1657-1665.

- 5) Nishihata S¹, Murata T², Inose K², Okubo K, Sahashi N², Takahashi H², Hirooka J², Hoshiyama Y², Murayama K², Mezawa A², Yokoyama T², Endo T³, Saiga T⁴, Saito Y⁵ (1) Nishihata ENT clinic, (2) Pollinosis Surveyance committee, Tokyo Metropolitan Government, (3) Endo ENT clinic, (4) Kamio Memorial Hospital) : Prevalence of Japanese cedar pollinosis in Tokyo : a survey conducted by the Tokyo Metropolitan Government. *Clin Exp Allergy Rev* 2010 ; 10 (8) : 8-11.
- 6) Potter CP¹, Warner J², Pawankar R, Kaliner AM³, Del Giacco S⁴, Rosenwasser JL⁵ (1) Cape Town Lung Institute, (2) Southampton General Hospital Centre, (3) Institute for Asthma and Allergy, (4) University of Naples, (5) Macy's Childrens Hospital Kansas) : Recommendations for competency in allergy training for undergraduates qualifying as medical practitioners : a position paper of the World Allergy Organization. *J Investig Allergol Clin Immunol* 2010 ; 20 (3) : 179-184.
- 7) Li L, Ikezono T, Sekine K, Shindo S, Matsumura T, Pawankar R, Yagi T : Molecular cloning of the Coch gene of guinea pig inner ear and its expression analysis in cultured fibrocytes of the spiral ligament. *Acta Otolaryngol* 2010 ; 130 (8) : 868-880.
- 8) Ikezono T, Sugizaki K, Shindo S, Pawankar R, Baba S, Yagi T : CTP (Cochlin-tomoprotein) detection in the profuse fluid leakage (gusher) from cochleostomy. *Acta Otolaryngol* 2010 ; 130 (8) : 881-887.
- 9) Verma A¹, Ehmed P¹, Pawankar R (1) Max Hospital, India) : Practical guidelines for penicillin skin testing and antibiotic allergy. *Max Medical Journal* 2010 ; 3 (1) : 1-13.
- 10) Brozek J¹, Bousquet J², Baena-Cagnani Ce, CC³, Bonini S⁴, Canonica WG⁵, Casale T⁶, Ohta K⁷, Zuberbier T⁸, Pawankar R (1) McMaster University, (2) Montpellier University, (3) Cordoba University, (4) University of Rome, (5) University of Genoa, (6) Chreighton University, (7) Teikyo University, (8) Berlin University) : Development and Evaluation Working Group. Allergic Rhinitis and its Impact on Asthma (ARIA) guidelines : 2010 revision. *J Allergy Clin Immunol* 2010 ; 126 (3) : 466-476.
- 11) Mahboub BH¹, Santhakumar S¹, Soriano J², Pawankar R (1) Sharjah University, UAE, (2) University of Madrid) : Asthma insights and reality in the United Arab Emirates. *Annals Thoracic Medicine* 2010 ; 5(4) : 217-221.
- 12) Bousquet J¹, Schunemann JH², Zuberbier T³, Bachert C⁴, Canonica WG⁵, Casale BT⁶, Ohta K⁷, Bateman E⁸, Cruz A⁹, Pawankar R (1) University of Montpellier, (2) McMaster University, (3) Charite Hospital Berlin, (4) University of Ghent, (5) University of Genoa, (6) Creighton University, (7) Teikyo University, (8) Univ of Cape Town, (9) University of Sao Paolo) : Development and implementation of guidelines in allergic rhinitis—an ARIA-GA2LEN paper. *Allergy* 2010 ; 65 (10) : 1212-1221.
- 13) Gotoh M, Okubo K, Okuda M, Hamada C¹ (1) Tokyo University of science) : Clinical pharmacology study of the corticosteroid nasal spray dexamethasone cipeclate (NS-126) : examination of the durability of efficacy in the nasal induction test. *Expert Opin Investig Drugs* 2010 ; 19 (12) : 1475-1486.
- 14) Pawankar R, Canonica WG¹, Holgate TS², Lockey FR³ (1) University of Genoa, (2) Southampton University, (3) University of South Florida) : Executive Summary : WAO White Book on Allergy. *WAO White Book on Allergy* 2010 ; 1 : 1-13.
- 15) Lishu L, Saigusa H, Nakazawa Y, Nakamura T, Komachi T, Yamaguchi S, Liu A¹, Sugisaki Y¹, Shinya E², Shen H³ (1) 日本医科大学付属病院病理部, (2) 日本医科大学微生物学・免疫学, (3) Yanbian 大学電子顕微鏡診断学教室) : A pathological study of the bamboo nodule of the vocal fold. *Journal of Voice* 2010 ; 24 (6) : 738-741.
- 16) Gotoh M, Hashiguchi K¹, Okubo K (1) Department of Otolaryngology, KitasatoUniversity Kitasato Insti-

- tute Hospital, Tokyo, Japan) : Efficacy of Epinastine Hydrochloride for Antigen-provoked Nasal Symptoms in Subjects with Orchard Grass Pollinosis. *Allergol Int.* 2011 ; 60 (1) : 69-77.
- 17) Yamanaka K¹⁾, Yuta A²⁾, Kakeda M¹⁾, Kitagawa H¹⁾, Ogihara H¹⁾, Gabazza E³⁾, Okubo K, Kurokawa I¹⁾, Takeuchi K²⁾, Mizutani K¹⁾ (1) Dermatology, Mie Univ, 2) Otolaryngology, Mie Univ, 3) Immunology, Mie Univ) : SLIT improves cedar pollinosis by restoring IL-10 production from Tr1 and monocytes : IL-10 productivity is critical for becoming allergic. *Allergol Int.* 2011 ; 60 (1) : 45-51.
- 18) Fujikura T, Okubo K : Adrenomedullin level in the nasal discharge from allergic rhinitis cohort. *Peptides* 2011 ; 32 (2) : 368-373.
- 19) Pawankar R, Sanches-Borges M¹⁾, Bonini S²⁾, Kaliner M³⁾ : Burden of Disease : Rhinitis, Conjunctivitis, Rhinosinusitis. *WAO White Book on Allergy* 2011 ; 1 : 27-33.
- 20) Pawankar R, Canonica WG¹⁾, Holgate S²⁾, Lockey R³⁾ (1) University of Genoa, 2) Southampton University, 3) University of Soith Floria) : Estabishing the need to treat allergic diseases as a global public health issue. *WAO White Book on Allergy* 2011 ; 1 : 11-20.
- 21) Pawankar R, Canonica WG¹⁾, Holgate TS²⁾, Lockey FR³⁾ (1) University of Genoa, 2) Southampton University, 3) University of Soith Floria) : How to Address Allergic Diseases as a Public Health Issue. *WAO White Book on Allergy* 2011 ; 1 : 21-23.
- 22) Potter P¹⁾, Warner J²⁾, Pawankar R (1) Institute of Lung Health Cape Town, 2) Imperial College London) : Medical Education in Allergy. *WAO White Book on Allergy* 2011 ; 1 : 142-146.
- 23) 横島一彦, 中溝宗永, 粉川隆行, 稲井俊太, 酒主敦子, 八木聰明 : 頭頸部癌手術後の在院合併症死. *頭頸部癌* 2010 ; 36 (1) : 101-104.
- 24) 三枝英人 : ことばの検査 : 構音検査. *耳鼻咽喉科・頭頸部外科* 2010 ; 82 (5) : 281-287.
- 25) 三枝英人 : 咽喉頭異常感症. *JOHNS* 2010 ; 26 (4) : 610-613.
- 26) 橋口一弘¹⁾, 末松潔親²⁾, 増山敬祐³⁾, 遠藤周一郎³⁾, 後藤 稔, 大久保公裕 (1) 北里研究所病院 耳鼻咽喉科, 2) 東京臨床薬理研究所, 3) 山梨大学 耳鼻咽喉科) : 花粉曝露室 (OHIO Chamber) での花粉曝露前後の肺機能の変化についての検討. *日本鼻科学会誌* 2010 ; 49 (2) : 127-131.
- 27) 藤倉輝道, 渡邊健一 : 通年性アレルギー性鼻炎の Morning Attack に対する第2世代抗ヒスタミン薬の効果. *耳展* 2010 ; 53 (4) : 265-269.
- 28) 小町太郎¹⁾, 三枝英人¹⁾, 中村 毅¹⁾, 山口 智¹⁾, 門園 修¹⁾, 竹田数章²⁾ (1) 日本医科大学耳鼻咽喉科学教室, 2) 仙川耳鼻咽喉科) : 本態性音声振戦症に対する芍薬甘草湯の使用経験. *耳鼻咽喉科・頭頸部外科* 2010 ; 82 (9) : 607-612.
- 29) 三枝英人, 山口 智, 中村 毅, 小町太郎, 小津龍一郎, 門園 修, 粉川隆行, 愛野威一郎, 松岡智治 : 高齢発症の重症筋無力症に対する嚥下・構音機能改善手術の経験. *日本耳鼻咽喉科学会会報* 2010 ; 113 (10) : 805-809.
- 30) Migigta M¹⁾, Gocho Y¹⁾, Ueda T¹⁾, Saigusa H, Fukunaga Y¹⁾ (1) 日本医科大学小児科学教室) : An 8-year-old girl with a recurrence of obstructive sleep apnea syndrome caused by hypertrophy of tubal tonsils 4 years after adenotonsillectomy. *Journal of Nippon Medical School* 2010 ; 77 (5) : 265-268.
- 31) 後藤 稔, 大久保公裕 : 医師および患者調査で得られた花粉症の治療実態 鼻閉と睡眠障害との関連性. *Progress in Medicine* 2010 ; 30 (11) : 2965-2972.
- 32) 大久保公裕, 大西正樹, 久松建一¹⁾, 武田 健²⁾, 渡辺健介³⁾ (1) 久松耳鼻咽喉科, 2) 佐藤製薬, 3) 独協医大越谷) : 通年性アレルギー性鼻炎に対するSBN-024の有効性および安全性の検討. *薬理と治療* 2010 ; 38 (11) : 997-1007.
- 33) 大久保公裕, 大西正樹, 久松建一¹⁾, 武田 健²⁾, 渡辺健介³⁾ (1) 久松耳鼻咽喉科, 2) 佐藤製薬, 3) 独協医大越谷) :

季節性アレルギー性鼻炎に対する SBN-024 の有効性および安全性の検討. 薬理と治療 2010 ; 38 (11) : 1009-1017.

- 34) 湯田厚司¹⁾, 荻原仁美¹⁾, 宮本由紀子¹⁾, 竹内万彦¹⁾, 大久保公裕 (¹⁾ 3 重大耳鼻科): スギ花粉症に対する舌下免疫療法の治療年数による臨床効果の増強と治療終了後の継続効果. アレルギー 2010 ; 59 (11) : 1552-1561.
- 35) 横島一彦, 中溝宗永, 粉川隆行, 稲井俊太, 酒主敦子 : 頭頸部癌緩和ケアはどこで介入するか : 耳鼻咽喉科医の立場から. 頭頸部癌 2010 ; 36 (4) : 417-419.
- 36) 坂巻弘之¹⁾, 小林 慎²⁾, 後藤 稔 (¹⁾ 名城大学薬学部臨床経済学研究室, ²⁾ クレコンリサーチアンドコンサルティング 医療アセスメント研究部): 花粉症に対する第 1 世代抗ヒスタミン薬と第 2 世代抗ヒスタミン薬 (フェキソフェネジン) の費用比較分析. 医薬ジャーナル 2011 ; 47 (1) : 117-125.
- 37) 横島一彦, 中溝宗永, 稲井俊太, 酒主敦子, 粉川隆行, 山口 智, 戸根裕子, 八木聰明 : 肝硬変を併存する頭頸部癌患者への対応. 頭頸部外科 2011 ; 20 (3) : 303-307.
- 38) 太田伸男¹⁾, 鈴木祐輔¹⁾, 櫻井真一¹⁾, 深瀬 滋¹⁾, 青柳 優¹⁾, 大久保公裕 (¹⁾ 山形大耳鼻科): スギ花粉症の眼鼻以外の症状と初期治療. 耳鼻臨床 2011 ; 補 130 (1) : 44-48.

(2) 総説 :

- 1) Fiocchi A¹⁾, Brozek J²⁾, Schunemann H²⁾, Ebisawa M³⁾, Compalati E⁴⁾, Pawankar R (¹⁾ University of Milan, ²⁾ McMaster University, ³⁾ Sagami Hospital, ⁴⁾ University of Genoa): World Allergy Organization (WAO) Diagnosis and Rationale for Action against Cow's Milk Allergy (DRACMA) Guidelines. WAO Journal 2010 ; 3 (4) : 57-161.
- 2) Ohta K¹⁾, Akiyama K²⁾, Adachi M³⁾, Kohno Y⁴⁾, Okamoto Y⁴⁾, Takenaka H⁵⁾, Pawankar R (¹⁾ Teikyo University, ²⁾ Sagami Hospital, ³⁾ Showa University School of Medicine, ⁴⁾ Chiba University, ⁵⁾ Osaka University): Assessment of ARIA 2008 with a Japanese view point. Alerugi 2010 ; 59 (5) : 528-535.
- 3) Okubo K, Gotoh M : Allergen immunotherapy for allergic rhinitis. J Nippon Med Sch 2010 ; 77 (6) : 285-289.
- 4) Pawankar R, Ozu C, Mori S, Kimura S : Beyond immune barrier function : epithelial cells as immune regulators in allergic airway disease. J Allergy Immunology 2010 ; 3 (1) : 12-21.
- 5) 後藤 稔 : 患者満足度を上げる花粉症診療 : 専門医に送るポイント. 治療 2011 ; 93 (3) : 401-404.
- 6) 後藤 稔, 大久保公裕 : 花粉症に対する舌下免疫療法. 臨床免疫・アレルギー科 2010 ; 53 (4) : 400-406.
- 7) 後藤 稔 : よく使う日常治療薬の正しい使い方 アレルギー性鼻炎に対する薬の使い方. レジデントノート 2010 ; 12 (1) : 127-130.
- 8) 横島一彦, 中溝宗永, 稲井俊太, 酒主敦子, 八木聰明 : カラーアトラス : 頭頸部癌切除後の遊離組織移植による再建術. 日医大医学会誌 2010 ; 6 (2) : 61-63.
- 9) 大久保公裕 : 舌下免疫療法によるアレルギー制御. 感染・炎症・免疫 2010 ; 40 (1) : 97-98.
- 10) 馬場俊吉 : 耳漏・耳痛. PROGRESS IN MEDICINE 2010 ; 30 (4) : 1045-1048.
- 11) 横島一彦, 中溝宗永, 稲井俊太, 酒主敦子, 三枝英人, 八木聰明 : カラーアトラス : 喉頭温存手術. 日医大医学会誌 2010 ; 6 (3) : 101-103.
- 12) 湯田厚司¹⁾, 山中恵一²⁾, 大久保公裕 (¹⁾ 3 重大耳鼻科, ²⁾ 3 重大皮膚科): スギ花粉症の舌下免疫療法と IL-10 産生性誘導型制御性 T 細胞による作用機序. 耳鼻免疫アレルギー 2010 ; 28 (3) : 239-243.
- 13) 三枝英人 : ヒト喉頭の比較解剖 ヒトの声特有の問題. 日本医師会雑誌 2010 ; 139 (4) : 803-808.
- 14) 後藤 稔 : アレルギーに関する検査 誘発テスト (解説/特集). JOHNS 2010 ; 26 (8) : 1145-1148.
- 15) 横島一彦, 中溝宗永, 稲井俊太, 酒主敦子, 大久保公裕 : カラーアトラス : 頸部郭清術. 日医大医学会誌 2010 ; 6 (4) : 167-168.
- 16) 大久保公裕, 後藤 稔 : アレルギー性鼻炎のアレルゲン免疫療法. 耳鼻免疫アレルギー 2010 ; 28 (4) : 278-

283.

- 17) 大久保公裕：アレルギー性鼻炎の免疫療法のエビデンス. 耳鼻臨床 2010；103 (8)：695-700.
 - 18) 三枝英人：舌骨上筋群の解剖. 耳鼻咽喉科展望 2010；53 (4)：246-253.
 - 19) 中溝宗永：子供に魚の骨が刺さったらどうしたらよいのでしょうか？ご飯の丸呑みは有効ですか？. JOHNS 2010；26 (9)：1506-1507.
 - 20) 大久保公裕：アレルギー性鼻炎や花粉症で免疫療法があると聞きましたが、どのような治療法ですか. JOHNS 2010；26 (9)：1417-1418.
 - 21) 藤倉輝道：鼻噴霧用ステロイド薬の臨床. アレルギーの臨床 2010；30 (11)：970-974.
 - 22) 藤倉輝道：耳鼻咽喉科領域における抗ヒスタミン薬. アレルギーの臨床 2010；30 (14)：1254-1259.
 - 23) 大久保公裕：小児耳鼻咽喉科疾患の現状. 小児耳鼻咽喉科 2010；33 (3)：264-269.
 - 24) 三枝英人：知っておきたい生理・病態の基礎 嚙下. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 2010；82 (13)：959-964.
 - 25) 大久保公裕：アレルギー性鼻炎の現在と未来. 医事新報 2011；4530 (1)：74-77.
 - 26) 中溝宗永：私が愛用する手術器具 87 微小血管吻合に用いる器材. JOHNS 2011；27 (3)：519-522.
 - 27) 藤倉輝道：患者満足度を上げる花粉症診療：マスクをすれば万全でしょうか、どんなマスクを選べばよいですか. 治療 2011；93 (3)：466-467.
 - 28) 藤倉輝道：患者満足度を上げる花粉症診療：めがねは効果がありますか. ゴーグル以外でもよいでしょうか. 治療 2011；93 (3)：468-469.
- (3) 研究報告書：
- 1) 大久保公裕：リアルタイムモニター花粉数の情報のあり方に関する研究と舌下ペプチド・アジュバント療法の臨床研究 (主任). 厚生労働省研究報告書 2011；1 (1)：1-4.
- (4) 症例報告：
- 1) Fujikura T, Okubo K：Nasal myoepithelioma removed through endonasal endoscopic surgery：A case report. J Nippon Med Sch 2010；77 (5)：273-276.
 - 2) 中溝宗永, 稲井俊太：喉頭を温存する下咽頭・頸部食道切除と遊離空腸による再建術. 耳鼻咽喉科臨床 2010；103 (12)：1082-1083.
 - 3) 横山有希子¹⁾, 横島一彦¹⁾, 稲井俊太¹⁾, 酒主敦子¹⁾, 中溝宗永¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学耳鼻咽喉科学教室)：頸部筋肉内脂肪腫の1手術症例. 頭頸部外科 2011；20 (3)：255-260.

著書

- 1) 馬場俊吉：〔分担〕第104回 医師国家試験問題解説書, 2010；医学評論社.
- 2) Pawankar R, Mori S：〔分担〕Matrix metalloproteinases in allergic airway disease. Update on Allergy and Asthma (Shah K and Gupta N), 2010；pp28-37, Vashist Pub.
- 3) 馬場俊吉：医師国家試験既出問題集 サクセス GREEN '11 マイナー 12 LevelII+II, 2010；医学評論社.
- 4) Pawankar R：〔分担〕Allergic rhinitis and asthma：the link revisited. Monograph on Allergic diseases (Anand P. Advani V), 2010；pp24-30, Creative Pub.
- 5) Pawankar R, Kimura S：〔分担〕Novel inflammatory markers as targets for immunomodulation. Monograph on Allergic diseases (Anand P. Advani V), 2010；pp81-89, Creative Pub.
- 6) Pawankar R, Ozu C：〔分担〕International Consensus on Rhinosinusitis. Monograph on Allergic diseases (Anand P. Advani V), 2010；pp128-136, Creative Pub.
- 7) Saigusa H：〔共著〕Origins of the muscles of the human tongue. Speech disorders：causes, treatment and social effects (Alan E. Harrison), 2010；pp259-274, Nova Science.
- 8) 三枝英人：〔分担〕喉頭がん. 家庭医学大百科 (高久史磨), 2010；pp1713-1714, 法研.

- 9) 三枝英人：〔分担〕無喉頭のリハビリテーション．家庭医学大百科（高久史磨），2010；pp1712-1713，法研．
- 10) Pawankar R, Mahboub B¹⁾, Hashimoto S²⁾, Ozu C（¹⁾ Sharjah University, ²⁾ Nihon University, Tokyo）：〔分担〕Airway inflammation and remodeling．Textbook of Pulmonary & Critical Care Medicine（SK Jindal），2010；pp866-875，Jaypee Brothers Medical Publishers．
- 11) Pawankar R, Kimura S, Mori S, Yokoyama Y：〔分担〕Allergic Rhinitis, Asthma and Co-morbidities．Textbook of Pulmonary & Critical Care Medicine（Jindal SK），2010；pp840-846，Jaypee Brothers Medical Publishers．
- 12) Pawankar R, Passalacqua G：〔分担〕Immunotherapy and Immunomodulators for Allergic rhinitis and Asthma．Textbook of Pulmonary & Critical Care Medicine（Jindal SK），2010；pp909-915，Jaypee Brothers Medical Publishers．
- 13) 馬場俊吉：〔分担〕側頭骨骨折．耳鼻咽喉科・頭頸部外科 研修ノート（永井良三），2011；pp325-326，診断と治療社．
- 14) 大久保公裕，後藤 穰：〔自書〕プライマリケアのための花粉症診療．プライマリケアのための花粉症診療，2010；pp1-76，医薬ジャーナル．
- 15) 藤倉輝道：〔分担〕粘液線毛機能 他．耳鼻咽喉科学用語解説集（日本耳鼻咽喉科学会），2010；pp398-398，金芳堂．
- 16) 三枝英人：〔分担〕喉頭パピローマに対する治療のEBMとは？．EBM耳鼻咽喉科・頭頸部外科の治療（池田勝久・他），2010；pp302-306，中外医学社．
- 17) 馬場俊吉：〔分担〕耳鼻咽喉科．医師国家試験既出問題集 サクセス RED '11 マイナー Level III，2010；pp167-217，医学評論社．
- 18) 馬場俊吉：〔分担〕CBT こあかり 2011 3-II プール 五肢択一形式篇 C 人体各器官の正常構造と機能，診断，治療（「CBT こあかり リ・コ」編集委員会編），2010；医学評論社．
- 19) 馬場俊吉：〔分担〕CBT こあかり 20113-III プール 五肢択一形式篇 D 全身におよぶ生理的变化，病態，診断，治療 E 診療の基本 F 医学・医療と社会（「CBT こあかり リ・コ」編集委員会編），2010；医学評論社．
- 20) 馬場俊吉：〔分担〕CBT こあかり 2011 3-1 プール 五肢択一形式篇 A 基本事項 B 医学一般（「CBT こあかり リ・コ」編集委員会編），2010；医学評論社．
- 21) 馬場俊吉：〔共著〕CBT こあかり 2011 5 リ・コ 最新問題篇（「CBT こあかり リ・コ」編集委員会編），2010；医学評論社．
- 22) 三枝英人：〔分担〕喉頭軟化症．家庭医学大百科（高久史磨），2010；pp1709-1710，法研．
- 23) 三枝英人：〔分担〕反回神経麻痺．家庭医学大百科（高久史磨），2010；pp1711-1712，法研．
- 24) 三枝英人：〔分担〕喉頭乳頭腫．家庭医学大百科（高久史磨），2010；pp1712-1713，法研．
- 25) 三枝英人：〔分担〕先天性喘鳴．家庭医学大百科（高久史磨），2010；pp1710-1710，法研．
- 26) 大久保公裕：〔共著〕アレルギー性鼻炎．アレルギー疾患診断・治療ガイドライン2010（西間三馨，秋山一男，竹中洋，大田健，片山一朗，大久保公裕，日本アレルギー学会），2010；pp166-197，協和企画．
- 27) 後藤 穰：〔分担〕第4章：免疫療法．新しい診断と治療のABC：アレルギー性鼻炎 改訂第2版（今野昭義），2011；pp156-162，最新医学社．
- 28) 三枝英人：〔分担〕構音障害．耳鼻咽喉科・頭頸部外科研修ノート（山唄達也・他），2011；pp425-429，診断と治療社．
- 29) 三枝英人：〔分担〕嚥下障害．耳鼻咽喉科・頭頸部外科研修ノート（山唄達也・他），2011；pp430-433，診断と治療社．
- 30) 大久保公裕：〔分担〕新しい治療1．舌下免疫療法．最新医学別冊 新しい診断と治療のABCアレルギー性鼻

炎 改訂第2版(今野昭義), 2011; pp180-186, 最新医学社.

- 31) 馬場俊吉:〔分担〕耳鼻咽喉科. 医師国家試験既出問題集 サクセス RED '12マイナー LevelIII, 2011; pp180-234, 医学評論社.
- 32) 馬場俊吉:〔自著〕医師国家試験既出問題集 GREEN '12マイナー 12 耳鼻咽喉科 Level I+II, 2011; 医学評論社.

学会発表

〔追加分〕

追加分シンポジウム:

- 1) Pawankar R, Togias A¹⁾ (¹⁾ National Institute of Health, USA): Non-Allergic Rhinitis Task Force Report: Classification, pathophysiology, treatment. Annual Meeting of the American Academy of Allergy Asthma and Immunology (San Francisco, USA), 2010. 3.

(1) 特別講演:

- 1) Pawankar R: Update on Pathomechanisms to treatment of Allergic Rhinitis. Annual Congress of the Lebanese Society of Allergy and Immunology (Beirut, Lebanon), 2010. 4.
- 2) Pawankar R: Allergic Rhinitis and co-morbid asthma- Revisiting the link. Spring congress of the Korean Academy of Allergy Asthma and Clinical Immunology (Seoul, Korea), 2010. 5.
- 3) Pawankar R: Allergic rhinitis and asthma: understanding the link. Joint Workshop of the Indian Academy of Allergy and Asian Allergy Asthma (Mysore, India), 2010. 6.
- 4) Pawankar R: Mast cells in allergic airway inflammation and remodelig. Middle East Allergy Symposium (Dubai, UAE), 2010. 9.
- 5) Pawankar R: Inflammation and remodelling in allergic airway disease. 2nd Pulmocon, Bangladesh Lung Health Congress (Dhaka, Bangladesh), 2010. 10.
- 6) 中溝宗永: 頭頸部がんの診療の注意点～喉頭がん検診に向けて. 板橋区耳鼻咽喉科医会(平成22年度第3回)(東京), 2010. 9.
- 7) 大久保公裕: 花粉症治療のエビデンス. 千代田区耳鼻咽喉科医会講演会(東京), 2010. 9.
- 8) 横島一彦: 喉頭癌診療の現状と将来展望. 大宮市医師会医学講座(大宮), 2010. 10.
- 9) 大久保公裕: アレルギーと鼻粘膜炎症. 東京都耳鼻咽喉科医会学術講演会(東京), 2010. 10.
- 10) 大久保公裕: アレルギー性鼻炎に対する免疫療法のエビデンス. 第3回アレルギーフォーラム in Saitama(浦和), 2010. 10.
- 11) 大久保公裕: アレルギーに関する最近の知見. 千代田区耳鼻咽喉科講演会(東京), 2010. 10.
- 12) 大久保公裕: アレルギー性鼻炎のトピックス. 第24回沖縄耳鼻咽喉科医会講演会(那覇), 2010. 11.
- 13) 大久保公裕: 妊娠中の花粉症対策. 横浜市産婦人科医会講演会(横浜), 2011. 1.
- 14) 大久保公裕: アレルギー性鼻炎・花粉症の治療エビデンス. 第28回宮崎耳鼻咽喉科懇話会(宮崎), 2011. 1.
- 15) 三枝英人: こえの異常をみる. 荒川区アレルギー疾患座談会(東京), 2011. 1.
- 16) 大久保公裕: 花粉症の最新治療. 西湘耳鼻咽喉科医会講演会(小田原), 2011. 2.
- 17) 大久保公裕: 花粉症に対する抗ロイコトリエン薬のエビデンス. 第10回東海アレルギーフォーラム(名古屋), 2011. 2.
- 18) 大久保公裕: 花粉症に対する抗ロイコトリエン薬のエビデンス. 第3回佐世保 Airway Forum(佐世保), 2011. 2.
- 19) 大久保公裕: アレルギー性鼻炎・花粉症の治療エビデンス. 栃木耳鼻咽喉科臨床セミナー(宇都宮), 2011. 2.

- 20) 大久保公裕：花粉症に対する抗ロイコトリエン薬のエビデンス. 北区医師会学術講演会（東京），2011. 2.
 - 21) 大久保公裕：花粉症における治療エビデンス. 豊島区耳鼻科医会講演会（東京），2011. 2.
 - 22) 三枝英人：嚥下障害の発症とその対応. 東京女子医科大学東医療センター耳鼻咽喉科脳神経外科合同カンファレンス（第1回）（東京都），2011. 2.
 - 23) 大久保公裕：アレルギー性鼻炎のエビデンス. 第18回福島県アレルギー研究会（福島），2011. 3.
 - 24) 藤倉輝道：花粉症・アレルギー性鼻炎治療の展望. 中原近隣地区耳鼻咽喉科臨床懇話会（第10回）（川崎市），2011. 3.
- (2) 宿題講演：
- 1) 大久保公裕：アレルギー性鼻炎の治療：未来予想図. 第57回関東耳鼻咽喉科アレルギー懇話会（東京），2010. 9.
- (3) 招待講演：
- 1) Pawankar R：Immunomodulators in allergic airway disease. Annual Congress of Indian College of Allergy and Applied Immunology (Udaipur, India), 2010. 10.
 - 2) Pawankar R：The role of IgE in allergic airway disease and the rational of IgE blockade. SKMC Medical Seminar (UAE), 2011. 3.
 - 3) 大久保公裕：アレルギー性鼻炎のエビデンス. 第398回富士宮市医師会学術講演会（富士宮），2010. 9.
 - 4) 大久保公裕：花粉症に対する免疫療法のエビデンス. 第3回愛知アレルギー・免疫療法研究会（名古屋），2010. 9.
 - 5) 大久保公裕：アレルギー性鼻炎と舌下免疫療法. オキュラーサーフェス研究会（神戸），2010. 11.
- (4) 教育講演：
- 1) 三枝英人：鼻咽腔内視鏡の注意点と観察される各組織や見逃してはならない器質的疾患. 2010年度群馬知的障害障害児（者）摂食・嚥下指導者養成セミナー（群馬県），2010. 10.
 - 2) Pawankar R：Pathomechanisms of Non Allergic Rhinitis. 第60回日本アレルギー学会秋季学術大会，2010. 11.
 - 3) 三枝英人：のどの健康について～安全に食べる為に～. 平成立石病院葛飾区民公開講座（東京都），2010. 5.
 - 4) 中溝宗永：外来手術シリーズ（3）（口腔・咽頭の小手術）. 日本耳鼻咽喉科学会専門医講習会（第24回）（広島），2010. 11.
 - 5) 三枝英人：嚥下障害に悩む患者を如何に診察し，理解するべきか？. 日本嚥下医学会総会・学術講演会（第34回）（東京都），2011. 2.
 - 6) 藤倉輝道：アレルギー性鼻炎・花粉症薬物治療の現状. 平成22年度 診療ガイドライン薬剤コース スクーリング（横浜），2011. 3.
- (5) シンポジウム：
- 1) Pawankar R：Update on Chrnch Rhinosinusitis and nasal polyposis. Annual Congress of the Lebanese Society of Allergy and Immunology (Beirut, Lebanon), 2010. 4.
 - 2) Pawankar R：Mouse models cannot all explain allergic airway disease. 29th Congress of the European Academy of Allergy Asthma and Clinical Immunology Congress (London, UK), 2010. 6.
 - 3) Pawankar R, Mori S, Kimura S：Immunomodulators in Allergic Airway disease：past, present and future. 29th International Symposium on Allergy and Infection of the Nose (Geneva, Switzerland), 2010. 6.
 - 4) Pawankar R：Brief Overview on Mast cells in allergic airway disease. 29th Congress of the European Academy of Allergy Asthma and Clinical Immunology Congress, 2010. 6.
 - 5) Pawankar R：Etiology and mechanisms of anaphylaxis. Middle East Allergy Symposium (Dubai, UAE), 2010. 9.

- 6) Tomiyama S ⁽¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院耳鼻咽喉科) : Immunological aspects and its implication on pathogenesis of Meniere's disease (Pathophysiology of Meniere's disease). International Symposium on Meniere's disease and Inner ear disorders (第6回) (京都), 2010. 11.
 - 7) Pawankar R : IgE-immune inflammation in allergic airway disease- its clinical implications. 2010 Annual meeting of the American College of Allergy Asthma and Clinical Immunology (Phoenix, USA), 2010. 11.
 - 8) Pawankar R : Rhinosinusitis- Etiology to mechanisms. 8th Asian Pacific Congress of Allergy Asthma and Clinical Immunology (Singapore), 2010. 11.
 - 9) Pawankar R : WAO recommendations and guidelines on undergraduate training in Allergy. 8th Asian Pacific Congress of Allergy Asthma and Clinical Immunology (Singapore), 2010. 11.
 - 10) Pawankar R : Asthma and allergic rhinitis : the link. 1st WAO International Scientific Conference, Dubai, UAE (Dubai, UAE), 2010. 12.
 - 11) Pawankar R : Asthma, rhinosinusitis and otitis media with effusion. 1st WAO International Scientific Conference (Dubai, UAE), 2010. 12.
 - 12) 後藤 穰 : 減感作療法の理論と実際. 日本アレルギー学会春季学術集会 (第22回) (京都), 2010. 5.
 - 13) 橋口一弘¹⁾, 大久保公裕 ⁽¹⁾ 橋口耳鼻咽喉科クリニック) : 花粉暴露室の現状とこれから. (花粉暴露室の実際). 第22回日本アレルギー学会春季臨床大会 (京都), 2010. 5.
 - 14) 大久保公裕 : 現在の治療最前線. (アレルギー性鼻炎の病態解明と治療最前線). 第49回日本鼻科学会 (札幌), 2010. 8.
 - 15) 後藤 穰, 大久保公裕 : 免疫理論に基づいた免疫療法をめざして. 日本アレルギー学会秋期学術集会 (第60回) (東京), 2010. 11.
 - 16) 横島一彦, 中溝宗永 : 導入化学療法による治療法の選択. 頭頸部癌治療カンファレンス (第50回) (東京), 2010. 11.
 - 17) 大久保公裕 : 鼻噴霧用ステロイド薬のアップデート. (炎症性疾患としてのアレルギー性鼻炎に対する治療戦略). 第60回日本アレルギー学会総会 (東京), 2010. 11.
 - 18) 大久保公裕 : One airway one disease : 耳鼻咽喉科の立場から. (QOLの向上をめざした小児気管支喘息の治療戦略). 第19回小児臨床薬理・アレルギー・免疫研究会 (京都), 2011. 2.
- (6) パネルディスカッション :
- 1) 横島一彦, 中溝宗永 : 緩和ケアはどこで介入するか : 耳鼻咽喉科医の立場から. 日本頭頸部癌学会 (第34回) (東京), 2010. 6.
 - 2) 藤倉輝道, 関根久遠 : 入院管理下で行う鼻閉改善手術の現状と展望. 関東耳鼻咽喉科アレルギー懇話会 (第57回) (東京), 2010. 9.
 - 3) 牧野浩司¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 野村 務¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 中溝宗永, 横島一彦, 三枝英人, 高橋 健¹⁾, 勝田美和子¹⁾, 堀場光二¹⁾, 横井公良¹⁾, 内田英二¹⁾ ⁽¹⁾ 第一外科) : 食道癌術後の縫合不全に続発した難治性縦隔瘻の治療. 日本気管食道科学会 (第62回) (大分), 2010. 11.
- (7) セミナー :
- 1) 大久保公裕 : アレルギー性鼻炎の治療戦略 : 第2世代抗ヒスタミン薬と鼻噴霧用ステロイド薬の使い分け. 第22回日本アレルギー学会春季臨床大会 (京都), 2010. 5.
 - 2) 大久保公裕 : 小児耳鼻咽喉科疾患の現状. 第5回日本小児耳鼻咽喉科学会 (札幌), 2010. 6.
 - 3) 大久保公裕 : アレルギー性鼻炎治療のトピックス. 第72回耳鼻咽喉科臨床学会 (倉敷), 2010. 7.
 - 4) 大久保公裕 : アレルギー性鼻炎における抗ロイコトリエン薬のエビデンス. 第49回日本鼻科学会 (札幌), 2010. 8.
 - 5) 後藤 穰 : 花粉症診療の最新の知見と動向. 日本アレルギー学会秋期学術集会 (第60回) (東京), 2010. 11.

- 6) 大久保公裕：小児におけるアレルギー性鼻炎の治療戦略. 第60回日本アレルギー学会総会（東京），2010. 11.
- (8) ワークショップ：
- 1) Pawankar R：Pathomechanisms, diagnosis and treatment of allergic rhinitis. Chronic Allergic Airway Disease Dubai Health Authority joint Workshop (Dubai, UAE), 2010. 4.
 - 2) Pawankar R：In vitro versus in vivo testing in Allergy diagnosis. Chronic Allergic Airway Disease Dubai Health Authority joint Workshop (Dubai, UAE), 2010. 4.
 - 3) Pawankar R：Co-morbidities of Allergic Rhinitis. 29th International Symposium on Allergy and Infection of the Nose (Geneva, Switzerland), 2010. 6.
 - 4) Pawankar R：Pathomechanisms of Allergic rhinitis. Joint Workshop of the Indian Academy of Allergy and Asian Allergy Asthma (Mysore, India), 2010. 8.
 - 5) Pawankar R：Rhinitis：Classification and Differential diagnosis. Joint Workshop of the Indian Academy of Allergy and Asian Allergy Asthma, 2010. 8.
 - 6) Pawankar R：Mechanisms of Anaphylaxis. 8th Asian Pacific Congress of Allergy Asthma and Clinical Immunology (Singapore), 2010. 11.
 - 7) Pawankar R：Nasal challenge tests. 1st WAO International Scientific Conference (Dubai,UAE), 2010. 12.
 - 8) 横島一彦, 中溝宗永, 粉川隆行, 稲井俊太, 酒主敦子, 戸根裕子, 大久保公裕：頭頸部癌診療におけるセカンドオピニオンの現状と課題. 日本癌治療学会（第48回）（京都），2010. 10.
- (9) 一般講演：
- 1) Yokoshima K, Nakamizo M, Inai S, Sakanushi A, Yagi T：Functional relationship between the thyroid gland and the parathyroid gland after laryngo-pharyngectomy with bilateral neck dissection. World Congress of International Federation of Head and Neck Oncologic Societies (4 th.) (Seoul, Korea), 2010. 6.
 - 2) Saigusa H, Nakamura T, Komachi T, Yamaguchi S, Kadosono O：Narrowing of lateral Palatopharyngeal wall for motor speech disorder as a Seech surgery. East Asian conference Of Phonosurgery (7th) (Tokyo), 2010. 10.
 - 3) Komachi T¹⁾, Saigusa H¹⁾, Nakamura T¹⁾, Yamaguchi S¹⁾, Kadosono O¹⁾ (¹⁾ Nippon Medical School)：Pathological studies for the mechanism of the surgical effects by artificial rotation of the arytenoid cartilage. East Asian Conference on Phonosurgery (the 7th) (東京都千代田区), 2010. 11.
 - 4) Roongrotwattanasiri K¹⁾, Pawankar R, Kimura S, Mori S, Yagi T (¹⁾ Chiangmai University)：FOXP3, a regulatory T cell specific marker, and its expression in nasal polyps. 1st WAO International Scientific Conference (Dubai,UAE), 2010. 12.
 - 5) Mahboub B¹⁾, Pawankar R, Rafique M¹⁾, Sulaiman N²⁾, Al Hammadi S³⁾ (¹⁾ Rashid Hospital, ²⁾ Sharjah University, ³⁾ UAE University)：Prevalence, treatment patterns and risk factors of asthma and rhinitis among adults in the UAE. 1st WAO International Scientific ConferenceDubai,UAE (Dubai, UAE), 2010. 12.
 - 6) 中村 毅, 小町太郎, 井手路子, 細矢 慶, 馬場俊吉：当科におけるクリニカルパスの現状. 日耳鼻千葉県地方部会（第78回）（千葉県千葉市），2011. 1.
 - 7) 山口 智, 三枝英人, 中村 毅, 小町太郎, 門園 修：声門癒着と診断され, 声門下永久気管孔形成術が行われていた症例. 東日本音声外科研究会（第31回）（東京都），2010. 4.
 - 8) 三枝英人, 山口 (智), 門園 修, 中村 毅, 小町太郎：長期経過した下顎・舌ジスキネジーによる嚥下障害の1例. 耳鼻咽喉科リハビリテーション研究会（第19回）（東京都），2010. 4.
 - 9) 藤倉輝道：携帯型ネブライザーを用いたスギ花粉症自宅治療の有効性. 日本耳鼻咽喉科学会総会（第111回）（仙台），2010. 5.

- 10) 許田典男¹⁾, 佐藤春明²⁾, 恩田宗彦³⁾, 小野ゆり³⁾, 彭 為霞¹⁾, 中溝宗永, 土屋眞一¹⁾, 内藤善哉¹⁾ (1) 日本医科大学 病理学講座, 2) 日本医科大学 付属病院 病理部, 3) 東京警察病院 病理診断科): 耳下腺 crystalloid granuloma の 1 例. 日本臨床細胞学会総会 (第 51 回) (春季大会) (横浜), 2010. 5.
- 11) 横島一彦, 中溝宗永, 稲井俊太, 酒主敦子, 杉崎一樹, 戸根裕子, 八木聰明: HPV 陽性扁桃癌 8 例の検討. 日本耳鼻咽喉科学会 (第 111 回) (仙台), 2010. 5.
- 12) 富山俊一: 内耳自己免疫病: 初期病状の多様性. 日本耳鼻咽喉科学会総会 (第 111 回) (仙台), 2010. 5.
- 13) 横山有希子¹⁾, 横島一彦¹⁾, 中溝宗永¹⁾, 稲井俊太¹⁾, 酒主敦子¹⁾, 八木聰明 (1) 日本医科大学付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科): 頸部巨大脂肪腫の 1 手術症例. 日本耳鼻咽喉科学会 (第 111 回) (宮城県仙台市), 2010. 5.
- 14) 高橋裕一¹⁾, 太田伸男²⁾, 鈴木祐輔²⁾, 青柳 優²⁾, 最上久美子¹⁾, 大久保公裕 (1) 山形県衛生研, 2) 山形大耳鼻科): 同一市内におけるリアルタイムモニター (KH-3000) 相互の測定値の比較. 第 22 回日本アレルギー学会春季臨床大会 (京都), 2010. 5.
- 15) 稲井俊太, 横島一彦, 中溝宗永, 粉川隆行, 酒主敦子, 八木聰明: 肺癌を重複した喉頭癌症例の検討. 日本頭頸部癌学会 (第 34 回) (東京), 2010. 6.
- 16) 中溝宗永, 横島一彦, 稲井俊太, 酒主敦子, 八木聰明, 栗林茂彦¹⁾, 宮下次廣¹⁾ (1) 日本医科大学放射線医学教室): 声門癌 T1,T2 の治療成績: 再発例の検討. 日本頭頸部癌学会 (第 35 回) (東京), 2010. 6.
- 17) Yokoshima K, Nakamizo M, Inai S, Sakanushi A, Yagi T: Functional relationship between the thyroid gland and the parathyroid gland after laryngo-pharyngectomy with bilateral neck dissection. World Congress of International Federation of Head and Neck Oncologic Societies (4th.) (Seoul, Korea), 2010. 6.
- 18) 後藤 稔, 大久保公裕: 抗原誘発に対する点鼻ステロイドの有用性. 第 65 回臨床アレルギー研究会 (東京), 2010. 6.
- 19) 小町太郎¹⁾, 中村 毅¹⁾, 細矢 慶¹⁾, 井手路子¹⁾, 後藤 稔¹⁾, 馬場俊吉¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 耳鼻咽喉科): 眼窩先端症候群をきたした蝶形骨洞真菌症の 1 例. 日耳鼻千葉県地方部会学術講演会 (第 77 回) (千葉県), 2010. 6.
- 20) 細矢 慶¹⁾, 小町太郎¹⁾, 浅野 健²⁾, 中村 毅¹⁾, 井手路子¹⁾, 馬場俊吉¹⁾ (1) 千葉北総病院耳鼻咽喉科, 2) 千葉北総病院小児科): 当科で経験した LCH (Langerhans cell histiocytosis) の 1 症例. 小児耳鼻咽喉科 (5) (札幌), 2010. 6.
- 21) 横山有希子¹⁾, 中溝宗永¹⁾, 横島一彦¹⁾, 齊藤亜希子¹⁾, 酒主敦子¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科): 喉頭全摘出後に生じた放射線関連下咽頭癌 3 症例に対する手術療法. 耳鼻咽喉科臨床学会 (倉敷市), 2010. 7.
- 22) 門園 修, 三枝英人, 山口 智, 大久保公裕: 全身麻酔下の整復を要した顎関節脱臼の 1 例. 日本耳鼻咽喉科学会東京都地方部会 (第 4 回) (東京都), 2010. 7.
- 23) 三樹いずみ, 稲井俊太, 酒主敦子, 横島一彦, 中溝宗永, 大久保公裕: 悪性腫瘍が疑われた上顎洞血腫の 1 例. 日本鼻科学会 (第 49 回) (札幌), 2010. 8.
- 24) 菅原一真¹⁾, 原 浩貴¹⁾, 橋本 誠¹⁾, 御厨剛史¹⁾, 大久保公裕, 山下裕司¹⁾ (1) 山口大耳鼻科): アレルギー性鼻炎における鼻噴霧用ステロイド薬モメタゾンフランカルボン酸の有効性と QOL に関する検討. 第 49 回日本鼻科学会 (札幌), 2010. 8.
- 25) 米倉修二¹⁾, 堀口茂俊¹⁾, 花澤豊行¹⁾, 岡本美孝¹⁾, 松根彰志²⁾, 黒野祐一²⁾, 山田武千代³⁾, 藤枝重治³⁾, 岡野光博⁴⁾, 大久保公裕 (1) 千葉大耳鼻科, 2) 鹿児島大耳鼻科, 3) 福井大耳鼻科, 4) 岡山大耳鼻科): 通年性アレルギー性鼻炎に対する甜茶カプセルの臨床効果の検討 (ランダム化 2 重盲検試験より). 第 49 回日本鼻科学会 (札幌), 2010. 8.
- 26) 太田伸男¹⁾, 藤枝重治²⁾, 増山敬祐³⁾, 大久保公裕 (1) 山形大耳鼻科, 2) 福井大耳鼻科, 3) 山梨大耳鼻科): 同

- 一市内の複数リアルタイム花粉モニター測定値の比較. 第49回日本鼻科学会(札幌), 2010. 8.
- 27) 戸根裕子, 酒主敦子, 稲井俊太, 横島一彦, 中溝宗永, 大久保公裕: 高齢頭頸部癌患者における遊離組織移植の安全性. 日本癌治療学会(第48回)(国立京都国際会館), 2010. 10.
 - 28) 関根久遠, 池園哲郎, 木村百合香¹⁾, 片岡遼平²⁾, 椎葉恭子, 新藤 晋, 喜多村健³⁾, 八木聰明⁴⁾, 大久保公裕⁽¹⁾ 地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター耳鼻咽喉科, ²⁾ 国立大学法人総合研究大学院大学, ³⁾ 東京医科歯科大学医学部耳鼻咽喉科, ⁴⁾ 千葉柏リハビリテーション学院): 高齢者内耳 microRNA の発現. 日本耳科学会(松山), 2010. 10.
 - 29) 新藤 晋, 池園哲郎, 岩崎 聡¹⁾, 稲井俊太, 八木聰明²⁾, 大久保公裕⁽¹⁾ 信州大学 人工聴覚器学, ²⁾ 千葉・柏リハビリテーション学院): 人工内耳埋込術を施行した好酸性中耳炎の1症例. 2010.10. 日本耳科学会総会(第20回)(愛媛県松山市), 2010. 10.
 - 30) 小町太郎¹⁾, 三枝英人¹⁾, 中村 毅¹⁾, 山口 智¹⁾, 門園 修¹⁾, 粉川隆行¹⁾, 愛野威一郎¹⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学耳鼻咽喉科学教室): 鼻咽腔の開放ならびに開閉調節機構について. 日本音声言語医学会(第55回)(東京都), 2010. 10.
 - 31) 門園 修, 三枝英人, 山口 智, 小町太郎, 中村 毅, 大久保公裕: 呼吸困難を呈する咽喉頭ミオクロウニスに対して芍薬甘草湯の効果を認めた1例. 耳鼻咽喉科漢方研究会(第26回)(東京都), 2010. 10.
 - 32) 三枝英人, 山口 智, 門園 修, 中村 毅, 小町太郎, 大久保公裕¹⁾, 彭 為霞¹⁾, 内藤善哉⁽¹⁾ 日本医科大学第二病理学教室): 両側同時に感音難聴を発症した髄膜癌症の1例. 日本音声言語医学会総会・学術講演会(第55回)(東京都), 2010. 10.
 - 33) 三枝英人, 粉川隆行, 愛野威一郎, 松岡智治, 中村 毅, 小町太郎, 山口 智, 門園 修, 大久保公裕: 運動障害性構音障害に対する”神経生理学的”構音訓練. 日本音声言語医学会総会・学術講演会(第55回)(東京都), 2010. 10.
 - 34) 鈴木祐輔¹⁾, 太田伸男¹⁾, 高橋祐一²⁾, 深瀬 滋¹⁾, 大久保公裕, 青柳 優¹⁾ ⁽¹⁾ 山形大耳鼻科, ²⁾ 山形県衛生研): 当科における花粉抗原陽性率と花粉共通抗原性の検討. 第60回日本アレルギー学会総会(東京), 2010. 11.
 - 35) 太田伸男¹⁾, 鈴木祐輔¹⁾, 深瀬 滋¹⁾, 櫻井真一¹⁾, 青柳 優¹⁾, 大久保公裕⁽¹⁾ 山形大耳鼻科): スギ花粉飛散花粉数とスギ花粉症患者の眼鼻以外の症状. 第60回日本アレルギー学会総会(東京), 2010. 11.
 - 36) 三枝英人, 山口 智, 門園 修, 中村 毅, 小町太郎, 大久保公裕¹⁾, 伊藤裕之⁽¹⁾ 神奈川リハビリテーション病院耳鼻咽喉科): 延髄梗塞後の嚥下障害に対する嚥下機能改善術後に重篤な全身状態に至った, もしくは死亡した症例について. 日本気管食道科学会総会・学術講演会(第62回)(大分県), 2010. 11.
 - 37) 山口 智, 三枝英人, 中村 毅, 小町太郎, 門園 修, 中溝宗永, 大久保公裕: 当科で行っている局所麻酔下の嚥下機能改善手術. 日本気管食道科学会総会・学術講演会(第62回)(大分県), 2010. 11.
 - 38) 中溝宗永, 横島一彦, 稲井俊太, 酒主敦子, 粉川隆行, 大久保公裕: 頸動脈小体腫瘍摘出術: 3例の手術経験から. 日本頭頸部外科学会(第35回)(宇都宮), 2011. 1.
 - 39) 横島一彦, 中溝宗永, 稲井俊太, 酒主敦子, 粉川隆行, 八木聰明: 上甲状腺静脈の内頸静脈への合流様式の検討: 喉頭・下咽頭進行癌手術における副甲状腺機能温存術式のコツ. 日本頭頸部外科学会(第21回)(宇都宮), 2011. 1.
 - 40) 中村 毅, 三枝英人, 小町太郎, 山口 智, 門園 修, 愛野威一郎, 大久保公裕: 下顎骨の位置と咽頭期嚥下運動の機能的相関について. 日本嚥下医学会(第34回)(東京都港区), 2011. 2.
 - 41) 関根久遠, 池園哲郎, 木村百合香¹⁾, 片岡遼平²⁾, 椎葉恭子, 新藤 晋, 喜多村健³⁾, 八木聰明⁴⁾, 大久保公裕⁽¹⁾ 地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター耳鼻咽喉科, ²⁾ 国立大学法人総合研究大学院大学, ³⁾ 東京医科歯科大学医学部耳鼻咽喉科, ⁴⁾ 千葉柏リハビリテーション学院): 高齢者内耳 microRNA の発現. 厚生労働科学研究費補助金特定疾患対策研究事業 前庭機能異常に関する調査研究 平成22年度研究報告会(東京), 2011. 2.

- 42) 新藤 晋, 池園哲郎: CTP 検出法を用いた外傷性外リンパ瘻の臨床統計. 平成 22 年度厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患克服研究事業)「新規診断マーカー CTP を用いた難治性内耳疾患の多施設検討」研究報告会(東京), 2011. 2.
- 43) 三枝英人, 田沼久美子¹⁾, 山下和雄²⁾ (¹⁾ 日本医科大学第二解剖学教室, ²⁾ 日本医科大学第一解剖学教室): ヒト頸部食道の自律神経支配について. 日本嚥下医学会総会・学術講演会(第 34 回)(東京都), 2011. 2.
- 44) 山口 智, 三枝英人, 中村 毅, 小町太郎, 門園 修: 不当に 3 年間にわたって経口摂取を禁じられていた 1 例. 日本嚥下医学会総会・学術講演会(第 34 回)(東京都), 2011. 2.
- 45) 門園 修, 三枝英人, 中村 毅, 山口 智, 小町太郎, 愛野威一郎: 転倒後に発症した特異な嚥下障害の 1 例. 日本嚥下医学会総会・学術講演会(第 34 回)(東京都), 2011. 2.
- 46) 中村 毅, 三枝英人, 小町太郎, 山口 智, 門園 修, 愛野威一郎, 大久保公裕: 下顎骨の位置と咽頭期嚥下運動の機能的相関について. 日本嚥下医学会総会・学術講演会(第 34 回)(東京都), 2011. 2.
- 47) 藤倉輝道, 大久保公裕: 鼻粘膜における Adrenomedullin の存在とその機能に関する検討. 気道病態研究会(第 23 回)(東京), 2011. 3.

15. 泌尿器科学講座

[付属病院泌尿器科]

研究業績

論文

[追加分]

追加分原著：

- 1) Hatanaka M¹⁾, Shimba S¹⁾, Sakaue M¹⁾, Kondo Y²⁾, Kagechika H¹⁾, Kokame K¹⁾, Miyata T¹⁾, Hara S¹⁾ (¹⁾ Dept. of Public health, School of Pharm, Kitasato University, ²⁾ Dept. of Urology, Nippon Medical School) : Hypoxia-inducible factor-3alpha functions as an accelerator of #T#-L1 adipose differentiation. Biol Pharm Bull 2009 ; 32 (7) : 1166-1172.
- 2) Suzuki Y, Yukihiro K, Hara S¹⁾, Kimata R, Taiji N (¹⁾ Department of Health Chemistry, School of Pharmaceutical Sciences, Showa University) : Effect of the hsp90 inhibitor geldanamycin on androgen response of prostate cancer under hypoxic conditions. International Journal of Urology 2010 ; 17 (3) : 281-285.

(1) 原著：

- 1) Ohgaki K¹⁾, Horiuchi K¹⁾, Hikima N¹⁾, Kondo Y²⁾ (¹⁾ Dept. of Urology, Musashikosugi Hospital, Nippon Medical School, ²⁾ Dept. of Urology, Nippon Medical School) : Facilitation of expulsion of ureteral stones by addition of α 1-blockers to conservative therapy. Scand J Urol Nephrol 2010 ; 44 (6) : 420-424.
- 2) Hmasaki T¹⁾, Suzuki Y. ¹⁾, Tomita Y¹⁾, Kimura G¹⁾, Kondo Y. ¹⁾ (¹⁾ Department of Urology, Nippon Medical School) : Efficacy of Transurethral Resection of the Bladder Tumor (TUR-BT) for Huge Bladder Cancer. J Nippon Med Sch. 2010 ; 77 (4) : 190-194.
- 3) Ryoji K¹⁾, Yukihiro K¹⁾, Kaoru N¹⁾, Satoru M²⁾, Tatsuo K²⁾ (¹⁾ Department of Urology Nippon Medical School, ²⁾ Department of Radiology Nippon Medical School) : The negative-balance isolated pelvic perfusion method using ultrahigh-dose cisplatin for invasive bladder cancer with poor risk. Int J Clin Oncol 2010 ; 15 : 433-439.
- 4) 柳 雅人¹⁾, 西村泰司¹⁾, 近藤幸尋⁶⁾, 山崎恵一²⁾, 西山 徹³⁾, 石井健嗣⁴⁾, 加藤弘毅⁵⁾, 水沼仁孝⁵⁾ (¹⁾ 大田原赤十字病院 泌尿器科, ²⁾ 独立行政法人国立病院機構 栃木病院泌尿器科, ³⁾ 東京医療センター 泌尿器科, ⁴⁾ 日野市立病院 泌尿器科, ⁵⁾ 大田原赤十字病院 放射線科, ⁶⁾ 日本医科大学付属病院泌尿器科) : 地方医療における深在性腎損傷に対する経カテーテル的動脈塞栓術の役割◇救急外来を受診し死亡した外傷症例 58 例の検討◇. 西日本泌尿器科 2010 ; 72 : 429-435.

(2) 総説：

- 1) 木村 (木村) 剛¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院泌尿器科) : 分子標的治療時代のネオアジュバント療法について. RCC Today 2010 ; 2 : 1-6.
- 2) 鈴木康友, 齋藤友香, 近藤幸尋 : 高齢者における下部尿路症状 LUTS とは?. 日医大医学会誌 2010 ; 6 (3) : 130-134.
- 3) 濱崎 務¹⁾, 近藤幸尋¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院泌尿器科) : 第7回泌尿器領域におけるトラブルシューティング : 大静脈出血に対する備え. 泌尿器外科 2010 ; 23 : 319-320.
- 4) 濱崎 務¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院 泌尿器科) : 開腹手術にも役立つ腹腔鏡下前立腺全摘術における工夫とその効果 : 剥離の工夫. 泌尿器外科 2010 ; 23 : 1543-1546.

- 5) 木村 剛¹⁾ (1) 日本医科大学泌尿器科) : 分子標的治療の時代における腎細胞癌に対する presurgical therapy. 癌と化学療法 2011 ; 38 (1) : 37-42.
 - 6) 原俊太郎¹⁾, 近藤幸尋²⁾ (1) 昭和大学薬学部衛生学, ²⁾ 日本医科大学泌尿器科) : 腫瘍進展を抑える内在性低酸素応答抑制因子 HIF-3 α . 生化学 2011 ; 83 (1) : 50-55.
 - 7) 木村 剛¹⁾ (1) 日本医科大学泌尿器科) : 腎細胞癌の分子標的治療 4. 血管新生阻害薬 : スニチニブ - 腎細胞癌治療における有効性と問題点 -. 医学のあゆみ 2011 ; 236 (12) : 1102-1106.
- (3) 症例報告 :
- 1) Ohgaki K¹⁾, Horiuchi K¹⁾, Mizutani S¹⁾, Sato S¹⁾, Kondo Y²⁾ (1) Dept. of Urology, Musashikosugi hospital, Nippon Medical School, ²⁾ Dept. of Urology, Nippon Medical School) : Primary Ewing's sarcoma/primitive neuroectodermal tumor of the kidney that responded to low-dose chemotherapy with ifosfamide, etoposide, and doxorubicin. Int J Clin Oncol 2010 ; 15 (2) : 210-214.
 - 2) Ohgaki K¹⁾, Horiuchi K¹⁾, Kondo Y²⁾ (1) Dept. of Urology, Musashikosugi hospital, Nippon Medical School, ²⁾ Dept. of Urology, Nippon Medical School) : Acute prevesical hematoma following a transrectal ultrasound-guided 12-core needle biopsy of prostate. Nishinohon J. Urol 2010 ; 72 : 639-642.
 - 3) Hmasaki T, Kondo Y, Ogata Y, Kimura G, Shimizu H, Nishimura T (1) Department of Urology, Nippon Medical School.) : Advanced carcinoma of the prostatic urethra in a patient with marked response to chemotherapy. leading to preservation of the bladder. Int J Clin Oncol 2010 ; 15 : 109-111.
 - 4) 遠藤勇氣¹⁾, 鈴木康友¹⁾, 松澤一郎¹⁾, 濱崎 務¹⁾, 木村 剛¹⁾, 近藤幸尋¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科) : 両側精巣上体に発症した局所性結節性多発動脈炎の1例. 日本泌尿器科学会雑誌 2010 ; 101 (3) : 570-573.
 - 1) 木村 剛¹⁾, 井沢知子²⁾, 原 真幸³⁾, 安部節美⁴⁾ (1) 日本医科大学付属病院 泌尿器科, ²⁾ 京都大学医学部附属病院 看護部, ³⁾ 独立行政法人国立がん研究センター東病院 治験管理室, ⁴⁾ 日本医科大学付属病院 看護部) : 看護座談会 「手足症候群対策と院内連携」. 臨床看護 2010 ; 36 (9) : S1-S8.
 - 2) 富田善彦¹⁾, Daniel JG²⁾, 大家基嗣³⁾, 木村 剛⁴⁾ (1) 山形大学医学部腎泌尿器外科学, ²⁾ Division of Medical Oncology and Urology, Duke University Medical Center, ³⁾ 慶応義塾大学医学部泌尿器科, ⁴⁾ 日本医科大学泌尿器科) : 転移性腎細胞がん治療における予後因子・予測因子 : ASCO2010 の最新知見を交えて. 泌尿器外科 2010 ; 23 (10) : 1425-1433.

著 書

- 1) 木村 剛¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科) : [分担] I. 腎癌 2. 臨床研究 3) 治療 e) リンパ節郭清. 腎・泌尿器癌 基礎・臨床研究のアップデート 日本臨床 2010 年増刊, 2010 ; pp125-129, 日本臨床社, 大阪.
- 2) 鈴木康友, 近藤幸尋 : [分担] 経尿道的前立腺切除術 (TURP) と看護上の注意点. 泌尿器科看護の知識と実際 (寛善行), 2010 ; pp155-165, メディカ出版.
- 3) 近藤幸尋 (1) 日本医科大学泌尿器科) : [分担] 自己導尿法. 2011 今日の治療指針 (山口 徹, 北原光夫, 福井次矢), 2010 ; pp1009-1010, 医学書院.

学会発表

- (1) 教育講演 :
 - 1) 木村 剛¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科) : 転移性腎癌に対する治療 分子標的治療. 第75回日本泌尿器科学会東部総会 (宇都宮), 2010. 9.
- (2) シンポジウム :
 - 1) Kondo Y¹⁾ : Epidemiology of Prostate Cancer in Japan. 5th JAPAN-ASEAN Conference on Men's Health & Aging (Malaysia), 2010. 7.

- 2) 木村 剛¹⁾ (1) 日本医科大学附属病院泌尿器科)：『転移巣に対する局所療法』転移巣に対する手術療法. 第40回腎癌研究会記念大会 Japanese Kidney Cancer Symposium (東京), 2010. 7.
- 3) 近藤幸尋¹⁾, 松沢一郎¹⁾, 濱崎 務¹⁾, 鈴木康友¹⁾, 木村 剛¹⁾ (1) 日本医科大学泌尿器科)：低侵襲治療としての腹腔鏡下前立腺全摘除術. 第24回日本 Endourology&ESWL 学会 (京都), 2010. 10.
- (3) ワークショップ：
- 1) 近藤幸尋¹⁾, 篠原信雄²⁾ (1) 日本医科大学 泌尿器科, 2) 北海道大学 医学部 泌尿器科)：座長の言葉. 第75回日本泌尿器科学会東部総会 (栃木県), 2010. 9.
- (4) 一般講演：
- 1) Kimura G¹⁾, Matsuzawa I¹⁾, Saito Y¹⁾, Suzuki Y¹⁾, Hamasaki T¹⁾, Kondo Y¹⁾ (1) Department of Urology, Nippon Medical School)：Ejaculatory duct invasion of prostate cancer：A new pathological prognostic factor. The 2010 Annual Meeting of the American Urological Association (San Francisco), 2010. 5.
- 2) Kimura G¹⁾, Matsuzawa I¹⁾, Saito Y¹⁾, Suzuki Y¹⁾, Hamasaki T¹⁾, Kondo Y¹⁾ (1) Department of Urology, Nippon Medical School)：Prostate cancer arising in the transition zone：characterization of the incidence, anatomical extension pattern and prognostic factors. The 2010 Annual Meeting of the American Urological Association (San Francisco), 2010. 6.
- 3) Satoko O¹⁾, Ichiro M¹⁾, Ryo T¹⁾, Go K¹⁾, Yukihiro K¹⁾ (1) Department of Urology, Nippon Medical School, Japan)：Utility of Urinary Function by the Puboprostatic Ligament Preservation in Laparoscopic Radical Prostatectomy. JAPAN-ASEAN Conference on Men's Health & Aging (5th) (Malaysia), 2010. 7.
- 4) Yuriko K¹⁾, Ryouji K¹⁾, Ichiro M¹⁾, Go K¹⁾, Yukihiro K¹⁾ (1) Department of Urology, Nippon Medical School, Japan)：Identify and Preserve Accessory Pudendal Arteries (APAs) in Laparoscopic Prostatectomy. JAPAN-ASEAN Conference Men's Health & Aging (5th) (Malaysia), 2010. 7.
- 5) Takeda H¹⁾, Kimura G¹⁾, Hayashi T¹⁾, Fujiwara H¹⁾, Kuribayashi S²⁾, Miyashita T²⁾, Kumita S²⁾, Kondo Y¹⁾ (1) Department of Urology, Nippon Medical School, 2) Department of Radiology, Nippon Medical School)：Short-Term Results of Prostate Cancer treated with Iodine-125 seed Brachytherapy. The Program of the 20th Annual Meeting of the International Urological Conference of Taiwan (Taipei), 2010. 11.
- 6) 木村 剛, 齊藤友香, 木全亮二, 鈴木健太, 武田隼人, 遠藤勇氣, 赤塚 純, 尾形吉彦, 富田祐司, 近藤幸尋 (1) 日本医科大学 泌尿器科)：Gleason score 7 (4+3) 以上の前立腺癌の生検前予測は可能か？. 第98回日本泌尿器科学会総会 (盛岡市), 2010. 4.
- 7) 林 達郎, 木村 剛, 小串聡子, 藤野綾子, 富田祐司, 木全亮二, 齊藤友香, 松沢一郎, 鈴木康友, 浜崎 務, 近藤幸尋 (1) 日本医科大学 泌尿器科)：D'Amico のリスク別割合と前立腺癌治療の変遷：日本医科大学附属病院症例での解析. 第98回日本泌尿器科学会総会 (盛岡市), 2010. 4.
- 8) 松澤一郎¹⁾, 浜崎 務¹⁾, 高橋 亮¹⁾, 鈴木康友¹⁾, 尾形吉彦¹⁾, 木村 剛¹⁾, 近藤幸尋 (1) 日本医科大学附属病院泌尿器科)：腹腔鏡下前立腺全摘術における恥骨前立腺靱帯温存の有用性. 日本泌尿器科学会総会 (第98回) (盛岡), 2010. 4.
- 9) 赤塚 純¹⁾, 根本 勺¹⁾, 木全亮二²⁾, 塩路 豪¹⁾, 藤原博通¹⁾, 三浦剛史¹⁾, 坪井成美¹⁾, 大秋美治³⁾, 鈴木康友²⁾, 濱崎 務²⁾, 木村 剛²⁾, 近藤幸尋²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院泌尿器科, 2) 日本医科大学附属病院泌尿器科, 3) 日本医科大学千葉北総病院病理部)：日本医科大学千葉北総病院における精巣腫瘍の臨床的検討. 日本泌尿器科学会総会 (第98回) (盛岡), 2010. 4.
- 10) 林 達郎¹⁾, 木村 剛¹⁾, 小串聡子¹⁾, 藤野綾子¹⁾, 富田祐司¹⁾, 木全亮二¹⁾, 齊藤友香¹⁾, 松澤一郎¹⁾, 鈴木康友¹⁾, 濱崎 務¹⁾, 近藤幸尋¹⁾ (1) 日本医科大学附属病院泌尿器科)：D'Amino のリスク別割合と前立腺癌治療の変遷：日本医科大学附属病院症例での解析. 日本泌尿器科学会総会 (第98回) (盛岡), 2010. 4.
- 11) 木全亮二¹⁾, 松澤一郎¹⁾, 遠藤勇氣¹⁾, 赤塚 純¹⁾, 武田隼人¹⁾, 林 達郎¹⁾, 濱崎 務¹⁾, 木村 剛¹⁾, 近藤幸尋¹⁾

- (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科)：前立腺全摘除に於ける副陰部動脈の同定. 日本泌尿器科学会総会 (第 98 回) (盛岡), 2010. 4.
- 12) 富田祐司¹⁾, 赤塚 純¹⁾, 遠藤勇氣¹⁾, 林 達郎¹⁾, 小串聡子¹⁾, 藤野綾子¹⁾, 齋藤友香¹⁾, 木全亮二¹⁾, 松澤一郎¹⁾, 鈴木康友¹⁾, 濱崎 務¹⁾, 木村 剛¹⁾, 近藤幸尋¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科)：当科におけるクラミジア性尿道炎の臨床的検討. 日本泌尿器科学会総会 (第 98 回) (盛岡), 2010. 4.
- 13) 齋藤友香¹⁾, 鈴木康友¹⁾, 武田隼人¹⁾, 鈴木健太¹⁾, 松澤一郎¹⁾, 藤野綾子¹⁾, 小串聡子¹⁾, 赤塚 純¹⁾, 林 達郎¹⁾, 遠藤勇氣¹⁾, 濱崎 務¹⁾, 木村 剛¹⁾, 近藤幸尋¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科)：骨盤臓器脱における TVM 術前排尿機能の検討. 日本泌尿器科学会総会 (第 98 回) (盛岡), 2010. 4.
- 14) 鈴木康友, 齋藤友香, 松沢一郎, 濱崎 務, 木村 剛, 近藤幸尋：男性の過活動膀胱患者に対する α 1-blocker 先行投与後のコハク酸ソリフェナシンの臨床効果の検討. 日本泌尿器科学会総会 (98 回) (盛岡), 2010. 4.
- 15) 柳 雅人¹⁾, 西村泰司¹⁾, 近藤幸尋²⁾, 山崎一⁵⁾, 石井直弘³⁾, 酒井成貴³⁾, 細田 桂⁴⁾, 古城 憲⁴⁾ (1) 大田原赤十字病院泌尿器科, 2) 日本医科大学付属病院 泌尿器科, 3) 大田原赤十字病院 形成外科, 4) 大田原赤十字病院 外科, 5) 独立行政法人国立病院機構 栃木病院泌尿器科)：膀胱直腸皮膚瘻を腹直筋皮弁で再建したフルニエ壊疽の 1 例. 日本泌尿器科学会東京地方会 (第 602 回) (東京), 2010. 6.
- 16) 柳 雅人¹⁾, 西村泰司¹⁾, 栗田 晋²⁾, 李 哲洙²⁾, 近藤幸尋³⁾ (1) 大田原赤十字病院泌尿器科, 2) 立川相互病院泌尿器科, 3) 日本医科大学付属病院泌尿器科)：放射線性出血性膀胱炎にステロイドの経口投与が有効であった 2 症例. 日本泌尿器科学会東京地方会 (第 602 回) (東京), 2010. 6.
- 17) 河原崎由里子¹⁾, 富田祐司¹⁾, 飯ヶ谷重来¹⁾, 田邊邦明¹⁾, 遠藤勇氣¹⁾, 武田隼人¹⁾, 佐々木崇¹⁾, 藤野綾子¹⁾, 齋藤友香¹⁾, 木全亮二¹⁾, 松澤一郎¹⁾, 鈴木康友¹⁾, 濱崎 務¹⁾, 木村 剛¹⁾, 近藤幸尋¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科)：Sorafenib を導入した嫌色素細胞癌の 1 例. 日本泌尿器科学会東京地方会 (第 602 回) (東京), 2010. 6.
- 18) 田邊邦明¹⁾, 松澤一郎¹⁾, 木村 剛¹⁾, 尾形吉彦¹⁾, 遠藤勇氣¹⁾, 河原崎由里子¹⁾, 飯ヶ谷重来¹⁾, 武田隼人¹⁾, 赤塚 純¹⁾, 青木綾子¹⁾, 富田祐司¹⁾, 齋藤友香¹⁾, 木全亮二¹⁾, 鈴木康友¹⁾, 濱崎 務¹⁾, その他 1 名 (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科)：術前に sorafenib を使用した局所進行性腎癌の 1 例. 日本泌尿器科学会東京地方会 (東京), 2010. 7.
- 19) 武田隼人¹⁾, 木村 剛¹⁾, 青木綾子¹⁾, 佐々木嵩¹⁾, 富田祐司¹⁾, 齋藤友香¹⁾, 木全亮二¹⁾, 松沢一郎¹⁾, 鈴木康友¹⁾, 濱崎 務¹⁾, 近藤幸尋¹⁾ (1) 日本医科大学泌尿器科)：前立腺癌に対する放射線外照射治療の晩期有害事象に施行した高気圧酸素療法. 第 75 回日本泌尿器科学会東部総会 (宇都宮), 2010. 9.
- 20) 松澤一郎¹⁾, 濱崎 務¹⁾, 鈴木康友¹⁾, 木全亮二¹⁾, 齋藤友香¹⁾, 富田祐司¹⁾, 木村 剛¹⁾, 近藤幸尋¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科)：腹腔鏡下前立腺全摘術における断端陽性および PSA 再発の検討. 日本癌治療学会 (第 48 回) (京都), 2010. 9.
- 21) 林 達郎¹⁾, 木村 剛¹⁾, 藤原博通¹⁾, 武田隼人¹⁾, 近藤幸尋¹⁾, 栗林茂彦²⁾, 宮下次廣²⁾, 汲田伸一郎²⁾ (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科, 2) 日本医科大学付属病院放射線科)：前立腺癌小線源永久刺入療法の短期治療成績. 日本泌尿器科学会東部総会 (栃木県), 2010. 9.
- 22) 木全亮二¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科)：教育演題『私の TUR』. 膀胱がん治療カンファレンス (東京), 2010. 9.
- 23) 武田隼人¹⁾, 木全亮二¹⁾, 佐々木嵩¹⁾, 齋藤友香¹⁾, 木村 剛¹⁾, 近藤幸尋¹⁾, 根本 勺²⁾, 坪井成美²⁾, 古谷雄三³⁾ (1) 日本医科大学泌尿器科, 2) 日本医科大学千葉北総病院泌尿器科, 3) 塩田病院泌尿器科)：完全珊瑚状結石に対して TUL 単独で治療可能であった症例の検討. 第 24 回日本 Endourology・ESWL 学会総会 (京都), 2010. 10.
- 24) 木村 剛¹⁾, 濱崎 務¹⁾, 鈴木康友¹⁾, 松沢一郎¹⁾, 木全亮二¹⁾, 齋藤友香¹⁾, 富田祐司¹⁾, 佐々木崇¹⁾, 林 達郎¹⁾, 赤塚 純¹⁾, 遠藤勇氣¹⁾, 近藤幸尋¹⁾：Stage C 前立腺癌に対する術前補助ホルモン化学療法 + 手術療法の予後

- 因子の解析. 日本癌治療学会 (第 48 回), 浜崎 務, 鈴木康友, 松沢一郎, 木全亮二, 齋藤友香, 富田祐司, 佐々木崇, 林 達郎, 武田隼人, 赤塚純, 遠藤勇気, 近藤幸尋 (京都), 2010. 10.
- 25) 濱崎 務¹⁾, 鈴木康友¹⁾, 松沢一郎¹⁾, 木村 剛¹⁾, 木全亮二¹⁾, 齋藤友香¹⁾, 富田祐司¹⁾, 佐々木崇¹⁾, 小串聡子²⁾, 近藤幸尋 (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科, 2) 日本医科大学多摩永山病院泌尿器科): 当科における HALS 腎摘時の術中 Major Complication の臨床的検討. 日本 Endourology・ESWL 学会 (第 24 回) (京都), 2010. 10.
- 26) 赤塚 純¹⁾, 大澤秀一¹⁾, 林 達郎²⁾, 木全亮二²⁾, 近藤幸尋²⁾ (1) 平成立石病院 泌尿器科, 2) 日本医科大学付属病院泌尿器科): 中部・下部尿管結石 (U2・U3) に対する ESWL の治療成績の検討: TUL 治療成績との比較も加えて. 日本 Endourology・ESWL 学会 (第 24 回) (京都), 2010. 10.
- 27) 木全亮二¹⁾, 松沢一郎¹⁾, 武田隼人¹⁾, 鈴木康友¹⁾, 濱崎 務¹⁾, 近藤幸尋¹⁾, 清水宏之²⁾, 沖 守²⁾, 長谷川潤²⁾, 大澤秀一³⁾ (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科, 2) はせがわ病院, 3) 平成立石病院泌尿器科): ESWL だけでは治療しきれない症例に対する Holmium Laser を用いた TUL の治療成績. 日本 Endourology・ESWL 学会総会 (第 24 回) (京都), 2010. 10.
- 28) 鈴木康友, 齋藤友香, 藤野綾子, 遠藤勇気, 松沢一郎, 濱崎 務, 木村 剛, 近藤幸尋: 前立腺全摘術後腹圧性尿失禁に対する尿道スリング術の経験. 日本排尿機能学会 (第 17 回) (甲府), 2010. 10.
- 29) 田島康介¹⁾, 吉田祐文¹⁾, 高尾英龍¹⁾, 水落 裕¹⁾, 栄 利晶¹⁾, 西村泰司²⁾, 柳 雅人²⁾, 池野義彦³⁾ (1) 大田原赤十字病院 整形外科, 2) 大田原赤十字病院 泌尿器科, 3) 大田原赤十字病院 内科): 全身関節痛で発症した, クラミジア感染症による反応性関節炎の 1 症例. 日本性感染症学会 (第 28 回) (福岡), 2010. 12.
- 30) 飯ヶ谷重来¹⁾, 濱崎 務¹⁾, 木全亮二¹⁾, 河原崎由里子¹⁾, 田邊邦明¹⁾, 武田隼人¹⁾, 木村 剛¹⁾, 近藤幸尋¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科): 腔壁浸潤を伴った女性尿道線癌の 1 例. 日本泌尿器科学会東京地方会 (第 604 回) (東京), 2010. 12.
- 31) 田邊邦明¹⁾, 根本 勺²⁾, 塩路 豪²⁾, 三浦剛史²⁾, 坪井成美²⁾, 近藤幸尋¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科, 2) 日本医科大学千葉北総病院泌尿器科): 肺転移巣にインターフェロン α 療法が著効した透析腎癌の 2 症例. 日本泌尿器科学会東京地方会 (第 605 回) (東京), 2011. 2.
- 32) 鈴木健太¹⁾, 松沢一郎¹⁾, 木村 剛¹⁾, 近藤幸尋¹⁾, 濱崎 務¹⁾, 鈴木康友¹⁾, 木全亮二¹⁾, 齋藤友香¹⁾, 富田祐司¹⁾, 佐々木崇¹⁾, 青木綾子¹⁾, 武田隼人¹⁾, 飯ヶ谷重来¹⁾, 河原崎由里子¹⁾, 田邊邦明¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科): 通院中止により 5 年間無治療で経過した中リスク前立腺癌の自然史. 日本泌尿器科学会東京地方会 (第 605 回) (東京), 2011. 2.
- (5) ビデオディスカッション:
- 1) 松沢一郎¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科): 腹腔鏡下前立腺全摘術腹腔鏡下前立腺全摘術: QOL を考えた術式に向けて. 日本 Endourology・ESWL 学会 (第 24 回) (京都), 2010. 10.

[武蔵小杉病院泌尿器科]

研究概要

当科では現在, 尿路生殖器腫瘍疾患をはじめ尿路結石, 尿路感染症, 前立腺肥大症などの排尿障害を中心に診療および臨床的研究を行っている. 特筆すべきものを以下に示す. 1) 前立腺癌に対しては生検正診率を向上させるために, 経直腸的多コア生検を導入し, 従来の 6 ケ所生検との比較を行っている. 2) 経尿道的手術には電解質溶液下 TUR システムを導入し, 膀胱腫瘍や前立腺肥大症で安全な手術成績を取めている. 3) 尿管結石の保存的治療については $\alpha 1$ -ブロッカーを併用した治療を行い, 自然排石向上の可能性を調査している. 4) 下部尿路症状 (LUTS) や過活動膀胱 (OAB) に対して, 国際前立腺症状スコア (IPSS) や過活動膀胱症状スコア (OABSS) および尿流動態検査を実施して各種内服における治療効果を判定するとともに, メタボリックシンドロームとの関連の有無も検討してい

る。5) その他, 稀な症例については適宜症例報告をすることに努めている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Ohgaki K, Horiuchi K, Mizutani S¹⁾, Sato M, Kondo Y (1) Digestive Organ Disease Center, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital) : Primary Ewing's sarcoma/primitive neuroectodermal tumor of the kidney that responded to low-dose chemotherapy with ifosfamide, etoposide, and doxorubicin. Int J Clin Oncol 2010 ; 15 (2) : 210-214.
- 2) Ohgaki K, Horiuchi K, Kondo Y : Acute Prevesical Hematoma Following a Transrectal Ultrasound-Guided 12-Core Needle Biopsy of the Prostate. Nishinohon J Urol 2010 ; 72 (11) : 639-642.
- 3) Ohgaki K, Horiuchi K, Hikima N¹⁾, Kondo Y (1) Department of Urology, Oookurayama Memorial Hospital) : Facilitation of expulsion of ureteral stones by addition of α 1-blockers to conservative therapy. Scandinavian Journal of Urology and Nephrology 2010 ; 44 (6) : 420-424.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 萬谷嘉明¹⁾, 堀内和孝, 近藤幸尋 (1) 栗山中央病院泌尿器科) : 経尿道的尿管結石破碎術 (TUL) における N トラップ (N trap, 以下 NT と略す) の臨床使用経験. 日本泌尿器科学会総会 (98 回) (岩手県盛岡市), 2010. 4.
- 2) 佐藤三洋, 大垣憲司, 堀内和孝 : 外来患者の尿より分離された緑膿菌耐性化の検討. 日本泌尿器科学会東部総会 (第 75 回) (栃木県宇都宮市), 2010. 9.

[多摩永山病院泌尿器科]

研究概要

当科では感染症, 結石から神経疾患, 腫瘍を中心に診療・研究を行っているが, 特筆すべき点を列記する。

1) 尿路感染症

扱う感染症は急性単純性膀胱炎から閉塞性腎盂腎炎まで重症度は多岐に亘る一方, 起炎菌側の問題として抗生剤に対する耐性化がある。耐性化傾向の検討も含め最適な治療法を研究している。

2) 尿路結石

内視鏡下手術の他, 体外衝撃波結石粉碎術も行い臨床的検討を行っている。

3) 排尿障害

施設入所中の全介助を要する排尿障害を伴った症例への対応として尿道ステントを積極的に用い, その有用性を検討している。

4) 前立腺癌

手術, 放射線による治療も行っているが, 内分泌療法への適応となった症例に対してはその副作用, 特に糖・脂質代謝異常, 骨密度の減少について検討を行い合併症の予防に役立てている。

5) 膀胱癌

浸潤性膀胱癌に対しては化学療法と放射線照射の併用療法にて膀胱温存を図っている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 平岡保紀, 岩本和矢, 清水有二：前立腺肥大症に対する TURis ボール型電極使用に伴う尿道合併症について. Jpn J Endourol ESWL 2010；23 (2)：256-260.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 小串聡子¹⁾, 松澤一郎¹⁾, 高橋 亮¹⁾, 木村 剛¹⁾, 近藤幸尋¹⁾ (1) 日本医科大学泌尿器科)：Utility of Urinary Function by the Puboprostatic Ligament Preservation in Laparoscopic Radical Prostatectomy (腹腔鏡下前立腺全摘術における恥骨前立腺靭帯温存の有用性). 5th JAPAN-ASEAN Conference on Men's Health & Aging (マレーシア コタキナバル), 2010. 7.
- 2) 平岡保紀, 岩本和矢, 清水有二, 佐々木崇：ソフト凝固法で剥離面に凝固層を作成して止血する経尿道的剥離前立腺摘術. 日本泌尿器科学会総会 (第 98 回) (岩手県盛岡市), 2010. 4.
- 3) 小林 繁¹⁾, 池本 庸²⁾, 沼崎 進³⁾, 成岡健人³⁾, 菅谷真吾³⁾, 古田 昭³⁾, 鈴木康之³⁾, 颯川 晋³⁾, 岩本和矢, 平岡保紀 (1) 府中腎クリニック, 2) 東京慈恵会医科大学付属第三病院泌尿器科, 3) 東京慈恵会医科大学付属病院泌尿器科)：OAB 患者のウロダイナミクスにおける臨床的検討. 日本泌尿器科学会総会 (第 98 回) (岩手県盛岡市), 2010. 4.
- 4) 松沢一郎¹⁾, 浜崎 務¹⁾, 高橋 亮¹⁾, 鈴木康友¹⁾, 尾形吉彦¹⁾, 木村 剛¹⁾, 近藤幸尋¹⁾ (1) 日本医科大学泌尿器科)：腹腔鏡下前立腺全摘術における恥骨前立腺靭帯温存の有用性. 日本泌尿器科学会総会 (第 98 回) (岩手県盛岡市), 2010. 4.
- 5) 林 達郎¹⁾, 木村 剛¹⁾, 小串聡子¹⁾, 藤野綾子¹⁾, 富田祐司¹⁾, 木全亮二²⁾, 斎藤友香¹⁾, 松沢一郎¹⁾, 鈴木康友¹⁾, 浜崎 務¹⁾, 近藤幸尋¹⁾ (1) 日本医科大学泌尿器科)：D'Amico のリスク別割合と前立腺癌治療の変遷：日本医科大学附属病院症例での解析. 日本泌尿器科学会総会 (第 98 回) (岩手県盛岡市), 2010. 4.
- 6) 齋藤友香¹⁾, 鈴木康友¹⁾, 武田隼人¹⁾, 鈴木健太¹⁾, 松澤一郎¹⁾, 藤野綾子¹⁾, 小串聡子¹⁾, 赤塚 純¹⁾, 林 達郎¹⁾, 遠藤勇気¹⁾, 濱崎 務¹⁾, 木村 剛¹⁾, 近藤幸尋¹⁾ (1) 日本医科大学泌尿器科)：骨盤臓器脱における TVM 術前排尿機能の検討. 日本泌尿器科学会総会 (第 98 回) (岩手県盛岡市), 2010. 4.
- 7) 富田祐司¹⁾, 赤塚 純¹⁾, 遠藤勇気¹⁾, 林 達郎¹⁾, 小串聡子¹⁾, 藤野綾子¹⁾, 斎藤友香¹⁾, 木全亮二²⁾, 松澤一郎¹⁾, 鈴木康友¹⁾, 濱崎 務¹⁾, 木村 剛¹⁾, 近藤幸尋¹⁾ (1) 日本医科大学泌尿器科)：当科におけるクラミジア性尿道炎の臨床的検討. 日本泌尿器科学会総会 (第 98 回) (岩手県盛岡市), 2010. 4.
- 8) 平岡保紀：剥離と凝固, 切開が可能な前立腺核出電極の開発. 日本 Endourology&ESWL 学会 (第 24 回) (京都府), 2010. 10.

[千葉北総病院泌尿器科]

研究概要

当院も開設から 15 年が経過し, 2009 年より新たな治療方針の確立に繋げるべく悪性腫瘍を中心に施設統計を検討している. 2009 年の上部尿路腫瘍および前立腺癌に引き続き, 2010 年度は, 精巣腫瘍および腎細胞癌について検討した. いずれの腫瘍においても, 標準的治療の施行にて他施設と同等の成績が得られていた. また, 日本医科大学泌尿器科教室における特殊治療である膀胱温存療法を目的とした動脈内抗がん剤注入療法の治療成績も検討した. 少数例ではあるが, 浸潤がんへの移行が高率とされる高異型度非筋層浸潤性膀胱がんでの浸潤がんへの移行は認めず, 浸潤性膀胱がんにおいても, その標準的治療とされる膀胱全摘術と同等の結果が得られていた. これらの結果を基に,

更なる治療成績の向上を目指し、新たなプロトコルの導入を模索中である。

また、新たな臨床研究として、尿道狭窄に対する金属尿道ステント使用および再燃性尿路上皮癌に対するジェムザールを用いた化学放射線療法の導入を行った。いずれも、少数例であるが、今後の症例集積においてその有用性を検討する所存である。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Nemoto K : G2/M accumulation in prostate cancer cell line PC-3 induced by Cdc25 inhibitor 7-chloro-6-(2-morpholin-4-ylethylamino) quinoline-5, 8-dione (DA3003-2). *Experimental and Therapeutic Medicine* 2010 ; 1 (4) : 647-650.
- 2) Nemoto K, Tateishi T, Ishidate T ⁽¹⁾ Department of Radiology, National Hospital Organization, Sendai Medical Center, ⁽²⁾ Department of Pathology, National Hospital Organization, Hakodate Hospital) : Changes in diffusion-weighted images for visualizing prostate cancer during antiandrogen therapy : Preliminary results. *Urologia Internationalis* 2010 ; 85 (4) : 421-426.

(2) 症例報告：

- 1) 赤塚 純, 根本 勺, 林 達郎, 佐々木崇, 木全亮二, 坪井成美, 大秋美治¹⁾, 近藤幸尋²⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 病理部, ⁽²⁾ 日本医科大学付属病院 泌尿器科) : 下大静脈腫瘍塞栓を伴った精巣腫瘍の1例. *泌尿器科紀要* 2010 ; 56 (5) : 281-284.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 根本 勺, 木全亮二, 三浦剛史, 塩路 豪, 藤原博通, 阿部裕行¹⁾, 近藤幸尋²⁾, 坪井成美, 川俣博志³⁾ ⁽¹⁾ 神栖済生会病院 泌尿器科, ⁽²⁾ 日本医科大学付属病院 泌尿器科, ⁽³⁾ 日本医科大学千葉北総病院 放射線科) : 日本医科大学千葉北総病院における膀胱癌に対する動注化学療法の治療成績. 日本泌尿器科学会総会 (第98回) (盛岡), 2010. 4.
- 2) 赤塚 純, 根本 勺, 木全亮二, 塩路 豪, 藤原博通, 三浦剛史, 坪井成美, 大秋美治¹⁾, 鈴木康友²⁾, 濱崎 務²⁾, 木村 剛²⁾, 近藤幸尋²⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 病理部, ⁽²⁾ 日本医科大学付属病院 泌尿器科) : 日本医科大学千葉北総病院における精巣腫瘍の臨床的検討. 日本泌尿器科学会総会 (第98回) (盛岡), 2010. 4.
- 3) 鈴木健太, 根本 勺, 塩路 豪, 三浦剛史, 坪井成美, 阿部裕行¹⁾ ⁽¹⁾ 神栖済生会病院 泌尿器科) : 後腹膜ganglioneuromaの2症例. 第93回千葉泌尿器科集談会 (千葉), 2010. 6.
- 4) 塩路 豪, 坪井成美, 鈴木健太, 三浦剛史, 根本 勺, 川俣博志¹⁾, 大秋美治²⁾, 木村 剛³⁾, 近藤幸尋³⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 放射線科, ⁽²⁾ 日本医科大学千葉北総病院 病理部, ⁽³⁾ 日本医科大学付属病院 泌尿器科) : 当院における腎細胞癌症例の臨床的検討. 日本泌尿器科学会 東部総会 (第75回) (宇都宮), 2010. 9.
- 5) 坪井成美, 三浦剛史, 鈴木健太, 河原崎万里子, 田邊邦明, 塩路 豪, 根本 勺, 近藤幸尋¹⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院 泌尿器科) : 腎盂尿管移行部狭窄症に対する尿管ステント (メモカス051) の使用経験. 千葉泌尿器科集談会 (第94回) (千葉), 2010. 12.
- 6) 田邊邦明, 根本 勺, 塩路 豪, 三浦剛史, 坪井成美, 近藤幸尋¹⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院 泌尿器科) : 肺転移巣にインターフェロン α 療法が著効した透析腎癌の2症例. 日本泌尿器科学会東京地方会 (第605回) (東京), 2011. 2.

16. 眼科学講座

[付属病院眼科・武蔵小杉病院眼科・多摩永山病院眼科]

研究概要

角膜一般分野では角膜酸化ストレスに関する研究が継続された。眼炎症/免疫分野では、基礎研究として「眼内炎症の自動制御機構の解析」において、制御性 T 細胞と GITRL, B7-H3, Galectin-9 分子の機能解析で成果報告をした。また、自己免疫性強膜炎マウスモデルの作成および網膜色素変性症モデルマウスにおける羊膜由来神経前駆細胞を用いた網膜機能再生においても成果を報告した。ドライアイ関連では、疾患眼不快の前頭葉活性パターン解析が継続された。また、ドライアイの一病態である高浸透圧ストレスにより T 細胞からの IL-17 産生が上昇することを証明し、臨床では患者に対し免疫抑制剤であるシクロスポリン投与の効果を検討した。網膜障害分野では、網膜虚血-再灌流障害における水素ガス点眼の網膜神経保護効果を調べる実験が継続された。抗 VEGF 療法関連の研究では、加齢黄斑変性モデルマウスにアデノウイルス随伴ウイルス (AAV) タイプ 8 ベクターを用いた flt-1 導入の成果を報告した。また、POMGnT1 欠損マウスの網膜の解析により、この遺伝子異常で網膜の astrocyte およびミュラー細胞の gliosis が生じることを見いだした。さらに、昨年新しく遺伝子異常が確定したオカルト黄斑ジストロフィーの当院症例で RP1L1 遺伝子の新規疾患関連異常を発見した。手術関連の研究では、手術前、術中、終了時の血圧、心拍数、および唾液中のアミラーゼ濃度を計測した。また、白内障手術における器具の操作により、内眼圧がどのように変動するか豚眼を用い測定し、手術における眼球への侵襲を減らすための検討を行った。眼内レンズの安定性や後発白内障の予防において的確な CCC を作成することが重要であるため、水晶体へ直接にマーキングできる手術器具の開発を行い検討した。内眼手術前の消毒法として PA ヨードに代わるオゾン水の消毒効果を検討した。

研究業績

論文

[追加分]

追加分原著：

- 1) Oharazawa H, Igarashi T, Yokota T, Fujii H, Suzuki H, Machide M, Takahashi H : Protection of the retina by rapid diffusion of hydrogen : administration of hydrogen-loaded eye drops in retinal ischemia-reperfusion injury. *Invest Ophthalmol Vis Sci* 2010 ; 51 (1) : 487-492.
- 2) 塚田玲子, 堀 純子, 河上花子, 平岡美紀, 高橋 浩 : サルコイドーシス診断基準の改訂による診断確定者数の変化. *眼科臨床紀要* 2010 ; 3 (3) : 223-226.

(1) 原著：

- 1) Hori J, Masli S : Modifying immune privilege of the eye. *Ocul immunology & Inflammation* 2010 ; 18 (4) : 325-333.
- 2) Hori J, Taniguchi H, Wang M, Oshima M¹⁾, Azuma M²⁾ (1) 国立感染症研究所, 2) 東京医科歯科大学 免疫学) : GITR ligand-mediated local expansion of regulatory T cells contributes to immune privilege of corneal allografts. *Invest Ophthalmol Vis Sci* 2010 ; 51 (8) : 6556-6565.
- 3) 若山久仁子, 堀 純子, 塚田玲子, 伊藤由紀子, 高橋 浩 : 日本医科大学付属病院眼科における強膜炎患者の統計的観察. *あたらしい眼科* 2010 ; 27 (5) : 663-666.

(2) 総説：

- 1) 堀 純子 : 発症機構, 特集「強膜炎」. *眼科* 2010 ; 52 (9) : 1149-1154.

- 2) 堀 純子：眼科診療のコツと落とし穴1手術前眼部 書評. 日本の眼科 2010；81（11）：1499-1499.
- 3) 高橋 浩：LASIK術後感染症の1例. IOL & RS（日本白内障屈折矯正手術学会雑誌）2010；24（4）：664-665.
- 4) 堀 純子：眼底所見で診る網膜ぶどう膜炎疾患96 書評. 日本の眼科 2010；81（12）：1631-1631.

著 書

- 1) 堀 純子：〔分担〕前房にはなぜ免疫特異性があるのか. 視覚のサイエンス（根木 昭），2010；pp80-82, 文光堂.
- 2) 高橋 浩：〔分担〕強膜軟化はなぜ輪部に起こるのか, 強膜は再生しないのか?. 眼のサイエンス：眼疾患の謎（根木 昭），2010；pp76-78, 文光堂.
- 3) 高橋 浩：〔分担〕眼の異物. 総合診療マニュアル（上原 譽志夫），2010；pp380-381, 金芳堂.

学会発表

〔追加分〕

追加分一般講演：

- 1) 仲里ゆり, 南野麻美, 平岡美紀, 鈴木久晴, 國重智之, 若山久仁子, 高橋 浩：線維柱帯切除術後の毛様体解離によると思われる難治性低眼圧黄斑症の1例. 日本眼科手術学会総会（第33回）（東京），2010. 1.

(1) 特別講演：

- 1) 鈴木久晴：小瞳孔・前囊下線維性混濁・成熟白内障のPEAの1例. CSE研究会（東京），2010. 7.
- 2) 高橋 浩：Cataract Surgery for Corneal Diseases. The 2nd Asia Cornea Society Biennial Scientific Meeting（京都），2010. 12.
- 3) 高橋 浩：第11回難儀な手術シリーズ. 千駄木眼科フォーラム（第12回）（東京），2010. 7.
- 4) 堀 純子：眼領域におけるバイオロジクスとクリニカルパス. 日本医大バイオロジクス合同勉強会（第1回）（東京），2010. 9.
- 5) 高橋 浩：角膜アップデート. 島根生体防御研究会（出雲），2010. 10.
- 6) 高橋 浩：ドライアイー最近の考え方と治療方針. ビジョンケアセミナー（東京），2010. 10.
- 7) 堀 純子：難治性眼炎症疾患の最近のトピックス（前眼部編）. 瀬戸内眼科コロシウム（広島），2010. 10.
- 8) 國重智之, 堀 純子：関節リウマチ随伴網膜血管炎に対するInfliximabの効果. Infliximab Conference on BD（第3回）（東京），2010. 10.
- 9) 高橋 浩：角膜アップデート. 長崎大学眼科研究会（長崎），2010. 11.
- 10) 高橋 浩：第12回難儀な手術シリーズ. 千駄木フォーラム（第13回）（東京），2010. 12.
- 11) 高橋 浩：角膜アップデート. 東京都眼科医会卒後研修会（東京），2010. 12.
- 12) 寺田 節, 堀 純子：Inhibitory role of ICOS on corneal lymphangiogenesis and involvement of Foxp3+CD4+T regulatory cells in secondary lymphoid organs. Tokyo Ocular Immunology Meeting（第15回）（東京），2011. 1.
- 13) 高橋 浩：花粉症の目の痒みはなぜ続く. アレルギー市民講演会, 厚生労働省科学研究費補助金事業「免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業」（東京），2011. 2.
- 14) 堀 純子：フォーラム「眼内リンパ腫」. 東京眼炎症フォーラム（第3回）（東京），2011. 2.
- 15) 堀 純子：角膜難治症例相談所2011. 日本角膜学会総会（第35回）日本角膜移植学会（第27回）（東京），2011. 2.
- 16) 堀 純子：眼炎症疾患の診療と新治療の展望. 和歌山眼科集談会（和歌山），2011. 2.

(2) 教育講演：

- 1) 小野真史：ドライアイとは。ドライマウス研究会（第17回）（東京），2010. 4.

(3) シンポジウム：

- 1) Igarashi T：Adeno-associated vector（type 8）mediated expression of flt-1 efficiently inhibits neovascularization in a murine choroidal neovascularization model. 日本医科大学ハイテクリサーチミニシンポジウム（東京），2010. 4.
- 2) 南野麻美：視神経低形成とOCT. 日本臨床眼科学会（第64回）（神戸），2010. 11.
- 3) 五十嵐勉：メカニズムから考えるドライアイ治療（角結膜疾患の薬物治療）. 日本角膜学会総会（第35回）日本角膜移植学会（第27回）（東京），2011. 2.

(4) セミナー：

- 1) 鈴木久晴：手術手技による前房内圧の変動. 日本眼内レンズ屈折矯正手術学会総会（第25回）（大阪），2010. 6.

(5) 一般講演：

- 1) Hori J, Taniguchi H, Wang M, Akiba H¹, Yagita H¹, Abe R¹（¹順天堂大学 免疫学）：Role of ICOS/B7RP-1 Pathway in Immune Privilege of Corneal Allografts. ARVO（Fort Lauderdale, Florida, USA），2010. 5.
- 2) Tomita M, Wang M, Taniguchi H, Takahashi H, Shimazaki J¹, Akiba H², Yagita H², Hori J¹（¹国立感染研究所，²順天堂大学 免疫学）：Tim-3/Galectin-9 Pathway-mediated Protection Of Corneal Endothelial Cells From Killing By Allo-reactive-T Cells. ARVO（Fort Lauderdale, Florida, USA），2010. 5.
- 3) Taniguchi H, Kitahara Y, Oshima M¹, Akiba H², Yagita H², Azuma M³, Hori J¹（¹国立感染研究所，²順天堂大学 免疫学，³東京医科歯科大学）：Role of B7-H3/TLT-2 Pathway on Corneal Allograft Survival. ARVO（Fort Lauderdale, Florida, USA），2010. 5.
- 4) Suzuki H, Oki K, Shiwa T, Takahashi H：Effect of Bottle Height on corneal endothelium during phacoemulsification. ESCRS（Paris），2010. 9.
- 5) 大貫二三恵，北原由紀，安藤恵里子，中山滋章：3歳児健診より当院を紹介された児の多覚的屈折値と弱視治療率. 日本視能矯正学会（第51回），2010. 11.
- 6) Oharazawa H, Igarashi T, Yokota T¹, Takahashi H, Ohta S¹, Ohsawa I¹（¹老人病研究所）：Rapid diffusion of hydrogen molecule from hydrogen-containing eye drops reduces retinal ischemia-reperfusion injury. アジアミトコンドリア学会（第7回）日本ミトコンドリア学会年会（第10回）（福岡），2010. 12.
- 7) Suzuki H, Oki K, Shiwa T, Takahashi H：Fluctuation in Intraocular Pressure During Phacoemulsification. ASCRS（SAN DIEGO），2011. 3.
- 8) Kunishige T, Suzuki H, Takahashi H：Implantation of Single-Piece Acrylic IOL Using Anterior Chamber Maintainer. ASCRS（アメリカ），2011. 3.
- 9) 塚田玲子，堀 純子，伊藤由紀子，若山久仁子，高橋 浩：ペーチェットぶどう膜炎に対するインフリキシマブ投与の長期治療成績. 日本臨床眼科学会総会（第64回）（神戸），2010. 11.
- 10) 五十嵐勉：Adeno-associated vector（type 8）mediated expression of flt-1 efficiently inhibits neovascularization in a murine choroidal neovascularization model. 日本医科大学ハイテクリサーチミニシンポジウム（東京），2010. 4.
- 11) 榛村真智子，堀 純子，王 明聡，谷口ヒロ子，高橋 浩，島崎 潤¹，秋葉久弥²，八木田秀雄²（¹国立感染研究所，²順天堂大学 免疫学）：眼局所の免疫応答における Tim-3/Galectin-9 シグナルの抑制的役割. 日本眼科学会総会（第114回）（名古屋），2010. 4.
- 12) 堀 純子，谷口ヒロ子，寺田 節，東みゆき¹，秋葉久弥²，八木田秀雄²，安部 良³（¹国立感染研究所，²順天堂大学 免疫学，³東京理科大学生命科学研究所）：前眼部の免疫応答に置ける ICOS/B7RP-1 経路の抑制

- 的役割. 日本眼科学会総会 (第 114 回) (名古屋), 2010. 4.
- 13) 谷口ヒロ子, 堀 純子, 北原由紀, 高橋 浩, 大島正道¹⁾, 秋葉久弥²⁾, 八木田秀雄²⁾, 東みゆき³⁾ (1) 国立感染研究所, 2) 順天堂大学 免疫学, 3) 東京医科歯科大学): 前眼部の免疫応答における B7-H3/TLT-2 経路の役割. 日本眼科学会総会 (第 114 回) (名古屋), 2010. 4.
 - 14) 小原澤英彰, 五十嵐勉, 横田 隆¹⁾, 藤井博明, 鈴木久晴, 町出 充¹⁾, 高橋 浩, 太田成男¹⁾, 大澤郁朗¹⁾ (1) 老人病研究所): ラット網膜虚血再灌流モデルにおける水素点眼による神経保護効果. 日本眼科学会総会 (第 114 回) (名古屋), 2010. 4.
 - 15) 平岡美紀, 黒田呈子¹⁾, 高田昌彦¹⁾, 折茂英生²⁾, 高橋 浩 (1) 京都大学霊長類研究所, 2) 防衛医科大学校): 眼組織におけるリソゾームホスホリパーゼの発現と機能. 日本眼科学会総会 (第 114 回) (名古屋), 2010. 4.
 - 16) 五十嵐勉, 三宅弘一, 増田郁也, 島田 隆, 高橋 浩: AAV ベクター (8 型) による脈絡膜新生血管に対する遺伝子治療. 日本眼科学会総会 (第 114 回) (名古屋), 2010. 4.
 - 17) 永長周一郎¹⁾, 小野真史 (1) 食コミュニケーション研究所): 前頭葉専用の光イメージング脳機能測定装置 (fNIRS) による嚙下困難感の評価. 日本リハビリテーション医学会学術集会 (第 48 回) (鹿児島), 2010. 5.
 - 18) 鈴木久晴, 大木孝太郎¹⁾, 三戸岡克哉²⁾, 志和利彦, 高橋 浩 (1) 大木眼科, 2) 東京慈恵会医科大学附属第三病院): 超音波チップを抜く際の前房内圧の変動. 日本眼内レンズ屈折矯正手術学会総会 (第 25 回) (大阪), 2010. 6.
 - 19) 若山久仁子, 堀 純子, 塚田玲子, 伊藤由紀子, 高橋 浩: 強膜炎の臨床像と治療成績に関する統計的観察. 日本眼炎症学会総会 (第 44 回) (東京), 2010. 7.
 - 20) 寺田 節, 堀 純子, 谷口ヒロ子, 丸山和一¹⁾, 安部 良²⁾ (1) 京都府立医科大学, 2) 東京理科大学 生命科学研究所): ICOS は角膜の自然免疫応答に随伴する血管新生を抑制する. 日本眼炎症学会総会 (第 44 回) (東京), 2010. 7.
 - 21) 小野真史: ドライアイの診断と治療: たかがドライアイされどドライアイ. 日本医科大学 医療連携推進会 (第 13 回) (東京), 2010. 7.
 - 22) 南野麻美, 谷野富彦¹⁾, 中込 豊²⁾, 鈴木弘隆³⁾, 宇多重員⁴⁾ (1) 西鎌倉谷野眼科, 2) 中込眼科, 3) 中野総合病院, 4) 二本松眼科病院): プロスタグランジン関連役のビマトプロストへの切替による眼圧下降効果. 日本緑内障学会 (第 21 回) (福岡), 2010. 7.
 - 23) 松永秀夫¹⁾, 小池恭子²⁾, 久保田道子³⁾, 石田奈央子⁴⁾, 小野真史 (1) 新潟県視覚障害者福祉協会, 2) 名古屋盲人情報文化センター, 3) 静岡県補助犬支援センター, 4) 神奈川県総合リハビリテーションセンター): 視覚障害者コーチ養成プログラムの効果. 視覚障害リハビリテーション研究発表大会 in 東海 (第 19 回) (愛知), 2010. 9.
 - 24) 小野真史: 視覚障害者コーチ養成プログラムによる新職域開発の可能性. 日本ロービジョン学会学術総会 (第 11 回) (岡山), 2010. 10.
 - 25) 岩間真由美, 堀 純子, 平岡美紀, 高橋 浩, 杉田 直¹⁾, 望月 學¹⁾ (1) 東京医科歯科大学 眼科学): 免疫抑制下のネフローゼ児に発症した片眼性浸出性網脈絡膜炎の 1 例. 日本臨床眼科学会総会 (第 64 回) (神戸), 2010. 11.
 - 26) 佐藤景子, 堀 純子, 五十嵐勉, 高橋 浩, 今 高之¹⁾ (1) 順天堂大学 膠原病内科学): 強皮症に随伴した両眼性汎ぶどう膜炎の 1 例. 日本臨床眼科学会総会 (第 64 回) (神戸), 2010. 11.
 - 27) 小野真史, 永長周一郎¹⁾, 鮫島智子, 高橋 浩 (1) 食コミュニケーション研究所): 眼精疲労感発生時の前頭葉活性測定による眼不快の検出. 日本臨床眼科学会 (第 64 回) (神戸), 2010. 11.
 - 28) 鈴木久晴, 志和利彦, 高橋 浩: 半円式 CCC マーカーによる水晶体へのマーキング. 日本臨床眼科学会 (第 64 回) (神戸), 2010. 11.
 - 29) 仲里ゆり, 鈴木久晴, 稲毛道憲, 國重智之, 高橋 浩: チモロールゲル化剤による角膜上皮障害の検討. 日本

臨床眼科学会（第 64 回）（神戸），2010. 11.

- 30) 片上千加子¹⁾，高村悦子²⁾，北川和子³⁾，堀 純子，外園千恵⁴⁾，篠崎和美⁵⁾（¹⁾ 神戸海星病院，²⁾ 東京女子医科大学，³⁾ 金沢医科大学，⁴⁾ 京都府立医科大学，⁵⁾ 出田眼科病院）：やさしい角結膜感染症クリニック：正確な初期診断と適切な治療 第 2 弾：実践編. 日本臨床眼科学会（第 64 回）（神戸），2010. 11.
- 31) 鈴木久晴：半円式 CCC マーカーによる水晶体へのマーキング. 千駄木フォーラム（第 13 回）（東京），2010. 12.
- 32) 鈴木久晴，志和利彦，仲里ゆり，佐藤景子，高橋和久，高木昌浩，高橋 浩：外来処置・小手術におけるオゾン水の消毒効果. 日本眼科学術学会総会（第 34 回）（京都），2011. 1.
- 33) 國重智之，鈴木久晴，志和利彦，高橋 浩：白内障手術時に患者はどのように感じているのか？. 日本眼科学術学会総会（第 34 回）（京都），2011. 1.
- 34) 小野真史，高橋 浩：羞明発生時の前頭葉活性測定による眼不快の検出. 角膜カンファランス（第 35 回）（東京），2011. 2.
- 35) 仲里ゆり，五十嵐勉，國重智之，藤田美穂，山田佑美，藤本千明，大久保公裕，高橋 浩：季節性アレルギー性鼻炎結膜炎患者に対する Mometasone Furoate の眼症状改善効果の検討. 角膜カンファランス（第 35 回）（東京），2011. 2.

[千葉北総病院眼科]

研究業績

論文

(1) 総説：

- 1) Suzuki N, Takahashi T, Aoki M, Mizu T, Konohana S, Okumura T, Takahashi H, Kameya S, Yamaki K, Kumagai T, Fujihara K, Itoyama Y: Neuromyelitis optica preceded by hyperCKemia episode. *Neurology* 2010; 74 (19): 1543-1545.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) Takahashi H: Electrophysiological and Morphological Characterization of a Mouse Model of Muscle-Eye-Brain Disease Generated by Targeting Disruption of POMGnT1. Association for Research in Vision and Ophthalmology (ARVO) 2010 Annual Meeting (Fort Lauderdale, Florida, USA), 2010. 5.
- 2) Takahashi H, Kameya S, Yamaki K, Kanesaki H¹⁾, Suzuki Y¹⁾, Takeda S¹⁾, Mizota A²⁾, Igarashi T, Takahashi H（¹⁾ 国立精神神経センター，²⁾ 帝京大学）：Electrophysiological and Morphological Characterization of a Mouse Model of Muscle-Eye-Brain Disease Generated by Targeting Disruption of POMGnT1. International Society for Clinical Electrophysiology of Vision (ISCEV) (Fremantle, Western Australia), 2010. 11.
- 3) 高橋永幸，亀谷修平，後藤陽子，山木邦比古，溝田 淳¹⁾，兼先宏典²⁾，鈴木友子²⁾，武田伸一²⁾，五十嵐勉，高橋 浩（¹⁾ 帝京大学，²⁾ 国立精神神経センター）：Muscle-eye-brain disease モデルマウス網膜の組織および電気生理学的解析. 日本眼科学会総会（第 114 回）（名古屋），2010. 4.
- 4) 高橋永幸，兼先宏典¹⁾，五十嵐勉，亀谷修平，後藤陽子，山木邦比古，溝田 淳²⁾，鈴木友子¹⁾，武田伸一¹⁾，高橋 浩（¹⁾ 国立精神神経センター，²⁾ 帝京大学）：POMGnT1 欠損マウスにおける網膜グリオーシスの亢進. Retina Research Meeting（第 3 回）（東京），2010. 12.
- 5) 兼先宏典¹⁾，高橋永幸，亀谷修平，五十嵐勉，後藤陽子，山木邦比古，溝田 淳²⁾，鈴木友子¹⁾，武田伸一¹⁾，高橋 浩（¹⁾ 国立精神神経センター，²⁾ 帝京大学）：POMGnT1 欠損マウスではアストロサイトの増殖に伴って網膜剥離が生ずる. 日本分子生物学会年会（第 33 回）（神戸），2010. 12.

17. 麻酔科学講座

[付属病院麻酔科]

研究概要

本教室のメインテーマとしての全身麻酔の機序解明と新たな麻酔薬・麻酔法の開発、重症患者管理と重症化阻止、神経障害性疼痛解明と慢性痛の一掃対策につき種々の臨床および基礎的研究が行われた。また、人工呼吸管理、術後疼痛管理、緩和ケア、ペインクリニック等多くのテーマについても幅広く研究が行われた。さらに、本年度は、日本心臓血管麻酔学会第15回学術大会を主催し、心臓血管外科手術周術期管理における多くの研究発表も行われた。以下に主な内容を示す。

基礎研究：マイクロアレイ、realtime RT-PCR、細胞培養装置、パッチクランプ、心血管灌流装置等を用いて、1) 麻酔による体内遺伝子発現への影響、2) 麻酔とプロテオミクス、3) 麻酔とメタボロミクス、4) 呼吸中枢と痙攣閾値の関連、5) 頸動脈小体活動機序、6) ショックにおける人工酸素運搬体の効果、7) 神経因性疼痛に及ぼすECTの効果等。

臨床研究：臨床麻酔、外科系集中治療、ペインクリニック、緩和医療領域において、1) 周術期 β 遮断薬の効果、2) 周術期心イベントの発生要因、3) 新たな輸液製剤の臨床的效果、4) 外科侵襲による生体反応、5) 非侵襲的人工呼吸管理、6) 新たな疼痛管理法等。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Kawaguchi H, Hirakawa K¹, Miyauchi K, Koike K², Ohno Y¹, Sakamoto A (¹ NMR Laboratory and Department of Legal Medicine, Nippon Medical School, ² Department of Primary Care and Emergency Medicine, Kyoto University Graduate School of Medicine) : Pattern recognition analysis of proton nuclear magnetic resonance spectra of brain tissue extracts from rats anesthetized with propofol or isoflurane. PLoS One 2010 ; 5 (6) : e11172.
- 2) Furuichi M, Takeda S¹, Akada S¹, Onodera H, Yoshida Y, Nakazato K, Sakamoto A (¹ Division of Intensive Care and Coronary Care Unit, Nippon Medical School) : Noninvasive positive pressure ventilation in patients with perioperative negative pressure pulmonary edema. Journal of Anesthesia 2010 ; 24 (3) : 464-468.
- 3) Okabe T, Sato C, Sakamoto A : Changes in neuropeptide Y gene expression in the spinal cord of chronic constrictive injury model rats after electroconvulsive stimulation. Biomedical Research 2010 ; 31 (5) : 287-292.
- 4) Mori M, Yamanashi Y, Kobayashi K, Sakamoto A : Atrial natriuretic peptide alleviates cardiovascular and metabolic disorders in a rat endotoxemia model : a possible role for its anti-inflammatory properties. J Nippon Med Sch 2010 ; 77 (6) : 296-305.
- 5) Kawahara H, Drew MG¹, Christie JM², Vaughan WC¹ (¹ Pain Management Research Institute, Kolling Institute of Medical Research, Northern Clinical School, University of Sydney at Royal North Shore Hospital, ² Brain & Mind Institute, University of Sydney) : Inhibition of fatty acid amide hydrolase unmasks CB(1) receptor and TRPV1 channel-mediated modulation of glutamatergic synaptic transmission in midbrain periaqueductal grey. (doi : 10.1111/j.1476-5381.2010.01157.X). British Journal of Pharmacology 2010.

- 6) Toda S, Sakai A¹⁾, Ikeda Y¹⁾, Sakamoto A, Suzuki H¹⁾ (1) Department of Pharmacology, Nippon Medical School) : A local anesthetic, ropivacaine, suppresses activated microglia via a nerve growth factor-dependent mechanism and astrocytes via a nerve growth factor-independent mechanism in neuropathic pain (doi : 10.1186/1744-8069-7-2). *Molecular Pain* 2011 ; 7 (2).
- 7) Tsuboko Y, Sakamoto A : Propofol anaesthesia alters the cerebral proteome differently from sevoflurane anaesthesia. *Biomedical Research* 2011 ; 32 (1) : 56-65.
- 8) Ohe Y, Iijima N¹⁾, Kadota K, Sakamoto A, Ozawa H¹⁾ (1) Department of Anatomy and Neurobiology, Nippon Medical School) : The general anesthetic sevoflurane affects the expression of clock gene *mPer2* accompanying the change of NAD⁺ level in the suprachiasmatic nucleus of mice. *Neuroscience Letters* 2011 ; 490 (3) : 231-236.
- 9) 西村匡司¹⁾, 多治見公高²⁾, 竹田晋浩, 小谷 透³⁾, 鶴田良介⁴⁾, 長谷川隆一⁵⁾, 福岡敏雄⁶⁾, 武澤 純⁷⁾, 今中雄一⁸⁾, 林田賢史⁸⁾, 村上玄樹⁸⁾, 松田晋哉⁹⁾ (1) 徳島大学, 2) 秋田大学, 3) 東京女子医大, 4) 山口大学, 5) 公立陶生病院, 6) 倉敷中央病院, 7) 名古屋大学, 8) 京都大学大学院医学系研究科健康医学系専攻医療経済学分野, 9) 産業医科大学医学部公衆衛生学) : わが国集中治療室の現状調査 : 松田班調査結果報告. *日集中医誌* 2010 ; 17 (2) : 227-232.
- (2) 総説 :
- 1) 竹田晋浩 : ALI/ARDS に対するステロイド治療. *ARDS/ALI 治療の新展開. 呼吸と循環* 2010 ; 58 (6) : 571-576.
- 2) 竹田晋浩 : NPPV 療法. ラウンドテーブルディスカッション : massimo Antonelli 先生を囲んで 2010 ; 1 (1) : 3-4.
- 3) 三井誠司, 竹田晋浩 : 体外式陽陰圧式人工呼吸 : 急性呼吸不全. *人工呼吸* 2010 ; 27 (1) : 16-22.
- 4) 竹田晋浩 : 新型インフルエンザ 2009 influenza A (H1N1) による重症呼吸不全. *Anet* 2010 ; 14 (2) : 34-39.
- 5) 中西一浩 : パルス CO オキシメトリを用いた術中循環管理. *Anet* 2010 ; 14 (2) : 42-45.
- 6) 竹田晋浩 : 非侵襲的人工呼吸法のメカニズムと臨床適応. *呼吸管理プラクティカルガイド. 救急医学* 2010 年 9 月臨時増刊号 2010 ; 34 (10) : 1175-1180.
- 7) 竹田晋浩 : 特集 : 新型インフルエンザ 2009 年パンデミックから何を学ぶか. 劇症肺炎への対応 : 人工呼吸管理から脱出した国内症例と海外における ECMO 症例. *日本医師会雑誌* 2010 ; 139 (7) : 1481-1486.
- 8) 竹田晋浩 : 特集 : 急性心不全. 急性心不全における補助換気 : 常に非侵襲的換気 (NIV) を第一選択とする時代に入ったのか?. *Intensivist2010* 2010 ; 2 (4) : 824-835.
- 9) 竹田晋浩 : 肺水腫患者の人工呼吸法のケアを教えてください. *人工呼吸器とケア Q & A. ナーシングケア Q&A* 2010 ; 35 (1) : 244-245.
- 10) 竹田晋浩 : ICU で行われている急性期 NPPV 呼吸ケア. NPPV 呼吸ケア. *日本在宅医学会雑誌* 2011 2011 ; 12 (1) : 5-8.
- (3) 症例報告 :
- 1) Takeda S, Munakata R, Abe S, Mii S, Suzuki M, Kashiwada T, Azuma A : Hypercytokinemia with 2009 pandemic H1N1 (pH1N1) influenza successfully treated with polymyxin B-immobilized fiber column hemoperfusion. *Intensive Care Med* 2010 ; 36 (5) : 906-907.
- 2) Sato C, Okabe T, Nakanishi K, Sakamoto A : A case of cancer pain management by long-term intrathecal PCA. *Journal of Nippon Medical School* 2010 ; 77 (6) : 333-337.
- 3) 古市結富子, 中里桂子, 守 真輝, 赤田信二, 岸川洋昭, 本郷 卓, 竹田晋浩, 坂本篤裕 : 僧帽弁置換術後左室破裂をきたし救命し得た 2 症例. *Cardiovascular Anesthesia* 2010 ; 14 (1) : 13-17.

著 書

- 1) 坂本篤裕：〔分担〕第4章 心・血管作動薬. 麻酔科学レビュー 2010：最新主要文献集（天羽敬祐），2010：pp18-26, 総合医学社.
- 2) Takeda S, Akada S, Nakazato K：〔分担〕Use of dexmedetomidine in patients with noninvasive ventilation. Noninvasive mechanical ventilation（Antonio M Esquinas），2010：pp237-239, Springer.
- 3) 竹田晋浩：〔分担〕麻酔科医と救急医療. 麻酔科学レビュー 2010：最新主要文献集（天羽敬祐），2010：pp213-215, 総合医学社.
- 4) 坂本篤裕：〔分担〕第12章 麻酔, 外科と心臓；心臓手術を受ける高リスク患者の術前評価および手術管理. 循環器病学：基礎と臨床（川名正敏, 北風政史, 小室一成, 室原豊明, 山崎力, 山下武志編集），2010：pp1096-1104, 西村書店.
- 5) 中里桂子, 竹田晋浩：〔分担〕非侵襲的陽圧換気. 人工呼吸器関連肺炎のすべて（志馬伸朗），2010：pp90-95, 南江堂.
- 6) 本郷 卓, 坂本篤裕：〔分担〕第10章 危機管理 10 心停止（心静止, PEA, 徐脈性不整脈）. 麻酔科研修ノート（永井良三），2010：pp276-278, 診断と治療社.
- 7) 竹田晋浩：〔分担〕ALI/ARDSの診断基準はなぜ変わらないのか？. 呼吸療法における不思議50（安本和正, 小谷透），2011：pp16-20, 株式会社アトムス.
- 8) 鈴木規仁, 坂本篤裕：〔分担〕カテコラミン使用のこつ. 臨床麻酔「臨時増刊号」, 2011：pp341-349, 真興交易（株）医書出版部.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 坂本篤裕：周術期における短時間作用型 β 遮断薬の有用性. 佐賀周術期管理研究会（第2回）（佐賀），2010. 12.
- 2) 坂本篤裕：麻酔科医とリスクマネージメント. 奈良県医師会麻酔部会（第18回）（奈良），2011. 3.

(2) 招待講演：

- 1) Nakanishi K：Accuracy of total hemoglobin (SpHbTM) with Pulse CO-Oximetry. Congress of Pan-Pacific Surgical Association (27th) (Hawaii, USA.), 2010. 11.

(3) 教育講演：

- 1) Sakamoto A：Perioperative use of ultra-short acting beta-blocker, Landiolol comes on the field. Congress of Pan-Pacific Surgical Association (27th) (Hawaii, USA), 2010. 11.
- 2) 幸田修典：モニターとしての経食道心エコーとその基礎知識. 日本心臓血管麻酔学会学術大会（第15回）（東京），2010. 10.

(4) シンポジウム：

- 1) 坂本篤裕：麻酔機器・麻酔手技ワーキンググループ報告（麻酔と安全）. 日本麻酔科学会学術集会（第57回）（福岡），2010. 6.

(5) セミナー：

- 1) 坂本篤裕：周術期における短時間作用型 β 遮断薬の有用性. 日本麻酔科学会学術集会（第57回）（福岡），2010. 6.
- 2) 坂本篤裕：電気痙攣療法と麻酔. 東京麻酔専門医会（平成22年度）（東京），2010. 7.
- 3) 坂本篤裕：周術期における短時間作用型 β 遮断薬の有用性. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部合同学術集会（第50回）（東京），2010. 9.
- 4) 中西一浩：パルスCOオキシメトリを用いた周術期輸液管理の可能性と限界. 日本心臓血管麻酔学会学術大会（第

15 回) (東京), 2010. 10.

5) 坂本篤裕: 進化するパルスオキシメータ. 日本臨床麻酔学会大会 (第 30 回) (徳島), 2010. 11.

6) 坂本篤裕: 周術期における短時間作用型 β 遮断薬の重要性. 南大阪 Cardiovascular Seminar (2011) (大阪), 2011. 3.

(6) 一般講演:

1) Ohe Y, Iijima N¹⁾, Kadota K, Sakamoto A, Ozawa H¹⁾ (1) Department of Anatomy and Neurobiology, Nippon Medical School): The general anesthetic sevoflurane represses the expression of clock gene *mPer2* accompanying NAD⁺ increase in the suprachiasmatic nucleus of mice. International Congress of Neuroendocrinology (The 7th) (Rouen, France), 2010. 7.

2) Sakamoto A, Kitakaze M¹⁾, Takamoto S²⁾, Namiki A³⁾, Kasanuki H⁴⁾, Hosoda S⁵⁾, The JI-Knight Study Group (1) Cardiovascular Division of Medicine, National Cardiovascular Center, 2) Department of Cardiothoracic Surgery, University of Tokyo Hospital, 3) Department of Anesthesiology, Sapporo Medical University, 4) Department of Cardiology, Tokyo Women's Medical University, 5) Sakakibara Heart Institute): Landiolol vs diltiazem in treatment of postoperative atrial fibrillation: A multicenter study. American Society of Anesthesiologists (2010 annual meeting) (SanDiego), 2010. 10.

3) Okabe T, Sato C, Matsumoto K¹⁾, Ozawa H¹⁾, Sakamoto A (1) Department of Anatomy and Neurobiology, Nippon Medical School): ECS increases the expression of NPY in rat brains in a model of neuropathic pain. American Society of Anesthesiologists (2010 annual meeting) (SanDiego), 2010. 10.

4) Ohe Y, Iijima N¹⁾, Kadota K, Ozawa H¹⁾, Sakamoto A (1) Department of Anatomy and Neurobiology, Nippon Medical School): Sevoflurane represses the clock gene *mPer2* expression accompanying NAD⁺ increase in the suprachiasmatic nucleus of mice. American Society of Anesthesiologists (2010 annual meeting) (SanDiego), 2010. 10.

5) 岡部 格, 佐藤千代, 松本恵介¹⁾, 小澤一史¹⁾, 坂本篤裕 (1) 日本医科大学学生体構造学講座): CCI モデルのラットに対する ECS 施行後の延髄での NPY の発現の変化. 日本ペインクリニック学会大会 (第 44 回) (京都), 2010. 7.

6) 河原裕泰^{0, 1)}, 坂本篤裕^{0, 1)} (1) 日本医科大学付属病院麻酔科): A FAAH inhibitor, URB597 can potentiate anandamide levels, unmasking functionally opposite, facilitatory or suppressive effects on excitatory transmission that are mediated by CB1 and TRPV1 receptors. 日本麻酔科学会学術総会 (第 57 回) (福岡), 2010. 6.

7) 源田雄紀, 鈴木規仁, 中西一浩, 坂本篤裕: 大量出血時における経皮的トータルヘモグロビン値の検討. 日本臨床モニター学会総会 (第 21 回) (大阪), 2010. 4.

8) 橋爪良枝, 金 徹, 本郷 卓, 坂本篤裕: 異なる機器間のヘモグロビン値とヘマトクリット値の違いに対する人工心臓の影響. 日本臨床モニター学会総会 (第 21 回) (大阪), 2010. 4.

9) 田中俊輔, 杖下隆哉, 河原裕泰, 坂本篤裕: 腹腔鏡手術における経食道心エコーの有用性. 日本臨床モニター学会総会 (第 21 回) (大阪), 2010. 4.

10) 間瀬大司, 坂井 敦¹⁾, 鈴木秀典¹⁾, 坂本篤裕 (1) 日本医科大学薬理学講座): Rostral ventromedial medulla へのカイニン酸投与は神経因性疼痛における熱性疼痛過敏を減弱させる. 日本麻酔科学会学術集会 (第 57 回) (福岡), 2010. 6.

11) 戸田 繁, 坂井 敦¹⁾, 池田裕美子¹⁾, 佐藤千代, 鈴木秀典¹⁾, 坂本篤裕 (1) 日本医科大学薬理学講座): ロピバカインは NGF の発現上昇を介して神経因性疼痛を緩和する. 日本麻酔科学会学術集会 (第 57 回) (福岡), 2010. 6.

12) 岡部 格, 佐藤千代, 鎌形千尋, 坂本篤裕: ラットの CCI モデルに対する ECS 後の脊髄後角の NPY 発現の変

- 化. 日本麻酔科学会学術集会 (第 57 回) (福岡), 2010. 6.
- 13) 鎌形千尋, 坪光祥晃, 岡部 格, 佐藤千代, 坂本篤裕: ECS 施行後神経因性疼痛ラット脳のプロテオーム解析. 日本麻酔科学会学術集会 (第 57 回) (福岡), 2010. 6.
 - 14) 大江裕美子, 飯島典生¹⁾, 門田佳奈, 小澤一史¹⁾, 坂本篤裕 (¹⁾ 日本医科大学大学生体構造学講座): 全身麻酔薬 sevoflurane は時計遺伝子 *mPer2* の発現を NAD⁺ 上昇を伴い抑制する. 日本麻酔科学会学術集会 (第 57 回) (福岡), 2010. 6.
 - 15) 門田佳奈, 飯島典生¹⁾, 大江裕美子, 小澤一史¹⁾, 坂本篤裕 (¹⁾ 日本医科大学大学生体構造学講座): 異なる時間帯における全身麻酔薬 sevoflurane の時計遺伝子 *mPer2* およびサーカディアンリズムへの影響. 日本麻酔科学会学術集会 (第 57 回) (福岡), 2010. 6.
 - 16) 石川真士, 中里桂子¹⁾, 荒井雅江, 川口宏志, 廣本敦之²⁾, 三井誠司¹⁾, 竹田晋浩¹⁾, 田中啓治¹⁾, 坂本篤裕 (¹⁾ 日本医科大学付属病院集中治療室, ²⁾ 日本医科大学心臓血管外科): NPPV トータルフェイスマスクを拒絶した患者へのヘルメットの適応. 日本呼吸療法医学会学術総会 (第 32 回) (東京), 2010. 7.
 - 17) 河原裕泰, 坂本篤裕: 肢端紅痛症に対する交感神経ブロックの効果について. 日本ペインクリニック学会大会 (第 44 回) (京都), 2010. 7.
 - 18) 荒井雅江, 三井誠司¹⁾, 石川真士, 伊藤公亮, 廣本敦之²⁾, 中里桂子, 野口裕幸³⁾, 竹田晋浩, 田中啓治²⁾, 坂本篤裕 (¹⁾ 榊原記念病院麻酔科, ²⁾ 日本医科大学付属病院集中治療室, ³⁾ 日本医科大学付属病院 ME 部): ARDS の診断基準を満たさなかった敗血症性ショックの 2 症例. 日本呼吸療法医学会学術総会 (第 32 回) (東京), 2010. 7.
 - 19) 源田雄紀, 河原裕泰, 岡部 格, 鈴木規仁, 中西一浩, 坂本篤弘: コントロールに難渋した癌性疼痛に対し塩酸トラマドールの使用により疼痛緩和を得た 1 症例. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部合同学術集会 (第 50 回) (東京), 2010. 9.
 - 20) 田島朋幸, 河原裕泰, 保利陽子, 坂本篤裕 (¹⁾ 日本医科大学千駄木病院麻酔科学教室): 食道アカラシア術後のドロペリドール投与により錐体外路症状を呈した 1 例. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部合同学術集会 (第 50 回) (東京), 2010. 9.
 - 21) 鎌形千尋, 幸田修典, 杖下隆哉, 本郷 卓, 坂本篤裕: 術中経食道心エコーにより食道穿孔を来した 1 症例. 日本心臓血管麻酔学会学術大会 (第 15 回) (東京), 2010. 10.
 - 22) 宮内健佑, 川口宏志, 平川慶子¹⁾, 坂本篤裕 (¹⁾ 日本医科大学 NMR 研究室・法医学講座): プロトン NMR メタボロミクスを用いた麻酔薬のラット脳代謝への影響. 日本静脈麻酔学会 (第 17 回) (弘前), 2010. 10.
 - 23) 荒井雅江, 杖下隆哉, 中里桂子, 三井誠司²⁾, 山本 剛¹⁾, 竹田晋浩¹⁾, 田中啓治¹⁾, 坂本篤裕 (¹⁾ 日本医科大学付属病院集中治療室, ²⁾ 榊原記念病院麻酔科): 甲状腺亜全的術後に逆たこつば型心筋症を呈した 1 例. 日本心臓血管麻酔学会学術大会 (第 15 回) (東京), 2010. 10.
 - 24) 渡邊 悠, 鎌形千尋, 坂本篤裕: 麻酔薬のラット肝臓プロテオームへの影響. 日本静脈麻酔学会 (第 17 回) (弘前), 2010. 10.
 - 25) 橋爪良枝, 中里桂子¹⁾, 竹田晋浩¹⁾, 源田雄紀, 間瀬大司, 小泉有美馨¹⁾, 坂本篤裕 (¹⁾ 日本医科大学付属病院集中治療室): 腎機能障害, 肺高血圧症合併の右心不全で術後管理に難渋した慢性膿胸の 1 例. 日本臨床麻酔学会大会 (第 30 回) (徳島), 2010. 11.
 - 26) 石川真士, 幸田修典, 中里桂子¹⁾, 小泉有美馨¹⁾, 竹田晋浩¹⁾, 坂本篤裕 (¹⁾ 日本医科大学付属病院集中治療室): 開心術中に発症した DeBakeyIIIb 型下行大動脈解離の 1 症例. 日本臨床麻酔学会大会 (第 30 回) (徳島), 2010. 11.
 - 27) 萩原めぐみ, 河原裕泰, 鈴木規仁, 岡部 格, 中西一浩, 坂本篤裕: Ehlers-Danlos 症候群の疼痛管理経験. 日本臨床麻酔学会大会 (第 30 回) (徳島), 2010. 11.
 - 28) 荒井雅江, 岡部 格, 河原裕泰, 中西一浩, 坂本篤裕: フェンタニルパッチからフェンタニル持続静注へとオ

- ピオイドローテーションを行った13症例の検討. 日本臨床麻酔学会大会(第30回)(徳島), 2010. 11.
- 29) 福岡俊宗, 鎌形千尋, 中里圭子, 金 徹, 本郷 卓, 坂本篤裕:胆管癌の患者の閉鎖循環下抗癌剤還元療法に対しての全身麻酔経験. 日本臨床麻酔学会大会(第30回)(徳島), 2010. 11.
- 30) 田中俊輔, 岡部 格, 近藤純史, 鈴木規仁, 河原裕泰, 坂本篤裕:脳卒中後痛にデクスメトミジンが著効した1例. 日本臨床麻酔学会大会(第30回)(徳島), 2010. 11.
- 31) 間瀬大司, 中里桂子¹⁾, 廣本敦之¹⁾, 小泉有美馨¹⁾, 竹田晋浩¹⁾, 田中啓治¹⁾, 坂本篤裕⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院集中治療室:当院での透析患者の心臓血管手術における周術期管理に関する検討. 日本集中治療医学会学術集会(第38回)(横浜), 2011. 2.
- 32) 源田雄紀, 小泉有美馨¹⁾, 橋爪良枝, 間瀬大司, 廣本敦之¹⁾, 中里桂子, 竹田晋浩¹⁾, 田中啓治¹⁾, 坂本篤裕⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院集中治療室:適切な人工呼吸管理導入と診断前化学療法が有効であったリンパ腫関連血球貪食症候群の1症例. 日本集中治療医学会学術集会(第38回)(横浜), 2011. 2.
- 33) 石川真士, 中里桂子¹⁾, 源田雄紀, 橋爪良枝, 間瀬大司, 廣本敦之¹⁾, 小泉有美馨¹⁾, 竹田晋浩¹⁾, 田中啓治¹⁾, 坂本篤裕⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院集中治療室:開心術中に発症した下行大動脈解離により周術期心不全管理に難渋した1例. 日本集中治療医学会学術集会(第38回)(横浜), 2011. 2.
- 34) 荒井雅江, 小泉有美馨, 中里桂子, 岡部 格, 小野寺秀貴, 竹田晋浩¹⁾, 田中啓治¹⁾, 坂本篤裕⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院集中治療室:左肺上大区域切除術中に大量空気塞栓を合併し, 心停止した1例. 日本集中治療医学会学術集会(第38回)(横浜), 2011. 2.
- 35) 門田佳奈, 飯島典生¹⁾, 大江裕美子, 坂本篤裕, 小澤一史¹⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学大学生体構造学講座:異なる時間帯での全身麻酔 sevoflurane による時計遺伝子 mPer2 および行動リズムへの影響. 日本生理学会大会(第88回)・日本解剖学会総会(第116回)・全国学術会合同大会(横浜), 2011. 3.

[武蔵小杉病院麻酔科]

研究概要

慢性的なマンパワー不足の中, 武蔵小杉病院麻酔科では主に臨床に即した研究をおこなっている. 医局員が日常の麻酔, ペイン業務で遭遇する種々の問題, 疑問より発生起案したテーマをもとにチームを編成し研究を進めている. 従って臨床にすぐ反映され, 有益となる研究テーマであるという特徴を有している. 食道がん, 肺がん等の開胸手術における侵襲防御, 産科領域の麻酔管理法, 気道管理方は当科の長年のテーマであり継続的な研究を行っている. 特に産科麻酔領域は帝王切開術だけでも年間250症例以上と付属4病院の中でも有数の症例数である. この領域は非常に緊急性を伴う手術であるにもかかわらず, 国により国内でも施設により差があり, 本邦におけるスタンダードといえる麻酔管理も確立していない. 日本麻酔科学会でも今後の重要課題として提起されており今後も当科研究活動の柱として位置付けられるものである.

研究業績

学会発表

[追加分]

追加分一般講演:

- 1) 鈴木新平¹⁾, 菊谷健彦²⁾, 尾藤博保¹⁾, 菅野 元¹⁾, 大角 真¹⁾, 宮澤英彦³⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院麻酔科, ²⁾ 東戸塚記念病院麻酔科, ³⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院臨床研修医:周術期呼吸管理に難渋し, 術後, 筋強直性ジストロフィとの診断に至った1症例. 日本臨床麻酔学会(第30回)(徳島), 2010. 3.

(1) 一般講演：

- 1) Suzuki M¹⁾, Mizuno B²⁾, Hiroyashu B¹⁾ (1) Musashikosugi Hospital Nippon Medical School Kanagawa Japan, 2) Yokoham Asahi General Hospital) : The effect of remifentanil infusion on the volatile induction by sevoflurane. ASA (San Diego), 2010. 10.
- 2) 鈴木万三¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院麻酔科) : 当院における子宮筋腫核出術での自己血輸血の後ろ向き考察と問題点. 日本麻酔科学会学術集会 (第 57 回) (福岡), 2010. 6.
- 3) 赤羽日出男, 坂本光太郎, 菅野 元, 鳥海博司, 大角 真 : 当院緩和ケアチーム介入症例における麻酔科的鎮痛法の検討. 日本緩和医療学会学術大会 (第 15 回) (東京国際フォーラム), 2010. 6.
- 4) 和田美紀¹⁾, 菊谷健彦²⁾, 尾藤博保¹⁾, 菅野 元¹⁾, 鳥海博司¹⁾, 宮澤英彦³⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院麻酔科, 2) 東戸塚記念病院麻酔科, 3) 日本医科大学武蔵小杉病院臨床研修医) : 徐脈性不整脈を合併する高齢者の麻酔経過. 日本臨床麻酔学会 (第 30 回大会) (徳島), 2010. 11.

[多摩永山病院麻酔科]

研究概要

平成 22 年度も、継続的な研究活動を行ってきた。ペインクリニック領域では、筋筋膜痛症候群、顎関節症を対象とした、新しい神経ブロック法を考案し診療に応用し、症例を重ねてきている。昨年度は国際学会に一部を発表し、平成 23 年度は成果をまとめる予定である。さらに、複合性局所疼痛症候群などの難治性神経源性疼痛に対しては、エピソードコピー、透視化神経ブロック、高周波熱凝固、硬膜外脊髄刺激電極埋め込み術、癌性疼痛患者に対して脊髄くも膜下カテーテル挿入および薬液注入ポート埋め込み術などを積極的に施行し、成果を発表している。こうした手技の向上に相まって外来患者数は増加の一途である。手術麻酔においては、気管挿管時の喉頭等の位置や形状の変化の解析による新たな成果を得て、症例を積み重ね、平成 22 年度は中国、山東医科大学にて、気管挿管に関する解剖学的研究成果についての招待講演が行われた。その解析と同時に開発された喉頭鏡は本学 TLO センターを通して特許出願し、市販され高い評価を受けている。また、呼吸生理における基礎研究においては、その成果を、論文発表し、平成 22 年度の日本生理学会のシンポジウムに招待された。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Kobayashi N, Yamamoto Y¹⁾ (1) Institute of Applied Biochemistry, Gifu, JAPAN) : Hypoxic responses of arterial chemoreceptors in rabbits are primarily mediated by leak K channels. Adv Exp Med Biol 2010 ; (669) : 195-199.

著書

- 1) 内木亮介 : [分担] failed back surgery syndrome. 難治性疼痛の薬物療法 (樋口 比登実), 2010 ; pp48-50, 南山堂.

学会発表

(1) 招待講演：

- 1) 西川晃司 : New Anatomical Evidence for Airway Management. Refresh Seminar, Shandong Medical University, Shandong Provincial Hospital (Jinan, Shandong, China), 2010. 10.

(2) 一般講演：

- 1) 西川晃司, 水野幸一, 幸田真理子, 山田光輝, 坂本篤裕¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院麻酔科)：四軸システム理論—喉頭展開の幾何学的機序に関する新しい構想. 日本麻酔科学会 (第 57 回) (福岡市), 2010. 6.
- 2) 水野幸一, 幸田真理子, 山梨義高²⁾, 小林德行, 内木亮介, 山田光輝, 坂本篤裕¹⁾ (1) 日本医科大学麻酔科学教室, ²⁾ 海老名総合病院麻酔科)：難治性癌性疼痛の急性期管理にても膜下カテーテル及び皮下ポートを造設し持続モルヒネ投与を行った 1 例. 日本ペインクリニック学会 (第 44 回) (京都市), 2010. 7.
- 3) 幸田真理子, 水野幸一, 山梨義高²⁾, 小林德行, 内木亮介, 山田光輝¹⁾, 坂本篤裕 (1) 日本医科大学麻酔科学教室, ²⁾ 海老名総合病院麻酔科)：持続くも膜下モルヒネ投与中に生じたくも膜下占拠性病変により注入が困難となった 1 例. 日本ペインクリニック学会 (第 44 回) (京都市), 2010. 7.
- 4) 水野幸一, 飯野 治¹⁾, 山田光輝, 坂本篤裕²⁾ (1) 麻生総合病院麻酔科, ²⁾ 日本医科大学付属病院麻酔科)：ガンマネイルに効率的な麻酔法の検討. 日本臨床麻酔学会 (第 30 回) (徳島市), 2010. 11.

[千葉北総病院麻酔科]

研究概要

旧年度末に退職者があった関係で、年度初頭より全 10 名定員のうち半数が新メンバーとなって新体制がスタートした。新メンバーの 5 名は、講師 1 名と大学院生 4 名からなり、すべてが付属病院からの移動であり、それぞれの研究テーマが継続された一方、新たな研究の芽が生まれつつある 1 年となった。大学院生は、いずれも研究の仕上げの段階にあり、多忙な診療活動の合間にそれぞれが完成に向けた作業を行った。結果、2 名は学位審査を経て年度中に助教となったが、残る 2 名はさらに作業を続けているところである。旧メンバーでは、井上、後藤らは継続して気道管理について、中島は修飾型電気痙攣療法の麻酔法に関する新たな知見を見出しつつある。辻本は血液ガス分析装置の簡便型の有用性を検討したほか、主に機器類に関する研究課題に取り組み、神谷は金講師の指導の下、麻酔法による肺気量変化の研究に着手した。

研究業績

論文

[追加分]

追加分総説：

- 1) 金 徹：補助循環装置の基礎知識と必要なモニタリング. 臨床麻酔 2010；34 (臨時増刊)：387-396.

(1) 原著：

- 1) Zen'ichiro IW, Shiga 2T, Imanaga 3K, Inoue T (1) 国際医療福祉大学塩谷病院・麻酔科, ²⁾ 東邦大学大橋医療センター・麻酔科, ³⁾ 昭和大学横浜市北部病院・麻酔科)：Prophylactic continuous administration of landiolol, a novel β 1 blocker, blunts hyperdynamic responses during electroconvulsive therapy without altering seizure activity. International Journal of Psychiatry in Clinical Practice, 2010；14 (2)：132-136.
- 2) Kawaguchi H, Hirakawa K¹⁾, Miyauchi K²⁾, Koike K²⁾, Ohno Y¹⁾, Sakamoto A (1) Department of Legal Medicine and NMR Laboratory, ²⁾ Department of Primary Care and Emergency Medicine, Kyoto University Graduate School of Medicine)：Pattern Recognition Analysis of Proton Nuclear Magnetic Resonance Spectra of Brain Tissue Extracts from Rats Anesthetized with Propofol or Isoflurane. PLoS ONE 2010；5 (6)：E11172.
- 3) Tsuboko Y, Sakamoto A：Propofol anaesthesia alters the cerebral proteome differently from sevoflurane anaesthesia. Biomedical Research 2011；32 (1)：55-65.

(2) 総説：

- 1) 井上哲夫：困難気道への対応（特集：呼吸管理プラティカルガイド）. 救急医学 2010；34（10）：1187-1192.
- 2) 益田律子，服部政治¹⁾，鈴木 勉²⁾，田口仁士³⁾，宇野武司⁴⁾，津田喬子⁵⁾，村川和重⁶⁾，成田年一²⁾（¹⁾ 癌研究会有明病院 麻酔科，²⁾ 星薬科大学薬品毒性学教室，³⁾ 関西医科大学滝口病院 麻酔科，⁴⁾ 潤和会病院 麻酔科，⁵⁾ 名古屋市立東部医療センター東市民病院，⁶⁾ 兵庫医科大学 疼痛制御学講座）：ガバペンチンとプレガバリン（臨床麻酔誌上セミナー '11）. 臨床麻酔第 35 巻臨時増刊号 2011；35（135）：445-460.
- 3) 井上哲夫：特集 気道確保. 臨床麻酔 2011；35（3）：487-487.

著 書

- 1) 中島祐史：〔分担〕非心臓手術における術中経食道心エコー. 周術期超音波診断・治療ガイド（小松徹 藤原祥裕 益田律子），2010；pp92-101，エルセビア・ジャパン.
- 2) 井上哲夫：〔分担〕脊髄くも膜下麻酔 Q22. これだけは知っておきたい手術室ナースング Q&A（天羽敬祐，川村隆枝），2010；pp48-49，総合医学社.
- 3) 井上哲夫：〔分担〕術中管理 Q76. これだけは知っておきたい手術室ナースング Q&A（天羽敬祐，川村隆枝），2010；pp166-167，総合医学社.
- 4) 井上哲夫：〔分担〕手術終了時と術後管理 Q84. これだけは知っておきたい手術室ナースング Q&A（天羽敬祐，川村隆枝），2010；pp185-185，総合医学社.
- 5) 益田律子，小松 徹¹⁾，藤原祥裕¹⁾（¹⁾ 愛知医科大学 麻酔科）：〔分担〕【痛みの治療に用いる薬物】ペインクリニック Q & A. 麻酔科学レクチャー（小川節郎），2011；pp647-657，総合医学社（東京）.

学会発表

(1) その他：

- 1) 中島祐史：ECT の遷延性痙攣. 首都圏 ECT ネットワーク研究会（第 4 回）（東京），2010. 11.

(2) 特別講演：

- 1) 益田律子：圧迫性脊髄症における神経障害性疼痛. 日本疼痛学会（第 32 回）（京都），2010. 7.

(3) 教育講演：

- 1) 井上哲夫：Difficult Airway への挑戦. 日本麻酔科学会第 57 回学術集会（福岡），2010. 8.

(4) シンポジウム：

- 1) 金 徹，伊藤健二¹⁾，安田博之²⁾，讀井將満³⁾，福山達也⁴⁾，日根野谷一⁵⁾，鈴木規仁⁶⁾，谷口英喜⁷⁾，鈴木利保¹⁾（¹⁾ 東海大学麻酔科，²⁾ 杏林大学麻酔科，³⁾ 東京慈恵会医科大学麻酔科，⁴⁾ 埼玉医科大学総合医療センター，⁵⁾ 川崎医科大学麻酔科，⁶⁾ 日本医科大学麻酔科学教室，⁷⁾ 神奈川県立保健福祉大学）：Safety and Efficacy of Pre-operative Oral Rehydration Therapy：an interim report. 環太平洋外科系学会日本支部学術大会（第 27 回）（ホノルル），2010. 11.
- 2) 金 徹：術前経口補水療法（周術期栄養管理）. 外科系連合学会学術集会（第 35 回）（千葉），2010. 6.
- 3) 益田律子：【良導絡とペインクリニック】緩和医療における鍼灸治療の可能性. 緩和医療と経穴刺激療法. 日本良導絡自律神経学会学術大会（第 62 回）（大阪），2010. 10.
- 4) 讀井將満¹⁾，金 徹，伊藤健二²⁾，鈴木利保²⁾，谷口秀喜³⁾，福山達也⁴⁾，鈴木規仁⁵⁾，坂本篤裕⁵⁾，安田博之⁶⁾，日根野谷一⁷⁾（¹⁾ 東京慈恵会医科大学麻酔科，²⁾ 東海大学麻酔科，³⁾ 神奈川県立保健福祉大学，⁴⁾ 埼玉医科大学総合医療センター，⁵⁾ 日本医科大学麻酔科学教室，⁶⁾ 杏林大学麻酔科，⁷⁾ 川崎医科大学麻酔科）：術前経口補水療法の安全性と有効性に関する多施設共同研究. 日本臨床麻酔学会（第 30 回）（徳島），2010. 11.
- 5) 益田律子：神経障害性疼痛シンポジウム I) 現状の課題と将来の展望. 日本慢性疼痛学会（第 40 回）（東京），2011. 2.

(5) セミナー：

- 1) 金 徹：補助循環装置の基礎知識と必要なモニタリング（心臓血管手術周術期管理チームに必要なモニタリングと患者ケアデバイスの基礎知識）. 日本心臓血管麻酔学会第15回学術大会（東京），2010. 10.

(6) 一般講演：

- 1) 輪島善一郎¹⁾，志賀俊哉²⁾，今永和幸³⁾，天笠澄夫⁴⁾，相田純久⁴⁾，井上哲夫（¹⁾ 国際医療福祉大学塩谷病院 麻酔科，²⁾ 東邦大学大橋医療センター 麻酔科，³⁾ 昭和大学横浜市北部病院，⁴⁾ 国際医療福祉大学病院）：麻酔後ベッド移動の循環動態に及ぼす影響：第3報. 日本麻酔科学会学術集会（第57回）（福岡），2010. 6.
- 2) Masuda R, Yoshizawa K, Narita, Suzuki：An open-label dose-titration study of the efficacy and tolerability of oral ifenprodil in the chronic noncancer pain patients under opioid therapy. 13th World Congress on Pain（モントリオール），2010. 9.
- 3) 益田律子，吉澤一巳，井上哲夫，中島祐史，後藤眞弓，坂本篤裕¹⁾（¹⁾ 日本医科大学麻酔科学教室）：フェンタニル貼付剤鎮痛下における突出痛に対する経静脈・経皮下オピオイド至適用量について. 日本麻酔科学会学術集会（第57回）（福岡），2010. 6.
- 4) 金 徹，佐藤千代¹⁾，杖下隆哉¹⁾，岸川洋昭¹⁾，鈴木規仁¹⁾，坂本篤裕¹⁾，吉村明修²⁾，志村俊郎²⁾（¹⁾ 日本医科大学麻酔科学講座，²⁾ 日本医科大学教育推進室）：実技前の気管挿管講習会に対する研修医による評価. 日本医学教育学会大会（第42回）（東京），2010. 7.
- 5) 益田律子：頭痛と顔面痛の診断と治療. 日本ペインクリニック学会（第44回）（京都），2010. 7.
- 6) 辻本芳孝，神谷一郎，後藤眞弓，金 徹，井上哲夫：ポータブル血液分析装置 e poc とベンチトップ型血液分析装置との比較. 関東甲信越・東京支部合同学術集会（第50回）（東京），2010. 9.
- 7) 金 徹，井上哲夫，坂本篤裕¹⁾（¹⁾ 日本医科大学麻酔科学教室）：BMI が大きいほど相対的に輸液量は少くなる. 日本臨床麻酔学会（第30回）（徳島），2010. 11.
- 8) 中島祐史，設楽敏朗¹⁾，井上哲夫，坂本篤裕（¹⁾ 聖隷佐倉市民病院）：偽アルドステロン症と考えられた患者に対する全身麻酔2症例. 日本臨床麻酔学会（第30回）（徳島），2010. 11.

18. 救急医学講座

[付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター]

研究概要

平成 19 年度から当教室の研究テーマを「ショックに続発する臓器障害発生の機序解明」と設定し、外科、脳外科、整形外科、集中治療、熱傷、災害医学をサブスペシャリティーに持つサブグループが臓器障害発生机序解明という同じテーマに向け研究を行っている。

・外傷外科領域

腸管の虚血再還流モデル、LPS 刺激による結腸紐筋トーンモデルなど当教室で開発した動物実験モデルを用いて研究活動を行った。その結果として博士論文作成や日本救急医学会誌の優秀論文賞を受賞した。さらに、文部科学省科学研究費などの競争的資金も獲得し、ショックの病態に関する積極的な研究活動を継続的に行っている。

・整形外傷領域

骨盤骨折、特に寛骨臼骨折に対する新しい手術進入法や頭部、胸腹部伴う多発整形外傷への治療戦略について検討を行い、各学会で発表した。また、本邦でも有数の症例数を誇る脊椎・脊髄損傷に対する外科的治療法の研究も積極的に行った。

・脳神経外科領域

重症脳血管障害、頭部外傷、および蘇生後脳症に関する治療、頭蓋内循環代謝動態に関して臨床的、基礎的研究を行ない、成果を多くの学会で発表した。文部科学省や厚生労働省からの科学研究費の複数の助成を受け、高い評価を得た。特に、重症頭部外傷や蘇生後脳症に対しての研究は上記研究費のほかにも各種競争的資金を獲得しマイクロダイアライシスの手法を用いて頭蓋内病態を生化学的把握の研究を推進している。

・災害医療領域

本学独自の Doctor Ambulance (DA) システムを用いて、積極的な活動を展開し、NBC 災害と国民保護法に関わる組織連携のあり方についても研究報告した。23 年 3 月 11 日に起こった東日本大震災に際してはいち早く DMAT、JMAT 隊の一員として活動し、その実績を集積して大学や付属病院ホームページに実績報告をした。

・基礎研究領域

腸管から産生される炎症性メディエータ、特に脂質メディエータやマイクロダイアライシスを用いて、代謝を考慮した病態解析を行っている。さらに、倫理委員会の承認を得て電磁波で作成した頭部外傷モデルを作成し、均一で量的制御が可能である実験頭部外傷モデルを作成することができ、今後のさらなる展開が規定されている。

当教室の研究テーマを設定したことで効率よく研究を進められる体制を整った。また、文部科学省や厚生労働省科学研究費などの競争的資金をさらに獲得し、教室のテーマであるショック、重症頭蓋内病態や災害医療に関する積極的な研究活動も行ってゆく所存である。

研究業績

論文

[追加分]

追加分総説：

- 1) 久志本成樹, 横田裕行, 宮内雅人, 川井 真, 辻井厚子, 金 史英: どう捉える敗血症, いかに対処するエンドトキシン. 日本救急医学会雑誌 2010; 21 (3): 101-117.

追加分原著：

- 1) Fuse A, Atsumi T, Kondo H, Kawai M, Yokota H : Medical regulation at sea or in port. J J Disast Med 2009 ; 14 : 62-64.
- 2) 布施 明 : AED+BLS. 近代消防 2009 ; 580 : 72-73.
- 3) 布施 明 : PSLs. 近代消防 2009 ; 581 : 78-80.
- 4) 横田裕行^{1,3)}, 中村紀夫^{2,4)}, 荒木 尚^{1,3)}, 片山容一^{2,5)}, 河井信行^{2,6)}, 木村昭夫^{1,7)}, 坂本哲也^{1,8)}, 田崎 修^{1,9)}, 徳富孝志^{2,10)}, 藤木 稔²⁾, 藤澤博亮²⁾, 前田 剛^{2,5)}, 三宅康史¹⁾ (¹⁾ 日本外傷学会, ²⁾ 日本神経外傷学会, ³⁾ 日本医科大学救急医学, ⁴⁾ 東京慈恵会医科大学 (名誉教授), ⁵⁾ 日本大学医学部脳神経外科, ⁶⁾ 香川大学医学部脳神経外科, ⁷⁾ 国立国際医療センター緊急部, ⁸⁾ 帝京大学医学部救急医学, ⁹⁾ 大阪大学医学部救急医学, ¹⁰⁾ 久留米大学医学部脳神経外科) : 外傷医と脳神経外科医による頭部外傷分類. 神経外傷 2009 ; 32 (1) : 18-24.
- 5) 横田裕行 : 「日本外傷学会臓器損傷分類 2008」公表に際して—「日本外傷学会臓器損傷分類 2008」記載に関する共通事項—肝損傷分類 2008 (日本外傷学会)—脾損傷分類 2008 (日本外傷学会)—膵損傷分類 2008 (日本外傷学会)—腎損傷分類 2008 (日本外傷学会)—消化管損傷分類 2008 (日本外傷学会)—間膜・小網・大網損傷分類 2008 (日本外傷学会)—胸郭損傷分類 2008 (日本外傷学会)—気管・気管支損傷分類 2008 (日本外傷学会)—肺損傷分類 2008 (日本外傷学会)—横隔膜損傷分類 2008 (日本外傷学会)—心損傷分類 2008 (日本外傷学会)—大血管損傷分類 2008 (日本外傷学会)—骨盤損傷分類 2008 (日本外傷学会)—Appendix および損傷部の区域一覧—臓器損傷分類 2008 (日本外傷学会) 一覧—日本外傷学会臓器損傷分類 2008 引用のお知らせ. 日本外傷学会雑誌 2010 ; 24 (1) : 49-66.

(1) 原著：

- 1) Nakae R, Onda H, Yokobori S, Araki T, Fuse A, Toda S¹⁾, Kushimoto S, Yokota H, Teramoto A¹⁾ (¹⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School) : Clinical analysis of spinal cord injury with or without cervical ossification of the posterior longitudinal ligament, spondylosis, and canal stenosis in elderly head injury patients. Neurol Med Chir (Tokyo) 2010 ; 50 (6) : 461-465.
- 2) Arai M, Uchiba M, Komura H, Mizuochi Y, Harada N, Okajima K : Metformin, an anti-diabetic agent, suppresses the production of tumor necrosis factor and tissue factor by inhibiting early growth response factor-1 expression in human monocytes in vitro. Journal of Pharmacology and Experimental Therapeutics 2010 ; 334 : 206-213.
- 3) Fuse A, Yokota H : An analysis of Japan Disaster Medical Assistance Team (J-DMAT) deployments in comparison with those of J-DMAT's counterpart in the United States (US-DMAT). J Nippon Med Sch 2010 ; 77 (6) : 318-324.
- 4) 横田裕行 : 「日本外傷学会臓器損傷分類 2008」公表に際して—「日本外傷学会臓器損傷分類 2008」記載に関する共通事項—肝損傷分類 2008 (日本外傷学会)—脾損傷分類 2008 (日本外傷学会)—膵損傷分類 2008 (日本外傷学会)—腎損傷分類 2008 (日本外傷学会)—消化管損傷分類 2008 (日本外傷学会)—間膜・小網・大網損傷分類 2008 (日本外傷学会)—胸郭損傷分類 2008 (日本外傷学会)—気管・気管支損傷分類 2008 (日本外傷学会)—肺損傷分類 2008 (日本外傷学会)—横隔膜損傷分類 2008 (日本外傷学会)—心損傷分類 2008 (日本外傷学会)—大血管損傷分類 2008 (日本外傷学会)—骨盤損傷分類 2008 (日本外傷学会)—Appendix および損傷部の区域一覧—臓器損傷分類 2008 (日本外傷学会) 一覧. 日本外傷学会雑誌 2010 ; 24 (2) : 267-284.
- 5) 三宅康史¹⁾, 有賀 徹¹⁾, 井上健一郎¹⁾, 奥寺 敬¹⁾, 北原孝雄¹⁾, 島崎修次¹⁾, 鶴田良介¹⁾, 横田裕行¹⁾ (¹⁾ 日本救急医学会熱中症に関する委員会) : 本邦における熱中症の実態—Heatstroke STUDY2008 最終報告—. 日本救急医学会雑誌 2010 ; 21 (5) : 230-344.
- 6) 布施 明 : NBC (CBRNE). 近代消防 2010 ; 593 : 108-110.

- 7) 布施 明：Mass Gathering 救急・集団災害医療. 近代消防 2010；594：109-111.
 - 8) 大泉 旭, 川井 真：骨盤骨折の初期治療. Monthly Book Orthopaedics 2010；23 (9)：21-28.
 - 9) 本村友一¹⁾, 朽方規喜¹⁾, 益子邦洋¹⁾, 阪本雄一郎²⁾, 横田裕行, 富永 茂³⁾, 西本哲也⁴⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター, 2) 佐賀大学医学部附属病院救命救急センター, 3) 日本大学理工学部機械工学科, 4) 日本大学工学部機械工学科バイオメカニクス研究室)：軽微な車両破損の交通外傷にて受傷した心損傷の1例. 日本救急医学会関東地方会雑誌 2010；31：18-19.
 - 10) 原田将太, 田中俊尚, 小原良規, 内川 健, 大泉 旭, 恩田秀賢, 小川太志¹⁾, 加茂 潤¹⁾, 林 励治¹⁾, 川井 真, 久志本成樹, 横田裕行 (1) 川口市立医療センター救命救急センター)：比較的良好な機能予後を得た小児不安定型骨盤骨折の1例. 日本救急医学会関東地方会雑誌 2010；31：32-33.
 - 11) 田中知恵, 白石振一郎, 渡邊顕弘, 松本 学, 島本 実, 金 史英, 小澤由紀子¹⁾, 川井 真, 久志本成樹, 横田裕行 (1) 日本医科大学付属病院放射線科)：高度救命救急センター内で発症した深部静脈血栓症例の検討. 日本救急医学会関東地方会雑誌 2010；31：118-119.
 - 12) 布施 明：爆傷頭部外傷の位置づけ. 救急医学 2010；34：1821-1825.
 - 13) 横田裕行¹⁾, 中村紀夫^{2, 3)}, 荒木 尚¹⁾, 片山容一^{2, 4)}, 河井信行^{2, 5)}, 木村昭夫^{1, 6)}, 坂本哲也^{1, 7)}, 田崎 修^{1, 8)}, 徳富孝志^{2, 9)}, 藤木 稔^{2, 10)}, 藤澤博亮²⁾, 前田 剛^{2, 4)}, 三宅康史¹⁾ (1) 日本外傷学会, 2) 日本神経外傷学会, 3) 東京慈恵会医科大学 (名誉教授), 4) 日本大学医学部脳神経外科, 5) 香川大学医学部脳神経外科, 6) 国立国際医療センター緊急部, 7) 帝京大学医学部救急医学, 8) 大阪大学医学部救急医学, 9) 久留米大学医学部脳神経外科, 10) 大分大学医学部脳神経外科)：外傷医と脳神経外科医による頭部外傷分類. 日本外傷学会雑誌 2011；25 (1)：19-24.
 - 14) 久志本成樹¹⁾, 宮内雅人, 増野智彦, 佐藤格夫, 白石振一郎, 福田令雄, 辻井厚子, 金 史英, 川井 真, 横田裕行 (1) 東北大学病院高度救命救急センター)：Damage control surgery を要する重症肝損傷治療におけるIVRの重要性. 日本外傷学会雑誌 2011；25 (1)：11-18.
- (2) 座談会：
- 1) 横田裕行, 相川 厚¹⁾, 中山恭伸²⁾, 岡田真人³⁾ (1) 東邦大学医学部, 2) 日本臓器移植ネットワーク, 3) 聖隷三方原病院)：臓器移植法改正で医療現場はどうかかわるのか. 週刊医学会新聞 2010；(2885)：1-3.
 - 2) 横田裕行, 永廣信治¹⁾, 有賀 徹²⁾, 松井 陽³⁾, 福嶋教偉⁴⁾ (1) 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 (脳神経外科学, 2) 昭和大学医学部救急医学, 3) 国立成育医療研究センター, 4) 大阪大学医学部附属病院移植医療部)：救急医療・脳神経外科施設からみた脳死下臓器提供の現状と課題. 日本医師会雑誌 2011；139(12)：2497-2510.
- (3) 総説：
- 1) 横田裕行：脳死判定. 救急医学 2010；34 (8)：985-989.
 - 2) 辻井厚子, 横田裕行：胸腔ドレーン挿入. 消化器外科 2010；33 (5)：561-563.
 - 3) 松本 尚¹⁾, 益子邦洋¹⁾, 原 義明¹⁾, 朽方規喜¹⁾, 阪本雄一郎¹⁾, 鉄慎一郎¹⁾, 飯田浩章¹⁾, 上西蔵人¹⁾, 増田幸子¹⁾, 本村友一¹⁾, 横田裕行 (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター)：外傷診療における Helicopter emergency medical service (HEMS) の役割. 日本外傷学会雑誌 2010；24 (2)：87-95.
 - 4) 増野智彦, 久志本成樹, 益子邦洋¹⁾, 横田裕行 (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター)：外傷患者に対する輸血療法：Gift of Life or Not. 日本外傷学会雑誌 2010；24 (2)：96-101.
 - 5) 荒木 尚¹⁾, 師田信人¹⁾, 横田裕行 (1) 国立成育医療研究センター脳神経外科)：小児の脳死と臓器移植にかかる諸問題. 小児看護 2010；33 (6)：780-784.
 - 6) 布施 明, 横田裕行：秋葉原無差別殺傷事件. 病院 2010；69 (6)：440-442.
 - 7) 横田裕行：特集：改正臓器移植法の問題点とその対応：救急医の立場から (The Points of the Revised Organ Transplantation Act in Japan from the View of Emergency Doctors). BRAIN and NERVE 2010；62 (6)：

565-573.

- 8) 横田裕行：脳死の診断と有力な補助検査. 脳死・脳蘇生 2010；22 (3)：181-187.
 - 9) 横田裕行：熱中症の予防術. 家の光 2010；86 (7)：76-81.
 - 10) 坂本哲也^{1, 2)}, 森村尚登^{1, 2)}, 長尾 建²⁾, 浅井康文²⁾, 横田裕行²⁾, 田原良雄²⁾, 渥美生弘²⁾, 奈良 理²⁾, 長谷 守²⁾
(¹⁾ 帝京大学医学部救急医学講座, ²⁾ SAVE-J 研究班)：SAVE-J 研究. 循環器内科 2010；68 (3)：248-252.
 - 11) 横田裕行：救急治療における終末期ガイドライン. Emergency Care 2010；23 (11)：85-89.
 - 12) 久志本成樹¹⁾, 佐藤格夫, 増野智彦, 宮内雅人, 福田令雄, 白石振一郎, 辻井厚子, 川井 真, 横田裕行 (¹⁾ 東北大学大学院医学系研究科外科病態学講座救急医学分野)：一期的閉腹不適応症例に対する enterocutaneous fistula の予防と早期筋膜閉鎖のための open abdomen の管理法. 日本腹部救急医学会雑誌 2010；30 (7)：915-923.
 - 13) 横田裕行：臓器提供施設の問題点. 日本臨床 2010；68 (12)：2322-2326.
 - 14) 横田裕行：改正臓器移植法のポイント. Emergency Care 2010；23 (12)：74-79.
 - 15) 荒木 尚¹⁾, 横田裕行 (¹⁾ 国立成育医療研究センター脳神経外科)：頭部外傷分類 (日本外傷学会/日本脳神経外傷学会). 救急医学 2010；34 (13)：1744-1747.
 - 16) 横田裕行：救急医療施設と改正臓器移植法. 総合臨床 2011；60 (1)：133-135.
 - 17) 横田裕行：地域における救急医療の現状と課題. 川口医師会会報 2011；(230)：76-80.
 - 18) 横田裕行：脳卒中患者の対応と治療：病院前から救急初療室へ. 室医会報 (室蘭市医師会会報) 2011；(学術特集号) 14：59-63.
 - 19) 雨森俊介, 横田裕行：腹部外傷を含む多発外傷の治療指針. 救急医学 2011；35 (3)：281-283.
- (4) 研究報告書：
- 1) 横田裕行：救急医療における脳死患者の対応法の啓発セミナーに関する研究. 平成 22 年度厚生労働科学研究費補助金 (免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業)「臓器移植の社会的基盤に関する研究」(研究代表者：篠崎尚史先生) 研究分担「救急医療における脳死患者の対応法の啓発セミナーに関する研究」報告書 2011.
 - 2) 横田裕行¹⁾, 坂部武史¹⁾, 永廣信治¹⁾, 水口 雅¹⁾, 荒木 尚²⁾, 芦刈淳太郎²⁾, 久保田稔²⁾, 有賀 徹³⁾ (¹⁾「臓器提供施設における院内体制設備に関する研究」分担研究「脳死判定基準のマニュアル化に関する研究」班, ²⁾「臓器提供施設における院内体制設備に関する研究」分担研究「脳死判定基準のマニュアル化に関する研究」班・マニュアル執筆協力者, ³⁾「臓器提供施設における院内体制設備に関する研究」研究代表者)：法的脳死判定マニュアル. 平成 22 年度厚生労働科学研究費補助金 (厚生労働科学特別研究事業)「臓器提供施設における院内体制整備に関する研究」(研究代表者：有賀徹先生) 研究分担「脳死判定基準のマニュアル化に関する研究」研究報告書 2011.
- (5) 巻頭言：
- 1) 横田裕行：付属病院臨床研修センターの設置とその役割. 日医大医会誌 2010；6 (3)：94-95.
 - 2) 横田裕行：「しろ」と「あか」, そして日本人. 救急医療ジャーナル 2010；18 (6).
 - 3) 横田裕行：臓器提供側からみた改正臓器移植法の課題と解決に向けて. 日本医師会雑誌 2011；139 (12)：2493-2493.
- (6) 症例報告：
- 1) Yokobori S, Watanabe A, Nakae R, Onda H, Fuse A, Kushimoto S, Yokota H：Cerebral vasospasms after intraventricular hemorrhage from an arteriovenous malformation：case report. Neurol Med Chir(Tokyo). 2010；50 (4)：320-323.
 - 2) Kutsukata N^{1, 2)}, Mashiko K^{1, 2)}, Matsumoto H^{1, 2)}, Hara Y^{1, 2)}, Sakamoto Y^{1, 2)}, Yokota H, Yamauchi H³⁾, Ochi M³⁾ (¹⁾ Department of Emergency and Critical Care Medicine, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, ²⁾ Shock and Trauma Center, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, ³⁾ De-

partment of Biological Regulation and Regenerative Surgery, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Surgical Venous Thrombectomy for Japanese Patients with Acute Deep Vein Thrombosis : A Review of 5 Years' Experience. J Nippon Med Sch 2010 ; 77 (3) : 155-159.

- 3) 阪本雄一郎¹⁾, 益子邦洋¹⁾, 松本 尚¹⁾, 横田裕行 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター) : Japan Trauma Data Bank (JTDB) データからみた外傷症例におけるドクターヘリ搬送の有用性についての検討. 日本臨床救急医学会雑誌 2010 ; 13 (3) : 356-360.
- 4) 堀内義仁¹⁾, 金井 要²⁾, 浦部大策³⁾, 増野智彦⁴⁾, 京極多歌子⁵⁾, 山中勝一郎⁶⁾, 村上 勉⁵⁾ (¹⁾ 国立病院機構災害医療センター, ²⁾ 救急振興財団, ³⁾ 聖マリア病院, ⁴⁾ 日本医科大学, ⁵⁾ 済生会千里病院, ⁶⁾ 名戸ヶ谷病院) : ミャンマー・サイクロン被害に対する国際緊急援助隊医療チーム活動報告 活動サイトで治療した感染症を中心に. 日本集団災害医学会雑誌 2010 ; 15 (1) : 63-68.
- 5) 松本 学, 五十嵐豊, 渡邊顕弘, 和田剛志, 関厚二郎, 恩田秀賢, 布施 明, 横田裕行 : くも膜下出血に対する脳血管内手術 : 脳底動脈先端部破裂動脈瘤に対してコイル塞栓術を施行した1例. 日本医科大学医学会雑誌 2011 ; 7 (2) : 97-102.

(7) エディトリアル :

- 1) 横田裕行 : 頭部外傷診療. 救急医学 2010 ; 34 (13) : 1729-1729.

(8) 学術集会記録 :

- 1) 益子邦洋¹⁾, 松本 尚¹⁾, 朽方規喜¹⁾, 林田和之¹⁾, 本村友一¹⁾, 阪本雄一郎¹⁾, 横田裕行 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター) : Acute Care Surgery 研究会と外傷センターで外傷外科医の育成を図れ. 日本外科学会雑誌 2010 ; 111 (臨時増刊号 (3)) : 31-32.

著 書

- 1) 布施 明, 奥村 徹¹⁾ (¹⁾ 内閣官房) : [分担] 診療と評価. 救急医療機関における CBRNE テロ対応標準初動マニュアル (大友康裕), 2009 ; pp47-52, 永井書店.
- 2) 布施 明 : [分担] 気象災害 (風水害). 災害医学 (改訂2版) (山本保博, 鶴飼卓, 杉本勝弘), 2009 ; pp87-99, 南山堂.
- 3) 横田裕行 : [分担] 熱中症の対処法, けが・やけどの対処法, 脳卒中の対処法. NHK きょうの健康大百科, 2010 ; pp481-485, NHK 出版.
- 4) 横田裕行 : [分担] 意識障害へ標準的な対応 (PSLS, ISLS). 柔道整復師のための救急医学 (社団法人全国柔道整復学校協会監修・太田祥一編), 2010 ; pp78-83, 南江堂.
- 5) 横田裕行 : [分担] 頭頸部. 柔道整復師のための救急医学 (社団法人全国柔道整復学校協会監修・太田祥一編), 2010 ; pp197-203, 南江堂.
- 6) 横田裕行 : [分担] ドクターヘリコプターシステム. 柔道整復師のための救急医学 (社団法人全国柔道整復学校協会監修・太田祥一編), 2010 ; pp10-10, 南江堂.
- 7) 横田裕行 : [編集] これだけは知っておきたい! 外傷の管理 Q & A. これだけは知っておきたい! 外傷の管理 Q & A (特集編集:横田裕行), 2010 ; 総合医学社.
- 8) 山本保博¹⁾, 横田裕行¹⁾, 黒川 顕²⁾, 菊池有道³⁾, 平田清貴⁴⁾ (¹⁾ 総合監修, ²⁾ 治療編監修, ³⁾ 薬剤編監修, ⁴⁾ 編集) : [監修] 診療科医薬品集: 救急治療・薬剤ハンドブック (第6版). 診療科医薬品集: 救急治療・薬剤ハンドブック (第6版), 2010 ; じほう.
- 9) 布施 明 : [分担] A31-65. 第33回救急救命士国家試験問題 解答・解説集 (山本保博), 2010 ; pp15-28, へるす出版.
- 10) 大泉 旭 : [分担] 多発外傷を伴う骨盤輪骨折. 外傷の管理 Q&A (横田裕行), 2010 ; pp669-675, 総合医学社.
- 11) 横田裕行¹⁾, 有賀 徹²⁾, 石松伸一²⁾, 木下順弘²⁾, 黒川 顕²⁾, 佐藤 章²⁾, 島崎修次²⁾, 田中秀治²⁾, 布施 明²⁾,

箕輪良行²⁾ (1) 日本救急医学会救急医療における終末期医療のあり方に関する委員会・委員長, ²⁾ 日本救急医学会救急医療における終末期医療のあり方に関する委員会・委員): [編集] 救急医療における終末期医療に関する提言ガイドライン. 救急医療における終末期医療に関する提言ガイドライン (監修: 一般社団法人日本救急医学会・編集: 一般社団法人日本救急医学会救急医療における終末期医療のあり方に関する委員会), 2010; へるす出版.

- 12) 横田裕行: [分担] 頭部外傷. 総合診療マニュアル, 2010; pp326-330, 金芳堂.
- 13) 松本 学, 横田裕行: [分担] 急性硬膜下血腫. プレインナーシング (平野照之), 2010; メディカ出版.
- 14) 横田裕行: [翻訳主幹] アトラス応急処置マニュアル (原書第9版). アトラス応急処置マニュアル (原書第9版) ((監訳) 山本保博, 黒川顕 (翻訳主幹) 横田裕行, 大友康裕), 2010; 株式会社南江堂.
- 15) 横田裕行: [分担] 脂肪塞栓症候群. 今日の治療指針 2011 年版 (ポケット判) (総編集: 山口徹, 北原光夫, 福井次矢), 2011; pp67-68, 医学書院.
- 16) 大泉 旭: [翻訳] 7 骨, 関節および筋肉の損傷. アトラス応急処置マニュアル原書第9版 (山本保博/黒川顕), 2011; pp130-159, 南江堂.
- 17) 横田裕行: [分担] 出血性ショック. 経静脈治療マニュアル (編集: 小川龍, 島崎修次, 飯野靖彦, 五十嵐隆, 福島亮治), 2011; pp42-46, 株式会社大塚製薬工場, 株式会社メディカルレビュー社.
- 18) 横田裕行: [分担] 頭部外傷. 救急・集中治療医学レビュー 2011 (【監修】 島崎修次, 前川剛志 【編集】 岡元和文, 横田裕行), 2011; pp166-171, 総合医学社.
- 19) 布施 明: [共著] 爆傷. DMAT 標準テキスト (日本集団災害医学会), 2011; pp335-337, へるす出版.

学会発表

[追加分]

追加分一般講演:

- 1) Fuse A, Kamura H, Shiraishi S, Yokobori S, Masuno T, Araki T, Miyauchi M, Yokota H: The characteristics of Japan Disaster Medical Assistance Team (JDMAT): Comparison with DMAT in the United States. 5th Asian Conference on Emergency Medicine (Busan, Korea), 2009. 5.
- 2) 布施 明, 嘉村洋志, 横堀将司, 川井 真, 横田裕行: 広域災害における病院船運用の可能性の検討. 日本集団災害医学会総会 (第14回), 2009. 2.
- 3) 布施 明, 白石振一郎, 阿南英明, 萩原 純, 嘉村洋志, 横堀将司, 増野智彦, 横田裕行: 海上保安庁帯同医療チームの検討: 被災高速旅客船における多数傷病者医療対応訓練の検証から. 日本救急医学会総会(第37回), 2009. 10.
- 4) 布施 明, 小南修史¹⁾, 渡邊 玲¹⁾, 横田裕行, 小林士郎¹⁾, 寺本 明¹⁾ (1) 日本医科大学 脳神経外科): 流入動脈に脳動脈瘤を伴った小脳動脈静脈奇形にNBCA 塞栓術を行った3例の検討. 日本脳神経血管内治療学会 (第25回), 2009. 11.
- 5) 布施 明, 阿南英明¹⁾, 小笠原智子²⁾, 加地正人³⁾, 北川喜巳⁴⁾ (1) 藤沢市民病院, ²⁾ 災害医療センター, ³⁾ 東京医科歯科大学, ⁴⁾ 名古屋掖済会病院): 海上での多数傷病者発生事象に対する医療対応の検討. 日本集団災害医学会総会 (第15回), 2010. 2.
- 6) 松本 学, 渡邊頭弘, 布施 明, 恩田秀賢, 横堀将司, 川井 真, 久志本成樹, 横田裕行: 救命救急センターにおける NeuroEndovascular Therapy. 救急医学フォーラム (第7回), 2010. 3.

追加分特別講演:

- 1) 布施 明, 渡邊頭弘, 恩田秀賢, 横堀将司, 荒木 尚, 久志本成樹, 横田裕行, 三宅康史²⁾, 坂本哲也¹⁾, 有賀徹²⁾ (1) 帝京大学, ²⁾ 昭和大学): 小児頭部外傷の適正受診に向けての試み: 東京都救急相談センター “小児頭部外傷” プロトコル症例の分析. 日本神経外傷学会 (第32回), 2009. 4.

(1) 特別講演：

- 1) 横田裕行：救急医療の現状と課題：ER から集中治療までの挑戦。大隅救急医療システム研究会，2010. 4.
- 2) 横田裕行：外傷医（救急医）と脳神経外科医による頭部外傷分類。関東脳神経外科懇話会（第60回），2010. 7.
- 3) 横田裕行：救急医療における神経集中治療の現状と課題。岐阜外傷カンファレンス（第3回），2010. 8.
- 4) 横田裕行：救急医療の終末期と対応。渋川地区医師会学術講演会，2010. 9.
- 5) 横田裕行：改正臓器移植法：実際の臓器提供・院内体制。兵庫県臓器提供懇話会（第11回），2010. 9.
- 6) 横田裕行：病院前救護から ER，集中治療室まで。財団法人全国消防協会東北地区平成22年度消防実務講習会，2010. 11.
- 7) 横田裕行：重症頭部外傷の病態と治療への挑戦。熊本頭部外傷研究会（第14回），2010. 11.
- 8) 横田裕行：地域における救急医療の現状と課題について。川口市立医療センター・川口医師会共催特別講演会，2010. 12.
- 9) 横田裕行：病院前救護から ER，集中治療室まで。足立区救急業務連絡協議会設立20周年記念講演会，2010. 12.
- 10) 横田裕行：改正臓器移植法に対する対応：救急脳神経外科施設の立場から。かがわ腎移植談話会（第9回），2011. 3.

(2) 招待講演：

- 1) 横田裕行：救急患者搬送におけるポイントと注意点。平成22年度東京都民間救急コールセンター登録事業者連絡協議会定期総会，2010. 5.
- 2) 横田裕行：改正臓器移植法における救急医療施設の対応。平成22年度広島県臓器提供施設協議会・院内コーディネーター合同研修会（広島），2010. 9.

(3) 教育講演：

- 1) 横田裕行：脳蘇生における脳低体温療法の有用性と問題点。順天堂大学循環器内科第38回ハートセンターカンファレンス，2010. 4.
- 2) 大泉 旭：寛骨臼骨折に対する進入法：Modified Stoppa approach. JOTS 日本整形外傷外科研究会（第11回），2010. 4.
- 3) 横田裕行：生活習慣病と脳卒中/生活習慣病予防と脳卒中予防。特定非営利活動法人地域の包括的な医療に関する研究会第12回市民公開講座，2010. 5.
- 4) 布施 明，奥村 徹¹⁾，齋藤大蔵²⁾，徳野慎一²⁾（¹⁾ 内閣官房，²⁾ 防衛医大）：爆傷医療におけるピットフォール。日本臨床救急医学会総会（第13回），2010. 6.
- 5) 横田裕行：改正臓器移植法に伴う施設対応について：小児脳死判定を視野に入れて。北里大学病院「移植医療講演会」，2010. 7.
- 6) 大泉 旭：寛骨臼骨折に対する進入法－Modified Stoppa approach. JOTS－日本整形外傷外科研究会（第12回）（宮城県仙台市），2010. 9.
- 7) 大泉 旭：重傷多発外傷における DCO (Damage Control Orthopaedics). 九州 EOTS (第2回) (福岡県福岡市)，2010. 10.
- 8) 横田裕行：地域救急医療と高度救命救急センターのかかわり。日本医科大学医療連携推進会（第14回），2011. 2.
- 9) 横田裕行：改正臓器移植法への対応：臓器提供施設の立場から。日本集中治療医学会学術集会（第38回），2011. 2.

(4) シンポジウム：

- 1) Motomura T¹⁾，Kanemaru K¹⁾，Matsumoto H¹⁾，Mashiko K¹⁾，Yokota H（¹⁾ Department of Emergency and Critical Care Medicine, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School）：Disaster training in collaboration with DMAT and the Japan Coast Guard involving a mass casualty incident at sea. 10th Asia

Pacific Conference on Disaster Medicine (Sapporo, Japan), 2010. 8.

- 2) Fuse A, Hagiwara J, Fukuda R, Yokobori S, Masuno T, Yokota H : New equipments for Medical Command System in MCI with CBRNE events. 10th Asia Pacific Conference on Disaster Medicine (Sapporo, Japan), 2010. 8.
- 3) 阪本雄一郎¹⁾, 益子邦洋¹⁾, 木村陽一²⁾, 西田佳史¹⁾, 石垣 司²⁾, 横田裕行 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター, ²⁾ 産業技術総合研究所デジタルヒューマン研究センター) : Japan Trauma Data Bank のデータを用いた医工連携による本邦独自の外傷予後予測指標. 日本外傷学会 (第24回), 2010. 5.
- 4) 横田裕行 : 救急医療基本法案の意味するもの. 日本臨床救急医学会総会・学術集会 (第13回), 2010. 5.
- 5) 坂本哲也¹⁾, 浅井康文²⁾, 長尾 建³⁾, 横田裕行, 田原良雄⁴⁾, 森村尚登¹⁾ (¹⁾ 帝京大学医学部救急医学, ²⁾ 札幌医科大学附属病院高度救命救急センター, ³⁾ 駿河台日本大学病院循環器心肺蘇生救急心血管治療, ⁴⁾ 横浜市立大学附属市民総合医療センター高度救命救急センター) : 脳蘇生, 限界への挑戦とその後の今 : SAVEJ から. 日本脳死・脳蘇生学会総会・学術集会 (第23回), 2010. 6.
- 6) 久志本成樹, 横田裕行, 川井 真, 宮内雅人 : 法的脳死下臓器提供における脳死判定・提供施設における問題点. 日本脳死・脳蘇生学会総会・学術集会 (第23回), 2010. 6.
- 7) 荒木 尚¹⁾, 師田信人¹⁾, 横田裕行 (¹⁾ 国立成育医療センター脳神経外科) : 小児の脳死判定における諸問題. 日本外科系連合学会学術集会 (第35回), 2010. 6.
- 8) 中江竜太, 松本 学, 恩田秀賢, 横堀将司, 布施 明, 久志本成樹, 横田裕行, 寺本 明¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院脳神経外科) : TCDによる脳血管攣縮の診断 : mBFVの左右比を用いた検討. 日本脳神経モニタリング学会 (第16回), 2010. 7.
- 9) 佐藤格夫, 久野将宗, 諸江雄太, 苛原隆之, 竹ノ下尚子, 朱 然, 二宮宣文, 横田裕行 : 人工呼吸を要する重症患者への栄養管理と肺保護. 日本集中治療医学会関東甲信越地方会 (第19回), 2010. 8.
- 10) 増野智彦, 宮内雅人, 田邊晴山, 辻井厚子, 布施 明, 久志本成樹, 川井 真, 横田裕行 : 救急搬送体制全体最適化へ向けた消防および医療機関統合データベース作成の必要性. 日本救急医学会総会 (第38回), 2010. 10.
- 11) 布施 明, 横堀将司, 松本 学, 福田令雄, 金 史英, 宮内雅人, 辻井厚子, 久志本成樹, 川井 真, 横田裕行 : 終末期医療登録システム導入後における救命救急センター医療スタッフの倫理観変容. 日本救急医学会総会 (第38回), 2010. 10.
- 12) 田中俊尚, 金 史英, 布施 明, 辻井厚子, 川井 真, 久志本成樹, 横田裕行, 大友康裕¹⁾, 石松伸一²⁾ (¹⁾ 東京医科歯科大学, ²⁾ 聖路加国際病院) : 東京都中央区医療圏における救急搬送選定困難事例の対応と問題点 : いわゆる東京ルール地域救急医療センターの立場から. 日本救急医学会総会 (第38回), 2010. 10.
- 13) 布施 明 : 災害派遣医療チーム (Disaster Medical Assistance Team : DMAT) について. 全日本病院学会 (第52回), 2010. 10.
- 14) 久志本成樹, 福寛教偉¹⁾, 田中秀治²⁾, 西山謹吾³⁾, 鹿野 恒⁴⁾, 杉谷 篤⁵⁾, 古川博之⁶⁾, 中山恭伸⁷⁾, 菊池雅美⁷⁾ (¹⁾ 大阪大学, ²⁾ 国士舘大学, ³⁾ 高知赤十字病院, ⁴⁾ 市立札幌病院, ⁵⁾ 藤田保健衛生大学, ⁶⁾ 旭川医科大学, ⁷⁾ 日本臓器移植ネットワーク) : 脳死下臓器提供における提供施設への支援体制をどのようにするか. 日本救急医学会総会 (第38回), 2010. 10.
- 15) 志賀尚子¹⁾, 横田裕行, 川井 真, 辻井厚子, 加藤貴雄¹⁾, 小野寺直子¹⁾, 兵働英也¹⁾, 小原俊彦¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院総合診療センター) : 当院総合診療センターにおけるトリアージナースの現況. 日本救急医学会総会 (第38回), 2010. 10.
- 16) 増野智彦, 宮内雅人, 黄川田信允, 松田範子, 徳永 昭, 横田裕行 : 非観血的血中一酸化炭素濃度測定モニターを用いた一酸化炭素中毒患者の早期発見およびスクリーニング. 日本高気圧環境・潜水医学会学術総会 (第45回), 2010. 11.
- 17) 加地正人¹⁾, 大友康裕¹⁾, 相星淳一¹⁾, 庄古知久¹⁾, 登坂直規¹⁾, 村田希吉¹⁾, 堀米正幸¹⁾, 森下幸治¹⁾, 植木 稔¹⁾,

本藤憲一¹⁾, 若林正和¹⁾, 市野瀬剛¹⁾, 久志本成樹, 益子邦洋, 横田裕行, その他3名¹⁾ 東京医科歯科大学医学部附属病院救命救急センター): 深在性腭損傷の治療アプローチ: IIIb (Ph) 型腭損傷へのPPPD施行例. Acute Care Surgery 研究会学術集会 (第2回), 2010. 11.

(5) パネルディスカッション:

- 1) 高山泰広¹⁾, 小関一英¹⁾, 直江康孝¹⁾, 小川太志¹⁾, 田上正茂¹⁾, 加茂 潤¹⁾, 高島伸之介¹⁾, 本田哲史¹⁾, 林 励治¹⁾, 飯島広和¹⁾, 横田裕行, 佐藤秀貴, 桑本健太郎¹⁾ 川口市立医療センター救命救急センター): 頭部外傷におけるICPモニターの意義: 頭部CTでICPの予測は可能か?. 日本外傷学会 (第24回), 2010. 5.
- 2) 横堀将司, 渡邊顕弘, 中江竜太, 松本 学, 恩田秀賢, 佐藤格夫, 増野智彦, 布施 明, 久志本成樹, 横田裕行: 頭部外傷急性期における脳循環代謝測定: マイクログリアリシスを用いた脳蘇生戦略. 日本外傷学会 (第24回), 2010. 5.
- 3) 阪本雄一郎¹⁾, 益子邦弘¹⁾, 西本哲也²⁾, 富永 茂³⁾, 横田裕行¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター,²⁾ 日本大学工学部機械工学科バイオメカニクス研究室,³⁾ 日本大学理工学部機械工学科): 医工連携による交通事故調査システムの立ち上げと将来展望. 日本外傷学会 (第24回), 2010. 5.
- 4) 横堀将司, 萩原 純, 福田令雄, 田邊晴山, 増野智彦, 宮内雅人, 布施 明, 川井 真, 久志本成樹, 横田裕行: 東京都区中央部におけるドクターカー運用の現状と課題: 日本医大ドクターアンビュランス9年間の総括から. 日本臨床救急医学会総会・学術集会 (第13回), 2010. 5.
- 5) 久志本成樹, 宮内雅人, 金 史英, 辻井厚子, 増野智彦, 福田令雄, 白石振一郎, 萩原 純, 川井 真, 横田裕行: 腹腔内・後腹膜出血合併例に対する治療: 開腹に先行するIVRは厳重な監視を要する. 日本外科系連合学会学術集会 (第35回), 2010. 6.
- 6) 高山泰広¹⁾, 直江康孝¹⁾, 小川太志¹⁾, 加茂 潤¹⁾, 高島伸之介¹⁾, 横田裕行, 久志本成樹¹⁾ 川口市立医療センター救命救急センター): 重症敗血症における急性期DIC診断と抗凝固療法の検討. 日本外科系連合学会学術集会 (第35回), 2010. 6.
- 7) 増野智彦, 金 史英, 宮内雅人, 川井 真, 久志本成樹, 横田裕行: 人工血液は危機的出血症例に対する有効な治療手段になり得るか?. 日本外科系連合学会学術集会 (第35回), 2010. 6.
- 8) 横田裕行, 吉村明修¹⁾, 志村俊郎¹⁾, 内藤善哉²⁾ (1) 日本医科大学教育推進室, (2) 日本医科大学教育委員会): 日本医科大学における臨床実習とシミュレーション医学教育. 日本医学教育学会大会 (第42回), 2010. 7.
- 9) 坂本哲也¹⁾, 浅井康文²⁾, 長尾 建³⁾, 横田裕行, 田原良雄⁴⁾, 森村尚登¹⁾ (1) 帝京大学医学部救急医学, (2) 札幌医科大学附属病院高度救命救急センター, (3) 駿河台日本大学病院循環器心肺蘇生救急心臓治療, (4) 横浜市立大学附属市民総合医療センター高度救命救急センター): 救急医療におけるPCPSの現状—SAVE-Jから. 日本救急医学会総会 (第38回), 2010. 10.
- 10) 朽方規喜, 益子邦洋, 松本 尚, 原 義明, 林田和之, 金丸勝弘, 齊藤伸行, 八木貴典, 飯田浩章, 横田裕行: 救急医療におけるPCPSの現状: 有効性と限界についての検討. 日本救急医学会総会 (第38回), 2010. 10.
- 11) 佐藤格夫, 久志本成樹, 松本 尚, 今 明秀, 小川太志, 岡田一郎, 小林辰輔, 田上 隆, 牧 真彦, 金 史英, 稲垣栄次, 原 俊輔, 諸江雄太, 苛原隆之, 尾本健一郎: 外傷外科のための生体アニマルを用いたトレーニングの有効性と限界. Acute Care Surgery 研究会学術集会 (第2回), 2010. 11.

(6) セミナー:

- 1) 横田裕行: 法改正のポイント等. 社団法人日本脳神経外科学会第69回学術集会・ハンズオンセミナー「脳死患者の対応セミナー」, 2010. 10.
- 2) 横田裕行: 改正臓器移植法の要点と法的脳死判定の概要. 九州沖縄脳死下臓器提供セミナー, 2010. 12.

(7) ランチョンセミナー:

- 1) 横田裕行: 救急医療の現状と問題点. 茨城県救急医学会 (第34回), 2010. 9.
- 2) 松本 学, 平田清貴²⁾, 横田裕行, 石川若菜, 五十嵐豊, 渡邊顕弘, 和田剛志, 鈴木 剛, 関厚二郎, 恩田秀賢,

横堀将司, 布施 明, 川井 真, 久志本成樹⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院 薬剤部) : 救急・集中治療領域における痙攣制御 : 静注用フェノバルビタール製剤の役割. 日本救急医学会総会 (第 38 回), 2010. 10.

(8) ワークショップ :

- 1) 大泉 旭, 久志本成樹, 川井 真, 内川 健, 田中俊尚, 原田将太, 横田裕行, 小川太志¹⁾, 田上正茂¹⁾, 林 励治¹⁾, 加茂 潤¹⁾, 本田哲史¹⁾, 相星淳一²⁾, 加地正人²⁾, 大友康裕²⁾ (¹⁾ 川口市立医療センター救命救急センター, ²⁾ 東京医科歯科大学救急災害医学/ER センター) : 骨盤骨折に対する外傷専門医が中心となり病院間連携も含めたチームアプローチ. 日本外傷学会 (第 24 回), 2010. 5.
- 2) 増野智彦, 重村朋子, 横堀将司, 荒木 尚, 布施 明, 吉野美緒, 稲本絵里¹⁾, 阿部美帆²⁾, 松井 豊²⁾, 横田裕行 (¹⁾ 白梅学園大学, ²⁾ 筑波大学) : 病院前救急医療におけるメンタルケアの重要性 : 安心して活動できるシステム構築を目指して. 日本臨床救急医学会総会・学術集会 (第 13 回), 2010. 5.
- 3) 荒木 尚¹⁾, 横田裕行 (¹⁾ 国立成育医療研究センター病院脳神経外科) : 小児脳死判定における脳血流評価の意義について. 日本臨床救急医学会総会・学術集会 (第 13 回), 2010. 5.
- 4) 福田令雄, 増野智彦, 渥美生弘¹⁾, 布施 明, 久志本成樹, 川井 真, 横田裕行 (¹⁾ 神戸市立医療センター中央市民病院救急部) : AED の使用実績の把握—地域メディカルコントロール協議会における PAD 検証の現状について—. 日本臨床救急医学会総会・学術集会 (第 13 回), 2010. 5.
- 5) 桑本健太郎¹⁾, 石之神小織¹⁾, 二宮宣文¹⁾, 諸江雄太¹⁾, 久野将宗¹⁾, 佐藤格夫¹⁾, 原 俊輔¹⁾, 稲垣栄次¹⁾, 横田裕行, 直江康孝²⁾, 高山泰広²⁾ (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院救命救急センター, ²⁾ 川口市立医療センター救命救急センター) : 急性期外科医のあり方～神経救急医・脳神経外科医の立場から. 日本救急医学会総会 (第 38 回), 2010. 10.
- 6) 桑本健太郎¹⁾, 高山泰広²⁾, 二宮宣文¹⁾, 横田裕行, 石之神小織¹⁾, 佐藤格夫, 諸江雄太¹⁾, 久野将宗¹⁾, 直江康孝²⁾ (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院救命救急センター, ²⁾ 川口市立医療センター救命救急センター) : 重症頭部外傷の治療戦略 : damage control surgery としての burr hole surgery の応用. 日本救急医学会総会 (第 38 回), 2010. 10.
- 7) 増野智彦, 福田令雄, 萩原 純, 五十嵐豊, 渡邊顕弘, 小野雄一, 小野寺修一, 布施 明, 横田裕行 : 多数傷病者発生事案におけるハンズフリービデオ記録システムを活用した検証の有用性. 日本集団災害医学会総会・学術集会 (第 16 回), 2011. 2.

(9) ポスター :

- 1) Masuno T, Shigemura T, Hagiwara J, Yokobori S, Araki T, Fuse A, Kawai M, Kushimoto S, Yokota H : Traumatic stress disorder among emergency physicians in a stabbing rampage at a crowded Tokyo shopping area. 10th Asia Pacific Conference on Disaster Medicine (Sapporo, Japan), 2010. 8.
- 2) Hagiwawra J, Fukuda R, Yokobori S, Masuno T, Fuse A, Yokota H : Discussion of utility of medical treatment command and decontamination medical treatment car newly introduced into our facility. 10th Asia Pacific Conference on Disaster Medicine (Sapporo, Japan), 2010. 8.
- 3) Irahara T, Fuse A, Kondo H, Miyauchi M, Matsumoto H¹⁾, Akanuma M²⁾, Yokota H (¹⁾ Department of Emergency and Critical Care Medicine, Chiba Hokusyo Hospital, Nippon Medical School, ²⁾ Narita International Airport Clinic of Nippon Medical School) : Emergency Medical Response to Airport Incidents : Lessons Learned from Field medical activity for Cargo plane accident at Narita International Airport. 10th Asia Pacific Conference on Disaster Medicine (Sapporo, Japan), 2010. 8.
- 4) Wada T, Gando S¹⁾, Yokota H (¹⁾ Division of Acute and Critical Care Medicine, Department of Anesthesiology and Critical Care Medicine, Hokkaido University Graduate School of Medicine) : PR3-ANCA-associated microscopic polyangitis in a patient with sepsis. Society of Critical Care Medicine Critical Care Congress (第 40 回) (San Diego, California, USA), 2011. 1.

- 5) 柴田泰史¹⁾, 高木 豊¹⁾, 飯野幸永¹⁾, 本間 博¹⁾, 久志本成樹, 横田裕行 (¹⁾ 日本医科大学付属病院中央検査部): 敗血症における迅速重症度評価法としてのイムノクロマトグラフィー法によるプロカルシトニン測定の意義. 日本医科大学医学会総会 (第 78 回), 2010. 9.
 - 6) 石川若菜, 松本 学, 渡邊顕弘, 和田剛志, 関厚二郎, 恩田秀賢, 横堀将司, 布施 明, 川井 真, 久志本成樹, 横田裕行, 高山洋平¹⁾, 阿部 新¹⁾, 金丸拓也¹⁾, 桂研一郎¹⁾, その他 1 名 (¹⁾ 日本医科大学付属病院内科学): 急性期脳梗塞に対する血管内血行再建: rt-PA 全盛時代における役割. 日本医科大学医学会総会 (第 78 回), 2010. 9.
 - 7) 城戸教裕, 増野智彦, 小野雄一, 白石振一郎, 福田令雄, 辻井厚子, 宮内雅人, 川井 真, 久志本成樹, 横田裕行: 移動盲腸のため典型的所見を認めなかった急性虫垂炎の 1 症例. 日本医科大学医学会総会 (第 78 回), 2010. 9.
 - 8) 松居亮平, 金 史英, 関厚二郎, 塚本剛志, 小野寺修一, 仲村佳彦, 和田剛志, 川井 真, 久志本成樹, 横田裕行: 血栓性血小板減少性紫斑病に腸管虚血壊死を合併した 1 例. 日本医科大学医学会総会 (第 78 回), 2010. 9.
- (10) 一般講演:
- 1) Yokobori S, Hagiwara J, Tanabe S, Masuno T, Kondo H, Koido Y, Fuse A, Kawai M, Ninomiya N, Kushimoto S, Yokota H: The advantages and disadvantages of doctor's ambulance system for the response of disaster-Analysis of the cases in Tokyo DMAT operations-. 10th Asia Pacific Conference on Disaster Medicine (Sapporo, Japan), 2010. 8.
 - 2) Igarashi Y, Hagiwara J, Fukuda R, Yokobori S, Tanabe S, Masuno T, Miyauchi M, Fuse A, Kawai M, Kushimoto S, Yokota H: The present situation and future prospects of emergency physician-staffed ambulance in a metropolitan area in Tokyo. 10th Asia Pacific Conference on Disaster Medicine (Sapporo, Japan), 2010. 8.
 - 3) Fuse A^{1, 2)}, Okumura T²⁾, Saito D²⁾, Tokuno S²⁾ (¹⁾ Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School, ²⁾ Japan Blast Injury Society): Preparation for blastic events and injuries in Japan. 10th Asia Pacific Conference on Disaster Medicine (Sapporo, Japan), 2010. 8.
 - 4) 大泉 旭: Displaced 4-part proximal humeral fracture. NATS-North Asia Trauma Summit (第 3 回) (Seoul, South Korea), 2010. 9.
 - 5) 久志本成樹, 宮内雅人, 増野智彦, 佐藤格夫, 金 史英, 白石振一郎, 辻井厚子, 大嶽康介, 萩原 純, 竹ノ下尚子, 田中知恵, 福田令雄, 横田裕行: 重症肝損傷に対する damage control と IVR を併用する. 日本外科学会定期学術集会 (第 110 回), 2010. 4.
 - 6) 久志本成樹, 宮内雅人, 増野智彦, 金 史英, 白石振一郎, 福田令雄, 辻井厚子, 萩原 純, 竹ノ下尚子, 田中知恵, 川井 真, 横田裕行: 重症肝損傷に対する damage control では IVR を積極的に併用する. 日本外傷学会 (第 24 回), 2010. 5.
 - 7) 荒木 尚¹⁾, 李 政勲¹⁾, 師田信人¹⁾, 横田裕行 (¹⁾ 国立成育医療センター脳神経外科): 児童虐待による頭部外傷への外科的治療方針の選択. 日本外傷学会 (第 24 回), 2010. 5.
 - 8) 飯田浩章¹⁾, 原 義明¹⁾, 上西蔵人¹⁾, 増田幸子¹⁾, 鉄慎一郎¹⁾, 阪本雄一郎¹⁾, 朽方規喜¹⁾, 松本 尚¹⁾, 益子邦洋¹⁾, 大泉 旭, 川井 真, 横田裕行 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター): 当センターにおける VAC 療法の治療経験. 日本外傷学会 (第 24 回), 2010. 5.
 - 9) 鉄慎一郎¹⁾, 阪本雄一郎¹⁾, 朽方規喜¹⁾, 原 義明¹⁾, 松本 尚¹⁾, 益子邦洋¹⁾, 横田裕行 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター): 救命救急センターにおける麻酔専門医の専属と外傷患者の転帰との関係について. 日本外傷学会 (第 24 回), 2010. 5.
 - 10) 森下幸治¹⁾, 相星淳一¹⁾, 増野智彦, 小池 薫²⁾, 小林哲行³⁾, 横田裕行, 大友康裕¹⁾ (¹⁾ 東京医科歯科大学医学

- 部附属病院救命救急センター, ²⁾ 京都大学救急医学, ³⁾ お茶の水女子大学理学部): 出血性ショック後の腸間膜リンパ液の脂質メディエーターと Ca 非依存性のホスホリパーゼ A2. 日本外傷学会 (第 24 回), 2010. 5.
- 11) 上西藏人¹⁾, 益子邦洋¹⁾, 松本 尚¹⁾, 原 義明¹⁾, 朽方規喜¹⁾, 阪本雄一郎¹⁾, 飯田浩章¹⁾, 大泉 旭, 川井 真, 横田裕行 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター): 当救命救急センターにおける大腿骨幹部骨折の治療成績. 日本外傷学会 (第 24 回), 2010. 5.
 - 12) 田中俊尚, 大嶽康介, 志賀尚子, 宮内雅人, 布施 明, 川井 真, 横田裕行: 東京ルールの適応となってしまう夜間・休日帯の外傷患者. 日本外傷学会 (第 24 回), 2010. 5.
 - 13) 平田清貴¹⁾, 黒川 顕²⁾, 野口周作³⁾, 渡邊暁洋⁴⁾, 増野智彦, 片山志郎¹⁾, 横田裕行 (¹⁾ 日本医科大学付属病院薬剤部, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院救命救急センター, ³⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院薬剤科, ⁴⁾ 日本医科大学千葉北総病院薬剤科): 3 次救急医療施設に搬送された医薬品関連救急疾患. 日本臨床救急医学会総会・学術集会 (第 13 回), 2010. 5.
 - 14) 青山雅一¹⁾, 前佛享広¹⁾, 加藤 歩¹⁾, 前原 真¹⁾, 増野智彦, 田邊晴山, 松本 学, 宮内雅人, 川井 真, 横田裕行 (¹⁾ 東京消防庁): 救急現場における低血糖症の発生状況, 血糖値測定について. 日本臨床救急医学会総会・学術集会 (第 13 回), 2010. 5.
 - 15) 前佛享広¹⁾, 加藤 歩¹⁾, 前原 誠¹⁾, 青山雅一¹⁾, 増野智彦, 田邊晴山, 内川 健, 白石振一郎, 金 史英, 横田裕行 (¹⁾ 東京消防庁): 傷病者情報の伝達についての考察. 日本臨床救急医学会総会・学術集会 (第 13 回), 2010. 5.
 - 16) 加藤 歩¹⁾, 前原 誠¹⁾, 青山雅一¹⁾, 前佛享広¹⁾, 増野智彦, 田邊晴山, 福田令雄, 横堀将司, 辻井厚子, 横田裕行 (¹⁾ 東京消防庁): 気管挿管下の傷病者搬送における頸椎カラー使用の有用性. 日本臨床救急医学会総会・学術集会 (第 13 回), 2010. 5.
 - 17) 前原 誠¹⁾, 青山雅一¹⁾, 前佛享広¹⁾, 加藤 歩¹⁾, 増野智彦, 田邊晴山, 恩田秀賢, 布施 明, 久志本成樹, 横田裕行 (¹⁾ 東京消防庁): 急性医薬品中毒傷病者搬送基準改正に伴う救急隊現場活動および 3 次医療機関搬送患者重傷度の変化. 日本臨床救急医学会総会・学術集会 (第 13 回), 2010. 5.
 - 18) 本村友一¹⁾, 阪本雄一郎¹⁾, 朽方規喜¹⁾, 益子邦洋¹⁾, 横田裕行, 富永 茂²⁾, 西本哲也³⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター, ²⁾ 日本大学工学部機械工学科, ³⁾ 日本大学工学部機械工学科バイオメカニクス研究室): 軽微車両破損の交通外傷にて受傷した心損傷の 1 例—交通外傷傷病者と交通車両破損状況の研究—. 日本交通科学協議会総会・学術集会 (第 46 回), 2010. 6.
 - 19) 畝本恭子¹⁾, 目原久美¹⁾, 遠藤広史¹⁾, 牧 真彦¹⁾, 上笹 宙¹⁾, 望月 徹¹⁾, 黒川 顕¹⁾, 横田裕行 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院救命救急センター): 峰性の経過をたどり病因の特定困難であった急性非ヘルペス性脳炎の 1 例. 日本神経救急学会学術集会 (第 24 回), 2010. 6.
 - 20) 戸田 翠, 小野雄一, 田中俊尚, 福田令雄, 横堀将司, 大泉 旭, 布施 明, 横田裕行「: 頸椎椎体椎間板炎から頸椎硬膜外膿瘍を生じた 1 例. 日本神経救急学会学術集会 (第 24 回), 2010. 6.
 - 21) 白石振一郎, 田中知恵, 竹ノ下尚子, 妹尾聡美, 金 史英, 久志本成樹, 横田裕行: 対症的な経過をたどった門脈内ガスを合併した腸管気腫症の 2 手術症例. 日本外科系連合学会学術集会 (第 35 回), 2010. 6.
 - 22) 松本 学, 渡邊弘顕, 恩田秀賢, 横堀将司, 宮内雅人, 布施 明, 川井 真, 久志本成樹, 横田裕行: Venous Angioma with Arteriovenous shunt により発症した若年性脳出血. 日本外科系連合学会学術集会 (第 35 回), 2010. 6.
 - 23) 渡邊顕弘, 五十嵐豊, 石川若菜, 和田剛志, 中江竜太, 関厚二郎, 松本 学, 恩田秀賢, 横堀将司, 布施 明, 久志本成樹, 磯谷英二¹⁾, 横田裕行 (¹⁾ 東京医科歯科大学附属病院救命救急センター): 連続心拍出量測定装置 PiCCO plus を用いた Triple-H therapy の検証: Triple-H therapy は spasm 予防になりうるか. 日本脳神経モニタリング学会 (第 16 回), 2010. 7.
 - 24) 高山泰広, 横田裕行, 佐藤秀貴, 桑本健太郎, 直江康孝¹⁾, 高島伸之介¹⁾ (¹⁾ 川口市立医療センター救命救急セ

- ンター)：頭部外傷に伴う凝固線溶系障害と脳圧の関係。日本脳神経モニタリング学会 (第16回), 2010. 7.
- 25) 横堀将司, 渡邊顕弘, 五十嵐豊, 石川若菜, 和田剛志, 関厚二郎, 松本 学, 恩田秀賢, 布施 明, 久志本成樹, 磯谷栄二¹⁾, 横田裕行 (¹⁾ 東京医科歯科大学附属病院救命救急センター)：連続心拍出量測定装置 PiCCO plus を用いた triple-H therapy の検証：転帰に影響を与える要素は何か。日本脳神経モニタリング学会 (第16回), 2010. 7.
- 26) 平田清貴¹⁾, 宮内雅人, 片山志郎¹⁾, 横田裕行 (¹⁾ 日本医科大学付属病院薬剤部)：当院高度救命救急センターにおける急性 OTC 薬中毒第2報。日本中毒学会総会・学術集会 (第32回), 2010. 7.
- 27) 荒木 尚¹⁾, 師田信人¹⁾, 李 政勲¹⁾, 福元雄一郎¹⁾, 佐藤研隆¹⁾, 横田裕行 (¹⁾ 国立成育医療センター)：難治性頭蓋内圧亢進の乳児例に対する術中頭蓋内圧モニタリング下減圧開頭術。日本脳神経モニタリング学会 (第16回), 2010. 7.
- 28) 大泉 旭, 川井 真, 内川 健, 田中俊尚, 小原良規, 小柳正雄²⁾, 林 励治, 伊藤博元¹⁾, 横田裕行 (¹⁾ 日本医科大学 整形外科学教室, ²⁾ 日本医科大学多摩永山病院 救命救急センター)：低侵襲アプローチによる寛骨臼骨折の治療成績。日本骨折治療学会 (第36回), 2010. 7.
- 29) 白石振一郎, 久志本成樹：熱中症に伴う DIC 治療におけるリコモジュリンの使用経験。DIC フォーラム, 2010. 9.
- 30) 松本 学, 五十嵐豊, 渡邊顕弘, 和田剛志, 鈴木 剛, 恩田秀賢, 横堀将司, 布施 明, 川井 真, 久志本成樹, 横田裕行：救命救急センターにおける重症脳卒中への挑戦。東京脳卒中カンファレンス (第2回), 2010. 9.
- 31) 横田裕行：脳卒中かなと思ったらどうすべきか。東京都脳卒中市民公開セミナー, 2010. 10.
- 32) 五十嵐豊, 石川若菜, 和田剛志, 関厚二郎, 松本 学, 恩田秀賢, 横堀将司, 布施 明, 久志本成樹, 磯谷栄二^{1,2)}, 横田裕行 (¹⁾ 東京医科歯科大学附属病院救命救急センター, ²⁾ PiCCO SAH study group)：連続心拍出量測定装置 PiCCO plus を用いた triple-H therapy の検証：転帰に影響を与える要素は何か。日本救急医学会総会 (第38回), 2010. 10.
- 33) 渡邊顕弘, 和田 剛, 中江竜太, 関厚二郎, 松本 学, 恩田秀賢, 横堀将司, 布施 明, 久志本成樹, 磯谷英二¹⁾, 横田裕行 (¹⁾ 東京医科歯科大学附属病院救命救急センター)：連続心拍出量測定装置 PiCCO plus を用いた Triple-H therapy の検証：Triple-H therapy は spasm 予防になりうるか。日本救急医学会総会 (第38回), 2010. 10.
- 34) 久志本成樹, 宮内雅人, 増野智彦, 白石振一郎, 福田令雄, 辻井厚子, 川井 真, 横田裕行, 田島廣之¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院放射線科)：外傷性血胸に対する外科的止血と組み合わせた IVR によるアプローチ。日本救急医学会総会 (第38回), 2010. 10.
- 35) 石之神小織, 二宮宣文, 根本香代, 原 俊輔, 久野将宗, 稲垣栄次, 鈴木健介, 久保田稔¹⁾, 横田裕行 (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院中央検査部)：エンドトキシン誘発モルモットイレウスモデルにおける PMX-DHP および sivelestat sodium の効果。日本救急医学会総会 (第38回), 2010. 10.
- 36) 小原俊彦¹⁾, 志賀尚子¹⁾, 大嶽康介¹⁾, 小野寺直子¹⁾, 兵働英也¹⁾, 宮内雅人, 川井 真¹⁾, 加藤貴雄¹⁾, 横田裕行 (¹⁾ 日本医科大学付属病院総合診療センター)：内科系専門医と救急専門医が共同で運営にあたる総合診療センター設立の試み。日本救急医学会総会 (第38回), 2010. 10.
- 37) 直江康孝¹⁾, 小川太志¹⁾, 高山泰広¹⁾, 加茂 潤¹⁾, 田上正茂¹⁾, 高島伸之介¹⁾, 坂平英樹¹⁾, 米沢光平¹⁾, 飯島広和¹⁾, 小関一英²⁾, 横田裕行 (¹⁾ 川口市立医療センター救命救急センター, ²⁾ 平成帝京大学健康メディカル学部医療科学科)：死後 CT による来院時心肺停止患者の死因究明。日本救急医学会総会 (第38回), 2010. 10.
- 38) 恩田秀賢, 布施 明, 五十嵐豊, 植松若菜, 渡邊顕弘, 和田剛志, 松本 学, 関厚二郎, 横堀将司, 久志本成樹, 横田裕行：重症頭部外傷に伴う外傷性脳血管傷害の治療戦略。日本救急医学会総会 (第38回), 2010. 10.
- 39) 畝本恭子¹⁾, 目原久美¹⁾, 遠藤広史¹⁾, 上笹 宙¹⁾, 牧 真彦¹⁾, 望月 徹¹⁾, 黒川 顕¹⁾, 横田裕行 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院救命救急センター)：重症頭部外傷における deterioration の認知と減圧適応決定前の ICP

モニタリング. 日本救急医学会総会 (第 38 回), 2010. 10.

- 40) 本村友一¹⁾, 朽方規喜¹⁾, 益子邦洋¹⁾, 横田裕行, 阪本雄一郎²⁾, 吉田 傑³⁾, 富永 茂⁴⁾, 西本哲也⁵⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター, 2) 佐賀大学医学部附属病院非常災害医療学, 3) 株式会社本田技術研究所, 4) 日本大学理工学部機械工学科, 5) 日本大学工学部機械工学科バイオメカニクス研究室): 事故車両データを活かした傷害リスク指標の作成: 傷害リスク推定のための基礎研究 交通事故解析調査. 日本救急医学会総会 (第 38 回), 2010. 10.
- 41) 佐藤格夫¹⁾, 稲垣栄次¹⁾, 磐井佑輔²⁾, 原 俊輔¹⁾, 諸江雄太¹⁾, 桑本健太郎¹⁾, 小柳正雄¹⁾, 石之神小織¹⁾, 久野将宗¹⁾, 二宮宣文¹⁾, 横田裕行 (1) 日本医科大学多摩永山病院救命救急センター, 2) 相模原共同病院外科): ガイドラインには記載されていない重症急性膵炎に対する実践的栄養管理. 日本救急医学会総会 (第 38 回), 2010. 10.
- 42) 齋藤伸行¹⁾, 金丸勝弘¹⁾, 八木貴典¹⁾, 鉄慎一郎¹⁾, 飯田浩章¹⁾, 増田幸子¹⁾, 朽方規喜¹⁾, 原 義明¹⁾, 松本 尚¹⁾, 益子邦洋¹⁾, 横田裕行 (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター): 持続心拍出量計 (PiCCO) を用いた重症敗血症患者に対する ARDS 発症予防のための輸液管理プロトコル. 日本救急医学会総会 (第 38 回), 2010. 10.
- 43) 上西藏人¹⁾, 益子邦洋¹⁾, 松本 尚¹⁾, 原 義明¹⁾, 朽方規喜¹⁾, 飯田浩章¹⁾, 瀬尾卓生¹⁾, 小柳正雄²⁾, 大泉 旭, 川井 真, 横田裕行 (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター, 2) 日本医科大学多摩永山病院救命救急センター): 重症骨盤骨折の初期治療における pelvic packing の適応と限界. 日本救急医学会総会 (第 38 回), 2010. 10.
- 44) 高山泰広, 横田裕行, 佐藤秀貴, 桑本健太郎, 直江康孝, 小川太志¹⁾, 田上茂正¹⁾, 加茂 潤¹⁾, 高島伸之介¹⁾, 岸本晃男²⁾ (1) 川口市立医療センター救命救急センター, 2) 松江病院): 頭部外傷に伴う凝固線溶系傷害の特徴からみた治療戦略. 日本救急医学会総会 (第 38 回), 2010. 10.
- 45) 宮内雅人, 久志本成樹, 川井 真, 横田裕行: 医療政策における救急医療への影響とくに新年度診療報酬等の改正に伴う救急医への影響と問題点. 日本救急医学会総会 (第 38 回), 2010. 10.
- 46) 森下幸治¹⁾, 三上さおり¹⁾, 相星淳一¹⁾, 増野智彦, 小池 薫²⁾, 横山友里³⁾, 小林哲幸³⁾, 大友康裕¹⁾ (1) 東京医科歯科大学, 2) 京都大学, 3) お茶の水女子大学): 出血性ショック後の腸間膜リンパ液の脂質メディエーターと Ca²⁺ 非依存性ホスホリパーゼ A2 (iPLA2 γ). 日本救急医学会総会 (第 38 回), 2010. 10.
- 47) 城戸教裕, 松本 学, 石川若菜, 戸田 翠, 原田将太, 白石振一郎, 恩田秀賢, 宮内雅人, 久志本成樹, 横田裕行: 他部位梗塞・多部位出血を来たした MRSA 感染性心内膜炎の 1 例. 日本救急医学会総会 (第 38 回), 2010. 10.
- 48) 和田剛志, 丸藤 哲¹⁾, 横田裕行 (1) 北海道大学大学院医学研究科侵襲制御医学講座救急医学分野): 傷病者がすぐ近くにいるのに接触できない: スキー場という特殊な現場におけるのフライトドクターの判断. 日本航空医療学会 (第 17 回), 2010. 11.
- 49) 白石振一郎, 横田裕行, 久志本成樹: 熱中症の治療と凝固マーカーの推移. バイオメディカルフォーラム (第 21 回), 2010. 12.
- 50) 山口昌紘, 芝田匡史, 五十嵐豊, 小野雄一, 福田令雄, 増野智彦, 布施 明, 横田裕行: CBRNE 事業における小型携帯動画システムの有用性についての検討. 日本集団災害医学会総会・学術集会 (第 16 回), 2011. 2.
- 51) 芝田匡史, 布施 明, 小野寺修一, 小野雄一, 赤沼雅彦¹⁾, 横田裕行 (1) 日本医科歯科大学千葉北総病院成田国際空港クリニック): 地下鉄での NBC テロ発生事象に対する医療対応の検討. 日本集団災害医学会総会・学術集会 (第 16 回), 2011. 2.
- 52) 布施 明, 田邊智英, 芝田匡史, 山口昌紘, 五十嵐豊, 小野雄一, 福田令雄, 増野智彦, 横田裕行: 本邦における爆傷災害医療の課題: 2010 年国民保護訓練から. 日本集団災害医学会総会・学術集会 (第 16 回), 2011. 2.
- 53) 藤木 悠, 松本 学, 五十嵐豊, 渡邊顕弘, 和田剛志, 鈴木 剛, 関厚二郎, 恩田秀賢, 布施 明, 辻井厚子,

- 川井 真, 横田裕行: 前大脳動脈紡錘状動脈瘤破裂によりくも膜下出血を発症した1例. 日本救急医学会関東地方会 (第61回), 2011. 2.
- 54) 五十嵐豊, 萩原 純, 福田令雄, 横堀将司, 田邊晴山, 増野智彦, 宮内雅人, 布施 明, 川井 真, 横田裕行: 院外心停止に対するドクター・アンビュランスの有用性の検討. 日本救急医学会関東地方会 (第61回), 2011. 2.
- 55) 上西蔵人¹⁾, 益子邦洋¹⁾, 松本 尚¹⁾, 原 義明¹⁾, 飯田浩章¹⁾, 大泉 旭, 川井 真, 横田裕行 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター): 下肢長管骨骨折に対する創外固定から髄内釘固定への conversion についての検討. 日本救急医学会関東地方会 (第61回), 2011. 2.
- 56) 門馬亮介, 塚本剛志, 田中俊尚, 林 励治, 大泉 旭, 川井 真, 横田裕行: 高齢者寛骨白骨折に対して一期的に観血的整復固定術と人工股関節全置換術を行った1例. 日本救急医学会関東地方会 (第61回), 2011. 2.
- 57) 関厚二郎, 百瀬洸太, 松居亮平, 和田剛志, 小野寺修一, 塚本剛志, 金 史英, 新井正徳, 白石振一郎, 宮内雅人, 川井 真, 横田裕行: 当院高度救命救急センターに搬送された重症熱中症の検討. 日本救急医学会関東地方会 (第61回), 2011. 2.
- 58) 本村友一¹⁾, 益子邦洋¹⁾, 横田裕行, 朽方規喜²⁾, 阪本雄一郎²⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター, ²⁾ 佐賀大学医学部付属病院救命救急センター): 四輪車交通事故における乗車位置と外傷傷害の関係. 日本救急医学会関東地方会 (第61回), 2011. 2.
- 59) 和田剛志, 五十嵐豊, 渡邊顕弘, 鈴木 剛, 松本 学, 関厚二郎, 恩田秀賢, 布施 明, 川井 真, 横田裕行: 長期間の脳低体温療法を行い救命しえた重症頭部外傷とクモ膜下出血の2例. 日本救急医学会関東地方会 (第61回), 2011. 2.
- 60) 城戸教裕, 増野智彦, 白石振一郎, 福田令雄, 辻井厚子, 宮内雅人, 川井 真, 久志本成樹, 本木智輝¹⁾, 渡邊宏美¹⁾, 岡崎 静¹⁾, 大塚洋平¹⁾, 横田裕行 (¹⁾ 日本医科大学皮膚科): 壊疽性膿皮症により診断および創傷治療に難渋した1例. 日本救急医学会関東地方会 (第61回), 2011. 2.
- 61) 石川秀樹¹⁾, 石原 哲¹⁾, 坂本哲也¹⁾, 山口芳裕¹⁾, 横田裕行¹⁾, 三浦邦久¹⁾, 佐々木勝¹⁾, 勝見 敦²⁾, 小泉和雄²⁾, 中西 泉²⁾ (¹⁾ 東京都医師会救急委員会, ²⁾ 東京都医師会): 東京都総合防災訓練におけるトリアージタグの記載状況と改善案. 日本集団災害医学会総会・学術集会 (第16回), 2011. 2.
- 62) 和田剛志, ジェスミンサブリナ¹⁾, 横田裕行, 丸藤 哲²⁾ (¹⁾ 国立国際医療研究センター遺伝子治療開発研究部, ²⁾ 北海道大学大学院医学研究科侵襲制御医学講座救急医学分野): 外傷患者における VEGF 発現と凝固線溶反応. 日本集中治療学会 (第39回), 2011. 2.
- (11) シンポジウム・テクニカルセッション:
- 1) 阪本雄一郎¹⁾, 益子邦洋²⁾, 宮崎裕介³⁾, 横田裕行 (¹⁾ 佐賀大学非常災害医療学, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター, ³⁾ 金沢大学工学部): 自動車運転手の交通事故症例における開腹手術症例の特徴とコンピュータシミュレーションによるシートベルト損傷危険因子の検討. 日本外傷学会 (第24回), 2010. 5.
- (12) ビデオシンポジウム:
- 1) 朽方規喜¹⁾, 益子邦洋¹⁾, 松本 尚¹⁾, 原 義明¹⁾, 阪本雄一郎¹⁾, 横田裕行, 落 雅美²⁾, Robert K³⁾, Frolian L³⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター, ²⁾ 日本医科大学心臓血管外科, ³⁾ Klinikum Esslingen): 血行再建手技の基本と外傷外科領域での応用. 日本外科系連合学会学術集会 (第35回), 2010. 6.
- (13) ワークショップ関連:
- 1) 宮内雅人, 増野智彦, 久志本成樹, 川井 真, 横田裕行: 当院における重症骨盤骨折症例に対する手術適応の判断. 日本外傷学会 (第24回), 2010. 5.
- 2) 嶺 貴彦¹⁾, 田島廣之¹⁾, 村田 智¹⁾, 中澤 賢¹⁾, 小野澤志郎¹⁾, 汲田伸一郎¹⁾, 大泉 旭, 横田裕行, 原 義明²⁾, 松本 尚²⁾, 益子邦洋²⁾ (¹⁾ 日本医科大学放射線医学, ²⁾ 日本医科大学北総病院救命救急センター): 骨盤骨折に対する蘇生手段としての TAE の有用性. 日本外傷学会 (第24回), 2010. 5.

(14) 講義：

- 1) 横田裕行：救急看護. 女子栄養大学, 2010. 11.

(15) 特別パネルディスカッション：

- 1) 横田裕行：国民保護と法制度：災害・救急医療は国民保護制度を活用できるのか. 日本集団災害医学会総会・学術集会（第16回）, 2011. 2.

[武蔵小杉病院救命救急センター]

研究概要

武蔵小杉病院救命救急センターは開設後8年目となった。その間、少ない人員で3次救急のほか、他科と協力して2次、1次診療の一部を担当し受け入れ患者数も増加している。各症例において、救急医療に期待されることとして、診断、治療の科学的側面における寄与は当然であるが、一方で、現代の「高齢化」「構造不況に伴うあらたな弱者の発生」など社会的側面についても、現場を知る救急医の役割は大きいと考える。今年度、当医局では引き続き、集中治療、急性期における感染制御、様々な脳損傷に対する脳保護療法、頭部外傷におけるICUモニタリングといった集中治療に関する研究を発表した。さらに加えて、3次救急の受け入れ施設として、高齢者の方々が急変した場合の蘇生、延命治療に関する転帰と家族の満足度などについて、日常生活能力（介護度など）別に検討し、蘇生適応などの提言につなげたいと考えている。また、最近、病院関係者を震撼させているあらたな耐性菌に対する感染制御をテーマとした研究も行い、現在、予防面からの基礎実験を開始したところである。

研究業績

論文

(1) 総説：

- 1) 畝本恭子：頭部外傷における穿頭術の位置づけ. 救急医学 2010；34（13）：1767-1771.

著書

- 1) 黒川 顕：〔分担〕第33回救急救命士国家試験問題解答・解説集. 第33回救急救命士国家試験問題解答・解説集, 2010；pp4-15, へるす出版.
- 2) 黒川 顕：〔分担〕救急医療における終末期医療に関する提言. 救急医療における終末期医療に関する提言（日本救急医学会）, 2010；へるす出版.
- 3) 望月 徹, 黒川 顕：〔自著〕ガス壊疽. 総合診療マニュアル, 2010；pp919-921, 金芳堂.
- 4) 畝本恭子：〔分担〕不整脈. 今日の治療指針 2011, 2010；pp18-18, 医学書院.
- 5) 黒川 顕：〔分担〕急性中毒治療の原則. 今日の治療指針, 2011；pp125-126, 医学書院.
- 6) 畝本恭子：〔分担〕脳低温療法・脳保護療法. 救急・集中治療医学レビュー 2011：最新主要文献と解説（高崎修次, 前川剛志）, 2011；pp98-104, 総合医学社.

学会発表

(1) 招待講演：

- 1) 畝本恭子：積極的頭蓋内圧モニタリングの効果. 関東脳神経外科懇話会（第60回）（東京）, 2010. 7.

(2) 一般講演：

- 1) 牧 真彦, 黒川 顕, 畝本恭子, 望月 徹, 上笹 宙, 目原久美, 遠藤広史, 加地正人：腹部銃創患者の尿管損傷とその評価. 日本外傷学会総会（第24回）, 2010. 5.
- 2) 畝本恭子, 目原久美, 遠藤広史, 牧 真彦, 上笹 宙, 望月 徹, 黒川 顕, 横田裕行¹⁾（¹⁾日本医科大学

侵襲生体管理学講座)：2 峰性の経過をたどり、病院の特定困難であった急性非ヘルペス性脳炎の 1 例。日本神経救急学会学術集会 (第 24 回) (大阪), 2010. 6.

- 3) 牧 真彦, 上笹 宙, 遠藤広史, 目原久美, 望月 徹, 畝本恭子, 黒川 顕: カンデサルタン・シレキセチル, ベシル酸アムロジピンの多量服用。日本中毒学会総会 (第 32 回), 2010. 7.
- 4) 橘和聡文¹⁾, 一色彩子¹⁾, 山口香織¹⁾, 清水康弘¹⁾, 安藤 順¹⁾, 鶴田晴子¹⁾, 高間都支¹⁾, 市川太郎¹⁾, 金城忠志²⁾, 田島廣之²⁾, 春原沙織³⁾, 村澤恒男³⁾, 畝本恭子 (¹⁾ 武蔵小杉病院放射線科, ²⁾ 武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター, ³⁾ 武蔵小杉病院内科): 腎血管筋脂肪腫の腎動脈瘤破裂に対する緊急動脈塞栓術。神奈川県放射線医学会例会 (第 51 回), 2010. 9.
- 5) 遠藤広史, 牧 真彦, 上笹 宙, 目原久美, 望月 徹, 畝本恭子, 黒川 顕: ADL に障害を有する心肺停止症例の救急搬送について。日本救急医学会総会・学術集会 (第 38 回), 2010. 10.
- 6) 望月 徹, 牧 真彦, 上笹 宙, 遠藤広史, 目原久美, 畝本恭子, 黒川 顕: カテキンの MRSA と緑膿菌に対する殺菌効力。日本救急医学会学術集会 (第 38 回), 2010. 10.
- 7) 畝本恭子, 目原久美, 遠藤広史, 牧 真彦, 上笹 宙, 望月 徹, 黒川 顕, 横田裕行¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学侵襲生体管理学講座): 重症頭部外傷における deterioration の認知と減圧適応決定前の ICP モニタリング。日本救急医学会総会学術集会 (第 38 回) (東京), 2010. 10.
- 8) 畝本 (猪鹿倉) 恭子, 渡邊顕弘¹⁾, 亦野文宏²⁾, 中江竜太¹⁾, 鈴木 剛¹⁾, 足立好司²⁾, 黒川 顕, 横田裕行¹⁾, 寺本 明³⁾ (¹⁾ 日本医科大学 侵襲生体管理学講座, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 脳神経外科, ³⁾ 日本医科大学 脳神経外科): 重症頭部外傷における hinge craniectomy の適応。日本脳神経外科学会総会学術集会 (第 69 回) (福岡), 2010. 10.
- 9) 大山莉奈, 黒川 顕, 畝本恭子, 望月 徹, 上笹 宙, 牧 真彦, 目原久美, 遠藤広史: 治療に難渋した出血性胃潰瘍の 1 例。日本救急医学会関東地方会 (第 61 回), 2011. 2.
- 10) 森末 遼, 牧 真彦, 目原久美, 遠藤広史, 上笹 宙, 望月 徹, 畝本恭子, 黒川 顕: 気管支動脈塞栓術が有効であった気管支動脈蔓状血管腫による大量咯血の 1 例。日本救急医学会関東地方会 (第 61 回), 2011. 2.

[多摩永山病院救命救急センター]

研究概要

当施設は多摩地区の 3 次救急医療施設として多発外傷、頭部外傷、整形外科外傷、熱傷、虚血性心疾患、脳血管障害、薬物中毒、災害医療と多岐に渡る患者に対して、それぞれの分野での専門医を中心に自己完結的に集中治療に当たるとともに、併せて各分野での臨床研究をおこなっている。重症患者における環境動態モニタリング、頭部外傷に対する低体温療法、脳梗塞急性期に対する t-PA の投与、血栓溶解法、多発性外傷に対するダメージコントロール、心肺停止後の低体温療法などに取り組んでいる。また、病院前から継続して行われる救急医療システムの改善についても救急救命士とともに検討している。臨床研究のほかエンドトキシン血症モデルモリモットを用いた基礎研究も継続して行っており、結果を学会発表、誌上发表している。また、災害医療に関しても国内、海外への派遣に積極的に参加している。その他、東京消防庁等からの要請によりドクターアンビュランスによる救急現場出動や地域救急医療センターとして東京ルールに積極的に参加している。

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) 鈴木健介, 田中秀治¹⁾, 田久浩志²⁾ (¹⁾ 国土館大学大学院, ²⁾ 中部学院大学): 高等学校における防災・減災教育プログラムの開発。日本集団災害医学会誌 2010; 15 (1): 18-24.

- 2) 塩津正巳^{1,2)}, 田中秀治¹⁾, 二宮宣文 (1) 国士館大学 大学院 救急救命システムコース, 2) 日本医科大学多摩永山病院看護部): 救急救命士に求められる特殊領域診療科病院実習プログラムの必要性. 日本臨床救急医学会 2010; 13 (4): 479-486.

著書

- 1) 二宮宣文: [自著] II 外傷患者の病院前救護と搬送 海外搬送. 救急・集中治療 vol.5.6 これだけは知っておきたい 外傷の管理 Q & A (特集編集 横田裕行), 2010; pp593-598, 株式会社 総合医学社.
- 2) 佐藤格夫, 磐井佑輔, 稲垣栄次: [自著] 外傷患者の病態と集中治療 Q28 外傷患者の代謝・栄養管理. 救急・集中治療 vol.5.6 これだけは知っておきたい 外傷の管理 Q & A (特集編集 横田裕行), 2010; pp725-730, 株式会社 総合医学社.
- 3) 氏家良人¹⁾, 海塚安郎²⁾, 清水孝宏³⁾, 巽 博臣⁴⁾, 長野 修⁵⁾, 佐藤格夫, 妙中信之⁶⁾, 田中弥生⁷⁾ (1) 岡山大学 救急医学講座, 2) 新日鐵八幡記念病院 集中治療部, 3) 那覇市立病院集中治療室, 4) 札幌医科大学救急・集中治療医学講座, 5) 岡山大学救急医学講座, 6) 宝塚市民病院院長, 7) 駒沢女子大学人間健康学部健康栄養学科/南大和病院栄養科): [監修] 急性呼吸不全による人工呼吸患者の栄養管理ガイドライン. 人工呼吸第 27 巻 1 号, 2010; pp75-118, 機関誌.
- 4) 苛原隆之, 佐藤格夫: [分担] 創傷管理とスキンケア (前編): 急性創傷の治療. 重症集中ケア (道又元裕), 2010; pp82-39, 日経研.

学会発表

(1) シンポジウム:

- 1) 諸江雄太, 久野将宗, 原 俊輔, 佐藤格夫, 栗本健太郎, 石之神小織, 稲垣栄次, 小柳正雄, 二宮宣文, 中井彰人¹⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院 女性診療科産科): 急性薬物中毒による周産期救急での各科と地域福祉の連携は重要である: 急性医薬品中毒を契機に出産となった妊婦の 1 例から. 日本中毒学会総会・学術集会 (第 32 回), 2010. 7.
- 2) 二宮宣文: 東京ルールにおける救命救急センターの役割. 東京都病院学会 (第 6 回) (東京都), 2011. 2.

(2) パネルディスカッション:

- 1) 高山泰広¹⁾, 小関一英¹⁾, 直江康孝¹⁾, 小川大志¹⁾, 田上正茂¹⁾, 加茂 潤¹⁾, 高島伸之助¹⁾, 本田哲史¹⁾, 林 励治¹⁾, 飯島広和¹⁾, 横田裕行²⁾, 佐藤秀貴²⁾, 栗本健太郎²⁾ (1) 川口私立医療センター救命救急センター, 2) 日本医科大学救急医学教室): 頭部外傷における ICP モニターの意義: 頭部 CT で ICP の予測は可能か?. 第 24 回日本外傷学会総会 (第 24 回) (千葉県幕張), 2010. 5.
- 2) 稲垣栄次, 二宮宣文, 石之神小織, 諸江雄太, 栗本健太郎, 小柳正雄, 久野将宗: 骨盤骨折に対してガーゼパッキングを施行した治療経験. 日本外科系連合学会学術集会 (第 35 回), 2010. 6.
- 3) 二宮宣文, 山口孝治¹⁾, 鶴飼 拓²⁾ (1) フジ虎ノ門整形外科病院, 2) NPO 災害人道医療支援会 (HuMA)): パキスタン洪水支援における NPO の指揮命令系統: 治安が悪い地域での活動. 日本集団災害医学会総会 (第 16 回) (大阪府), 2011. 2.
- 4) 東岡宏明¹⁾, 山口孝治²⁾, 二宮宣文, 高桑大介³⁾, 吉岡留美⁴⁾, 白倉透規⁵⁾, 伊東和雄⁶⁾ (1) 静岡共済会総合病院, 2) フジ虎ノ門整形外科病院, 3) 武蔵野赤十字病院, 4) JA-LP ガス情報センター, 5) 立川メディカルセンター立川総合病院, 6) 有限会社マスターワークス): 日本集団災害医学会セミナーにおけるインストラクター指導・認定セミナーの導入と今後の課題. 日本集団災害医学会総会 (第 16 回) (大阪府), 2011. 2.

(3) ワークショップ:

- 1) 栗本健太郎, 石之神小織, 二宮宣文, 諸江雄太, 久野将宗, 佐藤格夫, 原 俊輔, 稲垣栄次, 横田裕行¹⁾, 直江康孝²⁾, 高山康広²⁾ (1) 日本医科大学高度救命救急センター, 2) 川口市立医療センター): 急性期外科医のあ

- り方神経救急医・脳神経外科医の立場から. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 38 回) (東京都), 2010. 10.
- 2) 栗本健太郎, 高山康広²⁾, 二宮宣文, 横田裕行¹⁾, 石之神小織, 佐藤格夫, 諸江雄太, 久野将, 直江康孝²⁾ (1) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター, ²⁾ 川口市立医療センター): 重症頭部外傷の治療戦略 damage control surgery としての burr hole surgery の応用. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 38 回) (東京都), 2010. 10.
 - 3) 二宮宣文: 日本医科大学多摩永山病院における災害急性期におけるドクターカー派遣. 日本集団災害医学会総会 (第 16 回) (大阪府), 2011. 2.
- (4) 一般講演:
- 1) Irahara T, Fuse A¹⁾, Hiroyoshi K²⁾, Miyauti M¹⁾, Matumoto H³⁾, Yokota H¹⁾, Akanuma M⁴⁾ (1) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター, ²⁾ 災害医療センター, ³⁾ 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター, ⁴⁾ 日本医科大学成田空港クリニック): Emergency Medical Response to Airport Incidents: Lessons Learned from Field medical activity for Cargo plane accident at Narita International Airport. アジア・太平洋災害医学会 (APCDM) (第 10 回) (北海道札幌), 2010. 8.
 - 2) Kuno M, Ninomiya N: Difficult repatriation case from Indonesia, a 44-year old man, resuscitate state of VF/AMI. Asia-Pacific travel health conference & 14th annual meeting of Japanese society of travel and health (第 8 回) (奈良), 2010. 10.
 - 3) 鈴木健介, 二宮宣文, 田中秀治¹⁾, 久野将宗, 諸江雄太, 佐藤格夫, 石之神小織, 小柳正雄, 栗本健太郎, 原俊輔, 稲垣栄次 (1) 国士館大学救急システム研究科): ドクターカー安全運転講習会の検証. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 38 回) (東京都), 2010. 10.
 - 4) 石之神小織, 二宮宣文, 根本香代, 原俊輔, 久野将宗, 稲垣栄次, 鈴木健介, 久保田稔²⁾, 横田裕行¹⁾ (1) 日本医科大学附属病院高度救命救急センター, ²⁾ 日本医科大学多摩永山病院中央検査部): エンドトキシン誘発モルモットイレイウスモデルにおける PMX-DHP および sivelestat sodium の効果. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 38 回) (東京都), 2010. 10.
 - 5) 諸江雄太, 久野将宗, 鈴木健介, 高橋宏幸¹⁾, 喜熨斗智也¹⁾, 中尾亜美²⁾, 白川透²⁾, 田中芳枝²⁾, 小番康平²⁾, 二宮宣文 (1) 国士館大学大学院救急システム研究科, ²⁾ 国士館大学体育学部): 当救命救急センターにおける救急救命士等病院実習の現状と課題 (第 1 報): 実習前後のアンケートから見えるもの. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 38 回) (東京都), 2010. 10.
 - 6) 稲村嘉昭¹⁾, 中山友紀¹⁾, 二宮宣文, 高橋宏幸^{1, 2)}, 喜熨斗智也^{1, 2)}, 鈴木健介, 白川透³⁾, 田中秀治^{1, 2)}, 島崎修次^{1, 2)} (1) 国士館大学大学院救急システム研究科, ²⁾ 国士館大学ウエルネス・リサーチセンター, ³⁾ 国士館大学体育学部スポーツ医科学科): 多摩市における市民へ向けた AED マップの作成と AED 教育. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 38 回) (東京都), 2010. 10.
 - 7) 二宮宣文, 久野将宗, 石之神小織, 鈴木健介: 緊急災害用快説仮設空間 QS72 の環境実験. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 38 回) (東京都), 2010. 10.
 - 8) 佐藤格夫, 稲垣栄次, 磐井祐輔¹⁾, 原俊輔, 諸江雄太, 栗本健太郎, 小柳正雄, 石之神小織, 久野将宗, 二宮宣文, 横田裕行²⁾ (1) 相模原協同病院外科, ²⁾ 日本医科大学付属病院高度救命救急センター): ガイドラインには記載されていない重篤急性肺炎に対する実践的栄養管理. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 38 回) (東京都), 2010. 10.
 - 9) 羽場和美¹⁾, 二宮宣文, 田中秀治¹⁾, 島崎修次¹⁾, 田久浩志²⁾ (1) 国士館大学救急システム研究科, ²⁾ 日本医科大学付属病院高度救命救急センター): 南多摩地区における大学生のバイク事故の実態についての調査. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 38 回) (東京都), 2010. 10.
 - 10) 二宮宣文, 久野将宗, 石井達男¹⁾, 鈴木健介 (1) 白鬚橋病院): 国際患者搬送エキスパートコースの開発. 日本航空医療学会総会 (第 17 回) (札幌), 2010. 11.

- 11) 苛原隆之, 佐藤格夫, 諸江雄太, 原 俊輔, 桑本健太郎, 稲垣栄次, 小柳正雄, 石之神小織, 久野宗将, 二宮宣文: 外傷性脾破裂・腎基部血管損傷に対し, 大動脈遮断バルーン (IABO) による proximal vascular control が有効であった1例. Acute Care Surgery 研究会学術集会 (第2回) (横浜), 2010. 11.
- 12) 小澤明子, 桑本健太郎, 諸江雄太, 佐藤格夫, 石之神小織, 小柳正雄, 久野宗将, 稲垣栄次, 苛原隆之, 鈴木健介, 二宮宣文: 脳出血を再発した SLE の1例. 日本救急医学会関東地方会 (神奈川県), 2011. 2.
- 13) 鈴木健介, 二宮宣文, 久野宗将, 石ヶ森重之, 渡邊研一: 院内における継続的な災害教育: 机上シミュレーション講習会の効果の検証. 日本集団災害医学会総会 (第16回) (大阪府), 2011. 2.
- 14) 渡邊研一, 二宮宣文, 久野宗将, 石ヶ森重之, 鈴木健介: 院内における継続的な災害訓練: START トリアージ講習会の効果の検証. 日本集団災害医学会総会 (第16回) (大阪府), 2011. 2.

[千葉北総病院救命救急センター]

研究概要

当施設は千葉県北総地域の基幹救急医療施設として平成6年1月に開設した。その後、平成8年11月に千葉県の基幹災害医療センターに、また平成9年1月に千葉県で最初の日本救急医学会指導医指定施設に認可された。平成11年4月には県内8施設目の救命救急センターに認定され、各種学会・研究会において活発な活動を行っている。平成13年10月からは、厚生労働省事業である千葉県ドクターヘリ事業の基地病院として、千葉県及び茨城県南部で発生した広範囲熱傷、薬物中毒、重症外傷、脳卒中、急性冠症候群、急性大動脈疾患など様々な重症患者に最適の初期治療を提供している。また東日本大震災などの大規模災害に対しても DMAT チームが出動し、めざましい治療効果を挙げている。教育活動としては、ACLS, BLS, ICLS, PALS, JATEC, JPTEC, DMAT などの標準医療教育システムの指導者を擁し、医師、救急救命士、看護師、医学生、専門学生などへのベーシックおよびアドバンスの質の高い救急医療教育を提供するとともに、フライトクルーを目指す医療者のドクターヘリ搭乗教育にも力を入れている。

研究テーマは、救急医療システム特に外傷診療のあり方に関する研究、ヘリコプターを活用した救命救急医療のもたらす医学的効果についての研究、災害医療システムの研究、新たな小児重症救急医療システムの構築に関する研究、多発外傷や重症骨盤骨折の病態生理の解明に関する研究、ショックに対する病態生理の解明ならびに新たな診断・治療手法の開発、外傷患者に対する Damage Control の効果に関する研究、敗血症、多臓器不全の病態解明と血液浄化療法の効果に関する研究、シミュレーションモデルを用いた救急医学教育の開発に関する研究、メディカルコントロールに関する研究等、多岐に渡っている。また、日本大学理工学部、工学部と連携し、交通事故調査を中心とした外傷予防システムの研究として、交通事故事例、事故車両、傷病者医療情報の調査も行っている。これらの研究成果は国内学会、専門誌ばかりでなく国際学会や英文雑誌で発表し、広く内外に情報発信している。

研究業績

論文

[追加分]

追加分総説:

- 1) 松本 尚: ロンドン HEMS から何を学ぶか. HEM-Net グラフ 2009; (13): 13-14.

追加分研究報告書:

- 1) 益子邦洋¹⁾, 有賀 徹¹⁾, 市川正典¹⁾, 岡本雅義¹⁾, 坂本哲也¹⁾, 多田辰雄¹⁾, 外村潤二¹⁾, 福島 真⁷⁾, 山崎 健¹⁾, 加藤久明¹⁾ (1) 車両安全に係る調査分析検討会 (人体傷害データベース部会) 委員: 平成 21 年度人体傷害データベース分析報告書. 国土交通省自動車交通局受託研究報告書 2010; 1-250.
- 2) 益子邦洋: 救命救急センターにおける危機的出血への対応の現状の把握. 平成 21 年度厚生労働科学研究費補助金 (医薬品医療機器等レギュラトリーサイエンス研究事業) 危機的出血に対する輸血ガイドライン導入による

救命率変化および輸血ネットワークシステム構築に関する研究（主任研究者：順天堂大学・麻酔科学教授 稲田英一）分担研究 救命救急センターにおける危機的出血への対応の現状の把握 2010；1-26.

(1) 原著：

- 1) Asano T¹⁾, Ichiki K¹⁾, Koizumi S¹⁾, Kaizu K¹⁾, Hatori T¹⁾, Fujino O¹⁾, Mashiko K, Sakamoto Y, Miyasaho T²⁾, Fukunaga Y¹⁾ (1) Department of Pediatrics, Nippon Medical School, Chiba Hokusoh Hospital, Chiba-Pref, Japan, 2) Department of Veterinary Biochemistry, School of Veterinary Medicine, Rakuno Gakuen University, Hokkaido, Japan) : IL-17 is elevated in cerebrospinal fluids in bacterial meningitis in children. CYTOKINE 2010 ; 51 : 101-106.
- 2) Asano T¹⁾, Ichiki K¹⁾, Koizumi S¹⁾, Kaizu K¹⁾, Hatori T¹⁾, Fujino O¹⁾, Mashiko K, Sakamoto Y, Miyasaho T²⁾, Fukunaga Y¹⁾ (1) Department of Pediatrics, Nippon Medical School, Chiba Hokusoh Hospital, Chiba-Pref, Japan, 2) Department of Veterinary Biochemistry, School of Veterinary Medicine, Rakuno Gakuen University, Hokkaido, Japan) : IL-8 in Cerebrospinal Fluid from Children with Acute Encephalopathy is Higher than in that from Children with Febrile Seizure. Scandinavian Journal of Immunology 2010 ; 71 : 447-451.
- 3) 富永 茂¹⁾, 西本哲也²⁾, 阪本雄一郎³⁾, 益子邦洋 (1) 日本大学理工学部, 2) 日本大学工学部, 3) 佐賀大学医学部) : 交通外傷における日本人版予測生存率モデルの算出とその特徴解析. 自動車技術会論文集 2010 ; 41 (6) : 1237-1242.
- 4) 阪本雄一郎¹⁾, 益子邦洋, 横田裕行²⁾ (1) 佐賀大学救急医学, 2) 日本医科大学救急医学) : Pulse Contour Cardiac Output (PiCCO) からみた肺障害と各種炎症系マーカー (CRP, プロカルシトニン, Endotoxin Activity Assay) との関連性についての検討. エンドトキシン血症救命治療研究会誌 2010 ; 14 (1) : 196-201.
- 5) 金丸勝弘, 清水 一¹⁾, Mohammad G¹⁾, 松本 尚, 益子邦洋 (1) 日本医科大学老人病研究所病理部門) : 新トリアージタグの有用性. 日本医科大学医学会雑誌 2011 ; 7 (1) : 2-3.
- 6) 有吉孝一¹⁾, 本村友一, 八幡真由子²⁾ (1) 神戸市立医療センター中央市民病院救命救急センター, 2) 佐賀大学医学部附属病院救命救急センター) : どんとこい救急！緊急度・重症度・頻度で学ぶ救急疾患 第11回吐血・咯血. emergency care 2011 ; 24 (3) : 4-8.

(2) 総説：

- 1) 本村友一, 有吉孝一¹⁾, 山口りか¹⁾ (1) 佐賀大学医学部附属病院救命救急センター) : どんとこい救急！緊急度・重症度・頻度で学ぶ救急疾患 第1回頭痛. emergency care 2010 ; 23 (4) : 6-10.
- 2) 益子邦洋, 松本 尚, 朽方規喜, 林田和之, 本村友一, 阪本雄一郎, 横田裕行¹⁾ (1) 日本医科大学救急医学) : Acute Care Surgery 研究会と外傷センターで外傷外科医の育成を図れ. 日本外科学会雑誌 2010 ; 111 (3) : 31-32.
- 3) 朽方規喜, 益子邦洋 : 多発外傷. 消化器外科 2010 ; 33 (5) : 768-770.
- 4) 益子邦洋 : 防ぎ得た外傷死亡を都道府県レベルで検討することの意義. アスカ 21 2010 ; 19 (2) : 10-11.
- 5) 増野智彦¹⁾, 久志本成樹¹⁾, 益子邦洋, 横田裕行¹⁾ (1) 日本医科大学高度救命救急センター) : 外傷患者に対する輸血療法 -Gift of Life or Not-. 日本外傷学会雑誌 2010 ; 24 (2) : 96-101.
- 6) 松本 尚, 益子邦洋, 原 義明, 朽方規喜, 阪本雄一郎, 鉄慎一郎, 飯田浩章, 上西藏人, 増田幸子, 本村友一, 横田裕行¹⁾ (1) 日本医科大学救急医学) : 外傷診療における Helicopter emergency medical service (HEMS) の役割. 日本外傷学会雑誌 2010 ; 24 (2) : 87-95.
- 7) 本村友一, 有吉孝一¹⁾, 浦島真由美²⁾ (1) 佐賀大学医学部附属病院救命救急センター, 2) 佐賀大学医学部附属病院) : どんとこい救急！緊急度・重症度・頻度で学ぶ救急疾患 第2回意識障害. emergency care 2010 ; 23 (5) : 6-11.

- 8) 朽方規喜：心嚢穿刺. 小児科診療 2010；73 (5)：791-793.
- 9) 松本 尚：交通事故による社会的損失の算定. 救急医学 2010；34 (5)：579-583.
- 10) 益子邦洋, 松本 尚, 原 義明：事故自動通報システム (ACN) が起動するドクターヘリシステム構築の必要性. 救急医学 2010；34 (5)：533-537.
- 11) 本村友一, 有吉孝一¹⁾, 浦島真由美²⁾ (1) 神戸市立医療センター中央市民病院救命救急センター, 2) 佐賀大学医学部附属病院)：どんとこい救急！緊急度・重症度・頻度で学ぶ救急疾患 第3回めまい. emergency care 2010；23 (6)：6-10.
- 12) 本村友一, 有吉孝一¹⁾, 山本美保子²⁾ (1) 神戸市立医療センター中央市民病院救命救急センター, 2) 佐賀大学医学部附属病院)：どんとこい救急！緊急度・重症度・頻度で学ぶ救急疾患 第4回呼吸困難. emergency care 2010；23 (7)：6-10.
- 13) 林田和之：第5回腹部外傷. Jamic Journal 2010；30 (7)：28-28.
- 14) 金丸勝弘：僻地医療にヘリを導入するために救急の道へ進んだ. Jamic Journal 2010；30 (7)：20-20.
- 15) 益子邦洋：救急救命士の処置拡大に向けた実証研究, 動き出す. アスカ 21 2010；19 (3)：10-11.
- 16) 本村友一, 有吉孝一¹⁾, 岡田倫明²⁾ (1) 神戸市立医療センター中央市民病院救命救急センター, 2) 佐賀大学医学部附属病院)：どんとこい救急！緊急度・重症度・頻度で学ぶ救急疾患 第5回麻痺・脱力. emergency care 2010；23 (8)：6-11.
- 17) 本村友一, 有吉孝一¹⁾, 本村あゆみ²⁾ (1) 神戸市立医療センター中央市民病院救命救急センター, 2) 千葉大学大学院医学研究院法医学教室)：どんとこい救急！緊急度・重症度・頻度で学ぶ救急疾患 第5回動悸. emergency care 2010；23 (9)：6-10.
- 18) 本村友一：救急医療ピットフォール 第7回多数傷病者対応. Jamic Journal 2010；30 (9)：26-26.
- 19) 金丸勝弘：新トリアージタグの使用経験. 印旛市郡医師会報 2010；(51)：57-60.
- 20) 松本 尚：救命救急センターにおける小児外傷. 救急医学 2010；34 (9)：1055-1058.
- 21) 本村友一, 有吉孝一¹⁾, 本村あゆみ²⁾ (1) 神戸市立医療センター中央市民病院救命救急センター, 2) 千葉大学大学院医学研究院法医学教室)：どんとこい救急！緊急度・重症度・頻度で学ぶ救急疾患 第6回胸痛. emergency care 2010；23 (10)：2-7.
- 22) 益子邦洋：「ドクターヘリ普及促進懇談会」が結成され, 新しい公共が加速. アスカ 21 2010；19 (4)：10-11.
- 23) 益子邦洋, 松本 尚, 原 義明：ドクターヘリを運用する病院が抱える問題. 月刊新医療 2010；37 (11)：130-133.
- 24) 益子邦洋：交通事故に遭遇したとき何をすべきか. セイフティ エクスプレス 2010；24 (11)：2-6.
- 25) 益子邦洋, 松本 尚, 原 義明, 林田和之, 金丸勝弘, 佐々木隆司, 齋藤伸行, 八木貴典, 鉄慎一郎, 飯田浩章, 上西蔵人, 増田幸子, 本村友一, 瀬尾卓生：ドクターヘリの導入による救急医療の変化と今後の展望. 公衆衛生 2010；74 (12)：1018-1023.
- 26) 有吉孝一¹⁾, 本村友一, 實松麻衣²⁾ (1) 神戸市立医療センター中央市民病院救命救急センター, 2) 佐賀大学医学部附属病院腎臓内科)：どんとこい救急！緊急度・重症度・頻度で学ぶ救急疾患 第8回下腹部痛. emergency care 2010；23 (12)：2-7.
- 27) 松本 尚：外傷患者の現場での重症度評価とドクターヘリ要請の適応. 救急医療ジャーナル 2010；18 (106)：20-24.
- 28) 佐々木隆司：救急医療ピットフォール 第11回小児のショック. Jamic journal 2011；31 (1)：30-30.
- 29) 有吉孝一¹⁾, 本村友一, 福田 誠²⁾ (1) 神戸市立医療センター中央市民病院救命救急センター, 2) 佐賀県立病院好生館腎臓内科)：どんとこい救急！緊急度・重症度・頻度で学ぶ救急疾患 第9回発熱. emergency care 2011；24 (1)：4-8.
- 30) 益子邦洋：ドクターヘリによる交通事故被害軽減の取り組みがアジアに拡大. アスカ 21 2011；20 (1)：10-11.

31) 有吉孝一¹⁾, 本村友一, 河田望美 (¹⁾ 神戸市立医療センター中央市民病院救命救急センター, ³⁾ 佐賀大学医学部附属病院肝臓・糖尿病・内分泌内科): どんとこい救急! 緊急度・重症度・頻度で学ぶ救急疾患 第10回嘔吐. emergency care 2011; 24 (2): 4-9.

(3) 研究報告書:

1) 吉田 傑¹⁾, 益子邦洋, 本村友一, 西本哲也²⁾, 富永 茂³⁾ (¹⁾ 株式会社本田技術研究所, ²⁾ 日本大学工学部, ³⁾ 日本大学理工学部): 車載データを活かした救急ガイドライン. 平成22年度本田技術研究所-日本医科大学-日本大学共同研究報告書 2011; 1-22.

2) 益子邦洋: ヘリコプター救急体制の構築をもたらす社会的利益に関する定量的な研究. 消防防災科学技術研究開発事例集 III 2011; 195-197.

(4) 症例報告:

1) Kutsukata N, Mashiko K, Matsumoto H, Sakamoto Y: A Case of Spontaneous Rupture of Nonaneurysmal Left Iliac Artery Due to Penetrating Atherosclerotic Ulcer. J Nippon Med Sch 2010; 77 (2): 123-125.

2) Kutsukata N, Mashiko K, Matsumoto H, Hara Y, Sakamoto Y, Koami H: A Case of Commotio Cordis Caused by Steering Wheel Injury. Journal of Nippon Medical School 2010; 77 (4): 218-220.

3) Kutsukata N, Mashiko K, Matsumoto H, Hara Y, Sakamoto Y, Yokota H¹⁾, Yamauchi H²⁾, Ochi M²⁾ (¹⁾ Department of Emergency and Critical Care Medicine, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Biological Regulation and Regenerative Surgery, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School): Surgical Venous Thrombectomy for Japanese Patients with Acute Deep Vein Thrombosis: A Review of 5 Years' Experience. J Nippon Med Sch 2010; 77 (3): 155-159.

4) 上西蔵人, 原 義明, 松本 尚, 川井 真¹⁾, 益子邦洋, 横田裕行¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学高度救命救急センター): 小児の開放骨盤輪骨骨折の初期治療-2例報告-. 東日本震災会誌 2010; 22 (2): 239-242.

5) 本村友一, 朽方規喜, 益子邦洋, 阪本雄一郎¹⁾, 横田裕行²⁾, 富永 茂³⁾, 西本哲也⁴⁾ (¹⁾ 佐賀大学医学部附属病院 救命救急センター, ²⁾ 日本医科大学 救急医学, ³⁾ 日本大学 理工学部機械工学科, ⁴⁾ 日本大学 工学部機械工学科バイオメカニクス研究室): 軽微な車両破損の交通外傷にて受傷した心損傷の1例. 日本救急医学会関東地方会雑誌 2010; 31 (48): 18-19.

(5) エディトリアル:

1) 益子邦洋: 医学と工学が連携した外傷研究・外傷診療体制の必要性. 救急医学 2010; 34 (5): 501-502.

(6) 調査・報告:

1) 阪本雄一郎, 益子邦洋, 松本 尚, 横田裕行¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学救急医学): Japan Trauma Data Bank (JTDB) のデータからみた外傷症例におけるドクターヘリ搬送の有用性についての検討. 日本臨床救急医学会雑誌 2010; 13 (3): 356-360.

著書

1) 布施 明¹⁾, 木村昭夫²⁾, 稲垣剛志³⁾, 竹川良介³⁾, 和田智貴³⁾, 久志本成樹¹⁾, 大泉 旭¹⁾, 畝本恭子⁴⁾, 小井土雄一⁵⁾, 二宮宣文⁶⁾, 田邊晴山⁷⁾, 相星淳一⁸⁾, 荒木 尚⁹⁾, 益子邦洋 (¹⁾ 日本医科大学付属病院高度救命救急センター, ²⁾ 国立国際医療研究センター病院 救急・総合診療部, ³⁾ 国立国際医療研究センター病院救急科, ⁴⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院高度救命救急センター, ⁵⁾ 国立病院機構災害医療センター臨床研究部, ⁶⁾ 日本医科大学多摩永山病院高度救命救急センター, ⁷⁾ 救急救命東京研修所, ⁸⁾ 東京医科歯科大学救急災害医学, ⁹⁾ 国立成育医療研究センター脳神経外科): [翻訳] アトラス応急処置マニュアル (監訳者/山本保博, 黒川 顯 翻訳主幹/横田裕行, 大友康裕), 2010; pp1-286, 株式会社 南江堂.

2) 朝倉英策¹⁾, 安部正敏²⁾, 荒瀬康司³⁾, 板垣英二⁴⁾, 糸井隆夫⁵⁾, 稲田英一⁶⁾, 岩崎泰正⁷⁾, 大泉弘幸⁸⁾, 大友康裕⁹⁾, 大西洋英¹⁰⁾, 岡住慎一, 岡田忠雄, 岡田充史, 尾島俊之, 益子邦洋, その他66名 (¹⁾ 金沢大学附属病院 高

- 密度無菌治療部, ²⁾ 群馬大学大学院医学系研究科医科学専攻 環境病態制御系 生体防御機構学皮膚科学, ³⁾ 虎ノ門病院 健康管理センター・画像センター, ⁴⁾ 杏林大学医学部 第三内科学教室 (内分泌), ⁵⁾ 東京医科大学 消化器内科, ⁶⁾ 順天堂大学医学部麻酔科学・ペインクリニック講座, ⁷⁾ 高知大学医学部 保健管理センター, ⁸⁾ 山形大学医学部 外科学第二講座, ⁹⁾ 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 救急災害学分野, ¹⁰⁾ 秋田大学大学院医学系研究科医学専攻 消化器内科学講座): [解説執筆] 第104回医師国家試験問題解説 (国試対策問題編集委員会), 2010; pp1-551, 株式会社メディックメディア.
- 3) 原 義明: [分担] VOL.3 エアレスキュー. 実践 救急ナーシング (丸川征四郎), 2010; pp242-249, 永井書店.
 - 4) 上原譽志夫¹⁾, 大林完二²⁾, 隅谷護人³⁾, 益子邦洋, 松岡博昭⁴⁾ (¹⁾ 共立女子大学, ²⁾ 大林内科医院, ³⁾ 元東京共済病院, ⁴⁾ 宇都宮中央病院): [編集] 総合診療マニュアル (上原譽志夫, 大林完二, 隅谷護人, 益子邦洋, 松岡博昭), 2010; pp1-1072, 株式会社 金芳堂.
 - 5) 原 義明: [分担] 23 外傷 182 筋肉の挫滅. 総合診療マニュアル (上原譽志夫, 大林完二, 隅谷護人, 益子邦洋, 松岡博昭), 2010; pp350-352, 株式会社 金芳堂.
 - 6) 原 義明: [分担] 9 整形外科疾患 83 脊髄損傷. 総合診療マニュアル (上原譽志夫, 大林完二, 隅谷護人, 益子邦洋, 松岡博昭), 2010; pp740-745, 株式会社 金芳堂.
 - 7) 松本 尚: [分担] 23 外傷 172 レビュー: 最新の外科治療. 総合診療マニュアル (上原譽志夫, 大林完二, 隅谷護人, 益子邦洋, 松岡博昭), 2010; pp324-326, 株式会社 金芳堂.
 - 8) 八木貴典: [分担] 23 外傷 176 切り傷・擦過傷. 総合診療マニュアル (上原譽志夫, 大林完二, 隅谷護人, 益子邦洋, 松岡博昭), 2010; pp335-337, 株式会社 金芳堂.
 - 9) 富田祥輝: [分担] 23 外傷 184 肘内障. 総合診療マニュアル (上原譽志夫, 大林完二, 隅谷護人, 益子邦洋, 松岡博昭), 2010; pp355-357, 株式会社 金芳堂.
 - 10) 金丸勝弘: [分担] 23 外傷 185 咬傷 (疾患編: 凝固・線溶系の疾患, 腎不全, 破傷風). 総合診療マニュアル (上原譽志夫, 大林完二, 隅谷護人, 益子邦洋, 松岡博昭), 2010; pp358-359, 株式会社 金芳堂.
 - 11) 朽方規喜: [分担] 23 外傷 189 心臓振盪. 総合診療マニュアル (上原譽志夫, 大林完二, 隅谷護人, 益子邦洋, 松岡博昭), 2010; pp365-366, 株式会社 金芳堂.
 - 12) 斎藤伸行: [分担] 27 異物 194 レビュー: 異物事故の傾向. 総合診療マニュアル (上原譽志夫, 大林完二, 隅谷護人, 益子邦洋, 松岡博昭), 2010; pp374-376, 株式会社 金芳堂.
 - 13) 斎藤伸行: [分担] 27 異物 195 気道異物. 総合診療マニュアル (上原譽志夫, 大林完二, 隅谷護人, 益子邦洋, 松岡博昭), 2010; pp376-378, 株式会社 金芳堂.
 - 14) 斎藤伸行, 朽方規喜, 益子邦洋: [分担] 4 外傷・熱傷の診断・治療 30 肺挫傷の治療指針. 救急・集中治療ガイドライン (岡元和文), 2010; pp88-90, 総合医学社.
 - 15) 石原 晋¹⁾, 益子邦洋 (¹⁾ 公立邑智病院): [監修] プレホスピタル MOOK シリーズ 4 多数傷病者対応 (監修/石原 晋, 益子邦洋 編集/大友康裕), 2010; pp1-285, 株式会社永井書店.
 - 16) 松本 尚: [分担] 4章メディカルコントロールにかかわる人的資源とその養成 2. メディカルコントロール教育の将来像. 病院前救護におけるメディカルコントロール (日本救急医学会メディカルコントロール体制検討委員会), 2010; pp52-54, 株式会社へるす出版.
 - 17) 松本 尚: [分担] 13章メディカルコントロール活動を支える財源の確保 2. 財源確保の成功例. 病院前救護におけるメディカルコントロール (日本救急医学会メディカルコントロール体制検討委員会), 2010; pp240-242, 株式会社へるす出版.
 - 18) 松本 尚: [分担] 14章 地域の特異性とメディカルコントロール 2. 広域搬送におけるメディカルコントロール 1. 広域搬送時の課題. 病院前救護におけるメディカルコントロール (日本救急医学会メディカルコントロール体制検討委員会), 2010; pp249-250, 株式会社へるす出版.
 - 19) 益子邦洋, 國松孝次¹⁾ (¹⁾ 認定 NPO 法人救急ヘリ病院ネットワーク): [分担] ドクターヘリによる救急救命体

- 制の拡充整備. 日本の航空 100 年 航空・宇宙の歩み, 2010; pp520-524, 財団法人 日本航空協会.
- 20) 益子邦洋:〔自著〕「攻めの救急医療」十五分ルールをめざして脚光をあびるドクターヘリの真実, 2010; pp1-171, 株式会社へるす出版.
 - 21) 益子邦洋:〔分担〕外傷患者のプレホスピタルケア. 外傷初期看護ガイドライン (一般社団法人 日本救急看護学会), 2010; pp277-284, 株式会社へるす出版.
 - 22) 益子邦洋:〔分担〕外傷の重症度 重症外傷の見分け方. 六訂版 家庭医学大全科 (高久史磨, 猿田享男, 北村惣一郎, 福井次矢), 2010; pp2788-2788, 株式会社法研.
 - 23) 益子邦洋:〔分担〕外傷の重症度 多発外傷. 六訂版 家庭医学大全科 (高久史磨, 猿田享男, 北村惣一郎, 福井次矢), 2010; pp2788-2790, 株式会社法研.
 - 24) 益子邦洋:〔分担〕胸部外傷 胸部打撲. 六訂版 家庭医学大全科 (高久史磨, 猿田享男, 北村惣一郎, 福井次矢), 2010; pp2844-2845, 株式会社法研.
 - 25) 益子邦洋:〔分担〕胸部外傷 肋骨・胸骨骨折. 六訂版 家庭医学大全科 (高久史磨, 猿田享男, 北村惣一郎, 福井次矢), 2010; pp2845-2846, 株式会社法研.
 - 26) 益子邦洋:〔分担〕胸部外傷 フレイルチェスト. 六訂版 家庭医学大全科 (高久史磨, 猿田享男, 北村惣一郎, 福井次矢), 2010; pp2846-2847, 株式会社法研.
 - 27) 益子邦洋:〔分担〕胸部外傷 外傷性気胸. 六訂版 家庭医学大全科 (高久史磨, 猿田享男, 北村惣一郎, 福井次矢), 2010; pp2848-2849, 株式会社法研.
 - 28) 益子邦洋:〔分担〕胸部外傷 皮下気腫, 縦隔気腫. 六訂版 家庭医学大全科 (高久史磨, 猿田享男, 北村惣一郎, 福井次矢), 2010; pp2849-2850, 株式会社法研.
 - 29) 益子邦洋:〔分担〕胸部外傷 血胸. 六訂版 家庭医学大全科 (高久史磨, 猿田享男, 北村惣一郎, 福井次矢), 2010; pp2850-2851, 株式会社法研.
 - 30) 益子邦洋:〔分担〕胸部外傷 肺挫傷. 六訂版 家庭医学大全科 (高久史磨, 猿田享男, 北村惣一郎, 福井次矢), 2010; pp2851-2852, 株式会社法研.
 - 31) 益子邦洋:〔分担〕胸部外傷 外傷性胸部圧迫症. 六訂版 家庭医学大全科 (高久史磨, 猿田享男, 北村惣一郎, 福井次矢), 2010; pp2852-2853, 株式会社法研.
 - 32) 益子邦洋:〔分担〕胸部外傷 心挫傷. 六訂版 家庭医学大全科 (高久史磨, 猿田享男, 北村惣一郎, 福井次矢), 2010; pp2853-2854, 株式会社法研.
 - 33) 益子邦洋:〔分担〕胸部外傷 穿通性心臓外傷. 六訂版 家庭医学大全科 (高久史磨, 猿田享男, 北村惣一郎, 福井次矢), 2010; pp2854-2854, 株式会社法研.
 - 34) 益子邦洋:〔分担〕胸部外傷 心タンポナーデ. 六訂版 家庭医学大全科 (高久史磨, 猿田享男, 北村惣一郎, 福井次矢), 2010; pp2855-2855, 株式会社法研.
 - 35) 益子邦洋:〔分担〕胸部外傷 胸部大血管損傷. 六訂版 家庭医学大全科 (高久史磨, 猿田享男, 北村惣一郎, 福井次矢), 2010; pp2855-2856, 株式会社法研.
 - 36) 石原 晋¹⁾, 益子邦洋 ⁽¹⁾ 公立邑智病院):〔監修〕プレホスピタル MOOK シリーズ 10 後輩たちに伝えたい救急現場活動のプロの技 (監修/石原 晋, 益子邦洋 編集/安田康晴), 2010; pp1-168, 株式会社永井書店.
 - 37) 益子邦洋:〔分担〕腹部大血管損傷. 今日の治療方針 2011 年版 (Volume53) (山口 徹, 北原光夫, 福井次矢), 2011; pp62-63, 株式会社 医学書院.
 - 38) 松本 尚:〔分担〕9.ヘリコプターの活用【1】ドクターヘリ. DMAT 標準テキスト (日本災害救急医学会 DMAT テキスト編集委員会), 2011; pp150-152, 株式会社へるす出版.
 - 39) 松本 尚:〔分担〕8.空港災害. DMAT 標準テキスト (日本災害救急医学会 DMAT テキスト編集委員会), 2011; pp340-341, 株式会社へるす出版.
 - 40) 肥田誠治¹⁾, 益子邦洋:〔分担〕熱傷性ショック. 経静脈治療オーダーマニュアル (小川 龍, 島崎修次, 飯野

靖彦, 五十嵐 隆, 福島亮治), 2011; pp66-70, 株式会社大塚製薬工場.

学会発表

〔追加分〕

追加分一般講演:

- 1) 齋藤伸行: アウトブレイク疫学調査. 東葛地区救急カンファレンス (第8回), 2010. 2.

(1) 会長講演:

- 1) 益子邦洋: 医学と工学が連携した外傷予防・研究・診療体制の必要性. 日本外傷学会 (第24回), 2010. 5.

(2) 特別講演:

- 1) 益子邦洋: Drヘリの現状と今後の展望. 脳卒中地域医療連携バス講演会, 2010. 9.
- 2) 益子邦洋: 攻めの救急医療「ドクターヘリ」. 千葉県北部地区放射線技師の集い (第18回), 2010. 10.
- 3) 益子邦洋: ドクターヘリがおりなす奇跡の物語. 私立医科大学臨床検査技師会学術研修会 (第28回), 2010. 10.
- 4) 益子邦洋: 小児外傷診療の新たな展開. 広島小児救急研究会 (第11回), 2010. 11.
- 5) 益子邦洋: ドラマ「コード・ブルー」が提案する攻めの救急医療: ドクターヘリの真実. 世羅地区救急カンファレンス (第7回), 2010. 11.
- 6) 益子邦洋: 救急医療の平成維新: ドクターヘリとメディカルコントロール. 北総救命会フォーラム (第18回), 2010. 12.
- 7) 益子邦洋: 救命救急と緊急輸血. 神奈川輸血研究会 (第14回), 2011. 2.

(3) 招待講演:

- 1) Mashiko K: Setting up the trauma care system including HEMS in Japan. Ajou International Trauma Conference (ソウル, 韓国2010), 2010. 5.
- 2) 益子邦洋: The Role of Quality Improvement in Trauma Care -How to Reduce the Preventable Trauma Death-. Wonju College of Medicine Trauma Symposium (韓国), 2010. 12.
- 3) 益子邦洋: ドクターヘリとメディカルコントロール. 千葉県消防長会救急委員会救急研修会 (第6回), 2010. 7.

(4) 教育講演:

- 1) 辺見 弘¹⁾, 益子邦洋, 加地正人²⁾, 勝見 敦³⁾ (¹⁾ 独立行政法人国立病院機構災害医療センター, ²⁾ 東京医科歯科大学救命救急センター, ³⁾ 武蔵野赤十字病院救命救急センター): 膝損傷を伴った多重銃創の治療経験. Acute Care Surgery 研究会学術集会 (第2回), 2010. 11.

(5) 基調講演:

- 1) 益子邦洋: 大災害時の医療と地区医師会の対応. 東葛地区医師会医療協議会, 2010. 7.

(6) シンポジウム:

- 1) Motomura T, Kanemaru K, Matsumoto H, Mashiko K, Yokota H¹⁾ (¹⁾ Department of Emergency and Critical Care Medicine Nippon Medical School, Japan): Disaster training in collaboration with DMAT and the Japan Coast Guard involving a mass casualty incident at sea. Asia Pacific Conference on Disaster Medicine (10th) (Sapporo, Japan), 2010. 8.
- 2) 益子邦洋, 松本 尚, 朽方規喜, 阪本雄一郎, 横田裕行¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学救急医学): Acute Care Surgery 研究会と外傷センターで外傷外科医の育成を図れ. 日本外科学会定期学術集会 (第110回), 2010. 4.
- 3) 阪本雄一郎, 益子邦洋, 本村陽一¹⁾, 西田佳史¹⁾, 石垣 司¹⁾, 横田裕行²⁾ (¹⁾ 産業技術研究所デジタルヒューマン研究センター, ²⁾ 日本医科大学救急医学): Japan Trauma Data Bank のデータを用いた医工連携による本邦独自の外傷予後予測指標. 日本外傷学会 (第24回), 2010. 5.
- 4) 松本 尚, 大橋教良¹⁾, 小林國男¹⁾ (¹⁾ 帝京平成大学): 救急救命士教育の将来像. 日本臨床救急医学会総会・

学術集会（第13回），2010. 5.

- 5) 益子邦洋, 松本 尚, 原 義明, 朽方規喜, 金丸勝弘, 齋藤伸行, 八木貴典, 鉄慎一郎, 飯田浩章, 上西蔵人, 増田幸子, 本村友一: 高速道路で発生した交通事故に対するドクターヘリ運用の現状と展望. 日本交通科学協議会総会・学術講演会（第46回）, 2010. 6.
- 6) 齋藤伸行, 八木貴典, 鉄慎一郎, 金丸勝弘, 朽方規喜, 原 義明, 松本 尚, 益子邦洋: 救命救急センターにおける VAP の現状医師の立場から. 日本救呼吸療法学会学術集会（第32回）, 2010. 7.
- 7) 加地正人¹⁾, 大友康裕¹⁾, 相星淳一¹⁾, 庄古知久¹⁾, 登坂直規¹⁾, 村田希吉¹⁾, 堀米正幸¹⁾, 森下幸治¹⁾, 植木 稔¹⁾, 本藤憲一¹⁾, 若林正和¹⁾, 市野瀬剛¹⁾, 久志本成樹, 益子邦洋, 横田裕行, その他3名（¹⁾ 東京医科歯科大学医学部付属病院救命救急センター）: 深在性腓損傷の治療アプローチ: IIIb (Ph) 型腓損傷への PPPD 施行例. Acute Care Surgery 研究会学術集会（第2回）, 2010. 11.
- 8) 金丸勝弘, 松本 尚, 本村友一, 増田幸子, 上西蔵人, 飯田浩章, 鉄慎一郎, 八木貴典, 齋藤伸行, 林田和之, 朽方規喜, 原 義明, 益子邦洋: フライトドクター育成プログラムの実証. 日本航空医療学会総会（第17回）, 2010. 11.
- 9) 齋藤伸行, 平林篤志, 瀬尾卓生, 増田幸子, 上西蔵人, 飯田浩章, 八木貴典, 鉄慎一郎, 梅香 満, 金丸勝弘, 林田和之, 原 義明, 松本 尚, 益子邦洋: 出血性ショックへ陥った外傷患者に対する輸液管理: 初期循環管理法の変更による輸液量の違い. 体液代謝管理研究会（第25回）, 2011. 1.

(7) パネルディスカッション:

- 1) 朽方規喜, 益子邦洋, 松本 尚, 阪本雄一郎, 別所竜蔵¹⁾, 石井庸介¹⁾, 落 雅美²⁾, 横田裕行³⁾（¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 胸部心臓血管外科, ²⁾ 日本医科大学 心臓血管外科, ³⁾ 日本医科大学 救急医学教室）: 深部静脈血栓症ならびに急性肺血栓塞栓症に対する外科治療. 日本血管外科学会学術総会（第38回）, 2010. 5.
- 2) 益子邦洋, 齋藤伸行, 稲田英一¹⁾, 紀野修一¹⁾, 入田和男¹⁾, 稲葉頌一¹⁾, 半田 誠¹⁾, 蕨 謙吾¹⁾, 矢野 哲¹⁾（¹⁾ 厚生労働科学研究稲田班）: 救命救急センターにおける緊急輸血の現状と課題. 日本輸血細胞治療学会（第58回）, 2010. 5.
- 3) 阪本雄一郎, 益子邦洋, 西本哲也¹⁾, 富永 茂²⁾, 横田裕行³⁾（¹⁾ 日本大学工学部機械工学科バイオメカニクス研究室, ²⁾ 日本大学理工学部機械工学科, ³⁾ 日本医科大学救急医学）: 医工連携による交通事故調査システムの立ち上げと将来展望. 日本外傷学会（第24回）, 2010. 5.
- 4) 朽方規喜, 益子邦洋, 松本 尚, 原 義明, 林田和之, 金丸勝弘, 齋藤伸行, 八木貴典, 飯田浩章, 横田裕行¹⁾（¹⁾ 日本医科大学救急医学教室）: 救急医療における PCPS の現状: 有効性と限界についての検討. 日本救急医学会総会・学術集会（第38回）, 2010. 10.
- 5) 益子邦洋: 自動車交通社会の新たな未来へ. 交通安全環境研究所フォーラム 2010, 2010. 11.
- 6) 益子邦洋: これからの事故分析と高齢者・歩行者対策のあり方. 自動車安全シンポジウム（第11回）, 2010. 12.
- 7) 松本 尚, 原 義明, 金丸勝弘, 林田和之, 八木貴典, 齋藤伸行, 鉄慎一郎, 飯田浩章, 上西蔵人, 増田幸子, 本村友一, 佐々木隆司, 瀬尾卓生, 梅香 満, 益子邦洋, その他1名: 病院前救急診療における救急救命士の役割を考える. 病院前救急診療研究会（第5回）, 2010. 12.

(8) セミナー:

- 1) 齋藤伸行: 出血性ショックを呈する外傷患者での PICCO による初期循環動態評価の意義. 日本救急医学会総会・学術集会（第38回）7th PICCO Club Meeting, 2010. 10.

(9) ワークショップ:

- 1) 原 義明, 上西蔵人, 松本 尚, 朽方規喜, 阪本雄一郎, 鉄慎一郎, 飯田浩章, 増田幸子, 横田裕行¹⁾, 川井 真¹⁾, 大泉 旭¹⁾, 益子邦洋（¹⁾ 日本医科大学救急医学）: 小児骨盤輪骨折の初期治療戦略. 日本外傷学会（第24回）,

2010. 5.

- 2) 嶺 貴彦¹⁾, 田島廣之¹⁾, 村田 智¹⁾, 中澤 賢¹⁾, 小野澤志郎¹⁾, 汲田伸一郎¹⁾, 大泉 旭²⁾, 横田裕行²⁾, 原義明, 松本 尚, 益子邦洋 (¹⁾ 日本医科大学放射線医学, ²⁾ 日本医科大学救急医学) : 骨盤骨折に対する蘇生手段としての TAE の有用性. 日本外傷学会 (第 24 回), 2010. 5.

(10) 一般講演 :

- 1) Kutsukata N, Mashiko K, Matsumoto H, Hara Y, Sakamoto Y, Yokota H¹⁾ (¹⁾ Emergency Medicine, Nippon Medical School) : 3 Cases of Subclavian Artery Injury Caused by Traffic Accidents. European Congress of Trauma & Emergency Surgery (11th) (Brussels /Belgium), 2010. 5.
- 2) Sakamoto Y, Mashiko K, Motomura Y, Nisgida Y¹⁾, Ishigaki T¹⁾, Fujiki N¹⁾, Yokota H¹⁾ (¹⁾ Emergency Medicine, Nippon Medical School) : Analysis of trauma data using an advanced statistical method (Bayesian network approach). European Congress of Trauma & Emergency Surgery (11th) (Brussels /Belgium), 2010. 5.
- 3) Sakamoto Y, Mashiko K, Matsumoto H, Hara Y, Kutsukata N, Yokota H¹⁾ (¹⁾ Emergency Medicine, Nippon Medical School) : Vital sign abnormalities as a part of the pre-hospital assessment of trauma patients. European Congress of Trauma & Emergency Surgery (11th) (Brussels /Belgium), 2010. 5.
- 4) Sakamoto Y : Trauma surgeon in action. Ajou International Trauma Conference (ソウル, 韓国), 2010. 5.
- 5) Kutsukata N, Mashiko K, Matsumoto H, Hara Y, Yokota H¹⁾, Ochi M²⁾ (¹⁾ Nippon Medical School Critical Care Medicine, Tokyo, Japan, ²⁾ Nippon Medical School Cardiovascular Surgery, Tokyo, Japan) : Current Surgical Strategy for Vascular Trauma : Emergency Treatment in Japan. Annual Meeting of the World Federation of Vascular Societies (WFVS) (4th) (Kyoto, Japan), 2010. 6.
- 6) Kutsukata N : Current surgical strategy for vascular trauma : from a japanese situation. Meeting of the German-Japanese Society for Vascular Surgery (6th) (Leipzig), 2010. 8.
- 7) Motomura T, Kutsukata N, Mashiko K, Yokota H¹⁾ (¹⁾ emergency and critical care medicine, nippon medical school) : Relationship between seat position in four-wheeled vehicle and external trauma injuries : Present situation of traffic accident research in Japan. The 2nd Eurasian Congress on Emergency Medicine (Antalya Turkey), 2010. 10.
- 8) Jonishi K, Mashiko K, Hara Y, Iida H, Seo T, Oizumi A¹⁾, Kawai M¹⁾, Yokota H¹⁾ (¹⁾ Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School) : Clinical outcomes of floating knee injuries. The Combined Conference of 16th Triennial Congress of Asia Pacific Orthopaedic Association and Annual Meeting of Taiwan Orthopaedic Association (Tipei, Tiwan), 2010. 11.
- 9) Saito N, Mashiko K, Matsumoto H : Can We Predict the Need for Massive Transfusion After Hemostatic Therapy in Trauma Patients with Hemorrhagic Shock?. Annual congress of Society of Critical Care Medicine (San Diego, California, USA), 2010. 12.
- 10) Saito N, Mashiko K, Matsumoto H : Cardiac Index Measured by the Transpulmonary Thermal Dilution Technique was Correlated with Death in Trauma Patients with Hemorrhagic Shock. Annual congress of Society of Critical Care Medicine (San Diego, California, USA), 2010. 12.
- 11) Saito N, Mashiko K, Matsumoto H, Hara Y, Yagi T : Can we predict massive transfusion after hemostatic therapy in trauma patients with hemorrhagic shock?. Critical Care Congress (san Diego, Callifornia, USA), 2011. 1.
- 12) Saito N, Mashiko K, Matsumoto H, Hara Y, Yagi T : Cardiac index measured by transpulmonary thermal dilution is correlated with death in trauma patients with hemorrhagic shock. Critical Care Congress (San Diego, Callifornia, USA), 2011. 1.

- 13) Saito N, Yagi T, Hara Y, Matsumoto H, Mashiko K : A simple predictive scoring system for ventilator-associated pneumonia in trauma patients. International Symposium on Intensive Care and Emergency Medicine (Brussels, Belgium), 2011. 3.
- 14) 朽方規喜, 益子邦洋, 松本 尚, 阪本雄一郎, 横田裕行¹⁾, 落 雅美²⁾ (¹⁾ 日本医科大学 救急医学, ²⁾ 日本医科大学 心臓血管外科) : 交通外傷による鈍的腹部大動脈損傷に対する治療の経験. 日本血管外科学会学術総会 (第 38 回), 2010. 5.
- 15) 飯田浩章, 原 義明, 上西蔵人, 増田幸子, 鉄慎一郎, 阪本雄一郎, 朽方規喜, 松本 尚, 益子邦洋, 大泉 旭¹⁾, 川井 真¹⁾, 横田裕行¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学救急医学) : 当センターにおける VAC 療法の治療経験. 日本外傷学会 (第 24 回), 2010. 5.
- 16) 鉄慎一郎, 阪本雄一郎, 朽方規喜, 原 義明, 松本 尚, 益子邦洋, 横田裕行¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学救急医学) : 救命救急センターにおける麻酔専門医の専属と外傷患者の転帰との関係について. 日本外傷学会 (第 24 回), 2010. 5.
- 17) 上西蔵人, 益子邦洋, 松本 尚, 原 義明, 朽方規喜, 阪本雄一郎, 飯田浩章, 大泉 旭¹⁾, 川井 真¹⁾, 横田裕行¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学救急医学) : 当救命救急センターにおける大腿骨骨幹部骨折の治療成績. 日本外傷学会 (第 24 回), 2010. 5.
- 18) 斎藤伸行 : 気になる感染症 : インフルエンザから院内感染症まで. 北総栄 ICC 勉強会, 2010. 5.
- 19) 本村友一, 阪本雄一郎, 朽方規喜, 益子邦洋, 横田裕行¹⁾, 富永 茂²⁾, 西本哲也³⁾ (¹⁾ 日本医科大学救急医学, ²⁾ 日本大学理工学部機械工学科, ³⁾ 日本大学工学部機械工学科バイオメカニクス研究室) : 軽微な車両損傷の交通外傷にて受傷した心損傷の 1 例 : 交通外傷傷病者と交通車両破損状況の研究. 日本交通科学協議会総会・学術講演会 (第 46 回), 2010. 6.
- 20) 梅香 満, 江頭隆一郎, 瀬尾卓生, 本村友一, 増田幸子, 上西蔵人, 飯田浩章, 鉄慎一郎, 八木貴典, 斎藤伸行, 金丸勝弘, 武井健吉, 阪本雄一郎, 朽方規喜, 原 義明, その他 3 名 : 緊急手術中に出血性ショックとの鑑別に苦慮したアナフィラキシーショックの 1 例. 千葉県救急医療研究会 (第 13 回), 2010. 7.
- 21) 嶺 貴彦¹⁾, 川俣博志²⁾, 岡田 進²⁾, 田島廣之¹⁾, 汲田伸一郎¹⁾, 金丸勝弘, 朽方規喜, 松本 尚, 益子邦洋 (¹⁾ 日本医科大学放射線医学, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院放射線科) : 外傷性大動脈損傷に対するステントグラフト治療経験. 千葉県救急医療研究会 (第 13 回), 2010. 7.
- 22) 斎藤伸行, 松本 尚, 益子邦洋, 日野光紀¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 院内感染対策委員会) : 救命救急センターにおける MASA アウトブレイクに対する疫学調査. MRSA フォーラム (第 1 回), 2010. 7.
- 23) 上西蔵人, 益子邦洋, 原 義明 : Floating knee の治療経験. 日本骨折治療学会 (第 36 回), 2010. 7.
- 24) 斎藤伸行, 八木貴典, 鉄慎一郎, 松本 尚, 益子邦洋, 日野光紀¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 院内感染対策委員会) : 救命救急センターにおける ABK 耐性 MRSA アウトブレイク. 日本集中治療学会関東甲信越地方会 (第 19 回), 2010. 8.
- 25) 平林篤志, 林田和之, 増田幸子, 八木貴典, 斎藤伸行, 金丸勝弘, 朽方規喜, 原 義明, 松本 尚, 益子邦洋 : 治療に難渋した肝損傷 (IIIa) 後の遅発性胆管狭窄の 1 例. 千葉県重症患者管理研究会 (第 24 回), 2010. 9.
- 26) 本村友一, 朽方規喜, 益子邦洋, 横田裕行¹⁾, 阪本雄一郎²⁾, 吉田 傑³⁾, 富永 茂⁴⁾, 西本哲也⁵⁾ (¹⁾ 日本医科大学救急医学, ²⁾ 佐賀大学医学部附属病院非常災害医療学, ³⁾ 株式会社本田技術研究所, ⁴⁾ 日本大学理工学部機械工学科, ⁵⁾ 日本大学工学部機械工学科バイオメカニクス研究室) : 事故車両データを活かした傷害リスク指標の作成 : 傷害リスク推定のための基礎研究 交通事故解析調査. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 38 回), 2010. 10.
- 27) 斎藤伸行, 金丸勝弘, 八木貴典, 鉄慎一郎, 飯田浩章, 増田幸子, 朽方規喜, 原 義明, 松本 尚, 益子邦洋, 横田裕行¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学救急医学教室) : 接続心拍出量計 (PiCCO) を用いた重症敗血症患者に対する ARDS 発症予防のための輸液管理プロトコル. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 38 回), 2010. 10.

- 28) 伊藤友弥¹⁾, 阪本雄一郎²⁾, 清水直樹³⁾, 六車 崇⁴⁾, 阪井裕一¹⁾, 益子邦洋¹⁾ (国立成育医療研究センター総合診療部救急診療科, ²⁾ 佐賀大学非常災害医療学, ³⁾ 東京都立小児総合医療センター救命救急・集中医療部, ⁴⁾ 国立成育医療研究センター手術・集中治療部): 日本外傷データバンク登録小児症例 転帰についての検討. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 38 回), 2010. 10.
- 29) 阪本雄一郎¹⁾, 宮崎裕介²⁾, 伊藤栄近¹⁾, 岩村高志¹⁾, 中島厚司¹⁾, 八幡真由子, 益子邦洋³⁾, 横田裕行¹⁾ (佐賀大学救命救急センター, ²⁾ 金沢大学工学部, ³⁾ 日本医科大学救急医学): 自動車運転手の交通事故症例における開腹手術症例の特徴とコンピュータシミュレーションによるシートベルト損傷危険因子の検討. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 38 回), 2010. 10.
- 30) 上西蔵人, 益子邦洋, 松本 尚, 原 義明, 朽方規喜, 飯田浩章, 瀬尾卓生, 小柳正雄¹⁾, 大泉 旭²⁾, 川井 真²⁾, 横田裕行²⁾ (日本医科大学多摩永山病院救命救急センター, ²⁾ 日本医科大学高度救命救急センター): 重症骨盤骨折の初期治療における pelvic packing の適応と限界. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 38 回), 2010. 10.
- 31) 朽方規喜, 益子邦洋, 本村友一, 横田裕行¹⁾, 落 雅美²⁾, 阪本雄一郎³⁾, 富永 茂⁴⁾, 西本哲也⁴⁾ (日本医科大学救急医学教室, ²⁾ 日本医科大学心臓血管外科, ³⁾ 佐賀大学医学部附属病院救命救急センター, ⁴⁾ 日本大学工学部機械工学科バイオメカニクス研究室): 鈍的損傷における損傷部位の形態評価ならびに交通事故例調査による外傷予防研究. 日本胸部外科学会定期学術集会 (第 63 回), 2010. 10.
- 32) 齋藤伸行: 救命救急センターにおける人工呼吸器関連肺炎の予防. 日本救急看護学会学術集会 (第 12 回), 2010. 10.
- 33) 上西蔵人, 益子邦洋, 原 義明, 大泉 旭¹⁾, 川井 真¹⁾, 横田裕行¹⁾ (日本医科大学高度救命救急センター): 小児大腿骨頸部骨折の治療経験. 日本小児整形外科学会学術集会 (第 21 回), 2010. 11.
- 34) 益子邦洋: 緊急輸血最前線ーコード・ブルーの世界ー. 関東甲信地区輸血検査研究会 (第 13 回), 2010. 11.
- 35) 林田和之, 松本 尚, 朽方規喜, 本村友一, 増田幸子, 江頭隆一郎, 益子邦洋: 当センターにおいて緊急手術を施した体幹部外傷症例の検討. Acute Care Surgery 研究会学術集会 (第 2 回), 2010. 11.
- 36) 増田幸子, 松本 尚, 原 義明, 朽方規喜, 林田和之, 金丸勝弘, 齋藤伸行, 八木貴典, 鉄慎一郎, 飯田浩章, 上西蔵人, 本村友一, 佐々木隆司, 瀬尾卓生, 益子邦洋, その他 3 名: ドクターヘリ出動時の初期輸液療法の検討. 日本航空医療学会総会 (第 17 回), 2010. 11.
- 37) 赤沼雅彦¹⁾, 浅野悦洋¹⁾, 村越秀光¹⁾, 松本 尚, 益子邦洋 (日本医科大学 成田国際空港クリニック): 成田国際空港クリニック救急症例検討ードクターヘリ搬送例分析ー. 日本航空医療学会総会 (第 17 回), 2010. 11.
- 38) 村越秀光¹⁾, 浅野悦洋¹⁾, 赤沼雅彦¹⁾, 松本 尚, 益子邦洋 (日本医科大学 成田国際空港クリニック): 空港クリニック放射線科の救急患者対応. 日本航空医療学会総会 (第 17 回), 2010. 11.
- 39) 浅野悦洋¹⁾, 村越秀光¹⁾, 赤沼雅彦¹⁾, 松本 尚, 益子邦洋 (日本医科大学 成田国際空港クリニック): 成田国際空港クリニックの救急医療. 日本航空医療学会総会 (第 17 回), 2010. 11.
- 40) 阪本雄一郎¹⁾, 朽方規喜¹⁾, 伊藤栄近¹⁾, 岩村高志¹⁾, 中島厚士¹⁾, 八幡真由子¹⁾, 宮庄 拓²⁾, 小幡 徹³⁾, 益子邦洋, 横田裕行⁴⁾ (佐賀大学医学部救急医学講座, ²⁾ 酪農学園大学獣医学部, ³⁾ 微生物化学研究会 微生物化学研究センター, ⁴⁾ 日本医科大学救急医学): Multiplex suspension array system による多種サイトカイン値からみた敗血症症例における PMMA-CHDF の効果に関する検討. エンドトキシン血症救命治療研究会, 2011. 1.
- 41) 齋藤伸行, 増田幸子, 上西蔵人, 飯田浩章, 佐々木隆司, 林田和之, 八木貴典, 金丸勝弘, 原 義明, 松本 尚, 益子邦洋: 敗血症ショックの病期に関する研究: warm shock と cold shock では予後が違うのか?. 千葉集中治療研究会 (第 25 回), 2011. 1.
- 42) 本村友一, 益子邦洋, 横田裕行¹⁾, 朽方規喜²⁾, 阪本雄一郎²⁾ (日本医科大学救急医学, ²⁾ 佐賀大学医学部付

- 属病院救命救急センター)：四輪車交通事故における乗車位置と外傷傷害の関係. 日本救急医学会関東地方会(第61回), 2011. 2.
- 43) 齋藤伸行, 増田幸子, 八木貴典, 鉄慎一郎, 原 義明, 松本 尚, 益子邦洋：出血性ショックを呈する外傷患者のICU入室後の大量輸血の予測に関する研究. 日本集中治療医学会学術集会(第38回), 2011. 2.
- 44) 齋藤伸行, 八木貴典, 梅香 満, 増田幸子, 鉄慎一郎, 金丸勝弘, 原 義明, 松本 尚, 益子邦洋, 横田裕行¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学救急医学講座)：外傷患者における人工呼吸器関連肺炎発症予測スコア. 日本集中治療医学会学術集会(第38回), 2011. 2.
- 45) 田岡隆成¹⁾, 齋藤伸行, 林田和之, 金丸勝弘, 佐々木隆司, 増田幸子, 八木貴典, 原 義明, 松本 尚, 益子邦洋 (¹⁾ 日本医科大学付属病院)：意識障害が遷延した低血糖脳症の2例. 日本救急医学会関東地方会(第61回), 2011. 2.
- 46) 上西蔵人, 益子邦洋, 松本 尚, 原 義明, 飯田浩章, 大泉 旭¹⁾, 川井 真¹⁾, 横田裕行¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学高度救命救急センター)：下肢長管骨骨折に対する創外固定から髄内釘固定へのconversionについての検討. 日本救急医学会関東地方会(第61回), 2011. 2.
- 47) 平林篤志, 飯田浩章, 上西蔵人, 瀬尾卓生, 金丸勝弘, 原 義明, 松本 尚, 益子邦洋：出血性ショックを伴った右会陰・大腿部デグロビング損傷に対して持続陰圧療法が著効した1例. 日本救急医学会関東地方会(第61回), 2011. 2.
- 48) 竹林三喜子, 齋藤伸行, 増田幸子, 林田和之, 瀬尾卓生, 本村友一, 上西蔵人, 飯田浩章, 鉄慎一郎, 八木貴典, 佐々木隆司, 金丸勝弘, 原 義明, 松本 尚, 益子邦洋：外傷後に発症した若年者の無症候性肺血栓塞栓症の1例. 日本救急医学会関東地方会(第61回), 2011. 2.
- 49) 瀬尾卓生, 金丸勝弘, 平林篤志, 本村友一, 増田幸子, 上西蔵人, 飯田浩章, 鉄慎一郎, 八木貴典, 齋藤伸行, 佐々木隆司, 林田和之, 原 義明, 松本 尚, 益子邦洋：2歳児のmamシ咬傷に対する治療経験. 日本救急医学会関東地方会(第61回), 2011. 2.
- 50) 加納誠士, 齋藤伸行, 原 義明, 林田和之, 平林篤志, 瀬尾卓生, 本村友一, 増田幸子, 上西蔵人, 飯田浩章, 鉄慎一郎, 佐々木隆司, 金丸勝弘, 松本 尚, 益子邦洋：メタンフェタミンによるbody packer syndromeの1例. 日本救急医学会関東地方会(第61回), 2011. 2.
- 51) 金丸勝弘, 川野通孝²⁾, 松本 尚, 益子邦洋, 真鍋 溥¹⁾ (¹⁾ 三郡医師会航空機対策協議会, ²⁾ 栄町消防本部栄町消防署)：新トリアージタグの有用性. 日本救急医学会関東地方会(第61回)(東京), 2011. 2.
- 52) 飯田浩章：治療に難渋した多発骨折にデグロビング損傷を合併した2例. 救急整形外傷シンポジウム(第17回), 2011. 3.
- 53) 梅香 満, 八木貴典, 平林篤志, 瀬尾卓生, 増田幸子, 本村友一, 上西蔵人, 飯田浩章, 鉄慎一郎, 齋藤伸行, 金丸勝弘, 林田和之, 原 義明, 松本 尚, 益子邦洋, その他1名：夕食後窒息し, 心停止に至った若年男性の1例. 第10回東葛地区救急カンファレンス, 2011. 3.
- 54) 齋藤伸行：セロトニン症候群：総論救命救急センターでの経験. 首都圏ECTネットワーク研究会(第5回), 2011. 3.
- (11) ビデオシンポジウム：
- 1) 朽方規喜, 益子邦洋, 松本 尚, 原 義明, 阪本雄一郎, 落 雅美¹⁾, 横田裕行²⁾, Robert K³⁾, Frolian L³⁾ (¹⁾ 日本医科大学 心臓血管外科, ²⁾ 日本医科大学 救急医学, ³⁾ Klinikum Esslingen)：血行再建手技の基本と外傷外科領域での応用. 日本外科系連合学会学術集会(第35回), 2010. 6.

19. 形成外科学講座

[付属病院形成外科・美容外科]

研究概要

本年度は6月から水野博司准教授が順天堂大学医学部の主任教授として異動したが、10月から本学の客員教授として大学院生、留学生の研究指導を引き続きお願いしている。また高見佳宏准教授の培養皮膚、人工皮膚の研究や、小川令准教授の力学的刺激を用いた骨・軟骨組織工学、癬痕の分子学的研究が成果をあげている。癬痕の基礎研究・臨床研究では、International Scar Meeting in Tokyo 2010を開催し、当科の業績は世界のケロイド・癬痕研究の中心となりつつある。本年度の教室の研究概要は以下の通りである。

1. 組織工学、再生医学は、培養皮膚や人工皮膚、無細胞組織の作成、幹細胞を用いた骨・軟骨再生、成長因子などにつき引き続き有意の成果を出している。
2. 癬痕の物理学的・分子生物学的解析を第二生化学教室と進めている。
3. 細胞の力学的解析を、米国のハーバード大学、スタンフォード大学と共同研究している。
4. ケロイドの物理・生理学的解析を行っている。
5. MDCTを用いた生体の血管解析とくに穿通枝の解析を、米国ミシガン大学と共同で進めている。
6. 有限要素法を用いた局所皮弁などの解析を引き続き行っている。
7. 生体異物の診断と分析については世界をリードしている。

研究業績

論文

[追加分]

追加分原著：

- 1) Akaishi S, Ogawa R, Hyakusoku H : Visual and pathologic analyses of keloid growth patterns. *Ann Plast Surg* 2010 ; 64 (1) : 80-82.
- 2) Murakami M, Oki K, Hyakusoku H, Ogawa R : The effect of W-plasty on cheek rotation flap. *Eplasty* 2010 ; 10 (e8).
- 3) Ogawa R : The Most Current Algorithms for Treatment and Prevention of Hypertrophic Scars and Keloids. *Plast Reconstr Surg* 2010 ; 125 (2) : 557-568.
- 4) Mizuno H, Hyakusoku H : Fat Grafting to the Breast and Adipose-Derived Stem Cells : Recent Scientific Consensus and Controversy. *Aesthet Surg J* 2010 ; 30 (3) : 387-389.
- 5) Ono S, Hyakusoku H : Complications after self-injection of hyaluronic acid phosphatidylcholine for aesthetic purposes. *Aesthetic Surg J* 2010 ; 30 (3) : 442-445.

追加分症例報告：

- 1) Ono S, Ogawa R, Hyakusoku H : Re : Use of Aquamid as a filler for facial rejuvenation in orientals. *J Plast Reconstr Aesthet Surg* 2010 ; 63 (7) : 1227-1228.
- 2) Murakami M, Akira S, Tsuboi N, Matsuzawa I, Ohki Y, Koike S, Takashita T, Hyakusoku H : Microscope-assisted reduction clitoroplasty used to treat two patients with clitoromegaly. *J Nippon Med Sch* 2010 ; 77 (1) : 35 -39.
- 3) 小野真平, 小川 令, 藤村樹里, 宮本 暖, 百束比古 : 羊膜破裂シークエンスに伴う絞扼輪に対して” small-wave incision” が有用であった1例. *形成外科* 2010 ; 53 (1) : 85-91.

(1) 原著 :

- 1) Mateev-A M, Trunov L, Hyakusoku H, Ogawa R : Analysis of 22 posterior ulnar recurrent artery perforator flaps : a type of proximal ulnar perforator flap. *Eplasty* 2009 ; 10 (e2).
- 2) 土肥輝之, 赤石論史, 大森康高, 小川 令, 百東比古 : 耳介ケロイドに対するくり抜き法の実際. *癬痕・ケロイド治療ジャーナル* 2010 ; 4 : 75-78.
- 3) Ogawa R : Adipose-Derived Stem Cells. *Curr Stem Cell Res Ther* 2010 ; 5 (2) : 94-94.
- 4) Ogawa R, Mizuno S : Cartilage Regeneration Using Adipose-Derived Stem Cells. *Curr Stem Cell Res Ther* 2010 ; 5 (2) : 129-132.
- 5) Younan G, Ogawa R, Ramirez M, Helm D, Dastouri P, Orgill-P D : Analysis of nerve and neuropeptide patterns in vacuum-assisted closure-treated diabetic murine wounds. *Plast Reconstr Surg* 2010 ; 126 (1) : 87-96.
- 6) Fujita A, Migita M, Ueda T, Ogawa R, Fukunaga Y, Shimada T : Hematopoiesis in regenerated bone marrow within hydroxyapatite scaffold. *Pediatr Res* 2010 ; 68 (1) : 35-40.
- 7) Song G, Nguyen-T D, Pietramaggiore G, Scherer S, Chen B, Zhan Q, Ogawa R, Yannas-V I, Wagers-J A, Orgill-P D, Murphy-F G : Use of the parabiotic model in studies of cutaneous wound healing to define the participation of circulating cells. *Wound Repair Regen* 2010 ; 18 (4) : 426-432.
- 8) Kitta E¹⁾, Murakami M¹⁾, Miyazato H²⁾, Akimoto M³⁾, Hyakusoku H (¹⁾ Musashi Kosugi Hospital, ²⁾ Hunabori Eye Clinic, ³⁾ Chiba Hokuso Hospital) : Merkel Cell Carcinoma on the Upper Lip of a 100-year-old Woman. *J Nippon Med Sch* 2010 ; 77 (4) : 214-217.
- 9) Ono S^{1, 2)}, Clapham-J P²⁾, Chung-C K²⁾ (¹⁾ Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, ²⁾ University of Michigan Health System) : Optimal management of carpal tunnel syndrome : the most current treatment options and trends. *Int J Gen Med* 2010 ; 30 (3) : 255-261.
- 10) Akaishi S, Akimoto M, Hyakusoku H, Ogawa R : The Tensile reduction effects of silicone gel sheeting. *Plast Reconstr Surg* 2010 ; 126 (2) : 109e-111e.
- 11) Erba P, Ogawa R, Vyas R, Orgill-D P : The reconstructive matrix : a new paradigm in reconstructive plastic surgery. *Plast Reconstr Surg* 2010 ; 126 (2) : 492-498.
- 12) Uysal-A C, Ogawa R, Lu F, Hyakusoku H, Mizuno H : Effect of mesenchymal stem cells on skin graft to flap prefabrication : an experimental study. *Ann Plast Surg* 2010 ; 65 (2) : 237-244.
- 13) Yagmur C, Akaishi S, Ogawa R, Guneren E : Mechanical receptor-related mechanisms in scar management : a review and hypothesis. *Plast Reconstr Surg* 2010 ; 126 (2) : 426-434.
- 14) Murakami M, Hyakusoku H, Ogawa R : The use of Japanese "kenzan" flower holders to create scar-less drainage holes in skin grafts. *Burns* 2010 ; 36 (5) : 732-733.
- 15) Ogawa R : Fat Grafting for The Treatment of Keloids and Hypertrophic Scars : Author Reply. *Plast Reconstr Surg* 2010 ; 126 (3) : 1113-1132.
- 16) Ono S^{1, 2)}, Ogawa R¹⁾, Hayashi H³⁾, Takami Y¹⁾, Kumita S³⁾, Hyakusoku H¹⁾ (¹⁾ Plastic, Reconstructive Surgery, ²⁾ University of Michigan Health System, ³⁾ Radiology) : Multidetector-row computed tomography (MDCT) analysis of the supra-fascial perforator directionality (SPD) of the occipital artery perforator (OAP). *J Plast Reconstr Aesthet Surg* 2010 ; 63 (10) : 1602-1607.
- 17) Ono S, Ogawa R, Hyakusoku H : Complications after polyacrylamide hydrogel injection for soft-tissue augmentation. *Plast Reconstr Surg* 2010 ; 126 (4) : 1349-1357.
- 18) Huang C, Ogawa R : Mechanotransduction in bone repair and regeneration. *FASEB J* 2010 ; 24 (10) : 3625-3632.

- 19) Mizuno H, Miyamoto M, Shimamoto M, Koike S, Hyakusoku H, Kuroyanagi Y : Therapeutic angiogenesis by autologous bone marrow cell implantation together with allogeneic cultured dermal substitute for intractable ulcers in critical limb ischaemia. *J. Plast Reconstr. Aesthet Surg* 2010 ; 63 (11) : 1875-1882.
 - 20) Ogawa R : Indications of Cryosurgery for Keloids and Hypertrophic Scars : Author Reply. *Plast Reconstr Surg* 2010 ; 126 (5) : 1800-1800.
 - 21) Ono S, Chung-C K, Hayashi H, Ogawa R, Takami Y, Hyakusoku H : Application of Multidetector-row Computed Tomography in Propeller Flap Planning. *Plast Reconstr Surg* 2011 ; 127 (2) : 703-711.
 - 22) Pignatti M, Ogawa R, Hallock-G G, Mateev M, Georgescu-V A, Balakrishnan G, Ono S, Cubison-C T, D'arpa S, Koshima I, Hyakusoku H : The "Tokyo" Consensus on Propeller Flaps. *Plast Reconstr Surg* 2011 ; 127 (2) : 716-722.
 - 23) 百束比古, 水野博司, 汲田伸一郎¹⁾ (1) 放射線科) : 乳房増大術後後遺症 シリコンと炭化水素系物質の重複注入例の画像診断. *日医大医学会誌* 2010 ; 6 (2) : 56-57.
 - 24) 赤石論史, 小川 令, 大森康高, 百束比古 : 新しい皮膚切開線の提唱 : ケロイド伸展ベクトルの分析. *瘢痕・ケロイド治療ジャーナル* 2010 ; 4 (1) : 70-74.
 - 25) 桑原大彰¹⁾, 土佐眞美子¹⁾, 岩切 致¹⁾, 奈良慎平¹⁾, 村上正洋¹⁾, 百束比古 (1) 武蔵小杉病院形成外科) : 両側耳垂ピアス後に発症した片側耳垂ピアスケロイドの検討 : 患側と健側の比較検討. *瘢痕・ケロイド治療ジャーナル* 2010 ; 4 (1) : 79-82.
 - 26) 赤石論史, 大森康高, 小川 令, 百束比古 : ケロイド切除後の新しい縫合法 : Fascial suture technique. *瘢痕・ケロイド治療ジャーナル* 2010 ; 4 (1) : 95-99.
 - 27) 高見佳宏¹⁾, 小野真平¹⁾, 橋本 聡^{1,2)}, 香西達一¹⁾, 奥田貴久¹⁾, 河邊京子¹⁾, 陳 貴史¹⁾, 赤石論史¹⁾, 小川 令¹⁾, 百束比古 (1) 形成外科, 2) 西部総合病院形成外科) : 顔面熱傷後の鼻翼部瘢痕拘縮に対する自家真皮移植と二期的全層植皮による治療経験. *瘢痕・ケロイド治療ジャーナル* 2010 ; 4 (1) : 104-107.
 - 28) 青木雅代, 赤石論史, 小野真平, 岩切 致, 水野博司, 小川 令, 百束比古 : ケロイドに対する皮弁術の有用性と問題点. *瘢痕・ケロイド治療ジャーナル* 2010 ; 4 (1) : 108-111.
 - 29) 大森康高, 赤石論史, 小川 令, 百束比古 : ケロイドが発生しやすい部位の検討. *瘢痕・ケロイド治療ジャーナル* 2010 ; 4 (1) : 112-115.
 - 30) 土佐眞美子¹⁾, 村上正洋¹⁾, 百束比古 (1) 武蔵小杉病院形成外科) : 産婦人科手術後1ヶ月目の瘢痕評価・分類の試みとそれに基づく肥厚性瘢痕およびケロイド発生率の検討. *瘢痕・ケロイド治療ジャーナル* 2010 ; 4 (1) : 116-117.
 - 31) 小野真平, 林 宏光¹⁾, 小川 令, 百束比古 (1) 放射線科) : "プロペラ皮弁法" の術前穿通枝評価における Multidetector-row CT (MDCT) の有用性. *創傷* 2010 ; 1 (3) : 125-132.
 - 32) 小野真平, 小川 令, 百束比古 : 3次元ワイヤーフレーム外固定法による手指植皮術の経験. *創傷* 2011 ; 2 (1) : 43-47.
- (2) 総説 :
- 1) 百束比古 : 熱傷後瘢痕拘縮の予防と治療. *救急医学* 2010 ; 34 (4) : 472-474.
 - 2) 百束比古 : フィラー, 金, ヒアルロン酸によるトラブル. *臨床皮膚科増刊号* 2010 ; 64 (5) : 165-167.
 - 3) 百束比古, 小川 令, 梅澤裕己, 大木更一郎 : 瘢痕・瘢痕拘縮と皮膚潰瘍 (金属プレートの露出など). *オルソタイムス* 2010 ; 4 (2) : 5-5.
 - 4) 小川 令, 赤石論史, 百束比古 : エビデンスに基づいたケロイド・肥厚性瘢痕における治療指針. *創傷* 2010 ; 1 (1) : 20-27.
 - 5) 青木 律^{1,2)}, 赤石論史²⁾, 小川 令²⁾, 百束比古²⁾ (1) グリーンウッドスキンクリニック立川, 2) 形成外科) : ヒアルロン酸による瘢痕治療. *瘢痕・ケロイド治療ジャーナル* 2010 ; 4 (1) : 2-6.

- 6) 小川 令：ケロイド・肥厚性瘢痕の特徴と問題点. 瘢痕・ケロイド治療ジャーナル 2010；4（1）：26-28.
- 7) 佐藤和夫, 百束比古：注入治療における合併症とその対策. Monthly Book Derma 2010；（168）：60-67.
- 8) 村上正洋¹⁾, 百束比古（¹ 武蔵小杉病院形成外科）：熱傷眼瞼の再建. PEPARS 2010；（43）：24-29.
- 9) 小川 令, 百束比古：頸部瘢痕拘縮再建の課題と治療指針. 創傷 2010；1（2）：51-58.
- 10) 水野博司¹⁾, 林 礼人¹⁾, 宮本英子¹⁾, 古元将和¹⁾, 宮本正章²⁾, 百束比古（¹ 順天堂大学形成外科, ² 器官機能病態内科学）：難治性潰瘍治療に対する形成外科の果たす役割：細胞, 増殖因子による非手術的治療の現状と展開. 創傷 2010；1（3）：107-111.
- 11) 赤石論史, 小川 令, 百束比古：瘢痕治療におけるシリコンジェルシートの適応と作用機序. 創傷 2010；1（3）：112-118.
- 12) 百束比古：11. 乳房異物, IV. 体幹の疾患. 形成外科増刊 形成外科の治療指針 Update 2010 2010；53（増刊）：S142-143.
- 13) 小川 令, 百束比古：顔面同種移植の現状と可能性. 日形会誌 2010；30（10）：521-524.
- 14) 百束比古：指標事例5「腓骨切除と歩行困難は無関係と思われるが, 障害が生じる可能性は説明しておいた方が良いと思われる」. 医療判例解説 2010；-（28）：100-102.
- 15) 村上正洋¹⁾, 岩切 致¹⁾, 百束比古（¹ 武蔵小杉病院形成外科）：頭部の体表悪性腫瘍における治療戦略. PEPARS 2010；-（46）：1-12.
- 16) 小川 令, 百束比古：下肢の体表悪性腫瘍における治療戦略. PEPARS 2010；-（46）：81-86.
- 17) 小野真平, 小川 令, 百束比古：シリコンバッグプロステーシスと未分化大細胞型リンパ腫（ALCL）の関連性における文献的考察：第1報. 日美外報 2011；33（1）：36-41.

(3) 症例報告：

- 1) Nara S, Murakami M, Oki K, Kaseki H, Matsushima T, Hyakusoku H：Preoperative Administration of Planover in Two Cases of Abdominal Wall Endometriosis after Cesarean Section. J Nippon Med Sch 2010；77（5）：260-264.
- 2) Murakami M, Fukuya S, Furuya M, Hyakusoku H：A case of von Willebrand disease discovered during treatment of a sacral pressure ulcer. J Nippon Med Sch 2010；77（6）：325-327.

著 書

- 1) Ogawa R, Orgill-P D：〔分担〕Mechanobiology of Cutaneous Wound Healing and Scarring. Bioengineering Research of Chronic Wounds (edited by Amit G), 2009；pp31-42, Springer.
- 2) Hyakusoku H, Orgill-P D¹⁾, Teot L²⁾, Pribaz-J J¹⁾, Ogawa R（¹ Brigham Women's Hospital, Harvard Medical School, ² Montpellier University）：〔分担編集〕- Color Atlas of Burn Reconstructive Surgery (Hyakusoku H, Orgill D.P, Teot L, Pribaz J J, Ogawa R), 2010；Springer.
- 3) Ogawa R, Pribaz-J J¹⁾（¹ Brigham Women's Hospital, Harvard Medical School）：〔分担〕Diagnosis, Assessment, and Classification of Scar Contractures. Chapter8. Color Atlas of Burn Reconstructive Surgery (Hyakusoku H, Orgill D.P, Teot L, Pribaz J J, Ogawa R), 2010；pp44-60, Springer.
- 4) Ogawa R, Akaishi S, Kinoshita K¹⁾（¹ Fukuoka University）：〔分担〕Treatments for Post-Burn Hypertrophic Scars. Chapter 11. Color Atlas of Burn Reconstructive Surgery (Hyakusoku H, Orgill D.P, Teot L, Pribaz J J, Ogawa R), 2010；pp76-81, Springer.
- 5) Aoki R^{1, 2)}, Kazuki R²⁾（¹ Greenwood Skin Clinic Tachikawa, ² Dept of Plast, Reconstr and Aest Surg）：〔分担〕Make-Up Therapy for Burn Scar Patients. Chapter12. Color Atlas of Burn Reconstructive Surgery (Hyakusoku H, Orgill D.P, Teot L, Pribaz J J, Ogawa R), 2010；pp82-88, Springer.
- 6) Takami Y, Ono S, Ogawa R：〔分担〕Acellular Allogeneic Dermal Matrix. Chapter14. Color Atlas of Burn

- Reconstructive Surgery (Hyakusoku H, Orgill D.P, Teot L, Pribaz J J, Ogawa R), 2010 ; pp100-107, Springer.
- 7) Murakami M¹⁾, Ogawa R, Hyakusoku H (¹⁾ Musashikosugi Hospital) : [分担] Tip for Skin Grafting. Chapter19. Color Atlas of Burn Reconstructive Surgery (Hyakusoku H, Orgill D.P, Teot L, Pribaz J J, Ogawa R), 2010 ; pp146-158, Springer.
 - 8) Hyakusoku H, Akimoto M¹⁾ (¹⁾ Chiba-Hokuso Hospital) : [分担] The Square Flap Method. Chapter23. Color Atlas of Burn Reconstructive Surgery (Hyakusoku H, Orgill D.P, Teot L, Pribaz J J, Ogawa R), 2010 ; pp186-197, Springer.
 - 9) Hyakusoku H, Murakami M¹⁾ (¹⁾ Musashi Kosugi Hospital) : [分担] Propeller Flap and Central Axis Flap Methods. Chapter24. Color Atlas of Burn Reconstructive Surgery (Hyakusoku H, Orgill D.P, Teot L, Pribaz J J, Ogawa R), 2010 ; pp198-207, Springer.
 - 10) Hyakusoku H, Mizuno H¹⁾ (¹⁾ Juntendo University) : [分担] Secondary Vascularized Flap. Chapter 33. Color Atlas of Burn Reconstructive Surgery (Hyakusoku H, Orgill D.P, Teot L, Pribaz J J, Ogawa R), 2010 ; pp288-299, Springer.
 - 11) Hyakusoku H : [分担] Scarred Flap. Chapter36. Color Atlas of Burn Reconstructive Surgery (Hyakusoku H, Orgill D.P, Teot L, Pribaz J J, Ogawa R), 2010 ; pp320-329, Springer.
 - 12) Ogawa R, Ono S, Hyakusoku H : [分担] Superficial Cervical Artery Perforator (SCAP) Flap. Chapter39. Color Atlas of Burn Reconstructive Surgery (Hyakusoku H, Orgill D.P, Teot L, Pribaz J J, Ogawa R), 2010 ; pp344-355, Springer.
 - 13) Hyakusoku H, Ogawa R, Mizuno H¹⁾ (¹⁾ Juntendo University) : [分担] Super-Thin Flap. Chapter40. Color Atlas of Burn Reconstructive Surgery (Hyakusoku H, Orgill D.P, Teot L, Pribaz J J, Ogawa R), 2010 ; pp356-367, Springer.
 - 14) Borman H¹⁾, Uysal-C A (¹⁾ Baskent University Faculty of Medicine) : [分担] Free Muscle Flaps for Lower Extremity Burn Reconstruction. Chapter43. Color Atlas of Burn Reconstructive Surgery (Hyakusoku H, Orgill D.P, Teot L, Pribaz J J, Ogawa R), 2010 ; pp388-397, Springer.
 - 15) Mateev-A M¹⁾, Ogawa R (¹⁾ National Hospital of Kyrgyzstan) : [分担] Shape-Modified Tadiial Artery Perforator (SM-RAP) Flap for Burned Hand Reconstruction. Chapter46. Color Atlas of Burn Reconstructive Surgery (Hyakusoku H, Orgill D.P, Teot L, Pribaz J J, Ogawa R), 2010 ; pp416-427, Springer.
 - 16) Hyakusoku H, Mateev-A M¹⁾, Teo-C T²⁾ (¹⁾ National Hospital of Kyrgyzstan, ²⁾ Queen Victoria Hospital) : [分担] Perforator Pedicled Propeller Flaps. Chapter49. Color Atlas of Burn Reconstructive Surgery (Hyakusoku H, Orgill D.P, Teot L, Pribaz J J, Ogawa R), 2010 ; pp442-451, Springer.
 - 17) Hyakusoku H, Ogawa R : [分担] Perforator Superchaged Super-Thin Flap. Chapter50. Color Atlas of Burn Reconstructive Surgery (Hyakusoku H, Orgill D.P, Teot L, Pribaz J J, Ogawa R), 2010 ; pp452-461, Springer.
 - 18) Ogawa R : [分担] Keloids. Decision Making in Plastic Surgery (edited by Marsh JL and Perlyn C), 2010 ; pp24-25, Quality Medical Publishing, Inc. St Loui.
 - 19) 中島龍夫¹⁾, 百束比古 (¹⁾ 慶應義塾大学形成外科) : [編集] 使える皮弁術：適応から挙上法まで：上巻 (中島龍夫, 百束比古), 2010 ; 全日本病院出版会.
 - 20) 百束比古 : [分担] 正方皮弁法と square flap principle, I. 局所皮弁法および小皮弁法. 使える皮弁術：適応から挙上法まで：上巻 (中島龍夫, 百束比古), 2010 ; pp14-19, 全日本病院出版会.
 - 21) 村上正洋¹⁾, 百束比古 (¹⁾ 武蔵小杉病院形成外科) : [分担] Central axis flap method : multilobed propeller flap, scar band rotation flap, pin-wheel flap : I. 局所皮弁法および小皮弁法. 使える皮弁術：適応から挙上法まで :

- 上巻 (中島龍夫, 百東比古), 2010; pp74-81, 全日本病院出版会.
- 22) 小野真平, 小川 令, 百東比古: [分担] 後頭頸部皮弁 Occipito-Cervico (OC) flap, II. 有茎皮弁術. 使える皮弁術: 適応から挙上法まで: 上巻 (中島龍夫, 百東比古), 2010; pp95-100, 全日本病院出版会.
 - 23) 大木更一郎, 百東比古: [分担] SCAP (superficial cervical artery perforator) 皮弁: 頭頸部再建 遊離皮弁の可能性も含めて, II. 有茎皮弁術. 使える皮弁術: 適応から挙上法まで: 上巻 (中島龍夫, 百東比古), 2010; pp101-106, 全日本病院出版会.
 - 24) 小川 令, Vinh-Quang V¹⁾ (1) ベトナム国立熱傷センター): [分担] 鎖骨上皮弁: 頸部再建, II. 有茎皮弁術. 使える皮弁術: 適応から挙上法まで: 上巻 (中島龍夫, 百東比古), 2010; pp107-110, 全日本病院出版会.
 - 25) 江浦重義, 青木 律¹⁾, 百東比古 (1) グリーンウッドスキンクリニック立川): [分担] SEPA 皮弁: 男性外陰部再建など, II. 有茎皮弁術. 使える皮弁術: 適応から挙上法まで: 上巻 (中島龍夫, 百東比古), 2010; pp134-139, 全日本病院出版会.
 - 26) 大木更一郎, 百東比古: [分担] 大殿筋穿通枝皮弁: 仙骨部再建, II. 有茎皮弁術. 使える皮弁術: 適応から挙上法まで: 上巻 (中島龍夫, 百東比古), 2010; pp147-151, 全日本病院出版会.
 - 27) 石井暢明, 大木更一郎, 百東比古: [分担] 大腿二頭筋皮弁: 坐骨部褥瘡再建, II. 有茎皮弁術. 使える皮弁術: 適応から挙上法まで: 上巻 (中島龍夫, 百東比古), 2010; pp160-164, 全日本病院出版会.
 - 28) 百東比古: [分担] 遠位茎腓腹皮弁による下腿・足再建, II. 有茎皮弁術. 使える皮弁術: 適応から挙上法まで: 上巻 (中島龍夫, 百東比古), 2010; pp165-169, 全日本病院出版会.
 - 29) 百東比古, 岩切 致¹⁾, 野本俊一 (1) 武蔵小杉病院形成外科): [分担] 遠位茎腓腹皮弁 (distally cased sural flap). エキスパート形成再建外科手術 ひと目でわかる術式選択とテクニック, 2010; pp326-335, 中山書店.
 - 30) 百東比古, 水野博司: [分担] 下肢のプロペラ皮弁法 (propeller flap method) による欠損の被覆. エキスパート形成再建外科手術 ひと目でわかる術式選択とテクニック, 2010; pp336-343, 中山書店.
 - 31) 百東比古: [分担] 乳房埋入異物の診断と治療, II. 乳房の美容外科. 形成外科 ADVANCE シリーズ II-5 乳房・乳頭の再建と整容 最近の進歩 第2版 (監修・波利井清紀, 編著・矢野健二), 2010; pp234-243, 克誠堂出版.
 - 32) 百東比古, 中島龍夫¹⁾ (1) 慶應義塾大学形成外科): [編集] 使える皮弁術: 適応から挙上法まで: 下巻 (編集・百東比古, 中島龍夫), 2010; 全日本病院出版会.
 - 33) 百東比古: [分担] 瘢痕皮弁 Scar (red) flap, IV. 特殊な概念の皮弁術・新しい方法. 使える皮弁術: 適応から挙上法まで: 下巻 (編集・百東比古, 中島龍夫), 2010; pp95-98, 全日本病院出版会.
 - 34) 小川 令, 小野真平, 百東比古: [分担] 穿通枝スーパーチャージング超薄皮弁, IV. 特殊な概念の皮弁術・新しい方法. 使える皮弁術: 適応から挙上法まで: 下巻 (編集・百東比古, 中島龍夫), 2010; pp106-110, 全日本病院出版会.
 - 35) 小野真平, 百東比古: [分担] 穿通枝茎プロペラ皮弁法: The Perforator Pedicled Propeller (PPP) Flap Method, IV. 特殊な概念の皮弁術・新しい方法. 使える皮弁術: 適応から挙上法まで: 下巻 (編集・百東比古, 中島龍夫), 2010; pp111-117, 全日本病院出版会.
 - 36) 百東比古, 水野博司: [分担] プレファブ皮弁: 血管束移植皮弁と組織移植皮弁, IV. 特殊な概念の皮弁術・新しい方法. 使える皮弁術: 適応から挙上法まで: 下巻 (編集・百東比古, 中島龍夫), 2010; pp127-132, 全日本病院出版会.
 - 37) 百東比古, かづきれいこ¹⁾ (1) REIKO KAZKI): [分担] 第2章 医学界からの提言「自分を取り戻す街」. 長生きできる街づくり 若者や子供たち, 未来世代に贈る TOP 構想 (千葉大学 予防医学センター編), 2010; pp45-55, PHP 出版.
 - 38) 百東比古: [分担] 174. 顔面外傷. 総合診療マニュアル (編集・上原誉志夫, 大林完二, 隅谷護人, 益子邦洋, 松岡博昭), 2010; pp330-333, 金芳堂.
 - 39) かづきれいこ^{1, 2)}, 百東比古¹⁾ (1) 形成外科, ²⁾ REIKO KAZKI): [分担] 特殊メイク法: リハビリメイク®の

応用, IV 技術的側面. NeurosurgeryNOW13号 整容脳神経外科 Update きれいなキズアトを目指して (担当編集: 寺本明), 2011; pp161-166, メジカルビュー社.

学会発表

[追加分]

追加分招待講演:

- 1) Ogawa R: Application of Adipose Stem Cells for Plastic Surgery: In Particular about Cartilage Regeneration. Keystone Symposia 2010 (Colorado), 2010. 1.
- 2) Ogawa R, Hyakusoku H: Perforator Supercharged Super-thin Flaps. European Conference on Supramicrosurgery (1st) (Barcelona), 2010. 3.
- 3) Ogawa R: Surgical Treatments for Keloids and Hypertrophic Scars Importance of Tensile Reduction using Flaps and Subcutaneous/Fascial Sutures. International Scar Club Meeting (3rd) (Montpellier), 2010. 3.
- 4) Ogawa R: Mechanobiology of Cutaneous Wound Healing and Scarring. International Scar Club Meeting(3rd) (Montpellier), 2010. 3.
- 5) Ogawa R: 1st Analysis of Questionnaire on Scars. International Scar Club Meeting (3rd) (Montpellier), 2010. 3.
- 6) Ogawa R: Being A Plastic Surgeon in Japan. Spring Meeting 2010 on Service de Chirurgie Plastique et Reconstructive (Lausanne), 2010. 3.
- 7) Ogawa R: Cartilage Tissue Engineering and Mechanobiology. Spring Meeting 2010 on Service de Chirurgie Plastique et Reconstructive (Lausanne), 2010. 3.
- 8) Ono S, Hayashi H, Ogawa R, Hyakusoku H: MDCT Analysis of Systemic Suprafascial Perforator Directionality (SPD) for Perforator Flaps Designing: the Possibility of Application for Upper Limb Reconstruction. Multidisciplinary European Group for Aesthetics of the Hand (MEGAHAND) 2010 (France), 2010. 3.
- 9) 小川 令: 細胞はどのように力を感じているか: 細胞力学の再生医学・創傷治癒学への応用. 感染免疫アレルギー研究会 (第 20 回) (東京), 2010. 3.

(1) 特別講演:

- 1) Tosa M^{1, 2)}, Ghazizadeh M²⁾, Murakami M¹⁾, Hyakusoku H (¹⁾ Musashikosugi Hospital, ²⁾ Department of Molecular Pathology Institute of Gerontology): Functional Implication of The IL-6 Signaling Pathway in Keloid Pathogenesis. International Scar Meeting in Tokyo 2010 (Tokyo), 2010. 12.
- 2) Sairyo K¹⁾, Ogawa R, Dezawa A¹⁾ (¹⁾ Teikyo University Mizonokuchi Hospital): The Pathomechanism of The Ligamentum Flavum Hypertrophy is Similar to That of The Hypertrophic Scar Formation during Wound Healing. International Scar Meeting in Tokyo 2010 (Tokyo), 2010. 12.
- 3) 百束比古: 熱傷再建外科の進歩: 植皮から皮弁手術まで最近のトピックスを含めて. 日本熱傷学会中国四国地方会 (第 19 回) (山口), 2010. 11.

(2) 招待講演:

- 1) Ono S, Hayashi H¹⁾, Ogawa R, Hyakusoku H (¹⁾ 放射線科): MDCT Analysis of Systemic Suprafascial Perforator Directionality (SPD) for Perforator Flaps Designing -the Possibility of Application for Upper Limb Reconstruction-. Federation of European Societies for Surgery of the Hand (FESSH) 2010 (Bucharest, Romania), 2010. 6.
- 2) Ogawa R: Perforator Pedicled Propeller (PPP) Flap using Internal Thoracic Artery. Amiens Course on Perforator Flaps (2nd) (Amiens), 2010. 7.

- 3) Ogawa R : New Definition and Classification of the Propeller Flap Methods. Amiens Course on Perforator Flaps (2nd) (Amiens), 2010. 7.
 - 4) Ogawa R : Biomechanics of Wound Healing and Scarring. Human Biomechanics 2010 (Sykrov, Czech), 2010. 10.
 - 5) Ogawa R : Utilizing adipose stem cells for cartilage regeneration in plastic surgery. Annual World Stem Cells & Regenerative Medicine Congress Asia 2010 (2nd) (Seoul), 2010. 10.
 - 6) Ogawa R : Clinical Evidence and A Multimodality Approach to Scar Therapy. Asian Scar Forum 2010 (Shanghai), 2010. 10.
 - 7) Ogawa R, Kim-W S, Mustoe-A T, Kiu W, Lee-H J, Sathappan S : Asian Scar Treatment Guidelines. Asian Scar Forum 2010 (Shanghai), 2010. 10.
 - 8) Ogawa R : Mechanobiology of Wound Healing and Scarring. Research meeting extracorporeal shockwave treatment at Unfallkrankenhaus und Rehabilitationszentrum Meidling (Vienna), 2010. 10.
 - 9) Ogawa R : Mechanobiology of Wound Healing and Tissue Engineering. Plastic Surgery Conference of Guangzhou Medical Society (17th) (Guangzhou), 2010. 11.
 - 10) Hyakusoku H : Versatility of perforators in flap surgery – especially Perforator supercharging superthin flap and perforator pedicled propeller (PPP) flap. Plastic Surgery Conference of Guangzhou Medical Society (17th) (Guangzhou), 2010. 11.
 - 11) 小川 令 : 胸部外科領域における創閉鎖の最新知見 : PDS やアパタイトの有用性ととも。エチコンジャパン創閉鎖勉強会 (東京), 2010. 8.
 - 12) 小川 令 : ついに始まった VAC 療法 ! : 褥瘡などの皮膚潰瘍に対する全く新しい治療法。日本医科大学褥瘡対策委員会講演会 (東京), 2010. 8.
 - 13) 小川 令 : Nd : YAG レーザーによるケロイド・肥厚性瘢痕の治療。トータルスキンセラピーミーティング東京 (第 5 回) (東京), 2010. 10.
- (3) 教育講演 :
- 1) 小川 令 : 美容外科における問題症例とどう向き合うべきか。日本形成外科学会総会・学術集会 (第 53 回) (金沢), 2010. 4.
 - 2) 佐藤和夫 : ホツリヌストキシンの適応を広げる。日本美容外科学会総会 (第 33 回) (京都), 2010. 10.
- (4) シンポジウム :
- 1) Hyakusoku H : Versatility of Perforators in Flap Surgery-Perforator-Supercharging Superthin Flap and Perforator Pedicled Propeller (PPP) Flap. Sino-Japan Joint Congress on Plastic Surgery (20th) (Shanghai, China), 2010. 8.
 - 2) 百東比古 : 薄い皮弁の Basic Science – 皮弁の常識が必ずしも通らないという結論に達するまでの軌跡。日本形成外科学会基礎学術集会 (第 19 回) (横浜), 2010. 9.
 - 3) 小川 令, 菊池 守¹⁾, 貴志和生²⁾ (¹⁾ 大阪大学形成外科, ²⁾ 慶應義塾大学形成外科) : ケロイド・肥厚性瘢痕・露出部位の瘢痕。日本形成外科学会基礎学術集会 (第 19 回) (横浜), 2010. 9.
- (5) パネルディスカッション :
- 1) Mizuno H : Potential Use of Adipose-derived Stem Cells in Regenerative Medicine. Korea-Japan Congress of Plastic and Reconstructive Surgery (The 10th) (Busan, Korea), 2010. 6.
 - 2) Tosa Y, Yamawaki S, Akaishi S, Nagao M, Okabe K, Yamamoto J : Classification and Evaluation of Keloids and Hypertrophic Scars A Trial of Japan Scar Workshop (JSW). International Scar Meeting in Tokyo 2010 (Tokyo), 2010. 12.
 - 3) 小川 令, 百東比古 : 同種顔面移植の現状と課題 : アンケート調査の結果を含めて。日本熱傷学会総会・学術

集会（第36回）（横浜），2010. 6.

- 4) 大木更一郎, 小川 令, 水野博司, 村上正洋, 高 建華, 王 春梅, 百束比古: 顔面頸部癬痕拘縮の治療戦略: 特に下顔面: 頸部高度癬痕拘縮に対する皮弁再建手術手技. 日本熱傷学会総会・学術集会（第36回）（横浜），2010. 6.
 - 5) 土佐眞美子¹⁾, 村上正洋¹⁾, 朝倉啓文²⁾, 松島 隆²⁾, 百束比古 ¹⁾ 武蔵小杉病院形成外科, ²⁾ 武蔵小杉病院女性診療科: 産婦人科手術後の肥厚性癬痕・ケロイドの予防と早期治療への取り組み. 日本外科系連合学会学術集会（第35回）（浦安），2010. 6.
 - 6) 秋元正宇¹⁾, 赤石諭史, 村上正洋²⁾, 百束比古 ¹⁾ 千葉北総病院形成外科, ²⁾ 武蔵小杉病院形成外科: コンピュータシミュレーションから”きず・きずあと”の Best Practice を探る. 日本創傷外科学会総会・学術集会（第2回）（神戸），2010. 7.
 - 7) 秋元正宇¹⁾, 百束比古 ¹⁾ 千葉北総病院形成外科: 開頭術後の創感染に対するベストプラクティス. 日本創傷外科学会総会・学術集会（第2回）（神戸），2010. 7.
 - 8) 佐藤和夫: Botulinum Toxin A を使用した顔面の Itraderma BOTOX®Lift について. 日本美容外科学会総会（第33回）（京都），2010. 10.
- (6) セミナー:
- 1) Ogawa R: Current Keloid and Hypertrophic Scar Treatment Algorithms and Our Recent Trials. International Scar Meeting in Tokyo 2010 (Tokyo), 2010. 12.
 - 2) Orgill D¹⁾, Ogawa R ¹⁾ Brigham and Women's Hospital, Harvard Medical School: Forces and Matrices in Wound Healing. International Scar Meeting in Tokyo 2010 (Tokyo), 2010. 12.
 - 3) 小川 令: 全く新しい創傷の力学治療: V.A.C.® の効果と作用機序. 日本創傷治癒学会（第40回）（東京），2010. 12.
- (7) ポスター:
- 1) Nakao J, Ono S, Hayashi H, Dohi T, Aoki M, Akaishi S, Ogawa R, Hyakusoku H: Multidetector-Row Computed Tomography (MDCT) Analysis of the Internal Thoracic Artery perforator (ITAP). Korea-Japan Congress of Plastic and Reconstructive Surgery (The 10th) (Busan, Korea), 2010. 6.
 - 2) Koike S, Ogawa R, Akaishi S, Hyakusoku H: Nd: YAG Laser Therapy for Anterior Chest Acne Scars. Korea-Japan Congress of Plastic and Reconstructive Surgery (The 10th) (Busan, Korea), 2010. 6.
 - 3) Oki K, Koike S, Aoki M, Hyakusoku H: Single-Stage Reconstruction of Dorsal Pedis and Heel Skin Defects with the Double-Paddle Deep Inferior Epigastric Artery Free Flap. Korea-Japan Congress of Plastic and Reconstructive Surgery (The 10th) (Busan, Korea), 2010. 6.
 - 4) Amagai K, Hyakusoku H, Oki K, Ogawa R, Ono S: Superficial Cervical Artery perforator (SCAP) Flaps -Free, Pedicled and Supercharging Versions. Sino-Japan Joint Congress on Plastic Surgery (20th) (Shanghai, China), 2010. 8.
 - 5) Ono S, Sandeep-J S, Yasaki N, Hyakusoku H, Chung-C K: Clinical Applications of Perforator Based Propeller Flaps in Upper Limb Soft Tissue Reconstruction. International Course on Perforator Flap (13th) (Mexico-City), 2010. 10.
 - 6) Igota S¹⁾, Tosa M²⁾, Ghazizadeh M²⁾, Murakami M²⁾, Hyakusoku H ¹⁾ Higashi Totsuka Memorial Hospital, ²⁾ Musashikosugi Hospital: The Role of Wnt Signal Pathway in Keloid Pathogenesis. International Scar Meeting in Tokyo 2010 (Tokyo), 2010. 12.
 - 7) Kuwahara H¹⁾, Tosa M¹⁾, Iwakiri I¹⁾, Tajima M¹⁾, Murakami M¹⁾, Hyakusoku H ¹⁾ Musashikosugi Hospital: Analysis of Diseases that Resemble Keloid and a Diagnosis is Difficult. International Scar Meeting in Tokyo 2010 (Tokyo), 2010. 12.

- 8) Aoki M, Nakao J, Dohi T, Akaishi S, Miyashita M¹⁾, Hyakusoku H (¹⁾ Dept of Radiation Oncology) : Measurement of Keloid Color. International Scar Meeting in Tokyo 2010 (Tokyo), 2010. 12.
- 9) Dohi T, Akaishi S, Ono S, Nara S, Imura T, Hyakusoku H, Ogawa R : Flap Surgery for Severe Keloids : Our Trials of Flap Surgery Performed for the Purpose of Tension Reduction. International Scar Meeting in Tokyo 2010 (Tokyo), 2010. 12.
- 10) Omori Y, Akaishi S, Hyakusoku H, Ogawa R : Analysis of the Regions of the Cody where Keloids Tend to Occur. International Scar Meeting in Tokyo 2010 (Tokyo), 2010. 12.
- 11) Watanabe M, Akaishi S, Akimoto M, Hyakusoku H, Ogawa R : Visual Analysis of the Relationship Between Keloid Growth Patterns and Stretching Tension by Using the Finite Element Method. International Scar Meeting in Tokyo 2010 (Tokyo), 2010. 12.
- 12) Ogawa R, Akaishi S, Hyakusoku H : The Most Current Algorithms for the Prevention and Treatment of Keloids and Hypertrophic Scars. International Scar Meeting in Tokyo 2010 (Tokyo), 2010. 12.
- 13) Ogawa R, Pribaz-J J¹⁾ (¹⁾ Brigham and Women's Hospital, Harvard Medical School, USA) : Scar Contracture Evaluation and Classification. International Scar Meeting in Tokyo 2010 (Tokyo), 2010. 12.
- 14) Huang C, Ono S, Hyakusoku H, Ogawa R : Small-Wave Incision Method for Hypertrophic Scar Reconstruction. International Scar Meeting in Tokyo 2010 (Tokyo), 2010. 12.
- 15) 土肥輝之, 赤石論史, 大森康高, 小川 令, 百東比古 : 耳介ケロイドに対するくり抜き法の実際. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 53 回) (金沢), 2010. 4.
- 16) 小野真平, 中尾淳一, 王 春梅¹⁾, 百東比古 (¹⁾ 中国東莞康華医院) : Perforator Pedicled Expanded Flap (PPE flap) : 機能的・整容的な熱傷瘢痕拘縮再建を目指して. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 53 回) (金沢), 2010. 4.
- 17) 秋元正宇¹⁾, 宮田美穂¹⁾, 百東比古 (¹⁾ 千葉北総病院形成外科) : 感染頭蓋の分節状 vascularized carvarial bone flap による再建. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 53 回) (金沢), 2010. 4.
- 18) 香西達一, 小野真平, 黒田周一¹⁾, 百東比古 (¹⁾ 大浜第一病院形成外科) : ハイドロジェル系フィラー (ヒアルロン酸を含む) 注入豊胸術後後遺症の画像診断と治療指針に関する検討. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 53 回) (金沢), 2010. 4.
- 19) 石井暢明¹⁾, 土肥輝之¹⁾, 百東比古 (¹⁾ 会津中央病院形成外科) : 高度になるまで放置された顔面のびまん性神経線維腫の治療経験. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 53 回) (金沢), 2010. 4.
- 20) 大木琴美¹⁾, 大木更一郎, 百東比古 (¹⁾ 博慈会記念総合病院形成外科) : 人工物の介在した頭部難治性潰瘍の治療経験. 日本褥瘡学会学術集会 (第 12 回) (幕張), 2010. 8.
- 21) 大木更一郎, 野本俊一, 百東比古 : peroneal artery PPP (Perforator pedicled propeller) 皮弁による外頰 : 踵部の難治性潰瘍に対する治療経験. 日本褥瘡学会学術集会 (第 12 回) (幕張), 2010. 8.
- 22) 高見佳宏, Orbay H, 小川 令, 百東比古 : 自家網状植皮との同時移植に適した無細胞表皮マトリックスの性状. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第 19 回) (横浜), 2010. 9.
- 23) 村上正洋¹⁾, 百東比古 (¹⁾ 武蔵小杉病院形成外科) : 皮膚厚の違いによる皮膚腫瘍摘出術の作図法 : 有限要素法から求めたドッグイヤーの高さを基準として. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第 19 回) (横浜), 2010. 9.
- 24) かづきれいこ, 百東比古 : VAS (Visual Analog Scale) と WHO QOL-26 を用いて評価した顔面神経麻痺患者へのリハビリメイク® の効果. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第 19 回) (横浜), 2010. 9.
- 25) 中尾淳一, 小野真平, 林 宏光¹⁾, 飯村剛史, 青木雅代, 赤石論史, 小川 令, 百東比古 : 内胸動脈穿通枝の MDCT を用いた解析. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第 19 回) (横浜), 2010. 9.
- 26) 桑原大彰¹⁾, 土佐真美子¹⁾, ガジザデモハマッド²⁾, 枝川聖子²⁾, 百東比古, 村上正洋¹⁾ (¹⁾ 武蔵小杉病院形成外科, ²⁾ 老人病研究所病理部門) : ケロイド発生における上皮間葉転換の検討. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第

- 19回) (横浜), 2010. 9.
- 27) 陳 貴史^{1, 2)}, 河邊京子²⁾, 前田健志¹⁾, 野瀬謙介³⁾, 野本俊一²⁾, 百東比古²⁾ (1) 宇治武田病院形成外科, 2) 形成外科, 3) 城北病院形成外科): 金の糸とレーザー・高周波機器との相互作用における肉眼的・組織学的検討. 日本美容外科学会総会 (第33回) (京都), 2010. 10.
- 28) 陳 貴史^{1, 3)}, 河邊京子^{2, 3)}, 百東比古³⁾ (1) 宇治武田病院形成外科, 2) 会津中央病院形成外科, 3) 形成外科): 多血血小板治療における早期皮下硬結の実験的検討. 日本美容外科学会総会 (第33回) (京都), 2010. 10.
- 29) 野本俊一, 百東比古, 石井暢明, 水野博司¹⁾ (1) 順天堂大学形成外科): 異物の画像診断-炭化水素, シリコン重複注入例からの証明. 日本美容外科学会総会 (第33回) (京都), 2010. 10.
- 30) 小池幸子, 小川 令, 赤石論史, 百東比古, かづきれいこ¹⁾, 青木 律²⁾ (1) 有限会社かづきれいこ, 2) グリーンウッドスキンクリニック立川): 美容外科的傷痕修正の実情. 日本美容外科学会総会 (第33回) (横浜), 2010. 10.
- 31) かづきれいこ¹⁾, 百東比古 (1) 有限会社かづきれいこ): 美容外科手術後患者におけるVASとWHO QOL - 26を用いた評価とリハビリメイクの有用性に関する検討. 日本美容外科学会総会 (第33回) (京都), 2010. 10.
- 32) 江浦重義, 香西達一, 小川 令, 百東比古: 前額部の巨大悪性末梢神経鞘腫を浅側頭動脈双茎皮弁で再建した1例. 日本顎顔面外科学会学術集会 (第28回) (京都), 2010. 10.
- 33) Orbay H, 王 陽, 飛田護邦, 百東比古, 宮本正章¹⁾, 田畑泰彦²⁾, 水野博司³⁾ (1) 再生医療科, 2) 京都大学再生医科学研究所生体組織工学研究部門生体材料学分野, 3) 順天堂大学形成外科): 虚血性再還流傷害に対する徐放型塩基性線維芽細胞増殖因子の影響. 第10回日本再生医療学会総会 (東京), 2011. 3.
- (8) 一般講演:
- 1) Iimura T, Mizuno H, Umezawa H, Hyakusoku H: Extended Latissimus Dorsi Flap for Breast Reconstruction. Korea-Japan Congress of Plastic and Reconstructive Surgery (The 10th) (Busan, Korea), 2010. 6.
 - 2) Hyakusoku H: The Propeller Flap Methods-Our Definition and Classification. Korea-Japan Congress of Plastic and Reconstructive Surgery (The 10th) (Busan, Korea), 2010. 6.
 - 3) Ishii N, Hyakusoku H: The Propeller Flap Method—Its Versatility in Reconstructive Surgery. Korea-Japan Congress of Plastic and Reconstructive Surgery (The 10th) (Busan, Korea), 2010. 6.
 - 4) Eura S, Ono S, Hyakusoku H: Clinical and Vascular Anatomical Study using MDCT of the Pedicled SEPA Flaps. Korea-Japan Congress of Plastic and Reconstructive Surgery (The 10th) (Busan, Korea), 2010. 6.
 - 5) Ogawa R, Ono S, Hyakusoku H: Usefulness of Perforator Supercharged Dorsal Skin Flap for Face and Neck Reconstruction. Meeting of the International Society for Burn Injuries (5th) (Istanbul, Turkey), 2010. 6.
 - 6) Pignatti M, Ogawa R, Hallock-C G, Georgescu A, Balakrishnan G, Ono S, Cubison T, D'alpa S, Koshima I, Hyakusoku H: Propeller flaps: definition and technique. Federation of european Societyies for Surgery of The Hand Congress (15th) (Bucharest), 2010. 6.
 - 7) Nara S: IMAP Pedicled Propeller Flaps for Keloid Reconstruction. Sino-Japan Joint Congress on Plastic Surgery (20th) (Shanghai, China), 2010. 8.
 - 8) Shibuya I: Complication of Injection Mammoplasty (Hydrocarbon, Silicone, Hydro gel, Fat) in Japan. Sino-Japan Joint Congress on Plastic Surgery (20th) (Shanghai, China), 2010. 8.
 - 9) Kuwahara H: Long-Term Outcomes of Neck Scar Contracture Reconstructions Done with "Super-Thin Flaps". Sino-Japan Joint Congress on Plastic Surgery (20th) (Shanghai, China), 2010. 8.
 - 10) Pignatti M, Ogawa R, Hallock-C G, Georgescu A, Balakrishnan G, Ono S, Cubison T, D'alpa S, Koshima I, Hyakusoku H: Propeller flaps: definition and technique. Congress of the Italian Society of Plastic,

- Reconstructive and Aesthetic Surgery (59th) (Siena), 2010. 9.
- 11) Nakao J, Ono S, Hayashi H¹, Dohi T, Aoki M, Akaishi S, Ogawa R, Hyakusoku H (¹ Radiology) : Multidetector-row Computed Tomography (MDCT) Analysis of the Internal Thoracic (mammary) artery perforator (ITAP, IMAP). International Course on Perforator Flap (13th) (Mexico-City), 2010. 10.
 - 12) Ono S, Chung-C K¹, Hayashi H², Ogawa R, Hyakusoku H (¹ University of Michigan, ² radiology) : Application of Multidetector-row Computed Tomography in Propeller Flap Planning. International Course on Perforator Flap (13th) (Mexico-City), 2010. 10.
 - 13) Watanabe M, Ono S, Ogawa R, Hyakusoku H : Clinical and Anatomical Study of Occipito-Cervico (OC) Flaps. International Course on Perforator Flap (13th) (Mexico-City), 2010. 10.
 - 14) Dohi T, Ogawa R, Akaishi S, Aoki M, Ono S, Nakao J, Iimura T, Hyakusoku H : Internal Mammary Artery Perforator (IMAP) Pedicled Propeller Flaps for Anterior Chest Keloid Reconstruction. International Course on Perforator Flap (13th) (Mexico-city), 2010. 10.
 - 15) Iimura T, Ono S, Eura S, Ogawa R, Hyakusoku H : Clinical and Anatomical Application of the Superficial External Pudendal Artery (SEPA) Flaps. International Course on Perforator Flap (13th) (Mexico-City), 2010. 10.
 - 16) Watanabe M, Akaishi S, Akimoto M, Hyakusoku H, Ogawa R : The Relationship between Keloid Growth Pattern and Stretching Tension -Visual Analysis Using the Finite Element Method-. Human Biomechanics 2010 (Sykrov, Czech), 2010. 10.
 - 17) Ogawa R, Orgill-P D, Murphy-F G, Mizuno S : Hydrostatic Pressure (HP) —Driven 3-D Cartilage Tissue Engineering using Human Adipose-Derived Stem Cells. American College of Surgeons (96th) (WashingtonDC), 2010. 10.
 - 18) Shibuya I, Ono S, Ogawa R, Hyakusoku H : Complocation of Injection Mammoplasty (Hydrocarbon, Silicone, Hydro Gel, Fat)in Japan. International Congress of Oriental Society of Aesthetic Plastic Surgery (12th) (Tokyo), 2010. 11.
 - 19) Watanabe M, Akaishi S, Dohi T, Hyakusoku H : Treatment Strategy for Ear Keloids. International Congress of Oriental Society of Aesthetic Plastic Surgery (12th) (Tokyo), 2010. 11.
 - 20) Watanabe M, Akaishi S, Koike S, Dohi T, Kobe K, Hyakusoku H, Ogawa R : Lon Pulse Nd : YAG Laser Therapy for Keloids and Hypertrophic Scars. International Congress of Oriental Society of Aesthetic Plastic Surgery (12th) (Tokyo), 2010. 11.
 - 21) Ayestaray B, Ogawa R, Hyakusoku H : Classification of Propeller Flaps. Annual Congress of French Society for Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery (55th) (LaDefence), 2010. 11.
 - 22) Akaishi S, Koike S, Dohi T, Kobe K, Hyakusoku H, Ogawa R : Long Pulse Nd : YAG Laser Therapy for Keloids and Hypertrophic Scars. International Scar Meeting in Tokyo 2010 (Tokyo), 2010. 12.
 - 23) Huang C, Akaishi S, Dohi T, Hyakusoku H, Ogawa R : Strategy for Treating Ear Keloids. International Scar Meeting in Tokyo 2010 (Tokyo), 2010. 12.
 - 24) Iimura T, Kazuki R, Hyakusoku H, Ogawa R : Cosmetic and Psychological Effectiveness of Rehabilitation Make-up®for Post-Burn Scar Patients. International Scar Meeting in Tokyo 2010 (Tokyo), 2010. 12.
 - 25) Takami Y, Guo J¹, Ono S, Orbay H, Ogawa R, Hyakusoku H (¹ Kunming Medicine College, China) : Influence of Negative Atmospheric Pressur on Cultured Human Dermal Fibroblasts. International Scar Meeting in Tokyo 2010 (Tokyo), 2010. 12.
 - 26) Ogawa R, Hyakusoku H : Usefulness of Super-thin Flaps in Burn Reconstructive Surgery. International Scar Meeting in Tokyo 2010 (Tokyo), 2010. 12.

- 27) Wang C¹⁾, Yang S¹⁾, Zhang J²⁾, Hyakusoku H (¹⁾ Dongguan Kanghua Hospital, China, ²⁾ Beijing Tongren Hospital, China) : Expansion Prefabricated Crossing Area Supply Super-thin Flap : An Experimental Study and Clinical Application. International Scar Meeting in Tokyo 2010 (Tokyo), 2010. 12.
- 28) Yang S¹⁾, Wang C¹⁾, Zhang J²⁾, Hyakusoku H (¹⁾ Dongguan Kanghua Hospital, China, ²⁾ Beijing Tongren Hospital, China) : Technique of Tissue Expansion for Resurfacing as A Treatment of Post Facial Scars. International Scar Meeting in Tokyo 2010 (Tokyo), 2010. 12.
- 29) 飯村剛史, 小野真平, 陳 貴史, 百束比古 : 手指外傷に対する動脈静脈吻合 (AV 吻合) の有用性. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 53 回) (金沢), 2010. 4.
- 30) 野本俊一, 小野真平, 土肥輝之, 奥田貴久, 平川慶子¹⁾, 百束比古 (¹⁾ 法医学) : いまだに来診する乳房への古い異物注入症例の検討. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 53 回) (金沢), 2010. 4.
- 31) 大木更一郎, 青木雅代, 中尾淳一, 水野博司, 百束比古 : 胸壁まで拡大した腹直筋穿通枝皮弁を用いた再建. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 53 回) (金沢), 2010. 4.
- 32) 小川 令, Vinh-Quang V¹⁾, 百束比古 (¹⁾ ベトナム国立熱傷センター形成外科) : 鎖骨上動脈皮弁による頸部熱傷後癥痕皮弁拘縮再建. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 53 回) (金沢), 2010. 4.
- 33) 石井暢明¹⁾, 土肥輝之¹⁾, 百束比古 (¹⁾ 会津中央病院形成外科) : 顔面動脈穿通枝茎プロペラ皮弁. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 53 回) (金沢), 2010. 4.
- 34) 小川 令, 小野真平, 久保一人, 木村広美, 香西達一, 赤石論史, 百束比古 : 胸部内胸動脈穿通枝プロペラ皮弁の有用性. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 53 回) (金沢), 2010. 4.
- 35) 村上正洋¹⁾, 中村 敏²⁾, 百束比古 (¹⁾ 武蔵小杉病院形成外科, ²⁾ なかむら眼科・形成外科) : 眉下切開法により生じる眼瞼の形態変化について. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 53 回) (金沢), 2010. 4.
- 36) 野本俊一, 小野真平, 土肥輝之, 奥田貴久, 平川慶子¹⁾, 百束比古 (¹⁾ 法医学) : 顔面異物注入後後遺症の検討. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 53 回) (金沢), 2010. 4.
- 37) 土肥輝之, 青木雅代, 赤石論史, 小野真平, 岩切 致¹⁾, 水野博司, 小川 令, 百束比古 (¹⁾ 武蔵小杉病院形成外科) : ケロイドに対する皮弁術の有用性と問題点. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 53 回) (金沢), 2010. 4.
- 38) 土佐真美子¹⁾, 村上正洋¹⁾, 百束比古 (¹⁾ 武蔵小杉病院形成外科) : 耳垂ケロイドに対する手術治療 : 後療法別の再発率の検討. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 53 回) (金沢), 2010. 4.
- 39) 水野博司, 中尾淳一, 河邊京子, 宮本正章¹⁾, 大坪春美¹⁾, 田畑泰彦²⁾, 百束比古 (¹⁾ 再生医療科, ²⁾ 京都大学再生医科学研究所) : 徐放型塩基性繊維芽細胞増殖因子ゼラチンシートを用いた新しい創傷治療. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 53 回) (金沢), 2010. 4.
- 40) かづきれいこ, 木原琢也¹⁾, 二川浩樹¹⁾, 青木 律, 百束比古 (¹⁾ 広島大学大学院医師薬学総合研究科口腔健康科学専攻口腔生物工学分野) : 患者の社会復帰を目的としたリハビリメイク®における顔面マッサージ (血流マッサージ) の効果. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 53 回) (金沢), 2010. 4.
- 41) 百束比古, 小野真平, 小川 令 : MDCT を用いた全身の深筋膜上穿通枝方向性 (SPD) の検討 : 四肢・頸部の穿通枝は体幹に向かう方向性を持つ. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 53 回) (金沢), 2010. 4.
- 42) 小川 令, 小野真平, 村上正洋¹⁾, 百束比古 (¹⁾ 武蔵小杉病院形成外科) : 植皮術における種々のワイヤーフレーム外固定法の工夫. 日本熱傷学会総会・学術集会 (第 36 回) (横浜), 2010. 6.
- 43) 高見佳宏¹⁾, 小野真平, 橋本 聡¹⁾, 香西達一, 野中由紀子¹⁾, 奥田貴久, 河邊京子, 陳 貴史, 赤石論史, 小川 令, 百束比古 (¹⁾ 西部総合病院形成外科) : 鼻翼部の熱傷後癥痕拘縮に対する真皮移植と二期的全層植皮の試み. 日本熱傷学会総会・学術集会 (第 36 回) (横浜), 2010. 6.
- 44) 香西達一, 小川 令, 大木琴美¹⁾, 村上正洋¹⁾, 百束比古 (¹⁾ 武蔵小杉病院形成外科) : 手背・手指の熱傷潰瘍・癥痕拘縮再建における各種皮弁の利用. 日本熱傷学会総会・学術集会 (第 36 回) (横浜), 2010. 6.

- 45) 石井暢明¹⁾, 土肥輝之¹⁾, 久保一人¹⁾, 小野真平, 百束比古⁽¹⁾ 会津中央病院形成外科): 頸部熱傷瘢痕拘縮再建におけるプロペラ皮弁法の適用と可能性. 日本熱傷学会総会・学術集会(第36回)(横浜), 2010. 6.
- 46) 大木更一郎, 小池幸子, 百束比古: 右上眼瞼早期マイボーム腺癌の治療経験. 日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会(第26回)(東京), 2010. 6.
- 47) 江浦重義, 小川 令, 香西達一, 小池幸子, 青木 律¹⁾, 百束比古⁽¹⁾ グリーンウッドスキンクリニック立川): 両側の浅側頭動脈を含む双茎皮弁を用いて再建した悪性神経鞘腫の1例. 日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会(第26回)(東京), 2010. 6.
- 48) 小川 令: 肥厚性瘢痕やケロイドを予防するための術中・術後の工夫. 日本外科系連合学会学術集会(第35回)(浦安), 2010. 6.
- 49) 飯村剛史, 小野真平, 小川 令, 百束比古, 林 宏光¹⁾ (放射線科): MDCTにより血行動態変化を認めた前胸部ケロイドの3症例. 日本形成外科学会東京地方会(第262回)(東京), 2010. 7.
- 50) 桑原大彰¹⁾, 土佐真美子¹⁾, 岩切 致¹⁾, 田嶋繭子¹⁾, 村上正洋¹⁾, 百束比古⁽¹⁾ 武蔵小杉病院形成外科): 当科におけるケロイド類似疾患の検討. 日本形成外科学会東京地方会(第262回)(東京), 2010. 7.
- 51) 渡邊真泉, 野本俊一, 百束比古, 水野博司¹⁾ (順天堂大学形成外科): 徐放型塩基性線維芽細胞増殖因子ゼラチンシートが奏功した糖尿病性足潰瘍の1例. 日本形成外科学会東京地方会(第262回)(東京), 2010. 7.
- 52) 石井暢明, 天海恵子, 百束比古: 約35年前の注入異物による豊胸乳房に乳癌を合併した1例. 日本美容外科学会学術集会(第108回)(札幌), 2010. 7.
- 53) 小池幸子, 香西達一, 百束比古: レーザー照射後の徐放型成長因子ジェル塗布による効果の検討. 日本美容外科学会学術集会(第108回)(札幌), 2010. 7.
- 54) 久保一人¹⁾, 石井暢明, 百束比古, 水野博司²⁾ (会津中央病院形成外科, ²⁾ 順天堂大学形成外科): 遠位茎腓腹皮弁による下腿再建の検討. 日本創傷外科学会総会・学術集会(第2回)(神戸), 2010. 7.
- 55) 土佐真美子¹⁾, 村上正洋¹⁾, 朝倉啓文²⁾, 松島 隆²⁾, 百束比古⁽¹⁾ 武蔵小杉病院形成外科, ²⁾ 武蔵小杉病院女性診療科): 初回術後瘢痕結果による次回術後瘢痕予測は可能か?. 日本創傷外科学会総会・学術集会(第2回)(神戸), 2010. 7.
- 56) 石井暢明, 大木更一郎, 百束比古, 久保一人¹⁾ (会津中央病院形成外科): 褥瘡の再建における穿通枝茎プロペラ皮弁の有用性. 日本創傷外科学会総会・学術集会(第2回)(神戸), 2010. 7.
- 57) 村上正洋¹⁾, 秋元正宇²⁾, 百束比古⁽¹⁾ 武蔵小杉病院形成外科, ²⁾ 千葉北総病院形成外科): 有限要素法解析から得られた縫合線とドッグイヤーの関係を基に考えた皮膚腫瘍の手術方法. 日本創傷外科学会総会・学術集会(第2回)(神戸), 2010. 7.
- 58) 飯村剛史, 水野博司¹⁾, 百束比古, 宮本正章^{2,3)} (順天堂大学形成外科, ²⁾ 第一内科, ³⁾ 再生医療科): 治療経過中に院内死亡した難治性創傷症例の検討. 日本創傷外科学会総会・学術集会(第2回)(神戸), 2010. 7.
- 59) 石井暢明¹⁾, 百束比古⁽¹⁾ 会津中央病院形成外科): ポケットを有する褥瘡に対する低侵襲治療. 日本褥瘡学会学術集会(第12回)(幕張), 2010. 8.
- 60) 石井暢明, 大木更一郎, 土肥輝之, 百束比古: 褥瘡に対するプロペラ皮弁法の適用. 日本褥瘡学会学術集会(第12回)(幕張), 2010. 8.
- 61) 飯村剛史, 小川 令, 百束比古, Erba P¹⁾, Orgil D¹⁾ (ハーバード大学ブリガムウェイメンズ病院形成外科): 陰圧閉鎖吸引療法(VAC療法)における血管新生の解析. 日本形成外科学会基礎学術集会(第19回)(横浜), 2010. 9.
- 62) 青木雅代, 小川 令, 中尾淳一, 土肥輝之, 赤石諭史, 百束比古: ケロイドにおける色測定装置を用いた色調の検討. 日本形成外科学会基礎学術集会(第19回)(横浜), 2010. 9.
- 63) 飯村剛史, 小野真平, 中尾淳一, 土肥輝之, 赤石諭史, 百束比古, 小川 令: 前胸部ケロイドの生理学的血行動態に関するMDCTによる検討. 日本形成外科学会基礎学術集会(第19回)(横浜), 2010. 9.

- 64) 土佐眞美子¹⁾, ガジザデモハマッド²⁾, 枝川聖子²⁾, 百束比古, 村上正洋¹⁾ (¹⁾ 武蔵小杉病院形成外科, ²⁾ 老人病研究所病理部門) : ケロイドにおける Th17 細胞の IL-6 シグナル促進効果の検討. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第 19 回) (横浜), 2010. 9.
- 65) 王 陽, Orbay H, 飛田護邦, 百束比古, 宮本正章¹⁾, 田畑泰彦²⁾, 水野博司³⁾ (¹⁾ 再生医療科, ²⁾ 京都大学再生医科学研究所生体組織工学研究部門生体材料学分野, ³⁾ 順天堂大学形成外科) : 虚血再還流障害に対する徐放型塩基性線維芽細胞増殖因子の影響. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第 19 回) (横浜), 2010. 9.
- 66) 橋 五月¹⁾, 橋田絵里香¹⁾, 宮田美穂¹⁾, 秋元正宇¹⁾, 百束比古 (¹⁾ 千葉北総病院形成外科) : ラット使用実験における麻酔方法の検討. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第 19 回) (横浜), 2010. 9.
- 67) Orbay H, 宮本正章¹⁾, 田畑泰彦²⁾, 百束比古, 水野博司³⁾ (¹⁾ 再生医療科, ²⁾ 京都大学再生医科学研究所生体組織工学研究部門生体材料学分野, ³⁾ 順天堂大学形成外科) : 細切移植軟骨の生着率に及ぼす脂肪組織由来幹細胞, 塩基性線維芽細胞増殖因子の影響. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第 19 回) (横浜), 2010. 9.
- 68) 土肥輝之, 赤石諭史, 秋元正宇¹⁾, 百束比古, 小川 令 (¹⁾ 千葉北総病院形成外科) : 有限要素法を用いた瘢痕の解析. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第 19 回) (横浜), 2010. 9.
- 69) 秋元正宇¹⁾, 赤石諭史, 百束比古 (¹⁾ 千葉北総病院形成外科) : 有限要素法による瘢痕拘縮状態のシミュレーション. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第 19 回) (横浜), 2010. 9.
- 70) Orbay H, 高見佳宏, 奥田貴久¹⁾, 百束比古, 水野博司²⁾ (¹⁾ 北村山公立病院形成外科, ²⁾ 順天堂大学形成外科) : 脂肪由来幹細胞を播種した無細胞真皮マトリックスの軟部組織充填材料としての可能性の検討. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第 19 回) (横浜), 2010. 9.
- 71) 小池幸子, 香西達一¹⁾, 百束比古 (¹⁾ 小山記念病院形成外科) : 成長因子徐放ゲルの可能性について. 日本美容外科学会総会 (第 33 回) (京都), 2010. 10.
- 72) 大木更一郎, 江浦重義, 高見佳宏, 百束比古 : 粉碎型頬骨骨折に対する蝶頬骨縫合固定の経験. 日本顎顔面外科学会学術集会 (第 28 回) (京都), 2010. 10.
- 73) 石井暢明, 土肥輝之, 百束比古, 久保一人¹⁾ (¹⁾ 会津中央病院形成外科) : 止血に難渋した右顔面の高度神経線維腫の治療経験. 日本顎顔面外科学会学術集会 (第 28 回) (京都), 2010. 10.
- 74) 渡邊真泉¹⁾, 小野真平^{1, 3)}, 林 宏光²⁾, 中尾淳一¹⁾, 飯村剛史¹⁾, 小川 令¹⁾, 百束比古¹⁾ (¹⁾ 形成外科, ²⁾ 放射線科, ³⁾ ミシガン大学形成外科) : MDCT による Occipito-Cervico Flap (OC 皮弁) の血管解剖学的考察. 日本マイクロサージャリー学会学術集会 (第 37 回) (名古屋), 2010. 11.
- 75) 石井暢明¹⁾, 小野真平^{1, 3)}, 林 宏光²⁾, 小川 令¹⁾, 高見佳宏¹⁾, 百束比古¹⁾ : プロペラ皮弁における肘関節周囲皮膚軟部組織欠損再建. 日本マイクロサージャリー学会学術集会 (第 37 回) (名古屋), 2010. 11.
- 76) 飯村剛史^{1, 2)}, 小野真平^{1, 4)}, 林 宏光³⁾, 中尾淳一¹⁾, 小川 令¹⁾, 高見佳宏¹⁾, 百束比古¹⁾ (¹⁾ 形成外科, ²⁾ 佐賀大学形成外科, ³⁾ 放射線科, ⁴⁾ ミシガン大学形成外科) : プロペラ皮弁における MDCT を用いた術前穿通枝造影検査の有用性. 日本マイクロサージャリー学会学術集会 (第 37 回) (名古屋), 2010. 11.
- 77) 大木更一郎, 江浦重義, 小川 令, 高見佳宏, 百束比古 : 開心術後胸骨骨髓炎に対する血管束付加 VRAM 型腹直筋皮弁の経験. 日本マイクロサージャリー学会学術集会 (第 37 回) (名古屋), 2010. 11.
- 78) 桑原大彰¹⁾, 岩切 致¹⁾, 百束比古, 村上正洋¹⁾ (¹⁾ 武蔵小杉病院形成外科) : 深在性エリテマトーデスによる顔面陥凹変形に対し, 遊離腹直筋皮弁により再建した 1 例. マイクロサージャリー学会学術集会 (第 37 回) (名古屋), 2010. 11.
- 79) Orbay H, 宮本正章¹⁾, 田畑泰彦²⁾, 百束比古, 水野博司³⁾ (¹⁾ 再生医療科, ²⁾ 京都大学再生医科学研究所生体組織工学研究部門 生体材料学分野, ³⁾ 順天堂大学形成外科) : 脂肪組織由来幹細胞, 塩基性線維芽細胞増殖因子は細切移植軟骨の吸収率を抑制する. 日本創傷治癒学会 (第 40 回) (東京), 2010. 12.
- 80) Orbay H, 高見佳宏, 奥田貴久¹⁾, 百束比古, 水野博司²⁾ (¹⁾ 北村山公立病院形成外科, ²⁾ 順天堂大学形成外科) : 脂肪組織由来幹細胞付加無細胞真皮マトリックスの軟部組織充填材料としての有用性の検討. 日本創傷治癒学

会 (第 40 回) (東京), 2010. 12.

- 81) 高見佳宏, Orbay H, 百東比古, 脇坂 晟¹⁾ (1) 杏林大学医学部 生化学): 真皮血管内皮細胞のアポトーシス関連遺伝子発現に対する高グルコース環境の影響. 日本創傷治癒学会 (第 40 回) (東京), 2010. 12.
 - 82) 水野博司¹⁾, 王 陽, Orbay H, 飛田護邦, 百東比古, 宮本正章²⁾, 田畑泰彦³⁾ (1) 順天堂大学形成外科, ²⁾ 再生医療科, ³⁾ 京都大学再生医科学研究所生体組織工学研究部門 生体材料学分野): 徐放型塩基性線維芽細胞増殖因子は皮弁虚血再還流障害を抑制する. 日本創傷治癒学会 (第 40 回) (東京), 2010. 12.
 - 83) 黄 晨昱, Orbay H, 王 陽, 飛田護邦, 宮本正章¹⁾, 田畑泰彦²⁾, 百東比古, 水野博司³⁾ (1) 再生医療科, ²⁾ 京都大学再生医科学研究所生体組織工学研究部門 生体材料学分野, ³⁾ 順天堂大学形成外科): 糖尿病マウスを用いた皮膚創傷治癒における徐放型塩基性線維芽細胞増殖因子の効果の検討. 日本創傷治癒学会 (第 40 回) (東京), 2010. 12.
 - 84) 秋元正宇¹⁾, 百東比古 (1) 千葉北総病院形成外科): 拘縮状態の有限要素解析とその周辺の応力分布の観察. 日本創傷治癒学会 (第 40 回) (東京), 2010. 12.
 - 85) 宮本正章¹⁾, 高木 元¹⁾, 太良修平¹⁾, 桐木園子¹⁾, 高木郁代¹⁾, 松田範子²⁾, 水野博司³⁾, 百東比古, 田畑泰彦⁴⁾, 水野杏一¹⁾ (1) 循環器内科・臓器内科・一般内科・再生医療科, ²⁾ ME 部, ³⁾ 順天堂大学形成外科, ⁴⁾ 京都大学再生医科学研究所生体組織工学研究部門 生体材料学分野): 治療抵抗性末梢動脈疾患 (PAD) による難治性潰瘍・壊疽に対する再生医療を応用した先進併用療法. 日本創傷治癒学会 (第 40 回) (東京), 2010. 12.
 - 86) 奈良慎平, 野本俊一, 百東比古: 尿管摘出術後臍形成術を一期的に行った 1 例. 日本形成外科学会東京地方会 (第 264 回) (東京), 2010. 12.
 - 87) 村上正洋¹⁾, 桑原大彰¹⁾, 田嶋蘭子¹⁾, 岩切 致¹⁾, 土佐眞美子¹⁾, 百東比古 (1) 武蔵小杉病院形成外科): 左右の Cervico-Pectoral flap による熱傷頸部瘢痕拘縮再建を 2 回の手術に分け行う意義. 日本熱傷学会関東地方会 (第 19 回) (東京), 2011. 1.
 - 88) 石井暢明, 小川 令, 百東比古, Vinh-Quang V¹⁾ (1) ベトナム国立熱傷研究所): ベトナムにおける熱傷再建の経験—女子顔面化学損傷の再建など. 日本熱傷学会関東地方会 (第 19 回) (東京), 2011. 1.
 - 89) 高見佳宏, 渋谷偉織, 香西達一, 江浦重義, 野本俊一, 奈良慎平, 土肥輝之, 奥田貴久, 河邊京子, 小野真平, 野中由紀子¹⁾, 百東比古 (1) 西部総合病院形成外科): 重傷熱傷救命後の長期間にわたる回復期的治療の経験. 日本熱傷学会関東地方会 (第 19 回) (東京), 2011. 1.
 - 90) Orbay H, 高見佳宏, 河邊京子, 水野博司¹⁾, 百東比古 (1) 順天堂大学形成外科): 脂肪由来幹細胞を播種した無細胞真皮マトリックスの軟部組織 Filler としての有用性. 日本医科大学外国人留学者研究会 (第 21 回) (東京), 2011. 1.
 - 91) 黄 晨昱¹⁾, 小川 令¹⁾, 宮崎邦夫²⁾, 赤石論史^{1,3)}, 百東比古¹⁾ (1) 形成外科, ²⁾ 自治医科大学形成外科, ³⁾ スタッフォード大学形成外科): 細胞伸展刺激がヒト皮膚線維芽細胞に与える生物学的効果. 日本医科大学外国人留学者研究会 (第 21 回) (東京), 2011. 1.
 - 92) 石井暢明, 秋元正宇¹⁾, 百東比古 (1) 千葉北総病院形成外科): 返し付き合成吸収糸の真皮縫合への使用経験. 形成外科手術手技研究会 (第 16 回) (大阪), 2011. 1.
 - 93) 渡邊真泉, 小川 令, 百東比古: 高度機能障害を伴った重症ケロイドの 1 症例. 日本形成外科学会東京地方会 (第 265 回) (東京), 2011. 3.
- (9) 主題演題:
- 1) 小川 令, 黄 晨昱, 飯村剛史: 植皮術におけるワイヤーフレーム外固定法の工夫: 特に収支への植皮での応用について. 形成外科手術手技研究会 (第 16 回) (大阪), 2011. 2.

[武蔵小杉病院形成外科]

研究概要

臨床：ケロイドや肥厚性瘢痕の治療において、術後療法 best protocol 作成へ向けた取り組みを引き続き行った。ケロイドや肥厚性瘢痕の予防および早期発見に主眼を置いた新たなコンセプトである scar control 外来にて、2000例を超える女性診療科産科の患者さまを術後早期から診察した結果、術後の肥厚性瘢痕予防およびケロイドの早期治療が可能となった。現在では術後1ヶ月目の瘢痕状態から、肥厚性瘢痕への移行率を予測できるようになり、早期治療を行った結果、ケロイド発生率を低下させることができている。また、難治のアクネケロイドに対して光線力学療法を併用することで、治療効果をあげている。さらに、LEDを用いた光線療法を褥瘡や下腿潰瘍などの難治性潰瘍に対しても行い上皮化促進効果を得ている。一方で、重症下肢虚血においては近隣病院と協力しあうことで集学的治療を可能とした医療チーム j. WALK に参加し、創傷管理を中心に救肢に努めていると同時に、当院に新設された血管内・低侵襲治療センターとも協力体制を構築し救肢に務めている。加えて、眼形成外科領域の手術数が年々増加していることに伴い、今後は眼科との協力体制を築き、より専門性の高い外来を行いたいと考えている。

基礎：ケロイドの発生機序の解明と特効薬の開発を目的とした基礎研究を継続している。われわれは、ケロイド発生に IL-6 シグナルが関与していることを明らかにしてきたが、その研究を進展させ、IL-6 シグナルに持続的な刺激を与えている可能性がある Th17 (helper T cell) の働きについて注目し、新たな研究を行っている。さらに、ケロイドにおける Wnt シグナルなどの解析も行い、ケロイド発生原因の解明および新治療の開発を目指している。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 土佐眞美子, 村上正洋, 百束比古¹⁾ (1) 付属病院形成外科・美容外科)：産婦人科手術後1か月目の瘢痕評価・分類の試みとそれに基づく肥厚性瘢痕およびケロイド発生率の検討. 瘢痕・ケロイド治療ジャーナル 2010;4:116-117.
- 2) 百束比古¹⁾, 村上正洋 (1) 付属病院形成外科・美容外科)：熱傷眼瞼の再建. PEPARS 2010;43:24-29.
- 3) Murakami M, Hyakusoku H¹⁾, Ogawa R¹⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School Hospital)：The use of Japanese “kenzan” flower holders to create scar-less drainage holes in skin grafts. Burns 2010;36(5):732-733.
- 4) Ghazizadeh R¹⁾, Shimizu H²⁾, Tosa M, Ghazizadeh M²⁾ (1) Academic Dermatology and Skin Cancer Institute, East Washington Street, 2) Department of Molecular Pathology Institute of Development and Aging Sciences, Nippon Medical School)：Pathogenic mechanisms shared between psoriasis and cardiovascular disease. Int J Med Sci 2010;7(5):284-289.
- 5) 桑原大彰, 土佐眞美子, 岩切 致, 奈良慎平, 村上正洋, 百束比古¹⁾ (1) 付属病院形成外科・美容外科)：両側耳垂ピアス後に発症した片側耳垂ピアスケロイドの検討：患側と健側の比較検討. 瘢痕・ケロイド治療ジャーナル 2010;4:79-82.
- 6) 青木雅代¹⁾, 赤石論史¹⁾, 小野真平¹⁾, 岩切 致, 水野博司¹⁾, 小川 令¹⁾, 百束比古¹⁾ (1) 付属病院形成外科・美容外科)：ケロイドに対する皮弁術の有用性と問題点. 瘢痕・ケロイド治療ジャーナル 2010;4:108-111.
- 7) 村上正洋, 岩切 致, 百束比古¹⁾ (1) 付属病院形成外科・美容外科)：頭部の体表悪性腫瘍における治療戦略. PEPARS 2010;46:1-12.
- 8) 志村知子¹⁾, 村上正洋 (1) 付属病院 高度救命救急センター)：熱傷創の管理と看護ケア. 重症集中ケア 2010;9:61-67.
- 9) 村上正洋：退行性上眼瞼皮膚弛緩症に対する眉毛下皮膚切除法. PEPARS 2011;51:52-61.

10) 村上正洋：牽引筋腱膜縫着術と眼輪筋短縮術を併用した下眼瞼内反症手術. PEPARS 2011；51：103-111.

(2) 症例報告：

- 1) Kitta E¹⁾, Murakami M, Miyazato H²⁾, Akimoto M¹⁾, Hyakusoku H³⁾ (1) Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, 2) Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Ohama Daiichi Hospital, 3) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School Hospital) : Merkel cell carcinoma on the upper lip of a 100-year old woman. J Nippon Med Sch 2010 ; 77 (4) : 214-217.
- 2) Nara S, Murakami M, Oki K, Kaseki H¹⁾, Matsushima T¹⁾, Hyakusoku H²⁾ (1) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital, 2) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery Nippon Medical School Hospital) : Preoperative administration of Planovar ; in two cases of abdominal wall endometriosis after cesarean section. J Nippon Med Sch 2010 ; 77 (5) : 260-264.
- 3) Murakami M, Fukaya S¹⁾, Furuya M²⁾, Hyakusoku H³⁾ (1) Department of Nursing, Chikusei City Hospital, 2) Department of Surgery, Chikusei City Hospital, 3) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School Hospital) : A case of von Willebrand disease discovered during treatment of a sacral pressure ulcer. J Nippon Med Sch 2010 ; 77 (6) : 325-327.

著 書

- 1) Murakami M, Ogawa R¹⁾, Hyakusoku H¹⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School Hospital) : [分担] Tips for skin grafting. Color atlas of burn reconstructive surgery (Hiko Hyakusoku, Dennis P. Orgill, Luc Teot, Julian J. Pribaz, Rei Ogawa), 2010 ; pp146-157, Springer, Heidelberg.
- 2) Hyakusoku H¹⁾, Murakami M (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School Hospital) : [分担] Propeller flap and central axis flap method. Color atlas of burn reconstructive surgery (Hiko Hyakusoku, Dennis P. Orgill, Luc Teot, Julian J. Pribaz, Rei Ogawa), 2010 ; pp198-207, Springer, Heidelberg.
- 3) 村上正洋, 百束比古¹⁾ (1) 付属病院形成外科・美容外科) : [分担] Central axis flap method-multilobed propeller flap, scar band rotation flap, pin-wheel flap. 使える皮弁 (上巻) (百束比古, 中島龍夫), 2010 ; pp74-81, 全日本病院出版会.
- 4) 百束比古¹⁾, 岩切 致, 野本俊一¹⁾ (1) 付属病院形成外科・美容外科) : [分担] 遠位茎腓腹皮弁 (distally based sural flap). エキスパート形成再建外科手術 ひと目で分かる術式選択とテクニック (光嶋 勲), 2010 ; pp326-335, 中山書店.

学会発表

(1) 教育講演：

- 1) 土佐真美子：癬痕予測：産婦人科1500例の手術直後かなみた癬痕の変化と予測方法について。日本産科婦人科学会学術講演会（第62回）（東京），2010。4.

(2) シンポジウム：

- 1) Tosa M, Ghazizadeh M¹⁾, Murakami M, Hyakusoku H²⁾ (1) Department of Molecular Pathology Institute of Development and Aging Sciences, Nippon Medical School, 2) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School Hospital) : Functional implication of the IL-6 signaling in keloid pathogenesis. The international scar meeting (The 1th) (Tokyo), 2010. 11.

(3) パネルディスカッション：

- 1) 大木更一郎¹⁾, 小川 令¹⁾, 水野博司¹⁾, 村上正洋, 高 建華¹⁾, 王 春梅¹⁾, 百束比古¹⁾ (1) 付属病院形成外科・美容外科)：顔面頸部瘢痕拘縮の治療戦略；特に下顔面：頸部高度瘢痕拘縮に対する皮弁再建手術手技. 日本熱傷学会 (第 36 回) (神奈川), 2010. 6.
- 2) 土佐真美子, 村上正洋, 朝倉啓文¹⁾, 松島 隆¹⁾, 百束比古²⁾ (1) 武蔵小杉病院女性診療科・産科, 2) 付属病院形成外科・美容外科)：産婦人科手術後の肥厚性瘢痕・ケロイドの予防と早期治療への取り組み. 日本外科系連合学会 (第 35 回) (千葉), 2010. 6.
- 3) 秋元正宇¹⁾, 赤石論史²⁾, 村上正洋, 百束比古²⁾ (1) 千葉北総病院形成外科, 2) 付属病院形成外科・美容外科)：コンピューターシミュレーションから“きず・きずあと”の Best Practice を探る. 日本創傷外科学会 (第 2 回) (兵庫), 2010. 7.

(4) セミナー：

- 1) 土佐真美子：手術の傷跡を綺麗にしよう！. 川崎市民アカデミー 2010 年度後期ステップアップ講座 (神奈川), 2010. 11.

(5) 一般講演：

- 1) Murakami M, Ogawa R¹⁾, Hyakusoku H¹⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School Hospital)：The transverse cervical artery perforator based cervico-pectoral flap. The international society for burn injury (The 15th) (Istanbul), 2010. 6.
- 2) Murakami M, Ogawa R¹⁾, Hyakusoku H¹⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School Hospital)：The use of Japanese “kenzan” flower holders to create scar-less drainage holes in skin grafts. The international society for burn injury (The 15th) (Istanbul), 2010. 6.
- 3) Kuwahara H, Murakami M, Iwakiri I, Ogawa R¹⁾, Hyakusoku H¹⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School Hospital)：Long-term outcomes of the neck scar contraction reconstructions done with “super-thin flaps”. The China-Japan Joint meeting on plastic surgery (The 20th) (Shanghai), 2010. 8.
- 4) Kuwahara H, Murakami M, Hyakusoku H¹⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School Hospital)：80 cases of upper eyelid dermatochalasis treated by infrabrow excision blepharoplasty. International congress of oriental society of aesthetic plastic surgery (The 12th) (Tokyo), 2010. 11.
- 5) Kuwahara H, Tosa M, Iwakiri I, Tajima M, Murakami M, Hyakusoku H¹⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School Hospital)：Analysis of diseases that resemble keloid and diagnosis is difficult. The international scar meeting (The 1th) (Tokyo), 2010. 11.
- 6) Igota S¹⁾, Tosa M, Ghazizadeh M²⁾, Murakami M, Hyakusoku H³⁾ (1) Department of Plastic and Reconstructive Surgery, HigashiTotsuka Memorial Hospital, 2) Department of Molecular Pathology Institute of Development and Aging Sciences, Nippon Medical School, 3) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School Hospital)：The role of Wnt signal pathway in keloid pathogenesis. The international scar meeting (The 1th) (Tokyo), 2010. 11.
- 7) 村上正洋, 中村 敏¹⁾, 百束比古²⁾ (1) なかむら眼科・形成外科, 2) 付属病院形成外科・美容外科)：眉下切開法により生じる眼瞼の形態変化について. 日本形成外科学会総会 (第 53 回) (石川), 2010. 4.
- 8) 土佐真美子, 村上正洋, 百束比古¹⁾ (1) 付属病院形成外科・美容外科)：耳垂ケロイドに対する手術療法：後療法別の再発率の検討. 日本形成外科学会総会 (第 53 回) (石川), 2010. 4.
- 9) 土肥輝之¹⁾, 青木雅代¹⁾, 赤石論史¹⁾, 小野真平¹⁾, 岩切 致, 水野博司¹⁾, 小川 令¹⁾, 百束比古¹⁾ (1) 付属病院形成外科・美容外科)：ケロイドに対する皮弁術の有用性と問題点. 日本形成外科学会総会 (第 53 回) (石川),

2010. 4.

- 10) 桑原大彰, 土佐眞美子, 奈良慎平, 岩切 致, 村上正洋: 当科におけるケロイド・肥厚性瘢痕類似疾患の検討. 日本形成外科学会総会 (第 53 回) (石川), 2010. 4.
- 11) 小川 令¹⁾, 小野真平¹⁾, 村上正洋, 百東比古¹⁾ (1) 付属病院形成外科・美容外科): 植皮術における腫々のワイヤーフレーム外固定法の工夫. 日本熱傷学会 (第 36 回) (神奈川), 2010. 6.
- 12) 香西達一¹⁾, 小川 令¹⁾, 大木琴美, 村上正洋, 百東比古¹⁾ (1) 付属病院形成外科・美容外科): 手背・手指の熱傷潰瘍・瘢痕拘縮再建における各種遠隔皮弁の利用. 日本熱傷学会 (第 36 回) (神奈川), 2010. 6.
- 13) 桑原大彰, 田嶋繭子, 土佐眞美子, 岩切 致, 村上正洋: 上口唇に生じた肉芽腫性口唇炎の 1 例. 横浜形成外科フォーラム (第 16 回) (神奈川), 2010. 6.
- 14) 桑原大彰, 土佐眞美子, 岩切 致, 田嶋繭子, 村上正洋, 百東比古¹⁾ (1) 付属病院形成外科・美容外科): 当科におけるケロイド類似疾患の検討. 日本形成外科学会東京地方会 (第 262 回) (東京), 2010. 7.
- 15) 土佐眞美子, 村上正洋, 朝倉啓文¹⁾, 松島 隆¹⁾, 百東比古²⁾ (1) 武蔵小杉病院女性診療科・産科, ²⁾ 付属病院形成外科・美容外科): 初回術後瘢痕結果による次回術後瘢痕予測は可能か?. 日本創傷外科学会 (第 2 回) (兵庫), 2010. 7.
- 16) 村上正洋, 秋元正宇¹⁾, 百東比古²⁾ (1) 千葉北総病院形成外科, ²⁾ 付属病院形成外科・美容外科): 有限要素法解析から得られた縫合線とドッグイヤーの関係を基に考えた皮膚腫瘍の手術方法. 日本創傷外科学会 (第 2 回) (兵庫), 2010. 7.
- 17) 野村好美¹⁾, 村上正洋, 若城由美子²⁾, 伊藤桃子¹⁾, 松村絵美¹⁾ (1) 武蔵小杉病院看護部, ²⁾ 武蔵小杉病院薬剤科): 気管切開部周囲皮膚褥瘡の予防に対する当院の試み. 日本褥瘡学会 (第 12 回) (千葉), 2010. 8.
- 18) 村上正洋, 秋元正宇¹⁾, 百東比古²⁾ (1) 千葉北総病院形成外, ²⁾ 付属病院形成外科・美容外科): 術後瘢痕とドッグイヤーの関係から考えた皮膚皮下腫瘍手術の作図方法. 日本医科大学医学会 (第 78 回) (東京), 2010. 9.
- 19) 田嶋繭子, 村上正洋, 大木琴美¹⁾, 百東比古²⁾ (1) 博慈会記念総合病院 形成外科, ²⁾ 付属病院形成外科・美容外科): W 形成術を応用した Cheek rotation flap. 日本医科大学医学会 (第 78 回) (東京), 2010. 9.
- 20) 土佐眞美子, モハammadガジザデ¹⁾, 枝川聖子¹⁾, 百東比古²⁾, 村上正洋 (1) 老人病研究所病理部門, ²⁾ 付属病院形成外科・美容外科): ケロイドにおける Th17 細胞の IL-6 シグナル促進効果の検討. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第 19 回) (神奈川), 2010. 9.
- 21) 村上正洋, 秋元正宇¹⁾, 百東比古²⁾ (1) 千葉北総病院形成外科, ²⁾ 付属病院形成外科・美容外科): 皮膚厚の違いによる皮膚腫瘍摘出術の作図法: 有限要素法から求めたドッグイヤーの高さを基準として. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第 19 回) (神奈川), 2010. 9.
- 22) 桑原大彰, 土佐眞美子, モハammadガジザデ¹⁾, 枝川聖子¹⁾, 百東比古²⁾, 村上正洋 (1) 老人病研究所病理部門, ²⁾ 付属病院形成外科・美容外科): ケロイド発生における上皮間葉転換の検討. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第 19 回) (神奈川), 2010. 9.
- 23) 田嶋繭子, 村上正洋, 土佐眞美子, 岩切 致, 桑原大彰: 診断に難渋した手背皮下硬結の 1 例. 神奈川症例検討会 (神奈川), 2010. 11.
- 24) 桑原大彰, 岩切 致, 百東比古¹⁾, 村上正洋 (1) 付属病院形成外科・美容外科): 深在性エリテマトーデスによる顔面陥凹変形に対し遊離腹直筋皮弁により再建し 1 例. 日本マイクロサージャリー学会 (第 37 回) (愛知), 2010. 11.
- 25) 田嶋繭子, 村上正洋, 土佐眞美子, 岩切 致, 桑原大彰: V.A.C ATS 治療システム使用を契機に DIC を発症したと考えられる 1 例. 横浜形成外科フォーラム (第 17 回) (神奈川), 2010. 11.
- 26) 野村好美¹⁾, 村上正洋, 土佐眞美子, 徳永 昭²⁾ (1) 武蔵小杉病院看護部, ²⁾ 武蔵小杉病院 消化器病センター): 院内の創傷管理におけるゲートキーパーとしての看護師の役割. 日本創傷治癒学会 (第 40 回) (東京), 2010. 12.

- 27) 村上正洋, 桑原大彰, 田嶋繭子, 岩切 致, 土佐眞美子, 百東比古¹⁾ (1) 付属病院形成外科・美容外科) : 左右の Cervico-Pectorao flap による熱傷頸部瘢痕拘縮再建を 2 回に分けて行う意義. 日本熱傷学会関東地方会 (第 19 回) (東京), 2011. 1.

[千葉北総病院形成外科]

研究概要

ケロイドの進展機序に関するコンピューターシミュレーションの研究, 頭蓋顔面外科領域とくに脳神経外科との境界領域における頭蓋再建術の研究に成果があった. 皮膚手術シミュレーションの研究は, 様々な皮膚形成術をモデル化し, 手術シミュレーションを行うものである. 皮膚形成術により発生する皮膚の進展, 圧縮変形, 応力, ひずみなどを解析しその構造力学的挙動を解明した. 皮弁形成術のデザインは熟練医の経験と勘によることが多かった. これを客観的に示し, 誰にでもできるようにするために, 皮膚形成術の従来法を構造力学的に評価した. 褥瘡発生機序の研究は, 褥瘡モデルを作成し, 様々な力学的条件からその発生機序を解明するものである. これらの結果から, 褥瘡発生予防効果の高いシートの形状を考察した. 今後, 褥瘡発生予防のための新しい器具の開発, 褥瘡再発防止効果の高い新しい手術法の開発等が期待できる. ケロイドの進展機序に関する研究は, ケロイドをモデル化し, 応力集中の状況からその進展機序を解明しようとするものである. 従来モデルでは説明のできなかった様々ケロイドの特性について構造力学的に解析した. さらにケロイドの進展予防のためのシリコンシートの作用機序について解明を試みた. 頭蓋顔面外科領域の再建の研究では, 自家組織による再建を中心として, 整容的にも考慮した術式を考案した. とくに肋骨によるフレームを用いることによって効果的に小児の頭蓋を再建することに成功した. また頭蓋骨外板を分節上に切離しさらにこれを皮弁として用いることで形態再建に優れた術式を開発した.

研究業績

論文

(1) 原著 :

- 1) Akaishi S¹⁾, Akimoto M, Hyakusoku H¹⁾, Ogawa R¹⁾ (1) 付属病院形成外科・美容外科) : The tensile reduction effects of silicone gel sheeting. *Plast Reconstr Surg* 2010 ; 126 (2) : 190e-211e.
- 2) Kitta E, Murakami M¹⁾, Miyazato H²⁾, Akimoto M, Hyakusoku H³⁾ (1) 武蔵小杉病院形成外科, 2) 大浜第一病院, 3) 付属病院形成外科・美容外科) : Merkel cell carcinoma on the upper lip of a 100-year old woman. *J Nippon Med Sch* 2010 ; 77 (4) : 214-217.

(2) 総説 :

- 1) 秋元正宇 : 手の熱傷. *形成外科* 2010 ; 53 (12) : s176-s176.

著書

- 1) Akimoto M : [分担] Analysis of human pressure ulcer and cushion pads for its prevention. *Finite Element Analysis (David Moratal)*, 2010 ; pp237-250, Scyo,Rijeka,Croatia.
- 2) Hyakusoku H¹⁾, Akimoto M (1) 付属病院形成外科) : [共著] The square flap method. *Atlas of burn reconstructive surgery (Hiko Hyakusoku, Dennis P. Orgill, Luc Teot, Julian J. Pribaz, Rei Ogawa)*, 2010 ; pp186-197, Springer, Heidelberg.
- 3) 秋元正宇 : [分担] 口腔内の外傷. *総合診療マニュアル (上原譽志夫ほか)*, 2010 ; pp333-334, 金芳堂.
- 4) 秋元正宇, 太組一朗¹⁾ (1) 武蔵小杉病院脳神経外科) : [分担] 局所皮弁のテクニック. *NS Now No.13 整容脳神経外科 update (寺本 明)*, 2011 ; pp180-186, メジカルビュー社.
- 5) 太組一朗¹⁾, 秋元正宇 (1) 武蔵小杉病院脳神経外科) : [分担] 術後感染に対する治療. *NS Now No.13 整容脳*

学会発表

(1) 特別講演:

- 1) 秋元正宇: 整容を考慮した頭皮, 頭蓋骨の取扱い. 北海道整容脳神経セミナー (第2回), 2010. 9.
- 2) 秋元正宇: 脳腫瘍治療後, その傷跡どうする?. 文京脳腫瘍研究会, 2011. 2.

(2) 教育講演:

- 1) 秋元正宇: 有限要素法による皮膚・軟部組織のシミュレーション. 日本シミュレーション外科学会 (第20回), 2010. 11.

(3) パネルディスカッション:

- 1) 秋元正宇, 赤石論史¹⁾, 村上正洋²⁾, 百束比古¹⁾ (1) 付属病院形成外科, 2) 武蔵小杉病院形成外科): コンピュータシミュレーションから“きず・きずあと”の Best Practice を探る. 日本創傷外科学会総会・学術集会 (第2回), 2010. 7.
- 2) 秋元正宇, 百束比古¹⁾ (1) 付属病院形成外科): 開頭術後の創感染に対するベストプラクティス. 日本創傷外科学会総会・学術集会 (第2回), 2010. 7.

(4) セミナー:

- 1) 秋元正宇: 鼠径ヘルニア手術のイノベーション: セルフグリップ Mesh と Knotless デバイス. 日本臨床外科学会 (第72回), 2010. 11.

(5) 一般講演:

- 1) 秋元正宇: 有限要素解析における瘢痕拘縮状態の表現法. 日本シミュレーション外科学会 (第20回), 2010. 11.
- 2) 秋元正宇, 百束比古¹⁾ (1) 付属病院形成外科): 感染頭蓋の分節状 vascularized carvarial bone flap による再建. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第53回), 2010. 4.
- 3) 村上正洋¹⁾, 秋元正宇, 百束比古²⁾ (1) 武蔵小杉病院形成外科, 2) 付属病院形成外科): 有限要素法解析から得られた縫合線とドッグイヤーの関係を基に考えた皮膚腫瘍の手術方法. 日本創傷外科学会総会・学術集会 (第2回), 2010. 7.
- 4) 秋元正宇, 赤石論史¹⁾, 百束比古¹⁾ (1) 付属病院形成外科): 有限要素法による瘢痕拘縮状態のシミュレーション. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第19回), 2010. 9.
- 5) 橋 五月, 橋田絵里香, 宮田美穂, 秋元正宇, 百束比古¹⁾ (1) 付属病院形成外科): ラット使用実験における麻酔方法の検討. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第19回), 2010. 9.
- 6) 村上正洋¹⁾, 秋元正宇, 百束比古²⁾ (1) 武蔵小杉病院形成外科, 2) 付属病院形成外科・美容外科): 術後瘢痕とドッグイヤーの関係から考えた皮膚皮下腫瘍手術の作図方法. 日本医科大学医学会 (第78回), 2010. 9.
- 7) 秋元正宇, 百束比古¹⁾ (1) 付属病院形成外科): 拘縮状態の有限要素解析とその周辺の応力分布の観察. 第40回日本創傷治癒学会 (第40回), 2010. 12.

20. 付属病院付置施設等

[付属病院遺伝診療科]

研究概要

遺伝子医療部門が大学病院を中心に全国的に立ち上がる新しい時代の遺伝子医学に対応するため、日本医科大学付属病院では平成15年5月から独立した遺伝診療科として外来診療を行っている。平成16年には、私立大学として初めて臨床遺伝専門医研修施設として認定され、現在も学内外から研修医が集まっている。対象疾患は先天性代謝異常症、家族性腫瘍、染色体異常症など多彩な分野にわたり、年々来談者数は増加し新患者数は平成23年3月までのべ450件となった。遺伝診療外来は臨床遺伝専門医、看護師、認定遺伝カウンセラーがチームで担当している。本学では基礎医学研究者、臨床医、看護師、認定遺伝カウンセラー、臨床心理士などの各職種が密接に連携して、遺伝と遺伝病にたいする様々な問題を解決できる独自の遺伝診療体制を確立し、個々の症例の診療方針や倫理的問題点は、外来担当者以外に各職種が参加する月1回定例の遺伝診療カンファレンスで検討している。特に、高度の倫理的な検討が必要な出生前遺伝子診断、神経疾患の発症前診断は倫理委員会との連携をとり施行した。遺伝子検査はハイテクリサーチセンターと共同で低ホスファターゼ症、血管型 Ehlers-Danlos 症候群、ライソゾーム病などについて遺伝子診断法を独自に確立し、他施設からの依頼にも応じている。遺伝診療は、新しい医学領域であり、既に厚生労働省から臨床遺伝専門医の標榜が認められている。さらに、臨床遺伝教育に関しては、卒前（臨床遺伝コース）、卒後（臨床遺伝専門医制度認定施設）に力を入れ、学外からも高い評価を受けている。本年度は厚生労働省の研究班「過剰運動<hypermobility>症候群類縁疾患における診断基準の確立ならびに病態解明」が本診療科を中心に立ち上がった。今後も我が国の遺伝医療の一角を担うと共に、日本医科大学を代表する診療科として発展させていきたい。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Watanabe A, Karasugi T¹, Sawai H², Naing B, Ikegawa S¹, Orimo H³, Shimada T (1) 理化学研究所ゲノム医科学研究センター, (2) 兵庫医科大学, (3) 生化学・分子生物学(構造学・栄養学): Prevalence of c.1559delT in ALPL, a common mutation resulting in the perinatal (lethal) form of hypophosphatasia in Japanese and effects of the mutation on heterozygous carriers. *J Hum Genet* 2011; 56 (2) : 166-168.
- 2) Naing B, Watanabe A, Shimada T : A novel mutation screening system for Ehlers-Danlos Syndrome, vascular type by high-resolution melting curve analysis in combination with small amplicon genotyping using genomic DNA. *Biochem Biophys Res Commun* 2011; 405 (3) : 368-372.
- 3) 大西弘高¹, 渡邊 淳, 石川ひろの², 小田康友³, 杉本なおみ⁴, 守屋利佳⁵, 吉田素文⁶, 森本 剛⁷, 吉村明修⁸, 阿曾亮子⁸, 志村俊郎⁸ (1) 東京大学医学教育国際協力研究センター, (2) 東京大学大学院医学研究科公共健康医学専攻医療コミュニケーション学, (3) 佐賀大学医学部地域医療科学教育研究センター, (4) 慶應義塾大学看護医療学部, (5) 北里大学医学部医学教育学, (6) 九州大学医学研究院医学教育学部門医学教育学, (7) 京都大学医学部医学教育推進センター, (8) 教育推進室) : 医学教育領域におけるランダム化比較試験の実施上の課題. *医学教育* 2010; 41 (1) : 65-71.
- 4) 古庄知己¹, 渡邊 淳, 森崎裕子², 福嶋義光¹, 簀持 淳³ (1) 信州大学付属病院遺伝子診療部, (2) 国立循環器病研究センター研究所分子生物学部, (3) 獨協医科大学皮膚科学) : 難治性疾患克服事業による血管型エーラスダンロス症候群の実態調査. *日本遺伝カウンセリング学会誌* 2010; 31 (3) : 157-161.

(2) 症例報告：

- 1) Kimura K¹⁾, Sakai-Kimura M¹⁾, Takahashi R¹⁾, Watanabe A, Mukai M¹⁾, Noma S¹⁾, Fukuda K¹⁾ (1) Department of Regenerative Medicine and Advanced Cardiac Therapeutics, Keio University School of Medicine, Tokyo, Japan) : Too friable to treat?. Lancet 2010 ; 375 (9725) : 1578-1578.

著 書

- 1) 渡邊 淳：〔分担〕先天奇形症候群の診断と予後. 小児科ピクシス 16 新生児医療 (渡辺とよ子), 2010 ; pp288-289, 中山書店.
- 2) 渡邊 淳：〔分担〕遺伝情報を診療で活用するための課題. はじめて出会う生命倫理 (玉井真理子, 大谷いづみ), 2011 ; pp77-77, 有斐閣.

学会発表

(1) 教育講演：

- 1) 渡邊 淳：PGx 検査への遺伝子医療部門の関わり 全国遺伝子医療部門調査結果をふまえて. 第 8 回 (2010 年) 全国遺伝子医療部門連絡会議 (さいたま市), 2010. 10.

(2) ワークショップ：

- 1) 渡邊 淳¹⁾ (1) 生化学・分子生物学 (分子遺伝学)) : 遺伝医学実習 : 検査や研究の基本操作である PCR を経験しよう. 第 55 回日本人類遺伝学会学術集会 (さいたま市), 2010. 10.

(3) 一般講演：

- 1) 菅野華子¹⁾, 三宅秀彦, 渡辺 淳, 松村好克²⁾, 島 義雄²⁾, 村山 圭³⁾, 高柳正樹³⁾, 福永慶隆, 島田 隆, 大木由加志 (1) 小児科学, 2) 葛飾赤十字産院, 3) 千葉県立こども病院) : 新生児期に発症したミトコンドリア呼吸鎖異常症の 1 例. 日本人類遺伝学会 第 54 回大会 (さいたま市), 2010. 10.
- 2) Naing B¹⁾, Watanabe A¹⁾, Hatamochi A²⁾, Morisaki H³⁾, Shimada T¹⁾ (1) 生化学・分子生物学 (分子遺伝学), 2) 獨協医科大学皮膚科学, 3) 国立循環器病研究センター研究所) : Nonsense mutations of COL3A1 gene causing nonsense-mediated mRNA decay in two Japanese patients with Vascular type of Ehlers-Danlos Syndrome. 60th Annual meeting of American Society of Human Genetics ASHG (ワシントン DC (USA)), 2010. 11.
- 3) Watanabe A, Hatakeyama M¹⁾, Tsunoda R²⁾, Matsumoto K³⁾, Kawame H¹⁾, Shimada T (1) お茶の水女子大学, 2) 整形外科学, 3) 島根大学) : Hypermobility Syndrome in Japan. 60th Annual meeting of American Society of Human Genetics ASHG (ワシントン DC), 2010. 11.
- 4) Watanabe A¹⁾, Naing B¹⁾, Shimada T¹⁾ (1) 生化学・分子生物学 (分子遺伝学)) : A Novel Mutation Screening System for Vascular Type Ehlers-danlos Syndrome (Veds, Eds Type IV) Using High Resolution Melt-ing Curve Analysis (Hrmca). 9th Asia Pacific Conference on Human Genetics (HongKong), 2010. 12.
- 5) 大森意索¹⁾, 高野由紀子¹⁾, 清水光政¹⁾, 渡辺とよ子¹⁾, 渡辺 淳, 菅野華子, 島田 隆 (1) 東京都立墨東病院 新生児科) : TNSALP 変異が同定された周産期型低フォスファターゼ症の 1 例. 第 33 回日本小児遺伝学会学術集会 (盛岡), 2010. 4.
- 6) 畠山 (三澤) 未来¹⁾, 渡辺 淳, 鈴木由美, 渡辺裕子, 垣内麻由美, 大木由加志, 川目 裕¹⁾, 島田 隆 (1) 御茶の水女子大学) : 関節過可動型エーラス・ダンロス症候群における診療の課題. 第 34 回日本遺伝カウンセリング学会学術集会 (東京), 2010. 5.
- 7) 渡辺 淳, 古庄知己¹⁾, 鈴木由美, 日本エーラスダンロス症候群協会 (友の会) (1) 信州大学付属病院遺伝子診療部) : 日本におけるエーラス・ダンロス症候群の現状と課題患者会と協働で行ったアンケート調査を踏まえて. 第 34 回日本遺伝カウンセリング学会学術集会 (東京), 2010. 5.

- 8) 三宅秀彦, 渡辺 淳, 大木由加志, 島田 隆: 改正保険法施行と遺伝医療. 第34回日本遺伝カウンセリング学会学術集会(東京), 2010. 5.
- 9) 鈴木由美, 渡辺 淳, 阿部 崇¹⁾, 竹下俊行¹⁾, 島田 隆, 大木由加志 (¹⁾ 女性診療科・産科): FISH 法を併用した羊水検査の遺伝カウンセリング結果報告と産科との連携の在り方. 第34回日本遺伝カウンセリング学会学術集会(東京), 2010. 5.
- 10) ナイン バ¹⁾, 渡辺 淳¹⁾, 島田 隆¹⁾ (¹⁾ 生化学・分子生物学(分子遺伝学)): 高解像度融解曲線分析法を用いた血管型 Ehlers-Danlos 症候群 (vEDS, EDS type IV) の新規遺伝子変異スクリーニングシステムの開発. 第42回日本結合組織学会学術大会(秋田), 2010. 8.
- 11) 渡辺 淳, 畠山(三澤) 未来, 角田 隆¹⁾, 島田 隆 (¹⁾ 整形外科学): Hypermobility syndrome (Ehlers-Danlos 症候群関節可動亢進型) の課題. 第11回運動器科学研究会(軽井沢), 2010. 9.
- 12) 吉橋博史¹⁾, 濱崎祐子¹⁾, Naing B²⁾, 島田 隆, 渡辺 淳 (¹⁾ 東京都立小児総合医療センター, ²⁾ 生化学・分子生物学(分子遺伝学)): 腎移植を契機に診断された血管型エーラスダンロス症候群の1例. 日本人類遺伝学会 第54回大会(さいたま市), 2010. 10.
- 13) Naing B¹⁾, 渡辺 淳¹⁾, 森崎裕子²⁾, 菅野美紀³⁾, 船越美由紀³⁾, 旗持 淳³⁾, 島田 隆¹⁾ (¹⁾ 生化学・分子生物学(分子遺伝学), ²⁾ 国立循環器病研究センター研究所, ³⁾ 獨協医科大学皮膚科学): COL3A1 遺伝子にナンセンス変異を同定した血管型 Ehlers-Danlos 症候群2症例. 日本人類遺伝学会 第54回大会(さいたま市), 2010. 10.
- 14) 畠山未来¹⁾, 渡辺 淳, 角田 隆²⁾, 松本健一³⁾, 川目 裕¹⁾, 島田 隆 (¹⁾ お茶の水女子大学, ²⁾ 整形外科学, ³⁾ 島根大学): 日本における過剰運動症候群 (Hypermobility Syndrome) の現状. 日本人類遺伝学会 第54回大会(さいたま市), 2010. 10.
- 15) 渡辺 淳, 畠山(三澤) 未来, 角田 隆²⁾, 島田 隆 (¹⁾ 整形外科学): hypermobility syndrome の課題. 第3回日本運動器疼痛研究会(名古屋), 2010. 11.

[付属病院集中治療室]

研究概要

第38回日本集中治療医学会学術集会を, 2011年2月24日(木)~26日(金)パシフィコ横浜(横浜国際会議場)において開催した. 応募演題の総数は1032演題と過去最高で, 約5千5百人の参加をいただいた. メインテーマは「集学性 (Multidisciplinary) を考える」. 集中治療は医学の disciplinarity の集積であり, より広く, より専門性の高い知識や経験の結集が要求されるが, 一方では interdisciplinary に潜むピットフォールにも注意が必要である. 教育も含め理想的な集中治療を皆で考えようと企画した.

シンポジウムは“集学性 (Multidisciplinary) を考える”, “終末期医療2011”, “Post cardiac arrest syndrome”, “Cardio-Renal Syndromes”などのほか, 2つのスポンサードシンポジウムを加えた15医師部門シンポジウム, 5看護部門シンポジウム, 3臨床工学士部門シンポジウムを無事終了することができた. 25の教育講演や専門家による循環器セミナーなども好評であった.

メインシンポジウムには本学心臓血管外科落雅美教授, 卒後研修評価機構岩崎栄先生, 名大総合診療科伴信太郎教授にもご参加いただき, 招待講演4名, シンポジウムの基調講演あるいはコメンテータとして6名の海外演者を招聘, さらにランチョンセミナーなどを加えると総勢15名の海外演者による講演を無事終了した. (Kern KB, Levy MM, Vincent JL, Webb SA ほか). また急遽, ？ 凱江教授 (ハルビン医科大学) にもご講演いただいた. 次年度はこれらの経験をふまえ, タイ集中治療医学会やハルビン医科大学との国際交流が企画されている.

本年度は循環器領域における終末期医療へのガイドライン(提言)が完成し, 日本循環器学会のホームページに公表された. また5年間にわたり続けられたアスピリン耐性に関する ProGEAR 研究が終了し, その結果が第23回国

際血栓止血学会 (ISTH2011) の Late Breaking session で報告される予定となった。本年はアスピリン以外にも多くの抗血小板薬、抗凝固薬が登場し新展開の予感がある。これらはいずれも遺伝子多型の問題を抱え、遺伝子バンキングの必要性が叫ばれ、本学でも倫理委員会の承認を得ながら研究が進んでいる。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Kono A, Higashi M, Morisaki H, Morisaki T, Tsutsumi Y, Akutsu K, Naito H, Sugimura K : High prevalence of vertebral artery tortuosity of Loeys-Dietz syndrome in comparison with Marfan syndrome. *Jpn J Radiol* 2010 ; 28 (4) : 273-277.
- 2) Akutsu K, Morisaki H, Okajima T, Yoshimuta T, Tsutsumi Y, Takeshita S, Nonogi H, Ogino H, Higashi M, Morisaki T : Genetic Analysis of Young Adult Patients with Aortic Disease Not Fulfilling the Diagnostic Criteria for Marfan Syndrome. *Circ J* 2010 ; 74 (5) : 990-997.
- 3) Ueno A, Yamamoto T, Sato N, Tanaka K : "Ventricular fibrillation associated with early repolarization in a patient with thyroid storm". *Journal of Interventional Cardiac Electrophysiology* 2010 ; 29 (2) : 93-96.
- 4) Ueno A, Takagi R, Hayashi H, Tanaka K (1) Department of Radiology, Nippon Medical School) : "Computed tomographic demonstration of an acquired aortopulmonary fistula". *Internal Medicine* 2010 ; 49(22) : 2523-2524.
- 5) : Cardiac angiosarcoma diagnosed by transvenous endomyocardial biopsy with the aid of transesophageal echocardiography and intra-procedural consultation. *International Heart Journal* 2010 ; 51 (5) : 367-369.
- 6) 上野 亮, 細川雄亮, 宗像 亮, 時田祐吉, 坪 宏一, 山本 剛, 佐藤直樹, 田中啓治 : 甲状腺機能亢進症治療中に心室細動を呈した3症例の検討. *ICUとCCU* 2010 ; 34 (12) : 1097-1102.

(2) 総説：

- 1) 笠貫 宏, 相澤義房, 木村一雄, 源河朝広, 住友直方, 高山守正, 武田 聡, 中澤 誠, 長尾 建, 野々木宏, 三田村秀雄, 坪 宏一, 菊地 研, 小玉 誠, 児玉安司, その他6名 : 循環器病の診断と治療に関するガイドライン (2007~2008年度合同研究班報告) 循環器医のための心肺蘇生・心血管救急に関するガイドライン. 2009 ; 73 (suppl III) : 1361-1456.
- 2) 鈴木浩臣, 坪 宏一, 佐藤直樹 : hANP 製剤 : 心不全治療 ; 循環器薬の使い方—コツと落とし穴—. *Heart View* 2010 ; 28 (4) : 273-277.
- 3) 田島廣之, 村田 智, 中澤 賢, 福永 毅, 小野澤志郎, 嶺 貴彦, 上田達夫, 城 正樹, 渋谷絢子, 市川和雄, 山本 剛, 田中啓治 (1) 日本医科大学 放射線医学講座) : 急性肺血栓塞栓症のIVR. *IVR会誌* 2010 ; 25 (2) : 156-162.
- 4) 山本 剛, 田中啓治 : 肺血栓塞栓症. *消化器外科* 2010 ; 33 (5) : 747-748.
- 5) 中澤 賢, 田島廣之, 村田 智, 小野澤志郎, 嶺 貴彦, 上田達夫, 渋谷絢子, 山本 剛, 田中啓治 (1) 日本医科大学 放射線医学) : 深部静脈血栓症に対する血管内治療後, 再発を繰り返した1例. *心臓* 2010 ; 42 (7) : 985-985.
- 6) 山本 剛, 田中啓治 : 肺塞栓症の内科的治療. *心エコー* 2010 ; 11 (11) : 1094-1101.
- 7) 山本 剛 : 血栓溶解療法の実際. *血栓と循環* 2010 ; 18 (4) : 292-297.
- 8) 山本 剛 : 肺血管インターベンション. *日本臨牀* 2011 ; 69 (2) : 307-312.
- 9) 小野雄一, 山本 剛, 横田裕行 (1) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター) : 肺血栓塞栓症の診断. *臨床婦人科産科* 2011 ; 65 (2) : 137-141.
- 10) 坪 宏一 : 超急性期の診断と治療戦略 : 急性大動脈解離. *ICUとCCU* 2011 ; 35 (3) : 187-190.

(3) 症例報告：

- 1) Takeda S, Munakata R, Abe S, Mii S, Suzuki M, Kashiwada T, Azuma A, Yamamoto T, Gemma A, Tanaka K (1) Coronary Care Unit) : "Hypercytokinemia with 2009 pandemic H1N1 (pH1N1) influenza successfully treated with polymyxin B-immobilized fiber column hemoperfusion". Intensive Care Medicine 2010 ; 906-907.

著 書

- 1) 上野 亮：〔分担〕頸部の診察. 医学スーパーラーニングシリーズ 循環器内科学（水野杏一，安武正弘，平山悦之），2010；pp65-66, シュプリンガー・ジャパン.
- 2) 阿部信二，林 宏紀，鈴木 学 (1) 日本医科大学 内科学講座呼吸器・感染・腫瘍内科学)：〔分担〕“間質性肺炎治療法の新展開 エンドトキシン吸着療法 (PMX)”. 呼吸と循環 (58), 2010；pp397-402, 医学書院.
- 3) 山本 剛，田中啓治：〔分担〕鑑別診断：急性大動脈解離. 静脈血栓塞栓症ガイドブック（編著：小林隆夫），2010；pp72-78, 中外医学社.
- 4) 鈴木 学，吾妻安良太 (1) 日本医科大学 内科学講座呼吸器・感染・腫瘍内科学)：〔自著〕特発性肺線維症急性増悪への新対応. 治療学（寺本民生，岩本愛吉），2010；pp594-598, ライフサイエンス出版.
- 5) 山本 剛，田中啓治：〔分担〕急性冠症候群の治療指針. 救急・集中治療ガイドライン：最新の診療指針：2010 - '11（編著：岡元和文），2010；pp229-231, 総合医学社.
- 6) 時田祐吉：〔分担〕第2章 症候 2.呼吸困難. 循環器内科学（水野杏一，安武正弘，平山悦之），2010；pp36-38, シュプリンガー・ジャパン株式会社.
- 7) 坏 宏一：〔分担〕大動脈瘤. 医学スーパーラーニングシリーズ 循環器内科学（水野杏一・安武正弘・平山悦之編集），2010；pp330-332, シュプリンガー・ジャパン株式会社.
- 8) 坏 宏一：〔分担〕大動脈解離. 医学スーパーラーニングシリーズ 循環器内科学（水野杏一・安武正弘・平山悦之編集），2010；pp333-336, シュプリンガー・ジャパン株式会社.
- 9) 細川雄亮：〔分担〕チアノーゼ. 循環器内科学（水野杏一，安武正弘，平山悦之），2010；pp44-45, シュプリンガー・ジャパン株式会社.
- 10) 細川雄亮：〔分担〕心筋炎. 循環器内科学（水野杏一，安武正弘，平山悦之），2010；pp313-314, シュプリンガー・ジャパン株式会社.
- 11) 山本 剛：〔分担〕静脈疾患. 循環器内科学（編集：水野杏一，安武正弘，平山悦之），2010；pp342-344, シュプリンガー・ジャパン株式会社.
- 12) 山本 剛：〔分担〕心筋梗塞：治療，合併症とその対策. 循環器内科学（編集：水野杏一，安武正弘，平山悦之），2010；pp228-237, シュプリンガー・ジャパン株式会社.
- 13) 田中啓治，細川雄亮，鈴木 学：〔分担〕腎不全と急性心筋梗塞. 急性心筋梗塞（高野照夫），2011；pp233-242, 最新医学社.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 山本 剛：我が国における心肺蘇生とその後の社会復帰の現状と問題点. 第3回植え込みデバイス関連冬季大会，2011. 2.

(2) シンポジウム：

- 1) 細川雄亮，山本 剛，青景聡之，鈴木浩臣，鈴木 学，上野 亮，宗像 亮，時田祐吉，坏 宏一，佐藤直樹，竹田晋浩，田中啓治：治療抵抗性の乏尿性急性心不全に対する等容量性持続的血液濾過透析の効果. 第38回日本集中治療医学会学術集会（横浜），2011. 2.

- 2) 小泉有美馨, 竹田晋浩⁽¹⁾ 日本医科大学麻酔科学講座): 女性集中治療医の今: アンケート調査. 第38回日本集中治療医学会学術集 (横浜), 2011. 2.
- (3) パネルディスカッション:
- 1) 山本 剛, 佐藤直樹, 竹田晋浩, 田中啓治: 周術期モニタリングの進歩と安全なME危機管理: 安全なモニターに求められる条件. 第35回日本外科系連合学会学術集会, 2010. 6.
- (4) 一般講演:
- 1) Tokita Y, Sato N, Otsuka T, Hosokawa Y, Munakata R, Ueno A, Akutsu K, Yamamoto T, Tanaka K, Mizuno K⁽¹⁾ Department of Hygiene and Public Health, Nippon Medical School,,⁽²⁾ Department of Cardiology, Nippon Medical School): Additional measurement of N-terminal pro-BNP improves the diagnostic ability for acute ischemic heart failure. European Society of Cardiology Congress 2010 (Stockholm), 2010. 8.
- 2) Tokita Y, Sato N, Hosokawa Y, Munakata R, Ueno A, Akutsu K, Yamamoto T, Tanaka K, Fukushima Y, Kumita S, Mizuno K⁽¹⁾ Department of Radiology, Nippon Medical School,⁽²⁾ Department of Cardiology, Nippon Medical School): Intravenous bolus administration of nicorandil improves myocardial perfusion in patients with acute ischemic heart failure. European Society of Cardiology Congress 2010 (Stockholm), 2010. 8.
- 3) Tokita Y, Hosokawa Y, Munakata R, Yamamoto E, Yamamoto T, Takano H, Sato N, Yasutake M, Tanaka K, Mizuno K⁽¹⁾ Department of Cardiology, Nippon Medical School): Successful PCI for CTO lesion using reverse CART technique and contrast-saving method in a patient with AMI complicating renal insufficiency. 第19回日本心血管インターベンション学会学術集会 (仙台), 2010. 8.
- 4) Tokita Y, Sato N, Otsuka T, Hosokawa Y, Munakata R, Akutsu K, Yamamoto T, Tanaka K, Mizuno K⁽¹⁾ Department of Hygiene and Public Health): Additional Rapid Bedside Measurement of N-terminal pro-BNP Improves the Diagnostic Ability for Acute Ischemic Heart Failure on Admission. 第75回日本循環器学会総会・学術集会 (横浜), 2011. 3.
- 5) 鈴木 学, 林 宏紀, 阿部信二, 山本 剛, 佐藤直樹, 吾妻安良太, 弦間昭彦, 田中啓治⁽¹⁾ 日本医科大学内科学講座 (呼吸器・感染・腫瘍): 当院で経験したびまん性肺胞出血5症例の臨床的検討. 第22回日本アレルギー学会春季臨床大会, 2010. 4.
- 6) 坂井浩佑, 鈴木 学, 山本 剛, 佐藤直樹, 吾妻安良太, 弦間昭彦, 福田 悠, 田中啓治⁽¹⁾ 日本医科大学内科学 (呼吸器・感染・腫瘍),⁽²⁾ 日本医科大学 解析人体病理学): アミオダロンに伴う薬剤性肺障害が疑われ, 感染を契機に再増悪し, 剖検にてDAD及び肺胞壁の線維化を呈した1例. “第50回日本呼吸器学会学術講演会”, 2010. 4.
- 7) 鈴木 学, 坂井浩佑, 蛸井浩行, 阿部信二, 山本 剛, 佐藤直樹, 吾妻安良太, 弦間昭彦, 田中啓治⁽¹⁾ 日本医科大学 呼吸器・感染・腫瘍内科): 当院における膠原病合併肺胞出血症例の臨床的検討. 第22回日本アレルギー学会春季臨床大会, 2010. 5.
- 8) 上野 亮, 山本 剛, 佐藤直樹, 田中啓治, 加藤貴雄, 水野杏一⁽¹⁾ 日本医科大学 内科 循環器部門): アミオダロン静注後の血中濃度と不整脈抑制効果. 第25回日本不整脈学会学術大会 (名古屋), 2010. 6.
- 9) 鈴木 学, 林 宏紀, 村井綱児, 上野 亮, 宗像 亮, 阿部信二, 山本 剛, 佐藤直樹, 吾妻安良太, 弦間昭彦, 田中啓治⁽¹⁾ 日本医科大学 呼吸器・感染・腫瘍内科部門): 当院集中治療室にてBALFにより診断し得たびまん性肺胞出血4症例の臨床的検討. 第33回日本呼吸器内視鏡学会総会, 2010. 6.
- 10) 原 敬介, 細川雄亮, 藪野雄大, 青景聡之, 鈴木浩臣, 上野 亮, 宗像 亮, 時田祐吉, 坪 宏一, 山本 剛, 佐藤直樹, 田中啓治, 山本英世, 高野仁司, 水野杏一, その他1名⁽¹⁾ 日本医科大学 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門),⁽²⁾ 財団法人 日本心臓血圧振興会付属榊原記念病院 循環器内科): 著名な亀背を合併した左室流出路狭窄型閉塞性肥大型心筋症の心源性ショックにNO吸入療法が著効した1例. 第216回 日本

循環器学会関東甲信越地方会, 2010. 6.

- 11) 藪野雄大, 細川雄亮, 原 敬介, 青景聡之, 鈴木浩臣, 上野 亮, 宗像 亮, 時田祐吉, 坏 宏一, 山本 剛, 佐藤直樹, 田中啓治, 加藤活人, 草間芳樹, 新 博次, その他2名⁽¹⁾日本医科大学多摩永山病院 内科・循環器内科,⁽²⁾日本医科大学附属病院 小児科,⁽³⁾日本医科大学 内科学(循環器・肝臓・老年・総合病態部門): 川崎病後の巨大冠動脈瘤による大伏在静脈グラフトの可逆的な高度狭窄が認められた1例. 第217回 日本循環器学会関東甲信越地方会, 2010. 9.
- 12) 坏 宏一, 鈴木浩臣, 佐藤直樹, 淀川顕司, 青景聡之, 細川雄亮, 上野 亮, 宗像 亮, 時田祐吉, 山本 剛, 落 雅美, 水野杏一, 田中啓治: 病理所見で嚢状中膜壊死が認められたA型急性大動脈解離合併の常染色体優性遺伝多発嚢胞腎の1例. 第51回日本脈管学会総会(旭川), 2010. 10.
- 13) 坏 宏一, 田中啓治, 小山信彌, 桃原哲也, 吉野秀明, 長尾 健, 佐藤直樹, 高山守正: 大動脈疾患の移送時間の遅延に関する検討: 東京CCUネットワークのデータの検討. 第30回東京CCU研究会(東京), 2010. 12.
- 14) 藤田 彩, 時田祐吉, 安井美沙, 青景聡之, 鈴木浩臣, 村田広茂, 細川雄亮, 宗像 亮, 坏 宏一, 山本 剛, 佐藤直樹, 田中啓治, 落 雅美, 水野杏一⁽¹⁾日本医科大学付属病院 心臓血管外科,⁽²⁾日本医科大学付属病院 循環器内科: 急性大動脈解離の加療中に右房内浮遊血栓, 肺血栓塞栓症を合併した1例. 第218回日本循環器学会関東甲信越地方会(東京), 2010. 12.
- 15) 坏 宏一, 青景聡之, 鈴木浩臣, 細川雄亮, 宗像 亮, 時田祐吉, 山本 剛, 佐藤直樹, 水野杏一, 田中啓治: 背部痛は急性心筋梗塞の除外診断にどの程度有用か?: 急性大動脈解離との鑑別における有用性の検討. 第38回日本集中治療医学会学術集会(横浜), 2011. 2.
- 16) 藤田 彩, 時田祐吉, 青景聡之, 坏 宏一, 山本 剛, 佐藤直樹, 新田 隆, 落 雅美, 水野杏一, 田中啓治⁽¹⁾日本医科大学付属病院 心臓血管外科,⁽²⁾日本医科大学付属病院 循環器内科: CRT中断に伴い急激に肺水腫およびショックに陥った拡張型心筋症の1例. 第38回日本集中治療医学会学術集会(横浜), 2011. 2.
- 17) 鈴木 学, 青景聡之, 鈴木浩臣, 村田広茂, 宮地秀樹, 細川雄亮, 宗像 亮, 時田祐吉, 坏 宏一, 山本 剛, 佐藤直樹, 竹田晋浩, 田中啓治⁽¹⁾日本医科大学 呼吸器・感染症・腫瘍内科部門: Medical ICUにおけるsepsis/septic shockへのステロイド投与に関する検討. 第38回日本集中治療医学会学術集会(横浜), 2011. 2.
- 18) 鈴木 学, 原田潤一郎, 林 裕美, 中里桂子, 村田広茂, 宮地秀樹, 細川雄亮, 小泉有美馨, 根井貴仁, 神尾孝一郎, 斎藤好信, 阿部信二, 中村恭子, 坏 宏一, 山本 剛, その他5名⁽¹⁾日本医科大学 内科学 呼吸器・感染・腫瘍部門,⁽²⁾日本医科大学 内科学 血液・消化器・内分泌代謝部門: ATRA症候群による重症呼吸不全に対しNPPVが有効であった1例. 第193回日本呼吸器学会関東地方会, 2011. 2.
- 19) 荒井雅江, 小泉有美馨, 岡部 格⁽¹⁾日本医科大学麻酔科学講座: 左肺上大区域切除中に大量空気塞栓を合併し, 心停止した1例. 第38回日本集中治療医学会学術集会(横浜), 2011. 2.
- 20) 源田雄紀, 小泉有美馨, 橋爪良枝⁽¹⁾日本医科大学麻酔科学講座: 適切な人工呼吸管理導入と診断前化学療法が有効であったリンパ腫関連血球貪食症候群の1症例. 第38回日本集中治療医学会学術集会(横浜), 2011. 2.

[付属病院病理部]

研究概要

現在病理部は病理専門医である専任病理医5名に加え, 専門医を目指す病理医1名の医師6人体勢となり盤石な診断・研究の体制が整ってきました. そのほか細胞検査士9名含む技師11名, 事務員1名のスタッフにより日常診断業務(病理組織診断 細胞診断 剖検診断)を遂行しています.

今年度も臨床との共同開催である乳腺, 内分泌, 呼吸器, 婦人科および消化器カンファレンス等も定例で開催され,

他施設も含む多くの医師と技師が参加し内容も充実してきております。

また、部長土屋眞一が会長を務める「第50回日本臨床細胞学会秋期大会」が23年10月22日～23日にかけて京王プラザにて開催されます。

医学会分科会で4,000人超の参加者を見込める全国学会を主催させていただき栄誉を受け鋭意開催準備を進めてまいりました。

メインテーマは「女性のための臨床細胞学—未来に向かって—」とさせていただき、女性に特有な疾患への細胞学的知見を深める学会を目指し多くの研究者の発表の場として学術の発展に寄与すべく今後も努力を続けていきたいと考えております。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Ota H¹⁾, Harada O, Uehara T¹⁾, Hayama M¹⁾, Ishii K¹⁾ (¹⁾ Dept of Biomedical Sciences, Shinshu University School of Medicine, Matsumoto, Japan) : Aberrant expression of TFF1, TFF2, and PDX1 and their diagnostic value in lobular endocervical glandular hyperplasia. *Am J Clin Pathol.* 2011 ; 135 (2) : 253-61.
- 2) Tan HP¹⁾, Harada O, Thihe AA¹⁾, Tse MG (¹⁾ Department of Pathology, Singapore General Hospital, Singapore, Singapore, ²⁾ Department of Anatomical and Cellular Pathology, Chinese University of Hong Kong, Hong Kong, China) : Histocytoid breast carcinoma : an enigmatic lobular entity. *J Clin Pathol published online* 2011 ; Epub.

(2) 総説：

- 1) 永井祥子：放射線技師のための乳腺病理の基礎－6 非浸潤性乳管癌。東京放射線 2010；57（671）：33-35.
- 2) 松原美幸, 土屋眞一：乳腺穿刺吸引細胞診における「検体不適正」の見きわめ方は？. 検査と技術 2010；38（1）：67-70.
- 3) 土屋眞一：細胞診で悪性と間違えやすい良性病変について教えてください. 乳癌診療 TIPS&TRAPS 2010；28（4）：2-3.
- 4) 永井祥子：放射線技師のための乳腺病理の基礎－7 浸潤性乳管癌（1）. 東京放射線 2010；57（672）：33-36.
- 5) 永井祥子：放射線技師のための乳腺病理の基礎－8 浸潤性乳管癌（2）. 東京放射線 2010；57（673）：17-20.
- 6) 永井祥子：放射線技師のための乳腺病理の基礎－9 乳癌の浸潤・転移. 東京放射線 2010；57（674）：17-20.
- 7) 松原美幸, 川本雅司, 土屋眞一, 畠山重春¹⁾ (¹⁾ サイパソリサーチセンター)：技術講座：細胞診標本の作製：気をつけなくてはならない技術的ポイント Preparation methods for cytological specimen-technical tips and pitfalls. *Med Technol* 2010；38（8）：813-819.
- 8) 永井祥子：放射線技師のための乳腺病理の基礎：10 浸潤性小葉癌と硬癌. 東京放射線 2010；57（675）：25-28.
- 9) 永井祥子, 土屋眞一：放射線技師のための乳腺病理の基礎：11 石灰化病変（1）. 東京放射線 2010；57（676）：25-28.
- 10) 並松茂樹, 杉崎祐一, 土屋眞一：2. 組織細胞化学シリーズ（若手研究者へのヒント）最近の免疫組織化学賦活法（6）. *日本医科大学医学会雑誌* 2010；6（4）：178-184.
- 11) 永井祥子, 土屋眞一：放射線技師のための乳腺病理の基礎：12 石灰化病変（2）. 東京放射線 2010；57（677）：25-28.
- 12) 永井祥子, 土屋眞一：針生検：よりよい病理組織標本作製のために. *日本放射線技術学会東京部会雑誌* 2011；118（1）：61-62.
- 13) 永井祥子, 土屋眞一：診療放射線技師のための乳腺病理の基礎（1）. *日本放射線技術学会誌* 2011；58（701）：

55 (231) -62 (238).

(3) 症例報告：

- 1) 長谷川久美¹⁾, 土屋眞一, 松本力雄¹⁾, 山田博文¹⁾, 黒田 徹¹⁾, 昆 晃¹⁾ (1) 赤心堂病院外科)：乳頭に限局した乳癌の1例. 日本臨床外科学会誌 2009；70 (5)：1309-1312.
- 2) 村松沙織¹⁾, 土屋眞一, 春日好雄¹⁾, 上原 剛²⁾, 梶山明日美¹⁾ (1) 長野県厚生連長野松代総合病院 乳腺・内分泌外科, 2) 信州大学医学部附属病院 臨床検査科病理)：印環細胞癌の成分を伴った乳腺浸潤性小葉癌の1例. 乳癌の臨床 2010；25 (1)：89-94.

著 書

- 1) 川本雅司, 藤井丈士¹⁾ (1) 虎ノ門病院病理部/国立国際医療研究センター病院臨床検査部病理)：〔分担〕 Pulmonary tumor thrombotic microangiopathy (PTTM). 病理と臨床 臨時増刊号 Vol. 28 病理形態学キーワード (「病理と臨床」常任編集委員会), 2010；pp60-61, 文光堂.
- 2) 土屋眞一, 松原美幸：〔分担〕 病理形態学キーワード. 病理と臨床 (病理と臨床常任編集委員会), 2010；pp278-279, 文光堂.
- 3) 土屋眞一, 川本雅司, 原田 大, 松原美幸：〔分担〕 良・悪性診断 (2) 乳管内病変の良・悪性鑑別診断：乳頭状病変の鑑別点について. 非浸潤性乳管癌のすべて (坂本吾偉・芳賀駿介・秋山太), 2010；pp190-198, 篠原出版社.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 土屋眞一：乳腺細胞診と針生検. 日本臨床細胞学会新潟県支部研修会 (第3回) (新潟), 2010. 6.
- 2) 土屋眞一：命を奪うがん細胞を見つめてみよう. 日本臨床細胞学会関東連合会学術集会 (第24回) (軽井沢), 2010. 9.
- 3) 土屋眞一：針生検と細胞診の有用性と問題点. 北海道乳腺疾患研究会学術集会 (第24回) (札幌), 2010. 10.
- 4) 川本雅司：呼吸器細胞診のトピックスとピットフォール：肺癌の改訂組織分類, 良性異型など. 日本臨床細胞学会山梨県支部総会・学術集会 (第26回), 2011. 2.
- 5) 土屋眞一：乳腺病変における病理と画像のコラボレーション. 日本乳癌画像研究会 (第20回) (東京), 2011. 2.

(2) シンポジウム：

- 1) 浅川一枝, 土屋眞一：結合性に乏しく核偏在傾向を示した乳腺腫瘍の1例. 日本臨床細胞学会関東連合学術集会 (24回) (軽井沢), 2010. 9.
- 2) 柳原恵子¹⁾, 土屋眞一 (1) 日本医科大学第1外科)：穿刺吸引細胞診の適応と治療方針 (シンポジウム2 穿刺生検の普及と乳腺穿刺吸引細胞診：その有用性の再検討). 日本臨床細胞学会総会 (春季大会) (第51回) (横浜), 2010. 5.
- 3) 原田 大, 土屋眞一, 秋山 太¹⁾, 森谷卓也¹⁾, 津田 均¹⁾, 梅村しのぶ¹⁾, 堀井理恵¹⁾, 山口 倫¹⁾, 前田一郎¹⁾, 鹿又直樹¹⁾, 小塚祐司¹⁾ (1) 乳腺病理診断研究会)：針生検・マンモトーム生検における病理診断の現状と問題点：乳腺針生検診断講習会の結果から. 日本乳癌学会学術総会 (札幌), 2010. 6.

(3) パネルディスカッション：

- 1) 許田典男¹⁾, 佐藤春明, 恩田宗彦¹⁾, 小野ゆり²⁾, 彭 為霞¹⁾, 中溝宗永³⁾, 土屋眞一, 内藤善哉¹⁾ (1) 日本医科大学病理学講座 (統御機構・腫瘍学), 2) 東京警察病院病理診断科, 3) 日本医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科)：耳下腺の crystalloid granuloma の1例. 日本臨床細胞学会総会 (春季大会) (第51回) (横浜), 2010. 5.
- 2) 河本陽子¹⁾, 松原美幸, 恩田宗彦¹⁾, 彭 為霞¹⁾, 許田典男¹⁾, 土屋眞一, 内藤善哉¹⁾ (1) 日本医科大学病理学講

座(統御機構・腫瘍学)):細胞診が診断に有用であった胆管癌と膵管内乳頭粘液性腫瘍の重複症例. 日本臨床細胞学会総会(春季大会)(第51回)(横浜), 2010. 5.

- 3) 恩田宗彦¹⁾, 松原美幸, 許田典男¹⁾, 彭 為霞¹⁾, 河本陽子¹⁾, 土屋眞一, 内藤善哉¹⁾ (1) 日本医科大学病理学講座(統御機構・腫瘍病理学講座):内膜細胞診で明細胞腺癌を疑われ生検組織で診断に至った子宮内膜癌の1症例. 日本臨床細胞学会総会(春季大会)(第51回)(横浜), 2010. 5.
- 4) 高尾知穂¹⁾, 泉日 輝¹⁾, 山本陽一朗, 内藤善哉²⁾, 飯田信也³⁾, 柳原恵子³⁾, 川本雅司, 芳賀駿介³⁾, 土屋眞一 (1) 日本医科大学3年, 2) 日本医科大学病理学教室, 3) 日本医科大学付属病院第一外科):印環細胞を伴う乳腺粘液癌. 日本臨床細胞学会関東連合会学術集会(24回)(軽井沢), 2010. 9.
- 5) 米山剛一¹⁾, 山本晃人²⁾, 黒瀬圭輔²⁾, 山田 隆²⁾, 川本雅司, 土屋眞一, 竹下俊行¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院女性診療科・産科, 2) 日本医科大学付属病院女性診療科・産科):子宮内膜細胞診にてplacental site trophoblastic tumor (PSTT) が疑われた1例. 日本臨床細胞学会秋期大会(49回)(神戸), 2010. 9.
- 6) 葉山綾子, 土屋眞一, 佐藤春明, 釜口晴美, 川本雅司, 山本陽一朗, 渡会泰彦, 松原美幸:浸潤性小葉癌(histiocytoid type)の細胞像. 日本臨床細胞学会秋期大会(第49回)(神戸), 2010. 9.
- 7) 松澤こず恵¹⁾, 土屋眞一, 松原美幸, 杉山健一¹⁾, 田中穂積²⁾ (1) 栗山会飯田病院病理検査室, 2) 栗山会飯田病院外科):乳腺原発神経内分泌腫瘍2症例の検討. 日本臨床細胞学会秋季大会(49回)(神戸), 2010. 9.
- 8) 浅川一枝, 土屋眞一, 大塚俊司¹⁾, 山本陽一朗, 川本雅司, 松原美幸, 渡会泰彦 (1) 日本医科大学付属武蔵小杉病院):破骨細胞様巨細胞を伴う乳癌の3例. 日本臨床細胞学会秋期大会(49回)(神戸), 2010. 9.

(4) セミナー:

- 1) 土屋眞一, 越川 卓¹⁾ (1) 愛知県立大学 看護学生支援センター):医療安全セミナー:乳腺細胞診の精度に関する現状と問題点. 日本臨床細胞学会総会(第51回)(横浜), 2010. 5.
- 2) 川本雅司:先天性遺伝子異常肺の病理. 肺病理講習会(第13回), 2010. 7.
- 3) 川本雅司:MSC HOTLINE から(医療安全セミナー). 日本臨床細胞学会総会(春期大会)(第52回), 2011. 5.

(5) ワークショップ:

- 1) 松原美幸, 土屋眞一, 佐藤春明, 川本雅司:浸潤性乳管癌. 日本臨床細胞学会総会(春期大会)(第51回)(横浜), 2010. 5.

(6) 一般講演:

- 1) 岡本淳一¹⁾, 竹内千枝¹⁾, 中島由貴¹⁾, 三上 巖¹⁾, 原口秀司¹⁾, 川本雅司, 小泉 潔¹⁾, 清水一雄¹⁾ (1) 外科学呼吸器外科部門):胸水貯留で発券された縦隔発生毛細血管腫の1症例. 日本胸部外科学会関東甲信越地方会(第154回), 2010. 11.
- 2) 中田 淳¹⁾, 高山守正¹⁾, 鶴見昌史²⁾, 松崎つや子³⁾, 仁田 藍⁴⁾, 仁田 学⁵⁾, 高木郁代²⁾, 手塚晶人⁶⁾, 川本雅司, 水野杏一²⁾ (1) 榊原記念病院循環器内科, 2) 付属病院循環器内科, 3) 付属病院生理機能センター, 4) 榊原記念クリニック検査科, 5) 国際親善総合病院循環器内科, 6) 付属病院初期研修医):高地における低酸素環境が健常者心機能に与える影響:富士山山頂での心臓超音波検査及び脳性Na利尿ペプチド(BNP)を用いた検討. 日本登山医学会学術集会(第30回), 2010. 5.
- 3) 中島由貴¹⁾, 川本雅司, 原口秀司¹⁾, 三上 巖¹⁾, 小泉 潔¹⁾, 清水一雄¹⁾ (1) 外科学講座呼吸器外科学部門):原発性肺癌のリンパ管侵襲評価 染色法での比較. 日本呼吸器外科学会総会(第27回)(仙台), 2010. 5.
- 4) 松澤こず恵¹⁾, 土屋眞一, 杉山健一¹⁾ (1) 栗山会飯田病院臨床検査科病理):アポクリン癌の1例. 日本臨床細胞学会総会(第51回)(横浜), 2010. 5.
- 5) 恩田直美¹⁾, 北村和広¹⁾, 小林研一¹⁾, 久世真之¹⁾, 武内 進¹⁾, 宮永晃彦¹⁾, 小齋平聖治¹⁾, 峯岸裕司¹⁾, 岡野哲也¹⁾, 清家正博¹⁾, 吉村明修¹⁾, 原口秀司²⁾, 小泉 潔²⁾, 川本雅司, 土屋眞一, その他1名 (1) 呼吸器・感染・腫瘍内科, 2) 呼吸器外科):中縦隔原発脂肪肉腫の1例. 日本肺癌学会関東支部会(第158回), 2010. 6.

- 6) 山田理恵子¹⁾, 土屋眞一, 芳賀駿介²⁾ (1) 東京女子医科大学東医療センター検査科, ²⁾ 日本医科大学付属病院 乳腺科): 乳癌の拡がり診断からみた MDCT の有用性. 日本乳癌学会 (第 18 回) (札幌), 2010. 6.
 - 7) 唐木芳昭¹⁾, 土屋眞一¹⁾, その他 7 名 (1) 相澤病院外科): 乳腺内分泌腫瘍の超音波画像の検討. 日本乳癌学会 学術総会 (第 18 回) (札幌), 2010. 6.
 - 8) 柳沢恵子¹⁾, 土屋眞一, 芳賀駿介¹⁾, その他 6 名 (1) 日本医科大学付属病院 乳腺科): 浸潤性小葉癌 (ILC) の特徴. 日本乳癌学会学術総会 (第 18 回) (札幌), 2010. 6.
 - 9) 村上隆介¹⁾, 土屋眞一, 高濱克也¹⁾, その他 8 名 (1) 日本医科大学付属病院放射線科): マンモグラフィ検診におけるコンピューター診断支援システム (CAD) の診断能の検討. 日本乳癌学会学術総会 (第 18 回) (札幌), 2010. 6.
 - 10) 高山文吉¹⁾, 土屋眞一, 草間 律²⁾, その他 2 名 (1) 青樹会一之瀬画像センター放射線科, ²⁾ 瀬原田クリニック): 当院で経験した 60 歳以上の高齢者の FA の画像. 日本乳癌学会学術総会 (第 18 回) (札幌), 2010. 6.
 - 11) 飯田信也¹⁾, 土屋眞一, 芳賀駿介¹⁾, その他 6 名 (1) 日本医科大学付属病院 乳腺科): 乳癌における血清 P53 抗体値, 免疫染色状況の臨床的意義. 日本乳癌学会学術総会 (第 18 回) (札幌), 2010. 6.
 - 12) 鈴木えりか¹⁾, 土屋眞一, 芳賀駿介¹⁾, その他 7 名 (1) 日本医科大学付属病院 乳腺科): NeuroendocrineDCIS の 3 例. 日本乳癌学会学術総会 (第 18 回) (札幌), 2010. 6.
 - 13) 秦 怜志¹⁾, 土屋眞一, その他 8 名 (1) 川越三井病院 乳腺外科): 悪性葉状腫瘍の上皮成分にも悪性化を伴ったと考えられる稀な癌肉腫の 1 例. 日本乳癌学会学術総会 (第 18 回) (札幌), 2010. 6.
 - 14) 尾崎景子¹⁾, 山本晃人¹⁾, 峯 克也¹⁾, 明楽重夫¹⁾, 鴨井青龍¹⁾, 竹下俊行¹⁾, 川本雅司 (1) 付属病院女性診療科・産科): 後腹膜に発生した子宮内膜症性嚢胞の 3 症例. 日本医科大学医学会総会 (第 78 回), 2010. 9.
 - 15) 米山剛一¹⁾, 土屋眞一, 竹下俊之¹⁾, その他 4 名 (1) 日本医科大学付属病院 女性診療科・産科): 子宮内膜細胞診にて Placental sitetrophoblastic tumor (PSTT) が疑われた 1 例. 日本臨床細胞学会秋期大会 (第 49 回) (神戸), 2010. 11.
 - 16) 清水久実¹⁾, 宮永晃彦¹⁾, 豊川 優¹⁾, 北村和広¹⁾, 小齋平聖治¹⁾, 野呂林太郎¹⁾, 峯岸裕司¹⁾, 清家正博¹⁾, 吉村明修¹⁾, 弦間昭彦¹⁾, 川本雅司, 萩原弘一²⁾, 曾田 学³⁾, 間野博行³⁾, 竹内賢吾⁴⁾, その他 1 名 (1) 日本医科大学内科学講座呼吸器・感染・腫瘍部門, ²⁾ 埼玉医科大学呼吸器内科, ³⁾ 自治医科大学ゲノム機能研究部, ⁴⁾ 癌研究会癌研究所病理部): EGFR 遺伝子変異と EML4-ALK 融合遺伝子が併存した肺腺癌の 1 例. 日本肺癌学会関東支部会 (159 会) (東京), 2010. 12.
 - 17) 藤井祥貴¹⁾, 竹内千枝¹⁾, 中島由貴¹⁾, 岡本淳一¹⁾, 三上 巖¹⁾, 原口秀司¹⁾, 小泉 潔¹⁾, 清水一雄¹⁾, 川本雅司 (1) 日本医科大学外科学講座呼吸器外科): 中縦隔発生の Castleman 病の 1 例. 日本肺癌学会関東支部会 (第 159 回) (東京), 2010. 12.
 - 18) 杉本孝章¹⁾, 土屋眞一, 山田理恵子²⁾, 芳賀駿介³⁾ (1) 谷津保健病院 外科, ²⁾ 東京女子医科大学東医療センター検査科, ³⁾ 日本医科大学付属病院 乳腺科): 印環細胞型の非浸潤性乳管癌の組織像を示した乳癌の 1 例. 日本乳癌学会関東地方会 (第 7 回) (大宮), 2010. 12.
- (7) 出題者:
- 1) 川本雅司: スライドカンファレンス: 呼吸器. 日本臨床細胞学会東京都支部会 (第 29 回), 2010. 7.

[付属病院中央検査部]

研究概要

固定した職場環境において, 同じ背景をもつ技術者集団が依頼された検査を迅速かつ正確に測定し, 臨床サイドへ結果を提供する定型的作業を主な業務とする部門であると中央検査部は少なからず思われている. しかしながら, 大量検体測定における検査情報の提供のみを専らの業務としてきた従来型から脱却し, 臨床検査技師が出した検査結果

などが診断補助の域を出て臨床全体に広く活用されるべく中央検査部機能の構築を進めている。学術面においては、診断に有用性のある新しい検査項目や測定法の評価、業務の効率や迅速化を改善するための検査項目・測定試薬・分析装置の検討、さらには日常業務で遭遇した希少結果の探求や疾患との関連性、異常反応の原因追及などを幅広く行い、学会等において広く発信している。医療環境は年々大きく変貌しているが、大学病院の臨床検査技師として中央検査部に求められている責務を果たすべく、我々は常に必要な知識や技術などを学ぶ姿勢を持ち日々努力を重ねている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 影山憲貴, 中島敦夫¹⁾, 鳴海武長, 柴田泰史, 三橋 太, 高木 豊, 日ノ澤進一郎, 飯野幸永, 本間 博⁽¹⁾ 東京警察病院内科リウマチ科)：ラテックス免疫比濁法による MMP-3 偽低値. 臨床病理 2011; 59 (1) : 17-23.

(2) Abstract of Outstanding Presentation：

- 1) Sonobe K, Wasio Y, Okawa S, Watanabe A, Shinoyama A, Osakada N, Nakamura Y, Iino K, Honma H : Rapid Evaluation of Pathogenic Strains by Gram Staining Using Positive Blood Cultures. J Nippon Med Sch 2010; 77 (6) : 346-347.

(3) Photogravure：

- 1) Utsumi K¹⁾, Mitsuhashi F, Katsuma K¹⁾, Iino Y¹⁾, Katayama Y⁽¹⁾ Department of Neurological, Nephrological, and Rheumatological Science) : “Maltese Crosses” in Fabry Disease. J Nippon Med Sch 2010; 77(6) : 284-284.

学会発表

(1) パネルディスカッション：

- 1) 岩上正明¹⁾, 片山志郎¹⁾, 園部一成, 篠山明宏, 中村祐三, 飯野幸永⁽¹⁾ 付属病院薬剤部)：付属病院における抗菌薬の使用動向. 日本医科大学医学会総会 (第 78 回) (東京), 2010. 9.
- 2) 園部一成, 鷺尾洋平, 大川咲奈, 渡部明子, 篠山明宏, 小坂田直美, 中村祐三, 飯野幸永, 本間 博)：血液培養陽性のグラム染色での推定同定と培養同定の一致率. 日本医科大学医学会総会 (第 78 回) (東京), 2010. 9.
- 3) 渡部明子, 大川咲奈, 篠山明宏, 園部一成, 中村祐三, 飯野幸永, 本間 博, 三浦義彦¹⁾ (1) 付属病院薬剤部)：当院で過去 10 年間に血液培養より検出された酵母様真菌の分離状況と今後の対策について. 日本医科大学医学会総会 (第 78 回) (東京), 2010. 9.
- 4) 柴田泰史, 高木 豊, 飯野幸永, 本間 博, 久志本成樹¹⁾, 横田裕行¹⁾ (1) 救急医学講座)：敗血症における迅速重症度評価法としてのイムノクロマトグラフィー法によるプロカルシトニン測定の意義. 日本医科大学医学会総会 (第 78 回) (東京), 2010. 9.
- 5) 鳴海武長, 山下純一, 高木 豊, 飯野幸永, 本間 博, 神尾孝一郎¹⁾, 吾妻安良太¹⁾ (1) 内科学講座 (呼吸器・感染症・腫瘍部門))：汎用自動分析機によるシアル化糖鎖抗原 KL-6 の測定と院内導入への検討から見えた有用性. 日本医科大学医学会総会 (第 78 回) (東京), 2010. 9.
- 6) 山下純一, 鳴海武長, 高木 豊, 飯野幸永, 本間 博, 神尾孝一郎¹⁾, 吾妻安良太¹⁾ (1) 内科学講座 (呼吸器・感染症・腫瘍部門))：KL-6 における検査方法の違いによるデータ比較. 日本医科大学医学会総会 (第 78 回) (東京), 2010. 9.
- 7) 日ノ澤進一郎, 小林紘士, 三橋 太, 飯野幸永, 本間 博, 五十嵐徹¹⁾ (1) 小児科学講座)：小児におけるシスタチン C を利用した GFR 推算式の有用性. 日本医科大学医学会総会 (第 78 回) (東京), 2010. 9.

- 8) 亀山澄子, 寺田 紀, 小川早恵子, 植田貴子, 福田高久, 橋本政子, 飯野幸永, 本間 博, 緒方清行¹⁾ (1) 付属病院輸血部): 輸血後肝炎が疑われた事例について. 日本医科大学医学会総会 (第 78 回) (東京), 2010. 9.
 - 9) 高木 豊, 鳴海武長, 山下純一, 柴田泰史, 飯野幸永, 本間 博: 検査結果測定域予測による迅速報告の試み. 日本医科大学医学会総会 (第 78 回) (東京), 2010. 9.
 - 10) 村山智美, 三橋 太, 小林紘士, 日ノ澤進一郎, 飯野幸永, 本間 博: 尿沈渣において悪性リンパ腫細胞を認めた 1 症例. 関東甲信地区医学検査学会 (第 47 回) (埼玉), 2010. 11.
 - 11) 下津留美, 西田尚子, 金子幸江, 鳴海武長, 高木 豊, 飯野幸永, 本間 博: 汎用自動分析装置 BM6070 における CH50 3 試薬の比較検討. 関東甲信地区医学検査学会 (第 47 回) (埼玉), 2010. 11.
 - 12) 佐藤美里, 鳴海武長, 山下純一, 高木 豊, 飯野幸永, 本間 博: 新規 CK-MB 活性測定試薬「アキュラスオート CK-MB MtO」の基礎的検討と現行法 Dimension RXL による CK-MB Mass 法との比較. 関東甲信地区医学検査学会 (第 47 回) (埼玉), 2010. 11.
 - 13) 高木 豊, 鳴海武長, 山下純一, 佐藤美里, 柴田泰史, 飯野幸永, 本間 博: 異常高値検体の結果測定域予測による迅速測定手法. 関東甲信地区医学検査学会 (第 47 回) (埼玉), 2010. 11.
 - 14) 山下純一, 佐藤美里, 鳴海武長, 玉手ひさ子, 高木 豊, 飯野幸永, 本間 博: カートリッジ型血液ガス分析装置 ABL90FLEX 基礎的検討. 関東甲信地区医学検査学会 (第 47 回) (埼玉), 2010. 11.
- (2) セミナー:
- 1) 柴田泰史: Acute Care における血液ガス分析装置の現状と今後の展開. 日本医学検査学会 (第 59 回) (神戸), 2010. 5.
- (3) 一般講演:
- 1) 山下純一, 鳴海武長, 玉手ひさ子, 高木 豊, 飯野幸永, 里村克章: 汎用自動分析装置用試薬『ナノピア KL-6 エーザイ』の基礎的検討 LABOSPECT008 について. 日本医学検査学会 (第 59 回) (神戸), 2010. 5.
 - 2) 鳴海武長, 山下純一, 玉手ひさ子, 高木 豊, 飯野幸永, 里村克章: 汎用自動分析装置用試薬『ナノピア KL-6 エーザイ』の基礎的検討 TBA200FRneo について. 日本医学検査学会 (第 59 回) (神戸), 2010. 5.
 - 3) 柴田泰史, 高木 豊, 影山憲貴, 鳴海武長, 飯野幸永, 里村克章, 久志本成樹¹⁾, 横田裕行¹⁾ (1) 救急医学講座): 敗血症患者における各種パラメータからみたイムノクロマト法によるプロカルシトシン測定の意味. 日本医学検査学会 (第 59 回) (神戸), 2010. 5.
 - 4) 鳴海武長, 山下純一, 柴田泰史, 高木 豊, 飯野幸永, 本間 博: 『ナノピア KL-6』における機種別性能評価. 日本臨床検査自動化学会 第 42 回大会 (神戸), 2010. 10.
 - 5) 柴田泰史, 高木 豊, 鳴海武長, 影山憲貴, 飯野幸永, 本間 博, 久志本成樹¹⁾, 横田裕行¹⁾ (1) 救急医学講座): イムノクロマトリーダー「ラピッドピア」を用いた BNP 迅速測定検査の有用性. 日本臨床検査自動化学会 第 42 回大会 (神戸), 2010. 10.
 - 6) 小林紘士, 影山憲貴, 三橋 太, 日ノ澤進一郎, 飯野幸永, 本間 博: 多項目自動血球分析装置 XE-5000 と ADVIA2120i を用いた脳脊髄液および体腔液測定機能の評価. 日本臨床検査自動化学会 第 42 回大会 (神戸), 2010. 10.
 - 7) 三橋 太, 小林紘士, 影山憲貴, 石野三智雄, 日ノ澤進一郎, 飯野幸永, 本間 博: 試験紙における尿蛋白/クレアチニン比の有用性. 日本臨床検査自動化学会 第 42 回大会 (神戸), 2010. 10.

[付属病院薬剤部]

研究概要

平成 22 年度の薬剤部研究業績は, 論文・著書・総説・学会発表・研究助成分担と, 本年もまた多くの分野で実績を残すことができた. 平成 22 年度は, 薬学部 6 年制への移行に伴う長期学生実習の初年度にあたり, 院内における

学生の教育システムの大きな変更を伴ったため、研究発表などは若干減少した。しかし、年間96名の薬学生を臨床現場の薬剤師が直接教育するという新たな試みは、担当薬剤師自身の研究視点の見直しにもつながり、今後の成長を期待させるものとなった。一般著書においては今年も「今日の治療指針」「今日の治療薬」「治療薬ハンドブック」「治療薬マニュアル」「病気と薬パーフェクトブック」など、臨床医が利用する書籍に対して薬剤師の視点で執筆することができ、さらに日本緩和医療学会編さんの「がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン」の執筆に薬剤師として参画することができた。このように直接臨床にかかわる書籍の執筆に広く関わるることができたことは、付属病院薬剤部の業績を反映してのことと考える。さらに、褥瘡治療、小児医療、薬剤管理指導など幅広い分野での研究も継続しており、付属病院における薬物療法の一環を担う部門としての位置を確立しつつある。今後もこれまで以上に臨床に深くかかわり、病院への安全と安心の医療環境の提供と、研究による医療そのものへの貢献を期したい。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 伊勢雄也, 森田達也¹⁾, 前堀直美²⁾, 轡 基治³⁾, 塩川 満⁴⁾, 木澤義之⁵⁾ (1) 聖隷三方原病院 緩和支援治療科, 2) レモン薬局, 3) うえまつ薬局, 4) 聖路加国際病院 薬剤部, 5) 筑波大学大学院 人間総合科学研究科) : Role of the Community Pharmacy in Palliative Care : A Nationwide Survey in Japan. *Journal of Palliative Medicine* 2010 ; 13 (6) : 733-736.

(2) 総説：

- 1) 片山志郎：緩和薬物療法認定薬剤師の道. *東京都薬剤師会雑誌* 2010 ; 32 (8) : 50-55.
- 2) 片山志郎：殺細胞型 抗がん剤による口内炎. *ApoTalk* 2010 ; 16 : 6-7.
- 3) 三浦義彦, 輪湖哲也, 伊勢雄也, 片山志郎：注射用塩酸バンコマイシン製剤の溶解性についての比較検討. *医療薬学* 2010 ; 36 (2) : 77-84.
- 4) 片山志郎：緩和医療で用いる薬剤の注意すべき相互作用. *日医大医会誌* 2010 ; 6 (3) : 153-153.
- 5) 片山志郎：第3回日本緩和医療薬学会年会シンポジウム報告. *薬事新報* 2010 ; 臨時増刊 (2625) : 401-407.
- 6) 片山志郎：がん疼痛治療「症例を考察する」. *HOSPha* 2010 ; 20 (4) : 4-8.
- 7) 片山志郎：緩和医療の分野における副作用と相互作用のマネージング. *日本緩和医療学会ニューズレター* 2010 ; 47 (15) : 77-84.
- 8) 片山志郎：座談会「スキルミックス型チーム医療を考える」. *Medico* 2010 ; 41 (7) : 233-242.
- 9) 平田清貴：中毒初級講座 解毒薬. *中毒研究* 2010 ; 23 (3) : 251-254.
- 10) 片山志郎：緩和医療薬学と薬剤師. *薬事日報* 2011 ; (10931) : 8-8.

(3) 研究報告書：

- 1) 伊勢雄也, 森田達也¹⁾, 前堀直美²⁾, 轡 基治³⁾, 塩川 満⁴⁾, 木澤義之⁵⁾ (1) 聖隷三方原病院 緩和支援治療科, 2) レモン薬局, 3) うえまつ薬局, 4) 聖路加国際病院 薬剤部, 5) 筑波大学大学院 人間総合科学研究科) : 麻薬小売業者間譲渡許可免許に関する調査研究. *日本緩和医療学会誌* 2010 ; 5 (2) : 213-218.

著書

{追加分}

追加分：

- 1) 平田清貴, 片山志郎：〔自著〕薬剤投与. *救急医学* (横田順一郎), 2009 ; pp693-696, へるす出版.
- 2) 片山志郎：〔分担〕患者ケア. *薬局で役立つ皮膚科治療薬 FAQ* (大谷道輝, 宮地良樹), 2010 ; pp362-363, メディカルレビュー社.
- 1) 村上桂子¹⁾, 林宏紀²⁾, 吾妻安良太²⁾ (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部, 2) 日本医科大学付属病院 呼吸器内

- 科)：〔共著〕【呼吸器疾患の病態と診断・治療】びまん性汎細気管支炎 (DPB) (解説/特集). 医学と薬学, 2010；pp171-175, (株) 自然科学社.
- 2) 片山志郎, 伊勢雄也：〔分担〕治療薬ハンドブック 2011, 2011；じほう.
 - 3) 片山志郎, 伊勢雄也：〔分担〕今日の治療薬 2011, 2011；南江堂.
 - 4) 平田清貴：〔分担〕治療薬ハンドブック 2011；pp1334-1346, じほう (高久史磨).
 - 5) 平田清貴：〔分担〕治療薬ハンドブック 2011 (高久史磨)；pp391-396.
 - 6) 宮田広樹, 片山志郎：〔共著〕専門薬剤師 Up-to-Date Case Report 緩和 緩和ケアに関わるきっかけとなった副作用 (解説/症例報告). 月刊薬事 (じほう), 2010；pp582-582, じほう.
 - 7) 平田清貴：〔分担〕救急治療・薬剤ハンドブック第6版 (平田清貴), 2010；じほう.
 - 8) 片山志郎：〔分担〕注意すべき薬剤の相互作用. 難治性疼痛の薬物療法 (樋口比登実), 2010；pp236-242, 南山堂.
 - 9) 片山志郎：〔分担〕がん患者とのコミュニケーション. 薬剤師のためのコミュニケーションスキルアップ (井手口直子), 2010；pp85-88, 講談社サイエンティフィク.
 - 10) 須賀理絵：〔分担〕モルヒネ製剤からオキシコドン製剤への変更方法は？. 緩和医療における服薬指導 Q & A (片山志郎), 2010；pp58-60, 医薬ジャーナル社.
 - 11) 須賀理絵：〔分担〕オキシコドン製剤からモルヒネ製剤への変更方法は？. 緩和医療における服薬指導 Q & A (片山志郎), 2010；pp61-63, 医薬ジャーナル社.
 - 12) 須賀理絵：〔分担〕モルヒネ製剤からフェンタニル製剤への変更方法は？. 緩和医療における服薬指導 Q & A (片山志郎), 2010；pp70-72, 医薬ジャーナル社.
 - 13) 須賀理絵：〔共著〕フェンタニル製剤からモルヒネ製剤への変更方法は？. 緩和医療における服薬指導 Q & A (片山志郎), 2010；pp73-75, 医薬ジャーナル社.
 - 14) 岸田悦子：〔分担〕オピオイド製剤と他の薬剤との相互作用は？. 緩和医療における服薬指導 Q&A (片山志郎), 2010；pp111-113, 医薬ジャーナル社.
 - 15) 岸田悦子：〔分担〕オピオイドの禁忌症は？. 緩和医療における服薬指導 Q&A (片山志郎), 2010；pp114-117, 医薬ジャーナル社.
 - 16) 畝本賜男, 片山志郎：〔分担〕第6章 非ステロイド系消炎鎮痛薬 (NSAIDs). 違いがわかる同種・同効薬：薬剤師の疑問を解決します！ (黒山 政一, 大谷 道輝), 2010；pp47-58, 南江堂.
 - 17) 加藤あゆみ：〔分担〕オピオイドの副作用：便秘対策は？. 緩和医療における服薬指導 Q & A (片山志郎), 2010；pp98-100, 医薬ジャーナル社.
 - 18) 加藤あゆみ：〔分担〕オピオイドの副作用：呼吸抑制対策は？. 緩和医療における服薬指導 Q & A (片山志郎), 2010；pp101-103, 医薬ジャーナル社.
 - 19) 片山志郎, 伊勢雄也, 須賀理絵, 輪湖哲也, 宮田広樹, 加藤あゆみ, 岸田悦子, その他 24 名：〔編集〕緩和医療における服薬指導 Q&A (片山志郎), 2010；pp1-174, 医薬ジャーナル社.
 - 20) 片山志郎, 伊勢雄也, 高瀬久光¹⁾ (1) 福岡大学病院薬剤部)：〔分担〕背景知識：10 オピオイドの与える影響/薬物相互作用. がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン 2010 年版 (特定非営利活動法人 日本緩和医療学会 緩和医療ガイドライン作成委員会), 2010；pp52-55, 金原出版株式会社.
 - 21) 輪湖哲也：〔分担〕腎機能障害患者に対するオピオイドの投与は？. 緩和医療における服薬指導 Q&A (片山志郎), 2010；pp84-84, 医薬ジャーナル社.
 - 22) 宮田広樹：〔分担〕肝機能障害に対するオピオイドの投与は？. 緩和医療における服薬指導 Q&A (片山志郎), 2010；pp87-90, 医薬ジャーナル社.
 - 23) 輪湖哲也, 片山志郎：〔分担〕がん治療における「制吐薬ガイドライン」とそれに基づく制吐薬の使い方. PHARMSTAGE, 2010；技術情報協会.

- 24) 宮田広樹, 片山志郎:〔分担〕レジメンを読み解く第一歩! 診療ガイドライン, 取扱い規約を理解する. 薬局, 2010; pp3295-3330, 南山堂.
- 25) 平田清貴:〔分担〕治療薬ハンドブック 2011 (高久史磨), 2011; pp825-832, じほう.
- 26) 伊勢雄也, 片山志郎:〔共著〕入院患者に関わる業務の経済的評価. 月刊薬事 (じほう), 2011; pp65-68, じほう.
- 27) 岸田悦子:〔分担〕2010年発売新薬一覧監修. pharmatribune 2月号, 2011; pp43-57, メディカルトリビューン社.
- 28) 岸田悦子:〔分担〕2010年新薬リスト. Pharmatribune (日本薬剤師研修センター), 2011; pp43-57, メディカルトリビューン.
- 29) 森 洵子¹⁾, 佐藤憲明²⁾ (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部, 2) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター・専門看護師):〔分担〕第6章 これだけはおさえない急変時に使う薬の知識. 急変対応のすべてがわかる本 (佐藤憲明), 2011; pp276-315, 照林社.
- 30) 宮田広樹, 片山志郎:〔分担〕切除不能進行非小細胞肺がんの標準治療は変わったのか. 月刊薬事, 2011; pp428-429, じほう.
- 31) 宮田広樹, 片山志郎:〔分担〕悪性腫瘍 膀胱癌. 薬局増刊号 病期と薬パーフェクトブック 2011, 2011; 南山堂.

学会発表

(1) シンポジウム:

- 1) 輪湖哲也:早期からの緩和ケアを「実践」できる緩和ケア薬剤師へ (緩和医療におけるチーム薬剤師の役割と未来). 日本病院薬剤師会関東ブロック (第40回) (東京), 2010. 8.
- 2) 宮田広樹, 片山志郎:肺がん標準薬物治療と薬学的介入の実際. 日本医療薬学会年会 (第20回) (千葉), 2010. 11.

(2) 一般講演:

- 1) 丸山麻衣子, 佐治名保子, 輪湖哲也, 森 洵子, 片山志郎:注射薬品補給室における疑義照会の実態とその解析. 日本病院薬剤師会関東ブロック学術大会 (第40回) (東京), 2010. 8.
- 2) 片山志郎:認定薬剤師に求められるもの. 日本緩和医療薬学会 (第4回) (鹿児島), 2010. 9.
- 3) 平田清貴, 黒川 顕¹⁾, 野口周作²⁾, 渡邊暁洋³⁾, 増野智彦⁴⁾, 片山志郎, 横田裕行⁵⁾ (1) 日本医科大学付属武蔵小杉病院救急救命センター, 2) 日本医科大学付属武蔵小杉病院薬剤部, 3) 日本医科大学付属千葉北総病院薬剤部, 4) 日本医科大学付属千葉北総病院高度救命救急センター, 5) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター):3次救急医療施設に搬送された医薬品関連救急疾患. 日本臨床緊急医学会 (第13回) (北海道), 2010. 5.
- 4) 片山志郎:副作用と相互作用のマネージング. 日本緩和医療学会 (第15回) (東京), 2010. 6.
- 5) 平田清貴, 宮内雅人¹⁾, 片山志郎, 横田裕行¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター):当院高度救命救急センターにおける急性OTC薬中毒, 第2報. 日本中毒学会 (第32回) (岡山), 2010. 7.
- 6) 吉田羽奈, 畝本賜男, 村上桂子, 鶴川百合, 牧井詠美, 菅谷和也, 木村仁美, 平澤初枝, 片山志郎:調剤室における疑義紹介内容の調査と安全管理への取り組み. 日本病院薬剤師会関東ブロック学術大会 (第40回) (東京), 2010. 8.
- 7) 岸田悦子, 伊勢雄也, 片山志郎:緩和医療領域における薬剤師の専門性向上に対する東京都病院薬剤師会の取り組み. 日本緩和医療薬学会 (第4回) (鹿児島), 2010. 9.
- 8) 富山弘野¹⁾, 輪湖哲也¹⁾, 片山志郎¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部):当院における放出制御型フェンタニルMTパッチ使用実態調査. 日本医科大学医学会総会, 2010. 9.
- 9) 菅谷和也¹⁾, 吉田羽奈¹⁾, 畝本賜男¹⁾, 平澤初枝¹⁾, 片山志郎¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部):調剤室における疑義照会内容の調査と安全管理への取り組み. 日本医科大学医学会総会, 2010. 9.

- 10) 丸山麻衣子¹⁾, 佐治名保子¹⁾, 輪湖哲也¹⁾, 森 洵子¹⁾, 片山志郎¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院 薬剤部) : 注射薬品補給室における疑義照会の実態とその解析. 日本医科大学医学会総会, 2010. 9.
 - 11) 須賀理絵¹⁾, 島崎麻智子¹⁾, 中嶋基広¹⁾, 片山志郎¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院 薬剤部) : 付属病院における医薬品情報室業務に関する検討. 日本医科大学医学会総会, 2010. 9.
 - 12) 鶴川百合¹⁾, 伊勢雄也¹⁾, 片山志郎¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院 薬剤部) : 付属病院薬剤部における薬学生長期実務実習体制の現状. 日本医科大学医学会総会, 2010. 9.
 - 13) 加藤あゆみ¹⁾, 宮田広樹¹⁾, 輪湖哲也¹⁾, 須賀理絵¹⁾, 片山志郎¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院 薬剤部) : 緩和ケアチームにおける薬剤師のステップアップ: チームの特長を活かした薬物療法支援に向けて. 日本医科大学医学会総会, 2010. 9.
 - 14) 加藤あゆみ, 宮田広樹, 輪湖哲也, 須賀理絵, 片山志郎: 緩和ケアチーム依頼までのスクリーニング: 病棟担当薬剤師とのリンク強化について. 日本緩和医療薬学会 (第4回) (鹿児島), 2010. 9.
 - 15) 平田清貴, 松本 学¹⁾, 青山隆彦²⁾, 森 洵子, 大下順子, 松本宜明²⁾, 片山志郎, 横田裕行¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院高度救急救命センター, ²⁾ 日本大学薬学部臨床薬物動態学ユニット) : 集中治療患者におけるフェノバルビタールナトリウムの血中濃度と効果に関する検討. 日本臨床薬理学会 (第31回) (京都), 2010. 12.
- (3) ポスター発表:
- 1) 須賀理絵, 輪湖哲也, 加藤あゆみ, 宮田広樹, 片山志郎: アセトアミノフェンとの併用によりワルファリンの作用が増強した1例. 日本緩和医療薬学会 (第4回) (鹿児島), 2010. 9.
 - 2) 萩原 研, 島崎麻智子, 中嶋基広, 片山志郎: 褥瘡治療チーム医療における薬剤師の介入. 日本薬学会 (第131年回) (静岡), 2011. 3.

[付属病院生理機能センター]

研究概要

当センターでは、例年通り心エコーと心臓リハビリテーションを中心に研究を行った。

心エコーは今年度も継続的に富士山において心エコーを記録し、高山病発症時の心循環メカニズムについて研究を行い、また動脈硬化の指標の1つとして上行大動脈近位部壁の伸展性との関係を検討した。

心臓リハビリテーションでは、心疾患患者における運動負荷時周期性呼吸と睡眠時無呼吸との関連、動脈血炭酸ガス分圧に与える影響や心筋梗塞後の抑うつと不安感の経時変化の検討など様々な研究を行った。

神経生理学的な領域では、当院の術中運動誘発電位 (MEP) モニタリングに関して発表した。

一方、耳鼻科領域では、眼振誘発装置の開発に関して平成17年6月に特許出願して以来、平成22年11月によりやく特許を取得することが出来た。これは本学の貴重な知的財産であり、今後の産学連携・学術連携などへの展開を可能にするだけでなく、我々の研究・開発の分野において、おおいに励みになることは間違い無い。

研究業績

学会発表

(1) 一般講演:

- 1) Kato M, Fukuma N¹⁾, Sugaya J, Aida T, Hayashi H¹⁾, Katoh K¹⁾, Katoh Y¹⁾, Aisu N¹⁾, Takahashi H¹⁾, Honma H¹⁾, Mizuno K¹⁾ (¹⁾ Department of Cardiology, Internal Medicine) : Central Sleep Apnea Leads to Abnormal Time Course of Arterial Carbon Dioxide Pressure during Exercise in Patients with Heart Disease. 第75回日本循環器学会総会・学術集会, 2011. 3.
- 2) 中田 淳¹⁾, 高山守正¹⁾, 鶴見昌史²⁾, 松崎つや子, 仁田 藍³⁾, 仁田 学⁴⁾, 高木郁代²⁾, 手塚晶人⁵⁾, 川本雅司⁶⁾, 水野杏一²⁾ (¹⁾ 榊原記念病院循環器内科, ²⁾ 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門), ³⁾ 榊原記念クリニック

- ク検査科, ⁴⁾ 国際親善総合病院循環器内科, ⁵⁾ 付属病院研修医, ⁶⁾ 付属病院病理部): 高地における低酸素環境が健常者心機能に与える影響: 富士山山頂での心臓超音波検査及び脳性 Na 利尿ペプチド (BNP) 値を用いた検討. 第 30 回日本登山医学会学術集会, 2010. 5.
- 3) 鶴見昌史¹⁾, 中田 淳²⁾, 松崎つや子, 仁田 藍³⁾, 仁田 学⁴⁾, 高木郁代¹⁾, 手塚晶人⁵⁾, 川本雅司⁶⁾, 高山守正²⁾, 水野杏一¹⁾ (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門), ²⁾ 榊原記念病院循環器内科, ³⁾ 榊原記念クリニック検査科, ⁴⁾ 国際親善総合病院循環器内科, ⁵⁾ 付属病院研修医, ⁶⁾ 付属病院病理部): 高度 3,000m における高山病発症時の心循環メカニズム. 第 30 回日本登山医学会学術集会, 2010. 5.
- 4) 宗方祐美子, 青木 亘, 吉田由紀子, 佐藤淳子, 菅谷寿理, 齋藤公一, 本間 博, 今野俊介¹⁾, 宮本雅史¹⁾, 村井保夫²⁾, 山口文雄²⁾ (1) 整形外科学, ²⁾ 脳神経外科学): 当院における術中運動誘発電位 (MEP) モニタリング. 第 16 回日本脳神経モニタリング学会, 2010. 7.
- 5) 加藤政利, 福間長知¹⁾, 菅谷寿理, 佐藤淳子, 平野美子, 齋藤公一, 林 寛子¹⁾, 加藤祐子¹⁾, 高橋 啓¹⁾, 水野杏一¹⁾ (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)): 心疾患患者における運動負荷時周期性呼吸と重症閉塞型睡眠時無呼吸との関連. 第 16 回日本心臓リハビリテーション学会, 2010. 7.
- 6) 菅谷寿理, 福間長知¹⁾, 會田智弘, 吉田由紀子, 竹田裕子, 牛島明子¹⁾, 加藤和代¹⁾, 愛須紀子¹⁾, 本間 博¹⁾, 水野杏一¹⁾ (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)): 心筋梗塞後の抑うつと不安感の経時変化. 第 16 回日本心臓リハビリテーション学会, 2010. 7.
- 7) 會田智弘, 菅谷寿理, 福間長知¹⁾, 平野美子, 林 寛子¹⁾, 牛島明子¹⁾, 加藤祐子¹⁾, 高橋 啓¹⁾, 本間 博¹⁾, 水野杏一¹⁾ (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)): 心疾患患者に合併した閉塞性および中枢性睡眠時無呼吸が動脈血炭酸ガス分圧に与える影響. 第 16 回日本心臓リハビリテーション学会, 2010. 7.
- 8) 吉田由紀子, 福間長知¹⁾, 菅谷寿理, 加藤政利, 竹田裕子, 佐藤淳子, 齋藤公一, 加藤和代¹⁾, 愛須紀子¹⁾, 水野杏一¹⁾ (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)): 心リハ導入中の心疾患患者に対する一日食塩摂取量の検討. 第 16 回日本心臓リハビリテーション学会, 2010. 7.
- 9) 松崎つや子, 関野玲子, 見友優子, 田尾清一, 塚田亜希, 水瀬 学, 齋藤公一, 本間 博, 藤本啓志¹⁾, 大野忠明¹⁾, 水野杏一¹⁾ (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)): 大動脈弁石灰化の程度と augmentation index (AI), 上行大動脈近位部壁の伸展性との関連性について. 第 78 回日本医科大学医学会総会, 2010. 9.
- 10) 大野忠明¹⁾, 本間 博¹⁾, 松崎つや子, 小宮山英徳¹⁾, 村田広茂¹⁾, 横島友子¹⁾, 水野杏一¹⁾ (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)): 感染性心内膜炎に対するガイドラインに従った内科的治療の検討. 第 58 回日本心臓病学会学術集会, 2010. 9.
- 11) 加藤政利, 福間長知¹⁾, 菅谷寿理, 會田智弘, 齋藤公一, 牛島明子¹⁾, 愛須紀子¹⁾, 高橋 啓¹⁾, 水野杏一¹⁾ (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)): 心疾患患者における運動負荷時血圧応答から見た化学受容体反射感受性と換気亢進の関係. 第 33 回日本高血圧学会総会, 2010. 10.
- 12) 會田智弘, 福間長知¹⁾, 菅谷寿理, 加藤政利, 林 寛子¹⁾, 加藤祐子¹⁾, 高橋 啓¹⁾, 本間 博¹⁾, 水野杏一¹⁾ (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)): 心筋梗塞合併の睡眠時無呼吸発作が就寝中の血圧・心拍・心拍変動に及ぼす影響. 第 33 回日本高血圧学会総会, 2010. 10.
- 13) 佐藤丞子¹⁾, 本間 博¹⁾, 横島友子¹⁾, 伊藤恵子¹⁾, 藤本啓志¹⁾, 水瀬 学, 松崎つや子, 大野忠明¹⁾, 田島廣之²⁾, 水野杏一¹⁾ (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門), ²⁾ 臨床放射線医学): 突発性左内頸静脈血栓の 2 例. 日本超音波医学会関東甲信越地方会第 22 回学術集会, 2010. 10.
- 14) 松崎つや子, 本間 博¹⁾, 藤本啓志¹⁾, 横島友子¹⁾, 伊藤恵子¹⁾, 大野忠明¹⁾, 水野杏一¹⁾ (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)): 大動脈弁石灰化と上行大動脈近位部壁の伸展性との関係. 第 47 回日本臨床生理学会総会, 2010. 11.
- 15) 松崎つや子, 関野玲子, 横島友子¹⁾, 伊藤恵子¹⁾, 藤本啓志¹⁾, 大野忠明¹⁾, 本間 博¹⁾, 水野杏一¹⁾ (1) 内科学 (循

環器・肝臓・老年・総合病態部門))：心エコー図の指標を正確に記録し、評価できるような超音波検査士の教育とは。第75回日本循環器学会総会・学術集会，2011. 3.

- 16) 會田智弘，福間長知¹⁾，菅谷寿理，加藤政利，齋藤公一，林 寛子¹⁾，加藤和代¹⁾，愛須紀子¹⁾，水野杏一¹⁾ (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門))：経皮炭酸ガス分圧モニターと就寝時終夜呼吸検査同時施行の有用性に関する検討。第75回日本循環器学会総会・学術集会，2011. 3.
- 17) 加藤政利，福間長知¹⁾，菅谷寿理，會田智弘，齋藤公一，加藤祐子¹⁾，高橋 啓¹⁾，水野杏一¹⁾ (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門))：運動負荷時における経皮的炭酸ガス分圧モニタリングの有用性。第75回日本循環器学会総会・学術集会，2011. 3.

[付属病院看護部]

研究概要

付属病院看護部では，2010年度高度救命救急センター，集中治療室のクリティカル領域において活発に研究活動が行われ，特に学会発表が多く認められた。また，がん看護，周産期，糖尿病看護，遺伝看護，透析看護，患者支援など多くの専門領域における学会での報告がなされた。

研究業績

論文

(1) 解説：

- 1) 原田恭子：心臓血管外科の術後管理 エキスパートは，術前・術中情報をこう活かす！. 不整脈疾患・重症集中ケア 2010；9 (1)：84-87.
- 2) 原田恭子：「わかる！NPPV導入時のケアと管理のポイント」ハートナーシング秋季増刊. ナーシング・トウデイ 2010；25 (5)：20-22.
- 3) 原田恭子：「循環器ナースのための不整脈治療とケア」ハートナーシング秋季増刊. Maze手術 (外科治療) とケア 2010；3 (311)：299-312.

(2) セミナー報告：

- 1) 三宅秀彦^{2, 1)}，宇佐美明美³⁾，峯 克也²⁾，鈴木由美¹⁾，有森直子⁴⁾，渡辺 淳¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院遺伝診療科，2) 日本医科大学産婦人科学講座，3) 至誠会第二病院染色体研究室，4) 聖路加看護大学母性看護・助産学研究室)：第1回遺伝カウンセリングアドバンスセミナー. 日本遺伝カウンセリング学会誌 2011；32 (1)：57-61.

著書

- 1) 坂本真紀：[共著] 第2章 虚血性心疾患の手術とケア. 心臓外科術式別術後ケア早わかりガイド (落雅美編)，2010；pp45-77，メディカル出版.
- 2) 吉田若奈：[共著] 第1章 心臓外科術後に起こり得る主な問題点. 心臓外科術式別術後ケア早わかりガイド (落雅美編)，2010；pp1-43，メディカル出版.
- 3) 伊与恭子：[共著] 第4章代表疾患のフィジカルアセスメント. フィジカルアセスメント徹底ガイド 循環 (三浦雅郁子)，2011；pp102-128，中山書店.

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 原田恭子：心臓血管手術・周術期におけるコメディカルの役割：心臓・血管手術の術前・術後の集中管理. 心

血管麻酔学会（第15回），2010. 10.

(2) パネルディスカッション：

- 1) 曾我部久美，西澤麻里子，関根寛子，清水明子，時津美宇子，朴 由美，内海清乃，榊 由里，佐藤憲明：救急医療におけるグリーンケア「DNARを選んだ患者家族に対する救命救急センターでのケアを考える」，日本臨床救急医学会学術集会（第13回），2010. 5.

(3) ワークショップ：

- 1) 前原茂子：集中治療室の後方病棟として期待すること，日本集中治療医学会学術集会（第38回），2011. 2.

(4) ポスター：

- 1) 神成り麻，森田智子，渡辺裕子，高岡雅子，飯野靖彦，河野里枝，原 正高：透析開始時のチェックリストを用いた安全対策，日本透析医学会学術集会・総会（第55回），2010. 6.
- 2) 細萱真奈美，丸山祥子，高岡雅子，平間章郎，金子朋広，飯野靖彦：当院での慢性腎臓病相談外来の開設への取り組み，日本腹膜透析医学会学術集会・総会（第16回），2010. 11.
- 3) 沢田真紀：指導方法の違いによる乳がん術後のリンパ浮腫予防行動の実態，日本がん看護学会（第25回），2011. 2.
- 4) 蓮見菜々子，白畑恭子，古山景子，宮崎史江，関根典子：自己末梢血幹細胞移植中，皮膚トラブルを起こした事例を検討して，日本造血幹細胞移植学会総会（第33回），2011. 3.

(5) 一般講演：

- 1) 三澤未来¹⁾，渡辺 淳²⁾，鈴木由美，渡辺裕子，垣内麻由美，大木由加志²⁾，川目 裕²⁾，島田 隆¹⁾（¹⁾お茶の水女子大学大学院ライフサイエンス専攻，²⁾日本医科大学付属病院遺伝診療科）：関節過可動型エーラス・ダンロス症候群における診療の課題，日本遺伝カウンセリング学会（第35回），2010. 5.
- 2) 鈴木由美，渡辺 淳¹⁾，阿部 崇²⁾，竹下俊行²⁾，島田 隆¹⁾，大木由加志¹⁾（¹⁾日本医科大学付属病院遺伝診療科，²⁾日本医科大学付属病院産科・女性診療科）：FISH法を併用した羊水染色体検査の遺伝カウンセリング検査報告と産科との連携の在り方，日本遺伝カウンセリング学会（第35回），2010. 5.
- 3) 横田美穂：不育症患者の心理・社会的状況，東京母性衛生学会学術集会（第28回），2010. 5.
- 4) 大倉美紀^{1, 4)}，石原ゆきえ^{2, 4)}，山内真穂^{3, 4)}，安部節美⁴⁾（¹⁾慶応義塾大学病院医療連携室，²⁾昭和大学病院総合相談センター，³⁾武蔵野赤十字病院医療連携センター，⁴⁾東京都退院調整看護師の会）：東京都内の病院の退院調整部署に関する調査，日本医療マネジメント学会（第12回），2010. 6.
- 5) 渡辺 淳¹⁾，古庄知己²⁾，鈴木由美¹⁾（¹⁾日本医科大学付属病院遺伝診療科，²⁾信州大学付属病院遺伝子診療部）：日本におけるエーラスダンロス症候群の現状と課題 患者会と共同で行ったアンケート調査を踏まえて，日本遺伝カウンセリング学会（第35回），2010. 7.
- 6) 藤井祐士，志村知子，磯崎奈津子，橋本恵美，小谷愛子，西畑 毅，蘇畑ひろみ，加瀬知美，背戸陽子，佐藤憲明：A病院の救急・集中治療領域における褥瘡は発生時期の特有性とその因子の分析，日本クリティカルケア看護学会学術集会（第6回），2010. 7.
- 7) 成田清香，志村知子，西畑 毅，鈴木佳奈子，高澤直央，中村千春，伊藤博希，佐藤憲明：A病院の救急・集中治療領域の入院時および入院後における褥瘡保有状況の現状と分析，日本クリティカルケア看護学会学術集会（第6回），2010. 7.
- 8) 相澤里香，佐藤トキ子，小松ひろみ：患者のニーズにそった在宅療養への取り組み，大江戸内分泌手術手技懇話会（第4回），2010. 10.
- 9) 関根寛子，曾我部久美，清水明子，時津美宇子，朴 由美，内海清乃，榊 由里，佐藤憲明：DNARを決断した患者家族に対する看護の取り組み：家族のニーズを模索する看護師の思い，日本救急看護学会学術集会（第12回），2010. 10.
- 10) 草谷和代，山田貴子，大宮司郁代，桑原 妙，片山映里，原口久美，背戸陽子，佐藤憲明：エンゼルケアを家

族と共に行った看護師の思いとその分析. 日本救急看護学会学術集会 (第 12 回), 2010. 10.

- 11) 中川仁美, 白川睦美, 榊 由里, 佐藤憲明: クリティカルケア領域における手指衛生行動の現状分析と課題. 日本救急看護学会学術集会 (第 12 回), 2010. 10.
- 12) 金城 毅, 東 千里, 佐々木美紀, 金箱 萌, 小森邦子, 小川香野: 糖尿病患者へのフットケア指導法の有効性: パンフレット, ビデオを用いた指導. 日本創傷治療学会 (第 40 回), 2010. 12.
- 13) 大久保利恵, 坂本真紀, 原田恭子, 瀬戸利昌, 伊予恭子, 鈴木智恵子: 当集中治療室における既卒者教育の現状と今後の課題: リアリティショックの軽減を目指したメンター活動. 日本集中治療医学会 (第 38 回), 2011. 1.
- 14) 木下庸佑, 高坂幸子, 千葉香菜子, 大久保利恵: 緊急入院となった患者の体験: 集中治療室での看護が与える体験への影響について. 日本集中治療医学会学術集会 (第 38 回), 2011. 2.
- 15) 坂本真紀, 大久保利恵, 原田恭子, 渡邊通枝, 瀬戸利昌, 伊与恭子, 鈴木千恵子: 当 ICU における新人看護師卒後臨床研修制度の現状と課題. 日本集中治療医学会学術集会 (第 38 回), 2011. 2.
- 16) 波多野真弓, 内田友美, 千田梨詠, 三上 恵, 細萱順一, 鈴木智恵子: 集中治療室における終末期医療のあり方を再考する: 医師・看護師の意識調査を分析して. 日本集中治療医学会学術集会 (第 38 回), 2011. 2.
- 17) 佐藤愛子, 古澤寿依, 原田恭子, 瀬戸利昌, 伊与恭子: 関心術後患者に対する保持具を用いた端座位と車椅子移乗の比較: 安全・安楽の視点から. 集中治療学会 (第 38 回), 2011. 3.

(6) 示説:

- 1) 大友陽子, 松田明子, 稲村悠佳, 百束夏子, 権田育栄, 下妻 恵, 久留木亜美, 鈴木友理子, 白畑恭子, 関根典子: 化学療法を受ける血液疾患患者に対するより良い指導への取り組み. がん看護学術集会 (第 25 回), 2011. 2.

(7) 示説発表:

- 1) 深田陽子: 新人看護師に対する緩和ケアの教育への取り組み: 地域がん診療拠点病院におけるアンケート調査からの: 考察. 日本緩和医療学会学術大会 (第 15 回) (東京), 2010. 6.
- 2) 深田陽子, 千田英理子: ジェネラリストに対するがん看護の教育への取り組み: 地域がん診療拠点病院におけるアンケート調査からの: 考察. 日本がん看護学会学術集会 (第 25 回) (兵庫県), 2011. 2.

[付属病院放射線科技師室]

研究概要

放射線科技術部門 (放射線科技師室) は, 診療用画像検査全般および放射線治療を扱う部門である. 一般撮影部門 (X 線撮影部門, X 線透視撮影部門), CT 部門, 核医学検査 (RI) 部門, MRI 部門, 血管撮影部門および放射線治療部門の 6 部門に大別され, それぞれの部門で研究を進めている.

一般撮影部門では, フラットパネル (FPD) の撮像条件に関する研究から医療被曝の軽減および画質向上について検討を進めている. さらに, 今年度は, 「長尺撮影による体動の影響と長尺体動検出技術の有効性」および「咽頭・喉頭領域のエネルギーサブトラクション臨床応用」の研究を行なった.

MRI 部門では, 3T 装置を用いた研究を進めている. 血管疾患への応用, 位相画像の検討および梗塞撮像報の臨床応用に関して検討を進めた. また, 「心筋遅延造影 MRI における TI scout 像 (look-locker) の特徴と IR-T1TFE 法との null point の整合性について」研究成果の取りまとめを行なった.

CT 部門では, 3D-CT の信頼性の向上について継続的に検討を進めている.

放射線科技術部門では, 診療用画像検査全般を扱う部門であり, それぞれの部門ごとに毎年研究テーマを決め, 「正確な画像診断」を行なうことが可能となる「よりよい画像データ」を各診療科に提供できるように研究に取り組んでいる.

研究業績

論文

(1) 総説：

- 1) 土橋俊男：MRIの強磁性体吸着事故の現状と課題：それを踏まえての解決策の方法とは。月刊 新医療 2010；37（9）：176-179.

著書

- 1) 土橋俊男：〔分担〕各種撮像方法の理解 SE法からEPIまで。これだけは習得しようMRI検査（土橋俊男，飯塚明寿，石黒秋弘，藤田 功），2010；pp51-92，株式会社 ピラールプレス。
- 2) 土橋俊男：〔分担〕II-10 MRA. 超実践マニュアルMRI（改訂版）（小倉明夫，土橋俊男，宮地利明，船橋正夫），2010；pp281-309，医療科学社。
- 3) 土橋俊男：〔分担〕MRIのアーチファクト・第4編 第6章。医用画像ハンドブック（石田隆行，桂川茂彦，藤田広志），2010；pp863-876，株式会社 オーム社。

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 土橋俊男：MRI検査の安全管理-強磁性体の吸着事故防止と体内金属への対応-。神奈川MRI技術研究会，2010. 7.

(2) 教育講演：

- 1) 土橋俊男：患者さんから信頼されるMRI技術者を目指して：より安全・安心な検査環境の構築。多摩放射線技師連合会，2010. 11.

(3) セミナー：

- 1) 土橋俊男：MRIの原理からk-spaceの理解まで。日本放射線技師会（東京），2010. 7.
- 2) 土橋俊男：基礎原理：診療放射線技師基礎講習 MRIセミナー。日本放射線技師会（東京），2010. 8.
- 3) 土橋俊男：アーチファクト・脂肪抑制：診療放射線技師基礎講習 MRIセミナー。日本放射線技師会（東京），2010. 8.
- 4) 土橋俊男：安全管理：診療放射線技師基礎講習 MRIセミナー。日本放射線技師会（東京），2010. 8.
- 5) 土橋俊男：安全管理（MRI集中講習会）。東京都放射線技師会（東京），2010. 10.
- 6) 小川匡史：第5回MR専門認定技術者試験問題解説（MRI集中講習会）。東京都放射線技師会（東京），2010. 10.
- 7) 土橋俊男：こんな時あなたならどうする：MRI検査業務の中で自分の行動を振り返ってみる（第2回MRI安全性セミナー：基礎知識と事故防止対策）。日本磁気共鳴専門技術者認定機構（東京），2010. 12.
- 8) 土橋俊男：基礎原理（MRI検査）。日本放射線技師会（埼玉），2010. 12.
- 9) 土橋俊男：安全管理（MR検査）。日本放射線技師会（埼玉），2010. 12.
- 10) 小川匡史：当院における心臓MRIの特徴とphase sensitive inversion recovery法の併用状況。MRI advanced technology seminar（第3回）（エーザイ株式会社本社），2011. 1.

(4) 一般講演：

- 1) 小川匡史，松村善雄，土橋俊男：心筋遅延造影MRIにおけるTI scout像（look-locker）のnull pointの変動について。日本放射線技術学会秋季学術大会（第38回）（仙台国際センター），2010. 10.
- 2) 小川匡史，松村善雄，土橋俊男：心筋遅延造影MRIにおけるTI scout像とIR-T1TFE法とのnull pointの整合性について。日本放射線技術学会秋季学術大会（第38回）（仙台国際センター），2010. 10.

[付属病院 ME 部]

研究概要

付属病院 ME 部は、手術室や集中治療における生命維持管理装置の操作および保守点検を主に、各診療にて使用する医療機器 (ME 機器) や周辺関連機器の管理を行っている。

また、医療機器を扱う上での医療安全を考慮し、いかに安全に医療機器を使用できるかを研究テーマにしている。

1) 手術室部門

手術室部門では、手術に関わる臨床工学技士として人工心肺操作などの技術提供や、日々の機器点検における手術の安全性、機器使用時のサポート、さらには手術運営における効率化を含めた他職種との連携や今後の在り方を研究した。また、周術期におけるモニタリングに求められる安全性や、安全対策として ME 部が取り組んだ結果得られた効果に対する研究発表をおこなった。

また、手術機器に関して各科で使用する機器の共有化を行い、それに対する利便性や運営効果を研究することが出来た。

2) 人工心肺部門

人工心肺部門では、CPB ハンズオンを、学会を通じて参加した麻酔医に

実機を使用して行うことができた。

機器操作を安全に行うことが、我々 ME 部の研究テーマであるが危機管理において、麻酔医と認識を共有することができたと考える。

3) ペースメーカ部門

ペースメーカ部門では、当院における機器チェックの現状を見直し、より安全に行うための工夫を研究し発表した。

4) 高気圧酸素療法部門

高気圧酸素療法部門は、近年急増している難治性潰瘍・壊疽症例の治療に関して、再生医療との併用により良好な治療成績が得られている。

各症例の基礎疾患や感染などの背景と血管新生療法の併用の有無による治療効果について比較検討し発表した。

研究業績

学会発表

(1) シンポジウム：

1) 鈴木健一：周術期における ME の活躍状況 (手術室運営効率化と各職種における周術期管理への取り組み)。日本麻酔科学会 (第 57 回) (福岡), 2010. 6.

(2) パネルディスカッション：

1) 鈴木健一：ME 管理と安全対策：モニターの標準化とその効果：(周術期モニタリングの進歩と安全な ME 機器管理)。日本外科系連合学会 (第 35 回) (千葉), 2010. 6.

(3) セミナー：

1) 野村 実¹⁾, 鈴木健一 (1) 東京女子医科大学麻酔科)：CPB ハンズオン。日本心臓血管麻酔学会 (第 15 回) (東京), 2010. 10.

(4) ワークショップ：

1) 松田範子¹⁾, 黄川田信允¹⁾, 野口裕幸¹⁾, 宮本正章²⁾, 木山輝郎²⁾, 内田英二²⁾, 坂本篤裕⁴⁾ (1) 日本医科大学付属病院 ME 部, 2) 日本医科大学消化器一般・移植外科, 3) 日本医科大学付属病院 再生医療科, 4) 日本医科大学 麻酔科)：糖尿病性および末梢動脈疾患による難治性潰瘍・壊死治療の進歩：再生医療と高気圧酸素療法の併用療法。第 20 回日本臨床工学会 (横浜), 2010. 5.

(5) 一般講演：

- 1) 大石沙織, 鈴木健一, 前田美紀, 杉山千紘, 坂本篤裕：内視鏡共有化の際に ME が行った取り組み, 日本手術医学会 (第 32 回) (横浜), 2010. 10.
- 2) 松田範子¹⁾, 黄川田信允¹⁾, 野口裕幸¹⁾, 木山輝郎²⁾, 内田英二²⁾, 桐木園子³⁾, 太良良平³⁾, 高木 元³⁾, 宮本正章³⁾, 坂本篤裕⁴⁾, 徳永 昭 (¹⁾ 日本医科大学付属病院 ME 部, ²⁾ 日本医科大学付属病院 消化器一般・移植外科, ³⁾ 日本医科大学付属病院 内科・再生医療科, ⁴⁾ 日本医科大学付属病院 麻酔科, ⁵⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター)：末梢動脈疾患による難治性潰瘍・壊死治療の進歩：骨髄血管新生療法と高気圧療法との併用治療効果について, 第 45 回日本高気圧環境・潜水医学会学術総会 (岡山), 2010. 11.
- 3) 島崎弥生¹⁾, 鈴木健一¹⁾, 八重田知見¹⁾, 美野輪恵子¹⁾, 大石沙織¹⁾, 長島聡志¹⁾, 少前貴康¹⁾, 森嶋俊介¹⁾, 坂本篤裕¹⁾, 坂本俊一郎²⁾, 大森裕也²⁾, 新田 隆²⁾, 堀江 格³⁾, 宮内靖司³⁾, 山本哲平³⁾, その他 3 名 (¹⁾ 付属病院 ME 部, ²⁾ 付属病院心臓血管外科, ³⁾ 付属病院循環器内科)：当院におけるデバイスチェックの現状, 日本不整脈学会植え込みデバイス関連冬季大会 (第 3 回) (東京), 2011. 2.

[ワクチン療法研究施設]

研究概要

当研究施設は, 1972 年 (昭和 47) に開設され, 故丸山千里名誉教授が開発した人型結核菌体抽出物質 (SSM : いわゆる丸山ワクチン) による悪性腫瘍の免疫療法を中心に研究を行っている。SSM の治験登録数は, 2011 年 3 月 31 日現在, 387932 例に至り依然として多数の新規患者の紹介を受けている。これらの患者の殆どが学外からの紹介患者であることと, その大半が進行期癌・終末期癌であることは, SSM が治験薬として供給されているにも拘らず, 使用実態は治療薬であることの反映といえる。これらの点を考慮し, SSM の投与方法は画一に限定せず, 主治医からの経過報告を基に各患者ごとに個別に検討する体制をとっている。これらの研究の結果, 基本投与方法の SSM-A・SSM-B 交互隔日投与から A 単独隔日・B 単独隔日・AB 交互連日・A 単独連日等に変更することで, 化学療法・放射線療法等の副作用, 特に白血球数減少の軽減に加え, 一般状態 (QOL : Quality of Life) が改善される症例のあること等が判明しつつある。SSM 使用患者は大半が進行期・終末期癌であるにも拘らず, 良好な一般状態を維持しつつ当初の予想を超えた長期延命の報告がみられることは, SSM が癌治療において全身療法として重責を果たしている結果といえる。

現在, SSM の使用状況・成績についての検討とともに, SSM の本来の使用目的といえる BRM (Biological Response Modifiers) としての作用および癌免疫療法としての作用について, 特に進行期癌における QOL 向上と延命効果の立場からの検討, SSM と既存の治療法との併用時における効果的な投与方法の検討, 長期生存者については背景要因の解析, 延命効果におよぼす要因の影響の検討を行っている。また, SSM の経口投与の可能性ならびに癌予防への応用についても検討を重ねている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Iida K, Mitsuishi T¹⁾, Sasagawa T²⁾, Kato T¹⁾, Ueno T¹⁾, Ikeda M¹⁾, Ninomiya R¹⁾, Wakabayashi T¹⁾, Kawasaki H¹⁾, Motoki T¹⁾, Kawana S¹⁾ (¹⁾ Department of Dermatology, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Obstetrics and Gynecology, Kanazawa Medical University) : Combination of Carbon Dioxide Laser Therapy and Artificial Dermis Application in Plantar Warts : Human Papillomavirus DNA Analysis after Treatment. Dermatologic Surgery 2010 ; 36 (9) : 1401-1405.

[付属病院東洋医学科]

研究概要

東洋医学の原点である「黄帝内経」に記載されている「衛気」の活性化が「自己治癒力」を高めるとの視点から、「自然免疫」の中核を担う「樹状細胞 (DC)」に注目し研究を展開し、平成 22 年度は DEC-205 陽性 DC の選択的活性化によって体内の癌細胞が制御される可能性を報告した (Cancer Immunol. Immunother., 59 : 1083-1095, 2010). また、生薬の主成分である柴胡などのサポニン群、そして薄荷などの精油群はまさにこうした自然免疫系の刺激剤であり、その継続的刺激を経口的に与える方策が漢方治療の作用機序であると考え、国際誌の総説として発表した (Vaccine, 28S : B3-B7, 2010). また、生薬植物群抽出物質が樹状細胞や、NKT 細胞、 $\gamma\delta$ 型 T 細胞などに及ぼす影響を検討するため、植物系細菌群に属すると推測される結核菌に着目し、BCG による粘膜自然免疫系活性化能を検討した結果、実際に BCG が自然免疫担当細胞群に影響を及ぼすことを明らかにすることができた (Cancer Immunol. Immunother., 58 : 1245-1255, 2009).

さらに、樹状細胞表面上の共刺激因子群の発現状態と抗腫瘍効果とを比較検討したところ、B7-H2 分子発現樹状細胞が腫瘍増殖性の鍵を握ることを明らかにするとともに (Clin. Cancer Res., 15 : 770-777, 2009), これら共刺激因子が癌細胞が免疫系から逃れるために変化することを報告した (Blood, 116 (7) : 1124-1131, 2010). 一方母乳中に含まれる樹状細胞上のウイルス感染伝播になう DC-SIGN 分子の発現が TLR3 を介したシグナルで抑制されることも見いだした (Immunology, 130 : 597-607, 2010).

研究業績

論文

(1) 原著 :

- 1) Takeuchi H¹⁾, Takahashi M¹⁾, Norose Y¹⁾, Takeshita T²⁾, Fukunaga Y³⁾, Takahashi H (1) Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, 2) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School, 3) Department of Pediatrics, Nippon Medical School) : Transformation of breast milk macrophages by HTLV-I : implications for HTLV-I transmission via breastfeeding. Biomedical Res 2010 ; 31 (2) : 53-61.
- 2) Miyazaki Y¹⁾, Kamiya S²⁾, Hanawa T²⁾, Fukuda M³⁾, Kawakami H³⁾, Takahashi H, Yokota H¹⁾ (1) Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School, 2) Department of Infectious Diseases, Kyorin University School of Medicine, 3) Department of Anatomy, Kyorin University School of Medicine) : Effect of probiotic bacterial strains of *Lactobacillus*, *Bifidobacterium* and *Enterococcus* on enteroaggregative *Echerichia coli*. J Infect Chemother 2010 ; 16 (2) : 10-18.
- 3) Takaku S, Terabe M¹⁾, Ambrosino E¹⁾, Peng-Jm M¹⁾, Berzofsky J¹⁾ (1) Vaccine Branch, National Cancer Institute, National Institutes of Health, Bethesda, MD, USA) : Blockade of TGF-beta enhances tumor vaccine efficacy mediated by CD8 (+) Tcells. Int J Cancer 2010 ; 126 (7) : 1666-1674.
- 4) Takahashi H : Species-specific CD1-restricted innate immunity for the development of HIV vaccine. Vaccine 2010 ; 28S (2) : B3-B7.
- 5) Yagi Y¹⁾, Watanabe E¹⁾, Watari E¹⁾, Shinya E¹⁾, Satomi M²⁾, Takeshita T²⁾, Takahashi H (1) Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, 2) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School) : Inhibition of DC-SIGN-mediated transmission of HIV-1 by TLR3 signaling in breast milk macrophages. Immunology 2010 ; 130 (4) : 597-607.
- 6) Moriya K¹⁾, Wakabayashi A¹⁾, Shimizu M¹⁾, Tamiura H²⁾, Dan K²⁾, Takahashi H (1) Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, 2) Division of Hematology, Department of Medicine,

Nippon Medical School) : Induction of tumor-specific acquired immunity against already established tumors by selective stimulation of innate DEC-205 (+) dendritic cells. *Cancer Immunol.Immunother.* 2010 ; 59 (7) : 1083-1095.

- 7) Kondo A¹⁾, Yamashita T^{1,2)}, Tamura H¹⁾, Zhao W¹⁾, Tsuji T³⁾, Shimizu M²⁾, Shinya E²⁾, Takahashi H, Tamada K¹⁾, Chen L⁴⁾, Dan K¹⁾, Ogata K¹⁾ (¹⁾ Division of Hematology, Department of Medicine, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, ³⁾ Department of Biological Science and Technology, Tokyo University of Science, ⁴⁾ Department of Dermatology, Department of Oncology and Institute of Cell Engineering, Johns Hopkins University School of Medicine) : Interferon-gamma and tumor necrosis factor-alpha induce an immunoinhibitory molecule, B7-H1, via nuclear factor-kappaB activation in blasts in myelodysplastic syndromes. *Blood* 2010 ; 116 (7) : 1124-1131.

(2) 総説 :

- 1) 平馬直樹, 秋葉哲生¹⁾ (¹⁾ あきば伝統医学クリニック) : 江戸の医案を読む 第10回 津田玄仙『療治茶談』続編付録よりその2. 漢方と診療 2010 ; 1 (1) : 72-79.
- 2) 高橋秀実 : 免疫力による未病のガンの制御. 未病と抗老化 2010 ; 19 (1) : 24-28.
- 3) 平馬直樹, 秋葉哲生¹⁾ (¹⁾ あきば伝統医学クリニック) : 江戸の医案を読む 第11回 津田玄仙『療治茶談』初編より. 漢方と診療 2010 ; 1 (2) : 140-147.
- 4) 平馬直樹, 秋葉哲生¹⁾ (¹⁾ あきば伝統医学クリニック) : 江戸の医案を読む 第12回 原南陽『叢桂亭医事小言』より. 漢方と診療 2010 ; 1 (3) : 206-212.
- 5) 平馬直樹, 秋葉哲生¹⁾ (¹⁾ あきば伝統医学クリニック) : 江戸の医案を読む 第13回 山田業広『井見集附録』より. 漢方と診療 2010 ; 1 (4) : 272-279.
- 6) 高橋秀実 : 宿主免疫応答と各種病態. 臨床と微生物 2011 ; 38 (1) : 9-14.

著 書

- 1) 高橋秀実 : [分担] 細胞性免疫 (CTL) の誘導と樹状細胞. 臨床粘膜免疫学 (清野 宏), 2010 ; pp195-223, 株式会社シナジー.

学会発表

[追加分]

追加分一般講演 :

- 1) 平馬直樹 : 津田玄仙から学ぶ弁証論治. 熊本漢方懇話会 (熊本), 2010. 3.

追加分教育講演 :

- 1) 平馬直樹 : 中医基本処方解説その1. 仙台中医学研究会 (宮城), 2010. 1.

追加分特別講演 :

- 1) 高橋秀実 : *Helicobacter pylori* 感染と生体応答. 第14回小児 *Helicobacter pylori* 研究会 (東京), 2010. 3.

(1) 特別講演 :

- 1) 平馬直樹 : 日本漢方のリウマチ性疾患に対する常用方剤紹介. 世界中医薬学会連合会風湿病分科会第1回国際会議 (北京), 2010. 8.
- 2) 高橋秀実 : 樹状細胞に関する新たな知見 : 生体応答と各種の症候. 新たな腫瘍制御へのアプローチ. 平成22年度北区医師会夏の免疫・アレルギーセミナー (東京), 2010. 4.
- 3) 高橋秀実 : 日本医科大学における東洋医学に関する教育の現状と展望. 第42回日本医学教育学会大会 (東京), 2010. 7.

- 4) 高橋秀実：HIVの現状と対応. 平成22年度第一回院内感染対策講演会（東京），2010. 9.
- 5) 高橋秀実：自然免疫を介した生体応答と様々な症候：漢方薬の新たな作用点. 日本東洋医学会東京都部会（東京），2010. 10.
- 6) 平馬直樹：難治性皮膚疾患に対する漢方治療の試み. 日本東洋医学会東京都部会（東京），2010. 10.
- 7) 高橋秀実：日常診療に役立つ漢方医療. 東京医科歯科大学イブニングセミナー（東京），2010. 10.
- 8) 平馬直樹：江戸の医家津田玄仙の臨床に学ぶ. 日本東洋医学会山形県部会（山形），2010. 11.
- 9) 高橋秀実：感染症に対する生体応答と各種の症候. 第23回日本外科感染症学会総会学術集会（東京），2010. 11.

(2) 教育講演：

- 1) 菅沼 栄：痰飲，咳嗽病の脈・証・治. 東京中医学研究会（東京），2010. 4.
- 2) 菅沼 栄：「六経弁証と臟腑弁証，傷寒と温病」. 第61回日本東洋医学会学術総会（名古屋），2010. 6.
- 3) 菅沼 栄：中医学・医学史，陰陽五行学説. 新東京中医学入門講座（東京），2010. 7.
- 4) 平馬直樹：中医基本処方解説その10. 神奈川実践漢方勉強会（横浜），2010. 10.

(3) シンポジウム：

- 1) Takahashi H：Selective activation of species-restricted innate immunity for the development of individually restricted acquired immunity. World Immune Regulation Meeting-IV (Davos, Switzerland), 2010. 4.
- 2) 高橋秀実：成人型 STILL 病の再燃を起こした授乳婦に対し温病方剤が奏功した1例. 第61回日本東洋医学会学術総会（名古屋），2010. 6.
- 3) 菅沼 栄：中医学から見た厥陰病・温病から厥陰病の治療を補足. 第61回日本東洋医学会学術総会（名古屋），2010. 6.
- 4) 高橋秀実：エイズの現況と対策. 第20回日本医科大学医学会公開シンポジウム（東京），2010. 6.
- 5) 高橋秀実：日本医科大学における東洋医学教育の現状と展望. Kampo Medical Symposium（東京），2011. 2.

(4) 一般講演：

- 1) Negishi Y¹⁾, Watanabe E¹⁾, Kumagai Y¹⁾, Takeshita T²⁾, Takahashi H (¹⁾ Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School) : Profiling of decidual and splenic dendritic cells in pregnant mice. World Immune Regulation Meeting-IV (Davos, Switzerland), 2010. 4.
- 2) Yagi Y¹⁾, Watanabe E¹⁾, Takahashi M¹⁾, Watari E¹⁾, Satomi M²⁾, Takeshita T²⁾, Takahashi H (¹⁾ Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School) : Suppression of DC-SIGN-mediated transmission of HIV-1 by TLR3 signaling in breast milk macrophages. World Immune Regulation Meeting-IV (Davos, Switzerland), 2010. 4.
- 3) Mayumi N¹⁾, Watanabe E¹⁾, Yagi Y¹⁾, Watari E¹⁾, Takahashi H (¹⁾ Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School) : Langerin expression on breast milk macrophages under the influence of keratinocytes. World Immune Regulation Meeting-IV (Davos, Switzerland), 2010. 4.
- 4) Omi K¹⁾, Saito N¹⁾, Shinya E¹⁾, Shimizu M¹⁾, Owaki A¹⁾, Watanabe E¹⁾, Takahashi M¹⁾, Takaku C¹⁾, Ibuki K²⁾, Miura T²⁾, Hayami M²⁾, Takahashi H (¹⁾ Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, ²⁾ Laboratory of Primate Model, Experimental Research Center for Infectious Diseases, Institute for Virus Research, Kyoto University) : Invariant T-cell receptor-mediated functional cross-reactivity of natural killer T cells among primates and rodents. World Immune Regulation Meeting-IV (Davos, Switzerland), 2010. 4.
- 5) Matsushashi T¹⁾, Higuchi T¹⁾, Shimizu M¹⁾, Owaki A¹⁾, Takahashi M¹⁾, Shinya E¹⁾, Nishimura E²⁾, Takahashi H (¹⁾ Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, ²⁾ Department of

- Urology, Nippon Medical School) : Possible mechanisms for the inhibition of bladder tumor by intravesical BCG therapy. World Immune Regulation Meeting-IV (Davos, Switzerland), 2010. 4.
- 6) Harimoto H¹⁾, Shimizu M¹⁾, Owaki A¹⁾, Nakatsuka K²⁾, Dan K³⁾, Takahashi H (¹⁾ Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, ²⁾ Division of Hepatology, Department of Medicine, Nippon Medical School, ³⁾ Division of Hematology, Department of Medicine, Nippon Medical School) : Down-modulation of co-stimulatory molecules on tumor-infiltrating dendritic cells by un-controllable murine hepatoma cells. World Immune Regulation Meeting-IV (Davos, Switzerland), 2010. 4.
 - 7) Date T¹⁾, Moriya K¹⁾, Wakabayashi A¹⁾, Takahashi H (¹⁾ Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School) : Induction of tumor-specific acquired immunity against already established tumors by selective activation of innate DEC-205+ dendritic cells. World Immune Regulation Meeting-IV (Davos, Switzerland), 2010. 4.
 - 8) Inagaki S¹⁾, Takeuchi H¹⁾, Takahashi M¹⁾, Norose Y¹⁾, Takahashi H (¹⁾ Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School) : Characterization and functional analysis of HTLV-I-transformed breast milk macrophages (HTLV-BrMM ϕ). World Immune Regulation Meeting-IV (Davos, Switzerland), 2010. 4.
 - 9) Takaku S, Nakagawa Y¹⁾, Takahashi M¹⁾, Owaki A¹⁾, Shimizu M¹⁾, Takaku C, Takahashi H (¹⁾ Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School) : Protection of CD8+ CTL apoptosis induced by brief exposure to an antigenic peptide. The 14th International Congress of Immunology (Kobe, Japan), 2010. 8.
 - 10) Negishi Y¹⁾, Watanabe E¹⁾, Kumagai Y¹⁾, Takeshita T²⁾, Takahashi H (¹⁾ Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School) : Internal balance of two distinct subsets of murine dendritic cells during pregnancy. The 14th International Congress of Immunology (Kobe, Japan), 2010. 8.
 - 11) Harimoto H¹⁾, Shimizu M¹⁾, Owaki A¹⁾, Nakatsuka K²⁾, Dan K³⁾, Takahashi H (¹⁾ Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, ²⁾ Division of Hepatology, Department of Medicine, Nippon Medical School, ³⁾ Division of Hematology, Department of Medicine, Nippon Medical School) : Down-modulation of co-stimulatory molecules on tumor-infiltrating dendritic cells by un-controllable murine hepatoma cells. The 14th International Congress of Immunology (Kobe, Japan), 2010. 8.
 - 12) Yagi Y¹⁾, Watanabe E¹⁾, Watari E¹⁾, Shinya E¹⁾, Satomi M²⁾, Takeshita T²⁾, Takahashi H (¹⁾ Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School) : Inhibition of DC-SIGN-mediated transmission of HIV-1 via breast milk macrophages by TLR3 signaling. The 14th International Congress of Immunology (Kobe, Japan), 2010. 8.
 - 13) 新谷英滋¹⁾, 清水真澄¹⁾, 大脇敦子¹⁾, 渡邊恵理¹⁾, 高久千鶴乃, 松村次郎¹⁾, Gennaro D²⁾, 高橋秀実 (¹⁾ Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, ²⁾ Experimental Immunology, University Hospital, Basel, Switzerland) : Interaction between HIV-1 Nef and the lipid antigen presentation molecules, CD1a and CD1d, in dendritic cells. 第24回日本エイズ学会学術集会 (東京), 2010. 11.
 - 14) 廣田 薫, 近江恭子, 小野顕人, 吉永恵実, 福山耕治, 高久千鶴乃, 高久 俊, 平馬直樹, 高橋秀実 : 反復性腹痛発作ならびに冷え・浮腫を伴う月経困難症に対し漢方薬が奏功した1例. 第61回日本東洋医学会学術総会 (名古屋), 2010. 6.
 - 15) 高久 俊, 大藪英一¹⁾, 栗林秀樹¹⁾, 高久千鶴乃, 廣田 薫, 近江恭子, 吉永恵実, 平馬直樹, 高橋秀実 (¹⁾ 越谷大袋クリニック) : 透析患者における上部消化器症状に対して平胃散が著効した4例. 第61回日本東洋医学会学術総会 (名古屋), 2010. 6.

- 16) 小野頭人, 福山耕治, 近江恭子, 廣田 薫, 高久千鶴乃, 高久 俊, 平馬直樹, 高橋秀実: リウマチ性多発筋痛症の既往がある患者の腰背部痛に漢方薬が有効であった1例. 第61回日本東洋医学会学術総会(名古屋), 2010. 6.
- 17) 福山耕治, 小野頭人, 近江恭子, 吉永恵実, 高久 俊, 廣田 薫, 高久千鶴乃, 平馬直樹, 高橋秀実: 十全大補湯が奏功した気血両虚による過活動性膀胱の1例. 第61回日本東洋医学会学術総会(名古屋), 2010. 6.
- 18) 福岡豊永, 藤田 勇, 高久 俊, 平馬直樹, 高橋秀実: 医師と鍼灸師の連携: 小児円形脱毛症の1例を通して. 第61回日本東洋医学会学術総会 一般講演(名古屋), 2010. 6.
- 19) 高橋めぐみ¹⁾, 稲垣真一郎¹⁾, 渡理英二¹⁾, 高橋秀実¹⁾ (Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School): HIV-1 感染細胞を傷害するNK レセプター陽性T細胞. 第58回日本ウイルス学会学術集会(徳島), 2010. 11.
- 20) 中川洋子¹⁾, 渡理英二¹⁾, 高橋秀実¹⁾ (Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School): Single-color flow cytometry を用いた HIV 外被糖蛋白 gp160 特異的細胞傷害性 T 細胞活性測定法の検討. 第58回日本ウイルス学会学術集会(徳島), 2010. 11.
- 21) 高久千鶴乃, 渡邊恵理¹⁾, 大脇敦子¹⁾, 清水真澄¹⁾, 松村次郎¹⁾, 近江恭子, 渡理英二¹⁾, 新谷英滋¹⁾ (Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School): Th2 型環境における CD4 陽性 NKT 細胞の X4 type HIV-1 に対する感受性ならびに感染伝播性の増強. 第24回日本エイズ学会学術集会(東京), 2010. 11.
- 22) 松村次郎¹⁾, 大脇敦子¹⁾, 清水真澄¹⁾, 秋山純一²⁾, 新谷英滋¹⁾, 岡 慎一²⁾, 高橋秀実¹⁾ (Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, ²⁾ 国立国際医療センター・エイズ治療研究開発センター): HIV 患者の腸管粘膜感染細胞内に存在するウイルス核酸の実態. 第24回日本エイズ学会学術集会(東京), 2010. 11.
- 23) 高橋秀実, 八木幸恵¹⁾, 渡邊恵理¹⁾, 渡理英二¹⁾, 新谷英滋¹⁾, 里見操緒²⁾, 竹下俊行²⁾ (Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School): TLR3 シグナルによる母乳中マクロファージの DC-SIGN 分子を介したエイズウイルス感染伝播抑制. 第24回日本エイズ学会学術集会(東京), 2010. 11.

[ゲノム先端医療部]

研究概要

ヒト遺伝子の解析研究の成果は、従来の単一遺伝子病から薬物感受性や疾患易罹患性へと拡大し、個人々人での疾患の早期診断さらに予防への応用すなわちオーダーメイド医療(個別化医療)実現が現実のものになりつつある。今後、日常診療の場でオーダーメイド医療のための遺伝子情報を用いる機会が増えることが予想され、そのための病院内での体制作りが急がれる。日本医科大学付属病院では法人の全面的支援を受けて全国の医科大学に先駆け、平成20年4月にオーダーメイド遺伝子医療を実現するための「ゲノム先端医療部」を開設した。我々の部署では近年著しく増加してきた臨床的有用性が実証されつつある遺伝子情報を、倫理的課題にも配慮し医療現場に還元することを目的としている。抗がん剤であるイリノテカンによる副作用に関連するUGT1A1遺伝子多型検査は保険適用後も院内で検査を行い、武蔵小杉病院からの検体も対応している。ワルファリンの用量に関与するCYP2C9, VKORC1遺伝子多型と体表面積、年齢から算出した推定維持量の有用性に関する臨床研究を循環器内科と共同で進めている。現在、さらなる検査項目の増加を目指し検討を進めている。これらのオーダーメイド医療が臨床の場で実現されていくには、倫理的・法的・社会的問題(Ethical, Legal and Social Issues)への対応を同時に検討することが求められる。文部科学省の「個人の遺伝情報に応じた医療の実現プロジェクト」第2期でのELSI研究において、日本医科大学が医学部としては唯一参画し研究を進めている。本年度は、オーダーメイド医療を推進するために関連する産学連携体制の

構築も開始した。ゲノム先端医療部は、これからの進歩に迅速に対応し、日本における先端ゲノム医療の臨床応用への橋渡しを推進していく部署として発展していきたい。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 渡邊 淳, 島田 隆：ゲノム情報を医療現場で適切に利用するための課題：日本医科大学付属病院での試み。ファルマシア 2010；46 (5)：415-420.
- 2) 渡邊 淳, 島田 隆：遺伝医学教育の現状と課題 遺伝子診療学：遺伝子診断の進歩とゲノム治療の展望。日本臨床 2010；68 (Suppl8)：335-339.

著書

- 1) 渡邊 淳：[分担] 遺伝情報を診療で活用するための課題。はじめて出会う生命倫理 (玉井真理子, 大谷いづみ), 2011：p77, 有斐閣.

学会発表

(1) 教育講演：

- 1) 渡邊 淳：PGx 検査への遺伝子医療部門の関わり：全国遺伝子医療部門調査結果をふまえて。第8回 (2010年) 全国遺伝子医療部門連絡会議 (さいたま市), 2010. 10.

(2) ワークショップ：

- 1) 渡邊 淳¹⁾ (1) 生化学・分子生物学 (分子遺伝学)：「遺伝医学実習：検査や研究の基本操作である PCR を経験しよう」。第55回日本人類遺伝学会学術集会 (さいたま市), 2010. 10.

(3) 一般講演：

- 1) Watanabe A, Hatakeyama M, Tsutsumi M¹⁾, Muto K²⁾, Minami S³⁾, Fukushima Y⁴⁾, Shimada T (1) SRL, 2) 東京大学医科学研究所, 3) 老人病研究所, 4) 信州大学)：Study report on Personalized Medicine (Tailor-made Medicine / Order-made Medicine) implementation status in Japan. 2011 ACMG Annual Clinical Genetics Meeting (バンクーバー (カナダ)), 2011. 3.
- 2) 渡邊 淳, 三澤未来, 渡部麻衣子¹⁾, 武藤香織¹⁾, 南 史朗²⁾, 島田 隆 (1) 東京大学医科学研究所, 2) 老人病研究所)：ファーマコゲノミクス支援に向けた情報提供・教育媒体の開発。第42回日本医学教育学会大会(東京), 2010. 7.
- 3) 渡邊 淳, 三澤未来¹⁾, 堤 正好²⁾, 武藤香織³⁾, 南 史朗⁴⁾, 福嶋義光⁵⁾, 島田 隆 (1) お茶の水女子大学, 2) SRL, 3) 東京大学医科学研究所, 4) 老人病研究所, 5) 信州大学)：遺伝情報を用いたオーダーメイド医療の実施状況に関する全国施設調査 (第1報)。第17回日本遺伝子診療学会大会 (津 (3重)), 2010. 8.
- 4) 藤田京志, 小笠原彩子, 中島美咲, 堀部 聖, 高橋晴美, 蒔田泰誠, 渡邊 淳, 島田 隆 (1) 明治薬科大学大学院, 2) 理化学研究所ゲノム医科学研究センター)：Invader Plus 法を用いた装置 SNP Analyzer によるワルファリン関連遺伝子多型の解析。日本臨床検査自動化学会第42回大会 (神戸), 2010. 10.
- 5) 峯岸裕司¹⁾, 渡辺 淳, 宮永見彦¹⁾, 北村和広¹⁾, 小齊平聖治¹⁾, 岡野哲也¹⁾, 清家正博¹⁾, 吉村明修¹⁾, 島田 隆, 弦間昭彦¹⁾ (1) 附属病院呼吸器内科)：原発性肺癌における UGT1A1 *28/*6 遺伝子多型とイリノテカン副作用および治療効果との相関に関する検討。第51回日本肺癌学会総会 (広島), 2010. 11.

21. 武蔵小杉病院付置施設等

【武蔵小杉病院消化器病センター】

研究概要

消化器病センターは消化器外科医、内科医により構成され、消化器疾患全般の診断から治療まで一貫した幅広い診療および研究を行っており、消化器疾患関連領域に関する以下のテーマについて臨床的、基礎的研究を進めている。

【悪性疾患】

1. 食道癌放射線感受性に関する基礎研究（老人病研究所との共同研究）。
2. 胃癌、大腸癌における化学療法・分子標的治療に関する基礎的・臨床病理学的研究。
3. 肝細胞癌、膵癌の発癌に関連した遺伝子解析による基礎的研究（老人病研究所との共同研究）。
4. 消化器癌の集学的治療、抗癌剤感受性試験による個別化を含めた胃癌、大腸癌化学療法の確立。
5. 進行膵・胆道癌に対する血管合併切除を伴う拡大手術および術後化学療法による予後改善の追求。
6. 肝臓癌に対する集学的治療（手術、TACE, PEIT, RFA など）。
7. 消化器癌に対する腹腔鏡下手術（LAG, LAC, VATS-E）。
8. 早期癌に対する内視鏡治療（EMR・ESD）。
9. IVR を応用した消化管、胆道、血管内ステント治療 10. 閉塞性黄疸に対する減黄術（PTCD, 内視鏡的ステント）。
11. 進行再発大腸癌に対する分子標的治療とバイオマーカーの研究。

【緊急疾患】

1. イレウスの保存的・外科的治療、病態解析、新しい診断と治療の開発。
2. 上部消化管出血に対する内視鏡治療、臨床的研究。
3. 上部消化管穿孔に対する大網充填術の臨床的・基礎的研究。
4. 重症急性膵炎に対する集学的治療による予後改善の追求。

【良性疾患】

1. 胃十二指腸潰瘍における *Helicobacter pylori* の臨床的・基礎的研究。
2. 胆道結石に対する内視鏡的治療（EST, EPBD）・腹腔鏡手術（腹腔鏡下胆嚢摘出術・総胆管載石術）の技術改良と標準化。
3. 創傷治癒、外科侵襲に関する基礎研究。
4. 小腸鏡・カプセル内視鏡を利用した小腸疾患の診断・治療。
5. 単孔式腹腔鏡下手術の導入。
6. 炎症性腸疾患に対する分子生物学的治療の研究。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 鈴木英之, 尾形昌男, 吉野雅則, 松信哲朗, 三浦克洋, 内田英二¹⁾ (1) 外科学講座（消化器・一般・乳腺・移植部門）：安全にできる腹腔鏡下大腸手術のポイント。外科治療 2010；103（4）：403-410。
- 2) Maejima K, Tokunaga A, Kiyama T¹⁾, Kanno H¹⁾, Bou H, Watanabe M, Suzuki H, Uchida E¹⁾ (1) 付属病院消化器外科）：Chemosensitivity test for 5-fluorouracil and 5-chloro-2,4-dihydropyridine predicts outcome of gastric cancer patients receiving S-1 postoperatively. Gastric Cancer 2010；13（4）：231-237。
- 3) Chihara N, Amo T¹⁾, Tokunaga A, Yuzuriha R¹⁾, M. Wolf A¹⁾, Asoh S¹⁾, Suzuki H, Uchida E²⁾, Ohta S¹⁾ (1)

Department of Biochemistry and Cell Biology, Institute of Development and Aging Sciences, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Surgery, Nippon Medical School) : Mitochondrial DNA alternations in colorectal cancer cell lines. J Nippon Med Sch 2011 ; 78 (1) : 13-21.

(2) 症例報告 :

- 1) Mizutani S¹⁾, Yagi A¹⁾, Watanabe M¹⁾, Maejima K¹⁾, Komine O¹⁾, Yoshino M¹⁾, Hoshino A¹⁾, Ogata M¹⁾, Suzuki H¹⁾, Tokunaga A¹⁾, Uchida E²⁾ (¹⁾ Institute of Gastroenterology Nippon Medical School Musashikosugi Hospital, ²⁾ Department of Surgery, Nippon Medical School) : T tube drainerge for spontaneous perforation of the extrahepatic bile duct. Med Sci Monit 2011 ; 17 (1) : CS8-11.
- 2) 松信哲朗, 鈴木英之, 尾形昌男, 小原邦彦¹⁾, 吉野雅則, 三浦克洋, 近藤恭司, 三島圭介, 鶴田宏之²⁾, 徳永 昭, 内田英二²⁾ (¹⁾ おばら消化器肛門病クリニック, ²⁾ 日本医科大学外科) : 高圧酸素療法施行後一時の人工肛門造設により救命しえた Fournier 症候群の 1 例. 神奈川大腸肛門疾患懇話会症例集 2010 ; 16 (1) : 9-12.

学会発表

(1) パネルディスカッション :

- 1) 渡辺昌則, 小峯 修, 松信哲朗, 前島顕太郎, 水谷 聡, 吉野雅則, 坊 英樹, 尾形昌男, 鈴木英之, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学外科) : SSI 危険因子からみた下部消化管手術における周術期感染対策. 日本外科感染症学会総会 (第 23 回) (東京), 2010. 11.
- 2) 吉野雅則, 鈴木英之, 渡辺昌則, 千原直人, 松信哲朗, 三浦克洋, 三島圭介, 野村 聡, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学外科) : 大腸癌イレウスにおける治療戦略. 日本腹部救急医学会総会 (第 47 回) (福岡), 2011. 3.

(2) ワークショップ :

- 1) 前島顕太郎, 徳永 昭, 木山輝郎¹⁾, 菅野仁士¹⁾, 山田岳史²⁾, 千原直人, 坊 英樹, 渡辺昌則, 古川清憲²⁾, 鈴木英之, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 付属病院消化器外科, ²⁾ 北総病院外科) : 胃癌術後補助化学療法における抗癌剤感受性に関する臨床試験 (抗癌剤感受性試験の up date). 日本外科学会定期学術集会 (第 110 回) (名古屋), 2010. 4.
- 2) 松信哲朗, 鈴木英之, 尾形昌男, 吉野雅則, 三浦克洋, 三島圭介, 八木亜記, 大山莉奈, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学外科) : 高齢者大腸癌 Oncologic Emergencies の検討. 日本腹部救急医学会総会 (第 47 回) (福岡), 2011. 3.

(3) ポスター :

- 1) 三島圭介, 水谷 聡, 星野有哉, 黒田誠司, 山岸征嗣, 野村 聡, 前島顕太郎, 吉野雅則, 小峯 修, 尾形昌男, 渡辺昌則, 鈴木英之, 徳永 昭, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学外科) : 肝内結石により術後遅発性胆汁漏を来した肝切除の 1 例. 肝胆膵外科学会 (第 22 回) (仙台), 2010. 5.

(4) 一般講演 :

- 1) Mizutani S¹⁾, Hoshino A¹⁾, Maejima K¹⁾, Komine O¹⁾, Yoshino M¹⁾, Ogata M¹⁾, Watanabe M¹⁾, Aimoto T²⁾, Suzuki H¹⁾, Uchida E²⁾ (¹⁾ Institute of Gastroenterology, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital, ²⁾ Department of Surgery, Nippon Medical School) : Mutations in the mitochondrial genome of pancreatic cancer effect resistance against anti-cancer drugs. European Pancreatic Club (Stockholm), 2010. 6.
- 2) Komine O, Watanabe M, Maejima K, Mizutani S, Yoshino M, Bou H, Ogata M, Suzuki H, Tokunaga A, Uchida E¹⁾ (¹⁾ Department of Surgery, Nippon Medical School) : Comparison of self-expanding metal stents and percutaneous endoscopic gastrostomy for palliative treatment of inoperable esophageal cancer. Isde World Congress (12th) (Kagoshima), 2010. 9.
- 3) Watanabe M, Komine O, Kuroda S, Nomura S, Mejjima K, Mizutani S, Yoshino M, Bou H, Ogata M, Suzuki H, Uchida E¹⁾ (¹⁾ Department of Surgery, Nippon Medical School) : A clinical analysis of risk factors

- for hospital death after esophagectomy in esophageal cancer patients. ISDE World Congress (12th) (Kagoshima, Japan), 2010. 9.
- 4) Yoshino M, Matsunobu T, Miura K, Ogata M, Watanabe M, Suzuki H, Uchida E¹⁾ (1) Department of Surgery, Nippon Medical School) : Management of Advanced Colorectal Cancer With Intestinal Resection or Shunting and Colostomy After Chemotherapy With Bevacizumab. 27th Congress of the Pan-Pacific Surgical Association (Honolulu, Hawaii), 2010. 11.
 - 5) Matsunobu T, Suzuki H, Ogata M, Yoshino M, Miura K, Kuroda S, Uchida E¹⁾ (1) Department of Surgery Nippon Medical School) : A novel technique of surgical treatment for stoma prolapse - mesentery preserving method. Congress of Pan-Pacific Surgical Association (The 27th) (Honolulu), 2010. 11.
 - 6) Kuroda S¹⁾, Yoshino M¹⁾, Mizutani S¹⁾, Hoshino A¹⁾, Matsunobu T¹⁾, Ogata M¹⁾, Watanabe M¹⁾, Suzuki H¹⁾, Uchida E²⁾ (1) Institute of Gastroenterology, Musashikosugi Hospital Nippon Medical School, 2) Department of Surgery, Nippon Medical School) : A Case of A Giant Pancreatic Lymphangioma. Congress of the Pan-Pacific Surgical Association (27th) (Hawaii in U S A), 2010. 11.
 - 7) Hoshino A, Nakamura Y¹⁾, Mizutani S, Suzuki S, Utida E¹⁾ (1) 日本医科大学 外科) : Outcomes after laparoscopic adrenalectomy. the 9th Asia Pacific Congress of Endoscopic and Laparoscopic Surgery (第9回) (ハノイ, ベトナム), 2010. 11.
 - 8) Hoshino A, Nakamura Y¹⁾, Mizutani S, Suzuki H, Utida E¹⁾ (1) 日本医科大学 外科) : Case report laparoscopic distal pancreatectomy and pancreatoduodenectomy. the 9th Asia Pacific Congress of Endoscopic and Laparoscopic Surgery (第9回) (ハノイ, ベトナム), 2010. 11.
 - 9) Hoshino A, Nakamura Y¹⁾, Mizutani S, Mishima K, Suzuki H, Utida E¹⁾ (1) 日本医科大学 外科) : Giant splenic epithelial cyst with elevated serum marker CA19-9 level. the 9th Asia Pacific Congress of Endoscopic and Laparoscopic Surgery (第9回) (ハノイ, ベトナム), 2010. 11.
 - 10) Miura K, Suzuki H, Ogata M, Yoshino M, Matsunobu T, Watanabe M, Kan H¹⁾, Uchida E¹⁾ (1) Department of Surgery, Nippon Medical School) : The benefit of cetuximab therapy for the patient with wild-type KRAS advanced colorectal cancer. The 12th China-Japan-Korea Colorectal Cancer Symposium (第12回) (Shanghai, China), 2010. 12.
 - 11) 黒田誠司¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 小峯 修¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 野村 聡¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, 2) 日本医科大学 外科) : Boerhaave 症候群類似の医原性食道破裂の1例. 日本食道学会学術集会 (第64回) (福岡県久留米市), 2010. 9.
 - 12) 尾形昌男, 吉野雅則, 近藤恭司, 三浦克洋, 松信哲朗, 小泉正樹, 渡辺昌則, 鈴木英之, 徳永 昭, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学大学院臓器病態制御外科学) : 腹腔鏡下大腸癌手術においての高齢者患者の検討. 第65回日本消化器外科学会総会 (下関), 2010. 7.
 - 13) 小峯 修, 渡辺昌則, 埜 秀暁, 前島顕太郎, 水谷 聡, 吉野昌則, 坊 英樹, 尾形昌男, 鈴木英之, 徳永 昭, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学外科) : 狭窄・瘻孔を伴う切除不能食道癌に対する経皮内視鏡的胃瘻造設術の有用性の検討. 日本外科学会定期学術集会 (第110回) (名古屋), 2010. 4.
 - 14) 松信哲朗, 近藤恭司, 三浦克洋, 吉野雅則, 小原邦彦, 尾形昌男, 鶴田宏之¹⁾, 鈴木英之, 徳永 昭, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学外科) : 高圧酸素療法施行後一時的人工肛門造設により救命しえた Fournier 症候群の1例. 神奈川大腸肛門疾患懇話会 (第31回) (横浜), 2010. 4.
 - 15) 水谷 聡¹⁾, 太田成男²⁾, 千原直人¹⁾, 山岸征嗣¹⁾, 豊田哲鎬¹⁾, 野村 聡¹⁾, 埜 秀暁¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 小峯 修¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 星野有哉¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 内田英二³⁾, その他1名 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学老人病研究所, 3) 日本医科大学 外科) : 膵臓癌ミトコンドリア DNA 体細胞変異による抗癌剤耐性獲得の分子生物学的検討. 日本外科学会 (110回) (名古屋), 2010. 4.

- 16) 星野有哉, 中村慶春¹⁾, 塩谷 猛²⁾, 水谷 聡, 徳永 昭, 田尻 孝¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学外科, 2) さいたま市民医療センター外科): 腹腔鏡下膝切除術は低侵襲治療か? 当科における手術症例の検討. 日本外科学会定期学術集会 (第 110 回) (名古屋), 2010. 4.
- 17) 坊 英樹, 小峯 修, 吉野雅則, 尾形昌男, 渡辺昌則, 鈴木英之, 徳永 昭, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学外科): 消化器癌手術における手術部位感染防止に対する腹壁縫合. 日本外科学会 (第 110 回) (名古屋), 2010. 4.
- 18) 星野有哉, 中村慶春¹⁾, 水谷 聡, 徳永 昭, 田尻 孝¹⁾, 内田英二¹⁾, 鈴木英之 (1) 日本医科大学 外科): 十二指腸副乳頭および主乳頭に同時発生した乳頭部腫瘍に対し経十二指腸的切除術を施行した 1 例. 日本肝胆膵外科学会 (第 22 回) (仙台), 2010. 5.
- 19) 水谷 聡¹⁾, 八木重記¹⁾, 和田由大¹⁾, 山岸征嗣¹⁾, 豊田哲鎬¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 小峯 修¹⁾, 星野有哉¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, 2) 日本医科大学 外科): 総肝管腹腔内穿孔の 1 例. 日本肝胆膵外科学会 (22 回) (仙台), 2010. 5.
- 20) 山岸征嗣, 水谷 聡, 相本隆幸¹⁾, 星野有哉, 渡辺昌則, 尾形昌男, 鈴木英之, 徳永 昭, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学外科): 胆嚢十二指腸瘻形成後に発生した胆嚢癌の 1 例. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第 22 回) (仙台), 2010. 5.
- 21) 坂本裕彦¹⁾, 網倉克己¹⁾, 石田隆志¹⁾, 須藤雄仁¹⁾, 二宮理貴¹⁾, 田中洋一¹⁾ (1) 埼玉県立がんセンター 消化器外科): なぜ肝門部胆管癌手術例では hm 陽性が予後因子ではないように見えるか?. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (仙台), 2010. 5.
- 22) 野村 聡¹⁾, 塩谷 猛¹⁾, 渡邊善正¹⁾, 南部弘太郎¹⁾, 豊田哲鎬^{1, 2)}, 山田太郎¹⁾, 渋谷哲男¹⁾, 鈴木英之²⁾, 内田英二³⁾ (1) さいたま市民医療センター 外科, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, 3) 日本医科大学外科): 胃癌傍大動脈リンパ節転移と褐色細胞腫の鑑別に難渋した 1 例. 外科集談会 (第 817 回) (東京), 2010. 6.
- 23) 野村 聡¹⁾, 塩谷 猛¹⁾, 渡邊善正¹⁾, 南部弘太郎¹⁾, 山田太郎¹⁾, 内間久隆²⁾, 渋谷哲男¹⁾, 鈴木英之³⁾, 内田英二⁴⁾ (1) さいたま市民医療センター 外科, 2) さいたま市民医療センター 病理, 3) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, 4) 日本医科大学 外科): 腸重積にて発症し, 敗血症性ショックを合併した回腸リンパ組織腫大の 1 例. 日本外科系連合学術集会 (第 35 回) (千葉), 2010. 6.
- 24) 吉野雅則, 松信哲朗, 三浦克洋, 和田由大, 野村 聡, 千原直人, 尾形昌男, 渡辺昌則, 鈴木英之, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院外科): 大腸癌イレウスに対する経肛門的イレウス管の有用性と問題点. 大腸癌研究会 (第 73 回) (奄美大島, 鹿児島), 2010. 7.
- 25) 鈴木英之, 徳永 昭, 尾形昌男, 吉野雅則, 小泉正樹, 松信哲朗, 菅 隼人¹⁾, 松本智司¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 外科学講座 (消化器・一般・乳腺・移植部門): 大腸癌に対する単孔式内視鏡手術手技の検討. 日本消化器外科学会総会 (第 65 回) (下関), 2010. 7.
- 26) 小峯 修, 渡邊昌則, 前島顕太郎, 水谷 聡, 吉野雅則, 坊 英樹, 尾形昌男, 鈴木英之, 徳永 昭, 内田英二 (1) 日本医科大学外科): 切除不能食道癌に対するステント留置術と胃瘻造設術の比較検討. 日本消化器外科学会総会 (第 65 回) (山口), 2010. 7.
- 27) 前島顕太郎, 徳永 昭, 木山輝郎¹⁾, 菅野仁士¹⁾, 山田岳史²⁾, 千原直人, 坊 英樹, 渡辺昌則, 古川清憲²⁾, 鈴木英之, 内田英二¹⁾ (1) 付属病院消化器外科, 2) 北総病院外科): 胃癌術後補助化学療法における抗癌剤感受性試験の有用性. 日本消化器外科学会総会 (第 64 回) (大阪), 2010. 7.
- 28) 松信哲朗, 鈴木英之, 尾形昌男, 渡辺昌則, 小原邦彦, 吉野雅則, 前島顕太郎, 三浦克洋, 近藤恭司, 野村 聡, 八木重記, 和田由大, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学外科): 高齢者における大腸癌 Oncologic Emergencies の検討. 大腸癌研究会 (第 73 回) (奄美大島), 2010. 7.

- 29) 前島顕太郎, 小峯 修, 坊 英樹, 尾形昌男, 渡辺昌則, 鈴木英之, 内田英二¹⁾ (1) 付属病院消化器外科): 80歳以上高齢者胃癌手術症例の検討. 神奈川胃癌治療研究会 (第38回) (神奈川), 2010. 7.
- 30) 渡辺昌則, 小峯 修, 前島顕太郎, 水谷 聡, 吉野雅則, 坊 英樹, 尾形昌男, 鈴木英之, 徳永 昭, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学外科): SSI危険因子からみた大腸手術の術後感染対策. 日本消化器外科学会総会 (第65回) (下関), 2010. 7.
- 31) 水谷 聡¹⁾, 星野有哉¹⁾, 相本隆幸²⁾, 前島顕太郎¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学外科): 臍頭十二指腸切除・Child再建術後における閉鎖式吸引ドレーン管理について (臍液瘻の特徴と対策). 日本消化器外科学会 (65回) (山口), 2010. 7.
- 32) 三島圭介, 尾形昌男, 黒田誠司, 八木亜紀, 和田由大, 野村 聡, 三浦克洋, 前島顕太郎, 松信哲朗, 千原直人, 水谷 聡, 小峯 修, 吉野雅則, 坊 英樹, 星野有哉, その他4名: 腹部CTにて特徴的な結腸石灰化像を呈した若年日本住血吸虫症の1例. 消化器内視鏡学会関東支部会 (第90回) (東京), 2010. 7.
- 33) 近藤恭司, 三島圭介, 小峯 修, 水谷 聡, 吉野雅則, 坊 英樹, 星野有哉, 尾形昌男, 渡辺昌則, 鈴木英之, 徳永 昭, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学外科): 認知症患者に対する消化器外科治療. 日本高齢消化器病学会総会 (第13回) (東京), 2010. 7.
- 34) 豊田哲鎬¹⁾, 塩谷 猛¹⁾, 渡邊善正¹⁾, 南部弘太郎¹⁾, 山田太郎¹⁾, 渋谷哲男¹⁾ (1) さいたま市民医療センター外科): 穿孔性腹膜炎を契機に発見された小腸 GIST の1例. 埼玉県外科医会外科臨床問題検討会 (第13回) (埼玉県), 2010. 7.
- 35) 小峯 修, 渡辺昌則, 野村 聡, 前島顕太郎, 水谷 聡, 吉野雅則, 坊 英樹, 尾形昌男, 鈴木英之, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学外科): 食道癌周術期における術後早期経腸栄養の有用性の検討. 日本食道学会学術集会 (第64回) (久留米), 2010. 8.
- 36) 松信哲朗, 鈴木英之, 尾形昌男, 吉野雅則, 三浦克洋, 黒田誠司, 一色彩子¹⁾, 石井英昭²⁾, 内田英二³⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院病理部, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院放射線科, 3) 日本医科大学外科): 診断に苦慮した症例: 直腸異物肉芽腫. 東京大腸癌フォーラム (第19回) (東京), 2010. 8.
- 37) 八木亜記, 鈴木英之, 吉野雅則, 渡辺昌則, 尾形昌男, 星野有哉, 坊 英樹, 小峯 修, 水谷 聡, 千原直人, 松信哲朗, 前島顕太郎, 三浦克洋, 野村 聡, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 外科): 腸重積を契機に発見された虫垂粘液嚢胞腺腫の1例. 日本消化器病学会関東支部会 (第310回) (東京), 2010. 8.
- 38) 三島圭介, 近藤恭司, 小峯 修, 水谷 聡, 吉野雅則, 坊 英樹, 星野有哉, 尾形昌男, 渡辺昌則, 鈴木英之, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学外科): 認知症患者に対する消化器外科治療. 日本高齢消化器病学会 (第13回) (東京), 2010. 8.
- 39) 鈴木英之, 尾形昌男, 吉野雅則, 松信哲朗, 三浦克洋, 内田英二¹⁾ (1) 外科学講座 (消化器・一般・乳腺・移植部門)): 単孔式腹腔鏡下大腸切除手術手技の検討. 小切開・鏡視外科学会総会 (第2回) (東京), 2010. 9.
- 40) 松信哲朗, 鈴木英之, 尾形昌男, 吉野雅則, 三浦克洋, 黒田誠司, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学外科): ストマ脱出に対する低侵襲な修復法. 神奈川臨床外科医学会集談会 (第128回) (横浜), 2010. 9.
- 41) 渡辺昌則, 小峯 修, 黒田誠司, 野村 聡, 前島顕太郎, 水谷 聡, 吉野雅則, 坊 英樹, 尾形昌男, 鈴木英之, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学外科): 食道癌術後在院死に関係する危険因子の検討. 日本食道学会学術集会 (第64回) (久留米), 2010. 9.
- 42) 野村 聡¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 小峯 修¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, 2) 日本医科大学 外科): 食餌性食道潰瘍の2例. 日本食道学会学術集会 (第64回) (福岡), 2010. 9.
- 43) 鈴木英之, 徳永 昭, 尾形昌男, 吉野雅則, 松信哲朗, 菅 隼人¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 松本智司¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 佐々木順平¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 外科学講座 (消化器・一般・乳腺・移植部門)): 教育機関における腹腔鏡下大腸手術

の術者・助手の役割と手技の定型化. 日本消化器関連学会週間 (第 18 回) (横浜), 2010. 10.

- 44) 鈴木英之, 尾形昌男, 吉野雅則, 松信哲朗, 三浦克洋, 渡辺昌則, 坊 英樹, 小峯 修, 水谷 聡, 内田英二¹⁾ (1) 外科学講座 (消化器・一般・乳腺・移植部門): 単孔式腹腔鏡下大腸切除術におけるワーキングポートの検討. 日本内視鏡外科学会総会 (第 23 回) (横浜), 2010. 10.
- 45) 前島顕太郎, 坊 英樹, 小峯 修, 千原直人, 水谷 聡, 吉野雅則, 尾形昌男, 渡辺昌則, 鈴木英之, 内田英二¹⁾ (1) 付属病院消化器外科: 当科における腹腔鏡下胃切除術の現状. 日本内視鏡外科学会総会 (第 23 回) (横浜), 2010. 10.
- 46) 前島顕太郎, 小峯 修, 坊 英樹, 松信哲朗, 水谷 聡, 吉野雅則, 星野有哉, 尾形昌男, 渡辺昌則, 鈴木英之, 内田英二¹⁾ (1) 付属病院消化器外科: 幽門側胃切除術後残胃の癌の特徴. 日本癌治療学会総会 (第 48 回) (京都), 2010. 10.
- 47) 星野有哉, 中村慶春¹⁾, 水谷 聡, 鈴木英之, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学外科: 腹腔鏡下脾臓摘出術を施行した CA19-9 高値を示した脾嚢胞の 1 例. 第 23 回日本内視鏡外科学会 (第 23 回) (横浜), 2010. 10.
- 48) 千原直人, 山川達郎¹⁾, 渡辺昌則, 吉野雅則, 前島顕太郎, 星野有哉, 鈴木英之, 内田英二²⁾ (1) 京浜総合病院外科, ²⁾ 日本医科大学外科: 当科における腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術 (TAPP) の導入と現状. 日本内視鏡外科学会総会 (第 23 回) (横浜), 2010. 10.
- 49) 吉野雅則, 松信哲朗, 尾形昌男, 前島顕太郎, 野村 聡, 渡辺昌則, 鈴木英之: 高齢者における大腸癌化学療法: 安全性と有効性. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 65 回) (浜松, 静岡), 2010. 11.
- 50) 松信哲朗, 鈴木英之, 渡辺昌則, 尾形昌男, 小原邦彦, 吉野雅則, 小峯 修, 三浦克洋, 野村 聡, 和田由大, 黒田誠司, 三島圭介, 八木亜記, 鶴田宏之, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学外科: 肛門周囲膿瘍より発生した内向型 Fournier 症候群の 1 例. 日本外科感染症学会総会 (第 23 回) (東京), 2010. 11.
- 51) 松信哲朗, 鈴木英之, 尾形昌男, 渡辺昌則, 小原邦彦, 吉野雅則, 前島顕太郎, 三浦克洋, 近藤恭司, 野村 聡, 八木亜記, 和田由大, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学外科: 高齢者大腸癌イレウスの検討. 日本大腸肛門病学会総会 (第 65 回) (浜松), 2010. 11.
- 52) 渡辺昌則, 小峯 修, 前島顕太郎, 松信哲朗, 千原直人, 水谷 聡, 吉野雅則, 坊 英樹, 尾形昌男, 鈴木英之, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学外科: SSI 危険因子解析による大腸手術の感染対策. 日本臨床外科学会総会 (第 72 回) (横浜), 2010. 11.
- 53) 星野有哉, 鈴木英之, 中村慶春¹⁾, 水谷 聡, 渡辺昌則, 尾形昌男, 坊 英樹, 吉野雅則, 小峯 修, 千原直人, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学外科: 腹腔鏡下脛頭十二指腸切除術後, 進行がんと診断され化学療法を施行した 1 症例. 第 72 回日本臨床外科学会 (第 72 回) (横浜), 2010. 11.
- 54) 加納恒久¹⁾, 萩原英之¹⁾, 名取穰治¹⁾, 阿部 豊¹⁾, 塙 秀暁, 鈴木洋一¹⁾, 小笠原康夫¹⁾, 内山喜一郎¹⁾ (1) 海老名総合病院外科: 歯周病菌による腹腔内膿瘍を来した胃癌手術症例の 1 例. 日本臨床外科学会総会 (第 72 回) (横浜), 2010. 11.
- 55) 萩原英之¹⁾, 内山喜一郎¹⁾, 小笠原康夫¹⁾, 塙 秀暁, 鈴木洋一¹⁾, 加納恒久¹⁾, 阿部 豊¹⁾, 名取穰治¹⁾ (1) 海老名総合病院外科: 特異な組織像をとり病理組織診断に難渋した, Adenomyoepithelioma と DCIS の合併した 1 例. 日本臨床外科学会総会 (第 72 回) (横浜), 2010. 11.
- 56) 野村 聡¹⁾, 塩谷 猛¹⁾, 渡邊善正¹⁾, 南部弘太郎¹⁾, 豊田哲鎬^{1, 2)}, 渋谷哲男¹⁾, 鈴木英之²⁾, 内田英二³⁾ (1) さいたま市民医療センター 外科, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, ³⁾ 日本医科大学 外科: 当科で経験した左傍十二指腸ヘルニアの 1 例. 日本大腸肛門病学会総会 (第 65 回) (浜松), 2010. 11.
- 57) 須藤雄仁¹⁾, 川島吉之¹⁾, 二宮理貴¹⁾, 山形幸徳¹⁾, 八岡利昌¹⁾, 網倉克己¹⁾, 坂本裕彦¹⁾, 田中洋一¹⁾, 西田一典²⁾, 黒住昌史²⁾ (1) 埼玉県立がんセンター 消化器外科, ²⁾ 埼玉県立がんセンター 病理診断科: 胃癌術後 8 年目に心嚢水, 胸水貯留で再発した 1 例. 日本臨床外科学会 (横浜), 2010. 11.
- 58) 加納恒久¹⁾, 二宮理貴¹⁾, 鈴木洋一¹⁾, 廣田 淳¹⁾, 阿部 豊¹⁾, 名取穰治¹⁾, 内山喜一郎¹⁾ (1) 海老名総合病

- 院 外科)：右単径部腫瘤を主訴とした腹膜偽粘液腫の一手術例. 神奈川医学会総会 (神奈川), 2010. 11.
- 59) 佐藤弘晃¹⁾, 西村洋治¹⁾, 横山康行¹⁾, 山浦忠能¹⁾, 須藤雄仁¹⁾, 二宮理貴¹⁾, 山形幸徳¹⁾, 八岡利昌¹⁾, 網倉克己¹⁾, 坂本裕彦¹⁾, 田中洋一¹⁾ (1) 埼玉県立がんセンター 消化器外科)：HCCの併存した大腸癌の2症例. 日本臨床外科学会 (横浜), 2010. 11.
- 60) 山浦忠能¹⁾, 坂本裕彦¹⁾, 西村洋治¹⁾, 八岡利昌¹⁾, 川島吉之¹⁾, 山形幸徳¹⁾, 二宮理貴¹⁾, 須藤雄仁¹⁾, 岡 大詞¹⁾, 横山康行¹⁾, 田中洋一¹⁾ (1) 埼玉県立がんセンター 消化器外科)：十二指腸瘻を伴う横行結腸癌の1例. 日本臨床外科学会 (横浜), 2010. 11.
- 61) 八木亜記, 水谷 聡, 千原直人, 野村 聡, 前島顕太郎, 小峯 修, 吉野雅則, 坊 英樹, 星野有哉, 尾形昌男, 渡辺昌則, 鈴木英之, 内田英二 (1) 日本医科大学 外科)：臍頭十二指腸切除術・Child 再建後の輸入脚狭窄に対する内視鏡的治療. 日本消化器内視鏡学会関東地方会 (第91回) (東京), 2010. 12.
- 62) 和田由大, 小峯 修, 三島圭介, 八木亜記, 黒田誠司, 野村 聡, 千原直人, 前島顕太郎, 水谷 聡, 鈴木英之, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 外科)：腸回転異常症を合併した腹腔鏡下手術の2例. 第819回外科集談会 (東京), 2010. 12.
- 63) 千原直人, 鈴木英之, 渡辺昌則, 吉野雅則, 小峯 修, 前島顕太郎, 星野有哉, 野村 聡, 山川達郎¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 京浜総合病院外科, 2) 日本医科大学外科)：当科における腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術 (TAPP) の手技と成績. 神奈川ヘルニア研究会 (第2回) (横浜), 2010. 12.
- 64) 豊田哲鎬¹⁾, 塩谷 猛¹⁾, 渡邊善正¹⁾, 南部弘太郎¹⁾, 山田太郎¹⁾, 渋谷哲男¹⁾, 鈴木英之²⁾, 内田英二³⁾ (1) さいたま市民医療センター 外科, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, 3) 日本医科大学 外科)：Spigel ヘルニアの1例. 外科集談会 (第819回) (東京都), 2010. 12.
- 65) 松信哲朗, 鈴木英之, 尾形昌男, 吉野雅則, 三浦克洋, 黒田誠司, 一色彩子¹⁾, 石井英昭²⁾, 内田英二³⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院放射線科, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院病理部, 3) 日本医科大学外科)：診断に難渋した直腸異物肉芽腫の1例. 日本消化管学会 (第7回) (京都), 2011. 2.
- 66) 黒田誠司¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 三浦克洋¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学外科)：腹腔鏡下切除を施行した遺残虫垂炎の1例. 日本消化管学会 (第7回) (京都), 2011. 2.
- 67) 鈴木英之, 尾形昌男, 吉野雅則, 松信哲朗, 三浦克洋, 三島圭介, 渡辺昌則, 内田英二¹⁾ (1) 外科学講座 (消化器・一般・乳腺・移植部門)：イレウス管挿入と管理のコツ. 日本腹部救急医学会総会 (第47回) (福岡), 2011. 3.
- 68) 前島顕太郎, 坊 英樹, 小峯 修, 尾形昌男, 渡辺昌則, 鈴木英之, 内田英二¹⁾ (1) 付属病院消化器外科)：噴門側胃切除術後のダブルトラクト再建法. 日本胃癌学会総会 (第83回) (青森), 2011. 3.
- 69) 坊 英樹, 前島顕太郎, 小峯 修, 尾形昌男, 渡辺昌則, 鈴木英之, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 外科)：80歳以上高齢者胃癌手術症例の検討. 日本胃癌学会 (第83回) (三沢), 2011. 3.
- 70) 和田由大, 小峯 修, 鈴木英之, 渡辺昌則, 坊 英樹, 前島顕太郎, 野村 聡, 黒田誠司, 三島圭介, 八木亜記, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 外科)：Kissing ulcer の形態を呈した胃癌の1例. 第820回外科集談会 (東京), 2011. 3.
- 71) 三島圭介, 鈴木英之, 坊 英樹, 小峯 修, 千原直人, 野村 聡, 八木亜記, 黒田誠司, 和田由大, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学外科)：腹腔鏡下切除を行った腸回転異常を伴った成人急性虫垂炎の1例. 日本腹部救急医学会総会 (第47回) (福岡), 2011. 3.
- 72) 千原直人, 鈴木英之, 渡辺昌則, 尾形昌男, 吉野雅則, 松信哲朗, 和田由大, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学外科)：大腸憩室出血症例に対する内視鏡的治療の検討. 日本腹部救急医学会総会 (第47回) (福岡), 2011. 3.
- 73) 前島顕太郎, 鈴木英之, 渡辺昌則, 尾形昌男, 坊 英樹, 吉野雅則, 小峯 修, 水谷 聡, 松信哲朗, 森末 遼, 内田英二¹⁾ (1) 付属病院 消化器外科)：脱落した胆道ステントに便塊を形成しイレウスを呈した1例. 日本腹

部救急医学会総会（第 47 回）（福岡），2011. 3.

- 74) 森末 遼，前島顕太郎，鈴木英之，渡辺昌則，尾形昌男，坊 英樹，吉野雅則，小峯 修，水谷 聡，松信哲朗，内田英二¹⁾（¹⁾ 付属病院 消化器外科）：診断に難渋し集学的治療により救命しえた絞扼性イレウスの 1 例. 日本腹部救急医学会総会（第 47 回）（福岡），2011. 3.
- 75) 野村 聡¹⁾，水谷 聡¹⁾，鈴木英之¹⁾，渡辺昌則¹⁾，尾形昌男¹⁾，星野有哉¹⁾，田島廣之²⁾，相本孝之³⁾，内田英二³⁾（¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター，²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 放射線科，³⁾ 日本医科大学 外科）：睪頭十二指腸切除・早期に発症した上腸間膜動脈閉塞症の 1 例. 日本腹部救急医学会総会（第 47 回）（福岡），2011. 3.
- 76) 豊田哲鎬¹⁾，塩谷 猛¹⁾，渡邊善正¹⁾，南部弘太郎¹⁾，山田太郎¹⁾，渋谷哲男¹⁾，鈴木英之²⁾，内田英二³⁾（¹⁾ さいたま市民医療センター 外科，²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター，³⁾ 日本医科大学 外科）：鼠径アプローチによる Direct Kugel 法にて修復し得た再発閉鎖孔ヘルニア嵌頓の 1 例. 外科集談会（第 820 回）（東京），2011. 3.
- (5) ビデオセッション：
- 1) 鈴木英之，尾形昌男，渡辺昌則，吉野雅則，松信哲朗，三浦克洋，近藤恭司，和田由大，菅 隼人¹⁾，内田英二¹⁾（¹⁾ 外科学講座（消化器・一般・乳腺・移植部門））：合併症の減少と QOL，ストーマ管理を考慮したストーマ造設法の工夫. 日本大腸肛門病学会学術集会（第 65 回）（浜松），2010. 11.

[武蔵小杉病院中央検査室]

研究概要

平成 22 年度は，新生児難聴の早期発見と早期療育に対しスクリーニングの実施率が国内で高まりつつあることを受け，生理部門では産科と新生児科からの強い要望により AABR の導入を目的とした検討を実施した．同じく生理部門で脳神経外科，神経内科，小児科の申請により文科省の学術支援のもと脳波のネットワークシステムが構築され脳波のデジタル解析，終夜脳波のモニタリング，3次元デジタイザーによるてんかんの焦点の検索ができるようになり終夜脳波モニタリングの実施及び脳神経外科手術等に有用な検査データを提供している．検体部門の新体制移行後の新規機器に新たに検査項目を追加検討し業務の効率化に貢献した．またフローサイトメトリー法における尿中有形成分測定の前尿迅速検査の有用性が示唆され第 59 回日本医学検査学会で報告を行った．血液室では平成 12 年より実施してきた自己血管理の実施状況及び廃棄について解析をし，安全性，効率性の向上に努めた．今後も臨床科に有用な報告ができるよう努力して行きたい．

研究業績

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 中島由美子，加藤理絵，臼井一城，成定昌昭，菅原 通，森本 進，勝部康弘：尿中有形成分分析装置の比較検討 診察前尿迅速検査における有用性について. 日本医学検査学会（第 59 回），2010. 5.
- 2) 井梅和美，花出 豊，井上雅則，森本 進，勝部康弘，尾藤博康¹⁾（¹⁾ 武蔵小杉病院麻酔科）：武蔵小杉病院の貯血式自己血の現状. 日本医科大学医学会総会（第 78 回），2010. 9.
- 3) 渡辺敬志，津金香代子，因泥弘之，小伊藤保雄，森本 進，勝部康弘：化学発光酵素免疫測定システム ルミパルス G1200 の性能評価. 日本医科大学医学会総会（第 78 回），2010. 9.
- 4) 西島美輝子，山賀節子，越谷美由紀，井出尚子，隠岐和美，荒木久美，荒井誠一，坂倉剛志，森本 進，勝部康弘，太組一朗¹⁾（¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科）：脳波検査における 3 次元デジタイザー（ELPOS）の有用性について. 日本医科大学医学会総会（第 78 回），2010. 9.

[武蔵小杉病院薬剤部]

研究概要

平成 22 年度は、3 次救急医療施設に搬送された救急疾患の医薬品関連に対する調査、多施設共同における抗菌薬使用量と薬剤感受性の検討、入院患者の癌性疼痛緩和治療の現状調査などの研究を学会発表した。近年、3 次救急医療施設に医薬品の誤飲や自殺企図による医薬品関連の患者搬送が増加している。その実態の調査は大変意義のある調査であり、今後新たな 3 次救急医療体制の構築にも役立つものであると考える。抗菌薬使用量と薬剤感受性の検討は、神奈川県内の 6 施設共同で実施した。特に検出頻度の高い菌種（緑膿菌、大腸菌、肺炎桿菌、MRSA）に対して 6 施設の抗菌薬使用量と薬剤感受性について検討した。この検討結果は、入院患者に対する抗菌薬使用の指標になり得るデータと考える。入院癌患者の疼痛緩和については、薬剤部と消化器病センターとの共同研究にて疼痛緩和治療施行患者におけるインシデントペインの現状を調査した。消化器病センターにおいては、多くの癌疾患入院患者がおり、適正な疼痛緩和が大きな課題となっている。また、緩和ケアチームにおいても同様であり、今回の研究結果を踏まえ、緩和ケアチームにおけるより良い薬物療法の指針が示唆されたものと確信している。

研究業績

学会発表

(1) パネルディスカッション：

- 1) 野口周作, 鈴木絢子¹⁾, 松井周一²⁾, 高橋日奈子²⁾, 田中広紀³⁾, 岩崎弥生⁴⁾, 牧野淳子⁴⁾, 原 弘士⁵⁾, 白田 誠⁵⁾, 森田 徹⁶⁾, 佐藤 歩⁶⁾, 五十嵐俊⁷⁾ (1) 昭和大学藤が丘リハビリテーション病院 薬局, 2) 横浜市立大学附属病院 薬剤部, 3) 昭和大学藤が丘病院 薬局, 4) 厚木市立病院 薬剤管理指導室, 5) 横浜市立脳血管医療センター 薬剤科, 6) 横浜市立市民病院 薬剤部, 7) 横浜市立市民病院 医療安全管理室)：神奈川県下 6 施設における抗菌薬使用量と薬剤感受性の検討 (1)：緑膿菌 (*Pseudomonas aeruginosa*)。医療薬学フォーラム 2010, クリニカルファーマシーシンポジウム (第 18 回) (広島市), 2010. 7.
- 2) 牧野淳子¹⁾, 岩崎弥生¹⁾, 鈴木絢子²⁾, 松井周一³⁾, 高橋日奈子³⁾, 野口周作, 原 弘士⁴⁾, 白田 誠⁴⁾, 森田 徹⁵⁾, 佐藤 歩⁵⁾, 五十嵐俊⁶⁾, 田中広紀⁷⁾ (1) 厚木市立病院 薬剤管理指導室, 2) 昭和大学藤が丘リハビリテーション病院 薬局, 3) 横浜市立大学附属病院 薬剤部, 4) 横浜市立脳血管医療センター 薬剤科, 5) 横浜市立市民病院 薬剤部, 6) 横浜市立市民病院 医療安全管理室, 7) 昭和大学藤が丘病院 薬局)：神奈川県下 6 施設における抗菌薬使用量と薬剤感受性の検討 (2)：大腸菌 (*E. coli*)。医療薬学フォーラム 2010, クリニカルファーマシーシンポジウム (第 18 回) (広島市), 2010. 7.
- 3) 鈴木絢子¹⁾, 松井周一²⁾, 高橋日奈子²⁾, 野口周作, 田中広紀³⁾, 岩崎弥生⁴⁾, 牧野淳子⁴⁾, 原 弘士⁵⁾, 白田 誠⁵⁾, 森田 徹⁶⁾, 佐藤 歩⁶⁾, 五十嵐俊⁷⁾ (1) 昭和大学藤が丘リハビリテーション病院 薬局, 2) 横浜市立大学附属病院 薬剤部, 3) 昭和大学藤が丘病院 薬局, 4) 厚木市立病院 薬剤管理指導室, 5) 横浜市立脳血管医療センター 薬剤科, 6) 横浜市立市民病院 薬剤部, 7) 横浜市立市民病院 医療安全管理室)：神奈川県下 6 施設における抗菌薬使用量と薬剤感受性の検討 (3)：肺炎桿菌 (*Klebsiella pneumoniae*)。医療薬学フォーラム 2010, クリニカルファーマシーシンポジウム (第 18 回) (広島市), 2010. 7.
- 4) 佐藤 歩¹⁾, 森田 徹¹⁾, 五十嵐俊²⁾, 原 弘士³⁾, 白田 誠³⁾, 松井周一⁴⁾, 高橋日奈子⁴⁾, 野口周作, 鈴木絢子⁵⁾, 田中広紀⁶⁾, 岩崎弥生⁷⁾, 牧野淳子⁷⁾ (1) 横浜市立市民病院 薬剤部, 2) 横浜市立市民病院 医療安全管理室, 3) 横浜市立脳血管医療センター 薬剤科, 4) 横浜市立大学附属病院 薬剤部, 5) 昭和大学藤が丘リハビリテーション病院 薬局, 6) 昭和大学藤が丘病院 薬局, 7) 厚木市立病院 薬剤管理指導室)：神奈川県下 6 施設における抗菌薬使用量と薬剤感受性の検討 (4)：MRSA。医療薬学フォーラム 2010, クリニカルファーマシーシンポジウム (第 18 回) (広島市), 2010. 7.
- 5) 宮内秀典, 伊藤淳雄, 野口周作, 島田慰彦, 小峰 修¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 片岡博邦 (1)

日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター)：疼痛緩和治療施行患者における incident pain に対する現状調査. 緩和医療学会 (第4回) (鹿児島市), 2010. 9.

- 6) 松井周一¹⁾, 高橋日奈子¹⁾, 原 弘士²⁾, 臼田 誠²⁾, 森田 徹³⁾, 佐藤 歩³⁾, 五十嵐俊⁴⁾, 野口周作, 鈴木絢子⁵⁾, 田中広紀⁶⁾, 岩崎弥生⁷⁾, 牧野淳子⁷⁾ (1) 横浜市立大学附属病院 薬剤部, 2) 横浜市立脳血管医療センター 薬剤科, 3) 横浜市立市民病院 薬剤部, 4) 横浜市立市民病院 医療安全管理室, 5) 昭和大学藤が丘リハビリテーション病院 薬局, 6) 昭和大学藤が丘病院 薬局, 7) 厚木市立病院 薬剤管理指導室)：神奈川県下6施設における抗菌薬使用量と薬剤感受性の検討. 日本医療薬学会年会 (第20回) (千葉市), 2010. 11.

(2) 一般講演：

- 1) 平田清貴¹⁾, 黒川 顯³⁾, 野口周作, 渡邊暁洋⁴⁾, 増野 智²⁾, 片山志郎¹⁾, 横田裕行²⁾ (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部, 2) 同 高度救命救急センター, 3) 日本医科大学武蔵小杉病院 救命救急センター, 4) 日本医科大学千葉北総病院 薬剤部)：3次救急医療施設に搬送された医薬品関連救急疾患. 日本臨床救急医学会総会・学術大会 (第13回) (千葉市), 2010. 5.

[武蔵小杉病院看護部]

研究概要

1. イレウスと癌性疼痛を有した患者が自宅で過ごす事を希望され退院に向けた調整を行い希望通りの最期を過ごせたケースを通して今後の退院支援と地域医療連携を考える方策を得た
2. 来院者を対象に緩和ケア啓発活動の一環として「知ってください緩和ケア」と題したイベントを開催し来院者のアンケートから今後のチーム活動の課題を見出した
3. 栄養障害があり食事中に息切れ頻呼吸を認める患者にアプニアモニターを付けて食事摂取してもらい食種を変えて比較したところ食種を軟らかく飲み込み易い物へ変更する事で呼吸回数が減少 息切れが改善した
4. 救命救急センター看護師のCPAOA患者家族に対する援助要因を待機時, 死亡宣告時, 出棺時の3場面に分け分析した
5. 急性医薬品中毒患者に使用したクリニカルパスからデータを抽出し統計を取りパス改訂につなげた
6. 院内創傷管理におけるチーム医療に必要性と皮膚 排泄ケア認定看護師がゲートキーパーとして調整役割を果たす事の有用性について1年間の活動をもとに報告した
7. NPPV療法では使用するマスクの装着手技に自信がなく不安を抱える看護師 過度の圧迫による皮膚障害の出現が問題となっている 問題解決のため実際に看護師によるマスクフィッティング体験を行い有効であった
8. 外来 病棟 手術室 WOCの看護師が事例患者に対し どのような看護が必要と考えるか という視点でそれぞれの専門性や役割を踏まえて発表し看護師間の連携についてディスカッションした
9. 急性創傷の管理と看護ケアに関して症例を通してケアの実際を説明
10. 急性医薬品中毒患者に使用したクリニカルパスからデータを抽出し統計を取りパス改訂につなげた
11. 新しいエポエチンアルファとエポエチンベータを用いて腹膜透析患者における皮下投与時の疼痛について比較検討を行なった

研究業績

著書

- 1) 野村好美：〔自著〕急性創傷の管理と看護ケア. 重症集中ケア Vol.19 No5, 2010；pp47-54, 日総研出版.
- 2) 山下英彦：〔分担〕急性中毒患者へのクリニカルパス導入後の検証. 中毒研究 2010 Vol.23, 2010；pp330-330, へるす出版.

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 佐々木久美子：看護師間の連携（事例から学ぶ外来・病棟・手術室の連携）. 関東甲信越地区手術看護学会（第21回），2010. 6.

(2) 一般講演：

- 1) 藤原佳美, 岩城由美子¹⁾, 赤羽日出男²⁾, 岸 泰宏³⁾, 山口朋禎⁴⁾ (1) 薬剤部, 2) 麻酔科, 3) 精神科, 4) 内科)：緩和ケア啓発活動の試み：「知ってください緩和ケアを」を開催して. 日本緩和医療学会学術大会（第15回），2010. 6.
- 2) 前田幸生, 松川由佳, 大塚智之¹⁾, 大野 大¹⁾, 酒井行直¹⁾, 村澤恒男¹⁾, 宗像一雄¹⁾ (1) 内科)：腹膜透析患者におけるエリスロポエチン製剤皮下投与時の疼痛比較. (社)日本透析医学会学術集会・総会（第55回），2010. 6.
- 3) 山下英彦, 佐藤 由, 石川秀一, 牧 真彦¹⁾, 畝本恭子¹⁾, 黒川 顕¹⁾ (1) 救命救急センター)：急性中毒患者へのクリニカルパス導入後の検証. 日本中毒学会総会・学術集会（第32回），2010. 7.
- 4) 野村好美, 村上正洋¹⁾, 岩城由美子²⁾, 伊藤桃子, 松村絵美 (1) 形成外科, 2) 薬剤部)：気管切開部周囲皮膚損傷に対する当院の試み. 日本褥瘡学会学術集会（第12回），2010. 8.
- 5) 高木 聡, 板倉潮人¹⁾ (1) 内科)：食事内容を変更したことで食事の息切れが改善した1事例についての分析. 日本呼吸器ケア・リハビリテーション学会学術集会，2010. 10.
- 6) 白木智沙登, 高橋恭子, 岡本 大, 村上正洋¹⁾, 板倉潮人²⁾, 野村好美 (1) 形成外科, 2) 内科)：NPPV マスクフィッティング装着体験による技術向上の試み. 日本呼吸器ケア・リハビリテーション学会学術集会（第20回），2010. 10.
- 7) 藤原佳美：患者の「帰りたい」希望を尊重しタイミングを逃さない退院支援. 日本死の臨床研究会年次大会（第34回），2010. 11.
- 8) 岡本 大, 小林綾乃, 山下英彦：救命救急センター看護師のCPAOA患者家族に対する援助に影響する要因. 神奈川県看護協会（第13回），2010. 12.

22. 多摩永山病院付置施設等

[多摩永山病院病理部]

研究概要

組織培養, 免疫組織化学, 電子顕微鏡部門が充実し, 臨床医の病理部での研究も行なわれるようになり, 研究部門もさらに充実してきた. 現在の主な研究テーマは以下の通りである.

- (1) 臨床に呼応した迅速細胞・組織診断 (外来・病棟・術中・剖検時) の確立.
- (2) 免疫細胞・組織化学 (サイトケラチン 7/20/34 β E12/35 β H11, MIB-1, Napsin A, Villin) を用いた客観的原発巣推定診断・予後診断法の確立.
- (3) 乳腺腫瘍 1) 穿刺吸引細胞診材料を用いた予後診断の確立; 細胞転写法を用いて ER, PgR, HER2 蛋白質, MIB-1 指数の他, HER2 に関しては蛋白質の過剰発現と遺伝子増幅 (CISH) の両方を検討する. 2) 乳癌における, ホルモンレセプターと細胞骨格, 接着因子の関係および転移性乳癌の臨床病理学的研究; HER2 タンパク質と基底膜分解酵素について.
- (4) 骨軟部腫瘍 1) 穿刺吸引細胞診による迅速診断法の確立 (免疫組織化学, 電顕的検索の併用)
- (5) 子宮癌 1) 子宮内膜癌の細胞診による診断の確立 (免疫組織化学, 電顕的検索の併用); とくにセルブロック法.
- (6) リンパ節病変 1) リンパ節病変の迅速診断法の検索, 免疫細胞学的アプローチ. 2) リンパ節病変の分子生物学的検索. 3) 悪性リンパ腫の細胞診断学.

研究業績

論文

[追加分]

追加分症例報告:

- 1) 松谷 毅¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 松田明久¹⁾, 横山 正¹⁾, 片山博徳, 前田昭太郎, 田尻 孝²⁾ (1) 多摩永山病院 外科, (2) 外科学第一): 潰瘍性大腸炎に合併した直腸癌術後肝転移・局所再発に対し modified-FOLFOX6 と FOLFIRI の交代療法 (modified-FIREFOX 療法) が奏効した 1 例. 癌の臨床 2009; 55 (3): 215-220.
- 2) 松谷 毅¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 小林由子²⁾, 鈴木成治¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 松下 晃¹⁾, 松田明久¹⁾, 片山博徳, 前田昭太郎, 田尻 孝³⁾ (1) 多摩永山病院 外科, (2) 同 放射線科, (3) 外科学第一): Docetaxel/Nedaplatin/5-FU 併用化学放射線療法と Docetaxel/Cisplatin/5-FU 併用化学療法にて CR が得られた切除不能高度進行 (T4) 食道癌の 1 例. 癌の臨床 2009; 55 (5): 383-387.

追加分 解説:

- 1) 片山博徳, 前田昭太郎, 細根 勝, 丹野正隆¹⁾, 内藤善哉¹⁾ (1) 病理学講座統御機構・腫瘍学): 【病理迅速診断のすべて】術中迅速細胞診断に用いられる特殊染色. Medical Technology 2009; 37 (7): 712-718.

(1) 原著:

- 1) Taniyama K, Darshana N J, Katayama H, Kuraoka K, Naito Z, Samreung R, Gyungyub G, Chiung-Ru L, Alexander C, Nirag C J: Multinational comparison of diagnostic clues for uterine cervical lesions among cytotechnologists in Asian countries. Diagn Cytopathol. 2010 Aug 20 2010; 00 (00): 1-6.
- 2) Ogasawara J¹⁾, Kitadate K²⁾, Nishioka H²⁾, Fujii H²⁾, Sakurai T¹⁾, Kizaki T¹⁾, Izawa T³⁾, Ishida H⁴⁾,

Tanno M, Ohno H¹⁾ (1) Department of Molecular Predictive Medicine and Sport Science, Kyorin University, School of Medicine, 2) Amino Up Chemical Co. Ltd., 3) Department of Sports Biochemistry, Faculty of Health and Sports Science, Doshisha University, 4) Third Department of Internal Medicine, Kyorin University, School of Medicine) : Oligonol, an oligomerized lychee fruit-derived polyphenol, activates the Ras/Raf-1/MEK1/2 cascade independent of the IL-6 signaling pathway in rat primary adipocytes. *Biochemical and Biophysical Research Communications* 2010 ; 402 : 554-559.

- 3) 前田昭太郎¹⁾, 片山博徳¹⁾, 細根 勝¹⁾, 北川泰之²⁾, 内藤善哉³⁾ (1) 多摩永山病院病理部, 2) 多摩永山病院整形外科, 3) 病理学講座統御機構・腫瘍学) : 軟部腫瘍の病理診断における新展開 軟部腫瘍の細胞診. *臨床病理* 2010 ; 58 (4) : 358-370.

(2) 総説 :

- 1) 前田昭太郎 : 臨床に呼応した病理診断のあり方. *日本医科大学医学会雑誌* 2010 ; 6 (2) : 65-67.
2) 前田昭太郎¹⁾, 細根 勝¹⁾, 片山博徳¹⁾ (1) 多摩永山病院 病理部) : 脳腫瘍の細胞診 : 標本作製法 (捺印法, 圧挫法, 合わせ法). *検査と技術* 2010 ; 38 (6) : 429-432.
3) 細根 勝 (1) 多摩永山病院病理部) : 悪性リンパ腫の新 WHO 分類 : 研修医と非血液専門医のための実戦的活用法. *medicina* 2010 ; 47 (13) : 2126-2135.

(3) 症例報告 :

- 1) Suzuki S¹⁾, Maeda S, Sasajima K¹⁾, Yoshida H¹⁾, Yokoyama T¹⁾, Maruyama H¹⁾, Matsutani T¹⁾, Liu A¹⁾, Hosone M, Tanno M, Uchida E²⁾ (1) Department of Surgery Tama-nagayama Hospital ,Nippon Medical School, 2) Department of Surgery ,Nippon Medical School) : Malignant Granular Cell Tumor in the Gluteal Region With Unusual Pathologic Features. *Int Surg* 2010 ; 95 (4) : 360-365.
2) Ogita A¹⁾, Higashi N¹⁾, Hosone M, Kawana S²⁾ (1) Deptment of Dermatology,NMS Tamanagayama Hospital, 2) Deptment of Dermatology,NMS) : Nodular type lichen myxedematosis. *Australasian Journal of Dematology* 2010 ; 2 : 195-200.
3) 松谷 毅¹⁾, 内田英二²⁾, 吉田 寛¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 片山博徳, 細根 勝, 笹島耕二¹⁾ (1) 多摩永山病院 外科, 2) 外科学) : 肺腺癌同時性胃転移の 1 例. *癌の臨床* 2010 ; 56 (5) : 407 (57) -412 (62).
4) 小金井宏美¹⁾, 東 直行¹⁾, 荻田あづさ¹⁾, 細根 勝, 川名誠司²⁾, 小澤雅邦³⁾ (1) 多摩永山病院 皮膚科, 2) 皮膚科学教室, 3) 小沢皮膚科クリニック) : 皮膚症状を契機に前立腺癌が発見された 3 例. *皮膚科の臨床* 2010 ; 52 (10) : 1467-1471.
5) 佐藤倫彦¹⁾, 杉下和郎¹⁾, 碓井伸一¹⁾, 浅川雅子¹⁾, 丹野正隆, 高橋利之¹⁾ (1) JR 東京総合病院 循環器内科) : 右室病変を伴い治療抵抗性心不全を呈した高齢者心サルコイドーシスの一剖検例. *交通医学* 2010 ; 64 (5・6) : 131-136.

学会発表

[追加分]

追加分 ワークショップ :

- 1) Hosone M, Maeda S, Naito Z : Session 4 Nodal Marginal Zone Lymphomascase : 320. 2009 Society for Hematopathology and European Association for Haematopathology Workshop (Ohio), 2009. 9.

追加分一般講演 :

- 1) 栢 卓史¹⁾, 津久井拓¹⁾, 進藤智隆¹⁾, 江原彰仁¹⁾, 松久威史¹⁾, 松本 真²⁾, 新 博次²⁾, 三田俊二³⁾, 中井章人³⁾, 前田昭太郎, 濱本達彦⁴⁾, 進士陽子⁴⁾, 楠 正典⁴⁾, 河越哲郎⁴⁾, 二神生爾⁴⁾ (1) 多摩永山病院 消化器科, 2) 同内科, 3) 同 女性診療科, 4) 消化器内科) : 子宮原発と考えられた転移性胃平滑筋肉腫の 1 例. *日本消化器内視鏡学会関東地方会 (第 88 回) (東京)*, 2009. 6.

- 2) 林 幹彦¹⁾, 北川泰之¹⁾, 田中陽子¹⁾, 金 竜¹⁾, 藤井信人¹⁾, 細根 勝, 前田昭太郎, 伊藤博元²⁾ (1) 多摩永山病院 整形外科, 2) 整形外科学) : 大腿骨に発症した high grade surface osteosarcoma の 1 例. 日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会 (第 42 回) (横浜), 2009. 7.
- 3) 北川泰之¹⁾, 田中陽子¹⁾, 林 幹彦¹⁾, 金 竜¹⁾, 藤井信人¹⁾, 細根 勝, 前田昭太郎, 角田 隆²⁾, 伊藤博元²⁾ (1) 多摩永山病院 整形外科, 2) 整形外科学) : McCune-Albright 症候群に合併した Mazabraud 症候群の 1 例. 日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会 (第 42 回) (横浜), 2009. 7.
- (1) 特別講演 :
- 1) 丹野正隆 (1) 多摩永山病院病理部) : HLA 分子, エイズ, 心臓移植の免疫及び病理学. 日本医科大学医学会総会 (第 78 回), 2010. 9.
- (2) 招待講演 :
- 1) Maeda S¹⁾, Katayama H, Hosone M, Tanno M, Liu A, Naito Z²⁾ (1) Mitsubishi Chemical Science, Pathology and Cytology Center, 2) Department of Pathology, Nippon Medical School) : How to make a definitive diagnosis of malignant mesothelioma by effusion cytology. The 9th Korea-Japan joint meeting for Diagnostic Cytopathology (Gyeongbuk, Korea), 2010. 11.
- (3) 教育講演 :
- 1) 片山博徳¹⁾, 丹野正隆¹⁾, 前田昭太郎^{1,2)} (1) 日本医科大学多摩永山病院 病理部, 2) 三菱化学メディエンス病理・細胞診センター) : 乳腺細胞診の実際. 平成 21 年度 東京都多摩がん検診センター第 3 回細胞検査士養成公開講座 (東京), 2010. 7.
- (4) シンポジウム :
- 1) 片山博徳, 丹野正隆, 細根 勝, 岩瀬裕美, 磯部宏昭, 柳田裕美, 日吾美栄子, 鈴木美樹, 前田昭太郎¹⁾, 内藤善哉²⁾ (1) 三菱化学メディエンス病理・細胞診センター, 2) 日本医科大学病理学講座) : 日本肺癌学会細胞診断判定基準改訂委員会報告「胸水細胞診における中皮腫細胞判定基準」中皮腫細胞診の精度を高める標準作製法, 細胞転写法, セルブロック法 (会議録). 日本臨床細胞学会秋期大会 (第 49 回) (神戸), 2010. 11.
- (5) ワークショップ :
- 1) 片山博徳, 丹野正隆, 細根 勝, 前田昭太郎, 内藤善哉¹⁾ (1) 日本医科大学 病理学講座) : 国際交流活動の現状と課題 ” タイとの国際交流”. 日本臨床細胞学会総会春期大会 (第 51 回), 2010. 5.
- 2) 岩瀬裕美, 丹野正隆, 細根 勝, 片山博徳, 磯部宏昭, 柳田裕美, 日吾美栄子, 鈴木美紀, 前田昭太郎, 内藤善哉¹⁾ (1) 病理学 (統御機構・腫瘍学)) : 術中迅速診断時における免疫細胞化学の実際と有用性. 日本臨床細胞学会秋期大会 (第 49 回) (神戸), 2010. 11.
- (6) 一般講演 :
- 1) Naito Z¹⁾, Katayama H, Kawamoto Y¹⁾, Onda M¹⁾, Tsuchiya S²⁾, Maeda S (1) Department of Pathology, Integrative Oncological Pathology, Nippon Medical School, 2) Division of Clinical Pathology, Nippon Medical School Hospital) : Differential Cytodiagnosis of Cholangiocarcinoma with Intraductal Papillary Mucinous Neoplasm of the Pancreas. 17th International Congress of Cytology (Edinburgh, Scotland), 2010. 5.
- 2) Katayama H, Meda S, Hosone M, Masataka T¹⁾ (1) Department of Pathology, Integrative Oncological Pathology, Nippon Medical School) : Distinguishing Mesothelioma from Reactive Mesothelial Cells Using a Matrix Metalloproteinase 9 (MMP-9) Antibody. 17th International Congress of Cytology (Edinburgh, Scotland), 2010. 5.
- 3) Katayama H, Tanno M, Hosone M, Maeda S, Naito Z¹⁾ (1) Department of Pathology, Integrative Oncological Pathology, Nippon Medical School) : Expression and Localization of matrix metalloproteinase 9 (MMP 9) in mesothelioma cells and reactive mesothelial cells. The 10th International Conference of the International

Mesotheliom Interest Group (Kyoto, Japan), 2010. 8.

- 4) Hosone M, Higashi N¹⁾, Tanno M, Katayama H, Naito Z¹⁾ (NMS, Dermatology) : A Case of Blastic Plasmacytoid Dendritic Cell Neoplasm with Transient Spontaneous Regression. Meeting of the European Association for Haematopathology (15th) (Uppsala Sweden), 2010. 9.
- 5) Katayama H, Tanno M, Hosone M, Liu A, Maeda S¹⁾, Naito Z²⁾ (1) Mitsubishi Chemical Science, Pathology and Cytology Center, 2) Department of Pathology, Nippon Medical School) : Improved with Cell Transfer method for Immunocytochemical staining and in situ hybridization of cytologic sample. The 9th Korea-Japan joint meeting for Diagnostic Cytopathology (Gyeongbuk, Korea), 2010. 11.
- 6) Liu A¹⁾, Katayama H, Hosone M, Tanno M, Maeda S²⁾, Naito Z¹⁾ (1) Department of Pathology, Nippon Medical school, 2) Mitsubishi Chemical Science, Pathology and Cytology Center) : A Definitive Diagnosis of Malignant Mesothelioma Based on Effusion Cytology Combining Immunocytochemistry and Electron Microscopy. The 9th Korea-Japan joint meeting for Diagnostic Cytopathology (Gyeongbuk, Korea), 2010. 11.
- 7) Katayama H, Tanno M, Hosone M, Maeda S¹⁾, Naito Z²⁾ (1) Mitsubishi Chemical Science, Pathology and Cytology Center, 2) Department of Pathology, Nippon Medical School) : Basic study about Expression and Localization of matrix metalloproteinase 9 (MMP-9) in mesothelioma cells and reactive mesothelial cells. 18th Thai-Japanese Diagnosticcytology workshop (Phang-nga, Thailand), 2011. 1.
- 8) Katayama H, Tanno M, Maeda S, Hosone M, Naito Z¹⁾ (1) Department of Pathology, Integrative Oncological Pathology, Nippon Medical School) : Evaluation of chromogenic in situ hybridization for detecting HER-2 gene status on Fine-needle cytology Specimens in Breast Carcinoma. 第59回日本医学検査学会(神戸), 2010. 5.
- 9) 榎本 豊¹⁾, 谷村繁雄¹⁾, 川島徹生¹⁾, 岩瀬裕美, 片山博徳, 細根 勝, 小泉 潔²⁾, 清水一雄²⁾, 前田昭太郎¹⁾ (日本医科大学多摩永山病院 呼吸器外科, 2) 外科学第2) : 呼吸器外科領域における術中迅速穿刺吸引細胞診(FNAC)の有用性について. 第51回日本臨床細胞学会総会(春期大会)(横浜), 2010. 5.
- 10) 横山 正¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 川本聖郎¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 前田昭太郎, 細根 勝, 内田英二²⁾ (1) 多摩永山病院 消化器外科・乳腺外科・一般外科, 2) 外科学) : 術前化学療法によりNOとなった進行乳癌症例におけるセンチネルリンパ節生検の意義. 日本乳癌学会総会(第18回), 2010. 5.
- 11) 二宮里紗¹⁾, 東 直行¹⁾, 細根 勝, 川名誠司²⁾, 小澤雅邦³⁾, 森 鉄也⁴⁾ (1) 多摩永山病院 皮膚科, 2) 皮膚科学教室, 3) 小沢皮膚科クリニック, 4) 国立成育医療センター 血液腫瘍科) : 原発性皮膚型未分化大細胞リンパ腫(PCALCL)の1女児例. 日本皮膚悪性腫瘍学会, 2010. 6.
- 12) 二宮里紗¹⁾, 東 直行¹⁾, 細根 勝, 川名誠司²⁾, 小澤雅邦³⁾, 森 鉄也⁴⁾ (1) 多摩永山病院 皮膚科, 2) 皮膚科学教室, 3) 小沢皮膚科クリニック, 4) 国立成育医療センター 血液腫瘍科) : 原発性皮膚型未分化大細胞リンパ腫(PCALCL)の1女児例. 日本小児皮膚科学会, 2010. 7.
- 13) 東 敬子, 丹野正隆, 細根 勝, 片山博徳, 磯部宏昭, 柳田裕美, 川野記代子, 岩瀬裕美, 日吾美栄子, 鈴木美紀, 前田昭太郎, 川端伊久乃¹⁾, 中井章人¹⁾, 内藤善哉²⁾, 劉 愛民³⁾ (1) 多摩永山病院女性診療科・産科, 2) 病理学(統御機構・腫瘍学), 3) 形態解析共同研究施設) : 子宮後面に発生したLeiomyomatosis peritonealis disseminateの1例. 日本医科大学医学会総会(第78回), 2010. 9.
- 14) 片山博徳, 丹野正隆, 細根 勝, 東 敬子, 磯部宏昭, 益田裕美, 川野記代子, 岩瀬裕美, 日吾美栄子, 鈴木美紀, 川島徹生¹⁾, 平田知己¹⁾, 劉 愛民²⁾, 内藤善哉³⁾ (1) 多摩永山病院呼吸器外科, 2) 形態解析共同研究施設, 3) 病理学(統御機構・腫瘍学)) : 中皮腫細胞におけるマトリックスメタロプロテアーゼ-9(MMP-9)の発現と局在. 日本医科大学医学会総会(第78回), 2010. 9.
- 15) 鈴木成治¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 横山 正¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 松下 晃¹⁾, 平方敦志¹⁾, 松久威史²⁾, 津久井拓²⁾, 劉 愛民, 細根 勝, 丹野正隆, 内田英二³⁾ (1) 多摩永山病院 外科, 2) 同 消化器科, 3) 日本医

科大学外科)：消化管間質腫瘍 (GIST) 肝転移巣におけるメシル酸イマチニブ投与後の病理組織学的変化. 日本外科病理学会学術集会 (第 15 回), 2010. 10.

[多摩永山病院中央検査室]

研究概要

当検査室における主な研究目的は、臨床検査学の進歩のなかで、新しい検査法および検査技術を検討するとともに臨床への応用と意義を考察し、新検査法の実現を追っている。また、日常の臨床検査全体の精度管理、検査方法および迅速測定を実施し、各種の検査における臨床との関連を見つつ、質の向上と検査測定法の確立を目指している。

研究業績

論文

(1) 研究報告書：

- 1) 坂部武史¹⁾、永廣信治²⁾、水口 雅³⁾、横田裕行⁴⁾、荒木 高⁵⁾、芦刈準太郎⁶⁾、久保田稔⁽¹⁾ 山口労災病院、²⁾ 徳島大学医学部脳神経外科、³⁾ 東京大学医学部発達医科、⁴⁾ 日本医科大学救急医学、⁵⁾ 国立成育医療研究センター、⁶⁾ 日本臓器移植ネットワーク)：法的脳死判定マニュアル. 厚生労働科学研究費補助金厚生労働科学特別研究事業「脳死判定基準のマニュアル化に関する研究班」 2011：1-28.

学会発表

(1) セミナー：

- 1) 久保田稔：脳死下臓器提供における脳波、ABR 検査について. 愛知県臓器移植支援センター、日本臓器移植ネットワーク西日本支部脳死下臓器提供における脳波検査研修会, 2010. 8.
 - 2) 久保田稔：脳波測定の注意点. 日本臓器移植ネットワーク脳死患者対応セミナー in AIH, 2010. 8.
 - 3) 久保田稔：ABR・EEG について. 日本脳神経外科学会学術総会ハンズオンコース (第 69 回), 2010. 10.
 - 4) 久保田稔：脳死判定時の脳波検査・ABR 検査. 日本臓器移植ネットワーク東日本支部臓器移植に関するセミナー, 2010. 11.
 - 5) 久保田稔：法的脳死判定・脳波測定・ABR 検査. 佐賀県腎臓バンク法的脳死判定・脳波測定研修会, 2010. 12.
 - 6) 久保田稔：ABR・EEG. 日本臓器移植ネットワーク西日本支部九州沖縄脳死下臓器提供セミナー, 2010. 12.
 - 7) 久保田稔：ABR・EEG について. 日本臓器移植ネットワーク 2010 年救急医療における脳死患者の対応セミナー, 2010. 12.
 - 8) 久保田稔：脳死下臓器提供における職種別の役割. 日本臓器移植ネットワーク 2010 年救急医療における脳死患者の対応セミナー, 2010. 12.
 - 9) 久保田稔：脳死判定における脳波検査. 阪腎臓バンク、大阪府、日本臓器移植ネットワーク西日本支部臓器提供・脳死判定における脳波測定技術研修会, 2011. 1.
 - 10) 久保田稔：脳死判定のための脳波記録法. 関東神経生理検査技術研究会 (第 43 回) 日曜講習会, 2011. 1.
- ##### (2) 一般講演：
- 1) 久保田稔、桑本健太郎¹⁾、石之神小織¹⁾、久野将宗¹⁾、諸江雄太¹⁾、佐藤格夫¹⁾、稲垣栄次¹⁾、小柳正雄¹⁾、原俊介¹⁾、鈴木健介¹⁾、根本香代¹⁾、二宮宣文¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院救命救急センター)：脳幹死を経てから全脳死に至った 1 例. 日本脳神経モニタリング学会 (第 16 回), 2010. 7.
 - 2) 石之神小織¹⁾、二宮宣文¹⁾、根本香代¹⁾、原 俊介¹⁾、久野将宗¹⁾、稲垣栄次¹⁾、鈴木健介¹⁾、久保田稔、横田裕行²⁾ (¹⁾ 多摩永山病院救命救急センター、²⁾ 救急医学)：エンドトキシン誘発モルモットイレウスモデルにおける

PMX-DHP および sivelestat sodium の効果. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 38 回), 2010. 10.

[多摩永山病院薬剤部]

研究概要

現在、薬剤師には、チーム医療に参加することにより患者への薬物療法に対する安全管理また薬物の適正使用に対する貢献が強く求められている。そのような状況の中、当薬剤部では今話題となっている持参薬管理、服用方法としての簡易懸濁法さらに調剤業務の再検討など医薬品の安全管理について、さらに医療安全管理部と共同で医療安全について研究発表した。また適正使用においては抗菌剤、抗がん剤などについてまとめ発表した。その他薬学 6 年制実務実習についても、そのあり方、問題点について発表した。今後、薬剤師がチーム医療への参加しさらに薬剤師職能を充分発揮し、医薬品の安全管理において、また薬物の適正使用を目指しさらなる努力したいと考えている。

研究業績

著書

- 1) 佐藤格夫¹⁾, 菅谷量俊, 諸江雄太¹⁾, 磐井佑輔¹⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院救命救急センター): [分担] 分野別にみる主な救急医療と薬剤 (広範囲熱傷), 薬剤師のための救命救急時のスキル&薬ハンドブック: その知識が命を救う (新潟大学医歯学総合病院教授・薬剤部長 佐藤 博 編), 2010: pp97-102, 医薬ジャーナル社.

学会発表

(1) シンポジウム:

- 1) 田杭直哉: 当院における褥瘡ケアチームの業務報告. 日本病院薬剤師会関東ブロック第 40 回学術大会 (東京), 2010. 8.

(2) 一般講演:

- 1) 亀山明美, 下道友莉恵, 杉原加寿子, 高山喜光, 田杭直哉, 堀川佳津美, 加藤浩子, 稲葉育広, 菅谷量俊, 村田和也: 持参薬チェック業務による医薬品安全管理の取り組み. 日本病院薬剤師会関東ブロック第 40 回学術大会 (東京), 2010. 8.
- 2) 稲葉育広, 村田和也: 当院における簡易懸濁法導入後の現状. 日本病院薬剤師会関東ブロック第 40 回学術大会 (東京), 2010. 8.
- 3) 田杭直哉, 菅谷量俊, 杉原加寿子, 村田和也: 当院における特定抗菌薬使用届制対象薬剤に関する関与. 日本病院薬剤師会関東ブロック第 40 回学術大会 (東京), 2010. 8.
- 4) 男鹿宏和, 村田和也: 抗悪性腫瘍剤投与に伴う悪心嘔吐に対するアプレピタントの導入. 第 4 回日本緩和医療薬学会年会 (東京), 2010. 8.
- 5) 富岡勝世, 村田和也, 菅谷量俊, 亀山明美: 薬学部病院実務実習の実施と問題. 日本病院薬剤師会関東ブロック第 40 回学術大会 (東京), 2010. 8.
- 6) 下道友莉恵, 椎野元裕, 村田和也: テビベネムピボキシル (TBPM-PI) 小児用細粒調剤に対する当院調剤内規の検証. 日本病院薬剤師会関東ブロック第 40 回学術大会 (東京), 2010. 8.
- 7) 丸山 弘¹⁾, 城戸竜一²⁾, 関根 愛²⁾, 菅谷量俊 (1) 日本医科大学多摩永山病院外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院看護部): 積極的監視培養を用いた耐性菌制御対策. 第 26 回日本環境感染学会総会 (神奈川県), 2011. 2.
- 8) 関根 愛¹⁾, 丸山 弘²⁾, 菅谷量俊, 城戸竜一¹⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院看護部, 2) 日本医科大学多摩永山病院外科): ペン型インスリン器材による針刺し対策とその分析. 第 26 回日本環境感染学会総会 (神奈川県), 2011. 2.
- 9) 菅谷量俊, 村田和也: 薬学実務実習における病棟業務を中心とした取り組み. 日本薬学会第 131 年会 (静岡),

2011. 3.

- 10) 幸島昌秀¹⁾, 菅谷量俊, 大野恵子¹⁾, 岸野吏志¹⁾, 村田和也 (¹⁾ 明治薬科大学薬剤情報解析学):救命救急センターにおける MRSA アクティブサーベイランスの検証. 日本薬学会第 131 年会 (静岡), 2011. 3.

[多摩永山病院看護部]

研究概要

今年度は、11 演題で日本がん看護学会、日本救急看護学会、日本糖尿病学会、日本母性衛生学会、日本看護学会の母性看護、日本環境感染学会総会等で発表が行われた。

1. レスキューを処方されている外来通院がん患者に、疼痛コントロールに関連した体験をインタビューし自己効力感との関連を調査。その結果、4つの自己効力感の規定要因を抽出。
2. 初療緊急手術時にセット化した物品の使用を試みた結果、準備時間の短縮と看護師の不安軽減に繋がった。
3. 救命救急センター家族係の対応を評価するため、CCFNIを用い家族のニーズを調査し、家族係の対応の妥当性を検証。その結果、家族のニーズへ概ね対応出来ていた。
4. インスリン療養中の75歳以上の糖尿病患者に、合併症や注射の心理的負担感等について、地域密着型病院と大学病院に調査しその比較を行なった。
5. 患者の背景に合わせたインスリンメニュー作りを学ぶワークショップを多施設や多職種で行い、学習効果を参加者のアンケート結果より検討。
6. 分娩期のストレス変化を唾液アミラーゼ活性値の変化で明らかにし、分娩期のアロマセラピー導入による産婦のストレス緩和の有効性を検討。その結果、アロマセラピーは有効で、潜伏期から導入することが効果的と推察。
7. 帝王切開分娩でのバースプラン導入に向け、患者にインタビュー調査実施。その結果バースプランへの意見は少数のみで、それよりも帝王切開手術への不安や恐怖の方が大きいことが明らかになった。
8. 経験5年目以上の看護師の学習ニーズを外来と病棟看護師間で比較した結果、差は認められず教育的環境の違いとの関連性はなかった。
9. 看護師のペン型インスリンによる針刺し防止をのためペンニードルリムーバーの導入と教育を実施。その結果、針刺し件数の減少がみられた。
10. 2型糖尿病における心血管イベント抑制に対する、ピオグリタゾン単独療法を実施しその有効性を検討した。

研究業績

論文

(1) 解説：

- 1) 石ヶ森重之：事例に学ぶ緊急時の初期対応 Q & A：何を見る？何を考える？：VI. 救急外来看護に必要な外因性病態・症候と、管理上必要な対応を事例から考える：Q84. 誤飲（小児・高齢者）の留意点について教えてください。ナーシングケア Q & A 2010；(34)：198-199.
- 2) 石ヶ森重之：脳神経ケア大特集：ICU から SCU / NCU レベルまで：手術部位の管理。重症集中ケア 2010；9 (2)：68-71.
- 3) 松村佳世子：特集ストーマケアの知識と実践：Part.1 基本的スキンケア：(2) 正しい洗浄法。看護技術 2010；56 (10)：29-31.
- 4) 石ヶ森重之：トイレでの急変メカニズム・予防・対応：トイレで急変する身体メカニズム：トイレ行動編：トイレに行けないストレスとトイレに行くことの問題。NURSING 2010；30 (11)：16-18.
- 5) 石ヶ森重之：トイレでの急変メカニズム・予防・対応：トイレでの急変ナースはどう防ぐ？：トイレ行動編：トイレ行動時の急変への対応と予防。NURSING 2010；30 (11)：28-31.

- 6) 石ヶ森重之：トイレでの急変メカニズム・予防・対応：トイレでの急変こんなときどうする？：事例3 排尿失神. NURSING 2010；30（11）：38-39.
- 7) 石ヶ森重之：トイレでの急変メカニズム・予防・対応：トイレでの急変こんなときどうする？：事例7 排泄中に心肺停止（急性薬物中毒）. NURSING 2010；30（11）：46-47.
- 8) 石ヶ森重之：事例に学ぶ緊急時の初期対応 Q & A：何を見る？何を考える？：VI. 救急外来看護に必要な外因性病態・症候と、管理上必要な対応を事例から考える：Q83. 異物を飲んだことを主訴に来院した患者さんへの対応について教えてください. ナーシングケア Q & A 2010；（34）：196-197.

学会発表

〔追加分〕

追加分一般講演：

- 1) 小谷英太郎¹⁾、竹山聡美、飯田美佐子、草間芳樹¹⁾、新 博次¹⁾、長澤紘一¹⁾（¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院内科・循環器内科）：2型糖尿病に対するピオグリタゾン単独療法の有効性：1年後報告. 日本成人病（生活習慣病）学会学術集会（第44回）、2010. 1.

(1) パネルディスカッション：

- 1) 國崎絢子、渡辺久子、平添まどか、岩重希未恵：帝王切開患者の思い・具体的な希望のインタビュー調査：帝王切開分娩でのバースプラン導入に向けて. 日本看護学会母性看護（第41回）、2010. 7.

(2) 一般講演：

- 1) 大野 敦¹⁾、宮城調司²⁾、青木由貴子²⁾、内田せつ子³⁾、後藤 円、高橋大悟⁴⁾、中野貴世⁵⁾、野口武志⁶⁾、住友秀孝²⁾、関口芳弘⁷⁾、高村 宏⁵⁾、原 義人⁷⁾、藤井仁美³⁾、宮川高一³⁾、植木彬夫¹⁾、その他1名（¹⁾ 東京医科大学八王子医療センター糖尿病・内分泌・代謝内科、²⁾ 立川相互病院内分泌代謝科、³⁾ 多摩センタークリニックみらい、⁴⁾ かたやま内科クリニック、⁵⁾ 高村内科クリニック、⁶⁾ グレイス病院薬剤科、⁷⁾ 青梅市立総合病院内分泌代謝科、⁸⁾ NPO 法人西東京臨床糖尿病研究会）：インスリン療法中の75歳以上の糖尿病患者に関する実態調査：地域密着型病院と大学病院での比較. 日本糖尿病学会年次学術集会（第53回）、2010. 5.
- 2) 野口武志¹⁾、大野 敦²⁾、宮城調司³⁾、青木由貴子³⁾、内田せつ子⁴⁾、後藤 円、高橋大悟⁵⁾、中野貴世⁶⁾、住友秀孝³⁾、関口芳弘⁷⁾、高村 宏⁶⁾、原 義人⁷⁾、藤井仁美⁴⁾、宮川高一⁴⁾、植木彬夫²⁾、その他1名（¹⁾ グレイス病院薬剤科、²⁾ 東京医科大学八王子医療センター糖尿病・内分泌・代謝内科、³⁾ 立川相互病院内分泌代謝科、⁴⁾ 多摩センタークリニックみらい、⁵⁾ かたやま内科クリニック、⁶⁾ 高村内科クリニック、⁷⁾ 青梅市立総合病院内分泌代謝科、⁸⁾ NPO 法人西東京臨床糖尿病研究会）：多施設・多職種で高齢者の糖尿病管理を学ぶワークショップの試み（第2報）. 日本糖尿病学会年次学術集会（第53回）、2010. 5.
- 3) 羽場和美、安達勝哉、渡邊研一、石ヶ森重之、緋田雅美：当救命救急センターにおける初療緊急手術について：初療を担う看護師の不安に対する調査と対策. 日本救急看護学会学術集会（第12回）、2010. 10.
- 4) 荻原綾子、上原みずぎ、横田恵美、安達勝哉、緋田雅美：救命救急センターに入室した患者家族のニーズと家族係の対応との比較・検討. 日本救急看護学会学術集会（第12回）、2010. 10.
- 5) 小原真梨子、吉田温子、木村香織、並川 円：分娩期における唾液アミラーゼ活性値の推移とアロマテラピー導入の効果. 日本母性衛生学会学術集会（第51回）、2010. 11.
- 6) 高仲雅子：レスキューを使用した外来通院がん患者の自己効力感に影響する要因の探究. 日本がん看護学会学術集会（第25回）、2011. 2.
- 7) 北住誠子、加藤美樹、長内尚美、稲葉はるみ、宮尾江里子：A 病院における経験年数5年目以上看護師の学習ニーズの調査：外来看護師と病棟看護師の比較検討. 東京都看護協会多摩南地区支部看護研究発表会、2011. 2.
- 8) 関根 愛、丸山 弘¹⁾、菅谷量俊²⁾、城戸竜一³⁾（¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院消化器外科・乳腺外科・一般外科、

- 2) 日本医科大学多摩永山病院薬剤部, 3) 日本医科大学多摩永山病院医療安全管理部) : ペン型インスリン器材による針刺し対策とその分析. 日本環境感染学会総会 (第 26 回), 2011. 2.
- 9) 石ヶ森重之: 看護師に求められる ER のマネジメント: 完結型救命救急センターにおける看護師の役割. 日本救急医学会関東地方会 (第 61 回), 2011. 2.
- 10) 鈴木健介¹⁾, 二宮宣文¹⁾, 久野将宗¹⁾, 石ヶ森重之, 渡邊研一 (1) 日本医科大学多摩永山病院救命救急センター): 院内における継続的な災害教育: 机上シミュレーション講習会の効果の検証. 日本集団災害医学会総会・学術集会 (第 16 回), 2011. 2.
- 11) 渡邊研一, 二宮宣文¹⁾, 久野将宗¹⁾, 石ヶ森重之, 鈴木健介¹⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院救命救急センター): 院内における継続的な災害訓練: START 法トリアージ講習会の効果の検証. 日本集団災害医学会総会・学術集会 (第 16 回), 2011. 2.

[多摩永山病院消化器科]

研究概要

当科は消化器全般の疾患を診療の対象とし, 幅広い視野や能力を有する臨床医の養成を目指すとともに, 消化器疾患に関する臨床および基礎研究を行っている. 研究活動としては, 1. 日常診療で多く遭遇する消化管出血の現状や病態を, 上部および下部消化管の内視鏡検査を用いて解析している. 具体的には, *Helicobacter pylori* 感染や非ステロイド性消炎鎮痛薬と胃病変との関連性や *Helicobacter pylori* の 2 次除菌, 3 次除菌における有効性の比較検討, 透析患者における酢酸呼吸試験を含めた *Helicobacter pylori* の存在診断法の検討, 食道胃逆流症, 機能性胃症, 過敏性腸症候群などの消化管運動異常の解析, および, 逆流性食道炎や胃潰瘍の発生機序に関して, 基礎および臨床疫学的な研究を行っている. 2. アルコール性脂肪肝や非アルコール性脂肪肝の病態を検討するとともに, C 型慢性肝炎に対するインターフェロン, リバビリン併用による治療効果と副作用の発現について検討し症例を蓄積中である. 3. 炎症性腸疾患の診断と治療について, とくに潰瘍性大腸炎に対する白血球 (顆粒球) 吸着療法, および抗 TNF 製剤による治療の症例を蓄積している. 4. 韓国, 中国, ベトナム, タイ, ミャンマー, バングラデシュ, ネパールなど東, 東南, 南アジアの国々において *Helicobacter pylori* 感染と胃十二指腸疾患との関連や, 背景胃粘膜や病態の相異について疫学調査を行っている. 特に, 大分大学, 国立国際医療研究センターと, アジア諸国における *Helicobacter pylori* 感染の実態と胃発癌機序の解明に関する共同研究が始まっているほか, 胆汁酸逆流が胃粘膜に及ぼす影響についても他施設との共同研究を行っている.

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Nguyen L^{1, 2)}, Uchida T^{1, 3)}, Tsukamoto Y¹⁾, Trinh T⁴⁾, Ta L⁴⁾, Mai H⁴⁾, Le H⁴⁾, Ho D⁵⁾, Hoang H⁵⁾, Matsuhisa T, Okimoto T²⁾, Kodama M²⁾, Murakami K²⁾, Fujioka T²⁾, Yamaoka Y⁶⁾, et al. (1) Department of Molecular Pathology, Faculty of Medicine, Oita University, 2) Department of Gastroenterology, Faculty of Medicine, Oita University, 3) Department of Human Environmental and Social Medicine, Faculty of Medicine, Oita University, 4) 108 Hospital, Hanoi, Vietnam, 5) Cho Ray Hospital, Ho Chi Minh, Vietnam, 6) Department of Environmental and Preventive Medicine, Faculty of Medicine, Oita University) : Clinical relevance of cagPAI intactness in *Helicobacter pylori* isolates from Vietnam. Eur J Clin Microbiol Infect Dis 2010 ; 29 (6) : 651-660.
- 2) Nguyen T^{1, 2)}, Uchida T^{1, 3)}, Tsukamoto Y¹⁾, Trinh D⁴⁾, Ta L⁵⁾, Mai B⁵⁾, Le S⁶⁾, Thai K⁵⁾, Ho D⁷⁾, Hoang H⁸⁾, Matsuhisa T, Okimoto T²⁾, Kodama M²⁾, Murakami K²⁾, Fujioka T²⁾, et al. (1) Department

of Molecular Pathology, Faculty of Medicine, Oita University, ²⁾ Department of Gastroenterology, Faculty of Medicine, Oita University, ³⁾ Department of Human Environmental and Social Medicine, Faculty of Medicine, Oita University, ⁴⁾ Department of Pathology, 108 Hospital, ⁵⁾ Department of Gastroenterology, 108 Hospital, ⁶⁾ Department of Molecular Biology, 108 Hospital, ⁷⁾ Department of Endoscopy, Cho Ray Hospital, ⁸⁾ Department of Training and Research, Cho Ray Hospital) : *Helicobacter pylori* infection and gastroduodenal diseases in Vietnam : a cross-sectional, hospital-based study. BMC Gastroenterol 2010 ; 10 (30) : 114.

- 3) Fujimori S¹⁾, Takahashi Y, Gudis K¹⁾, Seo T¹⁾, Ehara A¹⁾, Kobayashi T¹⁾, Mitsui K¹⁾, Yonezawa M¹⁾, Tanaka S¹⁾, Tatsuguchi A¹⁾, Sakamoto C¹⁾ (¹⁾ Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine.) : Rebamipide has the potential to reduce the intensity of NSAID-induced small intestinal injury : a double-blind, randomized, controlled trial evaluated by capsule endoscopy. J Gastroenterol. 2011 ; 46 (1) : 57-64.
 - 4) Takahashi Y, Fujimori S¹⁾, Toyoda M¹⁾, Yamada Y¹⁾, Seo T¹⁾, Ehara A¹⁾, Kobayashi T¹⁾, Mitsui K¹⁾, Yonezawa M¹⁾, Tanaka S¹⁾, Tatsuguchi A¹⁾, Gudis K¹⁾, Sakamoto C¹⁾ (¹⁾ Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine.) : The blind spot of an EGD : capsule endoscopy pinpointed the source of obscure GI bleeding on the dark side of the pylorus. Gastrointest Endosc 2011 ; 73 (3) : 607-608.
 - 5) 三宅一昌¹⁾, 楠 正典¹⁾, 進藤智隆¹⁾, 植木信江, 河越哲郎¹⁾, 二神生爾¹⁾, 津久井拓, 坂本長逸¹⁾ (¹⁾ 消化器内科) : 長期低用量アスピリン服用患者における内視鏡的消化性潰瘍と出血関連症状の関連. 日本高齢消化器病学会誌 2010 ; 12 (2) : 33-37.
 - 6) 岩切勝彦¹⁾, 佐野弘仁¹⁾, 田中由理子¹⁾, 川見典之, 梅澤まり子¹⁾, 飯泉 匡¹⁾, 二神生爾¹⁾, 星原芳雄¹⁾, 野村 務²⁾, 宮下正夫²⁾, 坂本長逸¹⁾ (¹⁾ 消化器内科, ²⁾ 消化器外科) : 【PPI 抵抗性 NERD の診断と治療の新展開】 食道 pH・多チャンネルインピーダンスモニタリングによる PPI 抵抗性 NERD 患者の解析. 日本消化器病学会雑誌 2010 ; 107 (4) : 538-548.
 - 7) 小林 剛¹⁾, 田中 周¹⁾, 玉木祐希江, 江原彰仁¹⁾, 三井啓吾¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (¹⁾ 消化器内科) : 【小腸・大腸内視鏡 こんな時どうする 検査編】 小腸内視鏡 診断能向上に向けて バルーン内視鏡挿入困難例に対する対応 全小腸観察率と術後腸管盲端到達率の向上に向けて. Intestine 2010 ; 14 (3) : 307-310.
 - 8) 二神生爾¹⁾, 岩切勝彦¹⁾, 進藤智隆¹⁾, 河越哲郎¹⁾, 新福摩弓¹⁾, 田中由理子¹⁾, 川見典之, 坂本長逸¹⁾ (¹⁾ 消化器内科) : モサプリドクエン酸塩の追加投与が PPI (オメプラゾール) 抵抗性 NERD 患者の臨床症状および胃排出に及ぼす影響. Pharma Medica 2010 ; 28 (8) : 133-139.
 - 9) 松久威史 : 東京都における *H. pylori* 感染診断の現状をみる : *Helicobacter* カンファレンス 2010 の調査を通して. Helicobacter Research 2010 ; 14 (5) : 368-371.
 - 10) 松久威史 : 高齢者における除菌療法. Medicina 2010 ; 47 (10) : 1772-1775.
 - 11) 高橋信一¹⁾, 鈴木秀和²⁾, 河合 隆³⁾, 松久威史 (¹⁾ 杏林大学第三内科, ²⁾ 慶應義塾大学内科, ³⁾ 東京医科大学内視鏡センター) : より適確な *Helicobacter pylori* 除菌をめぐる. Medicina 2010 ; 47 (10) : 1812-1824.
 - 12) 藤森俊二¹⁾, 遠坂由紀子¹⁾, 馬來康太郎¹⁾, 豊田将大¹⁾, 春日祐介¹⁾, 山田祐希江, 高橋陽子, 江原彰仁¹⁾, 小林 剛¹⁾, 瀬尾継彦¹⁾, 三井啓吾¹⁾, 米澤真興¹⁾, 田中 周¹⁾, 辰口篤志¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (¹⁾ 消化器内科) : 【NSAID 起因性小腸病変】 NSAID 起因性小腸病変. 胃と腸 2011 ; 46 (2) : 128-136.
- (2) 総説 :
- 1) 藤森俊二¹⁾, 高橋陽子, 瀬尾継彦¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (¹⁾ 消化器内科) : 手技の解説 カプセル内視鏡手技の注意点. Gastroenterological Endoscopy 2010 ; 52 (9) : 2738-2744.
 - 2) 三宅一昌¹⁾, 楠 正典¹⁾, 進藤智隆¹⁾, 植木信江, 河越哲郎¹⁾, 二神生爾¹⁾, 津久井拓, 坂本長逸¹⁾ (¹⁾ 大学院医学研究科病態制御腫瘍内科学) : 消化性潰瘍の現状. 日本医科大学医学会雑誌 2010 ; 6 (1) : 7-12.

- 3) 津久井拓, 安積貴年, 坂本長逸¹⁾ (1) 消化器内科): デキる医師の紹介・逆紹介スキル 99 「紹介する⇔紹介される」のギャップを埋める教訓集: 消化器 (胃腸) 紹介 胃・十二指腸潰瘍. 治療 2010; 92 (4): 851-857.
 - 4) 藤森俊二¹⁾, 高橋陽子, 馬來康太郎¹⁾, 春日裕介¹⁾, 山田祐希江, 江原彰仁¹⁾, 小林 剛¹⁾, 瀬尾継彦¹⁾, 三井啓吾¹⁾, 米澤真興¹⁾, 田中 周¹⁾, 辰口篤志¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 消化器内科): 【薬剤性消化管粘膜傷害のマネージメント NSAIDs とアスピリン】 NSAIDs・アスピリンによる粘膜傷害のマネージメント 小腸 予防・治療薬研究の現状と展望 プロスタグランディン製剤. 消化器の臨床 2010; 13 (2): 174-178.
 - 5) 田中 周¹⁾, 山田祐希江, 小林 剛¹⁾, 三井啓吾¹⁾, 藤森俊二¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 消化器内科): 【血管の異常をきたす消化管疾患】 Schoenlein-Henoch 紫斑病の消化管病変. 臨床消化器内科 2010; 25 (5): 571-577.
 - 6) 河越哲郎¹⁾, 川見典之, 小林 剛¹⁾, 梅澤まり子¹⁾, 名見耶浩幸, 新福摩弓¹⁾, 進藤智隆¹⁾, 植木信江, 楠 正典¹⁾, 辰口篤志¹⁾, 二神生爾¹⁾, 三宅一昌¹⁾, 岩切勝彦¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 消化器内科): 高齢切除不能胃がん症例における S-1 ベース化学療法の有用性の検討. 日本高齢消化器病学会誌 2010; 12 (2): 115-120.
 - 7) 藤森俊二¹⁾, 高橋陽子, 江原彰仁¹⁾, 小林 剛¹⁾, 瀬尾継彦¹⁾, 三井啓吾¹⁾, 田中 周¹⁾, 辰口篤志¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 消化器内科): 【小腸・大腸内視鏡 こんな時どうする 検査編】 小腸内視鏡 診断能向上に向けて カプセル内視鏡の判定困難例に対する対応 腸管圧排と区別困難な粘膜下腫瘍に対する対応. Intestine 2010; 14(3): 293-296.
 - 8) 遠坂由紀子¹⁾, 三宅一昌¹⁾, 楠正典¹⁾, 進藤智孝¹⁾, 植木信江, 河越哲郎¹⁾, 二神生爾¹⁾, 津久井拓, 坂本長逸¹⁾ (1) 消化器内科): アスピリンと NSAID 併用による消化管粘膜傷害: NSAID と低用量アスピリンの長期併用が与える無症候性的内視鏡的消化性潰瘍発症と潜在性出血への影響. 消化器内科 2010; 51 (1): 10-15.
 - 9) 江原彰仁¹⁾, 田中 周¹⁾, 春日裕介¹⁾, 玉木祐希江, 高橋陽子, 小林 剛¹⁾, 瀬尾継彦¹⁾, 三井啓吾¹⁾, 米澤真興¹⁾, 辰口篤志¹⁾, 藤森俊二¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 消化器内科): 【小腸癌の診断と治療】 ダブルバルーン内視鏡. 癌と化学療法 2010; 37 (8): 1446-1449.
 - 10) 川見典之, 岩切勝彦¹⁾, 佐野弘仁¹⁾, 田中由理子¹⁾, 梅澤まり子¹⁾, 琴寄 誠¹⁾, 星原芳雄¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 消化器内科): 【GERD の病態解明と治療はどこまで進んだか】 食道運動機能検査による GERD の病態解明. 消化器の臨床 2010; 13 (4): 408-412.
 - 11) 岩切勝彦¹⁾, 川見典之, 佐野弘仁¹⁾, 田中由理子¹⁾, 梅澤まり子¹⁾, 星原芳雄¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 消化器内科): 【機能性消化管異常症 消化管を一本の管としてみる】 胸やけ・悪心 (胃食道逆流症を中心に) PPI 抵抗性非びらん性胃食道逆流症の病態に関する最近の知見. 診断と治療 2010; 98 (9): 1417-1422.
 - 12) 植木信江, 三宅一昌¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 消化器内科): 【高齢者胃潰瘍 低用量アスピリン潰瘍に焦点をあてて】 高齢者胃潰瘍の予防・治療 低用量アスピリン潰瘍の予防・治療 低用量アスピリンによる高齢者胃潰瘍の予防と治療. 日本臨床 2010; 68 (11): 2083-2088.
 - 13) 藤森俊二¹⁾, 高橋陽子, 江原彰仁¹⁾, 小林 剛¹⁾, 瀬尾継彦¹⁾, 三井啓吾¹⁾, 米澤真興¹⁾, 田中 周¹⁾, 辰口篤志¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 消化器内科): 【小腸疾患 診断と治療の進歩】 診療の進歩 原因不明消化管出血. 日本内科学会雑誌 2011; 100 (1): 50-57.
 - 14) 佐野弘仁¹⁾, 岩切勝彦¹⁾, 川見典之, 田中由理子¹⁾, 梅澤まり子¹⁾, 星原芳雄¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 消化器内科): 手技の解説 食道 pH・多チャンネルインピーダンス検査の実際. 臨床消化器内科 2011; 25 (13): 1769-1774.
- (3) 症例報告:
- 1) 村脇義之¹⁾, 吉村禎二¹⁾, 三浦将彦¹⁾, 木科 学¹⁾, 安積貴年, 結城崇史¹⁾, 田中新亮¹⁾, 山田 稔¹⁾, 吉田 学¹⁾, 楠 龍策¹⁾ (1) 松江市立病院 消化器内科): 胃粘膜下血腫を合併した消化管アミロイドーシスの 1 例. Gastroenterological Endoscopy 2010; 52 (5): 1403-1407.

学会発表

〔追加分〕

追加分一般講演：

- 1) 鈴木成治¹⁾, 笹島耕二²⁾, 丸山 弘¹⁾, 横山 正¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 松下 晃¹⁾, 川本聖朗¹⁾, 西 佳史¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 津久井拓, 松久威史, 内田英二²⁾ (1) 多摩永山病院 外科, 2) 外科) : S1/CDDP 療法を施行した高度進行・再発胃癌症例における前・後治療としてのタキサン系抗癌剤使用の意義. 日本胃癌学会総会 (第 82 回) (新潟), 2010. 3.

(1) 特別講演：

- 1) Matsuhisa T : *Helicobacter pylori* infection and gastric cancer in East and South Asia. *Helicobacter pylori* Conference in Bangladesh (Dhaka, Bangladesh), 2010. 12.

(2) シンポジウム：

- 1) Matsuhisa T : Study of *Helicobacter pylori* infection, peptic ulcer disease and gastric mucosa between East, Southeast, South Asian populations and Japanese. Congress on Gastroenterology of South East Asian Nations (8th) (Hanoi, Vietnam), 2010. 10.

(3) 一般講演：

- 1) Matsuhisa T : The present condition and the perspectives on Asian *Helicobacter pylori* infection and gastric cancer. The First Conference on *Helicobacter pylori* Infection and Gastric Cancer (The First) (Shanghai, China), 2010. 11.
- 2) 松久威史, Yamada S¹⁾ (1) Department of Surgery, ChiangMai University, Thailand) : ペプシノゲン法, 抗 HpIgG 抗体からみたアジア人の胃癌：日本人との比較. 日本消化器病学会総会 (第 96 回) (新潟), 2010. 4.
- 3) 鈴木成治¹⁾, 笹島耕二²⁾, 丸山 弘¹⁾, 横山 正¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 松下 晃¹⁾, 平方敦史¹⁾, 川本聖朗¹⁾, 西佳 史¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 津久井拓, 内田英二²⁾ (1) 多摩永山病院 外科, 2) 外科) : 分子標的療法時代の高度進行・再発大腸癌に対する全身化学療法の治療方針. 日本外科学会 (第 110 回) (名古屋), 2010. 4.
- 4) 東 直行¹⁾, 狩野律子¹⁾, 松下 晃¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 笹島耕二²⁾, 津久井拓, 川名誠司³⁾ (1) 多摩永山病院皮膚科, 2) 多摩永山病院 外科, 3) 皮膚科) : 皮膚症状を契機に食道癌が発見された多形慢性痒疹の 1 例. 日本皮膚科学会総会 (第 109 回) (大阪), 2010. 4.
- 5) 松久威史, 山田宣孝¹⁾ (1) 病理学第二教室) : アジア人と日本人消化性潰瘍の比較. 日本消化器内視鏡学会総会 (第 79 回) (東京), 2010. 5.
- 6) 馬來康太郎¹⁾, 藤森俊二¹⁾, 高橋陽子, 山田祐希江, 江原彰仁¹⁾, 小林 剛¹⁾, 瀬尾継彦¹⁾, 三井啓吾¹⁾, 米澤真興¹⁾, 柴田喜明¹⁾, 田中 周¹⁾, 辰口篤志¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 消化器内科) : 新型カプセル内視鏡 (PillCam SB2) の従来型に対する Vater 乳頭検出率・盲腸観察率の検討 Author : (日本医科大学 消化器内科). 日本消化器内視鏡学会 (第 79 回) (東京), 2010. 5.
- 7) 藤森俊二¹⁾, 高橋陽子, 坂本長逸¹⁾ (1) 消化器内科) : カプセル内視鏡の診断 update 原因不明消化管出血患者の同定出血源 アスピリン服用者と非服用者間の比較検討. 日本消化器内視鏡学会 (第 79 回) (東京), 2010. 5.
- 8) 松久威史, Yamada S¹⁾ (1) Department of Surgery, ChiangMai University, Thailand) : アジア人の胃癌：日本人との比較. 日本ヘリコバクター学会学術集会 (第 16 回) (京都), 2010. 6.
- 9) 松久威史, 津久井拓 : プロトンポンプ阻害薬別にみた *Helicobacter pylori* 次除菌成績の検討. 日本ヘリコバクター学会学術集会 (第 16 回) (京都), 2010. 6.
- 10) 松久威史, 内田智久¹⁾, Cheung D²⁾, Park S²⁾ (1) 大分大学第二病理, 2) Department of Internal Medicine, The Catholic University of Korea, Korea) : 韓国人と日本人における背景胃粘膜の比較観. 日本ヘリコバクター

学会学術集会（第16回）（京都），2010. 6.

- 11) 春日裕介¹⁾, 辰口篤志¹⁾, 藤森俊二¹⁾, 松田崇史, 馬來康太郎¹⁾, 遠坂由紀子¹⁾, 玉木祐希江, 高橋陽子, 江原彰仁¹⁾, 小林 剛¹⁾, 三井啓吾¹⁾, 瀬尾継彦¹⁾, 米澤真興¹⁾, 田中 周¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 消化器内科): 後天性免疫不全症候群に合併した大腸カポジ肉腫の1例. 日本消化器内視鏡学会関東地方会 (第90回) (東京), 2010. 6.
- 12) 江原彰仁¹⁾, 豊田将大¹⁾, 馬來康太郎¹⁾, 遠坂由紀子¹⁾, 春日裕介¹⁾, 玉木祐希江, 高橋陽子, 小林 剛¹⁾, 三井啓吾¹⁾, 米澤真興¹⁾, 田中 周¹⁾, 辰口篤志¹⁾, 藤森俊二¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 消化器内科): 小腸疾患の診断と治療 カプセル・バルーン内視鏡の有用性 小腸疾患の検査動機別における DBE の有用性と効率的な検査方法の検討. 日本消化器内視鏡学会関東地方会 (第90回) (東京), 2010. 6.
- 13) 遠坂由紀子¹⁾, 藤森俊二¹⁾, 高橋陽子, 馬來康太郎¹⁾, 春日裕介¹⁾, 山田祐希江, 江原彰仁¹⁾, 小林 剛¹⁾, 瀬尾継彦¹⁾, 三井啓吾¹⁾, 米澤真興¹⁾, 田中 周¹⁾, 辰口篤志¹⁾, 狩野律子¹⁾, 二神綾子¹⁾, その他1名 (1) 消化器内科): カプセル内視鏡で治療経過を観察し得た Henoch-Schoenlein 紫斑病の1例. 日本消化器内視鏡学会関東地方会 (第88回) (東京), 2010. 6.
- 14) 小杉友紀, 田中 周¹⁾, 馬來康太郎¹⁾, 山田祐希江, 江原彰仁¹⁾, 小林 剛¹⁾, 三井啓吾¹⁾, 米澤真興¹⁾, 辰口篤志¹⁾, 藤森俊二¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 消化器内科): 消化管出血 (静脈瘤を含む) はコントロールできたのか? 小腸血管性病変に対する内視鏡的止血法の現状と問題点 より確実な内視鏡的止血法の確率にむけて. 日本消化器内視鏡学会 (第88回) (東京), 2010. 6.
- 15) 名兄耶浩幸, 二神生爾¹⁾, 宋 軍民¹⁾, 堀江 茜¹⁾, 新福摩弓¹⁾, 河越哲郎¹⁾, 梅沢まり子¹⁾, 川見典之, 岩切勝彦¹⁾, 星原芳雄¹⁾, 牧野浩司²⁾, 宮下正夫²⁾, 土屋眞一²⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 消化器内科, 2) 消化器外科): 胃癌・食道癌組織における APE-1 発現の解析. 胃病態機能研究会 (第42回) (東京), 2010. 7.
- 16) 河越哲郎¹⁾, 名兄耶浩幸, 遠坂由紀子¹⁾, 梅沢まり子¹⁾, 川見典之, 植木信江, 小林玲樹¹⁾, 小林 剛¹⁾, 辰口篤志¹⁾, 新福摩弓¹⁾, 進藤智隆¹⁾, 楠 正典¹⁾, 二神生爾¹⁾, 三宅一昌¹⁾, 岩切勝彦, その他1名 (1) 消化器内科): 高齢者消化器がん治療法の選択と QOL, 何歳まで治療しますか? 高齢切除不能胃癌に対する化学療法の有用性. 日本高齢消化器病学会 (第13回) (東京), 2010. 7.
- 17) 岩切勝彦¹⁾, 川見典之, 佐野弘仁¹⁾, 梅沢まり子¹⁾, 田中由理子¹⁾, 琴寄 誠¹⁾, 星原芳雄¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 消化器内科): 逆流症状を有する胃食道逆流の特徴. 日本食道学会学術集会 (第64回) (久留米), 2010. 8.
- 18) 野村 務¹⁾, 内田英二¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 牧野浩司¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 佐野弘仁²⁾, 川見典之, 田中由理子²⁾, 岩切勝彦²⁾, 坂本長逸²⁾ (1) 消化器外科, 2) 消化器内科): GERD, NERD, PLRD の診断と治療 PPI 倍量治療抵抗性 NERD 症例に対する腹腔鏡下逆流防止手術の有用性. 日本食道学会学術集会 (第64回) (久留米), 2010. 8.
- 19) 松久威史, 津久井拓: プロトンポンプ阻害薬別にみた *Helicobacter pylori* 次除菌成績の検討. 日本消化器病学会大会 (第52回) (横浜), 2010. 10.
- 20) 鈴木成治¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 松下 晃¹⁾, 平方敦史¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 馬越通信¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 津久井拓, 松久威史, 内田英二²⁾ (1) 多摩永山病院 外科, 2) 外科): 切除不能・再発胃癌に対する2次治療以降でのタキサン系抗癌剤使用の意義. 日本癌治療学会学術集会 (第48回) (京都), 2010. 10.
- 21) 伊藤友希¹⁾, 日下部誠¹⁾, 三宅一昌¹⁾, 新福摩弓¹⁾, 進藤智隆¹⁾, 植木信江, 楠 正典¹⁾, 河越哲郎¹⁾, 二神生爾¹⁾, 津久井拓, 坂本長逸¹⁾ (1) 消化器内科): Hピロリ非感染患者における内視鏡的胃炎と FD 症状との関連について. 日本医科大学医学会, 2010. 10.
- 22) 鈴木成治¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 横山 正¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 松下 晃¹⁾, 平方敦史¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 馬越通信¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 松久威史, 津久井拓, 内田英二²⁾ (1) 多摩永山病院 外科, 2) 外科): S1/CDDP 療法を施行した切除不能・高度進行胃癌症例における後治療の検討. 日本消化器病学会大会 (第52回) (横浜), 2010. 10.
- 23) 伊藤友希¹⁾, 日下部誠¹⁾, 三宅一昌¹⁾, 進藤智隆¹⁾, 植木信江, 楠 正典¹⁾, 河越哲郎¹⁾, 二神生爾¹⁾, 津久井拓, 坂本長逸¹⁾ (1) 消化器内科): *H.pylori* 非感染患者における, 自覚症状と内視鏡的胃炎との関連性. 日本消化器

病学会大会（第52回）（横浜），2010. 10.

- 24) 名見耶浩幸¹，二神生爾¹，堀江 茜¹，河越哲郎¹，梅沢まり子¹，川見典之¹，岩切勝彦¹，星原芳雄¹，牧野浩司²，宮下正夫²，土屋真一²，坂本長逸² (1) 消化器内科， 2) 消化器外科)：食道癌組織における APE-1 発現の解析。日本消化器病学会総会（第96回）（横浜），2010. 10.
- 25) 小高康裕¹，二神生爾¹，新福摩弓¹，堀江 茜¹，河越哲郎¹，進藤智隆¹，名見耶浩幸¹，植木信江¹，楠 正典¹，三宅一昌¹，坂本長逸¹ (1) 消化器内科)：H.pylori 胃炎患者を対象にした COX-2 の遺伝子多型によるハイリスク群の絞り込みの検討。日本消化器病学会大会（第52回）（横浜），2010. 10.
- 26) 藤本真弓¹，二神生爾¹，新福摩弓¹，中澤祥子¹，堀江 茜¹，河越哲郎¹，進藤智隆¹，植木信江¹，楠 正典¹，三宅一昌¹，岩切勝彦¹，坂本長逸¹ (1) 消化器内科)：FD 患者における GN β -3 遺伝子多型と胃運動能の解析。日本消化器病学会大会（第52回）（横浜），2010. 10.
- 27) 藤森俊二¹，高橋陽子¹，坂本長逸¹ (1) 消化器内科)：小腸消化管傷害の現況と治療戦略 非ステロイド性抗炎症剤/アスピリン起因性小腸出血性潰瘍性病変の有病率の検討。日本消化器病学会大会（第52回）（横浜），2010. 10.
- 28) 遠坂由紀子¹，江原彰仁¹，馬來康太郎¹，豊田将大¹，春日裕介¹，玉木祐希江¹，高橋陽子¹，小林 剛¹，瀬尾継彦¹，三井啓吾¹，米澤真興¹，田中 周¹，辰口篤志¹，藤森俊二¹，坂本長逸¹ (1) 消化器内科)：小腸内視鏡検査が診断と治療に有用であった AVM の2例。消化器内視鏡学会総会（第80回）（横浜），2010. 10.
- 29) 馬來康太郎¹，藤森俊二¹，遠坂由紀子¹，高橋陽子¹，豊田将大¹，春日裕介¹，山田祐希江¹，江原彰仁¹，小林 剛¹，瀬尾継彦¹，三井啓吾¹，米澤真興¹，田中 周¹，辰口篤志¹，坂本長逸¹ (1) 消化器内科)：カプセル内視鏡の適切な検査時間を設定する試み。日本消化器内視鏡学会総会（第80回）（横浜），2010. 10.
- 30) 野村 務¹，内田英二¹，宮下正夫¹，牧野浩司¹，萩原信敏¹，松本智司¹，中村慶春¹，吉田 寛¹，谷合信彦¹，峯田 章¹，川野陽一¹，岩切勝彦²，川見典之¹，田中由理子²，坂本長逸² (1) 消化器外科， 2) 消化器内科)：巨大肝嚢胞を伴った食道アカラシアの1例。日本消化器内視鏡学会総会（第80回）（横浜），2010. 10.
- 31) 藤森俊二¹，高橋陽子¹，坂本長逸¹ (1) 消化器内科)：薬剤起因性小腸病変を巡って 現状と対策 小腸絨毛欠損の発生には NSAIDs の直接作用と COX-1 阻害が関与する。日本消化器内視鏡学会総会（第80回）（横浜），2010. 10.
- 32) 鈴木成治¹，笹島耕二¹，吉田 寛¹，丸山 弘¹，横山 正¹，松谷 毅¹，松下 晃¹，平方敦史¹，新井洋紀¹，馬越通信¹，若林秀幸¹，早川朋宏¹，津久井拓¹，松久威史¹，内田英二² (1) 多摩永山病院 外科， 2) 外科)：切除不能・再発胃癌症例の2次治療におけるタキサン系抗癌剤の位置付け。日本臨床外科学会総会（第72回）（横浜），2010. 11.
- 33) 江原彰仁¹，豊田将大¹，馬來康太郎¹，遠坂由紀子¹，春日裕介¹，山田祐希江¹，高橋陽子¹，小林 剛¹，三井啓吾¹，米澤真興¹，田中 周¹，辰口篤志¹，藤森俊二¹，坂本長逸¹ (1) 消化器内科)：検査動機別のダブルバルーン内視鏡の有用性と効率的な検査方法の検討。日本大腸検査学会（第28回）（東京），2010. 11.
- 34) 河越哲郎¹，名見耶浩幸¹，遠坂由紀子¹，梅沢まり子¹，川見典之¹，江原彰仁¹，植木信江¹，小林 剛¹，小林玲樹¹，進藤智隆¹，楠 正典¹，辰口篤志¹，二神生爾¹，三宅一昌¹，坂本長逸¹ (1) 消化器内科)：高齢切除不能胃癌に対する化学療法の有効性。日本癌治療学会学術集会（第48回）（京都），2010. 11.
- 35) 新福摩弓¹，二神生爾¹，名見耶浩幸¹，堀江 茜¹，進藤智隆¹，河越哲郎¹，植木信江¹，楠 正典¹，三宅一昌¹，岩切勝彦¹，坂本長逸¹ (1) 消化器内科)：FD 患者における GN β -3 および 5-HT の遺伝子多型と胃排出能との相関関係の解析。日本臨床生理学会総会（第47回）（前橋），2010. 11.
- 36) 藤森俊二¹，高橋陽子¹，山田祐希江¹，江原彰仁¹，小林 剛¹，瀬尾継彦¹，三井啓吾¹，米澤真興¹，田中 周¹，辰口篤志¹，坂本長逸¹ (1) 消化器内科)：非ステロイド消炎鎮痛剤 (NSAIDs) が小腸運動に与える影響に対する検討。小腸研究会（第48回）（名古屋），2010. 11.
- 37) 松久威史：がんの予防医学・治療について 胃がん。東京都認定がん診療病院市民公開講座（東京），2011. 2.

- 38) 豊田将大¹⁾, 馬來康太郎¹⁾, 遠坂由紀子¹⁾, 春日祐介¹⁾, 玉木祐希江, 高橋陽子, 江原彰仁¹⁾, 小林 剛¹⁾, 瀬尾継彦¹⁾, 三井啓吾¹⁾, 米澤真興¹⁾, 田中 周¹⁾, 辰口篤志¹⁾, 藤森俊二¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 消化器内科): 小腸に多発性有形性ポリープを生じた消化管アミロイドーシスの1例. 日本消化管学会学術集会総会 (第7回) (京都), 2011. 2.
- 39) 宋 軍民¹⁾, 二神生爾¹⁾, 河越哲郎¹⁾, 新福摩弓¹⁾, 名児耶浩幸, 堀江 茜¹⁾, 進藤智隆¹⁾, 植木信江, 楠 正典¹⁾, 飯泉 匡¹⁾, 三宅一昌¹⁾, 岩切勝彦¹⁾, 星原芳雄¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 消化器内科): Apurinic/aprimidinic endonuclease-1 (APE-1) and COX-2 were regulated by NF-kappa B activation in esophageal cancer. 日本消化管学会学術集会総会 (第7回) (京都), 2011. 2.
- 40) 豊田将大¹⁾, 馬來康太郎¹⁾, 遠坂由紀子¹⁾, 春日祐介¹⁾, 玉木祐希江, 高橋陽子, 江原彰仁¹⁾, 小林 剛¹⁾, 瀬尾継彦¹⁾, 三井啓吾¹⁾, 米澤真興¹⁾, 田中 周¹⁾, 辰口篤志¹⁾, 藤森俊二¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 消化器内科): ザラゾピリン服用者における血中葉酸濃度の検討. 日本消化管学会学術集会総会 (第7回) (京都), 2011. 2.
- 41) 辰口篤志¹⁾, 三井啓吾²⁾, 進士誠一³⁾, 米澤真興¹⁾, 瀬尾継彦¹⁾, 高橋陽子, 江原彰仁¹⁾, 小林 剛¹⁾, 田中 周¹⁾, 藤森俊二¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 日本医科大学解析人体病理, 2) 日本医科大学消化器内科, 3) 日本医科大学臓器病態制御外科): 大腸癌における Heregulin の発現と臨床病理学的意義. 日本消化管学会学術集会総会 (第7回) (京都), 2011. 2.
- 42) 日下部誠¹⁾, 伊藤友希¹⁾, 新福摩弓¹⁾, 名児耶浩幸, 進藤智隆¹⁾, 植木信江, 楠 正典¹⁾, 河越哲郎¹⁾, 二神生爾¹⁾, 三宅一昌¹⁾, 津久井拓, 坂本長逸¹⁾ (1) 消化器内科): *H.pylori* 非感染患者における, 内視鏡的胃炎所見と自覚症状について. 日本消化管学会学術集会総会 (第7回) (京都), 2011. 2.
- 43) 川見典之, 岩切勝彦¹⁾, 佐野弘仁¹⁾, 田中由理子¹⁾, 梅澤まり子¹⁾, 琴寄 誠¹⁾, 星原芳雄¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 消化器内科): Symptom index 陽性PPI抵抗性NERD患者における逆流症状出現に及ぼす空気逆流の影響. 日本消化管学会学術集会総会 (第7回) (京都), 2011. 2.
- 44) 河越哲郎¹⁾, 名児耶浩幸, 新福摩弓¹⁾, 進藤智隆¹⁾, 植木信江, 楠 正典¹⁾, 二神生爾¹⁾, 三宅一昌¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 消化器内科): 症状による胃がん早期発見法. 日本消化管学会学術集会総会 (第7回) (京都), 2011. 2.
- 45) 松久威史, 津久井拓: 生検組織からみた胃内逆流胆汁酸と萎縮, 腸上皮化生の関連性. 日本消化管学会学術集会総会 (第7回) (京都), 2011. 2.
- (4) 症例報告:
- 1) 新井洋紀¹⁾, 内田英二¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 横山 正¹⁾, 東 直行²⁾, 津久井拓, 吉田 寛¹⁾, 笹島耕二¹⁾ (1) 多摩永山病院 外科, 2) 多摩永山病院 皮膚科): 慢性多型痒疹で発見した進行食道扁平上皮癌の1例. 日本食道学会学術集会 (第64回) (福岡), 2010. 8.
- (5) Interactive Session:
- 1) 松久威史: *Helicobacter pylori* 除菌新時代: 除菌治療に関する2010年改訂ポイント. *Helicobacter* カンファレンス 2011, 2011. 2.

23. 千葉北総病院付置施設等

[千葉北総病院集中治療室]

研究概要

重症循環器疾患を主体に集中管理を要する内科疾患についての病態，診断，治療に係る研究を継続している。急性冠症候群（急性心筋梗塞と不安定狭心症）については，診断ならびに予後推定に係る検査マーカーの評価，予後改善に繋がる治療法の構築についての研究を継続している。2009年度からは京都大学ならびに企業との共同研究として心筋梗塞の早期診断に寄与すると思われる動脈硬化粥腫の破綻に関与する因子（sLOX-1）についての研究を継続し，国内外に向けてその有用性を発信している。また急性冠症候群の早期診断マーカーとしての高感度トロポニンTについての企業を含む多施設共同研究の中核施設として循環器内科とともに解析をすすめている。さらに，急性期カテーテル治療における抗血小板薬の治験に参加し，新薬の開発を始めた。急性大動脈瘤解離については，解離にともなう呼吸障害についての研究を始めている。重症うっ血性心不全については，全国レベルの病態把握プロジェクト（AT-TEND registry）に参加している。また2009年度に心不全患者の腎機能障害（とりわけ急性腎障害）が予後に及ぼす影響について検討を重ね欧米誌に掲載したが，その後心不全マーカーならびに腎障害マーカーの推移と治療との関係についての研究を実施しており，とりわけMMPsに関する研究の成果を国内外で発表している。さらに，うっ血性心不全急性期における非侵襲的陽圧換気についての研究を発表した。急性肺血栓塞栓症については，旅行者血栓症を含めた診断と治療について研究を続けている。心停止で入院した症例に対する低体温療法については，最新の体表冷却装置を用いた治療成績についての研究を継続している。その他，急性肺炎，敗血症，全身性炎症反応症候群，急性肺障害，急性腎不全などについて，薬物療法ならびに血液浄化療法を中心に研究を行っている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Shirakabe A¹， Asai K¹， Hata N¹， Yokoyama S¹， Shinada T¹， Kobayashi N¹， Mizuno K² (1) Intensive Care Unit, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School, (2) Department of Internal Medicine (Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine), Nippon Medical School) : Clinical Significance of Matrix Metaloproteinase (MMP) -2 in Patients With Acute Heart Failure. International Heart Journal 2010 ; 51 (6) : 404-410.
- 2) Shirakabe A¹， Hata N¹， Yokoyama S¹， Shinada T¹， Kobayashi N¹， Asai K²， Mizuno K² (1) Intensive Care Unit, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School, (2) Department of Internal Medicine (Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine), Nippon Medical School) : Efficacy and safety of nicorandil therapy inn patients with acute heart failure. J Cardiology 2010 ; 56 (3) : 339-347.
- 3) Shirakitamuraakabe A¹， Hata N¹， Yokoyama S¹， Shinada T¹， Kobayashi N¹， Tomita K¹， Nozaki A¹， Tokuyama H¹， Asai K²， Mizuno K² (1) Intensive Care Unit, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School, (2) Department of Internal Medicine (Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine), Nippon Medical School) : Predicting the success of noninvasive positive pressure ventilation in emergency room for patients wuth acute heart failure. J Cardiology 2011 ; 57 (1) : 107-114.

(2) 総説：

- 1) 畑 典武¹ (1) 日本医科大学千葉北総病院集中治療室) : 初期臨床研修医への集中治療教育は後記研修選択へ影響するか?. ICUとCCU 2010 ; 34 (12) : 1051-1056.

(3) 症例報告：

- 1) Kobayashi N¹⁾, Takano M, N, M, M²⁾, Hata N¹⁾, Yamamoto M¹⁾, Shinada T¹⁾, Takahashi Y, K, M, Mizun Y¹⁾, Timita K¹⁾, Kitamura M¹⁾, Mizuno K³⁾ (1) Intensive Care Unit, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School, 2) Cardiovascular Center, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School, 3) Department of Internal Medicine (Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine), Nippon Medical School) : Optical Coherence Tomography Findings in a Case of Acute Coronary Syndrome Caused by Coronary Vasospasm. *Int Heart J* 2010 ; 51 (4) : 291-292.
- 2) Kobayashi N¹⁾, Takano M²⁾, Hata N¹⁾, Yamamoto M¹⁾, Shinada T¹⁾, Takahashi Y¹⁾, Timita K, M, O, K¹⁾, Kitamura M¹⁾, Kurihara O¹⁾, Mizuno K³⁾ (1) Intensive Care Unit, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School, 2) Cardiovascular Center, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School, 3) Department of Internal Medicine (Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine), Nippon Medical School) : Reccurent very late thrombosis of drug-eluting stent : Optical coherence tomography findings. *J of Cardiology Case (JCCASE)* 2010 ; 2 (3) : e166-e169.

著 書

- 1) 品田卓郎¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院集中治療室) : [分担] 心原性ショック. 循環器内科学 (水野杏一, 安武正弘, 平山悦之), 2010 ; pp145-146, シュープリングァー・ジャパン.
- 2) 小林宣明¹⁾, 畑 典武¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院集中治療室) : [分担] 心不全急性期の非薬物治療に親しむ : IABP, PCPS. 心不全の急性期対応 (北風政史), 2010 ; pp150-157, 中山書店.
- 3) 畑 典武¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院集中治療室) : [分担] 心肺蘇生. 総合診療マニュアル (上原誓志夫他), 2010 ; pp383-385, 金芳堂.
- 4) 畑 典武¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院集中治療室) : [分担] 胸部単純 X 線写真. 循環器内科学 (水野杏一, 安武正弘, 平山悦之), 2010 ; pp91-97, シュープリングァー・ジャパン.

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 白壁章宏¹⁾, 畑 典武¹⁾, 横山真也¹⁾, 品田卓郎¹⁾, 小林宣明¹⁾, 富田和憲¹⁾, 北村光信¹⁾, 野崎文華¹⁾, 徳山榮男¹⁾, 水野杏一²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院集中治療室, 2) 内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)) : The role of clinical scenarios in the management of acute heart failure. 日本心不全学会学術集会 (第14回) (東京), 2010. 10.
- 2) 野崎文華¹⁾, 白壁章宏¹⁾, 畑 典武¹⁾, 横山真也¹⁾, 品田卓郎¹⁾, 小林宣明¹⁾, 富田和憲¹⁾, 北村光信¹⁾, 徳山榮男¹⁾, 水野杏一²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院集中治療室, 2) 内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)) : 当院での循環器疾患に対する経皮的な心肺補助 (PCPS) の検討. 日本集中治療医学会学術集会 (第38回) (横浜), 2011. 2.

(2) 一般講演：

- 1) Kobayashi N¹⁾ (1) Intensive Care Unit, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School) : Time-dependent Changes in Matrix Metalloproteinase-9 at the Earliest Stage of ST Elevation Acute Coronary Syndrome : Comparison with Other Biomarkers. 2010 AHA Scientific Session (Chicago), 2010. 11.
- 2) Kobayashi N¹⁾, Takano M²⁾, Hata N¹⁾, Shinada T¹⁾, Tomita K¹⁾, Kitamura M¹⁾, Shirakabe A¹⁾, Mizuno K³⁾ (1) Intensive Care Unit, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School, 2) Cardiovascular Center, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School, 3) Department of Internal Medicine (Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine), Nippon Medical School) : Optical Coherence Tomography

Findings in a Case of Acute Coronary Syndrome Caused by Coronary Vasospasm. The 19th Annual Meeting of the Cardiovascular Intervention and therapeutics : CVIT2010 (仙台), 2010. 8.

- 3) 志村徹郎¹⁾, 小林宣明¹⁾, 徳山榮男¹⁾, 野崎文華¹⁾, 白壁章宏¹⁾, 北村光信¹⁾, 富田和憲¹⁾, 品田卓郎¹⁾, 横山真也¹⁾, 雪吹周生²⁾, 清野精彦²⁾, 畑 典武¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院集中治療室, (2) 日本医科大学千葉北総病院循環器センター): 心肺停止後に低温温療法を施行し, 神経学的異常所見を残さず救命しえたカテコラミン誘発性多形性心室頻拍の1例. 日本集中治療学会関東甲信越地方会 (第19回) (東京), 2010. 8.
- 4) 志村徹郎¹⁾, 徳山榮男¹⁾, 野崎文華¹⁾, 白壁章宏¹⁾, 北村光信¹⁾, 富田和憲¹⁾, 小林宣明¹⁾, 品田卓郎¹⁾, 畑 典武¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院集中治療室): カテコラミン誘発性多形性心室頻拍の1例. 千葉県重症患者管理研究会 (第24回) (千葉), 2010. 9.
- 5) 小林宣明¹⁾, 久米典昭²⁾, 品田卓郎¹⁾, 富田和憲¹⁾, 北村光信¹⁾, 白壁章宏¹⁾, 野崎文華¹⁾, 徳山榮男¹⁾, 稲見 徹³⁾, 清野精彦³⁾, 水野杏一⁴⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院集中治療室, (2) 京都大学医学研究科循環器内科学, (3) 日本医科大学千葉北総病院循環器センター, (4) 内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)): 急性冠症候群と冠攣縮性狭心症の鑑別におけるsLOX-1の有用性. 日本心臓病学会学術集会 (第58回) (東京), 2010. 9.
- 6) 志村徹郎¹⁾, 小林宣明¹⁾, 徳山榮男¹⁾, 野崎文華¹⁾, 白壁章宏¹⁾, 北村光信¹⁾, 富田和憲¹⁾, 品田卓郎¹⁾, 横山真也¹⁾, 畑 典武¹⁾, 雪吹周生²⁾, 清野精彦²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院集中治療室, (2) 日本医科大学千葉北総病院循環器センター): カテコラミン誘発性多形性心室頻拍 (CPVT) の1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第218回) (東京), 2010. 12.
- 7) 根岸経太¹⁾, 村上大介¹⁾, 山本真功¹⁾, 稲見 徹¹⁾, 清野精彦¹⁾, 徳山榮男²⁾, 小林宣明²⁾, 畑 典武²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院循環器センター, (2) 日本医科大学千葉北総病院集中治療室): 標準的治療にも関わらず冠攣縮発作から心室細動に至った若年者難治性冠攣縮性狭心症における治療戦略の構築. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第218回) (東京), 2010. 12.
- 8) 白壁章宏¹⁾, 畑 典武¹⁾, 横山真也¹⁾, 品田卓郎¹⁾, 小林宣明¹⁾, 富田和憲¹⁾, 北村光信¹⁾, 野崎文華¹⁾, 徳山榮男¹⁾, 水野杏一²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院集中治療室, (2) 内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)): 急性心不全における非侵襲的陽圧換気成功のための指標. 日本集中治療医学会学術集会 (第38回) (横浜), 2011. 2.
- 9) 畑 典武¹⁾, 品田卓郎¹⁾, 横山真也¹⁾, 小林宣明¹⁾, 富田和憲¹⁾, 北村光信¹⁾, 白壁章宏¹⁾, 野崎文華¹⁾, 徳山榮男¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院集中治療室): 急性心不全の予後と急性腎障害との関係. 日本集中治療医学会学術集会 (第38回) (横浜), 2011. 2.
- 10) 畑 典武¹⁾, 品田卓郎¹⁾, 小林宣明¹⁾, 富田和憲¹⁾, 北村光信¹⁾, 白壁章宏¹⁾, 野崎文華¹⁾, 徳山榮男¹⁾, 松本 尚²⁾, 益子邦洋²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院集中治療室, (2) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター): ドクターヘリで搬送された循環器救急疾患の重症度についての検討. 日本集中治療医学会学術集会 (第38回) (横浜), 2011. 2.
- 11) 稲見 徹¹⁾, 栗原 理¹⁾, 白壁章宏²⁾, 小林宣明²⁾, 品田卓郎²⁾, 坪 宏一 宏³⁾, 横山真也²⁾, 雪吹周生¹⁾, 畑 典武²⁾, 清野精彦¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院循環器センター, (2) 日本医科大学千葉北総病院集中治療室, (3) 日本医科大学付属病院集中治療室): 急性期に於ける大動脈解離と睡眠時無呼吸症候群の関連性. 日本集中治療医学会学術集会 (第38回) (横浜), 2011. 2.

[千葉北総病院リハビリテーション科]

研究概要

ニューロリハビリテーションの新しい手法としてパワーアシスト機能的電気刺激を利用した様々な intervention を展開中である. さらに, ニューロリハビリテーションを推進する後ろ盾として, ニューロイメージングを積極的に取

り込んでいる。特に SPECT と光トポグラフィーを積極的に組み合わせて新しいニューロリハビリテーションの構築に取り組んでいるところである。また、パワーアシストリハビリテーションとボトックスによる痙縮軽減や補装具と組み合わせると多面的なアプローチが行えている。さらに、脳磁図による脳機能イメージングの研究をはじめ認知機能を光トポグラフィーにより検討し、脳血管障害の diaschisis の解明の検討を推進している。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 原 行弘, 本橋優子, 小林士郎¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター) : ARB 製剤による脳血管障害患者の認知機能改善効果. 脳卒中 2010 ; 32 (4) : 334-339.
- 2) 宗村麻紀子, 我妻明美, 原 行弘 : パワーアシスト機能的電気刺激併用の作業療法により肩挙上の改善がみられた腕神経叢麻痺の 1 症例. 総合リハ 2010 ; 38 (9) : 877-881.

(2) 総説：

- 1) 原 行弘, 小林士郎¹⁾, 三品雅洋¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター) : t-PA 治療時代における地域連携バスとリハビリテーション. Mebio 2010 ; 27 (7) : 128-135.
- 2) 原 行弘 : 在宅診療での消化管機能異常の対応のコツ. 診断と治療 2010 ; 98 (9) : 1483-1488.
- 3) 原 行弘 : ニューロリハビリテーションの進歩. 総合臨床 2010 ; 59 (10) : 2143-2144.
- 4) 原 行弘 : 深部静脈血栓症とリハアプローチ - 早期リハは予防効果があるのか? : 実践例に学ぶ DVT の管理とリハアプローチ - 脳梗塞例を中心に. 臨床リハ 2010 ; 19 (12) : 1134-1140.
- 1) Oh-Nishi A, Obayashi S, Sugihara I, Minamoto T, Suhara T : Maternal immune activation by polyriboinosinic-polyribocytidilic acid injection produces synaptic dysfunction but neuronal loss in the hippocampus of juvenile rat offspring. Brain Research 2010 ; 1363 : 170-179.
- 2) Fujita H, Oh-Nishi A, Obayashi S, Sushihara I : Organization of the marmoset cerebellum in three-dimensional space : lobulation, aldolase C compartmentation and axonal projection. J Comparative Neurology 2010 ; 518 (10) : 1764-1791.
- 3) 原 行弘 : 用語解説 “治療的電気刺激”. PT ジャーナル 2011 ; 45 (1) : 49-50.

著書

- 1) 原 行弘 : [分担] パワーアシスト機能的電気刺激を用いたニューロリハビリテーション. 最新リハビリテーション医学 (上月正博・他 (編)), 2010 ; pp158-162, 先端医療技術研究所.
- 2) 原 行弘 : [分担] 末梢神経障害. 総合診療マニュアル (上原譽志夫・他 (編)), 2010 ; pp674-678, 金芳堂.
- 3) 成相 直, 細田千尋, 大林 茂 : ビジュアル脳神経外科 1 前頭葉・前頂葉 ; 前頭葉・前頂葉の脳機能イメージング, 2010 ; pp80-91, メディカルビュー社.

学会発表

(1) 宿題講演：

- 1) Hara Y : Deep venous thrombosis in stroke patients during rehabilitation phase. 7th World Stroke Congress (Seoul), 2010. 10.

(2) シンポジウム：

- 1) 原 行弘 : 新しい機能的電気刺激療法を用いたニューロ・リハビリテーション. 第 47 回日本リハビリテーション医学会学術集会 (鹿児島), 2010. 6.

(3) 一般講演：

- 1) 原 行弘, 小川真司, 辻内和人, 村岡慶裕¹⁾ (1) 国立病院機構村山病院)：機能的電気刺激 (FES) 療法による脳循環動態への作用. 第 39 回日本臨床神経生理学会学術大会 (神戸), 2010. 11.
- 1) 大林 茂：背側運動前野損傷に見られる高次脳機能障害. 第 47 回日本リハビリテーション医学会学術集会 (鹿児島), 2010. 5.

[千葉北総病院病理部]

研究概要

病理形態学的診断の再評価ならびに病理形態学, 病因病態病理学との関連事項に関する研究を臨床各科との共同にて継続, 推進中である.

- 1：消化管腫瘍の臨床関連的病因病態病理 (Epstein Barr virus 関連性胃癌, GIST, 大腸癌).
 - 2：乳腺腫瘍, 特に乳癌の免疫組織化学的表現型 - ER, PgR, Her-2 と微小形態学的, 超微形態学的悪性度, 臨床的予後との相関について.
 - 3：泌尿器科領域腫瘍, 特に前立腺癌の微小形態と免疫組織化学.
 - 4：婦人科領域腫瘍, 特に子宮体癌, 卵巣癌の微小形態学的, 免疫組織化学的検討とホルモン療法の効果についての検索.
 - 5：肺腫瘍, 縦隔腫瘍の原発, 転移ならびに分化に関する迅速免疫組織化学を加味した検討.
 - 6：脳腫瘍の組織型, 悪性度に関する比較迅速細胞, 組織診断学的検討.
 - 7：病理検査技術におけるホルマリン, 有機溶剤の取り扱いについての基礎衛生学的研究, など. 本年度からは, 病理学教室 (統御機構, 腫瘍学).
- 付属病院病理部の全面的な協力の下, より専門的, より多角的に推進中である.

研究業績

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 清水秀樹：病理検査室作業環境改善：ホルムアルデヒド管理濃度 0.1ppm への挑戦：病理学会の取り組み, 関東甲信越地区医学検査学会 (第 47 回) (埼玉県), 2010. 11.

(2) 一般講演：

- 1) 三枝順子：乳癌の内因性サブタイプの組織学的, 免疫組織学的, 電顕的検討 (Triple negative 乳癌を中心に). 日本臨床分子形態学会・学術集会 (第 42 回) (静岡県), 2010. 9.
- 2) 笹谷昌司：破骨細胞様巨細胞を伴う乳癌の 1 例 多核巨細胞の局在と超微形態像との関連を中心に. 日本臨床分子形態学会・学術集会 (第 42 回) (静岡県), 2010. 9.

[千葉北総病院中央検査室]

研究概要

当検査室では平成 23 年度に予定される電子カルテの導入にあたり, 多くの情報収集とその対応に尽力した. また主に新入職員を対象として風疹・麻疹・水痘抗体価の検索にも, 特徴的な活動として取り組んだ. 各領域における主な概要として, 1) 微生物検査分野では血液培養の実際, ESBLs 産生菌の薬剤感受性や酵素基質を用いた MRSA スクリーニング培地の検討, β ラクタム系抗菌薬や肺炎における TAZ/PIPC の至適投与の検討, 陰圧室での光触媒除菌装置の応用, 清掃時の落下注射針の安全管理について, 2) 輸血検査分野では T & S のより一層の充実を図り, 緊

急時対応として輸血検査教育用トレーニングの強化, 3) 生理学検査分野では心臓組織浮腫症例の検索や循環器睡眠時無呼吸症候群 (SAS) パス検査の実施, 4) 情報関連分野では電子カルテの導入を想定したあらゆる情報の収集と稼働への取組み, 我が国における中央検査室の在り方, 医療におけるビジネスモデルについて, 5) 管理分野では病院機能評価 Ver6. 0 の受審報告, 病院財務管理の実際, 薬物治験に関する臨床検査室の役割 (実際と応用), 6) 教育分野では臨床検査技師の教育と習熟度プログラム, 私立医科大学病院における臨床検査技師の在り方, 臨床検査技師の理想と実際, 7) その他では診療支援分野にて成田国際空港クリニックでの検査内容見直しと分析機種検討, 更には継続課題である (社) 東京都医師会精度管理事業への運営協力をはじめ, 本年度も研修医に関する細菌検査, 輸血検査のトレーニング体制の調整等幅広い分野で活動が行われた. なお下記の業績は例年の通り当検査室職員が筆頭名であるもの, および中心的役割を基本として掲載した. 今後も引き続き常に教育と技術水準の向上を目指しつつ, 安静時の疼痛や足趾の壊死・潰瘍症状の重症下肢虚血の診断に皮膚灌流圧検査 (SPP) や深部静脈血栓に対するリスク評価と対策について血管検査ラボ (Vascular Lab: 仮称) の必要性を重点課題として取り組んで行く予定である.

研究業績

学会発表

(1) 教育講演:

- 1) 野本剛史: 臨床検査の理想と実際. 血液ガス分析学術講演会 (東京都), 2010. 6.

(2) パネルディスカッション:

- 1) 野本剛史: 技師教育と習熟度評価プログラム. 第 69 回私立医科大学病院中央検査部技師長会総会 (埼玉県), 2010. 7.

(3) 一般講演:

- 1) Machida Y¹⁾, Tanaka H²⁾, Komatsu K³⁾ (1) Department of Clinical Laboratory, Chiba-Hokusou Hospital, Nihon Medical School, 2) Department of Clinical Laboratory, Saiseikai Wakayama Hospital, 3) Department of Pathology, Kyorin University Hospital): An Investigation on Business Method in the Field of Medical Management: Focusing on Clinical Laboratory. 第 59 回日本医学検査学会 (兵庫県), 2010. 5.
- 2) Machida Y: An Influence diagram for Japanese Clinical Laboratory: Design of Business Model. 29th world congress of Biomedical Sciences at Nairobi Kenya. (Nairobi Kenya), 2010. 6.
- 3) 西村とき子, 野本剛史: 心臓腫瘍と思われた心臓組織浮腫の 1 例. 第 78 回日本医科大学医学学会総会 (東京都), 2010. 9.
- 4) 野本剛史, 岡本直人, 柳下照子, 町田幸雄, 石渡統夫, 亀山雅弥: 病院機能評価 Ver.6 受審の経緯とその成果について. 第 59 回日本医学検査学会 (兵庫県), 2010. 5.
- 5) 海老沢有介, 木村裕子, 岡本直人, 柳下照子, 野本剛史: 当院における血液培養検査についての実態. 第 59 回日本医学検査学会 (兵庫県), 2010. 5.
- 6) 岡本直人, 海老沢有介, 木村裕子, 柳下照子, 野本剛史, 清野精彦: CLSI 基準変更に伴う ESBLs 産生菌の薬剤感受性の変化について. 第 78 回日本医科大学医学学会総会 (東京都), 2010. 9.
- 7) 木村裕子有, 海老沢介, 岡本直人, 柳下照子, 町田幸雄, 野本剛史, 清野精彦: 酵素基質を用いた MRSA スクリーニング培地の検討. 第 78 回日本医科大学医学学会総会 (東京都), 2010. 9.
- 8) 亀山雅弥, 野本剛史: 薬物治験に関する基本と臨床検査室の実際 (第 1 報): 薬物治験審査委員会と治験推進の関り. 第 42 回日本臨床検査自動化学会 (兵庫県), 2010. 10.
- 9) 野本剛史, 亀山雅弥: 薬物治験に関する基本と臨床検査室の実際 (第 2 報): 薬物治験審査委員会と治験推進の効果. 第 42 回日本臨床検査自動化学会 (兵庫県), 2010. 10.
- 10) 町田幸雄: 病院財務管理の実際. 平成 22 年度検査研究部門研修会総合管理部門 (大阪付), 2010. 10.
- 11) 實川東洋¹⁾, 福田恵子¹⁾, 若松孝嘉²⁾, 柳下照子³⁾, 日野光紀⁴⁾, 青山隆彦⁵⁾, 松本宣明⁵⁾ (1) 薬剤部, 2) BML (株),

- 3) 中央検査室, 4) 内科学講座 (呼吸器), 5) 日本大学薬学部臨床薬物動態学): 抗緑膿菌活性を持つ β -ラクタム系抗菌薬の PK-PD 理論に基づく至適投与設計と臨床効果の関係解析. 第 31 回日本臨床薬理学会年会 (京都府), 2010. 12.
- 12) 野本剛史: 私立医科大学病院臨床検査技師のあり方. 第 30 回私立医科大学病院臨床検査技師教育セミナー (東京都), 2011. 2.
- 13) 日野光紀¹⁾, 實川東洋²⁾, 渡辺郷美³⁾, 川上洋子³⁾, 岡本直人⁴⁾, 柳下照子⁴⁾ (1) 内科学講座 (呼吸器), 2) 薬剤部, 3) 看護部, 4) 中央検査室): 総合病院清掃における落下注射針の管理について. 第 26 回日本環境感染学会総会 (神奈川県), 2011. 2.
- 14) 日野光紀¹⁾, 實川東洋²⁾, 渡辺郷美³⁾, 川上洋子³⁾, 岡本直人⁴⁾, 柳下照子⁴⁾, 石川 栄⁵⁾ (1) 内科学講座 (呼吸器), 2) 薬剤部, 3) 看護部, 4) 中央検査室, 5) 竹村製作所 (株)): 陰圧室に対する光触媒除菌装置の応用. 第 26 回日本環境感染学会総会 (神奈川県), 2011. 2.
- 15) 日野光紀¹⁾, 實川東洋²⁾, 渡辺郷美³⁾, 川上洋子³⁾, 岡本直人⁴⁾, 柳下照子⁴⁾ (1) 内科学講座 (呼吸器), 2) 薬剤部, 3) 看護部, 4) 中央検査室): 院内肺炎に対するタゾバクタム／ピペラシリンナトリウム TAZ / PIPC 投与治療の現況: 至適投与量に関する考察. 第 26 回日本感染環境学会総会 (神奈川県), 2011. 2.

[千葉北総病院薬剤部]

研究概要

薬学教育 6 年制における長期実務実習が開始となった年であったが, 臨床の現場であるからこそ体験できることを中心に実習指導を行った. 医療の安全が重要課題である中, 社会的にも問題になった病院内感染にも関連するが, 抗生剤の適正かつ効率的の使用を目指し, まとめ発表する機会を多く得た年であった. 更にそれらを業務に反映すべく体制の整備につないでいきたい.

研究業績

論文

(1) 総説:

- 1) 浜田康次: ワクチン後進国日本. レシピ 2010 ; 9 (2) : 78-80.
- 2) 浜田康次: 新薬ファーマカード, カデュエット配合錠. 薬事 2010 ; 52 (4) : 付録.
- 3) 浜田康次: 新薬ファーマカード, レメロン錠. 薬事 2010 ; 52 (5) : 付録.
- 4) 浜田康次: 新薬ファーマカード, ラジレス錠. 薬事 2010 ; 52 (6) : 付録.
- 5) 浜田康次: オレンジバルーン・プロジェクト. 日本病院薬剤師会雑誌 2010 ; 46 (6) : 779-779.
- 6) 浜田康次: 新薬ファーマカード, アボルブ錠. 薬事 2010 ; 52 (7) : 付録.
- 7) 浜田康次: 新薬ファーマカード, ジャヌビア錠. 薬事 2010 ; 52 (8) : 付録.
- 8) 浜田康次: CDTM (共同薬物治療管理業務). 日本病院薬剤師会雑誌 2010 ; 46 (8) : 1159-1159.
- 9) 浜田康次: 制吐療法の歴史. レシピ 2010 ; 9 (3) : 82-83.
- 10) 浜田康次: 新薬ファーマカード, イメンドカプセル. 薬事 2010 ; 52 (9) : 付録.
- 11) 浜田康次: 睡眠導入剤. レシピ 2010 ; 9 (4) : 62-63.
- 12) 浜田康次: 新薬ファーマカード, アサコール錠. 薬事 2010 ; 52 (11) : 付録.
- 13) 浜田康次: 新薬ファーマカード, シムビコートタービュヘイラー. 薬事 2010 ; 52 (12) : 付録.
- 14) 浜田康次: 新薬ファーマカード, ロゼレム錠. 薬事 2010 ; 52 (14) : 付録.
- 15) 浜田康次: 帯状疱疹治療薬. レシピ 2011 ; 10 (1) : 76-77.
- 16) 浜田康次: 指定第 2 類医薬品. 日本病院薬剤師会雑誌 2011 ; 47 (3) : 303-303.

著 書

- 1) 浜田康次：〔分担〕わかりやすい薬剤情報提供のための一写真付／服薬指導 CD-ROM, 2010年9月版第26版(朝長文?)，2010；じほう。
- 2) 浜田康次：〔分担〕2011年看護師国家試験，必修オール予想，13，薬物療法に伴う反応，A 主な薬物の作用と副作用，B 医薬品の安全対策. ナーシングカレッジ 2010年10月臨時増刊号，2010；pp114-122，医学芸術社。
- 3) 浜田康次：〔自著〕第1章総説 第2章抗菌薬サークル図付録. 抗菌薬サークル図データブック(第2版)(戸塚恭一)，2010；pp1-168，じほう。
- 4) 渡邊暁洋⁽¹⁾ 千葉北総病院薬剤部)：〔分担〕2，災害に備えるために必要な病院の設備，装備，備蓄，備品：災害支援本部設置を含めた支援体制の概要；3，災害医療の後方支援：派遣チーム要員の事前選定など，薬剤師の位置づけ・範囲. 薬剤師のための救命救急時のスキル&薬ハンドブック(佐藤 博)，2010；pp316-325，医薬ジャーナル社。

学会発表

(1) 教育講演：

- 1) 渡邊暁洋⁽¹⁾ 千葉北総病院薬剤部)：国際緊急援助隊医療チームにおける薬剤師の役割. 日本病院薬剤師会中国四国支部学術大会(第49回)(米子市)，2010. 11.

(2) 一般講演：

- 1) Watanabe A¹⁾，Fukuda K¹⁾，Nishizawa K²⁾，Kondo H³⁾ (¹⁾ Chiba Hokusyo Hospital, ²⁾ Toho University Omori Medical Center, ³⁾ National Hospital Organization Disaster Medical Center)：Current Status of Disaster Medical Care Education in College of Pharmacy in Japan. アジア・太平洋災害医学会(第10回)(札幌)，2010. 8.
- 2) 渡邊暁洋^{1, 3)}，福田恵子¹⁾，西澤健司^{2, 3)}，石井茂樹⁴⁾，篠原淳二⁴⁾，石井義洋⁴⁾，大塚さち子⁴⁾，古山陽一⁴⁾，久保田洋子^{4, 5)} (¹⁾ 千葉北総病院薬剤部, ²⁾ 東邦大学大森医療センター, ³⁾ 日本災害医療薬剤師学会, ⁴⁾ 千葉市薬剤師会, ⁵⁾ 帝京平成大学)：救急医療・災害医療における薬剤師・薬学生教育への関わり. 日本薬剤師会学術大会(第43回)(長野)，2010. 10.
- 3) 實川東洋¹⁾，福田恵子，若松孝嘉²⁾，日野光紀³⁾，青山隆彦⁴⁾，松本宜明⁴⁾ (¹⁾ 千葉北総病院薬剤部, ²⁾ 中央検査室, ³⁾ 感染対策委員会, ⁴⁾ 日本大学薬学部)：抗 MRSA 薬の処方設計と血中濃度測定のパッケージ化に伴う効果と影響について. 日本 TDM 学会(第27回)(札幌)，2010. 6.
- 4) 岡崎加奈子¹⁾，伊藤義樹²⁾，中山 健²⁾，下川陽子²⁾，中田千博²⁾，花澤迪子²⁾ (¹⁾ 一条会病院, ²⁾ 千葉北総病院)：医薬品の客観的評価の試み XV. 日本病院薬剤師会関東ブロック(第40回)(東京)，2010. 8.
- 5) 下川陽子^{1, 2)}，平野知子²⁾，濱野由宜子³⁾，中田千博¹⁾，木本陶子^{1, 2)}，吉澤一巳^{1, 2)}，益田律子²⁾，三浦剛史²⁾，福田恵子¹⁾ (¹⁾ 千葉北総病院薬剤部, ²⁾ 緩和ケアチーム, ³⁾ 日本大学薬学研究科)：医療用麻薬の自己管理運用マニュアルの検証. 日本緩和医療薬学会(第4回)(鹿児島)，2010. 9.
- 6) 實川東洋¹⁾，福田恵子¹⁾，柳下照子³⁾，若松孝嘉³⁾，日野光紀⁴⁾，青山隆彦²⁾，松本宜明²⁾ (¹⁾ 千葉北総病院薬剤部, ²⁾ 日本大学薬学部, ³⁾ 中央検査室, ⁴⁾ 感染対策委員会)：抗緑膿菌活性を持つ β -ラクタム系抗菌薬の PK-PD 理論に基づく血中濃度シミュレーション処方設計支援の検討. 日本医療薬学会(第20回)(千葉)，2010. 11.
- 7) 實川東洋¹⁾，福田恵子¹⁾，柳下照子²⁾，若松孝嘉²⁾，日野光紀³⁾，青山隆彦⁴⁾，松本宜明⁴⁾ (¹⁾ 千葉北総病院薬剤部, ²⁾ 中央検査室, ³⁾ 感染対策委員会, ⁴⁾ 日本大学薬学部)：抗緑膿菌活性を持つ β -ラクタム系抗菌薬の PK-PD 理論に基づく至適投与設計と臨床効果の関係解析. 日本臨床薬理学会(第31回)(京都)，2010. 12.
- 8) 西谷 慶¹⁾，磯日朋恵¹⁾，川尻美和¹⁾，高田勝利¹⁾，大野雅美²⁾ (¹⁾ 成田赤十字病院, ²⁾ 千葉北総病院)：重症腹部外傷患者における経腸栄養の試み. 日本静脈経腸栄養学会(第26回)(名古屋)，2011. 2.
- 9) 星 憲司¹⁾，青木空真，川上準子，佐藤憲一，浜田康次²⁾ (¹⁾ 東北薬科大学, ²⁾ 千葉北総病院)：在宅での服薬

状況を記録する，服薬情報管理ネットワークシステムの開発．日本薬学会（第131年会）（静岡），2011. 3.

[千葉北総病院放射線センター]

研究概要

当部門では診療用画像検査全般を取り扱うことから，それぞれの画像検査についての研究を進めている．一般撮影部門ではCRの画像処理パラメータの条件に関する研究から医療被曝の軽減および画質の向上について各診療科との連携において行っている．MRI検査部門ではRaysumを用いた椎骨脳底動脈における血流および血管外観の3D Fusion Imaging，また転移性脳腫瘍における有用性などの研究を進めている．血管造影においてはDynamic 3D Roadmapにおける精度評価や脳血管内治療における画像評価などを行っている．RI検査部門ではSPECTにおける心筋に関する検討や循環器系の研究は継続的に進めていて，脳神経系についても行っている．放射線治療部門では放射線治療計画におけるウェッジ使用時の線量分布と放射線治療計画装置による治療計画の精度について検討を行っている．CT検査部門では3次元CTの信頼性の向上についての検討を継続して進めている．

研究業績

学会発表

(1) セミナー：

- 1) 阿部雅志：肩関節疾患画像診断に対するMRIによるアプローチ．日本放射線技術学会（第71回東京部会）（東京），2010. 6.
- 2) 阿部雅志：脳血管内治療の画像補助．FSフォーラム（第50回）（東京），2010. 11.
- 3) 阿部雅志：脳血管内治療の画像補助：放射線技師の立場から．千葉北総神経放射線研究会（第70回）（千葉），2011. 2.

(2) 一般講演：

- 1) 宮坂純基，池亀 敏，阿部雅志，加藤丈司，河原崎昇：MRI用画像補正補助固定具 SSP の使用経験．葛飾フレッシュマンズセミナー（東京），2010. 5.
- 2) 加藤丈司，阿部雅志，池亀 敏，中條秀信¹⁾，木島鉄仁¹⁾，川俣博志¹⁾，岡田 進¹⁾，河原崎昇¹⁾ 千葉北総病院放射線科）：椎骨脳底動脈におけるDynamic Contrast 3D Fusion MRA．日本放射線技術学会 総会学術大会（第66回）（横浜），2010. 4.
- 3) 加藤丈司，阿部雅志，永井淳司，池亀 敏，中島健志，河原崎昇，岡田 進¹⁾，小南修史²⁾，小林士郎²⁾（¹⁾ 千葉北総病院放射線センター，²⁾ 千葉北総病院放射線科，³⁾ 千葉北総病院脳神経外科）：椎骨脳底動脈における血流および血管外観描出の検討．日本脳ドック学会総会（第19回）（山形），2010. 6.
- 4) 池亀 敏，阿部雅志，加藤丈司，河原崎昇：MRI用画像補正補助固定具 SSP の有用性．千葉MRIセミナー（千葉），2010. 9.
- 5) 加藤丈司，阿部雅志，永井淳司，池亀 敏，河原崎昇，岡田 進¹⁾（¹⁾ 千葉北総病院放射線科）：椎骨脳底動脈におけるFlow Analysis Cine MR Angiography．日本放射線技術学会 秋期学術大会（第38回）（宮城），2010. 10.
- 6) 池亀 敏，阿部雅志，加藤丈司，河原崎昇：Dynamic 3D Roadmapにおける精度評価．日本放射線技術学会 秋期学術大会（第38回）（宮城），2010. 10.
- 7) 阿部雅志¹⁾，池亀 敏¹⁾，加藤丈司¹⁾，岡田 進²⁾，小南修司³⁾，小林士郎³⁾（¹⁾ 千葉北総病院放射線センター，²⁾ 千葉北総病院放射線科，³⁾ 千葉北総病院脳神経外科）：血栓化脳動脈瘤に対するfusionの有用性．日本放射線技術学会（第38回秋季学術大会）（仙台），2010. 10.
- 8) 加藤丈司，阿部雅志，永井淳史，池亀 敏，河原崎昇，岡田 進¹⁾，小南修史²⁾，小林士郎²⁾（¹⁾ 千葉北総病院

放射線科,²⁾ 千葉北総病院脳神経外科): 椎骨脳底動脈における Fusion MRA. 脳神経血管内治療学会 (第 26 回) (北九州), 2010. 11.

- 9) 阿部雅志¹⁾, 池亀 敏¹⁾, 原田耕次¹⁾, 渡辺英樹¹⁾, 岡田 進²⁾, 小南修司³⁾, 小林士郎³⁾ (1) 千葉北総病院放射線センター, 2) 千葉北総病院放射線科, 3) 千葉北総病院脳神経外科): Dynamic 3D Roadmap における精度評価. 日本脳神経血管内治療学会 (第 26 回学術総会) (福岡), 2010. 11.

[千葉北総病院歯科]

研究概要

当科では, 歯科治療における炭酸ガスレーザーを用いた歯周軟組織や硬組織の有用性についての基礎的研究および臨床的効果についての研究. 全身疾患と歯科治療の関係において, II 型糖尿病と歯周病との関係についての研究. 交通外傷におけるインプラント治療への長期応用における臨床的効果についての研究. 有病者における口腔衛生管理に対する臨床的効果について研究などを行っている.

研究業績

著書

- 1) 佐藤 聡¹⁾, 鴨井久博²⁾, 千葉朋義¹⁾, 安川俊之³⁾, 田巻友一¹⁾ (1) 日本歯科大学新潟生命歯学部歯周病学講座, 2) 日本医科大学千葉北総病院歯科, 3) 日本歯科大学新潟総合病院歯科): [分担] Nd:YAG レーザーの歯周治療への応用. そこが知りたい!! 歯科用レーザー&ピエゾ「臨床にあった機種」選び方&活用法ガイド, 2010: pp70-74, クインテッセンス出版.

[千葉北総病院看護部]

研究概要

本年度の院内での研究発表は, 7 演題であった. 発表内容は臨床における患者への看護を探究したものであり, 看護実践の場でもより安全・安楽を目指す研究内容であった. また, 脳神経センターでの看護研究は毎年定期的に実践されており, 学会発表も積極的になされている. 5) ~7) は, 四病院看護継続教育において一年間受講し, その成果として四病院と院内で看護研究発表を行った. これらは, 来年度の学会発表や論文提出などへの準備を勧めている.

<テーマ>

- 1) 当院の CAG・PCI クリニカルパス患者の実態
- 2) 4 階西病棟における実際の転倒要因と勤務している看護師が考える転倒要因の比較
- 3) 入院化学療法を受ける患者の退院後のセルフケア行動の実態調査
- 4) 栄養剤注入直後に経鼻胃管を開放する事で胃食道逆流を予防できるか?
- 5) ストーマ告知を受けた患者が手術を受けるために心の準備として必要な看護介入の検討
—ストーマ造設を外来で説明された患者と入院中に説明された患者との比較—
- 6) 重症救急患者家族の ICU における初回面会時の看護のあり方
—CNS-FACE を用いた搬送時同乗家族と非同乗家族との心理比較—
- 7) グループ指導制における 4 月~6 月の 3 ヶ月間の指導の実態
—新人看護師を指導する実施指導者の負担感—

院外研究は, 19 演題が行われた. 認定看護師が他の看護師を支援しながら, 専門分野内における看護研究発表を継続的に行っており, 各学会に共同研究者として積極的な参加をしていた.

研究業績

著書

- 1) 渡辺光子：〔分担〕褥瘡ケア 創の見方と適切なドレッシング材 Part1 徹底理解！創のアセスメント. ナース専科（田中秀子），2010；pp20-32, エス・エム・エス.
- 2) 大森章代：〔分担〕エアレスキュー 具体的事例に学ぶフライトナース. 実践 救急ナーシング（丸川征四郎），2010；pp250-254, 永井書店.
- 3) 渡辺光子：〔分担〕＜瘻孔ケア＞病的瘻孔の管理とケア. 重症集中ケア（日総研），2011；pp90-97, 日総研.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 岩橋美奈子：糖尿病地域医療連携の必要性和有用性：当院の取り組みから. 東総糖尿病勉強会（第6回），2010. 11.

(2) 一般講演：

- 1) 鈴木千賀子，岩橋美奈子，亀谷修平¹⁾，岡崎智子，林あづさ，荒井友里江，小川和泉²⁾，花澤迪子³⁾，江本直也⁴⁾
(¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 眼科，²⁾ 日本医科大学千葉北総病院 栄養科，³⁾ 日本医科大学千葉北総病院 薬剤部，⁴⁾ 日本医科大学千葉北総病院 内分泌内科)：地域における限られた医療資源を有効利用するための病診連携を前提とした基幹病院の糖尿病外来システムの構築. 日本糖尿病学会年次学術集会（第53回），2010. 5.
- 2) 岩橋美奈子，鈴木千賀子，亀谷修平¹⁾，金井良幸²⁾，福田恵子³⁾，鈴木光子⁴⁾，金城邦彦⁵⁾，眞鍋知史⁶⁾，江本直也⁷⁾
(¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 眼科，²⁾ 日本医科大学千葉北総病院 栄養科，³⁾ 日本医科大学千葉北総病院 薬剤部，⁴⁾ すずき小倉台医院，⁵⁾ もとの金城クリニック，⁶⁾ 印旛郡市薬剤師会，⁷⁾ 日本医科大学千葉北総病院 内分泌内科)：6年間の追跡調査による基幹病院から診療所への一方向連携の有用性エビデンス. 日本糖尿病学会年次学術集会（第53回），2010. 5.
- 3) 吉田祐美子，山崎恵美，渡辺光子，植草 恵，丸山美穂子：褥瘡外来患者の傾向・現状と今後の課題. 日本褥瘡学会関東甲信越地方会（第7回），2010. 5.
- 4) 石橋聖仁，星島洋子：フライトナースが抱える小児救急搬送時の不安. 救急フォーラム（第6回），2010. 5.
- 5) 布澤千春，飯島美穂，石田かすみ，岡本美和，小田嶋夕貴，堀井和正，佐々木優子，水成隆之¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 脳神経外科)：栄養剤注入直後に経鼻胃管を開放することで胃食道逆流を予防できるか？. 日本意識障害学会（第19回），2010. 7.
- 6) 横山千鶴，渡辺光子，倉本雅男：便失禁管理システムによる肛門粘膜損傷発症の現状と要因分析. 日本褥瘡学会（第12回），2010. 8.
- 7) 増渕美恵子：助産提供システムと取引コスト分析. 日本経営学会（第84回），2010. 9.
- 8) 篠田朋美：摂食・嚥下障害をもつ患者が摂食・嚥下訓練開始から経口摂取が可能になるまでの家族の思いの変化. 日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会（第16回），2010. 9.
- 9) 篠田朋美：脳神経センターにおける摂食機能療法の取り組みと認定看護師の役割. 日本脳神経外科学会学術総会（第69回），2010. 10.
- 10) 浮須由比：くも膜下出血手術後の脳血管れん縮期を経過した患者家族のニーズと心理状態：CNS-FASE と面接からの分析. 日本看護学会学術集会（第41回），2010. 10.
- 11) 太田充美：ガーゼ・タオルの体内異物事故防止の取り組みについて. 日本手術医学会総会（第32回），2010. 10.
- 12) 有泉楽子：当センターにおいて脳卒中リハビリテーション認定看護師が果たす役割について. 日本脳神経外科学会学術総会（第69回），2010. 10.

- 13) 桐明孝光：男性看護師のキャリア意識の分析：大学病院に勤務するスペシャリストおよび看護管理者へのインタビューを通して．日本看護学会（第41回），2010．10．
- 14) 増渕美恵子：千葉北総病院におけるパス委員会の組織創りと活動．日本医科大学合同クリニカルパスシンポジウム，2010．11．
- 15) 千島幸子，稲富万里子：妊娠期「おっばいママ」クラス受講後の授乳行動に対する有効性の検討．日本母性衛生学会総会・学術集会（第51回），2010．11．
- 16) 久保田彩，鈴木佐知子，手塚早紀，田上千春：被服装着型離床センサー「うーご君」を有効に活用するための紐の長さセンサーの位置関係の検証．千葉県看護研究会（第29回），2011．2．
- 17) 白石恵美：救急外来看護師が困難と感じるメンタルヘルス科患者への対応．日本救急医学会関東地方会（第61回），2011．2．
- 18) 関 隆，本庄貴志，渡邊暁洋¹⁾，後藤誠子，木村友一²⁾（¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 薬剤部，²⁾ 日本医科大学千葉北総病院 救命救急センター）：DMAT，海上保安庁との合同海上災害対応訓練の考察．日本集団災害医学会学術集会（第16回），2011．2．

〔4〕付置研究施設

1. 老人病研究所

[病理部門]

研究概要

病理部門の研究には、1) ケロイド発生機序の研究 2) 血管形成メカニズムの解析 3) 社会連携研究—認知症まぢぐるみ支援ネットワーク事業がある。

1) ケロイド発生機序の研究これまでケロイド発生に関与する遺伝子解析で発現上昇を認めた遺伝子の中に、IL-6 および c-Abl 遺伝子を見だし、IL-6 シグナルとケロイド発生の関係を明らかにした。ケロイドでは TGF-beta や PDGF が過剰発現し、TGF-beta と PDGF シグナル伝達を同時に抑制する小分子標的治療薬 STI571 のケロイド線維芽細胞への投与によりプロコラーゲン産生能とタイプ I コラーゲン mRNA の発現の低下を目的にケロイド新薬としての可能性の解析を進めている。さらに、ケロイド線維化調節に関わる COLIA2 プロモーター領域の一塩基多型の解析とケロイド発生に関与する microRNA 遺伝子の検索も行っている。

2) 血管形成メカニズムの解析 血管には大動脈から毛細血管まで様々な大きさのものが存在する。我々はこの構造の違いがどのように生じるのか、血管の大きさを規定する機構についての研究を行っている。これまでに、ダウン症原因遺伝子 RCAN1 が血管の分岐を抑制し、血管の大きさを小さくすることをアフリカツメガエルの過剰発現実験で明らかにしている。現在は他の候補遺伝子の血管形態への作用機序を検討しており、将来は様々な大きさの血管を薬剤によって誘導できる新規治療法の開発を目指している。血管の大きさは対象となる疾患によって大きく異なることから、汎用性の高い治療法として期待される。

3) 社会連携研究—認知症まぢぐるみ支援ネットワーク事業 社会連携研究認知症相談センターを起点に認知症になっても安心して暮らせるように、一般市民、医療機関、介護機関、行政、企業などとネットワークを作る社会連携事業を行い、都市型コホート研究を行っている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Jin E, Liu J¹⁾, Suehiro J¹⁾, Okada Y¹⁾, Nikolova-Kretevski V¹⁾, Regan E¹⁾, Shin E¹⁾, Oettgen P¹⁾, Aird W¹⁾ (1) The center for Vascular Biology research and Division of Molecular and Vascular Medicine, Beth Israel Deaconess Medical Center, Boston, MA, USA) : Differential roles for ETS, CREB, and EGR binding sites in mediating VEGF receptor 1 expression in vivo. *Blood* 2009 ; 114 (27) : 5557-5566.
- 2) Sato S¹⁾, Sasaki Y¹⁾, Adachi A¹⁾, Ghazizadeh M (1) Central Institute for Electron Microscopic Researches, Nippon medical School, Tokyo, Japan) : Validation of glomerular basement membrane thickness changes with aging in minimal change disease. *Pathobiology* 2010 ; 77 (6) : 315-319.
- 3) Fujiwara M, Hasebe T¹⁾, Kajita M²⁾, Ishizuya-Oka A¹⁾, Ghazizadeh M, Kawanami O (1) Department of Biology, Nippon Medical School, Kawasaki, Japan, 2) Department of Molecular Biology, Institute of Development and Aging Sciences, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, Kawasaki, Japan.) : RCAN1 regulates vascular branching during *Xenopus laevis* angiogenesis. *J Vasc Res* 2011 ; 48 (2) : 104-118.

(2) 総説：

- 1) Ghazizadeh R¹⁾, Shimizu H, Tosa M^{2,3)}, Ghazizadeh M (1) Academic Dermatology and Skin Cancer Institute, East Washington Street, Chicago, Illinois, USA, 2) Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Musashi-Kosugi Hospital, Nippon Medical School, 3) Department of Molecular Pathology, Institute of

Gerontology, Nippon Medical School) : Pathogenic Mechanisms Shared between Psoriasis and Cardiovascular Disease. *Int J Med Sci* 2010 ; 7 (5) : 284-289.

(3) グラビア :

- 1) 金丸勝弘^{1, 2)}, 清水 一, Mohammad G, 松本 尚¹⁾, 益子邦洋¹⁾ (1) 千葉北総病院救命救急センター, 2) 老人病研究所病理部門) : 新トリアージタグの有用性. *日医大医会誌* 2011 ; 7 (1) : 2-3.

著 書

- 1) Ghazizadeh M, Ghazizadeh R¹⁾ (1) Academic Dermatology and skin Cancer Institute, East Washington Street, Chicago, Illinois, USA) : [分担] Application of a novel technique for observing internal ultrastructure of human chromosomes with known karyotype. *Microscopy : Science, Technology, Applications and Education*, 2010 : pp3-10, Formatex, Spain.

学会発表

(1) 一般講演 :

- 1) Igota S^{1, 2)}, Tosa M^{3, 2)}, Ghazizadeh M, Murakami M³⁾, Hyakusoku H⁴⁾ (1) Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Higashi totuka Memorial Hospital, 2) Department of Molecular Pathology, Institute of Gerontology, Nippon Medical School., 3) Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Nippon Medical School Musashi-kosugi Hospital., 4) Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Nippon Medical School.) : The Role of Wnt Signal Pathway in Keloid Pathogenesis. *International Scar Meeting (Tokyo)*, 2010. 11.
- 2) 若松直樹^{1, 2)}, 北村 伸^{1, 4)}, 石井知香¹⁾, 根本留美¹⁾, 野村俊明^{1, 3)}, 川並汪一¹⁾ (1) 日本医科大学老人病研究所病理部門 街ぐるみ認知症相談センター, 2) 桜美林大学加齢・発達研究所, 3) 日本医科大学基礎科学 心理学, 4) 日本医科大学武蔵小杉病院 内科) : 認知症相談において認知機能低下を鑑別する評価指標 : 地域在住健常高齢者を対象としたサンプル調査からの検討. *日本老年精神医学会 (第25回) (熊本)*, 2010. 6.
- 3) Ghazizadeh M, Shimizu H, Egawa S, Tosa M^{1, 2)} (1) 武蔵小杉病院形成外科, 2) 老人病研究所病理部門) : Inhibition of keloid fibroblast cell growth by a Src family-specific tyrosine kinase inhibitor. *日本皮膚外科学会総会 (第25回) (別府市)*, 2010. 9.
- 4) Ghazizadeh M, Shimizu H, Chiba H¹⁾ (1) Department of Basic Pathology, Fukushima Medical University.) : Inhibition of non-small cell lung cancer cells by a Src family-specific tyrosine kinase inhibitor. *日本癌学会 (第69回) (大阪)*, 2010. 9.
- 5) 北村 伸 : 川崎市中原区における認知症ネットワークの試み. *日本認知症予防研究会 (第1回) (鎌倉)*, 2010. 6.
- 6) 土佐真美子^{1, 2)}, モハマッドガジザデ, 枝川聖子, 百束比古³⁾, 村上正洋¹⁾ (1) 武蔵小杉病院形成外科, 2) 老人病研究所分子病理部門, 3) 付属病院形成外科) : ケロイドにおける Th17 細胞の IL-6 シグナル促進効果の検討. *日本形成外科学会基礎学術集会 (第19回) (横浜)*, 2010. 9.
- 7) 石井知香¹⁾, 松本聡子²⁾, 根本留美¹⁾, 若松直樹¹⁾, 北村 伸^{1, 3)}, 野村俊明^{1, 4)}, 宗像一雄³⁾, 川並汪一^{1, 5)} (1) 日本医科大学老人病研究所病理部門 街ぐるみ認知症相談センター, 2) NTT 東日本関東病院 精神神経科, 3) 日本医科大学 武蔵小杉病院, 4) 日本医科大学 基礎科学心理学, 5) 北海メディカルネットワーク) : 「街ぐるみ認知症相談センター」の活動が認知症ケアの理解促進に与える影響 : 医療・福祉・住民 (民生委員) への悉皆調査による検討 < 初回調査評価 >. *日本認知症ケア学会 (11回) (神戸)*, 2010. 10.
- 8) 清水 一, モハマッドガジザデ, 枝川聖子, 千葉英樹¹⁾ (1) 福島県立医科大学 医学部 基礎病理学講座) : チロシンキナーゼインヒビター PD173955 による非小細胞肺癌細胞株の増殖抑制効果の検討. *日本肺癌学会総会 (第51回) (広島)*, 2010. 11.

[生化学部門]

研究概要

老人病研究所生化学部門（大学院医学研究科加齢科学系専攻細胞生物学分野）では老化や病気の原因を細胞の中から探っている。細胞内小器官のミトコンドリアはエネルギー産生だけでなく多くの病気や老化現象に関わっており、その機能を重視しながら様々な疾患への関与を探り、その予防・治療に寄与しようとする点が特色である。「科学は実用されて光り輝く」を基本とし、研究が社会に寄与するための基盤となる基礎研究を進めている。ミトコンドリアから発せられる電子と酸素が結びつくことで生まれる活性酸素が、ほとんどの生活習慣病や老化の原因となることは今や広く知られている。水素分子が効果的な抗酸化作用を示すことを明らかにし、2007年にNature Medicineに論文を発表した。その後、他の研究室からの報告が相次ぎ、原著論文は75報以上の報告にいたっている。この結果、新しい研究分野として開拓され、国際誌Medical Gas Researchを出版することになり、教授は副編集長を務めることになった。さらに、酸化ストレス状態を的確にモニターできる遺伝子改変マウスを作製している。学会活動では、教授は、日本ミトコンドリア学会の理事長を勤め、前述のMedical Gas Researchの副編集長に加えて、ミトコンドリア学会機関誌である国際誌「Mitochondrion」の副編集長も務めている。また、ミトコンドリア病患者家族の会の顧問としても活動している。さらに2009年に発足した日本Cell Death学会の初代理事長に選出されている。一般の方を対象とした書籍「体が若くなる技術 -- ミトコンドリアを増やして健康になる」(サンマーク出版)を10月に出版した。また、TBSテレビの「カラダのキモチ」(5月)とNHK総合テレビの「ニッポンの教養」(2011年1月)に出演した。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Wolf MA, Asoh S, Hiranuma H¹⁾, Ohsawa I²⁾, Iio K³⁾, Satou A³⁾, Ishikura M³⁾, Ohta S (1) Mitos Co. Ltd., 2) Tokyo Metropolitan Insti. Gerontol, Environmental Aging Res., 3) Life Sci. Inst., Yamaha-motor Co. Ltd.) : Astaxanthin protects mitochondrial redox state and functional integrity against oxidative stress. J Nutr Biochem 2010 ; 21 (5) : 381-389.
- 2) Nakajima S, Ohsawa I¹⁾, Ohta S, Ohno M²⁾, Mikami T³⁾ (1) Tokyo Metropolitan Inst. Gerontol., Environmental Aging Res., 2) Dept. Grad. Sch. Nippon Sport Sci. Univ., 3) Dept. Health and Sports Sci.) : Regular voluntary exercise cures stress-induced impairment of cognitive function and cell proliferation accompanied by increases in cerebral IGF-1 and GST activity in mice. Behav Brain Res 2010 ; 211 (2) : 178-184.
- 3) Amo T, Sato S, Saiki S, Wolf MA, Toyomizu M, Gautier AC, Shen J, Ohta S, Hattori N : Mitochondrial membrane potential decrease caused by loss of PINK1 is not due to proton leak, but to respiratory chain defects. Neurobiol Dis 2011 ; 41 (1) : 111-118.
- 4) Kamimura N, Nishimaki K, Ohsawa I¹⁾, Ohta S (1) Tokyo Metropolitan Inst. Gerontol., Environmental Aging Res.) : Molecular Hydrogen Improves Obesity and Diabetes by Inducing Hepatic FGF21 and Stimulating Energy Metabolism in db/db Mice. Obesity 2011.
- 5) Chihara N, Amo T, Tokunaga A^{1,2)}, Yuzuriha R, Wolf MA, Asoh S, Suzuki H^{1,2)}, Uchida E¹⁾, Ohta S (1) Surgery for Organ Function and Biological Regulation, 2) Institute of Gastroenterology) : Mitochondrial DNA alterations in colorectal cancer cell lines. J Nippon Med Sch 2011 ; 78 (1) : 13-21.

著書

- 1) 太田成男：〔編集〕ここまでわかったミトコンドリア研究の新展開。別冊・医学のあゆみ（太田成男），2011；

pp1-134, 医歯薬出版.

2) 太田成男：〔自著〕体が若くなる技術. 体が若くなる技術 単行本, 2010；pp1-223, サンマーク出版.

学会発表

(1) 特別講演：

1) Ohta S：Molecular Hydrogen is a Novel Antioxidant to Efficiently Reduce Oxidative Stress With Potential for the improvement of Mitochondrial Diseases. ASMRM (Asian symposium of Mitochondrial Research and Medicine) (7th) and J-mit (Japanese Mitochondrial Research and Medicine) (10th) (Fukuoka), 2010. 12.

(2) 招待講演：

1) Ohta S：Protection against mitochondrial oxidative stress. Asia-Pacific Symposium on Mitochondrial Medicine and Genetic Diagnosis (The First).(Taipei), 2010. 6.

2) Ohta S：Recent Progress towards hydrogen medicine. 2010 Traditional Chinese Medicine International Forum (Shanghai) (Shanghai), 2010. 11.

3) 太田成男：水素水の抗酸化作用. 日本温泉学会 (第 63 回) (長野), 2010. 9.

4) Ohta S：水素水の抗酸化作用. 日本温泉学会 (第 63 回) (長野), 2010. 9.

5) Ohta S：脳はグルコースしか使えないか？：脳はグルコース以外も使える！. 第 10 回抗加齢医学の実際ザ・バトル講演 (東京), 2010. 9.

6) 太田成男：水素医学への展開と研究の現状. 分子状水素医学シンポジウム (名古屋), 2011. 2.

(3) 一般講演：

1) Ohsawa I¹⁾, Nishimaki K, Murakoshi N, Yokota T, Ohta S⁽¹⁾Environmental Gerontol., Tokyo Metropolitan Inst. Gerontol.): Consumption of hydrogen water prevents the age-dependent impairment in learning and memory tasks in AD model mice. International Conference on Alzheimer's Disease (Honolulu, Hawaii), 2010. 6.

2) Kamimura N：Molecular hydrogen improves obesity and diabetes by inducing FGF21 through reducing oxidative stress in db/db mice. ASMRM (Asian symposium of Mitochondrial Research and Medicine) (7th) and J-mit (Japanese Mitochondrial Research and Medicine) (10th) (Fukuoka), 2010. 12.

3) Nishimaki K：Consumption of hydrogen water prevents the age-dependent impairment in learning and memory tasks in Alzheimer model mice. ASMRM (Asian symposium of Mitochondrial Research and Medicine) (7th) and J-mit (Japanese Mitochondrial Research and Medicine) (10th) (Fukuoka), 2010. 12.

4) Wolf MA：Transgenic mice expressing redox-sensitive fluorescent protein in cytosol and mitochondria. ASMRM (Asian symposium of Mitochondrial Research and Medicine) (7th) and J-mit (Japanese Mitochondrial Research and Medicine) (10th) (Fukuoka), 2010. 12.

5) 西植貴代美：水素水投与によるアルツハイマー病モデルマウスの神経細胞死抑制と認知障害抑制. 日本 Cell Death 学会 (第 19 回) (名古屋), 2010. 7.

6) 佐藤佑一郎：細胞導入型細胞死抑制タンパク質 PTD-FNK による精子凍結保存. 日本 Cell Death 学会 (名古屋), 2010. 7.

7) 西園啓文¹⁾, 佐藤佑一郎, 上村尚美, 太田成男, 阿部宏之²⁾ (1) 富山大学 生命科学先端研究センター, 2) 山形大学大学院理工学研究科)：新規細胞死抑制タンパク質を用いたミトコンドリア機能保護というまったく新しいアプローチによる精子保存技術の開発. 日本繁殖生物学会大会 (第 103 回) (青森), 2010. 9.

8) Kamimura N：水素分子は、肝臓グリコーゲン中に蓄積し、糖尿病モデルマウスの症状を改善する. 日本分子生物学会年会 (第 33 回)・日本生化学会大会 (第 83 回) 合同大会 (kobe), 2010. 12.

9) 上村尚美：肝臓における水素分子の動態とその効果. 分子状水素医学シンポジウム (名古屋), 2011. 2.

10) 太田成男：ミトコンドリアエイジング仮説. Hokkaido ★ Anti ★ Aging ★ Club ★ 2011 (北海道), 2011. 3.

[免疫部門]

研究概要

我々は、癌抑制因子 p53 がグルコース代謝を制御していること、p53 が機能欠損するとこの制御が破綻してグルコース代謝が亢進し、そのことが癌遺伝子によって細胞がトランスフォームし腫瘍を形成する能力を獲得するのに重要な役割を担っていることを明らかにしてきた。更に、p53 欠損細胞でのグルコース代謝の上昇が NF- κ B の活性化を介してグルコース代謝を更に亢進させるというポジティブフィードバック機構が存在することを見いだしている。このポジティブフィードバック機構が NF- κ B 活性化因子 IKK β の O-GlcNAc 修飾によって制御されていることを見だし、このことが癌細胞での持続的なエネルギー産生機構に重要であることが示唆された。我々の研究から、p53 が NF- κ B の制御を介してグルコース代謝を調節していること、p53 の機能が無くなるとグルコース代謝が上昇してエネルギーの産生が増えること、このことが癌化に重要であることが示された。一方、個体の発癌過程でのグルコース代謝の影響を調べるために炎症誘発癌の系を解析する過程で、炎症性サイトカインである IL-6 が Stat3 を介して解糖系酵素の発現を誘導してグルコース代謝を亢進させることを見いだしており、これを基に実際の発癌でのグルコース代謝の影響についての解析を行っている。特に本年度は、炎症反応を糖代謝を標的として制御する新たな治療法を発見し、炎症性腸疾患や関節リウマチのマウスモデルでの有効性も見いだしており、これに関する特許を申請している。これらの研究を更に発展させて、炎症誘発癌の発生における細胞内での代謝の制御の役割を明らかにしていきたい。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Ando M, Uehara I, Kogure K, Asano Y, Nakajima W, Abe Y, Kawauchi K, Tanaka N: Interleukin 6 enhances glycolysis through expression of the glycolytic enzymes hexokinase 2 and 6-phosphofructo-2-kinase/fructose-2,6-bisphosphatase-3. J Nippon Med Sch 2010; 77 (2): 97-105.

(2) 総説：

- 1) 田中信之：p53 による糖代謝調節と発癌。細胞工学 2011; 30 (1): 36-40.

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 田中信之：p53 hampers tumor development by inhibiting NF- κ B-glycolysis pathway. 第33回 日本分子生物学会 第83回 日本生化学会大会 合同大会 (神戸), 2010. 12.

(2) 一般講演：

- 1) 阿部芳憲, 田中信之：癌化に関わる新しい hedgehog 経路制御機構の解析。第33回 日本分子生物学会 第83回 日本生化学会大会 合同大会 (神戸), 2010. 12.
- 2) 中嶋 亘, 中村 聡, 浅野由ミ, 田中信之：癌遺伝子 E1A 発現細胞では Noxa/Mcl-1 経路がアポトーシスの感受性を制御している。第33回 日本分子生物学会 第83回 日本生化学会大会 合同大会 (神戸), 2010. 12.
- 3) 上原郁野, 谷村篤子, 木暮佳代, 恩田宗彦¹⁾, 内藤善哉¹⁾, 田中信之 (¹⁾ 日本医科大学大学院医学研究科 統御機構・腫瘍学)：糖代謝阻害剤による抗炎症効果の解析。第33回 日本分子生物学会 第83回 日本生化学会大会 合同大会 (神戸), 2010. 12.

[疫学部門]

研究概要

生体の個体としての機能とその制御機構の解明をめざし、ホルモン・生理活性物質を対象として生理学的研究を行っている。ホルモンの分泌調節機構の解明、ホルモンの作用機序の研究、ホルモンの細胞内シグナル伝達機構を解明する。

(1) 動物の栄養状態に対応するインスリン・IGF-I シグナリングの変動と意義について検討した。低タンパク質栄養状態の動物では、タンパク質代謝が低下するためにエネルギー消費量も低下するが、余剰となった糖を主に肝臓が取り込み、脂質として蓄積する仕組みが稼働していることが明らかとなった。

(2) 成長ホルモン (GH) の分泌調節機構と生理作用の解明をめざし研究している。GH が転写因子 X-box binding protein 1 (XBP1) の活性化を介して小胞体ストレスの解除に関係している可能性を検討した。

(3) アディポネクチンの抗炎症作用について検討し、肥満関連炎症性疾患の病態 (粥状動脈硬化や急性冠動脈症候群) の進展において重要な役割を果たすマクロファージに対するアディポネクチンの抗炎症分子メカニズムを解明してきた。アディポネクチンは、内皮細胞の接着分子の発現抑制を介して単球の内皮細胞への接着を制限し、内膜下に進入した単球由来マクロファージの泡沫化や炎症性サイトカイン産生、リンパ球の動脈硬化巣への浸潤を抑制し、血管平滑筋の増殖を抑制した。その他、アディポネクチンと成長ホルモンの脂質代謝に対する相互作用を検討してきた。

研究業績

論文

(1) 原著 :

- 1) Osaka M¹⁾, Tokita R, Minami S ¹⁾ Department of Basic Science, Nippon Veterinary and Life Science University) : Volley-like male GH secretion indicates existence of an intrinsic 1-h oscillator in the hypothalamus. *Applied Mathematical and Computational Sciences* 2010 ; 1 (2) : 225-242.
- 2) Shibata M¹⁾, Hakuno F¹⁾, Yamanaka D¹⁾, Okajima H¹⁾, Fukushima T¹⁾, Hasegawa T¹⁾, Ogata T¹⁾, Toyoshima Y, Chida K¹⁾, Kimura K²⁾, Sakoda H³⁾, Takenaka A²⁾, Asano T⁴⁾, Takahashi S¹⁾ ¹⁾ Department of Animal Sciences, Graduate School of Agriculture and Life Science, The University of Tokyo, ²⁾ Department of Agricultural Chemistry, Faculty of Agriculture, Meiji University, ³⁾ Department of Internal Medicine, Institute for Adult Diseases, Asahi Life Foundation, ⁴⁾ Division of Molecular Medical Science, Graduate School of Biomedical Sciences, Hiroshima University) : Paraquat-induced oxidative stress represses phosphatidylinositol 3-kinase activities leading to impaired glucose uptake in 3T3-L1 adipocytes. *Journal of Biological Chemistry* 2010 ; 285 (27) : 20915-20925.
- 3) Toyoshima Y, Tokita R, Yoichiro O¹⁾, Hakuno F²⁾, Noguchi T³⁾, Minami S, Kato H⁴⁾, Takahashi S²⁾ ¹⁾ Department of Applied Biological Chemistry, Graduate School of Agriculture and Life Science, The University of Tokyo, ²⁾ Department of Animal Sciences, Graduate School of Agriculture and Life Science, The University of Tokyo, ³⁾ The Chubu Institute for Advanced Studies, Chubu University, ⁴⁾ Corporate Sponsored Research Program "Food for Life", Organization for Interdisciplinary Research Projects, The University of Tokyo) : Dietary protein deprivation upregulates insulin signaling and inhibits gluconeogenesis in rat liver. *Journal of Molecular Endocrinology* 2010 ; 45 (5) : 329-340.

(2) 総説 :

- 1) Okamoto Y : Adiponectin provides cardiovascular protection in metabolic syndrome. *Cardiol Res Pract* 2011 ; (Jan 23 ; 2011) : 313179.

(3) 症例報告：

- 1) Nasu T¹⁾, Suzuki R¹⁾, Okamoto Y, Miyata K¹⁾, Uno A¹⁾, Nakao R¹⁾, Kawashima A¹⁾, Nakao T¹⁾, Kondo M¹⁾ (1) Department of Internal Medicine, Naga Municipal Hospital, Japan) : Late Postprandial Hypoglycemia due to Bioactive Insulin Dissociation from Autoantibody Leading to Unconsciousness in a Patient with Insulin Autoimmune Syndrome. Intern Med 2011 ; 50 (4) : 339-343.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) Toyoshima Y, Tokita R, Hakuno F¹⁾, Kato H²⁾, Minami S, Takahashi S¹⁾ (1) Department of Animal Sciences, Graduate School of Agriculture and Life Science, The University of Tokyo, 2) Corporate Sponsored Research Program “Food for Life”, Organization for Interdisciplinary Research Projects, The University of Tokyo) : Suppression of insulin signaling in white adipose tissues contributes to preferential lipid accumulation in rat liver under protein malnutrition. 5th International Congress of the GRS-IGF Society (New York, USA), 2010. 10.
- 2) 山中大介, 赤間 剛¹⁾, 福嶋俊明¹⁾, 千田和広¹⁾, 南 史朗, 伯野史彦¹⁾, 高橋伸一郎¹⁾ (1) 東京大学大学院農学生命科学研究科応用動物科学専攻) : PI 3-kinase activation through c-Src-dependent tyrosine phosphorylation of PITKAP/XB130, a novel binding partner of a PI 3-kinase p85 regulatory subunit, plays novel roles in priming cells to IGF. International Congress of the GRS and the IGF Society (第5回) (New York, USA), 2010. 10.
- 3) 豊島由香, 時田玲子, 伯野史彦¹⁾, 加藤久典²⁾, 南 史朗, 高橋伸一郎¹⁾ (1) 東京大学大学院農学生命科学研究科応用動物科学専攻, 2) 東京大学総括プロジェクト機構総括寄付講座「食と生命」) : 低タンパク質栄養状態に応答して起こる脂肪蓄積の臓器特異的調節. 第64回 日本栄養・食糧学会大会 (徳島), 2010. 5.

[生体応答学部門]

研究概要

認知症相談センターを起点に認知症になっても安心して暮らせるように、一般市民、医療機関、介護機関、行政、企業などとネットワークを作る社会連携事業を行い、都市型コホート研究を行っている。認知症早期発見のために街ぐるみ認知症相談センターでは検査を行い、認知症疑いの人を発見し、診断に進むことを促進させ、かかりつけ医が主体となる認知症診療システムを作ることを実践し、かかりつけ医との共同研究を行っている。認知症早期発見に関して脳機能活性化度計測法 DIMENSION の有用性について脳機能研究所と共同研究を行っている。市民が認知症について理解を深めるような試み、認知症介護に携わる専門家と医療との連携を促進するための試みなどを行う社会連携研究を行っている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Mishina M^{1,2)}, Isiwata K¹⁾, Naganawa M^{1,4)}, Kimura Y^{1,5)}, Shin K^{2,6)}, Suzuki M^{1,7)}, Hashimoto M^{1,7)}, Ishibashi K^{1,8)}, Oda K¹⁾, Sakata M¹⁾, Hamamoto M^{2,3)}, Kobayashi S⁹⁾, Katayama Y²⁾, Ishii K¹⁾ (1) Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, Itabashi-ku, Tokyo, Japan, 2) The Second Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Bunkyo-ku, Tokyo, Japan, 3) Department of Neurology, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, Inzai-shi, Chiba, Japan, 4) Department of Diagnostic Radiology, PET Center, Yale University, New Haven, Connecticut, United States of America, 5) Biophysics Group, Molecular Imaging Center, National Institute of Radiological Sciences, Chiba, Japan, 6) Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital, Kawasaki, Kanagawa, Japan, 7) Department of Neurology, The Jikei University School of Medicine, Minato-ku, Tokyo, Japan, 8) Department of Neurology and Neurological Science Graduate School, Tokyo Medical and Dental University, Tokyo, Japan, 9) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, Inzai-shi, Chiba, Japan) : Adenosine A2A Receptors Measured with [11C]TMSX PET in the Striata of Parkinson's Disease Patients. PLOS ONE 2011 ; 6 (2) : e173387.

(2) 総説：

- 1) 北村 伸：脳血管性認知症。臨床放射線 2010 ; 55 (11) : 1445-1453.
- 2) 北村 伸：メマンチン。老年精神医学雑誌 2010 ; 21 (12) : 1322-1329.
- 3) 野村浩一, 北村 伸：CT—スクリーニング (除外診断を中心に)。Innervision 2011 ; 10 (12) : 10-12.
- 4) 北村 伸：代表的な認知症 (2) - 血管性認知症。診断と治療 2011 ; 99 (3) : 453-458.
- 5) 北村 伸：認知症とは。おはよう 21 2011 ; 21 (4) : 11-16.

著書

- 1) 北村 伸：〔分担〕MRI や SPECT でわかることは？必要とする場合は？。日常診療で診る・見守る認知症 (高橋智), 2010 ; pp79-82, 日本医事新報社.

学会発表

(1) 教育講演：

- 1) 北村 伸：目からウロコ 内科医への認知症診療アドバイス。日本内科学会総会 (第 107 回) 実践的生涯プログラム (東京), 2010. 4.

(2) 一般講演：

- 1) 北村 伸：川崎市中原区における認知症ネットワークの試み. 日本認知症予防研究会（第1回）（鎌倉），2010. 6.
- 2) 若松直樹¹⁾，北村 伸^{1, 2)}，石井知香¹⁾，根本留美¹⁾，野村俊明^{1, 3)}，川並汪一^{1, 4)}（¹⁾ 日本医科大学老人病研究所病理部門 街ぐるみ認知症相談センター，²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 内科，³⁾ 日本医科大学 基礎科学心理学，⁴⁾ 北海メディカルネットワーク）：認知症相談において認知機能低下を鑑別する評価指標 地域在住健常高齢者を対象としたサンプル調査からの検討. 日本老年精神医学会（第25回）（熊本），2010. 6.
- 3) 石井知香¹⁾，松本聡子²⁾，根本留美¹⁾，若松直樹¹⁾，北村 伸^{1, 3)}，野村俊明^{1, 4)}，宗像一雄³⁾，川並汪一^{1, 5)}（¹⁾ 日本医科大学老人病研究所病理部門 街ぐるみ認知症相談センター，²⁾ NTT 東日本関東病院 精神神経科，³⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 内科，⁴⁾ 日本医科大学 基礎科学心理学，⁵⁾ 北海メディカルネットワーク）：「街ぐるみ認知症相談センター」の活動が認知症ケアの理解促進に与える影響：医療・福祉・住民（民生委員）への悉皆調査による検討〈初回調査評価〉. 日本認知症ケア学会（第11回）（神戸），2010. 10.

2.呼吸ケアクリニック

研究概要

平成 15 年 12 月、日本医大旧第 4 内科の一部門として日本医大呼吸ケアクリニックを開設した。主たる診療項目は COPD、気管支喘息、および在宅医療機器による治療として睡眠時無呼吸症候群（SAS）に対する CPAP 治療、在宅酸素療法、在宅人工呼吸療法にほぼ特化した形で進めてきた。これらの専門診療のうち COPD に関して基礎的、臨床的な研究を行っている。本年度は 3 人が科研費を受領した。

1. 臨床研究 COPD では医療費の 8 割以上が経過中に生ずる急性増悪に対して使われている。従来、急性増悪の原因については社会的、環境の因子の関与が大きいことが推定されていたが実態は不明であった。若林らは高齢者の COPD では独居による患者教育の不十分さが要因となりうることを明らかにした。若林は本業績により看護師として学位を取得した。COPD では鬱病が多い。石井らはこの観点から serotonin transporter 遺伝子が関わっていることを明らかにした。また SERPINE2 遺伝子が肺気腫の形成に関わっていることを明らかにした。茂木らは医療連携における問題点を東京大学工学部との共同研究として進めた。

2. 基礎研究 COPD の関する基礎研究を大阪大学、理化学研究所、谷口直之教授らとの糖鎖に関する研究の一環として、独立行政法人医薬基盤研究所からの助成を受け創薬の開発を進めている。フコスを付加する酵素 Fut8 の欠損マウスでは肺気腫が発症する。今年度は神尾らがヒトの血清中の Fut8 活性が COPD の病態にどのような影響を与えるかについて研究を進めた。2010 年度は初年度として喫煙マウスモデルによる肺気腫の作成を行った。本研究班は 2014 年まで継続の予定である。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Fujimoto K¹, Ikeda S¹, Arai T², Tanaka N³, Kumasaka T⁴, Ishi T, Kida K, Muramatsu M¹, Sawabe M² (1) Department of Molecular Epidemiology, Medical Research Institute, Tokyo Medical and Dental University, (2) Department of Pathology, Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital, (3) Department of Biostatistics, Harvard School of Public Health, Boston, MA, USA, (4) Department of Pathology, Juntendo University School of Medicine) : Polymorphism of SERPINE2 gene is associated with pulmonary emphysema in consecutive autopsy cases. *BMC Med Genet* 2010 ; 11 : 159.
- 2) Wakabayashi R, Motegi T, Yamada K, Ishii T, Gemma A¹, Kida K (1) Department of Internal Medicine, Division of Pulmonary Medicine, Infectious Diseases and Oncology, Nippon Medical School) : Presence of in-home caregiver and health outcomes of older adults with chronic obstructive pulmonary disease. *JAGS* 2011 ; 59 (1) : 44-49.
- 3) Ishii T, Wakabayashi R, Kurasaki H, Gemma A¹, Kida K (1) Department of Internal Medicine, Division of Pulmonary Medicine, Infectious Diseases and Oncology, Nippon Medical School) : Association of serotonin transporter gene variation with smoking, chronic obstructive pulmonary disease, and its depressive symptoms. *J Hum Genet* 2011 ; 56 (1) : 41-46.
- 4) 石井健男：サイエンスを重視した advanced COPD の集学的治療の現状と課題。呼吸：レスピレーション リサーチ ファンデーション 2010 ; 29 (4) : 431-434.

(2) 総説：

- 1) 木田厚瑞：日医生涯教育協力講座 セミナー「肺の生活習慣病：COPD（慢性気管支炎・肺気腫）」肺の生活習

慣病 COPD：診断と治療の要点. 東京都医師会雑誌 2010；63（6）：19-25.

- 2) 木田厚瑞：日医生涯教育協力講座 セミナー「慢性閉塞性肺疾患（COPD）の診断と治療」医療連携による COPD の診断と治療の展開. 東京都医師会雑誌 2010；63（10）：32-39.

著書

- 1) Motegi T, Ishii T, Kida K：〔共著〕Comprehensive Pulmonary Rehabilitation for Chronic Obstructive Pulmonary Disease. International Encyclopedia of Rehabilitation.(Maurice Blouin and John Stone), 2010；Center for International Rehabilitation.
- 2) 石井健男：〔自著〕呼吸器疾患におけるゲノム解析, 呼吸器病学 TOPICS 2010-11 1.細胞生物学. 分子呼吸器病, 2010；pp8-11, 先端医学社.
- 3) 木田厚瑞, 茂木 孝：〔自著〕かかりつけ医の患者ケアガイド：COPD（慢性閉塞性肺疾患）編（編著：木田厚瑞, 茂木孝）, 2010；pp1-180, 真興交易株式会社医書出版部.
- 4) 石井健男, 木田厚瑞：〔自著〕(1) お年寄りの病気 高齢者によくみられる訴えと症状 胸部の症状 咳・痰が多い/痰に血が混じる (2) お年寄りの病気 高齢者によくみられる病気 呼吸器疾患 呼吸不全. 六訂版 家庭医学大全科（総合監修：高久史磨, 猿田享男, 北村惣一郎, 福井次矢）, 2010；株式会社 法研.

学会発表

(1) 教育講演：

- 1) 木田厚瑞：呼吸リハビリテーションの過去・現在・未来：われわれの課題と展望. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会（第20回）（長崎市）, 2010. 10.

(2) 一般講演：

- 1) Kamio K, Ishii T, Gao C¹⁾, Ota F¹⁾, Motegi T, Abe S²⁾, Usuki J²⁾, Azuma A²⁾, Taniguchi N¹⁾, Gemma A²⁾, Kida K (¹⁾ Department of Disease Glycomics, Scientific and Industrial Research Institute, Osaka University, ²⁾ Department of Internal Medicine, Division of Pulmonary Medicine, Infectious Diseases and Oncology, Nippon Medical School)：Assessment of usefulness of FUT8 activity as a novel bio-marker for COPD. American Thoracic Society 2010 International Conference (New Orleans), 2010. 5.
- 2) Ishii T, Wakabayashi R, Morii K, Kurosaki H, Motohashi N, Hattori K, Motegi T, Yamada K, Kamio K, Gemma A¹⁾, Kida K (¹⁾ Department of Internal Medicine, Division of Pulmonary Medicine, Infectious Diseases and Oncology, Nippon Medical School)：Association of serotonin transporter gene variation with smoking, COPD, and its depressive symptoms. American Thoracic Society 2010 International Conference (New Orleans), 2010. 5.
- 3) 神尾孝一郎, 石井健男, 高 叢笑¹⁾, 茂木 孝, 阿部信二²⁾, 臼杵二郎²⁾, 吾妻安良太²⁾, 谷口直之¹⁾, 弦間昭彦²⁾, 木田厚瑞 (¹⁾ 大阪大学産業科学研究所疾患糖鎖学寄附研究部門, ²⁾ 日本医科大学内科学講座呼吸器・感染・腫瘍部門)：ヒト肺の気腫化進展における糖転移酵素 FUT8 活性に関する研究. 日本呼吸器学会学術講演会（第50回）（京都市）, 2010. 4.
- 4) 石井健男, 若林律子, 森井恵子, 黒崎央子, 本橋典久, 服部久弥子, 茂木 孝, 山田浩一, 神尾孝一郎, 弦間昭彦¹⁾, 木田厚瑞 (¹⁾ 日本医科大学内科学講座呼吸器・感染・腫瘍部門)：Serotonin transporter 遺伝子とうつ合併の気道病変型 COPD との関連. 日本呼吸器学会学術講演会（第50回）（京都市）, 2010. 4.
- 5) 若林律子, 茂木 孝, 森井恵子, 黒崎央子, 本橋典久, 服部久弥子, 茂木 孝, 山田浩一, 神尾孝一郎, 弦間昭彦¹⁾, 木田厚瑞 (¹⁾ 日本医科大学内科学講座呼吸器・感染・腫瘍部門)：在宅酸素療法実施の COPD 患者における在宅運動療法に関する研究. 日本呼吸器学会学術講演会（第50回）（京都市）, 2010. 4.
- 6) 千住秀明¹⁾, 林 秀佳¹⁾, 岩井晶子³⁾, 井口明香⁴⁾, 金田瑠美²⁾, 小澤寛樹¹⁾, 木田厚瑞, 本田純久¹⁾ (¹⁾ 長崎大学,

- 2) 霧が丘つだ病院, 3) 保善会田上病院, 4) 長崎呼吸器リハビリクリニック)：慢性閉塞性肺疾患の入院患者と在宅患者における抑うつ・不安状態の頻度と影響因子について. 日本呼吸器学会学術講演会(第50回)(京都市), 2010. 4.
- 7) 森井恵子, 茂木 孝, 石井健男, 山田浩一, 服部久弥子, 黒崎央子, 本橋典久, 弦間昭彦¹⁾, 木田厚瑞 ¹⁾ 日本医科大学内科学講座呼吸器・感染・腫瘍部門)：気管支喘息を合併した COPD の病態に関する臨床的研究. 日本呼吸器学会学術講演会 (第50回) (京都市), 2010. 4.
- 8) 茂木 孝, 石井健男, 服部久弥子, 山口敬子, 藤田亜紀, 瀬川佳余, 若林律子, 山田浩一, 弦間昭彦¹⁾, 木田厚瑞 ¹⁾ 日本医科大学内科学講座呼吸器・感染・腫瘍部門)：COPD 増悪からの回復日数に影響する因子の検討. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会 (第20回) (長崎市), 2010. 10.
- 9) 茂木 孝, 石井健男, 若林律子, 服部久弥子, 神尾孝一郎, 山口敬子, 瀬川佳余, 藤田亜紀, 弦間昭彦¹⁾, 木田厚瑞 ¹⁾ 日本医科大学内科学講座呼吸器・感染・腫瘍部門)：COPD 患者における身体活動度評価, およびプロカテロールの assist use による効果の検証. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会(第20回)(長崎市), 2010. 10.
- 10) 古舘隆子, 山田浩一, 茂木 孝, 石井健男, 若林律子, 木田厚瑞：安定期 COPD における末梢血リンパ球数と栄養指標に関する研究. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会 (第20回) (長崎市), 2010. 10.
- 11) 若林律子, 茂木 孝, 石井健男, 山田浩一, 木田厚瑞：疾患別の在宅酸素療法患者の予後と問題点に関する研究. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会 (第20回) (長崎市), 2010. 10.

3. 健診医療センター

研究概要

健診医療センターでは、認知症の画像診断の切り札として期待されているアミロイドイメージングの治験を精神科とともに進め、第2相試験を計画通りに終了した。この治験の結果は2011年米国核医学会学術集会で発表する予定となっている。また、アミロイドイメージングの診断能と再現性の向上を期待し、アミロイドイメージングを統計的に評価するためのソフトのプロトタイプを開発した。従来泌尿器科と進めてきた前立腺癌のメチオニンPETによる診断能の検証を終了し、結果を核医学専門誌に投稿した。Time-of-Flight装置により短時間収集が可能となったのを踏まえ、呼吸停止下のデータ収集を試み、呼吸動による病変のブレや集積低下を評価し、第50回日本核医学会学術総会のシンポジウムで発表した。技術系の研究では、PET画像の診断能向上を目的とし、画像のノイズを抑制するために再構成の条件の検討を行った。特に体格差による画質の変化を抑制するための最適条件の設定に努めた。また、新しい技術であるTime-of-Flight効果を利用したPET装置が導入されたため、その性能評価および有用性と問題点についての検討を行った。さらに検出能を向上するための方法として、高分解能収集法を中心にその精度向上と最適収集条件について検討を行った。今後のPET装置は高感度・高分解能へと進んでいくことが予想されるため、有用な検討であると思われる。また、核医学検査情報の標準化を目的とし、国内10施設と共同で電子カルテやHIS・RISなどの情報を調査し、JJ1017を核医学領域へ拡張するための資料作成を行った。これから進む医療情報化に大きく貢献できる検討であったと思われる。

研究業績

著書

- 1) 櫻井 実¹⁾ 日本医科大学健診医療センター): [分担] 第II部 第1章 SPECT 定量解析法 1.1 心筋定量解析. 核医学画像処理 (福喜多博義), 2010; pp143-152, 山代印刷株式会社.

学会発表

(1) シンポジウム:

- 1) 櫻井 実¹⁾ (日本医科大学健診医療センター): JJ1017 拡張を用いた核医学検査の実務 (JJ1017 が開く核医学検査情報標準化の扉). 日本核医学会学術総会 (第50回) (埼玉県さいたま市), 2010. 11.

(2) 一般講演:

- 1) 櫻井 実¹⁾, 須田匡也¹⁾, 長谷康二¹⁾, 金谷浩司¹⁾, 武井めぐみ¹⁾ (日本医科大学健診医療センター): Time of flight (TOF) 装置における膀胱周囲のアーチファクトの検討. 日本放射線技術学会総会学術大会 (66回) (横浜), 2010. 4.
- 2) 長谷康二¹⁾, 須田匡也¹⁾, 金谷浩司¹⁾, 武井めぐみ¹⁾, 櫻井 実¹⁾ (日本医科大学健診医療センター): 体格差を考慮した再構成パラメータの評価. 日本放射線技術学会総会学術大会 (66回) (横浜), 2010. 4.
- 3) 武井めぐみ¹⁾, 長谷康二¹⁾, 須田匡也¹⁾, 金谷浩司¹⁾, 櫻井 実¹⁾ (日本医科大学健診医療センター): TOF 装置における低濃度領域の抽出能. 日本放射線技術学会 (横浜), 2010. 4.
- 4) 金谷浩司¹⁾, 櫻井 実¹⁾, 長谷康二¹⁾, 須田匡也¹⁾, 武井めぐみ¹⁾ (日本医科大学健診医療センター): TOF 効果を利用したPET撮像の高分解能収集の有用性. 日本放射線技術学会総会学術大会 (66回) (横浜), 2010. 4.
- 5) 武井めぐみ¹⁾, 櫻井 実¹⁾, 長谷康二¹⁾, 須田匡也¹⁾, 金谷浩司¹⁾ (日本医科大学健診医療センター): TOF PET装置高分解能撮像における微小病変に対する収集条件の検証. 日本放射線技術学会秋季大会 (38回) (仙台), 2010. 10.

- 6) 櫻井 実¹⁾, 須田匡也¹⁾, 柳川豊彦²⁾, 武井めぐみ¹⁾, 長谷康二¹⁾, 金谷浩司¹⁾ (1) 日本医科大学健診医療センター, 2) 日本医科大学付属病院): 心筋血流シンチにおいてプラナー像からSPECTの画質推定は可能か?. 日本放射線技術学会秋季学術大会 (38回) (横浜), 2010. 10.
- 7) 須田匡也¹⁾, 櫻井 実¹⁾, 松本圭一²⁾, 小野口昌久³⁾, 長谷康二¹⁾, 金谷浩司¹⁾, 武井めぐみ¹⁾ (1) 日本医科大学健診医療センター, 2) 京都医療科学技術大学, 3) 金沢大学): Time of flightにおけるノイズ特性の基礎的検討. 日本核医学技術学会総会学術大会 (30回) (さいたま), 2010. 11.
- 8) 加藤誠二¹⁾, 神宮司公二²⁾, 櫻井 実³⁾, 武田 悟⁴⁾, 對間博之⁵⁾, 清水敬二⁶⁾, 花岡宏平⁷⁾, 澁谷孝行⁸⁾, 松田恵雄⁹⁾, 奥田保男¹⁰⁾ (1) 東京大学附属病院, 2) 北里大学病院, 3) 日本医科大学健診医療センター, 4) 日高病院, 5) 大阪市立大学医学部附属病院, 6) 先端医療センター, 7) 近畿大学医学部附属病院, 8) 市立岸和田市民病院, 9) 埼玉医科大学総合医療センター, 10) 岡崎市民病院): 標準化に向けた国内10施設におけるマスタ解析: 総論. 日本核医学技術学会総会学術大会 (第30回) (埼玉県さいたま市), 2010. 11.
- 9) 澁谷孝行¹⁾, 對間博之²⁾, 清水敬二³⁾, 花岡宏平⁴⁾, 神宮司公二⁵⁾, 櫻井 実⁶⁾, 武田 悟⁷⁾, 加藤誠二⁸⁾, 松田恵雄⁹⁾, 竹花一哉¹⁰⁾ (1) 市立岸和田市民病院, 2) 大阪市立大学医学部附属病院, 3) 先端医療センター, 4) 近畿大学医学部附属病院, 5) 北里大学病院, 6) 日本医科大学健診医療センター, 7) 日高病院, 8) 東京大学附属病院, 9) 埼玉医科大学総合医療センター, 10) 関西医科大学): 標準化に向けた国内10施設におけるマスタ解析: 放射性医薬品について. 日本核医学技術学会総会学術大会 (第30回) (埼玉県さいたま市), 2010. 11.
- 10) 武田 悟¹⁾, 加藤誠二²⁾, 神宮司公二³⁾, 櫻井 実⁴⁾, 對間博之⁵⁾, 清水敬二⁶⁾, 花岡宏平⁷⁾, 澁谷孝行⁸⁾, 松田恵雄⁹⁾, 奥 真也¹⁰⁾ (1) 日高病院, 2) 東京大学附属病院, 3) 北里大学病院, 4) 日本医科大学健診医療センター, 5) 大阪市立大学医学部附属病院, 6) 先端医療センター, 7) 近畿大学医学部附属病院, 8) 市立岸和田市民病院, 9) 埼玉医科大学総合医療センター, 10) 会津大学): 標準化に向けた国内10施設におけるマスタ解析: 検査部位名称について. 日本核医学技術学会総会学術大会 (第30回) (埼玉県さいたま市), 2010. 11.
- 11) 櫻井 実¹⁾, 武田 悟²⁾, 加藤誠二³⁾, 神宮司公二⁴⁾, 對間博之⁵⁾, 清水敬二⁶⁾, 花岡宏平⁷⁾, 澁谷孝行⁸⁾, 松田恵雄⁹⁾, 奥田保男¹⁰⁾ (1) 日本医科大学健診医療センター, 2) 日高病院, 3) 東京大学附属病院, 4) 北里大学病院, 5) 大阪市立大学医学部附属病院, 6) 先端医療センター, 7) 近畿大学医学部附属病院, 8) 私立岸和田市民病院, 9) 埼玉医科大学総合医療センター, 10) 岡崎市民病院): 標準化に向けた国内10施設におけるマスタ解析: 負荷検査実施解析と表現方法. 日本核医学技術学会総会学術大会 (第30回) (埼玉県さいたま市), 2010. 11.
- 12) 神宮司公二¹⁾, 櫻井 実²⁾, 武田 悟³⁾, 加藤誠二⁴⁾, 對間博之⁵⁾, 清水敬二⁶⁾, 花岡宏平⁷⁾, 澁谷孝行⁸⁾, 松田恵雄⁹⁾, 竹花一哉¹⁰⁾ (1) 北里大学病院, 2) 日本医科大学健診医療センター, 3) 日高病院, 4) 東京大学附属病院, 5) 大阪市立大学医学部附属病院, 6) 先端医療センター, 7) 近畿大学医学部附属病院, 8) 市立岸和田市民病院, 9) 埼玉医科大学総合医療センター, 10) 関西医科大学): JJ1017核医学領域拡張版の策定. 日本核医学技術学会総会学術大会 (第30回) (埼玉県さいたま市), 2010. 11.
- 13) 市川賢一¹⁾, 神宮司公二²⁾, 櫻井 実³⁾, 武田 悟⁴⁾, 加藤誠二⁵⁾, 對間博之⁶⁾, 清水敬二⁷⁾, 花岡宏平⁸⁾, 澁谷孝行⁹⁾, 松田恵雄¹⁾, 奥 真也¹⁰⁾ (1) 埼玉医科大学総合医療センター, 2) 北里大学病院, 3) 日本医科大学健診医療センター, 4) 日高病院, 5) 東京大学附属病院, 6) 大阪市立大学医学部附属病院, 7) 先端医療センター, 8) 近畿大学医学部附属病院, 9) 市立岸和田市民病院, 10) 会津大学): JJ1017核医学領域拡張後の検討: 一般核医学検査. 日本核医学技術学会総会学術大会 (第30回) (埼玉県さいたま市), 2010. 11.
- 14) 花岡宏平¹⁾, 澁谷孝行²⁾, 對間博之³⁾, 清水敬二⁴⁾, 神宮司公二⁵⁾, 櫻井 実⁶⁾, 武田 悟⁷⁾, 加藤誠二⁸⁾, 松田恵雄⁹⁾, 奥田保男¹⁰⁾ (1) 近畿大学医学部附属病院, 2) 市立岸和田市民病院, 3) 大阪市立大学医学部附属病院, 4) 先端医療センター, 5) 北里大学病院, 6) 日本医科大学健診医療センター, 7) 日高病院, 8) 東京大学附属病院, 9) 埼玉医科大学総合医療センター, 10) 岡崎市民病院): JJ1017核医学領域拡張後の検討: 内用療法. 日本核医学技術学会総会学術大会 (第30回) (埼玉県さいたま市), 2010. 11.
- 15) 清水敬二¹⁾, 花岡宏平²⁾, 澁谷孝行³⁾, 對間博之⁴⁾, 神宮司公二⁵⁾, 櫻井 実⁶⁾, 武田 悟⁷⁾, 加藤誠二⁸⁾, 松田

恵雄⁹⁾，竹花一哉¹⁰⁾ (1) 先端医療センター， 2) 近畿大学医学部附属病院， 3) 市立岸和田市民病院， 4) 大阪市立大学医学部附属病院， 5) 北里大学病院， 6) 日本医科大学健診医療センター， 7) 日高病院， 8) 東京大学附属病院， 9) 埼玉医科大学総合医療センター， 10) 関西医科大学)：JJ1017 核医学領域拡張後の検討：PET 検査．日本核医学技術学会総会学術大会（第 30 回）（埼玉県さいたま市），2010. 11.

- 16) 對間博之¹⁾，清水敬二²⁾，花岡宏平³⁾，澁谷孝行⁴⁾，神宮司公二⁵⁾，櫻井 実⁶⁾，武田 悟⁷⁾，加藤誠二⁸⁾，松田恵雄⁹⁾，奥 真也¹⁰⁾ (1) 大阪市立大学医学部附属病院， 2) 先端医療センター， 3) 近畿大学医学部附属病院， 4) 市立岸和田市民病院， 5) 北里大学病院， 6) 日本医科大学健診医療センター， 7) 日高病院， 8) 東京大学附属病院， 9) 埼玉医科大学総合医療センター， 10) 会津大学)：JJ1017 核医学拡張提案マスタにおける頻用マスタの適応率について．日本核医学技術学会総会学術大会（第 30 回）（埼玉県さいたま市），2010. 11.

4. 成田国際空港クリニック

研究概要

成田国際空港クリニックでは国際空港ならではの臨床的な研究を進めてゆきたいと考えています。具体的には新型インフルエンザなど新興輸入感染症の患者状況の調査や地域との比較検討や空港勤務者と旅行者など受診者背景による検討を実施しており、年度を経るごとの変化についても継続する予定です。さらに航空機旅行者に特徴的な肺塞栓症患者などの発症状況の推移や患者背景の検討を実施しています。その他クリニック受診患者の救急例の疾患別の数の推移や背景検討を実施し、搬送方法による疾患の違いについても検討しています。さらに、NBC テロ対処訓練にも参加し、逐次検討報告を実施しています。今後も上記のような検討を継続し、さまざまな疾患予防や災害対処の資となる研究を実施して行く予定です。

研究業績

学会発表

(1) ポスター：

- 1) 浅野悦洋, 村越秀光, 井上 毅, 岩瀬龍之, 赤沼雅彦：空港クリニックのロングフライト血栓症。日本旅行医学会（第3回東京大会）（東京），2010. 4.
- 2) 浅野悦洋, 松浦直子, 赤沼雅彦：成田国際空港クリニックの診療状況。日本旅行医学会（第3回東京大会）（東京），2010. 11.

(2) 一般講演：

- 1) 赤沼雅彦, 村越秀光, 浅野悦洋, 岩瀬龍之：日本医科大学成田国際空港クリニックでの '09 年度からのインフルエンザ（第2報）。日本宇宙航空環境医学会（第56回）（所沢），2010. 11.
- 2) 浅野悦洋, 村越秀光, 岩瀬龍之, 赤沼雅彦：空の旅と旅行者血栓症（第2報）。日本宇宙航空環境医学会（第56回）（所沢），2010. 11.
- 3) 村越秀光, 浅野悦洋, 岩瀬龍之, 赤沼雅彦：空港クリニックにおける最近5年間の疾患動向。日本宇宙航空環境医学会（第56回）（所沢），2010. 11.
- 4) 赤沼雅彦, 松浦直子, 浅野悦洋：成田国際空港とNBC 災害医療テロ対策訓練について。日本旅行医学会（第3回東京大会）（東京），2010. 11.
- 5) 赤沼雅彦, 浅野悦洋, 村越秀光, 松本 尚¹⁾, 益子邦洋¹⁾（¹⁾日本医科大学千葉北総病院 救命救急センター）：成田国際空港クリニック救急症例検討：ドクターヘリ搬送例分析。日本航空医療学会（第17回）（札幌），2010. 11.
- 6) 浅野悦洋, 村越秀光, 赤沼雅彦, 松本 尚¹⁾, 益子邦洋¹⁾（¹⁾日本医科大学千葉北総病院 救命救急センター）：成田国際空港と医療。日本航空医療学会（第17回）（札幌），2010. 11.
- 7) 村越秀光, 浅野悦洋, 赤沼雅彦, 松本 尚¹⁾, 益子邦洋¹⁾（¹⁾日本医科大学千葉北総病院 救命救急センター）：空港クリニック放射線科の救急患者対応。日本航空医療学会（第17回）（札幌），2010. 11.
- 8) 芝田匡史¹⁾, 布施 明¹⁾, 小野寺修一¹⁾, 小野雄一¹⁾, 赤沼雅彦, 横田裕行¹⁾（¹⁾日本医科大学付属病院 高度救命救急センター）：地下鉄でのNBC テロ発生事象に対する医療対応の検討。日本集団災害医学会（第16回）（大阪），2011. 2.

(3) ポスター発表：

- 1) 赤沼雅彦, 村越秀光, 井上 毅, 浅野悦洋, 岩瀬龍之：日本医科大学成田国際空港クリニックにおける '09 年度インフルエンザ。日本旅行医学会（第9回）（東京），2010. 4.

〔5〕 そ の 他

1. 教育推進室

研究概要

教育推進室は、平成14年4月発足以来9年が経過し、本学における医学教育の改革、拡充、充実とともにその研究等、業務内容は拡大し多岐にわたっている。平成22年度は、Faculty Development (FD)の一環として、第7回新任・昇任教員のためのFDワークショップ、第18回医学教育のためのFDワークショップを開催し、特に2010年は本学が主催校である第42回日本医学教育学会大会の事務局を担当した。教育推進室では、定例教育推進室会議、授業評価委員会、クリニカル・シミュレーション・ラボ (C. S. Lab.) 運営委員会、模擬患者養成委員会を主催し、また医学英語推進委員会、臨床配属運営委員会及び医史学教育研究会を補佐し幅広い教育及び学会活動を展開している。学生による授業評価は、平成20年度からの携帯電話による授業評価を本格施行した。また、授業評価の目的・対象を明確にした上で、新たな実施方法の検討を行った。開設後7年目を迎えたC. S. Lab.では、新入生へのC. S. Lab.オリエンテーションまた4年生の基本臨床実習コースに「C. S. Lab.における臨床技能実習」を導入し、臨床実習に入る学生の臨床技能の習得及び評価に努めた。そして卒業前のAdvanced OSCEにも医療面接課題に加え診察・手技課題を取り入れた。また卒業教育にも力を入れ臨床研修医オリエンテーションC. S. Lab.講習会を行なった。次に、本年も本学独自の模擬患者を養成し、基本臨床実習コースにおける「症候から考える」、「総合病態を考える」、共用試験OSCE、卒業前Advanced OSCEに加えて、新入生の医療コミュニケーション教育等にも導入し臨床医学教育への活用を実行した。その他医学英語推進委員会、臨床配属運営委員会を通じ、本学の医学英語教育の普及・整備、学生の臨床研究への参加に協力した。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Takiguchi Y¹, Tada Y¹, Gemma A¹, Kudoh S¹, Hino M¹, Yoshimori K¹, Yoshimura A, Nagao K¹, Niitani H¹ (1) Dept Intern Med) : Phase I/II study of docetaxel and S-1, an oral fluorinated pyrimidine, for untreated advanced non-small cell lung cancer. *Lung Cancer* 2010 ; 68 (3) : 409-414.
- 2) Yoshimura A, Shimura T, Kim C¹, Ishikawa G¹, Haraguchi S², Ohno T³, Hayashi H³, Nakano H⁴, Nitta T⁵, Takaoka M⁴ (1) Working Committee of the Clinical Simulation Laboratory, (2) Dept Surgery, (3) Dept Intern Med, (4) Management Committee of Medical Interns of NMS Hospital, (5) Board of Education) : A training session in a clinical simulation laboratory for the acquisition of clinical skills by newly recruited medical interns. *J Nippon Med Sch* 2010 ; 77 (4) : 209-213.
- 3) Noro R¹, Miyanaga A¹, Minegishi Y¹, Okano T¹, Seike M¹, Soeno C¹, Kataoka K¹, Matsuda K¹, Yoshimura A, Gemma A¹ (1) Dept Intern Med) : Histone deacetylase inhibitor enhances sensitivity of non-small-cell lung cancer cells to 5-FU/S-1 via down-regulation of thymidylate synthase expression and up-regulation of p21 (waf1/cip1) expression. *Cancer Sci* 2010 ; 101 (6) : 1424-1430.
- 4) Minegishi Y¹, Sudoh J¹, Kuribayashi H¹, Mizutani H¹, Seike M¹, Azuma A¹, Yoshimura A, Kudoh S¹, Gemma A¹ (1) Dept Intern Med) : The safety and efficacy of weekly paclitaxel in combination with carboplatin for advanced non-small cell lung cancer with idiopathic interstitial pneumonias. *Lung Cancer* 2011 ; 71 (1) : 70-74.
- 5) 阿曾亮子, 吉村明修, 志村俊郎, 瀧澤俊広¹, 明樂重夫², 儀我真理子³, 八木正敏, 滋野恭子⁴, 伊藤高司⁴ (1) 解剖学 1, (2) 産婦人科学, (3) 数学, (4) 情報科学センター) : 日本医科大学における学生による授業評価の実施状

況と意義の検討. 日医大医会誌 2010; 6 (4) : 169-173.

- 6) 志村俊郎 : 第 42 回日本医学教育学会大会の運営報告. 医学教育 2010; 41 (6) : 453-456.
- 7) 志村俊郎, 吉井文均¹⁾, 吉村明修, 阿部恵子²⁾, 高橋優三²⁾, 佐伯晴子³⁾, 藤崎和彦²⁾, 阿曾亮子, 井上千鹿子⁽¹⁾ 東海大学, ²⁾ 岐阜大学, ³⁾ 東京 SP 研究会) : 医学部・医科大学における模擬患者・標準模擬患者養成および参加型教育に関する実態調査 第 16 期日本医学教育学会教材開発・SP 委員会. 医学教育 2011; 42 (1) : 29-35.

(2) 総説 :

- 1) 岩崎 一¹⁾, 志村俊郎⁽¹⁾ 日本医科大学医史学研究会) : 藩閥政治の日本医学校に与えた影響日本医学校創立者山根正次校長と苦難の学校経営. 日本医科大学同窓会報 2010; 358 : 8-8.
- 2) 志村俊郎, 唐沢信安¹⁾, 殿崎正明¹⁾, 寺本 明²⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学医史学教育研究会, ²⁾ 脳外科) : 医術開業後期試験と済生学舎の臨床技能教育. 日本医史学雑誌 2010; 56 (2) : 255-255.
- 3) 志村俊郎, 吉村明修 : 田尻孝学長を大会長に第 42 回日本医学教育学会大会を開催. 日本医科大学同窓会報 2010; 361 : 3-3.
- 4) 志村俊郎 : 第 42 回日本医学教育学会大会を終えて. View 2010; 138 : 23-23.
- 5) 吉村明修 : 外来診療における医療面接とコミュニケーション. 呼吸器内科 2011; 18 (1) : 180-185.
- 6) 殿崎正明¹⁾, 唐沢信安²⁾, 志村俊郎⁽¹⁾ 図書館, ²⁾ 日本医科大学医史学教育研究会) : 塩田広重学長と「磯部検三日記」. 日本医科大学同窓会報 2011; 362 : 6-6.
- 7) 唐沢信安¹⁾, 志村俊郎, 殿崎正明²⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学医史学教育研究会, ²⁾ 図書館) : 磯部検三と加藤時次郎について. 日本医科大学同窓会報 2011; 363 : 6-6.

著 書

- 1) 足立好司¹⁾, 志村俊郎⁽¹⁾ 脳外科) : [分担] 4 頭痛. 話せる医学英語 (荒木勤, 田尻孝, 矢沢珪二郎監修), 2010; pp22-32, 金原出版.
- 2) 服部久弥子¹⁾, 吉村明修⁽¹⁾ 内科) : [分担] 6 呼吸困難. 話せる医学英語 (荒木勤, 田尻孝, 矢沢珪二郎監修), 2010; pp49-60, 金原出版.
- 3) 吉村明修, 志村俊郎 : 第 1 部 現状と振り返り 4 卒前教育技法 2. シミュレータ. 医学教育別冊 医学教育白書, 2010; pp44-46.
- 4) 志村俊郎, 吉井文均 : 第 3 部 日本医学教育学会の活動 2. 委員会報告 8. 教材開発・SP 委員会報告. 医学教育別冊 医学教育白書, 2010; pp275-275.
- 5) 志村俊郎¹⁾ : [分担] はじめに. スキルスラボハンドブック 2010-2011 (志村俊郎/高橋優三監修), 2010; pp1-1, 日本 M&S 医学教育研究会.
- 6) 井上千鹿子, 志村俊郎 : [分担] 第 1 章スキルスラボ管理運営の基礎. スキルスラボにおけるシミュレーション教育. スキルスラボハンドブック 2010-2011 (志村俊郎/高橋優三監修), 2010; pp8-9, 日本 M&S 医学教育研究.
- 7) 吉村明修 : [分担] 第 2 章実習のセッティング例. 13 胸腔穿刺. スキルスラボハンドブック 2010-2011 (志村俊郎/高橋優三監修), 2010; pp34-34, 日本 M&S 医学教育研究会.
- 8) 阿曾亮子 : [分担] 第 3 章各施設の設備運営例 4. 日本医科大学. スキルスラボハンドブック 2010-2011 (志村俊郎/高橋優三監修), 2010; pp43-43, 日本 M&S 医学教育研究会.

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) 志村俊郎 : BLS と AED の使い方. みんな救 BLS・AED 講習会 (千葉県市川市立富美浜小学校), 2010. 11.
- 2) 志村俊郎 : OSCE の実際と獣医学教育への応用. FD 講演会 (日本獣医生命科学大学), 2010. 12.

(2) シンポジウム：

- 1) 志村俊郎：医学部における臨床実習の早期導入に至った経緯とその現状。シンポジウム 動き出した法曹養成と医師養成の連携：臨床方法論による専門職教育の課題（東京），2010. 5.
- 2) 吉村明修，志村俊郎，吉井文均¹⁾，高橋優三²⁾，佐伯晴子³⁾，阿部恵子²⁾，藤崎和彦²⁾，阿曾亮子，井上千鹿子⁽¹⁾ 東海大学，²⁾ 岐阜大学，³⁾ 東京 SP 研究会）：医学部・医科大学における模擬患者養成および模擬患者参加型教育の実態調査。第42回医学教育学会大会（東京），2010. 7.

(3) パネルディスカッション：

- 1) 横田裕行¹⁾，吉村明修，志村俊郎，内藤善哉²⁾（¹⁾ 救急医学，²⁾ 教育委員会）：日本医科大学における臨床実習とシミュレーション医学教育。第42回医学教育学会大会（東京），2010. 7.

(4) 一般講演：

- 1) 阿曾亮子，井上千鹿子，吉村明修，八木正敏，日高廣人¹⁾，高柳和江²⁾，吾妻安良太³⁾，志村俊郎（¹⁾ 日本医科大学 SP，²⁾ 東京医療保健大学，³⁾ OSCE 実行委員会）：共用試験 OSCE のトレーニングにおける SP の演技の標準化方法の実施とその評価。第42回日本医学教育学会（東京），2010. 7.
- 2) 井上千鹿子，阿曾亮子，吉村明修，日高廣人¹⁾，志村俊郎（¹⁾ 日本医科大学 SP）：模擬患者（SP）養成における「ふりかえりシート」の試み。第42回日本医学教育学会（東京），2010. 7.
- 3) 佐藤 寛¹⁾，若竹キミイ¹⁾，関久美子¹⁾，田子島一郎¹⁾，伊東真澄¹⁾，川口信子¹⁾，河野有花里¹⁾，阿曾亮子，井上千鹿子，吉村明修，志村俊郎（¹⁾ 日本医科大学 SP）：日本医科大学における SP の参加と継続の動機のアンケート。第42回日本医学教育学会（東京），2010. 7.
- 4) 日高廣人¹⁾，大道英子¹⁾，伊東泰夫¹⁾，犬股紘一¹⁾，大野文子¹⁾，粕谷尅由¹⁾，座間美里¹⁾，阿曾亮子，井上千鹿子，吉村明修，志村俊郎（¹⁾ 日本医科大学 SP）：日本医科大学の市民参加型医療面接実習における SP の自己評価。第42回日本医学教育学会（東京），2010. 7.
- 5) 牟田 実¹⁾，浅野良雄¹⁾，植木慶子¹⁾，金原和也¹⁾，仙田佳子¹⁾，高槻真知子¹⁾，田巻 光¹⁾，仲家増美¹⁾，松澤美和¹⁾，結城英実¹⁾，阿曾亮子，井上千鹿子，吉村明修，志村俊郎（¹⁾ 日本医科大学 SP）：日本医科大学の医療面接実習における模擬患者からのフィードバックの現状。第42回日本医学教育学会（東京），2010. 7.
- 6) 内山沙央里¹⁾，阿曾亮子，町田 幹²⁾，吉村明修，志村俊郎（¹⁾ 医学部学生，²⁾ 放射線科）：日本医科大学における模擬患者との医療面接実習に関する学生の意識調査。第42回日本医学教育学会（東京），2010. 7.
- 7) 井上千鹿子，阿曾亮子，吉村明修，志村俊郎，神津忠彦¹⁾（¹⁾ 東京女子医科大学）：デルファイ法を用いた教育への貢献度点数化と教員評価項目の探索。第42回日本医学教育学会（東京），2010. 7.
- 8) 出川龍哉¹⁾，藤澤洋輔¹⁾，山本 剛²⁾，阿曾亮子，井上千鹿子，吉村明修，志村俊郎（¹⁾ みんなで学ぼう救急救命，²⁾ 集中治療室）：日本医科大学みんなで学ぼう救急救命の活動へのモチベーションのアンケート調査。第42回日本医学教育学会（東京），2010. 7.
- 9) 伊藤高司¹⁾，早坂明哲¹⁾，奥重秀彦¹⁾，滋野恭子¹⁾，阿曾亮子，吾妻安良太²⁾，志村俊郎（¹⁾ 情報科学センター，²⁾ OSCE 実行委員会）：学内公開の OSCE 「教育・学習用 DVD」へのアクセス記録にみる学生の学習態度。第42回日本医学教育学会（東京），2010. 7.
- 10) 足立好司¹⁾，吉村明修，阿曾亮子，志村俊郎，寺本 明¹⁾（¹⁾ 脳外科）：シミュレーターを用いた腰椎穿刺講習の臨床技能教育効果。第42回日本医学教育学会（東京），2010. 7.
- 11) 小齊平聖治¹⁾，森本泰介¹⁾，田中 徹¹⁾，弦間昭彦¹⁾，阿曾亮子，吉村明修，志村俊郎，横田裕行²⁾（¹⁾ 内科学，²⁾ 救急医学）：研修医の臨床技能教育のための胸腔ドレナージ講習会。第42回日本医学教育学会（東京），2010. 7.
- 12) 吉村明修：研修医の臨床技能教育のための胸腔ドレナージ講習会。第7回日本 M&S 医学教育研究会学術大会（東京），2010. 9.

2. 図書館

研究概要

図書館で扱う冊子および電子資料の評価収集、利用者のニーズの分析、データベース、電子ジャーナル等をはじめとする情報提供サービス等の調査研究、インターネットリテラシー教育等に関する研究を主として行う。中でも日本における学術コミュニケーションにおける学術雑誌の役割、今後のあり方に関する問題点の調査分析を経年的に行って来ている。

また、特に図書館で扱う本学の歴史に関係する資料の収集・評価およびそれらを用いた研究・調査をも行い、明治期における本学の歴史的役割および同窓生の社会に与えた足跡等の調査分析を進めている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 殿崎正明, 唐沢信安, 志村俊郎：塩田広重学長と「磯部検三日記」. 日本医史学雑誌 2010；56 (2)：257-257.
- 2) 岩崎 一, 唐沢信安, 殿崎正明, 志村俊郎：藩閥政治の日本医学校に与えた影響 日本医学校創立者山根政次校長と苦難の学校経営. 日本医科大学同窓会報 2010；(358)：8-8.
- 3) 唐沢信安, 志村俊郎, 殿崎正明：磯部検三と加藤時次郎について. 日本医史学雑誌 2010；56 (2)：256-256.
- 4) 志村俊郎, 唐沢信安, 殿崎正明, 寺本 明：医術開業後期試験問題と済生学舎の臨床技能教育. 日本医史学雑誌 2010；56 (2)：255-255.

(2) 総説：

- 1) 殿崎正明：日本における研究成果発表の問題点と対応策 税金で研究した研究成果の掲載料も税金で払い 利用するためにまた税金で高額学術雑誌を購入するという税金の無駄使いを止め 日本発の国際的な一流の学術雑誌を創出しよう. オンライン検索 2010；31 (1/2)：1-6.

(3) 一般講演：

- 1) 殿崎正明, 志村俊郎, 大國 寿, 唐沢信安：野口英世の済生学舎時代の足跡に関する教育と学生の反応. 医学教育 2010；41 (Suppl)：129-129.

著書

- 1) 殿崎正明：〔自著〕情報検索演習第8版, 2010；pp1-133, 恒星社.
- 2) 殿崎正明：〔編集〕医学図書館. 図書館年鑑 (日本図書館協会図書館年鑑編集委員会), 2010；pp86-89, 社団法人 日本図書館協会.

付 表

1. 各種研究費補助金・研究助成金交付状況

1) 平成 22 年度科学研究費補助金交付決定一覧

※は前年度から継続

研究種目	研究代表者	所属・職	直接経費： 千円	研究課題名
基盤研究 (B)	大久保善朗	精神・行動医学・大学院教授	3,100	※分子イメージングによる統合失調症のドーパミン神経伝達異常の解明
〃	原 行弘	千葉北総病院リハビリテーション科・教授	4,000	※Cybernetic orthosis の開発とニューロ・リハビリテーション
〃	太田 成男	細胞生物学・大学院教授	4,300	※新しい概念の抗酸化物である水素を摂取することによる生活習慣病予防への新展開
〃	村田 智	放射線医学・准教授	1,600	※難治性膀胱がんに対する革新的膀胱灌流療法システムの開発
〃	瀧澤 俊広	分子解剖学・大学院教授	2,800	※胎盤特異的マイクロ RNA の機能解析と異常妊娠早期診断への臨床応用のための基盤研究
〃	寺本 明	神経病態解析学・大学院教授	2,900	※下垂体腺腫における miRNA 発現と mRNA の制御に関する研究
〃	佐久間康夫	システム生理学・大学院教授	7,300	性ホルモンによる脳内神経回路の再構成が思春期に固有の社会行動を発現する機序の解明
〃	田中 信之	遺伝子制御学・大学院教授	5,400	グルコース代謝の制御を介した癌化の誘導と p53 による癌化抑制機構の解析
〃	島田 隆	分子遺伝医学・大学院教授	7,800	重篤な遺伝病に対する周産期遺伝子治療 (胎児遺伝子治療に向けた包括的取り組み)
基盤研究 (C)	林田眞喜子	法医学・准教授	600	※質量分析の新技法を用いたベンゾジアゼピン系薬物分析法の再構築
〃	飯島 典生	解剖学 (生体構造学)・准教授	1,000	※GnRH ニューロンにおける形態変動解析のための機能科学的アプローチ
〃	洲鎌 秀永	生理学 (生体統御学)・講師	600	※ストレスによるミクログリア活性化メカニズムの解明
〃	上村 尚美	老人病研究所 (生化学部門)・講師	1,000	※糖尿病の予防・改善における水素の効果
〃	後藤 忠	解剖学 (分子解剖学)・准教授	200	※携帯電話を用いた画像学習システムの実践的研究
〃	中村 哲子	英語・准教授	500	※アイルランド小説における女性身体と女性空間をめぐる研究
〃	岡 敦子	生物学・教授	700	※トランスジェニックカエルを用いた消化管上皮幹細胞のニッチに関する研究
〃	石橋 宰	解剖学 (分子解剖学)・講師	700	※マイクロ RNA の選択的輸送に関する分子解剖学的動態解析とその病態診断への応用
〃	折笠千登世	生理学 (システム生理学)・助教	1,300	※エストロゲンで誘導される神経細胞移動と脳の性差形成
〃	岡本 研	生化学・分子生物学 (代謝・栄養学)・准教授	500	※スーパーオキシド超産生型 XOR 変異酵素ノックインマウスを用いた病態生化学的研究

〃	川田 智之	環境医学・大学院教授	500	※交替制勤務者の睡眠習慣・インスリン抵抗性とメタボリック症候群に関する研究
〃	長谷場 健	法医学・准教授	1,100	※新たなアルコール代謝酵素クラス3ADHのアルコール生体反応感受性における役割
〃	平川 慶子	法医学・助教	800	※MRI装置を用いた死後画像診断におけるスペクトルデータの活用に関する基盤研究
〃	高野 仁司	内科学(循環器・肝臓・老年・総合病態部門)・講師	900	※ヒトにおける虚血プレコンディショニングの心筋保護効果の機序に関する検討
〃	清野 精彦	千葉北総病院内科・教授	1,100	※冠動脈先端画像解析によるマルチバイオマーカーストラテジーの開発
〃	高木 元	内科学(循環器・肝臓・老年・総合病態部門)・助教	1,000	※難治性血管炎に対する新規治療法開発
〃	片山 泰朗	神経・腎臓・膠原病リウマチ学・大学院教授	800	※脳虚血後における新規脳保護薬・骨髄細胞移植併用の神経再生増強効果の研究
〃	三品 雅洋	千葉北総病院内科・講師	700	※PETによるアデノシン受容体のドパミン調節機構と抗パーキンソン病薬副作用の関係
〃	山崎 峰雄	内科学(神経・腎臓・膠原病リウマチ部門)・准教授	1,000	※軽度認知障害の原因疾患としての海馬硬化性認知症の臨床・分子病理学的研究
〃	芝崎 保	生体統御科学・大学院教授	800	※グレリン受容体発現抑制遺伝子改変ラットを用いたグレリンのエネルギー蓄積機構の解明
〃	田村 秀人	内科学(血液・消化器・内分泌代謝部門)・助教	700	※骨髄腫細胞の発現する補助刺激分子群(B7系分子など)とそのシグナル:病態への関与
〃	三宅 紀子	生化学・分子生物学(分子遺伝学)・技術主査補	1,100	※リソゾーム病の神経病変を標的とした新規骨髄移植法の開発
〃	三宅 弘一	生化学・分子生物学(分子遺伝学)・准教授	1,100	※ダイヤモンド・ブラックファン貧血のモデル動物作製と新規治療法(遺伝子治療)の開発
〃	勝部 康弘	武蔵小杉病院小児科・准教授	800	※酸素感受性蛋白質の発見に向けて—プロテオミクス解析からのアプローチ—
〃	深澤 隆治	多摩永山病院小児科・准教授	800	※川崎病発症時のサイトカイン動態究明による新しい抗サイトカイン療法の開発
〃	齊藤 卓弥	精神医学・准教授	1,200	※MRIを用いた児童思春期うつ病における脳形態に関する前方視研究
〃	横田 裕行	侵襲生体管理学・大学院教授	600	※ポテンシャルドナーを増やすための補助検査を用いた脳死判定に関する研究
〃	松谷 毅	多摩永山病院消化器外科・乳腺外科・一般外科・助教	1,100	※手術侵襲後の性差医療における脂肪細胞の役割とピオグリタゾン投与の有効性
〃	内田 英二	臓器病態制御外科学・大学院教授	800	※In vivoイメージングシステムを用いた膵癌実験モデルおよびその応用
〃	工藤 光洋	病理学(統御機構・腫瘍学)・講師	800	※膵臓外幹細胞による膵β細胞の分化誘導の検討

〃	井村 肇	外科学 (内分泌・心臓血管・呼吸器部門)・准教授	900	※未熟心筋に対する常温下心筋保護の研究：ミトコンドリア保護の重要性とその臨床応用
〃	新田 隆	外科学 (内分泌・心臓血管・呼吸器部門)・教授	1,000	※左心房容量負荷モデルにおける肺静脈隔離の心房細胞発生子防効果の検討
〃	吉田 大蔵	脳神経外科学・准教授	700	※下垂体腺腫の増殖における SDF-1 の役割に関する分子形態学的研究
〃	高橋 弘	武蔵小杉病院脳神経外科・教授	1,200	※NMR によるメタボロミクス (メタボローム) 解析は脳腫瘍の悪性転化を予測する
〃	坂本 篤裕	疼痛制御麻酔科学・大学院教授	500	※麻酔薬・麻酔法による体内遺伝子, 蛋白, 代謝物変動の総括的検討
〃	清水 章	病理学 (解析人体病理学)・准教授	700	※免疫寛容導入による自然抗原ノックアウトミニプタからヒヒへの異種腎臓移植の免疫応答
〃	竹下 俊行	女性生殖発達病態学・大学院教授	1,000	※卵胞顆粒膜細胞に特異的なマイクロ RNA の卵胞成熟における機能解析とその臨床応用
〃	市川 雅男	産婦人科学・助教	800	※妊娠中の肝機能異常における自己傷害性 T 細胞の関与の検討
〃	齋藤 文仁	薬理学・准教授	900	※モノアミン・セクレチンで制御されるシナプス伝達とその異常
〃	三上 俊夫	スポーツ科学・准教授	1,000	※身体運動は脳での血管新生を促進して学習記憶能力の低下やうつ様行動を改善するか否か
〃	勝又 聖夫	衛生学・公衆衛生学・助教	500	※受動喫煙のストレス評価を唾液中カテコールアミン代謝物等で行う研究
〃	若林あや子	微生物学・免疫学・助教	900	※アルミニウム含有食品添加物の摂取による卵白アルブミン特異的なアレルギー反応の誘導
〃	西谷 里美	生物学・講師	1,600	※冬緑性草本ヒガンバナの, 夏季における栄養塩吸収の意義
〃	長田 真一	皮膚科学・助教	1,000	※上皮間葉相互作用を制御するシグナル経路における Sox13 の役割
〃	李 英姫	衛生学・公衆衛生学・助教	1,000	※ディーゼル排気粒子による酸化ストレスのマウス肺線維症病態への寄与に関する研究
〃	稲垣 弘文	衛生学・公衆衛生学・講師	500	※ヒト血漿中グランザイム 3 は炎症反応のマーカーとなるか
〃	二神 生爾	内科学 (血液・消化器・内分泌代謝部門)・助教	1,100	※MCP-1 を介した間葉系幹細胞による胃癌組織へのホーミング分子機構の解析
〃	弦間 昭彦	呼吸器感染腫瘍内科学・大学院教授	1,000	※シグナル情報解析を用いた肺癌分子標的治療感受性予測法の開発とイメージング
〃	清家 正博	内科学 (呼吸器・感染・腫瘍部門)・講師	600	※肺癌に対するマイクロ RNA を用いた薬剤感受性予測と治療法の開発
〃	及川 真一	内科学 (血液・消化器・内分泌代謝部門)・教授	1,100	※酸化ストレス応答とリン脂質酸化変性の意義—単球/マクロファージ接着亢進機序の解明

〃	永野 昌俊	薬理学・講師	1,200	※発達障害に対する科学的根拠に基づいた薬物早期介入療法開発の基礎的研究
〃	伊藤 敬雄	精神医学・講師	1,100	※自殺予防対策のための効果的な医学教育法の開発
〃	田島 廣之	武蔵小杉病院放射線科・教授	800	※重症静脈血栓塞栓症に対するハイブリッド IVR 治療システムの新たな研究展開
〃	宮下 正夫	外科学(消化器・一般・乳腺・移植部門)・教授	1,000	※食道扁平上皮癌における SnoN と miRNA に関する分子生物学的解析
〃	石川 朋子	解剖学(分子解剖学)・助教	1,100	※肝内胆管癌におけるマイクロ RNA の役割解明とバイオマーカー開発のための分子基盤
〃	瀧澤 敬美	解剖学(分子解剖学)・助教	1,100	※莖膜細胞特異的マイクロ RNA の機能解析: 卵胞の転写後調節と PCOS での役割解明
〃	池園 哲郎	耳鼻咽喉科学・准教授	1,100	※内耳疾患診断のバイオマーカー CTP —迅速検出法の開発と臨床応用—
〃	Ruby Pawankar	耳鼻咽喉科学・准教授	700	※鼻アレルギー発症機序における上皮細胞の新たな役割—T 細胞, 樹状細胞との相互作用
〃	野中 学	多摩永山病院耳鼻咽喉科・准教授	1,000	※鼻副鼻腔線維芽細胞に特徴的に発現するマイクロ RNA の同定とその役割の解明
〃	小原澤英彰	武蔵小杉病院眼科・准教授	1,200	※ラット網膜虚血—再還流モデルにおける水素点眼の網膜神経保護効果の研究
〃	M GHAZIZADEH	老人病研究所(病理部門)・准教授	800	※cAbl チロジンキナーゼ抑制によるケロイドの新しい分子治療の確立と発症機序の解明
〃	土佐眞美子	武蔵小杉病院形成外科・助教	1,100	※ケロイド発生に関与する IL-23/IL-17 免疫経路の役割解明と新治療の確立
〃	恩田 秀賢	救急医学・助教	700	※脳代謝モニタリング・網羅的脳代謝解析に基づく心肺停止蘇生後の病態及び治療の研究
〃	小林 克典	薬理学・講師	900	抗うつ薬の作用基盤としての海馬神経幼若化の解析
〃	大林 茂	千葉北総病院リハビリテーション科・助教	1,700	マルチモダル・イメージングを用いた経頭蓋直流電気刺激効果の生体分子メカニズム
〃	西槇貴代美	老人病研究所(生化学部門)・技術主査	1,200	酸化ストレス亢進マウスを用いた水素分子による認知症予防効果
〃	平田紀美子	衛生学・公衆衛生学・研究技術員	2,000	女性, 特に妊産婦に対する POCT を用いたインパクトのある継続的な禁煙支援法の構築
〃	藤崎 弘士	物理学・講師	800	生体分子の量子ダイナミクス: その理論的解明と制御
〃	近藤 保彦	生理学(システム生理学)・講師	900	視床下部神経ペプチドによるげっ歯類性社会行動の調節機構
〃	小澤 一史	生体制御形態科学・大学院教授	1,500	思春期発達の性機能神経制御と摂食, ストレス神経制御の三次元機能形態相関の解析

〃	鈴木 秀典	神経情報科学・大学院教授	1,500	前頭前野セロトニン神経系を標的とした精神疾患治療薬開発の基盤研究
〃	茂木 孝	呼吸ケアクリニック・助教	700	慢性閉塞性肺炎患の診療における医療の質を保証するためのシステム構築に関する研究
〃	李 卿	衛生学・公衆衛生学・講師	900	カーバメイト系農薬による免疫毒性及びその機序
〃	木田 厚瑞	呼吸ケアクリニック・教授	2,600	喫煙関連呼吸器疾患へのニコチン受容体遺伝子多型の関与の検討
〃	寺崎 泰弘	病理学（解析人体病理学）・講師	1,700	水素分子の抗酸化力を利用した肺炎患の新しい治療と予防
〃	永田(仁藤)智香子	内科学（神経・腎臓・膠原病リウマチ部門）・助教	2,200	脳虚血後の神経細胞死と血管新生における CDK5 活性の役割とその制御機構
〃	猪口 孝一	千葉北総病院内科・教授	1,900	MLL-AF4 白血病の S100A6 分子病態と新規分子標的薬の開発
〃	浅田 穰	薬理学・講師	1,300	Brp2 遺伝子は Ras-MAPK 症候群の原因遺伝子か？モデルマウスと遺伝子解析
〃	植田 高弘	小児科学・講師	1,600	ヒト人工骨髄の作成と造血幹細胞・白血病幹細胞のニッチの解析研究
〃	船坂 陽子	皮膚科学・准教授	2,200	悪性黒色腫形成・増殖に関わるシグナルの同定、特に紫外線誘発黒色腫形成機序の解明
〃	西條 朋行	精神医学・助教	1,400	電気けいれん療法前後の脳内ドーパミン受容体についての研究
〃	舘野 周	精神医学・講師	2,000	神経メラニン MRI を用いた難治性うつ病のドーパミン、ノルアドレナリン機能評価研究
〃	山下 浩二	外科学（内分泌・心臓血管・呼吸器部門）・准教授	1,800	SPECT 合成 3D-CT 乳腺リンパ管造影によるセンチネルリンパ節生検の検証
〃	平方 敦史	多摩永山病院消化器外科・乳腺外科・一般外科・助教	1,300	大動物モデルによる膵島移植の免疫学的特異性に基づいた非侵襲的免疫寛容誘導法の確立
〃	石渡 俊行	病理学（統御機構・腫瘍学）・准教授	1,000	FGFR2IIIc アイソフォームの制御による膵臓癌の治療戦略
〃	渡邊 淳	生化学・分子生物学（分子遺伝学）・講師	1,600	遺伝子変異型により分類化した血管型エーラス・ダンロス症候群の治療手法の開発
〃	高橋 秀実	生体防御医学・大学院教授	1,700	膀胱癌に対する BCG 注入療法作用機序の解明
〃	澤 倫太郎	産婦人科学・講師	1,300	胎児血管特性を応用したアデノシン誘導型 DES の開発
〃	高橋 浩	感覚器視覚機能医学（眼科学）・大学院教授	1,300	眼科手術用灌流液への水素ガス応用の研究
〃	清水 一	老人病研究所（病理部門）・研究技術主幹	1,300	ケロイドにおける COLIA2 プロモーターの転写に関わる microRNA の発現調節
〃	赤石 諭史	形成外科学・講師	1,500	ケロイド組織における神経原性炎症の解析
〃	百束 比古	形態機能再生再建医学（形成外科学）・大学院教授	1,300	顎骨における水平的骨増生を目指した組織工学的手法の検討

〃	久志本茂樹	救急医学・教授	1,200	急性肺損傷の治療法確立に向けた肺内水分動態と網羅的気道上皮代謝物解析に関する研究
〃	佐藤 格夫	多摩永山病院救命救急センター・助教	1,500	敗血症病態における画像を用いた生体内熱エネルギー動態と生体内代謝動態の可視化
〃	増野 智彦	救急医学・助教	1,400	ショック後腸管リンパ液生理活性および臓器障害に対する腸管由来アラキドン酸の関与
挑戦的萌芽研究	小管 拓治	解剖学（分子解剖学）・研究技術員	700	※診断ツールの開発を目指した抗リン脂質抗体に対する栄養膜マイクロRNAの動態解析
〃	小野 眞史	眼科学・准教授	500	※ドライマウスによる嚥下困難感の他覚的定量評価
〃	岩崎 俊雄	生化学・分子生物学（代謝・栄養学）・講師	1,200	※細菌型 mitoNEET 新規構造に立脚したレドックスシステム生理学的解析
〃	水野 博司	形成外科学・准教授	1,400	※成体組織由来極小胚性幹細胞様細胞の探索
〃	長谷川敏彦	医療管理学・大学院教授	2,400	「人口転換」「疾病転換」「健康転換」理論からみた新概念「生存転換」の研究
〃	大久保善朗	精神・行動医学・大学院教授	1,200	サブスタンスP受容体を標的とした新規アルコール依存症治療薬の探索と脳機能画像評価
若手研究 (A)	松田 陽子	病理学（統御機構・腫瘍学）・講師	2,700	幹細胞マーカー Nestin を標的とした膀胱癌新規治療の開発
若手研究 (B)	石井 健男	呼吸ケアクリニック・助教	800	※慢性閉塞性肺疾患の鬱症状を規定する遺伝子の探索
〃	小川 真司	千葉北総病院リハビリテーション科・助教	600	※脳磁図—運動誘発磁場—を利用した、訓練による運動学習効果の研究
〃	白石振一郎	救急医学・助教	1,000	※急性腸間膜虚血の腸管 VIABILITY 評価と救命率向上にむけた治療戦略の構築
〃	鈴木 由香	老人病研究所（疫学部門）・助教	1,000	※タンパク質栄養状態の悪化による肝臓のインスリン活性増強機構の解明とその生理的意義
〃	大塚 俊昭	衛生学・公衆衛生学・講師	1,300	※職業性ストレスによる心血管疾患発症機序の解明：マルチバイオマーカーを用いた検討
〃	一宮 哲哉	精神医学・助教	1,000	※側頭葉てんかんにおけるドーパミン受容体の変化と精神症状の関連に関する PET 研究
〃	池田裕美子	薬理学・助教	1,000	※予後因子としての神経栄養因子動態に基づく難治性うつ病に対する電気痙攣療法の最適化
〃	松下 晃	多摩永山病院消化器外科・乳腺外科・一般外科・助教	1,100	※膀胱癌に対する neuropilin-1 を標的とした新たな治療法の開発
〃	坂本俊一郎	外科学（内分泌・心臓血管・呼吸器部門）・助教	1,000	※心房細動治療における除神経術：心内膜下自律神経ネットワークの解明
〃	川島 徹生	多摩永山病院呼吸器外科・助教	1,100	※肺癌制御における CD1 脂質抗原提示系の役割

〃	金 景成	千葉北総病院脳神経外科・助教	900	※腰椎黄色靭帯における血管新生及び血管増生に関する研究
〃	新藤 晋	耳鼻咽喉科学・助教	600	※新しい外リンパ瘦診断マーカー CTP の時空間的発現の検討
〃	北原 由紀	多摩永山病院眼科・助教	1,300	※羊膜由来幹細胞の移植による網膜再生
〃	江浦 重義	形成外科学・助教	1,000	※ビスフォスフォネート誘発顎骨壊死に対する幹細胞治療の開発
〃	中島 早苗	老人病研究所(生化学部門)・特別研究生	2,200	運動のもたらす抗うつ効果は肝臓での HIF-1 α 由来の VEGF 生成と関係するか否か
〃	石井 寛高	生理学(システム生理学)・助教	900	神経系における核外エストロゲン受容体を介したエストロゲン急性作用機構の解明
〃	山本 哲志	病理学(統御機構・腫瘍学)・助教	1,500	ルミカンの糖鎖制御による膵臓癌細胞増殖・転移機構制御法の開発と治療応用
〃	林 明聡	内科学(循環器・肝臓・老年・総合病態部門)・助教	2,000	肺静脈隔離術後早期に出現する心房細動に対する抗不整脈薬の有用性の検討
〃	早川 潤	多摩永山病院小児科・助教	1,300	ヘモグロビクラススイッチの解明とヘモグロビン異常症の新しい治療戦略の基礎的研究
〃	眞野あすか	生理学(生体統御学)・助教	1,400	新しい薬物治療を目指した神経性食欲不振症の病態でのグレリンと CRF の役割の解明
〃	伊藤 滋朗	武蔵小杉病院精神科・助教	1,600	HIV 陽性者に関する神経機能画像研究
〃	水谷 聡	武蔵小杉病院消化器病センター・助教	500	消化器癌のミトコンドリア DNA 変異と抗癌剤耐性との関連を分子生物学的に解明する
〃	坂井 敦	薬理学・助教	1,300	GDNF による下行性ノルアドレナリン神経機能の強化を介した鎮痛の検討
〃	彭 為霞	病理学(統御機構・腫瘍学)・助教	1,400	FGFR2IIIc アイソフォームの発現制御による子宮頸癌の新たな治療戦略
〃	菊池 邦生	解剖学(分子解剖学)・助教	1,200	胎盤におけるマイクロ RNA 発現メカニズムと機能解析: IUGR の新たな分子基盤研究
〃	アリモハメド	解剖学(分子解剖学)・助教	1,100	胎盤特異的マイクロ RNA による新たな T 細胞制御の仕組み解明への挑戦
〃	関根 久遠	武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・助教	1,300	内耳疾患における miRNA の機能解明と新たな診断マーカーの開発
〃	小川 令	形成外科学・准教授	1,900	静水圧を負荷した脂肪組織由来幹細胞による生体内軟骨再生
特別研究員 奨励費(外国人)	百束 比古	形態機能再生再建医学(形成外科学)・大学院教授	900	脂肪組織幹細胞と高気圧酸素併用療法による褥瘡治療研究

2) 平成 22 年度科学研究費補助金交付決定一覧（追加分）

※は前年度から継続

研究種目	研究代表者	所属・職	直接経費： 千円	研究課題名
基盤研究 (C)	濱田 知宏	生理学 (システム生理学)・ 助教	1,300	視策前野性的二型核形成過程の可視化による性分化機構の解明
〃	木山 裕子	生理学 (システム生理学)・ 講師	1,200	脳の性的二型形成におけるエストロゲン制御シグナル伝達経路の解明
〃	雪吹 周生	千葉北総病院内科・講師	1,000	心筋梗塞地域連携クリニカルパスにおける 2 次予防戦略は心血管イベント抑制に有効か？
〃	相本 隆幸	外科学 (消化器・一般・乳腺・ 移植部門)・准教授	1,000	膵癌に対する MDA/IL24 を用いた新規遺伝子治療の開発

3) 平成 22 年度科学研究費補助金研究分担の採択・交付状況

研究分担者・所属	研究種目	研究代表者・所属	研究課題名
1 山崎 峰雄 内科学（神経・ 腎臓・膠原病リ ウマチ部門）	基盤研究（B）	小柳 清光 信州大学 医学部	筋萎縮性索硬化症の運動ニューロン 死：リボゾーム RNA 遺伝子転写と TDP-43
2 服部 幹彦 整形外科	基盤研究（C）	香川 隆英 森林総合研究所 森林 管理研究領域	森林セラピー基地整備が中山間自治体 に与える効果の多元的モニタリング研 究
3 吉本 正美 解剖学（生体構 造学）	〃	山本 直之 名古屋大学 大学院生 命農学研究科	魚類の味覚および内臓感覚神経路—感 覚系の全貌理解を目指して—
4 大久保善朗 精神医学	〃	苅部 洋行 日本歯科大学 生命歯 学部	脳機能イメージングを用いた口腔内慢 性疼痛の新しい診断法と治療効果の客 観的評価
5 鈴木 秀典 薬理学	〃	〃	〃
6 館野 周 精神医学	〃	〃	〃
			補助金直接経費合計額 1,350,000 円

4) 平成 22 年度各種補助金の交付状況一覧〔内訳〕

単位：千円

項 目	平成 22 年度		
	本学負担額	補助金額	総事業費
私立大学等経常費補助金特別補助（私立学校振興・共済事業団執行分）			
I 各大学等の特色を活かせるきめ細やかな支援			
1 大学等の質向上メニュー			
(1) 大学教育の質向上への一体的な取組支援 ※教育・学習方法等改善支援（継続分）	3,306	3,079 2,594	5,900
2 学部教育の高度化・個性化支援メニュー			
(1) インターンシップの推進		3,757	
3 就学機会の多様化推進メニュー			
(1) 社会人の入学の推進		2,505	
(2) 障がい者の入学の推進		179	
4 大学院教育研究高度化支援メニュー			
(1) 大学院教育の実質化の推進			
1) 大学院教育の実質化の推進		152,353	
2) 夜間大学院等		186	
(2) リサーチ・アシスタント、ポストドクター等支援			
1) リサーチ・アシスタント、ポストドクター	56,981	31,219	88,200
(3) ティーチング・アシスタント支援	4,849	2,351	7,200
5 先端学的術研究推進メニュー			
(1) 研究施設・設備等運営支援			
1) 研究施設	42,402	34,171	76,573
2) 大型設備等	6,405	4,830	11,235
(2) 教員の流動化促進支援			
1) 教員の異動に伴う教育研究環境整備		1,417	
2) 任期付教員による研究の支援		10,734	
(3) 戦略的研究基盤形成支援事業	103,988	111,012	215,000
6 地域活性化貢献支援メニュー			
(1) 地域社会のニーズに応える人材養成支援		2,863	
(2) 総合的な地域活性化事業支援		407	
7 大学等の国際化推進メニュー			
(1) 世界を舞台に活躍する人材養成支援		2,836	
8 高度情報化推進メニュー			
(1) ICT 活用教育研究支援		16,437	
合計	217,931	382,930	404,108
私立学校等における施設・装置・設備関係補助（文部科学省）			
1 教育研究装置施設整備費			
(1) 研究装置			
①戦略分	41,830	35,000	76,830
②一般分	57,770	30,983	88,753
2 研究設備等整備費			
(1) 研究設備（特別設備）			
①戦略分	3,990	7,980	11,970
②一般分	—	—	—
合計	103,590	73,963	177,553

5) 平成 22 年度補助・委託一覧

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
藤崎 弘士 菊地 浩人	自然科学・物理学	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	生体分子の量子ダイナミクス：その理論的解明と制御	藤崎 弘士	
西谷 里美	自然科学・生物学	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	冬緑性草本ヒガンバナの、夏季における栄養塩吸収の意義	西谷 里美	
岡 敦子	自然科学・生物学	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	トランスジェニックカエルを用いた消化管上皮幹細胞のニッチに関する研究	岡 敦子	
中村 哲子	外国語・英語・ドイツ語	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	アイランド小説における女性身体と女性空間をめぐる研究	中村 哲子	
三上 俊夫	スポーツ科学	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	身体運動は脳での血管新生を促進して学習記憶能力の低下やうつ様行動を改善するか否か	三上 俊夫	
三上 俊夫	スポーツ科学	代表	タヒチアンノニイン ク(株)委託	モリダシトリフォリアの生理活性性の探究	三上 俊夫	
三上 俊夫	スポーツ科学	代表	伊藤超短波株式会社 委託	電気刺激装置 ES-530 による骨格筋収縮の生理学的影響の検討	三上 俊夫	
小管 拓治 竹下 俊行 瀧澤 俊広	解剖学講座 (分子解剖学)	代表 分担	科学研究費補助金 萌芽研究	診断ツールの開発を目指す抗リリン脂質抗体に対する栄養膜マイクロ RNA の動態解析	小管 拓治	日本医科大学 解剖学 講座 (分子解剖学)
菊池 邦生	解剖学講座 (分子解剖学)	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	胎盤におけるマイクロ RNA 発現メカニズムと機能解析：IUGR の新たな分子基盤研究	菊池 邦生	日本医科大学 解剖学 講座 (分子解剖学)
アリメ モハ	解剖学講座 (分子解剖学)	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	胎盤特異的マイクロ RNA による新たな T 細胞制御の仕組み解明への挑戦	アリメ モハ	日本医科大学 解剖学 講座 (分子解剖学)
瀧澤 俊広 竹下 俊行 松原 茂樹 石橋 幸	解剖学講座 (分子解剖学)	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (B)	胎盤特異的マイクロ RNA の機能解析と異常妊娠早期診断への臨床応用のための基盤研究	瀧澤 俊広	日本医科大学 解剖学 講座 (分子解剖学)
後藤 忠	解剖学講座 (分子解剖学)	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	携帯電話を用いた画像学習システムの実践的研究	後藤 忠	日本医科大学 解剖学 講座 (分子解剖学)
石橋 幸 瀧澤 俊広	解剖学講座 (分子解剖学)	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	マイクロ RNA の選択的輸送に関する分子解剖学的動態解析とその病態診断への応用	石橋 幸	日本医科大学 解剖学 講座 (分子解剖学)
石橋 僚子 富山 邦生	解剖学講座 (分子解剖学)	分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	卵巣顆粒細胞成熟に特異的なマイクロ RNA の臨床応用	竹下 俊行	日本医科大学 産婦人 科学講座
石川 朋子 吉田 寛 菊池 邦生	解剖学講座 (分子解剖学)	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	肝内胆管癌におけるマイクロ RNA の役割解明とバイオマーカー開発のための分子基盤	石川 朋子	日本医科大学 解剖学 講座 (分子解剖学)

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
瀧澤 敬美, 幸, 石橋 俊広, 瀧澤 俊行, 竹下 俊行, 小澤 一史	解剖学講座 (分子解剖学) 解剖学講座 (生体構造学)	代表分担 代表 代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C) 私立大学戦略的研究 基盤形成支援事業	表膜細胞特異的マイクロRNAの機能解析: 卵胞の転写後調節とPCOSでの役割解明 「中枢神経系疾患の診断・治療技術の創出を指向した基礎・臨床融合型研究の基盤形成」(脳内神経ネットワークの3次元イメージングと機能の相関解析) アクアポリン2のリン酸化と細胞内分布および細胞内移送に関する解析 神経ペプチド (GnIH) による中脳ドーパミン系を介した社会性行動の制御機構の解明	瀧澤 敬美 小澤 一史	日本医科大学 解剖学講座 (分子解剖学)
飯島 典生	解剖学講座 (生体構造学)	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	GnRHニューロンにおける形態変動解析のための機能科学的アプローチ 思春期発動の性機能神経制御と摂食・ストレス神経制御の3次元機能形態相関の解析	飯島 典生	群馬大学大学院医学系 研究科生体構造学分野
小澤 一史, 飯島 典生, 澤井 信彦, 楊 春英	解剖学講座 (生体構造学)	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	食・ストレス神経制御の3次元機能形態相関の解析	小澤 一史	独立行政法人理化学研究所生命分子システム 基盤研究領域 核酸合成生物学研究チーム
近藤 保彦	生理学講座 (システム生理学)	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	視床下部神経ペプチドによる性行動の調節機構 性ホルモンによる脳内神経回路の再構成が思春期に固有の社会行動を現する メカニズムの解明	近藤 保彦 佐久間康夫	
佐久間康夫, 加藤 昌克, 木山 裕子, 近藤 保彦, 折笠千登世, 濱田 知宏	生理学講座 (システム生理学)	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	エストロゲンで誘導される神経細胞移動と脳の性差形成 神経系における核外エストロゲン受容体を介したエストロゲン急性作用機構の解明 脳の性的二型形成におけるエストロゲン制御シグナル伝達経路の解明 視索前野性の二型核形成過程の可視化による性分化機構の解明	折笠千登世	
石井 寛高	生理学講座 (システム生理学)	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	神経系における核外エストロゲン受容体を介したエストロゲン急性作用機構の解明	石井 寛高	
木山 裕子	生理学講座 (システム生理学)	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	脳の性的二型形成におけるエストロゲン制御シグナル伝達経路の解明	木山 裕子	
濱田 知宏, 佐久間康夫	生理学講座 (システム生理学)	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	視索前野性の二型核形成過程の可視化による性分化機構の解明	濱田 知宏	
佐久間康夫	生理学講座 (システム生理学)	代表分担	私立大学戦略的研究 基盤形成支援事業	中枢神経系疾患の診断・治療技術の創出を指向した基礎・臨床融合型研究の基盤形成	寺本 明	脳神経外科学

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
芝崎 保 真野あすか 根本 崇宏 大畠 久幸 芝崎 保	生理学講座 (生体統御学) 生理学講座 (生体統御学)	代表 代表 代表 代表 代表	科学研究所費補助金 基盤研究 (C) 厚生労働省科研費補助 助金	グレリン受容体発現抑制遺伝子改変 ラットを用いたグレリンのエネ ギー蓄積機能の解明 中枢性摂食異常症に関する調査研究	芝崎 保 小川 佳宏	東京医科歯科大学難治 疾患研究所分子代謝医 学分野
真野あすか	生理学講座 (生体統御学)	代表	科学研究所費補助金 若手研究 (B)	新しい薬物治療を目指した神経性食 欲不振症の病態でのグレリンと CRFの役割の解明	真野あすか	
洲鎌 秀永	生理学講座 (生体統御学)	代表	科学研究所費補助金 基盤研究 (C)	ストレスによるミクログリア活性化 メカニズムの解明	洲鎌 秀永	
根本 崇宏	生理学講座 (生体統御学)	代表	公益財団法人成長科 学協会研究助成金	成長ホルモン受容体発現調節へのマ イクロRNAの関与の解明	根本 崇宏	
岩崎 俊雄	生化学・分子生物学講座 (代 謝・栄養学)	代表	科学研究所費補助金 萌芽研究	細菌型 mitoNEET 新規構造に立脚 したレドックスシステム生理学的解 析	岩崎 俊雄	
折茂 英生 岩崎 俊雄	生化学・分子生物学講座 (代 謝・栄養学) 生化学・分子生物学講座 (代 謝・栄養学)	代表 代表	厚生労働省科研費補助 助金 ポトムアップ型国際 共同研究事業—日米 化学研究協力事業	低フォスファターゼ症の個別最適治 療に向けた基礎的・臨床的検討 International Collaboration in Chemistry: Electronic Structure of Biological Metallo-Cluster and Its Magnetic Interplay with the Pro- tein Surrounding in Thermophile Metalloenzymes	大藪 恵一 岩崎 俊雄	大阪大学大学院医学系 研究科小児科学
折茂 英生 鴻巣 麻子	生化学・分子生物学講座 (代 謝・栄養学)	代表	独立行政法人 沖縄 科学技術研究基盤整 備機構	ヒト培養細胞における低グルコース 条件下のメタボローム解析, および 低グルコース応答経路における主要 制御因子の標的探索	柳田 充弘	独立行政法人沖縄科学 技術研究基盤整備機構
鴻巣 麻子	生化学・分子生物学講座 (代 謝・栄養学)	代表	財団法人 発酵研究 所平成 22 年度一般 研究助成	古細菌から学ぶ酸素呼吸系獲得への 機能進化の研究	鴻巣 麻子	
三宅 弘一	生化学・分子生物学講座 (分 子遺伝学)	代表	科学研究所費補助金 基盤研究 (C)	ダイアモンド-ブランクフアン貧血 のモデル動物作製と新規治療法 (遺 伝子治療) の開発	三宅 弘一	
三宅 紀子 三宅 弘一 三宅 弘一	生化学・分子生物学講座 (分 子遺伝学) 生化学・分子生物学講座 (分 子遺伝学)	代表 代表 代表	科学研究所費補助金 基盤研究 (C) 科学研究所費補助金 基盤研究 (C)	リンゾーム病の神経病変を標的とし た新規骨髄移植法の開発 肺癌に対するMDA-7/IL24 を用い た新規遺伝子治療の開発	三宅 紀子 三宅 隆幸	消化器外科
渡邊 淳	生化学・分子生物学講座 (分 子遺伝学)	代表	科学研究所費補助金 基盤研究 (C)	遺伝子変異型により分類化した血管 型エーラス・タンパク質症候群の治療 手法の開発	渡邊 淳	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
渡邊 淳	生化学・分子生物学講座 子遺伝学)	代表	個人の遺伝情報に応じた医療実用化プロジェクト(第2期)	「先端医学研究に関する倫理的・法的・社会的課題についての調査研究」(臨床応用を視野に入れたオーダーメイド遺伝子医療のELSIに関する調査研究)	渡邊 淳	
渡邊 淳	生化学・分子生物学講座 子遺伝学)	主任	厚生労働省科研費補助金	過剰運動(hypermobility)症候群類縁疾患における診断基準の確立ならびに病態解明	渡邊 淳	信州大学
渡邊 淳	生化学・分子生物学講座 子遺伝学)	分担	科学研究費補助金 特定領域研究	エーラスダズンロス症候群(主に血管型および新型)の実態把握および診療指針の確立	古庄 知己	信州大学
高田 隆	生化学・分子生物学講座 子遺伝学)	分担	厚生労働省科研費補助金	低フォスファターゼ症の個別最適治療に向けた基礎的・臨床的検討	大藪 恵一	大阪大学
高田 隆	生化学・分子生物学講座 子遺伝学)	分担	厚生労働省科研費補助金	ライソソーム病(ファブリ病含む)に関する調査研究	衛藤 義勝	
高田 隆	生化学・分子生物学講座 子遺伝学)	主任	厚生労働省科研費補助金	遺伝子治療臨床研修推進のための指針見直しに向けた調査研究	島田 隆	
高田 隆	生化学・分子生物学講座 子遺伝学)	代表	科学研究費補助金 基盤研究(B)	重篤な遺伝病に対する周産期遺伝子治療(胎児遺伝子治療)に向けた包括的取り組み	島田 隆	
高田 隆	生化学・分子生物学講座 子遺伝学)	分担	医療基盤研究(B)	霊長類を用いたAAVベクターによるパーキンソン遺伝子導入の有効性と安全性の検討	望月 秀樹	
鈴木 秀典, 齋藤 文仁, 永野 昌俊, 小林 克典, 坂井 敦, 佐藤 寛栄	薬理学講座	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究(C)	前頭前野セロトニン神経系を標的とした精神疾患治療薬開発の基盤研究	鈴木 秀典	
齋藤 文仁, 永野 昌俊, 永野 秀典, 鈴木 敦, 坂井 栄輔	薬理学講座	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究(C)	モノアミン・セクレチンで制御されるシナプス伝達とその異常	齋藤 文仁	
浅田 稜, 水谷 修紀, 池田 裕美子	薬理学講座	代表 連携	科学研究費補助金 基盤研究(C)	発達障害に対する科学的根拠に基づいた薬物早期介入療法開発の基礎的研究	永野 昌俊	
小林 克典	薬理学講座	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	Brap2 遺伝子はRas-MAPK 症候群の原因遺伝子か? モデルマウスと遺伝子解析 抗うつ薬の作用基盤としての海馬神経幼若化の解析	浅田 稜 小林 克典	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
池田裕美子	薬理学講座	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	予後因子としての神経栄養因子動態に基づく難治性うつ病に対する電気療法の最適化	池田裕美子	
坂井 敦	薬理学講座	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	GDNF による下行性ノルアドレナリン神経機能の強化を介した鎮痛の検討	坂井 敦	
鈴木 秀典	薬理学講座	分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	歯科恐怖における脳神経メカニズムと精神的アプローチの効果に関する脳機能画像研究	洋行	日本歯科大学
鈴木 秀典	薬理学講座	分担	私立大学戦略的研究 基盤形成支援事業	中枢神経系疾患の診断・治療技術の創出を指向した基礎・臨床融合型研究の基盤形成	寺本 明	脳神経外科学
鈴木 秀典	薬理学講座	分担	科学研究費補助金 萌芽研究	サブスタンスP受容体を標的とした新規アルコール依存症治療薬の探索と脳機能画像評価	大久保善朗	日本医科大学精神医学
小林 克典	薬理学講座	分担	科学技術振興機構 戦略的創造研究推進 事業 CREST	精神疾患モデルマウスの神経活動の生理学的解析	宮川 剛	藤田保健衛生大学
鈴木 秀典	薬理学講座	分担	科学技術振興機構 戦略的創造研究推進 事業 CREST	行動異常の薬理学的研究	内匠 透	広島大学
清水 章	病理学講座(解析人体病理学)	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	免疫寛容導入による自然抗原ノックアウトミミブタからヒトへの異種腎臓移植の免疫応	清水 章	解析人体病理学
寺崎 泰弘	病理学講座(解析人体病理学)	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	水素分子の抗酸化力を利用した肺疾患の新しい治療と予防	寺崎 泰弘	解析人体病理学
福田 悠	病理学講座(解析人体病理学)	分担	厚生労働省科研費補助金 基盤研究 (C)	難治性疾患克服研究事業 びまん性肺疾患に関する調査研究	杉山幸比古	自治医科大学呼吸器内科
石渡 善哉, 内藤 陽子, 松田 哲志	病理学講座 (統御機構・腫瘍学)	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	FGFR2 IIIc アイソフォームの制御による腫瘍の治療戦略	石渡 俊行	
工藤 善哉, 内藤 光洋, 石渡 俊行	病理学講座 (統御機構・腫瘍学)	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	腫瘍外幹細胞による腫β細胞の分化誘導の研究	工藤 光洋	
為霞 為霞	病理学講座 (統御機構・腫瘍学)	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	FGFR2 IIIc アイソフォームの発現制御による子宮頸癌の新たな治療戦略	彭 為霞	
山本 哲志	病理学講座 (統御機構・腫瘍学)	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	ルミカンの糖鎖制御による腫瘍細胞増殖・転移機構制御法の開発と治療応用	山本 哲志	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
松田 陽子	病理学講座 (統御機構・腫瘍学)	代表	科学研究費補助金 若手研究 (A)	幹細胞マーカー Nestin を標的とした 腫瘍新規治療の開発	松田 陽子	
為霞 哲志, 松田 陽子, 石渡 俊行, 内藤 善哉	病理学講座 (統御機構・腫瘍学)	代表 分担	第 37 回大和証券へ ルス財団 調査研究 助成	子宮内膜癌及び前癌病変における FGFR2IIIc の役割の解明と新規治 療及び予防の標的とした有効性の研 究	松田 陽子 彭 為霞	
松田 陽子	病理学講座 (統御機構・腫瘍学)	代表	丸山記念研究助成金	臨床応用に向けた nestin siRNA 投 与による新たな腫瘍治療法の有効性 の検討	松田 陽子	
山初 和也	病理学講座 (統御機構・腫瘍学)	代表	腫瘍病研究財団研究 奨励賞	腫瘍新生血管マーカー nestin に対 する腫瘍分子標的治療戦略	山初 和也	
若林あや子	微生物学・免疫学講座	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	アルミニウム含有食品添加物の摂取 による卵白アルブミン特異的なアレ ルギー反応の誘導	若林あや子	
高橋 秀実	微生物学・免疫学講座	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	膀胱癌に対する BCG 注入療法作用 機序の解明	高橋 秀実	
高橋 秀実	微生物学・免疫学講座	分担	厚生労働省科費補 助金	HIV の感染防止、AIDS 発症防止に 関する免疫学的基礎研究	森 一泰	国立感染症研究所エ イズ研究センター
高橋 秀実	微生物学・免疫学講座	分担	厚生労働省科費補 助金	粘膜免疫活性化による粘膜棲息型 HIV 制御法の開発：BCG を用いた 粘膜自然免疫担当細胞の活性化	岩本 愛吉	東京大学医学科学研究所
高橋 秀実	微生物学・免疫学講座	代表	私立大学教育研究高 度化推進特別補助	自然免疫活性化による抗腫瘍免疫誘 導法の開発	高橋 秀実	
稲垣 平田 幸代, 川田 智之, 大塚 俊昭	衛生学・公衆衛生学講座	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	ヒト血漿中グランザイム 3 は炎症反 応のマーカーとなるか	高橋 秀実 稲垣 平田 幸代 川田 智之	
川田 智之, 稲垣 若山 李 大塚 俊昭, 勝又 聖夫, 李 英姫	衛生学・公衆衛生学講座	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	交替制勤務者の睡眠習慣・インスリ ン抵抗性とメタボリック症候群に関 する研究	川田 智之	
勝又 聖夫, 稲垣 平田 幸代, 川田 智之	衛生学・公衆衛生学講座	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	受動喫煙のストレス評価を唾液中カ テコロールアミン代謝物等で行う研究	勝又 聖夫	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
平田紀美子、 勝又聖夫、 稲垣弘文、 川田智之、 李卿、 川田智之、 李卿	衛生学・公衆衛生学講座	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	女性、特に妊産婦に対するPOCTを用いたインパクトのある継続的な禁煙支援法の構築	平田紀美子	
李卿、 川田智之、 李卿	衛生学・公衆衛生学講座	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	カーバマイト系農薬による免疫毒性及びその機序	李卿	
李卿	衛生学・公衆衛生学講座	代表 分担	科学研究費補助金 特定領域研究	都市近郊におけるストレス緩和効果 (Stress-reducing qualities of urban green areas)	香川隆英	森林総合研究所
大塚俊昭	衛生学・公衆衛生学講座	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	職業性ストレスによる心血管疾患発症機序の解明：マルチバイオマーカーを用いた検討	大塚俊昭	
大塚俊昭、 川田智之、 勝又聖夫、 雪吹周生、 清野精彦	衛生学・公衆衛生学講座	代表 分担	聖ルカ・ライフサイ エンス研究所 臨床 疫学などの研究助成	「好ましくない」生活習慣および生活習慣病の保有は初期腎機能低下と関連するか？—職域健診における血清シスタチンCを用いた検討—	大塚俊昭	
李英姫、 川田智之、 稲垣弘文、 平田幸代、 清水孝子	衛生学・公衆衛生学講座	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	ディーゼル排気粒子による酸化ストレスのマウス肺線維症病態への寄与に関する研究	李英姫	
勝又聖夫、 川田智之、 稲垣弘文、 平田幸代、 平田紀美子、 小林麻衣子	衛生学・公衆衛生学講座	代表 分担	セテイ (株)	禁煙支援などの場でPOCTとして用いられる唾液中コチニン測定の変当性の検討	勝又聖夫	
李卿、 川田智之、 李英姫	衛生学・公衆衛生学講座	代表 分担	森林総合研究所助成 金	森林環境要素および身近な森林浴が生体免疫機能へ及ぼす効果の解明	李卿	
李英姫	衛生学・公衆衛生学講座	代表 分担	文部科学省 私学助 成私立大学学術研究 高度化推進事業	ナノ粒子の健康影響の解明とその克服に関する研究	武田健	東京理科大学総合研究 機構ナノ粒子健康科学 研究センター
林田真喜子、 植草協子、 長谷場健	法医学講座	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	質量分析の新技法を用いたベンゾジアゼピン系薬物分析法の再構築	林田真喜子	
長谷場健	法医学講座	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	新たなアルコロール生体反応感受性における役割	長谷場健	
平川慶子、 大野曜吉、 崔范来、 金涌佳雅	法医学講座	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	MRI装置を用いた死後画像診断に関するスペクトルデータの活用に関する基礎研究	平川慶子	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
平川 慶子	法医学講座	分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	敗血症病態における画像を用いた生体内熱エネルギー動態と生体内代謝動態の可視化	佐藤 格夫	救急医学
平川 慶子	法医学講座	分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	急性肺損傷の治療法確立に向けた肺内水分動態と網羅的気道上皮代謝物解析に関する研究	久志本茂樹	救急医学
秋山 健一	医療管理学講座	主任	厚生労働省科研費補助金	感染症危機管理シミュレーション訓練の研究	秋山 健一	
長谷川敏彦	医療管理学講座	主任	厚生労働省科研費補助金	病院内の連携構築に係る病院管理マネジメントに関する研究	長谷川敏彦	
長谷川敏彦	医療管理学講座	代表	科学研究費補助金 萌芽研究	「人口転換」「疾病転換」「健康転換」の理論からみた新概念「生存転換」の研究	長谷川敏彦	
長谷川敏彦	医療管理学講座	代表	厚生労働省科研費補助金	高齢社会の医療提供体制における必要医師数の推計に関する研究	長谷川敏彦	
長谷川敏彦	医療管理学講座	代表	科学研究費補助金 特定領域研究	病院情報システム導入に掛かる経済効果に関する研究	長谷川敏彦	
長谷川敏彦	医療管理学講座	代表	厚生労働省科研費補助金	情報の構造化による事故情報・ヒヤリハット情報の構造化に関する研究	長谷川敏彦	
長谷川敏彦	医療管理学講座	代表	厚生労働省科研費補助金	医療情報システムによる新しい管理会計と医療の最適化に関する研究	長谷川敏彦	
清野 精彦 雪吹 崇芳 高野 雅充 村上 徹 稲見 真功 山本 周生	内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)・千葉北総病院循環器内科	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	冠動脈先端画像解析によるマルチバリオマーカーストラテジーの開発	清野 精彦	日本医科大学医学部
雪吹 崇芳 高野 雅充 村上 徹 稲見 真功 山本 周生	内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)・千葉北総病院循環器内科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	心筋梗塞地域連携クニコルパスにおける2次予防戦略は心血管イベント抑制に有効か?	雪吹 周生	日本医科大学医学部
永田智香子	内科学講座 (神経・腎臓・膠原病リウマチ部門)・付属病院内科 腎臓内科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	脳虚血後の神経細胞死と血管新生におけるCDK5 活性の役割とその制御機構	永田智香子	内科 神経・腎臓・膠原病リウマチ部門
三品 雅洋 鈴木 正彦 石渡 喜二 石井 貴直	内科学講座 (神経・腎臓・膠原病リウマチ部門)・付属病院内科 腎臓内科	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	PETによるアデノシン受容体のドパミン調節機構と抗パーキンソン病薬副作用の関係	三品 雅洋	日本医科大学
成相 直 三品 雅洋	内科学講座 (神経・腎臓・膠原病リウマチ部門)・付属病院内科 腎臓内科	分担	科学研究費補助金 基盤研究 (B)	PETブレインバンクの構築	石渡 喜一	東京都健康長寿医療センター研究所神経画像研究チーム

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
水谷俊雄、山崎峰雄	内科学講座(神経・腎臓・膠原病リウマチ部門)・付属病院神経内科、腎臓内科	分担	科学研究費補助金(基盤研究(B))	筋萎縮性側索硬化症の運動ニューロン死：リボソームRNA遺伝子転写とTDP-43	小柳清光	信州大学医学部
山崎峰雄	内科学講座(神経・腎臓・膠原病リウマチ部門)・付属病院神経内科、腎臓内科	代表	科学研究費補助金(基盤研究(C))	軽度認知障害の原因疾患としての海馬硬化性認知症の臨床・分子病理学的研究	山崎峰雄	日本医科大学内科(神経・腎臓・膠原病リウマチ部門)
坂本長逸、千葉勉、松井敏幸、松本圭之	内科学講座(血液・消化器・内分泌代謝部門)・付属病院血液内科、消化器内科、内分泌代謝内科	分担	厚生労働省科研費補助金	好酸球性食道炎/好酸球性胃腸炎の疾患概念確立と治療指針作成のための臨床研究	木下芳一	島根大学医学部内科学講座
二神生爾	内科学講座(血液・消化器・内分泌代謝部門)・付属病院血液内科、消化器内科、内分泌代謝内科	代表	科学研究費補助金(特定領域研究)	MCP-1を介した骨髄由来間葉系細胞による癌組織へのホーミング分子機構の解析	二神生爾	
清家正博、弦間昭彦、峯岸裕司	内科学講座(呼吸器・感染・腫瘍部門)・付属病院呼吸器内科	代表分担	科学研究費補助金(基盤研究(C))	肺癌に対するマイクロRNAを用いた薬剤感受性予測と治療法の開発	清家正博	日本医科大学内科学講座呼吸器感染腫瘍部門
木田厚瑞、石井健男	内科学講座(呼吸器・感染・腫瘍部門)・付属病院呼吸器内科	代表分担	科学研究費補助金(基盤研究(C))	喫煙関連呼吸器疾患へのニコチン受容体遺伝子多型の関与の検討	木田厚瑞	
石井健男	内科学講座(呼吸器・感染・腫瘍部門)・付属病院呼吸器内科	代表	科学研究費補助金(若手研究(B))	慢性閉塞性肺疾患の鬱症状を規定する遺伝子の探索	石井健男	
茂木孝	内科学講座(呼吸器・感染・腫瘍部門)・付属病院呼吸器内科	代表	科学研究費補助金(基盤研究(C))	COPD診療における医療の質を保證するためのシステム構築に関する研究	茂木孝	
木田厚瑞、茂木孝、石井健男、神尾孝一郎、服部久弥子	内科学講座(呼吸器・感染・腫瘍部門)・付属病院呼吸器内科	分担	保険医療分野における基盤研究推進事業(独立行政法人医薬基盤研究所)	慢性閉塞性肺疾患(COPD)の増悪に対するグリコサミノグリカンを用いた新規治療法の開発	谷口直之	大阪大学産業科学研究所疾患糖鎖学(生化学工業)寄附研究部門
館野周	精神医学講座・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科	代表	科学研究費補助金(基盤研究(C))	神経メラニンMRIを用いた難治性うつ病のドパミン、ノルアドレナリン機能評価研究	館野周	
館野周	精神医学講座・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科	分担	科学研究費補助金(基盤研究(C))	うつ病薬物療法の最適化の為に画像等検査バッテリーの確立とその有効性の前方視的研究	八幡慧明	東京大学大学院精神医学分野

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
大久保善朗、 周 舘野	精神医学講座・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科	分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	歯科恐怖における脳神経メカニズムと精神的アプローチの効果に関する脳機能画像研究	荻部 洋行	日本歯科大学小児歯学講座
舘野 周	精神医学講座・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科	分担	厚生労働省科研費補助金	精神療法の有効性の確立と普及に関する研究	大野 裕	慶応義塾大学保健管理センター
大久保善朗	精神医学講座・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科	代表	科学研究費補助金 萌芽研究	サブスタンスP受容体を標的とした新規アルコール依存症治療薬の探索と脳機能画像による有効性評価	大久保善朗	
大久保善朗	精神医学講座・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科	主任	厚生労働省科研費補助金	精神疾患の病態診断と治療評価のためのイメージングバイオマーカーの開発と臨床応用	大久保善朗	
大久保善朗	精神医学講座・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科	分担	厚生労働省科研費補助金	精神科薬物療法アルゴリズムの最適化と均てん化に関する研究	加藤元一郎	
大久保善朗	精神医学講座・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科	分担	厚生労働省科研費補助金	スポーツ・運動の統合失調症の認知機能・高次脳機能障害に対する効果に関する研究	高橋 英彦	
大久保善朗	精神医学講座・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科	分担	厚生労働省科研費補助金	認知神経科学的アプローチによる精神神経疾患に対する偏見の実態調査と偏見軽減に関する研究	高橋 英彦	
大久保善朗	精神医学講座・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科	分担	厚生労働省科研費補助金	リアルタイムfMRIを用いたバイオフィードバック法による精神科ニューロリハビリテーションへの応用	松田 哲也	
大久保善朗	精神医学講座・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科	分担	厚生労働省科研費補助金	自殺対策のための複合的介入法の開発に関する研究	山田 光彦	
大久保善朗	精神医学講座・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科	分担	私立大学戦略的研究 基盤形成支援事業	中枢神経系疾患の診断・治療技術の創出を指向した基礎・臨床融合型研究の基盤形成	寺本 明	脳神経外科学

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
大久保善朗	精神医学講座・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (B)	分子イメージングによる統合失調症のドパミン神経伝達異常の解明	大久保善朗	
齊藤 卓弥	精神医学講座・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	MRI を用いた児童思春期うつ病における脳形態に関する前方視研究	齊藤 卓弥	
西條 朋行	精神医学講座・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	電気けいれん療法前後の脳内ドーパミン受容体についての研究	西條 朋行	
伊藤 敬雄	精神医学講座・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	自殺予防対策のための効果的な医学教育法の開発	伊藤 敬雄	
齊藤 卓弥	精神医学講座・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科	分担	厚生労働省科研費補助金	精神科薬物療法アログリズムの最適化と均てん化に関する研究	加藤元一郎	
齊藤 卓弥	精神医学講座・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科	分担	厚生労働省科研費補助金	子どもの心の診療に関する診療体制確保、専門的人材育成に関する研究	奥山真紀子	
齊藤 卓弥	精神医学講座・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科	分担	厚生労働省科研費補助金	成人期注意欠陥・多動性障害の疫学、診断、治療法に関する研究	中村 和彦	浜松医科大学
成重 竜一郎 川島 義高	精神医学講座・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科	分担	厚生労働省科研費補助金	自殺の原因分析に基づく効果的な自殺防止対策の確立に関する研究	加我 牧子	国立精神・神経センター
齊藤 卓弥	精神医学講座・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科	分担	厚生労働省科研費補助金	児童青年精神科領域における診断・治療の標準化に関する研究	齊藤万比古	国際医療センター
大久保善朗	精神医学講座・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科	代表	東京都事業委託	未遂者支援事業	大久保善朗	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
大久保善朗	精神医学講座・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科	代表	財団法人 先進医薬研究振興財団 一般研究助成	抗うつ薬による脳内ノルエピネフリントランスポーター占有率に関するPET研究	大久保善朗	
勝部 康弘、 小川 俊健、 浅野 健	小児科学講座・付属病院小児科・武蔵小杉病院周産期・小児医療センター(小児科、小児外科、新生児科)、多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	酵素感受性蛋白質の発見に向けて：プロテオミクス解析からのアプローチ	勝部 康弘	日本医科大学武蔵小杉病院小児科
植田 高弘	小児科学講座・付属病院小児科・武蔵小杉病院周産期・小児医療センター(小児科、小児外科、新生児科)、多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	ヒト人工骨髄の作成と造血幹細胞・白血病幹細胞のニッチの解析研究	植田 高弘	小児科学
早川 潤	小児科学講座・付属病院小児科・武蔵小杉病院周産期・小児医療センター(小児科、小児外科、新生児科)、多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	ヘモグロビンクラスタスミスとヘモグロビン異常症の新しい治療戦略の基礎的研究	早川 潤	
前田 美穂	小児科学講座・付属病院小児科・武蔵小杉病院周産期・小児医療センター(小児科、小児外科、新生児科)、多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科	分担	厚生労働省科研究補助金	小児がん治療患者の長期フォローアップとその体制整備に関する研究 (H19・がん・一般-012)	藤本純一郎	
前田 美穂	小児科学講座・付属病院小児科・武蔵小杉病院周産期・小児医療センター(小児科、小児外科、新生児科)、多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科	分担	科学研究費補助金 特定領域研究	小児がんの罹患数把握および晩期合併症・2次がんの実態把握のための長期フォローアップ構築に関する研究	黒田 達夫	
前田 美穂	小児科学講座・付属病院小児科・武蔵小杉病院周産期・小児医療センター(小児科、小児外科、新生児科)、多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科	分担	科学研究費補助金 特定領域研究	難治性疾患克服研究事業「後天性血友病XIIIの実態調査、発症機序の解明と治療方法の開発」(H21-難治-一般-036)	一瀬 白帝	
長田 真一	皮膚科学講座・付属病院皮膚科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	上皮間葉相互作用を制御するシグナル経路における Sox13 の役割	長田 真一	皮膚科学講座

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
船坂 陽子	皮膚科学講座・付属病院皮膚科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	悪性黒色腫形成・増殖に関わるシグナルの同定。特に紫外線誘発黒色腫形成機序の解明	船坂 陽子	
船坂 陽子	皮膚科学講座・付属病院皮膚科	代表	私立大学教育研究高度化推進特別補助金	紫外線による皮膚癌発症機序の解明	船坂 陽子	
松谷 穂 笹島 耕二	外科科学講座 (消化器・一般・乳腺・移植部門)・多摩永山病院消化器外科・乳腺外科・一般外科	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	手術侵襲後の性差医療における脂肪細胞の役割とピオゲリタゾン投与の有効性	松谷 穂	多摩永山病院消化器外科・乳腺外科・一般外科
平方 敦史 山田 和彦 佐原 寿久	外科科学講座 (消化器・一般・乳腺・移植部門)・多摩永山病院消化器外科・乳腺外科・一般外科	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	大動物モデルによる脾島移植の免疫学的特異性に基づいた非侵襲的免疫寛容誘導法の確立	平方 敦史	
松下 晃	外科科学講座 (消化器・一般・乳腺・移植部門)・多摩永山病院消化器外科・乳腺外科・一般外科	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	肺癌に対する neuropilin-1 を標的とした新たな治療法の開発	松下 晃	
吉田 寛	外科科学講座 (消化器・一般・乳腺・移植部門)・多摩永山病院消化器外科・乳腺外科・一般外科	分担	厚生労働省科研費補助金	門脈血行異常症に関する調査研究	森安 史典	東京医科大学消化器内科
山下 浩二	外科科学講座 (内分泌・心臓血管・呼吸器部門)・付属病院内分泌外科, 心臓血管外科, 呼吸器外科, 千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	SPECT 合成 3D-CT 乳腺リンパ管造影によるセンチネルリンパ節生検の検証	山下 浩二	
寺本 明	脳神経外科科学講座・付属病院脳神経外科	分担	厚生労働省科研費補助金	間脳下垂体機能障害に関する調査研究	大磯ユタカ	名古屋大学大学院医学系研究科糖尿病・内分泌内科科学
喜多村孝幸	脳神経外科科学講座・付属病院脳神経外科	分担	厚生労働省科研費補助金	脳脊髄液減少症の診断・治療法の確立に関する研究	嘉山 孝正	独立行政法人国立がん研究センター 神経病態解析学分野大学院教授
寺本 明 吉田 大蔵 景成	脳神経外科科学講座・付属病院脳神経外科	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (B)	下垂体腺腫における miRNA 発現と mRNA の制御に関する研究	寺本 明	
吉田 大蔵 寺本 明 景成	脳神経外科科学講座・付属病院脳神経外科	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	下垂体腺腫の増殖における SDF-1 の役割に関する分子形態学的研究	吉田 大蔵	脳神経外科科学講座准教授
寺本 明 山口 文雄	脳神経外科科学講座・付属病院脳神経外科	代表 分担	私立大学教育研究高度化推進特別補助金	中枢神経系疾患の診断・治療技術の創出を指向した基盤・臨床融合型研究の基盤形成	寺本 明	脳神経外科科学教室

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
寺本 明, 進 章, 横谷 弘, 高津 高弘, 田中 敏郎, 永井 美和, 西 二生, 羽川 玲子, 藤田 敬之助	脳神経外科 脳神経外科	分担	成長科学協会研究助成	成長ホルモン療法の治療効果に及ぼす諸因子の解析並びにアドバース・イベントの調査に関する研究	長谷川 泰延	慶應義塾大学医学部小児科学教室
田原 重志, 置村 康彦	脳神経外科 脳神経外科	分担	成長科学協会研究助成	成人成長ホルモン分泌不全症 (AGHD) 患者の診断, 治療及び予後に関する研究	高野 幸路	東京大学医学部腎臓・内分泌内科
吉田 大蔵, 明 景成	脳神経外科 病院脳神経外科	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	下垂体腺腫の増殖における SDF-1 の役割に関する分子形態学的研究	吉田 大蔵	
寺本 明, 大蔵 景成	脳神経外科 病院脳神経外科	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究 (B)	下垂体腺腫における miRNA 発現と mRNA の制御に関する研究	寺本 明	日本医科大学脳神経外科
太組 一朗	脳神経外科 病院脳神経外科	分担	厚生労働省科研費補助金	プリオン病のサーベイランスと感染予防に関する調査研究 (難治性疾患克服研究事業)	水澤 英洋	東京医科歯科大学神経内科
太組 一朗	脳神経外科 病院脳神経外科	分担	厚生労働省科研費補助金	赤血球製剤を含めた血液製剤の病原不活化法の開発と不活化評価法の開発 (医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業)	岡田 義昭	国立感染症研究所血液・安全性研究部第一室
中井 章人	産婦人科学講座・多摩永山病院 産婦人科学診療科・産科	分担	厚生労働省科研費補助金	わが国における新しい妊婦健診体制構築のための研究	松田 義雄	東京女子医科大学産婦人科学教室
竹下 剛一, 黒瀬 圭輔, 桑原 慶充	産婦人科学講座・千葉北総病院 産婦人科学診療科・産科	代表分担	私立大学教育研究高度化推進特別補助	多角的な分子病態解析に基づく上皮性卵巣癌の新規治療戦略へのアプローチ	竹下 俊行	
米山 剛一, 竹下 俊行	産婦人科学講座・千葉北総病院 産婦人科学診療科・産科	分担	戦略的研究支援事業	低分子 RNA をツールとした新規診断・治療法開発研究診断・治療に新たな展開をもたらす低分子 RNA : 分子病態における役割解明と新治療戦略への展開	瀧澤 俊広	解剖学講座 (分子解剖学)

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
大久保公裕、岡野光博、岡本美孝、後藤稜、永田真、藤枝重治、増山敬祐、湯田厚司、田中伸男、関根久遠	耳鼻咽喉科学講座・付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩北山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科	主任分担	厚生労働省科研費補助金	リアルタイムモニタータンパク質の情報のあり方の研究と舌下ペプチド・アジュバント療法の臨床研究	大久保公裕	日本医科大学
関根久遠	耳鼻咽喉科学講座・付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩北山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科	代表	科学研究費補助金(若手研究)	内耳疾患における miRNA の機能解明と新たな診断マーカーの開発	関根久遠	日本医科大学
新藤晋	耳鼻咽喉科学講座・付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩北山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科	代表	科学研究費補助金(若手研究)	新しい外リンパ腫マーカー CTP の時空間的発現の検討	新藤晋	日本医科大学
Pawankar R	耳鼻咽喉科学講座・付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩北山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科	代表	科学研究費補助金(基盤研究)	鼻アレルギー発症機序における上皮細胞の新たな役割-T細胞、樹状細胞との相互作用	Pawankar R	日本医科大学
高橋浩	眼科科学講座・付属病院眼科・武蔵小杉病院眼科・多摩北山病院眼科	代表	科学研究費補助金(基盤研究)	眼科手術用灌流液への水素ガス応用の研究	高橋浩	
堀純子	眼科科学講座・付属病院眼科・武蔵小杉病院眼科・多摩北山病院眼科	代表	私立大学教育研究高度化推進特別補助	自己免疫性眼疾患モデルの開発と病態解明および臨床展開	堀純子	
小原澤英彰	眼科科学講座・付属病院眼科・武蔵小杉病院眼科・多摩北山病院眼科	代表	科学研究費補助金(基盤研究)	ラット網膜虚血・再還流モデルにおける水素点眼の網膜神経保護効果の研究	小原澤英彰	
小野真史、原行弘、西村敏	眼科科学講座・付属病院眼科・武蔵小杉病院眼科・多摩北山病院眼科	代表分担	科学研究費補助金(萌芽研究)	ドライアイウスによる嚥下困難感の他覚的定量評価	小野真史	
坂本篤裕	麻酔科学講座・付属病院麻酔科	代表	科学研究費補助金(基盤研究)	麻酔薬・麻酔法による体内遺伝子、蛋白、代謝物変動の総括的検討	坂本篤裕	日本医科大学麻酔科学講座
布施明	救急医学講座・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩北山病院救命救急センター	代表分担	厚生労働省科研費補助金	健康危機・大規模災害に対する初動医療体制のあり方に関する研究	坂本篤裕、 辺見弘	日本医科大学麻酔科学講座 災害医療センター

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
横田 裕行	救急医学講座・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	分担	厚生労働省科研究費補助金	臓器移植の社会的基盤に関する研究	篠崎 尚人	東京歯科大学市川総合病院角膜センター
横田 裕行	救急医学講座・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	分担	厚生労働省科研究費補助金	脳死下・心臓停止下臓器幹旋のコーディネートに関する研究	小中 節子	社団法人日本臓器移植ネットワーク
横田 裕行	救急医学講座・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	分担	厚生労働省科研究費補助金	新型インフルエンザの大流行に備えた訓練に関する研究	原口 義座	独立行政法人国立病院機構災害医療センター
横田 裕行	救急医学講座・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	分担	厚生労働省科研究費補助金	循環器疾患等の救命率向上に資する効果的な救急蘇生法の普及啓発に関する研究	丸川征四郎	医療法人医誠会医誠会病院
横田 裕行	救急医学講座・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	分担	厚生労働省科研究費補助金	心肺停止患者に対する心肺補助装置等を用いた高度救命処置の効果と費用に関するエビデンスを構築するための多施設共同研究	坂本 哲也	帝京大学医学部救急医学
横田 裕行	救急医学講座・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	分担	厚生労働省科研究費補助金	救急医療体制の推進に関する研究	山本 保博	東京臨海病院
横田 裕行	救急医学講座・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	分担	厚生労働省科研究費補助金	救急救命士の処置範囲に係る実証研究のための基盤的研究	野口 宏	藤田保健衛生大学医学部救急科
横田 裕行	救急医学講座・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	分担	厚生労働省科研究費補助金	臓器提供施設における院内体制整備に関する研究	有賀 徹	昭和大学医学部救急医学
布施 明	救急医学講座・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	代表		重症頭部外傷における脳組織酸素分圧モニタリングの意義	布施 明	
増野 智彦、佐藤 格夫、久志本成樹、横田 裕行	救急医学講座・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	シヨック後腸管リンパ液生理活性および臓器障害に対する腸管由来アラキドン酸の関与	増野 智彦	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
久志本成樹、 増野智彦、 佐藤格夫、 宮内雅人、 平川慶子、 横田裕行	救急医学講座・付属病院高度 救命救急センター・武蔵小杉 病院救命救急センター・多摩 永山病院救命救急センター	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	急性肺障害の治療法確立に向けた肺 内水分動態と網羅的気道上皮代謝物 解析に関する研究	久志本成樹	
横田裕行、 佐藤格夫、 平川慶子、 増野智彦、 横田裕行、 小池薫、 岡田雄一郎、 黒田輝	救急医学講座・付属病院高度 救命救急センター・武蔵小杉 病院救命救急センター・多摩 永山病院救命救急センター	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	敗血症病態におけるMRIを用いた 生体内熱エネルギー、生体内代謝動 態の非侵襲的可視化	佐藤 格夫	
恩田秀賢、 布施明、 増野智彦、 佐藤格夫、 横田裕行、 横堀将司	救急医学講座・付属病院高度 救命救急センター・武蔵小杉 病院救命救急センター・多摩 永山病院救命救急センター	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	脳代謝モニタリング・網羅的脳代謝 解析に基づく心肺停止蘇生後の病態 および治療の研究	恩田 秀賢	
白石振一郎	救急医学講座・付属病院高度 救命救急センター・武蔵小杉 病院救命救急センター・多摩 永山病院救命救急センター	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	急性腸間膜虚血の腸管 VIABILITY 評価と救命率向上にむけた治療戦略 の構築	白石振一郎	
横田 裕行	救急医学講座・付属病院高度 救命救急センター・武蔵小杉 病院救命救急センター・多摩 永山病院救命救急センター	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	ポテンシャルドナーを増やすための 補助検査を用いた脳死判定に関する 研究	横田 裕行	
横田 裕行、 増野智彦、 重村朋子、 吉野美緒、 松井豊、 阿部美帆、 稲本絵里	救急医学講座・付属病院高度 救命救急センター・武蔵小杉 病院救命救急センター・多摩 永山病院救命救急センター	代表 分担	救急振興財団 救急 に関する調査研究事 業助成	病院前救急医療における心的外傷ス トレス評価とケアシステムの構築に 関する研究	横田 裕行	
吉野美緒、 増野智彦、 重村朋子	救急医学講座・付属病院高度 救命救急センター・武蔵小杉 病院救命救急センター・多摩 永山病院救命救急センター	代表 分担	三井住友海上福祉財 団研究助成	DA (Doctor Ambulance) 活動に 伴う医療者の心的ストレス及び心的 外傷に関する研究	吉野 美緒	
	救急医学講座・千葉北総病院 救命救急センター	主任	厚生労働省科研費補 助金	自然災害による広域災害時における 効果的な初期医療の確保及び改善 に関する研究 (H22-健危-一般 -009)	小井土雄一	独立行政法人国立病院 機構災害医療センタ ー 臨床研究部

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
八木 貴典	救命救急センター 形成外科	分担	科学研究費補助金 特定領域研究	小児集中治療の問題点の検討とその 対策に関する研究	中川 聡	国立成育医療センター 手術集中治療科医長
百束 比古	形成外科・美容外科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	顎骨における水平的骨増生を目的し た組織工学的手法の検討	百束 比古	
小川 令	形成外科・美容外科	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	静水圧を負荷した脂肪組織由来幹細胞 による生体内軟骨再生	小川 令	
小川 令	形成外科・美容外科	代表	科学研究費補助金 萌芽研究	成体組織由来極小胚性幹細胞様細胞 の探索	水野 博司	順天堂大学形成外科
渡邊 淳	付属病院付置施設等・付属病院 院遺伝診療科	代表	平成 22 年度日本医 科大学奨学賞	基礎と臨床の橋渡し研究の成果によ る、全く新しいケロイドの治療法開 発	小川 令	
渡邊 淳	付属病院付置施設等・付属病院 院遺伝診療科	主任	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	遺伝子変異型により分類化した血管 型エーラス・タンロス症候群の治療 手法の開発	渡邊 淳	
渡邊 淳	付属病院付置施設等・付属病院 院遺伝診療科	代表	厚生労働省科費補助 金	過剰運動 (hypermobility) 症候群 類縁疾患における診断基準の確立な らびに病態解明	渡邊 淳	
渡邊 淳	付属病院付置施設等・ゲノム 先端医療部	代表	個人の遺伝情報に応 じた医療実現化プロ ジェクト (第 2 期)	エーラス・タンロス症候群 (主に血管 型および新型) の実態把握および診 療指針の確立	古庄 知己	信州大学
水谷 聡	武蔵小杉病院付置施設等・武 蔵小杉病院消化器病センター	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	「先端医科学研究に関する倫理的・ 法的・社会的課題についての調査研 究」(臨床応用を視野に入れたオー ダーメイド遺伝子医療の ELSI に関 する調査研究)	水谷 聡	
原 行弘	千葉北総病院付置施設等・千 葉北総病院リハビリテーション 科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (B)	消化器癌のミミトコンドリア DNA 変 異と抗瘤剤耐性との関連を分子生物 学的に解明する。	原 行弘	日本医科大学千葉北総 病院リハビリテーショ ン科
大林 茂	千葉北総病院付置施設等・千 葉北総病院リハビリテーション 科	代表	基盤研究 (C)	マルチモダル・イメージングを用い た経頭蓋直流電気刺激効果の生体分 子メカニズム	大林 茂	
原 行弘, 宗村麻紀子, 小川 真司	千葉北総病院付置施設等・千 葉北総病院リハビリテーション 科	代表 分担	JA 共済交通事 故医療研究助成	新しい機能的電気刺激を用いた ニューロリハビリテーションによる 外傷性神経損傷機能改善	原 行弘	日本医科大学千葉北総 病院リハビリテーショ ン科
ガジザデ モハammad, 清水	老人病研究所・病理部門	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	cAbI チロシドの新しい分子治療の確立と ケロイドの新しい分子治療の確立と 発症機序の解明	ガジザデ モハammad	老人病研究所病理部門

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
清水 ガジザデア モハマッド	一、老人病研究所・病理部門	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	ケロイドにおけるCOLIA2プロ モーターの転写に関わるmicroRNA の発現調節	清水 一	老人病研究所病理部門
太田 成男	老人病研究所・病理部門	代表	私立大学教育研究高 度化推進特別補助 科学研究費補助金 基盤研究 (B)	新しい概念の抗酸化物である水素を 摂取することによる生活習慣病予防 への新展開	北村 伸 成男	
上村 尚美	老人病研究所・生化学部門	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	糖尿病の予防・改善における水素の 効果	上村 尚美	
西植貴代美	老人病研究所・生化学部門	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	酸化ストレス先進マウスを用いた水 素分子による認知症予防効果	西植貴代美	
太田 成男	老人病研究所・生化学部門	分担	厚生労働省科研費補 助金	臓器特異的ストレス応答探索マウス を用いた疾病予防法の開発	佐野 元昭	慶応義塾大学医学部
太田 成男	老人病研究所・生化学部門	分担	厚生労働省科研費補 助金	筋ジストロフィーおよび関連疾患の 分子病態解明、診断法の確立と治療 薬物の開発に関する研究	砂田 芳秀	川崎医科大学
田中 信之	老人病研究所・免疫部門	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (B)	グルコース代謝の制御を介した癌化 の誘導とp53による癌化抑制機構 の解析	田中 信之	
田中 信之	老人病研究所・免疫部門	代表	私立大学教育研究高 度化推進特別補助	糖代謝を標的とした新たな炎症反応 の制御とその応用の基礎的研究	田中 信之	
鈴木 由香	老人病研究所・疫学部門	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	タンパク質栄養状態の悪化による肝 臓のインスリン活性増強機構の解明 とその生理的意義	鈴木 由香	
鈴木 由香	老人病研究所・疫学部門	分担	農業・食品産業技術 総合研究機構生物系 特定産業技術研究支 援センター「イノ ベーション創出基礎 的研究推進事業」技 術シーズ開発型研究	アミノ酸シグナルを利用した高品質 食資源の開発技術の確立	高橋伸一郎	東京大学大学院農学生 命科学研究科応用動物 科学専攻
北村 伸	老人病研究所・生体応答学部 門	代表	私立大学教育研究高 度化推進特別補助	認知症をぐるみ支援ネットワーク	北村 伸	
木田 厚瑞 石井 健男	呼吸ケアクリニック	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	喫煙関連呼吸器疾患へのニコチン受 容体遺伝子多型の関与の検討	木田 厚瑞	
石井 健男	呼吸ケアクリニック	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	慢性閉塞性肺疾患の鬱症状を規定す る遺伝子の探索	石井 健男	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
茂木 孝	呼吸ケアクリニック	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	COPD 診療における医療の質を 保証するためのシステム構築に 関する研究	茂木 孝	
木田 厚瑞, 茂木 孝, 石井 健男, 神尾孝一郎, 服部久弥子	呼吸ケアクリニック	分担	保険医療分野における 基盤研究推進事業 (独立行政法人 医 薬基盤研究所)	慢性閉塞性肺疾患 (COPD) の増悪 に対するグリコサミノグリカンを用 いた新規治療法の開発	直之 谷口	大阪大学産業科学研究所 化学工学(生化学) 寄附研究部門
吉村 明修	教育推進室	分担	厚生労働省科研究費補 助金	(第3次対がん総合戦略研究事業) 革新的な診断技術を用いたこれら の肺がん検診手法の確立に関する研 究班	中山 富雄	

6) 平成 22 年度学術賞受賞一覧

受賞者	所属	受賞者区分	受賞学術賞名	受賞研究名・論文	受賞団体	年	月
武藤三千代, 渡部錦二, 若山葉子, 川守田千秋, 渡部月子 佐久間康夫	スポーツ科学 生理学講座 (システム 生理学)	グループ	学会賞 (ポスター賞)	高齢者におけるラジオ体操 の効果: 体格・生活活動力 について	日本運動・スポーツ 科学学会	2010	6
田中伸幸, 石井寛高, 尹成珠, 小山麻希子, 佐久間康夫, 加藤昌克	生理学講座 (システム 生理学)	個人	第 10 回吉村賞	視床下部-下垂体-性腺軸に よる性行動調節の研究	日本下垂体研究会	2010	8
松田陽子	生理学講座 (システム 生理学)	グループ	JPS 優秀論文賞 (入澤 賞)	Voltage-gated Ca^{2+} chan- nels mRNAs and T-type- Ca^{2+} currents in rat go- nadotropin-releasing hormone neurons	日本生理学会	2011	3
李 英姫	生理学講座 (統御機 構・腫瘍学)	個人	博慈会優秀論文オナー ンセサミ賞	Morphological and cyto- skeletal changes of pan- creatic cancer cells in three-dimensional spheroi- dal culture (Medical Mo- lecular Morphology, 2010/12 掲載)	財団法人 博慈会老 人病研究所	2011	1
李 英姫	衛生学・公衆衛生学講 座	個人	第 80 回日本衛生学総 会会長賞	Nrf2 ノックアウトマウス 喘息モデルにおける低濃度 アイソセル排気粒子曝露の 気道炎症反応への影響	日本衛生学会	2010	5
李 卿, 若山葉子, 稲垣弘文, 勝又聖夫, 平田幸代, 李 英姫, 平田紀美子, 清水孝子, 鈴木博之, 大塚俊昭, 川田智之 平澤泰宏	衛生学・公衆衛生学講 座	グループ	平成 22 年度日本医科 大学賞 (研究部門)	森林環霧 (森林浴) が生体 免疫機能に及ぼす影響に関 する研究	日本医科大学	2011	3
平澤泰宏	内科学講座 (循環器・ 肝臓・老年・総合病態 部門)・付属病院一般 内科, 循環器内科, 肝 臓内科, 再生医療科	個人	助成優秀論文	Short term amiodarone treatment attenuates the production of monocyte cytokines and chemokines by c-reactive protein and improves cardiac function in patients with idiopath- ic dilated cardiomyopathy and ventricular tachycar- dia	博慈会 老人病研究 所	2010	4

受賞者	所属	受賞者区分	受賞学術賞名	受賞研究名・論文	受賞団体	年	月
高木 元	内科学講座(循環器・肝臓・老年・総合病態部門)・付属病院一般内科, 循環器内科, 肝臓内科, 再生医療科	個人	第40回日本創傷治療学会・学会賞	再生誘導医療基礎研究の美 実践的臨床応用	日本創傷治療学会	2010	12
Fujita E, Shimizu A, Masuda Y, Kuwahara N, Arai T, Nagasaka S, Aki K, Mii A, Natari Y, Iino Y, Kayama Y, Fukuda Y	内科学講座(神経・腎臓・膠原病)ウマ子部門)・付属病院神経内科, 腎臓内科	個人	平成22年度日本医科大学大学院研究賞	Statin attenuates experimental anti-glomerular basement membrane glomerulonephritis together with the augmentation of alternatively activated macrophages	日本医科大学	2011	3
石橋真理子, 田村秀人, 緒方清行	内科学講座(血液・消化器・内分泌代謝部門)・付属病院血液内科, 消化器内科, 内分泌代謝内科	個人	平成22年度丸山記念研究助成金	骨髄異形成症候群におけるT細胞免疫異常の解析と腫瘍ワクチン療法の検討	日本医科大学	2010	9
Koeda M	精神医学講座・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科	個人	Alwyn Lishman Prize, 2011	Effects of Placebo and Lorazepam on Emotional Voice Processing: An fMRI Study		2011	2
長田真一	皮膚科学講座・付属病院皮膚科	個人	平成22年度日本皮膚科学会基礎医学研究賞	表皮の極性形成のメカニズム	日本医科大学皮膚科学教室	2010	4
井村 肇	外科学講座(内分泌・心臓血管・呼吸器部門)・付属病院内分泌外科, 心臓血管外科, 呼吸器外科・千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科	個人	日本医科大学同窓会医学研究助成賞	Age-dependent and hypoxia-related differences in myocardial protection during pediatric open heart surgery	日本医科大学同窓会	2002	5
井村 肇	外科学講座(内分泌・心臓血管・呼吸器部門)・付属病院内分泌外科, 心臓血管外科, 呼吸器外科・千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科	個人	東京都医師会医学研究賞奨励賞	Pulmonary injury after cardiopulmonary bypass: Beneficial effects of low-frequency mechanical ventilation	東京都医師会	2010	3

受賞者	所属	受賞者区分	受賞学術賞名	受賞研究名・論文	受賞団体	年	月
ヘイムス規予美	外科学講座(内分泌・心臓血管・呼吸器部門)、付属病院内分泌外科、心臓血管外科、呼吸器外科・千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科	個人	コスミック・研究創成賞ノミネート(第53回日本甲状腺学会)	チェルノブイリ原発事故後の甲状腺腫に対する医療支援活動: 過去12年間の成果報告と今後の展望	日本医科大学付属病院 院内内分泌外科	2010	11
額健太	脳神経外科学講座・付属病院脳神経外科	個人	第20回日本間脳下垂体腫瘍学会研究奨励賞		日本間脳下垂体腫瘍学会	2010	2
寺本 明	脳神経外科学講座・付属病院脳神経外科	個人	第27回関東脳神経外科懇話会年次功労賞		関東脳神経外科懇話会	2010	11
太組一朗	脳神経外科学講座・武蔵小杉病院脳神経外科	個人	平成21年度東京都医師会医学研究奨励賞	Catcher's mask cranioplasty for extensive cranial defects in children with an open head trauma: a novel application of partial cranioplasty. Takumi I, Akimoto M. Childs Nerv Syst. Aug 24 (8) 927-932. 2008	東京都医師会	2010	8
Roongrotwattanasiri K, Pawankar R, Mori S, Kimura S	耳鼻咽喉科学講座・付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩永葉北総病院耳鼻咽喉科	グループ	World Allergy Organization International Scientific Conference 2010 - Outstanding Poster Award	FOXP3, a regulatory T cell specific marker, and its expression in nasal polyps	World Allergy Organization	2010	12
田邊邦明, 根本 勺, 塩路 豪, 三浦剛史, 坪井成美, 近藤幸尋	泌尿器科学講座・千葉北総病院泌尿器科	グループ	第605回日本泌尿器科学会東京地方会 ベストプレゼンテーション賞	肺転移巣にインターフェロン α 療法が著効した透肝腎癌の2症例	日本泌尿器科学会東京地方会	2011	2
Suzuki H, Oki K, Shiwa T, Takahashi H	眼科学講座・付属病院眼科・武蔵小杉病院眼科・多摩永葉北総病院眼科	個人	Vide Competition Young Ophthalmologists 2th 座長賞	Effect Of Bottle Height on corneal endothelium during phacoemulsification	European Society of Cataract & Refractive Surgeons	2010	9
鈴木久晴	眼科学講座・付属病院眼科・多摩永葉北総病院眼科	個人	座長賞	半円式CCCマーカーによる水晶体へのマーキング	日本臨床眼科学会	2010	11
小川 令	形成外科学講座・付属病院形成外科・美容外科	個人	平成22年度日本医科大学医学奨励賞	基礎と臨床の橋渡し研究の成果による、全く新しいケロイドの治療法開発	日本医科大学医学会	2010	11
島山(三澤) 未来	付属病院付置施設等・付属病院遺伝診療科	個人	第34回日本遺伝カウンセリング学会優秀演題賞	関節過可動型エーラス・ダロンス症候群における診療の課題		2010	5

受賞者	所属	受賞者区分	受賞学術賞名	受賞研究名・論文	受賞団体	年	月
園部一成	付属病院付置施設等・ 付属病院中央検査部	個人	第78回日本医科大学 医学会総会優秀演題賞	血液培養陽性のグラム染色 での推定同定と培養同定の 一致率 異常高値検体の結果測定域 予測による迅速測定手法	日本医科大学医学会	2010	9
高木 豊	付属病院付置施設等・ 付属病院中央検査部	個人	第47回関東甲信地区 医学会検査学優秀演題 賞	末梢動脈疾患による難治性 潰瘍・壊死治療の進歩：骨 髄血管新生療法と高気圧酸 素療法併用の併用治療効果につ いて	関東甲信地区臨床検 査技師会	2010	11
松田範子	付属病院付置施設等・ 付属病院ME部	個人	第45回日本高気圧環 境・潜水医学会学術総 会 優秀演題賞	Expression and localiza- tion of matrix metallopro- teinase 9 (MMP-9) in me- sothelioma cells and reactive mesothelial cells.	日本高気圧環境・潜 水医学会	2010	11
Katayama H	多摩永山病院付置施設 等・多摩永山病院病理 部	個人	IMIG2010 Poster Award		The 10th Interna- tional Conference of the International- alMesothelioma In- terest Group	2010	8

7) 平成 22 年度知的財産一覧 (特許権)

発明者	所属	発明の名称	出願番号 (出願日)	公開番号 (公開日)	特許番号 (登録日)	出願人
渡邊 淳, 島田 隆, 折茂英生	生化学・分子生物学講座 (分子遺伝学)	低フォスファターゼ症の遺伝子変異スクリーニング方法	特願 2009-200612 (2009/08/31)	特開 2011-50283 (2011/03/17)		学校法人日本医科大学
渡邊 淳, 島田 隆	生化学・分子生物学講座 (分子遺伝学)	家族性大動脈瘤の遺伝子変異スクリーニング方法	特願 2009-200768 (2009/08/31)	特開 2011-50284 (2011/03/17)		学校法人日本医科大学
服部成介, 米山剛一, 小嶋慈之, 永田欽也, 山口希実, 伊藤香織里, 服部浩明, 田原浩司	産婦人科学講座・千葉北総病院女性診療科・産科	卵巣癌の検出方法及び検出用キット	特願 2007-157238 (2007/06/14)	特開 2008-309612 (2008/12/25)		国立大学法人 東京大学, 学校法人日本医科大学, 株式会社 エム・エル
服部成介, 米山剛一, 竹下俊行, 永田欽也, 小嶋慈之, 山口希実, 小谷佳子	産婦人科学講座・千葉北総病院女性診療科・産科	癌の検出法	特願 2007-317989 (2007/12/10)	特開 2009-139302 (2009/06/25)		国立大学法人 東京大学, 学校法人日本医科大学, 株式会社 エム・エル
加藤政利, 野原秀明, 八木聰明	耳鼻咽喉科学講座・付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩北総病院耳鼻咽喉科	眼振誘発装置	特願 2005-179515 (2005/06/20)	特開 2006-346346 (2006/12/28)	特許第 4625973 号 (2010/11/19)	学校法人日本医科大学
渡邊 淳, 島田 隆, 折茂英生	耳鼻咽喉科学講座・付属病院耳鼻咽喉科	低フォスファターゼ症の遺伝子変異スクリーニング方法	特願 2009-200612 (2009/08/31)	特開 2011-50283 (2011/03/17)		学校法人日本医科大学
渡邊 淳, 島田 隆	付属病院付置施設等・付属病院遺伝診療科	発明の名称: 家族性大動脈瘤の遺伝子変異スクリーニング方法 眼振誘発装置	特願 2009-200768 (2009/08/31)	特開 2011-50284 (2011/03/17)		学校法人日本医科大学
加藤政利, 野原秀明, 八木聰明	付属病院付置施設等・付属病院生理機能センター	癌に特異的に作用する細胞死誘導融合遺伝子及びその遺伝子産物	特願 2005-179515 (2005/06/20)	特開 2006-346346 (2006/12/28)	特許第 4625973 号 (2010/11/19)	学校法人日本医科大学
太田成男, 麻生定光	老人病研究所・生化学部門	細胞死誘導融合遺伝子及びその遺伝子産物	PCT/JP2004/003956 (2004/03/23)	WO2005/020681 (2004/10/07)	4524359 (2010/06/11)	日本医科大学
太田成男, 水谷 聡, 設楽雄二郎	老人病研究所・生化学部門	抗癌剤の効果を判定するミトコンドリア DNA の体細胞変異の検出	特願 2003-392778 (2003/11/21)	2005-151843 (2005/06/16)	4496362 (2010/04/23)	日本医科大学
太田成男, 上村尚美	老人病研究所・生化学部門	細胞死抑制活性強化タンパク質 FNK を用いた脱毛の防止	2005-071501 (2005/03/14)	WO2006/098422 (2006/10/19)	4686780 (2011/02/25)	日本医科大学

2. 動物実験実施状況

1) 平成 22 年度動物実験実施予定者数、講習会受講者数、実験計画書（課題）数および使用動物数（平成 22 年 4 月～平成 23 年 3 月）

教室名	予定者数	受講者数	課題数	科名	予定者数	受講者数	課題数	科・部門・教室名	予定者数	受講者数	課題数	
[基礎部門]				[附属病院]				[武蔵小杉病院]				
分子解剖学	15	13	1	第一内科	11	6	2	形成外科	4	4	1	
生体構造学	13	15	11	第二内科	16	13	13	眼科	2	1	0	
システム生理学	18	24	9	第三内科	1	15	1	耳鼻咽喉科	1	2	0	
生体統御学	11	11	12	第四内科	9	8	4	小児科	0	1	0	
構造生物学・代謝学	8	9	4	小児科	4	3	2	小計	7	8	1	
分子遺伝学・栄養学	20	18	3	皮膚科	17	15	2	[多摩永山病院]				
薬理学	26	25	8	麻酔科	19	13	12	小児科	2	2	0	
解析人体病理学	14	12	11	放射線科	5	4	3	高度救命救急センター	8	8	5	
統御機構・腫瘍学	16	15	11	第一外科	2	9	1	眼科	1	1	0	
微生物学免疫学	23	23	11	第二外科	9	1	4	小計	11	11	5	
衛生学公衆衛生学	7	7	3	脳神経外科	3	1	1	[千葉北総病院]				
法医学	14	17	4	眼科	14	7	3	内科	1	0	0	
形態解析共同研究施設	4	3	0	耳鼻咽喉科	6	5	1	眼科	5	3	1	
実験動物管理室	15	14	7	女性診療科産科	9	3	4	形成外科	0	1	0	
NMR 研究施設	5	5	0	整形外科	0	0	0	小計	6	4	1	
小計	209	211	95	形成外科美容外科	24	18	29	[老人病研究所]				
				高度救命救急センター	14	8	6	病理学	8	7	2	
				ワクチン療法	2	0	0	生化学	11	10	16	
				生命科学研究センター	0	3	0	免疫学	11	11	2	
				小計	165	132	88	疫学	10	9	3	
実験予定者の合計	442							小計	40	37	23	
講習会受講者数の合計	411							[新丸子校舎]				
動物実験計画書の合計	216							生物学	4	4	3	
								スポーツ科学	0	3	0	
								小計	4	7	3	
使用動物数												
動物種別	マウス	ラット	ウサギ	モルモット	シリアンハムスター	イス	ブタ	ウマ	アカゲザル	カニクイザル	テラピア	カエル
使用数	10,544	4,709	26	24	19	8	2	5	3	3	1	560

(研究課題提出者の所属が 2 教室ある場合は重複計数)

2) 平成 22 年度千駄木地区実験動物飼育施設動物種別飼育室別稼働率（ケージ数を基に算出（％））

丸山記念研究棟

動物種	飼育室	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
マウス・ ハムスター・ スナネズミ	SPF 動物飼育室	30.8	33.5	36.6	35.1	40.9	33.8	52.3	50.8	52.9	32.6	58.2	64.9	43.5
	P2A 遺伝子組み換え動物飼育室	32.1	31.6	33.2	26.3	24.2	26.8	26.8	27.9	34.7	32.1	33.2	32.1	30.1
	P1A クリーン動物飼育室	16.6	20.0	22.2	21.2	22.5	21.8	16.5	24.5	21.0	23.4	26.9	28.6	22.1
	SPF 動物飼育室	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	4.0	24.0	28.0	24.0	8.2
モルモット ウサギ イヌ・ブタ 魚	P1A クリーン動物飼育室	44.9	32.3	40.4	38.9	38.4	36.9	21.2	25.3	28.8	27.8	40.9	33.8	34.1
	クリーン動物飼育室	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	クリーン動物飼育室	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	13.3	13.3	13.3	13.3	11.1
	クリーン動物飼育室	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
魚	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

大学院研究棟

動物種	飼育室	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
マウス・ ハムスター・ スナネズミ	SPF 動物飼育室	73.2	81.1	91.4	88.1	87.7	81.8	83.1	82.4	82.4	56.3	58.9	58.5	77.1
	P3A 感染動物飼育室	1.0	1.0	1.0	1.0	0.0	0.0	0.0	2.1	6.3	10.4	10.4	9.4	3.6
	P2A 遺伝子組み換え動物飼育室	76.2	71.9	82.4	77.6	83.8	75.7	71.0	68.6	70.0	67.1	66.2	63.3	72.8
	P1A クリーン動物飼育室	47.1	62.9	66.7	62.4	71.4	57.6	62.9	49.5	49.5	79.5	67.6	69.5	62.2
ラット	SPF 動物飼育室	35.0	40.0	41.0	42.3	44.0	42.3	44.3	47.3	39.3	41.7	41.0	42.3	41.7
	P2A 遺伝子組み換え動物飼育室	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.2	2.2	0.0	2.2	0.6
	P1A クリーン動物飼育室	18.1	16.1	20.0	25.6	21.4	19.4	18.6	21.7	21.9	27.8	23.3	21.4	21.3
ウサギ・モルモット	P1A クリーン動物飼育室	0.0	1.7	11.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1

3) 平成 22 年度千駄木地区実験動物飼育施設動物種別飼育室別搬入数

丸山記念研究棟

動物種	飼育室	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
マウス	SPF 動物飼育室	31	103	78	134	172	158	116	284	72	154	138	220	1,660
	P2A 遺伝子組み換え動物飼育室	16	20	53	6	36	0	12	37	0	12	0	11	203
	P1A クリーン動物飼育室	35	195	153	159	322	157	272	252	337	316	230	114	2,542
ハムスター	P2A 遺伝子組み換え動物飼育室	0	0	0	0	0	6	0	20	0	0	0	0	26
ラット	SPF 動物飼育室	0	0	0	0	0	0	0	21	21	13	0	106	161
	P1A クリーン動物飼育室	221	114	224	286	183	189	195	274	180	226	87	129	2,308
モルモット		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ウサギ		0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2
イヌ	クリーン動物飼育室	2	0	1	1	1	1	1	0	1	0	0	0	8
アタ		2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
魚		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

大学院研究棟

動物種	飼育室	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
マウス	SPF 動物飼育室	277	259	260	372	276	279	312	290	170	227	151	144	3,017
	P3A 感染動物飼育室	0	0	6	7	9	0	0	17	27	6	7	0	79
	P2A 遺伝子組み換え動物飼育室	152	155	173	52	46	38	29	56	33	61	45	36	876
	P1A クリーン動物飼育室	129	123	82	134	59	244	75	122	183	156	72	226	1,605
ラット	SPF 動物飼育室	89	58	78	86	72	57	93	38	43	98	65	61	838
	P2A 遺伝子組み換え動物飼育室	0	0	0	0	0	1	0	0	2	10	1	2	16
	P1A クリーン動物飼育室	37	128	143	36	91	147	76	118	46	100	103	79	1,104
ウサギ	P1A クリーン動物飼育室	1	11	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25
モルモット		2	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8

4) 平成 22 年度千駄木地区実験動物飼育施設動物種別飼育室別搬出数

丸山記念研究棟

動物種	飼育室	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
マウス	SPF 動物飼育室	28	69	106	95	98	75	80	224	166	158	84	266	1,449
	P2A 遺伝子組み換え動物飼育室	18	18	73	16	11	3	3	9	23	12	3	71	260
	P1A クリーン動物飼育室	40	75	205	159	242	212	229	243	294	263	181	235	2,378
ハムスター	P2A 遺伝子組み換え動物飼育室	0	0	0	0	4	6	0	2	0	3	1	3	19
ラット	SPF 動物飼育室	0	0	0	0	0	2	0	10	4	4	6	126	152
	P1A クリーン動物飼育室	277	149	172	274	213	227	179	277	219	125	114	178	2,404
モルモット		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ウサギ		0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
イヌ	クリーン動物飼育室	2	0	1	1	1	1	1	0	1	0	0	0	8
アタ		2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
魚		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

大学院研究棟

動物種	飼育室	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
マウス	SPF 動物飼育室	230	179	310	319	240	320	307	304	361	174	140	258	3,142
	P3A 感染動物飼育室	0	0	8	8	10	0	0	7	15	4	14	0	66
	P2A 遺伝子組み換え動物飼育室	134	111	211	48	49	70	35	63	38	41	75	112	987
	P1A クリーン動物飼育室	52	96	100	106	172	117	173	126	32	162	174	131	1,441
ラット	SPF 動物飼育室	13	56	25	66	75	140	33	153	3	78	108	60	810
	P2A 遺伝子組み換え動物飼育室	0	0	0	0	0	0	1	0	0	12	0	2	15
	P1A クリーン動物飼育室	76	106	88	75	104	141	54	59	40	173	119	101	1,136
ウサギ	P1A クリーン動物飼育室	1	6	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25
モルモット		1	2	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	8

5) 平成 22 年度千駄木地区実験動物飼育施設動物種別飼育室別延べ飼育数

丸山記念研究棟

動物種	飼育室	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
マウス	SPF 動物飼育室	9,085	10,221	9,613	11,314	10,836	14,082	15,821	16,310	14,458	18,309	14,960	20,036	165,045
	P2A 遺伝子組み換え動物飼育室	5,030	5,311	5,090	4,384	4,549	4,852	5,043	5,544	4,669	7,459	4,629	4,511	61,071
	P1A クリーン動物飼育室	11,159	14,174	12,923	13,985	13,025	11,862	11,831	13,761	10,456	18,687	15,157	17,179	164,199
ハムスター	P2A 遺伝子組み換え動物飼育室	300	310	300	310	306	132	186	300	650	894	937	628	5,253
ラット	SPF 動物飼育室	0	0	0	0	0	20	62	309	546	1,146	1,026	1,558	4,667
	P1A クリーン動物飼育室	4,012	3,965	4,219	5,647	4,530	4,463	3,933	4,053	3,034	5,494	4,943	4,659	52,952
モルモット		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ウサギ		90	93	90	93	93	90	113	120	100	148	112	124	1,266
イヌ	クリーン動物飼育室	4	0	3	1	0	1	1	0	1	0	0	0	11
アタ		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
魚		30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	17	351

大学院研究棟

動物種	飼育室	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
マウス	SPF 動物飼育室	24,146	25,693	25,915	24,970	27,686	26,778	28,072	25,463	17,170	22,190	16,674	17,669	282,426
	P3A 感染動物飼育室	120	124	120	102	73	0	91	326	457	822	545	527	3,307
	P2A 遺伝子組み換え動物飼育室	10,319	12,015	10,868	11,788	11,569	10,551	10,328	9,845	8,127	11,744	8,901	8,107	124,162
	P1A クリーン動物飼育室	9,189	10,401	10,519	1,005	9,264	9,918	10,238	8,073	8,288	16,309	10,608	11,074	114,886
ラット	SPF 動物飼育室	11,332	12,884	13,674	15,703	14,834	14,354	13,606	11,710	9,364	14,366	10,358	12,103	154,288
	P2A 遺伝子組み換え動物飼育室	0	0	0	0	0	2	24	0	36	344	6	47	459
	P1A クリーン動物飼育室	3,542	4,573	4,517	4,906	4,400	4,180	4,588	5,909	5,728	7,286	4,110	4,653	58,392
ウサギ	P1A クリーン動物飼育室	5	41	56	0	0	0	0	0	0	0	0	0	102
モルモット		5	31	39	15	0	0	0	0	0	0	0	0	90

あ と が き

初めに、本年（2011年）3月11日の東日本大震災により罹災された皆様に、衷心よりお見舞い申し上げますと共に、一日も早い復興を祈念いたします。

東北地方太平洋沖に発生した地震は、東日本を中心に津波そして原子力発電所の崩壊による放射能汚染と計り知れない被害をもたらした。半年が経ち、一部地域には復興の兆しが見え始めた今、その規模の甚大さに改めて気づかされる。今回の災害に対しては、震災発生早期から本学の多くの方が救援活動に大きく貢献している。高度救命救急センターをはじめとする医療活動、教職員の寄付、学生の募金活動あるいは個人としてのボランティア活動等、多方面に亘って活動が行われ、現在も継続している。研究・教育・事務部門においても節電対策に教職員が協力した。本学が医科大学としての社会的使命を果たしているものと考えらる。

今年度の業績集において、欧文論文数は昨年をやや上回ったものの、和文論文数は大幅に減少した。大学の重要な使命は、高度専門的知識および技術の創出と発信でもある。この災害を機に、研究活動にあっても何ができるか、なすべきか、将来を見据えた方向性を見つけていきたいものである。

最後に研究業績のウェブ入力にご協力いただいた情報科学センター伊藤施設長、また、実際の編纂にご尽力くださいました大学院課担当各位に謝意を表します。

平成 23 年 9 月

研究委員会委員長 鈴木 秀典

平成23年 12 月 9 日 印 刷

平成23年 12 月 19 日 発 行

発 行 日 本 医 科 大 学
研 究 委 員 会

〒113-8602 東京都文京区千駄木1-1-5

TEL 03 (3822) 2 1 3 1

印 刷 株 式 会 社 杏 林 舎

〒114-0024 東京都北区西ヶ原3-46-10

TEL 03 (3910) 4 3 1 1-5